

目次（ 2026年度シラバス）

<岡山キャンパス>

フレッシュマンセミナー	1
フレッシュマンセミナー	3
フレッシュマンセミナー	5
フレッシュマンセミナー	7
フレッシュマンセミナー	9
フレッシュマンセミナー	11
フレッシュマンセミナー	13
フレッシュマンセミナー	15
フレッシュマンセミナー	17
フレッシュマンセミナー	19
フレッシュマンセミナー	21
フレッシュマンセミナー	23
フレッシュマンセミナー	25
フレッシュマンセミナー	27
フレッシュマンセミナー	29
フレッシュマンセミナー	31
フレッシュマンセミナー	33
フレッシュマンセミナー	35
フレッシュマンセミナー	37
フレッシュマンセミナー	39
フレッシュマンセミナー	41
フレッシュマンセミナー	43
フレッシュマンセミナー	45
フレッシュマンセミナー	47
フレッシュマンセミナー	49
フレッシュマンセミナー	51
フレッシュマンセミナー [通年]PS用	53
基礎ゼミナールⅠ	55
基礎ゼミナールⅠ	57
基礎ゼミナールⅠ	59
基礎ゼミナールⅠ	61
基礎ゼミナールⅠ	63
基礎ゼミナールⅠ	65
基礎ゼミナールⅠ	67
基礎ゼミナールⅠ	69
基礎ゼミナールⅠ	71
基礎ゼミナールⅠ	73
基礎ゼミナールⅠ	75
基礎ゼミナールⅠ	77
基礎ゼミナールⅠ	79
基礎ゼミナールⅠ	81
基礎ゼミナールⅠ	83
基礎ゼミナールⅠ	85
基礎ゼミナールⅠ	87
基礎ゼミナールⅠ	89
基礎ゼミナールⅠ	91
基礎ゼミナールⅠ	93
基礎ゼミナールⅠ	95
基礎ゼミナールⅠ	97
基礎ゼミナールⅠ	99
基礎ゼミナールⅠ	101

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

基礎ゼミナールⅠ		103

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

基礎ゼミナールⅠ	105
基礎ゼミナールⅠ	107
基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用	109
基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生	111
基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生	113
基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生	115
基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生	117
キャリアディベロップメント	119
キャリアディベロップメント	121
キャリアディベロップメント	124
キャリアディベロップメント	127
キャリアディベロップメント	130
キャリアディベロップメント	133
キャリアディベロップメント	136
キャリアディベロップメント	139
キャリアディベロップメント	142
キャリアディベロップメント	145
キャリアディベロップメント	148
キャリアディベロップメント	150
キャリアディベロップメント	152
キャリアディベロップメント	154
キャリアディベロップメント	156
キャリアディベロップメント	158
キャリアディベロップメント	160
キャリアディベロップメント	162
キャリアディベロップメント	164
キャリアディベロップメント	166
キャリアディベロップメント	168
キャリアディベロップメント	170
キャリアディベロップメント	172
キャリアディベロップメント	174
キャリアディベロップメント	176
キャリアディベロップメント	178
キャリアディベロップメント	180
キャリアディベロップメント	182
キャリアディベロップメント	184
キャリアディベロップメント	186
キャリアディベロップメント	188
キャリアディベロップメント	190
キャリアディベロップメント [PH再履修者用]	192
キャリアディベロップメント [再履修]PH用	194
基礎ゼミナールⅠ [再履修]PH用[不開講]	196
基礎ゼミナールⅡ	198
基礎ゼミナールⅡ	200
基礎ゼミナールⅡ	202
基礎ゼミナールⅡ	204
基礎ゼミナールⅡ	206
基礎ゼミナールⅡ	208
基礎ゼミナールⅡ	210
基礎ゼミナールⅡ	212
基礎ゼミナールⅡ	214

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞	
基礎ゼミナールⅡ	216

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

基礎ゼミナールⅡ	218
基礎ゼミナールⅡ	220
基礎ゼミナールⅡ	222
基礎ゼミナールⅡ	224
基礎ゼミナールⅡ	226
基礎ゼミナールⅡ	228
基礎ゼミナールⅡ	230
基礎ゼミナールⅡ	232
基礎ゼミナールⅡ	234
基礎ゼミナールⅡ	236
基礎ゼミナールⅡ	238
基礎ゼミナールⅡ	240
基礎ゼミナールⅡ	242
基礎ゼミナールⅡ	244
基礎ゼミナールⅡ	246
基礎ゼミナールⅡ	248
基礎ゼミナールⅡ	250
基礎ゼミナールⅡ	252
基礎ゼミナールⅡ	254
基礎ゼミナールⅡ	256
基礎ゼミナールⅡ	258
基礎ゼミナールⅡ	260
基礎ゼミナールⅡ	262
基礎ゼミナールⅡ [再履修]PH用[不開講]	264
基礎ゼミナールⅡ [再履修]PH用	266
TOEICⅠ	268
TOEICⅢ	269
コンピュータリテラシーⅠ	270
コンピュータリテラシーⅠ [BC用]	272
コンピュータリテラシーⅠ [FC用]	274
コンピュータリテラシーⅠ [FE(表現コース)用]	276
コンピュータリテラシーⅠ [FE用]	278
コンピュータリテラシーⅠ [PH用]	280
コンピュータリテラシーⅠ [PS用]	282
フレッシュマンセミナー	284
フレッシュマンセミナー	285
フレッシュマンセミナー	287
フレッシュマンセミナー	289
フレッシュマンセミナー	291
フレッシュマンセミナー	293
フレッシュマンセミナー	295
フレッシュマンセミナー	297
フレッシュマンセミナー	299
フレッシュマンセミナー	301
英会話 [BC日本人①]	303
英会話 [BC日本人②]	304
英会話 [BC日本人③]+再履修者用	306
英会話 [BC留学生①]	308
英会話 [BC留学生②]	310
英会話 [FC①]	312
英会話 [FC②]+FC再履修者	314

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞	
英会話 [FE①]	 316

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

英会話 [FE②]+FE再履修者	318
基礎ゼミナールⅠ	320
基礎ゼミナールⅠ	322
基礎ゼミナールⅠ	324
基礎ゼミナールⅠ	326
基礎ゼミナールⅠ	328
基礎ゼミナールⅠ	330
基礎ゼミナールⅠ	332
基礎ゼミナールⅠ	334
基礎ゼミナールⅠ	336
心理学 [A]	338
心理学 [B]	340
体育実技 [FC用]	342
体育実技 [FE①]	343
体育実技 [FE②]	344
体育実技 [FE③(表現コース用)]	345
体育実技 [PH用]	346
哲学	348
非認知能力育成Ⅰ [BC用]	350
非認知能力育成Ⅰ [BC留学生用]	352
非認知能力育成Ⅰ [FC用]	353
非認知能力育成Ⅰ [PH用]	354
非認知能力育成Ⅰ [PS用]	355
非認知能力育成Ⅱ [BC秋入学用]	357
表現活動による人間力養成Ⅰ	358
ビジネスコーチング	359
英語Ⅱ [全学科（初級者対象）]	360
英語Ⅱ [全学科（中級・上級者対象）]	362
英語Ⅲ	364
基礎ゼミナールⅠ	365
基礎ゼミナールⅠ [再履修]BC用	366
基礎ゼミナールⅠ [再履修]PP用	368
数学基礎Ⅰ [A]	369
数学基礎Ⅰ [B]	371
キャリアデザインⅠ [BC留学生用]	373
キャリアデザインⅠ [企業]	374
キャリアデザインⅠ [教職]	376
キャリアデザインⅠ [健康科学科用]	378
キャリアデザインⅠ [公務員]	379
キャリアデザインⅠ [幼保]	380
基礎ゼミナールⅡ [再履修]PP用	381
食育論	382
食育論	383
生命科学基礎	384
統計学	385
労働法規	386
キャリアサポート [BC留学生用]	387
キャリアサポート [企業]	388
キャリアサポート [教職]	389
キャリアサポート [健康科学科用]	391
キャリアサポート [公務員]	392

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞	
キャリアサポート [幼保]	 393

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

コーチング基礎 Co-creative coaching Basic	394
コミュニケーションの心理学	396
ボランティア活動	398
ボランティア活動 [BC用]	399
キャリアディベロップメント [再履修][週間オンデマンド]	400
コンピュータリテラシーⅠ [PS留学生用]	402
フレッシュマンセミナー [再履修][週間オンデマンド]	403
基礎ゼミナールⅠ [再履修][週間オンデマンド]FE用	405
地理・地政学 [週間オンデマンド]	407
環トレ [FC・FE用]	408
環トレ [FC・FE用]	410
整復学実技Ⅰ(包帯法Ⅰ)《連続》	412
整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ)《連続》	414
整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)《連続》	416
整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)《連続》	418
歌唱・ダンス基礎	420
教育実習事前・事後指導(小学校)《通年》	422
教育実習事前・事後指導(保健体育)	424
教育実習事前・事後指導(幼稚園)	426
教育実習事前・事後指導(英語)《通年》	428
整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ)《連続》	430
整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)《連続》	432
体力学実習	434
特別演習Ⅰ 《通年》[留学生・大学院入試向け]	436
特別演習Ⅱ 《通年》[インターンシップ事前事後]	438
特別演習Ⅲ 《通年》[社会調査士系]	440
ゼミナールⅠ(基礎)	442
ゼミナールⅠ(基礎)	444
ゼミナールⅠ(基礎)	446
ゼミナールⅠ(基礎)	448
ゼミナールⅠ(基礎)	450
ゼミナールⅠ(基礎)	452
ゼミナールⅠ(基礎)	454
ゼミナールⅠ(基礎)	456
ゼミナールⅠ(基礎)	458
ゼミナールⅠ(基礎)	460
ゼミナールⅠ(基礎)	462
ゼミナールⅠ(基礎)	464
ゼミナールⅠ(基礎)	466
ゼミナールⅠ(基礎)	468
ゼミナールⅠ(基礎)	470
ゼミナールⅠ(基礎)	472
ゼミナールⅠ(基礎)	474
ゼミナールⅠ(基礎)	476
ゼミナールⅠ(基礎)	478
ゼミナールⅠ(基礎)	480
ゼミナールⅠ(基礎)	482
ゼミナールⅠ(基礎)	484
ゼミナールⅠ(基礎)	486
ゼミナールⅠ(基礎)	488
ゼミナールⅠ(基礎)	490

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

ゼミナールⅠ(基礎)	492
ゼミナールⅠ(基礎)	494
ゼミナールⅠ(基礎)	496
ゼミナールⅠ(基礎)	498
ゼミナールⅠ(基礎)	500
ゼミナールⅠ(基礎)	502
ゼミナールⅠ(基礎)	504
ゼミナールⅠ(基礎)	506
ゼミナールⅠ(基礎)	508
ゼミナールⅠ(基礎)	510
ゼミナールⅠ(基礎)	512
ゼミナールⅠ(基礎)	514
ゼミナールⅠ(基礎)	516
ゼミナールⅠ(基礎)	518
ゼミナールⅠ(基礎)	520
ゼミナールⅠ(基礎)	522
ゼミナールⅠ(基礎)	524
ゼミナールⅠ(基礎)	526
ゼミナールⅠ(基礎)	528
ゼミナールⅠ(基礎)	530
ゼミナールⅠ(基礎)	532
ゼミナールⅠ(基礎)	534
ゼミナールⅠ(基礎)	536
ゼミナールⅠ(基礎)	538
ゼミナールⅠ(基礎)	540
ゼミナールⅠ(基礎)	542
ゼミナールⅠ(基礎)	544
ゼミナールⅠ(基礎)	546
ゼミナールⅠ(基礎)	548
ゼミナールⅠ(基礎)	550
ゼミナールⅠ(基礎)	552
ゼミナールⅠ(基礎)	554
ゼミナールⅡ(応用)	556
ゼミナールⅡ(応用)	558
ゼミナールⅡ(応用)	560
ゼミナールⅡ(応用)	562
ゼミナールⅡ(応用)	564
ゼミナールⅡ(応用)	566
ゼミナールⅡ(応用)	568
ゼミナールⅡ(応用)	570
ゼミナールⅡ(応用)	572
ゼミナールⅡ(応用)	574
ゼミナールⅡ(応用)	576
ゼミナールⅡ(応用)	578
ゼミナールⅡ(応用)	580
ゼミナールⅡ(応用)	582
ゼミナールⅡ(応用)	584
ゼミナールⅡ(応用)	586
ゼミナールⅡ(応用)	588
ゼミナールⅡ(応用)	590
ゼミナールⅡ(応用)	592

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

ゼミナールⅡ(応用)	594
ゼミナールⅡ(応用)	596
ゼミナールⅡ(応用)	598
ゼミナールⅡ(応用)	600
ゼミナールⅡ(応用)	602
ゼミナールⅡ(応用)	604
ゼミナールⅡ(応用)	606
ゼミナールⅡ(応用)	608
ゼミナールⅡ(応用)	610
ゼミナールⅡ(応用)	612
ゼミナールⅡ(応用)	614
ゼミナールⅡ(応用)	616
ゼミナールⅡ(応用)	618
ゼミナールⅡ(応用)	620
ゼミナールⅡ(応用)	622
ゼミナールⅡ(応用)	624
ゼミナールⅡ(応用)	626
ゼミナールⅡ(応用)	628
ゼミナールⅡ(応用)	630
ゼミナールⅡ(応用)	632
ゼミナールⅡ(応用)	634
ゼミナールⅡ(応用)	636
ゼミナールⅡ(応用)	638
ゼミナールⅡ(応用)	640
ゼミナールⅡ(応用)	642
ゼミナールⅡ(応用)	644
ゼミナールⅡ(応用)	646
ゼミナールⅡ(応用)	648
ゼミナールⅡ(応用)	650
ゼミナールⅡ(応用)	652
ゼミナールⅡ(応用)	654
ゼミナールⅡ(応用)	656
アスレティックトレーナー実習Ⅴ	658
ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅰ	660
ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅱ	662
ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅲ	664
音楽表現指導理論・実習Ⅰ(基礎)	666
音楽表現指導理論・実習Ⅱ(応用)	668
音楽表現指導理論・実習Ⅲ(発展)	670
音楽表現指導理論・実習Ⅳ(実践)	672
介護等体験実習 《通年》	674
競技スポーツパフォーマンス実習Ⅰ	676
競技スポーツパフォーマンス実習Ⅱ	678
競技スポーツパフォーマンス実習Ⅲ	680
教育実習Ⅰ(小学校)《通年》	682
教育実習Ⅰ(中学校・高等学校)[英語]	684
教育実習Ⅰ(中学校・高等学校)[保健体育]	686
教育実習Ⅰ(幼稚園)	688
教育実習Ⅱ(小学校)《通年》	690
教育実習Ⅱ(中学校)[英語]	692
教育実習Ⅱ(中学校)[保健体育]	694

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

教育実習Ⅱ（幼稚園）	696
国際交流実習Ⅰ（基礎）《通年》[留学生用]	698
整復臨床実習Ⅰ 《通年》	700
整復臨床実習Ⅱ 《通年》	702
整復臨床実習Ⅲ 《通年》	704
整復臨床実習Ⅳ 《通年》	706
卒業研究 [FC]	708
卒業研究 [FC]	710
卒業研究 [FC]	712
卒業研究 [FC]	714
卒業研究 [FC]	716
卒業研究 [FE]	717
卒業研究 [FE]	719
卒業研究 [FE]	721
卒業研究 [FE]	722
卒業研究 [FE]	724
卒業研究 [FE]	726
卒業研究 [FE]	728
卒業研究 [FE]	730
卒業研究 [FE]	732
卒業研究 [FE]	734
卒業研究 [FE]	736
卒業研究 [FE]	737
卒業研究 [FE]	738
卒業研究 [FE]	740
卒業研究 [FE]	741
卒業研究 [FE]	743
卒業研究 [PH]	745
卒業研究 [PH]	747
卒業研究 [PH]	749
卒業研究 [PH]	751
卒業研究 [PH]	753
卒業研究 [PP]	755
卒業研究 [PP]	757
卒業研究 [PP]	759
卒業研究 [PP]	761
卒業研究 [PP]	763
卒業研究 [PP]	765
卒業研究 [PP]	767
卒業研究 [PP]	769
卒業研究 [PP]	771
卒業研究 [PP]	773
卒業研究 [PP]	775
卒業研究 [PP]	777
卒業研究 [PP]	779
卒業研究 [PP]	781
卒業研究 [PP]	783
卒業研究 [PP]	785
卒業研究 [PP]	787
卒業研究 [PP]	789
卒業研究 [PP]	791

目次（ 2026年度シラバス）

<岡山キャンパス>

卒業研究 [PP]	793
卒業研究 [PP]	795
卒業研究 [PP]	797
卒業研究 [PP]	799
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]	801
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]	803
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]	805
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]	807
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]	809
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]	811
課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]	813
課題研究Ⅱ 《通年》[週間オンデマンド]	815
課題研究Ⅱ 《通年》[週間オンデマンド]	817
課題研究Ⅱ 《通年》[週間オンデマンド]	819
課題研究Ⅱ 《通年》[週間オンデマンド]	821
課題研究Ⅱ 《通年》[週間オンデマンド]	823
アスリートキャリアI(クロスオーバースキル)	825
アスレティックトレーナーの役割	826
アスレティックトレーナー実習Ⅰ [PH用]	828
キャリアマネジメント入門Ⅰ	830
スポーツ科学入門 [PH用]	831
スポーツ科学入門 [PP用]	833
スポーツ科学入門 [PS用]	835
スポーツ心理学	837
スポーツ心理学	839
スポーツ心理学 [PS用]	841
トレーナー論	843
トレーニング演習Ⅰ(基礎) [A]	844
トレーニング演習Ⅰ(基礎) [B]	845
ピアノ実技Ⅰ	846
ピアノ実技Ⅰ	847
ピアノ実技Ⅰ	848
プロジェクト・ゼロ [週2]	849
異文化コミュニケーション論	851
運動学特論A	853
英語文学	854
解剖学Ⅰ [PH2025年度以降入学生]	855
関係法規	857
器械運動Ⅰ(基礎)	858
器械運動Ⅰ(基礎)	859
器械運動Ⅰ(基礎)	860
器械運動Ⅰ(基礎)	861
器械運動Ⅰ(基礎)	862
器械運動Ⅰ(基礎)	863
基礎柔道整復学Ⅰ(総論)	864
教職入門 [FC、FE組用]	865
教職入門 [PP2621組用 + PS]	867
教職入門 [PP2622組 + PS]	869
経済学概論 [1年生日本人用][週2]	871
剣道Ⅰ(基礎)	872
剣道Ⅰ(基礎) [PP1年生男子用]	874

目次（ 2026年度シラバス）

<岡山キャンパス>

国際交流実習Ⅰ(基礎)	876
次世代教育学 [FC]	878
次世代教育学 [FE＋他学科小学校免許希望者]	879
実践英文法（基礎）	881
社会福祉学	882
初等英語 [FE2621組用]	883
初等英語 [FE2622組用]	884
初等国語 [FE2621組用]	885
初等国語 [FE2622組用]	887
初等理科 [FE2631組用]	889
初等理科 [FE2632組用]	891
初等理科 [FE2633組用]	893
初等理科 [他学科]	895
生理学Ⅰ [PH2025年度以降入学生]	897
総合表現概論	898
体育方法学・実習 [PP2631組用]	899
体育方法学・実習 [PP2632組用]	901
体育方法学・実習 [PP2633組用]	903
日本語演習Ⅰ [2026年度入学BC留学生用]	905
日本語演習Ⅱ [2026年度入学BC留学生用]	907
日本語表現Ⅰ [2026年度入学BC留学生用]	909
日本語表現Ⅱ [2026年度入学BC留学生用]	910
保育原理	911
幼児と環境	913
幼児と表現	915
陸上Ⅰ(基礎) [PP女子用、他学科＋PP2年生以上]	917
陸上Ⅰ(基礎) [PP男子用]	919
陸上Ⅰ(基礎) [PP男子用]	921
陸上Ⅰ(基礎) [PS用]	923
陸上Ⅰ(基礎) [他学科＋PP2年生以上]	925
4 技能統合型英語Ⅱ(応用)	927
スピーキング・スキル	928
スポーツアナリティクスⅠ	930
スポーツイベント論 [週2]	931
スポーツ医学Ⅰ	933
スポーツ栄養学	934
スポーツ栄養学 [PS用]	935
スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ	936
スポーツ産業論 [週2]	938
スポーツ施設論 [週2]	939
スポーツ生理学	940
ソフトボール [PP・PS男子+他学科男子]	941
ソフトボール [PP・PS男子+他学科男子]	943
ソフトボール [PP・PS男子用]	945
ソフトボール [PP・PS男子用]	947
ダンスⅠ(基礎) [PH・PP・PS女子用]	949
ダンスⅠ(基礎) [PP・PS男子用]	951
ダンスⅠ(基礎) [PP・PS男子用]	953
ダンスⅠ(基礎) [PP・PS用]	955
トレーニング演習Ⅱ(応用) [PS用]	957
トレーニング科学Ⅱ(応用)	959

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

バスケットボールⅠ(基礎)	960
バスケットボールⅠ(基礎)	961
バスケットボールⅠ(基礎)	962
ビジネス心理学 [週2]	963
マーケティング総論 [週2]	965
ミクロ経済学 [再履修者用][週2]	966
レクリエーション演習	967
レクリエーション実習	968
運動生理学演習Ⅰ	969
英語科教育法Ⅰ(基礎)	970
英語学概論	971
音楽の理解 [FE2521組用]	972
音楽の理解 [FE2522組用]	973
解剖学Ⅲ	974
解剖生理学	976
外科学Ⅰ	977
器械運動Ⅱ(応用)	978
器楽演習Ⅰ [A]	979
器楽演習Ⅰ [B][不開講]	980
器楽演習Ⅰ [C]	981
器楽演習Ⅱ	982
器楽演習Ⅱ	984
器楽演習Ⅱ [A][不開講]	986
器楽演習Ⅱ [B][不開講]	988
器楽演習Ⅱ [C][不開講]	990
器楽演習Ⅱ [FC2521]	992
器楽演習Ⅱ [FC2522]	994
基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)	996
救急処置 [AT資格希望者用]	997
競技スポーツアナリティクス演習A(レース分析)	998
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FC用]	1000
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FE用]	1002
教育評価	1004
剣道Ⅰ(基礎) [2年生以上男子用]	1005
検査・測定と評価	1007
現代経営実践演習基礎Ⅲ	1009
現代経営論 [週2]	1010
公共経済学	1011
行政学	1012
国語科教育法 [他学科A]	1014
国語科教育法 [他学科B]	1015
国際関係論	1016
国際経済学 [週2]	1017
財務会計	1019
財務諸表論Ⅰ [2年生～]	1020
算数科教育法 [FE2531組用]	1021
算数科教育法 [FE2532組用]	1022
算数科教育法 [FE2533組用]	1023
資格検定対策Ⅰ(語学系) [BC留学生用]	1024
社会科教育法 [FE2531組用]	1026
社会科教育法 [FE2532組用]	1027

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

社会科教育法 [FE2533組用]	1028
社会的養護Ⅰ	1029
柔道Ⅰ(基礎) [PH用]	1031
柔道Ⅰ(基礎) [PP・PS女子用]	1033
柔道Ⅰ(基礎) [PP・PS男子用]	1035
柔道Ⅰ(基礎) [PP・PS男子用]	1037
柔道Ⅰ(基礎) [PP・PS男子用]	1039
柔道Ⅰ(基礎) [次世代女子・PP女子・PS女子用]	1041
柔道Ⅰ(基礎) [次世代男子用]	1043
柔道整復解剖生理演習Ⅰ	1045
柔道整復解剖生理演習Ⅲ	1046
障害児保育	1047
生徒指導・進路指導論 [FC,FE用]	1048
生徒指導・進路指導論 [PP2521組用]	1050
生徒指導・進路指導論 [PP2522組用]	1052
生理学Ⅲ	1054
総合日本語Ⅰ(基礎) [BC留学生用]	1055
総合日本語Ⅱ(応用) [BC秋入学生用]	1057
体育行政学	1059
知的障害児の心理・生理・病理	1061
知的障害児教育Ⅰ	1062
統計学基礎 [週2]	1064
日本語表現Ⅱ [BC秋入学用]	1066
発達心理学	1067
比較文化論	1068
美術の理解 [FE2531組用]	1070
美術の理解 [FE2532組用]	1071
美術の理解 [FE2533組用]	1072
病弱児の心理・生理・病理 ≪連続≫	1073
病理学Ⅰ	1075
文章作成	1076
保育実習指導Ⅰ B(施設)	1078
保育内容「環境」指導法 [FC2521組用]	1079
保育内容「環境」指導法 [FC2522組用]	1081
保育内容「健康」指導法 [FC2521組用]	1083
保育内容「健康」指導法 [FC2522組用]	1085
保育内容総論	1087
保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP]	1089
保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP]	1090
保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP]	1091
民法Ⅱ	1092
陸上Ⅱ(応用)	1093
臨床柔道整復学Ⅱ(骨折Ⅱ)	1095
アスリートキャリアⅢ(スポーツリスクマネジメント)	1096
イノベーション論 [週2]	1098
キャリアマネジメントⅡ [公務員A]	1099
キャリアマネジメントⅡ [公務員B]	1100
キャリアマネジメントⅡ [中高保体教員]	1101
スポーツマーケティング論 [週2]	1103
スポーツ健康演習	1104
スポーツ文化論	1105

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

ゼミナールⅠ(基礎)	1106
ゼミナールⅠ(基礎)	1108
ゼミナールⅠ(基礎)	1110
ゼミナールⅠ(基礎)	1112
ゼミナールⅠ(基礎)	1114
ゼミナールⅠ(基礎)	1116
ゼミナールⅠ(基礎)	1118
ゼミナールⅠ(基礎)	1120
ゼミナールⅠ(基礎)	1122
ゼミナールⅠ(基礎)	1124
ゼミナールⅠ(基礎)	1126
ゼミナールⅠ(基礎) (BC25秋編入学生用)	1128
ゼミナールⅠ(基礎) (BC25秋編入学生用)	1130
ゼミナールⅠ(基礎) (BC25秋編入学生用)	1132
ゼミナールⅠ(基礎) (BC25秋編入学生用)	1134
ゼミナールⅠ(基礎) (BC26秋編入学生用)	1136
ゼミナールⅠ(基礎) (BC26秋編入学生用)	1138
ゼミナールⅠ(基礎) (BC26秋編入学生用)	1140
ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]	1142
ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]	1144
ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]	1146
ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]	1148
ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]	1150
ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]	1152
ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]	1154
ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]	1156
トレーニング演習Ⅲ(発展)	1158
バレーボールⅡ(応用)	1160
ハンドボールⅡ(応用)	1161
ビジネス特別講義Ⅱ	1162
ブランド戦略論	1163
リハビリテーション医学Ⅰ	1165
運動障害と予防および救急処置 [資格取得希望者]	1167
英語科教育法Ⅲ(発展)	1168
家庭科教育法 [週間オンデマンド+対面]	1169
解剖・生理学実習Ⅰ	1171
企業経営実践論Ⅱ	1172
器楽演習Ⅲ [FC]	1174
基礎柔道整復学Ⅴ(保存療法)	1176
競技スポーツバイオメカニクス演習A(動作分析)	1177
競技スポーツ栄養学演習B(競技力向上)	1179
競技スポーツ心理学演習B(メンタルトレーニング)	1180
金融論 [週2]	1182
経済数学入門Ⅱ	1183
健康運動実習 [PH用]	1184
健康管理とスポーツ医学 [資格希望者用]	1186
言語学	1188
公衆衛生学Ⅰ	1189
子ども家庭支援の心理学 [不開講]	1190
子ども家庭支援論	1192
子ども子育て教育相談	1194

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

社会言語学	1195
重複障害児教育総論	1196
小学校英語科教育法 [FE2431組用]	1198
小学校英語科教育法 [FE2432組用]	1200
小学校英語科教育法 [FE2433組用]	1202
障害児教育相談と心理アセスメント	1204
障害者スポーツ論	1206
上級オーラルコミュニケーション	1207
整形外科学Ⅰ	1208
生活科教育法 [FE2431組用]	1209
生活科教育法 [FE2432組用]	1211
生活科教育法 [FE2433組用]	1213
体育科教育法 [FE2431組用]	1215
体育科教育法 [FE2432組用]	1216
体育科教育法 [FE2433組用]	1217
中小企業論 [週2]	1218
都市計画論	1219
道德教育の理論及び指導法 [PP2431組用、PS2421組用]	1221
道德教育の理論及び指導法 [PP2432組用、PS2422組用]	1224
道德教育の理論及び指導法 [PP2433組用,FC用]	1227
特別支援教育実習事前・事後指導	1230
内科学Ⅱ	1232
日本語学Ⅱ	1233
日本語教育概論Ⅱ	1234
乳児保育Ⅱ [A]	1236
乳児保育Ⅱ [B]	1237
保育マネジメント演習Ⅰ	1238
保健体育科指導法Ⅱ(応用) [再履修者用+他学科]	1240
予防とコンディショニングⅡ	1242
幼児英語指導法Ⅰ	1243
幼児心理学Ⅰ	1244
幼児体育指導法Ⅰ	1245
理科教育法 [他学科3年水3]	1246
理科教育法 [他学科3年水4]	1248
理科実験の指導法Ⅱ（理科教師塾） [不開講]	1250
臨床柔道整復学Ⅳ（社会保障制度と職業倫理）	1252
臨床柔道整復学Ⅴ（軟部組織Ⅰ）	1253
キャリアマネジメントⅣ [公務員]	1254
スポーツ健康実習 [健康運動実習PH4年生用][不開講]	1255
ゼミナールⅡ(応用)	1257
ゼミナールⅡ(応用)	1259
ゼミナールⅡ(応用)	1261
ゼミナールⅡ(応用)	1263
ゼミナールⅡ(応用)	1265
ゼミナールⅡ(応用)	1267
ゼミナールⅡ(応用)	1269
ゼミナールⅡ(応用)	1271
ゼミナールⅡ(応用)	1273
ゼミナールⅡ(応用)	1275
ゼミナールⅡ(応用)	1277
ゼミナールⅡ(応用)	1279

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

ゼミナールⅡ(応用)	1281
ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]	1283
ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]	1285
ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]	1287
ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]	1289
ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]	1291
ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]	1293
ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]	1295
器楽演習Ⅳ [FC]	1297
柔道整復治療学	1299
整復学実技Ⅶ(総合)	1300
日本語教育演習Ⅰ	1302
日本語教育実習Ⅰ	1303
日本語教授法Ⅱ	1304
保育マネジメント演習Ⅳ [不開講]	1305
保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP+他学科]	1306
保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP+他学科]	1308
幼児英語指導法Ⅲ [不開講]	1310
幼児心理学Ⅲ [不開講]	1311
幼児体育指導法Ⅲ [不開講]	1312
臨床柔道整復学演習Ⅱ	1314
NZ保育学	1316
NZ保育実習	1317
アスレティックトレーナー実習Ⅰ [PP・PS用]	1319
アスレティックトレーナー実習Ⅲ	1321
インターンシップ [FC]	1322
インターンシップ [PS用]	1323
インターンシップ (スポーツビジネス) [BC]	1325
インターンシップ(企業) [BC]	1327
インターンシップ (公務員) [BC]	1329
インターンシップⅠ [FE]	1331
インターンシップⅡ [FE]	1332
キャリアマネジメントⅣ [中高保体教員]	1333
キャンプ実習 [PP1年生用]	1335
キャンプ実習 [PS用]	1336
サービスラーニングⅡ	1338
サービスラーニングⅢ	1339
サービスラーニングⅣ	1340
スポーツイベント運営実習	1341
トレーニング指導実習 [PP,PH用]	1342
トレーニング指導実習 [アスリート用]	1343
トレーニング指導実習 [サイエンティスト・CSCS用]	1344
フィールドラーニングⅠ	1345
フィールドラーニングⅡ	1346
フィールドワーク入門 [FE]	1348
リコンディショニングⅡ	1350
解剖学Ⅰ [PH2024年度以前入学生][再履修用]	1351
学校支援ボランティア [小学校ボランティア]	1353
基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)	1355
教育実践学Ⅰ (青年教師塾)	1356
教育実践学Ⅱ (応用) (青年教師塾)	1357

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

教育実践学Ⅱ（基礎）（青年教師塾）[表現教育アウトリーチ教育実習]	1358
健康運動実習[健康運動指導士用]	1359
公務員と法	1360
視覚障害児教育論	1361
初等算数	1363
水泳Ⅰ(基礎)[PH用]	1364
水泳Ⅰ(基礎)[PP用]	1365
水泳Ⅰ(基礎)[他学科用]	1366
整復学実技Ⅶ(総合)	1367
生理学Ⅰ [PH2024年度以前入学生][再履修用]	1369
卒業研究 [BC]	1370
卒業研究 [BC]	1372
卒業研究 [BC]	1374
卒業研究 [BC]	1376
卒業研究 [BC]	1378
卒業研究 [BC]	1380
卒業研究 [BC]	1382
卒業研究 [BC]	1384
卒業研究 [BC]	1386
卒業研究 [BC]	1388
卒業研究 [BC]	1390
卒業研究 [BC]	1392
卒業研究 [BC]	1394
卒業研究 [FE]	1396
卒業研究 [秋入学生用]	1397
卒業研究 [秋入学生用]	1399
卒業研究 [秋入学生用]	1401
卒業研究 [秋入学生用]	1403
卒業研究 [秋入学生用]	1405
卒業研究 [秋入学生用]	1407
卒業研究 [秋入学生用]	1409
体育実技の指導法	1411
体力科学実験演習Ⅰ(基礎)	1413
地方自治論	1414
特別支援教育実習	1416
表現教育アウトリーチ教育実習	1417
保育実習Ⅰ B(施設)	1418
防災キャンプ	1419
臨床柔道整復学演習Ⅰ [4年生用]	1421
臨床柔道整復学演習Ⅱ	1423
スポーツバイオメカニクス [週間オンデマンド]	1425
スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ [週間オンデマンド]	1427
ビジネスデータ分析 [Q2対面+オンデマンド]	1429
ビジネスと数学Ⅰ [週間オンデマンド]	1430
運動学 [週間オンデマンド]	1432
運動生理学 [週間オンデマンド]	1433
学校図書館メディアの構成 [週間オンデマンド]	1435
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [PP、PS用週間オンデマンド]	1436
教育課程論 [週間オンデマンド]	1438
発達心理学 [FC用]	1439
教育心理学 [週間オンデマンド]	1441

目次（ 2026年度シラバス）

＜岡山キャンパス＞

教育相談(初等) [週間オンデマンド]	1443
健康科学概論 [週間オンデマンド]	1445
健康管理とスポーツ医学 [週間オンデマンド]	1446
行政法Ⅱ [Q1対面＋オンデマンド]	1448
子どもの保健 [週間オンデマンド]	1449
社会調査法 [FE、BC用][週間オンデマンド]	1450
消費者行動論 [Q1対面＋オンデマンド]	1451
上級英語文法 [英語教員希望者限定週間オンデマンド]	1453
情報メディアの活用 [週間オンデマンド]	1455
聴覚障害児教育論 [週間オンデマンド]	1456
簿記入門Ⅰ [Q1対面＋オンデマンド]	1457
簿記入門Ⅱ [Q2対面＋オンデマンド]	1458
簿記論Ⅰ [Q1対面＋オンデマンド]	1459
簿記論Ⅱ [Q2対面＋オンデマンド]	1460
法学概論 [Q2対面＋オンデマンド]	1461
海外研修 [PH用]	1462
海外研修A [BC用]	1464

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

<授業の方法>

1. 講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。

20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	戸田 晃大			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

<授業の方法>

1. 講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。

20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	岩田 知郎			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

<授業の方法>

1. 講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。

20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。
20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。

21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	堀川 峻			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。
20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。

21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	坂手 雅斗			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

<授業の方法>

1. 講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。

20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	野上 里菜			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につける。②五訓、特に「前進力」を高める。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。

<授業の方法>

1. 講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。
20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。

21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

<授業の方法>

1. 講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、冨江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15	自己分析	マッチプラスを用いて、自己分析を行う。
16	スポーツリンクプロジェクト実践①	スポーツリンクプロジェクト実践を行う
17	ゲストスピーカー（聴講）	社会人になった自分を思い描く。
18	スポーツリンクプロジェクト実践②	スポーツリンクプロジェクト実践を行う。
19	スポレクフェス計画①	スポレクフェス計画を行う。

20	スポレクフェス計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェスの実践を行う。
22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェス実践を行う。
24	プレゼンテーション発表（聴講）	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの振り返り	スポレクフェスの振り返りを行い、成果物を作成する。
26	進路に向けて	進路選択に向けて、調べ学習を行う。
27	進路にむけて②	自身の進路選択についての調べ学習を行う。
28	ゲストスピーカー（聴講）	1年生の自分と2年生の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

下記三つの能力を身に付けることができる。①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%、課題レポート（課題、発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案 クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案 クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7

24	基礎学力	ことば入門；テーマ8
25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ9 10 11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	前田 誠一			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60％、課題レポート（課題、発表）40％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案 クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案 クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ9 10 11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	宮本 彩			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%、課題レポート（課題、発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案 クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案 クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ9 10 11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	伊藤 亮輔			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60％、課題レポート（課題、発表）40％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案 クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案 クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ9 10 11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%、課題レポート（課題、発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案 クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案 クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ9 10 11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	小村 淳			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案 クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案 クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ9 10 11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	鷹取 晃巨			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60％、課題レポート（課題、発表）40％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案 クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案 クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ9 10 11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60％、課題レポート（課題、発表）40％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案 クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案 クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ9 10 11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	桂 秀樹			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

下記三つの能力を身に付けることができる。①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60％、課題レポート（課題、発表）40％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案 クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案 クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7

24	基礎学力	ことば入門；テーマ8
25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ9 10 11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	宮原 舞			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリア教育の基礎として、社会で求められる社会人基礎力を踏まえ、大学生としての基礎・基本を身につけることを目的とする。大学生生活の意義や過ごし方について考えながら、学生一人ひとりが責任をもって社会人として成長していくための基盤を養う。授業では、ゲストスピーカーによる講話や実習報告会に加え、基礎ゼミナールと連動した体験活動（自然・文化体験、地域連携活動、国際交流等）を振り返り、自己の学びとして整理することを重視する。これらを通して、IPU生および社会人として求められる資質・態度を身につけ、自分に自信をもち、自身の将来像を描きながら主体的に進路を考え、適切な進路決定を行うための土台を築く。

<授業の到達目標>

①保育・教育・福祉およびキャリア形成に関する学びを通して、自身の将来像や進路について考えることができる。②体験活動に主体的に参加し、他者と協働する姿勢を身につけることができる。③各回の学びを振り返り、自身の考えや気づきを文章等で表現することができる。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク等を組み合わせて実施する。多様な学びや実践に触れることを通して視野を広げ、各回の学びをレポートや振り返りによって整理しながら、自身の将来像や進路、大学生生活の在り方について主体的に考えることを重視する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに即したレポート作成・発表準備等（1時間程度）復習：学習内容の振り返り（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に対する取り組み姿勢 40%目標設定・振り返り 10%課題（レポート等）50%

<教科書>

文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年3月） フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年3月） フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月） フレーベル館

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	大学での学びと目標設定
2	教養教育センター長 講話	第1回 大学生のための非認知能力
3	教養教育センター長 講話	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	キャリア教育①	自分史を振り返る
5	教養教育センター長 講話	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	キャリア教育②	体験活動を通して自己理解を深める
8	キャリア教育③	体験活動による自己の成長を振り返る
9	保育実習報告会	先輩の体験談から保育実習について学ぶ
10	キャリア教育④	職業適性について考える
11	キャリア教育⑤	体験活動を通して自己理解を深める
12	キャリア教育⑥	体験活動による自己の成長を振り返る
13	キャリア教育⑦	個人面談による前期の振り返り
14	キャリア教育⑧	自己の成長と課題の整理
15	スポーツフェスタ	協働性・主体性を育む
16	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
17	教養教育センター長 講話	第4回 社会人になった自分を描く
18	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
19	幼稚園実習報告会	先輩の体験談から幼稚園実習を学ぶ
20	キャリア教育⑨	体験活動を通して自己理解を深める

21	キャリア教育⑩	体験活動による自己の成長を振り返る
22	卒業生講話	卒業生の体験談から進路選択や就職活動について学ぶ
23	キャリア教育⑪	体験活動を通して自己理解を深める
24	キャリア教育⑫	体験活動による自己の成長を振り返る
25	ゲスト講話	人権について考える
26	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
27	キャリア教育⑬	1年間の成長と課題の整理
28	教養教育センター長 講話	第5回 1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	高崎 展好			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリア教育の基礎として、社会で求められる社会人基礎力を踏まえ、大学生としての基礎・基本を身につけることを目的とする。大学生生活の意義や過ごし方について考えながら、学生一人ひとりが責任をもって社会人として成長していくための基盤を養う。授業では、ゲストスピーカーによる講話や実習報告会に加え、基礎ゼミナールと連動した体験活動（自然・文化体験、地域連携活動、国際交流等）を振り返り、自己の学びとして整理することを重視する。これらを通して、IPU生および社会人として求められる資質・態度を身につけ、自分に自信をもち、自身の将来像を描きながら主体的に進路を考え、適切な進路決定を行うための土台を築く。

<授業の到達目標>

①保育・教育・福祉およびキャリア形成に関する学びを通して、自身の将来像や進路について考えることができる。②体験活動に主体的に参加し、他者と協働する姿勢を身につけることができる。③各回の学びを振り返り、自身の考えや気づきを文章等で表現することができる。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク等を組み合わせて実施する。多様な学びや実践に触れることを通して視野を広げ、各回の学びをレポートや振り返りによって整理しながら、自身の将来像や進路、大学生生活の在り方について主体的に考えることを重視する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに即したレポート作成・発表準備等（1時間程度）復習：学習内容の振り返り（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に対する取り組み姿勢 40%目標設定・振り返り 10%課題（レポート等）50%

<教科書>

文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年3月） フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年3月） フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月） フレーベル館

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	大学での学びと目標設定
2	教養教育センター長 講話	第1回 大学生のための非認知能力
3	教養教育センター長 講話	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	キャリア教育①	自分史を振り返る
5	教養教育センター長 講話	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	キャリア教育②	体験活動を通して自己理解を深める
8	キャリア教育③	体験活動による自己の成長を振り返る
9	保育実習報告会	先輩の体験談から保育実習について学ぶ
10	キャリア教育④	職業適性について考える
11	キャリア教育⑤	体験活動を通して自己理解を深める
12	キャリア教育⑥	体験活動による自己の成長を振り返る
13	キャリア教育⑦	個人面談による前期の振り返り
14	キャリア教育⑧	自己の成長と課題の整理
15	スポーツフェスタ	協働性・主体性を育む
16	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
17	教養教育センター長 講話	第4回 社会人になった自分を描く
18	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
19	幼稚園実習報告会	先輩の体験談から幼稚園実習を学ぶ
20	キャリア教育⑨	体験活動を通して自己理解を深める

21	キャリア教育⑩	体験活動による自己の成長を振り返る
22	卒業生講話	卒業生の体験談から進路選択や就職活動について学ぶ
23	キャリア教育⑪	体験活動を通して自己理解を深める
24	キャリア教育⑫	体験活動による自己の成長を振り返る
25	ゲスト講話	人権について考える
26	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
27	キャリア教育⑬	1年間の成長と課題の整理
28	教養教育センター長 講話	第5回 1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリア教育の基礎として、社会で求められる社会人基礎力を踏まえ、大学生としての基礎・基本を身につけることを目的とする。大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与えることから、本授業では、大学生生活の意義や過ごし方について考えながら、学生一人ひとりが責任をもって社会人として成長していくための基盤を養う。ゲストスピーカーによる講話や、基礎ゼミナールと連動した実践的な活動を通して、IPU生および社会人として求められる資質・態度を身につけ、自分に自信をもち、適切な進路決定を行うための土台を築く。

<授業の到達目標>

①保育・教育・福祉およびキャリア形成に関する学びを通して、自身の将来像や進路について考えることができる。②学内行事や体験活動に主体的に参加し、他者と協働する姿勢を身につけることができる。③各回の学びを振り返り、自身の考えや気づきを文章等で表現することができる。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク等を組み合わせて実施する。多様な学びや実践に触れることを通して視野を広げ、各回の学びをレポートや振り返りによって整理しながら、自身の将来像や進路、大学生生活の在り方について主体的に考えることを重視する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに即したレポート作成・発表準備等（1時間程度）復習：学習内容の振り返り（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に対する取り組み姿勢 40%課題（レポート等）60%

<教科書>

文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年3月） フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年3月） フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月） フレーベル館

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学長講話	大学での学びと目標設定
2	教養教育センター長 講話	第1回 大学生のための非認知能力
3	教養教育センター長 講話	第2回 非認知能力の伸ばし方
4	キャリア教育①	自分史を振り返る
5	教養教育センター長 講話	第3回 非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	キャリア教育②	体験活動を通して自己理解を深める
8	キャリア教育③	体験活動による自己の成長を振り返る
9	保育実習報告会	先輩の体験談から保育実習について学ぶ
10	キャリア教育④	職業適性について考える
11	キャリア教育⑤	体験活動を通して自己理解を深める
12	キャリア教育⑥	体験活動による自己の成長を振り返る
13	キャリア教育⑦	個人面談による前期の振り返り
14	キャリア教育⑧	自己の成長と課題の整理
15	スポーツフェスタ	協働性・主体性を育む
16	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
17	教養教育センター長 講話	第4回 社会人になった自分を描く
18	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
19	幼稚園実習報告会	先輩の体験談から幼稚園実習を学ぶ
20	キャリア教育⑨	体験活動を通して自己理解を深める
21	キャリア教育⑩	体験活動による自己の成長を振り返る

22	卒業生講話	卒業生の体験談から進路選択や就職活動について学ぶ
23	キャリア教育⑬	体験活動を通して自己理解を深める
24	キャリア教育⑭	体験活動による自己の成長を振り返る
25	ゲスト講話	人権について考える
26	ゲスト講話	様々なキャリアを知り、社会で求められる力について考える
27	キャリア教育⑮	1年間の成長と課題の整理
28	教養教育センター長 講話	第5回 1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	平林 大輔／簀戸 崇史／福井 悠紀子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して、①読解力や傾聴力、書く力を身に付ける。②スピーチする力を身に付ける。③学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。④大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することができるようになる。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 準備等事前に告知された課題1時間 復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は本学教養科目のディプロマポリシー（DP）のうち、DP1 体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP2 体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。に該当する科目であり、「豊かな人間性と個性」および「深い専門性と実践力」を養成することを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

一般社団法人日本スポーツ医学検定機構（2022年3月1日） スポーツ医学検定公式テキスト2級・3級改訂版 東洋館出版社
日本漢字能力検定協会（2016年4月4日） 文章検公式テキスト3級【公式】 公益財団法人 日本漢字能力検定協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等） 学長講話	大学を知る、五訓・初期評価
2	第1回大学生のための非認知能力	大学生のための非認知能力
3	第2回非認知能力の伸ばし方	非認知能力の伸ばし方
4	文章力の必要性	文章力の必要性
5	第3回大学生のための非認知能力	非認知能力の伸ばし方
6	文章力検定	文章力検定3級
7	メンター講話 1	メンター講話1
8	メンター講話2	メンター講話2
9	メンター講話3	メンター講話3
10	学科長講話	学科長講話
11	スポーツ医学検定1	スポーツ医学検定1
12	スポーツ医学検定2	スポーツ医学検定2
13	スポーツ医学検定3	スポーツ医学検定3
14	スポーツ医学検定4	スポーツ医学検定4
15	第4回非認知能力の伸ばし方	社会人になった自分を描く
16	野外活動	野外活動1
17	体育会	体育会メンバー決め

18	野外活動	野外活動2
19	野外活動	野外活動3
20	野外活動	野外活動4
21	野外活動	野外活動5
22	野外活動	野外活動6
23	野外活動	野外活動7
24	野外活動	野外活動8
25	野外活動	野外活動9
26	文章力検定	文章力検定試験
27	第5回非認知能力の伸ばし方	1年生の自分と2年生の自分
28	総括	学年末集会
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	畠中 要輔			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学4年間の学びと将来の進路を主体的に設計するための基礎力を養う初年次教育科目である。講話、グループワーク、校外活動等を通して、認知能力（読解力・記述力等）と非認知能力（主体性・協働性・自己管理能力等）の双方を育成する。さらに、スクールフェスや教育現場での体験活動を通して、社会人として求められる資質・態度を理解し、自己の将来像を具体的に描くことを目指す。

<授業の到達目標>

①講話内容を整理し、自分の考えを文章で表現できる②他者の意見を傾聴し、適切に自分の意見を発言できる③学習習慣や時間管理を実践し、自己管理ができる④大学生として求められる基礎的な学力を活用できる⑤自己の特性や価値観を分析し、将来の進路を具体的に説明できる⑥社会で求められる資質・能力を理解し、自らの行動に反映できる

<授業の方法>

講義（学内外講師による講話）、グループワーク、ディスカッション、発表、校外活動（教育現場見学・体験活動）を組み合わせる。各回では講話内容の要約および振り返りを行い、学びを言語化することで理解の定着を図る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、ペアワーク、プレゼンテーション、振り返りレポート作成、校外体験活動を通して、主体的・対話的で深い学びを促進する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（各回1～2時間）・次回講話テーマに関する基礎知識の調査・自己の経験や意見の整理事後学習（各回2時間）・講話内容の要約および振り返りレポート作成・学びを踏まえた自己の行動改善計画の作成

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度（講話への取り組み、ディスカッション参加、提出状況）40％振り返りレポート（内容の理解度・論理性・自己の考察）40％実践活動（校外活動・スクールフェス等への参加および振り返り）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話	大学の方針・創志学園の歴史
2	中山先生講話	大学生のための非認知能力
3	中山先生講話	非認知能力の伸ばし方
4	オンデマンド	
5	中山先生講話	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	真田先生講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	チームビルディング	学年レクリエーション
8	ディスカッション	映画を見て振り返り
9	スクールフェス	スクールフェスについて
10	現場見学	小学校授業見学
11	現場実習	児童ふれあいイベント参加
12	現場実習	児童ふれあいイベント参加
13	現場実習	児童ふれあいイベント参加
14	現場実習	児童ふれあいイベント参加
15	自分を知る	リクナビ マッチプラス
16	模擬授業	振り返り
17	中山先生講話	社会人になった自分を描く
18	模擬授業	振り返り
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	準備
22	外部講師講話	外部講師講話

23	現場見学	小学校授業見学
24	人権講話	人権講話
25	スクールフェス	当日
26	スクールフェス	準備
27	外部講師講話	命の授業
28	中山先生講義	1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間をどう過ごすのか、また4年後にどうなりたいのかを考え、社会人になる為の助言指導を行う。大学の初年次教育として、社会で求められる基礎学力だけでなく、非認知能力の育成も目指した授業を展開する。講話形式で行う授業では、内容をまとめ、自分の考えも持ち、自分の言葉としてレポートにまとめられる基礎力を身につける他、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。また校外活動も行い、学生一人一人がIPU生としての自覚を持ち、求められる資質・態度を考え、実践することで、自己肯定感を高め、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して①読解力や傾聴力、書く力を身につける。②学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。③大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

講話（メンターやゲストスピーカー等による講話）、グループワーク

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

非認知能力授業でのグループワーク、発表など

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・小学校授業映像視察（1時間）復習・授業後の復習（毎回30分）・振り返りレポート（毎回2時間）・スクールフェスの準備（毎回1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・課題への取り組み態度等）50%、小課題（レポート等）50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話	大学の方針・創志学園の歴史
2	中山先生講話	大学生のための非認知能力
3	中山先生講話	非認知能力の伸ばし方
4	オンデマンド	
5	中山先生講話	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	真田先生講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	チームビルディング	学年レクリエーション
8	ディスカッション	映画を見て振り返り
9	スクールフェス	スクールフェスについて
10	現場見学	小学校授業見学
11	現場実習	児童ふれあいイベント参加
12	現場実習	児童ふれあいイベント参加
13	現場実習	児童ふれあいイベント参加
14	現場実習	児童ふれあいイベント参加
15	自分を知る	リクナビ マッチプラス
16	模擬授業	振り返り
17	中山先生講話	社会人になった自分を描く
18	模擬授業	振り返り
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	準備
22	外部講師講話	外部講師講話
23	現場見学	小学校授業見学

24	人権講話	人権講話
25	スクールフェス	当日
26	スクールフェス	準備
27	外部講師講話	命の授業
28	中山先生講義	1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	中安 翼			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間をどう過ごすのか、また4年後にどうなりたいのかを考え、社会人になる為の助言指導を行う。大学の初年次教育として、社会で求められる基礎学力だけでなく、非認知能力の育成も目指した授業を展開する。講話形式で行う授業では、内容をまとめ、自分の考えも持ち、自分の言葉としてレポートにまとめられる基礎力を身につける他、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。また校外活動も行い、学生一人一人がIPU生としての自覚を持ち、求められる資質・態度を考え、実践することで、自己肯定感を高め、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して①読解力や傾聴力、書く力を身につける。②学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。③大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）、グループワーク

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

非認知能力授業でのグループワーク、発表など

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業後の復習、振り返りレポート2時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・課題への取り組み態度等）50%、小課題（レポート等）50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話	大学の方針・創志学園の歴史
2	中山先生講話	大学生のための非認知能力
3	中山先生講話	非認知能力の伸ばし方
4	オンデマンド	
5	中山先生講話	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	真田先生講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	チームビルディング	学年レクリエーション
8	ディスカッション	映画を見て振り返り
9	スクールフェス	スクールフェスについて
10	現場見学	小学校授業見学
11	現場実習	児童ふれあいイベント参加
12	現場実習	児童ふれあいイベント参加
13	現場実習	児童ふれあいイベント参加
14	現場実習	児童ふれあいイベント参加
15	自分を知る	リクナビ マッチプラス
16	模擬授業	振り返り
17	中山先生講話	社会人になった自分を描く
18	模擬授業	振り返り
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	準備
22	外部講師講話	外部講師講話
23	現場見学	小学校授業見学
24	人権講話	人権講話

25	スクールフェス	当日
26	スクールフェス	準備
27	外部講師講話	命の授業
28	中山先生講義	1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間をどう過ごすのか、また4年後にどうなりたいのかを考え、社会人になる為の助言指導を行う。大学の初年次教育として、社会で求められる基礎学力だけでなく、非認知能力の育成も目指した授業を展開する。講話形式で行う授業では、内容をまとめ、自分の考えも持ち、自分の言葉としてレポートにまとめられる基礎力を身につける他、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。また校外活動も行い、学生一人一人がIPU生としての自覚を持ち、求められる資質・態度を考え、実践することで、自己肯定感を高め、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。以下の3点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。毎時の講話を通して①読解力や傾聴力、書く力を身につけることができる。②学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につけることができる。③大学生として求められる基礎学力の獲得と定着を図ることができる。

<授業の方法>

講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）、グループワーク

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

非認知能力授業でのグループワーク、発表など

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前：クラスルームで内容を確認（30分）授業後：振り返りレポート（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・課題への取り組み態度等）50%、小課題（レポート等）50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話	大学の方針・創志学園の歴史
2	中山先生講話	大学生のための非認知能力
3	中山先生講話	非認知能力の伸ばし方
4	オンデマンド	
5	中山先生講話	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	真田先生講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	チームビルディング	学年レクリエーション
8	ディスカッション	映画を見て振り返り
9	スクールフェス	スクールフェスについて
10	現場見学	小学校授業見学
11	現場実習	児童ふれあいイベント参加
12	現場実習	児童ふれあいイベント参加
13	現場実習	児童ふれあいイベント参加
14	現場実習	児童ふれあいイベント参加
15	自分を知る	リクナビ マッチプラス
16	模擬授業	振り返り
17	中山先生講話	社会人になった自分を描く
18	模擬授業	振り返り
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	準備
22	外部講師講話	外部講師講話
23	現場見学	小学校授業見学

24	人権講話	人権講話
25	スクールフェス	当日
26	スクールフェス	準備
27	外部講師講話	命の授業
28	中山先生講義	1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	渡邊 亮／四宮 貴久／小澤 尚子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間をどう過ごすのか、また4年後にどうなりたいのかを考え、社会人になる為の助言指導を行う。大学の初年次教育として、社会で求められる基礎学力だけでなく、非認知能力の育成も目指した授業を展開する。講話形式で行う授業では、内容をまとめ、自分の考えも持ち、自分の言葉としてレポートにまとめられる基礎力を身につける他、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。また校外活動も行い、学生一人一人がIPU生としての自覚を持ち、求められる資質・態度を考え、実践することで、自己肯定感を高め、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して①読解力や傾聴力、書く力を身につける。②学生生活や学習習慣などの自己管理・時間管理能力を身につける。③大学生として求められる基礎学力の獲得と定着。以上の点から主体的・能動的に学び続ける学生としての資質・能力を育成することを目標とする。

<授業の方法>

講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）、グループワーク

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

非認知能力授業でのグループワーク、発表など

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業後の復習、振り返りレポート2時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・課題への取り組み態度等）50%、小課題（レポート等）50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話	大学の方針・創志学園の歴史
2	中山先生講話	大学生のための非認知能力
3	中山先生講話	非認知能力の伸ばし方
4	オンデマンド	
5	中山先生講話	非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
6	真田先生講話	嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンター
7	チームビルディング	学年レクリエーション
8	ディスカッション	映画を見て振り返り
9	スクールフェス	スクールフェスについて
10	現場見学	小学校授業見学
11	現場実習	児童ふれあいイベント参加
12	現場実習	児童ふれあいイベント参加
13	現場実習	児童ふれあいイベント参加
14	現場実習	児童ふれあいイベント参加
15	自分を知る	リクナビ マッチプラス
16	模擬授業	振り返り
17	中山先生講話	社会人になった自分を描く
18	模擬授業	振り返り
19	スクールフェス	準備
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	準備
22	外部講師講話	外部講師講話
23	現場見学	小学校授業見学
24	人権講話	人権講話

25	スクールフェス	当日
26	スクールフェス	準備
27	外部講師講話	命の授業
28	中山先生講義	1年の自分と2年の自分
29		
30		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [通年]PS用				担当者名	山本 清人／田口 真奈			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

①IPU生としての考え方・態度を身につける②前進力を身につける③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材を取り組んでいく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有講義だけでなく、グループワークやディスカッション、基礎学力の教え合い、プレゼンテーションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60％、課題レポート（課題、発表）40％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	役員講話（大学の方針・創志学園の歴史）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	非認知能力①	中山芳一先生：第1回大学生のための非認知能力
3	非認知能力②	中山芳一先生：第2回非認知能力の伸ばし方
4	基礎学力	ことば入門；テーマ1
5	基礎学力	ことば入門；テーマ1を基にした発表
6	基礎学力	競技日誌の書き方
7	非認知能力③	中山芳一先生：第3回非認知能力と認知能力等を共に伸ばす
8	クラス活動	集団行動を体験する
9	クラス活動	個人面談
10	クラス活動	個人面談
11	自身の目標設定アクションプラン	自身の目標設定アクションプランを作成
12	アクションプラン プレゼン	アクションプランプレゼンテーションとディスカッション
13	基礎学力	ことば入門；テーマ4
14	読書感想文	読書感想文コンテストの準備
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動
16	体育祭決め	体育祭決め
17	非認知能力④	“中山芳一先生：第4回社会人になった自分を描く”
18	基礎学力	ことば入門；テーマ6
19	学生FD	学科改善案 クラスミーティング
20	学生FD②	学科改善案 クラスミーティング
21	クラス活動	個人面談
22	クラス活動	個人面談
23	基礎学力	ことば入門；テーマ7
24	基礎学力	ことば入門；テーマ8

25	後期 アクションプラン プレゼン	後期のアクションプランプレゼンテーションとディスカッション
26	クラス活動	個人面談
27	基礎学力	ことば入門；テーマ9 10 11
28	環トレ 後期末テスト	環トレ 後期末テスト
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

- ①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につける。②五訓、特に前進力を向上させる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。④上記の内容を他者に伝える力を身につける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	堀川 峻			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

- ①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につける。
- ②五訓、特に前進力を向上させる。
- ③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。
- ④上記の内容を他者に伝える力を身につける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につけている。②五訓、特に前進力を向上させることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。④上記の内容を他者に伝える力を身につけている。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回の授業内容のレポート作成（事後学習1時間程度）、次回の確認テストの準備（事前学習2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	戸田 晃大			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につけている。②五訓、特に前進力を向上させることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。④上記の内容を他者に伝える力を身につけている。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回の授業内容のレポート作成（事後学習1時間程度）、次回の確認テストの準備（事前学習2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	岩田 知郎			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につけている。②五訓、特に前進力を向上させることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。④上記の内容を他者に伝える力を身につけている。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回の授業内容のレポート作成（事後学習1時間程度）、次回の確認テストの準備（事前学習2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	坂手 雅斗			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につけている。②五訓、特に前進力を向上させることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。④上記の内容を他者に伝える力を身につけている。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回の授業内容のレポート作成（事後学習1時間程度）、次回の確認テストの準備（事前学習2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	野上 里菜			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

- ①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につける。
- ②五訓、特に前進力を向上させる。
- ③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける。
- ④上記の内容を他者に伝える力を身につける。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につけている。②五訓、特に前進力を向上させることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。④上記の内容を他者に伝える力を身につけている。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回の授業内容のレポート作成（事後学習1時間程度）、次回の確認テストの準備（事前学習2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る②	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成①	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成②	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成③	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動①	他クラスとの交流
11	グループ活動②	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期に向けて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践①	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践②	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践③	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践を行う。
19	スポレクフェスの計画①	スポレクフェスの計画を行う。
20	スポレクフェスの計画②	スポレクフェスの計画を行う。
21	スポレクフェス実践①	スポレクフェス実践を行う。

22	スポレクフェス実践②	スポレクフェス実践を行う。
23	スポレクフェス実践③	スポレクフェスの実践を行う。
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの振り返りを発表する。
26	進路に向けて	進路に向けて調べ学習を行う。
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会を行う。
28	1年のまとめ	1年のまとめ
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	小川 雄太			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①IPU生・体育人・社会人としての基礎基本を身につけている。②五訓、特に前進力を向上させることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。④上記の内容を他者に伝える力を身につけている。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループにおいて、各テーマに関して、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回の授業内容のレポート作成（事後学習1時間程度）、次回の確認テストの準備（事前学習2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る	自己分析・個人面談
3	自己分析	個人面談・自己課題設定
4	大学を知る（オンデマンド）	メンター体験談
5	大学を知る	メンター体験談
6	スポレクフェスの趣旨説明	スポレクフェスの趣旨説明
7	コミュニティの形成	上級生とのスポレクの実践
8	コミュニティの形成	上級生とのスポレクの実践
9	コミュニティの形成	上級生とのスポレクの実践
10	グループ活動	他クラスとの交流
11	グループ活動	他クラスとの交流
12	プレゼンコンテスト	ビジネスマナーにおけるプレゼンコンテストを実践する。
13	クラス活動	個人の目標設定の見直し、アクションプランの作成
14	クラス活動	前期の振り返り
15	後期にむけて	前期の振り返りを行い、後期につなげる。
16	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践
17	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践
18	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践	スポーツリンクプロジェクトの計画・実践
19	スポレクフェスの計画	スポレクフェスの計画
20	スポレクフェスの計画	スポレクフェスの計画
21	スポレクフェス実践	スポレクフェス実践

22	スポレクフェス実践	スポレクフェス実践
23	スポレクフェス実践	スポレクフェス実践
24	プレゼンテーション発表の聴講	スポーツリンクプロジェクトの成果発表を聴講する。
25	スポレクフェスの発表	スポレクフェスの発表
26	進路に向けて	進路に向けての調べ学習
27	進路に向けてのプレゼン発表	進路に向けての成果発表会
28	まとめ	まとめ
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と 1 RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス 1 RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と 1 RM測定練習

22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス 1RM測定
23	測定のとまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	前田 誠一			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート （課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と 1 RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス 1 RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と 1 RM測定練習

22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス 1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	宮本 彩			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と 1 RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス 1 RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と 1 RM測定練習

22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス 1RM測定
23	測定のとまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	伊藤 亮輔			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と 1 RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス 1 RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と 1 RM測定練習

22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス 1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と 1 RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス 1 RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と 1 RM測定練習

22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス 1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	小村 淳			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と 1 RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス 1 RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と 1 RM測定練習

22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス 1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	鷹取 晃巨			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と 1 RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス 1 RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と 1 RM測定練習

22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス 1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と 1 RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス 1 RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と 1 RM測定練習

22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス 1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	桂 秀樹			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と 1 RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス 1 RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と 1 RM測定練習

22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス 1RM測定
23	測定のとまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	畠中 要輔			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学生活への適応を図るとともに、教職を志す学生として必要な基礎力（主体性・協働性・表現力・実践力）を養うことを目的とする。特に「スクールフェス」を軸として、授業設計、学習指導案の作成、模擬授業、小学校授業見学を段階的にを行い、教育実践に必要な基礎的能力を体系的に修得する。

<授業の到達目標>

本授業を通して、以下の力を身につけることを目標とする。1、大学生活に必要な基本的知識・技能を理解し、適切に活用できる 2、チームで協働しながら課題解決に主体的に取り組むことができる 3、学習指導案を作成し、意図に基づいた授業設計ができる 4、模擬授業を実施し、自らの教育実践を振り返り改善することができる 5、自己の学習や経験を振り返り、将来の目標を具体的に設定・説明できる

<授業の方法>

本授業は、講義・演習・グループワーク・発表・模擬授業を組み合わせ実施する。特に、グループでの授業づくりやディスカッションを通して、協働的に課題解決に取り組む。また、小学校授業見学やスクールフェスでの実践活動を通して、理論と実践を往還しながら学びを深める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業、フィールドワーク（小学校授業見学）を取り入れ、学生の主体的・協働的な学習を促進する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（各回2～3時間）・授業テーマに関連する資料の読解および要点整理・模擬授業・指導案作成に向けた教材研究・構想・教育実践事例や授業動画等の調査事後学習（各回2～3時間）・授業内容・ディスカッションの振り返り記録・指導案・発表資料の修正および改善・模擬授業や見学の振り返りと課題の明確化

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、以下のディプロマポリシーと関連する。DP1：他者と協働し、目標達成に向けて行動できる力DP2：専門分野における基礎的知識・技能を活用できる力

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）50％、大課題（発表等）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	キックオフ、授業を思い出す、イメージする
6	スクールフェス	授業を考える
7	スクールフェス	チーム分け、やりたい授業
8	スクールフェス	先輩の経験を聞く
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	学習指導案作成
14	スクールフェス	学習指導案提出、スライド発表、前期末集会
15	スクールフェス	確認、お知らせ
16	スクールフェス	模擬授業 1
17	スクールフェス	模擬授業 2
18	スクールフェス	模擬授業 3
19	スクールフェス	事前指導
20	スクールフェス	当日

21	スクールフェス	振り返り
22	スクールフェス	小学校見学事前指導
23	スクールフェス	小学校見学
24	スクールフェス	小学校見学振り返り
25	スクールフェス 2	当日
26	2年生に向けて	4年生の話を聞く
27	ゼミの振り返り	振り返り
28	学年の振り返り	学年末集会
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学生活への適応を図るとともに、教職を志す学生として必要な基礎力（主体性・協働性・表現力・実践力）を養うことを目的とする。特に「スクールフェス」を軸に、授業設計・模擬授業・学校現場理解を段階的に学ぶ。

<授業の到達目標>

本授業を通して、以下の力を身につけることを目標とする。1 大学生活に必要な基本的知識・技能を理解し活用できる 2 チームで協働しながら課題解決に取り組むことができる 3 学習指導案の作成および授業設計ができる 4 模擬授業を通して教育実践力を高める 5 自己を振り返り、将来の目標を明確にできる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出での授業見学等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指導案作り課題 3時間 復習：指導案見直し等 3時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）50％、大課題（発表等）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	キックオフ、授業を思い出す、イメージする
6	スクールフェス	授業を考える
7	スクールフェス	チーム分け、やりたい授業
8	スクールフェス	先輩の経験を聞く
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	学習指導案作成
14	スクールフェス	学習指導案提出、スライド発表、前期末集会
15	スクールフェス	確認、お知らせ
16	スクールフェス	模擬授業1
17	スクールフェス	模擬授業2
18	スクールフェス	模擬授業3
19	スクールフェス	事前指導
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	振り返り
22	スクールフェス	小学校見学事前指導
23	スクールフェス	小学校見学
24	スクールフェス	小学校見学振り返り
25	スクールフェス2	当日
26	2年生に向けて	4年生の話聞く
27	ゼミの振り返り	振り返り

28	学年の振り返り	学年末集会
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ				担当者名	中安 翼			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学生活への適応を図るとともに、教職を志す学生として必要な基礎力（主体性・協働性・表現力・実践力）を養うことを目的とする。特に「スクールフェス」を軸に、授業設計・模擬授業・学校現場理解を段階的に学ぶ。

<授業の到達目標>

本授業を通して、以下の力を身につけることを目標とする。1 大学生活に必要な基本的知識・技能を理解し活用できる 2 チームで協働しながら課題解決に取り組むことができる 3 学習指導案の作成および授業設計ができる 4 模擬授業を通して教育実践力を高める 5 自己を振り返り、将来の目標を明確にできる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出での授業見学等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指導案作り課題 3時間 復習：指導案見直し等 3時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）50％、大課題（発表等）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	キックオフ、授業を思い出す、イメージする
6	スクールフェス	授業を考える
7	スクールフェス	チーム分け、やりたい授業
8	スクールフェス	先輩の経験を聞く
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	学習指導案作成
14	スクールフェス	学習指導案提出、スライド発表、前期末集会
15	スクールフェス	確認、お知らせ
16	スクールフェス	模擬授業1
17	スクールフェス	模擬授業2
18	スクールフェス	模擬授業3
19	スクールフェス	事前指導
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	振り返り
22	スクールフェス	小学校見学事前指導
23	スクールフェス	小学校見学
24	スクールフェス	小学校見学振り返り
25	スクールフェス2	当日
26	2年生に向けて	4年生の話聞く
27	ゼミの振り返り	振り返り

28	学年の振り返り	学年末集会
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	渡邊 亮／四宮 貴久／小澤 尚子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学生活への適応を図るとともに、教職を志す学生として必要な基礎力（主体性・協働性・表現力・実践力）を養うことを目的とする。特に「スクールフェス」を軸に、授業設計・模擬授業・学校現場理解を段階的に学ぶ。

<授業の到達目標>

本授業を通して、以下の力を身につけることを目標とする。1 大学生活に必要な基本的知識・技能を理解し活用できる 2 チームで協働しながら課題解決に取り組むことができる 3 学習指導案の作成および授業設計ができる 4 模擬授業を通して教育実践力を高める 5 自己を振り返り、将来の目標を明確にできる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出での授業見学等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指導案作り課題 3時間 復習：指導案見直し等 3時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等） 30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等） 50％、大課題（発表等） 20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学生生活	メンター、メンティー紹介、キャンパスツアー
2	学生生活	学生便覧、教職の手引き等確認。レポートの書き方
3	1年次目標	メンター講話
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス	キックオフ、授業を思い出す、イメージする
6	スクールフェス	授業を考える
7	スクールフェス	チーム分け、やりたい授業
8	スクールフェス	先輩の経験聞く
9	小学校授業見学	事前指導
10	小学校授業見学	本番
11	小学校授業見学	振り返り
12	スクールフェス	学習指導案
13	スクールフェス	学習指導案作成
14	スクールフェス	学習指導案提出、スライド発表、前期末集会
15	スクールフェス	確認、お知らせ
16	スクールフェス	模擬授業 1
17	スクールフェス	模擬授業 2
18	スクールフェス	模擬授業 3
19	スクールフェス	事前指導
20	スクールフェス	当日
21	スクールフェス	振り返り
22	スクールフェス	小学校見学事前指導
23	スクールフェス	小学校見学
24	スクールフェス	小学校見学振り返り
25	スクールフェス 2	当日
26	2年生に向けて	4年生の話聞く
27	ゼミの振り返り	振り返り

28	学年の振り返り	学年末集会
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力と大学生に求められる基礎学力を身につける事を目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力は非常に重要である。スクールフェスというプロジェクトを通して、グループで取り組み、非認知能力の向上を目指します。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立②非認知能力：リーダーシップ、協調性、自分の意見を伝え、周囲の意見を聞く。内容をまとめることができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身につけることができる④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自分の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。学年全体での授業や、学外に出での授業見学等も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの授業づくりや、ディスカッション、発表、模擬授業など行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指導案作り課題 3時間 復習：指導案見直し等 3時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや発表、演習への取り組み等）30％、小課題（学習指導案、読書感想文、発表スライド、レポート等）50％、大課題（発表等）20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	自己紹介、履修確認、キャンパスツアー
2	クラス運営	委員決め、学生便覧、教職の手引き等確認。メール・レポートの書き方
3	大学生活の充実	メンター講話、4年間の目標・やってみたいこと
4	1年次目標	オンデマンド
5	スクールフェス①	キックオフ、チームビルディング
6	図書館ラリ	好きなことで授業を考える、図書館の使い方を知る。
7	スクールフェス②	チーム分け、授業案5つ
8	スクールフェス③	映画「夢見る学校」
9	小学校授業見学①	小学校見学事前指導、学習指導案
10	小学校授業見学②	小学校授業見学実施
11	スクールフェス④	見学の振り返り
12	スクールフェス⑤	学習指導案と読書感想文の書き方
13	スクールフェス⑥	学習指導案、授業発表スライド制作
14	前期末集会	前期のまとめ、スライド案発表
15	スクールフェス⑦	授業に向けての確認
16	スクールフェス⑧	4年生に向けて模擬授業①
17	スクールフェス	前日準備のため振替
18	スクールフェス⑨	4年生に向けて模擬授業②
19	スクールフェス⑩	宿泊、事前連絡など
20	スクールフェス⑪	スクールフェス実施
21	スクールフェス⑫	振り返り
22	小学校見学①	小学校見学に向けて
23	小学校見学②	小学校見学実施（1，2，3限）
24	小学校授業見学③	小学校見学の振り返り
25	スクールフェス・セカンド	スクールフェス・セカンド実施
26	2年生に向けて	FE4年生との対話

27	1年のまとめ	クラスでの振り返り（入学して300日）
28	学年末集会	1年次のまとめと2年次に向けて
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	宮原 舞			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけるとともに、自ら学ぶ力（自主性・能動性）および大学生として必要な基礎的な学力・技能を養うことを目的とする。授業では、フレッシュマンセミナーと連動しながら、自然・文化体験、地域連携活動、国際交流等の多様な体験活動に取り組む。これらの体験をもとに、グループワークやディスカッション、振り返り活動を通して、「自分の意見を伝えること」「相手の話を聞くこと」「内容を整理してまとめること」といった基礎的スキルを身につける。体験と振り返りを繰り返すことにより、認知能力と非認知能力の両面から、社会で生きていくために必要な能力の基盤を形成する。

<授業の到達目標>

①大学生活に必要な基本的な生活態度、学習習慣、行動規範を身につける。②地域に存在する自然・文化・人との関わりを通して、地域社会や多様な環境に対する理解を深める。③自分の意見を伝える力、相手の話を聞く力、内容を整理してまとめる力を身につけるとともに、グループ活動に主体的に参加し他者と協働する力を身につける。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、学内外におけるフィールドワーク、振り返り活動、プレゼンテーション等を組み合わせて実施する。学生が体験を通して学び、その内容を振り返り、自己の成長として整理するプロセスを重視する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに即したレポート作成・発表準備等（1時間程度）復習：学習内容の振り返り（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に対する取り組み姿勢 40%小課題（レポート等） 30%大課題（発表・プレゼンテーション等） 30%

<教科書>

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	前期の授業計画、履修について
2	スタートアップセミナー①	初年次教育・東岡山IPUこども園について
3	スタートアップセミナー②	図書・文献の活用方法を知る
4	スタートアップセミナー③	大学での学び・生活について考え、目標を設定する
5	国際交流①	留学生との交流を通して異文化理解を深める
6	国際交流②	留学生との交流を通して異文化理解を深める
7	自然・文化に触れる①	事前学習
8	自然・文化に触れる①	フィールドワーク
9	自然・文化に触れる①	振り返り・発表
10	地域連携活動①	事前学習
11	地域連携活動①	フィールドワーク
12	地域連携活動①	振り返り・発表
13	前期振り返り	個人面談による目標の振り返り
14	前期末集会	
15	オリエンテーション	後期の授業計画、履修について
16	学内行事①	スポーツフェスタ：協働性・主体性を育む
17	学内行事②	環太祭：企画力・運営力・実践力を育む
18	学内行事③	環太祭：企画力・運営力・実践力を育む
19	自然・文化に触れる②	事前学習
20	自然・文化に触れる②	フィールドワーク
21	自然・文化に触れる②	振り返り・発表

22	地域連携活動②	事前学習
23	地域連携活動②	フィールドワーク
24	地域連携活動②	振り返り・発表
25	国際交流③	留学生との交流を通して異文化を探究する
26	国際交流④	留学生との交流を通して異文化を探究する
27	1年間の振り返り	個人面談による目標の振り返り
28	学年末集会	
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	高崎 展好			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけるとともに、自ら学ぶ力（自主性・能動性）および大学生として必要な基礎的な学力・技能を養うことを目的とする。授業では、フレッシュマンセミナーと連動しながら、自然・文化体験、地域連携活動、国際交流等の多様な体験活動に取り組む。これらの体験をもとに、グループワークやディスカッション、振り返り活動を通して、「自分の意見を伝えること」「相手の話を聞くこと」「内容を整理してまとめること」といった基礎的スキルを身につける。体験と振り返りを繰り返すことにより、認知能力と非認知能力の両面から、社会で生きていくために必要な能力の基盤を形成する。

<授業の到達目標>

①大学生活に必要な基本的な生活態度、学習習慣、行動規範を身につける。②地域に存在する自然・文化・人との関わりを通して、地域社会や多様な環境に対する理解を深める。③自分の意見を伝える力、相手の話を聞く力、内容を整理してまとめる力を身につけるとともに、グループ活動に主体的に参加し他者と協働する力を身につける。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、学内外におけるフィールドワーク、振り返り活動、プレゼンテーション等を組み合わせて実施する。学生が体験を通して学び、その内容を振り返り、自己の成長として整理するプロセスを重視する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ペアワークやグループワークによる意見交流）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに即したレポート作成・発表準備等（1時間程度）復習：学習内容の振り返り（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に対する取り組み姿勢 40%目標設定・振り返り 10%小課題（レポート等） 30%大課題（発表・プレゼンテーション等） 20%

<教科書>

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	前期の授業計画、履修について
2	スタートアップセミナー①	初年次教育・東岡山IPUこども園について
3	スタートアップセミナー②	図書・文献の活用方法を知る
4	スタートアップセミナー③	大学での学び・生活について考え、目標を設定する
5	国際交流①	留学生との交流を通して異文化理解を深める
6	国際交流②	留学生との交流を通して異文化理解を深める
7	自然・文化に触れる①	事前学習
8	自然・文化に触れる①	フィールドワーク
9	自然・文化に触れる①	振り返り・発表
10	地域連携活動①	事前学習
11	地域連携活動①	フィールドワーク
12	地域連携活動①	振り返り・発表
13	前期振り返り	個人面談による目標の振り返り
14	前期末集会	
15	オリエンテーション	後期の授業計画、履修について
16	学内行事①	スポーツフェスタ：協働性・主体性を育む
17	学内行事②	環太祭：企画力・運営力・実践力を育む
18	学内行事③	環太祭：企画力・運営力・実践力を育む
19	自然・文化に触れる②	事前学習
20	自然・文化に触れる②	フィールドワーク
21	自然・文化に触れる②	振り返り・発表

22	地域連携活動②	事前学習
23	地域連携活動②	フィールドワーク
24	地域連携活動②	振り返り・発表
25	国際交流③	留学生との交流を通して異文化を探究する
26	国際交流④	留学生との交流を通して異文化を探究する
27	1年間の振り返り	個人面談による目標の振り返り
28	学年末集会	
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけるとともに、自ら学ぶ力(自主性・能動性)および大学生として必要な基礎的な学力・技能を養うことを目的とする。そのため、フレッシュマンセミナーでの学習と連動しながら、自然・文化・人との関わりの中で多様な実体験を積み、グループワークやディスカッションを通して、「自分の意見を伝えること」「相手の話を聞くこと」「内容を整理してまとめること」ができるようになるための基礎的スキルを身につける。これらの活動を通して、認知能力と非認知能力の両面から、社会で生きていくために必要な能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①大学大学生活に必要な基本的な生活態度、学習習慣、行動規範を身につける。②地域に存在する自然・文化・人との関わりを通して、地域社会や多様な環境に対する理解を深める。③自分の意見を伝える力、相手の話を聞く力、内容を整理してまとめる力を身につけるとともに、グループ活動に主体的に参加し他者と協働する力を身につける。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、学内外におけるフィールドワーク、振り返り活動、プレゼンテーション等を組み合わせて実施する。学生が体験を通して学び、その内容を振り返り、自己の成長として整理するプロセスを重視する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ペアワークやグループワークによる意見交流)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習:テーマに即したレポート作成・発表準備等(1時間程度) 復習:学習内容の振り返り(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)およびディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)、ディプロマポリシー4(地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業に対する取り組み姿勢 40%目標設定・振り返り 10%小課題(レポート等) 30%大課題(発表・プレゼンテーション等) 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	前期の授業計画、履修について
2	スタートアップセミナー①	大学での学び・生活について考える
3	スタートアップセミナー②	大学での学び・生活について考える
4	スタートアップセミナー③	大学での学び・生活について考える
5	国際交流①	留学生との交流を通して異文化理解を深める
6	国際交流②	留学生との交流を通して異文化理解を深める
7	自然・文化に触れる①	事前学習
8	自然文化に触れる①	フィールドワーク
9	自然・文化に触れる①	振り返り
10	地域連携活動①	事前学習
11	地域連携活動①	フィールドワーク
12	地域連携活動①	振り返り
13	前期振り返り	個人面談による目標の振り返り
14	前期末集会	
15	オリエンテーション	後期の授業計画、履修について
16	学校行事①	スポーツフェスタ:協働性・主体性を育む
17	学校行事②	環太祭:企画力・運営力・実践力を育む
18	学校行事③	環太祭:企画力・運営力・実践力を育む
19	自然・文化に触れる②	事前学習
20	自然・文化に触れる②	フィールドワーク
21	自然・文化に触れる②	振り返り
22	地域連携活動②	事前学習
23	地域連携活動②	フィールドワーク

24	地域連携活動②	振り返り
25	国際交流③	留学生との交流を通して異文化を探究する
26	国際交流④	留学生との交流を通して異文化を探究する
27	1年間の振り返り	個人面談による目標の振り返り
28	学年末集会	
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	平林 大輔／簀戸 崇史／福井 悠紀子			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。また、自身が目指す進路の社会的情勢を把握し、今求められる人材について把握する。そして社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、相手に伝える能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとりグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッションプレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：必要としない。復習：各種認定試験受験前には時間外復習を推奨する。試験1か月前、一日1時間程度が望ましい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は本学教養科目のディプロマポリシー（DP）のうち、DP1 体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP2 体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。に該当する科目であり、「豊かな人間性と個性」および「深い専門性と実践力」を養成することを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業出席10%授業態度90%授業態度は積極的な取り組みや課題提出、規範遵守の観点から総合的に判断する。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修登録確認	履修登録確認
2	個人面談1	個人面談1
3	個人面談2	個人面談2
4	熱中症アンバサダー	熱中症アンバサダー
5	運動器（骨・筋）学習①	運動器（骨・筋）学習①
6	運動器（骨・筋）学習②	運動器（骨・筋）学習②
7	運動器（骨・筋）学習③	運動器（骨・筋）学習③
8	運動器（骨・筋）学習④	運動器（骨・筋）学習④
9	運動器（骨・筋）学習⑤	運動器（骨・筋）学習⑤
10	運動器（骨・筋）学習⑥	運動器（骨・筋）学習⑥
11	スピーチコンテスト①	スピーチコンテスト①
12	スピーチコンテスト②	スピーチコンテスト②
13	スピーチコンテスト③	スピーチコンテスト③
14	五訓評価・運動器評価試験	五訓評価・運動器評価試験
15	履修訂正・後期ガイダンス	履修訂正・後期ガイダンス
16	個人面談	個人面談
17	MATCH+	MATCH+を用いたキャリア教育、自分を知る時間とする。
18	スポーツ医学検定勉強①	スポーツ医学検定勉強①
19	スポーツ医学検定勉強②	スポーツ医学検定勉強②
20	スポーツ医学検定勉強③	スポーツ医学検定勉強③
21	スポーツ医学検定勉強④	スポーツ医学検定勉強④
22	スポーツ医学検定勉強⑤	スポーツ医学検定勉強⑤
23	スポーツ医学検定勉強⑥	スポーツ医学検定勉強⑥

24	文章力検定対策1	文章力検定対策1
25	文章力検定対策2	文章力検定対策2
26	定期試験対策	定期試験対策
27	定期試験対策	定期試験対策
28	定期試験対策	定期試験対策
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [通年]PS用				担当者名	山本 清人／田口 真奈			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート （課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習

22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス 1RM測定
23	測定のとまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生				担当者名	江口 尚文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
14	前期振り返り	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
16	個人面談③	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
18	個人面談④	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
26	ゼミ体験①	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
27	ゼミ体験②	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
28	後期振り返り	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
29		1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生				担当者名	古松 丈周			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
14	前期振り返り	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
16	個人面談③	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
18	個人面談④	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
26	ゼミ体験①	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
27	ゼミ体験②	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
28	後期振り返り	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
29		1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
14	前期振り返り	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
16	個人面談③	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
18	個人面談④	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
26	ゼミ体験①	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
27	ゼミ体験②	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
28	後期振り返り	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
29		1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ BC2026年度生				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
14	前期振り返り	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
16	個人面談③	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
18	個人面談④	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
26	ゼミ体験①	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
27	ゼミ体験②	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
28	後期振り返り	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
29		1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	小崎 遼介／虫明 淑子／塚本 千晴			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

プレゼン、ディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講話についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題 80%、授業への取り組み20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生におけるキャリアにおける学びのデザイン	・授業の内容の理解・自身のキャリアについて考える。
2	IPU2年生としての心構え	・2年生の行事、実習を確認し、3、4年生について考える
3	スケジュール管理	・ゲストを招いて「マイナビ：スケジュール管理」を実施する。
4	社会人基礎力	マイナビでの社会人基礎力を受講する。
5	社会人としての“当然”を学ぼう	社会人基礎力について考える
6	社会人（保育教諭）としての“当然”を探す	東岡山IPUこども園での観察を行う。
7	次回の観察のテーマを考える	東岡山IPUこども園での観察のテーマについて検討する。
8	社会人（保育教諭）としての“当然”を探す	東岡山IPUこども園での観察を行う。
9	社会人基礎力について説明する	社会人基礎力についてテーマを絞り学習する
10	社会人基礎力について説明する	社会人基礎力についてテーマを絞り学習する
11	社会人基礎力について説明する	社会人基礎力についてテーマを絞り学習する
12	社会人基礎力	秘書検定2級に取り組む
13	プレゼン準備	クラスで発表
14	前期のまとめ	前期の活動について振り返りを行う。
15	マイナビMATCHplus	・マイナビMATCHplusを行い3年生に向けての取り組みを考える
16	体育祭種目極め	体育祭に関する準備を行う。
17	進路決定	公務員・教員・企業3志会について
18	進路と東岡山IPUこども園	各進路ごとに分かれて東岡山IPUこども園での観察のポイントを検討する。

19	講話	学内の内定者による講話を行う。
20	東岡山IPUこども園観察1)	東岡山IPUこども園を個人で観察する
21	東岡山IPUこども園観察2)	東岡山IPUこども園にてグループで観察する
22	東岡山IPUこども園観察	東岡山IPUこども園にてそれぞれ観点をこれまでのものと関連させ観察する
23	ゲスト講話	池江先生による講話
24	ゲスト講話	辻井先生による講話
25	東岡山IPUこども園	講話の内容を踏まえて東岡山IPUこども園での観察を行う。
26	役員講話	役員講話により、自身の目標設定、夢、挑戦、達成について考える
27	年間の振り返り	年間の振り返りをクラスで行う。
28	まとめ	2年生のまとめと3年生への引き継ぎ
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。2. 講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。3. グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

<授業の方法>

本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用の学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー 1（対人関係能力および自己調整力）および 2（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book（私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする。
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト（学科決勝大会）	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

26	人権講話	説明できるようにする。
27	卒業生講話②	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
29		1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。2. 講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。3. グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

<授業の方法>

本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用の学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事実について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー 1（対人関係能力および自己調整力）および 2（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book（私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする。
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト(学科決勝大会)	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。2. 講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。3. グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

<授業の方法>

本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用の学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー 1（対人関係能力および自己調整力）および 2（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book（私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする。
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト（学科決勝大会）	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

26	人権講話	説明できるようにする。
27	卒業生講話②	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
29		1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	大池 淳一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。2. 講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。3. グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

<授業の方法>

本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用の学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー 1（対人関係能力および自己調整力）および 2（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book（私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする。
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト（学科決勝大会）	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	見村 一朗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。2. 講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。3. グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

<授業の方法>

本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用の学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー 1（対人関係能力および自己調整力）および 2（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book（私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする。
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト（学科決勝大会）	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

26	人権講話	説明できるようにする。
27	卒業生講話②	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
29		1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	豊里 健			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。2. 講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。3. グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

<授業の方法>

本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用の学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー 1（対人関係能力および自己調整力）および 2（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book（私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする。
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト（学科決勝大会）	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。2. 講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。3. グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

<授業の方法>

本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用の学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー 1（対人関係能力および自己調整力）および 2（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book（私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする。
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト（学科決勝大会）	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。2. 講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。3. グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

<授業の方法>

本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用の学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー 1（対人関係能力および自己調整力）および 2（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソンの講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book（私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソンの講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする。
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト（学科決勝大会）	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	清水 健太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「働くこと」の意義を個人の生活基盤および社会的役割の双方の観点から捉え、キャリア形成を生涯にわたる発達課題として位置づける。講話や演習、協働的活動を通して、現代社会において求められる汎用的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を多面的に理解し、実践的に育成することを目的とする。また、各回の活動においては、経験→内省→概念化→応用のサイクルを意識し、自己の価値観・行動特性・職業観を継続的に見直すことで、将来の進路選択に資する基盤を形成する。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力および価値観を言語化し、職業適性との関連を踏まえて将来の進路について具体的に説明できる。2. 講話・演習・協働活動に主体的に参加し、自らの考えを論理的に整理したうえで、口頭およびデジタルツールを用いて他者に伝達・共有できる。3. グループ活動や実践的課題を通して、社会人として求められる基礎的能力（主体性・協働性・課題解決力等）を発揮し、その成果と課題を省察的に記述できる。

<授業の方法>

本授業は、講義・演習・省察を組み合わせたアクティブ・ラーニング型授業として実施する。特に、ゲストスピーカーによる講話を起点として、グループワークやディスカッションを通じた相互作用の学習を行い、学習内容の深化を図る。さらに、各回の終了時には省察活動を行い、学びを自己の経験や将来設計と関連づけて再構成することで、知識の定着と転移を促す。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、グループディスカッション、課題解決型ワーク、プレゼンテーション活動等を通して、学生同士の相互作用を重視した学習を行う。特に、チームでの課題遂行においては、役割分担・合意形成・成果発表までのプロセスを経験させることで、実社会における協働的問題解決能力の育成を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各回のテーマに関連する自己の経験や社会的事象について事前に調べ、自身の意見や疑問点を整理したうえで授業に臨む（60分程度）。復習：授業で得た知見をもとに、自身の考えの変容や新たな気づきを省察し、レポートとして言語化する。また、必要に応じて関連資料の再確認や追加調査を行う（120分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー 1（対人関係能力および自己調整力）および 2（専門的知識・技能の基盤形成）に資する科目である。特に、協働的学習や省察活動を通して、他者と協働しながら課題を達成する力を育成するとともに、将来の専門的学修およびキャリア形成に必要な基盤的能力の獲得を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取組姿勢・受講態度（30%）：出席状況に加え、授業中の発言、グループ活動への貢献度、主体的な参加態度を総合的に評価する。レポート課題（50%）：各回の省察レポートおよび課題レポートについて、内容の深さ、論理性、自己の経験との関連づけ、表現の適切さを基準に評価する。基礎学力課題（20%）：指定された教材への取組状況および達成度に基づき評価する。また、提出課題に対してはコメント等によるフィードバックを行い、学習の改善につなげる。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：年間のスケジュールと目標理解	年間の学習内容と到達目標を理解し、自身のキャリア形成における本授業の位置づけを説明できるようにする。また、1年間の学習計画を立案する。
2	学科長講話	学科長による講話を通して、大学2年次における学びの位置づけとキャリア形成のプロセスについて理解を深める。あわせて、自身のこれまでの学生生活を振り返り、今後の学修および行動の指針を言語化し、説明できるようにする。
3	アカデミックライティング① 卒業研究とは？	卒業論文およびゼミ論文の意義と基本的な構造について理解する。さらに、研究活動に必要な基礎的視点（問いの設定・情報収集・論理的記述）について学び、今後の学修に向けて必要な準備内容を具体的に説明できるようにする。
4	アカデミックライティング②（オンデマンド課題）	提示されたオンデマンド課題に取り組むことで、アカデミックライティングの基礎（構成・表現・引用の基本）を実践的に理解する。課題を通して、自身の文章表現の課題を把握し、改善点を具体的に言語化できるようにする。

5	学長講話	学長講話を通して、本学の理念や求められる学生像について理解を深める。これまでの1年半の成長を振り返りながら、自身の行動や態度を見直し、今後どのような学生として成長していくかを具体的に構想し、説明できるようにする。
6	アカデミックライティング③	卒業研究に向けた基礎的知識（テーマ設定、資料収集方法等）について理解を深める。さらに、自身の関心分野をもとに、今後探究していきたいテーマの方向性を検討し、その理由を含めて説明できるようにする。
7	アカデミックライティング④実践	実際に短い文章作成に取り組むことで、論理的な構成や根拠に基づく記述の方法を実践的に学ぶ。作成した文章を振り返り、論理性や説得力の観点から改善点を見出し、修正方針を示すことができるようにする。
8	キャリアセンター講話（就職活動とは）	就職活動の全体像やスケジュール、求められる準備について理解する。あわせて、自身の職業観や価値観を整理し、キャリア形成に向けて現時点で取り組むべき行動を具体的に挙げ、説明できるようにする。
9	ビジネス講話①	実社会で活躍するビジネスパーソン講話を通して、仕事の実態や求められる能力について理解を深める。講話内容をもとに、自身のキャリア観との共通点や相違点を整理し、今後の行動にどのように活かすかを考察できるようにする。
10	スポーツ交流会・国際交流活動	スポーツや交流活動を通して、多様な背景をもつ他者との関係構築の重要性を体験的に理解する。活動を振り返り、チームビルディングのプロセスやコミュニケーションの工夫について整理し、より良い協働の在り方について説明できるようにする。
11	アカデミックライティング⑤	卒業研究に必要な知識（文献の扱い方、論拠の示し方等）について理解を深める。あわせて、他者の文章や資料を適切に活用する方法を学び、自身の文章にどのように反映させるかを説明できるようにする。
12	アカデミックライティング⑥実践	実践的なライティング課題に取り組み、情報を整理し論理的に記述する力を養う。作成した文章について自己評価および相互評価を行い、客観的視点から改善点を見出すことができるようにする。
13	My favorite book（私の好きな本）	自身が選んだ書籍について内容を整理し、感想や考察を文章としてまとめることで、読解力および表現力を高める。また、読書経験を通して得られた気づきを他者と共有し、多様な価値観や視点に触れることで理解を深める。
14	前期振り返りと夏季休暇の有意義な過ごし方	第1クオーターおよび第2クオーターの学びを振り返り、自身の成長や課題を省察する。あわせて、夏季休暇期間における目標と具体的な行動計画を立案し、今後の学修およびキャリア形成に向けた見通しを明確にする。
15	後期オリエンテーション	後期の授業内容および到達目標を理解し、前期の学びを踏まえて自己の課題を整理する。あわせて、後期における学修目標と具体的な行動計画を設定し、主体的な学びに向けた見通しを説明できるようにする。
16	ビジネス講話②	ビジネスパーソン講話を通して、社会における課題や仕事の意義について多角的に理解する。講話内容を踏まえ、自身のキャリア観との関連を整理し、今後身につけるべき能力や行動について具体的に説明できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	スポーツ活動を通して、健康の保持増進および集団における協働の意義を体験的に理解する。活動後には、チームでの役割やコミュニケーションの在り方を振り返り、より良い人間関係の構築に向けた課題と改善策を言語化できるようにする。
18	アカデミックライティング⑦	卒業研究に向けた知識の定着を図るとともに、論理的な文章構成や根拠の示し方について理解を深める。自身の関心テーマに基づき、簡易的な論述構成を作成し、その妥当性を説明できるようにする。
19	マイナビ マッチプラスプレゼンテーションコンテスト①準備	就職支援ツール等を活用しながら自己分析を行い、自身の強みや価値観を整理する。あわせて、プレゼンテーションコンテストの趣旨および評価観点を理解し、効果的なプレゼンテーションに必要な要素（構成・表現・資料作成等）を説明できるようにする。
20	プレゼンテーションコンテスト②準備	プレゼンテーションのテーマ設定および構成の検討を行い、伝えたい内容を論理的に整理する。グループ内での意見交換を通して内容をブラッシュアップし、より説得力のある構成へと改善できるようにする。
21	プレゼンテーションコンテスト③準備	発表資料の作成および発表練習を通して、視覚的に分かりやすい資料作成と効果的な伝達方法について実践的に学ぶ。相互評価を行い、改善点を明確にしたうえで発表内容を修正できるようにする。
22	アカデミックライティング⑧	これまでのライティング学習を統合し、論理的かつ説得力のある文章作成の力を定着させる。自身の考えを根拠に基づいて記述し、その妥当性や課題について省察できるようにする。
23	プレゼンテーションコンテスト(学科決勝大会)	これまで準備してきた内容をもとにプレゼンテーションを実施し、自己の考えを他者に対して分かりやすく伝達する。発表後には他者の発表を踏まえて自己の成果と課題を省察し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	卒業生講話①	卒業生の経験談を通して、学生生活とキャリア選択の関連について具体的に理解する。講話内容をもとに、自身の将来像や今後の行動について再考し、必要な準備や取り組みを説明できるようにする。
25	ゼミ選択①準備	ゼミでの学びの意義や特徴について理解し、各ゼミの内容や専門分野について情報収集を行う。自身の関心や将来の進路を踏まえ、適切なゼミ選択の基準を整理し、

		説明できるようにする。
26	人権講話	人権に関する基本的な考え方や現代社会における課題について理解を深める。講話内容を踏まえ、他者の多様性を尊重する態度の重要性について考察し、自身の行動としてどのように実践するかを具体的に説明できるようにする。
27	卒業生講話②	異なる進路を歩んだ卒業生の講話を通して、多様なキャリア形成の在り方を理解する。複数の事例を比較しながら、自身の価値観や進路選択にどのような影響を与えたかを省察し、今後の行動指針として整理できるようにする。
28	後期振り返りと学年末の総括	1年間の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を多面的に省察する。あわせて、次年度に向けた目標と具体的な行動計画を立案し、キャリア形成の観点から継続的な成長の見通しを説明できるようにする。
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	高橋 章二／濱嶋 幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講話についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 70%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	3年生受験に向けて	教員採用試験にチャレンジ
2	クラスづくり（基礎ゼミと関連）	・グループ内自己紹介及びグループ目標との発表
3	個別面談2	学生とのコミュニケーションを図り、新2年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。また、環トレ進捗状況についても確認を行う。
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	自分の将来の夢	PowerPointにまとめた資料を使って自分の夢についてプレゼンを行う。
6	個別面談4	環トレ進捗状況の確認
7	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園オリエンテーション
8	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園グループ協議
9	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園研修
10	人権研修	沢知恵さんを招聘しての人権講話
11	教師の魅力語る	教職支援室の先生方が語る教師の魅力
12	コースガイダンス	初等・中等・教育社会学コース、コース長からのコース説明と求める学生
13	MATCHplus（予定）	MATCHplusの実施
14	授業なし	
15	面談5	前期目標の総括と後期目標の修正・追加 個別面談 夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況

16	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える 環太祭準備
17	人権研修（子ども発達学科合同）	人権研修 研修テーマ未定
18	3志会について（教員・公務員・企業）	夢実現のための場としての3志会について（教員・公務員・企業）について知る。
19	個別面談 6	環トレ進捗状況の確認・助言
20	3年生受験について	岡山県教育委員会教職員課による講話
21	校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	3年生受験対策	3年生受験対策 教職支援室 教員採用試験 3年生受験合格者からの合格体験談を聞く
24	4年生受験対策について	4年生受験対策 教職支援室 4年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	個別面談 7	環トレ進捗状況の確認・助言
26	文書力検定（未）	文書力検定受験
27	授業なし	
28	授業なし	
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	三堀 仁／中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講話についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 70%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	3年生受験に向けて	教員採用試験にチャレンジ
2	クラスづくり（基礎ゼミと関連）	・グループ内自己紹介及びグループ目標との発表
3	個別面談2	学生とのコミュニケーションを図り、新2年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。また、環トレ進捗状況についても確認を行う。
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	自分の将来の夢	PowerPointにまとめた資料を使って自分の夢についてプレゼンを行う。
6	個別面談4	環トレ進捗状況の確認
7	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園オリエンテーション
8	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園グループ協議
9	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園研修
10	人権研修	沢知恵さんを招聘しての人権講話
11	教師の魅力語る	教職支援室の先生方が語る教師の魅力
12	コースガイダンス	初等・中等・教育社会学コース、コース長からのコース説明と求める学生
13	MATCHplus（予定）	MATCHplusの実施
14	授業なし	
15	面談5	前期目標の総括と後期目標の修正・追加 個別面談 夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況

16	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える 環太祭準備
17	人権研修（子ども発達学科合同）	人権研修 研修テーマ未定
18	3志会について（教員・公務員・企業）	夢実現のための場としての3志会について（教員・公務員・企業）について知る。
19	個別面談6	環トレ進捗状況の確認・助言
20	3年生受験について	岡山県教育委員会教職員課による講話
21	校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	3年生受験対策	3年生受験対策 教職支援室 教員採用試験3年生受験合格者からの合格体験談を聞く
24	4年生受験対策について	4年生受験対策 教職支援室 4年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	個別面談7	環トレ進捗状況の確認・助言
26	文書力検定（未）	文書力検定受験
27	授業なし	
28	授業なし	
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	伊藤 仁美／西田 修斗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講話についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 70%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	3年生受験に向けて	教員採用試験にチャレンジ
2	クラスづくり（基礎ゼミと関連）	・グループ内自己紹介及びグループ目標との発表
3	個別面談2	学生とのコミュニケーションを図り、新2年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。また、環トレ進捗状況についても確認を行う。
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	自分の将来の夢	PowerPointにまとめた資料を使って自分の夢についてプレゼンを行う。
6	個別面談4	環トレ進捗状況の確認
7	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園オリエンテーション
8	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園グループ協議
9	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園研修
10	人権研修	沢知恵さんを招聘しての人権講話
11	教師の魅力語る	教職支援室の先生方が語る教師の魅力
12	コースガイダンス	初等・中等・教育社会学コース、コース長からのコース説明と求める学生
13	MATCHplus（予定）	MATCHplusの実施
14	授業なし	
15	面談5	前期目標の総括と後期目標の修正・追加 個別面談 夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況

16	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える 環太祭準備
17	人権研修（子ども発達学科合同）	人権研修 研修テーマ未定
18	3志会について（教員・公務員・企業）	夢実現のための場としての3志会について（教員・公務員・企業）について知る。
19	個別面談 6	環トレ進捗状況の確認・助言
20	3年生受験について	岡山県教育委員会教職員課による講話
21	校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	3年生受験対策	3年生受験対策 教職支援室 教員採用試験 3年生受験合格者からの合格体験談を聞く
24	4年生受験対策について	4年生受験対策 教職支援室 4年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	個別面談 7	環トレ進捗状況の確認・助言
26	文書力検定（未）	文書力検定受験
27	授業なし	
28	授業なし	
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	大久保 諒／鈺 悠介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。また、夢実現のために必要な基礎学力を確実に身に付けさせていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

テーマに基づく授業回においては、少人数でのグループディスカッションをして発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講話についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 70%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	3年生受験に向けて	教員採用試験にチャレンジ
2	クラスづくり（基礎ゼミと関連）	・グループ内自己紹介及びグループ目標との発表
3	個別面談2	学生とのコミュニケーションを図り、新2年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。また、環トレ進捗状況についても確認を行う。
4	自分の将来について（オンデマンド）	自分の進めべき進路についておよびそれに必要な力の確認
5	自分の将来の夢	PowerPointにまとめた資料を使って自分の夢についてプレゼンを行う。
6	個別面談4	環トレ進捗状況の確認
7	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園オリエンテーション
8	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園グループ協議
9	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	長島愛生園研修
10	人権研修	沢知恵さんを招聘しての人権講話
11	教師の魅力語る	教職支援室の先生方が語る教師の魅力
12	コースガイダンス	初等・中等・教育社会学コース、コース長からのコース説明と求める学生
13	MATCHplus（予定）	MATCHplusの実施
14	授業なし	
15	面談5	前期目標の総括と後期目標の修正・追加 個別面談 夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況

16	*教育課題探求 基礎ゼミと関連	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える 環太祭準備
17	人権研修（子ども発達学科合同）	人権研修 研修テーマ未定
18	3志会について（教員・公務員・企業）	夢実現のための場としての3志会について（教員・公務員・企業）について知る。
19	個別面談 6	環トレ進捗状況の確認・助言
20	3年生受験について	岡山県教育委員会教職員課による講話
21	校現場体験①	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
22	学校現場体験②	基礎ゼミと関連させ、江西小学校での授業参観
23	3年生受験対策	3年生受験対策 教職支援室 教員採用試験 3年生受験合格者からの合格体験談を聞く
24	4年生受験対策について	4年生受験対策 教職支援室 4年生受験合格者体験から受験対策の方法を学ぶ
25	個別面談 7	環トレ進捗状況の確認・助言
26	文書力検定（未）	文書力検定受験
27	授業なし	
28	授業なし	
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	田中 耕作			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力および認知能力を高め、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の進路を適切に判断できる力を身につける。1年次に培った基礎的な力を発展させ、実践的な学びを通じて主体的に行動し、応用できる力を身につけることを目標とする。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につけている。① 講義内容や資料を正確に読み取り、要点を整理して説明できる。② 他者の意見を傾聴し、自身の考えを論理的に文章として表現できる。③ 自己の経験や考えをもとに、説得力のあるスピーチやプレゼンテーションができる

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%, 課題レポート（課題、発表）40%

<教科書>

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門 河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミュニティの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動

16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後期学期末集会
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力および認知能力を高め、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の進路を適切に判断できる力を身につける。1年次に培った基礎的な力を発展させ、実践的な学びを通じて主体的に行動し、応用できる力を身につけることを目標とする。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につけている。① 講義内容や資料を正確に読み取り、要点を整理して説明できる。② 他者の意見を傾聴し、自身の考えを論理的に文章として表現できる。③ 自己の経験や考えをもとに、説得力のあるスピーチやプレゼンテーションができる

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%, 課題レポート（課題、発表）40%

<教科書>

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門 河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミュニティの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動

16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後期学期末集会
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力および認知能力のさらなる向上を目的とし、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定を支える力を養う。1年次に培った基礎的な力を発展させ、より実践的な学びを通じて主体性と応用力を高めることを目指す。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につける。① より高度な読解力や傾聴力、論理的思考を伴う書く力の向上。② 自己表現力を高め、説得力を持ったスピーチやプレゼンテーション能力の強化。③ 学生生活や学習習慣、キャリア設計を見据えた自己管理・時間管理能力の向上。④

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%, 課題レポート（課題、発表）40%

<教科書>

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門 河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミュニティの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動

16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後期学期末集会
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力および認知能力を高め、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の進路を適切に判断できる力を身につける。1年次に培った基礎的な力を発展させ、実践的な学びを通じて主体的に行動し、応用できる力を身につけることを目標とする。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につけている。① 講義内容や資料を正確に読み取り、要点を整理して説明できる。② 他者の意見を傾聴し、自身の考えを論理的に文章として表現できる。③ 自己の経験や考えをもとに、説得力のあるスピーチやプレゼンテーションができる

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%, 課題レポート（課題、発表）40%

<教科書>

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門 河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミュニティの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動

16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後期学期末集会
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力および認知能力を高め、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の進路を適切に判断できる力を身につける。1年次に培った基礎的な力を発展させ、実践的な学びを通じて主体的に行動し、応用できる力を身につけることを目標とする。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につけている。① 講義内容や資料を正確に読み取り、要点を整理して説明できる。② 他者の意見を傾聴し、自身の考えを論理的に文章として表現できる。③ 自己の経験や考えをもとに、説得力のあるスピーチやプレゼンテーションができる

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%, 課題レポート（課題、発表）40%

<教科書>

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門 河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミュニティの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動

16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後期学期末集会
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	金谷 和幸			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学生活の2年目は、1年次に身につけた基礎をさらに発展させ、より専門的な学びや社会との関わりを深める重要な時期である。本授業では、社会人基礎力をさらに高めることを目的とし、自己理解を深めながら主体的に行動できる力を養成する。大学生として求められる姿勢や態度を再確認し、専門的な学びや課外活動を通じて自己成長を促す。また、社会との接点を増やし、将来のキャリアや進路選択について具体的に考える機会を提供する。講話形式を基本としながら、グループワークやディスカッションを取り入れ、より実践的な学びを展開する。IPU生としての資質をさらに磨き、自信を持って社会へ踏み出せるよう、主体的な学びの姿勢を確立することを目指す。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力および認知能力を高め、2年次のキャリアディベロップメントにおいて自身の進路を適切に判断できる力を身につける。1年次に培った基礎的な力を発展させ、実践的な学びを通じて主体的に行動し、応用できる力を身につけることを目標とする。毎時の講話や実践的な活動を通して、以下の力を身につけている。① 講義内容や資料を正確に読み取り、要点を整理して説明できる。② 他者の意見を傾聴し、自身の考えを論理的に文章として表現できる。③ 自己の経験や考えをもとに、説得力のあるスピーチやプレゼンテーションができる

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有りグループディスカッション、プレゼンテーション、ディベート、リフレクション（振り返り）シートの活用などを実施する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）60%, 課題レポート（課題、発表）40%

<教科書>

運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門 河合塾グループ株式会社KEIアドバンス

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	IPU生になる基礎基本①（挨拶・態度等）	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	資格取得に向けた対策①	自身が取得できる資格について考える
3	資格取得に向けた対策②	自身が取得できる資格について調査し、他の学生とディスカッションを行う
4	環トレ_日本語の基本ルールを復習する①	運動部学生のためのスポーツ探究ことば入門を用いて日本語の基本的なルールを復習する
5	基礎学力	個人面談・ことば入門：1
6	日誌の書き方	日本語の基本的なルールを理解した上で日誌の書き方について学ぶ
7	コミュニティの形成	クラス間交流
8	基礎学力	個人面談・ことば入門：2
9	基礎学力	個人面談・ことば入門：3
10	クラス活動	個人面談
11	自己形成	自身の目標設定アクションプランをたてる
12	自己形成②	自身の目標設定アクションプランを発表する。
13	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する
14	環トレ_前期末テスト	環トレで学んだことの前期末テストを実施する
15	オリエンテーション	履修登録 クラス活動

16	クラス活動	クラス内交流を実施する
17	基礎学力	ことば入門：4
18	選択学習①	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
19	選択学習②	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
20	選択学習③	基礎学力 or サイエнтиスト or 資格に向けての学習
21	基礎学力	ことば入門：5
22	基礎学力	ことば入門：6
23	プレゼンコンテスト①	プレゼンコンテストのクラス内発表
24	プレゼンコンテスト②	プレゼンコンテストのクラス内発表
25	ゼミ決定に向けて	ゼミ決定に向けて考える
26	キャリア講話	公務員 or 教員
27	環トレ_後期末テスト	環トレで学んだことの後期末テストを実施する
28	振り返り	後期学期末集会
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間性を有することができる ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付けることができる ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付けることができる ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付けることができる

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通じた関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案(2年生主体運営)、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認

19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①
21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・強み・興味関心を整理し、言語化できる。2. 社会・職業に関する情報を収集し、自身の進路と関連付けて説明できる。3. 自分の考えや経験をプレゼンテーションや文章で表現できる。4. エントリーシート・履歴書作成や面接に向けた基礎的準備ができる。5. 将来のキャリア目標を設定し、具体的な行動計画を立てることができる。

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通じた関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案(2年生主体運営)、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①

21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	藤谷 かおる			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・強み・興味関心を整理し、言語化できる。2. 社会・職業に関する情報を収集し、自身の進路と関連付けて説明できる。3. 自分の考えや経験をプレゼンテーションや文章で表現できる。4. エントリーシート・履歴書作成や面接に向けた基礎的準備ができる。5. 将来のキャリア目標を設定し、具体的な行動計画を立てることができる。

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通じた関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案(2年生主体運営)、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案及び順位
13	イベント企画②	前期活動の総括と成果の整理
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①

21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	内容 プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション(コミュニティの形成)	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析(強み・価値観)および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習① 企画	企画立案と役割分担の決定・デモンストラーション作成
7	project型学習② リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③ 実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④ 実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤ 実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り

19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	1年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	1年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	1年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間性を有することができる ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付けることができる ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付けることができる ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付けることができる

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通じた関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案(2年生主体運営)、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認

19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①
21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通じた関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案(2年生主体運営)、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整

20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①
21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	坂元 智子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性:「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力:「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び:学部・学科における学びの基礎力の育成 4キャリア形成:明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有:テーマに応じて、ディスカッションを行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習:毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度)テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度)復習:演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通じた関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案(2年生主体運営)、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①

21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	十河 直太			
配当年次	カリキュ ムにより異 なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通じた関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案(2年生主体運営)、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。
18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整

20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①
21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	早田 剛			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：自らの意志で考え行動する自立性と自己を律する自律性を備え、他者への思いやりと高い倫理観・責任感を持って社会に貢献できる人間性を養うことができる。②社会人基礎力：目標に向かって自ら踏み出すアクション力、他者と良好な関係を築くコミュニケーション力、そして組織に貢献するチームワーク力を実務レベルで発揮できる。③大学における学び：学部・学科における専門的な学びを社会での実践に結びつけ、学問を深めるために必要な基礎的な学習能力を自発的に向上させることができる。④キャリア形成：自己理解と社会情勢の把握を通じ

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：テーマに応じて、ディスカッションを行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)とディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)に関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	2年生における学びのデザイン	2年生における学びの全体設計の理解
2	学年方針の理解・チームビルディング	IPU2年生としての心構えの理解、担当イベント説明
3	クラス内交流	クラス内交流を通じた関係構築およびチームビルディング
4	個別学習課題	環境トレ及び五訓評価の実施
5	プロジェクト計画①	レクリエーション企画立案(2年生主体運営)、グループ編成および役割分担
6	プロジェクト計画②	レクリエーション実施に向けた準備およびリハーサル
7	プロジェクト実践①と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
8	プロジェクト実践②と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
9	プロジェクト実践③と講話	レクリエーション実施、進路実現活動
10	企画発表①	イベントコンセプト発表①
11	企画発表②	イベントコンセプト発表②
12	イベント企画①	イベントに向けた企画立案および準備
13	イベント企画②	イベントの具体的計画および役割分担
14	前期末集会・振り返り	前期活動の総括と成果の整理
15	後期目標設定	前期の振り返りから目標を設定する
16	イベント準備①	外部イベント活動に向けた準備
17	イベント準備②	外部イベント活動の企画精緻化および運営体制の構築。

18	イベント準備③	外部イベント活動の実施準備および最終確認
19	イベント準備④	外部イベント活動に向けた最終調整
20	実践活動①	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り①
21	実践活動②	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り②
22	実践活動③	スポレクフェスへの参加とイベント振り返り③
23	講話	人権・キャリア等に関する講話と省察
24	プレゼン準備	プレゼンコンテストに向けた発表準備
25	プレゼン実施①	クラス内発表の実施および代表者選出
26	プレゼン実施②	クラス間発表および相互評価
27	キャリア形成	ゼミ決定に向けた情報収集およびゼミ訪問
28	総括	年間振り返り
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	河野 儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。また、健康科学科では①スポーツに精通した柔道整復師としての基礎力を身につける。②前進力（積極性）を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

編著者 一般社団法人日本スポーツ検定機構2020年7月14日 スポーツ医学検定 公式テキスト 2級・3級改訂版 出版社 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	クラス紹介2年生前期時点でのキャリアについてキャリア形成に向けた自己分析①	・クラス内での自己紹介・前期授業内容の理解・自身のキャリアについて
2	IPU2年生としての心構え（柔道整復師を目指す学生への心構え）柔道整復師国家資格とスポーツ医学検定2級ガイダンス	・柔道整復師国家資格について・スポーツ医学検定2級について
3	柔道整復学の復習①	・柔道整復学（理論編）を参照して柔道整復学の全体像について調べる
4	柔道整復学の復習②	・柔道整復術および柔道整復師の沿革について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
5	大学役職者講話	・柔道整復師を目指す医療系学生のキャリアについて
6	柔道整復学の復習③	・人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
7	柔道整復学の復習④	・各組織の損傷（骨の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを

8	大学役職者講和	通して発表する
9	柔道整復学の復習⑤	・大学卒柔道整復師の役割について
10	柔道整復学の復習⑥	・各組織の損傷（関節の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
11	柔道整復学の復習⑦	・各組織の損傷（筋の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
12	柔道整復学の復習⑧	・各組織の損傷（腱の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
13	読書感想文コンテスト対策①	・診察の注意点などについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
14	読書感想文コンテスト対策②	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらうため図書館を利用し本に触れると同時に自身の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う
15	前期振り返り文章力検定模擬試験	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらう活動として読書感想文コンテストを実施している。読書感想文を作成し自分の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う。
16	後期ガイダンス2年生後期時点でのキャリアについて学びデザインするキャリア形成に向けた自己分析③	・前期に実施した内容の確認・キャリア形成に向けた自己分析②
17	スポーツ医学検定2級対策①	・後期授業内容の理解・自身のキャリアについて考える
18	中山芳一先生講和①	・スポーツの知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
19	スポーツ医学検定2級対策②	・社会人になった自分を描く
20	スポーツ医学検定2級対策③	・身体への知識（運動器の基礎知識、全身の基礎知識、骨の基礎知識、筋肉の基礎知識）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
21	スポーツ医学検定2級対策④	・スポーツのケガ・故障の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
22	スポーツ医学検定2級対策⑤	・アスレティックリハビリテーションについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
23	人権講和	・スポーツ医学全般の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
24	スポーツ医学検定2級検定試験	・人権について講和を聞きグループディスカッションを通して発表する。
25	文章力検定対策①	・スポーツ医学検定2級試験実施
26	文章力検定対策②	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
27	文章力検定対策③	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
28	文章力検定試験	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力が身についたか評価する
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。また、健康科学科では①スポーツに精通した柔道整復師としての基礎力を身につける。②前進力（積極性）を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

編著者 一般社団法人日本スポーツ検定機構2020年7月14日 スポーツ医学検定 公式テキスト 2級・3級改訂版 出版社 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	クラス紹介2年生前期時点でのキャリアについてキャリア形成に向けた自己分析①	・クラス内での自己紹介・前期授業内容の理解・自身のキャリアについて
2	IPU2年生としての心構え（柔道整復師を目指す学生への心構え）柔道整復師国家資格とスポーツ医学検定2級ガイダンス	・柔道整復師国家資格について・スポーツ医学検定2級について
3	柔道整復学の復習①	・柔道整復学（理論編）を参照して柔道整復学の全体像について調べる
4	柔道整復学の復習②	・柔道整復術および柔道整復師の沿革について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
5	大学役職者講話	・柔道整復師を目指す医療系学生のキャリアについて
6	柔道整復学の復習③	・人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
7	柔道整復学の復習④	・各組織の損傷（骨の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを

8	大学役職者講和	通して発表する
9	柔道整復学の復習⑤	・大学卒柔道整復師の役割について
10	柔道整復学の復習⑥	・各組織の損傷（関節の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
11	柔道整復学の復習⑦	・各組織の損傷（筋の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
12	柔道整復学の復習⑧	・各組織の損傷（腱の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
13	読書感想文コンテスト対策①	・診察の注意点などについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
14	読書感想文コンテスト対策②	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらうため図書館を利用し本に触れると同時に自身の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う
15	前期振り返り文章力検定模擬試験	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらう活動として読書感想文コンテストを実施している。読書感想文を作成し自分の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う。
16	後期ガイダンス2年生後期時点でのキャリアについて学びデザインするキャリア形成に向けた自己分析③	・前期に実施した内容の確認・キャリア形成に向けた自己分析②
17	スポーツ医学検定2級対策①	・後期授業内容の理解・自身のキャリアについて考える
18	中山芳一先生講和①	・スポーツの知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
19	スポーツ医学検定2級対策②	・社会人になった自分を描く
20	スポーツ医学検定2級対策③	・身体への知識（運動器の基礎知識、全身の基礎知識、骨の基礎知識、筋肉の基礎知識）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
21	スポーツ医学検定2級対策④	・スポーツのケガ・故障の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
22	スポーツ医学検定2級対策⑤	・アスレティックリハビリテーションについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
23	人権講和	・スポーツ医学全般の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
24	スポーツ医学検定2級検定試験	・人権について講和を聞きグループディスカッションを通して発表する。
25	文章力検定対策①	・スポーツ医学検定2級試験実施
26	文章力検定対策②	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
27	文章力検定対策③	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
28	文章力検定試験	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力が身についたか評価する
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。また、健康科学科では①スポーツに精通した柔道整復師としての基礎力を身につける。②前進力（積極性）を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

編著者 一般社団法人日本スポーツ検定機構2020年7月14日 スポーツ医学検定 公式テキスト 2級・3級改訂版 出版社 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	クラス紹介2年生前期時点でのキャリアについてキャリア形成に向けた自己分析①	・クラス内での自己紹介・前期授業内容の理解・自身のキャリアについて
2	IPU2年生としての心構え（柔道整復師を目指す学生への心構え）柔道整復師国家資格とスポーツ医学検定2級ガイダンス	・柔道整復師国家資格について・スポーツ医学検定2級について
3	柔道整復学の復習①	・柔道整復学（理論編）を参照して柔道整復学の全体像について調べる
4	柔道整復学の復習②	・柔道整復術および柔道整復師の沿革について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
5	大学役職者講話	・柔道整復師を目指す医療系学生のキャリアについて
6	柔道整復学の復習③	・人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
7	柔道整復学の復習④	・各組織の損傷（骨の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを

8	大学役職者講和	通して発表する
9	柔道整復学の復習⑤	・大学卒柔道整復師の役割について
10	柔道整復学の復習⑥	・各組織の損傷（関節の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
11	柔道整復学の復習⑦	・各組織の損傷（筋の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
12	柔道整復学の復習⑧	・各組織の損傷（腱の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
13	読書感想文コンテスト対策①	・診察の注意点などについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
14	読書感想文コンテスト対策②	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらうため図書館を利用し本に触れると同時に自身の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う
15	前期振り返り文章力検定模擬試験	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらう活動として読書感想文コンテストを実施している。読書感想文を作成し自分の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う。
16	後期ガイダンス2年生後期時点でのキャリアについて学びデザインするキャリア形成に向けた自己分析③	・前期に実施した内容の確認・キャリア形成に向けた自己分析②
17	スポーツ医学検定2級対策①	・後期授業内容の理解・自身のキャリアについて考える
18	中山芳一先生講和①	・スポーツの知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
19	スポーツ医学検定2級対策②	・社会人になった自分を描く
20	スポーツ医学検定2級対策③	・身体への知識（運動器の基礎知識、全身の基礎知識、骨の基礎知識、筋肉の基礎知識）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
21	スポーツ医学検定2級対策④	・スポーツのケガ・故障の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
22	スポーツ医学検定2級対策⑤	・アスレティックリハビリテーションについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
23	人権講和	・スポーツ医学全般の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
24	スポーツ医学検定2級検定試験	・人権について講和を聞きグループディスカッションを通して発表する。
25	文章力検定対策①	・スポーツ医学検定2級試験実施
26	文章力検定対策②	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
27	文章力検定対策③	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
28	文章力検定試験	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけたか評価する
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント [PH再履修者用]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。 また、健康科学科では①スポーツに精通した柔道整復師としての基礎力を身につける。②前進力（積極性）を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

編著者 一般社団法人日本スポーツ検定機構2020年7月14日 スポーツ医学検定 公式テキスト 2級・3級改訂版 出版社 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	クラス紹介2年生前期時点でのキャリアについてキャリア形成に向けた自己分析①	・クラス内での自己紹介・前期授業内容の理解・自身のキャリアについて
2	IPU2年生としての心構え（柔道整復師を目指す学生への心構え）柔道整復師国家資格とスポーツ医学検定2級ガイダンス	・柔道整復師国家資格について・スポーツ医学検定2級について
3	柔道整復学の復習①	・柔道整復学（理論編）を参照して柔道整復学の全体像について調べる
4	柔道整復学の復習②	・柔道整復術および柔道整復師の沿革について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
5	大学役職者講話	・柔道整復師を目指す医療系学生のキャリアについて
6	柔道整復学の復習③	・人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
7	柔道整復学の復習④	・各組織の損傷（骨の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを

8	大学役職者講和	通して発表する
9	柔道整復学の復習⑤	・大学卒柔道整復師の役割について
10	柔道整復学の復習⑥	・各組織の損傷（関節の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
11	柔道整復学の復習⑦	・各組織の損傷（筋の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
12	柔道整復学の復習⑧	・各組織の損傷（腱の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
13	読書感想文コンテスト対策①	・診察の注意点などについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
14	読書感想文コンテスト対策②	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらうため図書館を利用し本に触れると同時に自身の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う
15	前期振り返り文章力検定模擬試験	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらう活動として読書感想文コンテストを実施している。読書感想文を作成し自分の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う。
16	後期ガイダンス2年生後期時点でのキャリアについて学びデザインするキャリア形成に向けた自己分析③	・前期に実施した内容の確認・キャリア形成に向けた自己分析②
17	スポーツ医学検定2級対策①	・後期授業内容の理解・自身のキャリアについて考える
18	中山芳一先生講和①	・スポーツの知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
19	スポーツ医学検定2級対策②	・社会人になった自分を描く
20	スポーツ医学検定2級対策③	・身体への知識（運動器の基礎知識、全身の基礎知識、骨の基礎知識、筋肉の基礎知識）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
21	スポーツ医学検定2級対策④	・スポーツのケガ・故障の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
22	スポーツ医学検定2級対策⑤	・アスレティックリハビリテーションについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
23	人権講和	・スポーツ医学全般の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
24	スポーツ医学検定2級検定試験	・人権について講和を聞きグループディスカッションを通して発表する。
25	文章力検定対策①	・スポーツ医学検定2級試験実施
26	文章力検定対策②	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
27	文章力検定対策③	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
28	文章力検定試験	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力が身についたか評価する
29		
30		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント [再履修]PH用				担当者名	古山 喜一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「働くこと」は、生活の安定や社会貢献など、豊かで人間らしい生活を送る上で大変重要な意義をもつ。本授業では、社会人として社会の中でどう生きていくのかを考えながら、求められるスキルについて分析し、そのスキルを身につけていく。さらに、共に設定したテーマや課題に対して、仲間と共にチームで協力・協働することを通して、社会人基礎力となる主体性・コミュニケーション力・応用力の育成を目指す。またデジタルツールを使用し、その工夫した活用に努める。そして、専門職・企業人・およびゲストスピーカーによる「働くこと」の意味、仕事の適正、求められる能力などの講話を受けることによって、社会人として必要な実践力を向上させていく。

<授業の到達目標>

1. 自己の資質・能力を把握したり、職業適性を理解したりして、職業選択の見通しをもつことができる。2. 毎回の演習や講話に主体的に参加し、テーマについての学びと自己の考えについて適切かつ的確に言語化したり、デジタルツールを活用し、意見交換ができる。3. 実践の場を通して、社会人として必要な実践力を向上させる。 また、健康科学科では①スポーツに精通した柔道整復師としての基礎力を身につける。②前進力（積極性）を身につける。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション

<授業の方法>

1. 講義（ゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション発表3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）3. 課題（基礎学力教材に取り組む）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で講話に臨む。（毎回30分程度）復習：講義・演習終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートや提示された課題を作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%レポート課題 50%基礎学力課題 20%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表・提出をすること。

<教科書>

<参考書>

吉原恵子他 スタディスキルズ・トレーニング 実務出版

編著者 一般社団法人日本スポーツ検定機構2020年7月14日 スポーツ医学検定 公式テキスト 2級・3級改訂版 出版社 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	クラス紹介2年生前期時点でのキャリアについてキャリア形成に向けた自己分析①	・クラス内での自己紹介・前期授業内容の理解・自身のキャリアについて
2	IPU2年生としての心構え（柔道整復師を目指す学生への心構え）柔道整復師国家資格とスポーツ医学検定2級ガイダンス	・柔道整復師国家資格について・スポーツ医学検定2級について
3	柔道整復学の復習①	・柔道整復学（理論編）を参照して柔道整復学の全体像について調べる
4	柔道整復学の復習②	・柔道整復術および柔道整復師の沿革について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
5	大学役職者講話	・柔道整復師を目指す医療系学生のキャリアについて
6	柔道整復学の復習③	・人体に加わる力、損傷時に加わる力、痛みの基礎について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
7	柔道整復学の復習④	・各組織の損傷（骨の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを

8	大学役職者講和	通して発表する
9	柔道整復学の復習⑤	・大学卒柔道整復師の役割について
10	柔道整復学の復習⑥	・各組織の損傷（関節の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
11	柔道整復学の復習⑦	・各組織の損傷（筋の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
12	柔道整復学の復習⑧	・各組織の損傷（腱の損傷）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
13	読書感想文コンテスト対策①	・診察の注意点などについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
14	読書感想文コンテスト対策②	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらうため図書館を利用し本に触れると同時に自身の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う
15	前期振り返り文章力検定模擬試験	・近年、本離れ（活字離れ）が進んでおり本や活字の面白さを知ってもらう活動として読書感想文コンテストを実施している。読書感想文を作成し自分の意見を文字に起こす作業（文章力）を行う。
16	後期ガイダンス2年生後期時点でのキャリアについて学びデザインするキャリア形成に向けた自己分析③	・前期に実施した内容の確認・キャリア形成に向けた自己分析②
17	スポーツ医学検定2級対策①	・後期授業内容の理解・自身のキャリアについて考える
18	中山芳一先生講和①	・スポーツの知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
19	スポーツ医学検定2級対策②	・社会人になった自分を描く
20	スポーツ医学検定2級対策③	・身体への知識（運動器の基礎知識、全身の基礎知識、骨の基礎知識、筋肉の基礎知識）について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する
21	スポーツ医学検定2級対策④	・スポーツのケガ・故障の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
22	スポーツ医学検定2級対策⑤	・アスレティックリハビリテーションについて学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
23	人権講和	・スポーツ医学全般の知識について学び調べた内容をグループディスカッションを通して発表する。
24	スポーツ医学検定2級検定試験	・人権について講和を聞きグループディスカッションを通して発表する。
25	文章力検定対策①	・スポーツ医学検定2級試験実施
26	文章力検定対策②	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
27	文章力検定対策③	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につける
28	文章力検定試験	・実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力が身についたか評価する
29		
30		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [再履修]PH用[不開講]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。また、自身が目指す進路の社会的情勢を把握し、今求められる人材について把握する。そして社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、相手に伝える能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとりグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッションプレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：必要としない。復習：各種認定試験受験前には時間外復習を推奨する。試験1か月前、一日1時間程度が望ましい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は本学教養科目のディプロマポリシー（DP）のうち、DP1 体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP2 体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。に該当する科目であり、「豊かな人間性と個性」および「深い専門性と実践力」を養成することを目的としている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業出席10%授業態度90%授業態度は積極的な取り組みや課題提出、規範遵守の観点から総合的に判断する。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修登録確認	履修登録確認
2	個人面談1	個人面談1
3	個人面談2	個人面談2
4	熱中症アンバサダー	熱中症アンバサダー
5	運動器（骨・筋）学習①	運動器（骨・筋）学習①
6	運動器（骨・筋）学習②	運動器（骨・筋）学習②
7	運動器（骨・筋）学習③	運動器（骨・筋）学習③
8	運動器（骨・筋）学習④	運動器（骨・筋）学習④
9	運動器（骨・筋）学習⑤	運動器（骨・筋）学習⑤
10	運動器（骨・筋）学習⑥	運動器（骨・筋）学習⑥
11	スピーチコンテスト①	スピーチコンテスト①
12	スピーチコンテスト②	スピーチコンテスト②
13	スピーチコンテスト③	スピーチコンテスト③
14	五訓評価・運動器評価試験	五訓評価・運動器評価試験
15	履修訂正・後期ガイダンス	履修訂正・後期ガイダンス
16	個人面談	個人面談
17	MATCH+	MATCH+を用いたキャリア教育、自分を知る時間とする。
18	スポーツ医学検定勉強①	スポーツ医学検定勉強①
19	スポーツ医学検定勉強②	スポーツ医学検定勉強②
20	スポーツ医学検定勉強③	スポーツ医学検定勉強③
21	スポーツ医学検定勉強④	スポーツ医学検定勉強④
22	スポーツ医学検定勉強⑤	スポーツ医学検定勉強⑤
23	スポーツ医学検定勉強⑥	スポーツ医学検定勉強⑥

24	文章力検定対策1	文章力検定対策1
25	文章力検定対策2	文章力検定対策2
26	定期試験対策	定期試験対策
27	定期試験対策	定期試験対策
28	定期試験対策	定期試験対策
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	河野 儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（学科教員による講義，講話） 2. グループワーク、ディスカッション 3. 省察（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30％・課題70％

<教科書>

特になし 発行所：医歯薬出版株式会社

監修：公益社団法人全国柔道整復学校協会 2020年1月10日第2版第14刷発行 解剖学 改訂第2版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる1年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	役職者講和	・大学2年生としての役割
3	個別面談	・1年間の経過とこれからの計画などについて
4	オンデマンド：運動器（骨・筋・関節）解剖の概要①	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
5	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要②	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
6	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要③	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
7	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要④	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
8	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑤	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
9	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑥	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
10	学科内プレゼンテーション発表の概要	・これまで学んだ中で興味ある分野を調べ、グループディスカッションを行いスライドを作成するまでの流れを説明する。
11	学科内プレゼンテーション発表①	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
12	学科内プレゼンテーション発表②	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
13	学科内プレゼンテーション発表③	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
14	学科内プレゼンテーション発表④	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
15	前期振り返り	・前期までの振り返りと自己分析
16	個別面談①と後期授業内容について	・保護者面談の内容を踏まえた学生との面談
17	個別面談②	・資格取得や就職について

18	学科内プレゼンテーション発表⑤	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
19	学科内プレゼンテーション発表⑥	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
20	学科内プレゼンテーション発表⑦	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
21	学科内プレゼンテーション発表⑧	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
22	学科内プレゼンテーション発表⑨	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
23	学科内プレゼンテーション発表⑩	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
24	大学教職員講和	・柔道整復師とは
25	大学教職員講和	・医療、スポーツと柔道整復師について
26	大学教職員講和	・柔道整復師の未来について
27	ゼミナール担当教員講和①	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
28	ゼミナール担当教員講和②	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（学科教員による講義，講話） 2. グループワーク、ディスカッション 3. 省察（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30％・課題70％

<教科書>

特になし 発行所：医歯薬出版株式会社

監修：公益社団法人全国柔道整復学校協会 2020年1月10日第2版第14刷発行 解剖学 改訂第2版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる1年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	役職者講和	・大学2年生としての役割
3	個別面談	・1年間の経過とこれからの計画などについて
4	オンデマンド：運動器（骨・筋・関節）解剖の概要①	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
5	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要②	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
6	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要③	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
7	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要④	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
8	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑤	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
9	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑥	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
10	学科内プレゼンテーション発表の概要	・これまで学んだ中で興味ある分野を調べ、グループディスカッションを行いスライドを作成するまでの流れを説明する。
11	学科内プレゼンテーション発表①	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
12	学科内プレゼンテーション発表②	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
13	学科内プレゼンテーション発表③	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
14	学科内プレゼンテーション発表④	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
15	前期振り返り	・前期までの振り返りと自己分析
16	個別面談①と後期授業内容について	・保護者面談の内容を踏まえた学生との面談
17	個別面談②	・資格取得や就職について

18	学科内プレゼンテーション発表⑤	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
19	学科内プレゼンテーション発表⑥	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
20	学科内プレゼンテーション発表⑦	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
21	学科内プレゼンテーション発表⑧	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
22	学科内プレゼンテーション発表⑨	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
23	学科内プレゼンテーション発表⑩	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
24	大学教職員講和	・柔道整復師とは
25	大学教職員講和	・医療、スポーツと柔道整復師について
26	大学教職員講和	・柔道整復師の未来について
27	ゼミナール担当教員講和①	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
28	ゼミナール担当教員講和②	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（学科教員による講義，講話） 2. グループワーク、ディスカッション 3. 省察（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30％・課題70％

<教科書>

特になし 発行所：医歯薬出版株式会社

監修：公益社団法人全国柔道整復学校協会 2020年1月10日第2版第14刷発行 解剖学 改訂第2版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる1年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	役職者講和	・大学2年生としての役割
3	個別面談	・1年間の経過とこれからの計画などについて
4	オンデマンド：運動器（骨・筋・関節）解剖の概要①	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
5	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要②	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
6	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要③	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
7	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要④	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
8	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑤	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
9	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑥	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
10	学科内プレゼンテーション発表の概要	・これまで学んだ中で興味ある分野を調べ、グループディスカッションを行いスライドを作成するまでの流れを説明する。
11	学科内プレゼンテーション発表①	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
12	学科内プレゼンテーション発表②	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
13	学科内プレゼンテーション発表③	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
14	学科内プレゼンテーション発表④	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
15	前期振り返り	・前期までの振り返りと自己分析
16	個別面談①と後期授業内容について	・保護者面談の内容を踏まえた学生との面談
17	個別面談②	・資格取得や就職について

18	学科内プレゼンテーション発表⑤	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
19	学科内プレゼンテーション発表⑥	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
20	学科内プレゼンテーション発表⑦	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
21	学科内プレゼンテーション発表⑧	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
22	学科内プレゼンテーション発表⑨	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
23	学科内プレゼンテーション発表⑩	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
24	大学教職員講和	・柔道整復師とは
25	大学教職員講和	・医療、スポーツと柔道整復師について
26	大学教職員講和	・柔道整復師の未来について
27	ゼミナール担当教員講和①	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
28	ゼミナール担当教員講和②	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	田中 耕作			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かし、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）
復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート（最終課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び

13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	後期目標設定とアクションプランの作成	後期目標設定とアクションプランの作成をおこなう
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かし、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）
復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート（最終課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び

13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	後期目標設定とアクションプランの作成	後期目標設定とアクションプランの作成をおこなう
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かし、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）
復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート（最終課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び

13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	後期目標設定とアクションプランの作成	後期目標設定とアクションプランの作成をおこなう
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かし、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）
復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート（最終課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び

13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	後期目標設定とアクションプランの作成	後期目標設定とアクションプランの作成をおこなう
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かし、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）
復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート（最終課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び

13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	後期目標設定とアクションプランの作成	後期目標設定とアクションプランの作成をおこなう
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	金谷 和幸			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエンティストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かし、課外での自身のアスリート / サイエンティストとしての活動を通して学習していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート（最終課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び

13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	後期目標設定とアクションプランの作成	後期目標設定とアクションプランの作成をおこなう
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論②	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	高橋 章二／濱嶋 幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期及び後期（通年）	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を身に付けることができる。 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人としての基礎的な力を身に付けることができる。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎的な力を身に付けることができる。 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎的な力を身に付けることができる。

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（小グループ、クラスグループ） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

年間を通して5人グループ単位でテーマに沿った協議、検討を行う。また、グループ内での協議内容についてはクラスで発表し、さらにクラス全体で協議をし内容を深めるようにしていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ふりかえり課題・プレゼンテーション・レポート等（70%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス分け及び本年度の基礎ゼミ、CD、環トレの方針、五訓アンケートについての確認
2	クラスづくり	全体自己紹介、グループ分け、グループ名決め等
3	個別面談 1	学生とのコミュニケーションを図り、新2年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。
4	長島愛生園事前調べ学習（オンデマンド）	長島愛生園について調べることで、ハンセン病者への偏見や差別が長期にわたって行われていたということを知る。
5	自分の将来の夢をPowerPointにしよう	2年生の現時点での自分の将来の夢をPowerPointにしよう
6	自分の夢実現のための方策	夢実現のための具体的な方策として、マンドラシートを作成する。
7	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える①	オリエンテーション ハンセン病と差別・偏見について 長島愛生園の学芸員にきていただき出前授業していただく
8	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える②	各クラス・各グループで長島愛生園の何を調べ、深めて、地域に発信していきたいのかを検討する。
9	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える③	長島愛生園訪問 各グループ調査目的に基づいた調べ学習を行う。
10	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える④	長島愛生園訪問のふりかえり及び学びの内容の整理とoutputの方法検討
11	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える⑤	長島愛生園訪問の学びのoutput 実際の行動へ

12	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える⑥	長島愛生園訪問の学びのoutput 実際の行動へ
13	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える⑦	私たちの学びの報告会→環太祭ブースでも発表
14	前期末集会	前期のふりかえり
15	後期個別目標の設定/個別面談4	前期目標の総括と後期目標の修正・追加 個別面談 夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況
16	スポーツフェスタ	スポーツフェスタにおける参加種目についての検討
17	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える	環太祭に向けての準備
18	授業参観から何を学ぶのかー授業参観の視点ー	学校現場体験を前に授業参観における視点・ポイントを学ぶ
19	学校現場体験ガイダンス	学校現場体験についての意義、ポイント、日程等の説明およびグループ内で現場体験における目標の設定
20	学校現場体験 事前目標決め	各グループで学校現場体験で何を学ぶのか参観の視点を決める
21	学校現場体験①	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
22	学校現場体験②	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
23	学校現場体験 ふりかえり	各グループで事前に立てていた学校現場体験参観の視点に基づいてふりかえりを行う。あわせてプレゼン作成を行う。
24	学校現場体験の学び	各グループで学校現場体験の学びをPowerPointにまとめ、報告会に向けて練習を行う。
25	学校現場体験 学びの報告会（クラス）	クラス内で学校現場体験の学びをプレゼンし、学びの共有化を図る。各クラス代表1グループを決める。
26	学校現場体験 学びの報告会（2年生全体）	クラス代表の学校現場体験の学びのプレゼンを聞き、自分たちがまとめた学びとの共通点、相違点を明確化する。
27	ゼミ選択について	3年生に向けて、ゼミとは何か、ゼミ選択の方法についての話を聞く。
28	学年末集会	1年間の総括および3年生受験・進路の確認 1年間の総括及び3年次に向けての確認（3志会、ゼミ選択、教育実習、3年生受験等）
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	三堀 仁／中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期及び後期（通年）	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（小グループ、クラスグループ） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

年間を通して5人グループ単位でテーマに沿った協議、検討を行う。また、グループ内での協議内容についてはクラスで発表し、さらにクラス全体で協議をし内容を深めるようにしていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ふりかえり課題・プレゼンテーション・レポート等（70%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス分け及び本年度の基礎ゼミ、CD、環トレの方針、五訓アンケートについての確認
2	クラスづくり	全体自己紹介、グループ分け、グループ名決め等
3	個別面談1	学生とのコミュニケーションを図り、新2年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。
4	長島愛生園事前調べ学習（オンデマンド）	長島愛生園について調べることで、ハンセン病者への偏見や差別が長期にわたって行われていたということを知る。
5	自分の将来の夢をPowerPointにしよう	2年生の現時点での自分の将来の夢をPowerPointにしよう
6	自分の夢実現のための方策	夢実現のための具体的な方策として、マンダラシートを作成する。
7	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える①	オリエンテーション ハンセン病と差別・偏見について 長島愛生園の学芸員にきていただき出前授業していただく
8	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える②	各クラス・各グループで長島愛生園の何を調べ、深めて、地域に発信していきたいのかを検討する。
9	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える③	長島愛生園訪問 各グループ調査目的に基づいた調べ学習を行う。
10	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える④	長島愛生園訪問のふりかえり及び学びの内容の整理とoutputの方法検討
11	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える⑤	長島愛生園訪問の学びのoutput 実際の行動へ
12	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に	長島愛生園訪問の学びのoutput 実際の行動へ

13	伝える⑥ 教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える⑦	私たちの学びの報告会→環太祭ブースでも発表
14	前期末集会	前期のふりかえり
15	後期個別目標の設定/個別面談4	前期目標の総括と後期目標の修正・追加 個別面談 夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況
16	スポーツフェスタ	スポーツフェスタにおける参加種目についての検討
17	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える	環太祭に向けての準備
18	授業参観から何を学ぶのかー授業参観の視点ー	学校現場体験を前に授業参観における視点・ポイントを学ぶ
19	学校現場体験ガイダンス	学校現場体験についての意義、ポイント、日程等の説明およびグループ内で現場体験における目標の設定
20	学校現場体験 事前目標決め	各グループで学校現場体験で何を学ぶのか参観の視点を決める
21	学校現場体験①	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
22	学校現場体験②	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
23	学校現場体験 ふりかえり	各グループで事前に立てていた学校現場体験参観の視点に基づいてふりかえりを行う。あわせてプレゼン作成を行う。
24	学校現場体験の学び	各グループで学校現場体験の学びをPowerPointにまとめ、報告会に向けて練習を行う。
25	学校現場体験 学びの報告会（クラス）	クラス内で学校現場体験の学びをプレゼンし、学びの共有化を図る。各クラス代表1グループを決める。
26	学校現場体験 学びの報告会（2年生全体）	クラス代表の学校現場体験の学びのプレゼンを聞き、自分たちがまとめた学びとの共通点、相違点を明確化する。
27	ゼミ選択について	3年生に向けて、ゼミとは何か、ゼミ選択の方法についての話を聞く。
28	学年末集会	1年間の総括および3年生受験・進路の確認 1年間の総括及び3年次に向けての確認（3志会、ゼミ選択、教育実習、3年生受験等）
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	伊藤 仁美／西田 修斗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期及び後期（通年）	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（小グループ、クラスグループ） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

年間を通して5人グループ単位でテーマに沿った協議、検討を行う。また、グループ内での協議内容についてはクラスで発表し、さらにクラス全体で協議をし内容を深めるようにしていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ふりかえり課題・プレゼンテーション・レポート等（70%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス分け及び本年度の基礎ゼミ、CD、環トレの方針、五訓アンケートについての確認
2	クラスづくり	全体自己紹介、グループ分け、グループ名決め等
3	個別面談1	学生とのコミュニケーションを図り、新2年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。
4	長島愛生園事前調べ学習（オンデマンド）	長島愛生園について調べることで、ハンセン病者への偏見や差別が長期にわたって行われていたということを知る。
5	自分の将来の夢をPowerPointにしよう	2年生の現時点での自分の将来の夢をPowerPointにしよう
6	自分の夢実現のための方策	夢実現のための具体的な方策として、マンダラシートを作成する。
7	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える①	オリエンテーション ハンセン病と差別・偏見について 長島愛生園の学芸員にきていただき出前授業していただく
8	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える②	各クラス・各グループで長島愛生園の何を調べ、深めて、地域に発信していきたいのかを検討する。
9	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える③	長島愛生園訪問 各グループ調査目的に基づいた調べ学習を行う。
10	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える④	長島愛生園訪問のふりかえり及び学びの内容の整理とoutputの方法検討
11	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える⑤	長島愛生園訪問の学びのoutput 実際の行動へ
12	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に	長島愛生園訪問の学びのoutput 実際の行動へ

	伝える⑥	
13	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える⑦	私たちの学びの報告会→環太祭ブースでも発表
14	前期末集会	前期のふりかえり
15	後期個別目標の設定/個別面談4	前期目標の総括と後期目標の修正・追加 個別面談 夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況
16	スポーツフェスタ	スポーツフェスタにおける参加種目についての検討
17	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える	環太祭に向けての準備
18	授業参観から何を学ぶのかー授業参観の視点ー	学校現場体験を前に授業参観における視点・ポイントを学ぶ
19	学校現場体験ガイダンス	学校現場体験についての意義、ポイント、日程等の説明およびグループ内で現場体験における目標の設定
20	学校現場体験 事前目標決め	各グループで学校現場体験で何を学ぶのか参観の視点を決める
21	学校現場体験①	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
22	学校現場体験②	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
23	学校現場体験 ふりかえり	各グループで事前に立てていた学校現場体験参観の視点に基づいてふりかえりを行う。あわせてプレゼン作成を行う。
24	学校現場体験の学び	各グループで学校現場体験の学びをPowerPointにまとめ、報告会に向けて練習を行う。
25	学校現場体験 学びの報告会（クラス）	クラス内で学校現場体験の学びをプレゼンし、学びの共有化を図る。各クラス代表1グループを決める。
26	学校現場体験 学びの報告会（2年生全体）	クラス代表の学校現場体験の学びのプレゼンを聞き、自分たちがまとめた学びとの共通点、相違点を明確化する。
27	ゼミ選択について	3年生に向けて、ゼミとは何か、ゼミ選択の方法についての話を聞く。
28	学年末集会	1年間の総括および3年生受験・進路の確認 1年間の総括及び3年次に向けての確認（3志会、ゼミ選択、教育実習、3年生受験等）
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	大久保 諒／鈺 悠介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期及び後期（通年）	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立的・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（小グループ、クラスグループ） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

年間を通して5人グループ単位でテーマに沿った協議、検討を行う。また、グループ内での協議内容についてはクラスで発表し、さらにクラス全体で協議をし内容を深めるようにしていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ふりかえり課題・プレゼンテーション・レポート等（70%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス分け及び本年度の基礎ゼミ、CD、環トレの方針、五訓アンケートについての確認
2	クラスづくり	全体自己紹介、グループ分け、グループ名決め等
3	個別面談1	学生とのコミュニケーションを図り、新2年生に上がった段階での進路希望や生活・学習上の課題について聞き取りを行う。
4	長島愛生園事前調べ学習（オンデマンド）	長島愛生園について調べることで、ハンセン病者への偏見や差別が長期にわたって行われていたということを知る。
5	自分の将来の夢をPowerPointにしよう	2年生の現時点での自分の将来の夢をPowerPointにしよう
6	自分の夢実現のための方策	夢実現のための具体的な方策として、マンダラシートを作成する。
7	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える①	オリエンテーション ハンセン病と差別・偏見について 長島愛生園の学芸員にきていただき出前授業していただく
8	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える②	各クラス・各グループで長島愛生園の何を調べ、深めて、地域に発信していきたいのかを検討する。
9	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える③	長島愛生園訪問 各グループ調査目的に基づいた調べ学習を行う。
10	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える④	長島愛生園訪問のふりかえり及び学びの内容の整理とoutputの方法検討
11	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える⑤	長島愛生園訪問の学びのoutput 実際の行動へ
12	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に	長島愛生園訪問の学びのoutput 実際の行動へ

13	伝える⑥ 教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える⑦	私たちの学びの報告会→環太祭ブースでも発表
14	前期末集会	前期のふりかえり
15	後期個別目標の設定/個別面談4	前期目標の総括と後期目標の修正・追加 個別面談 夏季休業中の様子・後期に向けて・環トレ進捗状況
16	スポーツフェスタ	スポーツフェスタにおける参加種目についての検討
17	教育課題探求 長島愛生園の歴史を今に伝える	環太祭に向けての準備
18	授業参観から何を学ぶのかー授業参観の視点ー	学校現場体験を前に授業参観における視点・ポイントを学ぶ
19	学校現場体験ガイダンス	学校現場体験についての意義、ポイント、日程等の説明およびグループ内で現場体験における目標の設定
20	学校現場体験 事前目標決め	各グループで学校現場体験で何を学ぶのか参観の視点を決める
21	学校現場体験①	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
22	学校現場体験②	岡山市立江西小学校等での学校現場体験（授業参観）
23	学校現場体験 ふりかえり	各グループで事前に立てていた学校現場体験参観の視点に基づいてふりかえりを行う。あわせてプレゼン作成を行う。
24	学校現場体験の学び	各グループで学校現場体験の学びをPowerPointにまとめ、報告会に向けて練習を行う。
25	学校現場体験 学びの報告会（クラス）	クラス内で学校現場体験の学びをプレゼンし、学びの共有化を図る。各クラス代表1グループを決める。
26	学校現場体験 学びの報告会（2年生全体）	クラス代表の学校現場体験の学びのプレゼンを聞き、自分たちがまとめた学びとの共通点、相違点を明確化する。
27	ゼミ選択について	3年生に向けて、ゼミとは何か、ゼミ選択の方法についての話を聞く。
28	学年末集会	1年間の総括および3年生受験・進路の確認 1年間の総括及び3年次に向けての確認（3志会、ゼミ選択、教育実習、3年生受験等）
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。
2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。
3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。
4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
14	前期振り返り	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
16	個人面談③	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
18	個人面談④	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
26	ゼミ体験①	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
27	ゼミ体験②	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
28	後期振り返り	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
29		1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。
2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。
3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。
4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
14	前期振り返り	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
16	個人面談③	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
18	個人面談④	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
26	ゼミ体験①	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
27	ゼミ体験②	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
28	後期振り返り	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
29		1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。
2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。
3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。
4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
14	前期振り返り	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
16	個人面談③	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
18	個人面談④	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
26	ゼミ体験①	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
27	ゼミ体験②	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
28	後期振り返り	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
29		1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	大池 淳一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。
2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。
3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。
4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
14	前期振り返り	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
16	個人面談③	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
18	個人面談④	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
26	ゼミ体験①	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
27	ゼミ体験②	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
28	後期振り返り	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
29		1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	見村 一朗			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
14	前期振り返り	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
16	個人面談③	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
18	個人面談④	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
26	ゼミ体験①	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
27	ゼミ体験②	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
28	後期振り返り	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
29		1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	豊里 健			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。
2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。
3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。
4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
14	前期振り返り	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
16	個人面談③	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
18	個人面談④	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
26	ゼミ体験①	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
27	ゼミ体験②	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
28	後期振り返り	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
29		1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。
2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。
3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。
4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
14	前期振り返り	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
16	個人面談③	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
17	スポーツフェスタ代替日	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
18	個人面談④	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
26	ゼミ体験①	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
27	ゼミ体験②	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
28	後期振り返り	1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
14	前期振り返り	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
16	個人面談③	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
18	個人面談④	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
26	ゼミ体験①	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
27	ゼミ体験②	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
28	後期振り返り	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
29		1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	清水 健太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、キャリアディベロップメント科目と連動し、クラス単位での少人数教育を通して、大学における学びとキャリア形成の基盤を育成することを目的とする。メンターによる指導のもと、自己理解の深化、他者との関係構築、目標設定および行動の振り返りを段階的に行う。また、本授業では、経験→省察→言語化→行動改善のサイクルを重視し、学生一人ひとりの成長を可視化しながら、主体的に学び続ける力を養う。

<授業の到達目標>

1. 自己の価値観・行動特性・課題を把握し、それを言語化して説明できる。
2. クラス内での協働活動を通して、他者理解および適切なコミュニケーションを実践できる。
3. 目標設定および振り返りを繰り返すことで、自律的に行動を改善することができる。
4. キャリア形成に向けた具体的な行動計画を立案し、継続的に実行できる。

<授業の方法>

メンターによる指導のもと、講話・グループワーク・個人面談・省察活動を組み合わせて実施する。特に、クラス活動では学生同士の対話や協働を通して学びを深めるとともに、個人面談により一人ひとりの状況に応じた支援を行う。また、ICTを活用した学修を推進する。グーグルクラスルームを通じた課題の提出やAIの活用などを織り交ぜる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション、自己分析ワーク、プレゼンテーション、相互フィードバック等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。特に、クラス内での継続的な関係性を活かし、安心して自己開示・意見交換ができる学習環境を構築する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テーマに関連する自己の経験や考えを整理し、発言できる状態で授業に臨む（120分程度）。復習：授業での気づきや自己の変容を振り返り、今後の行動改善につなげる（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	クラス開き、自己紹介、履修登録
2	クラス活動①（自己理解と目標設定）	大学で求められる学生像や価値観について理解を深めるとともに、自己の現状を振り返る。五訓アンケートやワークを通して自身の特性や課題を把握し、前期における具体的な目標を設定し、その理由を説明できるようにする。
3	個人面談①	メンターとの面談を通して、自己の目標や課題について整理する。他者との対話を通して自己理解を深めるとともに、今後の行動方針を具体化できるようにする。
4	個人面談②	学生の成長、変化に耳を傾ける。何か問題があれば、速やかに対処する。メンターと学生との関係構築に努める。
5	クラス活動②（関係構築）	クラス内でのコミュニケーション活動を通して、相互理解を深める。安心して意見交換ができる関係性の構築を目指し、他者の意見を尊重しながら自己の考えを表現できるようにする。
6	クラス活動③（価値観の共有）	価値観に関するワークを通して、自身の考え方や行動の基盤を理解する。他者との違いに気づき、多様な視点を受け入れながら、自身の価値観を再構成できるようにする。
7	クラス活動④（行動計画の具体化）	設定した目標に対して、具体的な行動計画を立案する。達成に向けたプロセスを明確にし、実行可能な計画として言語化できるようにする。
8	クラス活動⑤（振り返り①）	これまでの行動を振り返り、目標に対する達成度や課題を整理する。自己の行動を

9	クラス活動⑥（経験の言語化）	客観的に評価し、改善点を具体的に示すことができるようにする。
10	スポーツ交流・国際交流（キャリアディベ ロップメントと連動）	これまでの経験を振り返り、それを言語化するトレーニングを行う。自身の強みや成長を具体的なエピソードとして説明できるようにする。
11	クラス活動⑦（発信力の基礎）	交流活動を通して、多様な他者との関わり方を体験的に学ぶ。活動後には振り返りを行い、協働やコミュニケーションの工夫について言語化できるようにする。
12	クラス活動⑧（振り返り②）	簡単なプレゼンテーション活動を通して、自身の考えを他者に伝える力を養う。構成や話し方を意識し、分かりやすく伝達することができるようにする。
13	クラス活動⑨（前期総括と成長の言語化）	前期の学びを総合的に振り返り、自己の成長および課題を整理する。今後に向けた改善点を明確にし、次の行動へとつなげることができるようにする。
14	前期振り返り	前期の学びをもとに、自己の成長を多面的に振り返る。特に、自己理解・他者理解・行動の変容の観点から、自身の変化を整理し、具体的なエピソードを用いて言語化する。あわせて、その成長がどのような要因によって生じたのかを分析し、今後の学修や行動にどのように活かすかを説明できるようにする。
15	後期オリエンテーション 五訓アンケート スポーツフェスタ準備	前期全体の学修を振り返り、自己の変容を多面的に省察する。夏季休暇に向けた目標と行動計画を立案し、主体的な学びを継続する意識を高める。
16	個人面談③	前期の振り返りを踏まえ、後期の目標を再設定する。自己の課題を明確にし、より具体的な行動計画として説明できるようにする。クラス単位での活動を通して、役割分担や協働の重要性を理解する。目標達成に向けたチームとしての行動計画を立案し、自身の役割と責任を自覚して行動できるようにする。
17	スポーツフェスタ代替日	メンターとの面談を通して、後期の目標や課題について整理する。個別の状況に応じた支援を受けながら、今後の行動方針を具体化する。
18	個人面談④	実際の活動を通して、協働することの意義やチームワークの重要性を体験的に理解する。活動後には振り返りを行い、成功要因や課題を整理し、今後の行動改善につなげることができるようにする。
19	アカデミックライティング（実践）	後期の進捗状況を踏まえ、目標達成に向けた行動を振り返る。メンターとの対話を通して課題を明確にし、具体的な改善行動を設定できるようにする。
20	クラス活動⑩（自己PRの基礎）	文章作成課題に取り組むことで、論理的思考力および表現力の向上を図る。自己の考えを根拠に基づいて記述し、その内容を客観的に見直し改善できるようにする。
21	クラス活動⑪（発信力の向上）	これまでの経験を整理し、自身の強みや特徴を言語化する。具体的なエピソードを用いて自己を表現する方法を学び、他者に伝わる形で説明できるようにする。
22	プレゼンテーションコンテスト（クラス予選）	自己PRや意見発表の練習を通して、伝達力の向上を図る。相互フィードバックを行いながら、より分かりやすく説得力のある伝え方へと改善できるようにする。
23	アカデミックライティング（ミニレポート作成）	これまでの準備をもとにプレゼンテーションを実施し、自身の考えを他者に伝達する。発表経験を通して自己の課題を把握し、今後の改善点を具体的に示すことができるようにする。
24	クラス活動⑫（自己分析の深化）	ミニレポートの作成を通して、情報整理力および論理的記述力の定着を図る。自身の考えを明確な構成で記述し、その妥当性を説明できるようにする。
25	クラス活動⑬（進路意識の形成）	これまでの学びや経験を振り返り、自己理解をさらに深める。強み・弱み・価値観を整理し、今後の進路選択にどのように活かすかを具体的に説明できるようにする。
26	ゼミ体験①	将来の進路について具体的に考え、必要な能力や経験を整理する。自身の目標と現状との差を把握し、今後の行動計画を立案できるようにする。
27	ゼミ体験②	各ゼミの内容や特徴について理解を深める。説明や体験を通して、自身の関心や将来の方向性との関連を考察し、適切な選択に向けた判断材料を整理できるようにする。
28	後期振り返り	複数のゼミを比較し、それぞれの特徴や学びの違いを理解する。自身に適したゼミを選択するための基準を明確にし、その理由を説明できるようにする。
29		1年間の学びを整理し、自己の成長と課題を体系的にまとめる。これまでの経験を振り返り、次年度に向けた課題と目標を明確にする。1年間の学びを総括し、自己の成長を言語化する。3年次に向けた目標と行動計画を具体的に立案し、キャリア形成に向けた継続的な学びの方向性を明確にする。
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、大学生として必要な社会人基礎力、自己コントロールができる自主自律した学生の育成を目指し、努力することの必要性を説き、体験させることで自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、人間力の育成のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養うことが目標である。こども発達学科の学生として学び続ける資質・能力を育む。こども発達学科の学生としての活動に参加し、大学、地域、社会に貢献できる。

<授業の方法>

基礎学力課題の実施

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

課外活動を必要に応じて行う。グループワークも日費用に応じて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

指定された課題範囲の取り組み（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、DP 1 他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。と関連しております。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度30%、課題60%、最終課題10%.

<教科書>

特になし

<参考書>

ラインズドリル

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	基礎学力課題1	指定された課題の取り組み
3	基礎学力課題2	指定された課題の取り組み
4	基礎学力課題3	指定された課題の取り組み
5	基礎学力課題4	指定された課題の取り組み
6	基礎学力課題5	指定された課題の取り組み
7	基礎学力課題6	指定された課題の取り組み
8	基礎学力課題7	指定された課題の取り組み
9	基礎学力課題8	指定された課題の取り組み
10	基礎学力課題9	指定された課題の取り組み
11	基礎学力課題10	指定された課題の取り組み
12	基礎学力課題11	指定された課題の取り組み
13	基礎学力課題12	指定された課題の取り組み
14	基礎学力課題13	指定された課題の取り組み
15	基礎学力課題14	指定された課題の取り組み
16	基礎学力課題15	指定された課題の取り組み
17	基礎学力課題16	指定された課題の取り組み
18	基礎学力課題17	指定された課題の取り組み
19	基礎学力課題18	指定された課題の取り組み
20	基礎学力課題19	指定された課題の取り組み
21	基礎学力課題20	指定された課題の取り組み
22	基礎学力課題21	指定された課題の取り組み
23	基礎学力課題22	指定された課題の取り組み

24	基礎学力課題23	指定された課題の取り組み
25	基礎学力課題24	指定された課題の取り組み
26	基礎学力課題25	指定された課題の取り組み
27	基礎学力課題26	指定された課題の取り組み
28	最終課題	1年間の振り返りを行い、課題を提出する
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間性を有することができる ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付けることができる ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付けることができる ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付けることができる

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション(コミュニティの形成)	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析(強み・価値観)および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習① 企画	企画立案と役割分担の決定・デモンストラーション作成
7	project型学習② リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③ 実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④ 実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤ 実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践

18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り
19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	1年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	1年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	1年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 大学での学修に必要なスタディスキル（情報収集・整理・発表）を実践できる。2. 自分の考えを整理し、他者に分かりやすく口頭および文章で表現できる。3. グループワークに主体的に参加し、協働して課題解決に取り組むことができる。4. 自己の興味・関心や強みを整理し、将来のキャリア目標を言語化できる。5. 授業活動を振り返り、今後の学習や行動計画を立てることができる。

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（小グループ、クラスグループ） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習① 企画	企画立案と役割分担の決定・デモンストラーション作成
7	project型学習② リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③ 実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④ 実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤ 実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り
19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り

20	イベント参加①	1年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	1年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	1年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	藤谷 かおる			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 2. 社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 3. 大学での学修に必要なスタディスキル（情報収集・整理・発表）の実践 4. キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（小グループ、クラスグループ） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし 特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習① 企画	企画立案と役割分担の決定・デモンストラーション作成
7	project型学習② リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③ 実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④ 実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤ 実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り
19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	1年生主体イベントの参加

21	イベント参加②	1年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	1年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	内容 クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標訓評価の実施内容
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（小グループ、クラスグループ） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習① 企画	企画立案と役割分担の決定・デモンストラーション作成
7	project型学習② リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③ 実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④ 実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤ 実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り

19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	1年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	1年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	1年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間性を有することができる ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身に付けることができる ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を身に付けることができる ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身に付けることができる

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション(コミュニティの形成)	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析(強み・価値観)および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習① 企画	企画立案と役割分担の決定・デモンストラーション作成
7	project型学習② リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③ 実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④ 実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤ 実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践

18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り
19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	1年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	1年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	1年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 大学での学修に必要なスタディスキル（情報収集・整理・発表）を実践できる。2. 自分の考えを整理し、他者に分かりやすく口頭および文章で表現できる。3. グループワークに主体的に参加し、協働して課題解決に取り組むことができる。4. 自己の興味・関心や強みを整理し、将来のキャリア目標を言語化できる。5. 授業活動を振り返り、今後の学習や行動計画を立てることができる。

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（小グループ、クラスグループ） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習① 企画	企画立案と役割分担の決定・デモンストラーション作成
7	project型学習② リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③ 実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④ 実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤ 実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り
19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り

20	イベント参加①	1年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	1年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	1年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	坂元 智子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション(コミュニティの形成)	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析(強み・価値観)および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習① 企画	企画立案と役割分担の決定・デモンストラーション作成
7	project型学習② リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③ 実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④ 実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習④ 実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り

19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	1年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	1年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	1年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	十河 直太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成 ③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(60%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション(コミュニティの形成)	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析(強み・価値観)および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習① 企画	企画立案と役割分担の決定・デモンストラーション作成
7	project型学習② リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③ 実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④ 実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤ 実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り

19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り
20	イベント参加①	1年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	1年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	1年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	早田 剛			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を持てるようになる。 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を持てるようになる。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を持てるようになる。 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を持てるようになる。

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（小グループ、クラスグループ） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等（60%）演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲（30%）最終レポート（10%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（コミュニティの形成）	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析（強み・価値観）および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習① 企画	企画立案と役割分担の決定・デモンストラーション作成
7	project型学習② リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③ 実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④ 実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤ 実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	企画発表②	クラス間でのコンセプト発表と相互評価
13	五訓評価	五訓評価の実施
14	前半振り返り	前半活動の総括と個人の成長の振り返り
15	後期オリエンテーション	後期目標設定および五訓評価の実施
16	イベント企画・振り返り①	イベント企画の準備・実践
17	イベント企画・振り返り②	イベント企画の準備・実践
18	イベント企画・振り返り③	イベント実施および振り返り
19	イベント企画・振り返り④	イベント実施および振り返り

20	イベント参加①	1年生主体イベントの参加
21	イベント参加②	1年生主体イベントの参加
22	イベント参加③	1年生主体イベントの参加
23	報告活動①	クラスイベント経験の言語化と発表準備
24	報告活動②	クラスイベント経験の言語化とクラス内発表
25	報告活動④	クラスイベント経験の言語化とクラス間発表
26	キャリア形成①	ゼミ選択に向けた情報収集（ゼミ訪問）
27	キャリア形成②	ゼミ選択に向けた情報収集
28	総括	五訓評価・次年度目標
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ				担当者名	小崎 遼介／虫明 淑子／塚本 千晴			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができるようになるための基礎・基本を身につける。さらにグループワークやディスカッションを通じて、非認知能力の向上を目指す。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」について自分なりに考えを持ち、行動できる②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を身につける③大学における学び：学部・学科における学びの基礎的な力を身につける④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を身につける

<授業の方法>

1. 講義（メンターによる講話） 2. グループワーク、ディスカッション（小グループ、クラスグループ） 3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表） 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ディスカッション、パワーポイントでのプレゼン、東岡山IPUこども園での活動

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。（毎回1時間程度）テーマに応じたプレゼンテーションの作成（前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度）復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等を含む）（70%）、最終レポート（10%）、グループワーク等の活動における関心・意欲・態度（20%）必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組む、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1年間の学習に見通しを持つ	1年次の学びを振り返り、2年次の目標を設定する。
2	年間の学修計画	目標達成の手段と1年間の計画について見通しを持つ
3	こども発達学科での学びは何かを考える	目標達成の手段と1年間の計画：①保育者としての資質②進路の方向性を決める（キャリアデザイン・コース）
4	社会人基礎力	マイナビオンデマンド社会人基礎力に取り組む。
5	社会人としての“当然”を学ぼう①	秘書検定を通して、マナーや社会人の基礎を学ぶ。
6	東岡山IPUこども園連携：社会人（保育教諭）としての“当然”を探す	こども園連携（こども園での観察）にて、社会人の基礎となる部分を探す。
7	東岡山IPUこども園連携	東岡山IPUこども園での観察結果をグループで共有する。
8	東岡山IPUこども園連携	こども園連携（こども園での観察）にて、社会人の基礎となる部分をグループにて探す。
9	東岡山IPUこども園連携	東岡山IPUこども園での観察のまとめを行う。
10	社会人としての当然を学ぶ	保育ICT検定を行い、社会人の必要な資質を学ぶ。
11	社会人としての当然を学ぶ	各種検定を行うことで、社会人基礎力を身につける
12	社会人としての当然を学ぶ	各種検定を行うことで、社会人基礎力を身につける
13	前期目標の振り返り	前期のまとめのプレゼンテーションの準備

14	目標達成力の中間プレゼン	前期の取り組みと自身の目標達成度のプレゼンを行う。
15	後期のスケジュール	後期のスケジュール管理、履修確認を行う。
16	後期の目標設定	目標達成の手段と1年間の計画：①保育者としての資質②進路の方向性を決める（キャリアデザイン・コース）
17	働く	マイナビの働くことを考えるワークを通して、働くことについて考える。
18	保育の魅力	上級生・卒業生・東岡山IPUこども園職員による講話
19	進路の決定	進路ごとにグループに分かれて、保育観察の準備を行う。
20	東岡山IPUこども園での観察	東岡山IPUこども園での観察を行う。グループごとに観察をする。
21	東岡山IPUこども園での観察	東岡山IPUこども園での観察を行う。グループごとに観察をする。特に事前学習との関連について観察する。
22	東岡山IPUこども園での観察	東岡山IPUこども園での観察を行う。自分の進路との関連を強調して観察する。
23	進路とキャリア	キャリアデザイン受講学生との交流
24	3年生のコース選択	コース紹介3年生との交流
25	ゼミ選択	3・4年生のゼミ生との交流
26	個別面談①	キャリアデザイン・コースの決定
27	個別面談②	キャリアデザイン・コースの決定
28	目標達成力の最終プレゼン	1年間の目標設定の振り返り
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [再履修]PH用[不開講]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（学科教員による講義，講話） 2. グループワーク、ディスカッション 3. 省察（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30％・課題70％

<教科書>

特になし 発行所：医歯薬出版株式会社

監修：公益社団法人全国柔道整復学校協会 2020年1月10日第2版第14刷発行 解剖学 改訂第2版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる1年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	役職者講和	・大学2年生としての役割
3	個別面談	・1年間の経過とこれからの計画などについて
4	オンデマンド：運動器（骨・筋・関節）解剖の概要①	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
5	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要②	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
6	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要③	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
7	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要④	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
8	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑤	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
9	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑥	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
10	学科内プレゼンテーション発表の概要	・これまで学んだ中で興味ある分野を調べ、グループディスカッションを行いスライドを作成するまでの流れを説明する。
11	学科内プレゼンテーション発表①	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
12	学科内プレゼンテーション発表②	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
13	学科内プレゼンテーション発表③	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
14	学科内プレゼンテーション発表④	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
15	前期振り返り	・前期までの振り返りと自己分析
16	個別面談①と後期授業内容について	・保護者面談の内容を踏まえた学生との面談
17	個別面談②	・資格取得や就職について

18	学科内プレゼンテーション発表⑤	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
19	学科内プレゼンテーション発表⑥	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
20	学科内プレゼンテーション発表⑦	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
21	学科内プレゼンテーション発表⑧	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
22	学科内プレゼンテーション発表⑨	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
23	学科内プレゼンテーション発表⑩	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
24	大学教職員講和	・柔道整復師とは
25	大学教職員講和	・医療、スポーツと柔道整復師について
26	大学教職員講和	・柔道整復師の未来について
27	ゼミナール担当教員講和①	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
28	ゼミナール担当教員講和②	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
29		
30		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [再履修]PH用				担当者名	古山 喜一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

多方面に活躍できる柔道整復師を知ってもらうために各教員が取り組んでいる内容を体験型授業で実施し、自身の将来の方向性を定めることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」のある人間の育成②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力の育成③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力の育成④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力の育成

<授業の方法>

1. 講義（学科教員による講義，講話） 2. グループワーク、ディスカッション 3. 省察（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：総合医学学習では指定学習範囲内容、プレゼミナールでは担当教員の研究領域内容について事前学習、調査（60分程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、次週の見通しを持つ。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30％・課題70％

<教科書>

特になし 発行所：医歯薬出版株式会社

監修：公益社団法人全国柔道整復学校協会 2020年1月10日第2版第14刷発行 解剖学 改訂第2版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	現状を考え、今年度の計画を立てる1年次の成績、今年度の履修登録確認資格取得予定確認（アンケート）
2	役職者講和	・大学2年生としての役割
3	個別面談	・1年間の経過とこれからの計画などについて
4	オンデマンド：運動器（骨・筋・関節）解剖の概要①	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
5	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要②	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
6	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要③	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
7	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要④	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
8	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑤	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
9	運動器（骨・筋・関節）解剖の概要⑥	・運動器（骨・筋・関節）の解剖について学ぶ
10	学科内プレゼンテーション発表の概要	・これまで学んだ中で興味ある分野を調べ、グループディスカッションを行いスライドを作成するまでの流れを説明する。
11	学科内プレゼンテーション発表①	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
12	学科内プレゼンテーション発表②	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
13	学科内プレゼンテーション発表③	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
14	学科内プレゼンテーション発表④	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
15	前期振り返り	・前期までの振り返りと自己分析
16	個別面談①と後期授業内容について	・保護者面談の内容を踏まえた学生との面談
17	個別面談②	・資格取得や就職について

18	学科内プレゼンテーション発表⑤	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
19	学科内プレゼンテーション発表⑥	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
20	学科内プレゼンテーション発表⑦	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
21	学科内プレゼンテーション発表⑧	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
22	学科内プレゼンテーション発表⑨	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
23	学科内プレゼンテーション発表⑩	・グループ発表（プレゼンテーションを使った発表）
24	大学教職員講和	・柔道整復師とは
25	大学教職員講和	・医療、スポーツと柔道整復師について
26	大学教職員講和	・柔道整復師の未来について
27	ゼミナール担当教員講和①	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
28	ゼミナール担当教員講和②	・ゼミナール決定に向けて担当となるゼミナール活動を知る
29		
30		

科目コード	10501				区 分	教養科目			
授業科目名	TOEIC I				担当者名	中川 定江			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義+演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語の基礎力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<授業の到達目標>

TOEIC で400程度のスコアを取得できることを目標とする。

<授業の方法>

教室での演習と解説をします。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日30分コツコツと学習することが語学上達のカギです。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席と授業参加（28％）、授業期間内での小テスト+学習到達度テスト（72％） ※IPテストを含む※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。未受験者は単位を認められません。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンスとオリエンテーション（TOEICとはどんな試験か）	・ TOEICの構成・英語の学習法・これまでどのように英語に向き合ってきたか
2	Part 1 (1) 英語の基本になるパーツ	・ 名詞・代名詞
3	Part 1 (2) 英語の基本になるパーツ	・ 動詞・助動詞・形容詞・副詞
4	Part 2 パーツの並べ方	・ 単語の役割と文・文の種類・主述の一致
5	Part 3(1) 時間を表すルール	・ 現在形と現在進行形・過去形と現在完了形・過去進行形と過去完了形
6	Part 3(2) 時間を表すルール	・ 動詞の変化・未来を表す表現
7	Part 4 情報をプラスする表現	・ 分詞・関係代名詞・関係副詞
8	Part 5 (1) 語の幅を広げる表現	・ 原級・比較級・最上級
9	Part 5 (2) 語の幅を広げる表現	・ 接続詞・前置詞
10	Part 5 (3) 語の幅を広げる表現	・ 不定詞と動名詞
11	Part 5 (4) 語の幅を広げる表現	・ 受動態
12	Part 5 (5) 語の幅を広げる表現	・ 仮定法・疑問詞
13	Part 6 文をつなげる表現	・ 接続副詞・文挿入問題
14	文法問題ランダム演習	・ 学習到達度テスト
15		
16		

科目コード	10503				区 分	教養科目			
授業科目名	TOEICⅢ				担当者名	中川 定江			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

TOEIC対策を通じて、英語の基礎力を身につける。TOEIC L&Rは大きく分けて、リスニング・リーディングからなる。社会人の英語力の証明としてTOEICでの高得点が重視されてきている。このような現状を踏まえ、少しでもTOEICで高得点を取っておくことは有利となる。本講義では毎回の実践演習を通じてTOEICでの得点力の向上、ならびに英語の基礎力の拡充を目指す。※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。

<授業の到達目標>

TOEIC で650程度のスコアを取得できることを目標とする。

<授業の方法>

教室での演習と解説をします。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各授業の復習と英文スクリプトの音読をすること。毎日少なくとも30分コツコツと学習することが語学上達のカギです。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席と授業参加（28％）、授業期間内での小テスト＋学習到達度テスト（72％）※IPテストを含む※単位認定要件として、講義期間内に本学で実施するTOEIC IPテストの受験を課すので必ず申し込みをして受験すること。未受験者は単位を認められません。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンスとオリエンテーション	・TOEICの構成・英語の学習法・これまでどのように英語に向き合ってきたか
2	リーディングセクションの攻略！Part 5 短文穴埋め問題	・問題の種類を見分けよう！・「文法問題」では品詞と動詞の形に注目！・「語彙問題」攻略のカギは連語と文脈！
3	リーディングセクションの攻略！Part 6 長文穴埋め問題	・問題の種類を抑えよう！・文脈・時制が問われる問題に注意！
4	リーディングセクションの攻略！Part 7 (1) 読解問題	・問題の種類を押さえよう！・質問文の先読みでキーワードをつかむ！
5	リーディングセクションの攻略！Part 7 (2) 読解問題	・「読解問題」で頻出する言い換えに注意！・選択肢の消去法を活用しよう！
6	リーディングセクションの攻略！Part 7 (3) 読解問題	・文挿入問題を攻略しよう！・テキストメッセージ&チャット問題を攻略しよう！・マルチプル・パッセージ問題の解き方！
7	リスニングセクションの攻略！	・Part 1 Photographs（写真描写問題）・Part 2 Question=Response（応答問題）・Part 3 Conversations（応答問題）・Part 4 Talks（説明文問題）
8	リーディングセクション演習	・Part 5・Part 6・Part 7
9	リーディングセクション演習	・Part 5・Part 6・Part 7
10	リーディングセクション演習	・Part 5・Part 6・Part 7
11	リーディングセクション演習	・Part 5・Part 6・Part 7
12	リーディングセクション演習	・Part 5・Part 6・Part 7
13	リスニングセクション&リーディングセクション	・学習到達度テスト
14		
15		
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター、 第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのアウトプットを洗練させたりする基礎的なスキルを身につける。4. 情報セキュリティとデータ倫理（ELSI）を実践できる 個人情報の保護、データ倫理、AI社会原則を正しく理解し、安全かつ責任あるデジタル市民として行動できる。5. デジタルツールを用いて「自分ならではの価値」を表現できる 正解をなぞる操作だけでなく、AIを活用しながら各学生の個性や独自の視点を反映させた成果物を作成できる。

<授業の方法>

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google ChromeがインストールされたWindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する。PDF形式が実

6	生成AI：思考のパートナーとの対話	務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する。
8	マルチメディアの性質と扱い方	生成AIとの対話を通じて大学生生活計画を作成する統合演習を行う。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する。
9	情報の収集とアンケートの設計	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する。
10	データの集計と可視化の基本	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う。
12	情報セキュリティと著作権・引用	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する。
15		自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する。
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [BC用]				担当者名	岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター、 第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのアウトプットを洗練させたりする基礎的なスキルを身につける。4. 情報セキュリティとデータ倫理（ELSI）を実践できる 個人情報の保護、データ倫理、AI社会原則を正しく理解し、安全かつ責任あるデジタル市民として行動できる。5. デジタルツールを用いて「自分ならではの価値」を表現できる 正解をなぞる操作だけでなく、AIを活用しながら各学生の個性や独自の視点を反映させた成果物を作成できる。

<授業の方法>

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google ChromeがインストールされたWindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する。PDF形式が実

6	生成AI：思考のパートナーとの対話	務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する。
8	マルチメディアの性質と扱い方	生成AIとの対話を通じて大学生生活計画を作成する統合演習を行う。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する。
9	情報の収集とアンケートの設計	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する。
10	データの集計と可視化の基本	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う。
12	情報セキュリティと著作権・引用	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する。
15		自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する。
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [FC用]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター、 第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのアウトプットを洗練させたりする基礎的なスキルを身につける。4. 情報セキュリティとデータ倫理（ELSI）を実践できる 個人情報の保護、データ倫理、AI社会原則を正しく理解し、安全かつ責任あるデジタル市民として行動できる。5. デジタルツールを用いて「自分ならではの価値」を表現できる 正解をなぞる操作だけでなく、AIを活用しながら各学生の個性や独自の視点を反映させた成果物を作成できる。

<授業の方法>

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google ChromeがインストールされたWindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する。PDF形式が実

6	生成AI：思考のパートナーとの対話	務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する。
8	マルチメディアの性質と扱い方	生成AIとの対話を通じて大学生生活計画を作成する統合演習を行う。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する。
9	情報の収集とアンケートの設計	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する。
10	データの集計と可視化の基本	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う。
12	情報セキュリティと著作権・引用	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する。
15		自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する。
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [FE(表現コース)用]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのアウトプットを洗練させたりする基礎的なスキルを身につける。4. 情報セキュリティとデータ倫理（ELSI）を実践できる 個人情報の保護、データ倫理、AI社会原則を正しく理解し、安全かつ責任あるデジタル市民として行動できる。5. デジタルツールを用いて「自分ならではの価値」を表現できる 正解をなぞる操作だけでなく、AIを活用しながら各学生の個性や独自の視点を反映させた成果物を作成できる。

<授業の方法>

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google ChromeがインストールされたWindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する。PDF形式が実務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する。
6	生成AI：思考のパートナーとの対話	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する。回

7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する。
8	マルチメディアの性質と扱い方	生成AIとの対話を通じて大学生生活計画を作成する統合演習を行う。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する。
9	情報の収集とアンケートの設計	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する。
10	データの集計と可視化の基本	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う。
12	情報セキュリティと著作権・引用	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する。
15		自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する。
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [FE用]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのアウトプットを洗練させたりする基礎的なスキルを身につける。4. 情報セキュリティとデータ倫理（ELSI）を実践できる 個人情報の保護、データ倫理、AI社会原則を正しく理解し、安全かつ責任あるデジタル市民として行動できる。5. デジタルツールを用いて「自分ならではの価値」を表現できる 正解をなぞる操作だけでなく、AIを活用しながら各学生の個性や独自の視点を反映させた成果物を作成できる。

<授業の方法>

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google ChromeがインストールされたWindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する。PDF形式が実務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する。
6	生成AI：思考のパートナーとの対話	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIとの対話を通じて大学生活計画を作成する統合演習を行う。ドキュメントの

		構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する。
8	マルチメディアの性質と扱い方	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する。
9	情報の収集とアンケートの設計	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する。
10	データの集計と可視化の基本	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する。
12	情報セキュリティと著作権・引用	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する。
15		
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [PH用]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター、 第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのアウトプットを洗練させたりする基礎的なスキルを身につける。4. 情報セキュリティとデータ倫理（ELSI）を実践できる 個人情報の保護、データ倫理、AI社会原則を正しく理解し、安全かつ責任あるデジタル市民として行動できる。5. デジタルツールを用いて「自分ならではの価値」を表現できる 正解をなぞる操作だけでなく、AIを活用しながら各学生の個性や独自の視点を反映させた成果物を作成できる。

<授業の方法>

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google ChromeがインストールされたWindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する。PDF形式が実

6	生成AI：思考のパートナーとの対話	務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する。
8	マルチメディアの性質と扱い方	生成AIとの対話を通じて大学生生活計画を作成する統合演習を行う。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する。
9	情報の収集とアンケートの設計	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する。
10	データの集計と可視化の基本	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う。
12	情報セキュリティと著作権・引用	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する。
15		自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する。
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [PS用]				担当者名	本庄 慶樹			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター、 第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必須

<授業の概要>

AI時代においてコンピュータの利活用は必須のスキルである。本科目では、コンピュータを利活用した情報活用能力の育成を目指し、コンピュータという機器操作だけではなく、情報の処理能力、情報の科学的理解、情報の社会的理解（情報社会の生活力）を学ぶものである。コンピュータ操作スキルを習熟は必要であり、Webアプリケーション（Google Workspace）を駆使して情報伝達に効果的なグラフィカルなドキュメントを作成する。これには課題に対する問題解決能力とグループワークを行うためのコミュニケーション能力も必要である。またこれに並行して、PCメールやweb情報検索の基礎及び情報モラル、メディア・リテラシーに関する知識を盛り込みながら、情報の科学的理解、情報の社会的理解の総合的な理解と将来の対応能力を育む。

<授業の到達目標>

1. デジタル社会（Society 5.0）の仕組みを理解し、主体的に参画できる 社会のあらゆる場面で活用されているデータの有用性を理解し、それが自身の生活や学習にどう結びついているかを説明できる。2. クラウド環境でのPC操作と共同作業をスムーズに行える Google Workspaceを用いて、クラウド上での効率的なファイル管理や情報の共有・共同編集ができる。3. 生成AIを「思考のパートナー」として適切に活用できる 生成AIとの対話（プロンプティング）を通じて、課題解決のヒントを得たり、自らのアウトプットを洗練させたりする基礎的なスキルを身につける。4. 情報セキュリティとデータ倫理（ELSI）を実践できる 個人情報の保護、データ倫理、AI社会原則を正しく理解し、安全かつ責任あるデジタル市民として行動できる。5. デジタルツールを用いて「自分ならではの価値」を表現できる 正解をなぞる操作だけでなく、AIを活用しながら各学生の個性や独自の視点を反映させた成果物を作成できる。

<授業の方法>

授業内でオンデマンド動画視聴し、その場で演習を行う。インターネットに接続され、Google ChromeがインストールされたWindowsまたはMacOSパソコンが必要となる。演習問題や課題の提出もオンラインで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り本授業では、生成AIとの対話型演習を導入する。学生はAIとの質疑応答を通じて仮説を構築し、その内容を検証・修正するプロセスを経る。AIの回答を比較・分析し、妥当性を評価する活動を行うことで、主体的学修態度および論理的思考力の向上を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内課題の復習を重視する。技能を習得するには、授業内で扱った課題だけではなく、それに類似する課題について復習してある程度手際良く作業することが求められる。動画の見直し、課題の復習を1時間程度行う必要がある。これは次回授業の予習の役目を果たす。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題60%、中間課題20%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	デジタルコミュニケーション	大学アカウントでのログインとブラウザ同期による環境構築を行う。Gmail、Chat、Meetの使い分けとマナー、共有カレンダーによる予定管理手法を習得する。
2	PC操作の基本と情報の可視化	ウィンドウ・スナップによる情報の並列処理やスクリーンショット技術を習得する。拡張子を表示させ、データの正体を見抜くことでサイバー攻撃への防御力を養う。
3	ファイル管理の作法と共有ルール	フォルダ階層や命名規則を学び、ZIP圧縮・展開時の実務上の注意点を理解する。クラウド上での適切な権限設定（閲覧・編集）の使い分けを習得する。
4	Society 5.0：社会とデータの関わり	Society 5.0やデータ駆動型社会の概要を概観する。デジタル技術が自身の生活や学習にどう結びついているかを学び、学習の動機付けを行う。
5	クラウド型ツールによる文書作成	スタイル機能（見出し）を用いた文書の構造化や共同編集を体験する。PDF形式が実

6	生成AI：思考のパートナーとの対話	務で「信頼される形式」として多用される意義を理解する。
7	【中間課題】AIとつくるロードマップ	生成AIを思考のパートナーとするためのプロンプト（指示文）技術を習得する。回答の妥当性を検証する視点とハルシネーションの概念を理解する。
8	マルチメディアの性質と扱い方	生成AIとの対話を通じて大学生生活計画を作成する統合演習を行う。ドキュメントの構造化、PDF化、ZIP圧縮による提出スキルを実践する。
9	情報の収集とアンケートの設計	画像（JPEG/PNG/SVG）、音声（MP3）、動画（MP4/MOV）の特性と実務上の選択基準を学ぶ。ファイルサイズを意識した「リンクによる共有」ルールを習得する。
10	データの集計と可視化の基本	Google フォームを用いたデータ収集の基礎を学ぶ。回答しやすさに配慮した項目設計（ユニバーサルデザイン）や論理的な設問構成を習得する。
11	プレゼンテーションの構成とデザイン	フォームデータの表計算ソフトへの連携と、目的に応じた適切なグラフの選択手法を学ぶ。データから現状を読み取るための基礎的な分析視点を養う。
12	情報セキュリティと著作権・引用	Google スライドを用い、論理的な構成（結論→根拠）の作り方を学ぶ。視覚的に情報を整理し、聴衆に伝えるための「引き算のデザイン」を習得する。
13	情報の発信：ウェブサイトの制作	個人情報保護やセキュリティ設定、正しい引用のルールを習得する。他人の著作物やAI生成物を扱う際の法的・倫理的留意事項（ELSI）を理解する。
14	【期末課題】身近な課題の解決提案	Google サイトを用いて学習成果を統合・発信する。第三者に伝えるための情報の構造化と、適切な公開範囲の設定手法を習得する。
15		自ら設定した課題に対し、データとAIを活用して解決策を提案する。ウェブサイト形式で成果を公開し、相互に閲覧・評価を行うプロセスを完遂する。
16		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	小川 雄太			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業では、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりが目的である。毎時の講話を通して①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけている。②五訓、特に「前進力」を高めることができるようになる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけている。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有クラス・グループに分かれ、テーマごとにディスカッションおよび成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 スピーチの準備等事前に告知された課題 1時間復習 テーマに即したレポートの作成1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等) 30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。
2	講話（ゲストスピーカー）	大学生のための非認知能力
3	ゲストスピーカー（講話）	非認知能力の伸ばし方
4	自己を振り返る	自分史を作成（オンデマンド）
5	体育とは何か	嘉納治五郎から、体育・体育人とは何かを学ぶ
6	ゲストスピーカー（聴講）	非認知能力の伸ばし方
7	スポーツイベント実践①	上級生とのコミュニティ形成
8	スポーツイベント実践②	上級生とのコミュニティ形成
9	スポーツイベント実践③	上級生とのコミュニティ形成
10	ビジネスマナー①	メールの方法、時間の使い方。
11	ビジネスマナー②	会話の受け答え、電話の取り方。
12	スポーツリンクプロジェクト計画①	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
13	スポーツリンクプロジェクト計画②	スポーツリンクプロジェクト計画を行う（2年クラスと合同）。
14	前期のまとめ	前期のまとめ
15		
16		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ループリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

<授業の方法>

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ループリックを活用した自己評価を継続的にを行い、学習内容の内在化を促す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ループリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

<授業の方法>

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ループリックを活用した自己評価を継続的に行い、学習内容の内在化を促す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史のおよび文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
14	【学期末集会】	学期末集会を通じて、自らの現時点までの学びの振り返りと今後の学習生活プランを再設計する。
15		
16		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	江口 尚文			
配当年次	1年	配当学期	第1・第 2クオー ター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ループリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

<授業の方法>

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ループリックを活用した自己評価を継続的にを行い、学習内容の内在化を促す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	古松 丈周			
配当年次	1年	配当学期	第1・第 2クオー ター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ループリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

<授業の方法>

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ループリックを活用した自己評価を継続的にを行い、学習内容の内在化を促す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ループリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

<授業の方法>

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ループリックを活用した自己評価を継続的にを行い、学習内容の内在化を促す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ループリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

<授業の方法>

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ループリックを活用した自己評価を継続的にを行い、学習内容の内在化を促す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	北村 和久			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ループリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

<授業の方法>

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ループリックを活用した自己評価を継続的にを行い、学習内容の内在化を促す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ループリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

<授業の方法>

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ループリックを活用した自己評価を継続的にを行い、学習内容の内在化を促す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業 科目名	フレッシュマンセミナー				担当者名	溝越 隆興			
配当年次	1年	配当学期	第1・第 2クオー ター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では新入生を「社会人-4.0」と位置付け、4年後に即戦力で組織に貢献できる人材になるための基礎的なリテラシー形成を目指す。特に、本学が掲げる「IPU五訓（礼節・克己・信頼・前進・感謝）」を軸として、それぞれの意味を単なる理念としてではなく、社会における行動原理として捉え直すことを重視する。学生は、ループリックを用いた自己評価と振り返りを通じて、自らの行動を客観的に見つめ、改善していく姿勢を身につける。【PC・スマホ・筆記用具必須】なお、マナー研修の一環として、指定された日にはスーツ・革靴の着用を必須とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として求められる基本的な行動基準を理解し、自らの言葉で説明できること。2. IPU五訓の内容を具体的な行動と結びつけて解釈できること。3. 自己の行動を振り返り、改善に向けた課題を自覚できること。4. 自身の価値観に基づいた行動指針（Myルール）を形成できること。

<授業の方法>

本授業は講義形式を基本としつつ、ペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。各回において具体的な事例や日常場面を取り上げ、学生が自ら考え、言語化する機会を重視する。また、ループリックを活用した自己評価を継続的にを行い、学習内容の内在化を促す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有りペアワークやグループディスカッション、短時間のリフレクション活動を組み合わせて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業ごとにリフレクションペーパーが課せられる。（1時間程度を想定）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：「社会人-4.0とは何か」	本授業の導入として、「社会人-4.0」という概念を提示し、大学生から社会人への移行において求められる行動基準について理解する。あわせて、社会人として期待される役割や責任の基本構造を整理し、本授業全体の位置づけを確認する。さらに、自己の現状を振り返り、理想とする社会人像を言語化することで、今後の学習の方向性を明確にする。
2	ルールとマナーの意味	社会におけるルールやマナーの役割について、歴史的および文化的背景を踏まえて理解する。マナーを単なる形式として捉えるのではなく、他者との摩擦を減らし円滑な関係を築くための機能として再解釈する。具体例をもとに、マナーの「意味」と「目的」を考察し、状況に応じた適切な行動選択の重要性を理解する。
3	講話①	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
4	【オンデマンド週】IPU五訓① 礼節	IPU五訓の一つである「礼節」について、その本質的な意味を理解する。礼節を上下関係の表現としてではなく、他者との関係性を尊重し信頼を築くための行動として捉える。非言語コミュニケーションや第一印象の形成との関連を踏まえ、具体的な場面における適切な振る舞いについて考察する。
5	IPU五訓② 克己	「克己」をテーマに、目標達成に向けた自己管理や習慣形成の重要性について理解する。自分に甘くなる心理的要因や行動の継続が難しい理由を整理し、それを乗り越えるための工夫について考察する。日常生活における具体的な行動改善の計画を立て、実践につなげる視点を養う。

6	IPU五訓③ 信頼	五訓における「信頼」を、個人の行動だけでなく他者との関係性の中で捉え直す。協働やチーム活動において信頼がどのように形成されるかを理解し、相互依存の重要性について考察する。具体的な協働場面を想定し、信頼を築くための行動や態度について検討する。
7	IPU五訓④ 前進	「前進」をテーマに、困難や失敗に直面した際の捉え方と行動について理解する。失敗を否定的に捉えるのではなく、学習や成長の機会として再解釈する視点を養う。挑戦を継続することの意義や、粘り強く取り組む姿勢について具体例を通じて考察する。
8	IPU五訓⑤ 感謝	「感謝」を中心に、自己が他者や社会の支えの中で成り立っていることを理解する。感謝の気持ちが人間関係や信頼の形成に与える影響について考察し、利他的な行動の意義を学ぶ。日常生活における感謝の表現とその効果について具体的に検討する。
9	講話②	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
10	社会人-4.0と五訓	これまでに扱った社会人-4.0の基準とIPU五訓の内容を統合的に整理する。それぞれの概念がどのように関連し合い、具体的な行動として表れるのかを構造的に理解する。自らの価値観と照らし合わせながら、行動指針としての整理を行う。
11	常識を相対化する	世の中には「常識」と思われること、自分にとっては「常識」と思われることがある。しかし、一方で、それは人によっては「常識」ではない場合がある。このように、世の中にある常識に目を向け、それがなぜ「常識」と言えるのか、他の人はどう感じているのかについて、グループで話し合う。
12	講話③	学内外の講師をお招きしてご講話をいただく。
13	学科交流会①	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「食」を題材に、それぞれの地域の食文化について学びあう。
14	学科交流会②	日本人学生・留学生の枠を超えて、文化的な交流会を行う。「マナー」を題材に、他文化の生活について学びあう。
15		
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC日本人①]				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、2つのプレゼンテーション 40%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Communicating in English	Introducing yourself and others;asking for personal information;giving personal information to others
3	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance;describing personality characteristics;discussing personal interests
4	Unit 3: Free time	Talking about hobbies;describing sports characteristics;discussing extreme sports
5	Unit 4: People	Talking about families;discussing living arrangements;describing a good friend
6	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences;giving compliments; suggesting gifts;discussing spending habits and attitudes
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey;discussing famous places;talking about things to take on a trip
9	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits;planning a meal; describing traditional mealsand unusual foods
10	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows;taking a TV survey;planning a TV schedule
11	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles;taking health and sleep habit quizzes;discussing sleep and dreams
12	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things;discussing problems andgiving good advice
13	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions;talking about cities; recommending places;planning a fun day out
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC日本人②]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 5 (異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC日本人③]+再履修者用				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods

9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC留学生①]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 5 (異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topics Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [BC留学生②]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 5 (異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FC①]				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods

9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FC②]+FC再履修者				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 5 (異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 30%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 40%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk 1 Student's Book with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topics Introducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics; discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FE①]				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 5 (異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10101				区 分	教養科目			
授業科目名	英会話 [FE②]+FE再履修者				担当者名	Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

初級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事などの文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的なことについてであれば情報交換に応じることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。また、授業資料の配布や提出にはプラットフォームである Google Classroom を介して、Google Sheets や Google forms などを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：英語のプレゼンテーションの準備(1時間程度)等事後：授業の後に目標の応用「例、友達とフリートーク、目標の単語・文法で自分のアイデアを構築する」(2時間程度)等

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 5 (異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones(2007年9月1日) Let' Talk 1Student's Book withSelf-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Guidance / Unit 1: Communicating in English	Explanation of classroom learning, grading procedures, and other related topicsIntroducing yourself and others; asking for personal information; giving personal information to others
2	Unit 2: All kinds of people	Describing personal appearance; describing personality characteristics;discussing personal interests
3	Unit 3: Free time	Talking about hobbies; describing sports characteristics; discussing extreme sports
4	Unit 4: People	Talking about families; discussing living arrangements; describing a good friend
5	Unit 5: Money	Talking about shopping habits and preferences; giving compliments; suggesting gifts; discussing spending habits and attitudes
6	Unit 6: Travel and tourism	Describing past trips; talking a vacation survey; discussing famous places; talking about things to take on a trip
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 7: Food and drink	Talking about food; describing eating habits; planning a meal; describing traditional meals and unusual foods
9	Unit 8: Entertainment	Discussing movies and TV shows; taking a TV survey; talking about

		YouTube/Streaming viewing
10	Unit 9: Health	Discussing healthy lifestyles; taking health and sleep habit quizzes; discussing sleep and dreams
11	Unit 10: Self-improvement	Talking about ways to remember things; discussing problems and giving good advice
12	Unit 11: In the city	Asking for and giving directions; talking about cities; recommending places; planning a fun day out
13	Unit 12: Customs	Talking about ways people celebrate holidays; discussing and giving advice about manners; comparing customs
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。

【PC・スマホ・筆記用具必須】

<授業の到達目標>

1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

<授業の方法>

講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

7	生成AIを学習・研究に活用する	基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③ 生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起る仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用するには、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビューイに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。

【PC・スマホ・筆記用具必須】

<授業の到達目標>

1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

<授業の方法>

講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

7	生成AIを学習・研究に活用する	基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③ 生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用するには、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビューイに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	江口 尚文			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。

【PC・スマホ・筆記用具必須】

<授業の到達目標>

1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

<授業の方法>

講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

7	生成AIを学習・研究に活用する	基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③ 生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用するには、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビューイに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	古松 丈周			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。

【PC・スマホ・筆記用具必須】

<授業の到達目標>

1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

<授業の方法>

講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

7	生成AIを学習・研究に活用する	基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③ 生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用するには、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビューーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。

【PC・スマホ・筆記用具必須】

<授業の到達目標>

1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

<授業の方法>

講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

7	生成AIを学習・研究に活用する	基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③ 生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用するには、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビューイに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。

【PC・スマホ・筆記用具必須】

<授業の到達目標>

1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

<授業の方法>

講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

7	生成AIを学習・研究に活用する	基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③ 生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用するには、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビューイに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	北村 和久			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。

【PC・スマホ・筆記用具必須】

<授業の到達目標>

1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

<授業の方法>

講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

7	生成AIを学習・研究に活用する	基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③ 生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用するには、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビューーに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。

【PC・スマホ・筆記用具必須】

<授業の到達目標>

1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

<授業の方法>

講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

7	生成AIを学習・研究に活用する	基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③ 生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用するには、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビューイに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	溝越 隆興			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。

【PC・スマホ・筆記用具必須】

<授業の到達目標>

1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

<授業の方法>

講義・演習・実技などの形態をとる。授業内で反転学習を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループワークやディスカッションを入れる。プレゼンテーションを行うこともある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、課題の準備などを各授業で指示する。（事前・事後ともに1時間程度の課題となる）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。特に、「個人での学び」と「チームでの学び」について意識をもち、クラスのチームビルディングを行う。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。※個人面談①
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談②
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための

7	生成AIを学習・研究に活用する	基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。※個人面談③ 生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHumanin-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。※個人面談④
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用するには、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビューイに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う（1）	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う（2）	本講義では、資料の要旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う（3）	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	11101				区 分	教養科目			
授業科目名	心理学 [A]				担当者名	戸田 晃大			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

「心理学的には...。」というフレーズを、多くの人は耳にしたことがあるはずです。ただ、それは本当に「心理学的」なのでしょう。か。“心”は誰にとっても身近なものです。しかし、ほとんどの人にとって、“心”について科学的に考える機会は多くありません。本講義では、心理学の知識や方法について、体験を通して学んでいきます。時間の都合上、心理学という領域を網羅的に説明することはできません。しかし、皆さんが今後心理学について学びを広げ、深めていく上で、本講義での経験は貴重なものとなるはずです。

<授業の到達目標>

1. 学習した心理学の用語に関して、説明の正誤を判断できる (○×クイズに正解できる) 2. 心理学を批判的に捉えるための視点を身につけ、自分が関心を持ったテーマについて、発表や質疑応答、相互評価をすることができる

<授業の方法>

多様な学習活動を通して、学習目標として設定された知識、視点の獲得を目指す。学習活動は対面で実施される。活動の詳細については下記、アクティブラーニングに記載されている。課題はGoogle Classroomから提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。学習活動として、主に下記が実施されます。1. 知識の修正・定着を目的とする○×クイズと、それに関する議論 2. 小実験や調査への参加と、それに関する議論 3. 学習した内容に関する批判的な議論

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業：簡単な感想をシートに記入する内容に応じて実施：予習動画の視聴、○×クイズ（復習用）への回答、問いについての検討など参考書（任意）：各授業で扱った内容と関連するものを提示します。本シラバスには心理学全体に関する参考書をいくつか提示します（新書で読みやすいものを選択しています）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎週提出の学習活動への取り組み：50%（第1回～12回）最終課題①：関心テーマの発表と議論：30%（第13回、第14回）最終課題②：最終○×クイズの達成率：20%（期末試験期間）※②について：授業の進行に合わせて出題される○×クイズの類題で全問正解をめざす。なお、特定の試験日は設けず、一定の期間内で正解できた問題数が成績に反映される（詳細はオリエンテーションで説明します）。

<教科書>

指定なし（スライドを配布します）

<参考書>

大芦 治（2023年4月7日）心理学をつくった実験30 ちくま新書
サトウタツヤ（2015年10月5日）心理学の名著30 ちくま新書
山田 祐樹（2026年2月9日）変な心理学 一バズっているアレの正体 ちくま新書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義の決まりごと、課題の提出方法、連絡の取り方について確認し、疑問点は質問する。
2	心理学の眺め方：実証を重要視する心理学（記憶を具体例として）①	実証、二重貯蔵モデル、実験法などについての説明を聞き、関連する学習活動に参加する。その中で、心理学の知見が実証的な根拠に基づいて形成されていることを実感する。
3	心理学の眺め方：実証を重要視する心理学（記憶を具体例として）②	①の続きから
4	心理学を自分なりに眺めてみよう（ゴールデンウィーク期間のためオンデマンド）	第2、3回で学んだことを踏まえ、関心のある内容について学術書やネット記事（例えばコトバンク掲載の心理学事典）で確認し、その中で考えたことをまとめる。
5	モチベーションを質問紙法で測定する①	心理学の研究で頻繁に用いられる質問紙法を実際に体験し、自分の動機づけ測定する。その後、質問紙法や面接法といった心理学の研究手法、今回の測定対象である動機づけ、測定における信頼性、相関係数などについて学び、体験した質問紙調査を捉え直す。
6	モチベーションを質問紙法で測定する②	①の続きから
7	モチベーションを質問紙法で測定する③	②の続きから

8	知能検査と妥当性①	知能検査の発展について、心理学の測定において重要視される妥当性の観点から批判的に捉える。その中で、知能の理論や標準化など、関連知識についても学ぶ。
9	知能検査と妥当性②	①の続きから
10	指定トピック①	皆さんの関心、課題の実施状況に応じて、教員が柔軟にテーマを選択して授業を実施します。テーマ例：学習、知覚、認知、生理、発達、パーソナリティ、社会、臨床
11	指定トピック②	皆さんの関心、課題の実施状況に応じて、教員が柔軟にテーマを選択して授業を実施します。テーマ例：学習、知覚、認知、生理、発達、パーソナリティ、社会、臨床
12	指定トピック③	皆さんの関心、課題の実施状況に応じて、教員が柔軟にテーマを選択して授業を実施します。テーマ例：学習、知覚、認知、生理、発達、パーソナリティ、社会、臨床
13	最終課題①：関心テーマ発表会（準備）	自分が関心を持ったテーマについて、これまでに学習した「心理学の捉え方」を踏まえてまとめる。
14	最終課題①：関心テーマ発表会（発表と相互評価）	第13回でまとめたテーマについて、少人数グループで発表する。また、他の人の発表を聞き、質問・相互評価を行う。最後に、他の人のフィードバックなどを踏まえて、自分の発表の改善点を指摘する。
15		
16		

科目コード	11101				区 分	教養科目			
授業科目名	心理学 [B]				担当者名	戸田 晃大			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

「心理学的には...」というフレーズを、多くの人は耳にしたことがあるはずです。ただ、それは本当に「心理学的」なのでしょう。か。「心」は誰にとっても身近なものです。しかし、ほとんどの人にとって、「心」について科学的に考える機会はありません。本講義では、心理学の知識や方法について、体験を通して学んでいきます。時間の都合上、心理学という領域を網羅的に説明することはできません。しかし、皆さんが今後心理学について学びを広げ、深めていく上で、本講義での経験は貴重なものとなるはずです。

<授業の到達目標>

1. 学習した心理学の用語に関して、説明の正誤を判断できる (○×クイズに正解できる) 2. 心理学を批判的に捉えるための視点を身につけ、自分が関心を持ったテーマについて、発表や質疑応答、相互評価をすることができる

<授業の方法>

多様な学習活動を通して、学習目標として設定された知識、視点の獲得を目指す。学習活動は対面で実施される。活動の詳細については下記、アクティブラーニングに記載されている。課題はGoogle Classroomから提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。学習活動として、主に下記が実施されます。1. 知識の修正・定着を目的とする○×クイズと、それに関する議論 2. 小実験や調査への参加と、それに関する議論 3. 学習した内容に関する批判的な議論

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業：簡単な感想をシートに記入する内容に応じて実施：予習動画の視聴、○×クイズ（復習用）への回答、問いについての検討など参考書（任意）：各授業で扱った内容と関連するものを提示します。本シラバスには心理学全体に関する参考書をいくつか提示します（新書で読みやすいものを選択しています）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎週提出の学習活動への取り組み：50%（第1回～12回）最終課題①：関心テーマの発表と議論：30%（第13回、第14回）最終課題②：最終○×クイズの達成率：20%（期末試験期間）※②について：授業の進行に合わせて出題される○×クイズの類題で全問正解をめざす。なお、特定の試験日は設けず、一定の期間内で正解できた問題数が成績に反映される（詳細はオリエンテーションで説明します）。

<教科書>

指定なし（スライドを配布します）

<参考書>

大芦 治（2023年4月7日）心理学をつくった実験30 ちくま新書
サトウタツヤ（2015年10月5日）心理学の名著30 ちくま新書
山田 祐樹（2026年2月9日）変な心理学 一バズっているアレの正体 ちくま新書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義の決まりごと、課題の提出方法、連絡の取り方について確認し、疑問点は質問する。
2	心理学の眺め方：実証を重要視する心理学（記憶を具体例として）①	実証、二重貯蔵モデル、実験法などについての説明を聞き、関連する学習活動に参加する。その中で、心理学の知見が実証的な根拠に基づいて形成されていることを実感する。
3	心理学の眺め方：実証を重要視する心理学（記憶を具体例として）②	①の続きから
4	心理学を自分なりに眺めてみよう（ゴールデンウィーク期間のためオンデマンド）	第2、3回で学んだことを踏まえ、関心のある内容について学術書やネット記事（例えばコトバンク掲載の心理学事典）で確認し、その中で考えたことをまとめる。
5	モチベーションを質問紙法で測定する①	心理学の研究で頻繁に用いられる質問紙法を実際に体験し、自分の動機づけ測定する。その後、質問紙法や面接法といった心理学の研究手法、今回の測定対象である動機づけ、測定における信頼性、相関係数などについて学び、体験した質問紙調査を捉え直す。
6	モチベーションを質問紙法で測定する②	①の続きから
7	モチベーションを質問紙法で測定する③	②の続きから

8	知能検査と妥当性①	知能検査の発展について、心理学の測定において重要視される妥当性の観点から批判的に捉える。その中で、知能の理論や標準化など、関連知識についても学ぶ。 ①の続きから 皆さんの関心、課題の実施状況に応じて、教員が柔軟にテーマを選択して授業を実施します。テーマ例：学習、知覚、認知、生理、発達、パーソナリティ、社会、臨床 皆さんの関心、課題の実施状況に応じて、教員が柔軟にテーマを選択して授業を実施します。テーマ例：学習、知覚、認知、生理、発達、パーソナリティ、社会、臨床 皆さんの関心、課題の実施状況に応じて、教員が柔軟にテーマを選択して授業を実施します。テーマ例：学習、知覚、認知、生理、発達、パーソナリティ、社会、臨床 自分が関心を持ったテーマについて、これまでに学習した「心理学の捉え方」を踏まえてまとめる。 第13回でまとめたテーマについて、少人数グループで発表する。また、他の人の発表を聞き、質問・相互評価を行う。最後に、他の人のフィードバックなどを踏まえて、自分の発表の改善点を指摘する。
9	知能検査と妥当性②	
10	指定トピック①	
11	指定トピック②	
12	指定トピック③	
13	最終課題①：関心テーマ発表会（準備）	
14	最終課題①：関心テーマ発表会（発表と相互評価）	
15		
16		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [FC用]				担当者名	中安 翼			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、小学校で扱う運動を実際に味わいながら、学習者の目線だけでなく指導者の目線で運動指導について思考を深める。特に運動の得意や苦手に関係なく誰もが楽しめる「共生」の視点を重視した運動の在り方について考え、実践できるようにする。※ただし、授業の様子に応じて下記の計画が変更になる場合もある。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、扱う運動そのもののおもしろさを知り、他者とともに運動を楽しむことができる力を身につけるとともに、自分が指導者となった際にそのような指導を実現するためのポイントを見出せるようにする。特に「共生」の視点での思考が深められるようにする。

<授業の方法>

実技を中心に行う。安全配慮として、毎時間活動前に用具の点検と学生の健康確認を徹底し、運動に適した服装とシューズの着用を義務付ける。事故発生時には直ちに活動を中断し、教職員への緊急連絡および保健室連携、救急要請等、迅速かつ適切な対応を行う。クラスルームを活用して課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション、グループでより楽しめる運動の方法を試行錯誤する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：授業以外の時間にも運動に取り組んでおく。 復習：授業での学びをレポートにまとめる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、 レポート50%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、授業の概要
2	玉よせゲーム	玉よせゲームを通して、誰もが楽しめる運動について考える
3	多様な動きをつくる運動	多様な動きをつくる運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
4	生活の中に運動を取り入れよう（オンデマンド）	自分の日常生活の中に運動を取り入れ、そのよさを考える
5	ドッジボール	ドッジボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
6	リレー	リレーを通して、誰もが楽しめる運動について考える
7	表現運動	表現運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
8	投運動	投運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
9	ボートボール	ボートボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
10	ボートボール	ボートボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
11	フラッグフットボール	フラッグフットボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
12	フラッグフットボール	フラッグフットボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
13	ニュースポーツ	ニュースポーツを通して、誰もが楽しめる運動について考える
14	まとめ	本授業を振り返って、得た学びをまとめる
15		
16		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [FE①]				担当者名	中安 翼			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、小学校で扱う運動を実際に味わいながら、学習者の目線だけでなく指導者の目線で運動指導について思考を深める。特に運動の得意や苦手に関係なく誰もが楽しめる「共生」の視点を重視した運動の在り方について考え、実践できるようにする。※ただし、授業の様子に応じて下記の計画が変更になる場合もある。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、扱う運動そのもののおもしろさを知り、他者とともに運動を楽しむことができる力を身につけるとともに、自分が指導者となった際にそのような指導を実現するためのポイントを見出せるようにする。特に「共生」の視点での思考が深められるようにする。

<授業の方法>

実技を中心に行う。安全配慮として、毎時間活動前に用具の点検と学生の健康確認を徹底し、運動に適した服装とシューズの着用を義務付ける。事故発生時には直ちに活動を中断し、教職員への緊急連絡および保健室連携、救急要請等、迅速かつ適切な対応を行う。クラスルームを活用して課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション、グループでより楽しめる運動の方法を試行錯誤する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：授業以外の時間にも運動に取り組んでおく。 復習：授業での学びをレポートにまとめる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、 レポート50%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、授業の概要
2	玉よせゲーム	玉よせゲームを通して、誰もが楽しめる運動について考える
3	多様な動きをつくる運動	多様な動きをつくる運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
4	生活の中に運動を取り入れよう（オンデマンド）	自分の日常生活の中に運動を取り入れ、そのよさを考える
5	ドッジボール	ドッジボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
6	リレー	リレーを通して、誰もが楽しめる運動について考える
7	表現運動	表現運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
8	投運動	投運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
9	ボートボール	ボートボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
10	ボートボール	ボートボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
11	フラッグフットボール	フラッグフットボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
12	フラッグフットボール	フラッグフットボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
13	ニュースポーツ	ニュースポーツを通して、誰もが楽しめる運動について考える
14	まとめ	本授業を振り返って、得た学びをまとめる
15		
16		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [FE②]				担当者名	中安 翼			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、小学校で扱う運動を実際に味わいながら、学習者の目線だけでなく指導者の目線で運動指導について思考を深める。特に運動の得意や苦手に関係なく誰もが楽しめる「共生」の視点を重視した運動の在り方について考え、実践できるようにする。※ただし、授業の様子に応じて下記の計画が変更になる場合もある。

<授業の到達目標>

本科目における学習では、扱う運動そのもののおもしろさを知り、他者とともに運動を楽しむことができる力を身につけるとともに、自分が指導者となった際にそのような指導を実現するためのポイントを見出せるようにする。特に「共生」の視点での思考が深められるようにする。

<授業の方法>

実技を中心に行う。安全配慮として、毎時間活動前に用具の点検と学生の健康確認を徹底し、運動に適した服装とシューズの着用を義務付ける。事故発生時には直ちに活動を中断し、教職員への緊急連絡および保健室連携、救急要請等、迅速かつ適切な対応を行う。クラスルームを活用して課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション、グループでより楽しめる運動の方法を試行錯誤する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：授業以外の時間にも運動に取り組んでおく。 復習：授業での学びをレポートにまとめる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、 レポート50%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意、評価方法、授業の概要
2	玉よせゲーム	玉よせゲームを通して、誰もが楽しめる運動について考える
3	多様な動きをつくる運動	多様な動きをつくる運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
4	生活の中に運動を取り入れよう（オンデマンド）	自分の日常生活の中に運動を取り入れ、そのよさを考える
5	ドッジボール	ドッジボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
6	リレー	リレーを通して、誰もが楽しめる運動について考える
7	表現運動	表現運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
8	投運動	投運動を通して、誰もが楽しめる運動について考える
9	ボートボール	ボートボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
10	ボートボール	ボートボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
11	フラッグフットボール	フラッグフットボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
12	フラッグフットボール	フラッグフットボールを通して、誰もが楽しめる運動について考える
13	ニュースポーツ	ニュースポーツを通して、誰もが楽しめる運動について考える
14	まとめ	本授業を振り返って、得た学びをまとめる
15		
16		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [FE③(表現コース用)]				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、限られた室内空間において実施可能な身体表現活動を通して、運動の新たな価値を探究する。小学校体育で扱う運動の要素を基盤としながら、「表現」の視点から再構成し、学習者としての体験と指導者としての省察を往還しながら理解を深める。特に、運動の得意・不得意に関わらず誰もが参加できる「共生」の視点を重視し、身体表現を通じた関係性の構築とその指導の在り方について考察・実践する。なお、授業の進行状況に応じて内容を一部変更する場合がある。

<授業の到達目標>

本授業では、身体表現活動の特性を理解し、そのおもしろさや可能性を実感するとともに、他者と関わりながら表現を深める力を養う。加えて、指導者の視点から、誰もが参加しやすい運動・表現活動を構想するための観点を獲得する。特に、「共生」の視点に立ち、個々の差異を活かした表現活動の在り方について思考を深めることを目標とする。

<授業の方法>

実技（室内での身体表現活動を中心とする）。ICT（Google Classroom等）を活用し、課題の提示・提出および振り返りを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワークを中心に、即興的な身体表現や課題解決型の活動を行う。グループでのディスカッションや試行錯誤を通して、「誰もが参加できる表現活動」の方法を探究する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：日常生活の中で身体の動きや他者との関わりに目を向け、表現の素材となる経験を蓄積する。復習：授業での気づきや身体感覚の変化を整理し、レポートとして言語化する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー1（他者と関わりながら自己を調整し、課題解決を図る力）およびディプロマポリシー2（専門分野における知識・技能の獲得）と関連する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（主体的な参加、他者との関わり）50%レポート（思考の深まり、言語化）50%

<教科書>

特になし

<参考書>

必要に応じて授業内で提示する

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的（受講上の注意、評価方法、授業の概要）・「共生」と表現の関係
2	からだほぐしと関係づくり	空間・他者との関係を感じる基礎的な身体表現
3	多様な動きをつくる運動	日常動作を素材にした表現の展開
4	生活と表現（オンデマンド）	日常にある動きを表現として捉える
5	ボールを用いた表現①	投げる・受けるを表現へと変換する
6	ボールを用いた表現②	関係性の中での動きの創出
7	リズムと身体	音やリズムと身体の関係
8	空間を使った表現	狭い空間での構成・動線の工夫
9	グループ表現①	テーマに基づく即興表現
10	グループ表現②	構成・展開の工夫
11	共生の視点①	多様な他者を想定した表現づくり
12	共生の視点②	鑑賞とフィードバックを通じた深化
13	創作・発表	グループ作品の発表
14	まとめ	学びの振り返りと指導観の整理
15		
16		

科目コード	10105				区 分	教養科目			
授業科目名	体育実技 [PH用]				担当者名	坂本 賢広／畑島 紀昭			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

数あるスポーツの中でも、プラスチック製の円盤形状をしたフリスビー™を使用して行われるフライングディスクスポーツ（FLYING DISC SPORTS）がある。「フリスビー™」は商品名であるため、フライングディスク（ディスク）という名称が使われている。一般社団法人日本フライングディスク協会（JFDA）によると国内での正式種目は12種目（アルティメット・ビーチアルティメット・ガッツ・ディスクゴルフ・フリースタイル・ダブルディスクコート・ディスクソーン・ディスタンス・アキュラシー・マキシマムタイムアフロフト・スローランアンドキャッチ・ドッジビー（国内のみ正式種目））あり、世界フライングディスク連盟（WFDF）ではドッジビーを抜いた11種目が正式種目となっている。本授業は、このフライングディスクスポーツの専門競技の中の一部を紹介するとともに実践を通じて新しいスポーツ文化を理解・吸収することを狙いとしている。そして「空中を浮遊するDISC を本能的に追いかける人間の営み」を実体験し、その不思議な魅力に触れて欲しいと思う。ディスクの最大の特徴は世界記録で335m を越す飛距離と円盤特性による曲進性・滞空性である。ディスクを遠くへ、思う所へ投げることはとても難しく、投げ方も一通りではない。このスポーツを楽しむ重要な要素が、投げる技術の獲得でもある。従って、技能向上も重要な目的として授業を展開する。本授業では、パラスポーツであるポッチャも実施する。ポッチャを通じて年齢・性別・障がいの有無に関わらず誰もが楽しめるスポーツの理解を深めるとともに、基礎的な技能および戦術的思考力の習得を目的とする。ポッチャの基本ルールや投球技術（アプローチ・プッシュ・ヒットなど）を段階的に学び、ゲーム形式の実践を通して、状況判断力やチームでのコミュニケーション能力を養う。また、対戦や振り返りを通じて、フェアプレー精神や他者理解、多様性の尊重についても学習する。さらに、戦術の工夫や試合の分析を行うことで、競技としての面白さだけでなく、スポーツの持つ社会的意義についても理解を深める。

<授業の到達目標>

本授業を通して、新しいスポーツの文化に触れて不思議な魅力を感じて欲しい。本授業で紹介、実施する競技は、ディスタンス・ディスクゴルフ・ガッツ・ダブルディスクコート・アルティメットの5種目とする。特にアルティメット競技では、選手自身が選手と同時に審判（自己審判性：セルフジャッジ制）の役割も担う非常に珍しいスポーツであり、SOTG（Spirit Of The Game）という紳士的な基本理念に基づき競技が行われる。本学が育成する非認知能力を伸ばすために最も適したスポーツともいえる。本授業を通して、フェアプレー精神に対する責任感を感じてもらい、他人とのコミュニケーションの重要性を理解すると同時に、ディスクを投げる技術の習得をめざす。ポッチャの基本ルールおよび安全に関する知識を理解し、適切に説明できることを目標とする。また、アプローチ・プッシュ・ヒットといった基本的な投球技術を習得し、状況に応じて実践できる力を養う。さらに、試合の中で目標球（ジャックボール）との位置関係を把握し、「寄せる」「はじく」「守る」といった基本的な戦術を考え、判断・実行できる力を身につける。加えて、チームや対戦相手と円滑にコミュニケーションを取りながら協力して競技に取り組む態度を育成するとともに、ポッチャを通して障がいの有無に関わらず共に楽しむスポーツの価値や、多様性を尊重する姿勢を養う。さらに、試合や活動の振り返りを通して、自身の課題や改善点を見出し、主体的に学びを深めることができるようになることを目指す。

<授業の方法>

サッカーラグビー場または体育館にてディスクの投げ方とキャッチの技術練習を行う。必要に応じて資料を配付する。体育実技（PH用）は、ディプロマポリシー1 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野を通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。また、ディプロマポリシー2 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。技術習得には、一般社団法人日本フライングディスク協会の公認指導者資格制度にある公認指導者認定試験ディスクアドバイザー3級を参考に確認テストを実施す

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）3～9人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認し、どのような内容であるかまとめ授業最初に確認を行う。（毎回、1時間程度）復習：必要に応じて確認小テストを実施する。（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲40%（出席含め）小テスト10%（フライングディスクスポーツ・ポッチャ競技の理解：各競技について説明できる、ルールを理解するなどペーパーテストまたはGoogle formsを実施）実技試験50%（フライングディスク：①バックハンドスローとフォアハンドスローをそれぞれ16m以上超えられること（3回中1回でも成功すれば良い）、②各種目のルールが理解できている。ポッチャ：審判員として試合を適切に運営できること（投球順、ボールアウト時の取り扱い、ファイナルショットの運営）。②ルールが理解できている。）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション基礎投法①	技術練習(フライングディスク：バックハndsロー・キャッチの方法)(ボッチャ：投球方法の模索)
2	基礎投法②	技術練習(フライングディスク：バックハndsロー・フォアハndsロー・キャッチの方法など)(ボッチャ：アプローチの練習など)
3	基礎投法③	技術練習(フライングディスク：バックハndsロー・フォアハndsロー・アップサイドダウンスロー・カーブスロー・キャッチの方法など)(ボッチャ：プッシュ・ヒットの練習)
4	基礎的技術と知識の確認	フライングディスク：基礎的技術習得確認のための記録会(ディスタンス・アキュラシー競技(的通りゲーム)など)、知識の確認(確認小テスト：ペーパーテスト)ボッチャ：アプローチ・プッシュ・ヒットの技術確認
5	個人競技①	フライングディスク：ディスクゴルフを体験する。ボッチャ：個人戦体験(立位)
6	個人競技②	フライングディスク：ディスクゴルフを体験する(ラウンドほか)ボッチャ：個人戦体験(座位)
7	集団ゲーム①	フライングディスク：ガッツを体験する。ボッチャ：県大会チーム戦体験(立位)
8	集団ゲーム②	フライングディスク：ガッツを体験する(試合形式での実践)ボッチャ：県大会チーム戦体験(座位)
9	集団ゲーム③	フライングディスク：ダブルディスクコートを体験するボッチャ：ランプを使用した競技体験①
10	集団ゲーム④フライングディスク：知識の確認(確認小テスト：ペーパーテスト)	フライングディスク：ディスクの技術確認、これまで行ったフライングディスク競技の知識確認、アルティメット競技を体験する。ボッチャ：ランプを使用した競技体験②
11	集団ゲーム⑤	フライングディスク：ルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う①ボッチャ：ボッチャのもとにゆるスポーツを考える①
12	集団ゲーム⑥	フライングディスク：ルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う②ボッチャ：ボッチャのもとにゆるスポーツを考える②
13	集団ゲーム⑦	フライングディスク：ルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う③ボッチャ：ゆるスポーツを実施する。
14	まとめ	総合：フライングディスク：ルールを取り入れながらアルティメット競技を試合形式で行う④。SOTG(Spirit Of The Game)を実践する。ボッチャ：試合の運営を実施する。
15		
16		

科目コード	11102				区 分	教養科目			
授業科目名	哲学				担当者名	岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

哲学（Philosophy）は最古の学問である。あらゆる学問は哲学から展開し、細分化し、発展してきた。現代に至るまで哲学はあらゆる学問を支えてきた。哲学はその意味で世界に通用する教養でもある。本授業では初めて哲学に触れる人にもわかるように、新書『物語 哲学の歴史』（伊藤邦武）を独力で読めることを目標に哲学史を概観する。

<授業の到達目標>

1. 哲学の歴史について大きな流れを把握する2. 哲学とは何かについて自分なりに表現できるようになる3. 哲学的な問いの立て方や考え方に親しむ4. 独力で哲学の分野の新書を読むことができるようになる

<授業の方法>

講義を中心に行う。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。対話、ディスカッションを重視する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：その授業回で扱うトピックについて調べ自分なりの考えを持っておく。（1時間）復習：授業内で示された課題について、毎回ミニレポートを書く。（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業内での取り組み30%、課題提出50%、期末課題20%

<教科書>

<参考書>

伊藤邦武 （2012年10月） 『物語 哲学の歴史』 中央公論新社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	哲学（史）を現代で学ぶ意義	授業を始めるにあたり、なぜ大学で哲学を学ぶのか、現代で哲学を学ぶことがどのような意味を持つのかを解説する。実は誰もが哲学的な疑問や問題意識を持ったことがあることに気づくことが目的でもある。また世の中にはあらゆる疑問や問題があるが、「哲学的」と言えるものの基準や、科学的・非科学的と言えるものの基準についても触れる。また哲学史を学ぶことがどのように役立つのかを理解する。
2	魂の哲学（1）「魂」という原理	古代ギリシアにおいて「魂（プシュケー）」がどのように世界を説明する基本原理として構想されたのかを扱う。自然や生命の秩序を理解するために、人間の内面だけでなく宇宙や自然の働きまでを「魂」を軸に捉えようとした発想を確認し、哲学が神話の説明から理性的説明へ移行していく出発点を学ぶ。
3	魂の哲学（2）アテナイの哲学	アテナイにおけるソクラテス・プラトン・アリストテレスの思想を中心に、「善く生きる」とは何か、徳や正義は何かといった倫理的・政治的問いがどのように哲学化されたかを学ぶ。対話・論証・概念分析という哲学の基本技法を確認し、魂のあり方が知・徳・共同体と結びついて考えられたことを理解する。
4	【オンデマンド週】魂の哲学（3）地中海の哲学	アレクサンドロス以後のヘレニズム期からローマ、さらにキリスト教思想へと至る流れの中で、ストア派・エピクロス派・懐疑派、新プラトン主義などを取り上げる。哲学が「生の技法（生き方の訓練）」として広がっていく過程と、魂の救済・内面化という課題がどのように形成されたかを学ぶ。
5	意識の哲学（1）科学革命の時代	近代に入り、科学革命（自然科学の成立）が哲学の課題をどのように変えたかを扱う。自然を数学と実験で記述する世界観の登場により、「確実な知識はいかに可能か」「主体はどのように世界を知るのか」という認識論が前景化したことを理解する。
6	意識の哲学（2）心身問題	デカルト以降の近代哲学を軸に、心（意識）と身体（物質）の関係をめぐる心身問題を学ぶ。二元論・唯物論・観念論などの立場が何を説明しようとし、何に困難を抱えるのかを整理することで、現代の意識研究やAI理解にもつながる基本構図を身に

7	意識の哲学（３）経験論と超越論的観念論の立場	つける。 経験論（ロック、バークリー、ヒューム）と、それに応答するカントの超越論的観念論を中心に扱う。経験にもとづく知識の強みと限界、因果・自己・自由といった概念がどのように問題化するかを確認し、「経験が可能である条件」を問うという哲学の転回を理解する。
8	言語の哲学（１）論理学の革命	19～20世紀に起こった論理学の革新を背景に、哲学の方法が言語分析へと大きく移る過程を学ぶ。フレーゲやラッセルを手がかりに、概念の曖昧さを論理によって精密化する試みが、認識・真理・数学の基礎づけにどのように関わったかを理解する。
9	言語の哲学（２）ケンブリッジから	ケンブリッジを中心とする分析哲学の展開を扱い、初期ウィトゲンシュタインから後期ウィトゲンシュタインへの変化を軸に、言語・意味・理解の捉え方を学ぶ。「世界の写像としての言語」から「言語ゲーム／生活形式」へという転回が、哲学の問いの立て方そのものをどう変えたかを確認する。
10	言語の哲学（３）アメリカへ	分析哲学がアメリカに広がり、意味論・心の哲学・科学哲学へと展開していく流れを学ぶ。クワインやデイヴィッドソンなどを手がかりに、翻訳・意味・信念・合理性といった問題がどのように結びつくかを整理し、哲学が諸科学と接続しながら変貌していく様子を理解する。
11	生命の哲学（１）生の哲学	「生」「生命」「歴史」「実存」をめぐる哲学的問題が前景化する過程を扱う。合理性や普遍性だけでは捉えきれない人間の生の具体性（不安・死・身体・時間）に注目し、近代的主体観への批判として生命の哲学がどのように立ち上がったかを学ぶ。
12	生命の哲学（２）ジェイムズとベルクソン	プラグマティズムのジェイムズと、創造的進化を唱えたベルクソンを取り上げ、経験・行為・時間(持続)をめぐる独自の視点を学ぶ。真理を固定的な対応ではなく「働き」や「生成」として捉える発想を理解し、生命の哲学が認識論・心理学・宗教観にも波及したことを確認する。
13	生命の哲学（３）エコロジカルな心の哲学	生命・環境・心の関係を再編する視点として、エコロジーと結びついた心の哲学を扱う。個体の内部に閉じた「心」ではなく、身体・環境・他者との相互作用の中で心を捉える発想を学び、現代社会（技術・情報・環境問題）に対して哲学が持ちうる射程を考える。
14	期末課題レポート	これまで学び、思索してきたことを、提示する課題に対して自らの問いを立て、哲学的に思考する。授業内で実施するレポートである。
15		
16		

科目コード	14208				区 分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成 I [BC用]				担当者名	岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（グループワーク・グループディスカッション・ロールプレイング等）	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、一言でいうと「謝罪」について考えていく。私たちは社会を円滑に動かすために、いわゆる認知能力だけではなく、非認知能力を必要としている。その中でも、人との関係を築くためにはどのように信頼を獲得するかが重要である。そこで、信頼・尊敬・協働・責任といった人間関係の基礎を題材として、観察・違和感・多視点理解などを通じて人間理解を深める。一方、その信頼や期待を破ることもありうる。その際に必要なのは、新たな関係性構築のための「謝罪」である。本授業では、行動や表情、環境やデザインに込められた意図を読み取る力を養い、誤解や衝突、謝罪や信頼回復といった具体的状況を考察する。これらの経験を振り返り、最後にそれらを支える能力としての非認知能力（社会情動的能力）を整理し、自分自身の行動をメタ認知することを目指す。
【スマホ・PC・筆記用具必須】

<授業の到達目標>

1. 人間関係において信頼・尊敬・責任がどのように形成されるかを理解できる2. 観察や違和感を出発点として人の行動や意図を考察することができる3. 同じ出来事に複数の解釈があることを理解できる4. 失敗・謝罪・許しなどの状況を通して信頼回復のプロセスを考えられる5. これらを支える能力としての非認知能力を理解し、自分の行動を振り返ることができる

<授業の方法>

講義を中心にテーマに応じたワークを行う

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。特にロールプレイングやディスカッションなど、授業内ワークに積極的に関わっているかを重視する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前課題：各回の授業後に次回の内容について事前に調査し考察したレポートを課す。（1時間程度）・事後課題：授業後に提出するリフレクションシート作成（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業内ワークへの取り組み：40%・リフレクション課題：40%・最終レポートまたは最終発表：20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オオカミ少年はなぜ信頼されないのか —嘘・誠実さ・信頼の出発点—	本授業の導入として、誰もが知る「オオカミ少年」の寓話を手がかりに、信頼がどのように形成され、どのように失われるのかを考察する。嘘や誇張（話を盛ること）が人間関係に与える影響を検討し、信頼が単なる一回の行為ではなく、継続的な誠実さの積み重ねによって成立することを理解する。あわせて、嘘を見抜くことの難しさや、私たちの判断に含まれる思い込みを体験的に確認し、本授業の中心テーマである「信頼」「誠実さ」「非認知能力」への関心を喚起する。
2	人は見ているようで見ていない —観察と認知の限界—	人間の観察能力の限界と、注意の偏りによって見落としが生じることを扱う。私たちは客観的に世界を見ていると思いがちであるが、実際には選択的に情報を取り込み、解釈しているに過ぎない。本回では、認知バイアスの存在を体験的に理解し、他者理解や信頼判断の前提がいかにかに不確かなものであるかを明らかにする。

3	違和感から始まる理解 —感性とMy Question—	観察の中で生じる違和感に着目し、それが問いの出発点となる過程を考察する。違和感とは単なる感情ではなく、既存の理解とのズレを示す重要な手がかりである。本回では、違和感から問いを生成するプロセスを学び、主体的に世界を理解する姿勢を養う。
4	人の心はどこまで読めるのか —表情・非言語・誤解—	人は表情や態度から他者の意図を読み取ろうとするが、その解釈は必ずしも正確ではない。本回では、非言語コミュニケーションの限界と誤解のメカニズムを検討し、「分かったつもり」になることの危険性を理解する。
5	行動はどこまで操作されているのか —デザイン・ナッジ・仕掛け—	人の行動が環境や設計によってどのように影響を受けるのかを扱う。デザイン思考やナッジの概念を通じて、私たちの選択がどの程度自由であるのかを再考し、意思決定と責任の関係を検討する。
6	信頼とは何か —予測可能性としての信頼—	信頼を「相手の行動が予測できる状態」として捉え、その成立条件を分析する。信頼はどのように形成され、どのように維持されるのかを考察し、人間関係における基盤的概念として理解する。
7	尊敬・リスペクトとは何か —信頼との違い—	信頼と類似しながらも異なる概念である「尊敬」に焦点を当てる。尊敬は能力や成果だけでなく、人格や態度に対して向けられる評価であり、人間関係の質を大きく左右する。本回では、尊敬される人物の特徴や行動を検討しながら、信頼との違いを明確にし、他者との関係性における倫理的側面について考察する。
8	期待とは何か —人はなぜ期待するのか—	人間関係において不可避である「期待」に着目し、その心理的構造を明らかにする。期待は信頼と密接に関係しつつも、しばしば裏切りや失望の原因となる。本回では、期待がどのように形成され、どのようにズレが生じるのかを検討し、期待と現実のギャップが人間関係に与える影響について考える。
9	なぜ人は裏切るのか —ホッブズ問題と人間の本性—	人はなぜ他者を裏切るのかという根本的な問いを、哲学的視点から考察する。本回では、Thomas Hobbes の議論を手がかりに、人間の利己性と協力の問題、いわゆる「ホッブズ問題」を扱う。信頼が成立するための前提条件を検討し、人間社会における規範や制度の役割について理解を深める。
10	謝罪とは何か① —謝罪が求められる場面—	信頼が損なわれたときに生じる「謝罪」という行為に着目し、その発生条件を整理する。本回では、故意・過失・不可抗力といった違いに基づいて責任の所在を検討し、どのような状況で謝罪が求められるのかを分析する。また、謝罪が社会的にどのような機能を持つのかについて考察する。
11	謝罪とは何か② —良い謝罪・悪い謝罪—	謝罪の質に焦点を当て、形式的な謝罪と本質的な謝罪の違いを検討する。本回では、責任の認識、説明、共感、再発防止といった要素を手がかりに、適切な謝罪とは何かを考える。具体的な事例分析を通じて、謝罪が信頼回復にどのように寄与するのかを理解する。
12	赦しとは何か —赦しの心理と倫理—	謝罪と対になる概念である「赦し」に焦点を当て、その心理的および倫理的側面を考察する。赦しは単なる感情の問題ではなく、正義や責任とも関わる複雑な行為である。本回では、赦すとは何を意味するのか、また赦しが可能となる条件について多角的に検討する。
13	信頼回復は可能か —関係修復の条件—	一度損なわれた信頼がどのようにして回復され得るのかを検討する。信頼回復には時間、行動、再発防止といった要素が関与するが、すべての関係が修復可能とは限らない。本回では、関係修復のプロセスとその限界について具体的事例を通じて考察する。
14	非認知能力とは何か —人間関係の中で の能力として再定義—	これまでの授業内容を踏まえ、非認知能力を改めて定義する。本回では、観察力、解釈力、共感、メタ認知といった要素が、信頼・期待・謝罪・赦しといった人間関係の中でどのように機能するのかを統合的に整理する。最終的に、本授業で扱った内容を通じて、自身の人間関係の在り方を再考する。s
15		
16		

科目コード	14208				区 分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成 I [BC留学生用]				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

非認知能力とは、正解ありきのテストでははかることができない力で、「これからの社会で活躍するための土台となる力」と位置付けています。主体性や挑戦心、協働性などを身に着けるためには、講義だけではなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションといった参加型で学んでいきます。本授業は、非認知能力の向上のために、グループワークを展開し、日本の文化、自国の文化に関する議論、発信ができるようにします。

<授業の到達目標>

①自分の国や自分の国の文化について、自分自身の言葉で説明することができる。②日本の文化、母国の文化について、議論することができる。③グループワークにおいて、周囲と協力し、自分の役割を果たすことができる。④現代の諸課題に必要な知識を身につけられる。

<授業の方法>

本授業は、グループディスカッション、プレゼンテーションを目標に授業を進めます。Google Classroomを活用して学習を管理し、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google スライドを使った協働学習を進めます。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループでのディスカッション及び、プレゼンテーションを実施します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前課題：その回のテーマに必要な語彙の意味を調べ、言語知識の予習を行う。（1時間程度）・事後課題：授業に出てきた言語知識の演習問題及び授業のリフレクションシートを書く。（1時間程度） また、ディスカッションやプレゼンテーションのための準備も適宜授業外で行う。（1時間～2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加度 20%・提出物 20%・言語知識テスト 20%・パフォーマンス（プレゼンテーション・ディスカッション等） 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・授業についての説明・「非認知能力」とは何か
2	観光①	・テーマについての言語知識の学習・内容理解のための読解
3	観光②	・プレゼンテーションとは・プレゼンテーションの準備
4	観光③	・プレゼンテーションの実施・ピア評価
5	買い物①	・テーマについての言語知識・内容理解のための読解
6	買い物②	・ディスカッションのための表現学習・グループディスカッション
7	買い物③	・グループプレゼンテーションの計画・役割分担
8	買い物④	・グループプレゼンテーション準備
9	買い物⑤	・プレゼンテーションの原稿作成及び練習
10	買い物⑥	・グループプレゼンテーション・ピア評価・報告レポートの書き方の説明
11	伝統文化①	・テーマについての言語知識の学習・内容理解のための読解
12	伝統文化②	・グループディスカッションに向けた調べもの、資料準備
13	伝統文化③	・グループディスカッション
14	まとめ	まとめ
15		
16		

科目コード	14208				区 分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成 I [FC用]				担当者名	宮原 舞／後藤 由佳			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

本授業は、大学生活および将来の社会生活において重要となる非認知能力の育成を目的とし、自己理解・他者理解、想像力、コミュニケーション力の向上をめざす。授業では、童話や映画作品を題材として物語を多面的に捉える視点を学び、登場人物の立場や背景、表面には現れにくい感情に着目することで他者理解を深める。さらに、各自で作品の調査・分析・発表を行うとともに、ストーリーを創作する活動にも取り組む。これらの学習を通して、多様な視点から物事を捉え、自分の考えを表現し、他者と共有する力を養う。

<授業の到達目標>

① 他者の立場や背景を踏まえ、多様な視点から物事を捉えることができる。② 自己理解および他者理解を深め、相手の立場や気持ちを想像して考えることができる。③ 自分の考えを整理し、文章や発表、創作を通して表現することができる。

<授業の方法>

講義、個人ワーク、グループワーク、発表等を組み合わせて実施する。作品分析・対話・創作を通して、主体的・対話的に学ぶ授業を展開する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（グループワーク）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、授業で扱う作品やテーマについて事前に確認し、自分なりの視点や疑問を整理しておくこと。復習として、授業で扱った内容や他者の意見を踏まえ、自分の考えの変化や気づきを整理すること。また、調査・創作・発表に向けて必要な準備を行うこと。各回、予習・復習をあわせておおむね2時間を目安とする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度・取り組み姿勢 30%提出課題 40%プレゼンテーション・最終レポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション／非認知能力とは何か	授業の目的・進め方を理解し、非認知能力の意義について学ぶ。
2	物語を多面的に捉える①	スピンオフ作品の特徴を理解し、物語を多面的に捉える視点を学ぶ。
3	物語を多面的に捉える②	原作とスピンオフを比較し、視点の違いによる物語の変化を考える。
4	物語を多面的に捉える③	作品理解を踏まえ、自分の考えをレポートとして整理する。
5	物語を多面的に捉える④	グループ交流によって、登場人物の見えない感情や背景について多様な解釈を共有し、他者理解を深める。
6	スピンオフ作品の考察①	個人でスピンオフ作品を調査し、多様な視点の描かれ方を整理する。
7	スピンオフ作品の考察②	調査内容を共有し、グループで発表に向けた題材を選定する。
8	スピンオフ作品の考察③	選定した作品を視聴・分析し、理解を深める。
9	スピンオフ作品の考察④	分析内容を整理し、発表を行う。
10	スピンオフストーリーの創作①	創作の題材を検討し、物語の構想を立てる。
11	スピンオフストーリーの創作②	作品の視点、人物像、主題を整理し、物語の創作を行う。
12	スピンオフストーリーの創作③	物語の創作・推敲を行う。
13	スピンオフストーリーの創作④	創作した物語を発表し、意見交換を通して理解を深める。
14	振り返り・まとめ	授業全体を振り返り、学びと今後の課題を整理する。
15		
16		

科目コード	14208				区 分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成 I [PH用]				担当者名	實戸 崇史			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

本授業は、自分と向き合う力、自分を高める力、他者とつながる力である非認知能力の教育を本学の五訓に基づき学びを深める。その方法は、グループ学習やスポーツなどのツールを利用し、チームビルディング、コミュニケーション能力向上を図り、柔道整復師として必要な能力向上を実践的に学ぶ事とする。

<授業の到達目標>

自分の感情や価値観を言語化し、客観的に把握できる（自己認識）。困難に直面した際のレジリエンス（回復力）を高め、主体的に目標を設定できる（自己管理）。他者の視点を理解し、建設的なコミュニケーションを通じて信頼関係を築ける（対人関係）。5訓と向き合った取り組みが出来ている。

<授業の方法>

本授業は何度も人前で発表する機会を設け、失敗を恐れず、自己表現を続ける。クラス全体での発表もあるが、グループでの発表を繰り返すことで、自信をつけ、前進する力を身につける。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでの発表、クラス全体での発表

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：スピーチ、プレゼンテーションの準備 3時間、復習：振り返り 1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（グループワーク、授業への取り組み態度等）30％、小課題（原稿、プレゼン資料等）50％、最終レポート20％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	非認知能力について	授業オリエンテーション、チームビルディング①
2	非認知能力について2	自己紹介、他己紹介、チームビルディング②
3	グループワーク	各グループ 探求課題と役割の決定
4	グループワーク	スライド作成
5	グループワーク	スライド作成
6	グループワーク	発表
7	グループワーク	発表
8	グループワーク②	課題の決定、役割の決定
9	グループワーク②	スライド作成
10	グループワーク②	スライド作成
11	グループワーク②	発表
12	グループワーク②	発表
13	チームビルディング	チームビルディング
14	振り返り	振り返り
15		
16		

科目コード	14208				区 分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成 I [PS用]				担当者名	宮本 彩／金谷 和幸			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

本授業は、非認知能力（五訓）の向上のためにチーム学習を展開し①IPUの特徴を発信するとともに、②現代の諸課題に関する議論学習を展開する。

<授業の到達目標>

①学生はIPUの魅力を自分自身の言葉で説明できる。②学生は現代の諸課題に関する議論ができる。③学生はチーム活動における自分の役割を果たすことができる。

<授業の方法>

本授業は非認知能力育成専用学舎ディスカバリーを全面的に活用し、「チームビルディング→発見→探究→提案」の4つのプロセスを1つのプロジェクト学習として授業を展開する。本授業では「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」と「現代の諸課題に関する議論」の2つのプロジェクト学習を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有無；有りグループワークを基にしたプレゼンテーションを実施する

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習；グループワークに向けて①非認知能力の基礎事項を学んでおく。②環太平洋大学の基礎事項を学んでおく。③現代の諸課題に関する基礎事項を学んでおく。（30分）復習；前時の取り組み内容を踏まえて、プレゼンテーションの作成や振り返りレポートの作成を行う。（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

googleクラスルームを使用し課題配付・フィードバックを行う。出席およびグループでの活動状況など 20%、取り組みごとの振り返りレポート4回 80%（各回20%）

<教科書>

教科書は使用せず適宜資料を配付する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・本授業の目的と内容に関するオリエンテーション・IPU環太平洋大学の歴史・非認知能力について
2	IPUの魅力を考える①	IPUの魅力についてグループで討議する
3	IPUの魅力を考える②	前回の授業内で話し合った内容をまとめ、他のグループに発表する
4	競技スポーツ科学以外の学科について学ぶ	競技スポーツ科学以外の学科の学びの特徴を調べるとともに、他学科学生にインタビューする。
5	キャンパスツアー	グループごとにキャンパスを周りながら課せられたミッション・課題をクリアする。
6	IPUの魅力紹介①	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン作成・プレゼンテーションスライド作成（1名1枚必ず作成）・プレゼンテーションの役割分担（1名1枚必ずプレゼン）・リハーサル
7	IPUの魅力プレゼン①	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会前半・プレゼン大会の概要とプレゼンのポイント・プレゼンテーション発表会（前半11グループ）
8	IPUの魅力プレゼン②	・「環太平洋大学を地域住民・高校生にPRしよう」プレゼン大会後半・プレゼンテーション発表会（後半11グループ）・プレゼン大会の振り返りと講評
9	出身地・地元の紹介	出身地・地元の紹介を通じて、現代の諸問題のトピックスを探そう
10	地域の課題発見	グループワークを通じて、現代の諸問題のトピックスを探ろう
11	地域の課題探究①	・現代の諸問題を深く議論しよう（個人・大学・地域レベル）
12	地域の課題探究②	・現代の諸問題を深く議論しよう（日本・国際社会レベル）
13	地域の課題解決の提案①	「現代の諸課題を解決するための提案をしよう」プレゼン大会前半・プレゼン大会の概要とプレゼンのポイント・プレゼンテーション発表会（前半11グループ）
14	地域の課題解決の提案②	「現代の諸課題を解決するための提案をしよう」プレゼン大会後半・プレゼンテーション発表会（後半11グループ）・プレゼン大会の振り返りと講評

15		
16		

科目コード	14209				区 分	教養科目			
授業科目名	非認知能力育成Ⅱ [BC秋入学用]				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	卒業必修

<授業の概要>

非認知能力とは、正解ありきのテストでははかることができない力で、「これからの社会で活躍するための土台となる力」と位置付けています。主体性や挑戦心、協働性などを身に着けるためには、講義だけではなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションといった参加型で学んでいきます。本授業は、非認知能力の向上のために、グループワークを展開し、現代の諸課題や文化に関する議論、発信ができるようにします。

<授業の到達目標>

①現代の諸課題や文化について、自分自身の言葉で意見を述べるができる。②現代の諸課題や文化について、議論することができる。③グループワークにおいて、周囲と協力し、自分の役割を果たすことができる。④現代の諸課題に必要な知識を身につけられる。

<授業の方法>

本授業は、グループディスカッション、プレゼンテーションを目標に授業を進めます。Google Classroomを活用して学習を管理し、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google スライドを使った協働学習を進めます。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループでのディスカッション及び、プレゼンテーションを実施します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前課題：その回のテーマに必要な語彙の意味を調べ、言語知識の予習を行う。（1時間程度）・事後課題：授業に出てきた言語知識の演習問題及び授業のリフレクションシートを書く。（1時間程度） また、ディスカッションやプレゼンテーションのための準備も適宜授業外で行う。（1時間～2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加度 20%・提出物 20%・言語知識テスト 20%・パフォーマンス（プレゼンテーション・ディスカッション等） 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・授業についての説明・大学の学びに必要な「非認知能力」とは何か
2	教育①	・テーマについての言語知識の学習・内容理解のための読解
3	教育②	・グループプレゼンテーション（アンケート調査）の計画・役割分担
4	教育③	・アンケート分析の方法・グラフの説明のしかた
5	教育④	・プレゼンテーション準備、練習
6	教育⑤	・グループプレゼンテーション
7	教育⑥	・報告レポートの書き方の説明・実践
8	コミュニケーション①	・テーマについての言語知識の学習・内容理解のための読解
9	コミュニケーション②	・グループディスカッション準備
10	コミュニケーション③	・グループディスカッション
11	昔話①	・テーマについての言語知識の学習・内容理解のための読解
12	昔話②	・自分の国の昔話についての調査
13	昔話③	・自分の国の昔話絵本の作成
14	昔話④・まとめ	・グループで絵本のプレゼンテーション・まとめ
15		
16		

科目コード	11404				区 分	教養科目			
授業科目名	表現活動による人間力養成Ⅰ				担当者名	大橋 節子／渡邊 亮／塚本 千晴／四宮 貴久			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

歌・ダンス・インプロヴィゼーションなどの表現活動を活動の主軸とし、レジリエンスを培いながら自己表現方法を開発していく授業である。歌やダンスを通して、声の表現技法や異なる身体表現法・プレゼンテーションスタイルに挑戦していくことで、ユニークに自身を表現する方法を探索していく。

<授業の到達目標>

音楽・歌・ダンス・インプロヴィゼーションなど多様な表現技法に触れる中で、自己理解を深め自分らしく表現することが出来る基礎を築く。また、表現活動によって培うことのできる非認知能力についての知識を獲得する。

<授業の方法>

このクラスでは、授業に出席することを前提とし、授業内での活動が主となる。各回のテーマに沿って、理論と実技を並行して行う。また、アクティブラーニングの一環として、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション（発表）の機会を数多く設け、学期末には期末レポートと併せて成果発表のショーを実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

小グループに分かれグループワークをしたり、成果発表に向けて活動を行っていく

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習：授業での学びを振り返り、自身の学習過程を課題にまとめる。また、必要に応じて振り付けや歌詞の予習・復習を行う。

※1時間程度

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー１（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー２（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

グループワークへの貢献40%、クラスルーム課題30%、期末レポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	アイスブレイク	アイスブレイク、インプロヴィゼーション（即興演劇）の表現方法に関する考察、プレゼンテーション課題
3	身体表現、音楽表現（１）	アイスブレイク、ダンスを通した身体表現
4	身体表現、音楽表現（２）	ダンスを通した身体表現、プレゼンテーション発表
5	身体表現、音楽表現（３）	プレゼンテーションの準備
6	身体表現、音楽表現（４）	手話を通した身体表現、合唱を通した音楽表現
7	グループ創作（１）	グループ創作に向けてテーマ設定を行い、検討する
8	グループ創作（２）	グループ創作に取り組む
9	グループ創作（３）	グループ創作演目の修正、改善を行う
10	表現教育の効果や意義	レジリエンスや自尊感情といった非認知能力と、表現教育の関係について考察する
11	成果発表リハ、準備（１）	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表の準備を行う
12	成果発表リハ、準備（２）	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表の準備を行う
13	成果発表リハ、準備（３）	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表の準備を行う
14	成果発表会、学習のまとめ	様々な身体・音楽表現活動を取り入れた成果発表を行うグループワークやレポート課題を通して、学習の成果を言語化する
15		
16		

科目コード	11305				区 分	教養科目			
授業科目名	ビジネスコーチング				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は社会人基礎能力の中から対人スキルについて着目し、コミュニケーション能力を伸ばすためにコーチングのスキルを学ぶ。特に傾聴力や質問力を高める。コーチング心理学やポジティブ心理学に基づいた理論を理解するだけでなく、ビジネスで活かせるコーチングスキルを体得する。スポーツコーチングとは異なる。履修人数が多い場合は、審査を行う。

<授業の到達目標>

ピアコーチングをすることで自己分析や自己発見ができるようになり、他者理解もさらにできるようになる。傾聴力や質問力が身に付くことで人間関係を構築する能力が身に付き、ひいては非認知能力が高まる。

<授業の方法>

講義、ディスカッション、コーチング・デモンストレーションの観察、コーチング実践ワーク、グループ演習など。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

上記のディスカッション、コーチング・デモンストレーションの観察、コーチング実践ワーク、グループ演習など。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習としては該当テーマについて事前にテキストを読み、授業での実践に向けて準備する。事後学習には二人一組でコーチングを実施して、学んだスキルを更に深める。目安は1時間程度。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度と意欲 60%、課題の提出20%、最終的なスキルの習得度合い、もしくは最終レポート提出20%。課題については、グループクラスルーム上で各自へコメントを返し、スキルの習熟度については授業中に随時直接フィードバックをする。

<教科書>

CTIジャパン2016年6月10日 マンガでやさしくわかるコーチング 日本能率協会マネジメントセンター

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、評価方法を伝える。この授業の特徴とコミュニケーションの基本について理解する。
2	コーチングとは	教育におけるコーチングの定義と特性を理解する。（心の在り方とスキル）
3	自己分析と自分の強み	他者を知る前に自分を知るために、パーソナリティ診断やストレングスカードを使ったワークをする。
4	コーチングの基礎スキル①	コーチングの効用についてテキストから理解を深める。連休中にあたり、オンデマンド授業とする。
5	コーチングの基礎スキル②	傾聴、反映、認知、励ましのスキルを理解し、体得する。
6	コーチングの基礎スキル③	比喩のスキル、俯瞰のスキルを学ぶ。
7	中間の振り返り	前半に習得したスキルをグループでさらに深める。
8	中間の振り返りのつづきと、コーチングモデルの紹介	効果的な質問とGROWモデルについて学ぶ。
9	コーチング基礎スキルの統合①	コーチングのアカデミックな側面や海外事情について知る。これまで学んだスキルを統合してコーチングの演習をする。
10	コーチング基礎スキルの統合②	傾聴、反映、認知、励まし、比喩、俯瞰のスキルやGROWモデルを実習する。
11	コーチング基礎スキルの統合③	傾聴、反映、認知、励まし、比喩、俯瞰のスキルやGROWモデルを実習する。
12	コーチングの基礎スキルをさらに深める①	外部講師による特別実践授業
13	コーチングの基礎スキルをさらに深める②	外部講師による特別実践授業
14	学びのまとめ	国際ポジティブ心理学会参加報告と存在論的コーチングについて学ぶ。また習得したスキルをピアで診断、フィードバックする。
15		
16		

科目コード	10203				区 分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅱ [全学科 (初級者対象)]				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

中級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。仕事、学校、娯楽などで出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点が理解できる。さまざまな事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 3 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting acquainted	Greetings; describing successful conversations; solving problems; discussing attitudes toward problem solving
3	Unit 2: Expressing yourself	Role-playing giving advice; describing feelings; discussing meanings of gestures; reacting to and discussing accents
4	Unit 3: Crime and punishment	Discussing crimes; punishments, and attitudes toward crime; discussing crime movies; speculating about a possible crime
5	Unit 4: Surprises and superstitions	Discussing strange pictures; creating and telling stories; talking about superstitions
6	Unit 5: Education and leaning	Talking about kinds of classes; recalling the first day of school and more recent details; discussing study techniques
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 6: Fame and fortune	Talking about successful and famous people; discussing sayings about money; discussing the importance of money
9	Unit 7: Around the world	Talking about languages and language problems; discussing behavior in various situations; discussing customs
10	Unit 8: Technology	Discussing everyday products; talking about inventions; explaining how to make things
11	Unit 9: Mind and body	Talking about healthy and unhealthy situations; giving advice; explaining exercises; discussing stress and how to reduce it.
12	Unit 10: Spending money	Describing impressions of ads; discussing company slogans and brands; talking about advertising and types of shoppers
13	Unit 11: The news	Telling stories; talking about news stories; reacting to headlines; role-playing an interview

14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15		
16		

科目コード	10203				区 分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅱ [全学科 (中級・上級者対象)]				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

中級レベルの英語でのスピーキングおよびリスニングのスキルを身につけることを目的とする。各ユニットで扱うトピックは、自然に英語で会話がしやすくなるようなもので、英語を使ったアクティビティを通して文の構造や語彙などの知識も身に付けられるよう工夫している。また、授業で取り組むアクティビティには、できるだけ学生同士が英語を使って会話できる機会を増やすような仕掛けが用意されている。

<授業の到達目標>

英語でのコミュニケーション・スキルを高め、同時により流暢な英語が使えるようになることを目標としている。仕事、学校、娯楽などで出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点が理解できる。さまざまな事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。

<授業の方法>

授業では、ペアワークやグループワークが中心となる。ただし、語彙や文法などについては、テキスト以外の課題が与えられ、各自で授業時間外の学習が求められる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外での語彙および文法についての課題を毎週1時間程度おこなうことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時間外課題 40%、授業への参加 30%、プレゼンテーション 30%

<教科書>

Leo Jones (2007年9月1日) Let' Talk Student's Book 3 with Self-Study Audio CD Cambridge University Press
特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	Unit 1: Getting acquainted	Greetings; describing successful conversations; solving problems; discussing attitudes toward problem solving
3	Unit 2: Expressing yourself	Role-playing giving advice; describing feelings; discussing meanings of gestures; reacting to and discussing accents
4	Unit 3: Crime and punishment	Discussing crimes; punishments, and attitudes toward crime; discussing crime movies; speculating about a possible crime
5	Unit 4: Surprises and superstitions	Discussing strange pictures; creating and telling stories; talking about superstitions
6	Unit 5: Education and leaning	Talking about kinds of classes; recalling the first day of school and more recent details; discussing study techniques
7	Presentation (1)	Giving presentation in English
8	Unit 6: Fame and fortune	Talking about successful and famous people; discussing sayings about money; discussing the importance of money
9	Unit 7: Around the world	Talking about languages and language problems; discussing behavior in various situations; discussing customs
10	Unit 8: Technology	Discussing everyday products; talking about inventions; explaining how to make things
11	Unit 9: Mind and body	Talking about healthy and unhealthy situations; giving advice; explaining exercises; discussing stress and how to reduce it.
12	Unit 10: Spending money	Describing impressions of ads; discussing company slogans and brands; talking about advertising and types of shoppers
13	Unit 11: The news	Telling stories; talking about news stories; reacting to headlines;

		role-playing an interview
14	Presentation (2)	Giving presentation in English
15	Presentation (2)	Giving presentation in English
16		

科目コード	10302				区 分	教養科目			
授業科目名	英語Ⅲ				担当者名	Anton Johannes Potgieter			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

Students will engage in speaking and writing at a more advanced level to improve communication and understanding of English. Students will refine basic skills and learn advanced skills for speaking and writing in English to advance their communication ability. Students will work to create and understand meaning in areas like literature, music, and media. Students are expected to interact at a high level with others and have multiple learning opportunities to express and comprehend language. Students are expected to complete one class of ENGLISH I, ENGLISH II, TOEIC I, TOEIC II OR have STUDIED ABROAD prior to taking this course.

<授業の到達目標>

The overall goal of this class is to give students opportunity to express themselves in both speaking and writing and achieve their own voice in their English communication.

<授業の方法>

Students will work on assignments both individually and in pairs and groups with the goal of communicating their own ideas and thoughts, while also understanding others. Student will use Google Classroom to turn in their assignments and expected to have a

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

N/A

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Students will need to prepare outside of class for 1 hour or more so as to be able to effectively communicate their own ideas and thoughts in class. Students will also have student-choice in many areas and are expected to research and bring their topics i

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

Assignment 30%Classwork 30%Presentation 40%

<教科書>

NONE

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Course Introduction	International relations - 1
2	Discussion skills	International relations / Trade - 2
3	Expressing and supporting an opinion	Architecture / trends in architecture - 1
4	Presentation skills 1	Architecture / trends in architecture - 2
5	Presentation 1	Success - what does it take to be successful - 1
6	Reading & writing structure	Success - what does it take to be successful - 2
7	Writing skills	Writing - writing an argumentative essay - 1
8	Essay writing	Writing - writing an argumentative essay - 2
9	Understanding a lecture	The Titanic Disaster
10	Discussing delicate topics	Attitudes - non-traditional relationships
11	Conversation skills	Crime - white collar crime
12	Presentation skills 2	Presentation skills - Globalization 1
13	Final presentation preparation	Presentation skills - Globalization 2
14	Final presentation	Final presentation - discussion.
15	Reflection	Student reflect on areas their English has improved and give their thoughts on their overall learning in the class.
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業 科目名	基礎ゼミナール I				担当者名	宮原 舞			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけるとともに、自ら学ぶ力(自主性・能動性)および大学生として必要な基礎的な学力・技能を養うことを目的とする。社会で生きていくためには、認知能力と非認知能力の双方が重要である。本授業では、「読む」「聞く」「書く」「伝える」といった大学での学びに必要な基本的スキルを身につけるとともに、グループワークやディスカッションを通して主体性や協働性を育む。

<授業の到達目標>

①大学生活における自らの目標や課題を整理し、主体的に学ぶ姿勢を身につける。②読む・聞く・書く・伝えるという大学での学びに必要な基礎的スキルを身につける。③図書館やインターネットを活用して必要な情報を収集・整理し、自分の考えをまとめて表現することができる。

<授業の方法>

講義・演習(個人ワーク、ペア・グループ活動)を組み合わせながら実施する。知識の理解にとどまらず、書く・読む・聞く・話す活動を通して、大学での学びに必要な基本的スキルを実践的に身につける。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有 (ペア・グループ活動)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各回で指示された資料や文章を読み、授業テーマに関する自分の考えを整理しておくこと。復習として、授業で扱った内容を振り返り、課題に取り組むこと。各回の学習には、おおむね2時間程度の予習・復習を要する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)およびディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への参加度・取り組み姿勢(40%)、小課題(40%)、最終課題(20%)

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要、大学の学びについて
2	大学生活の目標設定	自分の現状を振り返り、今後の目標を考える。
3	読む力の基礎①	文章の要点をつかむ
4	読む力の基礎②	要約の基本を学び、内容を簡潔にまとめる。
5	聞く力の基礎①	他者の話を正確に聞き取る姿勢を学ぶ。
6	聞く力の基礎②	話の要点を整理し、適切に応答する方法を学ぶ。
7	書く力の基礎①	大学で求められる文章の基本を学ぶ。
8	書く力の基礎②	構成を意識した文章の書き方を学ぶ。
9	情報収集の基礎①	図書館資料の活用方法を学ぶ。
10	情報収集の基礎②	インターネットでの情報収集を学ぶ。
11	レポート作成の基礎	情報を整理し、レポートとしてまとめる方法を学ぶ。
12	プレゼンテーションの基礎①	わかりやすく伝える話し方を学ぶ。
13	プレゼンテーションの基礎②	構成を工夫し、発表する。
14	まとめ	学習内容の振り返り
15		
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [再履修]BC用				担当者名	岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における「学び方を学ぶ」ことを目的とする。高校までの学習・生活とは、大学でのそれとは大きく異なる。大学生生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも、学び方、自らの成長のさせ方は特に重要である。
【PC・スマホ・筆記用具必須】

<授業の到達目標>

1. 学習生活：無理なく効率的な学習習慣を確立する2. 非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる3. 認知能力：主に大学生として求められる基礎学力（聞く・読む・書く・話す）の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身につける4. 自己認識：自身の強み・弱みを理解し、自身の思考・感情・状況について考え、話すことができる

<授業の方法>

オンデマンドでの受講となる。毎回、Googleクラスルームもしくは他システムでの課題提出となる。ただし、第1回目は対面にて受講ガイダンスを行うため、必ず出席すること。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業内でのアクティブ・ラーニングは無いが、必ず毎回の授業でレポート提出を行う。そこで観察や身近な人へのヒアリングなどの活動を必須とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前課題：次回テーマに即したミニレポート作成およびキーワードの調査を実施する。（1時間程度）事後課題：毎回の授業で何を学び、何に気付いたかを整理するためにレポートを課す。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の授業内課題・演習への取り組み・・・30%レポートなどの課題への取り組み・・・50%発表・演習時の独自の観点や貢献度・・・20%

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス	クラスごとの運営方針を担当から伝え、これからのIPUでの学びについて心構えをもつ。
2	高校の勉強から大学の学び・研究へのシフト	日本の高校における「勉強」と大学で求められる「学び・研究・調査」の違いを整理し、学習目的・評価基準・正解概念の相違を明確にする。あわせて、大学で必要となる主体的なマインドセットや学習技能、問いの立て方・根拠に基づく思考の重要性を理解し、自身の学び方を再設計することを目的とする。
3	時間管理・課題管理・評価の受け止め方 ※個人面談①	大学生に求められる時間管理や課題管理の方法を中心に学ぶ。社会人になる前の段階で、自らの学びや課題を管理して無理のない学生生活を送る練習をする。また課題提出後の教員からの評価やフィードバックをどのように受け止めるかも重要だ。その評価から、自らの提出物に対してさらに問題点を発見して今後の学びに活かす方法について学ぶ。
4	【オンデマンド週】学習スタイルとメタ認知	学習スタイルの多様性を理解し、自身の特性に応じて学習方法を使い分ける姿勢を養う。あわせて、自己調整学習の基盤となるメタ認知の重要性を学び、学習過程を振り返るためのジャーナリングの実践を通して、自律的に学び続ける力の育成を目指す。
5	分野・領域の違いに注目した調査方法	学問分野や研究領域の違いを意識した調査方法を学ぶ。人文科学・社会科学・自然

	※個人面談②	科学それぞれの特性を踏まえ、用語の調べ方と論説・研究の探し方の違いを整理し、図書館およびウェブを適切に使い分ける基本的な方法を身につけることを目的とする。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。
6	文献・資料の調査方法と検索リテラシー ※個人面談③	大学における文献・資料調査の意義を理解し、信頼性のある情報を収集するための基本的な検索方法を学ぶ。あわせて、検索エンジンやデータベースによる調査と生成AIの活用の違いを整理し、それぞれの特性や信頼性を踏まえた適切な使い分けについて考察する。実際に図書館で書籍・資料を探す経験をする。
7	生成AIを学習・研究に活用する ※個人面談③	生成AIを学習・研究に活用する際の基本的な考え方を学ぶ。ハルシネーションが起こる仕組みや生成AIが実際に存在しない文献などをさがしてくる現状を知る。そのような生成AIの特性と限界を理解した上で、人間が目的設定・判断・責任を担うHuman-in-the-Loopの重要性を確認し、効果的なプロンプト設計の基礎を扱う。あわせて、個人的利用と公的なアウトプットにおける責任の違いについて考察する。
8	人の記憶の特徴を知る	本講義では、人の記憶の仕組みを理解し、学習に活かす方法を学ぶ。短期記憶・長期記憶、エピソード記憶などの特徴を整理し、記憶のメカニズムに即した覚え方や思い出し方を考察する。あわせて、五感を活用した記憶方法を取り上げ、効果的な学び方を工夫する姿勢の形成を目指す。
9	ノートの取り方と情報整理	本講義では、大学での学びを深めるためのノートテイキングと情報整理の方法を学ぶ。学習用ノートと取材・調査用ノートの目的や役割の違いを理解し、記録した内容を後から修正・編集することで理解を深める手法を扱う。あわせて、紙のノートとデジタルツールの特性を踏まえた効果的な使い分けについて考察する。
10	公的データの利用方法	本講義では、公的機関が公開しているデータや資料をいくつか紹介する。データを活用する際には、調査対象となる項目とその項目がどのような内容であるかを知る必要がある。e-StatやRESASを通じて、独力で調査できるようになることを目的とする。
11	人に質問・取材する発問設計技術	本講義では、教員や友人、インタビューに対して適切に質問・取材を行うための基礎的な技術を学ぶ。質問の目的設定や発問の整理方法を理解するとともに、相手への配慮やマナー、倫理的留意点を踏まえ、独りよがりにならない相互に有意義な対話を実現する力の育成を目指す。
12	読む力を養う (1)	本講義では、文章を読む際に重要となる「事実」と「解釈」の区別を学ぶ。同じ文章でも、学問領域や立場、背景知識の違いによって解釈が分かれ得ることに注目し、その違いに気づくための視点や確認方法を身につける。また、不明な用語について分野や文脈を意識して調べる姿勢を養う。
13	読む力を養う (2)	本講義では、資料の主旨や全体構造を的確に読み取る力を養う。文章中の主張と根拠の関係を意識しながら読み進め、重要なキーワードの関連性を整理する方法を学ぶ。あわせて、内容理解を深めるための可視化ツールを紹介し、実践的な読解力の向上を目指す。
14	読む力を養う (3)	本講義では、資料を読む際に不可欠な信頼性と妥当性の判断基準を学ぶ。著者のプロフィールや執筆目的や主張の方向性を意識しながら資料を評価する視点を身につけ、ファクトチェックやセカンドオピニオンの確認方法を扱う。資料選択の段階から批判的に読む力の育成を目指す。
15		
16		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [再履修]PP用				担当者名	十河 直太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。また、体育・スポーツを学ぶ学生として、体育・スポーツの知識・理論を身につけ、実践していくための手がかりとして、グループワークやチームビルディングを行い、非認知能力と認知能力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣の確立する②非認知能力：自分の意見を伝えることや話を聞く、内容をまとめる（書く）ことができる③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得と定着と主体的に学習に取り組む態度を身に着ける④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について考え、話すことができる

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。グループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。課題として基礎学力教材に取り組んでいく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：ありグループに分かれ、テーマに応じたディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（ディスカッションや演習への取り組み等）30%、小課題（基礎学力課題を含む）50%、大課題（発表等）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション	チームビルディングを通して、積極的なコミュニケーションを身につける。
2	自己を知る①	ニューススポーツ体験
3	自己を知る②	ニューススポーツ体験②
4	自己を知る③	メンター体験談
5	プレゼン①	ビブリオバトルの原稿作り
6	プレゼン①	ビブリオバトル発表
7	コミュニティの形成	他クラスとの交流
8	大学を知る②	後期の目標設定および履修登録の確認
9	プレゼン②	スピーチコンテストの原稿作り
10	プレゼン②	スピーチコンテストクラス予選
11	非認知能力の育成①	非認知能力について調べ、自身の能力を伸ばすための方法を知る。
12	非認知能力の育成②	コミュニケーションスキルを伸ばすための方法を知り、グループワークを通じて実践する。
13	進路について	進路について実情を調べる
14	進路について	調べた内容をプレゼン発表する
15		
16		

科目コード	12203				区 分	教養科目			
授業科目名	数学基礎 I [A]				担当者名	西田 修斗			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、数学的な見方・考え方を体験的に学び、身の回りの事象や社会の仕組みを数学の視点から捉える力を養う。多様な題材をもとに、活動や対話を通して数学的な視点を用いて捉える経験を重ねる。正解を求めるだけでなく、考え方を言語化し共有する過程を重視する。中学・高校で数学が苦手だった学生でも取り組める内容とし、数学の価値を再認識することを目指す。

<授業の到達目標>

① 身の回りの事象や社会の仕組みを、数量・関係・構造といった観点から数学的に捉えることができる。(DP2・DP3) ② 具体的な事例や活動から共通する特徴を見出し、抽象化して自分の言葉で説明することができる。(DP2・DP3) ③ 授業内の活動や課題において、自分の考えを発言または記述し、試行錯誤しながら取り組むことができる。(DP1) ④ 他者との対話や活動を通して、自分の考えを見直し、より適切に表現することができる。(DP1) ⑤ 数学的な見方・考え方を、日常生活や社会的な場面に関連づけて説明することができる。(DP3)

<授業の方法>

本授業では、体験活動を中心としたアクティブ・ラーニングを行う。授業は主に以下の流れで進める。①ゲームや教具を用いた体験活動にグループで取り組む。②発問に基づき、グループで対話しながら考察を行う。③教員の実演や解説により、活動内容を数学的に整理・一般化する。④ワークシートに要点や考え方を記述し、学びの振り返りを行う。授業ではGoogle Classroomを用いて資料配布や課題管理を行い、Google フォームを活用して振り返りの提出を行う。これらの活動を通して、具体的な体験と抽象的な理解を往復しながら、数学

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク、ディスカッション、課題解決型学習）各回の授業では、ゲームや教具を用いた体験活動にグループで取り組み、発問に基づいて対話を行いながら解決方法を考察する。その後、教員の解説を踏まえて内容を整理し、ワークシートへの記述を通して自らの考えを言語化することで、主体的・協働的な学習を促す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業外学習として、授業で扱った活動内容やワークシートをもとに、自分の考えや解法を整理・振り返る（1時間程度）。また、授業で扱った題材について別の方法で考えたり、関連する内容を調べたりする（1時間程度）。さらに、配布資料の見直しを通して学習内容の要点を確認する（1時間程度）。これらを通して理解を深めることを目的とする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内での確認テスト・振り返り70%、定期試験30%とする。授業内では、Google フォームを用いた確認テストや振り返りを実施し、理解度および考え方の言語化を評価する。定期試験では、授業で扱った内容の理解および説明力を評価する。確認テストおよび振り返りについては、集計結果や代表的な記述を授業内で共有し、フィードバックを行う。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	戦略の数学	・石取りゲーム・花びら取りゲーム・すごろくドボン
2	最適化の考え方	・最短ネットワーク・最速降下曲線
3	図形の構成と操作	・一刀切り・折り紙
4	折り紙と数学の応用（オンデマンド）	・折り紙・宇宙工学
5	連続変形と図形の本質	・トポロジー入門・メビウスの輪
6	切断と構造の変化	・ひねり輪・結び目理論入門
7	つながりの構造	・グラフ理論入門・警官と泥棒のおにごっこ・ナイトツアー・四色定理
8	情報の整理と抽象化	・アキネータークイズ・文章作成
9	数の構造とアルゴリズム	・素数・エラトステネスのふるい
10	探索と意思決定	・数当てゲーム・最適停止問題・二分探索法
11	対応と関数の考え方	・集合・写像・鳩の巣原理・一対一対応
12	論理と証明	・命題と真偽・必要条件と十分条件・背理法
13	数の規則性	日歴算など
14	数学の広がり	・数学史・未解決問題

15		
16		

科目コード	12203				区 分	教養科目			
授業科目名	数学基礎 I [B]				担当者名	西田 修斗			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、数学的な見方・考え方を体験的に学び、身の回りの事象や社会の仕組みを数学の視点から捉える力を養う。多様な題材をもとに、活動や対話を通して数学的な視点を用いて捉える経験を重ねる。正解を求めるだけでなく、考え方を言語化し共有する過程を重視する。中学・高校で数学が苦手だった学生でも取り組める内容とし、数学の価値を再認識することを目指す。

<授業の到達目標>

① 身の回りの事象や社会の仕組みを、数量・関係・構造といった観点から数学的に捉えることができる。(DP2・DP3) ② 具体的な事例や活動から共通する特徴を見出し、抽象化して自分の言葉で説明することができる。(DP2・DP3) ③ 授業内の活動や課題において、自分の考えを発言または記述し、試行錯誤しながら取り組むことができる。(DP1) ④ 他者との対話や活動を通して、自分の考えを見直し、より適切に表現することができる。(DP1) ⑤ 数学的な見方・考え方を、日常生活や社会的な場面に関連づけて説明することができる。(DP3)

<授業の方法>

本授業では、体験活動を中心としたアクティブ・ラーニングを行う。授業は主に以下の流れで進める。①ゲームや教具を用いた体験活動にグループで取り組む。②発問に基づき、グループで対話しながら考察を行う。③教員の実演や解説により、活動内容を数学的に整理・一般化する。④ワークシートに要点や考え方を記述し、学びの振り返りを行う。授業ではGoogle Classroomを用いて資料配布や課題管理を行い、Googleフォームを活用して振り返りの提出を行う。これらの活動を通して、具体的な体験と抽象的な理解を往復しながら、数学

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク、ディスカッション、課題解決型学習）各回の授業では、ゲームや教具を用いた体験活動にグループで取り組み、発問に基づいて対話を行いながら解決方法を考察する。その後、教員の解説を踏まえて内容を整理し、ワークシートへの記述を通して自らの考えを言語化することで、主体的・協働的な学習を促す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業外学習として、授業で扱った活動内容やワークシートをもとに、自分の考えや解法を整理・振り返る（1時間程度）。また、授業で扱った題材について別の方法で考えたり、関連する内容を調べたりする（1時間程度）。さらに、配布資料の見直しを通して学習内容の要点を確認する（1時間程度）。これらを通して理解を深めることを目的とする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内での確認テスト・振り返り70%、定期試験30%とする。授業内では、Googleフォームを用いた確認テストや振り返りを実施し、理解度および考え方の言語化を評価する。定期試験では、授業で扱った内容の理解および説明力を評価する。確認テストおよび振り返りについては、集計結果や代表的な記述を授業内で共有し、フィードバックを行う。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	戦略の数学	・石取りゲーム・花びら取りゲーム・すごろくドボン
2	最適化の考え方	・最短ネットワーク・最速降下曲線
3	図形の構成と操作	・一刀切り・折り紙
4	折り紙と数学の応用（オンデマンド）	・折り紙・宇宙工学
5	連続変形と図形の本質	・トポロジー入門・メビウスの輪
6	切断と構造の変化	・ひねり輪・結び目理論入門
7	つながりの構造	・グラフ理論入門・警官と泥棒のおにごっこ・ナイトツアー・四色定理
8	情報の整理と抽象化	・アキネータークイズ・文章作成
9	数の構造とアルゴリズム	・素数・エラトステネスのふるい
10	探索と意思決定	・数当てゲーム・最適停止問題・二分探索法
11	対応と関数の考え方	・集合・写像・鳩の巣原理・一対一対応
12	論理と証明	・命題と真偽・必要条件と十分条件・背理法
13	数の規則性	日歴算など
14	数学の広がり	・数学史・未解決問題

15		
16		

科目コード	14002				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザイン I [BC留学生用]				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の人生を実りあるものにするためには、きちんとしたキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。本科目では、前期は進路別の就職活動の基本的スケジュールを理解するとともに、自己理解、職業・仕事の理解を通じ自身の目指すべき方向性を明確にする。後期は、就職活動に必要なビジネスマナー、自己分析、業界研究、面接対策等について実践的に学習していく。

<授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせて実施する。業界・企業研究に関連する授業回で、グループワークを行う。面接対策に関連する授業回で、口頭発表を行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループやペア、クラスでのディスカッションを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（各回60分程度）：課題の指定された部分を通読したうえで、分からない言葉を調べる。復習（各回80分程度）：授業で学んだことを踏まえて、自身のキャリアについて考えたり、進路決定に向けた準備を進めたりする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

<教科書>

<参考書>

久保田学（2018）「留学生のための就職内定ワークブック」日本能率協会マネジメントセンター

グエン・チュアン・ズオン（2018）「ベトナム人が日本企業に就職するための心得」日本ベンチャー大学パブリッシング

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	多様な選択肢を知る	日本就職、母国就職、進学などの選択肢の概観
2	日本で就職すること (1)	日本の採用文化、就活スケジュール
3	日本で就職すること (2)	留学生に対する企業側の期待と不安
4	キャリアを考える	内的キャリアと外的キャリア、キャリア・アンカー
5	自分がどういう人かを考える (1)	人生曲線、自分史
6	自分がどういう人かを考える (2)	コンピテンシー
7	自分がどうしたいかを考える (1)	未来史
8	自分がどうしたいかを考える (2)	日本との関係（つながり）
9	インターンシップ	日本のインターンシップの特徴、参加する意義、参加方法
10	業界を知る (1)	業界研究の視点、基本的な方法
11	業界を知る (2)	業界研究の実践
12	企業を知る (1)	企業研究の視点、基本的な方法
13	企業を知る (2)	企業研究の実践
14	筆記試験の重要性	適性検査、一般常識試験、論作文
15		
16		

科目コード	14002				区 分	教養科目			
授業 科目名	キャリアデザイン I [企業]				担当者名	佐藤 典子／眞鍋 芳江／鈴木 真理子／濱嶋 幸司／橘高 真紀子／伊藤 亮輔			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「折れない、やめないIPU生」の育成をしつつ就職支援も強力に推し進めるために、キャリアデザインIは具体的な就活能力の向上につながる授業とする。

<授業の到達目標>

自己分析や学生時代の経験の棚卸ができるようになり、将来のキャリアをデザインをする力が付く。

<授業の方法>

アカデミックな内容に加え、実用的なノウハウも学ぶ。外部講師を招へいしての講義や、クイズや動画も使う。履修者は300名を超えることが想定されるが、毎回前半Aと後半Bに分けて、50分授業を2回実施したり、オンデマンドを活用したりすることで、小規模な討論ができるように工夫する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

クイズ、ペア・ワーク、グループ・ワーク、ディスカッションなど。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回授業終了時には、振り返りの代わりに授業の内容を踏まえた上での行動目標を書く。予習・復習を兼ねた課題提出（必須）が4回あり、それぞれの学習時間は1時間程度である。外部講師を招へいする際には、感想文の提出を課す。所属学科によりスケジュールが異なる日もあるので、クラスルームの情報に注意すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲・態度 60%、提出物 40%。フィードバックとして、行動目標の中から代表的なものを全体で共有することがある。

<教科書>

適宜配布物を提供する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス ① シラバス説明、キャリアセンター担当者紹介	前期の授業内容の紹介ならびにキャリア支援や就活基礎知識、翔志会についてキャリアセンターから伝える。また現在の就職活動を取り巻く環境についても情報を提供して理解を促す。
2	A. キャリアとは B. 就職活動の支援環境を把握する	外的・内的キャリアについて理論的に学ぶ。就職情報サイト登録やインターンシップについての説明など。
3	教員パネルディスカッション	本授業の各学科担当教員が各自のキャリアデザインについて振り返り、講話をする。
4	自己理解	キャリアアンカーを理論的に理解して、自分の就職活動における軸を探す。
5	A. 自己理解B. 業界研究セミナー	ジョハリの窓のワークやIPUの先輩たちの就活体験から学ぶ。
6	A. 業界研究・企業研究B. ライフ・プランニング（オンデマンドFE/FC/BC）	業界や職種について演習から学ぶ。また人生を必要経費の視点から計画していくスキルを身につける。全体を2つに分けて、対面とオンデマンドになり、翌週とたすき掛けの内容となる。
7	A. ライフ・プランニング（オンデマンドPP）B. 業界研究・企業研究	先週の逆のグループ構成で対面とオンデマンドになる。業界や職種について演習から学ぶ。また人生を必要経費の視点から計画していくスキルを身につける。全体を2つに分けて、対面とオンデマンドになり、翌週とたすき掛けの内容となる。
8	A. 大手を目指そう！①B. 就職支援会社の活用について	金融業界（銀行・証券会社）を目指す業界特化セミナーで外部講師を招聘する。
9	A. 大手を目指そう！②B. ビジネスマナー	外資・空港・ホテルを目指す学生に特化する。就職活動におけるビジネスマナーについて学ぶ。
10	A. 人生をデザインするB. ガクチカ、自己PR作成	ライフライン・チャートを作成し、未来の自分にインタビューする。ガクチカのない学生は夏休みの過ごし方を考える。
11	A. 就職活動ワークB. 自己分析（オンデマンドFE/FC/BC）	企業もしくは4年生にインタビューをして新しい知見を得る。オンデマンドは自己分析の演習をする。
12	A. 自己分析（オンデマンドPP）B. 就職活動ワーク	企業もしくは4年生にインタビューをして新しい知見を得る。オンデマンドは自己分析の演習をする。

13	A. 就職活動最前線！B. SPI対策	4年生によるパネルディスカッションの後、適正検査について知る。夏休みに対策することを決める。
14	A. SMART目標B. 前期キャリアデザイン総括	目標設定力の強化。前期の振り返りで提出物やインターンシップ申し込みの確認ならびに授業評価をする。
15		
16		

科目コード	14002				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅠ [教職]				担当者名	岸本 勝義／練亨 千之／奥山 優／安井 正郎 ／千葉 照久／林 栄昭／目木 美奈子／本藤 展康			
配当年次	3年	配当学期	第1クォーター、 第2クォーター	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアデザインⅠは子ども発達学科、教育経営学科、体育学科に在籍している教員を志望する学生が対象である。教員としての働くことの意義や自己理解を深める中で、必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考えさせるとともに、教員採用試験合格を目指して、必要な取組について指導を行う。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

1 教員を選択した意思を明確にし、その職に進むために必要な資質や能力を高めることができるようになる。 2 自己理解を深め、将来の生き方について考えることができるようになる。 3 教員採用試験合格を目指して、必要な取組を理解し、日常の実践に生かすことができるようになる。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明を行う。 ・課題についてグループディスカッションを行う。 ・課題についての演習を行う。 ・レポートの提出。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・テーマについて5、6人のグループに分かれてディスカッションを行いグループごとに発表したり、近くの学生同士で意見交流を行ったりする場を設ける。・事後課題として授業での学びを振り返り、気づきや今後に生かしていきたいことなどをレポートにまとめる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。（予習）・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話し合いの中で、自分の考えを深めることができるようにする。・学んだことを通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。（復習：30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、受講態度 20%、講義内での課題等 20%、最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	キャリアデザインとは①・学習のルール・一年間の予定・学校支援ボランティア・「教師を志望する理由」レポート作成	・本講座の目的・意義・概要 ・教員を志望する理由 ・学校支援ボランティアの意義・社会人としての五つの基本
2	自らの社会人基礎力進路調査	・MATCH plus 受験（マイナビ）・進路調査
3	キャリアデザインとは②・立ち居振る舞い ・授業の基礎・基本	・授業の意義と概要 ・教員になるための心構え・授業と板書 ・板書の文字（チョークを持って書くということ）
4	教育現場の課題① 「学力の向上」	・学力向上への方策 ＊講話・レポート
5	学長講話	・教師としてのやりがい
6	講話「生徒指導提要の理解」	・現場の実態を踏まえた、児童生徒への接し方
7	教育現場の課題② 「いじめ問題の解決」	・いじめ問題の現状と課題 ＊講話・グループディスカッション
8	教育現場の課題③ 「不登校の解消」	・不登校の現状と解消への方策 ＊講話・グループディスカッション
9	教育現場の課題④ 「特別支援教育の充実」	・特別支援教育の現状と課題 ＊講話・グループディスカッション
10	教育現場の課題⑤ 「家庭・地域との連携」	・家庭・地域との連携と必要性 ＊講話・グループディスカッション

11	講話 「現場が求める人材」	・ 学校現場の現状と期待される人材
12	キャリア演習 「荘内中学校生徒との交流」	・ 玉野市立荘内中学校生徒との交流 *進路選択についての経験談 *どんな先生を求めているか
13	教員に求められる資質や能力①「信頼される教員」	・ 信頼される教員としての資質 *講話・グループディスカッション
14	教員になるための取組の成果と課題	・ 教員になるために努力していること ・ 第3クォーター、第4クォーターに向けての課題 ・ 夏季休業中の過ごし方 ・ レポート試験
15		
16		

科目コード	14002				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅠ〔健康科学科用〕				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業後の進路を実りあるものにするためには、計画的にキャリアプランを立て、早期から準備に取り組む必要がある。進路別就職活動のスケジュールを理解するとともに、実際の現場で求められている柔道整復師のスキルやモラルを理解し、身に付けることを学修成果として求めます。

<授業の到達目標>

柔道整復師に求められる職業倫理および社会保障制度について理解し、その内容を具体的に説明することができる。また、柔道整復師の役割を踏まえた自己分析を行い、自身の適性や課題を明確にした上でキャリアプランを立案することができる。さらに、基本的なビジネスマナー（挨拶、言葉遣い、態度等）を実践することができ、業界動向や職務内容に関する知識をもとに適切な進路選択を行うことができる。

<授業の方法>

必要に応じて、ゲストスピーカーをお招きして講義を進める（オンライン形式も含む）。資料の配布等はGoogle Classroomを活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

課題に対してグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に連絡した内容を予習して授業に臨む（毎回1時間程度）復習：講話後はレポートを提出し、柔道整復師の理解を深める。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業意欲・態度：50%、授業課題・レポート提出：50%

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の目的、進め方についての説明就職先に関するアンケート
2	職業倫理①	業界調査（地域医療に貢献する柔道整復師の実態）
3	職業倫理②	業界調査②（効果のある施術を探索）
4	職業倫理③	OB・OG講話 柔道整復師の業務とその実際
5	職業倫理④	企業講話 柔道整復師が果たすべき役割
6	自己分析①	自己PRの仕方① 自分の強みを考える
7	自己分析②	自己PRの仕方② 自分の強みを伝える
8	自己分析③	自己PRの仕方③ 名刺の役割および作成
9	自己分析④	志望動機を考える
10	就職活動の実践①	履歴書・エントリーシートの書き方
11	就職活動の実践②	履歴書・エントリーシートの相互指導（添削）
12	就職活動の実践③	面接（オンライン及び対面）の対応
13	就職セミナー	企業数社が集まる就職セミナーに参加し、複数の企業の説明を聞く。
14	前期まとめ	柔道整復術の短期的視点・長期的視点夏季休暇中の企業見学について
15		
16		

科目コード	14002				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅠ [公務員]				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

このキャリアデザインⅠ（公務員）は体育学科、教育学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している公務員就職を希望する学生対象の講義である。このクラスでは公務員就職を希望し、公僕として働くことの意義を実際に各種公務員として働くためにどんな職種の公務員があるのか、それはどのような業務をするのかを知ることになりたい職種を絞っていきます。そのためには公務員試験とはどのようなものか、どんな試験内容で構成されているのか、教養試験、適性試験、論文試験、面接試験などについて解説していく。以上のことを学んでいく中で本当に公務員試験に取り組む姿勢を養い、後期から始まる試験勉強に向けて覚悟を決めさせていく。

<授業の到達目標>

1. 公務員就職について職種や試験の知識を学び、将来目指すべき職種を見つける。2. 自己理解を深め、将来の自分の方向性について考える。

<授業の方法>

講義、講演会、グループワーク（模擬面接、集団討論）等の形式で実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：グループワークをする際に、事前に課題を与え個別に調べさせ配布用紙に記入する（1時間程度）。復習：グループワークや講演会の場合は振り返りレポートを提出させる（30分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

単元別レポート70%、授業に取り組む姿勢30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本科目の目的・意義・概要、スーツ着用にあたっての再確認事項、公務員を志望する理由、立志会の説明
2	公務員試験の概要（1）	公務員試験の種類
3	公務員試験の概要（2）	公務員の職種について①（公安職）
4	公務員試験の概要（3）	公務員試験の職種について②（公安職）
5	公務員試験の概要（4）	公務員試験の職種③（行政職）
6	公務員試験の概要（5）	公務員試験の募集要項の見方と、願書の作成体験
7	公務員試験の概要（6）	各種公務員試験の出題内容と実際の問題を見てみよう
8	講話「現場が求める人材」	大都市圏の警察官の仕事について
9	公務員試験の概要（7）	体力検査、各種適性検査について
10	公務員試験の概要（8）	各種試験の論文課題について
11	公務員試験の概要（9）	論文を実際に書いてみる
12	立志会の入会説明	全体のカリキュラムの概要、活動内容の説明、費用についての説明、4年生の先輩からの話
13	公務員試験の概要（10）	面接試験について（自分についての棚卸）
14	公務員試験の概要（11）	面接試験について（自己分析と自己PR）
15		
16		

科目コード	14002				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアデザインⅠ〔幼保〕				担当者名	檜 寄 日佳／高崎 展好／三好 啓子／宮原 舞			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

キャリアデザインⅠ〔幼保〕は、こども発達学科に在籍している幼稚園・保育所・こども園・福祉施設等への就職を希望する学生対象の科目である。保育職を選択し働くことの意味や自己理解を深める中で、保育職に就くために必要な資質や能力を養い、将来の生き方について考える機会とする。また、保育職採用試験合格を目指して、論作文、面接、実技試験などの実際について指導をする。

<授業の到達目標>

① 保育職を志望する理由を整理し、自らの言葉で具体的に説明することができる。② 保育職に必要とされる資質や能力を理解し、自身の強みや課題として整理することができる。③ 自己分析を通して自己理解を深め、将来の進路や生き方について具体的に表現することができる。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明及び課題についてのグループワーク・自己課題に応じたピアノ実技・課題についての演習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・アクティブ・ラーニングの要素有・5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。
・互いの演奏や弾き歌いについての振り返りをする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。（30分）・復習：各回の講義の内容について、個人またはグループで復習をし、ワークシートの追加記入や復習をする。自己課題に応じたピアノ及び弾き歌い練習をする（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20％、課題50％、試験30％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	職業選択と就職活動の意思確認と見直し	授業の目的・意義・概要児童生徒性暴力等に関する理解
2	ピアノ実技（1）	ピアノ演習・弾き歌い（1）
3	進路の選択	公立園と私立園の違い、先輩の講話
4	ピアノ実技（2）	ピアノ演習・弾き歌い（2）
5	採用試験の流れと概要	採用試験までの流れ、自治体・法人の探し方
6	ピアノ実技（3）	ピアノ演習・弾き歌い（3）
7	社会人のマナー	社会人の身だしなみ、挨拶、立居振舞、言葉遣い
8	ピアノ実技（4）	ピアノ演習・弾き歌い（4）
9	論作文（1）	構成メモと文章の作成（1）
10	ピアノ実技（5）	ピアノ演習・弾き歌い（5）
11	論作文（2）	構成メモと文章の作成（2）
12	ピアノ実技（6）	ピアノ演習・弾き歌い（6）
13	前期のまとめ	前期学びの振り返り長期休業期間の就職活動について
14	ピアノ実技（7）	ピアノ演習・弾き歌いまとめ
15		
16		

科目コード	14101				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ [再履修]PP用				担当者名	早田 剛			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「基礎ゼミナールⅡ」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を持てるようになる。 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を持てるようになる。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を持てるようになる。 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を持てるようになる。

<授業の方法>

1. 講義(メンターによる講話) 2. グループワーク、ディスカッション(小グループ、クラスグループ) 3. 省察活動(質疑・まとめ・感想発表) 4. 基礎学力課題に取り組む

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有テーマに応じて、ディスカッションを行う

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。対面授業：(毎回1時間程度)テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

予習課題(10%) プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等(50%) 演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲(30%) 最終レポート(10%) 必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション(コミュニティの形成)	授業概要の理解、年間の学びの見通しを持つ
2	自己分析①	自己分析(強み・価値観)および3×3×3フォーマットを用いた言語化の基礎
3	自己分析②・関係形成	交流会に向けた準備と自己開示、関係構築の促進
4	クラス内交流	クラス内交流の実施
5	環トレと五訓について	環トレ課題および五訓評価への取り組み
6	project型学習① 企画	企画立案と役割分担の決定・プレゼン作成
7	project型学習② リハーサル	企画実施に向けた準備およびリハーサル
8	project型学習③ 実践と振り返り	企画実施と振り返り、2年次イベントの方向性検討
9	project型学習④ 実践と振り返り	振り返りの深化とアクションプランの具体化
10	project型学習⑤ 実践と振り返り共有	振り返りの共有とアクションプランの完成
11	企画発表①	担当イベントのコンセプト発表および意思決定
12	五訓評価	五訓自己評価の実施と振り返り
13	2年後期からのアクションプランの作成	前期活動の総括と個人の成長の振り返りとアクションプランの精査
14	2年後期からのアクションプラン発表	自分のアクションプランと他の人のアクションプランを振り返り、ブラッシュアップを行う。
15		
16		

科目コード	12103				区 分	教養科目			
授業 科目名	食育論				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

昨今、食環境の現状は、飽食の時代で豊かさが先行し、命を紡ぐ大切な食べ物を得ることへの感謝の気持ちを実感する機会が少なくなっている。人間が心身ともに豊かな暮らしを営むためには、食生活のあり方が大きな役割を果たし、「食」が人間の健康に必須である。本講義では、食育基本法をベースに現代の食の問題を踏まえ、食生活に関する基本的な理解を深め、高い見識をもって健全な食生活を実践および指導できる力を身につける。

<授業の到達目標>

本講義では、食を様々な視点から見る力を養い、健康増進・生活習慣病予防におけるQOL向上のための方策を栄養の観点から考察する。また、ライフステージ別の食育を学び、高い見識をもって健全な食生活を実践・指導できるようになる。

<授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて授業の内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題点（レポート課題、意見交換、小テスト） 60%、最終課題 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

山本茂・奥田豊子・濱口郁枝（2011） 食育・食生活論 社会・環境と健康（栄養科学シリーズNEXT） 講談社
辻とみ子・堀田千津子（2017） 新版ヘルス21 栄養教育・栄養指導論 医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	食育・食生活の概念、食育基本法の概要	食行動、食生活の機能および構成因子、法令制定の経緯・理念と内容
2	栄養素の機能および意義	五大栄養素の働き
3	栄養素の消化・吸収の機構	栄養素の消化・吸収
4	食事バランスガイドの概要と活用	食事バランスガイドを活用した振り返り
5	食生活と健康	朝食の欠食、ボディイメージとダイエット志向
6	食生活と生活習慣病①	肥満と糖代謝異常
7	食生活と生活習慣病②	高血圧と骨の健康
8	生体リズムと食事	時間栄養学とサーカディアンリズム
9	世界の食文化	世界の食習慣、食作法
10	日本の食文化	日本の食習慣、食作法
11	ライフステージ別の食育①	乳幼児期の栄養教育
12	ライフステージ別の食育②	学童・思春期の栄養教育、コショク
13	ライフステージ別の食育③	成人期の栄養教育
14	ライフステージ別の食育④	高齢期の栄養教育
15		
16		

科目コード	12103				区 分	教養科目			
授業科目名	食育論				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

昨今、食環境の現状は、飽食の時代で豊かさが先行し、命を紡ぐ大切な食べ物を得ることへの感謝の気持ちを実感する機会が少なくなっている。人間が心身ともに豊かな暮らしを営むためには、食生活のあり方が大きな役割を果たし、「食」が人間の健康に必須である。本講義では、食育基本法をベースに現代の食の問題を踏まえ、食生活に関する基本的な理解を深め、高い見識をもって健全な食生活を実践および指導できる力を身につける。

<授業の到達目標>

本講義では、食を様々な視点から見る力を養い、健康増進・生活習慣病予防におけるQOL向上のための方策を栄養の観点から考察する。また、ライフステージ別の食育を学び、高い見識をもって健全な食生活を実践・指導できるようになる。

<授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて授業の内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題点（レポート課題，意見交換，小テスト） 60%、最終課題 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

山本茂・奥田豊子・濱口郁枝（2011） 食育・食生活論 社会・環境と健康（栄養科学シリーズNEXT） 講談社
辻とみ子・堀田千津子（2017） 新版ヘルス21 栄養教育・栄養指導論 医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	食育・食生活の概念、食育基本法の概要	食行動、食生活の機能および構成因子、法令制定の経緯・理念と内容
2	栄養素の機能および意義	五大栄養素の働き
3	栄養素の消化・吸収の機構	栄養素の消化・吸収
4	食事バランスガイドの概要と活用	食事バランスガイドを活用した振り返り
5	食生活と健康	朝食の欠食、ボディイメージとダイエット志向
6	食生活と生活習慣病①	肥満と糖代謝異常
7	食生活と生活習慣病②	高血圧と骨の健康
8	生体リズムと食事	時間栄養学とサーカディアンリズム
9	世界の食文化	世界の食習慣、食作法
10	日本の食文化	日本の食習慣、食作法
11	ライフステージ別の食育①	乳幼児期の栄養教育
12	ライフステージ別の食育②	学童・思春期の栄養教育、コショク
13	ライフステージ別の食育③	成人期の栄養教育
14	ライフステージ別の食育④	高齢期の栄養教育
15		
16		

科目コード	12104				区 分	教養科目			
授業科目名	生命科学基礎				担当者名	大塚 愛二			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

ヒトをはじめとする生物の体は、最小単位としての細胞からなっている。この授業では、生命活動を細胞レベルで学修する。「細胞がどのような構造と機能をもっていて、どのような生命活動を行っているのか」、「多種多様な細胞がどのように働いているのか」について高校生物を履修していない学生も理解できるように初歩的な段階からの学修を行う。

<授業の到達目標>

日常的に知ることのできる生命科学に関する情報の中で細胞生物学に関する事項を正しく理解する。細胞の一般的な構造と機能を説明できる。細胞内小器官を説明できる。遺伝子の情報からタンパク質が作られる過程を説明できる。細胞分裂を説明できる。多種多様な細胞を例示しその概略を説明できる。

<授業の方法>

一般向けに編集された生命科学に関する書籍の内容を理解できるよう講義する。小テスト（ワークシート）を毎回実施し、各回の授業内容のポイントを整理し、知識の定着を図る。Google Classroomを用いて授業運営、資料提供、課題管理を行う。※本授業はデジタルオンデマンド教材等使用し行うため、ノートPCまたはタブレット端末等を準備の上、受講すること。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

質問と応答を繰り返しながら、授業を進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【準備学習】Google Classroomに示された各授業のキーワードを事前に学ぶ（予習40分）。復習ワークシートを自ら解答する（復習40分）。【その他の授業時間外学習】課題提出（自己学習40分/週）。準備学習に必要な資料はClassroomに置く。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回のワークシート（35%）、期末試験（35%）、課題レポート（30%）により評価する。課題レポートのテーマ設定と提出方法については、授業の中で別途指示する。

<教科書>

<参考書>

中村真哉編（2024年10月） ニュートン別刷 人体ではたらく細胞のすべて ニュートンプレス
 中村真哉編（2025年10月） ニュートン別冊 新・生命論 ニュートンプレス
 和田勝（2020年11月） 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 羊土社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業の進め方と生命科学の序論
2	生命の基本単位：細胞	生命とは何か、その基本単位としての細胞について
3	細胞核	細胞核の構造と機能について
4	遺伝子の発現	DNA上の遺伝情報をもとにタンパク質を合成するしくみ
5	小胞体とゴルジ装置	作られたタンパク質のその後
6	ミトコンドリア	ミトコンドリアとエネルギー生成について
7	細胞膜	細胞膜の構造と機能について
8	細胞骨格	細胞骨格をつくる分子とモーター分子
9	細胞分裂	細胞分裂のしくみと分化・成長
10	減数分裂と生殖	減数分裂のしくみと生殖
11	細胞の分化と多様性	細胞の分化と体内の多種多様な細胞
12	体を守る細胞たち	免疫系の細胞と生体防御のしくみ
13	細胞の科学と医療	幹細胞、再生医療、細胞の寿命
14	総括	まとめと全体を対象とした試験
15		
16		

科目コード	10301				区 分	教養科目			
授業科目名	統計学				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

初めに、統計学の基礎となる平均・分散・標準偏差について学習する。これらの値は、与えられたデータの特徴を知るための簡単な手法としてよく知られている。ここでは、計算はもとより意味や内容を十分に理解しておくことが重要である。次に、偏差値・度数分布表・ヒストグラムなどの基本事項を確認する。更に、2つのデータ間の関係を知るために有効な、相関図・共分散・相関係数・回帰直線などを学習後、確率変数と分布について検討を行い、2項分布・ポアソン分布及び正規分布とその応用について学習する。最後に母数の推定及び検定の考え方やその方法を学び、実社会での活用法を検討する。

<授業の到達目標>

一般的によく利用される、平均値の算出から始まり、分散、標準偏差、共分散、相関係数、回帰直線、検定の内容を十分理解し、実際のデータに対して手計算で算出できることを目標とする。

<授業の方法>

教科書代わりのプリントを配付し、それに基づいて解説する（50分程度）。また講義の理解を助けるために、講義時間内に問題演習を行う（50分程度）。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素無

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスを参考に、当日の授業内容を確認し、テキスト用プリントを講義前までに熟読すること（予習60分）。また、毎回の講義時に、演習問題を出題するので、次回講義開始時までに自力で解答できるようにしておくこと（復習60分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 30%、講義内課題 30%、期末試験 40%

<教科書>

<参考書>

小林敬子 著（1996） 基礎統計学 学術図書出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	統計の基礎（統計的データ）	データの種類、 Σ （シグマ）の意味の説明と演習
2	統計の基礎（基本用語の解説）	平均、分散、標準偏差の説明と演習
3	データの処理（計算表の利用方法）	計算表の作成とその利用方法の説明と演習
4	データの処理（基本数値の算出手法）	仮平均を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
5	データの処理（他の基本数値の算出手法）	度数表を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
6	データの処理（応用）	仮平均と度数表の両方を用いた、平均・分散・標準偏差の算出法の説明と演習
7	確率変数と確率分布（統計用語）	度数分布表、ヒストグラムの解説と演習
8	確率変数と確率分布（基本的な分布）	正規分布の解説と演習
9	確率変数と確率分布（身近な統計的数値を算出するための準備）	標準化の解説と演習
10	確率変数と確率分布（偏差値の算出）	偏差値の解説と演習
11	回帰と相関（基本用語の解説と算出手法）	相関図、共分散、相関係数の解説と演習
12	回帰と相関（回帰直線の算出）	回帰直線の解説と演習
13	確率変数と確率分布（その他の分布）	確率、二項分布、ポアソン分布の解説と演習
14	検定（仮説検定の意味）	独立性の仮説検定、T検定、F検定の演習
15		
16		

科目コード	13206				区 分	教養科目			
授業 科目名	労働法規				担当者名	笹井 健司			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

職業生活において生じる労働法規に関する問題を、就職から退職までの時間の流れに沿って概説する。

<授業の到達目標>

労働者と使用者による対等の立場で労働条件の形成、および最低労働基準法定の意義について理解するとともに、事業場において労働者または使用者として職業生活を送っていくうえで必要となる労働法規の知識を修得する。あわせて、第1種衛生管理者の資格取得のために必要な知識を修得する。

<授業の方法>

対面講義により行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：60分（労働法規に関する情報を新聞やインターネットなどで予習すること）復習：90分（レジュメを中心に講義内容の復習をすること）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 20%、期末テスト 80%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	労働法とは	労働法の基本構造を解説する。
2	労働法の当事者ー「使用者」「労働者」	労働法の当事者について解説する。
3	労働契約の成立	企業の採用の方法、採用や試用の法的位置づけを解説する。
4	労働契約の終了	解雇規制、雇止め等について解説する。
5	労働条件の決定と変更	労働条件を決定・変更の場面で重要な就業規則について解説する。
6	人事異動・懲戒	配転、出向、転籍等の法的根拠と問題について解説する。
7	応用問題の検討①	第1回～第6回の講義内容についてさらに詳しい内容を検討する。
8	賃金①	わが国における賃金制度について解説する。
9	賃金②	賃金の支払いに関する規制について解説する。
10	労働紛争解決制度	労働紛争の際に利用できる労働紛争解決制度を解説する。
11	社会保険概論	労働者が加入する社会保険について解説する。
12	雇用保険	雇用保険について解説する。
13	応用問題の検討②	第8回～第12回の講義内容についてさらに詳しい内容を検討する。
14	まとめ	試験
15		
16		

科目コード	14001				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート [BC留学生用]				担当者名	大平 真紀子／片上 摩紀			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、キャリアデザインで取り組んだ内容をもとに、日本の会社で働くために必要な資質、知識やマナーをさらに向上させることを目指す。日本で就労するためには日本人の考え方、国との働き方の違い、法規に関する問題などを知り、日本社会の中で共生していく必要がある。そのための知識の養成や心構えについて学ぶ。

<授業の到達目標>

卒業後の進路を選択し、選択した進路に進むために必要な資質や考え方、能力を獲得する。 ※留学生が卒業後に「特定活動」の在留資格を得るためには、本科目の単位を修得する必要があるので留意すること。

<授業の方法>

講義と演習を組み合わせる。面接対策に関連する授業回で、プレゼンテーションに類するものを行う。提出物はGoogle Classroomを用いて提出することもある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループやクラスでのディスカッション、発表を実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。（予習・復習とも30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度・学習意欲30%、講義内での課題 60%、最終レポート10%。課題に対するフィードバックは講義内で、最終レポートについてはGoogle Classroomで行う。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明
2	就職活動の中間報告	各自の就職活動の「これまで」と「これから」
3	キャリアについて考える	内的キャリアと外的キャリア、キャリア・アンカー
4	自己分析（1）	人生曲線、自分史
5	自己分析（2）	自己PRのための日本語表現
6	業界・企業研究（1）	業界・企業を捉える多様な視点、情報収集の方法
7	業界・企業研究（2）	選択肢を広げるための業界・企業研究
8	自己分析（3）	業界・企業選択に向けた価値観の模索
9	業界・企業研究（3）	価値観にもとづく業界・企業選択
10	書類の作成	読み手に伝わる日本語表現とは
11	就職活動におけるマナー	身だしなみ、電話・メール・対面での日本語表現
12	面接対策（1）	基本的な手順、聞かれる質問
13	面接対策（2）	面接のロールプレイング
14	まとめ	就職活動の総括とこれからの学びに向けて
15		
16		

科目コード	14001				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート [企業]				担当者名	佐藤 典子／濱嶋 幸司／戸田 晃大／橘高 真紀子			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

このキャリアサポート（企業）は体育学科、教育学科、こども発達学科、現代経営学科に在籍している企業就職を希望する学生対象の講義である。企業人事や卒業生から業界・職種説明を聞き、自分の就職先企業の選択肢を増やす。また、就職活動だけではなく、社会に出てすぐに役立つスキルやコミュニケーション方法を習得することも目標とする。基本的に対面の授業となり、参加することで就職活動を進めていくことに直結する内容となる。

<授業の到達目標>

1) 企業就職を希望する学生が就職活動を進め、納得した進路決定をする。2) ビジネスマナーの知識を身に付け、実践できるようになる。

<授業の方法>

グループワーク・ロールプレイ・学内企業説明会への出席。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有テーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前・事後学習は企業研究や課題レポートの作成などで、1時間程度である。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講意欲・態度 60%、内容理解を診断するための提出物や課題レポートなど 40%

<教科書>

随時配布物を配る。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	キャリアプランを見据えた企業選びをするための方法を学ぶ
2	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
3	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
4	面接対策	面接のポイントを学び、頻出質問に対する回答を作成する（オンデマンド回）
5	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
6	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
7	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
8	就活・ビジネスマナー	就職活動のマナー全般の知識習得・実践
9	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
10	将来のマナープラン設計	生命保険会社勤務の卒業生から将来のマナープラン設計について学ぶ
11	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
12	企業・働き方研究	企業による業界・職種・働き方の説明会
13	卒業生座談会	卒業生から現在の仕事について働き方や違い甲斐などを聞き、自分のキャリア設計に役立てる
14	社会人の人間関係	人間関係構築に役立つアサーティブ・コミュニケーションについて学ぶ
15		
16		

科目コード	14001				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート [教職]				担当者名	本藤 展康／目木 美奈子／岸本 勝義／千葉 照久／奥山 優／安井 正郎／練苧 千之／岩田 清隆			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業の目的は、キャリアデザイン等で学んだ教師としての基礎知識をもとに、教員採用試験合格に向け、より実践的な資質・能力を身につけることである。その目的を達成するために、教員採用試験に向けた心構えや具体的な攻略法についての講義・演習を中心に、より実践に即した形で指導する。学習成果については、論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

・教師としての基礎知識や学校現場の課題を理解することができるようになる。・教員採用試験の傾向と対策を理解し、志望する自治体に応じた面接、論作文、模擬授業等の実践力を高めることができるようになる。・教師のやりがい、心構え等を理解し、自らの理想とする教師像を明確にすることができるようになる。

<授業の方法>

・講話を通して、課題の提示や説明 ・課題についてのグループ協議・課題についての演習 ・Googleクラスルームによる課題管理

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有・5, 6人のグループに分かれてテーマに沿ってディスカッションし、意見をまとめてグループごとに発表する。・個人面接や集団面接など、実践に即した演習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・学習予定表に沿った内容に対して、課題意識をもたせる。（予習）・各回の講座の内容について、個人またはグループでの話し合いの中で、自分の考えを深めることができるようにする。・学んだ事を通し自分の考えをレポートとしてまとめることができる。（復習：30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 20%、受講態度 20%、講義内での課題等 20%、最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教員採用試験合格に向けて教員採用試験の事務手続きキャリアサポートの概要社会人のマナー	採用試験合格に向けた取り組みについて提出願書の記入方法や注意事項調査票の記入・提出 等立ち振る舞い、服装とあいさつ
2	自己アピールの仕方自己PR作成について	自己アピールの仕方 自己PR作成のこつ・自己PR作成グループで自己アピール演習
3	第4期教育振興基本計画について学習進行表	第4期教育振興基本計画の概要グループに分かれて集団討論 学習進行表を基にした情報交換
4	教育現場の課題 1「いじめ・不登校への対応」 <オンデマンド授業>	いじめ・不登校への対応についての講義自分が取り組むことについてのレポート
5	個人・集団面接の攻略法	個人・集団面接の回答の仕方自分の考えをわかりやすく伝える手立て
6	学長講話	進路に向けてのメッセージ
7	受験に際しての心構え個人面接の攻略法	一次試験（二次試験）に臨む心構え聞き手を意識した回答の仕方 I P Uに関する質問への回答の仕方
8	実践に即した場面指導演習	場面指導の実際現場で起こりうる場面での対処法
9	教育現場の課題 2「インクルーシブ教育」	グループに分かれて集団討論
10	集団討論等の攻略法	集団討論・グループ活動の実施形態複数の受験者との討論の進め方課されるテーマの過去問の分析
11	模擬授業の攻略法	模擬授業の概要先輩の模擬授業（VTR視聴）学習指導案の書き方と模擬授業の実際

12	教育現場の課題 3「現行学習指導要領から次期学習指導要領への動き」	主体的・対話的で深い学び令和の日本型学校教育次期学習指導要領のめざすもの
13	実践に即した面接演習	授業に関する面接対策評価の観点を意識した面接の仕方・展開面接講座の仕上げ
14	まとめ最終レポート	本講座のまとめをする。最終レポートの作成 課題「学んだことをどのように教職に役立てるか」(900字 60分)
15		
16		

科目コード	14001				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート [健康科学科用]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

このクラスは健康科学科に在籍する学生が対象である。接骨院、整形外科クリニックをはじめとした医療機関、フィットネスクラブ、介護事業所などへの就職を目指す学生の就職活動における指導を実施する。

<授業の到達目標>

日本で就職を希望する留学生にエントリーシート記入の方法、面接対策、採用試験対策についてのサポートと指導をおこない、学生の希望に応じた企業・団体への内定を獲得できることを目標とする。また出身国に戻り就職を希望する留学生に対しては、より多くの情報を集め学生と個別に相談しながら、希望に沿った企業や団体への就職獲得を目指す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、演習、面談の形で実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

面接練習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回講義で学習した内容を見直して復習し、授業終了時に示す内容等を予習する。予習復習にはHPで集めた情報の中より有用なものを抽出し、レポートはword、excel、powerpointを用いDropboxを用いて提出する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義内の討論参加度合 30%、 講義内での課題遂行度合 30%、 最終レポート 40%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的とその概要について
2	自己分析	就職先となる医療・福祉業界の特徴を知る
3	就職するには(1)	自分のアピール方法を知る
4	就職するには(2)	就職活動の流れと準備
5	就職するには(3)	企業・業界を知る
6	就職するには(4)	情報収集の方法
7	就職するには(5)	希望企業・業界の決定
8	就職活動サポート(1)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(1)
9	就職活動サポート(2)	エントリーシートの書き方・履歴書の書き方(2)
10	就職活動サポート(3)	筆記試験・適性検査対策(1)
11	就職活動サポート(4)	筆記試験・適性検査対策(2)
12	就職活動サポート(5)	個人面接・集団面接対策
13	就職活動サポート(6)	個人面接・集団面接練習(1)
14	就職活動サポート(7)	個人面接・集団面接練習(2)
15		
16		

科目コード	14001				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート [公務員]				担当者名	横内 浩平			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。1. 直前期に必要な「問題演習」2. 二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

<授業の到達目標>

1. 公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。2. 採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3. 今年度の公務員試験に必要な知識を養成し、採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）2. 振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 集団討論や集団面接の練習はグループを作って行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（30分程度）復習：次回講義までに、該当する問題を解けるようにしておく（90分以上）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト35%、授業態度 15%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	問題演習 (1)	政治
3	問題演習 (2)	経済
4	問題演習 (3)	日本史
5	問題演習 (4)	世界史
6	問題演習 (5)	地理
7	問題演習 (6)	生物・地学
8	二次試験対策 (1)	集団討論・集団面接等 (1)
9	二次試験対策 (2)	集団討論・集団面接等 (2)
10	二次試験対策 (3)	集団討論・集団面接等 (3)
11	二次試験対策 (4)	集団討論・集団面接等 (4)
12	二次試験対策 (5)	集団討論・集団面接等 (5)
13	二次試験対策 (6)	集団討論・集団面接等 (6)
14	二次試験対策 (7)	集団討論・集団面接等 (7)
15		
16		

科目コード	14001				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアサポート [幼保]				担当者名	檜 日佳／高崎 展好／三好 啓子／宮原 舞			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園・保育所・認定こども園・福祉施設等において保育職を志望する学生を対象とした選択科目である。保育者としての基礎知識と採用試験合格に向けた具体的な指導をする。

<授業の到達目標>

① 保育者として求められる資質や能力について理解し、自らの進路目標を明確に説明することができる。② 保育職に進むために必要な論作文、面接、保育実技の基礎的技能を身につけ、実践することができる。③ 志望する自治体や法人の採用試験に向けて、必要な準備を行い、自身の考えや強みを適切に表現することができる。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・アクティブ・ラーニングの要素有・5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。
・互いの演奏や弾き歌いについての振り返りをする。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する関連資料や課題を読み、授業の準備をする。（30分）・復習：各回の講義の内容について、個人またはグループで復習をし、ワークシートの追加記入や復習をする。自己課題に応じたピアノ及び弾き歌い練習をする。（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度20%、課題50%、小テスト30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	職業選択と就職活動の意思確認	授業の目的と概要児童生徒性暴力等に関する理解
2	ピアノ実技（1）	ピアノ演習・弾き歌い（1）
3	合格までの計画	先輩の講話将来を見通した長期計画と短期計画
4	ピアノ実技（2）	ピアノ演習・弾き歌い（2）
5	願書の作成	願書記入のマナー、自分の強みを生かした願書作成
6	ピアノ実技（3）	ピアノ演習・弾き歌い（3）
7	願書の送付	封筒の書き方、郵送の方法メール提出のマナー
8	ピアノ実技（4）	ピアノ演習・弾き歌い（4）
9	面接（1）	集団面接と個人面接
10	ピアノ実技（5）	ピアノ演習・弾き歌い（5）
11	面接（2）	集団討論の方法と演習
12	ピアノ実技（6）	ピアノ実技・弾き歌い（6）
13	学びのまとめ	合格までの就職活動保育職のキャリア形成
14	ピアノ実技（6）	ピアノ演習・弾き歌いまとめ
15		
16		

科目コード	11304				区 分	教養科目			
授業科目名	コーチング基礎 Co-creative coaching Basic				担当者名	稲垣 友仁			
配当年次	1年	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、対人支援に役立つコーチングの基礎スキルを学ぶことを目的とする。特に、相手の自律性を基軸に置きながらコーチとクライアントとの共創的な対話を創り出す部分にフォーカスをしていく。具体的には、国際コーチング連盟(ICF)のコアコンピテンシーに定められた下記の3つの分野にフォーカスし、演習を通して体験的に学んでいく。・1日目テーマ：「効果的なコミュニケーション／Co-creative coaching Basic「Communication」」相手の自律性を大切にしながら、対話を行うコミュニケーション（聞く、質問、承認、フィードバック、提案）の技術を学ぶ。・2日目テーマ：「関係性を共に築く／Co-creative coaching Basic「Relationship」」目の前の人と信頼と親密性を築いていく方法を学び、人と人との関係をシステムとして見る力を養う。・3日目テーマ：「学習と成長を育む／Co-creative coaching Basic「Lead to goal」」コーチングフローを使って相手が自発的に目標に向かうことで、相手の学習や成長を促せるようサポートする方法を学ぶ。この授業で学んだことを現在の実生活の場面及び将来の職業人として、相手と共創関係をつくりだす場面に活かすことを目的とする。＊この授業は、国際コーチング連盟(ICF)からLevel1, Level2認定されている共創コーチ養成スクール(Co-Creative Coach Training School)の「Communication」「Relationship」「Lead to goal」に該当するプログラムである。

<授業の到達目標>

相手の目標達成を支援するために、共創的な対話が進められるよう以下のスキルについての知識を獲得すると同時に、体験を行うことで理解を深める。・傾聴、承認、質問などのコーチングスキルの必要性を理解できる。・相手と関係性を築くスキルの必要性を理解し、関係性をシステムとして捉える思考を身につける。・目標達成に向けての進め方を理解し、具体的なデザインを行うことができる。

<授業の方法>

この授業は実習、演習、講義形式で行われる。本授業はアクティブラーニング80%程度で進められる。※授業に関する連絡事項は、すべてGoogle Classroomで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの方法は、グループワーク、グループディスカッション、簡単なプレゼンテーション、コーチングロールプレイを行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価の配分は、実習・演習・講義への取り組み60%、レポート・課題40%とし、全体で60%以上を合格とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、コーチングとは
2	聞く	講義・演習を通して傾聴スキルを学ぶ
3	質問	講義・演習を通して質問スキルを学ぶ
4	承認	講義・演習を通して承認スキルを学ぶ
5	フィードバック・提案 コーチングロールプレー	講義・演習を通してフィードバック・提案スキルを学び、これまで学んだすべてのスキルを使ってコーチングを体験する
6	関係づくり	人間関係における目には見えない力学的部分に意識を向け、相手と関係を作る方法を探る
7	相手に応じた関わり	相手の特徴に応じた関わり方を行う
8	関係性の力学を見抜く	人間関係に起こるシステムについて理解し、相手との関係に起こる力学的作用を感じる
9	関係性を活かしたコーチングスキル	関係性に必要なコーチングスキルを演習を通して学ぶ
10	コーチのポジショニング	コーチングを使って相手と関わる際のポジショニングを演習を通して体感する
11	コーチングフロー	目標達成に向けて相手の導き方を演習を通して学ぶ
12	目標設定	自律的に取り組むための目標設定の方法について学ぶ
13	行動計画	決めたことをやり抜くための行動計画の立て方について学ぶ
14	コーチングロールプレー	3人1組で観察者も入れながらコーチングロールプレーを行う

15		
16		

科目コード	11300				区 分	教養科目			
授業 科目名	コミュニケーションの心理学				担当者名	北村 勝朗			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演 習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、対人認知や集団心理、リーダーシップ等の心理学的理論を学び、日常生活、教育、職場、対人援助場面などにおける具体的なコミュニケーション実践へ応用する力を養う。講義に加え、模擬授業やロールプレイ、事例分析といった実践的演習を重視する。これらの活動を通じて、「伝える・聴く力」や「人間関係を築く力」、「人を動かす力」を体系的に学ぶ。理論と実践を往還し、教育現場で即戦力となるコミュニケーション能力の習得を目指す。

<授業の到達目標>

1. コミュニケーションおよび自己・他者理解に関する主要な心理学理論を理解し説明できる。 2. 傾聴、共感、自己表現、対立解決などの基本的技能を実践できる。 3. 集団づくり・チームマネジメントの心理を理解できる。 4. 学んだ知識を学校、職場、家庭、地域社会などの実生活に応用できる。

<授業の方法>

集中講義形式で実施する。講義による理論理解に加え、グループワーク、ディスカッション、ペア演習、自己分析ワーク、ロールプレイ、ケーススタディ等を取り入れ、主体的・対話的に学ぶ。受講者相互の対話と実践を通して学びを深める。また、各回で振り返りシートを作成し、自身の気づきを整理しながら学習を深める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、講義による知識修得に加え、アクティブラーニングを実施する。具体的には、事例に対するグループディスカッション、心理測定尺度を用いた自己分析、およびロールプレイを取り入れる。これにより、理論を体験的に理解し、他者との対話を通じて多角的な視点を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・ 普段の自分自身のコミュニケーションの特徴を観察し、授業内容と結びつけて考えること。 ・ 授業で扱った心理学用語や理論について復習し、ノートを整理すること。 ・ 毎回の振り返り課題に取り組み、自分の考えを言語化すること。 ・ 新聞、ニュース、SNS、対人事例などをコミュニケーション心理学の視点で考察すること。（目安：各回90分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・討議・演習への積極性：30%、リアクションペーパー・省察課題：30%、最終課題（理論理解と実践的考察）：40%毎回のリアクションペーパーやレポートについては、翌日の授業冒頭で全体的な傾向を解説し、優れた視点や共通する課題についてフィードバックを行う。

<教科書>

<参考書>

菅野仁（2008年3月6日） 友だち幻想：人と人の＜つながり＞を考える ちくまプリマー新書
平木典子（2012年2月17日） アサーション入門：自分も相手も大切に自己表現法 講談社現代新書
越智啓太（2026年2月10日） 「見た目」の心理学：顔と身体のコミュニケーション 講談社現代新書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コミュニケーション心理学とは何か？	コミュニケーションの定義、成立過程を理解し、本授業全体の見通しを持つ
2	自己理解と自己概念	自己概念、自己認知、自己開示を学び、自分自身の対人特性を理解する
3	他者理解と対人認知	第一印象、ステレオタイプ、認知バイアスを学び、人が他者をどのように理解するかを考える
4	感情とコミュニケーション	感情の役割、情動表出、感情伝染、共感の心理について理解する
5	非言語コミュニケーション	表情、視線、姿勢、身体距離、声のトーンなど、言葉以外の情報伝達の心理を学ぶ
6	聴く力の心理学	傾聴、受容、共感的理解、アクティブラーニングの理論と実践を学ぶ
7	伝える力の心理学	アサーション、自己表現、分かりやすい説明、相手に届く話し方を学ぶ
8	ほめ方・叱り方・フィードバックの心理学	強化理論、承認、形成的評価、自己肯定感を育てる声かけを学ぶ
9	動機づけを高めるコーチング心理学	内発的動機づけ、目標設定、自己決定理論を体育指導へ応用する
10	チームビルディングと集団のコミュニケーション	集団凝集性、規範形成、仲間づくり、集団心理、同調圧力を理解する
11	集団指導とリーダーシップ	リーダーシップ、フォロアーズシップ、指導熟達、協働場面でのコミュニケーションを考える

12	異文化コミュニケーションの心理学	文化差、価値観の違い、異文化理解、多様性と包摂の心理を学ぶ
13	対人援助とコミュニケーション	教育、医療、福祉、葛藤場面、衝突場面における対応とコミュニケーションを学ぶ
14	コミュニケーション心理学の統合と実践	学修内容を総括し、自分自身のコミュニケーションの課題と今後の成長課題を整理する
15		
16		

科目コード	14210				区 分	教養科目			
授業科目名	ボランティア活動				担当者名	早田 剛			
配当年次	1年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、ボランティア活動に対する関心が高まっており、その分野は福祉、教育、まちづくり、文化・芸術、スポーツ、環境、災害、国際協力など多岐に渡っている。これからの社会を考えると、一人ひとりが地域における課題を察知・認識し、課題解決に向け主体的に行動・活動することが求められる。本授業では実際のボランティア活動を通して、社会が直面する問題を理解していく。

<授業の到達目標>

ボランティア活動をおこなう地域、施設、団体などの沿革・事業を理解するとともに、社会貢献としてのボランティア活動の意義を体得することにより、活動現場のニーズを的確に把握し、他者と協調しながら適切な支援や配慮を実践することができるようになる。

<授業の方法>

自分が選んだ地域・施設・団体において最低20時間のボランティア活動をおこなう。事前指導、事後指導（レポート作成等）、レポートによる報告をおこなう。ボランティアのプログラムの詳細はClassroomにて別途指示する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ボランティア活動はアクティブラーニングと位置付けられている。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学修：事前指導などにもなう諸活動に参加する事（2時間程度）。事後学修：事後指導（レポート作成）、報告会などの諸活動に参加する事（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ボランティア活動オリエンテーション（20%）、ボランティア活動に関する事前調査（10%）、ボランティア活動事後レポート（70%）

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ボランティアとは何か
2	ボランティアマナーについて	ボランティアだけでなく就職活動にも使えるマナー学習
3	ボランティア事前指導（1）	どのようなボランティア活動をしたいか考える
4	ボランティア事前指導（2）	ボランティア活動先を探す（1）
5	ボランティア事前指導（3）	ボランティア活動先を探す（2）
6	ボランティア活動（1）	地域・施設・団体でのボランティア活動（1）
7	ボランティア活動（2）	地域・施設・団体でのボランティア活動（2）
8	ボランティア活動（3）	地域・施設・団体でのボランティア活動（3）
9	ボランティア活動（4）	地域・施設・団体でのボランティア活動（4）
10	ボランティア活動（5）	地域・施設・団体でのボランティア活動（5）
11	ボランティア活動（6）	地域・施設・団体でのボランティア活動（6）
12	ボランティア事後指導（1）	レポート作成指導
13	ボランティア活動事後指導（2）	発表指導
14	私が変わる、社会は変わる～21 世紀の市民社会とボランティア活動	ボランティア活動とは何かを発表する
15		
16		

科目コード	14210				区 分	教養科目			
授業科目名	ボランティア活動 [BC用]				担当者名	宇都宮 浩司／古松 丈周／江口 尚文／岡田 健志			
配当年次	1年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代社会において、ボランティアの役割が大きくなってきている。しかし、実際にボランティア活動を行うには、敷居が高く感じたり、何をすればよいのかわからないということが少なくない。そこで、本科目では、実際にボランティア活動に参加することを通じて、ボランティアの役割、その種類などを体験的に学びます。実際に自分たちの周りにあるボランティア活動を探し、自分たちができることを考えることで、ボランティア活動の社会的役割を理解することを目的とします。

<授業の到達目標>

① 自ら考えて行動し、何らかのボランティアに参加できる。② ボランティア経験を将来の職業・社会人としての成長に役立てられる能力を身につける。③ 活動を通じて現代社会特有の社会課題について自らの言葉で他者に説明できるようになる。

<授業の方法>

受講生自らが選んだ地域・施設・団体において最低20時間のボランティア活動をおこなう。事前指導、事後指導（レポート作成等）、レポートによる報告をおこなう。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの有無：有ディスカッション、フィールドリサーチ、プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・実習前に参加する活動に関する情報を収集し、実際に現地を調べておく。・実習前後に自ら作成したフィールドノートや収集した資料を整理し、簡潔にまとめておく。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①ボランティア活動オリエンテーション・・・20%②ボランティア活動に関する事前調査・・・10%③ボランティア活動事後レポート・・・70%上記より総合的に評価する。

<教科書>

使用しない。

<参考書>

適宜紹介する。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ボランティアとは何か
2	ボランティアマナーについて	ボランティアだけでなく就職活動にも使えるマナー学習
3	ボランティア事前指導（1）	どのようなボランティア活動をしたいか考える
4	ボランティア事前指導（2）	ボランティア活動先を探す（1）
5	ボランティア事前指導（3）	ボランティア活動先を探す（2）
6	ボランティア活動（1）	地域・施設・団体でのボランティア活動（1）
7	ボランティア活動（2）	地域・施設・団体でのボランティア活動（2）
8	ボランティア活動（3）	地域・施設・団体でのボランティア活動（3）
9	ボランティア活動（4）	地域・施設・団体でのボランティア活動（4）
10	ボランティア活動（5）	地域・施設・団体でのボランティア活動（5）
11	ボランティア活動（6）	地域・施設・団体でのボランティア活動（6）
12	ボランティア事後指導（1）	レポート作成指導
13	ボランティア活動事後指導（2）	発表指導
14	ボランティアに学生はどう関わるべきか	学生のボランティア参加の現状と課題について発表する
15		
16		

科目コード	13200				区 分	教養科目			
授業科目名	キャリアディベロップメント [再履修][週間オンデマンド]				担当者名	早田 剛			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

「キャリアディベロップメント」は、本学卒業必須科目である。本授業は、大学における学びとキャリアデザインの基礎を培うため、大学でのスタディスキルの向上と明確な将来像の獲得、及びそこへ近づくための行動力を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

①人間性：「自立性・自律性、やさしさ・思いやり、倫理観・責任感」を持てるようになる。 ②社会人基礎力：「アクション力」、「コミュニケーション力」、「チームワーク力」等の社会人基礎力を持てるようになる。③大学における学び：学部・学科における学びの基礎力を持てるようになる。 ④キャリア形成：明確な将来像の獲得及び職業人となる基礎力を持てるようになる。

<授業の方法>

1. 講義 2. 省察活動(質疑・まとめ・発表)

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素無

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：毎回のテーマに関する自己の経験や意見をまとめた上で演習に臨む。(毎回1時間程度) テーマに応じたプレゼンテーションの作成(前期後期でそれぞれ1～2回程度、3時間程度) 復習：演習終了後、本時のまとめを行い、次週の見通しを持つ。(毎回30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2(専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー1(他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・レポート・基礎学力課題等 60%、演習への取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、最終レポート 10%必ず、授業時間と準備学習で課題に取り組み、期日までに発表、提出をすること。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	キャリアデザインの意義と、再履修を「逆転の機会」にするための意識改革を行う。
2	自立と自律	責任ある大学生としての行動とは? 倫理観と責任感を再確認する。
3	自己理解の深化	自分の強み・弱みの棚卸し(SWOT分析)と、他者への「やさしさ・思いやり」が仕事にどう活きるかを考える。
4	価値観の明確化	自分が人生において大切にしたい「軸」を見つけるワーク。
5	アクション力(前進力)	目標達成のために自ら動き出す力。現在の学習課題に対する「具体案」の策定。
6	コミュニケーション力の再考	単なる会話ではない、意図を伝え、相手を理解するための論理的対話術を考える。
7	チームワーク力とリーダーシップ	組織の中で自分が果たせる役割。自分の学科の経験をどう社会で再現するかを考える。
8	ストレスコントロールと柔軟性	困難に直面した際のレジリエンス(復元力)と、状況に応じた柔軟な対応を検討する。
9	スタディスキルの再習得	情報収集能力、分析力、批判的思考力。専門科目の学びをどうキャリアに繋げるかを検討する。
10	専門性と職業の関連性	自分の学科での学びが社会のどの領域で求められているかの調査する。
11	課題解決力の養成	社会や現場のニーズを捉え、自ら解決策を提示するプロセスを学ぶ。
12	業界・企業・職業研究	「なんとなく」の進路選びからの脱却。具体的かつ多角的な情報収集。
13	職業人としての基礎力(実践)	自己PR・志望動機の作成。自分の言葉で「将来のビジョン」を言語化する。
14	総括：キャリアアクションプランの策定	卒業、そして社会人1年目までの具体的なロードマップの作成と決意表明。

15		
16		

科目コード	10204				区 分	教養科目			
授業科目名	コンピュータリテラシー I [PS留学生用]				担当者名	宮本 彩			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

文書作成ツールの実習を通して情報リテラシーの基礎を学ぶ。本講座では、社会人として適切な文書処理能力とビジネス文章を作成できるスキルを習得することを目指す。単なる操作技術の取得にとどまらず、ビジネスマナーに即した文章作成のルールや合わせてICT社会で求められる情報リテラシーの基礎や一般事務業務に支障が出無いレベルのタイピングスキルも固めていく。

<授業の到達目標>

マイクロソフトワードやGoogleドキュメントなど文書作成ツールに実装される様々な機能を熟知し、ビジネス現場で求められる効率的な文書処理のスキルやハイクオリティのレポート作成技術の習得を目指す。具体的にはマイクロソフトオフィススペシャリスト検定合格レベルのワード操作技能の習得を目指す。

<授業の方法>

パソコンを用いた実習形態での授業を実施する。課題を通したコンピュータの活用用法の解説と、それを念頭に置いた具体的な課題作成を毎回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生自身が直接パソコンを操作することで、実践的なスキルを身に付ける。なお実習をメインにした授業の為、4回を超える欠席者には単位を認めない。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の学んだ練習課題に即した宿題を毎回課す。(90分程度) タイピング練習 (30分程度) 前回の授業ならびに関連するMOS検定出題問題の確認 (60分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

あらゆるビジネスシーンで求められるICTスキルの習得を目標としており、ディプロマポリシーで求めるビジネス力向上に不可欠な科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で提出した課題40%、宿題等の提出物10%、確認テスト50%

<教科書>

土岐 順子 情報利活用 文書作成 Word 2024対応 日経BP社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	情報リテラシー	授業の進め方、なびに授業で必要となるアプリやメールシステムなど基本システムの利用法の解説。
2	文書作成とビジネス文章の基本	簡単なビジネス文書の作成を通して、ワードを用いた文章作成の基本とビジネス文書の基本ルールを身に付ける。
3	レポート・報告書作成の基本	簡単なレポート・報告書の作成を通して、効率的で読みやす資料作成に有用な機能の使い方を習得する。
4	表の作成・図形の挿入（1）	表の成方法と図形の挿入について学ぶ。
5	表の作成・図形の挿入（2）	ワード内にある作図機能を用いた簡単なチラシ・フライヤーの作成を行う。
6	グラフの利用	グラフ作成機能やスマートアートの使い方を学ぶ。
7	既存データの利用	エクセルデータの取り込みや、写真データの利用などワード以外のデータをワードで利用する方法について解説する。
8	長文の作成（1）	スタイルや段組を用いて、長文を読みやすいレイアウトにする方法を学ぶ。
9	長文の作成（2）	アウトライン機能などを用いて文章構造を把握しながら長文を加工・作成する方法を学ぶ。
10	長文の作成（3）	目次、脚注、フッター、ヘッダー、コメントなど組版校閲機能を学ぶ。
11	差し込み印刷の使い方	宛名ラベル作成や手紙の宛名書き等、複数の宛名を印刷するときに有効な差し込み印刷の基本操作を学習する。「
12	総合問題[1]	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
13	総合問題[2]	これまでに習得した知識の再確認として、総合的な問題にチャレンジする。
14	まとめと確認	学習内容の達成度の確認を行う。
15		
16		

科目コード	13100				区 分	教養科目			
授業科目名	フレッシュマンセミナー [再履修][週間オンデマンド]				担当者名	早田 剛			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

大学4年間の学生生活は、その後の人生に大きな影響を与える。この4年間でどのように生きるか、大学生活をどのように過ごすかを考え、学生一人ひとりが責任をもって、社会人として成長するための助言指導をおこなう。本授業では、社会で求められる社会人基礎力をもとに、大学生としての基礎・基本を身に付けることを目指し、主体的に学習に取り組むことのできる態度を養成していく。基本的に講話形式で展開する。基礎ゼミナールと連動しながら、IPU生として求められる資質・態度を考え、実践することで、自分に自信を持ち、妥協しない進路選びの土台を作る。

<授業の到達目標>

本授業は、非認知能力及び認知能力の獲得のために、本学学生に求められる基礎・基本となる力を養い、2年次キャリアディベロップメントにおいて自身の適切な進路決定をするための土台づくりを目的とする。毎時の講話を通して、以下をこの授業の到達目標とする。①IPU生・社会人・体育人としての考え方、態度を身につけることができる。②五訓、特に「前進力」を高めることができる。③積極的な理解・表現活動、知的言語活動のために、あるいは、実社会におけるコミュニケーション活動を行うために必要な文章読解力及び文章作成力を身につけることができる。

<授業の方法>

1. 講義（メンターやゲストスピーカー等による講話）2. グループワーク3. 省察活動（質疑・まとめ・感想発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前課題（1時間） 復習：テーマに即したレポートの作成（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（身だしなみ・ディスカッションや演習への取り組み態度等）30%、小課題① 50%（レポート・基礎学力課題）、課題②（発表等）20%

<教科書>

吉原 恵子（著）、間瀬 泰尚（著）、富江 英俊（著）、小針 誠（著）（2017/10/10） スタディスキルズ・トレーニング 改訂版：大学で学ぶための25のスキル 実教出版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・大学の方針・創志学園の歴史	大学の目的・意義・建学の理念を理解する。再履修にあたっての意識改革と、本授業のゴール（社会人基礎力の獲得）の共有。
2	IPU生としてのアイデンティティ	「五訓」を再定義し、現在の自分に不足している要素を客観的に分析する。
3	社会人基礎力とは	経済産業省が定義する「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を学ぶ。
4	「前進力」の養成	過去の停滞をどのように打破し、残り半分の大学生活をどうデザインするか。
5	文章読解の基礎	論理的な文章の構造（序論・本論・結論）を理解し、要旨を正確に捉える。
6	クリティカル・リーディング	提示された資料から事実と意見を区別し、多角的な視点で情報を読み解く。
7	文章作成のルール	報告書やメールなど、社会人として恥ずかしくない正しい日本語表記と敬語。
8	論理的プレゼンテーション	自分の考えを「PREP法（結論・理由・具体例・結論）」を用いて構成する。
9	進路選びの土台作り	2年次のキャリアディベロップメントを見据えた、自己分析と業界研究の端緒。
10	妥協しない進路選択	「自分に自信を持つ」とはどういうことか。成功体験の言語化ワーク。
11	知的言語活動の実践	社会的なニュースを題材に、自分の意見を400字～600字で論理的に記述する。
12	体育人としての態度と礼節	スポーツを通じて培った力を、いかにビジネスや教育の現場で言語化して伝えるか。
13	文章作成力の最終確認	1年間の振り返りと今後の決意を、説得力のある小論文としてまとめる。
14	最終総括	講話全体の振り返り。社会人へのステップアップに向けた個人目標の発表。
15		

科目コード	14100				区 分	教養科目			
授業科目名	基礎ゼミナールⅠ [再履修][週間オンデマンド]FE用				担当者名	高橋 章二			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力と大学生に求められる基礎学力を身につける事を目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力は非常に重要である。様々な教育課題に気づき、その課題を解決の方法を検討するなかで、非認知能力の向上を目指します。

<授業の到達目標>

①学生生活：よい生活習慣を確立することができる。②非認知能力：リーダーシップ、協調性、自分の意見を伝え、周囲の意見を聞いたり、内容をまとめることができる。③認知能力：主に大学生として求められる基礎学力の獲得及び定着と主体的に学習に取り組む態度を身につけることができる。④キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自分の将来について考え、話すことができる。

<授業の方法>

原則としてオンデマンド講義とし、講義後、課題について自分の考えをまとめさせるようにする。また、課題終了後に、課題について共有化し考えの深化を図るようにする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

課題作成後は必ず発表をさせ、教師と話し合いをしていくことにより、違う観点からの考え方にも触れ、多面的に思考をしていくことができるようにしていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教育課題の発見（新聞等から）1時間 復習：講義の中での発見や気づきをノートにまとめる。1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・授業態度20%、教育課題発見及び追及・発表50%、ふりかえり課題30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の形態、内容、方法についての理解
2	2026年目標設定	1年生のふりかえりと本年度の目標設定
3	教育課題発見①	教育の現状と課題について、思いついた課題について協議をする。
4	教育課題発見②	新聞やインターネットより関心のある教育課題について選択し、自分の考えをまとめ、その後協議をする。
5	教育課題発見③	新聞やインターネットより関心のある教育課題について選択し、自分の考えをまとめ、その後協議をする。
6	教育課題発見④	新聞やインターネットより関心のある教育課題について選択し、自分の考えをまとめ、その後協議をする。
7	教育課題発見⑤	新聞やインターネットより関心のある教育課題について選択し、自分の考えをまとめ、その後協議をする。
8	教育課題発見⑥	新聞やインターネットより関心のある教育課題について選択し、自分の考えをまとめ、その後協議をする。
9	教育課題解決の方法①	いままでの教育課題発見①～⑤の中で特に関心があったものについて、自分の考えを整理するとともに、課題解決の方法を考えまとめる。
10	教育課題解決の方法②	教育課題発見①～⑤の中で特に関心があったものについて、自分の考えを整理するとともに、課題解決の方法を考え、考えたものについてpowerpointにまとめる。
11	教育課題解決の方法③	教育課題発見①～⑤の中で特に関心があったものについて、自分の考えを整理するとともに、課題解決の方法を考え、考えたものについてpowerpointにまとめる。
12	教育課題解決の方法についての報告会	教育課題解決の方法をまとめたPowerPoint資料を使って報告をする。
13	自分の進路と課題解決力	進路について考えるとともに、その中で今回の授業での学びをどのように生かすのかを考える。
14	まとめ	学んだことの報告及び後期に向けての目標修正

15		
16		

科目コード	13303				区 分	教養科目			
授業 科目名	地理・地政学 [週間オンデマンド]				担当者名	小川 正人			
配当年次	3年	配当学期	第1・第2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界は理想だけで動いているわけではありません。表では理想やささいな言葉が語られますが、その裏では政治や外交の駆け引きが行われています。本授業では、最近注目されている地政学について、その基本を学びながら、国と国の関係をより現実的に考える力を身につけます。また、世界地図を使って、国どうしがどのようにつながっているのかを視覚的に理解し、国際社会の仕組みを学んでいきます。

<授業の到達目標>

冷戦が終わってから、グローバル化が進み、人や物、お金、サービスが国境を越えて自由に動くようになりました。インターネットによって世界中の人々がつながる今、国と国がどのように結びついているのかという「つながり（接続性）」が改めて注目されています。たとえば、日本が掲げる「自由で開かれたインド・太平洋」とはどのような考え方なのでしょうか。また、中国の「一帯一路」とは対立するものなのでしょうか、それとも協力できるものなのでしょうか。本授業では、世界地図を見ながら、こうした問いについて考えていきます。

<授業の方法>

受講者が多くなることが予想されるため、本授業はオンデマンド形式で行います。各回のテーマに沿った課題は、Google Classroomを通じて期限までに提出してください。質問がある場合は、担当教員のメール、またはGoogle Classroomのコメント機能を利用してください。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業はオンデマンド形式で実施するため、アクティブラーニングの手法は取り入れません。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内容をしっかり理解するために、指定された課題について事前に調べておいてください。予習と復習には、それぞれ最低1時間は取り組むようにしましょう。また、授業外ではニュースにも関心を持ち、特に国際問題について意識して見るようにしてください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は全学共通教養科目であり、大学のディプロマ・ポリシーのうち（3）課題解決のために最先端かつ高度な知識・技能を活用できること（4）地域社会や産業界の課題を発見し協働を通して社会変革に参画できることに、関連づけられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、授業への参加・態度（40%）と授業課題（60%）で評価します。課題にはおおよそ1週間の提出期間を設けます。提出期限を過ぎた場合は、採点の対象とならないため、十分に注意してください。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業ガイダンス・オリエンテーション	地政学とは何か
2	大国による世界覇権の争い（1）	アメリカ（1）
3	大国による世界覇権の争い（2）	アメリカ（2）
4	大国による世界覇権の争い（3）	アメリカと沖縄
5	大国による世界覇権の争い（4）	ヨーロッパ（1）
6	大国による世界覇権の争い（5）	ヨーロッパ（2）
7	世界覇権を狙う2つの大国（1）	中国
8	世界覇権を狙う2つの大国（2）	ロシア
9	欧米による世界覇権を揺るがす国々（1）	インド・パキスタン・バングラデシュ・アフガニスタン
10	欧米による世界覇権を揺るがす国々（2）	トルコ・中東・イスラエル
11	欧米支配からの脱却を図る地域・国々（1）	アジア諸国
12	欧米支配からの脱却を図る国々（2）	中南米諸国
13	欧米支配からの脱却を図る国々（3）	アフリカ諸国
14	世界情勢の展望	戦争・紛争はなぜなくなるのか
15		
16		

科目コード	S05				区 分	エクステンション科目			
授業科目名	環トレ [FC・FE用]				担当者名	濱嶋 幸司／後藤 由佳／内田 仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	講義・実技	卒業要件	本学学生の義務

<授業の概要>

本学部独自のプログラムである「環トレ」の目的は、教員採用試験や各種就職試験の突破に必要な基礎学力の底上げを目指すことにある。eラーニング教材「ラインズドリル」を活用し、国語・数学・英語の3教科を「自律学習型」で習得を目指す。前期・後期で全28回対面実施の場を用意する。ただし、月1回の到達度確認試験において、各教科80点以上を取得した者は、その学期内の対面勉強会への参加が免除される「対面参加免除制度」を用いる。これにより、自律的に高い目標へ挑戦する姿勢を促したい。各回は、事前テストによる弱点特定、ドリル演習、事後テストによる定着確認のサイクルで構成される。ノートへの記録と学習計画の自己管理を徹底し、教員に依存せず自ら課題を解決して「自走」できる学習習慣の確立を目指す。受講にはノートPCが必須であり、スマートフォンの利用は厳禁である。※対面実施回に欠席した場合は、ユニバーサルパスポートに×がつくことになる。教育実習や他学科履修・奨学金の基準に大きく影響が出ることに注意してほしい。+++安全配慮：長時間のPC操作に伴う目の疲れや姿勢の悪化に注意し、適宜休憩を促す指導を行います。また、充電ケーブル等の配線による転倒防止を徹底します。事故対応：万が一、授業中に体調不良や怪我が発生した場合は、直ちに担当教員に報告してください。大学の規定に従い、保健室と連携して速やかに応急処置および保護者への連絡等の対応を行います。

<授業の到達目標>

①学力層別のスコア向上：就活学力試験に向けて1点でも高い得点を取る。②対面参加免除基準の達成：月1回の到達度確認試験において、国・数・英の各教科で80点以上（3教科合計240点相当）を取得し、自律学習の成果を証明する。③自律学習習慣の確立：実力診断テストを用いて自らの弱点を客観的に把握し、学習習慣を体得する。④基礎学力の定着：年間を通じて、所定の学習範囲を満足以解ける状態にし、各種採用試験に対応できる基礎学力を定着させる。⑤自己管理能力の向上：ノートPCやeラーニング、学習ノートを適切に活用し、自らの学修状況と進捗を正確に自己管理できる能力を身につける。

<授業の方法>

①実施形態と頻度：週1回、100分間の対面方式で実施②使用ツールと規律：eラーニングシステム「ラインズドリル」を活用する③対面参加免除制度：月初に実施される「到達度確認試験」において、国語・数学・英語の3教科すべてで80点以上を取得した者は、当該学期内の対面勉強会への参加を免除されるが、免除後も時間外での自学自習を継続することが求められる。④指導・管理体制：出席管理は、呼名、座席チェック、およびノートの写真を添付した終了時フォームの提出によって厳格に行う。⑤個別支援の活用：自力での学習が困難であればASR（学習支援室）での個別指導やスモールグループ指導へと誘導し、基礎学力の定着を図る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり 積極的なノートPCを用いた自学自習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 前回の確認テストで特定された自身の弱点分野を把握し、当日の学習計画（各教科の時間配分等）を策定して授業に臨む（1時間程度）。事後学習： eラーニング教材「ラインズドリル」を活用し、授業内で未達成だった課題の解き直しや復習を継続的に行う（1日30分、週換算で2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。自らの学修状況を客観的に把握し、目標に向けて継続的に努力する態度を養います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達度確認試験（ラインズドリル） 40%、就活学力試験 40%、学習プロセス評価（学習ノート・自己管理状況） 20% ※各試験のフィードバックは、受験後のスコアシートおよびeラーニングシステム上で行います。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	環トレの目的、自律学習の進め方、年間スケジュール、ノートPC必須・スマホ禁止等のルール、ASR（学習支援室）の活用方法等の周知
2	到達度確認テスト#1	初回の実力把握。各教科80点以上（合計240点以上）取得者は対面参加免除の対象となる
3	個人学習 / 学習計画の解説	テスト結果に基づく1ヶ月の学習計画の策定支援。
4	オンデマンド学習	自学自習
5	到達度確認テスト#2	月初の習得状況確認と、免除基準への再挑戦
6	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習

7	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
8	到達度確認テスト#3	月次の習得度確認および免除判定
9	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
10	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
11	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
12	到達度確認テスト#3	前期中盤までの学習成果の評価
13	個人学習	各教科の基礎定着を目指した個別演習
14	個人学習	前期の学習の総括と定着確認
15	到達度確認テスト#4	後期のスタートに伴う免除判定
16	個人学習	後期学習計画の策定とドリル演習
17	個人学習	実力診断テストによる未修得範囲の特定と重点学習
18	個人学習	「自走」に向けた継続的な学習習慣の形成
19	到達度確認テスト#5	後期の中間評価と免除更新の判定
20	個人学習	就活学力試験180点突破に向けた追い込み学習
21	個人学習	苦手分野の徹底克服（数学の重点日設定等を含む）
22	個人学習	応用力養成に向けた反復演習
23	到達度確認テスト#6	直近の習得度の客観的評価
24	個人学習	学修進捗状況の確認と計画の最終調整
25	個人学習	各種試験に向けた総仕上げの学習
26	個人学習	自学自習による基礎学力の完全定着
27	到達度確認テスト#7	年間の最終的な学力到達度の確認
28	個人学習	1年間の総括と、次年度の学習継続に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	S05				区 分	エクステンション科目			
授業科目名	環トレ [FC・FE用]				担当者名	西田 修斗／大久保 諒／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	0.00単位	授業方法	講義・実技	卒業要件	本学学生の義務

<授業の概要>

本学部独自のプログラムである「環トレ」の目的は、教員採用試験や各種就職試験の突破に必要な基礎学力の底上げを目指すことにある。eラーニング教材「ラインズドリル」を活用し、国語・数学・英語の3教科を「自律学習型」で習得を目指す。前期・後期で全28回対面実施の場を用意する。ただし、月1回の到達度確認試験において、各教科80点以上を取得した者は、その学期内の対面勉強会への参加が免除される「対面参加免除制度」を用いる。これにより、自律的に高い目標へ挑戦する姿勢を促したい。各回は、事前テストによる弱点特定、ドリル演習、事後テストによる定着確認のサイクルで構成される。ノートへの記録と学習計画の自己管理を徹底し、教員に依存せず自ら課題を解決して「自走」できる学習習慣の確立を目指す。受講にはノートPCが必須であり、スマートフォンの利用は厳禁である。※対面実施回に欠席した場合は、ユニバーサルパスポートに×がつくことになる。教育実習や他学科履修・奨学金の基準に大きく影響が出ることに注意してほしい。+++安全配慮：長時間のPC操作に伴う目の疲れや姿勢の悪化に注意し、適宜休憩を促す指導を行います。また、充電ケーブル等の配線による転倒防止を徹底します。事故対応：万が一、授業中に体調不良や怪我が発生した場合は、直ちに担当教員に報告してください。大学の規定に従い、保健室と連携して速やかに応急処置および保護者への連絡等の対応を行います。

<授業の到達目標>

①学力層別のスコア向上：就活学力試験に向けて1点でも高い得点を取る。②対面参加免除基準の達成：月1回の到達度確認試験において、国・数・英の各教科で80点以上（3教科合計240点相当）を取得し、自律学習の成果を証明する。③自律学習習慣の確立：実力診断テストを用いて自らの弱点を客観的に把握し、学習習慣を体得する。④基礎学力の定着：年間を通じて、所定の学習範囲を満足以解ける状態にし、各種採用試験に対応できる基礎学力を定着させる。⑤自己管理能力の向上：ノートPCやeラーニング、学習ノートを適切に活用し、自らの学修状況と進捗を正確に自己管理できる能力を身につける。

<授業の方法>

①実施形態と頻度：週1回、100分間の対面方式で実施②使用ツールと規律：eラーニングシステム「ラインズドリル」を活用する③対面参加免除制度：月初に実施される「到達度確認試験」において、国語・数学・英語の3教科すべてで80点以上を取得した者は、当該学期内の対面勉強会への参加を免除されるが、免除後も時間外での自学自習を継続することが求められる。④指導・管理体制：出席管理は、呼名、座席チェック、およびノートの写真を添付した終了時フォームの提出によって厳格に行う。⑤個別支援の活用：自力での学習が困難であればASR（学習支援室）での個別指導やスモールグループ指導へと誘導し、基礎学力の定着を図る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり 積極的なノートPCを用いた自学自習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 前回の確認テストで特定された自身の弱点分野を把握し、当日の学習計画（各教科の時間配分等）を策定して授業に臨む（1時間程度）。事後学習： eラーニング教材「ラインズドリル」を活用し、授業内で未達成だった課題の解き直しや復習を継続的に行う（1日30分、週換算で2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。自らの学修状況を客観的に把握し、目標に向けて継続的に努力する態度を養います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

到達度確認試験（ラインズドリル） 40%、就活学力試験 40%、学習プロセス評価（学習ノート・自己管理状況） 20% ※各試験のフィードバックは、受験後のスコアシートおよびeラーニングシステム上で行います。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	環トレの目的、自律学習の進め方、年間スケジュール、ノートPC必須・スマホ禁止等のルール、ASR（学習支援室）の活用方法等の周知
2	到達度確認テスト#1	初回の実力把握。各教科80点以上（合計240点以上）取得者は対面参加免除の対象となる
3	個人学習 / 学習計画の解説	テスト結果に基づく1ヶ月の学習計画の策定支援。
4	オンデマンド学習	自学自習
5	到達度確認テスト#2	月初の習得状況確認と、免除基準への再挑戦
6	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習

7	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
8	到達度確認テスト#3	月次の習得度確認および免除判定
9	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
10	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
11	個人学習	100分間の標準サイクルに基づく個別演習
12	到達度確認テスト#3	前期中盤までの学習成果の評価
13	個人学習	各教科の基礎定着を目指した個別演習
14	個人学習	前期の学習の総括と定着確認
15	到達度確認テスト#4	後期のスタートに伴う免除判定
16	個人学習	後期学習計画の策定とドリル演習
17	個人学習	実力診断テストによる未修得範囲の特定と重点学習
18	個人学習	「自走」に向けた継続的な学習習慣の形成
19	到達度確認テスト#5	後期の中間評価と免除更新の判定
20	個人学習	就活学力試験180点突破に向けた追い込み学習
21	個人学習	苦手分野の徹底克服（数学の重点日設定等を含む）
22	個人学習	応用力養成に向けた反復演習
23	到達度確認テスト#6	直近の習得度の客観的評価
24	個人学習	学修進捗状況の確認と計画の最終調整
25	個人学習	各種試験に向けた総仕上げの学習
26	個人学習	自学自習による基礎学力の完全定着
27	到達度確認テスト#7	年間の最終的な学力到達度の確認
28	個人学習	1年間の総括と、次年度の学習継続に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	40115				区 分	コア科目			
授業科目名	整復学実技 I (包帯法 I) 《連続》				担当者名	畑島 紀昭／福井 悠紀子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な包帯法の基礎を学びます。受講態度は柔道整復師としてふさわしいものを求めます。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価します。

<授業の到達目標>

柔道整復師に必要な冠名包帯および各種固定材料について理解し、適切に選択・使用することができる。また、各部位に応じた包帯法および固定法を安全に実施することができる。さらに、施術時の安全管理（皮膚損傷・循環障害の予防、患者への配慮）を理解し、事故を未然に防ぐ行動ができるとともに、万が一事故が発生した場合には適切に対応することができる。

<授業の方法>

実技の習得には反復することが求められ、授業内では実技の練習を繰り返し実施する。また、実技の習得確認のための試験を複数回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生間で実技を実施・体験しながら双方の良い点・改善点を伝えながら実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書で次回の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。（毎回、1時間程度）復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技術を理解し、日々進歩する医療分野に対応できる能力を身に付ける。）と関連付けられています。柔道整復師としての実技基礎を学び、臨床現場で必要な技術の習得を通じて今後の学習の基礎を涵養する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 10%、実技試験 90%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 「包帯固定学」 南江堂
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・実技編」 南江堂
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・理論編」 南江堂

<参考書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復師のための救急医学

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション-授業内容の説明-	授業内容を説明する。
2	オリエンテーション-成績評価の説明-	成績評価の方法を説明する。
3	基本包帯法練習①-包帯の種類-	包帯の種類を説明する。
4	基本包帯法練習①-包帯の扱い方-	包帯の扱い方を説明する。
5	基本包帯法練習②-環行帯-	環行帯の巻き方を説明する。
6	基本包帯法練習②-折転帯-	折転帯の巻き方を説明する。
7	基本包帯法練習③-前腕部環行帯-	前腕部における環行帯の巻き方を説明する。
8	基本包帯法練習③-前腕部折転帯-	前腕部における折転帯の巻き方を説明する。
9	基本包帯法練習④-亀甲帯-	亀甲帯の巻き方を説明する。
10	基本包帯法練習④-肘関節亀甲帯-	肘関節における亀甲帯の巻き方を説明する。
11	基本包帯法練習④-麦徳帯-	麦徳帯の巻き方を説明する。
12	基本包帯法練習④-手関節麦徳帯-	手関節における麦徳帯の巻き方を説明する。
13	基本包帯法練習⑤-前腕部下行-	前腕部環行帯と手関節麦徳帯の巻き方を説明する。
14	基本包帯法練習⑤-前腕部上行-	前腕部折転帯と肘関節亀甲帯の巻き方を説明する。
15	テーピング固定法 (1)	足関節のテーピングについて説明する。
16	テーピング固定法 (2)	足関節のテーピング固定法の基礎を学習する。
17	テーピング固定法 (3)	足関節のテーピング固定法の応用を学習する。
18	部位別包帯法練習①-肩関節理論-	肩関節外傷の理論について説明する。
19	部位別包帯法練習①-肩関節実技-	肩関節外傷の包帯法について説明する。
20	部位別包帯法練習②-肘関節理論-	肘関節外傷の理論について説明する。
21	部位別包帯法練習②-肘関節実技-	肘関節外傷の包帯法について説明する。

22	部位別包帯法練習③-股関節・大腿部理論 —	股関節・大腿部外傷の理論について説明する。
23	部位別包帯法練習③-股関節・大腿部実技 —	股関節・大腿部外傷の包帯法について説明する。
24	部位別包帯法練習④-下腿部・足関節理論 —	下腿部・足関節外傷の理論について説明する。
25	部位別包帯法練習④-下腿部・足関節実技 —	下腿部・足関節外傷の包帯法について説明する。
26	救急処置 総論	救急処置について学習する。
27	救急処置 柔道整復師ができること①	救急処置法について学習する。
28	救急処置 柔道整復師ができること②	救急処置法について学習する。
29		
30		

科目コード	40116				区 分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ)《連続》				担当者名	畑島 紀昭／福井 悠紀子			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な包帯法の基礎を学びます。受講態度は柔道整復師としてふさわしいものを求めます。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価します。

<授業の到達目標>

柔道整復師に必要な冠名包帯および各種固定材料について理解し、適切に選択・使用することができる。また、各部位に応じた包帯法および固定法を安全に実施することができる。さらに、施術時の安全管理（皮膚損傷・循環障害の予防、患者への配慮）を理解し、事故を未然に防ぐ行動ができるとともに、万が一事故が発生した場合には適切に対応することができる。

<授業の方法>

実技の習得には反復することが求められ、授業内では実技の練習を繰り返し実施する。また、実技の習得確認のための試験を複数回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生間で実技を実施・体験しながら双方の良い点・改善点を伝えながら実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書で次の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。（毎回、1時間程度）復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技術を理解し、日々進歩する医療分野に対応できる能力を身に付ける。）と関連付けられています。柔道整復師としての実技基礎を学び、臨床現場で必要な技術の習得を通じて今後の学習の基礎を涵養する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 「包帯固定学」 南江堂
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・実技編」 南江堂
 全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・理論編」 南江堂

<参考書>

全国柔道整復学校協会 「柔道整復師のための救急医学」 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション-授業内容の説明-	授業内容を説明する。
2	オリエンテーション-成績評価の説明-	成績評価の方法を説明する。
3	部位別包帯法練習①-上肢-	上肢の包帯法について説明する。
4	部位別包帯法練習①-下肢-	下肢の包帯法について説明する。
5	部位別包帯法練習②-手部・指部理論-	手部・指部外傷の理論について説明する。
6	部位別包帯法練習②-手部・指部実技-	手部・指部外傷の包帯法について説明する。
7	部位別包帯法練習③-足部・指部理論-	足部・指部外傷の理論について説明する。
8	部位別包帯法練習③-足部・指部実技-	足部・指部外傷の包帯法について説明する。
9	冠名包帯法練習①-ヴェルポー包帯法-	ヴェルポー包帯法の巻き方を説明する。
10	冠名包帯法練習①-ジュール包帯法-	ジュール包帯法の巻き方を説明する。
11	冠名包帯法練習②-デゾー包帯法-	デゾー包帯法の巻き方を説明する。
12	冠名包帯法練習②-ヴェルポー包帯法練習-	ヴェルポー包帯法の巻き方を練習する。
13	冠名包帯法練習③-ジュール包帯法練習-	ジュール包帯法の巻き方を練習する。
14	冠名包帯法練習③-デゾー包帯法練習-	デゾー包帯法の巻き方を練習する。
15	冠名包帯法まとめ（1）-ヴェルポー包帯法・ジュール包帯法-	ヴェルポー包帯法・ジュール包帯法の実技の総合学習をおこなう。
16	冠名包帯法まとめ（2）-デゾー包帯法-	デゾー包帯法の実技の総合学習を行う。
17	硬性材料を用いた固定法①-厚紙副子作成-	厚紙副子の作り方を説明する。
18	硬性材料を用いた固定法①-厚紙副子固定-	厚紙副子を用いた固定法を説明する。

	－	
19	硬性材料を用いた固定法②－すだれ副子作成－	すだれ副子の作り方を説明する。
20	硬性材料を用いた固定法②－すだれ副子固定－	すだれ副子を用いた固定法を説明する。
21	硬性材料を用いた固定法③－金属副子作成－	金属（クラーメル）副子の作り方を説明する。
22	硬性材料を用いた固定法③－金属副子固定－	金属（クラーメル）副子を用いた固定法を説明する。
23	硬性材料を用いた固定法④－アルミ副子作成－	アルミ副子（アルフェンス）の作り方を説明する。
24	硬性材料を用いた固定法④－アルミ副子固定－	アルミ副子（アルフェンス）を用いた固定法を説明する。
25	ギプスを用いた固定法①－ギプスの巻き方－	ギプスの巻き方を説明する。
26	ギプスを用いた固定法①－ギプス固定－	ギプスを用いた固定法を説明する。
27	キャストを用いた固定法①－キャストの巻き方－	キャストの巻き方を説明する。
28	キャストを用いた固定法①－キャスト固定－	キャストを用いた固定法を説明する。
29		
30		

科目コード	40212				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)《連続》				担当者名	簀戸 崇史／古山 喜一			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に対する整復・固定法を学びます。1年生で学んだ総論と理論の知識を活用し、臨床で通用する実技の技術を修得してもらいます。

<授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に関する口頭説明ができる。柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に関する整復・固定法をすることができる。実技室は「臨床現場」とであるという自覚を持ち、身だしなみを整え、模擬患者との相互確認（声かけ等）ができ、解剖学的限界を超えた操作や、愛護的な操作を身に着けることができる。

<授業の方法>

柔道整復学理論で学んだ知識をもとに整復・固定法の実技を学習します。実技の修得には反復することが求められますので、授業内では実技の練習を繰り返しおこないます。また、実技の修得確認のための試験を複数回実施します。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実技であり、双方向授業の展開である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、60分以上柔道整復学理論の学習することを望みます。加えて、授業内の実技試験の対策として60分以上の復習をしっかりと行ってください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は健康科学科のディプロマポリシー5（科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている）と関連付けられています。上肢骨折に対する整復・固定の知識と技術を学ぶことで、高齢者、スポーツ現場など様々な場面における傷害発生時に医療の専門的な処置を行う実践力を修得するための科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30％・試験70％但し、定期試験において60％以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会（2012） 「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 南江堂
 全国柔道整復学校協会（2003） 「包帯固定学」 南江堂
 全国柔道整復学校協会（2022） 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション(1)	授業内容、実施方法と成績評価の方法を説明する。
2	復習	包帯固定の復習を行う。
3	上肢骨折整復固定法(1)－鎖骨骨折理論①－	鎖骨骨折に関する解剖学、理論について理解を深め、整復方法を理解する。
4	上肢骨折整復固定法(1)－鎖骨骨折実技－	鎖骨骨折に関する解剖学、理論について理解を深め、整復方法を理解する。
5	上肢骨折整復固定法(1)－鎖骨骨折実技①－	鎖骨骨折における固定法実技を習得する。
6	上肢骨折整復固定法(1)－鎖骨骨折実技②－	鎖骨骨折における固定法実技を習得する。
7	上肢骨折整復固定法(1)－鎖骨骨折実技③－	鎖骨骨折における問診・整復・固定を実施する。
8	上肢骨折整復固定法(1)－鎖骨骨折実技④－	鎖骨骨折における問診・整復・固定を実施する。
9	上肢骨折整復固定法(2)－上腕骨外科頸骨折理論①－	上腕骨外科頸骨折の理解を深め、整復実技を習得する。
10	上肢骨折整復固定法(2)－上腕骨外科頸骨折理論②－	上腕骨外科頸骨折の理解を深め、整復実技を習得する。
11	上肢骨折整復固定法(2)－上腕骨外科頸骨折実技①－	上腕骨外科頸骨折の固定法実技を習得する。
12	上肢骨折整復固定法(2)－上腕骨外科頸骨折実技②－	上腕骨外科頸骨折の固定法実技を習得する。

13	上肢骨折整復固定法 (2) -上腕骨外科頸骨折実技③-	上腕骨外科頸骨折の問診・整復・固定実技を総合的に習得する。
14	上肢骨折整復固定法 (2) -上腕骨外科頸骨折実技④-	上腕骨外科頸骨折の問診・整復・固定実技を総合的に習得する。
15	上肢脱臼整復固定法 (3) -肩鎖関節脱臼-	肩鎖関節脱臼の理解を深め、整復操作を学ぶ。
16	上肢脱臼整復固定法 (3) -肩鎖関節脱臼-	肩鎖関節脱臼の理解を深め、整復操作を学ぶ。
17	上肢脱臼整復固定法 (3) -肩鎖関節脱臼-	肩鎖関節脱臼の固定法を習得する。
18	上肢脱臼整復固定法 (3) -肩鎖関節脱臼-	肩鎖関節脱臼の固定法を習得する。
19	上肢脱臼整復固定法 (4) -肩関節脱臼-	肩関節脱臼の理論を深め、整復法を習得する。
20	上肢脱臼整復固定法 (4) -肩関節脱臼-	肩関節脱臼の理論を深め、整復法を習得する。
21	上肢脱臼整復固定法 (4) -肩関節脱臼-	肩関節脱臼の整復法を習得する。
22	上肢脱臼整復固定法 (4) -肩関節脱臼-	肩関節脱臼の整復法を習得する。
23	上肢脱臼整復固定法 (4) -肩関節脱臼-	肩関節脱臼の固定法を習得する。
24	上肢脱臼整復固定法 (4) -肩関節脱臼-	肩関節脱臼の固定法を習得する。。
25	まとめ	鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼を復習する。
26	まとめ	鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼を復習する。
27	実技試験	実技試験
28	実技試験	実技試験
29		
30		

科目コード	40213				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	整復学実技Ⅳ(上肢・固定法Ⅱ)《連続》				担当者名	簀戸 崇史／古山 喜一			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復師の技術として必要な上肢、肋骨の外傷に対する評価スキル・整復・固定法を学ぶ。臨床で通用する実技技術を修得を目指す。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価する。

<授業の到達目標>

柔道整復師の技術として必要な上肢、肋骨の外傷に関する口頭説明ができる。柔道整復師の技術として必要な上肢、肋骨の外傷に関する整復・固定法をすることができる。実技室は「臨床現場」であるという自覚を持ち、身だしなみを整え、模擬患者との相互確認（声かけ等）ができ、解剖学的限界を超えた操作や、愛護的な操作を身に着けることができる。

<授業の方法>

教科書を中心に授業を進め評価スキル・整復・固定法の実技を学習する。実技の修得には反復練習が求められ、授業内では繰り返し練習を実施する。実技の修得確認のため実技試験を複数回実施する。動画や資料については必要に応じてDropboxやGoogleクラスルームにて配信する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書で次回の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。また必要に応じて動画や資料を配信する。（毎回、1時間程度）
復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲10％・実技試験90％但し、定期試験において60％以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会（2022） 柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂
全国柔道整復学校協会（2016） 柔道整復学・実技編 改訂第2版 南江堂
全国柔道整復学校協会（2017） 包帯固定学 改訂第2版 南江堂

<参考書>

目崎 登 「運動器疾患ワークブック」 医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業概要の説明上肢整復固定 一肘内障の診察及び整復一	肘内障の整復方法を習得できる。
2	上肢整復固定 一肘内障の診察及び整復一	肘内障の整復方法を習得できる。
3	上肢整復固定 一肘関節後方脱臼一	肘関節後方脱臼の整復方法を習得できる。
4	上肢整復固定 一肘関節後方脱臼一	肘関節後方脱臼の整復方法を習得できる。
5	上肢整復固定 一肘関節後方脱臼一	肘関節後方脱臼の固定方法を習得できる。
6	上肢整復固定 一肘関節後方脱臼一	肘関節後方脱臼の固定方法を習得できる。
7	上肢整復固定 一橈骨遠位端骨折一	橈骨遠位端骨折の整復法を習得する。
8	上肢整復固定 一橈骨遠位端骨折一	橈骨遠位端骨折の整復法を習得する。
9	上肢整復固定 一橈骨遠位端骨折一	橈骨遠位端骨折の整復・固定法を習得する。
10	上肢整復固定 一橈骨遠位端骨折一	橈骨遠位端骨折の整復・固定法を習得する。
11	上肢整復固定 一橈骨遠位端骨折一	橈骨遠位端骨折の整復・固定法を習得する。
12	上肢整復固定 一橈骨遠位端骨折一	橈骨遠位端骨折の整復・固定法を習得する。
13	上肢整復固定 一第5中手骨骨折一	第5中手骨骨折の整復・固定法を習得する。
14	上肢整復固定 一第5中手骨骨折一	第5中手骨骨折の整復・固定法を習得する。
15	上肢整復固定 一PIP関節背側脱臼一	PIP関節背側脱臼の整復・固定法を習得する。
16	上肢整復固定 一PIP関節背側脱臼一	PIP関節背側脱臼の整復・固定法を習得する。
17	上肢整復固定 一顎関節脱臼一	顎関節脱臼の整復・固定法を習得する。
18	上肢整復固定 一顎関節脱臼一	顎関節脱臼の整復・固定法を習得する。

19	肋骨骨折の固定	肋骨骨折の固定を習得する。
20	上肢MMTの測定①	上肢MMTの測定
21	上肢MMTの測定②	上肢MMTの測定
22	上肢MMTの測定③	上肢MMTの測定
23	上肢ROMの測定①	上肢ROMの測定
24	上肢ROMの測定②	上肢ROMの測定
25	上肢ROMの測定③	上肢ROMの測定
26	まとめ	まとめ
27	実技試験	実技試験
28	実技試験	実技試験
29		
30		

科目コード	53097				区 分	コア科目			
授業科目名	歌唱・ダンス基礎				担当者名	小澤 尚子／四宮 貴久／渡邊 亮			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、「声と身体の実現力」の基礎技術を習得することを目的とし、歌唱（発声・歌唱表現・音感）とダンス（リズム・動作・空間把握）のトレーニングを隔週で行います。一年次における歌唱の授業では、「歌うための基礎トレーニング」（ウォーミングアップ、発声練習、音程・リズムトレーニング等）に取り組み、基礎力をアップしていきます。自分の身体を「歌うための楽器」と捉えて、歌うための身体づくりに取り組みます。今後、一人ひとりが喜びを持って生き生きと歌で表現出来るように、また、どんな場面においても自分の身体の状態を把握して身体をコントロールしながら歌えるようにするために、今の自分の身体の状態（呼吸、姿勢、骨格など）を知り、より良い状態になるようアプローチしていきます（①全身が緊張から解放されている状態を知る ②歌唱時の呼吸の構造と筋肉の動きを知る ③歌唱中の自分の身体の状態への認識力を深めるなど）。並行して、基本的な音楽の学び（音程・リズム・楽譜の読み方・楽曲の音楽的理解 など）に取り組み、様々なジャンルの楽曲に触れて、自分に合ったものやその人の魅力的な音域などを探求します。ダンスでは、モダンダンス・コンテンポラリー、ジャズダンス、バレエ、ストリートダンスを題材にリズムトレーニングや基礎動作を通して身体操作の基礎を習得するとともに、空間認知（察知）能力を養い、創作や発表活動を通じて自己表現力およびコミュニケーション能力の向上を図ります。歌唱、ダンスともに普段からのトレーニングが肝要となるため、主体的に課題と基礎的なトレーニングに取り組む習慣を身に付けていきます。シラバスの授業内容は、状況・状態に応じて変更することがあります。

<授業の到達目標>

・上達に必要なトレーニング方法を習得し、それらを日々実践していくことができる・音程・リズム感、コード感など、楽曲を表現する上で必要な音楽の基礎を学ぶ・様々なジャンルの楽曲に触れ、自分に合ったものを探求して、それぞれの歌の幅や可能性を広げる・成果発表などを通してソロを人前で、一曲以上表現できるようになる・自らの身体を的確にコントロールし、基本的な舞踊表現ができるようになる・ダンスにおいて、柔軟性・リズム感・空間把握を持った動作ができる

<授業の方法>

【歌唱】①ウォーミングアップ（ストレッチ・呼吸のトレーニング・筋力トレーニング）②発声練習③コンコーネ50番の指定された楽曲④課題曲の音取り（予習してきたことの確認）、または課題曲のおさらい⑤振り返りと次回授業に向けてのアドバイス※基本的にピアノ伴奏で授業を進めます。ビートの効いた楽曲は音源を使用することもあります。【ダンス】実技指導と、演習、フィードバック、グループワークを組み合わせた録音・録画を通じた自己・相互評価

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク、フィードバック

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【歌唱】・呼吸のトレーニング（5分以上）・発声練習（10分以上）※音源渡します。・コンコーネ50番の指定された楽曲の音取りや練習（15分以上）・録音、録画した授業内容（新しいトレーニング方法や、復習するべき内容、自分の歌のレッスン等）を振り返り、より上達するにはどうしたらいいか、工夫しながら練習する。又、次回の授業に向けて、新曲の音取りや歌練習に励む。（30分以上）【ダンス】・授業の復習（30分）・基本動作・リズムトレーニングの自主練習（30分）・体を柔軟にするためのストレッチ（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、DP2「初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる」に関連しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度 50%、成果発表 20%、振り返り・レポート 20%、授業準備の状況 10%

<教科書>

畑中良輔 編（1955） コンコーネ50番（OP.9） 中声用 全音楽譜出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・歌唱基礎①	自分を言葉で表現する。相手に伝える。卒業までの4年間、将来についてヒアリング。呼吸トレーニングと発声練習。
2	ダンス基礎①	基礎トレーニング、モダンダンス・コンテンポラリー
3	歌唱基礎②	歌うための身体づくり。歌唱に必要な身体や呼吸の仕組みを知る。日々行う発声練習や呼吸トレーニングの説明。コンコーネ50番から1曲音取り。
4	オンデマンド	授業内で説明する
5	ダンス基礎②	基礎トレーニング、モダンダンス・コンテンポラリー
6	歌唱基礎③	発声を理解し、「音」にのせる。音感を理解する。 ①音取り コンコーネ50番（OP.9） 1・2/ 日本のスタンダードソングを歌う

7	ダンス基礎③	基礎トレーニング、モダンダンス・コンテンポラリー
8	歌唱基礎④	発声を理解し、「音」にのせる。音感を理解する。①仕上げ/日本のスタンダードソングを歌うコンコーネ50番(0P、9) 1・2
9	ダンス基礎④	基礎トレーニング、ジャズダンス
10	歌唱基礎⑤	発声を理解し、「音」にのせる。音感を理解する。②音取り/取り組んだ曲の復習/日本のスタンダードソングを歌うコンコーネ50番(0P、9) 3・4
11	ダンス基礎⑤	基礎トレーニング、ジャズダンス
12	ダンス基礎⑥	基礎トレーニング、ジャズダンス
13	歌唱基礎⑥	発声を理解し、「音」にのせる。音感を理解する。②仕上げ/取り組んだ曲の復習/日本のスタンダードソングを歌うコンコーネ50番(0P、9) 3・4
14	歌唱基礎前期まとめ	1人ずつソロ曲を前に出て歌唱。歌った人の感想、聴いていた観客側から感じた意見をそれぞれ話し合う。
15	ダンス基礎⑦	基礎トレーニング、バレエ
16	歌唱基礎⑦	発声を理解し、「音」にのせる。音感を理解する。③音取り/取り組んだ曲の復習/日本のスタンダードソングを歌うコンコーネ50番(0P、9) 5・6・7
17	ダンス基礎⑧	基礎トレーニング、バレエ
18	歌唱基礎⑧	発声を理解し、「音」にのせる。音感を理解する。③仕上げ/取り組んだ曲の復習/日本のスタンダードソングを歌うコンコーネ50番(0P、9) 5・6・7
19	ダンス基礎⑨	基礎トレーニング、ストリートダンス
20	歌唱基礎⑨	「歌うこと」を理解する。/日本のスタンダードソングを歌う楽曲①:音取り
21	ダンス基礎⑩	基礎トレーニング、ストリートダンス
22	歌唱基礎⑩	「歌うこと」を理解する。/日本のスタンダードソングを歌う楽曲①:レッスン
23	ダンス基礎⑪	基礎トレーニング、ストリートダンス
24	歌唱基礎⑪	「歌うこと」を理解する。/日本のスタンダードソングを歌う楽曲②:音取り
25	ダンス基礎⑫	成果発表の振付
26	歌唱基礎⑫	「歌うこと」を理解する。/日本のスタンダードソングを歌う楽曲②:レッスン
27	ダンス基礎⑬	成果発表の振付
28	歌唱・ダンス成果発表準備	試験期間に行われる歌唱・ダンスの成果発表のための準備
29		
30		

科目コード	51009				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(小学校)《通年》				担当者名	羽田 あずさ／安井 正郎／奥山 優／木野 正一郎／三堀 仁／千葉 照久／本藤 展康／藤井 健太郎／内田 仁志／中安 翼／小川 智勢子／練苧 千之／鈺 悠介／西田 修斗／岸本 勝義／村上 尚徳			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養う。教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図る。教育実習の成果と課題を自己評価し、教職を志す者としての資質を向上させる。

<授業の到達目標>

教育実習生としての心構えをもち、教育実習の意義と目的について理解を深めることができる。教職を志す者としての資質を向上させるために、教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図るとともに、教育実習の成果と課題を自己評価することができる。

<授業の方法>

講義、指導案作成、模擬授業の準備、実施とその検討、実習録をもとにした振り返りを行う。特に授業の中では、学生による模擬授業を行う中で、授業展開や教具、発問について受講者同士で議論し合いながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

模擬授業とその検討

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・模擬授業を行う教科・単元に関する資料を収集し、熟読する（1時間）・学習指導案を作成する（3時間）・模擬授業までに、担当教諭に事前指導を受ける（2時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①出席・態度（30％）：【出席：3点】【注意：2点】【遅刻：1点】【欠席：0点】※公欠（実習等）は【3点】※欠席課題で出席になる場合は提出をもって【3点】②模擬授業（30％）：それぞれの回で、以下の観点で評価します。【S:3点】【A:2点】【B:1点】【C:0点】（1）授業者について S・・・期日を守って、指導を受け、指導案の作成と授業準備を意欲的に行った。模擬授業（進め方・児童対応・言動など）は優れていた。 A・・・期日を守って、指導を受け、指導案の作成と授業準備を行った。模擬授業（進め方・児童対応・言動など）は概ね満足できる内容だった。 B・・・授業準備の段階で、期日や約束を守らないことがあった。模擬授業（進め方・児童対応・言動など）は概ね満足できる内容だった。 C・・・授業準備の段階で、期日や約束を守らないことがあった。模擬授業に問題点があった。 不可・・・授業準備の段階で、期日や約束を守らず、準備ができていなかった。模擬授業は教育実習に送り出すことができない状況にある。（2）児童役について S・・・挙手、発表し、意欲的に授業に参加した。授業について意見（代案）や感想が優れていた。 A・・・挙手、発表し、授業に参加した。 B・・・授業への参加態度、意見・感想に問題点が見られた。 C・・・授業への参加態度、意見・感想に問題点が多く見られた。 不可・・・授業に参加しなかった。三悪（居眠り・携帯・私語）があった。教育実習に送り出すことができない態度であった。③振り返りレポート（30％）：【期限内提出：2～3点】【期限後提出：1～2点】【未提出：0点】※内容を加味して判定。 ※未提出者には提出を求める（担当教員・羽田・ゼミ担当）④最終レポート（10％）：【期限内提出：8～10点】【期限後提出：5～7点】【未提出：0点】※内容を加味して判定。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	教育実習の手続き・心構え児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	模擬授業説明	模擬授業説明・授業日程決め
3	授業づくりの基礎基本	指導案の作成、授業づくり
4	実習の心構え	教職員等による児童生徒性暴力等の防止
5	模擬授業①	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
6	模擬授業②	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
7	模擬授業③	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
8	模擬授業④	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
9	模擬授業⑤	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
10	模擬授業⑥	グループに分かれ、模擬授業と事後協議

11	模擬授業⑦	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
12	模擬授業⑧	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
13	模擬授業⑨	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
14	模擬授業⑩	グループに分かれ、模擬授業と事後協議
15	事後指導（最終）	教育実習の振り返り
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	51011				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(保健体育)				担当者名	伊藤 三千雄／堀川 峻／梶谷 亮輔／木村 大／仙波 慎平／早田 剛／片桐 夏海／十河 直太／坂本 康輔／藤谷 かおる／小川 雄太／佐藤 伸之／岩田 知郎			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養うとともに、教育実習先で体育実技、保健の授業が円滑に出来るようになる授業実践力を身に付けることを目的とする。毎時間、各グループごとに学生が模擬授業を実施し、学習指導案、授業方法、内容等について、学生同士の相互評価や担当者からの助言をもらう。さらに実習後には、教育実習の成果を自己評価し、教職に就く者として不足している力を自覚し、大学授業で補うようにし、教職を目指す者として、資質の向上を図る。また本授業では、教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律に基づき、教育実習に参加する学生に対して、児童生徒への適切な関わり方、法令遵守および倫理観について理解を深める。

<授業の到達目標>

1. 教育実習の目的・内容・実習生としての役割を説明できる。2. 保健体育科の学習指導案を作成できる。3. 模擬授業（実技・保健）を実施し、適切な指導行動をとることができる。4. 教材・教具およびICTを活用した授業を計画・実施できる。5. 模擬授業および教育実習の成果と課題を振り返り、改善点を言語化できる。6. 教育職員に求められる法令遵守および児童生徒性暴力等の防止について理解し、適切な行動をとることができる。

<授業の方法>

まず、教育実習の心構え、実習日誌の書き方、学習指導案の作成方法等を講義形式で学んだ後、各グループ（実習校地域別）に分かれての授業になる。各グループで、学校現場で使用されている保健体育科の教科書に沿って学生が自ら模擬授業（実技・保健）を実施し、それを担当教員が指導、グループ内学生でのディスカッション、評価を重ね、実習でよりよい授業が出来ることを目指す。実技においても保健授業においても、教材・教具・授業ノート・授業プリントの工夫が大切である。したがって、模擬授業時の映像資料提示等のICT利活用も積極的に取り入れる。なお、すべての講義において教育実習に行く服装（スーツ）・頭髮・容姿で受講すること。また、教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律に基づき、指定動画の視聴および誓約書の提出を必須とする。未実施の場合は教育実習に参加できないことがある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：8～10人のグループに分かれ、教育実習に向けた模擬授業を行い、内容についてグループワークを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に自分の行く教育実習校でどの教科書が使用されているか、実技ではどの種目を、保健ではどの単元を担当するかを実習校に聞いて調べておき、それに沿った学習指導案を作成し、模擬授業の練習を重ねておく。模擬授業後、何が出来て何が出来なかったかをしっかり振り返り、次の模擬授業に活かしていく。特に保健授業では、専門知識が必要になるため実習で自分の担当する単元については事前にしっかり勉強しておくこと。予習：2時間、復習：1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

教育実習事前指導授業の授業態度 20%、模擬授業指導案の提出 20%、模擬授業評価 30%、教育実習事後活動の評価 30%、等を総合的に評価するが、教育実習校評価も加味する。教育実習I、IIの繋がりについてもふれる。

<教科書>

<参考書>

吉田武男監修（2023年4月24日） 教育実習（MINERVAはじめて学ぶ教職） ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習の意義と心構え（1）	教育実習の意義、教育職員として求められる責任と倫理、児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解、指定動画の視聴および誓約書手続き
2	教育実習の意義と心構え（2）	教育実習を成功させる準備と心得、模擬授業
3	教育実習の意義と心構え（3）	道徳・特別活動・総合学習時間の指導、模擬授業
4	教育実習の方法と技術（1）	学校経営と学級経営、方針とねらい、教職員の職務と役割、模擬授業
5	教育実習の方法と技術（2）	教師と生徒との人間関係、問題を持つ生徒の個別指導、模擬授業
6	保健体育教科の指導	学習指導のあり方、学習指導計画の意義・ねらいと立案、模擬授業
7	研究授業（模擬授業）の方法（1）	中学校・高等学校に分け、また、県別に分け、模擬授業を行う

8	研究授業（模擬授業）の方法（2）	学習指導案のねらい・内容と書き方、模擬授業
9	研究授業（模擬授業）の方法（3）	教材研究のすすめ方、教科書・補助教材の扱い方、板書の工夫、模擬授業
10	研究授業（模擬授業）の方法（4）	教師の言葉遣い・話し方・聞き方、机間指導・個別指導、模擬授業
11	研究授業（模擬授業）の方法（5）	個別学習・グループ学習の進め方、模擬授業
12	研究授業（模擬授業）の方法（6）	学習評価とその活用法、模擬授業
13	研究授業（模擬授業）の方法（7）	研究授業の実際～過去の実習生の事例～、模擬授業
14	教育実習報告会	教育実習の反省会および報告会教育実習記録をもとに報告書作成
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	51008				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)				担当者名	虫明 淑子／檜寄 日佳／塚本 千晴			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園教育実習における事前準備と事後振り返りを行う。事前授業では、幼稚園教育の基本、幼児の発達特性、教育実習を行う際の心構え等について学ぶ。これまでの幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。グループごとに演習を行い振り返りをする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実習の手引きを熟読して授業に臨むこと（60分）復習：配付資料をファイルし、授業後に内容を確認、復習をし、授業課題をすること（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・チーム貢献度30%、課題50%、試験20%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

環太平洋大学（2026） 教育実習の手引き（幼稚園）

<参考書>

文部科学省（2018） 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省（2018） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	実習の意義と実習ルール	実習の意義と目標、実習ルールの確認児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	実習の意義と目標	実習の意義と目標の確認
3	実習の段階と実習の心構え	実習の段階と流れ、実習生としての心構え
4	幼稚園の理解	幼稚園教育要領の確認、教師の資質と幼児理解
5	指導案の作成（1）	発達段階及び幼児の姿を考慮した「ねらいと内容」、「活動内容」
6	指導案の作成（2）	ねらいを達成するための「教師の援助と配慮」
7	保育教材の作成（1）	自己紹介教材の作成と発表
8	保育教材の作成（2）	お楽しみ会やお別れ会の準備と発表
9	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
10	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
11	実習書類の作成、実習前オリエンテーション	実習園送付書類の作成、実習前オリエンテーションの意義と方法
12	実習記録の書き方	記録の取り方と日誌の書き方、エピソード記録と考察
13	実習までの準備	実習の自己課題、実習の準備、守秘義務と情報の管理
14	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ、礼状の作成
15		
16		
17		
18		
19		
20		

21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	51010				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(英語) 《通年》				担当者名	竹下 厚志／伊藤 仁美			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習は、教職の現場を自ら体験することによって教師像を確立するという重要な意味を持っている。事前指導では、実習生に求められる任務を遂行する力や授業を行う技術の習得がねらいとする。事後指導では、受講生の実習経験を題材としてディスカッションを中心とした授業を行う。各受講生が教育実習期間中に経験した様々な事例を教材とし、教職に対する理解を深める機会とする。

<授業の到達目標>

(1) 事前指導において、教育実習に必要な心構えおよび指導案作成の技術を身に付けている。(2) 事後指導での実習報告やディスカッションを通し、自身の経験に基づいた目標とする教師像を具体的に提示できるようになる。

<授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4) 省察活動（まとめと発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。模擬授業および各模擬授業に関するグループ内でのディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

合計4時間<予習>模擬授業の準備、指導案の作成（2時間程度）<復習>振り返りレポートの作成（2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加姿勢・貢献 20%、指導案作成・模擬授業 50%、教育実習・実習報告 30% （一定の水準に達していない学生は、教育実習を認めない場合がある。）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習に臨んで	教育実習の目的、心構え、児童生徒性暴力等の防止に関する理解を深める
2	授業観察	DVD教材を利用した授業観察、授業分析
3	授業準備	教科書分析・指導案作成準備
4	指導案の作成（1）	指導案作成の手順
5	指導案の作成（2）	指導技術の工夫
6	模擬授業（1）	模擬授業を実施
7	模擬授業（2）	模擬授業を実施
8	模擬授業（3）	模擬授業を実施
9	模擬授業（4）	模擬授業を実施
10	事前指導のまとめ	事前指導で学んだ内容の確認
11	教育実習の報告（1）	実習報告とディスカッション
12	教育実習の報告（2）	実習報告とディスカッション
13	教育実習の報告（3）	実習報告とディスカッション
14	事後指導のまとめ	実習全体の振り返り
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	40301				区 分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ)《連続》				担当者名	坂本 賢広／平林 大輔			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師 養成施設必修科目

<授業の概要>

固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技Ⅴでは股関節、大腿骨、膝蓋骨の外傷（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢に生じる外傷の病態把握の習得ができる。2. 症状に対する治療法の判断、処置方法、整復方法を理解し実施できる。

<授業の方法>

授業方法1. グループワーク（疾患に対する治療手法（整復動作、固定動作））2. 講義（教員による疾患概要、治療手法指導）3. ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）受講上の注意A. 安全配慮（事前予防）【安全管理と受講のルール】服装・装備など：大学指定の白衣および靴を必ず着用すること。露出の多い服装やサンダル履き、装飾品（ネックレス・指輪等）の着用は、巻き込み事故防止のため禁止する。また、学生間で実技を実施するため、爪を切るなど学生同士の安全配慮に努めること。体調管理：授業当日の体調不良（発熱、睡眠不足、飲酒等）がある場合は、事故に直結するため、必ず開始前に申し出る。教員の判断で実技を制限する場合がある。機器操作：教員の指示がない限り、装置や器具の操作を一切禁ずる。手順書を厳守または教員の指示通りに行い、不明点は即座に質問すること。B. 事故発生時の対応（事後対応）【緊急時の対応】学内のEAPに従い対応する。即時報告：怪我（微細な切り傷を含む）や気分が悪化した場合、および機器の不具合を発見した場合は、直ちに実技を中断し、周囲の学生と協力して教員へ報告すること。救護体制：容態に応じて、学内の保健室（時計台校舎1階）への搬送、または119番通報を行う。応急処置キットは実技実習室前の倉庫に常備している。AEDはIPU附属接骨院・鍼灸院玄関に常備している。避難経路：初回の授業で非常口と避難場所を確認する。緊急地震速報等の際は、速やかに実技を中断し、教員の指示に従って避難すること。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り各グループで患者役、術者役、助手役、タイムキーパー、レポーター、アクティビティリーダーを決めて、ある課題に対してHOPS（問診・視診・触診・理学検査（スペシャルテスト））を中心に実技対応を行いグループ内で議論し主体的な学習と実践を行う。役割を順番に担当していただき、積極的に参加して自分の考えを言葉にして学びほぐしを行う。医療関係者になることを想定した心構えを持ちながら主体的な学習活動を展開する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義の事前課題（実施する疾患に対する下調べ（毎回、60分程度））復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験90%、学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂
全国柔道整復学校協会 柔道整復学・実技編 南江堂

<参考書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・包帯固定学 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義の内容、評価方法、受講態度について
2	固定法	固定法に対する指導管理、固定の理解と指導について
3	下肢における評価（1）	関節可動域、下肢長について
4	下肢における評価（2）	MMT、代償運動について
5	下肢における評価（3）	ケーススタディによる評価方法（代償運動と動作分析）について
6	大腿骨頸部骨折（1）	大腿骨頸部骨折における概要および整復法について
7	大腿骨頸部骨折（2）	大腿骨頸部骨折における固定法（クラーメル固定）について
8	股関節脱臼（1）	股関節脱臼における概要と整復法について
9	股関節脱臼（2）	股関節脱臼における固定法（クラーメル固定）について

10	大腿骨骨幹部骨折（１）	大腿骨骨幹部骨折における概要と整復法について
11	大腿骨骨幹部骨折（２）	大腿骨骨幹部骨折における固定法について
12	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折における概要と整復法について
13	膝蓋骨脱臼	膝蓋骨脱臼における概要と整復法について
14	膝蓋骨疾患の処置	膝蓋骨骨折および膝蓋骨脱臼における固定法について
15	下腿骨骨折（１）	下腿骨骨折における概要について
16	下腿骨骨折（２）	下腿骨骨折における整復法、固定法（クラーメル固定）について
17	下腿骨骨折（３）	下腿骨骨折における整復法、固定法（ギプス固定）について
18	下肢外傷の応急処置（１）ケーススタディ （股関節周囲の運動器疾患①）	下肢外傷の応急処置（救急搬送固定） シミュレーション実習①
19	下肢外傷の応急処置（２）ケーススタディ （股関節周囲の運動器疾患②）	下肢外傷の応急処置（循環、神経学的所見の確認）シミュレーション実習②
20	下肢外傷における評価（１） ケーススタ ディ（膝関節周囲の運動器疾患①）	関節可動域訓練と可動域についてシミュレーション実習③
21	下肢外傷における評価（２） ケーススタ ディ（下腿骨の運動器疾患①）	アライメントとマルアライメントについてシミュレーション実習④
22	下肢外傷における評価（３）ケーススタデ ィ（総合）画像評価	下肢画像評価について下肢外傷の応急処置（整復法・固定法まとめ）シミュレーショ ン実習⑤
23	総復習（１）	大腿骨頸部骨折、股関節脱臼、股関節周囲の評価、整復法について
24	総復習（２）	大腿骨頸部骨折、股関節脱臼、股関節周囲の固定について
25	総復習（３）	膝関節周囲の評価、整復法について
26	総復習（４）	膝関節周囲の固定について
27	総復習（５）	下腿骨骨折の評価、整復法について
28	総復習（６）	下腿骨骨折の固定について
29		
30		

科目コード	40302				区 分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ) 《連続》				担当者名	坂本 賢広／平林 大輔			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師 養成施設必 修科目

<授業の概要>

固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技Ⅵでは大腿部、膝関節部、下腿部の外傷（軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

<授業の到達目標>

1. 下肢に生じる外傷（軟部組織損傷）の病態把握の習得ができる。2. 症状に対する治療法の判断、処置方法を理解し実施できる。

<授業の方法>

授業方法1. グループワーク（疾患に対する治療手法（整復動作、固定動作））2. 講義（教員による疾患概要、治療手法指導）3. ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）受講上の注意A. 安全配慮（事前予防）【安全管理と受講のルール】服装・装備など：大学指定の白衣および靴を必ず着用すること。露出の多い服装やサンダル履き、装飾品（ネックレス・指輪等）の着用は、巻き込み事故防止のため禁止する。また、学生間で実技を実施するため、爪を切るなど学生同士の安全配慮に努めること。体調管理：授業当日の体調不良（発熱、睡眠不足、飲酒等）がある場合は、事故に直結するため、必ず開始前に申し出ること。教員の判断で実技を制限する場合がある。機器操作：教員の指示がない限り、装置や器具の操作を一切禁ずる。手順書を厳守または教員の指示通りに行い、不明点は即座に質問すること。B. 事故発生時の対応（事後対応）【緊急時の対応】学内のEAPに従い対応する。即時報告：怪我（微細な切り傷を含む）や気分の悪化が生じた場合、および機器の不具合を発見した場合は、直ちに実技を中断し、周囲の学生と協力して教員へ報告すること。救護体制：容態に応じて、学内の保健室（時計台校舎1階）への搬送、または119番通報を行う。応急処置キットは実技実習室前の倉庫に常備している。AEDはIPU附属接骨院・鍼灸院玄関に常備している。避難経路：初回の授業で非常口と避難場所を確認する。緊急地震速報等の際は、速やかに実技を中断し、教員の指示に従って避難すること。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング要素有り各グループで患者役、術者役、助手役、タイムキーパー、レポーター、アクティビティリーダーを決めて、ある課題に対してHOPS（問診・視診・触診・理学検査（スペシャルテスト））を中心に実技対応を行いグループ内で議論し主体的な学習と実践を行う。役割を順番に担当していただき、積極的に参加して自分の考えを言葉にして学びほぐしを行う。医療関係者になることを想定した心構えを持ちながら主体的な学習活動を展開する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する疾患に対する下調べ（毎回、60分程度）復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験90% 学習意欲10%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編 南江堂
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・実技編 南江堂
全国柔道整復学校協会監修 包帯固定学 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	下肢機能の評価	下肢関節の可動域測定法
2	下肢機能の評価	下肢機能の筋力評価（MMT）
3	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理論実技
4	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理学検査
5	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの固定法
6	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理論実技
7	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理学検査
8	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの固定法
9	膝部の評価固定実技	膝関節内側側副靱帯損傷の理論実技
10	膝部の評価固定実技	膝関節内側側副靱帯損傷の理学検査

11	膝部の評価固定実技	膝関節内側側副靱帯損傷の固定法
12	膝部の評価固定実技	膝関節外側側副靱帯損傷の理論実技
13	膝部の評価固定実技	膝関節外側側副靱帯損傷の理学検査
14	膝部の評価固定実技	膝関節外側側副靱帯損傷の固定法
15	膝部の評価固定実技	膝関節前十字靱帯損傷の理論実技
16	膝部の評価固定実技	膝関節前十字靱帯損傷の理学検査①
17	膝部の評価固定実技	膝関節前十字靱帯損傷の理学検査②
18	膝部の評価固定実技	膝関節前十字靱帯損傷の固定
19	膝部の評価固定実技	膝関節後十字靱帯損傷の理論実技
20	膝部の評価固定実技	膝関節後十字靱帯損傷の理学検査
21	膝部の評価固定実技	膝関節後十字靱帯損傷の固定法
22	膝部の評価固定実技	膝関節半月板損傷の理論実技
23	膝部の評価固定実技	膝関節半月板損傷の理学検査
24	膝部の評価固定実技	膝関節半月板損傷の固定法
25	下腿部の評価固定実技	アキレス腱損傷の理論実技と理学検査と固定法
26	足関節及び足部の評価固定実技	足関節・足部の靱帯損傷の理論実技と理学検査と固定法
27	まとめ1	総復習1シミュレーション実習①
28	まとめ2	総復習2シミュレーション実習②
29		
30		

科目コード	36304				区 分	コア科目			
授業科目名	体力学実習				担当者名	田中 耕作			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本実習は、各種体力・形態の測定方法を実際に体験しながら学ぶ科目である。また、測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝える方法、測定結果をトレーニングに活かす方法を学ぶことを目的とする。

<授業の到達目標>

1) 各種体力・形態を測定することができる2) 測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝えることができる3) 測定結果をトレーニングに活かすことができる

<授業の方法>

実習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり自身が測定したの体力データについてグループでディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、オンデマンド教材（動画・資料）を視聴し、実習内容に関する手順や理論を確認するとともに、重要事項の整理を行う（60～90分程度）。事後学習として、実習で得られた結果や気づきを整理し、考察を加えたレポートを作成・提出する（60～120分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業レポート70%、総合レポート30%

<教科書>

<参考書>

西薊 秀嗣（2004年4月） スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	体力学とは
2	体力測定の歴史（1）ラボテスト	実験室における各種体力測定の歴史を学ぶ
3	体力測定の歴史（2）フィールドテスト	フィールドにおける各種体力測定の歴史を学ぶ
4	形態の計測法	マルチン式人体計測法、ボディラインスキャナによる計測法
5	形態の評価	計測結果の理解と効果的なフィードバックの方法
6	体脂肪率・筋厚の測定法	皮脂厚法、空気置換法、超音波法による測定
7	体脂肪率・筋厚の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
8	最大挙上重量の測定法	1RMの測定法
9	最大挙上重量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
10	等速性最大筋力の測定法	股関節、膝関節および足関節の測定
11	等速性最大筋力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
12	ペダリングパワーの測定法	ハイパワー自転車エルゴメータによる下肢パワーの測定
13	ペダリングパワーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
14	各種競技動作の分析法	3次元動作解析システムを用いた各種競技動作の分析
15	各種競技動作の評価	分析結果の理解と効果的なフィードバックの方法
16	最大酸素摂取量の測定法（1）	トレッドミルを用いた最大酸素摂取量の測定
17	最大酸素摂取量の測定法（2）	自転車エルゴメータを用いた最大酸素摂取量の測定
18	最大酸素摂取量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
19	ランニングエコノミーの測定法	最大下強度および超最大強度のランニングエコノミーの測定
20	ランニングエコノミーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
21	無酸素性作業閾値の測定法	呼気ガスおよび乳酸を用いた無酸素性作業閾値の測定
22	無酸素性作業閾値の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
23	心拍数・心拍出量の測定法	心拍数およびインピーダンス法を用いた心拍出量の測定
24	心拍数・心拍出量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
25	跳躍能力の測定法	マットスイッチシステムを用いた各種跳躍能力の測定
26	跳躍能力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法

27	疾走速度の測定法	レーザードップラー方式距離計測装置を用いた疾走速度の測定
28	疾走速度の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
29		
30		

科目コード	53044				区 分	コア科目			
授業科目名	特別演習Ⅰ 《通年》[留学生・大学院入試向け]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業論文を執筆する学生の執筆指導を行う。加えて、経営学系大学院受験を考える学生の受験指導も行う。

<授業の到達目標>

卒業論文を完成させる。また、目標とする大学院を選択し、試験に向けての準備を行う。

<授業の方法>

卒業論文の作成の全般的指導、個別指導、大学院全般のガイダンスと個別指導。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

論文執筆指導、面接指導、研究計画書作成指導、入学願書執筆指導、個別指導。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業論文のテーマについて、自分自身でしっかり考え、ある程度リサーチしておくこと。大学院受験生は、受験する大学院によって指定教科書、受験科目が違うので、受験する大学院が決まったら指定参考書により自主学習をすること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業で出される課題の提出、研究計画書の作成などを総合的に評価。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	最初の授業で、履修者にアンケートを行い、それに合わせて授業内容を作成。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		

科目コード	53045				区 分	コア科目			
授業 科目名	特別演習Ⅱ 《通年》[インターンシップ事前事後]				担当者名	赤木 邦江／岡田 健志／溝越 隆興			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（ロールプレイング等）	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、インターンシップ（就業体験）に臨む学生のための履修必須の事前・事後指導科目である。組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解するための企業研究や業界研究の仕方、エントリーシートの書き方、面談・面接の練習等、インターンシップ就業先の決定までの基本的な学習から始める。就業終了後には、振り返りや書類作成、成果報告の資料、プレゼン作成等の仕上げをすることを目的とする。併せて、事前・事後共に演習（ロールプレイング）を通じ、社会人に求められるビジネスマナー・ビジネスコミュニケーション（具体的には挨拶、電話対応、報告・連絡・相談、コンプライアンス：法令遵守等）を学ぶ。

<授業の到達目標>

「実際の職場や組織で働く」ために必要とされる知識と実践のための言動を身につける。「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」に移行することの動機付け、意識付け、さらには希望する職業に従事するために、自身にとって求められるスキル・マナーなどを明確に認識できるようになる。

<授業の方法>

インターンシップ実習備え、事前・事後の学内講義（座学および演習：ロールプレイング）を行う。事前では、ビジネスマナー（挨拶、言葉遣い、電話対応、メールマナー等）、エントリーシートの書き方、面談・面接のロールプレイングなどを実施する。就業先決定後には、誓約書、覚書、体験日報、実施報告書などの書き方を学び、提出に備える。実習終了後には、成果報告レポート等の提出、成果報告会でのプレゼンテーションに向けて、資料、プレゼンスライドの作成等を実施する。個別での進行具合が異なり、実施内容も異なるため、随時、課題・出席・提出等について案内する。実習前後の個別サポートは、対面面談及びEメールやGoogleClassroom（レジュメ等をアップした場合には印刷またはダウンロードをする）を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

インターンシップの履修希望者は、本科目の履修は必須であるため、履修許可に際しては、インターンシップ同様に、前年度出席率80%以上、GPA 2.0以上を基本条件とする。また、グローバル（留学）生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N2相当が望ましい。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めておく（1時間程度）。復習：実習での経験や成果を振り返り、今後の学生生活にどのように役立てるのかを考える（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「期限までの提出物・内容評価 30%」「授業への取り組み・態度 30%」「レポート課題・報告書及び報告（プレゼンテーション） 40%」

<教科書>

松高 政 インターンシップの教科書 ナカニシヤ出版

<参考書>

指定しない。授業で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス「インターンシップ」とは	授業・実施の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について
2	インターンシップ事前準備① 参加申込書（エントリーシート）、誓約書、肖像権使用許諾書等必要書類組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討	インターンシップの存在理由と意義
3	インターンシップ事前準備②	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか？ 組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討
4	インターンシップ事前準備③	就職活動とインターンシップの関係
5	インターンシップに必要なマナー①	ビジネスマナーの理解と実践 面談・面接のマナー、ビジネスマナー（ロールプレイング等）

6	インターンシップに必要なマナー②	ング)
7	決定就業体験先の組織(企業、団体、官公庁等の行政職等) 研究	エントリーシート、履歴書などの書類の書き方、機密保持について
8	インターンシップ実習前準備①	組織研究の基本的な考え方、就業体験先についての調査・分析
9	インターンシップ実習前準備②	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計(内容・目標・課題等)
10	インターンシップ実習前準備③	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計(内容・目標・課題等)
11	インターンシップ実習前準備④	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計(内容・目標・課題等)
12	インターンシップ実習前準備⑤	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計(内容・目標・課題等)
13	インターンシップ実習前準備⑥	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計(内容・目標・課題等)
14	特別演習Ⅱ前半まとめインターンシップ直前注意	実習にあたっての準備物連絡先確認、交通確認事前就業連絡、就業初日挨拶等ビジネスマナーの再確認
15	インターンシップ実習体験の振り返り(プログラムの達成確認)①	プログラムの達成確認提出書類の作成
16	インターンシップ実習体験の振り返り(プログラムの達成確認)②	プログラムの達成確認提出書類の作成
17	インターンシップ実習体験の振り返り(プログラムの達成確認)③	プログラムの達成確認提出書類の作成
18	インターンシップ実習体験・情報共有①	履修クラス内報告
19	インターンシップ実習体験・情報共有②	履修クラス内報告
20	インターンシップ実習体験・情報共有③	履修クラス内報告
21	インターンシップ実習体験・情報共有④	履修クラス内報告
22	成果報告会準備①	レポート・プレゼン資料の作成
23	成果報告会準備②	レポート・プレゼン資料の作成
24	成果報告会準備③	レポート・プレゼン資料の作成
25	インターンシップ体験・成果報告①	就業体験・成果報告とフィードバック
26	インターンシップ体験・成果報告②	就業体験・成果報告とフィードバック
27	インターンシップ体験・成果報告③	就業体験・成果報告とフィードバック
28	インターンシップ体験・成果報告④	就業体験・成果報告とフィードバック
29		
30		

科目コード	53062				区 分	コア科目			
授業科目名	特別演習Ⅲ 《通年》[社会調査士系]				担当者名	古松 丈周			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「経営・マネジメント」「商学・マーケティング」「会社に関する法的問題」「現代経済」等の各領域について、担当教員の専門領域や学生が関心のある現代社会のトピックについて取り扱う。調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習することを目的とする。調査実施のすべての段階を経験し、社会調査を実践の場で実施できる人材を育成することを目標とする。現状の意識と行動と事実との関係性を調査ベースに追求していく。先行研究調査、文献調査を踏まえRQと仮説を明確にし、質問紙とインタビュー調査の併用による意識調査、実態調査の分析を行っていく。

<授業の到達目標>

「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（G科目）である。「社会調査法」「プロジェクト研究（社会調査系）」「マーケティングリサーチ」の科目を単位取得済み、あるいは履修中であること。「情報分析論」「統計学」を履修すること。調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する授業である。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収、面接）、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノート作成、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成する。また、実際にアプリケーション・ソフトを利用した量的データの統計的分析の実習、もしくは、質的データの分析ないし事例研究を行う実習を行い問題設定の考え方、問題の解決方策、結果発表等のスキルを身につける。

<授業の方法>

授業内の演習でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義では講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、クラス内での議論やインタビューメモのため必ず筆記用具を持参すること。授業ではペアワーク・ディスカッション・相互インタビュー・プレゼンテーションを重視する。特に発言・対話・議論に積極的に参加することが期待される。フィールドワーク実践として、学内外でインタビュー調査も実施する。これによって、調査企画・個?情報の管理・調査倫理・調査票の作成・集計・コーディング・エラーチェック・統計的分析・報告書の作成といった社会調査全般の技術を習得し、併せて調査に臨む姿勢を学ぶ。既存文献調査を含めた調査課題の理解、ネット情報検索、論点の設定、調査企画書の作成、質問紙調査、インタビュー調査の実施、調査データの整理、傾向の把握、統計的推定、統計的検定作業の実施、報告書作成と進めていく。前期はフィールドワークを中心とした観察をベースに質的な研究方法による分析、後期はアンケート調査を主体に量的な企業活動に対する課題を抽出し提案を行う量的な研究をチーム行う。企業やフィールドへ出かけていき、ヒアリング、質的・量的調査・分析を行いながら、課題解決の提案、実際の解決活動を行う。キックオフミーティング、中間、最終のプレゼンテーションを実施していく。Dropbox、ユニバを活用しながらチーム内における収集データ、分析データの情報共有、プレゼンデータの共同作成を行っていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッション・企画立案実践・プレゼンテーション・相互レビューである。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内のディスカッションやグループワークなどで気づいたこと・学んだことを毎回レポートで提出する（想定学習時間：約60分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（発言・議論への積極的参加）40％、毎回の課題提出40％、最終課題20％を目安に評価する。各回の課題に対して担当者からフィードバックを行う。

<教科書>

<参考書>

金井雅之・渡邊大輔・小林盾(2012) 『社会調査の応用—量的調査編:社会調査士E・G科目対応』 弘文堂
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋 編著(2023) 『最新・社会調査へのアプローチ----論理と方法----』 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績基準、諸注意
2	社会調査とは	調査の倫理、種類、調査事例、質的調査とは何かを理解する。
3	調査事例、質的調査の紹介	フィールドノート、参与観察、インタビュー
4	方法論のエッセンス（フィールドワークについて）	現象学的観察、観察から概念化、理論・推論のパターン、論理的に考える方法論、仮説創造、アブダクションについて
5	〔グループ作業〕グループ討議およびテーマ設定	フィールドワークの各段階説明（初期・中期・後期）データ収集におけるフィールドノーツの書き方
6	〔グループ作業〕フィールドワーク演習	グループ作業を行う。町に出て、駅近辺あるいはショッピングモールで観察。

7	〔グループ作業〕フィールドワーク演習	フィールドノーツを作成（データ収集）、出来事が起こっている最中のメモを取る
8	〔グループ作業〕フィールドワーク	暗黙知獲得の方法論、創造のプロセス 第2ステップ（仮説の一般化）、コーディング作業
9	〔グループ作業〕フィールドワーク	コーディング作業、カテゴリー化、GTAの演習
10	〔グループ作業〕フィールドワークについて（1）	都市型創造クラスター研究
11	〔グループ作業〕フィールドワークについて（2）	都市型創造クラスター研究、ディスカッション
12	〔グループ作業〕シナリオシンキングについて（1）	グランデッド・セオリー・アプローチ方法論の演習を実施
13	〔グループ作業〕シナリオシンキングについて（2）	シナリオロジックの明示、メタファ、シナリオ作り（4つの世界の想定）
14	前期のまとめ	発表会
15	観察企業〔組織〕参加挨拶（目的理解期間）	会社〔組織〕紹介
16	ワークショップ（1）（目的理解期間）	イノベーションを起こそう！
17	テーマ紹介、調査テーマの決定、スケジュールの組み方	仮説構成について、量的調査の方法、理論仮説（概念化）と作業仮説
18	情報収集（グループワーク）	グループで調査テーマを決める、問題（群）を決める、テーマに沿って必要な情報収集
19	調査企画書の作成（1）（グループワーク）	調査テーマ・仮説構成について、量的調査の方法、理論仮説（概念化）と作業仮説
20	調査企画書の作成（2）（グループワーク）	情報収集結果に基づきワーディング、選択肢作成、ヒアリング項目の洗い出し
21	調査の実施（1）（グループワーク）	質問紙調査、ヒアリング調査、観察調査
22	調査の実施（2）（グループワーク）	質問紙調査、ヒアリング調査、観察調査
23	調査データの整理（グループワーク）	単純集計表・クロス集計確認、平均、分散、分位数、標準偏差、調査結果の大まかな傾向の把握
24	調査全体の分析（1）（グループワーク）	発表の方向性確認、不足情報の収集
25	調査全体の分析（2）（グループワーク）	中間発表資料の作成
26	中間発表（最終プレゼン準備）	全体討議、意見交換、不足情報の確認
27	最終資料完成作業（最終プレゼン準備）	プレゼン準備、リハ
28	最終発表会	グループ単位で発表・討議する。
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、道德教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

教育職員に採用された後の皆さんの姿をイメージし、特にこのゼミナール出身者の中から各学校に設置されるミドルリーダー（「道德教育推進教諭」）になれるような資質・能力を形成することができるようになる。尚、「考え、議論する道德」のアクティブ・ラーニングについて授業設計や授業分析ができるようにテーマ探究をするのはもちろん、やがては道德教育の全体計画や年間指導計画、シラバスの作成等もできるように成長してもらいたいと考える。

<授業の方法>

・前期は、道德的な観点から見た現代社会における教育的諸課題について、賛否両論を踏まえたディベートを行う。講義では2回を1セットにし、①情報収集（知識・技能の習得、ブレイン・ストーミング）→②ディベート（思考力・判断力・表現力等、討議）→③まとめ（学びに向かう力、人間性等）の探究学習のサイクルを回す。・後期は、前期に課題検討し、皆さんが獲得・蓄積した様々な諸課題の中から、自分が深めたいと思った問い（課題）を集中的に探究し、研究成果（レポート、ポスター等）をまとめる。その際、ICT機器を活用して、先行実践研究の検索や分析を行い、論文作成と発表の完成度を上げる。研究成果（論文ないし学習指導案）の完成はもちろんだが、その内容の学会発表にも果敢にチャレンジしたい。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・ディベート・ソクラテス的対話によるディスカッション・ブレインストーミング(マトリックス法・SWOT分析・イメージマッピング等)・学習指導案の作成・模擬授業の実施と質的データの収集・可能であれば、フィールドワーク 他

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前期は、毎回の授業で行うディベートの準備として、授業内でも情報探索する時間を設けるが、各自で情報を集める努力をしてほしい。賛否の両面から教育課題を多面的・多角的に考察し、「何が課題となっているのか」ととことん探究するように準備に当たること（所用時間は1～2時間程度）。後期は、各自が興味・関心を抱いたテーマを個々に深めていくので、雑誌や学会誌などに掲載された先行実践研究論文を読むなどして、自分なりの独創的なアイデアを論文にまとめるように準備を深めてほしい。テーマの決定や、探究の進め方、論文のまとめ方（研究

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業態度等（関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識、研究計画の推進状況（レスポンス含む））：30％・論文・レポート・課題・制作物（学習指導案等）の内容、到達度評価（知識・理解）：70％

<教科書>

木野正一郎（2016年4月15日）『新発想！道德のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』 みくに出版株式会社
押谷由夫・柳沼良太編（2014年7月7日）『道德の時代をつくる！ー道德教科化への始動ー』 教育出版株式会社
青木多寿子編（2011年9月30日）『もう一つの教育ーよい行為の習慣をつくる品格教育の提案ー』 ナカニシヤ出版

<参考書>

明治図書出版株式会社（月刊誌） 雑誌『道德教育』（月刊誌） 明治図書出版株式会社
木野正一郎（2023年3月1日）『早稲田大学教職大学院紀要第15号』『高等学校『地理探究』を想定した小単元プログラムの開発と評価ー『探究的な学習のための活動系列モデル』を援用した取組を通してー』（注：講義にて配布します） 早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会
木野正一郎（2024年3月1日）『早稲田大学教職大学院紀要第16号』『『包括的セクシュアリティ教育』を援用した小単元プログラムの実践と評価ー『課題予防的生徒指導』に向けた取組を通してー』（注：講義にて配布します） 早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	・研究の基礎 ー解説編ー	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	・研究の基礎 ー実践編Ⅰー①<ブレ	現代的な教育課題Ⅰの論争点について情報探索し、多様な意見をまとめる。

4	ン・ストーミングⅠ＞ ・研究の基礎 ー実践編Ⅰー②＜ディベ ートⅠと総括Ⅰ＞	現代的な教育課題Ⅰの論争点について探索した情報に基づき、司会役・審判役・推 進派役・慎重派役に分担して討論する。
5	・研究の基礎 ー実践編Ⅱー①＜ブレ イン・ストーミングⅡ＞	現代的な教育課題Ⅱの論争点について情報探索し、多様な意見をまとめる。
6	・研究の基礎 ー実践編Ⅱー②＜ディ ベートⅡと総括Ⅱ＞	現代的な教育課題Ⅱの論争点について探索した情報に基づき、司会役・審判役・推 進派役・慎重派役に分担して討論する。
7	・研究の基礎 ー実践編Ⅲー①＜ブレ イン・ストーミングⅢ＞	現代的な教育課題Ⅲの論争点について情報探索し、多様な意見をまとめる。
8	・研究の基礎 ー実践編Ⅲー②＜ディ ベートⅢと総括Ⅲ＞	現代的な教育課題Ⅲの論争点について探索した情報に基づき、司会役・審判役・推 進派役・慎重派役に分担して討論する。
9	・研究の基礎固めⅠ	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	・研究の基礎固めⅡ	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	・研究の基礎固めⅢ	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	・研究の基礎固めⅣ	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	・研究の基礎固めⅤ	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	・研究の基礎固めⅥ	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	・前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。新たな問い、探究してみたい問いを持っ てみる。
16	・研究指導Ⅰ ー研究計画づくり①	研究テーマ、課題を考える。
17	・研究指導Ⅰ ー指導計画づくり②	研究テーマ、課題をしぼる。
18	・研究指導Ⅰ ー指導計画づくり③	研究テーマ、課題を決める。
19	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動①	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション①
20	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション②
21	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動③	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション③
22	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動④	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション④
23	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動⑤	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑤
24	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動⑥	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑥
25	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動⑦	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑦
26	・研究指導Ⅱ ー課題の探究活動⑧	・研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション⑧
27	・研究指導Ⅲ ー研究成果（論文ないし学 習指導案）の発表①・②	探究した課題について、その研究発表（研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果 と課題）をする（注：発表は30分/人、うち10分は仲間との相互評価）。
28	・研究指導Ⅲ ー研究成果（論文ないし学 習指導案）の発表③・④	探究した課題について、その研究発表（研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果 と課題）をする（注：発表は30分/人、うち10分は仲間との相互評価）。
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身に付け、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (1)	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (2)	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (3)	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (4)	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (5)	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (6)	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (7)	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (8)	栄養調査の実践発表
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (9)	献立の作成
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (10)	献立の作成

12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (11)	調理実習
13	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (12)	調理実習
14	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (13)	献立作成・調理実習のまとめ
15	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(1)	文献の探し方・読み方
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読(1)
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読(2)
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読(3)
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読(4)
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ(1)
21	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ(2)
22	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(1)	研究計画の作成(1)
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(2)	研究計画の作成(2)
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(3)	研究計画の発表
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(4)	研究計画の考察
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(5)	実験・測定・調査の実施
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(6)	実験・測定・調査のデータ分析および発表
28	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測 定・調査(7)	実験・測定・調査のデータ分析および発表
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	十河 直太			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ名は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。これらを修得し、ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだ内容についてディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞やインターネット、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

<教科書>

必要に応じて

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(1)
3	スポーツ科学とは	スポーツ科学を勉強する意義を考える。
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(2)
5	スポーツ科学センターの見学	スポーツ科学の研究施設を見学し、研究とは何かを学ぶ。
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(3)
7	研究についてのディスカッション	スポーツ科学について興味のあることを発表し、ディスカッションを行う。
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(4)
9	論文抄読1	興味を持った論文を読み、発表する。
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(5)
11	論文抄読2	味を持った論文を読み、発表する。
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(6)
13	実験機器を用いた測定1	スポーツ科学センターの機器を用いて測定法を学ぶ。
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(7)

	リア教育(7)	フィールドワークを行う(7)
15	実験機器を用いた測定 2	スポーツ科学センターの実験機器を用いて測定法を学ぶ。
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(8)
17	データ処理	測定データの処理法を学ぶ。
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(9)
19	研究テーマを探る 1	これまでの授業の内容を踏まえ、今後の研究テーマを決める。
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(10)
21	研究テーマを探る 2	これまでの授業の内容を踏まえ、今後の研究テーマを決める。
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(11)
23	研究計画を寝る	研究を実施するための計画を立てる。
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	次世代の体育人となるための実践的スキルを身に付けるため、グループワークやフィールドワークを行う(12)
25	実験・測定	実験または測定を行う。
26	測定結果のデータ処理・まとめ 1	研究成果をまとめる。
27	測定結果のデータ処理・まとめ 2	測定データをまとめ、発表スライドを作成する
28	ゼミナール I の総括と課題発表	全体のまとめをスライドを用いて発表する
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する

<授業の到達目標>

専門領域の現状を理解し、課題を見出すことができる。課題に沿った論文の検索、精査をすることができる。精査した内容を客観的に評価し内容をプレゼンテーションすることができる。

<授業の方法>

グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査）省察活動（課題に対するまとめ、プレゼンスライド作成、実践活動）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、1時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題40%、プレゼンテーション・レポート 40%、取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	柔道整復師の衛生管理について①	柔道整復師の衛生管理の現状把握1
2	柔道整復師の衛生管理について②	柔道整復師の衛生管理の現状把握2
3	柔道整復師の衛生管理について③	柔道整復師の衛生管理の現状把握3
4	柔道整復師の衛生管理について④	柔道整復師の衛生管理の問題点1
5	柔道整復師の衛生管理について⑤	柔道整復師の衛生管理の問題点2
6	医療現場の衛生管理について①	医療現場の衛生管理について1
7	医療現場の衛生管理について②	医療現場の衛生管理について2
8	医療現場の衛生管理について③	医療現場の衛生管理について3
9	医療現場の衛生管理について④	柔道整復師と他の医療資格との比較1
10	医療現場の衛生管理について⑤	柔道整復師と他の医療資格との比較2
11	情報整理①	衛生管理について1
12	情報整理②	衛生管理について2
13	情報整理③	衛生管理について3
14	まとめ	前半のまとめ1
15	まとめ	前半のまとめ2
16	疑問・問題点の抽出及び整理①	疑問・問題点の抽出及び整理1
17	疑問・問題点の抽出及び整理②	疑問・問題点の抽出及び整理2
18	疑問・問題点の抽出及び整理③	疑問・問題点の抽出及び整理3
19	実験計画①	実験計画1
20	実験計画②	実験計画2
21	実験の実施①	実験の実施1
22	実験の実施②	実験の実施2
23	実験の実施③	実験の実施3
24	実験結果に対する考察①	考察1
25	実験結果に対する考察②	考察2

26	実験結果に対する考察③	考察3
27	実験結果に対する考察④	考察とまとめ
28	プレゼンテーション	プレゼンテーション
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人となれるよう演習形式で実施する。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること。論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

ゼミナールⅠ(基礎)は、グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを作成し発表する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有りグループで発表者、タイムキーパー、レポーター、アクティビティリーダーを決めて、ある研究課題に対して議論し批判的吟味を行いより良い研究に向けた主体的な学習と実践を行う。役割を順番に担当していただき、積極的に参加して自分の考えを言葉にして学びほぐしを行う。医療関係者になることを想定した心構えを持ちながら主体的な学習活動を展開する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習:授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。
 なお、スポーツ医学(内科)に関する分野の中で興味のある内容について文献検索を適宜実施しながら、情報を収集する。(約100分)
 事後学習:授業中に指摘された課題について調べてまとめる。(約90分)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲50% 課題レポート50%

<教科書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修 彼末一之 編集 生理学 改訂第4版 南江堂

<参考書>

編者 赤間高雄 発行者 曾根良介(2014年3月31日) はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ8 スポーツ医学【内科】(株)化学同人

編著者 藤本敏夫 大久保衛 発行者 前田茂(2020年9月30日) やさしいスチューデントトレーナーシリーズ 新スポーツ医学【改訂新版】 峯峨野書院

著 Scott K. Powers Edward T. Howley(2020年8月25日発行 第1版第1刷) 日本語版監修 内藤久士 柳谷登志雄 小林裕幸 高澤祐治 パワーズ運動生理学 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠにおける年間の進行方法について
2	スポーツ医学とは	スポーツと医学について
3	スポーツ医学(内科)とは	内科系スポーツ障害について
4	メディカルチェック	メディカルチェックの内容について
5	アスリートの健康管理	アスリートの健康管理体制について
6	スポーツ医学(内科)(1)	循環器系および呼吸器系について
7	スポーツ医学(内科)(2)	消化器系と腎・泌尿器系について
8	スポーツ医学(内科)(3)	血液・免疫・アレルギーについて
9	スポーツ医学(内科)(4)	内分泌代謝系について
10	スポーツ医学(内科)(5)	熱中症について
11	測定と評価(1)	心拍数について
12	測定と評価(2)	乳酸について
13	測定と評価(3)	酸化ストレスについて
14	まとめ	前半まとめ(1)

15	まとめ	前半まとめ (2)
16	スポーツ医学 (内科) (6)	スポーツ活動と疲労について
17	スポーツ医学 (内科) (7)	女性スポーツ医学について
18	スポーツ医学 (内科) (8)	スポーツ精神医学について
19	スポーツ医学 (内科) (9)	アンチドーピングについて
20	スポーツ医学 (内科) (10)	スポーツ活動による血液性状について
21	スポーツ医学 (内科) (11)	運動強度について
22	測定と評価 (4)	酸化ストレスおよび抗酸化力について
23	測定と評価 (5)	心拍数からみた運動強度について
24	測定と評価 (6)	運動負荷試験について
25	研究計画 (1)	研究計画 (1)
26	実験結果に対する考察	考察
27	プレゼンテーション①	プレゼンテーション①
28	プレゼンテーション②	プレゼンテーション②
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

“Citius, Altius, Fortius – Communiter”、オリンピックのモットーである「より速く、より高く、より強くー共に」を体現するべく、ゼミナール丸となって人間のダイナミックな身体運動をスポーツ科学、特にバイオメカニクスの知見に基づき体系的に探究する。そして、心・技・体に「知」を加えたリバランスを通じてアスリート、サイエンティスト、そしてひとりの人間としてのパフォーマンスの最大化を目指す。

<授業の到達目標>

・スポーツを科学的な知見から論理的に語ることができる。・スポーツ科学の研究を通して、社会的課題を解決するための技能および方法を身につける。

<授業の方法>

本ゼミナールは、演習形式で行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1) 次週の授業テーマに関して、各自で予習を行い、各自が得意とする運動との関係を考えること(30分)。2) 授業内容と関連する他基礎科目(生理学や解剖学など)の復習を行うこと(30分)。3) 授業内容で学んだ内容を各自が得意とする運動に応用し、実践すること(30分)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技術を獲得できる。)、ディプロマポリシー3(スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技術を活用できる。)、ディプロマポリシー4(スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

平常点20%、課題80%とする。

<教科書>

必要に応じて紹介または配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	単位取得上の諸注意、授業展開の概要を述べるとともに、スポーツバイオメカニクスに関する知識を深めることがスポーツ科学の学習と実践においてどのような意義を有しているかを説明し、今後の学習に対する動機づけを行う。
2	ハイパフォーマンス演習Ⅰ	縦断的に測定している体力測定を実施する(基礎体力、アジリティ、筋力のいずれか)。
3	ハイパフォーマンス演習Ⅱ	縦断的に測定している体力測定を実施する(基礎体力、アジリティ、筋力のいずれか)。
4	ハイパフォーマンス演習Ⅲ	縦断的に測定している体力測定を実施する(基礎体力、アジリティ、筋力のいずれか)。
5	地面反力・三次元動作の測定方法論	床反力計および三次元動作解析装置を用いて特定の身体運動を評価する。
6	超音波画像診断装置・せん断波エラストグラフィの測定方法論	超音波画像診断装置およびせん断波エラストグラフィを用いて筋の形態的または力学的特性を評価する。
7	スポーツ科学の情報収集と精査	各自がバイオメカニクス分野において興味のあるテーマを調査する。学術論文の検索方法と質の高い情報の精査方法を学ぶ。
8	グラフを読み解く	学術的に適切なグラフの作成方法を学ぶ。エクセルを使用する。
9	スライド作成の方法論	プレゼンテーションにおけるスライドの作成方法を学ぶ。パワーポイントを使用する。
10	プロジェクト研究Ⅰ	主に動作解析・筋腱ダイナミクス・データサイエンスにグルーピングを行い、各グループで探求する研究テーマを設定する。
11	プロジェクト研究Ⅱ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
12	プロジェクト研究Ⅲ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。

13	プロジェクト研究Ⅳ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
14	プロジェクト研究Ⅴ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。前期の統括としてプロジェクトの成果発表を行う。
15	プログラミングⅠ	プログラミング言語、PythonおよびRを用いてデータ解析または統計解析のためのプログラミングを行う。グラフの作成、4次スプライン補完、フィルタリング処理を学ぶ。
16	プログラミングⅡ	プログラミング言語、PythonおよびRを用いてデータ解析または統計解析のためのプログラミングを行う。スティックピクチャの作成と関節中心の軌跡のヒートマップ、GPSデータのヒートマップ解析を学ぶ。
17	プログラミングⅢ	プログラミング言語、PythonおよびRを用いてデータ解析または統計解析のためのプログラミングを行う。Rを用いた統計処理の実行を学ぶ。
18	統計Ⅰ	統計の基礎を学ぶ。
19	統計Ⅱ	測定データの統計処理と結果の意味を理解する。
20	プロジェクト研究Ⅰ	主に動作解析・筋腱ダイナミクス・データサイエンスにグルーピングを行い、各グループで探求する研究テーマを設定する。
21	プロジェクト研究Ⅱ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
22	プロジェクト研究Ⅲ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
23	プロジェクト研究Ⅳ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
24	プロジェクト研究Ⅴ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
25	プロジェクト研究Ⅵ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
26	プロジェクト研究Ⅶ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
27	プロジェクト研究Ⅷ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。適宜、資料を提示する。
28	プロジェクト研究Ⅸ	各グループで測定、分析を進めるとともに進捗報告を行う。次年度の卒業研究へ向けたテーマ、目標、計画を設定する。
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的・専門的知識や技能の修得を行う。また、各自、ゼミ論文作成に必要な基礎的能力を身に付けるとともに社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すために、本科目は、3つの内容によって構成される。①体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした内容。②社会人に求められる必要最低限の教養や専門的知識を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容。③ゼミ論文作成に必要な基礎能力を身に付けるために様々な活動に参画する。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、自己の進路を探究し、学び続けることができる。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得している。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけている。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有研究分野に応じた分析方法の検討や先行研究の発表及びディスカッションを行います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習①当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌や先行研究を調査する（2時間）。事前学習②実技活動など実践においてはデモンストレーションを行う（1時間）。事前学習③調査・研究する課題の発表準備（3時間）。事後学習④基礎的知識獲得に必要な自主学習（2時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・態度：20%調査・研究の課題発表：50%体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題：30%

<教科書>

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要・研究や調査の仕方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・運動学の研究（1）	体育・スポーツに関する文献の講読
4	体育・運動学の研究（2）	体育・スポーツに関する実技活動
5	体育・運動学の研究（3）	体育・スポーツに関する活動まとめ
6	研究テーマ（仮）の設定（1）	各自が関心を持った研究テーマの発表（1）
7	研究テーマ（仮）の設定（2）	各自が関心を持った研究テーマの発表（2）
8	研究テーマに沿った文献研究（1）	先行研究の要約と発表（1）
9	研究テーマに沿った文献研究（2）	先行研究の要約と発表（2）
10	研究テーマに沿った文献研究（3）	先行研究の要約と発表（3）
11	研究テーマに沿った文献研究（4）	先行研究の要約と発表（4）
12	研究テーマに沿った文献研究（5）	先行研究の要約と発表（5）
13	研究テーマに沿った文献研究（6）	先行研究の要約と発表（6）
14	研究テーマの決定	個人の研究テーマ策定
15	中間まとめ	前期の総括と後期の課題設定
16	研究の方法（1）	予備調査に向けた方法論の検討（1）
17	研究の方法（2）	予備調査に向けた方法論の検討（2）
18	研究の方法（3）	予備調査に向けた方法論の検討（3）
19	研究の方法（4）	予備調査に向けた方法論の検討（4）

20	予備調査（1）	調査・データ収集の実施（1）
21	予備調査（2）	調査・データ収集の実施（2）
22	予備調査（3）	結果の発表及び改善点についての討議（1）
23	予備調査（4）	結果の発表及び改善点についての討議（2）
24	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
25	研究計画の立案（1）	研究計画書の作成と発表（1）
26	研究計画の立案（2）	研究計画書の作成と発表（2）
27	研究計画の立案（3）	研究計画書の作成と発表（3）
28	まとめ	総括及び次年度に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	河端 隆志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。4. ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（1時間程度） 復習：授業初めの発表に向けて振り返り課題を行う（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツに関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

<教科書>

必要に応じて

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・運動学の研究 (1)	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読 (1)
4	体育・運動学の研究 (2)	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読 (2)
5	体育・運動学の研究 (3)	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読 (3)
6	研究テーマ (仮) の設定 (1)	各自が関心を持った研究テーマの発表 (1)
7	研究テーマ (仮) の設定 (2)	各自が関心を持った研究テーマの発表 (2)
8	研究テーマに沿った文献研究 (1)	先行研究の要約と発表 (1)
9	研究テーマに沿った文献研究 (2)	先行研究の要約と発表 (2)
10	研究テーマに沿った文献研究 (3)	先行研究の要約と発表 (3)
11	研究テーマに沿った文献研究 (4)	先行研究の要約と発表 (4)
12	研究テーマに沿った文献研究 (5)	先行研究の要約と発表 (5)
13	研究テーマに沿った文献研究 (6)	先行研究の要約と発表 (6)
14	研究テーマの決定、中間まとめ	個人の研究テーマ策定、前期の総括と夏季休暇中の課題設定
15	研究の方法 (1)	予備調査に向けた方法論の検討 (1)
16	研究の方法 (2)	予備調査に向けた方法論の検討 (2)
17	研究の方法 (3)	予備調査に向けた方法論の検討 (3)
18	研究の方法 (4)	予備調査に向けた方法論の検討 (4)
19	予備調査 (1)	調査・データ収集の実施 (1)
20	予備調査 (2)	調査・データ収集の実施 (2)
21	予備調査 (3)	調査・データ収集の実施 (3)

22	予備調査 (4)	結果の発表及び改善点についての討議 (1)
23	予備調査 (5)	結果の発表及び改善点についての討議 (2)
24	予備調査 (6)	結果の発表及び改善点についての討議 (3)
25	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
26	研究計画の立案 (1)	研究計画書の作成と発表 (1)
27	研究計画の立案 (2)	研究計画書の作成と発表 (2)
28	まとめ	総括及び次年度に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	中安 翼			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。基本的には小学校の体育科における内容を重点的に行う。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識や一般教養を身につけ、自らの考えを論理的に発信できる。2. 教育の視点から自らの興味関心に基づいた課題を見出し、適切な資料収集や分析を経て、解決の手がかりを提示できる。3. グループでの協議や体験的活動を通し、他者と協働して目標を達成するための実践的なコミュニケーションスキルを活用できる。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、できるだけ実践を通して学べるようにする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション、教材研究、教育現場での実践

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習では、次回のテーマ（教育課題やキャリア形成等）に関連する資料の収集や文献の精読を行い、議論のための自分の考えをメモにまとめておく（1時間程度）。事後学習では、ゼミ内での協議内容や体験的活動での気づきを振り返り、自身の課題意識を整理したリフレクション・レポートを作成する（1.5時間程度）。学修習慣の形成を図るため、継続的に自身の研究テーマの深化に努めること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することが出来る。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）50%、実践的スキル50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	体験的活動・実践とその振り返り 1	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
3	体験的活動・実践とその振り返り 2	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
4	体験的活動・実践とその振り返り 3	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
5	体験的活動・実践とその振り返り 4	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
6	体験的活動・実践とその振り返り 5	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
7	体験的活動・実践とその振り返り 6	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
8	体験的活動・実践とその振り返り 7	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
9	体験的活動・実践とその振り返り 8	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
10	体験的活動・実践とその振り返り 9	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
11	体験的活動・実践とその振り返り 10	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
12	体験的活動・実践とその振り返り 11	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
13	体験的活動・実践とその振り返り 12	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
14	体験的活動・実践とその振り返り 13	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
15	体験的活動・実践とその振り返り 14	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
16	体験的活動・実践とその振り返り 15	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
17	体験的活動・実践とその振り返り 16	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
18	体験的活動・実践とその振り返り 17	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
19	体験的活動・実践とその振り返り 18	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
20	体験的活動・実践とその振り返り 19	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
21	体験的活動・実践とその振り返り 20	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
22	体験的活動・実践とその振り返り 21	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る

23	体験的活動・実践とその振り返り	2 2	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
24	体験的活動・実践とその振り返り	2 3	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
25	体験的活動・実践とその振り返り	2 4	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
26	体験的活動・実践とその振り返り	2 5	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
27	体験的活動・実践とその振り返り	2 6	体験的活動・実践を行い、その成果と課題を振り返る
28	まとめ		本年度の授業の成果と課題をまとめていく
29			
30			

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	高崎 展好			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、音楽表現および演奏制作の実践を通して、音楽表現の可能性や教育的有効性について探究する。合唱・合奏・創作活動などの演奏制作を基盤とした表現活動を学内外で実施し、専門性に裏付けられた創造性、音楽表現力、協働的なコミュニケーション能力の育成を目指す。また、演奏制作活動の企画・運営・発表までの一連のプロセスを経験することにより、表現活動を保育・教育現場に活用するための実践的指導力を養う。

<授業の到達目標>

・音楽表現活動および演奏制作に主体的に取り組むことができる。・合唱・合奏・創作活動を通して基礎的な音楽表現力を身につけることができる。・研究発表（コンサート）の企画・運営に協働的に参画できる。・表現活動の教育的意義について考察し説明できる。

<授業の方法>

学生主体の演習形式で授業を行う。演奏技能の向上、作品制作、グループ活動による研究発表準備などを段階的に進める。指導教員はファシリテーターとして助言・技術指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・合唱・合奏・創作活動などの実技演習・研究発表（コンサート）の企画・運営活動・グループ協働による作品制作・発表後の振り返り・相互評価

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回60分以上・配布楽譜の読譜練習・演奏技能向上のための個人練習・研究発表準備（資料作成・打合せ等）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー①「他者と協働し目標達成に取り組む力」および④「地域社会における課題解決に参画する力」の育成と関連する。演奏制作研究や研究発表（アウトリーチ活動）を通して、他者と協働しながら目標達成に取り組む力を養うとともに、地域社会における実践的な表現活動を通して課題解決に参画する力の育成を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への主体的参加 30%作品制作への取組み 30%研究発表（コンサート）成果 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的、内容、年間計画、評価方法についての理解
2	研究指導 1	研究テーマ検討・演奏制作の基礎理解
3	研究指導 2	研究発表企画の基礎（コンサート構想）
4	研究指導 3	音楽表現基礎技術（合唱・合奏基礎）
5	研究指導 4	作品制作技術指導①
6	研究指導 5	作品制作技術指導②
7	研究指導 6	作品制作技術指導③
8	研究指導 7	作品制作技術指導④
9	研究指導 8	研究発表準備①（演奏計画）
10	研究指導 9	研究発表準備②（役割分担・運営計画）
11	研究指導10	研究発表準備③（演奏完成度向上）
12	研究指導11	研究発表準備④（通し練習）
13	研究指導12	研究発表準備⑤（最終調整）
14	研究成果発表	前期研究発表（アウトリーチ・コンサート）
15	研究指導13	前期成果の振り返りと課題設定
16	研究指導14	研究発表企画応用（新規作品構想）
17	研究指導15	作品制作技術発展①
18	研究指導16	作品制作技術発展②
19	研究指導17	作品制作技術発展③
20	研究指導18	作品制作技術発展④
21	研究指導19	研究発表準備⑥（表現深化）

22	研究指導20	研究発表準備⑦（演奏構成改善）
23	研究指導21	研究発表準備⑧（教育的意義検討）
24	研究指導22	研究発表準備⑨（通し練習）
25	研究指導23	研究発表準備⑩（運営最終確認）
26	研究指導24	研究発表準備⑪（完成度向上）
27	研究成果発表	後期研究発表（アウトリーチ・コンサート）
28	まとめ	総括（成果整理・今後の課題）
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	宮原 舞			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

乳幼児の生活や遊びと音・音楽とのかかわりをテーマに、体験・調査・考察を通して学ぶ演習形式の授業である。サウンドスケープの視点から身近な環境の音に目を向けるとともに、わらべうた、季節の音楽や手遊び、楽器づくりなどを通して、子どもの表現活動や遊びの文化について理解を深める。また、文献の探し方・読み方・引用の方法の基礎を学び、4年次の卒業研究を見据えて、自らの関心に基づく研究テーマの焦点化にも取り組む。

<授業の到達目標>

1. 乳幼児の生活や遊びにおける音・音楽の意味や役割について理解する。2. わらべうた、季節の音楽や手遊び、楽器づくり等の体験と考察を通して、保育・教育における音楽表現のあり方を多面的に捉えることができる。3. 文献の活用や引用の方法を身につけ、自分の関心に基づいて課題を設定し、考えを口頭および文章で表現することができる。

<授業の方法>

わらべうたや手遊びの体験、グループでの調査・発表などを取り入れた演習形式で行う。学生の興味に基づき、自ら調査し、教え合い、実践し、その成果や課題を振り返るという学習の過程を重視する。体験・考察・発表・対話を通して学びを深めるため、受講者の主体的かつ積極的な参加を求める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（調査活動、グループディスカッション）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各回のテーマに応じて、関連する資料や文献に目を通し、疑問点や関心事項を整理しておく（1時間程度）。復習として、授業で扱った体験・議論・資料を振り返り、学んだことや自分の考えをノート等に整理する（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に対する取り組み・発表 50% レポート課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的、内容、進め方、評価方法について
2	私たちの生活と音・音楽①	サウンドスケープの考え方を学び、身近な環境にある音に目を向ける。
3	私たちの生活と音・音楽②	身近な音環境を観察・共有し、音の意味や感じ方について考察する。
4	季節の音楽と手遊び①	春から初夏の季節に親しまれる歌や手遊びを取り上げ、保育における活用や季節感との関わりについて考える。
5	乳幼児期の遊びにおける音・音楽①	わらべうたの特徴と意義について学ぶ。調べ学習を通して、文献の探し方、引用の仕方、参考文献の示し方の基礎を学ぶ。
6	乳幼児期の遊びにおける音・音楽②	わらべうたの考察（となえうた、絵かきうた）：ことばとリズム、唱えことばの面白さについて考える。
7	乳幼児期の遊びにおける音・音楽③	わらべうたの考察（じゃんけんうた、おはじきうた）：遊びのルールややりとりの中で育まれる音楽性について考える。
8	乳幼児期の遊びにおける音・音楽④	わらべうたの考察（おてだまうた、まりつきうた）：個の技能や反復の中で生まれるリズムや遊びの広がりについて考える。
9	乳幼児期の遊びにおける音・音楽⑤	わらべうたの考察（縄跳びうた・ゴム跳びうた、お手合わせうた）：協応や共同性の中で育まれる表現について考える。
10	乳幼児期の遊びにおける音・音楽⑥	わらべうたの考察（身体あそびうた、鬼あそびうた）：身体性や集団性の中で育まれる表現や遊びの意義について考える。
11	日本の音楽遊びを伝える①	日本の音楽遊びをテーマにしたワークショップを企画し、目的・内容・構成について整理する。
12	日本の音楽遊びを伝える②	わらべうたや手遊びの伝え方を工夫しながら模擬実践を行い、進行や役割分担について考える。
13	日本の音楽遊びを伝える③	日本の音楽遊びを紹介するワークショップを実施し、その成果と課題について振り返る。

14	季節の音楽と手遊び②	返る。 夏の季節に親しまれる歌や手遊びを取り上げ、子どもの生活や遊びとの関わりについて考える。
15	中間振り返り	前期の学習内容とワークショップ実践を振り返り、学びの成果と課題について考える。
16	季節の音楽と手遊び③	秋の季節に親しまれる歌や手遊びを取り上げ、季節に応じた表現活動のあり方について考える。
17	音や素材を生かした表現活動①	身近な素材を用いた楽器づくりを計画し、音の出る仕組みや素材の特性について考える。
18	音や素材を生かした表現活動②	素材や構造による音の違いを体験的に学びながら、楽器づくりに取り組む。
19	音や素材を生かした表現活動③	制作した楽器を用いて演奏や表現活動を試み、保育への展開可能性について考える。
20	乳幼児の音楽的行動の観察①	映像資料や事例をもとに、乳幼児の音楽的発達や音楽的行動について考える。
21	乳幼児の音楽的行動の観察②	子どもの身体表現や模倣、音への反応に着目し、観察の視点を深める。
22	音楽教育に関する研究動向の把握①	文献講読の基礎：音楽教育・表現活動に関する文献を読み、問いの立て方や研究の視点について考える。
23	季節の音楽と手遊び④	冬の季節に親しまれる歌や手遊びを取り上げ、生活や行事とのつながりについて考える。
24	音楽教育に関する研究動向の把握②	研究テーマの探索：関心のあるテーマについて文献を収集し、内容を整理しながら研究課題の候補について考える。
25	音楽教育に関する研究動向の把握③	文献比較と論点整理：複数の文献を比較し、各自の関心領域における論点や課題について考える。
26	研究計画①	研究の進め方の基本を学び、テーマ設定の視点について考える。
27	研究計画②	研究テーマを焦点化し、先行研究との関係を踏まえながら目的と方法について考える。
28	まとめ	1年間の学びを振り返り、4年次の卒業研究に向けた課題と展望について考える。
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	堀川 峻			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、体育・スポーツを対象とする歴史的・文化的な基礎的知識と専門的知識を修得するとともに、各自が関心のある体育・スポーツの現代的な課題を見つけるとともに、その問題意識から研究課題を立案し、研究を計画・実行する。そのため本科目は、人文科学的な手法を主に用いながら体育・スポーツについての課題発見・問題解決を行い、また体育・スポーツにかかわる社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求していく。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、PPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有適宜グループワークを行いながら、個人の研究課題に関するディスカッションを行っていく。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2時間）。また、調査・研究する課題の発表準備を行う（3時間）。事後学習としては、授業内容を改めて整理し、関心のある課題の発見を行う（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ディスカッションへの参加態度 20%、先行研究に関わるレポート 30%、体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%提出物や発表内容に関するフィードバックは毎時間の授業内で実施する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツにかかわる人文科学について	体育・スポーツにかかわる人文科学の現状を学ぶ
3	体育・スポーツにかかわる人文科学について	体育・スポーツにかかわる人文科学の現状を学ぶ
4	体育・スポーツにかかわる人文科学について	体育・スポーツにかかわる人文科学の現状を学ぶ
5	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（1）
6	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（2）
7	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（3）
8	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（4）
9	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（5）
10	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（6）
11	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め（1）
12	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め（2）
13	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め（3）

14	研究テーマの絞り込み	各自の発表内容に関するディスカッションと研究テーマ決め (4)
15	研究テーマの仮決定	仮テーマに基づいて長期休暇中の研究計画立案
16	研究方法の理解	研究を進めるにあたっての方法論の模索 (1)
17	研究方法の理解	研究を進めるにあたっての方法論の模索 (2)
18	研究方法の理解	研究を進めるにあたっての方法論の模索 (3)
19	研究方法の理解	研究を進めるにあたっての方法論の模索 (4)
20	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
21	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
22	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
23	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
24	文献資料の選定、予備調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、予備調査を進める。
25	研究計画の立案	研究計画書の作成 (1)
26	研究計画の立案	研究計画書の作成 (2)
27	研究計画の立案	研究計画書の作成 (3)
28	まとめ	ゼミナール I の総括と次年度の見通しについて
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	藤谷 かおる			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、体育・スポーツを対象とする経営的な基礎的知識と専門的知識を修得するとともに、各自が関心のある体育・スポーツの現代的な課題を見つけ、その問題意識から研究課題を立案し、研究を計画・実行する。そのため、本科目は、人文科学的・経営学的手法を用いて体育・スポーツの課題発見、問題解決を行い、また体育・スポーツにかかわる社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して、その課題解決の方法を自ら探求していく。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を形成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し、課題を発見する。そして、自らその課題解決の方法を探究できる力を身につける。

<授業の方法>

ゼミでの自らの課題発表を中心に展開する。必要に応じて、資料、PPTを作成し、課題発表を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有個人の研究課題に関してグループワークやディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、体育・スポーツの課題・問題について、先行研究を通して調べること（2時間）。また、調査・研究する課題の発表準備を行うこと（3時間）。事後学習としては、授業内容や指摘事項を整理し、関心のある課題発見を行うこと（1時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通じて課題の解決に参画することができる）及びディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と向き合い、感情を整理し、目標達成ができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

先行研究にかかわるレポート40%、ディスカッションにおける態度10%、タイー句・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表50%。提出物や発表内容に関するフィードバックは、毎時間の授業内で行う。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	個人の関心のあるキーワードについて	個人の関心のあるキーワードを発表し、関連する事項について情報共有をはかる。
3	先行研究の検討	体育科教育、スポーツ経営学に関する先行研究を検討する
4	先行研究の検討	体育科教育、スポーツ経営学に関する先行研究を検討する
5	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（1）
6	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（2）
7	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（3）
8	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（4）
9	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（5）
10	個人の研究的な関心に基づいて先行研究と向き合う	先行研究の要約と発表（6）
11	研究テーマの絞り込みと研究計画書の作成（1）	各自の発表内容に関する研究テーマ決めと研究計画書の作成（1）
12	研究テーマの絞り込みと研究計画書の作成（2）	各自の発表内容に関する研究テーマ決めと研究計画書の作成（2）
13	研究テーマの絞り込みと研究計画書の作成（3）	各自の発表内容に関する研究テーマ決めと研究計画書の作成（3）
14	研究テーマの仮決定	仮テーマに基づいて長期休暇中の研究計画の立案

15	研究テーマの仮決定	仮テーマに基づいて長期休暇中の研究計画の立案
16	研究方法の理解	先行研究より、研究方法の模索
17	研究方法の理解	先行研究より、研究方法の模索
18	研究方法の理解	先行研究より、研究方法の模索
19	文献資料の選定、研究調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、調査対象を検討し、調査を実施する。
20	文献資料の選定、研究調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、調査対象を検討し、調査を実施する。
21	文献資料の選定、研究調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、調査対象を検討し、調査を実施する。
22	文献資料の選定、研究調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、調査対象を検討し、調査を実施する。
23	文献資料の選定、研究調査の実施	文献研究の場合は、研究で使用する資料を選定する。調査研究の場合は、調査対象を検討し、調査を実施する。
24	卒業研究のまとめ方	文献研究、調査研究それぞれの考察、結果のまとめ方を学習する
25	卒業研究のまとめ方	文献研究、調査研究それぞれの考察、結果のまとめ方を学習する
26	卒業研究のまとめ方	文献研究、調査研究それぞれの考察、結果のまとめ方を学習する
27	まとめ	ゼミナールⅠのまとめをメンバーと共有する
28	まとめ	ゼミナールⅠのまとめをメンバーと共有する
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	小川 雄太			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。4. ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（1時間程度） 復習：授業初めの発表に向けて振り返り課題を行う（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツに関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	研究テーマの検討	各自の研究テーマについて検討する
4	研究テーマの検討	各自の研究テーマについて検討する
5	研究テーマの検討	各自の研究テーマについて検討する
6	研究テーマの設定	各自の関心に基づいて研究テーマを設定する
7	研究テーマの設定	各自の関心に基づいて研究テーマを設定する
8	研究テーマに基づく文献研究	研究テーマに基づく文献研究
9	研究テーマに基づく文献研究	研究テーマに基づく文献研究
10	研究テーマに基づく文献研究	研究テーマに基づく文献研究
11	研究テーマに基づく文献研究	研究テーマに基づく文献研究
12	研究テーマに基づく文献研究	研究テーマに基づく文献研究
13	研究テーマに基づく文献研究	研究テーマに基づく文献研究
14	研究テーマの決定、中間まとめ	個人の研究テーマ策定、前期の総括と夏季休暇中の課題設定
15	研究方法の検討	研究方法の検討
16	研究方法の検討	研究方法の検討
17	研究方法の検討	研究方法の検討
18	研究方法の検討	研究方法の検討
19	予備調査	予備調査
20	予備調査	予備調査
21	予備調査	予備調査
22	予備調査	予備調査
23	予備調査	予備調査

24	予備調査	予備調査
25	研究課題の設定	研究課題の設定
26	研究計画の立案	研究計画の立案
27	研究計画の立案	研究計画の立案
28	まとめ	まとめ
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	戸田 晃大			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。4. ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（1時間程度） 復習：授業初めの発表に向けて振り返り課題を行う（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツに関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

<教科書>

必要に応じて

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・運動学の研究 (1)	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読 (1)
4	体育・運動学の研究 (2)	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読 (2)
5	体育・運動学の研究 (3)	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読 (3)
6	研究テーマ (仮) の設定 (1)	各自が関心を持った研究テーマの発表 (1)
7	研究テーマ (仮) の設定 (2)	各自が関心を持った研究テーマの発表 (2)
8	研究テーマに沿った文献研究 (1)	先行研究の要約と発表 (1)
9	研究テーマに沿った文献研究 (2)	先行研究の要約と発表 (2)
10	研究テーマに沿った文献研究 (3)	先行研究の要約と発表 (3)
11	研究テーマに沿った文献研究 (4)	先行研究の要約と発表 (4)
12	研究テーマに沿った文献研究 (5)	先行研究の要約と発表 (5)
13	研究テーマに沿った文献研究 (6)	先行研究の要約と発表 (6)
14	研究テーマの決定、中間まとめ	個人の研究テーマ策定、前期の総括と夏季休暇中の課題設定
15	研究の方法 (1)	予備調査に向けた方法論の検討 (1)
16	研究の方法 (2)	予備調査に向けた方法論の検討 (2)
17	研究の方法 (3)	予備調査に向けた方法論の検討 (3)
18	研究の方法 (4)	予備調査に向けた方法論の検討 (4)
19	予備調査 (1)	調査・データ収集の実施 (1)
20	予備調査 (2)	調査・データ収集の実施 (2)
21	予備調査 (3)	調査・データ収集の実施 (3)

22	予備調査 (4)	結果の発表及び改善点についての討議 (1)
23	予備調査 (5)	結果の発表及び改善点についての討議 (2)
24	予備調査 (6)	結果の発表及び改善点についての討議 (3)
25	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
26	研究計画の立案 (1)	研究計画書の作成と発表 (1)
27	研究計画の立案 (2)	研究計画書の作成と発表 (2)
28	まとめ	総括及び次年度に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身に付け、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (1)	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (2)	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (3)	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (4)	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (5)	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (6)	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (7)	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (8)	栄養調査の実践
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (9)	栄養調査の実践発表
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (10)	献立作成の基本
12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価	目的別の献立作成

	(11)	
13	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価	状況別の献立作成
	(12)	
14	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(1)	文献の探し方・読み方
15	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読 (1)
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読 (2)
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読 (3)
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読 (4)
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ (1)
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ (2)
21	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査 (1)	研究計画の作成 (1)
22	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査 (2)	研究計画の作成 (2)
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査 (3)	研究計画の発表
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査 (4)	研究計画の考察
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査 (5)	実験・測定・調査の実施
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査 (6)	実験・測定・調査のデータ分析
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査 (7)	実験・測定・調査のデータ発表
28	まとめ	総括と課題発表
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性・能動性）と大学生に求められる基礎学力を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも非認知能力と認知能力（その中でも基礎学力）は非常に重要である。競技スポーツ科学科では、世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルが計画できるようになる。

<授業の方法>

トップガン、インスパイア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有基本的には、実技とグループワークを行う。また、プレゼンテーションも実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，課題レポート（課題，発表）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定
3	体力測定②	パワー&持久力測定
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
6	筋力測定①	懸垂測定と 1 RM測定練習
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス 1 RM測定
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
14	目標に向けた自主的なトレーニング②	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテスト
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と 1 RM測定練習

22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス 1RM測定
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	自身で目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	1年のまとめとこれからについて
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。4. ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（1時間程度） 復習：授業初めの発表に向けて振り返り課題を行う（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツに関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

<教科書>

必要に応じて

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・運動学の研究 (1)	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読 (1)
4	体育・運動学の研究 (2)	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読 (2)
5	体育・運動学の研究 (3)	体育・スポーツ心理学に関する文献の講読 (3)
6	研究テーマ (仮) の設定 (1)	各自が関心を持った研究テーマの発表 (1)
7	研究テーマ (仮) の設定 (2)	各自が関心を持った研究テーマの発表 (2)
8	研究テーマに沿った文献研究 (1)	先行研究の要約と発表 (1)
9	研究テーマに沿った文献研究 (2)	先行研究の要約と発表 (2)
10	研究テーマに沿った文献研究 (3)	先行研究の要約と発表 (3)
11	研究テーマに沿った文献研究 (4)	先行研究の要約と発表 (4)
12	研究テーマに沿った文献研究 (5)	先行研究の要約と発表 (5)
13	研究テーマに沿った文献研究 (6)	先行研究の要約と発表 (6)
14	研究テーマの決定、中間まとめ	個人の研究テーマ策定、前期の総括と夏季休暇中の課題設定
15	研究の方法 (1)	予備調査に向けた方法論の検討 (1)
16	研究の方法 (2)	予備調査に向けた方法論の検討 (2)
17	研究の方法 (3)	予備調査に向けた方法論の検討 (3)
18	研究の方法 (4)	予備調査に向けた方法論の検討 (4)
19	予備調査 (1)	調査・データ収集の実施 (1)
20	予備調査 (2)	調査・データ収集の実施 (2)
21	予備調査 (3)	調査・データ収集の実施 (3)

22	予備調査 (4)	結果の発表及び改善点についての討議 (1)
23	予備調査 (5)	結果の発表及び改善点についての討議 (2)
24	予備調査 (6)	結果の発表及び改善点についての討議 (3)
25	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
26	研究計画の立案 (1)	研究計画書の作成と発表 (1)
27	研究計画の立案 (2)	研究計画書の作成と発表 (2)
28	まとめ	総括及び次年度に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的・専門的知識や技能の修得を行う。また、各自、ゼミ論文作成に必要な基礎的能力を身に付けるとともに社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すために、本科目は、3つの内容によって構成される。①体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした内容。②社会人に求められる必要最低限の教養や専門的知識を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容。③ゼミ論文作成に必要な基礎能力を身に付けるために様々な活動に参画する。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、自己の進路を探究し、学び続けることができるようになる。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を身につけている。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけている。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有研究分野に応じた分析方法の検討や先行研究の発表及びディスカッションを行います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習】当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌や先行研究を調査する。（2時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。【事後学習】基礎的知識獲得に必要な自主学習（2時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・態度：20% 調査・研究の課題発表：50% 体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題：30%

<教科書>

必要に応じて用意する。

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要・研究や調査の仕方について
2	文献の収集方法	図書館とインターネットを利用した文献収集方法の知る
3	体育・スポーツ科学の研究（1）	体育・スポーツ科学に関する文献の講読（1）
4	体育・スポーツ科学の研究（2）	体育・スポーツ科学に関する実技活動
5	体育・スポーツ科学の研究（3）	体育・スポーツに関する活動まとめ
6	研究テーマ（仮）の設定（1）	各自が関心を持った研究テーマの発表（1）
7	研究テーマ（仮）の設定（2）	各自が関心を持った研究テーマの発表（2）
8	研究テーマに沿った文献研究（1）	先行研究の要約と発表（1）
9	研究テーマに沿った文献研究（2）	先行研究の要約と発表（2）
10	研究テーマに沿った文献研究（3）	先行研究の要約と発表（3）
11	研究テーマに沿った文献研究（4）	先行研究の要約と発表（4）
12	研究テーマに沿った文献研究（5）	先行研究の要約と発表（5）
13	研究テーマの決定	個人の研究テーマ策定
14	中間まとめ	前期の総括と夏季休暇中の課題設定
15	研究の方法（1）	予備調査に向けた方法論の検討（1）
16	研究の方法（2）	予備調査に向けた方法論の検討（2）
17	研究の方法（3）	予備調査に向けた方法論の検討（3）
18	研究の方法（4）	予備調査に向けた方法論の検討（4）
19	予備調査（1）	調査・データ収集の実施（1）

20	予備調査 (2)	調査・データ収集の実施 (2)
21	予備調査 (3)	調査・データ収集の実施 (3)
22	予備調査 (4)	結果の発表及び改善点についての討議 (1)
23	予備調査 (5)	結果の発表及び改善点についての討議 (2)
24	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する
25	研究計画の立案 (1)	研究計画書の作成と発表 (1)
26	研究計画の立案 (2)	研究計画書の作成と発表 (2)
27	研究計画の立案 (3)	研究計画書の作成と発表 (3)
28	まとめ	総括及び次年度に向けた課題整理
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	内田 仁志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習、発表	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本講座は学生の方が将来、社会に出てでも通用する実践的な能力を育てることを目標にします。具体的には将来教員になっても本講座で学ぶ国語科の「話す・聞く」と「書くこと」の領域については自信をもって授業ができるような能力を育てることを最終的な目的とします。そのためにプレゼンテーションを取り上げ、説得力のある話し方、資料の選択の仕方、わかりやすい文章構造などを演習を通して実際に学んでいきます。さらに教育現場とも連携を図り、適宜実際の教育現場や学会等にも触れたいと思います。また卒論・ゼミ論の指導、公開研への参加など4年生を見据えた指導も充実します。

＜授業の到達目標＞

①実際の学校現場を理解し、教員という仕事を理解することができる②教育現場でのプレゼンテーションの重要性を理解し、研鑽する意欲を持つことができる③効果的なプレゼンテーションの仕方を理解し、実践することができる

＜授業の方法＞

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとります。ゼミという形式の特性を生かし、話し合いの機会を多くします。また適宜、実際の教育現場との連携を図ります。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

模擬授業等を通して・自分で考える→自主的な学習態度　・対話活動で池を練り上げる→協調性、自己表現力　・自分の意見をまとめる→深い学び　この学習サイクルを確立させるようにします。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分のプレゼンテーション発表の前には資料の準備、発表原稿の整理などをする必要があります。発表当日は準備の時間を取らず、発表→話し合いの形式となるので準備はきちんとしておきましょう。（準備につきましては個別に対応します。またオンラインでの指導もあります）また話し合い後に後日、修正したプレゼンテーションを行うこともあります。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

本授業の単位を取得するためには、以下の要件を満たす必要がある。授業への参加（全15回の授業のうち、3分の2以上の出席が必須）課題の提出（以下の課題を期限内に提出すること）教材分析レポート（読解指導・記述指導・議論指導のいずれか）指導案作成（模擬授業のための指導案を作成し提出）授業リフレクション（各回の学びを振り返り記述）模擬授業の実施（グループまたは個人で指導案を基に模擬授業を行う）期末レポートの提出（授業で学んだ指導法を踏まえ、国語科指導に関する考察を2000字以上で記述）上記の要件をすべて満たした場合

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、小課題（ミニテスト、ミニレポート等）20%、大課題（発表等）50%

＜教科書＞

内田仁志（2024年8月）　国語教師のための「反論の技術」入門　明治図書

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの目的や進め方を確認する。評価基準や発表・課題のルールを説明する。今後の学びの目標を設定する。
2	「話す・聞く」スキルの基本	説得力のある話し方や声の出し方を学ぶ。聞き手を意識した話の組み立てを考える。実践を通して話し方の基礎を身につける。
3	教育現場で求められるプレゼンテーションとは	授業におけるプレゼンの役割を理解する。わかりやすく伝えるための工夫を考える。実際の授業動画などを見て分析する。
4	論理的な話し方①：主張と根拠を明確にする	自分の意見を論理的に伝える方法を学ぶ。主張と根拠の関係を整理する練習をする。簡単なスピーチで実践してみる。
5	論理的な話し方②：相手を納得させる展開の工夫	相手の立場を考えた話の組み立てを学ぶ。具体例やデータを使った説得方法を考える。実践的な発表演習を行う。
6	資料の選び方①：視覚的資料の効果的な活用	スライドや板書の役割と活用法を学ぶ。わかりやすい視覚資料のポイントを整理する。自分で資料を作成してみる。
7	資料の選び方②：データや事例の活用	教育現場で使えるデータの選び方を学ぶ。事例を効果的に使う方法を考える。自分のプレゼンに適した資料を作成する。
8	実践演習①：短時間プレゼン（3分間スピーチ）	3分間で要点をまとめる練習をする。聞き手に伝わる話し方を意識する。フィードバックを受けて改善する。

9	実践演習②：論理的な話し方を活かした5分間プレゼン	5分間で論理的に話す演習をする。資料を効果的に使うことを意識する。発表後に改善点を振り返る。
10	教育現場との連携①：実践報告の読み方	教育論文や実践報告の構成を学ぶ。重要なポイントを整理しながら読む。自分の考えをまとめ、意見交換を行う
11	教育現場との連携②：教育現場の課題を考える	教育現場の課題をテーマにグループ討議。フィールドワークの目的や進め方を考える。事前に調査する内容を整理する。
12	「書く」スキルの基本	教育における論述の重要性を理解する。正確で伝わりやすい文章を書く練習をする。自分の考えを論理的にまとめる方法を学ぶ。
13	論理的な文章構成①：序論・本論・結論の組み立て方	文章の基本的な構成を学ぶ。論理的な流れを意識して書く練習をする。短い文章で構成を意識した課題に取り組む。
14	論理的な文章構成②：わかりやすい文章を書くための工夫	文のつながりや表現の工夫を学ぶ。読み手に伝わりやすい文章を意識する。実際に文章を書いてフィードバックを受ける。
15	中間プレゼンテーション：前期の学びのまとめ	前期の学びを整理し、プレゼンで発表する。他者の発表を聞き、良い点・改善点を学ぶ。後期の課題と目標を設定する。
16	教育現場との連携③：授業研究の視点を考える	授業研究の目的や視点を学ぶ。実際の授業映像を見て分析する。自分の指導に活かせる点を整理する。
17	教育現場との連携④：授業記録を基にした分析演習	授業記録の活用方法を学ぶ。教師の指導や児童の反応を分析する。より良い指導方法を考察する。
18	実践演習③：模擬授業の準備	指導案の作成方法を学ぶ。発問の工夫や授業の流れを考える。実際の授業に近い形で準備を進める。
19	実践演習④：模擬授業の実施①（グループ発表）	グループで模擬授業を行う。役割分担をして授業を進める。互いにフィードバックを行い改善する。
20	実践演習⑤：模擬授業の実施②（個人発表）	個人で模擬授業を行う。教材・発問・授業の進め方を工夫する。発表後に振り返りと改善点を整理する。
21	教育現場との連携⑤：教員の実践研究と学会発表の流れ	教員の研究の進め方を学ぶ。学会発表の構成や準備を理解する。研究発表を想定した演習を行う。
22	学会発表の視点と方法	学会発表の要点を整理する。発表の構成や伝え方を学ぶ。研究内容を簡潔にまとめる練習をする。
23	教職実践演習（集中講義参加）	教職実践演習に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
24	公開研参加（集中講義参加）	公開研に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
25	公開研参加（集中講義参加）	公開研に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
26	卒論発表会参加	4年生の卒論発表を聴講する。研究テーマの設定方法を学ぶ。自分の研究課題を考える。
27	卒論発表会参加	4年生の卒論発表を聴講する。研究テーマの設定方法を学ぶ。自分の研究課題を考える。
28	まとめ・振り返り	1年間の学びを整理し、振り返る。今後の課題と目標を設定する。4年次に向けた計画を立てる。
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	鈺 悠介			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義, 演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

研究は手続きが重要である。本ゼミでは以下の3つの柱から学習を進める。(1)論文とは何か:論文が満たすべき要件、論文の機能、論文の形式などを学ぶ。(2)どんな論文が書かれてきたか:これまでの卒業論文・論文・紀要などの形で書かれたものを検討する。(3)自らの問題関心は何か:自分の問題関心について説明する。

<授業の到達目標>

(1)論文が満たすべき要件について説明することができる。(2)(1)を踏まえ、これまでの卒業論文等の論文を評価することができる。(3)先行研究で示された事例や概念等を踏まえながら、次年度の卒業論文で扱うテーマについて説明することができる。

<授業の方法>

いくつかの論文を取り上げディスカッションを行う。取り上げる論文の領域や分量、ゼミの進捗等は受講者のレディネスによって柔軟に変更を加える。課題はClassroom等で配信する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有。研究や論文に関するディスカッション、問題関心に沿った先行研究の収集および報告、模擬的なインタビュー調査の実施など。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習:前回のゼミの学習内容について振り返ること(30分)事後学習:自らの問題関心が何であるか毎回の授業の後に振り返ること。その際に、関連すると思われる文献を収集してレビューすること(90分)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することが出来る。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

最終課題(ゼミ論文のリサーチステートメント)30%, 各回のゼミのリフレクション60%, 参加度10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	グラウンドルール作りとゼミの見通し	話し合いのルールを決める。ゼミの目標を共有する。
2	文献を探す	論文や書籍の検索方法, 卒論やゼミ論, 学術論文に触れる
3	良い論文の条件(1)	論文が満たすべき条件を学ぶ
4	良い論文の条件(2)	論文を評価してみる
5	論文を読む方法(1)	論文の構造を学ぶ(1)
6	論文を読む方法(2)	論文の構造を学ぶ(2)
7	論文を読む方法(3)	論文の構造を学ぶ(3)
8	本を読む方法(1)	論文以外の書籍の読解の基礎を学ぶ
9	本を読む方法(2)	論文以外の書籍の読解の基礎を学ぶ
10	アカデミックライティング(1)	論文の書き方の基礎を学ぶ(1)
11	アカデミックライティング(2)	論文の書き方の基礎を学ぶ(2)
12	問題の所在を特定する(1)	問題意識を話し合う, 派生させる, 絞り込む。
13	問題の所在を特定する(2)	先行研究を探し, 分類する。
14	リサーチクエスチョン	研究上の問いを設定する
15	前期の振り返り	ゼミの振り返り, および後期のスケジュールと目標を共有する。
16	研究方法について(1)	いくつかの研究アプローチと導くことのできる結論の方向性を学ぶ
17	研究方法について(2)	研究倫理について学ぶ
18	研究結果について(1)	それぞれの研究アプローチにおいて記述されうる内容を学ぶ(1)
19	研究結果について(2)	研究の問いと研究結果の対応関係を考える
20	考察について(1)	結論と考察を区別する
21	考察について(2)	考察に加える記述の種類を学ぶ
22	結論(まとめ)について(1)	結論として記述されうるものの種類について学ぶ
23	結論(まとめ)について(2)	結論からさかのぼって考える
24	研究のサイズを考える(1)	実現可能な卒業論文・ゼミ論文の規模感を話し合う

25	研究のサイズを考える(2)	実現可能な卒業論文・ゼミ論文の規模感を話し合う
26	リサーチステートメントを作る(1)	自分の研究を説明する短かい文章を作る
27	リサーチステートメントを作る(2)	自分の研究を説明する短かい文章を作る
28	リサーチステートメントを作る(3)	自分の研究を説明する短かい文章を作る
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、トレーニングおよびコーチングに関する専門文献の抄読を通して、競技パフォーマンスの構造的な理解を深めるとともに、その内容を整理・発表する力を養う。また、バイオメカニクスの分析手法を用いて動作の測定・分析を行い、競技動作を客観的に評価するための基礎的技術を習得する。さらに、得られたデータを科学的に読み解き、競技力向上や指導に活用するための思考力および分析力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

スポーツパフォーマンス向上に関する科学的知見を理解するとともに、文献の抄読および発表を通してその内容を適切に説明することができる。さらに、バイオメカニクスの手法を用いて競技動作を測定・分析し、得られたデータを解釈した上で、自身の競技パフォーマンス向上に向けた課題設定および改善方を提案することができる。

<授業の方法>

本ゼミナールは、文献抄読および発表、ディスカッションを中心とした演習形式で実施する。各回において担当者を設定し、トレーニングおよびコーチングに関する文献の要約と発表を行い、全体で議論を深める。また、バイオメカニクスの分析手法を用いた動作の測定・分析を実施し、取得したデータをもとに競技パフォーマンスの評価および改善策の検討を行う。必要に応じてICT機器や分析ツールを活用し、客観的データに基づく考察を行う。これらの活動を通して、主体的に課題を設定し、分析・考察・発表までの一連のプロセスを実践する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有本ゼミナールでは、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。具体的には、文献抄読に基づく発表およびディスカッションを通して、学生同士の相互作用を促進し、主体的な学びを形成する。また、バイオメカニクスの分析においては、グループでの測定・分析活動を行い、得られたデータに基づく考察や意見交換を実施することで、協働的な学習（ピア・ラーニング）を促す。さらに、自身の競技パフォーマンスに関する課題設定および改善策の検討を行い、その成果を発表・共有することで、課題解決型学習（PBL：Problem-Ba

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本ゼミナールでは、各回あたり予習・復習として合計120分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、担当文献の精読および要約資料の作成、発表準備を行うとともに、関連する基礎知識や先行研究について事前に調査すること（約60～90分）。復習としては、授業内でのディスカッションやフィードバックを踏まえ、自身の発表内容や分析結果を見直し、課題の整理および考察の深化を図る。また、必要に応じてデータの再分析や追加調査を行うこと（約30～60分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・受講態度・学習意欲：30％・課題研究：70％受講態度・学習意欲については、授業への主体的な参加状況、発表・ディスカッションへの関与、準備学習の取り組み等を総合的に評価する。課題研究については、文献抄読発表および課題研究発表の内容、論理性、分析の妥当性、発表の明確さ等を評価する。フィードバックについては、文献抄読発表および課題研究発表に対して、授業内での口頭指導や講評を通して適時行う。また、提出物に対してはコメント等により改善点を提示し、次の学習へとつなげる。なお、最終課題として、ゼミナールⅡにおけるゼミ論文を見据えた研究計画書を作成し、提出する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの指導計画、ゼミの概要、評価方法
2	研究の手順	研究の実施手順の説明
3	文献研究①	コーチング・トレーニング領域の主なジャーナルの紹介
4	文献研究②	文献の探し方、読み方
5	文献研究③	論文抄読（コーチング）
6	文献研究④	論文抄読（トレーニング）
7	討論	コーチングに関する討論
8	文献研究⑤	論文抄読（トレーニング）
9	文献研究⑥	論文抄読（トレーニング）
10	討論	トレーニングに関する討論

11	文献研究⑦	論文抄読（専門競技）
12	文献研究⑧	論文抄読（専門競技）
13	討論	専門競技に関する討論
14	文献研究発表①	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
15	文献研究発表②	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
16	測定実習①	走種目の動作測定
17	データ分析①	走種目の動作分析
18	討論①	測定結果に基づく討論
19	測定実習②	跳種目の動作測定
20	データ分析②	跳種目の動作分析
21	討論②	測定結果に基づく討論
22	測定実習③	投種目の動作測定
23	データ分析③	投種目の動作分析
24	討論③	測定結果に基づく討論
25	課題研究	研究計画の作成(1)
26	課題研究	研究計画の作成(2)
27	発表方法	プレゼンテーションの作成方法
28	課題研究	研究計画の作成(3)
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	田中 耕作			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、運動生理学やトレーニングにおける文献の抄読会を中心に授業を展開し、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶ。

<授業の到達目標>

本ゼミナールでは、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶこと、そして実際に科学的なデータを取り扱い、自らの競技パフォーマンス向上のために科学的な視点を持つことを目指す。

<授業の方法>

文献研究、測定実習、データ分析、測定の結果を用いた討論を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり自身が行っている競技のトレーニングやパフォーマンス構成についてグループでディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自身の興味ある分野について、授業内で紹介する方法で文献研究を行なってください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 30%、課題研究 70%。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの指導計画、ゼミの概要、評価方法
2	研究の手順	研究の実施手順の説明
3	文献研究①	トレーニング科学領域の主なジャーナルの紹介
4	文献研究②	文献の探し方、読み方
5	文献研究③	論文抄読
6	文献研究④	論文抄読
7	討論	トレーニング科学に関する討論
8	文献研究⑤	論文抄読（トレーニング）
9	文献研究⑥	論文抄読（トレーニング）
10	討論	トレーニングに関する討論
11	文献研究⑦	論文抄読（専門競技）
12	文献研究⑧	論文抄読（専門競技）
13	討論	専門競技に関する討論
14	文献研究発表①	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
15	文献研究発表②	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
16	測定実習①	最大酸素摂取量の測定
17	データ分析①	ランニングエコノミーおよび乳酸性作業閾値の測定
18	討論①	測定結果に基づく討論
19	測定実習②	跳躍能力の測定
20	データ分析②	跳躍能力における測定結果の分析
21	討論②	測定結果に基づく討論
22	測定実習③	無酸素性作業能力の測定
23	データ分析③	無酸素性作業能力における測定結果の分析
24	討論③	測定結果に基づく討論
25	課題研究	研究計画の作成(1)
26	課題研究	研究計画の作成(2)
27	発表方法	プレゼンテーションの作成方法

28	課題研究	研究計画の作成(3)
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールは卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。

<授業の到達目標>

本ゼミナールは3年次段階で実施することから、日本語論文を読み、理解できること、その内容をプレゼンテーションできること、および、その問題点を明らかにしたり、その内容からの発展系としての研究をイメージできることを目標とする。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（プレゼンテーション・ディスカッション）先行研究をまとめてプレゼンテーションを行い、その内容についてディスカッションする

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、プレゼンテーションの準備等

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 50%、課題・レポート 30%、プレゼンテーション能力 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体力学とは	受講上の注意、評価方法、講義の概要を説明した上で、これから研究を進める体力学について講義する。
2	文献研究（1）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
3	文献研究（2）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
4	文献研究（3）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
5	文献研究（4）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
6	文献研究（5）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
7	文献研究（6）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
8	文献研究（7）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
9	文献研究（8）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
10	文献研究（9）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
11	文献研究（10）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
12	文献研究（11）	興味のある分野の日本語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
13	測定・分析実習（1）	最大酸素摂取量の測定方法を学ぶ。

14	測定・分析実習 (2)	無酸素性作業閾値の測定方法を学ぶ。
15	測定・分析実習 (3)	乳酸の測定・分析方法を学ぶ。
16	測定・分析実習 (4)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
17	測定・分析実習 (5)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
18	測定・分析実習 (6)	各種ジャンプ能力の測定・分析方法を学ぶ。
19	測定・分析実習 (7)	動作分析の方法を学ぶ。
20	課題研究の進捗状況報告 (1)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
21	課題研究の進捗状況報告 (2)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
22	課題研究の進捗状況報告 (3)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
23	課題研究の進捗状況報告 (4)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
24	課題研究の進捗状況報告 (5)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
25	課題研究の進捗状況報告 (6)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
26	課題研究の進捗状況報告 (7)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
27	課題研究の進捗状況報告 (8)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
28	課題研究のまとめ (1)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
29	課題研究のまとめ (2)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
30	課題研究のまとめ (3)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ（基礎）				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得することができる。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得することができる。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養うことができる。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

パワーポイントなどの資料を作成しての発表テーマを設定しての話し合いの進行など

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。 前期のまとめをする。
15	研究指導 1 - ①	研究テーマ、課題を考える。
16	研究指導 1 - ②	研究テーマ、課題をしぼる。
17	研究指導 1 - ③	研究テーマ、課題を決める。
18	研究指導 2 - ①	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
19	研究指導 2 - ②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2

20	研究指導 2 - ③	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
21	研究指導 2 - ④	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
22	研究指導 2 - ⑤	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
23	研究指導 2 - ⑥	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
24	研究指導 2 - ⑦	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
25	研究指導 2 - ⑧	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
26	研究指導 2 - ⑨	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
27	研究指導 2 - ⑩	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
28	研究のまとめ	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ（基礎）				担当者名	高橋 章二			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点(特別支援教育・インクルーシブ教育)から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得することができる。さらに、教育の視点(特別支援教育・インクルーシブ教育)から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得することができる。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身に付けることができる。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎時間テーマに沿ったディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミレポート・最終レポート、到達度評価で（知識・理解）70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	前期のまとめ	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
16	研究指導①ー②	研究テーマ、課題をしぼる。
17	研究指導①ー③	研究テーマ、課題を決める
18	研究指導①ー④	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3

22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究のまとめ	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ（基礎）				担当者名	大久保 諒			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識や、教育の視点から職業人として必要とされる一般教養・スキルを身に付け、実社会の具体的な場面で活用できる。2. 自ら設定した研究テーマに沿って適切な文献検索・資料収集を行い、その内容を論理的に整理・分析してレポート（ゼミ論文）として執筆できる。3. 研究成果や自分の意見について、ICT機器やデジタルツールを効果的に活用しながら、他者に対して論理的かつ分かりやすく発表・説明できる。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

高野良子・武内清編著 『教育の基礎と展開 豊かな教育・保育のつながりをめざして』〔第3版〕 学文社
2024年3月25日

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
15	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
16	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
17	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
18	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション

19	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
20	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
21	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
22	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
23	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
24	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
25	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
26	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
27	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
28	研究のまとめ	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ（基礎）				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識や、教育の視点から職業人として必要とされる一般教養・スキルを身に付け、実社会の具体的な場面で活用できる。2. 自ら設定した研究テーマに沿って適切な文献検索・資料収集を行い、その内容を論理的に整理・分析してレポート（ゼミ論文）として執筆できる。3. 研究成果や自分の意見について、ICT機器やデジタルツールを効果的に活用しながら、他者に対して論理的かつ分かりやすく発表・説明できる。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

高野良子・武内清編著 『教育の基礎と展開 豊かな教育・保育のつながりをめざして』〔第3版〕 学文社
2024年3月25日

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
15	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
16	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
17	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
18	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション

19	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
20	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
21	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
22	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
23	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
24	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
25	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
26	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
27	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
28	研究のまとめ	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ（基礎）				担当者名	前田 一誠			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識や、教育の視点から職業人として必要とされる一般教養・スキルを身に付け、実社会の具体的な場面で活用できる。2. 自ら設定した研究テーマに沿って適切な文献検索・資料収集を行い、その内容を論理的に整理・分析してレポート（ゼミ論文）として執筆できる。3. 研究成果や自分の意見について、ICT機器やデジタルツールを効果的に活用しながら、他者に対して論理的かつ分かりやすく発表・説明できる。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

高野良子・武内清編著 『教育の基礎と展開 豊かな教育・保育のつながりをめざして』〔第3版〕 学文社
2024年3月25日

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
15	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
16	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
17	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
18	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション

19	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
20	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
21	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
22	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
23	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
24	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
25	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
26	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
27	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
28	研究のまとめ	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識や、教育の視点から職業人として必要とされる一般教養・スキルを身に付け、実社会の具体的な場面で活用できる。2. 自ら設定した研究テーマに沿って適切な文献検索・資料収集を行い、その内容を論理的に整理・分析してレポート（ゼミ論文）として執筆できる。3. 研究成果や自分の意見について、ICT機器やデジタルツールを効果的に活用しながら、他者に対して論理的かつ分かりやすく発表・説明できる。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

高野良子・武内清編著 『教育の基礎と展開 豊かな教育・保育のつながりをめざして』〔第3版〕 学文社
2024年3月25日

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
15	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
16	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
17	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
18	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション

19	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
20	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
21	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
22	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
23	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
24	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
25	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
26	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
27	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
28	研究のまとめ	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ（基礎）				担当者名	藤井 健太郎			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 職業人として求められる一般教養ならびにスキルを習得することができる。 2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身に付けることができる。 3. 各自の課題を基にした探究活動を通して学校教育における実践計画を立案することができる。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）4、5人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することが出来る。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3

22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究のまとめ①	研究成果の発表と総括
28	研究のまとめ②	研究成果の発表と総括
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目は保育内容健康分野についての探究を行う。社会人として求められる一般教養、知識、技能や態度を育成する。東岡山IPU子ども園との連携を通して、子どもの理解、保育実感を扱う。

<授業の到達目標>

1. 運動・健康・安全の視点から研究資料を収集し、要約やプレゼンテーションができる。2. 研究テーマを決めその計画を立案し、運動・安全をはじめとした領域「健康」について考察できる。

<授業の方法>

身体活動や運動能力といった測定などの体験をし、その前後に講義をする。測定したデータの発表とテーマにそったディスカッションを実施し、理解度や授業態度の確認を行う。教育現場での安全について学ぶ。また教育現場での安全教育、防災教育、応急処置などについて調査・検討を行う。学生には自ら学ぶ主体性が必要である。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

東岡山IPU子ども園との連携、ボランティア、各種遊びのワーク、運動

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマにそって資料を集めて整理する。授業内で指示する課題についてレポートを作成する（予習 1 時間）。授業内のディスカッションの要点をまとめる（復習 1 時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー 1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内での発表 50%、レポート 50%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	身体計測①	様々な身体組成の測定方法について学ぶ。
3	身体計測②	身体組成の測定をし評価する。
4	体力測定①	身体組成に関連する体力を挙げ測定する。
5	身体組成と体力の関連①	平均値等を利用して身体組成データを分析する。
6	身体組成と体力の関連②	相関関係等を利用して身体組成と体力との関連を分析する。
7	防災教育1	大学の防災教育を考える。
8	防災教育2	実習先などの防災教育を考える。
9	安全教育	生活安全・交通安全・災害安全
10	応急処置	幼児教育現場での応急処置
11	心肺蘇生法	幼児教育現場での心肺蘇生法
12	身体活動量の評価①	身体活動量の測定方法を知り、安静時と運動時を実測する。
13	身体活動量の評価②	安静時及び運動時の身体活動量について考察する。
14	身体活動量の評価③	身体活動強度とエネルギー代謝との関連を理解する。
15	身体活動量の評価④	食事、身体組成、体力、身体活動との関連について理解する。
16	運動遊び	運動遊びの実態調査
17	幼児教育現場の健康	現代の健康課題について考える
18	保護者と健康	幼児教育現場での保護者と子どもを取り巻く健康について考える
19	特別な配慮	健康における特別な配慮が必要な場合について考える。
20	睡眠と健康	乳幼児の睡眠について考える
21	文献研究①	文献の探し方と読み方について学ぶ。
22	文献研究②	論文抄読をする。
23	文献研究④	論文抄読をする。
24	文献研究⑤	論文抄読をする。

25	文献研究⑥	論文抄読をする。
26	研究計画①	研究計画を作成について学ぶ。
27	研究計画②	研究計画を作成する。
28	研究計画③	研究計画を発表する。
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、リサーチ・リテラシー（研究を遂行するための必要な基礎的能力）として、課題発見力・情報収集力・情報整理力・読解力データ分析力・文章力・プレゼンテーション能力の育成をめざす。さらに教育の観点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識・技能の発達と批判的思考態度の向上を目指す。

<授業の到達目標>

ディプロマポリシーDP1；他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる、DP2；保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる、DP3；教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる、に関連して次の2点を到達目標とする。1. 社会人に求められる汎用スキルとしてのリサーチ・リテラシーを身につけることができる。2. 英語教育において、自身の興味関心がある分野の専門的知識を身につけることができる。

<授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示）(2) グループワーク(3) ディスカッション(4) 省察活動

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめる。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。予習（発表準備等）を1時間復習（内容の振り返り）を1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することが出来る。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度、思考判断表現）30%、課題（知識・理解、思考判断表現）70%

<教科書>

<参考書>

竹内理・水本篤ほか（2023） 外国語教育研究ハンドブック（増補版）—研究手法のより良い理解のために— 松柏社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する
2	研究法講話	卒業論文作成の手引きを確認する
3	研究の基礎（1）	論文の構成要素を知り、意識しながらAbstractを読む
4	研究の基礎（2）	剽窃を防ぐため、引用の種類と方法を知る
5	卒業研究手法（1）実践への理解・省察を促すアプローチ	アクションリサーチ；自己エスノグラフィー；フィールドワークなど
6	卒業研究手法（2）	PAC分析；研究倫理；研究同意書の構成要素
7	卒業研究手法（3）	ナラティブ分析（テーマ分析・構造分析）；半構造化インタビュー
8	基礎的なデータの分析・提示・解釈	統計分析；図表の提示方法を知る
9	文献レビューの書き方（1）	先行研究を網羅し、関心のあるテーマの全体像をつかむ：専門用語やキーワードを理解する
10	文献レビューの書き方（2）	すでに明らかになっていることとまだ明らかになっていないことを知る；自分の研究の位置づけを明確にする（研究課題設定）
11	先行研究及び研究課題の発表（1）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
12	先行研究及び研究課題の発表（2）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
13	先行研究及び研究課題の発表（3）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
14	先行研究及び研究課題の発表（4）	発表に関する質疑応答・ディスカッション1
15	前期まとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める；後期授業への見通しを立てる
16	研究指導（1）	研究課題を再考する
17	研究指導（2）	研究課題を再考する
18	研究指導（3）	研究方法の計画、ディスカッション
19	研究指導（4）	研究方法の計画、ディスカッション
20	研究指導（5）	研究方法の計画、ディスカッション
21	研究指導（6）	研究方法の計画、ディスカッション

22	研究指導（7）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
23	研究指導（8）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
24	研究指導（9）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
25	研究指導（10）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
26	研究指導（11）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
27	研究指導（12）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
28	研究指導（13）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、リサーチ・リテラシー（研究を遂行するための必要な基礎的能力）として、課題発見力・情報収集力・情報整理力・読解力データ分析力・文章力・プレゼンテーション能力の育成をめざす。さらに教育の観点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識・技能の発達と批判的思考態度の向上を目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる汎用スキルとしてのリサーチ・リテラシーを身につけている。2. 表現教育および自身の興味関心がある分野の専門的知識を身につけようとしている。

<授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) グループワーク (3) ディスカッション (4) 省察活動

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめる。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各界、予習（発表準備等）を1時間、復讐（内容の振り返り）を1時間程度する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することが出来る。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度、思考判断表現）30%、課題（知識・理解、思考判断表現）70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する
2	研究法講話	卒業論文作成の手引きを確認する
3	研究の基礎（1）	論文の全体構造を見通しながら内容を理解する
4	研究の基礎（2）	剽窃を防ぐため、引用の種類と方法を知る
5	卒業研究手法（1）実践への理解・省察を促すアプローチ	ケーススタディ；グラウンデッド・セオリー；内容分析など研究目的に応じた方法の選択を考える
6	卒業研究手法（2）	データ管理；記録の保存；二次利用の可否研究データの適切な取り扱いを理解する
7	卒業研究手法（3）	ナラティブ分析（テーマ分析・構造分析）；半構造化インタビュー
8	基礎的なデータの分析・提示・解釈	統計分析；図表の提示方法を知る
9	文献レビューの書き方（1）	先行研究を網羅し、関心のあるテーマの全体像をつかむ；専門用語やキーワードを理解する
10	文献レビューの書き方（2）	すでに明らかになっていることとまだ明らかになっていないことを知る；自分の研究の位置づけを明確にする（研究課題設定）
11	先行研究及び研究課題の発表（1）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
12	先行研究及び研究課題の発表（2）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
13	先行研究及び研究課題の発表（3）	発表に関する質疑応答・ディスカッション
14	先行研究及び研究課題の発表（4）	発表に関する質疑応答・ディスカッション1
15	前期まとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める；後期授業への見通しを立てる
16	研究指導（1）	研究課題を再考する
17	研究指導（2）	研究課題を再考する
18	研究指導（3）	研究方法の計画、ディスカッション
19	研究指導（4）	研究方法の計画、ディスカッション
20	研究指導（5）	研究方法の計画、ディスカッション
21	研究指導（6）	研究方法の計画、ディスカッション
22	研究指導（7）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
23	研究指導（8）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
24	研究指導（9）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）

25	研究指導（１０）	調査準備（アンケート・インタビュー・テストなどの作成）
26	研究指導（１１）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
27	研究指導（１２）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
28	研究指導（１３）	データの分析・提示・解釈、ディスカッション
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ（基礎）				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。
2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

<授業の方法>

「AI（人工知能）」、「e-Learning」、「電子教科書」をキーワードとして、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有調査の課題、フィールドワーク、グループディスカッション等

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、レポート・課題の内容と到達度（知識・理解） 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎 1	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め 1	先行研究のレビュー・発表（第1回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導① 1	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導② 1	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3

22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（3~4人に分かれて、各テーマに対して、成果物の作成、プレゼンを行う）。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（事前学習2時間程度）。調査・研究する課題の発表準備（事後学習1時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題40%、受講態度(グループワークへの貢献度含む)30%、プレゼン30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	課題発見・問題解決実習②	フィジカルパフォーマンスの構成要素①（筋力・パワー）
4	課題発見・問題解決実習③	フィジカルパフォーマンスの構成要素②（スピード・アジリティ）
5	課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの構成要素③（持久力）
6	課題発見・問題解決実習⑤	競技スキルとフィジカルパフォーマンス
7	課題発見・問題解決実習⑥	競技パフォーマンスの分解
8	課題発見・問題解決実習⑦	競技パフォーマンスを定量化する手法①
9	課題発見・問題解決実習⑧	競技パフォーマンスを定量化する手法②
10	分析・測定評価実習①	フィールドテスト① パワー・スピード・アジリティ
11	分析・測定評価実習②	フィールドテスト② 持久力・スピード持久力
12	分析・測定評価実習③	ラボテスト① 動作分析
13	分析・測定評価実習④	ラボテスト② 筋電図
14	分析・測定評価実習⑤	ラボテスト③ 代謝系
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定
17	グループ研究②	研究手法・文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析
23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察

25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習①	ゼミ論のテーマ設定
28	個人研究演習②	進捗発表会
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。後期は主にゼミ論文作成に向けた準備を行っていく。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有基本的に自身で調べてプレゼンテーションを用意し、ゼミ内で発表し、ディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（２～３時間）。調査・研究する課題の発表準備（３時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組(グループへの貢献度含む)50%、課題（ゼミ論文に向けた準備度合い） 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習①	コンディショニングとは 要因 グループワーク
4	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習②	運動能力・フィジカルパフォーマンスとは フィジカル・体力とは 要因
5	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習③	怪我とは 怪我予防のための要因
6	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの階層
7	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑤	競技スポーツのパフォーマンスとは
8	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑥	競技スポーツのフィジカルパフォーマンスとは
9	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑦	リハビリ、リコンディショニングの階層
10	フィジカル測定評価実習①	フィールドテスト① パワー・スピード・アジリティ
11	フィジカル測定評価実習②	フィールドテスト② 持久力・スピード持久力
12	フィジカル測定評価実習③	ラボテスト① 動作分析
13	フィジカル測定評価実習④	ラボテスト② 筋電図
14	フィジカル測定評価実習⑤	ラボテスト③ 代謝系
15	後期	後期について
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定

17	グループ研究②	文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析
23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察
25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習①	ゼミ論のテーマ設定
28	個人研究演習②	進捗発表会
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、英語教育学、第二言語習得 (SLA)、教師の専門性開発 (TPD) を軸に、教育現場の複雑な現象を解き明かす力を養う。単なる指導法の習得にとどまらず、学習者や教師が何を経験し、どう心を動かしているのかという「個人のナラティブ」や、不安・自信・メタ認知といった「非認知能力」に焦点を当てるのが特徴である。前期は、ナラティブ分析、PAC分析、パターン・ランゲージ等の質的研究法をワークショップ形式で体験し、目に見えない教育現象を可視化する技法を習得する。後期は、前期に学んだ手法を応用した自由研究報告から始め、さらにグループ活動や対話を通じて、実践の背後にあるSLAの知見も深めていく。こうしたリフレクション (省察) のプロセスを経て、自律的に「成長し続ける力 (TPD)」の基盤を確立する。終盤では、先行研究からリサーチ・ギャップを見出すコツや、誠実な研究倫理を学び、自らの探究の意義を語る「緒言 (はじめに)」を含む研究計画書を執筆する。3年次で手に入れるこの「人間を深く理解するための汎用的なレンズ」を武器に、4年次の卒業研究において現場の課題解決に直結する生きた知見を導き出すための、揺るぎない土台を構築する。

<授業の到達目標>

(1) 第二言語習得 (SLA) および教師の専門性開発 (TPD) の基礎理論をレンズとして、英語教育を「学習者と教師の心理・経験」という側面から多角的に分析できる。(2) ナラティブ分析やPAC分析などの質的研究法を体験し、「形のない経験」を学術的な手続きに基づいて可視化・言語化する術を身につけている。(3) 先行研究の検討を通じてリサーチ・ギャップを特定し、自らの探究の意義を「緒言 (はじめに)」として論理的をもって形にできる。(4) 自己の学習・指導経験を客観的に振り返り、理論と実践を架橋する「省察の実践家」としての揺るぎない基盤を築いている。(5) ゼミでの対話を通じ、仲間の多様な視点を尊重しながら、自律的に自身の探究をブラッシュアップし続ける姿勢を身につけている。

<授業の方法>

(1) ウォームアップや復習 (10分) (2) ワークショップ (60分) (3) ミニ講義 (20分) (4) 共有・ふりかえり (10分)

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 グループ・ディスカッション、ピア・ラーニングなど

<準備学習等 (予習・復習) > ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

合計 3 ～ 4 時間程度 < 予習 > 文献・資料の講読、データの収集・分析、ディスカッションの準備 (2 ～ 3 時間) < 復習 > リフレクション・ジャーナルの作成、分析のブラッシュアップ、ポートフォリオの整理 (1 時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4 (地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる) と関連付けられています。

<成績評価方法> ※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

演習・リフレクション (30%) 研究発表・対話への貢献 (30%) 探究の設計図・計画書 (30%) 自律的な探究姿勢 (10%)

<教科書>

<参考書>

内藤哲雄 (2002) PAC分析実施法入門 [改訂版]: 「個」を科学する新技法への招待 ナカニシ出版
 サイトウタツヤ 他 (2002) TEMではじめる質的研究: 時間とプロセスを扱う研究をめざして 誠信書房
 井庭崇 他 (2013) パターン・ランゲージ: 創造的な未来をつくるための言語 松柏社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する
2	研究法講話	卒業論文作成の手引きを確認する
3	個別面談	学生とのコミュニケーションを図り、興味関心などを聞き取る
4	ナラティブ分析 (1)	ナラティブ分析とは、ナラティブ分析を用いた先輩の卒業論文等を講読、ディスカッション
5	ナラティブ分析 (2)	体験 1
6	ナラティブ分析 (3)	体験 2、ビジュアル・ナラティブやオートエスノグラフィーなどの紹介
7	PAC分析 (1)	PAC分析とは、体験 (前半)
8	PAC分析 (2)	体験 (後半)
9	PAC分析 (3)	PAC分析を用いた先輩の卒業論文等を講読、ディスカッション
10	パターン・ランゲージ (1)	パターン・ランゲージとは、体験 (前半)
11	パターン・ランゲージ (2)	体験 (後半)
12	パターン・ランゲージ (3)	パターン・ランゲージを用いた活動計画、ディスカッション
13	個別面談	学生とのコミュニケーションを図り、興味関心などを聞き取る

14	前期のまとめ	全体総括、ふりかえり
15	個別面談	学生とのコミュニケーションを図り、進捗状況や課題、興味関心などを聞き取る
16	研究発表会 (1)	前期に学んだ手法を用いた自由研究報告 1
17	研究発表会 (2)	前期に学んだ手法を用いた自由研究報告 2
18	パタン・ランゲージ(4)	グループ研究活動 1
19	パタン・ランゲージ(5)	グループ研究活動 2
20	パタン・ランゲージ(6)	グループ研究活動の成果発表、総括
21	研究基礎 (1)	先行研究からリサーチギャップを見つけるコツ、緒言の書き方を理解する
22	研究基礎 (2)	アンケートやインタビューガイドの作成ポイントを知る
23	研究基礎 (3)	研究倫理について理解する、研究同意書の内容を知る
24	中間発表会 (1)	研究計画書の作成、先行研究をわかりやすく説明する、研究ギャップとニッチがあるか確認する 1
25	中間発表会 (2)	研究計画書の作成、先行研究をわかりやすく説明する、研究ギャップとニッチがあるか確認する 2
26	中間発表会 (3)	研究計画書の作成、先行研究をわかりやすく説明する、研究ギャップとニッチがあるか確認する 3
27	個別面談	学生とのコミュニケーションを図り、進捗状況や課題、興味関心などを聞き取る
28	後期のまとめ	全体総括、ふりかえり
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	金谷 和幸			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

スポーツや身体の動きについて「なぜそうなるのか」を科学的に考える力を育みます。学生それぞれの競技経験や興味を出発点に、文献を読み、実際に測定を行い、仲間と議論しながら、身体の仕組みやパフォーマンスの変化を理解していくことを目指します。また、基本的な体力測定に加え、担当教員の専門領域であるリカバリー（超低温冷却）や高齢者の体力測定や運動指導など、幅広い身体機能評価の考え方にも触れ、スポーツ科学の幅広い視点を学んでいく。最終的には、学生が自身の競技スポーツを通して得た経験を科学的知見と結びつけ、研究テーマとして言語化し、卒業研究へとつながる視点を育てることを目指す。

<授業の到達目標>

・自身の競技や興味分野を科学的に説明できるようになり、競技スポーツを通して得た経験を、科学的知見と結びつけながら、自分の言葉で語れるようになる
・測定実習やディスカッションを通して、身体パフォーマンスに関する現象を多角的に捉える視点を身につける
・研究計画の立案を通して、問題発見力・論理的思考力・説明力といった、社会で求められる基礎的能力を養う

<授業の方法>

学生それぞれがスポーツ現場で不思議に感じたことや、気になるトレーニング方法をテーマとして取り上げ、その背景にある仕組みや理由を探る手法について学ぶ。体力測定の体験、測定結果などをもとにしたディスカッションを中心に、学生自身の競技経験や興味を出発点に、身体の仕組みやパフォーマンスに関する疑問を共有し、科学的な視点から考える時間を大切にする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学生それぞれが競技や日常の中で感じた疑問を持ち寄り、文献や測定結果をもとに意見交換を行う。発表やディスカッションを通して、自分の考えを整理し、仲間の視点にも触れながら理解を広げていく。こうしたやり取りの中で、それぞれが興味のあるテーマを見つけ、科学的に考える姿勢を身につけていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（60分）：自身の興味や競技経験に基づくテーマについて文献や資料を調べ、内容を整理しておく。また、必要に応じて測定データの取得方法や基本的な解析手法について確認し、ゼミ内で共有する準備を行う。事後学習（60分）：ゼミでの議論内容を踏まえて追加の文献調査やデータ整理を行い、研究テーマの方向性を深める。次回の議論につながるよう、自身の考えをまとめておく。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・平常点（発表・討論・参加態度）：30％・課題研究（文献研究・測定・研究計画）：70％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの目的、進め方、評価方法
2	研究の基礎	研究デザイン・仮説設定の基礎
3	測定実習①	最大酸素摂取量の測定
4	測定実習②	跳躍能力（SJ/CMJ）
5	測定実習③	インターバル速歩（高齢者体力測定）
6	データの見方①	VO ₂ maxの基礎的な読み解き方
7	データの見方②	跳躍データの基礎的な解釈
8	データの見方③	インターバル速歩の評価法と測定値の解釈
9	討論①	測定結果の解釈と応用
10	文献研究①	主要ジャーナル紹介（運動生理学・リカバリー科学）、文献検索・読み方
11	文献研究②	論文抄読（運動生理学）
12	文献研究③	論文抄読（リカバリー）
13	討論②	文献内容の批判的検討
14	前期まとめ	研究テーマの方向性発表
15	トレーニング科学	生理学的原理（過負荷・可逆性・特異性）、持久・筋力・無酸素パワーの適応
16	リカバリー科学Ⅰ	冷却刺激の生理学的メカニズム
17	リカバリー科学Ⅱ	冷却・温熱・睡眠・栄養の統合的理解
18	高齢者の体力	加齢と体力・歩行能力・インターバル速の科学

19	研究発表Ⅰ	興味テーマの文献紹介
20	研究発表Ⅱ	測定データを用いた分析発表
21	研究発表Ⅲ	研究テーマの深化
22	研究発表Ⅳ	研究計画のブラッシュアップ
23	課題研究Ⅰ	研究計画（目的・仮説）
24	課題研究Ⅱ	研究方法（測定・分析手法）
25	課題研究Ⅲ	データ収集計画
26	課題研究Ⅳ	研究計画の統合
27	発表準備	スライド作成・発表練習
28	後期まとめ	研究計画の最終発表
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する

<授業の到達目標>

専門領域の現状を理解し、課題を見出すことができる。課題に沿った論文の検索、精査をすることができる。精査した内容を客観的に評価し内容をプレゼンテーションすることができる。

<授業の方法>

グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査）省察活動（課題に対するまとめ、プレゼンスライド作成、実践活動）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、1時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題40%、プレゼンテーション・レポート 40%、取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	柔道整復師について①	柔道整復師の現状把握1
2	柔道整復師について②	柔道整復師の現状把握2
3	柔道整復師について③	柔道整復師の現状把握3
4	柔道整復師について④	柔道整復師の問題点1
5	柔道整復師について⑤	柔道整復師の問題点2
6	医療現場について①	医療現場について1
7	医療現場について②	医療現場について2
8	医療現場について③	医療現場について3
9	医療現場について④	柔道整復師と他の医療資格との比較1
10	医療現場について⑤	柔道整復師と他の医療資格との比較2
11	情報整理①	タスクシフトシエアの概要1
12	情報整理②	タスクシフトシエアの概要2
13	情報整理③	タスクシフトシエアの概要3
14	まとめ	前半のまとめ1
15	まとめ	前半のまとめ2
16	疑問・問題点の抽出及び整理①	疑問・問題点の抽出及び整理1
17	疑問・問題点の抽出及び整理②	疑問・問題点の抽出及び整理2
18	疑問・問題点の抽出及び整理③	疑問・問題点の抽出及び整理3
19	実験計画①	実験計画1
20	実験計画②	実験計画2
21	実験の実施①	実験の実施1
22	実験の実施②	実験の実施2
23	実験の実施③	実験の実施3
24	実験結果に対する考察①	考察1
25	実験結果に対する考察②	考察2

26	実験結果に対する考察③	考察3
27	実験結果に対する考察④	考察とまとめ1
28	実験結果に対する考察⑤	考察とまとめ2プレゼンテーション
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	三堀 仁			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、社会人、とりわけ教職に就く人材を育成することを目的とする。学校現場では今即戦力が求められている。就職してすぐに指導者として活躍できるような実践力を学生の段階から身に付けることが必要である。高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けることができるように、演習等を中心とした授業を行う。

<授業の到達目標>

①教職につくための規範意識を身に付けることができる。②他者と協働して課題解決する力を身に付けることができる。③教師として必要な基本的な指導力を身に付けることができる。

<授業の方法>

講義及び演習の形態をとる。資料を事前に配付し、自分なりの考えをもってグループ協議にのぞみ、他者の意見を取り入れながらよりよい答えを導き出すような場面を設定する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回グループ協議を取り入れ、他者の考えを取り入れながら学びを深めていくようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に与えられた課題に対する意見を持つ。また、自分なりに問題意識を持ち、質問や問題提起できるように準備しておく（1時間程度）。授業後は学んだことを模擬授業や日々の実践に生かすことができるようにする（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4およびディプロマポリシー1と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（40％）、課題提案内容・意見交換（30％）、レポート・提出物（30％）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業づくりとは	授業づくりの必要性和ポイント
2	授業づくりと学級経営①	学級目標の設定、学級経営案
3	授業づくりと学級経営②	学級担任がつくる安心の場、学級の雰囲気づくり
4	授業づくりと学級経営③	ほめ方、しかり方、居心地のよい環境づくり
5	児童理解と学級づくり①	児童理解の大切さ、日記指導
6	児童理解と学級づくり②	学年会の持ち方、保護者との信頼関係の構築
7	学級のルールづくり①	聞く・話す、授業準備、心構え
8	学級のルールづくり②	安全な生活、自立した学級
9	教材研究①	資料を教材化する、児童の実態から教材をつくる
10	教材研究②	教材研究を楽しむ
11	授業構想①	学習指導要領を押さえる、教材の価値から構想する
12	授業構想②	児童の経験から構想する、児童の意識の流れをつかむ
13	授業展開①	1時間の見通しを持つ、単元の導入
14	授業展開②	発問の仕方、音読・動作化
15	授業改善①	児童を見とる、授業分析
16	授業改善②	評価を指導に生かす、週案の活用
17	指導技術①	板書の仕方
18	指導技術②	ノート指導
19	指導技術③	話し合いのさせ方
20	指導技術④	新聞づくり
21	指導技術⑤	机間指導
22	指導技術⑥	振り返りカードの活用
23	指導技術⑦	個人差に応じた指導
24	研究論文に向けて①	個人研究論文のテーマ構想
25	研究論文に向けて②	研究仮説の設定
26	研究論文に向けて③	研究論文の組み立て及び資料収集の仕方
27	研究論文概要の作成	研究論文の概要を作成する

28	授業のまとめ	1年間の反省と次年度へ向けての目標設定
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	河野 儀久			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

スポーツ現場におけるストレングス&コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。また、自ら実験などの手法を用いて検証、考察し、見解を明らかにして行く能力を身につける。

<授業の到達目標>

スポーツ現場におけるストレングス&コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義および実技 2. 調査および発表

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

論文プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分自身の課題を解決するための根拠となる文献を検索し、ヒットした文献をわかりやすくまとめる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 文献検索プレゼンテーションの内容 2. 小テスト（国家試験問題等） 3. データの収集・処理・プレゼンまでの内容

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の方針および進め方の説明
2	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
3	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
4	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
5	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
6	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
7	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
8	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
9	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
10	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
11	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
12	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
13	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
14	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
15	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
16	オリエンテーション	後期の授業計画について説明する
17	解剖学	国家試験過去問演習
18	解剖学	国家試験過去問演習
19	解剖学	国家試験過去問演習
20	生理学	国家試験過去問演習
21	生理学	国家試験過去問演習
22	生理学	国家試験過去問演習
23	生理学	国家試験過去問演習
24	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
25	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
26	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
27	柔道整復学理論	国家試験過去問演習

28	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、社会人としての適性や課題を見極め、課題解決への糸口を見出すことにある。本科目は、2つの内容によって構成される。①体育・スポーツ科学（特に担当教員嘉門の専門である体育・スポーツ社会学）をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした学習。②社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する学習。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。①自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。②体育・スポーツに関する専門的な研究領域に触れ、体育・スポーツに携わる専門家として必要な思考法や身体性を学び身に付ける。③自らの学習経験を自省的に考察し、課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

受講者の興味関心に基づいた研究発表のプレゼンテーションと、全体でのディスカッションを中心に行なう。その他、受講生の興味関心に沿って、学術論文や学術書の輪読を行う。必要に応じて、現場実習を交えフィードバックを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本ゼミナールでは、受講者が自身の関心に基づいて課題を設定し、発表やディスカッションを通じて主体的に学びを深める。知識の習得に加え、課題発見力や問題解決力の育成が図られている。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各自の研究関心に基づいた発表（40％）、ディスカッションへの参加と貢献（30％）、レポート課題（30％）

<教科書>

特になし

<参考書>

ピエール・ブルデュー（石崎晴己訳）1991/12/30 構造と実践 藤原書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	自分史を書く	スポーツ歴を中心軸に、自分史を作成する。自らを題材に人生観を展望するきっかけにする。
3	自分史（発表）①	各自で発表し、他者と比較する。自己の経験を客観的かつ論理的に説明可能なものにする。
4	自分史（発表）②	各自で発表し、他者と比較する。自己の経験を客観的かつ論理的に説明可能なものにする。
5	P.ブルデュー「スポーツ社会学のための計画表」『構造と実践』pp280-287.を読む	「スポーツ社会学」という学問の性質をブルデューから学ぶ。
6	自分の関心に沿った論文・資料の探し方、テーマ設定の仕方	キーワードの設定、検索方法、概略の把握など、資料検索について学ぶ。
7	論文紹介（発表）①	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
8	論文紹介（発表）②	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
9	論文紹介（発表）③	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
10	論文紹介（発表）④	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
11	論文紹介（発表）⑤	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。全体を通しての討論
12	ゼミとしてのテーマ設定	受講者の興味関心を総合し、共通するテーマや議論の土台を確認し、全体で読み進めるべき書籍を選定する。
13	輪読・発表①	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションす

14	輪読・発表②	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
15	前期総括（ふりかえり）	前期の取り組みについてふりかえり、改善点や取り組むべき課題を再確認する。
16	輪読・発表③	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
17	輪読・発表④	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
18	輪読・発表⑤	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
19	総合討論	これまでの議論をふりかえり、いくつかのテーマに絞って討議を行い、より理解を深める。
20	論文の書き方①	論文の構成と種類について
21	論文の書き方②	問題関心の確認とテーマの設定、研究の意義について
22	論文の書き方③	先行研究の検討、研究方法、議論の土台の設定の仕方について
23	論文の書き方④	データの収集、調査の方法について
24	論文の書き方⑤	データの読み方、提示の仕方、データから導き出せる事実について
25	研究計画の立案、検討	各自の関心に沿って研究計画を立案してみる。
26	論文指導①	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
27	論文指導②	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
28	全体のふりかえり、まとめ	1年間を振り返り、軌跡を確認し、次年度へ向けた準備、課題を確認する。
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	宮本 彩			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は競技スポーツ科学科で学ぶ者としての意識を高め、スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行う。また、各自が社会人としての適性や課題を見極め、キャリアの選択につなげていくものとする。そのため本科目は、①スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決などの探求学習を行う。②自己分析を行い、社会人に求められる必要最低限の教養の習得などを行う。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、①自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。②スポーツに関する調査・研究を通して、アスリートとして、また、スポーツ科学を専攻する学生として必要な基礎的知識を獲得する。③自らの現状を評価・分析し、課題解決の方法を自ら探求する力を身につける。これらを修得し、ゼミナールⅡでの論文作成に向けての基礎を身に付ける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有グループに分かれ、単元で学んだ内容についてディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、概ね下記のような内容を予習として各回60～90分程度行う。①スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる。②課題発表などのプレゼンテーションの準備を行う。③基礎的知識獲得に必要な自主学習を行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）および3（スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、キャリア教育にかかわる課題 50%

<教科書>

必要に応じて

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ科学とは	スポーツ科学を勉強する意義を考える。
3	スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	アスリートとして身につけるべきスポーツ科学リテラシーについて
4	スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	アスリートを支える者として備えるべきスポーツ科学リテラシーについて
5	スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	スポーツ科学の学びを踏まえた多種多様なキャリアについて調べる
6	スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	社会人に向けてクロスオーバースキルについての復習
7	スポーツ科学センターの見学	スポーツ科学の研究施設を見学し、研究とは何かを学ぶ。
8	研究についてのディスカッション1	スポーツ科学について興味のあることを発表し、ディスカッションを行う。
9	研究についてのディスカッション2	スポーツ科学について興味のあることを発表し、ディスカッションを行う。
10	論文抄読1	興味を持った論文を読み、発表する。
11	論文抄読2	興味を持った論文を読み、発表する。
12	実験機器を用いた測定1	スポーツ科学センターの機器を用いて測定法を学ぶ。
13	実験機器を用いた測定2	スポーツ科学センターの機器を用いて測定法を学ぶ。
14	前期の振り返り	前期の学びの振り返りと夏季休暇中の自主学習の計画を立てる
15	自主学習の成果報告1	自らの取り組み内容を発表する
16	自主学習の成果報告2	自らの取り組み内容を発表する
17	自己評価・他者評価を通してキャリアについて考える	様々な経験を踏まえ、自己評価のみならず他者評価も受けながらキャリアについて再考する。

18	自己紹介プレゼン 1	就職活動も見据え、改めて自己紹介プレゼンを作成する
19	自己紹介プレゼン 2	自己紹介のプレゼンテーションを行う
20	データの扱い方・処理の手法について学ぶ	SSPなど過去に受けてきた測定データをまとめ、処理する方法を学ぶ。
21	研究テーマを探る 1	これまでの授業の内容を踏まえ、今後の研究テーマを決める。
22	研究テーマを探る 2	これまでの授業の内容を踏まえ、今後の研究テーマを決める。
23	研究計画を練る 1	研究を実施するための計画を立てる。
24	研究計画を練る 2	研究を実施するための計画を立てる。
25	実験・測定	実験または測定を行う。
26	測定結果のデータ処理・まとめ	研究成果をまとめる。
27	測定結果のデータ処理・まとめ 2	パワーポイントで発表用のスライドを作成する。
28	全体のまとめ	ゼミナール I の総括を行う
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：参考書や書籍、インターネットを通じてトレーニングならびにスポーツパフォーマンスに関する情報を学習・整理しておくこと。（所要時間：1時間程度）事後学習：グループワークを通じて共有した内容に関して、要点や課題点をまとめておくこと。（所要時間：1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題40%、受講態度(グループワークへの貢献度含む)30%、プレゼン30%

<教科書>

<参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版 Book House HD

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	課題発見・問題解決実習②	フィジカルパフォーマンスの構成要素①（筋力・パワー）
4	課題発見・問題解決実習③	フィジカルパフォーマンスの構成要素②（スピード・アジリティ）
5	課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの構成要素③（持久力）
6	課題発見・問題解決実習⑤	競技スキルとフィジカルパフォーマンス
7	課題発見・問題解決実習⑥	競技パフォーマンスの分解
8	課題発見・問題解決実習⑦	競技パフォーマンスを定量化する手法①
9	課題発見・問題解決実習⑧	競技パフォーマンスを定量化する手法②
10	分析・測定評価実習①	フィールドテスト① パワー・スピード・アジリティ
11	分析・測定評価実習②	フィールドテスト② 持久力・スピード持久力
12	分析・測定評価実習③	ラボテスト① 動作分析
13	分析・測定評価実習④	ラボテスト② 筋電図
14	分析・測定評価実習⑤	ラボテスト③ 代謝系
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定
17	グループ研究②	研究手法・文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析

23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察
25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習	ゼミ論のテーマ設定
28	全体のまとめ	ゼミナールⅠの統括と課題
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠでは、「子どもの造形表現」を全体テーマとし、保育内容の中心である「遊び」を豊かに展開するための造形表現について研究する。子どもの表現活動への理解を深めるとともに、多様な文化的背景をもつ子育て家庭への支援や保育について学ぶ。また、留学生との交流活動を通して、多文化共生の視点から、国籍や文化の違いを尊重する保育の在り方について考察する。

<授業の到達目標>

制作や鑑賞活動を軸として、造形表現に関する専門知識と技術を身に付けるとともに、留学生との交流活動を通して国籍や文化の違いを認め、互いを尊重する心を身に付けようとしている。

<授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れつつ、子どもの造形表現に係る制作や鑑賞、及び留学生との交流活動により授業を進める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れ、制作や鑑賞、交流などはグループ指導を展開する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具等を準備しておくこと。次時までに作品や課題に取り組む等、準備と予習(1時間程度)が必要となる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 50%、課題や作品制作、その鑑賞 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの目的・進め方、到達目標と注意事項、成績評価と単位認定方法について理解する。
2	ゼミ研究・制作の概要(1)	「子どもの造形表現」をテーマとした研究の意義と方法について学ぶ。
3	ゼミ研究・制作の概要(2)	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な論文や作品事例を検討し、研究課題を探る。
4	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(1)	幼少期の遊びや造形体験を振り返り、表現活動の意義について考察する。
5	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(2)	子どもの発達と造形表現との関係について文献をもとに学ぶ。
6	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(3)	遊びの中に見られる造形表現の特徴と保育者の援助について考察する。
7	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(4)	地域的美術館等でのフィールドワークを通して、子どもの感性を育む造形表現について学ぶ。
8	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(5)	フィールドワークの振り返りと造形活動への活用について検討する。
9	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(6)	多様な文化的背景をもつ子どもと家庭への保育について学ぶ。
10	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(7)	留学生との交流活動を通して、多文化共生の視点から保育を考える。
11	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(8)	国籍や文化の違いを尊重する保育実践について討議する。
12	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(9)	研究成果をまとめ、造形表現・鑑賞活動に関するプレゼンテーションを行う。
13	前期まとめと作品鑑賞	発表内容や作品を鑑賞し、学びを共有するとともに振り返りを行う。
14	前期総括	作品鑑賞、作品・レポート提出の解説
15	オリエンテーション(後期)	ゼミの目的・進め方、到達目標と注意事項、成績評価と単位認定方法について再確認する。

16	ゼミ研究・制作の概要(3)	「子どもの造形表現」をテーマとした研究の意義と方法について学ぶ。
17	ゼミ研究・制作の概要(4)	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な論文や作品事例を検討し、研究課題を具体的に検討する。
18	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(10)	研究テーマに基づき、文献調査や実践計画の立案を行う。
19	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(11)	研究計画に沿って調査・観察を実施し、資料収集を進める。
20	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(12)	子どもの造形活動に関する事例を分析し、研究課題を深める。
21	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(13)	地域の美術館等でのフィールドワークを通して、子どもの感性を育む造形表現について学ぶ。
22	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(14)	フィールドワークの成果を整理し、研究内容との関連を検討する。
23	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(15)	研究成果をまとめるための分析・考察を行う。
24	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(16)	研究報告書および作品制作を進め、中間発表を行う。
25	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(17)	最終発表に向けて研究成果・作品を完成させる。
26	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(18)	研究成果をまとめ、造形表現・鑑賞活動に関するプレゼンテーションを行う。
27	通年まとめと作品鑑賞	発表内容や作品を鑑賞し、学びを共有するとともに振り返りを行う。
28	全体総括	作品鑑賞、作品・レポート提出の解説
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ（基礎）				担当者名	實戸 崇史			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を設定できるよう様々なアドバイスや共同討議を取り入れたゼミナール形式とする。ゼミナールⅠ（基礎）での学習は①学んだ情報整理、②疑問・問題点の抽出及び整理、③関連文献収集、④課題確認を発展させるに至る。テーマ領域 1）柔道整復師に必要な知識と技術の実践的な研究 2）健康運動が身体に及ぼす実践的な研究

<授業の到達目標>

柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いことによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

現段階において明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（予習・復習等）研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】課題達成度（50％）、学習意欲（30％）、レポート（20％）で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	文献研究1	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う1
3	文献研究2	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う2
4	文献研究3	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う3
5	文献研究4	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う4
6	文献研究5	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う5
7	研究テーマ発表1	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する1
8	研究テーマ発表2	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する2
9	研究テーマ発表3	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する3
10	研究テーマ発表4	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する4
11	研究計画の立案1	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する1
12	研究計画の立案2	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する2
13	研究計画の立案3	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する3
14	研究計画の立案4	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する4
15	研究計画の立案5	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する5
16	研究テーマについて実験・調査の実施1	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する1
17	研究テーマについて実験・調査の実施2	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する2
18	研究テーマについて実験・調査の実施3	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する3
19	研究テーマについて実験・調査の実施4	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する4
20	研究テーマについて実験・調査の実施5	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する5
21	研究内容について共同討議1	各自の研究内容について発表し共同討議する1

22	研究内容について共同討議2	各自の研究内容について発表し共同討議する2
23	研究内容について共同討議3	各自の研究内容について発表し共同討議する3
24	研究内容について共同討議4	各自の研究内容について発表し共同討議する4
25	研究内容について共同討議5	各自の研究内容について発表し共同討議する5
26	総括1	研究進捗状況発表会1
27	総括2	研究進捗状況発表会2
28	総括3	研究進捗状況発表会3
29	総括4	研究進捗状況発表会4
30	総括5	研究進捗状況発表会5

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ（基礎）				担当者名	古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を設定できるよう様々なアドバイスや共同討議を取り入れたゼミナール形式とする。ゼミナールⅠ（基礎）での学習は①学んだ情報整理、②疑問・問題点の抽出及び整理、③関連文献収集、④課題確認を発展させるに至る。テーマ領域 １）柔道整復師に必要な知識と技術の実践的な研究 ２）健康運動が身体に及ぼす実践的な研究 ３）認知予防に関する挑戦的研究 ４）ウインタースポーツ（スキー、スノーボード）に関する傷害調査

<授業の到達目標>

柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いことによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的思考を活用し研究活動ができることを目標とする。

<授業の方法>

現段階において明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（予習・復習等）研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、DP 4 （柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる）に関係づけられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】課題達成度（50％）、学習意欲（30％）、レポート（20％）で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	文献研究1	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う1
3	文献研究2	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う2
4	文献研究3	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う3
5	文献研究4	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う4
6	文献研究5	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う5
7	研究テーマ発表1	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する1
8	研究テーマ発表2	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する2
9	研究テーマ発表3	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する3
10	研究テーマ発表4	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する4
11	研究計画の立案1	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する1
12	研究計画の立案2	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する2
13	研究計画の立案3	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する3
14	研究計画の立案4	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する4
15	研究計画の立案5	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する5
16	研究テーマについて実験・調査の実施1	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する1
17	研究テーマについて実験・調査の実施2	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する2
18	研究テーマについて実験・調査の実施3	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する3
19	研究テーマについて実験・調査の実施4	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する4
20	研究テーマについて実験・調査の実施5	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する5
21	研究内容について共同討議1	各自の研究内容について発表し共同討議する1
22	研究内容について共同討議2	各自の研究内容について発表し共同討議する2

23	研究内容について共同討議3	各自の研究内容について発表し共同討議する3
24	研究内容について共同討議4	各自の研究内容について発表し共同討議する4
25	研究内容について共同討議5	各自の研究内容について発表し共同討議する5
26	総括1	研究進捗状況発表会1
27	総括2	研究進捗状況発表会2
28	総括3	研究進捗状況発表会3
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ（基礎）				担当者名	平林 大輔			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を設定できるよう様々なアドバイスや共同討議を取り入れたゼミナール形式とする。ゼミナールⅠ（基礎）での学習は①学んだ情報整理、②疑問・問題点の抽出及び整理、③関連文献収集、④課題確認を発展させるに至る。テーマ領域 1）柔道整復師に必要な知識と技術の実践的な研究 2）健康運動が身体に及ぼす実践的な研究

<授業の到達目標>

柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いことによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的思考を修得することができるようになる。

<授業の方法>

現段階において明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（予習・復習等）研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】課題達成度（50％）、学習意欲（30％）、レポート（20％）で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	文献研究1	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う1
3	文献研究2	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う2
4	文献研究3	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う3
5	文献研究4	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う4
6	文献研究5	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う5
7	研究テーマ発表1	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する1
8	研究テーマ発表2	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する2
9	研究テーマ発表3	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する3
10	研究テーマ発表4	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する4
11	研究計画の立案1	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する1
12	研究計画の立案2	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する2
13	研究計画の立案3	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する3
14	研究計画の立案4	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する4
15	研究計画の立案5	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する5
16	研究テーマについて実験・調査の実施1	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する1
17	研究テーマについて実験・調査の実施2	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する2
18	研究テーマについて実験・調査の実施3	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する3
19	研究テーマについて実験・調査の実施4	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する4
20	研究テーマについて実験・調査の実施5	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する5
21	研究内容について共同討議1	各自の研究内容について発表し共同討議する1

22	研究内容について共同討議2	各自の研究内容について発表し共同討議する2
23	研究内容について共同討議3	各自の研究内容について発表し共同討議する3
24	研究内容について共同討議4	各自の研究内容について発表し共同討議する4
25	研究内容について共同討議5	各自の研究内容について発表し共同討議する5
26	総括1	研究進捗状況発表会1
27	総括2	研究進捗状況発表会2
28	総括3	研究進捗状況発表会3
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	三好 啓子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミでは、音楽や身体・言語・造形などの多様な表現活動が子どもの発達や情緒、社会性に与える影響について探究する。前期前半では、ウェルビーイング・ボディワークを通して呼吸や姿勢、身体感覚への気づきを深め、表現活動の基盤となる身体理解を養う。後期は、文献講読や事例分析、発表・ディスカッションを通して、子どもの成長を支える環境構成や関わり方について主体的に考察する。体験と理論を往還しながら、保育・教育の現場で活かせる視点を身につけることを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 音楽をはじめとする多様な表現活動が子どもの発達に与える影響について、理論と具体例を結びつけて説明できる。2. ウェルビーイング・ボディワークを通して、自身の呼吸や姿勢、身体感覚への気づきを深めることができる。3. 身体感覚の理解をもとに、表現活動と心身の関係について考察できる。4. 文献の読解・発表・ディスカッションを通して、自らの考えを論理的に表現できる。5. 子どもの成長を支える環境構成や関わりについて、自分なりの視点を持ち、説明できる。6. 学びを踏まえ、自らの保育・教育観を形成し言語化できる。

<授業の方法>

本授業はゼミ形式で行い、ウェルビーイング・ボディワークによるリラクゼーション体験、文献講読、発表、ディスカッションを組み合わせる。前期は身体感覚への理解と理論の基礎を学び、後期は各自のテーマに基づく調査・発表を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有1. 学生主体の活動2. 体験型・実践型活動3. フィードバックと振り返り4. 問いの設定・問題解決5. 理論と実践の往還

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業内容の理解を深めるための文献・資料の読解、授業内活動の振り返り、発表準備など。個人での読解・ノートまとめ・簡単なリフレクション（感想・疑問点の整理など）各回予習、復習各30分程度

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

アクティブラーニング・授業内での発表 50%レポート課題 50%

<教科書>

特定の教科書は使用せず、授業内に配布する資料を用いる。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	ゼミの目的・進め方身体感覚の理解・基礎理論
2	基礎演習 1	呼吸と身体への気づき①
3	基礎演習 2	呼吸と身体への気づき②
4	基礎演習 3	身体感覚の探究①
5	基礎演習 4	身体感覚の探究②
6	基礎演習 5	身体と表現の関係を考える
7	基礎演習 6	ウェルビーイングと表現活動
8	基礎理論 1	子どもと表現活動の関係
9	基礎理論 2	音楽と子どもの発達①
10	基礎理論 3	音楽と子どもの発達②
11	基礎理論 4	多様な表現の比較理解
12	基礎理論 5	文献講読①
13	基礎理論 6	文献講読②
14	前期まとめ	前期まとめ・中間発表
15	後期ガイダンス	研究テーマの確認（探究・考察・発表）
16	表現活動と環境構成 1	多様な子どもへの関わり①
17	表現活動と環境構成 2	多様な子どもへの関わり②
18	表現活動と環境構成 3	多様な子どもへの関わり③
19	表現活動と環境構成 4	多様な子どもへの関わり④
20	表現活動と環境構成 5	多様な子どもへの関わり発表

21	基礎理論 7	文献講読③
22	基礎理論 8	文献講読④（学生主導）
23	発表準備 1	テーマ別ディスカッション①
24	発表準備 2	テーマ別ディスカッション②
25	発表準備 3	資料作成
26	発表 1	発表①
27	発表 2	発表②
28	総合討議・総括	言語化・振り返り
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	早田 剛			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ名は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、卒業研究に繋がる予備実験を行い、抄録にまとめることで、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表・ディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間程度）。調査・研究する課題の発表準備（3時間程度）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間程度）とする。授業後については、様々な意見から、アクションプランを計画し、研究計画・論文作成を行っていく（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業態度：20%②課題提出・意見交換：50%③主体性：30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションと到達目標	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	進路に繋がる研究を調べてみる
3	テーマ設定	現在の体育・スポーツに関する課題・問題を探る
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	進路に繋がる研究を調べてみる(2)
5	課題発表(1)	1回目の課題・問題に関する発表。次回の発表に向けた問題を討議する
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	進路に繋がる研究を調べてみる(3)
7	課題発表(2)	2回目の課題・問題に関する発表。次回の発表に向けた問題を討議する
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	進路に繋がる研究を調べてみる(4)
9	課題発表(3)	3回目の課題・問題に関する発表。次回の発表に向けた問題を討議する
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	進路に繋がる研究を調べてみる(5)
11	これまでのまとめ	3回の報告内容について総括し、現在の課題・問題について整理する。
12	体育・スポーツ科学をベースとした予備実験(1)	プレ実験から検者と被験者を体験する(1)

13	体育・スポーツ科学をベースとした予備実験(2)	プレ実験から検者と被験者を体験する(2)
14	体育・スポーツ科学をベースとした予備実験(3)	プレ実験から検者と被験者を体験する(3)
15	結果のまとめ方(1)	基本統計量を作成する
16	結果のまとめ方(2)	グラフ・表の作り方を学ぶ
17	抄録発表準備(1)	抄録発表資料の準備を行う(1)
18	抄録発表準備(2)	抄録発表資料の準備を行う(2)
19	抄録発表(1)	抄録発表会を実施し、発表と質問を考える(1)
20	抄録発表(2)	抄録発表会を実施し、発表と質問を考える(2)
21	抄録発表(3)	抄録発表会を実施し、発表と質問を考える(3)
22	抄録発表(4)	抄録発表会を実施し、発表と質問を考える(4)
23	進捗状況報告会(1)	実験・調査の進捗確認と、生データの整理方法の指導。
24	統計解析演習(1)	収集したデータの入力とクリーニング。
25	統計解析演習(2)	適切な統計手法(t検定、分散分析、相関分析等)の実行。
26	進捗状況報告会(2)	分析結果の解釈についてゼミ生同士でディスカッション。
27	卒業研究の準備(1)	卒業研究に向けた研究テーマの方向性について討議する(1)。
28	卒業研究の準備(2)	卒業研究に向けた研究テーマの方向性について討議する(2)。
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	虫明 淑子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、各自が関心をもつ幼児教育・保育のテーマをともに深く考察し、主体的に研究を進められることを目指します。具体的には、問いの立て方をともに考え、自ら立てた問いに基づき、文献の選択・購読、フィールドワーク、対話などを通して、卒業研究（論文執筆）を行います。その過程で、保育者として求められる姿勢や専門的知識を養います。

<授業の到達目標>

1. 幼児教育・保育に関する自分の関心や課題を明確にし、研究テーマとして設定できる。2. 文献や事例、フィールドワークを通して情報を整理し、考えを深めることができる。3. 卒業研究を通して、保育者として求められる姿勢や専門的知識に気付いていく。

<授業の方法>

・演習：文献や資料を整理して、幼児教育・保育に関する基本的な知識や考え方を学ぶ。・ディスカッション：事例や自分の問いをもとにゼミ内で意見交換を行い、考えを広げる。・フィールドワーク：保育現場などを観察し、学びにつながる情報やデータを収集する。・研究：自分の研究テーマを設定し、そのテーマに沿って各自のペースで教員と相談しながら進める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：有方法：グループディスカッション、フィールドワーク・具体的な事例をもとにゼミ内で意見交換を行い、対話を通して理解を深める。・他者の視点に触れることで、自分の考えを広げ、多角的な思考を身につける。・保育現場を観察し、データを収集して実践的な学びを深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・自分の関心に沿った幼児教育・保育に関する文献や資料を収集し、読んでおく。・読んだ内容や気付きを簡単にメモしておく。・自分の問いや疑問を整理し、授業中に質問できるように準備する。・授業中で得た気づきを整理し、メモにとり、研究活動に活かす。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度（50%）課題・レポート（50%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・自己紹介を行う。・ゼミの目的と特徴、進め方などを話し合いながら確認する。
2	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。
3	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。
4	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。
5	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。
6	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。
7	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。
8	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。
9	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。
10	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。

11	研究テーマを見つける	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。・問いを立ててみる。
12	問いを立てる	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。・問いを立てる。
13	問いを立てる	・自分の興味や気になることから、研究テーマを見つける。・ゼミ生や教員との対話を通して、アイデアを広げ、方向性をつかむ。・各自の進度に合わせて文献や資料を読み、情報を整理する。・研究テーマを発展させる。・問いを立てる。
14	論はどのようにすると組み立てられるかについて考える	・自分の問いに基づいて、整理して書く方法を考える。・研究の目的や方法の書き方を学ぶ。・研究計画を立てる。
15	研究計画書を作成する	・興味や関心を出発点に、自分だけの研究テーマに沿った問いを立て、研究計画を立てる。・その内容をレポートにまとめる。
16	研究計画書を作成する	・興味や関心を出発点に、自分だけの研究テーマに沿った問いを立て、研究計画を立てる。・その内容をレポートにまとめる。
17	研究に必要なデータ収集および文献整理	・目的と方法を意識する。・研究計画に沿ってデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・各自のペースに合わせて、教員からサポートやアドバイスを受ける。
18	研究に必要なデータ収集および文献整理	・目的と方法を意識する。・研究計画に沿ってデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・各自のペースに合わせて、教員からサポートやアドバイスを受ける。
19	研究の目的・方法を明確にする	・目的と方法を明確にする。・研究計画に沿ってデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・各自のペースに合わせて、教員からサポートやアドバイスを受ける。
20	研究の目的・方法を明確にする	・目的と方法を明確にする。・研究計画に沿ってデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・各自のペースに合わせて、教員からサポートやアドバイスを受ける。
21	卒業研究の執筆準備	・研究計画に沿ってデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・収集した情報をもとに論文執筆の準備をする。・各自のペースで研究を進め、随時教員からアドバイスを受ける。
22	卒業研究の執筆準備	・研究計画に沿ってデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・収集した情報をもとに論文執筆の準備をする。・各自のペースで研究を進め、随時教員からアドバイスを受ける。
23	卒業研究の執筆準備	・研究計画に沿ってデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・収集した情報をもとに論文執筆の準備をする。・各自のペースで研究を進め、随時教員からアドバイスを受ける。
24	卒業研究の執筆準備	・研究計画に沿ってデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・収集した情報をもとに論文執筆の準備をする。・各自のペースで研究を進め、随時教員からアドバイスを受ける。
25	卒業研究の中間発表	・研究テーマ、問い、目的、方法、進捗状況などをレジュメにし、発表する。・質疑応答を行い、他者の意見やアドバイスを受け取り、研究に活かす。・困っていることや悩み、課題を共有する。・教員からアドバイスを受ける。
26	卒業研究レポートの作成	・中間発表で得たフィードバックを参考にして研究を進める。・必要なデータを収集する(フィールドワークを含む)。・関連する文献を集めて整理する。・各自のペースで研究を進める。・必要に応じて、教員からサポートやアドバイスを受ける。
27	卒業研究レポートの提出	・テーマ、目的、方法までの進捗状況をレポートとして提出する。
28	卒業論文レポートの提出	・テーマ、目的、方法までの進捗状況をレポートとして提出する。
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

様々なフィールドに出向き、保育や子どもを取り巻く多様な環境について体験的に学ぶ。具体的には森のようちえんや医療的ケア児及びその保護者への支援の場に触れ、現場の実践や課題を理解する。また、質的研究の基礎としてインタビュー方法を学び、演習を通して対話的に他者の思いを聴き取る力を養う。これらの学びを通して、既存の枠組みや概念を批判的かつ寛容に捉え、多様な視点から考察する態度を育成する。

<授業の到達目標>

1. 様々なフィールドでの経験を通して、保育や社会に関する多様な価値観や視点を理解することができる。2. 世の中の枠組みや概念について、批判的かつ寛容な視点からとらえ、自らの考えを形成することができる。3. 他者との対話や議論を通して、多様な意見を受け止めながら、自分の考えを深めることができる。4. 自らの考えや学びを言語化し、根拠をもって表現することができる。

<授業の方法>

・実践的活動体験・ディスカッション

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回ゼミ準備（指定の文献を読む等しておく）（30分） 各自の関心に基づき、関連する文献や資料を読み、要点を整理するとともに、自らの問いを明確にしておく（30分）復習：体験活動の振り返りをしておく。また、議論内容について自分なりに意見をまとめておく（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

フィールド活動への積極的参加やディスカッションへの貢献度：50％ゼミ活動における成果物（調査のまとめ、発表）：20％最終課題レポート：30％

<教科書>

随時資料配布

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	3年生合同ゼミ	・履修確認
2	オリエンテーション	年間計画について
3	自然との関わりを通じた体験的な学びと探求	サツマイモ畑の土作り
4	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	事前学習（オンデマンド）
5	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	事前学習（オンデマンド）
6	自然との関わりを通じた体験的な学びと探求	サツマイモの苗植え
7	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	フィールドワーク
8	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	フィールドワーク
9	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	振り返り：これからの保育のあり方について考察する。世界の保育について考察する。
10	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	フィールドワーク
11	多様な保育の在り方を理解する一認可外保育施設と森のようちえん	フィールドワーク
12	多様な保育の在り方を理解する一認可外	振り返り：まとめ

	保育施設と森のようちえん	
13	医療的ケア児とその家族の理解	医療的ケア児の定義、日常生活についての実態等、文献を読み進め理解する。
14	医療的ケア児とその家族の理解	医療的ケア児の定義、日常生活についての実態等、文献を読み進め理解する。
15	質的インタビューに基づくインタビューの基礎と実践	・半構造化インタビューの特徴や質問の立て方について学ぶ。・インタビューにおける倫理的配慮について学ぶ。
16	質的インタビューに基づくインタビューの基礎と実践	・インタビュー演習を行う・振り返り
17	先天性心疾患児の母親へのインタビュー実践	・リサーチクエスチョンをたてる・質問内容を検討する
18	自然との関わりを通じた体験的な学びと探求	サツマイモ収穫
19	先天性心疾患児の母親へのインタビュー実践	ZOOMでインタビューを行う
20	先天性心疾患児の母親へのインタビュー実践	振り返り
21	自然との関わりを通じた体験的な学びと探求	焼き芋等、収穫物を味わう体験をする
22	医療的ケア児とその家族への理解	具体的な子育て支援の内容について検討し、準備していく
23	医療的ケア児とその家族への理解	具体的な子育て支援の内容について検討し、準備していく
24	医療的ケア児とその家族への理解	フィールドで実践的関わりを行う
25	医療的ケア児とその家族への理解	フィールドで実践的関わりを行う
26	医療的ケア児とその家族への理解	フィールド活動の振り返りとまとめ
27	探求テーマの発表と共有	各自の問題意識や収集データについて発表を行っていく。
28	探求テーマの発表と共有	各自の問題意識や収集データについて発表を行っていく。
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、4年次のゼミ論文執筆に向け、自律的に研究を遂行するための「リサーチ・リテラシー」の修得を目的とします。既存の文献をただ読むのではなく、「問いを見つけ、検証可能な形に整理する」プロセスを重視します。具体的には、学術論文の構造分析、学術データベースを駆使した情報収集、および小規模なデータ収集・分析演習（ミニ・リサーチ）を段階的に実施します。受講生同士の活発なディスカッションを通じて、論理的思考力とプレゼンテーション能力を実践的に養います。

<授業の到達目標>

(1)適切なキーワードを用いて、学術論文や資料を自力で検索・収集できる。(2)文献の内容を要約し、論理的な構成のレジュメを作成できる。(3)他者の発表に対し、建設的な質問や意見交換ができる。

<授業の方法>

(1)授業の進め方 本授業は、講義による知識修得と、個人・グループでの演習を組み合わせで展開します。前期は、自身の興味関心を「研究テーマ」へと昇華させるためのブレインストーミングや、学術データベースを用いた文献収集・整理術を実践形式で学びます。後期は、収集した資料を論理的に分析・要約し、他者に伝えるためのプレゼンテーション演習を軸とします。特に、一方向的な発表に留まらず、受講生同士が「建設的な批判（クリティカル・フィードバック）」を送り合うワークショップ形式を多用し、客観的な視点から問いを磨き上げるプロセスを重視します。(2)ICTの活用 文献管理にはGoogle Driveを活用し、自分専用のデジタルライブラリを作成します。また、リアルタイムでの意見集約ツール（MentiMeter等）や共同編集機能を用い、議論の可視化を図ります。(3)学習管理の方法 Google Classroom上に「リサーチ・ログ（学習記録）」を蓄積し、教員が個別の進捗に応じたフィードバックを随時行います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有（課題解決型学習、ディスカッション、プレゼンテーション） 文献検索やデータ分析等のリサーチ・スキルを実践的に習得する課題解決型学習（PBL）を導入します。授業内では、収集した資料の妥当性を検討するグループワークや、論理的構成を磨くピア・レビュー（相互添削）を行います。他者の発表に対し建設的な質問を投げかけ、議論を深めるプロセスを通じて、体育・スポーツ界の諸課題を多角的に捉える批判的思考力とコミュニケーション能力を主体的に養います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1～1.5時間】 次回のテーマに関連する専門用語の確認や、指定された先行論文の精読を行います。また、自身の研究テーマを深めるための文献収集を行い、ゼミ内での議論を活性化させるための進捗報告資料（レジュメやメモ）を準備して授業に臨んでください。【復習：1～1.5時間】 ゼミでの質疑応答や教員・学生からのフィードバックを振り返り、自身の思考の偏りや知識の不足を整理します。実習したリサーチ・スキル（文献検索、統計、文章作法など）を定着させるための課題に取り組み、次回のステップに向けた「問い」の再構築を行

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に取り組む姿勢・態度 50%、発表・課題レポート 50%

<教科書>

<参考書>

福永哲夫・山本正嘉(2018/10/23) 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方 市村出版
大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、「問い」を持つことの重要性和研究の意義
2	情報検索実習	図書館・CiNii・Google Scholar等のデータベース使いこなし術
3	情報の吟味と整理	学術資料と一般情報の違い、文献管理（保存・分類）のルール
4	文献読解(1)	論文の構造を理解し、要点を見抜く「解体」作業
5	文献読解(2)	クリティカル・リーディング（批判的読解）と疑問の言語化
6	論理的思考(1)	マインドマップを用いた自身の興味関心の視覚化と整理
7	論理的思考(2)	漠然とした課題を、検証可能な「研究上の問い」に変換する訓練
8	文章作法(1)	パラグラフ・ライティング（1段落1メッセージ）の基礎と実践
9	文章作法(2)	引用・参考文献の正しい表記ルールと剽窃（ひょうせつ）の防止
10	先行研究レビュー(1)	自身のテーマに近い論文を3本選び、内容を比較・要約する
11	先行研究レビュー(2)	文献比較表を作成し、「何が分かっていないか」を特定する

12	構想発表会(1)	「今、自分が気になっていること」のショートプレゼン
13	構想発表会(2)	受講生同士での質疑応答を通じたアイデアのブラッシュアップ
14	前期のまとめ	前期の学びの振り返りと、夏休みの文献収集・現場調査計画
15	夏課題の共有	夏休みに収集した資料や、スポーツ現場での気づきを報告・共有
16	調査手法の理解(1)	アンケート調査の設計（質問項目の作り方とGoogleフォーム活用）
17	調査手法の理解(2)	インタビュー調査の技法（質問の投げ方と記録の取り方）
18	ミニ・リサーチ(1)	身近な対象（部活動や友人等）への簡易調査・データ収集の実践
19	ミニ・リサーチ(2)	データの整理とクリーニング（数値入力や発言のテキスト化）
20	データ分析の基礎	平均・相関などの基本的な読み解きと、エクセルでのグラフ作成
21	結果の解釈と記述	グラフから読み取れる「事実」を、客観的に文章化する練習
22	プレゼン技法(1)	視覚的に伝わるスライドデザインと、論理的な構成案の作成
23	プレゼン技法(2)	模擬プレゼン（リハーサル）と話し方・態度のフィードバック
24	プロポーザル作成(1)	4年次の研究論文に向けた「研究計画書（プロポーザル）」の起稿
25	プロポーザル作成(2)	ピア・レビュー（互いの計画書の読み合わせと建設的な助言）
26	最終報告会(1)	1年間の成果と、来年度の研究論文構想のプレゼンテーション
27	最終報告会(2)	活発な質疑応答を通じた、研究テーマの妥当性と論理の最終確認
28	年間の総括	ポートフォリオ（成果物）の整理と、4年次への課題整理
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠ（基礎）では、教科書分析をもとにした英語学習教材について広く学び、自分の探究したいテーマと具体的な教材を試作する。

<授業の到達目標>

1. 教科書で扱われている題材をテーマをもとに分析することができる。2. 思考力の育成の観点から教材を分析することができる。3. 国内外の現在の社会問題に関するボランティアプログラムに参加することができる。4. 自分が経験したボランティア活動をもとに教材を開発することができる。

<授業の方法>

(1)講義（教員による解説と問いの提示）(2)グループワーク（教材分析に関する協働学習）(3)ディスカッション（教材の在り方に関する意見交換）(4)省察活動（まとめと発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。各自のテーマに関するグループ内での意見交換、ボランティア活動参加、プレゼンテーション（進捗情報に関する発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（1時間程度）・国内外の社会問題をネット情報を中心に検索し情報収集する（毎週30分程度）・教科書で扱われているトピックをリストアップする（毎週30分程度）復習・学習指導要領が求めている外国語教育に照らして、各教科書が選定したトピックの傾向をまとめる。・国内外の社会問題ボランティア活動参加を検索したうえで参加計画を立てる。・参加予定のボランティア活動参加に必要な知識・スキルの向上に努める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することが出来る。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ボランティア活動参加 30% 発表30% 教材開発 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎1	論文の検索と内容理解1
3	研究の基礎2	論文の検索と内容理解2
4	教科書分析1	教科書のトピック・テーマごとの分類1
5	教科書分析2	教科書のトピック・テーマごとの分類2
6	教科書分析3	教科書のトピック・テーマごとの分類3
7	教科書分析4	教科書のトピック・テーマごとの分類4
8	社会問題1	国内外の社会問題の検索1
9	社会問題2	国内外の社会問題の検索2
10	社会問題3	国内外の社会問題の検索3
11	教材開発1	教科書に載せるべき社会問題の検討1
12	教材開発2	教科書に載せるべき社会問題の検討2
13	教材開発3	教科書に載せるべき社会問題の検討3
14	発表1	教科書に載せるべき教材の試作発表1
15	発表2	教科書に載せるべき教材の試作発表2
16	ボランティア活動参加1	ボランティア活動参加と報告1
17	ボランティア活動参加2	ボランティア活動参加と報告2
18	ボランティア活動参加3	ボランティア活動参加と報告3
19	ボランティア活動参加4	ボランティア活動参加と報告4
20	ボランティア活動参加5	ボランティア活動参加と報告5
21	教材開発1	トピック・テーマの選定と技能育成の問題作成1
22	教材開発2	トピック・テーマの選定と技能育成の問題作成2
23	教材開発3	トピック・テーマの選定と技能育成の問題作成3
24	教材開発4	トピック・テーマの選定と技能育成の問題作成4

25	教材開発 5	トピック・テーマの選定と技能育成の問題作成 5
26	発表 1	開発した教材の紹介 1
27	発表 2	開発した教材の紹介 2
28	発表 3	開発した教材の紹介 3
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	品田 直宏			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、スポーツコーチング・トレーニングの方法および研究について学ぶことで、課題解決への糸口を見出すことである。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養、非認知能力をグループワークを通じ高め、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求し、発表するといった内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求し発表する、論理的思考能力を力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実践的に動くような授業を行なうことがある

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学・コーチングに関する調査・研究の課題発表 50%、レポート課題50%で評価する。

<教科書>

必要に応じて

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	「スポーツコーチング」について	「コーチング」とは何かについて学ぶ
3	研究の種類、方法、事例研究について	研究の方法、実施手順説明、および論文の書き方
4	「スポーツパフォーマンス研究」について	スポーツパフォーマンス研究についての説明、および論文検索
5	「トレーニング」について	「トレーニング」について、原理原則に基づくトレーニング方法および文献紹介
6	「プライオメトリックトレーニング」について	「プライオメトリックトレーニング」の方法および文献紹介
7	文献研究①	文献の探し方
8	垂直跳躍能力の測定方法	マットスイッチを用いた垂直跳躍運動能力の測定方法および測定
9	文献研究②	論文抄読
10	「バネ」とはなにか	「バネ」とは何か、測定した垂直跳躍運動能力から討論および考察を行う
11	文献研究③	論文抄読
12	「コントロールテスト」について	「コントロールテスト」の意義および測定方法、論文紹介
13	文献研究④	論文抄読
14	討論	自身の興味のある研究テーマについて討論を行う
15	文献研究⑤、スライド作成	自身の興味のある研究テーマについて、文献研究を行いスライドを作成を進める。
16	文献研究⑥、スライド作成	自身の興味のある研究テーマについて、文献研究を行いスライドを作成を進める。
17	文献研究⑤	論文抄読
18	「チームマネジメント」について	「チームマネジメント」の方法および事例の紹介を行う
19	文献研究⑥	論文抄読

20	測定データの取り扱い方	測定したデータの取り扱い方について、エクセルを用いたグラフの作成方法や統計について学ぶ
21	文献研究⑦	論文抄読
22	卒論に向けたテーマについて考える	卒論に向けたテーマについての討論を行う
23	文献研究⑧	論文抄読
24	文献研究発表準備①	これまで読んできた論文の内容に関する発表準備①
25	文献研究⑨	論文抄読
26	文献研究発表準備②	これまで読んできた論文の内容に関する発表準備②
27	文献研究発表準備③	これまで読んできた論文の内容に関する発表準備③
28	文献研究発表	スライドを用い、文献研究を発表する。
29		
30		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	大野 呂 浩志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

3年次には、特別支援教育やインクルーシブ教育の観点から、特別な教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援や、特別な教育的ニーズのある児童生徒とない児童生徒の双方を含んだ学級全体の指導・支援について、先行研究や関連する文献を渉猟することを授業の基調にする。文献を渉猟した結果得られた知見について、自分なりの指針をもって整理する能力の養成とともに、整理した内容をわかりやすく説明する能力や説明を聞いたり、事前に読んだ資料から、指針やテーマに沿った質問や意見を発表する能力も養成する。

<授業の到達目標>

(1) 文献の内容を精確に読解できる。(2) 他者の意見を十分に理解することができる。(3) 自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる。(4) 特別な教育的ニーズに関する広い知見を用いて現実的問題を整理し、次世代を展望しようとする態度を養うことができる。

<授業の方法>

自分の設定したテーマに関連する文献の講読を基調とする。講読した文献から得られた知見を資料としてまとめ、そのレジュメに基づいた自らの論文に関する議論を行うことで、論理的思考を鍛錬する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：毎回、自らの論文に関連するあらたな文献を講読し、得られた知見を論文に反映させ、全体としてどのような知見が得られたことになるか、今後の課題について、報告できるようにレジュメに整理する（毎回事前に3-4 時間）事後学習：授業で深められた知見を整理し、卒業論文の構想や文章に反映する（毎回事後に1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	特別支援教育の現状について整理し、その課題の具体について理解する。先行研究に関する調査の仕方や表記の基礎について理解する。
2	特別支援教育の現状と課題	特別支援教育の現状について、幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校、大学における特別支援教育の現状と課題について報告し、内容について議論する。
3	研究の方向性の検討	特別支援教育の現状と課題及び自らの将来的な就労イメージを踏まえ、自らが2年間で深めようとする研究の方向性を定める。
4	研究の方向性発表準備	自分の研究の方向性について、仮テーマと仮の問題提起をもって、発表し、発表内容について議論する。
5	文献抄読 1	知的障害特別支援学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
6	文献抄読 2	肢体不自由特別支援学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
7	文献抄読 3	病弱教育に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
8	文献抄読 4	聾教育における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
9	文献抄読 5	盲教育における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
10	文献抄読 6	幼稚園・保育所における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う
11	文献抄読 7	小学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジュメを中心に議論を行う

		う
12	文献抄読 8	中学校・高等学校における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
13	文献抄読 9	大学における特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
14	論文の中間発表	各自の論文の中間発表を行う
15	イントロダクション②	研究法について理解する
16	文献抄読 1 0	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する①
17	文献抄読 1 1	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する②
18	文献抄読 1 2	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する③
19	文献講読 1 3	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する④
20	文献抄読 1 4	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑤
21	文献抄読 1 5	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑥
22	文献抄読 1 6	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑦
23	文献講読 1 7	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑧
24	文献抄読 1 8	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑨
25	文献抄読 1 9	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑩
26	文献抄読 2 0	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑪
27	論文（ゼミ内）検討会	作成した論文について、レジメにまとめ、設定された時間内に発表し、内容や発表の仕方について議論する。
28	論文発表会	論文発表を行う
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	河端 隆志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、テーマに沿った研究あるいは論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて意見をまとめ、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：該科目の学習にあたり、各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。復習：次回授業に向けて、進捗状況の報告準備をする（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%、中間発表 20%、論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	研究課題の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	研究課題の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	研究課題の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	研究課題の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	研究課題の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	研究課題の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	研究課題の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

16	研究課題の遂行とその報告⑨	りよいものにする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	研究課題の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	研究課題の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑫	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究論文最終確認①	各自の研究成果の発表
26	研究論文最終確認②	各自の研究成果の発表
27	研究論文最終確認③	各自の研究成果の発表
28	1年間のまとめ	1年間の研究課題の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解できるようになる。レポート発表及びディスカッションができるようになる。研究レポート・論文作成の基本を身に付けている。研究を論文としてまとめ、その発表ができるようになる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有研究分野に応じた分析方法の検討や先行研究の発表及びディスカッションを行います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：進捗状況の報告準備をする（1.5時間程度）。事後学習：各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1.5時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究

16	課題研究の遂行とその報告⑩	をよりよいものにする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	論文最終確認①	各自の研究成果の発表
27	論文最終確認②	各自の研究成果の発表
28	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	戸田 晃大			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、テーマに沿った研究あるいは論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて意見をまとめ、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：該科目の学習にあたり、各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。復習：次回授業に向けて、進捗状況の報告準備をする（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%、中間発表 20%、論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	研究課題の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	研究課題の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	研究課題の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	研究課題の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	研究課題の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	研究課題の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	研究課題の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよ

16	研究課題の遂行とその報告⑨	りよいものにする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	研究課題の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	研究課題の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑫	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究論文最終確認①	各自の研究成果の発表
26	研究論文最終確認②	各自の研究成果の発表
27	研究論文最終確認③	各自の研究成果の発表
28	1年間のまとめ	1年間の研究課題の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

15	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
26	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
28	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、テーマに沿った研究あるいは論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて意見をまとめ、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：該科目の学習にあたり、各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。復習：次回授業に向けて、進捗状況の報告準備をする（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%、中間発表 20%、論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	研究課題の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	研究課題の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	研究課題の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	研究課題の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	研究課題の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	研究課題の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	研究課題の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよ

16	研究課題の遂行とその報告⑨	りよいものにする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	研究課題の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	研究課題の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑫	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究論文最終確認①	各自の研究成果の発表
26	研究論文最終確認②	各自の研究成果の発表
27	研究論文最終確認③	各自の研究成果の発表
28	1年間のまとめ	1年間の研究課題の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする（なお、テーマ設定を再考してもらってもかまわない）。

<授業の到達目標>

1. 自らの研究テーマに関連する資料の検索・収集・分析を的確に行い、適切な研究手法を実証的なプロセスにおいて活用できる。
2. 研究の各過程において、高度なリサーチ・リテラシー（課題発見力、データ分析力、論理的思考力等）を主体的に発揮できる。
3. 2年間の研究成果を論理的な構成のゼミ論文（または制作物）としてまとめ、他者に対して分かりやすく発表・説明できる。

<授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。研究課題を変更する場合は、教員と相談しながら、ゼミナールⅠとの関連性を意識しながらおこなう。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う 報告者の内容について、聞き手は質疑を行い、報告者は応答し、対話を通じて問いを深めていく

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 各自の研究テーマに即した文献購読や調査・実験の準備を継続的にを行い、進捗報告やディスカッションのための発表資料を作成して授業に臨む（2時間程度）。事後学習： 授業での質疑応答や個別指導の内容を振り返り、指摘事項を研究計画や執筆中の論文・制作物に反映させ、次回の学修計画を策定する（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度・意欲 30%、期末課題（ゼミ論文・制作物等） 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）

14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
16	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
17	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
18	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
19	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第5回目)
20	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第2回)
22	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第3回)
23	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
25	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
26	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
27	最終確認	仕上がりつつある研究成果の最終の点検を行う。
28	2年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける2年間の取り組みについてのまとめを行う。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	前田 一誠			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする（なお、テーマ設定を再考してもらってもかまわない）。

<授業の到達目標>

1. 自らの研究テーマに関連する資料の検索・収集・分析を的確に行い、適切な研究手法を実証的なプロセスにおいて活用できる。
2. 研究の各過程において、高度なリサーチ・リテラシー（課題発見力、データ分析力、論理的思考力等）を主体的に発揮できる。
3. 2年間の研究成果を論理的な構成のゼミ論文（または制作物）としてまとめ、他者に対して分かりやすく発表・説明できる。

<授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。研究課題を変更する場合は、教員と相談しながら、ゼミナールⅠとの関連性を意識しながらおこなう。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う 報告者の内容について、聞き手は質疑を行い、報告者は応答し、対話を通じて問いを深めていく

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 各自の研究テーマに即した文献購読や調査・実験の準備を継続的にを行い、進捗報告やディスカッションのための発表資料を作成して授業に臨む（2時間程度）。事後学習： 授業での質疑応答や個別指導の内容を振り返り、指摘事項を研究計画や執筆中の論文・制作物に反映させ、次回の学修計画を策定する（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度・意欲 30%、期末課題（ゼミ論文・制作物等） 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）

14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
16	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
17	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
18	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
19	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第5回目)
20	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第2回)
22	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第3回)
23	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
25	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
26	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
27	最終確認	仕上がりつつある研究成果の最終の点検を行う。
28	2年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける2年間の取り組みについてのまとめを行う。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	高橋 章二			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は教育経営学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、初等教育及び特別支援教育の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、現代の教育の現状をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

<授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を身に付けることができることを目指します。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を身に付けることができる。2. 教育課題に関する調査・研究を通して、初等教育の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につけることができる。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

各卒論テーマに基づく研究の進捗状況を毎時間発表し、できた課題についてゼミ参加者全員で協議、議論を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、初等教育、特別支援教育に関する専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間（4時間）。実践力養成に必要な自主学習（4時間）を必ず行ってください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

取り組みの姿勢と受講態度・意欲40%、最終課題60%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミ活動について	ゼミナールの目的と進め方
2	研究課題の設定①	研究課題の確認及び研究方法の検討
3	研究課題の設定②	研究課題の確認及び研究方法の検討
4	研究課題に関連する文献講読①	特別支援学校の授業づくりに関する文献を購読し、全体で協議をしながら授業づくりにおける課題等について議論を深める
5	研究課題に関連する文献講読②	特別支援学校の授業づくりに関する文献を購読し、全体で協議をしながら授業づくりにおける課題等について議論を深める
6	研究課題に関連する文献講読③	特別支援学校の授業づくりに関する文献を購読し、全体で協議をしながら授業づくりにおける課題等について議論を深める
7	研究課題に関連する文献講読④	特別支援学校の授業づくりに関する文献を購読し、全体で協議をしながら授業づくりにおける課題等について議論を深める
8	研究課題に関連する文献講読⑤	特別支援学校の授業づくりに関する文献を購読し、全体で協議をしながら授業づくりにおける課題等について議論を深める
9	課題研究の遂行①	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
10	課題研究の遂行②	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
11	課題研究の遂行③	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
12	課題研究の遂行④	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
13	課題研究の遂行⑤	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
14	課題研究の遂行⑥	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
15	課題研究の遂行と報告①	各自の研究課題解決の進捗状況について報告をし、他の学生からの意見をもらいながら内容の精査及び深化を図る。
16	課題研究の遂行と報告②	各自の研究課題解決の進捗状況について報告をし、他の学生からの意見をもらいながら内容の精査及び深化を図る。

17	課題研究の遂行と報告③	各自の研究課題解決の進捗状況について報告をし、他の学生からの意見をもらいながら内容の精査及び深化を図る。
18	課題研究の遂行と報告④	各自の研究課題解決の進捗状況について報告をし、他の学生からの意見をもらいながら内容の精査及び深化を図る。
19	課題研究の遂行と報告⑤	各自の研究課題解決の進捗状況について報告をし、他の学生からの意見をもらいながら内容の精査及び深化を図る。
20	課題研究のまとめ①	論文執筆の基礎 論文構成の仕方
21	課題研究のまとめ②	論文執筆の基礎 論文の書き方
22	課題研究のまとめ③	進めてきた課題研究を論文としてまとめていく。また、個々の進捗状況を報告するとともに、まとめていく上での困難さ等について適宜アドバイスを行っていく。
23	課題研究のまとめ④	進めてきた課題研究を論文としてまとめていく。また、個々の進捗状況を報告するとともに、まとめていく上での困難さ等について適宜アドバイスを行っていく。
24	課題研究のまとめ⑤	進めてきた課題研究を論文としてまとめていく。また、個々の進捗状況を報告するとともに、まとめていく上での困難さ等について適宜アドバイスを行っていく。
25	課題研究のまとめ⑥	進めてきた課題研究を論文としてまとめていく。また、個々の進捗状況を報告するとともに、まとめていく上での困難さ等について適宜アドバイスを行っていく。
26	研究課題の深化①	研究の結果の発表及び研究成果を今後どのように生かすのかの検討を行う。
27	研究課題の深化②	研究の結果の発表及び研究成果を今後どのように生かすのかの検討を行う。
28	2年間のまとめ	ゼミナールⅠ・Ⅱのまとめ・総括を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、学生が3年次にそれぞれ設定した研究課題について研究を進めていくことを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる汎用スキルとして高度なリサーチ・リテラシーを身につけている 2. 英語教育において、自身の興味関心がある分野の専門的知識を身につけている 3. 自ら設定した研究課題に対する答えにたどりつき、研究成果を論文・制作物としてまとめ発表できる

<授業の方法>

(1) 発表（学生による説明と問いの提示）(2) ディスカッション（問いに対する回答）(3) 省察活動（まとめと発表）(4) 個別指導

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 グループワーク（学習内容に関する教え合い）・ディスカッション（問いに対する考えの共有）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、論文への取り組み 70%

<教科書>

<参考書>

浦野研ほか（2016） はじめての英語教育研究：押さえておきたいコトとポイント 研究社

APA（米国心理学会）（2022） APA論文作成マニュアル第7版

竹内理・水本篤ほか（2023） 外国語教育研究ハンドブック【増補版】— 研究手法のより良い理解のために 松柏社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
8	課題研究の遂行とその報告2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	2年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける2年間の取り組みについてのまとめを行う。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

<授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

受講生同士で課題を分析・議論し、解決策を導く「グループディスカッション」や「ケーススタディ」を通じて主体的な思考力と実践力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツ科学の専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間（4時間）。実践力養成に必要な自主学習（7時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実践力養成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%。最終課題 50%。

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1) 学校教育の現状と展望
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2) 体育を専門とする教員に求められる専門性とその可能性
3	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3) 国内外の授業方法の発展と現在（生徒指導を中心に）
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4) 国内外の授業方法の発展と現在（生徒指導を中心に）
5	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5) 教職のキャリア開発（養成・採用・研修の実際と課題）
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1) 一般行政系公務員の職務と専門性
7	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2) 一般行政系公務員の職務と専門性
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3) 公安系公務員（消防）の職務と専門性
9	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座(4) 公安系公務員（警察）の職務と専門性
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5) 公安系公務員（自衛官）の職務と専門性
11	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1) 業種・業界の研究

12	リア教育(11) 体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2) 職種・職務の研究
13	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3) 外資系企業の研究
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4) 体育・スポーツ系の業種・業界の研究
15	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(15)	企業人養成に向けた講座(5) 体育・スポーツを学んだ者の強みと弱点
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(16)	実践力養成に向けた講座(1)
17	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(17)	実践力養成に向けた講座(2)
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(18)	実践力養成に向けた講座(3)
19	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(19)	実践力養成に向けた講座(4)
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(20)	実践力養成に向けた講座(5)
21	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(21)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(1) 一般企業での体験活動
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(22)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(2) 消防学校での体験活動
23	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(23)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(3) 中・高等学校教育の観察参与
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(24)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(4) スポーツ業界の学内インターンシップ
25	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(25)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(5) 体験活動の振り返りと総括
26	キャリア教育のまとめ(1)	2年間のキャリア教育を通じた総括(1) 2年間で実施した内容の振り返り
27	キャリア教育のまとめ(2)	2年間のキャリア教育を通じた総括(2) 卒業後の進路の現状と展望の確認
28	キャリア教育のまとめ(3)	2年間のキャリア教育を通じた総括(3) 体育・スポーツを学んだ意義と今後のキャリアの接点の確認
29	キャリア教育のまとめ(4)	2年間のキャリア教育を通じた総括(4) 将来のキャリアの展望と現在の課題の確認
30	全体のまとめ	2年間のゼミナールを通じた総括

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (1)	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (2)	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (3)	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (4)	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (5)	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (6)	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (7)	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (8)	栄養調査の実践発表
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (9)	献立の作成
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (10)	献立の作成

12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (11)	調理実習
13	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (12)	調理実習
14	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価 (13)	献立作成・調理実習のまとめ
15	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(1)	文献の探し方・読み方
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読(1)
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読(2)
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読(3)
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読(4)
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ(1)
21	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ(2)
22	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(1)	研究計画の作成(1)
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(2)	研究計画の作成(2)
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(3)	研究計画の発表
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(4)	研究計画の考察
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(5)	実験・測定・調査の実施
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(6)	実験・測定・調査のデータ分析および発表
28	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査(7)	実験・測定・調査のデータ分析および発表
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	三堀 仁			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、前年度のゼミナールⅠ（基礎）を踏まえ、社会人、とりわけ教職に就くことを目指す学生に実践力を身に付けさせることをねらいとしたものである。教師として、子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長を目指した生涯学習力を身に付けさせることを重視している。また、修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取り組み、解決できる力を身に付けることも目指している。授業は演習を中心に行う。

<授業の到達目標>

- ①教職につくための規範意識、使命感、責任感を持つことができる。②他者と協働して課題解決する力を身に付けることができる。③学校現場で即戦力として活躍できるような教師としての指導力を身に付けることができる。

<授業の方法>

基本的に演習の形態をとる。自分なりの考えをもってグループ協議にのぞみ、他者の意見を取り入れながらよりよい答えを導き出すような場面を設定する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業の中で、グループ協議を通して自分の考えを深めたり模擬授業を通して自ら課題を見つけ改善したりすることができるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分なりに問題意識を持ち、質問や問題提起できるように準備しておく（1時間程度）。授業後は学んだことを模擬授業や日々の実践に生かすことができるように振り返りを行う（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4およびディプロマポリシー1と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（40％）、課題提案内容・意見交換（30％）、レポート・提出物（30％）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの活動について	ゼミの活動について話し合い共有する。
2	場面指導について	学校現場で見られる「場面指導」をテーマにした話し合いの方法を理解する。
3	模擬授業について	小学校の各教科の模擬授業の実施方法について話し合い共有する。
4	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
5	模擬授業	算数（複合図形の授業を例に）
6	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
7	模擬授業	国語（ポスターを読み取る授業を例に）
8	教育課題をテーマにした場面指導	保護者対応の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
9	模擬授業	算数（わり算の授業を例に）
10	教育課題をテーマにした場面指導	保護者対応の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
11	模擬授業	国語（漢字の成り立ちの授業を例に）
12	教育課題をテーマにした場面指導	緊急対応時の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
13	模擬授業	算数（小数の授業を例に）
14	教育課題をテーマにした場面指導	緊急対応時の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
15	模擬授業	国語（俳句の授業を例に）
16	教育課題をテーマにした場面指導	職場内での「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
17	模擬授業	社会（市の移り変わりの授業を例に）
18	教育課題をテーマにした場面指導	職場内での「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
19	模擬授業	理科（空気と水の授業を例に）
20	教育課題をテーマにした場面指導	地域連携の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
21	模擬授業	生活（動くおもちゃを例に）
22	教育課題をテーマにした場面指導	地域連携の「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
23	模擬授業	学級活動の時間を例に
24	教育課題をテーマにした場面指導	支援が必要な児童への「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
25	模擬授業	道徳の時間を例に

26	教育課題をテーマにした場面指導	支援が必要な児童への「場面指導」について話し合い、考えをまとめる。
27	模擬授業	総合的な学習の時間を例に
28	ゼミナールのまとめ	ゼミナールのまとめをするとともに、今後の社会人としての生活に意欲を持つ。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	中安 翼			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、前年度のゼミナールⅠ（基礎）を踏まえ、社会人となる学生に実践力を身につけさせることをねらいとしている。とりわけ教職に就くことを目指す学生は、教師としての使命感と責任感をもち、現代の教育課題について思考を深め、ゼミの中での議論を通して、課題に積極的に取り組み解決できる力を身につけることも目指している。前半は演習を中心に行い、後半は個人研究（ゼミ論）を完成させるための活動を行う。

<授業の到達目標>

1. 社会人としての規範意識や使命感を持ち、現代の教育課題を多角的に分析し説明できる。2. 他者との協働を通じ、集団の課題を積極的に解決できる。3. 論文の作成方法を正しく理解し、適切な形式で個人研究（ゼミ論）を完成させ、発表できる。本授業は、学科のDP3（課題解決）およびDP4（地域課題への参画）に関連しています。

<授業の方法>

演習が中心となる。自分の考えをもち、グループで協議する。後半は個人研究について発表し合い、他者の意見を取り入れつつ、自分の研究をより深めていく。合同ゼミを設定し、個人研究について発表し合う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ協議と発表、パワーポイントを使用しての発表など

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、ボランティアや実習等の体験から自身の問題意識を整理し、ゼミでの協議に向けた問題提起や質問を準備する（1時間程度）。事後学習として、授業での議論や指導内容を振り返り、模擬授業の改善や個人研究の執筆・修正に継続的に取り組む（2時間程度）。特に後半期は、計画的に論文作成を進める習慣を身につける。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができると）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（40％）、課題提案内容・意見交換（30％）、レポート・提出物（30％）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミ活動について	ゼミの活動について話し合う。
2	ゼミ論に向けて	個人研究に関しての日常の取り組みについて理解する。
3	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
4	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
5	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
6	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
7	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
8	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
9	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
10	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
11	体験的活動・調査活動	体験的活動・調査活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
12	ゼミ論の構想	体験的活動を遠して考えを深め、自分の意見をまとめる。
13	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、個人研究の取り組みの経過を発表する。
14	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、個人研究の取り組みの計画をまとめる。
15	ゼミ論の概要	ゼミ論文の概要を考える。
16	ゼミ論文の章立て	ゼミ論文の章立てを考える。
17	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
18	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
19	ゼミ論中間発表会	共同ゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。他の人の発表を聞き感想を述べる。
20	ゼミ論中間発表会	共同ゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。他の人の発表を聞き感想を述べる。
21	ゼミ論文への取り組み	中間発表会で指導された点に留意してゼミ論文を執筆する。

22	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
23	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
24	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
25	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。ゼミ論発表会に向けて準備する。
26	ゼミ論発表会	ゼミ論文を発表する。
27	ゼミ論発表会	ゼミ論文を発表する。
28	ゼミナールのまとめ	ゼミナールのまとめをするとともに、今後の社会人として生活に意欲をもつ。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有基本的に自身で調べてプレゼンテーションを用意し、ゼミ内で発表し、ディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（２～３時間）。調査・研究する課題の発表準備及び振り返りをする（３時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー１（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組(グループへの貢献度含む)50%、課題 50%なお、ゼミ論文を提出することを必須とする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期に向けての課題
16	卒業研究① ゼミ論	本実験
17	卒業研究② ゼミ論	本実験
18	卒業研究③ ゼミ論	本実験
19	卒業研究④ ゼミ論	本実験
20	卒業研究⑤ ゼミ論	本実験
21	卒業研究⑥ ゼミ論	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑦ ゼミ論	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑧ ゼミ論	進捗発表 ディスカッション

24	卒業研究⑨	ゼミ論	卒業論文の書き方
25	卒業研究⑩	ゼミ論	抄録の書き方
26	卒業研究⑪	ゼミ論	論文作成
27	卒業研究⑫	ゼミ論	論文作成
28	ゼミ内研究発表会	ゼミ論	統括
29			
30			

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	品田 直宏			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目はスポーツにおけるコーチングを理解し、よりよいコーチになる為の基礎的知識と専門的知識の習得を行うと共に、自身が専門とする競技への理解を深めていく。また、得た知識を適切な方法で他者へと伝える方法を学んでいく。そのため、①『スポーツ科学をもとにした課題発見・知識の習得』②『それらを適切に伝え、実践力を養成する』内容とし、授業を展開する。

<授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、スポーツコーチングにおける理解を深め、専門種目におけるパフォーマンス構造を理解すると共に、それらを高める方法、およびコーチング能力を高め、自身が実践できるだけでなく、他者に対して適切なコーチングを実践できるようになることを目標としている。

<授業の方法>

専門誌や論文の抄読、グループワークを中心に展開する。専門的な機器を扱い、パフォーマンスの測定やデータの分析も行い、課題発表を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実践的に身体を動かすこともある

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自身の専門とする競技種目に関する専門的知識およびトレーニング方法やパフォーマンス構造を十分理解する為に、専門誌や論文を予習・復習として抄読すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、中間課題 30%、ゼミ論文発表50%。

<教科書>

特になし

<参考書>

日本コーチング学会（2017/4/4） コーチング学への招待 大修館書店

福永 哲夫（著）、山本 正嘉（著）(2018/10/1) 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方（体育・スポーツ・健康科学テキストブックシリーズ） 市村出版

高松 薫（2021/3/22） 競技スポーツにおけるコーチング・トレーニングの将来展望：実践と研究の場における知と技の好循環を求めて 筑波大学出版会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツコーチングの理解	スポーツにおけるコーチング方法の理解と実例紹介
2	専門種目におけるパフォーマンス構造①	各々が専門とする競技におけるパフォーマンス構造の理解とそれらを高める為の方法を考える
3	専門種目におけるパフォーマンス構造②	各々が専門とする競技におけるパフォーマンス構造の理解とそれらを高める為の方法を考える
4	専門種目におけるパフォーマンス構造(発表)	各々が専門とする競技におけるパフォーマンス構造とそれらを高める方法を発表する
5	スポーツコーチングにおけるハラスメント	スポーツコーチングの現場における様々なハラスメントについて理解する
6	海外におけるスポーツコーチング	海外におけるスポーツコーチングの事例紹介
7	スポーツコーチングに関する先行研究	スポーツコーチングにおける事例研究のまとめ方
8	スポーツコーチングに関する先行研究	スポーツコーチングにおける横断的な研究のまとめ方
9	スポーツコーチングに関する先行研究	スポーツコーチングにおけるインタビュー形式の研究のまとめ方
10	ゼミ論（卒論）のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
11	ゼミ論（卒論）のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
12	ゼミ論（卒論）のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
13	ゼミ論（卒論）のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
14	ゼミ論（卒論）のテーマ決め・論文抄読	論文・専門誌の抄読、スライド作成
15	ゼミ論（卒論）中間発表	ゼミ論（卒論）のテーマの決定・発表

16	体組成の測定	BODPODを用いた体組成の測定方法の理解
17	動作分析①	ジャンプ運動における動作分析
18	動作分析②	疾走動作における動作分析
19	膝関節・股関節筋力の測定	バイオデックスを用いた膝関節・股関節筋力の測定
20	測定データの分析と処理	測定したデータの分析しおよび適切な方法で提示する方法の理解
21	ゼミ論（卒論）の執筆	緒言・方法の執筆
22	ゼミ論（卒論）の執筆	緒言・方法の執筆
23	ゼミ論（卒論）の執筆	緒言・方法の執筆
24	ゼミ論の進捗状況確認	進捗状況の発表および質疑応答
25	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
26	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
27	ゼミ論（卒論）の作成・発表準備	本文執筆・論文抄読・スライド作成
28	ゼミ論（卒論）の発表	スライドを用いたゼミ論の発表
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、前年度のゼミナールⅠ（基礎）を踏まえ、社会人（教職、公務員ほか）となる学生に実践力を身につけさせることをねらいとしている。とりわけ教職に就くことを目指す学生は、教師としての使命感と責任感をもち、現代の教育課題について思考を深め、ゼミの中での議論を通して、課題に積極的に取り組み解決できる力を身につけることも目指している。前半は演習を中心に行い、後半は個人研究（ゼミ論）を完成させるための活動を行う。

<授業の到達目標>

1 社会人となるための規範意識、使命感、責任感をもちることができる。2 他者と協働して課題を解決する力を身につけることができる。3 教師として必要な指導力を身につけることができる。4 論文の作成方法を理解することができる。5 形式を整えて論文を仕上げるることができる。

<授業の方法>

演習が中心となる。自分の考えをもち、グループで協議する。後半は個人研究について発表し合い、他者の意見を取り入れつつ、自分の研究をより深めていく。合同ゼミを設定し、個人研究について発表し合う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ協議と発表、パワーポイントを使用しての発表など

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習】ボランティアや実習、読書など様々な体験から自分なりに問題意識をもち、問題提起や質問ができるように準備する。（1時間）【事後学習】授業後は、学んだことを振り返り、模擬授業や日々の実践に生かすことができるようにする。個人研究については、随時取り組む。（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（40％）、課題提案内容・意見交換（30％）、レポート・提出物（30％）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミ活動について	ゼミの活動について話し合う。
2	ゼミ論に向けて	個人研究に関しての日常の取り組みについて理解する。
3	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
4	教育課題をテーマにした場面指導	学級経営の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
5	教育課題をテーマにした場面指導	教科指導の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
6	教育課題をテーマにした場面指導	教科指導の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
7	教育課題をテーマにした場面指導	読書指導の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
8	教育課題をテーマにした場面指導	保護者対応の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
9	教育課題をテーマにした場面指導	積極的な生徒指導の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
10	教育課題をテーマにした場面指導	学校行事の「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
11	教育課題をテーマにした場面指導	不登校児童に対する「場面指導」について話し合い、考えを深め、自分の意見をまとめる。
12	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、研究テーマ、テーマ設定の理由、取り組み方法を発表する。
13	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、個人研究の取り組みの経過を発表する。
14	ゼミ論の構想	ゼミ論文に向けて、個人研究の取り組みの計画をまとめる。
15	ゼミ論の概要	ゼミ論文の概要を考える。
16	ゼミ論文の章立て	ゼミ論文の章立てを考える。
17	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
18	プレゼンテーションの準備	ゼミ論中間発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする。
19	ゼミ論中間発表会	共同ゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。他の人の発表を聞き感想を述べる。

20	ゼミ論中間発表会	共同ゼミ論中間発表会で、ゼミ論の概要を発表する。他の人の発表を聞き感想を述べる。
21	ゼミ論文への取り組み	中間発表会で指導された点に留意してゼミ論文を執筆する。
22	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
23	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
24	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
25	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論文を執筆する。
26	ゼミ論文への取り組み	ゼミ論発表会に向けて準備する。
27	ゼミ論発表会	ゼミ論文を発表する。
28	ゼミ論発表会ゼミナールのまとめ	ゼミ論文を発表する。ゼミナールのまとめをするとともに、今後の社会人として生活に意欲をもつ。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する。

<授業の到達目標>

課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

<授業の方法>

グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施）省察活動（課題に対するまとめ、論文作成）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、1時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 30%、研究実践レポート 40%、学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展

26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	課題確認を発展12	課題確認を発展
28	プレゼンテーション	プレゼンテーション
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する。

<授業の到達目標>

課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

<授業の方法>

グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施）省察活動（課題に対するまとめ、論文作成）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、1時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 30%、研究実践レポート 40%、学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展

26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	課題確認を発展12	課題確認を発展
28	プレゼンテーション	プレゼンテーション
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	平林 大輔			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する。

<授業の到達目標>

課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

<授業の方法>

グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施）省察活動（課題に対するまとめ、論文作成）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、1時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 30%、研究実践レポート 40%、学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展

26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	課題確認を発展12	課題確認を発展
28	プレゼンテーション1まとめ	プレゼンテーションまとめ
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	高崎 展好			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、音楽表現および演奏制作の実践を通して、音楽表現の可能性や教育的有効性について探究する。合唱・合奏・創作活動などの演奏制作を基盤とした表現活動を学内外で実施し、専門性に裏付けられた創造性、音楽表現力、協働的なコミュニケーション能力の育成を目指す。また、演奏制作活動の企画・運営・発表までの一連のプロセスを経験することにより、表現活動を保育・教育現場に活用するための実践的指導力を身につける。

<授業の到達目標>

本ゼミナールでは、学生全員で演奏制作研究および研究発表（アウトリーチ・コンサート）を実施する。これらの活動を通して、企画・計画・運営に関する実践力を身につけ、学内外における研究発表をもって研究成果としての作品を完成させることを目標とする。ゼミナールⅡ（応用）では、ゼミナールⅠで培った基礎を踏まえ、より専門性の高い合唱・器楽合奏・創作活動を通じた演奏表現研究を行う。これにより、音楽に関する知識・技術・技能の深化を図ると共に音楽表現の可能性および教育的有効性について実践的に明らかにする。なお、ゼミ論文および演奏制作研究発表を総合的な評価対象とする。【到達目標】・音楽表現活動および演奏制作に主体的かつ継続的に取り組むことができる。・合唱・器楽合奏・創作活動を通して、発展的な音楽表現力を身につけることができる。・研究発表（アウトリーチ・コンサート）の企画・運営において、協働的にリーダーシップを発揮することができる。・演奏制作活動の成果をもとに、音楽表現の教育的意義や有効性について論理的に考察し、説明することができる。

<授業の方法>

学生主体の演習形式で授業を行う。演奏技能の向上，作品制作，グループ活動による研究発表準備などを段階的に進める。指導教員はファシリテーターとして助言・技術指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・合唱・合奏・創作活動などの実技演習・研究発表（コンサート）の企画・運営活動・グループ協働による作品制作・発表後の振り返り・相互評価

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回60分以上・配布楽譜の読譜練習・演奏技能向上のための個人練習・研究発表準備（資料作成・打合せ等）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー①「他者と協働し目標達成に取り組む力」および④「地域社会における課題解決に参画する力」の育成と関連する。演奏制作研究や研究発表（アウトリーチ活動）を通して、他者と協働しながら目標達成に取り組む力を養うとともに、地域社会における実践的な表現活動を通して課題解決に参画する力の育成を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%作品制作への取り組み姿勢 30%ゼミ論文または芸術制作研究発表（ゼミ論発表含む） 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的、内容、授業方法、評価の仕方について理解する。
2	研究指導 1	研究テーマの検討・設定研究作品制作指導
3	研究指導 2	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
4	研究指導 3	研究作品制作技術指導
5	研究指導 4	研究作品制作技術指導
6	研究指導 5	研究作品制作技術指導
7	研究指導 6	研究作品制作技術指導
8	研究指導 7	研究作品制作技術指導
9	研究指導 8	研究発表に向けた研究指導
10	研究指導 9	研究発表に向けた研究指導
11	研究指導 10	研究発表に向けた研究指導
12	研究指導 11	研究発表に向けた研究指導
13	研究指導 12	研究発表に向けた研究指導
14	研究成果発表	研究作品の学内外での発表（コンサート）
15	研究指導 13	前期成果の振り返りと課題設定
16	研究指導 14	研究発表企画応用（新規作品構想）

17	研究指導 1 5	作品制作技術発展①
18	研究指導 1 6	作品制作技術発展②
19	研究指導 1 7	作品制作技術発展③
20	研究指導 1 8	作品制作技術発展④
21	研究指導 1 9	研究発表準備⑥（演奏構成改善・教育的意義検討）
22	研究指導 2 0	研究発表準備⑦（通し練習）
23	研究指導 2 1	研究発表準備⑧（運営最終確認・調整）
24	研究指導 2 2	研究発表準備⑨（完成度向上）
25	研究成果発表	後期研究発表（アウトリーチ・コンサート）
26	研究指導 2 3	ゼミ論及びゼミ論（制作作品）発表に向けたスライド資料作成①
27	研究指導 2 4	ゼミ論及びゼミ論（制作作品）発表に向けたスライド資料作成②
28	まとめ	ゼミナール演奏制作研究発表に向けた最終仕上げ・総括
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小川 雄太			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、テーマに沿った研究あるいは論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：各自のテーマについて意見をまとめ、定期的に発表を行いグループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：該科目の学習にあたり、各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。復習：次回授業に向けて、進捗状況の報告準備をする（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%、中間発表 20%、論文 50%卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	研究課題の確認、研究方法の検討	研究課題の確認、研究方法の検討
3	研究課題の確認、研究方法の検討	研究課題の確認、研究方法の検討
4	研究課題の確認、研究方法の検討	研究課題の確認、研究方法の検討
5	研究計画書の作成	研究計画書の作成
6	研究計画書の作成	研究計画書の作成
7	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
8	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
9	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
10	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
11	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
12	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
13	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
14	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
15	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
16	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
17	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
18	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
19	中間発表	中間発表
20	中間発表	中間発表
21	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
22	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
23	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
24	研究課題の遂行とその報告	研究課題の遂行とその報告
25	最終確認	最終確認

26	最終確認	最終確認
27	最終確認	最終確認
28	まとめ	まとめ
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人になれるよう演習形式で実施する。

<授業の到達目標>

課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

<授業の方法>

ゼミナールⅡ(応用)は、グループワーク(専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施)省察活動(課題に対するまとめ、論文作成)を行い能動的な課題解決を図る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(ディスカッション、ディベート、グループワークの方法)5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ(毎回、60分程度) 復習：振り返りレポート(毎回、60分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題 30% 研究実践レポート 40% 学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展

26	課題確認を発展11	課題確認を発展
27	まとめ	まとめプレゼンテーション発表論文修正
28	まとめ	プレゼンテーション発表論文修正まとめ
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	十河 直太			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、仮説に対する研究を行い、ゼミ論文をまとめていく。その後、論文に対する分かりやすいプレゼンテーションを作成し準備していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有単元で学んだ内容についてディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、各進捗を発表資料にまとめる（約2時間）。発表資料に対する今後の対策についてを自分の考えをまとめる（約30分）。最終的にはゼミ論文としてまとめる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実践的な態度50%、自身の研究テーマに関する調査・研究の課題発表50%をもって評価する。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠの振り返りとゼミナールⅡにおける年間の進行方法について
2	研究テーマの探求（1）	研究テーマの見つけ方を学ぶ。
3	研究テーマの探求（2）	研究テーマを模索し決定する。（インターネットでの文献検索）
4	研究テーマの探求（3）	研究テーマを模索し決定する。
5	研究テーマに関する先行研究（1）	先行研究を調べまとめる（文献を検索しドキュメントにまとめる）
6	研究テーマに関する先行研究（2）	先行研究を調べまとめる②（調べた先行研究を発表するためのスライド作成）
7	研究テーマに関する先行研究（3）	先行研究を調べまとめる③（調べた先行研究を発表するためのスライド作成）
8	研究テーマに関する先行研究（4）	先行研究を調べまとめる④（調べた先行研究を発表する）
9	研究テーマに関する先行研究（5）	先行研究を調べまとめる⑤（調べた先行研究を発表する）
10	実験・測定・調査（1）	研究テーマの実験および測定や調査を行う①（研究計画書の作成）
11	実験・測定・調査（2）	研究テーマの実験および測定や調査を行う②（研究計画書の完成）
12	実験・測定・調査（3）	研究テーマの実験および測定や調査を行う③（実験・測定・調査の実施）
13	実験・測定・調査（4）	研究テーマの実験および測定や調査を行う④（実験・測定・調査の実施）
14	中間まとめ	これまでの進捗について中間発表をおこなう
15	研究データや資料のまとめ（1）	測定データや調査資料をまとめる①（表計算ソフトを用いてデータをまとめる）
16	研究データや資料のまとめ（2）	測定データや調査資料をまとめる②（表計算ソフトを用いてデータをまとめる）
17	研究データや資料のまとめ（3）	測定データや調査資料をまとめる③（統計処理）
18	研究データや資料のまとめ（4）	測定データや調査資料をまとめる④（図表の作成）
19	論文作成にむけて	論文作成に向けた流れの確認
20	論文の作成（1）	研究テーマに対する論文を作成する（緒言）
21	論文の作成（2）	研究テーマに対する論文を作成する（緒言のチェックと修正）

22	論文の作成 (3)	研究テーマに対する論文を作成する (方法)
23	論文の作成 (4)	研究テーマに対する論文を作成する (方法のチェックと修正)
24	論文の作成 (5)	研究テーマに対する論文を作成する (結果)
25	論文の作成 (6)	研究テーマに対する論文を作成する (結果のチェックと修正)
26	論文の作成 (7)	研究テーマに対する論文を作成する (考察)
27	論文の作成 (8)	研究テーマに対する論文を作成する (考察のチェックと修正)
28	まとめ	研究論文全体の仕上げを行い提出する
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：参考書や書籍、インターネットを通じてトレーニングならびにスポーツパフォーマンスに関する情報を学習・整理しておくこと。（所要時間：1時間程度）事後学習：グループワークを通じて共有した内容に関して、要点や課題点をまとめておくこと。（所要時間：1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題50%、プレゼン30%、受講態度20%、※ 卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の提出を義務付ける。

<教科書>

<参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版 Book House HD

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期ゼミ論文進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論文進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	まとめ	ゼミナール2と総括と最終論文発表
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	内田 仁志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習、発表	卒業要件	必修

<授業の概要>

本講座は学生の方が将来、社会に出ても通用する実践的な能力を育てることを目標にします。具体的には将来教員になっても本講座で学ぶ国語科の「話す・聞く」と「書くこと」の領域については自信をもって授業ができるような能力を育てることを最終的な目的とします。そのためにプレゼンテーションを取り上げ、説得力のある話し方、資料の選択の仕方、わかりやすい文章構造などを演習を通して実際に学んでいきます。さらに教育現場とも連携を図り、適宜実際の教育現場や学会等にも触れたいと思います。また卒論・ゼミ論の指導、公開研への参加など卒業を見据えた指導も充実します。

<授業の到達目標>

①実際の学校現場を理解し、教員という仕事を理解することができる。②教育現場でのプレゼンテーションの重要性を理解し、研鑽する意欲を持つことができる。③効果的なプレゼンテーションの仕方を理解し、実践することができる。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとります。ゼミという形式の特性を生かし、話し合いの機会を多くします。また適宜、実際の教育現場との連携を図ります。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

模擬授業等を通して・自分で考える→自主的な学習態度・対話活動で池を練り上げる→協調性、自己表現力・自分の意見をまとめる→深い学び この学習サイクルを確立させるようにします。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分のプレゼンテーション発表の前には資料の準備、発表原稿の整理などをする必要があります。発表当日は準備の時間を取らず、発表→話し合いの形式となるので準備はきちんとしておきましょう。（準備については個別で対応します。またネットで対応します）また話し合い後に後日、修正したプレゼンテーションを行うこともあります。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業の単位を取得するためには、以下の要件を満たす必要がある。授業への参加（全15回の授業のうち、3分の2以上の出席が必須）課題の提出（以下の課題を期限内に提出すること）教材分析レポート（読解指導・記述指導・議論指導のいずれか）指導案作成（模擬授業のための指導案を作成し提出）授業リフレクション（各回の学びを振り返り記述）模擬授業の実施（グループまたは個人で指導案を基に模擬授業を行う）期末レポートの提出（授業で学んだ指導法を踏まえ、国語科指導に関する考察を2000字以上で記述）上記の要件をすべて満たした場合

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 30%、小課題（ミニテスト、ミニレポート等）20%、大課題（発表等）50%

<教科書>

内田仁志(2024年8月) 国語教師のための「反論の技術」入門 明治図書

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの目的や進め方を確認する。評価基準や発表・課題のルールを説明する。今後の学びの目標を設定する。
2	「話す・聞く」スキルの基本	説得力のある話し方や声の出し方を学ぶ。聞き手を意識した話の組み立てを考える。実践を通して話し方の基礎を身につける。
3	教育現場で求められるプレゼンテーションとは	授業におけるプレゼンの役割を理解する。わかりやすく伝えるための工夫を考える。実際の授業動画などを見て分析する。
4	論理的な話し方①：主張と根拠を明確にする	自分の意見を論理的に伝える方法を学ぶ。主張と根拠の関係を整理する練習をする。簡単なスピーチで実践してみる。
5	論理的な話し方②：相手を納得させる展開の工夫	相手の立場を考えた話の組み立てを学ぶ。具体例やデータを使った説得方法を考える。実践的な発表演習を行う。
6	資料の選び方①：視覚的資料の効果的な活用	スライドや板書の役割と活用法を学ぶ。わかりやすい視覚資料のポイントを整理する。自分で資料を作成してみる。
7	資料の選び方②：データや事例の活用	教育現場で使えるデータの選び方を学ぶ。事例を効果的に使う方法を考える。自分のプレゼンに適した資料を作成する。
8	実践演習①：短時間プレゼン（3分間スピーチ）	3分間で要点をまとめる練習をする。聞き手に伝わる話し方を意識する。フィードバックを受けて改善する。
9	実践演習②：論理的な話し方を活かした5	5分間で論理的に話す演習をする。資料を効果的に使うことを意識する。発表後に改

	分間プレゼン	善点を振り返る。
10	教育現場との連携①：実践報告の読み方	教育論文や実践報告の構成を学ぶ。重要なポイントを整理しながら読む。自分の考えをまとめ、意見交換を行う
11	教育現場との連携②：教育現場の課題を考える	教育現場の課題をテーマにグループ討議。フィールドワークの目的や進め方を考える。事前に調査する内容を整理する。
12	「書く」スキルの基本	教育における論述の重要性を理解する。正確で伝わりやすい文章を書く練習をする。自分の考えを論理的にまとめる方法を学ぶ。
13	論理的な文章構成①：序論・本論・結論の組み立て方	文章の基本的な構成を学ぶ。論理的な流れを意識して書く練習をする。短い文章で構成を意識した課題に取り組む。
14	論理的な文章構成②：わかりやすい文章を書くための工夫	文のつながりや表現の工夫を学ぶ。読み手に伝わりやすい文章を意識する。実際に文章を書いてフィードバックを受ける。
15	中間プレゼンテーション：前期の学びのまとめ	前期の学びを整理し、プレゼンで発表する。他者の発表を聞き、良い点・改善点を学ぶ。後期の課題と目標を設定する。
16	教育現場との連携③：授業研究の視点を考える	授業研究の目的や視点を学ぶ。実際の授業映像を見て分析する。自分の指導に活かせる点を整理する。
17	教育現場との連携④：授業記録を基にした分析演習	授業記録の活用方法を学ぶ。教師の指導や児童の反応を分析する。より良い指導方法を考察する。
18	実践演習③：模擬授業の準備	指導案の作成方法を学ぶ。発問の工夫や授業の流れを考える。実際の授業に近い形で準備を進める。
19	実践演習④：模擬授業の実施①（グループ発表）	グループで模擬授業を行う。役割分担をして授業を進める。互いにフィードバックを行い改善する。
20	実践演習⑤：模擬授業の実施②（個人発表）	個人で模擬授業を行う。教材・発問・授業の進め方を工夫する。発表後に振り返りと改善点を整理する。
21	教育現場との連携⑤：教員の実践研究と学会発表の流れ	教員の研究の進め方を学ぶ。学会発表の構成や準備を理解する。研究発表を想定した演習を行う。
22	学会発表の視点と方法	学会発表の要点を整理する。発表の構成や伝え方を学ぶ。研究内容を簡潔にまとめる練習をする。
23	教職実践演習（集中講義参加）	教職実践演習に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
24	教職実践演習（集中講義参加）	教職実践演習に参加する。授業実践や指導の場面を学ぶ。学びを振り返り、今後に活かす
25	公開研究会参加	教育現場の最前線の実践を学ぶ。研究会での発表や討論を経験する。授業改善の視点を深める。
26	公開研究会参加	教育現場の最前線の実践を学ぶ。研究会での発表や討論を経験する。授業改善の視点を深める。
27	公開研究会参加	教育現場の最前線の実践を学ぶ。研究会での発表や討論を経験する。授業改善の視点を深める。
28	まとめ・振り返り	1年間の学びを整理し、振り返る。卒業後の目標の確認
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	田中 耕作			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールは卒業研究へ結びつくテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、課題設定、解決、説明する能力を身につけることが出来るよう学生を支援する。

<授業の到達目標>

本ゼミナールではそれぞれの実験に関する専門的知識、測定技術、およびデータの評価法について理解できるようにする。実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいて、客観的、正確、かつ適切にデータを評価できるようにする。

<授業の方法>

原則として、講義・演習・実技等の形態をとる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり自身が測定したの体力データについてグループでディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、各回のテーマに関連する文献や資料を読み、要点整理を行う（1～2時間程度）。事後学習として、授業内での議論内容を整理し、レポート作成やプレゼンテーションの準備・修正を行う（2～3時間程度）。加えて、他者の発表内容を踏まえ、自身の研究テーマの改善点を明確にする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 50%、課題・レポート 30%、プレゼンテーション能力 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体力学とは	受講上の注意、評価方法、講義の概要を説明した上で、これから研究を進める体力学について講義する。
2	文献研究 (1)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
3	文献研究 (2)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
4	文献研究 (3)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
5	文献研究 (4)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
6	文献研究 (5)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
7	文献研究 (6)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
8	文献研究 (7)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
9	文献研究 (8)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
10	文献研究 (9)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
11	文献研究 (10)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
12	文献研究 (11)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。

13	測定・分析実習 (1)	最大酸素摂取量の測定方法を学ぶ。
14	測定・分析実習 (2)	無酸素性作業閾値の測定方法を学ぶ。
15	測定・分析実習 (3)	乳酸の測定・分析方法を学ぶ。
16	測定・分析実習 (4)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
17	測定・分析実習 (5)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
18	測定・分析実習 (6)	各種ジャンプ能力の測定・分析方法を学ぶ。
19	測定・分析実習 (7)	動作分析の方法を学ぶ。
20	課題研究の進捗状況報告 (1)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
21	課題研究の進捗状況報告 (2)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
22	課題研究の進捗状況報告 (3)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
23	課題研究の進捗状況報告 (4)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
24	課題研究の進捗状況報告 (5)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
25	課題研究の進捗状況報告 (6)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
26	課題研究の進捗状況報告 (7)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
27	課題研究の進捗状況報告 (8)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
28	課題研究のまとめ (1)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールは卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。

<授業の到達目標>

本ゼミナールは4年次段階で実施することから、英語論文を読み、理解できること、その内容をプレゼンテーションできること、および、その問題点を明らかにしたり、その内容からの発展系としての研究をイメージできることを目標とする。

<授業の方法>

原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(プレゼンテーション・ディスカッション) 先行研究をまとめてプレゼンテーションを行い、その内容についてディスカッションする

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマに即したレポート作成、プレゼンテーションの準備等

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)およびディプロマポリシー1(体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 50%、課題・レポート 30%、プレゼンテーション能力 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体力学とは	受講上の注意、評価方法、講義の概要を説明した上で、これから研究を進める体力学について講義する。
2	文献研究 (1)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
3	文献研究 (2)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
4	文献研究 (3)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
5	文献研究 (4)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
6	文献研究 (5)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
7	文献研究 (6)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
8	文献研究 (7)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
9	文献研究 (8)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
10	文献研究 (9)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
11	文献研究 (10)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
12	文献研究 (11)	興味のある分野の英語論文を選び、その内容をレポートおよびパワーポイントにまとめた上で発表する。
13	測定・分析実習 (1)	最大酸素摂取量の測定方法を学ぶ。

14	測定・分析実習 (2)	無酸素性作業閾値の測定方法を学ぶ。
15	測定・分析実習 (3)	乳酸の測定・分析方法を学ぶ。
16	測定・分析実習 (4)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
17	測定・分析実習 (5)	等速性筋力測定器Cybexを用いた様々な筋力測定の方法を学ぶ。
18	測定・分析実習 (6)	各種ジャンプ能力の測定・分析方法を学ぶ。
19	測定・分析実習 (7)	動作分析の方法を学ぶ。
20	課題研究の進捗状況報告 (1)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
21	課題研究の進捗状況報告 (2)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
22	課題研究の進捗状況報告 (3)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
23	課題研究の進捗状況報告 (4)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
24	課題研究の進捗状況報告 (5)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
25	課題研究の進捗状況報告 (6)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
26	課題研究の進捗状況報告 (7)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
27	課題研究の進捗状況報告 (8)	課題研究の進捗状況を報告し、その内容についてディスカッションをおこなう。また、適宜、統計解析についての実習を行う。
28	課題研究のまとめ (1)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
29	課題研究のまとめ (2)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。
30	課題研究のまとめ (3)	パワーポイントを用いて、課題研究を報告する。

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡ(応用)では、『ゼミナールⅠ(基礎)』で深めてきた探究成果(社会人に求められる基礎的知識)を活用して、研究をより高度なレベルに深め、研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題を実践研究論文としてまとめる。さらに、教育学の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識をさらに深め、より高度な問題意識の醸成と実践的な課題解決力の錬磨を目指す。

<授業の到達目標>

『ゼミナールⅠ(基礎)』での学びを基盤として、教育現場における実践を見据えた資質・能力の向上を図る。特に、「考え、議論する道徳」の理念に基づいた授業設計・授業分析の力を養うとともに、道徳教育の全体計画や年間指導計画の立案ができる力量の形成を目指す。

<授業の方法>

本授業では、ゼミ生の個人テーマに基づく探究活動を軸に、レポート作成とディスカッションを往還しながら研究を深化させる。前期はディベートを中心とした探究サイクルにより教育的諸課題への理解を深め、後期は各自の問いを設定して先行研究の分析を踏まえた研究成果の作成と発表を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり・ディベート・ディスカッション・ブレイン・ストーミング・学習指導案制作・模擬授業と質的データの収集 他

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い(情報探索)、その結果を事前にレポートにまとめたり(論点整理)、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習(発表準備等)を1時間、復習(内容の振り返り)を1時間程度求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)およびディプロマポリシー1(体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付ける。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・授業態度等(関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識):30%・研究成果(論文・学習指導案)・レポート・課題の内容、到達度評価(知識・理解):70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ(応用)の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する
2	研究指導Ⅰ－課題の探究活動①	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
3	研究指導Ⅰ－課題の探究活動②	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
4	研究指導Ⅰ－課題の探究活動③	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
5	研究指導Ⅰ－課題の探究活動④	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
6	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑤	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
7	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑥	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
8	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑦	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
9	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑧	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
10	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑨	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
11	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑩	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
12	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑪	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める
13	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表(中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業)①	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表(中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける)をする
14	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表(中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業)②	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表(中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける)をする
15	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表(中間	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表(中間報告、30分/人程度、

	報告ないし学習指導案に基づく模擬授業)	うち10分は仲間から相互評価を受ける) をする
16	③ 研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究①	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める
17	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究②	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める
18	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究③	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める
19	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究④	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める
20	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究⑤	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める
21	研究指導Ⅳ－実践研究論文の書き方講座	実践研究論文の書き方を学ぶ・論文の構造づくり・文章の書き方・接続詞の使い方・引用の方法
22	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化①	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)
23	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化②	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)
24	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化③	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)
25	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化④	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)
26	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化⑤	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)
27	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表(最終報告)①	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する(注:持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける)
28	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表(最終報告)②	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する(注:持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける)
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡ(応用)では、3年生の『ゼミナールⅠ(基礎)』で深めてきた探究成果(社会人に求められる基礎的知識)を活用して、研究をより高度なレベルに深め、研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題を実践研究論文としてまとめる。さらに、教育学の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識をさらに深め、より高度な問題意識の醸成と実践的な課題解決力の錬磨を目指す。

<授業の到達目標>

3年生の『ゼミナールⅠ(基礎)』を発展的に継続して、教育職員に採用された後の皆さんの姿をイメージし、特にこのゼミナール出身者の中から各学校に設置されるミドルリーダー(「道德教育推進教諭」)になれるような資質・能力を形成することを目標としたい。「考え、議論する道德」のアクティブ・ラーニングについて授業設計や授業分析ができるようにテーマ探究をするのはもちろん、やがては道德教育の全体計画や年間指導計画、シラバスの作成等もできるように成長してもらいたい。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマ(3年生:『ゼミナールⅠ(基礎)』の個人テーマ)について、レポート(課題)作成、および、ディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果(実践研究論文)へと集約させる。<参考:3年生:『ゼミナールⅠ(基礎)』の内容>・前期は、道徳的な観点から見た現代社会における教育的諸課題について、賛否両論を踏まえたディベートを行う。講義では2回を1セットにし、①情報収集(知識・技能の習得、ブレイン・ストーミング)→②ディベート(思考力・判断力・表現力等、討議)→③まとめ(学びに向かう力、人間性等)の探究学習のサイクルを回す。・後期は、前期に課題検討し、皆さんが獲得・蓄積した様々な諸課題の中から、自分が深めたいと思った問い(課題)を集中的に探究し、研究成果(レポート、ポスター等)をまとめる。その際、ICT機器を活用して、先行実践研究の検索や分析を行い、論文作成と発表の完成度を上げる。研究成果(論文ないし学習指導案)の完成はもちろん、その内容の学会発表にも果敢にチャレンジしたい。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり・ディベート・ソクラテス的対話によるディスカッション・ブレイン・ストーミング(マトリックス法、SWOT分析、イメージマッピング等)・学習指導案制作・模擬授業と質的データの収集 他

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い(情報探索)、その結果を事前にレポートにまとめたり(論点整理)、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習(発表準備等)を1時間、復習(内容の振り返り)を1時間程度求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)およびディプロマポリシー1(体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・授業態度等(関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識):30%・研究成果(論文・学習指導案)・レポート・課題の内容、到達度評価(知識・理解):70%

<教科書>

柳沼良太(2018年9月20日)『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』株式会社 図書文化社
柳沼良太編(2019年3月30日)『プラグマティズム、公共、道徳』株式会社 あいり出版
柳沼良太著(2016年2月)『問題解決的な学習で創る 道徳授業 超入門』明治図書出版株式会社

<参考書>

田沼茂紀(2022年4月10日)『道徳教育学の構想とその展開』株式会社 北樹出版
木野正一郎著(2025年3月31日)『教材学研究第36巻』「問題解決的で探究的なワークショップ型道徳授業とその再検証」(注:講義にて配布します) 日本教材学会研究紀要委員会
木野正一郎著(2016年3月31日)『早稲田大学大学院教職研究科紀要第8号』「『道徳科』における問題解決ワークショップを用いた小単元構成の授業開発ー『核心的価値(コア・バリュー)』に基づく補充・深化・統合の取り組みを通してー」(注:講義にて配布します) 早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ(応用)の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究指導Ⅰー課題の探究活動①	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
3	研究指導Ⅰー課題の探究活動②	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。

4	研究指導Ⅰ－課題の探究活動③	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
5	研究指導Ⅰ－課題の探究活動④	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
6	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑤	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
7	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑥	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
8	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑦	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
9	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑧	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
10	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑨	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
11	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑩	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
12	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑪	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
13	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）①	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
14	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）②	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
15	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表（中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業）③	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表（中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける）をする。
16	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究①	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
17	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究②	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
18	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究③	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
19	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究④	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
20	研究指導Ⅲ－新たな問い（課題）に関する探究⑤	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い（課題）について情報探索、及び、論点整理を深める。
21	研究指導Ⅳ－実践研究論文の書き方講座	実践研究論文の書き方を学ぶ。・論文の構造づくり（章立てなどの「型」を教えます。）・文章の書き方（英語の五文型を意識した書き方。英語が苦手でも大丈夫です。文章の構造を教えます。）・接続詞の使い方（長文にならないように、上手に接続詞を使う方法を教えます。）・引用の方法（出典の明記と文中への投影方法を教えます。）
22	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化①	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
23	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化②	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
24	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化③	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
25	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化④	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
26	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の論文化⑤	実践研究論文の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報（論点整理などの資料）を根拠に論文をまとめていく（注：最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導（査読）を受けること）。
27	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表（最終報告）①	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する（注：持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける）。
28	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表（最終報告）②	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する（注：持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける）。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ名は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

<授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り各回のグループでディスカッションを行い、共同で課題を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回の授業との関連文献の渉猟（30分） ・データの解析と意味の解釈（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる）およびディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる）と関連付けられる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、実践力養成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%。ただし、ゼミナール課題の提出を単位認定の必須条件とする。

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	実践力養成に向けた講座(1)
2	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
3	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	実践力養成に向けた講座(2)
4	研究課題の決定	研究課題を決定する。
5	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	実践力養成に向けた講座(3)
6	文献調査	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
7	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	実践力養成に向けた講座(4)
8	研究計画の立案	研究課題を解明するために適切な研究計画を立案する。
9	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	実践力養成に向けた講座(5)
10	予備実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験を実施する。
11	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	実践力養成に向けた講座(6)
12	予備実験データの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験で取得したデータを分析する。
13	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	実践力養成に向けた講座(7)

14	本実験Ⅰ	本実験の実施。本実験がない受講生は、検者として参加する。
15	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	実践力養成に向けた講座(8)
16	本実験Ⅱ	本実験の実施。本実験がない受講生は、検者として参加する。
17	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(1)
18	データ分析	本実験で取得したデータを分析する。
19	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(2)
20	データ分析結果の検討	本実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
21	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(3)
22	統計分析	得られた結果を統計学的に分析する。
23	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(4)
24	結果の考察	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察していく。
25	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(5)
26	プレゼンテーション準備	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
27	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(6)
28	研究成果報告会・全体のまとめ	全体のまとめとして研究成果をプレゼンテーションする。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、保育内容健康に関する分野の研究を行う。研究テーマについては、保育内容の中の、運動・睡眠・安全・ケガ・防災などを扱う。そのほかに関しては、教育学学士として相応しい研究テーマであれば認める。

<授業の到達目標>

幼児を取り巻く健康に関する課題に対して、科学的根拠等客観的な視点から調査検討を行い理解を深める。研究するための方法（資料の集め方やまとめ方、研究計画の立て方、調査や実験等の方法、分析、考察等）、論文の書き方の基本を学んだ後、テーマを決めて論文にまとめる。論文執筆における、計画の立案、データの収集方法、分析、作図、執筆の一連の流れに沿った論文の作成ができる。

<授業の方法>

学生が自分の関心にそって研究テーマを決め、資料を集めて整理し発表する。授業は発表とテーマにそったディスカッションが中心となり、学生には自ら学ぶ主体性が必要である。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

プレゼン発表、中間報告

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テーマにそって資料を集めて整理する。授業内で指示する課題についてレポートを作成する。（予習 1 時間） 授業内のディスカッションの要点をまとめる。（復習 1 時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー 1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題の提出と内容 50%、研究論文(ゼミ論文)の内容および発表50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業のすすめ方
2	研究指導1	研究テーマの検討・設定
3	研究指導2	研究テーマの検討・設定
4	研究指導3	研究テーマの検討・設定
5	研究指導4	研究テーマの検討・設定
6	研究指導5	研究のための資料整理
7	研究指導6	研究のための資料整理
8	研究指導7	研究のための資料整理
9	研究指導8	研究のための資料整理
10	研究指導9	研究発表に向けた研究指導
11	研究指導10	研究発表に向けた研究指導
12	研究指導11	研究発表に向けた研究指導
13	研究指導12	研究発表に向けた研究指導
14	研究指導13	研究発表準備
15	中間研究発表	研究のアウトライン、研究の中間発表。
16	研究指導14	研究方法について
17	研究指導15	研究方法について
18	研究指導16	研究方法について
19	研究指導17	研究発表に向けた研究指導
20	研究指導18	研究発表に向けた研究指導
21	研究指導19	研究発表に向けた研究指導
22	研究指導20	研究発表に向けた研究指導
23	研究指導21	研究発表に向けた研究指導
24	研究指導22	研究発表に向けた研究指導

25	研究指導23	研究発表に向けた研究指導
26	研究指導24	研究発表に向けた研究指導
27	研究指導25	研究発表準備
28	研究発表	研究結果を発表する
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大久保 諒			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、発達科学的な観点から、教育（学校教育だけでなく、幼児教育や保育も含む）の実践に役立つ文献研究・理論研究（研究資料の探索と活用）の基本を学習する。その上で、各自の興味・関心に基づき、1つの研究テーマを探究する課題の完遂するために、データの収集方法や統計学的基礎、科学的な論文調の文章構成方法など、必要なスキルの習得を目指す。

<授業の到達目標>

① 教育の実践と発達科学的な研究のつながりを説明できるようになる。② 教育の実践に活きる研究テーマを見つけ出せるようになる。③ 研究資料を調べて、レジュメへまとめ、発表できるようになる。④ 自らの関心に基づき、研究を進めるために必要な統計学等のスキルを身につける。⑤ 自らの作業の成果の有用性や改善点・修正点を教育の実践の場で検討できるようになる。

<授業の方法>

前半は、発達科学的な考え方に親しみながら、自分の関心のある研究分野の文献を探索・理解する方法と、その関心に基づいて、自分自身で研究を遂行するために必要となるデータの収集・分析の方法を学習する。前半のまとめとして、自分が探求しようとする問題を説得的に文書へ記し、問題を検討するために必要となるデータを収集する。後半は、前半の学習内容を活かし、自分自身で具体的に研究を遂行していく。文献研究を重ね、収集したデータを分析し、発達科学的、かつ論理的に妥当な結論を導くことを試みていく。後半のまとめとして、一連の研究手続き・成果を説得的に文書にまとめ、発表する。※ なお、ゼミナールの進行においては、Google Classroomを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：授業全般がアクティブラーニングを基礎として進められる。受講生は、研究計画の立案、研究データの収集・分析、研究文書の執筆など、すべてのプロセスを自ら実際に行ってみることで学びを深めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自、授業前に、必要な文献・データ等を準備し、それらを授業内で説明できるよう理解しておく責任を負う。各回、これらの学習に60分以上の時間を要する。また、授業後に、自らの研究テーマについて、文献研究やデータに基づく検証、研究手続き・成果の文書化を継続的に進めなければならない。各回、これらの学習に60分以上の時間を要する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

議論への貢献度 / 研究への積極性：50%、成果物等の課題の出来栄え：50%を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

杉村伸一郎・坂田陽子（編）（2004/4） 実験で学ぶ発達心理学 ナカニシヤ出版
 村上香奈・山崎浩一（編）（2018/3） よくわかる心理学実験実習 ミネルヴァ書房
 大出敦・直江 健介（著）（2020/8） アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門：学生のためのプレゼン上達術 慶応義塾大学出版会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・ゼミナールの説明・自らの関心事の発表
2	発達科学的な研究の考え方①	・理論と経験（データ）・基礎（研究）と応用（実践）・複雑さと単純さ・自分の関心事の科学的親和性
3	発達科学的な研究の考え方②	・発達に関する基礎・至近的説明と究極的説明・構造と機能の理解
4	文献の探索・収集	・文献検索の方法・文献整理の方法
5	文献の精読・理解	・文献理解の方法・文献要約の方法
6	統計学的基礎①	・記述統計の考え方・記述統計の読み方
7	統計学的基礎②	・推測統計の考え方・推測統計の読み方
8	研究計画の立案①	・問題設定へ着手・問題設定の文書化（言語化）
9	研究計画の立案②	・問題設定に関する発表と議論・問題設定の見直し
10	研究計画の立案③	・問題設定の精緻化・問題設定の具体化
11	研究計画の立案④	・データ収集の方法（概念・理論）・研究倫理
12	研究計画の立案⑤	・データ収集の方法（技術・手続き）・測定ツールの選定
13	研究計画の立案⑥	・データ収集の方法（準備）・データ収集を支援するアプリケーション等への習熟化
14	研究計画の立案⑦	・データ収集の方法（確認）・研究協力者のリクルート方法

15	データの分析①	・データの管理方法・データのインポート・データ行列の整頓方法・データ行列の見方
16	データの分析②	・変数の操作
17	データの分析③	・記述統計の計算・記述統計の図表整理
18	データの分析④	・推測統計の実行・推測統計の報告方法
19	データの分析⑤	・分析結果の発表・分析結果の見直し
20	研究文書の執筆①	・科学的文書の構造・科学的文書のスタイル・科学的文書のマナー
21	研究文書の執筆②	・問題設定の科学的文書化
22	研究文書の執筆③	・問題設定の文書添削・問題設定の文書修正
23	研究文書の執筆④	・データ収集方法の報告・分析結果の報告
24	研究文書の執筆⑤	・データ収集方法の報告の添削・データ収集方法の報告の修正・分析結果の報告の添削・分析結果の報告の修正
25	研究文書の執筆⑥	・考察の検討・考察の執筆
26	研究文書の執筆⑦	・考察の発表・考察の見直し
27	研究発表の方法	・スライド資料の作成方法・ポスター資料の作成方法
28	研究発表の方法	・研究発表の練習・スライド資料（ポスター資料）の見直し
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大久保 諒			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、発達科学的な観点から、教育（学校教育だけでなく、幼児教育や保育も含む）の実践に役立つ文献研究・理論研究（研究資料の探索と活用）の基本を学習する。その上で、各自の興味・関心に基づき、1つの研究テーマを探究する課題の完遂するために、データの収集方法や統計学的基礎、科学的な論文調の文章構成方法など、必要なスキルの習得を目指す。

<授業の到達目標>

① 教育の実践と発達科学的な研究のつながりを説明できるようになる。② 教育の実践に生きる研究テーマを見つけ出せるようになる。③ 研究資料を調べて、レジュメへまとめ、発表できるようになる。④ 自らの関心に基づき、研究を進めるために必要な統計学等のスキルを身につける。⑤ 自らの作業の成果の有用性や改善点・修正点を教育の実践の場で検討できるようになる。

<授業の方法>

前半は、発達科学的な考え方に親しみながら、自分の関心のある研究分野の文献を探索・理解する方法と、その関心に基づいて、自分自身で研究を遂行するために必要となるデータの収集・分析の方法を学習する。前半のまとめとして、自分が探求しようとする問題を説得的に文書へ記し、問題を検討するために必要となるデータを収集する。後半は、前半の学習内容を活かし、自分自身で具体的に研究を遂行していく。文献研究を重ね、収集したデータを分析し、発達科学的、かつ論理的に妥当な結論を導くことを試みていく。後半のまとめとして、一連の研究手続き・成果を説得的に文書にまとめ、発表する。※ なお、ゼミナールの進行においては、Google Classroomを利用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：授業全般がアクティブラーニングを基礎として進められる。受講生は、研究計画の立案、研究データの収集・分析、研究文書の執筆など、すべてのプロセスを自ら実際に行ってみることで学びを深めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自、授業前に、必要な文献・データ等を準備し、それらを授業内で説明できるよう理解しておく責任を負う。各回、これらの学習に60分以上の時間を要する。また、授業後に、自らの研究テーマについて、文献研究やデータに基づく検証、研究手続き・成果の文書化を継続的に進めなければならない。各回、これらの学習に60分以上の時間を要する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

議論への貢献度 / 研究への積極性：50%、成果物等の課題の出来栄：50%を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

杉村伸一郎・坂田陽子（編）（2004/4） 実験で学ぶ発達心理学 ナカニシヤ出版
 村上香奈・山崎浩一（編）（2018/3） よくわかる心理学実験実習 ミネルヴァ書房
 大出敦・直江 健介（著）（2020/8） アカデミック・スキルズ プレゼンテーション入門：学生のためのプレゼン上達術 慶応義塾大学出版会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・ゼミナールの説明・自らの関心事の発表
2	発達科学的な研究の考え方①	・理論と経験（データ）・基礎（研究）と応用（実践）・複雑さと単純さ・自分の関心事の科学的親和性
3	発達科学的な研究の考え方②	・発達に関する基礎・至近的説明と究極的説明・構造と機能の理解
4	文献の探索・収集	・文献検索の方法・文献整理の方法
5	文献の精読・理解	・文献理解の方法・文献要約の方法
6	統計学的基礎①	・記述統計の考え方・記述統計の読み方
7	統計学的基礎②	・推測統計の考え方・推測統計の読み方
8	研究計画の立案①	・問題設定へ着手・問題設定の文書化（言語化）
9	研究計画の立案②	・問題設定に関する発表と議論・問題設定の見直し
10	研究計画の立案③	・問題設定の精緻化・問題設定の具体化
11	研究計画の立案④	・データ収集の方法（概念・理論）・研究倫理
12	研究計画の立案⑤	・データ収集の方法（技術・手続き）・測定ツールの選定
13	研究計画の立案⑥	・データ収集の方法（準備）・データ収集を支援するアプリケーション等への習熟化
14	研究計画の立案⑦	・データ収集の方法（確認）・研究協力者のリクルート方法
15	データの分析①	・データの管理方法・データのインポート・データ行列の整頓方法・データ行列の見方

16	データの分析②	・変数の操作
17	データの分析③	・記述統計の計算・記述統計の図表整理
18	データの分析④	・推測統計の実行・推測統計の報告方法
19	データの分析⑤	・分析結果の発表・分析結果の見直し
20	研究文書の執筆①	・科学的文書の構造・科学的文書のスタイル・科学的文書のマナー
21	研究文書の執筆②	・問題設定の科学的文書化
22	研究文書の執筆③	・問題設定の文書添削・問題設定の文書修正
23	研究文書の執筆④	・データ収集方法の報告・分析結果の報告
24	研究文書の執筆⑤	・データ収集方法の報告の添削・データ収集方法の報告の修正・分析結果の報告の添削・分析結果の報告の修正
25	研究文書の執筆⑥	・考察の検討・考察の執筆
26	研究文書の執筆⑦	・考察の発表・考察の見直し
27	研究発表の方法	・スライド資料の作成方法・ポスター資料の作成方法
28	研究発表の方法	・研究発表の練習・スライド資料（ポスター資料）の見直し
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミナールでは、ゼミ論文の作成を通して、体育・スポーツ科学に関する専門的知識の深化と、研究遂行に必要な知識・技能の習得を目指す。学生は、自身の関心や課題に基づいて研究テーマを設定し、文献検討、データ収集・分析、考察、論文執筆までの一連の研究プロセスを実践する。また、これらの活動を通して、課題発見・課題解決能力、論理的思考力、表現力など、社会人として求められる汎用的能力の育成を図る。

<授業の到達目標>

1. 自身の適性や関心を踏まえ、主体的に学び続ける態度を身につけることができる。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、専門分野における基礎的知識および研究方法を理解し、適切に活用することができる。3. 自らの現状を分析して課題を設定し、その解決に向けて調査・分析を行い、論理的に考察した内容を論文としてまとめることができる。

<授業の方法>

本ゼミナールは、ゼミ論文の作成を中心とした演習形式で実施する。学生は各自の研究テーマに基づき、文献検討、研究計画の立案、データ収集・分析、考察、論文執筆までの一連の研究プロセスを段階的に進める。各段階において中間発表および最終発表を実施し、教員からの指導に加え、学生同士の意見交換を通して研究内容の深化を図る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り本ゼミナールでは、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。具体的には、研究テーマの設定から論文作成に至るまでのプロセスにおいて、学生が主体的に課題を設定し、解決に取り組む課題解決型学習（PBL）を行う。また、中間発表および最終発表において、学生同士による質疑応答や相互評価（ピア・フィードバック）を行い、多角的な視点から研究内容を検討する。これにより、主体的・対話的で深い学びを促進する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本ゼミナールでは、各回あたり予習・復習として合計180分以上の学習を行うことを想定する。予習としては、自身の研究テーマに関する文献の収集・精読、研究計画の検討、データ収集・分析の準備、発表資料の作成等を行うこと（約90～120分）。復習としては、授業内での指導やディスカッションを踏まえ、研究内容の見直しや修正を行うとともに、追加の文献調査やデータ分析を進め、論文の執筆を継続すること（約60～90分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・受講態度：50％・発表・課題（ゼミ論文または卒業論文）：50％受講態度については、授業への主体的な参加状況、研究活動への取り組み、ディスカッションや発表への関与等を総合的に評価する。発表・課題については、プレゼンテーションおよびゼミ論文（卒業論文）を対象とし、文字数や構成の適切性、論理性、分析の妥当性、発表方法、発表時間の遵守等の観点から評価する。フィードバックについては、発表に対しては授業内での講評や質疑応答を通して行い、論文についてはコメント等により改善点を具体的に提示することで、研究内容の深化および論文の質の向上を図る。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表	最終論文発表準備
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（3～4人のグループに分かれ、テーマに対して成果物の作成・プレゼンを行う）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	論文の読み方	研究論文の読み方を学ぶ。
3	論文の書き方	研究論文の書き方を学ぶ。
4	研究論文の調べ方	研究論文の調べ方を学ぶ。
5	先行研究の調査（1）	先行研究を調査する
6	先行研究の調査（2）	先行研究を調べる
7	先行研究の調査（3）	先行研究を調べる
8	論文構成の組み立て方	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期ゼミ論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、学生が3年次にそれぞれ設定した研究課題について研究を進めていくことを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人に求められる汎用スキルとして高度なリサーチ・リテラシーを身につけていることができる2. 英語教育において、自身の興味関心がある分野の専門的知識を身につけることができる3. 自ら設定した研究課題に対する答えにたどりつき、研究成果を論文・制作物としてまとめ発表することができる

<授業の方法>

(1) 発表(学生による説明と問いの提示)(2) ディスカッション(問いに対する回答)(3) 省察活動(まとめと発表)(4) 個別指導

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 グループワーク(学習内容に関する教え合い)・ディスカッション(問いに対する考えの共有)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習(発表準備等)を1時間、復習(内容の振り返り)を1時間程度を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)およびディプロマポリシー1(体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、論文への取り組み 70%

<教科書>

<参考書>

浦野研ほか(2016) はじめての英語教育研究:押さえておきたいコトとポイント 研究社

APA(米国心理学会)(2022) APA論文作成マニュアル第7版

竹内理・水本篤ほか(2023) 外国語教育研究ハンドブック【増補版】— 研究手法のより良い理解のために 松柏社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ(応用)の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第2回目)
9	課題研究の遂行とその報告3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第3回目)
10	課題研究の遂行とその報告4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第4回目)
11	課題研究の遂行とその報告5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第5回目)
12	課題研究の遂行とその報告6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第6回目)
13	課題研究の遂行とその報告7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第7回目)
14	課題研究の遂行とその報告8	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。(第8回目)
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	鈺 悠介			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、卒業論文を制作する。

<授業の到達目標>

1. 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。2. リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。3. 研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文としてまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。卒業論文の進捗状況報告などのレジュメ作成およびディスカッション。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自が設定したテーマに沿って研究を進め、適宜（できるだけ短い間隔で）経過報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の小レポート（70%）、ディスカッションへの参加の度合い（30%）

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ゼミの進め方・目的・内容	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期の振り返りと今後の流れ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

・関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。・研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができること。

<授業の方法>

ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有調査の課題、フィールドワーク、グループディスカッション等

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗よく状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、ゼミ論文の内容と到達度（知識・理解） 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて 1	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成 1	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告 1	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告 1	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。(第5回目)
21	中間発表 1	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第2回)
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。(第3回)
24	研究課題の遂行とその報告 1	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第2回目)
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第3回目)
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文(制作物)としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。(第4回目)
28	最終確認 1	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡでは、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とします。

<授業の到達目標>

(1) 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解できる。(2) リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身につけている。(3) 研究を論文としてまとめ、発表できる。

<授業の方法>

(1) 個別調査・研究（先行研究・アンケート調査・インタビュー調査）(2) 発表（学生による説明と問いの提示）(3) ディスカッション（問いに対する回答）(4) 省察活動（まとめと発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。各自のテーマに関するグループ内での意見交換、プレゼンテーション（卒論に関する発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗状況の報告を授業の中で発表、討論をします。各回、予習（発表準備等）を30分、復習（内容の振り返り）を30分程度を求めます。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することが出来る。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度 30%、口頭発表 30%、論文 40%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて 1	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	3年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法の決定。
5	研究計画書の作成 1	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告 1	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況の報告と質疑応答 1
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況の報告と質疑応答 2
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況の報告と質疑応答 3
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況の報告と質疑応答 4
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況の報告と質疑応答 5
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進捗状況の報告と質疑応答 6
13	中間発表 1	今までの研究成果を発表 1
14	中間発表 2	今までの研究成果を発表 2
15	論文作成 1	論文作成 1
16	論文作成 2	論文作成 2
17	論文作成 3	論文作成 3
18	論文作成 4	論文作成 4
19	論文中間発表 1	合同ゼミで発表 1
20	論文中間発表 2	合同ゼミで発表 2
21	論文中間発表 3	合同ゼミで発表 3
22	論文作成 5	合同ゼミでの意見交換をもとに修正 1
23	論文作成 6	合同ゼミでの意見交換をもとに修正 2
24	論文作成 7	合同ゼミでの意見交換をもとに修正 3
25	ゼミ内発表 1	口頭試問を想定したQA練習 1

26	ゼミ内発表 2	口頭試問を想定したQA練習 2
27	最終発表 1	合同ゼミ最終発表 1
28	最終発表 2	合同ゼミ最終発表 2
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	河野 儀久			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

スポーツ現場におけるストレングス&コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。また、自ら実験などの手法を用いて検証、考察し、見解を明らかにして行く能力を身につける。

<授業の到達目標>

スポーツ現場におけるストレングス&コンディショニングまたはアスレティックトレーニングの指導現場から見いだされた問題点や疑問点などについて、様々なエビデンスを根拠に答えを導き出す能力を身につける。

<授業の方法>

1. 講義および実技 2. 調査および発表

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

研究プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

自分自身の課題を解決するための根拠となる文献を検索し、ヒットした文献をわかりやすくまとめる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1. 文献検索プレゼンテーションの内容 2. 小テスト（国家試験問題等） 3. データの収集・処理・プレゼンまでの内容

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の方針および進め方の説明
2	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
3	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
4	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
5	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
6	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
7	文献検索	自分自身の課題に対する文献を検索し、わかりやすくまとめプレゼンする。
8	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
9	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
10	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
11	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
12	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
13	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
14	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
15	エクササイズ指導実習	各種エクササイズや手技療法の実践を通して、指導法や技術を学ぶ。
16	オリエンテーション	後期の授業計画について説明する
17	解剖学	国家試験過去問演習
18	解剖学	国家試験過去問演習
19	解剖学	国家試験過去問演習
20	生理学	国家試験過去問演習
21	生理学	国家試験過去問演習
22	生理学	国家試験過去問演習
23	生理学	国家試験過去問演習
24	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
25	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
26	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
27	柔道整復学理論	国家試験過去問演習

28	柔道整復学理論	国家試験過去問演習
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

<授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本科目は、課題発見・問題解決学習を中心に、グループワークや課題発表を通じて学生が主体的に学ぶ構成となっている。資料作成や実践的な講座も取り入れられ、自ら考え、発信し、他者と協働する活動が促されており、アクティブラーニングの要素が明確に含まれている。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツ科学の専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間（4時間）。実践力養成に必要な自主学習（7時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

取り組みの姿勢と受講態度・意欲40%、最終課題60%

<教科書>

特になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	研究課題の設定①	研究課題の確認及び研究方法の検討
3	研究課題の設定②	研究課題の確認及び研究方法の検討
4	研究課題の設定③	研究課題の確認及び研究方法の検討
5	研究計画書の作成①	研究計画書のまとめと発表
6	研究計画書の作成②	研究計画書のまとめと発表
7	課題研究の遂行①	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
8	課題研究の遂行②	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
9	課題研究の遂行③	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
10	課題研究の遂行④	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
11	課題研究の遂行⑤	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
12	課題研究の遂行⑥	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
13	課題研究の遂行⑦	課題研究の遂行と進捗状況報告。全体討議と個別指導。
14	中間報告①	進捗状況の報告及び論文執筆に向けた課題整理
15	中間報告②	進捗状況の報告及び論文執筆に向けた課題整理
16	論文の作成①	研究背景・研究目的・研究方法の整理
17	論文の作成②	研究背景・研究目的・研究方法の整理
18	論文の作成③	論文の執筆と進捗状況の報告
19	論文の作成④	論文の執筆と進捗状況の報告
20	論文の作成⑤	論文の執筆と進捗状況の報告

21	論文作成の個別指導①	論文の構成・内容についての指導
22	論文作成の個別指導②	論文の構成・内容についての指導
23	論文作成の個別指導③	論文の構成・内容についての指導
24	論文作成の個別指導④	論文の構成・内容についての指導
25	研究成果の報告①	研究成果の発表と討議
26	研究成果の報告②	研究成果の発表と討議
27	全体のまとめ①	課題発表
28	全体のまとめ②	総括
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	早田 剛			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は、体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、仮説に対する研究を行い、卒業研究をまとめていく。その後、論文に対する分かりやすいプレゼンテーションを作成し準備していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行い、ディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、各進捗を発表資料にまとめる（約2時間）。発表資料に対する今後の対策についてを自分の考えをまとめる（約30分）。授業後は指摘を受けた内容について課題解決を行う（約2時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実践的な態度：50%、自身の研究テーマに関する調査・研究発表・論文提出：50%をもって評価する。なお、卒業研究を履修しないものについては、ゼミ論文の課題提出を義務付ける。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スケジュールの確認とテーマの共有	スケジュールの確認とテーマの決定状況の共有
2	テーマ及び実施計画報告会	テーマ・実験・調査計画の確認
3	先行研究の再確認	自身のデータと対比させるための最新論文の読み込み
4	データ収集の最終化	追加調査や予備実験の補完、データの不備チェック。
5	統計解析演習①	収集したデータの入力とクリーニング。
6	統計解析演習②	適切な統計手法（t検定、分散分析、相関分析等）の実行。
7	図表の作成	解析結果を効果的に示すグラフ・表の作成（APAスタイル等に準拠）。
8	進捗状況報告会①	分析結果の解釈についてゼミ生同士でディスカッション。
9	進捗状況報告会②	分析結果の解釈についてゼミ生同士でディスカッション。
10	論文構成の再構築	分析結果に基づいた論理構成（章立て）の最終決定。
11	執筆指導①「緒言」	先行研究のまとめ、研究意義、研究の目的を明文化
12	執筆指導②「方法」	誰もが再現できる方法の記載方法を学ぶ
13	執筆指導③「結果」	客観的事実のみを記述するスキルの習得。
14	執筆指導④「考察・序論の修正」	先行研究との比較、研究の意義の明文化。
15	執筆指導③「結論・抄録」	研究全体を要約し、今後の課題を整理する。
16	学内中間発表の準備	スライド作成のポイントと発表構成。
17	ゼミ内リハーサル①	プレゼンテーションの実践と質疑応答の練習。
18	相互添削ワークショップ	ゼミ生同士で原稿を読み合い、論理の飛躍をチェック。
19	個別指導①	指導教員による原稿の詳細検閲と修正指示。

20	個別指導②	修正稿の確認と、最終仕上げに向けたアドバイス。
21	最終校正	図表番号、目次、謝辞などの形式確認。
22	最終発表準備①	卒論発表会用スライドのブラッシュアップ。
23	最終発表準備②	想定質問に対する回答準備と論理武装。
24	卒業論文発表会（模擬）	最終リハーサル。
25	論文提出	学科の規定に従った提出手続きの確認。
26	引用・参考文献精査	引用文献・参考文献を精査する
27	論文提出	学科の規定に従った提出手続きの確認。
28	全体の総括と振り返り	研究プロセスを通じて得た専門知と汎用的技能の確認。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡでは、「こどもと造形表現」を全体テーマとして設定し、保育内容の中心である「遊び」を豊かに展開するための造形表現について研究する。子どもの表現活動への理解を深めるとともに、多様な文化的背景をもつ子育て家庭への支援や保育について学ぶ。また、留学生との交流活動を通して、多文化共生の視点から、国籍や文化の違いを尊重する保育の在り方について考察する。全体テーマに関わる各自のテーマを決めて、ゼミ研究に取り組む。

<授業の到達目標>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。制作や鑑賞活動を軸として、造形表現に関する専門知識と技術を身に付けるとともに、留学生との交流活動を通して国籍や文化の違いを認め、互いを尊重する心を身に付ける。これまでの保育・幼児教育に関する学びを踏まえ、各学生が探究したいテーマに基づくゼミ論文あるいは制作(要解説書)を完成できるようになる。

<授業の方法>

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れ、共通の「こどもと造形表現」に関する文献研究を行い、個別テーマを探究し、その進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れ、研究や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループ指導を展開する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、授業に必要な資料や教材、用具を準備する。個別テーマの進捗状況は毎回確認するので、予習(進捗状況の発表準備1時間程度)と復習(実際の研究の進行2時間程度)が必要となる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 50%、論文・制作物 50%、なおグループ内の相互評価を採り入れ、発表や評価、改善点も学生グループで探求する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの目的・進め方、到達目標と注意事項、成績評価と単位認定方法について理解する。
2	ゼミ研究・制作の概要(1)	テーマの確認とゼミナール研究の進め方、先行研究として過去の本学卒業生の代表的な研究の概観
3	ゼミ研究・制作の概要(2)	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な論文や作品事例を検討し、ゼミ研究の課題を探る。
4	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(1)	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、ゼミ論文・制作の方向性を構想
5	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(2)	文献検索法、先行研究の論文・作品集などを量的に収集
6	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(3)	先行研究の論文・作品集などを質的に分析(目的・方法・内容・結果の吟味)
7	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(4)	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
8	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(5)	地域の美術館等でのフィールドワークを通して、子どもの感性を育む造形表現について学ぶ。
9	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(6)	ゼミ論文・制作のテーマを検討・決定、研究目的と研究対象の吟味
10	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(7)	研究活動スケジュールの確定、研究計画の作成、該当する研究領域の研究倫理規程を確認
11	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(8)	研究計画に沿った研究活動の展開

12	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(9)	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
13	前期まとめと作品鑑賞	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正(夏季休業中の研究計画の決定)
14	前期総括	前期の論文・制作活動の中間まとめ発表をする。ゼミ内でを共有するとともに振り返りを行う。
15	オリエンテーション(後期)	ゼミの目的・進め方、到達目標と注意事項、成績評価と単位認定方法について再確認する。
16	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(10)	研究テーマと副題の決定(変更可能性あり)
17	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(11)	研究テーマ設定の動機、理由、意義
18	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(12)	先行研究のレビューとゼミ研究目的の執筆
19	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(13)	ゼミ研究の方法の振り返りと整理
20	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(14)	調査研究・文献研究のプロセスを確認
21	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(15)	地域の美術館等でのフィールドワークを通して、子どもの感性を育む造形表現について学ぶ。
22	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(16)	研究結果の全体像を概観、研究結果を分析的に吟味
23	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(17)	結果の事実から論証できる考察を執筆
24	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(18)	結果の事実から論証できる考察の確認
25	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(19)	結果と考察の修正
26	子どもの世界を豊かにする造形表現の研究(20)	論文全体の結論まとめ
27	一年間のまとめ	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味、論文全体の確認修正
28	全体総括	ゼミ論文・ゼミ制作の提出書類の最終チェック、全体発表会の準備
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	西田 修斗			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本ゼミでは、ゼミナールⅠで培った授業づくりの経験をもとに、「子どもが算数を好きになる授業とは何か」について、より深く探究する。教材作成や模擬授業を通して、自らの授業観を明確にする。また、数学的な見方・考え方を引き出す授業を設計・実践する力を高める。また、授業づくりに関する考えを言語化し、他者に説明・共有する活動を重視する。さらに、文献の読み取りや論理的な構成の整理を通して、自らの考えを深める力を養う。これらの活動を通して、授業を設計・実践し、改善し続けるとともに、自らの教育観を形成することを目的とする。

<授業の到達目標>

① 子どもの興味・関心を引き出す授業の工夫を考え、根拠をもとに説明することができる。(DP2・DP3) ② 数学的な見方・考え方を引き出す授業を構想し、教材や指導案として具体化することができる。(DP2・DP3) ③ 模擬授業を通して、自分の考えを分かりやすく伝え、他者と関わりながら実践することができる。(DP1・DP3) ④ 自分や他者の授業について振り返り、対話を通して改善点を具体的に言語化することができる。(DP1・DP3) ⑤ 教材作成や授業づくりにおいて、生成AI等を活用し、よりよい授業へと改善することができる。(DP2・DP3)

<授業の方法>

本ゼミでは、教材作成や模擬授業を中心とした実践的な活動を行う。授業は主に以下の流れで進める。① 授業づくりに関する基礎的な知識や技術(スライド作成、教具作成、生成AIの活用等)を学ぶ。② 各自が授業案や教材を作成する。③ 作成した教材やスライドを用いて模擬授業を行う。④ 模擬授業に対して教員および学生同士でフィードバックを行う。⑤ フィードバックを踏まえて授業の改善を行う。これらの活動を繰り返すことで、授業を設計・実践し、改善する力を養うとともに、数学的な見方・考え方を引き出す授業づくりの力を育成する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(グループワーク、ディスカッション、課題解決型学習、振り返り活動) 本ゼミでは、教材作成や模擬授業を中心とした課題解決型学習を行う。各自が授業案や教材を作成し、模擬授業を実施した後、教員および学生同士でディスカッションを行い、数学的な見方・考え方を引き出す視点から改善点を検討する。また、振り返りを通して自らの授業を再構成する活動を取り入れることで、主体的・対話的で深い学びを促す。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業外学習として、授業で扱った内容の振り返りや整理を行うとともに、作成した教材や授業案の見直し・改善を行う(1時間程度)。また、次回の模擬授業や課題に向けて、スライドや教具の作成・修正など必要な準備を行う(2時間程度)。これらを通して授業づくりに関する理解を深めることを目的とする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への取り組み(教材作成・模擬授業・ディスカッションへの参加状況)60%、提出課題(振り返り・授業案等)20%、最終成果(模擬授業およびその改善内容)20%とする。授業では、各活動への主体的な参加状況や、フィードバックを踏まえた改善の過程を重視して評価する。各活動に対するフィードバックは、授業内での講評やディスカッションを通して行う。

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・ゼミの目的・進め方・評価方法
2	授業観の整理	自分の目指す授業像の言語化
3	文献の読み方	授業研究に関する文献の読み取り方
4	授業の構造分析	授業の構成(発問・展開・まとめ)の分析
5	教材研究①	教材の分析と意図の整理
6	教材研究②	教材の改善と再構成
7	生成AI活用①	生成AIを用いた授業案の分析・改善
8	生成AI活用②	生成AIを用いた教材の改善・再構成
9	模擬授業①(1)	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
10	模擬授業①(2)	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理

11	模擬授業① (3)	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
12	模擬授業① (4)	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
13	発表 (授業観の整理)	自分の授業観の共有と議論
14	前期のまとめ・振り返り	・前期の振り返り・課題と改善点の整理
15	前期の振り返りと改善点の整理	・前期の模擬授業の振り返り・課題と改善方針の整理
16	生成AI活用③	生成AIを用いた授業改善の検討
17	模擬授業② (1)	・模擬授業の実施・フィードバック (良い点・改善点) ・改善方針の整理
18	模擬授業② (2)	・模擬授業の実施・フィードバック (良い点・改善点) ・改善方針の整理
19	模擬授業② (3)	・模擬授業の実施・フィードバック (良い点・改善点) ・改善方針の整理
20	模擬授業② (4)	・模擬授業の実施・フィードバック (良い点・改善点) ・改善方針の整理
21	授業の再構成	教材・指導案の改善と再設計
22	発表 (授業の意図・構成)	授業の意図や構成の説明と共有
23	模擬授業③ (1)	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
24	模擬授業③ (2)	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
25	模擬授業③ (3)	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
26	模擬授業③ (4)	・模擬授業の実施・フィードバック・改善点の整理
27	成果の共有	・模擬授業または成果発表・全体での振り返り
28	総括・振り返り	・1年間の振り返り・今後の課題整理
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	藤谷 かおる			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、卒業論文の執筆を通して、問いの立て方や研究計画の検討、研究の実施、論文の執筆などを、履修者相互の議論を行いながらすすめる。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レジュメ発表およびディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身につける。・作成したレポート、卒業論文をプレゼンテーションすることができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を導き出すよう、議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認しながら、進める。最終的には卒業論文をまとめ、発表会で報告できるようにする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有研究成果の発表を共有し、今後の進め方についても議論する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、体育・スポーツの課題・問題については、先行研究を通して調べる（2時間）。また、調査・研究する課題の発表準備を行うこと（3時間）。事後学習として、学習内容、指摘事項を整理し、課題の発見を行うこと（1時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通じて課題の解決に参画することができる）及びディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と向き合い、感情を整理し、目標達成ができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間発表50%、論文50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的、内容、方法、評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について(1)	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について(2)	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について(3)	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画の作成(1)	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画の作成(2)	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	研究計画の作成(3)	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
8	課題研究の遂行とその報告(1)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
9	課題研究の遂行とその報告(2)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
10	課題研究の遂行とその報告(3)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
11	課題研究の遂行とその報告(4)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
12	課題研究の遂行とその報告(5)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
13	課題研究の遂行とその報告(6)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
14	課題研究の遂行とその報告(7)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
15	課題研究の遂行とその報告(8)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
16	課題研究の遂行とその報告(9)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
17	課題研究の遂行とその報告(10)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究

18	課題研究の遂行とその報告(11)	を深める。 各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
19	課題研究の遂行とその報告(12)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
20	課題研究の遂行とその報告(13)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
21	中間発表(1)	各自、研究の中間発表を行い、お互いに情報共有し、検討を重ねながら、課題を発見する。
22	中間発表(2)	各自、研究の中間発表を行い、お互いに情報共有し、検討を重ねながら、課題を発見する。
23	課題研究の遂行とその報告(14)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
24	課題研究の遂行とその報告(15)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
25	課題研究の遂行とその報告(16)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
26	課題研究の遂行とその報告(17)	各自で自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により、研究を深める。
27	卒業論文最終確認(1)	各自研究成果の発表、他者との質疑応答
28	卒業論文最終確認(2)	各自研究成果の発表、他者との質疑応答
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	堀川 峻			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、問いの立て方や研究計画の検討、研究の実施、論文の執筆などを、履修者相互の議論を行いながら行っていく。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有研究成果をグループラーニングを通して発表し、今後の進め方について議論する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2時間）。また、調査・研究する課題の発表準備を行う（3時間）。事後学習としては、授業内容を改めて整理し、関心のある課題の発見を行う（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%、中間発表 20%、論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

16	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑬	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑱	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、卒業論文あるいはゼミ論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有研究分野に応じた分析方法の検討や先行研究の発表及びディスカッションを行います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間）。進捗状況の報告準備をする（30分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%、中間発表 20%、論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

16	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業 科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業（ゼミナール）では、幼児教育保育現場での体験を基盤に、そこから生まれる問いを基に探求的な学びへと発展させる。実習や実践の振り返りを通して課題を設定し、文献検討や議論を通して理解を深め、最終的に自らの考えを研究的にまとめ発信する力を養う。

<授業の到達目標>

1. 子どもの姿を丁寧に観察し、その意味を自ら考えようとすることができる。2. 体験から生じた問いを明確化し、自ら探求過大を設定することができる。3. 文献検討や対話を通して考察を深め、実践と理論を関与づけて説明できる。4. 自らの探求の成果を論理的にまとめ、他者に発信することができる。

<授業の方法>

・保育現場参与観察等を行いデータを収集する。・文献検討やディスカッションを通して考察を深める。・発表および研究として成果をまとめる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ディスカッションを行いながら、探求・執筆をすすめていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（予習）文献渉猟、精読（復習）執筆

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ゼミ論文（共同成果）：50%個人の貢献・探求過程：30%発表・ディスカッション：20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミの年間計画について
2	研究の問いの確認と焦点化	何を明らかにするかを議論し、決定していく。
3	先行研究の探し方文献講読	文献検索の仕方を理解していく。
4	先行研究の探し方文献講読	文献検索の仕方を理解していく。
5	データの収集	参与観察
6	データ収集	参与観察
7	分析・探求の深化データの整理	エピソードの分析（文字おこし等）
8	分析・探求の深化データの整理	エピソードの分析（文字おこし等）
9	分析・探求の深化データの整理	エピソードの分析（文字おこし等）
10	分析・探求の深化データの整理	エピソードの分析（意味づけ）
11	分析・探求の深化	エピソードの分析（比較・対比）
12	分析・探求の深化	現時点の分析の共有等の発表
13	論文化	論文構成の確認（全体像）構成案作成（章立て）
14	論文化	執筆（役割分担）
15	論文化	執筆
16	論文化	執筆
17	論文化	執筆
18	論文化	執筆
19	論文化	執筆
20	論文化	執筆
21	論文化	執筆
22	論文化	執筆（統合、表現・整合性の確認等）
23	発表	発表準備（スライドの作成）
24	発表	発表準備（スライドの作成）
25	発表	発表準備（スライドの作成）

26	発表	発表の練習
27	発表	発表の練習
28	発表	ゼミ論文、発表を行う
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、体育・スポーツ科学の専門的知見を深めるとともに、社会人としての素養を磨き、主体的な問題解決能力を養います。具体的には、スポーツ科学の理論を用いた課題発見型学習（PBL）と、社会で求められる汎用的スキルの修得の二本柱で構成します。自らの適性や課題を客観的に評価し、専門知を社会の課題解決にどう活かすかを探求します。実社会での実践を見据え、自律した専門家・社会人としての基盤を築くことを目指します。

<授業の到達目標>

(1)ゼミ論文の執筆プロセスを通じ、自らの適性と専門性を客観的に把握し、主体的に学び続ける態度を身につけている。(2)体育・スポーツ科学に関する先行研究や調査データの分析を行い、専門家として必要な知識を体系的に統合・説明できる。(3)自身の現状と社会のニーズを照らし合わせ、発見した課題に対して論理的な解決策を自律的に探求・提示できる。(4)社会人に求められる論理的思考力、情報収集能力、および執筆スキルを総合的に習得している。

<授業の方法>

(1)授業の進め方 学生主体の課題解決学習とディスカッションを中心に展開します。各自の進捗に応じ、質問紙調査や文献調査を行い、その成果をプレゼンテーション資料（PPT等）にまとめて発表します。また、専門的知識や論文執筆スキルの補完を目的とした講義形式の講座を適宜織り交ぜます。学生同士の質疑応答や相互評価を通じて、論理的思考力と多角的な視点を養う実践的な構成とします。(2)ICTの活用 プレゼンテーション資料の作成や共有にはGoogle Slidesを活用します。また、共同編集機能（Google Docs/Sheets）を用い、学生間でのピア・レビュー（相互添削）やデータ集計を効率的に行います。(3)学習管理の方法 Google Classroomをハブとし、調査資料のストック、課題の提出、フィードバックの記録を一元管理します。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有（課題解決型学習、ディスカッション、プレゼンテーション） 自ら設定した研究テーマに基づき、先行研究の調査や統計解析を自律的に進める課題解決型学習（PBL）を実践します。授業内では、執筆プロセスの進捗報告を行うとともに、受講生同士によるピア・レビュー（相互添削）や質疑応答を実施します。他者からの客観的な示唆を反映させ、論理構成を再構築するプロセスを繰り返すことで、単なる知識習得に留まらない、高度な分析力と批判的思考力を主体的に養います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1～2時間】 自身の研究テーマに関わる体育・スポーツ界の諸課題について、新聞・雑誌・先行研究を幅広く資料を当たり情報を収集し、多角的な視点から現状を把握します。得られた知見に基づき、ゼミ内での議論を活性化させるための発表資料（PPT等）を、論理的な構成で作成・準備します。【復習：2時間】 ゼミでの質疑応答やフィードバックを真摯に受け止め、自身の思考の偏りや知識の不足を補完するための自主学習を行います。特に、統計手法や専門用語の内容を深く掘り下げて整理し、論理を明確にするなど、論文執筆に必要な基礎知識

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 50%、課題・発表 50%卒業研究を履修しない場合、ゼミ論文の提出が必須となります。

<教科書>

<参考書>

福永哲夫, 山本正嘉(2018/10/23) 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方 市村出版
山下秋二, 佐藤進, 出村慎一(2014/2/10) 健康・スポーツ科学のための調査研究法 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方、年間スケジュールの確認と目標設定
2	研究構想の再構築	3年次の計画を最新の先行研究と照らし合わせ、問いを洗練させる
3	先行研究の精査(1)	関連文献の追加検索と、理論的枠組みの再検討
4	先行研究の精査(2)	文献レビューの執筆開始（「はじめに」の構成案作成）
5	調査・実験計画の確定	使用尺度、対象者、実施時期、倫理的配慮の最終確認
6	研究手法の検討(1)	定量的アプローチ（アンケート、実験）の基礎
7	研究手法の検討(2)	定性的アプローチ（インタビュー、観察）の基礎
8	予備調査・実験	少人数でのプレテスト実施
9	倫理教育と手続き	研究倫理の理解と、必要な調査依頼書作成
10	進捗報告会(1)	調査・実験準備状況のプレゼンと、ゼミ生間でのリスクチェック

11	データ収集の開始	実際のフィールド調査、実験、アンケート配布の開始
12	個別指導	収集過程でのトラブル対応や、手法の微調整
13	進捗報告会(2)	質疑応答を通じた論理の整合性確認（ピア・レビュー）
14	前期の振り返り	収集状況の点検と、夏休み中のデータ整理計画の策定
15	夏休み活動報告	収集データの共有と、分析方針の最終決定
16	データ分析の実践(1)	量的調査：統計解析（有意差の検定、相関分析等）の実装
17	データ分析の実践(2)	質的調査：コード化、カテゴリー化による構造分析
18	分析結果の可視化	図表の作成と、結果の客観的記述
19	中間発表(1)	中間発表会に向けたプレゼン資料作成
20	中間発表(2)	中間発表会を実施し、ディスカッションを行う
21	考察の執筆(1)	先行研究との比較による、自研究の意義の明確化
22	考察の執筆(2)	研究の限界と今後の課題、結論のまとめ方
23	執筆指導（全体推敲）	引用文献リストの不備チェック、表現の学術的適正化
24	ピア・レビュー	学生同士による原稿の相互添削と意見交換
25	論文提出準備	抄録（要旨）の作成と、形式・体裁の最終確認
26	プレゼン演習	研究発表会に向けたスライド構成と発表原稿作成
27	ゼミ論文発表会	1年間の成果発表と全体討議
28	論文の最終提出	リフレクション（振り返り）と総括
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	宮原 舞			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、「ゼミナールⅠ（基礎）」で身につけた学習・研究の基礎を踏まえて卒業論文を執筆するため、研究テーマの設定、文献研究、研究方法の検討、資料・データの収集と分析、論文執筆の基礎を段階的に学ぶ。各自の関心に基づいて研究課題を明確にし、先行研究の講読や意見交流を通して研究の視点を深めるとともに、論文としてまとめるための構成力・表現力を養う。個人での研究活動を基本としつつ、ゼミ内での報告や討議を通して、多面的に考察する態度を身につける。

<授業の到達目標>

①自身の関心に基づいて研究テーマを設定し、研究課題を明確に示すことができる。②先行研究を収集・講読し、その内容を整理・要約するとともに、自身の研究との関連を説明することができる。③研究方法の検討、資料・データの収集・分析、論文執筆を通して、卒業論文作成に必要な基礎的能力を身につけることができる。

<授業の方法>

各自が興味・関心をもつテーマについて文献研究や調査を行い、内容や進捗状況について受講生同士で意見交流・議論を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（グループディスカッション）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各回の授業内容に応じて指定された文献や資料を読み、要点を整理したうえで、自身の考えや疑問点をまとめておくこと。復習として、授業での指導や討議内容を踏まえて研究計画やノートを見直し、文献整理、資料・データの分析、論文執筆等を継続的に進めること。とくに本授業では、授業時間外における文献収集、読解、記録、執筆の積み重ねが重要となる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業・ゼミ活動への取り組み 30%文献講読、研究計画、執筆課題等の提出物 40%論文および研究発表 30%

<教科書>

<参考書>

日本音楽教育学会 編 音楽教育研究ハンドブック 音楽之友社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的、内容、進め方、評価方法について
2	論文理解①	卒業論文の構成や形式を学び、論文の全体像をつかむ。
3	論文理解②	論文の要約方法を学び、先行研究を簡潔にまとめる力を養う。
4	研究計画①	研究の進め方を学び、卒業論文作成までの見通しをもつ。
5	研究計画②	自身の関心に基づいて研究テーマを探る。
6	研究計画③	研究テーマを焦点化し、研究課題を明確にする。
7	執筆計画	論文執筆計画を立てる。
8	文献研究①	文献研究の方法を学び、資料収集の基礎を身につける。
9	文献研究②	関連文献・先行研究を検索し、研究課題との関連を整理する。
10	文献講読①	文献を読み取り、内容を整理して意見交流を行う。
11	文献講読②	文献講読を通して、先行研究の論点を整理する。
12	文献講読③	文献講読を通して、自身の研究の視点を明確にする。
13	研究方法の検討	研究方法を検討し、調査・実践・観察等の準備を進める。
14	資料・データ収集①	研究に必要な資料やデータの収集を進める。
15	資料・データ収集②	研究に必要な資料やデータの収集を継続し、整理する。
16	資料・データ整理①	収集した資料やデータを分類・整理する。
17	資料・データ整理②	収集した資料やデータを分類・整理する。
18	分析と考察①	資料やデータを分析し、研究結果の整理を始める。
19	分析と考察②	分析結果をもとに考察を深め、論点を整理する。
20	分析と考察③	研究課題に即して分析と考察をまとめる。
21	論文構成の検討	卒業論文の構成案を作成し、章立てを検討する。
22	論文執筆①	序論および先行研究の整理を中心に執筆を進める。
23	論文執筆②	研究方法・結果の記述を中心に執筆を進める。

24	論文執筆④	考察部分を中心に執筆を進める。
25	論文推敲①	論文全体を見直し、構成や論理展開を整える。
26	論文推敲②	引用方法、表現、書式を確認し、論文を仕上げる。
27	研究発表準備	研究発表に向けて、発表内容や資料を整理する。
28	論文提出・研究発表	論文提出・研究発表を行い、研究成果と今後の課題を確認する。
29		
30		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大野呂 浩志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

3年次には、特別支援教育やインクルーシブ教育の観点から、特別な教育的ニーズのある児童生徒への指導・支援や、特別な教育的ニーズのある児童生徒とない児童生徒の双方を含んだ学級全体の指導・支援について、先行研究や関連する文献を渉猟した。本ゼミナールでは、3年次に培われた基礎的知識を礎に、次世代の特別な教育的ニーズへの対応について、制度・施策や教育内容・方法等の観点から整理し、展望できる資料をまとめる。

<授業の到達目標>

(1) 文献の内容を精確に読解できる。(2) 他者の意見を十全に理解することができる。(3) 自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる。(4) 特別な教育的ニーズに関する広い知見を用いて現実的問題を整理し、次世代を展望しようとする態度を養うことができる。

<授業の方法>

自分の設定したテーマに関連する文献の講読を基調とする。講読した文献から得られた知見を資料としてまとめ、そのレジメに基づいた自らの論文に関する議論を行うことで、論理的思考の深化・統合を図る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：毎回、自らの論文に関連するあらたな文献を講読し、得られた知見を論文に反映させ、全体としてどのような知見が得られたことになるか、今後の課題について、報告できるようにレジメに整理する（事前事後ともに2～3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	3年次までの取り組みを振り返り、子どもの特別な教育的ニーズについて知見を整理する。さらに各自が整理した知見を元に、将来的に特別教育的ニーズに対応するために「何が必要か」「何ができるか」等の具体的な解決策を提案できる論文の構想を考える。
2	論文構成	将来、特別教育的ニーズに対応に関する各自の論文構成について発表し、論理性的の観点から議論する。
3	文献抄読 1	知的障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
4	文献抄読 2	小学生の知的障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
5	文献抄読 3	小学校における発達障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
6	文献抄読 4	中学校・高等学校における知的障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
7	文献抄読 5	中学校・高等学校における発達障害に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
8	文献抄読 6	保育園・幼稚園・小学校の肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
9	文献抄読 7	中学校・高等学校における肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
10	文献抄読 8	中学校・高等学校における肢体不自由に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
11	文献抄読 9	乳幼児の病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う

		論を行う
12	文献抄読10	小学校における病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
13	文献抄読 1 1	中学校・高等学校における病弱に関する特別な教育的ニーズについて、担当者のレジメを中心に議論を行う
14	論文の中間発表	各自の論文の中間発表を行う
15	イントロダクション②	各自の論文中間発表における課題と今後の論文作成に関する展望の発表
16	文献抄読 1 2	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する①
17	文献抄読 1 3	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する②
18	文献抄読 1 4	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する③
19	文献抄読 1 5	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する④
20	文献抄読 1 6	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑤
21	文献抄読 1 7	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑥
22	文献抄読 1 8	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑦
23	文献抄読 1 9	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑧
24	文献抄読 2 0	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑨
25	文献抄読 2 1	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑩
26	文献抄読 2 2	当日の発表者が取り上げた文献からの知見及び論文における知見の意義・意味合い・論理性について議論する⑪
27	論文（ゼミ内）検討会	作成した論文について、レジメにまとめ、設定された時間内に発表し、内容や発表の仕方について議論する。
28	論文発表会	論文発表を行う
29		
30		

科目コード	53029				区 分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅴ				担当者名	江波戸 智希／河野 儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

コンディショニングプログラムと救急対応を実践する。

<授業の到達目標>

評価からコンディショニングと救急対応を適切に実行できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

スポーツ現場、コンディショニングルーム、トレーニングセンターにて実践形式の実習を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有実際の選手の評価を行い、コンディショニングと救急対応を行う。その後、選手の状態をグループ間で発表し、ディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

アスレティックトレーナーとして総合的な能力が求められるため、授業前に各テキストを読むなど60～90分の準備を行う。また、授業後は復習およびレポート作成について60分以上行い、レポートを提出すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（授業への取り組み、毎回の復習レポート）50%、実技試験50%

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 検査・測定と評価』（公財）日本スポーツ協会

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 救急対応』（公財）日本スポーツ協会

公益財団法人日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第3巻 コンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	コンディショニング実習	コンディショニングにむけた計画
2	コンディショニング実習	パフォーマンス向上に向けた各種測定と評価
3	コンディショニング実習 1	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 1
4	コンディショニング実習 2	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 2
5	コンディショニング実習 3	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 3
6	コンディショニング実習 4	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 4
7	コンディショニング実習 5	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 5
8	コンディショニング実習 6	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 6
9	コンディショニング実習 7	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 7
10	コンディショニング実習 8	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 8
11	コンディショニング実習 9	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 9
12	コンディショニング実習 1 0	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 1 1
13	コンディショニング実習 1 2	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 1 2
14	コンディショニング実習 1 3	ウォーミングアップとリカバリー、各種エクササイズ 1 3
15	救急対応実習について	救急対応実習 総論
16	救急対応実習 1	EPA作り
17	救急対応実習 2	救急対応評価
18	救急対応実習 3	救急対応と運搬
19	救急対応実習 4	BLS

20	救急対応実習 5	シミュレーション
21	救急対応実習 6	シミュレーション 2
22	救急対応実習 7	スポーツ現場での救急対応
23	救急対応実習 8	スポーツ現場での救急対応 2
24	救急対応実習 9	スポーツ現場での救急対応 3
25	救急対応実習 1 0	スポーツ現場での救急対応 4
26	救急対応実習 1 1	トレーニング場やトレーナールームでの救急対応
27	救急対応実習 1 2	トレーニング場やトレーナールームでの救急対応 2
28	救急対応実習 1 3	トレーニング場やトレーナールームでの救急対応 3
29		
30		

科目コード	36610				区 分	コア科目			
授業科目名	ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅰ				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

<授業の方法>

トップガン、インスパニア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエнтиストとしての活動を通して学習していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート （最終課題，発表） 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。

14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	統括
29		
30		

科目コード	36611				区 分	コア科目			
授業 科目名	ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅱ				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

<授業の方法>

トップガン、インスパニア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエнтиストとしての活動を通して学習していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート （最終課題，発表） 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。

14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	統括
29		
30		

科目コード	36612				区 分	コア科目			
授業科目名	ハイパフォーマンススポーツ演習Ⅲ				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

世界で活躍し認められるアスリートになる・創るためにスポーツ科学リテラシー（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）を身に付けることを目的とする。また、各種測定と分析を行い、自身の目標達成に向けた改善プログラムを自ら作成し、自発的に行動できる力を養う。

<授業の到達目標>

アスリート / サイエнтиストとしての成長の記録を可視化し、各種評価と分析、改善サイクルの実施ができる

<授業の方法>

トップガン、インスパニア、教室のそれぞれで講義と実技の両方を組み合わせた演習形式にて実施する。また、各種測定の分析、評価の際にはグループワーク・ディスカッションを行う。課題管理はグーグルクラスルームやスプレッドシートにて行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有授業での学び活かして、課外での自身のアスリート / サイエнтиストとしての活動を通して学習していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 自身の専門競技における競技特性とスポーツ科学リテラシーとの関係性を調べておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題レポート （最終課題，発表） 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとスポーツ科学リテラシー	スポーツ科学リテラシーの意義と測定流れ、データ記入方法について
2	体力測定①	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
3	体力測定②	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
4	心理測定①	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
5	栄養測定①	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
6	筋力測定①	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
7	筋力測定②	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
8	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
9	コンディショニング概論①	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
10	バイオメカニクス講習	スポーツ現場で利用できる映像分析を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
11	生理学講習	持久力トレーニングの各種方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
12	アナリティクス講習	映像から試合分析する方法を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
13	目標に向けた自主的なトレーニング①	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。

14	目標に向けた自主的なトレーニング②	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
15	オリエンテーションと前期振り返りと後期目標設定	前期振り返りと後期目標設定
16	コンディショニング概論②	コンディショニングについて
17	体力測定①ー2	身体組成、スピード&アジリティ測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
18	体力測定②ー2	パワー&持久力測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
19	心理測定②	心理調査と心理学講習会を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
20	栄養測定②	食事調査と栄養学講習、スポーツ科学リテラシーテストを基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
21	筋力測定①ー2	懸垂測定と1RM測定練習を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
22	筋力測定②ー2	スクワット、ベンチプレス1RM測定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
23	測定のまとめと分析	データの解釈、自身の分析と目標設定を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
24	コンディショニング概論③	怪我予防とパフォーマンス向上にむけた睡眠、各種リカバリー方法 時差対策を基にしたハイパフォーマンスに向けた行動と測定方法の学び
25	目標に向けた自主的なトレーニング④	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
26	目標に向けた自主的なトレーニング⑤	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
27	目標に向けた自主的なトレーニング⑥	課外活動や自身のスケジュールにて自身の目標に向けた課題（体力、スキル、ゲーム/レース、栄養、リカバリー、メンタル）に取り組む。
28	まとめ	統括
29		
30		

科目コード	32420				区 分	コア科目			
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅰ(基礎)				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。総合芸術と位置付けられているマーチングの理解を深め、基本技術、基本動作、マーチングの起源や歴史、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の基礎を学ぶ。

<授業の到達目標>

・マーチングの基本的な知識を理解する・マーチングの基本動作を習得する・各楽器の起源や歴史を身につける・各学期の基本的な取り扱い方を習得する。

<授業の方法>

・実技を中心に展開する・グループワーク（効果的な練習方法の提案）・フィールドワーク（練習方法の実践）・討論（練習効果の検証）・まとめ（練習方法を生かした作品作り）・Google Classroomをプラットフォームとして活用する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

マーチングの基本技術を用いた発表をすることによりアクティブラーニングの要素とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回30分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	マーチングの歴史（1）	西洋音楽史
3	マーチングの歴史（2）	マーチングの起源と歴史
4	管楽器の基礎知識（1）	管楽器の起源と歴史
5	管楽器の基礎知識（2）	管楽器の構造、取り扱い方
6	打楽器の基礎知識（1）	打楽器の起源と歴史
7	打楽器の基礎知識（2）	打楽器の構造、取り扱い方
8	カラーガードの基礎知識（1）	カラーガードの起源と歴史
9	カラーガードの基礎知識（2）	カラーガードの手具の構造、取り扱い方
10	管楽器の基本技術（1）	トランペットの基本技術について学ぶ
11	管楽器の基本技術（2）	メロフォンについて学ぶ
12	管楽器の基本技術（3）	バリトンについて学ぶ
13	管楽器の基本技術（4）	ユーフォニアムについて学ぶ
14	管楽器の基本技術（5）	チューバについて学ぶ
15	打楽器の基本技術（1）	スネアドラムについて学ぶ
16	打楽器の基本技術（2）	テナードラムについて学ぶ
17	打楽器の基本技術（3）	バスドラムについて学ぶ
18	打楽器の基本技術（4）	シンバルについて学ぶ
19	打楽器の基本技術（5）	鍵盤楽器について学ぶ
20	カラーガードの基本技術（1）	フラッグについて学ぶ
21	カラーガードの基本技術（2）	セーバーについて学ぶ
22	カラーガードの基本技術（3）	ライフルについて学ぶ
23	マーチングの基本動作（1）	立位姿勢について学ぶ
24	マーチングの基本動作（2）	楽器の構え方について学ぶ
25	マーチングの基本動作（3）	バイシクルステップ
26	マーチングの基本動作（4）	ストレートレッグ
27	マーチングの基本動作（5）	フォワードマーチ

28	総括	学主内容について総括する。学んだ内容から実技発表に取り組む。
29		
30		

科目コード	32421				区 分	コア科目			
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅱ(応用)				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅰで学んだことから応用的な技術を身につけ、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の応用形を身につけ様々な表現方法について学ぶ。

<授業の到達目標>

・マーチングの応用的な知識を習得する・マーチングの応用的な動作を習得する・各楽器の応用的な技術、指導力を身につける。

<授業の方法>

・実技を中心に展開する・グループワーク（効果的で応用的な練習方法の提案）・フィールドワーク（応用的な練習方法の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（応用的な練習方法を生かした作品作り）・Google Classroomをプラットフォームとして活用する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・マーチングの応用的な知識や動作を理解する。各楽器の応用的な技術を用いて発表することにより、自己分析と他者評価の比較検討する。これらをアクティブラーニングの要素とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回30分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の技術（1）	プレスコントロール
3	管楽器の技術（2）	ロングトーン
4	管楽器の技術（3）	リップスラー
5	管楽器の技術（4）	タンギング（1）、シングルタンギング
6	管楽器の技術（5）	タンギング（2）、ダブルタンギング
7	管楽器の技術（6）	タンギング（3）、トリプルタンギング
8	打楽器の技術（1）	シングルストローク（トラディショナルグリップ）
9	打楽器の技術（2）	ダブルストローク（トラディショナルグリップ）
10	打楽器の技術（3）	トリブルストローク（トラディショナルグリップ）
11	打楽器の技術（4）	シングルストローク（マッチドッググリップ）
12	打楽器の技術（5）	ダブルストローク（マッチドッググリップ）
13	打楽器の技術（6）	トリブルストローク（マッチドッググリップ）
14	カラーガードの技術（1）	スピン（フラッグ）
15	カラーガードの技術（2）	トス（フラッグ）
16	カラーガードの技術（3）	コンビネーション（フラッグ）
17	カラーガードの技術（4）	スピン（セーバー）
18	カラーガードの技術（5）	トス（セーバー）
19	カラーガードの技術（6）	コンビネーション（セーバー）
20	カラーガードの技術（7）	スピン（ライフル）
21	カラーガードの技術（8）	トス（ライフル）
22	カラーガードの技術（9）	コンビネーション（ライフル）
23	マーチングの動作（1）	ラインでの動作
24	マーチングの動作（2）	ボックスでの動作
25	マーチングの動作（3）	フォロワーリーダーでの動作
26	マーチングの動作（4）	ローテーションでの動作
27	マーチングの動作（5）	ジャズウォーク

28	総括	学習内容を総括する。学習内容を応用して実技発表を行う。
29		
30		

科目コード	32422				区 分	コア科目			
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅲ(発展)				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅱで学んだことから発展させた技術を身につけ、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の発展形を身につけ様々な表現方法について発展的なアプローチを学ぶ。

<授業の到達目標>

・マーチングの応用を発展させた知識を習得する・マーチングの応用を発展させた動作を習得する・各楽器の発展的な技術、指導力を身につける

<授業の方法>

・実技を中心に展開する・グループワーク（応用を発展させた効果的な練習方法の提案）・フィールドワーク（発展的な練習方法の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（発展的な練習方法を生かした作品作り）・Google Classroomをプラットフォームとして活用する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

マーチングの発展的な知識や動作、各楽器の発展的な技術を発表することにより、自己分析と他者評価の比較検討これらを討論することで作品作りに生かし作品制作をする。これらをアクティブラーニングの要素とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回30分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の演奏表現技術（1）	楽曲を用いた演奏表現技術（スローテンポ）
3	管楽器の演奏表現技術（2）	楽曲を用いた演奏表現技術（ミドルテンポ）
4	管楽器の演奏表現技術（3）	楽曲を用いた演奏表現技術（ハイテンポ）
5	管楽器の演奏表現技術（4）	楽曲を用いた演奏表現技術（4分の4拍子）
6	管楽器の演奏表現技術（5）	楽曲を用いた演奏表現技術（4分の3拍子）
7	管楽器の演奏表現技術（6）	楽曲を用いた演奏表現技術（8分の6拍子）
8	打楽器の演奏表現技術（1）	楽曲を用いた演奏表現技術（スネアドラム）
9	打楽器の演奏表現技術（2）	楽曲を用いた演奏表現技術（テナードラム）
10	打楽器の演奏表現技術（3）	楽曲を用いた演奏表現技術（バスドラム）
11	打楽器の演奏表現技術（4）	楽曲を用いた演奏表現技術（マリンバ）
12	打楽器の演奏表現技術（5）	楽曲を用いた演奏表現技術（ビブラフォン）
13	打楽器の演奏表現技術（6）	楽曲を用いた演奏表現技術（ドラムセット）
14	カラーガードの演技表現技術（1）	フラッグを使った演技表現技術（スローテンポ）
15	カラーガードの演技表現技術（2）	フラッグを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
16	カラーガードの演技表現技術（3）	フラッグを使った演技表現技術（ハイテンポ）
17	カラーガードの演技表現技術（4）	セーバーを使った演技表現技術（スローテンポ）
18	カラーガードの演技表現技術（5）	セーバーを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
19	カラーガードの演技表現技術（6）	セーバーを使った演技表現技術（ハイテンポ）
20	カラーガードの演技表現技術（7）	ライフルを使った演技表現技術（スローテンポ）
21	カラーガードの演技表現技術（8）	ライフルを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
22	カラーガードの演技表現技術（9）	ライフルを使った演技表現技術（ハイテンポ）
23	マーチングの動作表現技術（1）	ドリルの中での演技表現技術（スローテンポ）
24	マーチングの動作表現技術（2）	ドリルの中での演技表現技術（ミドルテンポ）
25	マーチングの動作表現技術（3）	ドリルの中での演技表現技術（ハイテンポ）

26	マーチングの動作表現技術（４）	ドリルの中での演技表現技術（ホーンムーブ）
27	マーチングの動作表現技術（５）	ドリルの中での演技表現技術（ボディーワーク）
28	総括	学習内容を総括する。学習内容を発展させて実技発表を行う。
29		
30		

科目コード	32423				区 分	コア科目			
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅳ(実践)				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅰ～Ⅲで学んだことを実践し、マーチングや様々な音楽表現において指導する際に教材として使用出来る楽曲や作品を制作する能力を身につける。

<授業の到達目標>

音楽表現指導の際、教材として実際に使用できる楽曲や作品制作ができる知識、技術、技能を身につける。

<授業の方法>

・実技を中心に展開する・グループワーク（発展で学んだことを実践させ楽曲や作品制作の構想）・フィールドワーク（楽曲や作品制作の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（楽曲や作品制作の講評）・Google Classroomをプラットフォームとして活用する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

マーチングの実践的な知識や動作、各楽器の実践的な技術を発表することにより、大会に出場できるレベルの実践的な作品制作をする。これらをアクティブラーニングの要素とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回30分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度、貢献度 30、%実技技能達成度 70%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の楽曲制作（1）	記譜法について
3	管楽器の楽曲制作（2）	調号について
4	管楽器の楽曲制作（3）	コードネームについて
5	管楽器の楽曲制作（4）	コード進行について
6	管楽器の楽曲制作（5）	楽曲アレンジ（基礎）
7	管楽器の楽曲制作（6）	楽曲アレンジ（応用）
8	打楽器の楽曲制作（1）	打楽器の記譜法（基礎）
9	打楽器の楽曲制作（2）	打楽器の記譜法（応用）
10	打楽器の楽曲制作（3）	打楽器の特性の理解（音域）
11	打楽器の楽曲制作（4）	打楽器の効果（音楽効果）
12	打楽器の楽曲制作（5）	楽曲アレンジ（打楽器基礎）
13	打楽器の楽曲制作（6）	楽曲アレンジ（打楽器応用）
14	カラーガードのコレオグラフ（1）	フラッグを使った振付（スローテンポ）
15	カラーガードのコレオグラフ（2）	フラッグを使った振付（ミドルテンポ）
16	カラーガードのコレオグラフ（3）	フラッグを使った振付（ハイテンポ）
17	カラーガードのコレオグラフ（4）	セーバーを使った振付（スローテンポ）
18	カラーガードのコレオグラフ（5）	セーバーを使った振付（ミドルテンポ）
19	カラーガードのコレオグラフ（6）	セーバーを使った振付（ハイテンポ）
20	カラーガードのコレオグラフ（7）	ライフルを使った振付（スローテンポ）
21	カラーガードのコレオグラフ（8）	ライフルを使った振付（ミドルテンポ）
22	カラーガードのコレオグラフ（9）	ライフルを使った振付（ハイテンポ）
23	マーチングの作品制作（1）	ドリルデザイン（パレーディング）
24	マーチングの作品制作（2）	ドリルデザイン（ボックスを使ったデザイン）
25	マーチングの作品制作（3）	ドリルデザイン（ラインコンビネーション）
26	マーチングの作品制作（4）	ドリルデザイン（フォロワーリーダーパターン）
27	マーチングの作品制作（5）	ドリルデザイン（モーフィング）

28	総括	学習内容を総括する。学習内容を実践的に生かした実技発表を行う。
29		
30		

科目コード	51007				区 分	コア科目			
授業科目名	介護等体験実習 《通年》				担当者名	林 栄昭／高橋 章二／大野呂 浩志			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

介護等体験は小学校及び中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする人に義務付けられている。個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性の観点から、社会福祉施設や特別支援学校において、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの方との交流等を体験する。（教育経営学科ディプロマ・ポリシーのDP 1，DP 4に関連）

<授業の到達目標>

社会福祉施設や特別支援学校において合計7日間の実習を行い、介護、介助、交流等にかかわる様々な活動を体験することができるようになる。また、そのための事前指導において、介護等体験の意義や目的、方法などについて理解し、社会福祉施設の利用者や特別支援学校で学ぶ子どもに触れることで、教員としての視野を広げ、幅広い人権意識を身に付ける。

<授業の方法>

オリエンテーションでの「ガイダンス」、社会福祉施設と特別支援学校それぞれでの事前指導に参加し、各自が施設や学校にて体験をしたのち、報告書などの提出をする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

配当された社会福祉施設、特別支援学校の現場における介護、介助、交流等の体験実習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・介護等体験の実習先の施設や学校について、その特色や内容、通勤経路等をHPや参考書等で調べ、予備知識を得ておく1～1.5時間程度の予習を行う。・介護等体験実習に臨むに当たって、その意義や内容、留意事項等について「介護等体験の手引き」を熟読し、持参物等を準備する1～1.5時間程度の予習を行う。・介護等体験実習の実施日には、毎日実習後に体験内容や反省について、体験日誌に記入して振り返る1時間程度の復習を行う。・実習終了後には、各実習先への礼状の作成・郵送、報告書の作成、体験日誌の整理・確認を行う1.5～2時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習態度20％、実習での取組状況40％、日誌作成・報告40％

<教科書>

「介護等体験の手引き」（事前指導時に配布）

<参考書>

現代教師養成研究会（2020年2月1日） 教師を目指す人の介護等体験ハンドブック 五訂版 大修館書店
 全国特別支援学校長会、全国特別支援教育推進連盟（2025年12月20日） 介護等体験ガイドブック 新フィリア 改訂版 株式会社ジアース教育新社
 増田雅暢他（2018年5月31日） 第5版 よくわかる社会福祉施設一教員免許志願者のためのガイドブック 社会福祉法人全国社会福祉協議会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	事前指導（1）	介護等体験の概要、意義、手続きについて
2	事前指導（2）	社会福祉施設での実習について
3	事前指導（3）	特別支援学校での実習について
4	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
5	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
6	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
7	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
8	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
9	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
10	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
11	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
12	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
13	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
14	実習	社会福祉施設、特別支援学校での実習
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	36614				区 分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツパフォーマンス実習Ⅰ				担当者名	品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技スポーツパフォーマンス実習Ⅰでは、各々が専門とする競技の基本的な運動技能を高めるとともに、その効果的なトレーニング手段の理解と実践、指導法・研究法を学ぶことを目的とする。また、自身のトレーニングのトレーニングスケジュールや身体組成の変化を適切に管理することで、競技力向上におけるセルフマネジメントの基礎を学ぶ。

<授業の到達目標>

自分の能力（基礎的体力、専門的体力、専門的スキル）や体調の変化を把握し、それに応じた目標や課題を設定し、目標達成に向けた適切なセルフマネジメントができるようになること。

<授業の方法>

実技実習を中心に展開し、Google Classroomを用いて課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実践的に身体を動かすことがある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各々が専門とする競技に関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくとう理解し易い。また、アスリートダイアリーを用いて、毎日の練習日誌および身体組成の変化を記入すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

アスリートダイアリーの記述内容および記述量、それに基づくプレゼンテーションにより、評価を行う。また、適時アスリートダイアリーを確認し、フィードバックを行う。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	受講ガイダンス	受講上の注意、授業の進め方、評価について
2	コントロールテスト①	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
3	コントロールテスト②	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
4	各競技における基礎的体力	各々が専門とする競技における基礎的体力について理解を深める
5	各競技における基礎的体力の養成①	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に走動作に焦点をあて解説する
6	基礎的体力の養成②	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に跳動作に焦点をあて解説する
7	基礎的体力の養成③	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に投動作に焦点をあて解説する
8	基礎的体力の養成④	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング①の考案・実施
9	基礎的体力の養成⑤	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング②の考案・実施
10	各競技における専門的体力	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力について理解を深める
11	専門的体力の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力を高めるトレーニング方法について理解を深める
12	専門的技術の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的技術を高めるトレーニング方法について理解を深める
13	トレーニングメニューの立案	各々が専門とする競技におけるトレーニングメニューを立案する
14	競技会の振り返り①	各々が出場した競技会を振り返り、次戦に向けた課題を抽出する
15	専門競技の解説（発表）	各々が専門とする競技について、必要とされる基礎体力・専門的体力・技術について、またそれらを高めるためのトレーニング方法についてをまとめ解説する（発表）
16	前期の復習	前期学習内容の確認と復習
17	目標設定・トレーニング計画	各々が専門とする競技について、後期における最大目標を設定し、それに沿ったトレーニング計画を立案する

18	コントロールテスト③	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
19	コントロールテスト④	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
20	コントロールテストの評価	各々のコントロールテスト結果を前期測定分・後期測定分間の比較を行う
21	専門的トレーニングの実施①	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
22	専門的トレーニングの実施②	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
23	専門的トレーニングの実施③	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
24	専門的トレーニングの実施④	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
25	鍛錬期のトレーニング計画の立案	各々が専門とする競技における鍛錬期（準備期）のトレーニング計画について立案する
26	レジスタンストレーニング①	各々が専門とする競技における筋力を高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
27	レジスタンストレーニング②	各々が専門とする競技におけるパワーを高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
28	1年間の競技の振り返り（発表）	1年間の各々の基礎体力・専門的体力・技術の変化について、コントロールテスト結果や試合結果から振り返り、それらをまとめて解説する（発表）
29		
30		

科目コード	36615				区 分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツパフォーマンス実習Ⅱ				担当者名	品田 直宏			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技スポーツパフォーマンス実習Ⅱでは、各々が専門とする競技の専門的な運動技能を高めるための効果的なトレーニング手段の理解と実践、指導法・研究法を学ぶことを目的とする。また、自身のトレーニングのトレーニングスケジュールや身体組成の変化を適切に管理し、パフォーマンスを最大限に発揮するための高度なセルフマネジメント手段を学ぶ。

<授業の到達目標>

自分の能力（基礎的体力、専門的体力、専門的スキル）や体調の変化を把握し、競技パフォーマンスを最大限発揮するための高度なセルフマネジメントができるようになること。

<授業の方法>

実技実習を中心に展開し、Google Classroomを用いて課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実践的に身体を動かすことがある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各々が専門とする競技に関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくとう理解し易い。また、アスリートダイアリーを用いて、毎日の練習日誌および身体組成の変化、トレーニング強度を記入する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

アスリートダイアリーの記述内容および記述量、それに基づくプレゼンテーションにより、評価を行う。また、適時アスリートダイアリーを確認し、フィードバックを行う。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	受講ガイダンス	受講上の注意、授業の進め方、評価について
2	コントロールテスト①	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
3	コントロールテスト②	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
4	各競技における基礎的体力	各々が専門とする競技における基礎的体力について理解を深める
5	各競技における基礎的体力の養成①	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に走動作に焦点をあて解説する
6	基礎的体力の養成②	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に跳動作に焦点をあて解説する
7	基礎的体力の養成③	各々が専門とする競技における基礎的体力を高めるトレーニング方法について、主に投動作に焦点をあて解説する
8	基礎的体力の養成④	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング①の考案・実施
9	基礎的体力の養成⑤	各々が専門とする競技における基礎体力を高めるためのサーキットトレーニング②の考案・実施
10	各競技における専門的体力	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力について理解を深める
11	専門的体力の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的体力を高めるトレーニング方法について理解を深める
12	専門的技術の養成	各々が専門とする競技に必要とされる専門的技術を高めるトレーニング方法について理解を深める
13	トレーニングメニューの立案	各々が専門とする競技におけるトレーニングメニューを立案する
14	競技会の振り返り①	各々が出場した競技会を振り返り、次戦に向けた課題を抽出する
15	専門競技の解説（発表）	各々が専門とする競技について、必要とされる基礎体力・専門的体力・技術について、またそれらを高めるためのトレーニング方法についてをまとめ解説する（発表）
16	前期の復習	前期学習内容の確認と復習
17	目標設定・トレーニング計画	各々が専門とする競技について、後期における最大目標を設定し、それに沿ったトレーニング計画を立案する

18	コントロールテスト③	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
19	コントロールテスト④	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
20	コントロールテストの評価	各々のコントロールテスト結果を前期測定分・後期測定分間の比較を行う
21	専門的トレーニングの実施①	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
22	専門的トレーニングの実施②	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
23	専門的トレーニングの実施③	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
24	専門的トレーニングの実施④	コントロールテストの結果・評価を元に、トレーニングを計画し実施する
25	鍛錬期のトレーニング計画の立案	各々が専門とする競技における鍛錬期（準備期）のトレーニング計画について立案する
26	レジスタンストレーニング①	各々が専門とする競技における筋力を高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
27	レジスタンストレーニング②	各々が専門とする競技におけるパワーを高めることを目的としたレジスタンストレーニングを実施する
28	1年間の競技の振り返り（発表）	1年間の各々の基礎体力・専門的体力・技術の変化について、コントロールテスト結果や試合結果から振り返り、それらをまとめて解説する（発表）
29		
30		

科目コード	36616				区 分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツパフォーマンス実習Ⅲ				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技スポーツパフォーマンス実習Ⅰ・Ⅱで培った専門的技能、トレーニング理論、および自己管理の基礎を基盤とし、本実習では各自の専門競技活動の現場（所属チームや個人練習、大会等）を主戦場とした完全な自律的パフォーマンス向上を展開する。学生は「自らが被験者であり、研究者である」という高い当事者意識を持ち、日々の活動量、主観的疲労度（RPE）、睡眠、栄養、心理状態などを「アスリートダイアリー」へ精緻に記録・数値化する。測定データと実際のパフォーマンスの因果関係を科学的に内省し、シーズン中の課題に対して自らトレーニング変数を修正・調整する高度な実践プロセスの遂行、およびそのレポート集約を通じて、科学的視座を持ったトップアスリート・指導者候補としての資量を証明することを本実習の全容とする。

<授業の到達目標>

1. データ駆動型の高度な自己調整能力の確立各種コンディション指標（客観的数値・主観的感覚）を複合的に分析し、オーバートレーニングの回避や、試合期に向けた適切なテーパリング（調整法）を自律的に実践できる。2. 根拠に基づくPDCAサイクルの定着アスリートダイアリーの記録から自身のパフォーマンスを左右する阻害要因・促進要因を科学的に特定し、論理的な解決策（トレーニングメニューや生活習慣の変更）を主体的に計画・実行・評価できる。

<授業の方法>

実技実習を中心に展開し、Google Classroomを用いて課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実践的に身体を動かすことがある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各々が専門とする競技に関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくことと理解し易い。また、アスリートダイアリーを用いて、毎日の練習日誌および身体組成の変化、トレーニング強度を記入する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

アスリートダイアリーの記述内容および記述量、それに基づくプレゼンテーションにより、評価を行う。また、適時アスリートダイアリーを確認し、フィードバックを行う。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	受講ガイダンス	本実習の進め方、アスリートダイアリーの記録方法および評価基準についての確認。
2	コントロールテスト	各自の競技現場における基礎的体力（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）の測定とダイアリーへの記録。
3	コントロールテスト	各自の競技現場における専門的体力（走能力、跳能力など）の測定とダイアリーへの記録。
4	各競技における基礎的体力	測定結果を基に、各々が専門とする競技で求められる基礎的体力要素について内省し、課題を抽出する。
5	各競技における基礎的体力の養成	各専門競技における「走動作」の効率性と体力向上に向けたトレーニングの実践、およびダイアリーへの記録。
6	基礎的体力の養成	各専門競技における「跳動作」の出力向上に向けたトレーニングの実践、およびダイアリーへの記録。
7	基礎的体力の養成	各専門競技における「投動作・回旋動作」の連動性向上に向けたトレーニングの実践と記録。
8	基礎的体力の養成	各自の基礎体力を総合的に高めるサーキットトレーニングプログラムの考案と現場での実施。
9	基礎的体力の養成	負荷や種目を変えたサーキットトレーニングプログラムの考案、現場での実施とダイアリーへの記述。
10	各競技における専門的体力	自身の専門競技特有のエネルギー機構や必要とされる体力（専門的体力）について理解を深め記述する。
11	専門的体力の養成	専門的体力を高めるための高強度・特異的トレーニングを現場で実践し、その負荷

12	専門的技術の養成	を記録する。
13	トレーニングメニューの立案	専門的技術（スキル）を高めるためのドリルを実践し、身体感覚とパフォーマンスの変化を内省する。
14	競技会の振り返り	ここまでのダイアリーデータを基に、個人の課題に直結した短期トレーニングメニューを立案する。
15	前期の復習とコンディション確認	出場した競技会（試合や記録会）の結果をダイアリー上で振り返り、次戦に向けた具体的な課題を抽出する。
16	後期目標設定・トレーニング計画	前期のダイアリーを見返し、体調や身体組成の変化、トレーニングエラーがなかったかを確認する。
17	コントロールテスト	後期（またはシーズン後半・冬季）における最大目標を設定し、それに沿った期分け（計画）を立案する。
18	コントロールテスト	後期のベースラインとなる基礎的体力（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）の再測定と記録。
19	コントロールテスト	後期のベースラインとなる基礎的体力（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）の再測定と記録。
20	コントロールテストの評価	後期のベースラインとなる基礎的体力（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）の再測定と記録。
21	専門的トレーニングの実施	前期と後期の測定結果を比較分析し、これまでの成果と新たな弱点を明確にする。
22	専門的トレーニングの実施	テスト結果の評価を元に修正した個別計画に基づき、現場での専門トレーニングを開始・記録する。
23	専門的トレーニングの実施	個別専門トレーニングの継続と、疲労度に応じた負荷のセルフコントロール。
24	専門的トレーニングの実施	実戦期（または高負荷期）における栄養摂取や睡眠時間と、パフォーマンスの相関のモニタリング。
25	鍛錬期（準備期）のトレーニング計画	トレーニングの最終段階における技術的・体力的統合の実践と、ダイアリーへの詳細な記述。
26	レジスタンストレーニング	次のシーズン（またはオフ期）を見据えた、本格的な鍛錬期の長期トレーニング計画の立案。
27	レジスタンストレーニング	専門競技に必要な最大筋力を高めるためのレジスタンストレーニングを現場で実践・管理する。
28	1年間の競技の振り返り	筋力をスピードに変換する（パワーを高める）ためのレジスタンストレーニングの実践と記録。
29		1年間の変化をコントロールテスト結果や試合結果から総括した最終成果レポートを提出（または発表）する。
30		

科目コード	51003				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習 I (小学校) 《通年》				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・実習校において観察・参加・部分実習を行う。・小学校での実習を通して、児童への理解を深めるとともに、学校の機能および教員の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・大学で学習したことをもとに、小学校現場における教師の職務について実践的に学ぶことができる。・観察や児童との関わりを通して、児童への理解を深めることができる。・授業の計画・観察・記録および自己評価等についての実践的な学びを通して、基本的な指導技術を習得することができる。・教員の業務内容や職業倫理について具体的に学び、教師としての自覚をもつことができる。・社会における学校の役割や機能を具体的に学び、教育研究課題の発見することができる。

<授業の方法>

実習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

小学校現場における実習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：・教育実習事前指導および教科において学んだ内容を整理し、既習の学習や技能を確認したり実践したりできる準備する（２時間程度）・社会人として指導者としてのマナーや常識を身に付けておくこと（２時間程度）事後：振り返りレポート（２時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる）と関連付けられている。教育課程で身につけた知識・技能等を実際の学校現場での授業にいかに関用できるか、どのように結び付けていくことができるかが求められている。さらに豊かな人間性・幅広い教養に根差した「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を育成する科目である。事前のオリエンテーション・振り返り１０％、実習評価９０％

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校において指導のもとに実習
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校における実習の振り返り
15		
16		
17		
18		
19		
20		

21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	51004				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習 I (中学校・高等学校) [英語]				担当者名	竹下 厚志／伊藤 仁美			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・実習校において観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能および教員の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・大学で学習したことをもとに、学校現場における英語科の指導内容や指導方法について実践的な技能を身に付けている。・観察や生徒との関わりを通して、生徒への理解を深めることができるようになる。・授業の計画・観察・記録および自己評価等について、実践的な学びを通してその手法を身に付けている。・教員の業務内容や職業倫理について、具体的な知識と規範意識を身に付けている。・社会における学校の役割や機能を、具体的に説明できるようになる。

<授業の方法>

実習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。実際の授業（コミュニケーション アプローチに基づく授業実践）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<予習> 次回の指導内容に合わせ、既習の英語科指導法や教材研究の成果を再確認し、模擬授業やプレゼンテーションができるよう具体的な指導案や資料の作成・練習を行う。また、実習校の校風や生徒の実態を想定し、指導者としてふさわしい挨拶や身だしなみ、マナーのシミュレーションを行う。<復習> 事前指導や教科の授業で学んだ理論と実践を振り返り、自身の課題をポートフォリオやリフレクションシートに整理する。指摘を受けた指導技術やマナーの改善点について、次回の実践に活かせるよう具体的な改善策をまとめ、技能の定着を図る。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる）およびディプロマシー5（中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる）と関連付けられている。教育課程で身につけた知識・技能等を実際の学校現場での授業にいかに関用できるか、どのように結び付けていくことができるかが求められている。さらに豊かな人間性・幅広い教養に根差した「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を育成する科目である

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前のオリエンテーション・振り返り10%、実習評価90%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	教育実習における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導の下に実習
3	教育実習	実習校において指導の下に実習
4	教育実習	実習校において指導の下に実習
5	教育実習	実習校において指導の下に実習
6	教育実習	実習校において指導の下に実習
7	教育実習	実習校において指導の下に実習
8	教育実習	実習校において指導の下に実習
9	教育実習	実習校において指導の下に実習
10	教育実習	実習校において指導の下に実習
11	教育実習	実習校において指導の下に実習
12	教育実習	実習校において指導の下に実習
13	教育実習	実習校において指導の下に実習
14	教育実習	実習校における実習の振り返り
15		
16		
17		
18		

19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	51004				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅰ(中学校・高等学校)[保健体育]				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・実習校にて観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能及び教員の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・学校の役割や機能を具体的に理解することができる・観察や生徒との関わりを通して生徒への理解を深めることができる・既習の教科の内容を踏まえ、生徒への指導及び保護者への支援について総合的に学ぶことができる・体育授業の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解することができる・教員の業務内容や職業倫理について具体的に理解することができる

<授業の方法>

実習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(小グループによる討議の時間を設定し、教育現場で体験したことを通して考えたことを振り返ったり、実体験から得た学びの成果を他者に伝えたりする活動を取り入れる。)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び教科の指導法等において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりするよう模擬授業や資料の振り返りを行うこと(1時間)教育現場に赴くために必要な社会人としてのマナーを身に付けるために身だしなみを整えること(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前オリエンテーション、自己省察10%、実習評価90%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校における実習反省会
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		

24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	51001				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習 I (幼稚園)				担当者名	虫明 淑子／檜寄 日佳／塚本 千晴			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・幼稚園教諭免許取得にかかわる幼稚園教諭必修の実習として、認可幼稚園・こども園において観察・参加・部分実習を行う。・幼稚園での実習を通して、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能及び幼稚園教諭の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。・観察や幼児との関わりを通して幼児への理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、幼児の保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 90%、事前オリエンテーション・事後学習、日誌10%

<教科書>

環太平洋大学（2026） 教育実習の手引き（幼稚園）

<参考書>

文部科学省（2018） 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省（2018） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習（1）	実習園における事前オリエンテーション
2	教育実習（2）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（1）
3	教育実習（3）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（2）
4	教育実習（4）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（3）
5	教育実習（5）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（4）
6	教育実習（6）	実習園において指導のもとに観察・参加実習（5）
7	教育実習（7）	実習園において指導のもとに参加実習（1）
8	教育実習（8）	実習園において指導のもとに参加実習（2）
9	教育実習（9）	実習園において指導のもとに参加実習（3）
10	教育実習（10）	実習園において指導のもとに参加実習（4）
11	教育実習（11）	実習園において指導のもとに部分実習（1）
12	教育実習（12）	実習園において指導のもとに部分実習（2）
13	保育実習（13）	実習園において指導のもとに半日実習
14	教育実習（14）	実習園における実習反省会
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		

25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	51006				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅱ(小学校)《通年》				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・実習校において観察・参加・部分実習を行う。・小学校での実習を通して、児童への理解を深めるとともに、学校の機能および教員の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・大学で学習したことをもとに、小学校現場における教師の職務について実践的に学ぶことができる。・観察や児童との関わりを通して、児童への理解を深めることができる。・授業の計画・観察・記録および自己評価等についての実践的な学びを通して、基本的な指導技術を習得することができる。・教員の業務内容や職業倫理について具体的に学び、教師としての自覚をもつことができる。・社会における学校の役割や機能を具体的に学び、教育研究課題の発見することができる。

<授業の方法>

実習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

小学校現場における実習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：・教育実習事前指導および教科において学んだ内容を整理し、既習の学習や技能を確認したり実践したりできる準備する。（2時間程度）・社会人として、指導者としてのマナーや常識を身に付ける。（2時間程度）事後：振り返りレポート（2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる）と関連付けられている。教育課程で身につけた知識・技能等を実際の学校現場での授業にいかに関用できるか、どのように結び付けていくことができるかが求められている。さらに豊かな人間性・幅広い教養に根差した「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を育成する科目である。事前のオリエンテーション・振り返り10%、実習評価90%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校において指導のもとに実習
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校における実習の振り返り
15		
16		
17		
18		
19		
20		

21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	51005				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅱ(中学校) [英語]				担当者名	竹下 厚志／伊藤 仁美			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・実習校において観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能および教員の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・大学で学習したことをもとに、学校現場における英語科の指導内容や指導方法について実践的な技能を身に付けている。・観察や生徒との関わりを通して、生徒への理解を深めることができるようになる。・授業の計画・観察・記録および自己評価等について、実践的な学びを通してその手法を身に付けている。・教員の業務内容や職業倫理について、具体的な知識と規範意識を身に付けている。・社会における学校の役割や機能を、具体的に説明できるようになる。

<授業の方法>

実習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。コミュニケーション アプローチに基づく授業実践

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<予習> 次回の指導内容に合わせ、既習の英語科指導法や教材研究の成果を再確認し、模擬授業やプレゼンテーションができるよう具体的な指導案や資料の作成・練習を行う。また、実習校の校風や生徒の実態を想定し、指導者としてふさわしい挨拶や身だしなみ、マナーのシミュレーションを行う。<復習> 事前指導や教科の授業で学んだ理論と実践を振り返り、自身の課題をポートフォリオやリフレクションシートに整理する。指摘を受けた指導技術やマナーの改善点について、次回の実践に活かせるよう具体的な改善策をまとめ、技能の定着を図る。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる）およびディプロマシー5（中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる）と関連付けられている。教育課程で身につけた知識・技能等を実際の学校現場での授業にいかに関用できるか、どのように結び付けていくことができるかが求められている。さらに豊かな人間性・幅広い教養に根差した「教育に対する使命感や倫理観、協調できる社会的スキル」を育成する科目である

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前のオリエンテーション・振り返り10%、実習評価90%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校において指導の下に実習
2	教育実習	実習校において指導の下に実習
3	教育実習	実習校において指導の下に実習
4	教育実習	実習校において指導の下に実習
5	教育実習	実習校において指導の下に実習
6	教育実習	実習校において指導の下に実習
7	教育実習	実習校において指導の下に実習
8	教育実習	実習校において指導の下に実習
9	教育実習	実習校において指導の下に実習
10	教育実習	実習校において指導の下に実習
11	教育実習	実習校において指導の下に実習
12	教育実習	実習校において指導の下に実習
13	教育実習	実習校において指導の下に実習
14	教育実習	実習校における実習の振り返り
15		
16		
17		
18		

19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	51005				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実習Ⅱ(中学校) [保健体育]				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・実習校にて観察・参加・部分実習を行う。・学校での実習を通して、生徒への理解を深めるとともに、学校の機能及び教員の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・学校の役割や機能を具体的に理解することができる・観察や生徒との関わりを通して生徒への理解を深めることができる・既習の教科の内容を踏まえ、生徒への指導及び保護者への支援について総合的に学ぶことができる・体育授業の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解することができる・教員の業務内容や職業倫理について具体的に理解することができる

<授業の方法>

実習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング要素有：グループワーク・ディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び教科の指導法等において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりするよう模擬授業や資料の振り返りを行うこと（1時間）教育現場に赴くために必要な社会人としてのマナーを身に付けるために身だしなみを整えること（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前オリエンテーション、反省会10%、実習評価90%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校における実習反省会
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		

25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	51002				区 分	コア科目			
授業 科目名	教育実習Ⅱ(幼稚園)				担当者名	虫明 淑子／檜寄 日佳／塚本 千晴			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・幼稚園教諭免許取得にかかわる幼稚園教諭必修の実習として、認可幼稚園・こども園において観察・参加・部分実習を行う。・幼稚園での実習を通して、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能及び幼稚園教諭の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。・観察や幼児との関わりを通して幼児への理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、幼児の保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 90%、事前オリエンテーション・事後学習、日誌10%

<教科書>

環太平洋大学（2026） 教育実習の手引き（幼稚園）

<参考書>

文部科学省（2018） 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省（2018） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習（1）	実習園において指導のもとに参加実習（1）
2	教育実習（2）	実習園において指導のもとに参加実習（2）
3	教育実習（3）	実習園において指導のもとに参加実習（3）
4	教育実習（4）	実習園において指導のもとに参加実習（4）
5	教育実習（5）	実習園において指導のもとに参加実習（5）
6	教育実習（6）	実習園において指導のもとに参加実習（6）
7	教育実習（7）	実習園において指導のもとに参加実習（7）
8	教育実習（8）	実習園において指導のもとに参加実習（8）
9	教育実習（9）	実習園において指導のもとに部分実習（1）
10	教育実習（10）	実習園において指導のもとに部分実習（2）
11	教育実習（11）	実習園において指導のもとに部分実習（3）
12	教育実習（12）	実習園において指導のもとに半日実習
13	教育実習（13）	実習園において指導のもとに全日実習
14	教育実習（14）	実習園における実習反省会
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		

25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	53008				区 分	コア科目			
授業科目名	国際交流実習 I (基礎) 《通年》[留学生用]				担当者名	溝越 隆興／片上 摩紀			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、国際交流科目として開講され、留学生が日本人をはじめその他さまざまな国の人との交流活動の企画・運営に参加します。授業の全体目標は、国際交流の基礎知識について学び、実際に企画・運営に参加することにより、国際人としての自覚を涵養すること、コミュニケーション力、とりわけ日本語で伝え合う力の育成です。

<授業の到達目標>

(1) 日本文化や社会、国際交流とは何かについての理解を深める (2) 活動中に経験する様々な場面で、間違いを恐れずにコミュニケーションをとることができる (3) 国際交流活動の企画・運営ができるようになる (4) 国際交流活動を通じた成長を言語化できるようになる (5) 自国と日本の文化の違いを踏まえながら、自国の文化を日本語で適切に説明できる。

<授業の方法>

実習中心で実施します。教材・資料提示、学習管理は全てGoogle Classroomを通して行います。また、実習の一部として、学外とオンライン会議システムを用いて交流することもあります。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング要素有り。グループに分かれて、企画内容のディスカッションを行い、準備、発表につなげます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習各回の活動内容や目的を確認し、日本文化や自国文化に関する話題、交流活動で使う日本語表現（自己紹介、案内、質問、説明等）を準備する。また、企画活動に向けてアイデアを考え、必要に応じて資料や準備物を整える。事後学習活動を振り返り、自分ができたこと・難しかったこと・新たに気づいた文化の違い等を整理し、レポートや課題としてまとめる。各回あたり事前1時間程度、事後2時間程度を目安とする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度 30%、準備物10%、課題 30%、レポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価方法の説明「国際交流」とは何か、「国際人」とは何か
2	国際交流基礎	日本と自分の国の文化・マナーの違い、異文化交流の経験などについて振り返る
3	国際交流活動①	交流事例を知る、国際交流への心構え、交流①の概要
4	国際交流活動①	国際交流活動への参加・体験
5	国際交流活動①	振り返り
6	国際交流活動②	国際交流イベントの説明、企画準備
7	国際交流活動②	国際交流活動への参加・体験
8	国際交流活動②	国際交流活動への参加・体験
9	国際交流活動②	振り返り
10	国際交流活動③	イベントの概要説明、企画立案
11	国際交流活動③	企画準備
12	国際交流活動③	国際交流活動実施
13	国際交流活動③	国際交流活動実施
14	国際交流活動③	振り返り
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		

24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	53030				区 分	コア科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅰ 《通年》				担当者名	實戸 崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。また、掃除、洗濯、湿布作りなどの業務に付帯する各種業務も行う。柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。必要に応じて、ケーススタディー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に傷病は何であるか、さらに今後の施術方針などを検討する。ロールプレー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に、患者様入室から施術開始までの流れを 柔道整復師役、患者役に分けてそれぞれ実施することを行う。

<授業の到達目標>

柔道整復師として必要条件となる接骨院での評価、評価に基づく患者様への説明、施術の組み立てが出来る。整復・固定・施療とともに後療法をプログラミングし、リスクマネジメントが実行できる。

<授業の方法>

基本的に接骨院でのフィールドワークとするが、導入講義等は講義室・実技室を使用する。・白衣の乱れ、服装、頭髮、装飾品など患者様から見て不適切な印象を与えられと思われる場合には実習の参加を認めないことがある。・また、実習中の態度が悪く患者様に迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

各施設で外部実習の取り組みとなる為、積極性、主体性が主になる科目である。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポートOne Day Reprt、Weekly Report（A4-1枚程度）を作成し、期日までに実習レポートの提出を担当教員に提出する。（実施日×1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習レポート70%および実習現場での受講態度・学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	臨床実習施設で実施
5	接骨院実習	臨床実習施設で実施
6	接骨院実習	臨床実習施設で実施
7	接骨院実習	臨床実習施設で実施
8	接骨院実習	臨床実習施設で実施
9	接骨院実習	臨床実習施設で実施
10	接骨院実習	臨床実習施設で実施
11	接骨院実習	臨床実習施設で実施
12	接骨院実習	臨床実習施設で実施
13	接骨院実習	臨床実習施設で実施
14	接骨院実習	臨床実習施設で実施
15	接骨院実習	臨床実習施設で実施
16	接骨院実習	臨床実習施設で実施
17	接骨院実習	臨床実習施設で実施
18	接骨院実習	臨床実習施設で実施
19	接骨院実習	臨床実習施設で実施
20	接骨院実習	臨床実習施設で実施

21	接骨院実習	臨床実習施設で実施
22	接骨院実習	臨床実習施設で実施
23	接骨院実習	臨床実習施設で実施
24	接骨院実習	臨床実習施設で実施
25	接骨院実習	臨床実習施設で実施
26	接骨院実習	臨床実習施設で実施
27	接骨院実習	臨床実習施設で実施
28	接骨院実習	臨床実習施設で実施
29	接骨院実習	臨床実習施設で実施
30	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施・振り返り

科目コード	53031				区 分	コア科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅱ 《通年》				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。また、掃除、洗濯、湿布作りなどの業務に付帯する各種業務も行う。柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。必要に応じて、ケーススタディー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に傷病は何であるか、さらに今後の施術方針などをアクティブラーニング形式で検討する。ロールプレー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に、患者様入室から施術開始までの流れを 柔道整復師役、患者役に分けてそれぞれ実施することを行う。

<授業の到達目標>

柔道整復師として必要条件となる接骨院での評価、評価に基づく患者様への説明、施術の組み立てが出来る。整復・固定・施療とともに後療法をプログラミングし、リスクマネジメントが実行できる。

<授業の方法>

基本的に接骨院でのフィールドワークとするが、導入講義等は講義室・実技室を使用する。・白衣の乱れ、服装、頭髮、装飾品など患者様から見て不適切な印象を与えらると思われる場合には実習の参加を認めないことがある。・また、実習中の態度が悪く患者様に迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング形式で実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（予習）：担当患者の疾患や外傷に関する基礎知識（評価方法、後療法プログラム、ゴール設定、管理など）を教科書や資料で確認し、実習に必要な知識を整理する。また、実習内容（実技・講義・討論）に関連する事項について、着眼点や疑問点を準備する。（目安時間：約30分）事後学習（復習）：症例（担当患者）および実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定・管理」について整理する。さらに、「何を学んだか」「何を学べなかったのか」を明確にし、A4用紙1枚程度のレポートにまとめ、期日ま

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習レポート70%および実習現場での受講態度・学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	臨床実習施設で実施
5	接骨院実習	臨床実習施設で実施
6	接骨院実習	臨床実習施設で実施
7	接骨院実習	臨床実習施設で実施
8	接骨院実習	臨床実習施設で実施
9	接骨院実習	臨床実習施設で実施
10	接骨院実習	臨床実習施設で実施
11	接骨院実習	臨床実習施設で実施
12	接骨院実習	臨床実習施設で実施
13	接骨院実習	臨床実習施設で実施
14	接骨院実習	臨床実習施設で実施
15	接骨院実習	臨床実習施設で実施
16	接骨院実習	臨床実習施設で実施
17	接骨院実習	臨床実習施設で実施

18	接骨院実習	臨床実習施設で実施
19	接骨院実習	臨床実習施設で実施
20	接骨院実習	臨床実習施設で実施
21	接骨院実習	臨床実習施設で実施
22	接骨院実習	臨床実習施設で実施
23	接骨院実習	臨床実習施設で実施
24	接骨院実習	臨床実習施設で実施
25	接骨院実習	臨床実習施設で実施
26	接骨院実習	臨床実習施設で実施
27	接骨院実習	臨床実習施設で実施
28	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施・振り返り
29		
30		

科目コード	53063				区 分	コア科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅲ 《通年》				担当者名	實戸 崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。また、掃除、洗濯、湿布作りなどの業務に付帯する各種業務も行う。柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。必要に応じて、ケーススタディー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に傷病は何であるか、さらに今後の施術方針などを検討する。ロールプレー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に、患者様入室から施術開始までの流れを 柔道整復師役、患者役に分けてそれぞれ実施することを行う。

<授業の到達目標>

柔道整復師として必要条件となる接骨院での評価、評価に基づく患者様への説明、施術の組み立てが出来る。整復・固定・施療とともに後療法をプログラミングし、リスクマネジメントが実行できる。

<授業の方法>

基本的に接骨院でのフィールドワークとするが、導入講義等は講義室・実技室を使用する。・白衣の乱れ、服装、頭髮、装飾品など患者様から見て不適切な印象を与えられと思われる場合には実習の参加を認めないことがある。・また、実習中の態度が悪く患者様に迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本科目は、積極性、主体性を持った学びが主になる科目である。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポートOne Day Reprt、Weekly Report（A4-1枚程度）を作成し、期日までに実習レポートの提出を担当教員に提出する。（実施日×1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習レポート70%および実習現場での受講態度・学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	臨床実習施設で実施
5	接骨院実習	臨床実習施設で実施
6	接骨院実習	臨床実習施設で実施
7	接骨院実習	臨床実習施設で実施
8	接骨院実習	臨床実習施設で実施
9	接骨院実習	臨床実習施設で実施
10	接骨院実習	臨床実習施設で実施
11	接骨院実習	臨床実習施設で実施
12	接骨院実習	臨床実習施設で実施
13	接骨院実習	臨床実習施設で実施
14	接骨院実習	臨床実習施設で実施
15	接骨院実習	臨床実習施設で実施
16	接骨院実習	臨床実習施設で実施
17	接骨院実習	臨床実習施設で実施
18	接骨院実習	臨床実習施設で実施
19	接骨院実習	臨床実習施設で実施
20	接骨院実習	臨床実習施設で実施

21	接骨院実習	臨床実習施設で実施
22	接骨院実習	臨床実習施設で実施
23	接骨院実習	臨床実習施設で実施
24	接骨院実習	臨床実習施設で実施
25	接骨院実習	臨床実習施設で実施
26	接骨院実習	臨床実習施設で実施
27	接骨院実習	臨床実習施設で実施
28	接骨院実習	臨床実習施設で実施
29	接骨院実習	臨床実習施設で実施
30	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施・振り返り

科目コード	53064				区 分	コア科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅳ 《通年》				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

整復臨床実習Ⅲで得た実習経験をもとに、更なる柔道整復業務の研鑽に務める。臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。実習指導者のもとで、将来柔道整復師を目指す学生として対象者の検査・測定評価を実施し、それにより障害構造の理解を深め、問題点の把握、目標の設定、治療計画の立案・実施、再評価ができるようにする。

<授業の到達目標>

整復臨床実習Ⅲで得られた到達目標を理解し、以下8つの到達目標の更なる研鑽に努める。①専門職としての適性を培いふさわしい態度をとることができる。②対象者のリスク管理に配慮できる。③柔道整復の施術を施行するための情報収集・検査測定ができる。④得られた情報を整理し、疾患と障害の構造を把握することができる。⑤目標を設定し、治療・援助計画を立案することができる。⑥対象者の再評価、治療計画の変更ができる。⑦患者との良好なコミュニケーションが取れる。⑧他の職種間との良好な連携が取れる。

<授業の方法>

整復臨床実習Ⅲを了した者が本実習を受講することが出来る。臨床実習施設において4月～9月の期間中に1週間の現場実習を行う。実習指導者に従い、初診患者に対する医療面接および検査・測定の一部を実施する。後療法においては、実習指導者に従い、手技療法、物理療法、運動療法の一部を実施する。担当患者について実習指導者とともに対応し、その疾患についてレポート作成およびプレゼンテーションを実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本科目は、積極性、主体性が主となる科目である。(アクティブラーニング形式で実施する。)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習(予習)：担当患者の疾患や外傷に関する基礎知識(評価方法、後療法、ゴール設定など)を教科書や資料で確認し、実習に必要な知識を整理しておく。あわせて、実習内容(実技・講義・討論)に関連する事項について疑問点や着眼点を準備する。(目安時間：約30分)事後学習(復習)：実習で経験した担当患者や実習内容(実技・講義・討論)をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定・管理」について整理する。また、「何を学んだか」「何を学べなかったか」を明確にし、A4用紙1枚程度のレポートにまとめ、期日までにデータで

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

実習レポート80%および実習現場での受講態度・学習意欲20%で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
5	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
6	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
7	接骨院実習・後療法について	本学臨床実習施設内で実施
8	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	本学臨床実習施設内で実施
9	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
10	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
11	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
12	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
13	到達目標の確認	到達目標の確認を実施する。
14	接骨院実習・研究課題によるケーススタディー	本学臨床実習施設内で実施
15	接骨院実習	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
16	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施

17	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
18	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
19	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
20	接骨院実習	到達目標の確認
21	接骨院実習・研究課題についてのロール プレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
22	接骨院実習・研究課題についてのロール プレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
23	接骨院実習	施術者としてチェックポイントをクリアしているか2
24	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
25	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
26	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
27	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
28	接骨院実習/総括	本学臨床実習施設内で実施・振り返り
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	高崎 展好			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

<授業の到達目標>

・こども発達学科における学修内容を踏まえ、自らの関心に基づいた研究テーマを設定することができる。・先行研究や資料を収集・分析し、研究課題を明確にすることができる。・研究計画を立案し、調査・実践・制作等の研究活動を主体的に遂行することができる。・研究成果を卒業論文または卒業制作として体系的にまとめることができる。・研究成果を発表し、自らの研究内容について論理的に説明することができる。

<授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ゼミナールⅡ（応用）演奏制作研究及び作品制作研究発表にに基づく

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物の提出および、研究発表（100％）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究・卒業制作の目的、進め方、年間スケジュール、評価方法の理解
2	先行事例の理解	過去の本学卒業研究・制作の代表例の概観
3	先行事例の分析①	興味のある研究・制作を選択し内容を分析
4	先行事例の分析②・発表	分析結果のゼミ内発表と討議
5	研究テーマ構想	自己の関心領域と指導教員の専門性を踏まえたテーマの構想
6	先行研究の収集	関連論文・資料・作品の収集方法の理解と実践
7	先行研究の分析	目的・方法・内容・成果の整理
8	先行研究レビュー発表	テーマに関連する先行研究の分析発表
9	研究テーマの決定	研究課題の明確化
10	研究目的の設定	研究対象・研究意義の整理
11	研究計画の作成	研究スケジュールの策定
12	研究倫理の理解	研究倫理・個人情報保護の確認
13	研究・制作の開始	調査・文献研究・制作活動の開始および進捗確認
14	研究活動の検討と計画修正（前期まとめ）	研究の進捗状況の共有、課題整理、研究計画の修正および夏季休業中の研究計画の確定
15	研究活動の再確認	夏季休業中の研究成果の共有、研究課題および今後の計画の再確認
16	研究結果の整理	収集データ・制作成果の整理と分析視点の明確化
17	研究テーマの最終確定	研究テーマおよび副題の最終決定
18	序論の執筆	研究の背景・動機・目的・意義の文章化
19	先行研究レビューの執筆	研究課題の位置づけの明確化
20	研究方法の執筆	研究方法・手続きの整理と記述
21	研究過程の整理	調査・制作プロセスの体系的整理
22	研究結果の提示	結果の構造化と図表等による可視化
23	研究結果の分析	結果の意味づけと論理的検討
24	考察の執筆	研究目的との関連づけによる考察
25	結論の作成	結果の事実から論証できる考察の確認研究成果の総括と今後の課題

26	論文全体の構成確認	章構成・論理展開・引用形式の確認
27	論文の推敲	文章表現・論理性・体裁の修正
28	最終提出および発表準備	提出書類の最終確認、卒業研究発表会の準備
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	大久保 諒			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

<授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。卒業研究を完遂させる過程で、保育や幼児教育、延いては人間理解や種々の実践活動に対し、①それらに資する問題意識を持てるようになること、②見出した問題意識へ、一定の回答を与え得る方法を思案できるようになること、③問題意識の内容と、探求の成果として得られた回答を説得的な文章として記述できるようになることを目指す。

<授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。なお、Google Classroomを利用し、卒業論文の進捗状況を共有しながら研究指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：受講生自身の手で実際に卒業研究を進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100％）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に取集
7	先行研究の分析2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作の一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味

24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

<授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文を完成させる。特に次世代教育学の学士を取得するということを踏まえ、テーマの設定を行う。

<授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

文献の紹介や、中間報告などを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究への意欲(30%卒業研究（70%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析 1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に収集
7	先行研究の分析 2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析 3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認

26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	後藤 由佳			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業研究に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

<授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文あるいは卒業制作を完成できるようになる。

<授業の方法>

各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。研究や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク等)を取り入れ、研究や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループ指導を展開する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業論文あるいは卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき次時への課題を提示し、授業時間外に必要な資料や教材、用具を準備する。次時まで論文や制作の課題に取り組む等、準備学習(2時間程度)を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

卒業研究はこども発達学科での学習の総まとめの活動でありディプロマポリシーにおけるDP8(広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける)に対応した教育活動を展開する。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 20%、卒業研究(論文・制作)の成果物 80%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の進め方、演習の流れ、到達目標と注意事項、成績評価と単位認定方法など
2	先輩の卒業研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業論文・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業論文・制作の方向性を構想
5	先行研究の分析(1)	先行研究の論文・作品集などを量的に収集
6	先行研究の分析(2)	先行研究の論文・作品集などを質的に分析(目的・方法・内容・結果の吟味)
7	先行研究の分析(3)	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析し発表
8	テーマの決定	卒業論文・制作のテーマを決定
9	研究目的の明確化と研究計画の作成	研究目的と研究対象の吟味、研究活動スケジュールの確定
10	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
11	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
12	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
13	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正(夏季休業中の研究計画の決定)
14	研究・制作の結果の考察	前期の論文・制作活動の中間まとめ
15	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定(変更可能性あり)
16	序論の執筆	研究テーマ設定の動機、理由、意義
17	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
18	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
19	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
20	結果の概観	研究結果の全体像を概観
21	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
22	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
23	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認

24	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
25	結論の確認	論文全体の結論まとめ
26	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
27	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
28	提出書類の作成	卒業論文・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FC]				担当者名	宮原 舞			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文の執筆に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

<授業の到達目標>

こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づいた卒業論文を執筆する。

<授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100％）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業論文の進め方、年間スケジュール、単位認定方法などを確認する。
2	先輩の卒業論文の概要理解	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業論文の概要を学ぶ。
3	先輩の卒業論文の分析	先輩の卒業論文から各自が関心のあるものを選び、内容を分析する。
4	先輩の卒業論文の分析結果発表	各自が分析した卒業論文の内容や特徴をゼミ内で発表する。
5	卒業論文のテーマ構想	自己の関心分野と担当教員の専門性を踏まえ、卒業論文の方向性を構想する。
6	先行研究の収集	研究テーマに関連する先行研究を収集し、文献資料を整理する。
7	先行研究の分析	先行研究の目的、方法、内容、結果を読み取り、研究の特徴を分析する。
8	先行研究の発表	各自のテーマに関連する先行研究を取り上げ、その分析結果をゼミ内で発表する。
9	テーマの決定	卒業論文のテーマを明確にし、研究課題を定める。
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象を整理し、研究の意義を明確にする。
11	研究計画の作成	研究方法や今後の進行計画を具体化し、研究活動のスケジュールを立てる。
12	研究倫理の確認	研究に必要な倫理的配慮や関連規程を確認する。
13	研究の開始	研究計画に基づき、調査研究または文献研究を開始する。
14	研究経過の吟味と修正	指導教員との相談を通して研究の進捗を確認し、必要に応じて研究計画を見直す。
15	中間まとめ	これまでの研究内容を整理し、中間的な成果と課題を明確にする。
16	研究テーマの再確認	研究の進捗を踏まえて研究テーマや副題を再確認し、論文全体の方向性を定める。
17	序論の執筆	研究テーマ設定の動機、背景、研究の意義を整理し、序論を執筆する。
18	先行研究と研究課題の整理	先行研究のレビューをもとに問題の所在を明らかにし、研究課題を整理する。
19	研究方法の執筆	研究の方法、対象、手続きについて整理し、記述する。
20	研究過程の整理	調査研究または文献研究の過程を振り返り、論文に反映できるよう整理する。
21	結果の概観	研究結果の全体像を整理し、主要な結果を明らかにする。
22	結果の分析	研究結果を多面的に検討し、分析を深める。
23	結果と考察の執筆	研究結果をもとに考察を行い、論理的に記述する。
24	結果と考察の修正	指導教員の助言をもとに、結果と考察の内容を見直し修正する。
25	結論の執筆	研究全体を総括し、結論と今後の課題をまとめる。
26	論文全体の再吟味	序論から結論までの整合性を確認し、論文全体の構成を見直す。
27	論文全体の推敲	文章表現、引用、注記、参考文献表記等を含めて論文全体を推敲する。
28	提出書類の作成と発表準備	卒業論文の提出書類を最終確認し、卒業発表会に向けた準備を行う。
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅡ（応用）では、3年生の『ゼミナールⅠ（基礎）』で深めてきた探究成果（社会人に求められる基礎的知識）を活用して、研究をより高度なレベルに深め、研究目的・研究方法・研究報告・考察・成果と課題を実践研究論文として卒業論文にまとめる。さらに、教育学の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識をさらに深め、より高度な問題意識の醸成と実践的な課題解決力の錬磨を目指す。

<授業の到達目標>

3年生の『ゼミナールⅠ（基礎）』を発展的に継続して、教育職員に採用された後の皆さんの姿をイメージし、特にこのゼミナール出身者の中から各学校に設置されるミドルリーダー（「道德教育推進教諭」）になれるような資質・能力を形成することを目標としたい。「考え、議論する道德」のアクティブ・ラーニングについて授業設計や授業分析ができるようにテーマ探究をするのはもちろん、やがては道德教育の全体計画や年間指導計画、シラバスの作成等もできるように成長してもらいたい。

<授業の方法>

ゼミ生が興味・関心を持ったテーマ（3年生：『ゼミナールⅠ（基礎）』の個人テーマ）について、レポート（課題）作成、および、ディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（実践研究論文として卒業論文文化）へと集約させる。＜参考＞3年生：『ゼミナールⅠ（基礎）』の内容＞・前期は、道德的な観点から見た現代社会における教育的諸課題について、賛否両論を踏まえたディベートを行う。講義では2回を1セットにし、①情報収集（知識・技能の習得、ブレイン・ストーミング）→②ディベート（思考力・判断力・表現力等、討議）→③まとめ（学びに向かう力、人間性等）の探究学習のサイクルを回す。・後期は、前期に課題検討し、皆さんが獲得・蓄積した様々な諸課題の中から、自分が深めたいと思った問い（課題）を集中的に探究し、研究成果（レポート、ポスター等）をまとめる。その際、ICT機器を活用して、先行実践研究の検索や分析を行い、論文作成と発表の完成度を上げる。研究成果（論文ないし学習指導案）の完成はもちろん、その内容の学会発表にも果敢にチャレンジしたい。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり・ディベート・ソクラテス的対話によるディスカッション・ブレイン・ストーミング（マトリックス法、SWOT分析、イメージマッピング等）・学習指導案制作・模擬授業と質的データの収集・成果の卒業論文文化（問題意識・研究方法・先行研究概観・開発した実践内容・データ分析・考察） 他

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い（情報探索）、その結果を事前にレポートにまとめたり（論点整理）、制作に取り組んだりする。研究の計画および方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度求める。（※連絡がとれる体制を教員と相談しておく。）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業態度等（関心・意欲・態度、課題意識と課題解決に向けた探究意識）：30％・研究成果（卒業論文）・レポート・課題の内容、到達度評価（知識・理解）：70％

<教科書>

柳沼良太（2018年9月20日）『「現代的な課題」に取り組む道德授業』 株式会社 図書文化社
柳沼良太編（2019年3月30日）『プラグマティズム、公共、道德』 株式会社 あいり出版
柳沼良太著（2016年2月）『問題解決的な学習で創る 道德授業 超入門』 明治図書出版株式会社

<参考書>

田沼茂紀（2022年4月10日）『道德教育学の構想とその展開』 株式会社 北樹出版
木野正一郎著（2025年3月31日）『教材学研究第36巻』「問題解決的で探究的なワークショップ型道德授業とその再検証」（注：講義にて配布します） 日本教材学会研究紀要委員会
木野正一郎著（2016年3月31日）『早稲田大学大学院教職研究科紀要第8号』「『道德科』における問題解決ワークショップを用いた小単元構成の授業開発ー『核心的価値（コア・バリュー）』に基づく補充・深化・統合の取り組みを通してー」（注：講義にて配布します） 早稲田大学教職大学院紀要刊行委員会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究指導Ⅰ－課題の探究活動①	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
3	研究指導Ⅰ－課題の探究活動②	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。

4	研究指導Ⅰ－課題の探究活動③	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
5	研究指導Ⅰ－課題の探究活動④	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
6	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑤	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
7	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑥	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
8	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑦	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
9	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑧	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
10	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑨	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
11	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑩	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
12	研究指導Ⅰ－課題の探究活動⑪	各自が探究している個人研究について情報探索、及び、論点整理を深める。
13	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表(中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業)①	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表(中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける)をする。
14	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表(中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業)②	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表(中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける)をする。
15	研究指導Ⅱ－課題の探究の成果発表(中間報告ないし学習指導案に基づく模擬授業)③	各自が探究している個人研究について、探究成果の発表(中間報告、30分/人程度、うち10分は仲間から相互評価を受ける)をする。
16	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究①	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
17	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究②	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
18	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究③	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
19	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究④	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
20	研究指導Ⅲ－新たな問い(課題)に関する探究⑤	各自が探究している個人研究について、前期の中間発表時に発見した新たな問い(課題)について情報探索、及び、論点整理を深める。
21	研究指導Ⅳ－実践研究論文(卒業論文)の書き方講座	実践研究論文(卒業論文)の書き方を学ぶ。・論文の構造づくり(章立てなどの「型」を教えます。）・文章の書き方(英語の五文型を意識した書き方。英語が苦手でも大丈夫です。文章の構造を教えます。）・接続詞の使い方(長文にならないように、上手に接続詞を使う方法を教えます。）・引用の方法(出典の明記と文中への投影方法を教えます。)
22	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文文化①	実践研究論文(卒業論文)の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
23	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文文化②	実践研究論文(卒業論文)の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
24	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文文化③	実践研究論文(卒業論文)の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
25	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文文化④	実践研究論文(卒業論文)の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
26	研究指導Ⅴ－探究した研究成果の卒業論文文化⑤	実践研究論文(卒業論文)の書き方講座の知見を活用し、これまで集めてきた情報(論点整理などの資料)を根拠に論文をまとめていく(注:最終報告までの途中に必ず、指導教員の個別指導(査読)を受けること)。
27	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表(最終報告)①	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する(注:持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける)。
28	研究指導Ⅵ－探究した研究成果の発表(最終報告)②	各人が探究してきた課題について、新たな問いも解明しつつ、論文化した成果と課題を含めて最終報告する(注:持ち時間は30分/人、うち10分は仲間からの相互評価を受ける)。
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	中安 翼			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、研究に関わる過程を体験し、卒業論文を執筆することを目的とする。論文執筆のための指導及び発表のためのプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

1. 自ら設定した研究課題に対し、適切な方法で資料の収集・分析を行い、客観的な根拠に基づいた考察を記述できる。2. 4年間の学修成果を体系的にまとめ、12,000字以上の卒業論文として完成させることができる。3. 発表会において、研究内容を論理的に説明し、質疑に的確に応答できる。本授業は、学科のDP2、DP3、DP4を総合的に評価する科目です。

<授業の方法>

論文執筆に向けての個別指導卒業論文中間発表卒業論文発表会（口頭試問）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、各自の研究計画に沿って先行研究（書籍・論文等）の収集・分析を進め、進捗状況の報告準備を行う（1.5時間程度）。事後学習として、指導教員からの指摘事項を論文構成に反映させ、章立ての検討や本文の執筆を継続的に行う（2時間程度）。4年間の学びの集大成として、計画的な研究活動の継続を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等30%、中間発表20%、論文50%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	卒業研究の目的・内容・方法・評価等について理解する。
2	研究テーマの設定 1	各自が設定した研究テーマについて検討する。
3	研究テーマの設定 2	各自が設定した研究テーマについて検討する。
4	研究テーマの設定 3	各自が設定した研究テーマについて検討する。
5	研究テーマの設定 4	研究テーマを決定する。
6	研究計画書 1	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
7	研究計画書 2	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
8	研究計画書 3	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
9	情報収集 1	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
10	情報収集 2	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
11	情報収集 3	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
12	情報収集 4	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
13	情報収集 5	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
14	整理・分析 1	先行研究の整理及び分析をする。
15	整理・分析 2	先行研究の整理及び分析をする。
16	整理・分析 3	先行研究の整理及び分析をする。
17	論文の章立て	論文の章立ての検討をする。
18	卒業論文の執筆 1	各章ごと論文を執筆する。
19	卒業論文の執筆 2	各章ごと論文を執筆する。
20	卒業論文の執筆 3	各章ごと論文を執筆する。
21	卒業論文の執筆 4	各章ごと論文を執筆する。
22	卒業論文中間発表会 1	卒業論文の概要について発表する。
23	卒業論文中間発表会 2	卒業論文の概要について発表する。
24	卒業論文の執筆 6	中間発表会での指導を受けて、論文構成の修正及び執筆をする。

25	卒業論文の執筆 7	中間発表会での指導を受けて、論文構成の修正及び執筆をする。
26	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表をする。
27	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を受けて、論文を修正する。
28	卒業論文の完成・提出	卒業論文を見直し、最終的な修正をして論文を完成させる。期日までにデータを提出する。
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

卒業論文を完成（本文12000字以上）することができる。

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

卒業論文中間発表会などの場面で他者の発表や教員の指導・助言を聞き、質問をしたり自分の研究に取り入れたりする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習】研究テーマの設定、研究テーマに係る情報収集（1時間）【事後学習】研究テーマに係る整理・分析、研究テーマに係るまとめ方の検討（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
16	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
20	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
21	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
22	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
23	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
24	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
25	卒業論文の修正	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
26	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
27	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正
28	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文の完成、データの提出
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

1. 自ら設定した研究テーマに基づき、先行研究の収集・分析を行い、論理的な構成で卒業論文を執筆できる。2. 研究の背景、目的、方法、結論について、中間発表会や口頭試問において他者に分かりやすく発表・説明できる。

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う 仮説に基づいた実証をするために先行研究の収集、具体的な実査を行う 研究進捗報告を行い、聞き手は報告者にフィードバックを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 各回の指導内容に合わせて、個人テーマに関連する文献の精読や実査データの整理を行い、研究の進捗状況をまとめて指導に臨む（3時間程度）。事後学習： 個別指導や中間発表会で得られた助言を反映させ、論文の執筆・修正を継続的に進めるとともに、次回の調査・分析計画を策定する（3時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

研究計画の適切性 20%、先行研究のレビュー・独自性 30%、論証の論理性 30%、文章表現・形式の適切性 20%。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
25	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表

28	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文の完成、データの提出
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	前田 一誠			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

1. 自ら設定した研究テーマに基づき、先行研究の収集・分析を行い、論理的な構成で卒業論文を執筆できる。2. 研究の背景、目的、方法、結論について、中間発表会や口頭試問において他者に分かりやすく発表・説明できる。

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う 仮説に基づいた実証をするために先行研究の収集、具体的な実査を行う 研究進捗報告を行い、聞き手は報告者にフィードバックを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 各回の指導内容に合わせて、個人テーマに関連する文献の精読や実査データの整理を行い、研究の進捗状況をまとめて指導に臨む（3時間程度）。事後学習： 個別指導や中間発表会で得られた助言を反映させ、論文の執筆・修正を継続的に進めるとともに、次回の調査・分析計画を策定する（3時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

研究計画の適切性 20%、先行研究のレビュー・独自性 30%、論証の論理性 30%、文章表現・形式の適切性 20%。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
25	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表

28	卒業論文の修正・データ提出	卒業論文の完成、データの提出
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	高橋 章二			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定、研究テーマにかかわる情報収集、研究テーマにかかわる整理・分析、研究テーマにかかわるまとめ方の検討を順次行っていく。予習時間は提案内容を明確に伝えることができるように、必ず4時間は行ってください。また、復習は助言をもとに必ず4時間は行い課題の整理を行ってください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①論文の内容・今後への貢献度 70% ・研究計画の適切性 ・先行研究のレビュー・独自性 ・論証 ・文章表現・文字数・誤字脱字②授業態度（議論への参加） 20% ③出席 10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について確認
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究論文の執筆	各章ごとの論文執筆
16	研究論文の執筆	各章ごとの論文執筆
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
22	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
23	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
24	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
25	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
26	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
27	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
28	卒業論文の修正・提出	卒業論文発表会での指導を基に論文の修正・卒業論文の完成、データの提出

29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

<授業の到達目標>

1. 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。2. レポート発表及びディスカッションができる。3. 研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。4. 研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有調査の課題、フィールドワーク、グループディスカッション等

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（2～3時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。） と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、論文または卒業制作 70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

<授業の到達目標>

①関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。②レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。③研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。各自のテーマに関するグループ内での意見交換、プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 予習（1時間程度） ・先行研究を熟読してまとめる。 ・先行研究を参考にアンケートやインタビュー項目の内容を整理する。 ・章立てをもとにキーワードを抽出する。 2. 復習（2時間程度） ・助言をもとに、先行研究から自分の論文に必要な情報を抽出する。 ・章ごとに文書化し、次回のゼミで助言を求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。） と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、卒業論文・口頭発表70%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修

16	課題研究の遂行とその報告⑨	正をする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の合同ゼミ中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の合同ゼミ中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	口頭試問準備①	口頭試問を想定したQAの準備
26	口頭試問準備②	口頭試問を想定したQAの準備
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

<授業の到達目標>

(1) 関連資料の検索・収集・分析等のスキルと、研究方法等の基礎的事項を身につけている (2) 客観的な根拠に基づき論理的に研究を論文としてまとめ、他者に対してわかりやすく発表やディスカッションができる。

<授業の方法>

各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 発表・討論

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

合計4時間<予習>各個人が設定した課題に沿って文献収集や研究を進め、授業での進捗報告に向けてレポートや発表資料を作成し、報告の準備を行う。（2時間）<復習>授業内での報告に対する教員や他学生からのフィードバックを踏まえ、自身の研究計画の見直しやレポートの加筆・修正を行う。（2時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、卒業論文70%

<教科書>

<参考書>

浦野研ほか（2016） はじめての英語教育研究：押さえておきたいコツとポイント 研究社

APA（米国心理学会）（2022） APA論文作成マニュアル第7版

竹内理・水本篤ほか（2023） 外国語教育研究ハンドブック【増補版】— 研究手法のより良い理解のために 松柏社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

15	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	課題研究の遂行とその報告⑧各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	課題研究の遂行とその報告⑬	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
21	課題研究の遂行とその報告⑭	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
22	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
23	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
24	中間発表③	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
25	中間発表④	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
26	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	大野呂 浩志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

論旨が明確で、論理的な卒業論文を完成（本文12000字以上）することができる。

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定（事前に10時間以上）研究テーマに係る情報収集（事後30時間以上）研究テーマに係る整理・分析（事後に10時間程度）研究テーマに係るまとめ方の検討（事後に20時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性（10%）②先行研究のレビュー・独自性（15%）③論証（70%）④文章表現・文字数・誤字脱字（5%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	三堀 仁			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

教育界及び学校現場における現代的な課題を踏まえたテーマの卒業論文（本文12000字以上）を完成することができる。

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会に向けたプレゼン資料の作成卒業論文発表会（口頭試問）に向けたプレゼン資料の作成

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

卒業論文中間発表会などの場面で他者の発表や教員の指導・助言を聞き、質問をしたり自分の研究に取り入れたりする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定、研究テーマに係る情報収集、整理・分析、まとめ方等について、事前準備1時間程度、事後の検討2時間程度行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性25%②先行研究のレビュー・独自性25%③論証25%④文章表現・文字数・誤字脱字25%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	中間発表会に向けて	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
17	卒業論文中間発表会①	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
18	卒業論文中間発表会②	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
19	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
22	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
23	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
24	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
25	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表及び完成データの提出
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、研究に関わる過程を体験し、卒業論文を執筆することを目的とする。論文執筆のための指導及び発表のためのプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）と発表をすることができる。

<授業の方法>

論文執筆に向けての個別指導卒業論文中間発表卒業論文発表会（口頭試問）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。事後：進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等30%、中間発表20%、論文50%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	卒業研究の目的・内容・方法・評価等について理解する。
2	研究テーマの設定 1	各自が設定した研究テーマについて検討する。
3	研究テーマの設定 2	各自が設定した研究テーマについて検討する。
4	研究テーマの設定 3	各自が設定した研究テーマについて検討する。
5	研究テーマの設定 4	研究テーマを決定する。
6	研究計画書 1	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
7	研究計画書 2	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
8	研究計画書 3	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
9	情報収集 1	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
10	情報収集 2	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
11	情報収集 3	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
12	情報収集 4	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
13	情報収集 5	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
14	整理・分析 1	先行研究の整理及び分析をする。
15	整理・分析 2	先行研究の整理及び分析をする。
16	整理・分析 3	先行研究の整理及び分析をする。
17	論文の章立て	論文の章立ての検討をする。
18	卒業論文の執筆 1	各章ごと論文を執筆する。
19	卒業論文の執筆 2	各章ごと論文を執筆する。
20	卒業論文の執筆 3	各章ごと論文を執筆する。
21	卒業論文の執筆 4	各章ごと論文を執筆する。
22	卒業論文の執筆 5	各章ごと論文を執筆する。
23	卒業論文中間発表会 1	卒業論文の概要について発表する。
24	卒業論文中間発表会 2	卒業論文の概要について発表する。
25	卒業論文の執筆 6	中間発表会での指導を受けて、論文構成の修正及び執筆をする。
26	卒業論文の執筆 7	卒業論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備をする。
27	卒業論文の執筆 8	卒業論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備をする。
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表をする。

29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	鈺 悠介			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

卒業論文を作成し、発表するための論文指導及びプレゼンテーション指導を行う。

<授業の到達目標>

卒業論文の完成（本文12000字以上）

<授業の方法>

個別指導卒業論文中間発表会卒業論文発表会（口頭試問）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有。進捗状況についてのプレゼン及び質疑応答。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定研究テーマに係る情報収集研究テーマに係る整理・分析研究テーマに係るまとめ方の検討（合わせて2時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

以下の点を総合して評価する①研究計画の適切性②先行研究のレビュー・独自性③論証④文章表現・文字数・誤字脱字

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	研究の内容と方法について
2	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
3	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
4	研究テーマの設定	個人研究テーマの絞り込み
5	研究テーマの設定	個人研究テーマの決定
6	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
7	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
8	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
9	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
10	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
11	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
12	研究テーマに係る情報収集	個人研究テーマに即した先行研究の書籍・論文等の収集
13	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
14	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
15	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
16	研究テーマに係る整理・分析	先行研究の整理及び章立ての検討
17	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
18	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
19	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
20	卒業論文の執筆	各章ごとの論文の執筆
21	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
22	卒業論文の執筆	中間発表会に向けての概要レポート及びプレゼン資料の作成
23	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
24	卒業論文中間発表会	概要レポート及びプレゼン資料を基にした研究概要の発表
25	卒業論文の執筆	中間発表会を受けての論文構成の修正及び必要な先行研究の収集
26	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
27	卒業論文の執筆	論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	西田 修斗			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

卒業研究として、各自のテーマに基づき研究を進め、論文の作成および発表を行う。教育や算数・数学に関するテーマを中心に、研究の進行に応じて指導を行い、論文の構成や内容の改善を図るとともに、発表を通して自らの研究内容を分かりやすく伝える力を養う。また、数学的な見方・考え方や授業づくりの視点を踏まえ、自らの研究を深めることを目指す。

<授業の到達目標>

① 自ら設定したテーマに基づき研究を進め、卒業論文（本文12000字以上）を完成させることができる。（DP2・DP3）② 研究内容を整理し、論理的に構成された論文としてまとめることができる。（DP2・DP3）③ 研究内容を分かりやすく説明し、発表および質疑応答を行うことができる。（DP1・DP3）

<授業の方法>

個別指導を中心に進める。研究の進行状況に応じて指導を行い、中間発表および最終発表を実施する。必要に応じて、研究の進め方や論文の構成、発表方法について助言を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有（発表、質疑応答、ディスカッション）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業外学習として、各自の研究テーマに基づき、文献の収集・整理・分析を行うとともに、研究内容の検討および論文の執筆・修正を進める（計3時間以上）。また、発表に向けて資料作成や内容の整理を行う。これらを通して研究の質を高めることを目的とする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができると）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等30%、中間発表20%、論文50%

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	卒業研究について	卒業研究の目的・内容・方法・評価等について理解する。
2	研究テーマの設定 1	各自が設定した研究テーマについて検討する。
3	研究テーマの設定 2	各自が設定した研究テーマについて検討する。
4	研究テーマの設定 3	各自が設定した研究テーマについて検討する。
5	研究テーマの設定 4	研究テーマを決定する。
6	研究計画書 1	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
7	研究計画書 2	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
8	研究計画書 3	各自が設定した研究テーマと研究方法に沿って、研究計画書を作成する。
9	情報収集 1	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
10	情報収集 2	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
11	情報収集 3	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
12	情報収集 4	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
13	情報収集 5	各自の研究テーマに沿った先行研究（書籍・論文等）の収集をする。
14	整理・分析 1	先行研究の整理及び分析をする。
15	整理・分析 2	先行研究の整理及び分析をする。
16	整理・分析 3	先行研究の整理及び分析をする。
17	論文の章立て	論文の章立ての検討をする。
18	卒業論文の執筆 1	各章ごと論文を執筆する。
19	卒業論文の執筆 2	各章ごと論文を執筆する。
20	卒業論文の執筆 3	各章ごと論文を執筆する。
21	卒業論文の執筆 4	各章ごと論文を執筆する。
22	卒業論文の執筆 5	各章ごと論文を執筆する。
23	卒業論文中間発表会 1	卒業論文の概要について発表する。

24	卒業論文中間発表会 2	卒業論文の概要について発表する。
25	卒業論文の執筆 6	中間発表会での指導を受けて、論文構成の修正及び執筆をする。
26	卒業論文の執筆 7	卒業論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備をする。
27	卒業論文の執筆 8	卒業論文の執筆及び卒業論文発表会に向けての準備をする。
28	卒業論文発表会	口頭試問形式による卒業論文発表会での発表をする。
29	卒業論文の修正	卒業論文発表会での指導を受けて、論文を修正する。
30	卒業論文の完成・提出	卒業論文を見直し、最終的な修正をして論文を完成させる。期日までにデータを提出する。

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	大久保 諒			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

<授業の到達目標>

教育学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。卒業研究を完遂させる過程で、保育や幼児教育、延いては人間理解や種々の実践活動に対し、①それらに資する問題意識を持てるようになること、②見出した問題意識へ、一定の回答を与え得る方法を思案できるようになること、③問題意識の内容と、探求の成果として得られた回答を説得的な文章として記述できるようなることを目指す。

<授業の方法>

授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。なお、Google Calssroomを利用し、進捗状況を共有しながら、研究指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：受講生自身の手で実際に卒業研究を進める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することが出来る。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業研究または卒業制作の成果物（100％）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析 1	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に取集
7	先行研究の分析 2	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析 3	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作の一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正（夏季休業中の研究計画の決定）
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味

24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正
27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	河野 儀久			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

研究プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）

24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	貫戸 崇史			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。 科学的研究思考を持つことができる。探求意欲を持ち課題に対して最後まで取り組むことができる。

<授業の方法>

ゼミナールⅡは日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付け、および修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける。ゼミナールにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習において双方向で理解度を確認する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP 4 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%（事前課題、レポート等）で評価する。

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）
24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）

25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解
28	個別指導 (7)	プレゼン資料の作成・プレゼン発表
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

卒業論文を執筆する過程を通じて、柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目指す。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 柔道整復・健康・スポーツに関する調査・研究を通して、柔道整復・健康・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

赤間高雄（2014年3月） はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ8 スポーツ医学【内科】 化学同人

Scott K. Powers., Edward T. Howley（2020年8月）日本語版監修 内藤久士 柳谷登志雄 小林裕幸 高澤祐治 パワーズ運動生理学 メディカル・サイエンス・インターナショナル

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要，卒業研究の進め方
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	心拍数・運動負荷試験・乳酸測定の方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析

22	個別指導 (1)	課題研究の遂行と個別指導 (1)
23	個別指導 (2)	課題研究の遂行と個別指導 (2)
24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4) プレゼン資料作成
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5) プレゼン資料作成
27	個別指導 (6)	プレゼン発表
28	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

卒業論文を執筆する過程を通じて、柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 柔道整復・健康・スポーツに関する調査・研究を通して、柔道整復・健康・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

赤間高雄（2014年3月） はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ8 スポーツ医学【内科】 化学同人

Scott K. Powers., Edward T. Howley（2020年8月）日本語版監修 内藤久士 柳谷登志雄 小林裕幸 高澤祐治 パワーズ運動生理学 メディカル・サイエンス・インターナショナル

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要，卒業研究の進め方
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	心拍数・運動負荷試験・乳酸測定の方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析

22	個別指導 (1)	課題研究の遂行と個別指導 (1)
23	個別指導 (2)	課題研究の遂行と個別指導 (2)
24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4) プレゼン資料作成
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5) プレゼン資料作成
27	個別指導 (6)	プレゼン発表
28	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PH]				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

研究活動を通して柔道整復師としての役割と責任を理解し、その内容を説明することができる。また、研究課題を設定し、先行研究の収集・整理を行い、研究計画を立案することができる。さらに、データの収集・分析を行い、その結果を科学的根拠に基づいて考察することができる。加えて、研究成果を論文としてまとめ、適切に発表することができる。

<授業の方法>

ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー7（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

出現した課題に対してグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（目安：各回 1時間）授業で扱う内容に関連する基礎事項の復習を行うとともに、研究課題に関する分野の文献検索を実施し、ニュースや学術論文を参照しながら必要な情報を収集する。また、収集した情報を基に研究仮説を立て、授業に臨む。事後学習（目安：各回 1時間）授業で指摘された課題や修正点に基づき、研究計画および内容の見直し・修正を行うとともに、追加の文献検索や情報整理を行う。また、データの確認や分析準備を進め、研究の質の向上に努める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題達成度 70%、学習意欲30%で評価する。

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）

20	実験 (3)	実験実施 (2)
21	実験 (4)	実験データ解析
22	個別指導 (1)	課題研究の遂行と個別指導 (1)
23	個別指導 (2)	課題研究の遂行と個別指導 (2)
24	個別指導 (3)	課題研究の遂行と個別指導 (3)
25	個別指導 (4)	課題研究の遂行と個別指導 (4)
26	個別指導 (5)	課題研究の遂行と個別指導 (5)
27	個別指導 (6)	プレゼンの理解・資料作成
28	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有2～3人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（2時間程度）。進捗状況の報告準備をする（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究

17	課題研究の遂行とその報告⑩	をよりよいものにする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
26	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
28	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

プレゼンテーション、ディスカッション

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析し、進捗状況の報告準備をする（所要時間：1時間程度）事後学習：プレゼンテーションやディスカッションを通じて出た課題や発見をまとめておくこと。（所要時間：1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認	各自の研究成果の発表
28	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解できるようになる。レポート発表及びディスカッションができるようになる。研究レポート・論文作成の基本を身に付けている。研究を論文としてまとめ、その発表ができるようになる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有卒業論文の執筆に向けた研究討議の実施にあたり、先行研究の発表及びディスカッション、中間報告に関する質疑応答や意見交換会を実施します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：進捗状況の報告準備をする（1.5時間程度）。事後学習：各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1.5時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

16	課題研究の遂行とその報告⑩	をよりよいものにする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
28	1年間のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有基本的に自身で調べてプレゼンテーションを用意し、ゼミ内で発表し、ディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備及び振り返りをする（3時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組(グループへの貢献度含む)50%、課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	後期について	後期向けの課題
16	卒業研究①	本実験
17	卒業研究②	本実験
18	卒業研究③	本実験
19	卒業研究④	本実験
20	卒業研究⑤	本実験
21	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
24	卒業研究⑨	卒業論文の書き方

25	卒業研究⑩	抄録の書き方
26	卒業研究⑪	論文作成
27	卒業研究⑫	論文作成
28	ゼミ内研究発表会	統括
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：定期的な課題発表を行い、グループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：①研究テーマに関する文献・先行研究の収集と精読。②研究計画の作成・修正。③調査・実験・フィールドワークの準備。
④課題発表・中間報告の資料作成。（毎回 約3時間）事後学習：①授業での指導・助言を踏まえた研究内容の修正。②データ整理・分析・考察の作成。③発表資料・卒業論文の執筆・推敲。（毎回 約3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	前期まとめ、後期研究に向けて計画	前期まとめと後期に向けての課題、予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	卒業研究①	本実験
16	卒業研究②	本実験
17	卒業研究③	本実験
18	卒業研究④	本実験
19	卒業研究⑤	本実験
20	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
21	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
24	卒業研究⑩	抄録の書き方

25	卒業研究⑪	論文作成、発表資料作成
26	卒業研究⑫	論文作成、発表資料作成
27	卒業研究⑬	論文作成、発表資料作成
28	ゼミ内研究発表会	統括
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	戸田 晃大			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：定期的な課題発表を行い、グループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：①研究テーマに関する文献・先行研究の収集と精読。②研究計画の作成・修正。③調査・実験・フィールドワークの準備。
④課題発表・中間報告の資料作成。（毎回 約3時間）事後学習：①授業での指導・助言を踏まえた研究内容の修正。②データ整理・分析・考察の作成。③発表資料・卒業論文の執筆・推敲。（毎回 約3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	前期まとめ、後期研究に向けて計画	前期まとめと後期に向けての課題、予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	卒業研究①	本実験
16	卒業研究②	本実験
17	卒業研究③	本実験
18	卒業研究④	本実験
19	卒業研究⑤	本実験
20	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
21	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
24	卒業研究⑩	抄録の書き方

25	卒業研究⑪	論文作成、発表資料作成
26	卒業研究⑫	論文作成、発表資料作成
27	卒業研究⑬	論文作成、発表資料作成
28	ゼミ内研究発表会	統括
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：定期的な課題発表を行い、グループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：①研究テーマに関する文献・先行研究の収集と精読。②研究計画の作成・修正。③調査・実験・フィールドワークの準備。
④課題発表・中間報告の資料作成。（毎回 約3時間）事後学習：①授業での指導・助言を踏まえた研究内容の修正。②データ整理・分析・考察の作成。③発表資料・卒業論文の執筆・推敲。（毎回 約3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	前期まとめ、後期研究に向けて計画	前期まとめと後期に向けての課題、予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	卒業研究①	本実験
16	卒業研究②	本実験
17	卒業研究③	本実験
18	卒業研究④	本実験
19	卒業研究⑤	本実験
20	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
21	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
24	卒業研究⑩	抄録の書き方

25	卒業研究⑪	論文作成、発表資料作成
26	卒業研究⑫	論文作成、発表資料作成
27	卒業研究⑬	論文作成、発表資料作成
28	ゼミ内研究発表会	統括
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	河端 隆志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：定期的な課題発表を行い、グループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：①研究テーマに関する文献・先行研究の収集と精読。②研究計画の作成・修正。③調査・実験・フィールドワークの準備。
④課題発表・中間報告の資料作成。（毎回 約3時間）事後学習：①授業での指導・助言を踏まえた研究内容の修正。②データ整理・分析・考察の作成。③発表資料・卒業論文の執筆・推敲。（毎回 約3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	前期まとめ、後期研究に向けて計画	前期まとめと後期に向けての課題、予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	卒業研究①	本実験
16	卒業研究②	本実験
17	卒業研究③	本実験
18	卒業研究④	本実験
19	卒業研究⑤	本実験
20	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
21	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑧	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑨	卒業論文の書き方
24	卒業研究⑩	抄録の書き方

25	卒業研究⑪	論文作成、発表資料作成
26	卒業研究⑫	論文作成、発表資料作成
27	卒業研究⑬	論文作成、発表資料作成
28	ゼミ内研究発表会	統括
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	小川 雄太			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：定期的な課題発表を行い、グループディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：①研究テーマに関する文献・先行研究の収集と精読。②研究計画の作成・修正。③調査・実験・フィールドワークの準備。
④課題発表・中間報告の資料作成。（毎回 約3時間）事後学習：①授業での指導・助言を踏まえた研究内容の修正。②データ整理・分析・考察の作成。③発表資料・卒業論文の執筆・推敲。（毎回 約3時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	研究計画	研究計画
3	研究計画	研究計画
4	進捗報告、ディスカッション	進捗報告、ディスカッション
5	進捗報告、ディスカッション	進捗報告、ディスカッション
6	進捗報告、ディスカッション	進捗報告、ディスカッション
7	予備実験	予備実験
8	予備実験	予備実験
9	予備実験	予備実験
10	予備実験発表	予備実験発表
11	予備実験発表	予備実験発表
12	予備実験発表	予備実験発表
13	予備実験発表	予備実験発表
14	前期まとめ	前期まとめ
15	本実験	本実験
16	本実験	本実験
17	本実験	本実験
18	本実験	本実験
19	本実験	本実験
20	進捗報告、ディスカッション	進捗報告、ディスカッション
21	進捗報告、ディスカッション	進捗報告、ディスカッション
22	進捗報告、ディスカッション	進捗報告、ディスカッション
23	執筆の具体	執筆の具体
24	執筆の具体	執筆の具体

25	論文作成	論文作成
26	論文作成	論文作成
27	論文作成	論文作成
28	ゼミ内発表会	ゼミ内発表会
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ名は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

<授業の到達目標>

本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り各回のグループでディスカッションを行い、共同で課題を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・各回の授業に関連する文献の渉猟（30分） ・データの解析と解釈の理解（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、実践力養成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%。ただし、ゼミナール課題の提出を単位認定の必須条件とする。

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業論文の作成手順とテーマの考案
2	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
3	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	実践力養成に向けた講座(2)
4	研究課題の決定	研究課題を決定する。
5	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	実践力養成に向けた講座(3)
6	文献調査	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
7	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	実践力養成に向けた講座(4)
8	研究計画の立案	研究課題を解明するために適切な研究計画を立案する。
9	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	実践力養成に向けた講座(5)
10	予備実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験を実施する。
11	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	実践力養成に向けた講座(6)
12	予備実験データの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験で取得したデータを分析する。
13	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	実践力養成に向けた講座(7)
14	本実験Ⅰ	本実験の実施。本実験がない受講生は、検者として参加する。

15	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	実践力養成に向けた講座(8)
16	本実験Ⅱ	本実験の実施。本実験がない受講生は、検者として参加する。
17	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(1)
18	データ分析	本実験で取得したデータを分析する。
19	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(2)
20	データ分析結果の検討	本実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
21	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(3)
22	統計分析	得られた結果を統計学的に分析する。
23	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(4)
24	結果の考察	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察していく。
25	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(5)
26	プレゼンテーション準備	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
27	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(6)
28	研究成果報告会	研究成果をプレゼンテーションする。
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	梶谷 亮輔			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

卒業論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり必要に応じてディスカッションを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的と進め方
2	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期卒業論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期卒業論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
22	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
24	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

25	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表	最終論文発表
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	品田 直宏			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

ゼミ論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

実践的に身体を動かすことがある

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

<教科書>

<参考書>

日本コーチング学会（2017/4/4） コーチング学への招待 ?大修館書店

福永 哲夫（著）、山本 正嘉（著）（2018/10/1） 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方（体育・スポーツ・健康科学テキストブックシリーズ） 市村出版

高松 薫（2021/3/22） 競技スポーツにおけるコーチング・トレーニングの将来展望：実践と研究の場における知と技の好循環を求めて ?筑波大学出版会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期ゼミ論中間発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期ゼミ論中間発表会	卒業論文に向けてのテーマ（仮）取り組みたい内容、方法を発表する。
16	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

20	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
22	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
24	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	ゼミ論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表	最終論文発表
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

卒業論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、ディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的と進め方
2	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
3	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
4	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
5	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
6	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
7	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
8	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
9	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
10	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
11	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
12	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
13	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
14	前期卒業論進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期卒業論進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
17	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
18	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
19	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
20	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
21	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
22	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。
23	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別で進める。

24	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	後期ゼミ内発表①	最終論文発表準備
29	後期ゼミ内発表②	最終論文発表準備
30	まとめ	ゼミナール2と総括と最終論文発表

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	田中 耕作			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

<授業の到達目標>

卒業論文を執筆する過程を通じて、学習を通して社会人に求められる知識、技能を身につけることを目標とする。到達目標は、1. 自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。2. 体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。3. 自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、ディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、体育・スポーツに関する課題について、新聞・雑誌・先行研究を用いて情報収集を行い、研究テーマに関連する基礎知識を整理する（2～3時間程度）。また、調査・研究内容の発表に向けた資料作成や構成の検討を行う（2～3時間程度）。事後学習として、授業内での指導やディスカッション内容を踏まえ、研究内容の修正・深化を図るとともに、データ整理や分析、レポートの加筆・修正を行う（4～7時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50%、発表・課題50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的と進め方
2	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
3	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
4	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
5	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
6	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
7	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
8	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
9	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
10	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
11	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
12	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
13	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
14	前期卒業論文進捗発表会	課題研究用にスライドや資料を作成する。
15	前期卒業論文進捗発表会	卒業論文に向けて取り組みたい内容を発表する。
16	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
17	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
18	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
19	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
20	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
21	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。

22	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
23	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
24	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
25	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
26	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
27	卒業論文執筆作業	データ取得、資料作成、論文執筆を個別に進める。
28	最終論文発表	最終論文発表会で発表する
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	仙波 慎平			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、自身が関心を持っている分野・内容など、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

<授業の到達目標>

本科目における到達目標は、体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得するとともに、自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけることとして、卒業論文を執筆することにある。

<授業の方法>

論文作成の方法を学びながら、課題発表やディスカッションを展開し、それぞれ研究や調査を行う。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。その成果として学年末において卒業研究発表にてプレゼンテーションする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（事前学習2時間程度）。基礎的知識獲得に必要な事後学習（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実践的な態度50%、体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表50%をもって評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
2	研究課題の決定	研究課題を決定する。
3	文献調査①	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
4	文献調査②・ディスカッション	自身の研究に関連する文献を議題としてディスカッションを行う。
5	文献調査③・ディスカッション	自身の研究に関連する文献を議題としてディスカッションを行う。
6	予備実験調査・実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備調査・実験を実施する。
7	予備調査・実験Ⅰのデータ分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験Ⅰで取得したデータを分析し、調査方法やプロトコルの見直しを検討する。
8	予備調査・実験Ⅱ	予備実験Ⅰの結果をもとに、修正された調査方法や研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験Ⅱを実施する。
9	予備調査・実験Ⅱデータの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備調査・実験Ⅱで取得したデータを分析し、プロトコルの見直しを検討する。
10	本調査・実験①	本調査・実験の実施し、データを取集する。
11	本調査・実験②	本調査・実験の実施し、データを取集する。
12	本調査・実験③	本調査・実験の実施し、データを取集する。
13	本調査・実験④	本調査・実験の実施し、データを取集する。
14	本調査・実験⑤	本調査・実験の実施し、データを取集する。
15	本調査・実験⑥	本調査・実験の実施し、データを取集する。
16	データ分析①	本調査・実験で取得したデータを分析する。
17	データ分析②	本調査・実験で取得したデータを分析する。
18	データ分析③	本調査・実験で取得したデータを分析する。
19	データ分析結果の検討①	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
20	データ分析結果の検討②	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。

21	データ分析結果の検討③	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
22	統計分析①	得られた結果を統計学的に分析する。
23	統計分析②	得られた結果を統計学的に分析する。
24	結果の考察①	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
25	結果の考察②	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
26	結果の考察③	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
27	プレゼンテーション準備①	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
28	全体のまとめ	卒業研究活動全体を通じた総括
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業 科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	早田 剛			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

<授業の到達目標>

本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

<授業の方法>

課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィールドワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有実験計画立案や実験実施、考察検討には、共同作業及びディスカッションを行なっていく。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（２～３時間）。調査・研究する課題の発表準備（３時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組（グループへの貢献度含む）50%、課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方 目標設定
2	研究計画作成	仮説 背景
3	研究計画作成	目的 方法
4	進捗発表会①	研究テーマ発表 ディスカッション
5	進捗発表会②	研究テーマ発表 ディスカッション
6	進捗発表会③	研究テーマ発表 ディスカッション
7	予備実験①	データの採取、解析
8	予備実験②	データの採取、解析
9	予備実験③	データの採取、解析
10	予備実験 発表会①	予備実験データ発表 ディスカッション
11	予備実験 発表会②	予備実験データ発表 ディスカッション
12	予備実験 発表会③	予備実験データ発表 ディスカッション
13	予備実験 発表会④	予備実験データ発表 ディスカッション
14	後期研究に向けて計画	予備実験を参考に背景、目的、方法を再度作成
15	前期まとめ	前期まとめと後期向けの課題
16	卒業研究①	本実験
17	卒業研究②	本実験
18	卒業研究③	本実験
19	卒業研究④	本実験
20	卒業研究⑤	進捗発表 ディスカッション
21	卒業研究⑥	進捗発表 ディスカッション
22	卒業研究⑦	進捗発表 ディスカッション
23	卒業研究⑧	卒業論文の書き方
24	卒業研究⑨	抄録の書き方
25	卒業研究⑩	論文作成

26	卒業研究⑪	論文作成
27	卒業研究⑫	発表資料作成
28	卒業研究⑬	卒論発表
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	十河 直太			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有卒業論文について担当教員や他の学生とディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	今後の研究計画の確認	全員の進捗状況を確認し、後期の進め方について考える。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
26	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
28	卒業研究のまとめ	1年間の課題研究の総括を行う。
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	藤谷 かおる			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レジュメ発表およびディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身につける。・研究を卒業論文、またはゼミ論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を導き出すよう、議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認しながら、進める。最終的には卒業論文をまとめ、発表会で報告できるようにする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有個人の研究課題の進捗状況に応じて、グループ間の議論を行うことで、研究の実施、改善を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、体育・スポーツの課題・問題について、先行研究を通して調べる（2時間）。また、調査・研究する課題の発表準備を行う（3時間）。事後学習として、授業内容やコメントを整理し、課題の理解を深める（1時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通じて課題の解決に参画することができる）及びディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と向き合い、感情を整理し、目標達成ができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間発表50点、論文50点

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒論研究の目的、内容、授業方法、評価等について理解する。
2	研究課題について(1)	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について(2)	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について(3)	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成(1)	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成(2)	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	研究計画書の作成(3)	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
8	研究課題の遂行とその報告(1)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
9	研究課題の遂行とその報告(2)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
10	研究課題の遂行とその報告(3)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
11	研究課題の遂行とその報告(4)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
12	研究課題の遂行とその報告(5)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
13	研究課題の遂行とその報告(6)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
14	研究課題の遂行とその報告(7)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
15	研究課題の遂行とその報告(8)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
16	研究課題の遂行とその報告(9)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
17	研究課題の遂行とその報告(10)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を

18	中間発表(1)	深める。
19	中間発表(2)	各自、研究の中間発表を行い、お互い検討しあうことで、完成形に近づけていく。
20	研究課題の遂行とその報告(11)	各自、研究の中間発表を行い、お互い検討しあうことで、完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告(12)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
22	研究課題の遂行とその報告(13)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
23	研究課題の遂行とその報告(14)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
24	研究課題の遂行とその報告(15)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
25	研究課題の遂行とその報告(16)	自らの研究を深め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答によりさらに研究を深める。
26	卒業論文最終確認(1)	各自の研究成果の発表と他者への質問
27	卒業論文最終確認(2)	各自の研究成果の発表と他者への質問
28	卒業論文最終確認(3)	各自の研究成果の発表と他者への質問
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有卒業論文の執筆に向けた研究討議の実施にあたり、先行研究の発表及びディスカッション、中間報告に関する質疑応答や意見交換会を実施します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。事後学習：進捗状況報告から新たに見つかった課題を行う（30分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
15	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

16	課題研究の遂行とその報告⑨	をよりよいものにする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各自で設定した研究課題に沿って資料の収集・分析をする（1時間程度）。進捗状況の報告準備をする（30分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

16	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
20	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
22	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	堀川 峻			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、卒業論文の執筆を通して、研究に関わる一連の手続きを体験することを目的とする。そのため、問いの立て方を指導の中心とし、履修者相互の議論によって理解を深める手立てとする。

<授業の到達目標>

関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。レポート発表及びディスカッションができる。研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。研究を卒業論文、またはゼミ論文としてまとめ、その発表ができる。

<授業の方法>

研究課題決定に際しては、履修者の学術的関心を引き出すため議論を多用する。その後の授業では、履修者の進捗状況を確認を中心とし、そのプロセスはポートフォリオとして記録させる。ポートフォリオはICTを活用し、教員および履修者間で即座に共有可能な状態にする。研究の最終成果は論文としてまとめ、発表会で報告させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有個人の研究課題の進捗に関して、グループ間で議論を行うことで、よりよい研究の実施に向けて話し合いを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2時間）。また、調査・研究する課題の発表準備を行う（3時間）。事後学習としては、授業内容を改めて整理し、関心のある課題の発見を行う（1時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ポートフォリオおよび授業態度等 30%，中間発表 20%，論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

特に指定しない。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進捗よく状況を報告し、質疑応答により研究

16	課題研究の遂行とその報告⑩	をよりよいものにする。 各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑬	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちよく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
27	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、自ら設定したテーマについて学術的な調査・分析を行い、卒業論文として結実させることを目的とします。先行研究の精査を通じて、自身の問いが持つ学術的・社会的意義を明確にします。授業形態は、個別の研究進捗報告を主体とし、履修者相互によるクリティカル・ディスカッションを重視します。他者の視点を取り入れ、論理の飛躍や根拠の妥当性を検証するプロセスを通じて、客観的な分析力と論理的記述力を磨きます。一連のプロセス（問いの構築、データ収集、分析、考察、執筆、口頭発表）を自律的に完遂することで、スポーツ科学の専門的知見を深めるだけでなく、社会において複雑な課題を論理的に解決する能力の修得を目指します。

<授業の到達目標>

(1) 問いの構造化：自身の興味関心を、学術的な枠組みに基づいた明確な「問い」として定義し、適切な研究手法を選択できる。(2) 実証的分析の遂行：収集したデータ（質的・量的）を論理的に分析し、客観的な事実に基づいて自身の仮説や問いを検証できる。(3) 学術的発信能力：形式に則った論文執筆（構成、引用ルール、論理展開）を行い、口頭発表において専門的な議論に対応できる。

<授業の方法>

(1) 授業の進め方 学生主体の課題解決学習とディスカッションを中心に展開します。各自の進捗に応じ、質問紙調査や文献調査を行い、その成果をプレゼンテーション資料（PPT等）にまとめて発表します。また、専門的知識や論文執筆スキルの補完を目的とした講義形式の講座を適宜織り交ぜます。学生同士の質疑応答や相互評価を通じて、論理的思考力と多角的な視点を養う実践的な構成とします。(2) ICTの活用 プレゼンテーション資料の作成や共有にはGoogle Slidesを活用します。また、共同編集機能（Google Docs/Sheets）を用い、学生間でのピア・レビュー（相互添削）やデータ集計を効率的に行います。(3) 学習管理の方法 Google Classroomをハブとし、調査資料のストック、課題の提出、フィードバックの記録を一元管理します。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有（課題解決型学習、ディスカッション、プレゼンテーション） 自ら設定した研究テーマに基づき、先行研究の調査や統計解析を自律的に進める課題解決型学習（PBL）を実践します。授業内では、執筆プロセスの進捗報告を行うとともに、受講生同士によるピア・レビュー（相互添削）や質疑応答を実施します。他者からの客観的な示唆を反映させ、論理構成を再構築するプロセスを繰り返すことで、単なる知識習得に留まらない、高度な分析力と批判的思考力を主体的に養います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1～2時間】 自身の研究テーマに関わる体育・スポーツ界の諸課題について、新聞・雑誌・先行研究を幅広く資料を当たり情報を収集し、多角的な視点から現状を把握します。得られた知見に基づき、ゼミ内での議論を活性化させるための発表資料（PPT等）を、論理的な構成で作成・準備します。【復習：2時間】 ゼミでの質疑応答やフィードバックを真摯に受け止め、自身の思考の偏りや知識の不足を補完するための自主学習を行います。特に、統計手法や専門用語の内容を深く掘り下げて整理し、論理を明確にするなど、論文執筆に必要な基礎知

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、中間発表 20%、論文 50%

<教科書>

特に指定しない。

<参考書>

福永哲夫、山本正嘉(2018/10/23) 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方 市村出版
山下秋二、佐藤進、出村慎一(2014/2/10) 健康・スポーツ科学のための調査研究法 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	卒業論文提出までの年間スケジュールの確認と目標設定
2	研究構想の再構築	3年次の計画を最新の先行研究と照らし合わせ、問いを洗練させる
3	先行研究の精査(1)	関連文献の追加検索と、理論的枠組みの再検討
4	先行研究の精査(2)	文献レビューの執筆開始（「はじめに」の構成案作成）
5	調査・実験計画の確定	使用尺度、対象者、実施時期、倫理的配慮の最終確認
6	研究手法の検討(1)	定量的アプローチ（アンケート、実験）の基礎
7	研究手法の検討(2)	定性的アプローチ（インタビュー、観察）の基礎
8	予備調査・実験	少人数でのプレテスト実施
9	倫理教育と手続き	研究倫理の理解と、必要な調査依頼書作成

10	進捗報告会(1)	調査・実験準備状況のプレゼンと、ゼミ生間でのリスクチェック
11	データ収集の開始	実際のフィールド調査、実験、アンケート配布の開始
12	個別指導	収集過程でのトラブル対応や、手法の微調整
13	進捗報告会(2)	質疑応答を通じた論理の整合性確認（ピア・レビュー）
14	前期の振り返り	収集状況の点検と、夏休み中のデータ整理計画の策定
15	夏休み活動報告	収集データの共有と、分析方針の最終決定
16	データ分析の実践(1)	量的調査：統計解析（有意差の検定、相関分析等）の実装
17	データ分析の実践(2)	質的調査：コード化、カテゴリー化による構造分析
18	分析結果の可視化	図表の作成と、結果の客観的記述
19	中間発表(1)	中間発表会に向けたプレゼン資料作成
20	中間発表(2)	中間発表会を実施し、ディスカッションを行う
21	考察の執筆(1)	先行研究との比較による、自研究の意義の明確化
22	考察の執筆(2)	研究の限界と今後の課題、結論のまとめ方
23	執筆指導（全体推敲）	引用文献リストの不備チェック、表現の学術的適正化
24	ピア・レビュー	学生同士による原稿の相互添削と意見交換
25	論文提出準備	抄録（要旨）の作成と、形式・体裁の最終確認
26	プレゼン演習	卒業論文発表会に向けたスライド構成と発表原稿作成
27	ゼミ内卒論発表会	相互チェックと想定質問への対策
28	卒業論文提出	論文・提出手続きの最終確認と卒業研究のまとめ
29		
30		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [PP]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。

<授業の到達目標>

研究を通して体育人としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

<授業の方法>

講義・演習・実技等の形態をとり、基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、学生が自ら研究テーマを設定し、計画立案から発表までの過程を主体的に進める。演習形式による発表や討議、個別指導を通じて、課題発見力や論理的思考力を育む学習が展開され、アクティブラーニングの要素が含まれている。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

文献研究、プレゼンテーションの準備等

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 30%、研究論文 50%、プレゼンテーション能力 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定（2）	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定（1）	研究方法の精査
6	研究方法の決定（2）	研究方法の精査
7	研究方法の決定（3）	結果の検討
8	研究方法の決定（4）	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案（1）	実験被験者確保とヘルシキ宣言に関する理解
12	研究計画の立案（2）	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）
24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）
25	個別指導（4）	課題研究の遂行と個別指導（4）
26	個別指導（5）	課題研究の遂行と個別指導（5）

27	個別指導 (6)	プレゼン発表
28	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正
29		
30		

科目コード	55009				区 分	コア科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（目安：各回 1時間）授業で扱う内容に関連する基礎事項の復習を行うとともに、設定した研究テーマに関するニュースや学術論文を検索・参照し、興味関心を高めた上で授業に臨む。事後学習（目安：各回 1時間）授業で指摘された課題や修正点に基づき、研究内容の見直し・修正を行うとともに、文献の整理やデータの確認を行い、研究の質の向上に努める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方①	研究論文の読み方について学ぶ
4	研究論文の読み方②	研究論文の読み方について学ぶ
5	文献検索①	論文検索方法、採択方法について学ぶ
6	文献検索②	論文検索方法、採択方法について学ぶ
7	文献検索③	論文検索方法、採択方法について学ぶ
8	課題研究-テーマに関する検討-①	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう
9	課題研究-テーマに関する検討-②	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
10	課題研究-テーマに関する検討-③	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
11	抄読発表①	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
12	抄読発表②	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
13	抄読発表③	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
14	抄読発表④	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
15	ガイダンス②	課題研究論文作成に関するガイダンス
16	研究テーマの再検討①	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
17	研究テーマの再検討②	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
18	研究テーマの再検討③	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
19	参考文献検索①	参考文献の検索方法を学ぶ
20	参考文献検索②	参考文献の検索方法を学ぶ
21	参考文献検索③	参考文献の検索方法を学ぶ
22	発表資料の作り方①	発表資料の作り方を学ぶ
23	発表資料の作り方②	発表資料の作り方を学ぶ

24	発表資料の作り方③	発表資料の作り方を学ぶ
25	課題研究を発表する①	背景・目的の書き方
26	課題研究を発表する②	背景・目的の書き方
27	課題研究を発表する③	方法，結果の書き方
28	課題研究を発表する④	考察，まとめ
29		
30		

科目コード	55009				区 分	コア科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。（約90分）事後学習：授業中に指摘された課題について調べてまとめる。（約90分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することが出来る。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方①	研究論文の読み方について学ぶ
4	研究論文の読み方②	研究論文の読み方について学ぶ
5	文献検索①	論文検索方法、採択方法について学ぶ
6	文献検索②	論文検索方法、採択方法について学ぶ
7	文献検索③	論文検索方法、採択方法について学ぶ
8	課題研究-テーマに関する検討-①	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう
9	課題研究-テーマに関する検討-②	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
10	課題研究-テーマに関する検討-③	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
11	抄読発表①	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
12	抄読発表②	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
13	抄読発表③	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
14	抄読発表④	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
15	ガイダンス②	課題研究論文作成に関するガイダンス
16	研究テーマの再検討①	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
17	研究テーマの再検討②	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
18	研究テーマの再検討③	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
19	参考文献検索①	参考文献の検索方法を学ぶ
20	参考文献検索②	参考文献の検索方法を学ぶ
21	参考文献検索③	参考文献の検索方法を学ぶ
22	発表資料の作り方①	発表資料の作り方を学ぶ
23	発表資料の作り方②	発表資料の作り方を学ぶ
24	発表資料の作り方③	発表資料の作り方を学ぶ

25	課題研究を発表する①	背景・目的の書き方
26	課題研究を発表する②	背景・目的の書き方
27	課題研究を発表する③	方法, 結果の書き方
28	課題研究を発表する④	考察, まとめ
29		
30		

科目コード	55009				区 分	コア科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	平林 大輔			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回の授業内容の復習（20分程度）授業時間後の復習を行うための口頭試問、レポート作成等（30分程度）時間外学習は最低でも3時間は行っておく事。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方①	研究論文の読み方について学ぶ
4	研究論文の読み方②	研究論文の読み方について学ぶ
5	文献検索①	論文検索方法、採択方法について学ぶ
6	文献検索②	論文検索方法、採択方法について学ぶ
7	文献検索③	論文検索方法、採択方法について学ぶ
8	課題研究-テーマに関する検討-①	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう
9	課題研究-テーマに関する検討-②	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
10	課題研究-テーマに関する検討-③	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
11	抄読発表①	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
12	抄読発表②	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
13	抄読発表③	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
14	抄読発表④	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
15	ガイダンス②	課題研究論文作成に関するガイダンス
16	研究テーマの再検討①	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
17	研究テーマの再検討②	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
18	研究テーマの再検討③	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
19	参考文献検索①	参考文献の検索方法を学ぶ
20	参考文献検索②	参考文献の検索方法を学ぶ
21	参考文献検索③	参考文献の検索方法を学ぶ
22	発表資料の作り方①	発表資料の作り方を学ぶ
23	発表資料の作り方②	発表資料の作り方を学ぶ
24	発表資料の作り方③	発表資料の作り方を学ぶ

25	課題研究を発表する①	背景・目的の書き方
26	課題研究を発表する②	背景・目的の書き方
27	課題研究を発表する③	方法，結果の書き方
28	課題研究を発表する④	方法，結果の書き方考察、まとめ
29		
30		

科目コード	55009				区 分	コア科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（予習）：次回授業のテーマに関連する基礎事項（教科書該当範囲等）を確認し、専門用語や基本概念を理解しておく。また、関連するニュースや論文等に目を通し、関心や疑問点を整理する。（目安時間：約30分）事後学習（復習）：授業内容を復習し、配布資料やノートを整理するとともに、理解が不十分な点を再確認する。あわせて、授業で提示・指摘された課題に取り組み、内容の定着を図る。（目安時間：約30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方①	研究論文の読み方について学ぶ
4	研究論文の読み方②	研究論文の読み方について学ぶ
5	文献検索①	論文検索方法、採択方法について学ぶ
6	文献検索②	論文検索方法、採択方法について学ぶ
7	文献検索③	論文検索方法、採択方法について学ぶ
8	課題研究-テーマに関する検討-①	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう
9	課題研究-テーマに関する検討-②	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
10	課題研究-テーマに関する検討-③	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
11	抄読発表①	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
12	抄読発表②	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
13	抄読発表③	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
14	抄読発表④	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
15	ガイダンス②	課題研究論文作成に関するガイダンス
16	研究テーマの再検討①	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
17	研究テーマの再検討②	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
18	研究テーマの再検討③	テーマについて再検討をグループディスカッションの実施
19	参考文献検索①	参考文献の検索方法を学ぶ
20	参考文献検索②	参考文献の検索方法を学ぶ
21	参考文献検索③	参考文献の検索方法を学ぶ
22	発表資料の作り方①	発表資料の作り方を学ぶ

23	発表資料の作り方②	発表資料の作り方を学ぶ
24	発表資料の作り方③	発表資料の作り方を学ぶ
25	課題研究を発表する①	背景・目的の書き方
26	課題研究を発表する②	方法・結果の書き方
27	課題研究を発表する③	考察・結論の書き方
28	総括	まとめ授業
29		
30		

科目コード	55009				区 分	コア科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	河野 儀久			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り（グループディスカッション）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する（1）	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する（2）	方法、結果の書き方
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		

25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55009				区 分	コア科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	簀戸 崇史			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り（グループディスカッション）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する（1）	背景・目的・方法・結果の書き方
14	課題研究を発表する（2）	考察、まとめ、参考文献の書き方
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		

25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55009				区 分	コア科目			
授業科目名	課題研究Ⅰ 《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅰでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する（約1.5時間程度）。各授業で指摘された課題を実施する（約1.5時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、DP4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる）に関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ、背景・目的・方法・結果・考察・まとめの書き方の書き方
13	課題研究の進捗報告（1）	総合討議1
14	課題研究の進捗報告（2）	総合討議2
15	課題研究の進捗報告（3）	総合討議3
16	課題研究の進捗報告（4）	総合討議4
17	課題研究の進捗報告（5）	総合討議5
18	課題研究の進捗報告（6）	総合討議6
19	課題研究の進捗報告（7）	総合討議7
20	課題研究の進捗報告（8）	総合討議8
21	課題研究の進捗報告（9）	総合討議9
22	課題研究の進捗報告（10）	総合討議10
23	課題研究の進捗報告（11）	総合討議11

24	課題研究の進捗報告（12）	総合討議12
25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	55010				区 分	コア科目			
授業科目名	課題研究Ⅱ 《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、仮説を立てる企画力を養い、科学的に検証することを目的とする。本講義では、グループにおいて、前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈して評価する、後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈し評価する。この過程を通じて、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

1. 問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。2. 科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。3. 検証型研究で用いる評価項目や評価指標、そしてその要約値(代表値)を選択するために、なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。4. データを要約するために、記述統計学的手法を用い、科学的に解釈し評価することができるようになる。

<授業の方法>

1. グループワーク（ディスカッション、計測）2. 省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（目安：各回 1時間）設定した研究テーマについて下調べを行い、関連分野の文献検索を実施する。ニュースや学術論文を参照しながら必要な情報を収集し、研究仮説を立てるとともに、探索型研究および検証型研究の企画立案に必要な準備を行った上で授業に臨む。事後学習（目安：各回 2時間）毎講義で与えられた課題について調査を行い、グループでの研究活動（調査・観測、実験・試験等）の結果を踏まえて、研究計画および内容の見直し・修正を行う。また、得られた結果を科学的に解釈・評価し、文献との関連付けを行いながら研究の質の向

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書
酒井 聡樹（2006/4） これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 共立出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス、グループ決め、テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討①	検証方法を検討する
4	検証方法の検討②	検証方法を検討する
5	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価
6	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表、評価
7	実験検証①	実験を行なう(被験者になる)
8	実験検証②	実験を行なう(被験者になる)
9	実験検証③	実験を行なう(検者になる)
10	実験検証④	実験を行なう(検者になる)
11	結果のまとめ方①	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
12	結果のまとめ方②	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
13	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
14	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
15	ガイダンス②	ガイダンス、新グループ決め、新テーマの設定
16	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
17	検証方法の検討①	検証方法を検討する
18	検証方法の検討②	検証方法を検討する
19	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価

20	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表，評価
21	実験検証①	実験を行なう
22	実験検証②	実験を行なう
23	実験検証③	実験を行なう
24	実験検証④	実験を行なう
25	結果まとめ①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
26	結果まとめ②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
27	結果まとめ③	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
28	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
29		
30		

科目コード	55010				区 分	コア科目			
授業科目名	課題研究Ⅱ 《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、仮説を立てる企画力を養い、科学的に検証することを目的とする。本講義では、グループにおいて、前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈して評価する、後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈し評価する。この過程を通じて、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

1. 問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。2. 科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。3. 検証型研究で用いる評価項目や評価指標、そしてその要約値(代表値)を選択するために、なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。4. データを要約するために、記述統計学的手法を用い、科学的に解釈し評価することができるようになる。

<授業の方法>

1. グループワーク（ディスカッション、計測）2. 省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、1時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

酒井 聡樹（2006/4） これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 共立出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス、グループ決め、テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討①	検証方法を検討する
4	検証方法の検討②	検証方法を検討する
5	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価
6	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表、評価
7	実験検証①	実験を行なう(被験者になる)
8	実験検証②	実験を行なう(被験者になる)
9	実験検証③	実験を行なう(検者になる)
10	実験検証④	実験を行なう(検者になる)
11	結果のまとめ方①	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
12	結果のまとめ方②	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
13	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
14	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
15	ガイダンス②	ガイダンス、新グループ決め、新テーマの設定
16	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
17	検証方法の検討①	検証方法を検討する
18	検証方法の検討②	検証方法を検討する
19	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価
20	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表、評価
21	実験検証①	実験を行なう
22	実験検証②	実験を行なう

23	実験検証③	実験を行なう
24	実験検証④	実験を行なう
25	結果まとめ①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
26	結果まとめ②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
27	結果まとめ③	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
28	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ，発表する
29		
30		

科目コード	55010				区 分	コア科目			
授業科目名	課題研究Ⅱ 《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	平林 大輔			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、仮説を立てる企画力を養い、科学的に検証することを目的とする。本講義では、グループにおいて、前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈して評価する、後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈し評価する。この過程を通じて、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

1. 問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。2. 科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。3. 検証型研究で用いる評価項目や評価指標、そしてその要約値(代表値)を選択するために、なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。4. データを要約するために、記述統計学的手法を用い、科学的に解釈し評価することができるようになる。

<授業の方法>

1. グループワーク（ディスカッション、計測）2. 省察活動（計測結果についてのプレゼンテーション）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

必要に応じてグループワークを実施する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、1時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書
酒井 聡樹（2006/4） これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 共立出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス、グループ決め、テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討①	検証方法を検討する
4	検証方法の検討②	検証方法を検討する
5	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価
6	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表、評価
7	実験検証①	実験を行なう(被験者になる)
8	実験検証②	実験を行なう(被験者になる)
9	実験検証③	実験を行なう(検者になる)
10	実験検証④	実験を行なう(検者になる)
11	結果のまとめ方①	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
12	結果のまとめ方②	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
13	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
14	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
15	ガイダンス②	ガイダンス、新グループ決め、新テーマの設定
16	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
17	検証方法の検討①	検証方法を検討する
18	検証方法の検討②	検証方法を検討する
19	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価
20	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表、評価
21	実験検証①	実験を行なう
22	実験検証②	実験を行なう

23	実験検証③	実験を行なう
24	実験検証④	実験を行なう
25	結果まとめ①	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
26	結果まとめ②	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
27	結果まとめ③	統計学的手法を用いて，結果をまとめる
28	課題研究発表①	今までの課題研究をまとめ，発表する
29		
30		

科目コード	55010				区 分	コア科目			
授業科目名	課題研究Ⅱ 《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、仮説を立てる企画力を養い、科学的に検証することを目的とする。本講義では、グループにおいて、前半：調査・観測等の探索型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈して評価する、後半：実験・試験等の検証型研究を企画・立案・実施し、結果を科学的に解釈し評価する。この過程を通じて、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

1. 問題を提起して研究テーマを明確にすることができる。2. 科学的な理論やモデルを組み立て、仮説を設定することができる。3. 検証型研究で用いる評価項目や評価指標、そしてその要約値(代表値)を選択するために、なるべく多くの候補項目を観測できるようになる。4. データを要約するために、記述統計学的手法を用い、科学的に解釈し評価することができるようになる。

<授業の方法>

課題研究Ⅱは、ディプロマポリシー4 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：設定したテーマについて下調べを行う（毎回、1時間程度）復習：毎講義で与えられた課題について調査し、実践できるように準備する（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

酒井 聡樹（2006/4） これから論文を書く若者のために 大改訂増補版 共立出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス①	ガイダンス、グループ決め、テーマの設定
2	課題研究テーマ検討	定したテーマについて内容を発表、評価
3	検証方法の検討①	検証方法を検討する
4	検証方法の検討②	検証方法を検討する
5	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価
6	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表、評価
7	実験検証①	実験を行なう(被験者になる)
8	実験検証②	実験を行なう(被験者になる)
9	実験検証③	実験を行なう(検者になる)
10	実験検証④	実験を行なう(検者になる)
11	結果のまとめ方①	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
12	結果のまとめ方②	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
13	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
14	課題研究発表	今までの課題研究をまとめ、発表する
15	ガイダンス②	ガイダンス、新グループ決め、新テーマの設定
16	研究テーマの再検討	設定したテーマについて内容を発表、評価
17	検証方法の検討①	検証方法を検討する
18	検証方法の検討②	検証方法を検討する
19	検証方法の検討③	検討した検証方法を発表、評価
20	検証方法の検討④	検討した検証方法を発表、評価

21	実験検証①	実験を行なう
22	実験検証②	実験を行なう
23	実験検証③	実験を行なう
24	実験検証④	実験を行なう
25	結果まとめ①	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
26	結果まとめ②	統計学的手法を用いて、結果をまとめる
27	課題研究発表①	今までの課題研究をまとめ、発表する
28	課題研究発表②	今までの課題研究をまとめ、発表する
29		
30		

科目コード	55010				区 分	コア科目			
授業科目名	課題研究Ⅱ 《通年》[週間オンデマンド]				担当者名	河野 儀久			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療人として社会に出るためには、これまでに学習してきた各専門基礎科目、専門科目を総合的に関連付け、体系的に健康科学関連の理解を深める必要がある。根拠に基づいた医療（EBM）を見極めるために、先行研究を読み取る力・人に説明できる力を養うことを目的とする。課題研究Ⅱでは、グループにおける興味のあるテーマを定め、1つの論文について抄読発表を行なう。そして、同テーマに関連する複数の論文から既知と未知の領域を明確にし、卒業研究を行なうための準備を行なう。

<授業の到達目標>

研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

<授業の方法>

グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。毎回進捗を確認していきながら、論文作成の基本を学ぶ。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習で双方向に理解度を確認する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で教わったことを復習し、設定したテーマについて、興味関心を高め、ニュースや論文を参照できるように準備する。各授業で指摘された課題を実施する（約1時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（レポート、事前課題等） 30%、発表内容 70%

<教科書>

<参考書>

鍵和田 京子（2001年11月） よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方 東京図書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（1）	ガイダンス、テーマの設定
2	研究論文の構成	論文の構成、統計について学ぶ
3	研究論文の読み方	研究論文の読み方について学ぶ
4	文献検索	論文検索方法、採択方法について学ぶ
5	課題研究-テーマに関する検討-	課題研究テーマについて、グループディスカッションを行なう。
6	抄読発表（1）	グループ別抄読発表を行ない、質疑応答を行なう。
7	抄読発表（2）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
8	抄読発表（3）	グループ別抄読発表を聞き、質問を行なう。
9	ガイダンス（2）	課題研究論文作成に関するガイダンス
10	研究テーマの再検討	テーマについて再検討をグループディスカッションを行なう。
11	参考文献検索	参考文献の検索方法を学ぶ
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方を学ぶ
13	課題研究を発表する（1）	背景・目的の書き方
14	課題研究を発表する（2）	方法、結果の書き方
15	課題研究を発表する（3）	考察、まとめ、参考文献の書き方
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		

25		
26		
27		
28		
29		
30		

科目コード	36520				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	アスリートキャリアI(クロスオーバースキル)				担当者名	宮本 彩／矢野 智彦／三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

アスリートはスポーツで高みを目指す中で、競技スキルを磨くだけでなく、コミュニケーション能力や協調性、自己管理能力など、社会でも求められる様々なスキルも同時に培う必要があります。本授業では、これまでの経験を振り返り、クロスオーバースキルとして特に役立つとされている10項目（コミュニケーション能力、協調性、自己管理力、冷静さ、勝利思考、成長思考、意欲、達成力、適応力、乗り越える力）について考えていきます。

<授業の到達目標>

本授業を通して、自分自身の強みを理解するとともに、そのことについて、人に伝えることができる。

<授業の方法>

ペアワークやグループワークによる自己探求課題レポート等を基にした自己表現及び発表

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素；有りペアワークやグループワーク、その成果についてのプレゼンテーションなど

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習；次週のテーマについて調べる（30分）復習；授業の振り返りを行い、事後課題レポートやプレゼンテーションの作成などに取り組む（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内での発表を含めた受講態度 50%レポートを含む課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	競技スポーツ科学科が求めるアスリート像について	競技スポーツ科学科での学び方、取り組み方
2	自身が目指すアスリート像	受講者自身が目指しているアスリート像を具体的に言葉にし、小グループごとに発表する
3	理想とされるアスリート像とは	第1回目・第2回目の授業内容を振り返り、共通する能力は何かを考える。また、五訓の理解を深める。
4	五訓の実践例を考える	五訓の具体的な実践例を話し合う。また、クロスオーバースキルとは何かを学ぶ。
5	クロスオーバースキル“自己管理”	クロスオーバースキルのうち“自己管理”の重要性について話し合い、学科の特徴であるマルチサポートについて理解を深める。
6	クロスオーバースキル“成長思考・勝利思考”	クロスオーバースキルのうち、“成長思考・勝利思考”として、競技スポーツ科学科での学びを活かした戦い方を考える。
7	トップアスリートの講話に向けた事前学習①	講演者について調べ、レポートとしてまとめる。
8	トップアスリートからの講話①	講話の感想ならびに学んだ内容についてレポートでまとめる。
9	トップアスリートの講話を受けての事後学習①	考えたこと・学んだことを他の受講者と共有する。
10	トップアスリートの講話に向けた事前学習②	講演者について調べ、レポートとしてまとめる。
11	トップアスリートからの講話②	講話の感想ならびに学んだ内容についてレポートでまとめる。
12	トップアスリートの講話を受けての事後学習②	考えたこと・学んだことを他の受講者と共有する。
13	4年間での目標宣言①	4年間での自分自身の目標を受講者の前で発表する。
14	4年間での目標宣言②	4年間での自分自身の目標を受講者の前で発表する。
15		
16		

科目コード	62001				区 分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナーの役割				担当者名	河野 儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（JSP0-AT）の役割・業務と専門性や、業務を遂行するうえで必要となる多様な素養の位置づけを理解し、持続的に学び関係職種との連携を推進するための知識と態度の習得をねらいとする。

<授業の到達目標>

日本におけるアスレティックトレーナーの歴史とその役割、具体的な業務・制度・法律、さらにはアスレティックトレーナーを目指す上で必要な知識や技術、資質、倫理と責任について理解することをねらいとする。科学的根拠に基づいた情報収集と活用方法、そしてクライアントの特徴を理解し、連携体制の構築に活用できる。

<授業の方法>

講義。予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り（グループディスカッション）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、30分以上かけて次の授業内容の範囲まで教科書を毎回、読んでくること。また、テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する」、そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー5（体育・スポーツを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 60%（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）、最終課題・発表（最終課題、発表）40%

<教科書>

財団法人日本体育協会（2007.3.31）「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①」 日本体育協会
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷）『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1巻 アスレティックトレーナーの役割』 日本スポーツ協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	アスレティックトレーナーとは JSP0-AT	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度におけるJSP0-ATの位置づけとスポーツ指導者の種類
3	アスレティックトレーナーとは-コンピテンシーと業務-	必要性や役割（コンピテンシー・業務）
4	アスレティックトレーナーの役割-活動と倫理-	倫理と責任、法的問題、リスクマネジメント
5	アスレティックトレーナーの役割-運営管理-	活動環境、新たな領域
6	アスレティックトレーナーの役割-健康管理-	健康管理と取り組み
7	アスレティックトレーナーの役割-感染症概論とメンタルヘルス-	感染症と精神疾患に関する知識
8	スポーツ医・科学チーム・スタッフの役割と連携	ドクター、コーチ、デンティスト、栄養士、ファーマシストの役割と連携
9	エビデンスに基づいた運営EBP	EBPとは 学術活動とエビデンス
10	組織運営と管理-データ管理-	アスレティックトレーナーが扱うデータの管理方法
11	アスレティックトレーナーと研究・生涯教育	研究を行う意義と生涯教育

12	関係者とのコミュニケーション	プレイヤーや指導者・スタッフなど関係者とのコミュニケーション
13	対象者とのコミュニケーション	子供、高齢者、女性、障がい者とのコミュニケーション
14	まとめ(1)	総合学習
15		アスレティックトレーナーの役割に関する総合討議
16		

科目コード	53025				区 分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅰ [PH用]				担当者名	河野 儀久／坂本 賢広			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	必修

<授業の概要>

スポーツ現場や講話などを通してアスレティックトレーナーに必要とされる役割についての意義と考え方を学び、具体的な評価から問題点抽出、予防・リハビリテーション介入までのプロセスを理解し、アスレティックトレーナーの業務内容を学ぶことをねらいとする。アスレティックトレーナー実習Ⅰでは見学実習を中心に必要な知識や技術を身につける。

<授業の到達目標>

検査・測定と評価についての方法であるHOPSやアスレティックリハビリテーション、外傷における応急処置、コンディショニングとしてストレッチングやテーピングなどアスレティックトレーナーの役割全般を主として見学を通して理解ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

実習はトレーニングセンターなどスポーツ現場で行う。必要に応じて資料を配布する。資料提示や課題の提示。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の該当箇所の予習として、検査・測定と評価、予防とコンディショニング、アスレティックリハビリテーション等のテキストについて各60分以上学習しておく。各回、実施した内容をまとめたレポートを復習課題として課す。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実技試験50%、定期試験50%で評価する。

<教科書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会（2019年3月） 競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスレティックトレーニングルーム見学実習①	問診の方法を見学して理解する。
2	アスレティックトレーニングルーム見学実習②	視診の方法を見学して理解する。
3	アスレティックトレーニングルーム見学実習③	触診の方法を見学して理解する。
4	アスレティックトレーニングルーム見学実習④	関節可動域方法を見学して理解する。
5	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑤	徒手筋力検査方法を見学して理解する。
6	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑥	アライメント検査方法を見学して理解する。
7	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑦	スペシャルテストを見学して理解する。
8	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑧	関節弛緩性検査を見学して理解する。
9	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑨	上肢のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。
10	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑩	下肢のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。
11	アスレティックトレーニングルーム見学実習⑪	体幹のスポーツ外傷・障害の選手におけるアスレティックリハビリテーションを見学して理解する。

12	アスレティックトレーニングルーム見学 実習⑫	応急処置方法を見学して理解する。
13	アスレティックトレーニングルーム見学 実習⑬	テーピング法を見学して理解する。
14	アスレティックトレーニングルーム見学 実習⑭	ストレッチングを見学して理解する。
15		
16		

科目コード	3G517				区 分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメント入門Ⅰ				担当者名	横内 浩平			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

将来のキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな社会の出来事について理解しておく必要がある。本科目では、将来公務員をを目指す学生が政治や経済の知識を身に付け、将来の就職試験に備えることを目的として開講する。

<授業の到達目標>

1. 公務員試験における「頻出分野」の政治・経済分野について基礎的な理解ができるようになる。2. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 授業時の課題の一部についてはグループ内で相談し考えをまとめる

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業の内容について復習をしておくこと（90分以上）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

<教科書>

得になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	政治(1)	民主政治の基本原理
3	政治(2)	日本国憲法の基本的性格
4	政治(3)	基本的人権の保障(1)
5	政治(4)	基本的人権の保障(2)
6	政治(5)	基本的人権の保障(3)
7	政治(6)	各国の政治制度(1)
8	政治(7)	各国の政治制度(2)
9	政治(8)	国会(1)
10	政治(9)	国会(2)
11	政治(10)	内閣
12	政治(11)	裁判所(1)
13	政治(12)	裁判所(2)
14	政治(13)	地方自治
15		
16		

科目コード	35216				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ科学入門 [PH用]				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、スポーツ科学分野の様々な研究領域について、競技活動や日常生活における身近な例から学び、各分野について専門的に学ぶことの意義を理解し、その意欲を喚起することを目的とする。

<授業の到達目標>

スポーツ科学分野の様々な研究領域で扱う問題について理解すること、また、それらが競技活動や日常生活場面でのどのような事象と関連するかについて理解すること。

<授業の方法>

教科書およびプレゼンテーション資料を用いて実施する。課題の提示・提出はGoogle Classroomを活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）5、6人のグループに分かれ、授業テーマに対する意見をグループで共有する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<準備学習>各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：1時間）

<事後学習>取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、確認テストおよびディスカッションに取り組むこと。（所要時間：1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、確認テスト&小レポート 60%、最終レポート 40% の配分で評価する。

<教科書>

大学スポーツ協会（2021年12月） マンガで学ぶ・スポーツ知への招待 KEIアドバンス

伊東浩司・吉田孝久・青木和浩（2020年2月20日） なるほど「最新・スポーツ科学入門」 化学同人

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ科学について理解する	スポーツ科学とは何か、自身の身近な問題の解決にスポーツ科学がどう貢献するかについて理解する。
2	スポーツバイオメカニクス入門	スポーツバイオメカニクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツバイオメカニクスがどう貢献するかについて理解する。
3	トレーニング科学入門（1）	トレーニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にトレーニング科学がどう貢献するかについて理解する。
4	トレーニング科学入門（2）	自身が実践してきたトレーニングの内容を分析し、改善策を検討する。
5	スポーツアナリティクス入門	スポーツアナリティクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツアナリティクスがどう貢献するかについて理解する。
6	スポーツ心理学入門	スポーツ心理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ心理学がどう貢献するかについて理解する。
7	スポーツ生理学入門	スポーツ生理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ生理学がどう貢献するかについて理解する。
8	コンディショニング科学入門	コンディショニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にコンディショニング科学がどう貢献するかについて理解する。
9	スポーツ医学入門	スポーツ医学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ医学がどう貢献するかについて理解する。
10	スポーツ栄養学入門	スポーツ栄養学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ栄養学がどう貢献するかについて理解する。
11	スポーツ工学入門	スポーツ工学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ工学がどう貢献するかについて理解する。
12	スポーツ哲学入門	スポーツ哲学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ哲学がどう貢献するかについて理解する。
13	スポーツ経営学入門	スポーツ経営学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ経営学がどう貢献するかについて理解する。

14	スポーツ社会学入門	スポーツ社会学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ社会学がどう貢献するかについて理解する。 ここまでの学びについてまとめ、今後の学習・研究にどう活かすかについて検討する。
15	まとめ	
16		

科目コード	35216				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ科学入門 [PP用]				担当者名	十河 直太／早田 剛／眞鍋 芳江／梶谷 亮輔 ／戸田 晃大／國友 亮佑／仙波 慎平／片桐 夏海／佐藤 伸之／堀川 峻／伊藤 三千雄／坂 本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、スポーツ科学分野の様々な研究領域について、競技活動や日常生活における身近な例から学び、各分野について専門的に学ぶことの意義を理解し、その意欲を喚起することを目的とする。

<授業の到達目標>

スポーツ科学分野の様々な研究領域で扱う問題について理解できる。また、それらが競技活動や日常生活場面でのどのような事象と関連するかについて説明できる。

<授業の方法>

資料を用いて対面で実施する。課題の提示・提出はGoogle Classroomを活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：あり各単元のテーマについてグループに分かれディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<準備学習>各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：1時間）

<事後学習>取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、確認テストおよびレポートに取り組むこと。（所要時間：1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、確認テスト&小レポート 60%、最終レポート 40% の配分で評価する。

<教科書>

<参考書>

大学スポーツ協会（2021年12月） マンガで学ぶ・スポーツ知への招待 KEIアドバンス

伊東浩司・吉田孝久・青木和浩（2020年2月20日） なるほど「最新・スポーツ科学入門」 化学同人

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ科学について理解する	スポーツ科学とは何か、自身の身近な問題の解決にスポーツ科学がどう貢献するかについて理解する。
2	スポーツバイオメカニクス入門	スポーツバイオメカニクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツバイオメカニクスがどう貢献するかについて理解する。
3	トレーニング科学入門（1）	トレーニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にトレーニング科学がどう貢献するかについて理解する。
4	トレーニング科学入門（2）	自身が実践してきたトレーニングの内容を分析し、改善策を検討する。
5	スポーツアナリティクス入門	スポーツアナリティクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツアナリティクスがどう貢献するかについて理解する。
6	スポーツ心理学入門	スポーツ心理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ心理学がどう貢献するかについて理解する。
7	スポーツ生理学入門	スポーツ生理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ生理学がどう貢献するかについて理解する。
8	コンディショニング科学入門	コンディショニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にコンディショニング科学がどう貢献するかについて理解する。
9	スポーツ医学入門	スポーツ医学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ医学がどう貢献するかについて理解する。
10	スポーツ栄養学入門	スポーツ栄養学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ栄養学がどう貢献するかについて理解する。
11	スポーツ工学入門	スポーツ工学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ工学がどう貢献するかについて理解する。
12	スポーツ運動学入門	スポーツ運動学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ哲学が

13	スポーツ経営学入門	どう貢献するかについて理解する。
14	まとめ	スポーツ経営学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ経営学がどう貢献するかについて理解する。
15		ここまでの学びについてまとめ、今後の学習・研究にどう活かすかについて検討する。
16		

科目コード	35216				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ科学入門 [PS用]				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、スポーツ科学分野の様々な研究領域について、競技活動や日常生活における身近な例から学び、各分野について専門的に学ぶことの意義を理解し、その意欲を喚起することを目的とする。

<授業の到達目標>

スポーツ科学分野の様々な研究領域で扱う問題について理解すること、また、それらが競技活動や日常生活場面でのどのような事象と関連するかについて理解すること。

<授業の方法>

教科書およびプレゼンテーション資料を用いて実施する。課題の提示・提出はGoogle Classroomを活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）5、6人のグループに分かれ、授業テーマに対する意見をグループで共有する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<準備学習>各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：1時間）

<事後学習>取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、確認テストおよびディスカッションに取り組むこと。（所要時間：1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、確認テスト&小レポート 60%、最終レポート 40% の配分で評価する。

<教科書>

大学スポーツ協会（2021年12月） マンガで学ぶ・スポーツ知への招待 KEIアドバンス

伊東浩司・吉田孝久・青木和浩（2020年2月20日） なるほど「最新・スポーツ科学入門」 化学同人

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ科学について理解する	スポーツ科学とは何か、自身の身近な問題の解決にスポーツ科学がどう貢献するかについて理解する。
2	スポーツバイオメカニクス入門	スポーツバイオメカニクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツバイオメカニクスがどう貢献するかについて理解する。
3	トレーニング科学入門（1）	トレーニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にトレーニング科学がどう貢献するかについて理解する。
4	トレーニング科学入門（2）	自身が実践してきたトレーニングの内容を分析し、改善策を検討する。
5	スポーツアナリティクス入門	スポーツアナリティクスとはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツアナリティクスがどう貢献するかについて理解する。
6	スポーツ心理学入門	スポーツ心理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ心理学がどう貢献するかについて理解する。
7	スポーツ生理学入門	スポーツ生理学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ生理学がどう貢献するかについて理解する。
8	コンディショニング科学入門	コンディショニング科学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にコンディショニング科学がどう貢献するかについて理解する。
9	スポーツ医学入門	スポーツ医学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ医学がどう貢献するかについて理解する。
10	スポーツ栄養学入門	スポーツ栄養学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ栄養学がどう貢献するかについて理解する。
11	スポーツ工学入門	スポーツ工学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ工学がどう貢献するかについて理解する。
12	スポーツ哲学入門	スポーツ哲学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ哲学がどう貢献するかについて理解する。
13	スポーツ経営学入門	スポーツ経営学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ経営学がどう貢献するかについて理解する。

14	スポーツ社会学入門	スポーツ社会学とはどういった学問か、自身の身近な問題の解決にスポーツ社会学がどう貢献するかについて理解する。 ここまでの学びについてまとめ、今後の学習・研究にどう活かすかについて検討する。
15	まとめ	
16		

科目コード	35207				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ活動における諸現象を対象に、心理学的側面からそのメカニズムを解明する「スポーツ心理学」の基礎理論を概観します。競技力の向上や健康増進、運動学習など広範な研究領域を網羅し、行動変容を促すための心理的アプローチの理論と実践手法を修得します。スポーツ現場での事例検討を通じ、科学的根拠に基づいた知見を深め、将来の競技活動や指導・教育現場において具体的に活用できる能力を養うことをねらいとします。

<授業の到達目標>

(1) スポーツ心理学の主要な理論（動機づけ、ストレス、運動学習等）を体系的に理解し、そのメカニズムを専門用語を用いて説明できる。(2) スポーツ場面で生じる心理的な諸課題に対し、科学的根拠に基づいた適切なアセスメントや行動変容の技法を選択・提案できる。(3) 理論と実践を融合させ、競技力の向上やメンタルヘルス維持に向けた具体的な心理的アプローチの方法を立案・実行できる素養を身につけている。

<授業の方法>

(1) 授業の進め方 指定テキストに基づき、事前に課される課題（プレ課題）に取り組んだ上で出席することを前提とします。授業は講義を通じて理論的枠組みを解説した後、提示されたテーマについて受講生同士でディスカッションを行い、多様な視点から理解を深めます。毎回の終盤には、リフレクション（省察）として学習内容のまとめ（振り返り）を実施します。全14回の総括として、理論を実際のスポーツ現場に応用する力を問う最終レポート課題に取り組みます。(2) ICTの活用 授業スライドや資料をデジタル化したものを配布し、視覚的な理解を助けるための動画教材を適宜活用します。また、意見共有やリアルタイムでのフィードバックには、Google アプリ（Forms）等を使用します。(3) 学習管理の方法 Google Classroomをプラットフォームとし、事前課題の提出、振り返りレポートの集約、および最終レポートの管理を行います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有（ディスカッション、グループワーク、課題解決型学習） 自らの競技経験や指導経験を振り返り、体育・スポーツ現場における心理的な課題を抽出します。その上で、授業で学んだ理論を応用し、具体的な克服策や対処法を立案する課題解決型学習を実施します。個人ワークだけでなく、グループでのディスカッションを通じて他者の事例や多角的な視点を取り入れ、解決策をブラッシュアップするプロセスを設けることで、理論の実践的応用力を養います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1時間】 指定テキストの該当範囲を精読し、基礎用語や理論の概要を把握した上で、Google Classroom経由で示される事前課題（プレ課題）を期限までに提出します。自身の競技経験や指導場面に照らし合わせ、関連する疑問点や課題意識を整理して授業に臨むことが求められます。【復習：1時間】 授業内容を振り返り、学習した理論やディスカッションでの気づきを整理してリフレクションレポートを作成します。理論を実際のスポーツ現場の課題解決にどう応用できるかを考察し、知識の定着を図ります。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、授業参加態度 30%、振り返り課題 20%、最終レポート 20%

<教科書>

佐々木史之編著（2026年3月30日予定） 「選手と指導者のためのスポーツ心理学」 大学教育出版

<参考書>

楠本恭久編著（2015年1月20日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で生きるスポーツ心理学」 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	運動スキルの習得	運動学習の内容、運動スキルの分類、フィードバックの役割等
3	動機づけ理論と実践	内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己決定理論、目標設定等
4	情動のコントロールと調整	感情と情動の理解、情動のコントロール法、サポート方法等
5	競技パフォーマンスを支える知覚・認知スキル	運動制御を支える情報処理、予測スキルと熟練アスリートの認知構造等
6	チームダイナミクスと集団心理	集団凝集性、 チームコミュニケーション、 リーダーシップ等

7	パーソナリティとパフォーマンス	パーソナリティの特徴と競技成績、パフォーマンスと自信等
8	目標設定の応用と指導	目標設定理論、効果的な目標設定の方法等
9	効果的なコミュニケーションと関係構築	傾聴、共感、明確な伝達、信頼関係の構築等
10	リーダーシップとチームマネジメント	指導者としてのリーダーシップ、意思決定とチームマネジメント等
11	メンタルヘルスの理解とサポート	アスリートのメンタルヘルス、メンタルヘルスの不調と対応等
12	倫理的配慮とフェアプレーの精神	スポーツにおける倫理的課題、フェアプレーの重要性と育成等
13	スポーツにおける発達心理学	ジュニア期の心理的課題と支援、キャリアトランジション等
14	傷害と心理	リハビリテーション過程における心理支援とコーピング、競技復帰に向けた心理的準備性等
15		
16		

科目コード	35207				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ活動における諸現象を対象に、心理学的側面からそのメカニズムを解明する「スポーツ心理学」の基礎理論を概観します。競技力の向上や健康増進、運動学習など広範な研究領域を網羅し、行動変容を促すための心理的アプローチの理論と実践手法を修得します。スポーツ現場での事例検討を通じ、科学的根拠に基づいた知見を深め、将来の競技活動や指導・教育現場において具体的に活用できる能力を養うことをねらいとします。

<授業の到達目標>

(1) スポーツ心理学の主要な理論（動機づけ、ストレス、運動学習等）を体系的に理解し、そのメカニズムを専門用語を用いて説明できる。(2) スポーツ場面で生じる心理的な諸課題に対し、科学的根拠に基づいた適切なアセスメントや行動変容の技法を選択・提案できる。(3) 理論と実践を融合させ、競技力の向上やメンタルヘルス維持に向けた具体的な心理的アプローチの方法を立案・実行できる素養を身につけている。

<授業の方法>

(1) 授業の進め方 指定テキストに基づき、事前に課される課題（プレ課題）に取り組んだ上で出席することを前提とします。授業は講義を通じて理論的枠組みを解説した後、提示されたテーマについて受講生同士でディスカッションを行い、多様な視点から理解を深めます。毎回の終盤には、リフレクション（省察）として学習内容のまとめ（振り返り）を実施します。全14回の総括として、理論を実際のスポーツ現場に応用する力を問う最終レポート課題に取り組みます。(2) ICTの活用 授業スライドや資料をデジタル化したものを配布し、視覚的な理解を助けるための動画教材を適宜活用します。また、意見共有やリアルタイムでのフィードバックには、Google アプリ（Forms）等を使用します。(3) 学習管理の方法 Google Classroomをプラットフォームとし、事前課題の提出、振り返りレポートの集約、および最終レポートの管理を行います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有（ディスカッション、グループワーク、課題解決型学習） 自らの競技経験や指導経験を振り返り、体育・スポーツ現場における心理的な課題を抽出します。その上で、授業で学んだ理論を応用し、具体的な克服策や対処法を立案する課題解決型学習を実施します。個人ワークだけでなく、グループでのディスカッションを通じて他者の事例や多角的な視点を取り入れ、解決策をブラッシュアップするプロセスを設けることで、理論の実践的応用力を養います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1時間】 指定テキストの該当範囲を精読し、基礎用語や理論の概要を把握した上で、Google Classroom経由で示される事前課題（プレ課題）を期限までに提出します。自身の競技経験や指導場面に照らし合わせ、関連する疑問点や課題意識を整理して授業に臨むことが求められます。【復習：1時間】 授業内容を振り返り、学習した理論やディスカッションでの気づきを整理してリフレクションレポートを作成します。理論を実際のスポーツ現場の課題解決にどう応用できるかを考察し、知識の定着を図ります。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、授業参加態度 30%、振り返り課題 20%、最終レポート 20%

<教科書>

佐々木史之編著（2026年3月30日予定） 「選手と指導者のためのスポーツ心理学」 大学教育出版

<参考書>

楠本恭久編著（2015年1月20日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で生きるスポーツ心理学」 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	運動スキルの習得	運動学習の内容、運動スキルの分類、フィードバックの役割等
3	動機づけ理論と実践	内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己決定理論、目標設定等
4	情動のコントロールと調整	感情と情動の理解、情動のコントロール法、サポート方法等
5	競技パフォーマンスを支える知覚・認知スキル	運動制御を支える情報処理、予測スキルと熟練アスリートの認知構造等
6	チームダイナミクスと集団心理	集団凝集性、 チームコミュニケーション、 リーダーシップ等

7	パーソナリティとパフォーマンス	パーソナリティの特徴と競技成績、パフォーマンスと自信等
8	目標設定の応用と指導	目標設定理論、効果的な目標設定の方法等
9	効果的なコミュニケーションと関係構築	傾聴、共感、明確な伝達、信頼関係の構築等
10	リーダーシップとチームマネジメント	指導者としてのリーダーシップ、意思決定とチームマネジメント等
11	メンタルヘルスの理解とサポート	アスリートのメンタルヘルス、メンタルヘルスの不調と対応等
12	倫理的配慮とフェアプレーの精神	スポーツにおける倫理的課題、フェアプレーの重要性と育成等
13	スポーツにおける発達心理学	ジュニア期の心理的課題と支援、キャリアトランジション等
14	傷害と心理	リハビリテーション過程における心理支援とコーピング、競技復帰に向けた心理的準備性等
15		
16		

科目コード	35207				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ心理学 [PS用]				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ活動における諸現象を対象に、心理学的側面からそのメカニズムを解明する「スポーツ心理学」の基礎理論を概観します。競技力の向上や健康増進、運動学習など広範な研究領域を網羅し、行動変容を促すための心理的アプローチの理論と実践手法を修得します。スポーツ現場での事例検討を通じ、科学的根拠に基づいた知見を深め、将来の競技活動や指導・教育現場において具体的に活用できる能力を養うことをねらいとします。

<授業の到達目標>

(1) スポーツ心理学の主要な理論（動機づけ、ストレス、運動学習等）を体系的に理解し、そのメカニズムを専門用語を用いて説明できる。(2) スポーツ場面で生じる心理的な諸課題に対し、科学的根拠に基づいた適切なアセスメントや行動変容の技法を選択・提案できる。(3) 理論と実践を融合させ、競技力の向上やメンタルヘルス維持に向けた具体的な心理的アプローチの方法を立案・実行できる素養を身につけている。

<授業の方法>

(1) 授業の進め方 指定テキストに基づき、事前に課される課題（プレ課題）に取り組んだ上で出席することを前提とします。授業は講義を通じて理論的枠組みを解説した後、提示されたテーマについて受講生同士でディスカッションを行い、多様な視点から理解を深めます。毎回の終盤には、リフレクション（省察）として学習内容のまとめ（振り返り）を実施します。また、授業で学んだ内容を実践場面で活かす実践課題に取り組んでももらいます。最後に全14回の総括として、理論を実際のスポーツ現場に応用する力を問う最終レポート課題を提出してもらいます。(2) ICTの活用 授業スライドや資料をデジタル化したものを配布し、視覚的な理解を助けるための動画教材を適宜活用します。また、意見共有やリアルタイムでのフィードバックには、Google アプリ (Forms) 等を使用します。(3) 学習管理の方法 Google Classroomをプラットフォームとし、事前課題の提出、振り返りレポートの集約、および最終レポートの管理を行います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有（ディスカッション、グループワーク、課題解決型学習） 自らの競技経験や指導経験を振り返り、体育・スポーツ現場における心理的な課題を抽出します。その上で、授業で学んだ理論を応用し、具体的な克服策や対処法を立案する課題解決型学習を実施します。個人ワークだけでなく、グループでのディスカッションを通じて他者の事例や多角的な視点を取り入れ、解決策をブラッシュアップするプロセスを設けることで、理論の実践的応用力を養います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1時間】 指定テキストの該当範囲を精読し、基礎用語や理論の概要を把握した上で、Google Classroom経由で示される事前課題（プレ課題）を期限までに提出します。自身の競技経験や指導場面に照らし合わせ、関連する疑問点や課題意識を整理して授業に臨むことが求められます。【復習：1時間】 授業内容を振り返り、学習した理論やディスカッションでの気づきを整理してリフレクションレポートを作成します。理論を実際のスポーツ現場の課題解決にどう応用できるかを考察し、知識の定着を図ります。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、授業参加態度 30%、振り返り課題 20%、最終レポート 20%

<教科書>

佐々木史之の編著（2026年3月30日予定） 「選手と指導者のためのスポーツ心理学」 大学教育出版

<参考書>

楠本恭久編著（2015年1月20日） 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」 福村出版

石井源信編（2012年8月1日） 「現場で活きるスポーツ心理学」 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ心理学について	スポーツ心理学の歴史と内容
2	運動スキルの習得	運動学習の内容、運動スキルの分類、フィードバックの役割等
3	動機づけ理論と実践	内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己決定理論、目標設定等
4	情動のコントロールと調整	感情と情動の理解、情動のコントロール法、サポート方法等
5	競技パフォーマンスを支える知覚・認知スキル	運動制御を支える情報処理、予測スキルと熟練アスリートの認知構造等

6	チームダイナミクスと集団心理	集団凝集性、チームコミュニケーション、リーダーシップ等
7	パーソナリティとパフォーマンス	パーソナリティの特徴と競技成績、パフォーマンスと自信等
8	目標設定の応用と指導	目標設定理論、効果的な目標設定の方法等
9	効果的なコミュニケーションと関係構築	傾聴、共感、明確な伝達、信頼関係の構築等
10	リーダーシップとチームマネジメント	指導者としてのリーダーシップ、意思決定とチームマネジメント等
11	メンタルヘルスの理解とサポート	アスリートのメンタルヘルス、メンタルヘルスの不調と対応等
12	倫理的配慮とフェアプレーの精神	スポーツにおける倫理的課題、フェアプレーの重要性と育成等
13	スポーツにおける発達心理学	ジュニア期の心理的課題と支援、キャリアトランジション等
14	傷害と心理	リハビリテーション過程における心理支援とコーピング、競技復帰に向けた心理的準備性等
15		
16		

科目コード	36100				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーナー論				担当者名	伊藤 亮輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年スポーツ人気の高まりや競技レベルの向上に伴い、スポーツを実践する人々に対して、より専門的なサポートが求められている。一方で、国内では「トレーナー」という職業の定義が曖昧な現状がある。本授業では、特に競技スポーツを対象とする「トレーナー」の職種とその仕事内容（職域、資格）について理解し、それぞれの領域で求められる役割について整理する。

<授業の到達目標>

国内における「トレーナー」の種類と仕事内容（職域、資格）、特にAT（アスレティックトレーナー）とS&C（ストレングス&コンディショニング）コーチの違いを理解する。また、それぞれの仕事において必要となる基本知識を身につけることができる。

<授業の方法>

スポーツをメディカル・フィジカルの領域から支えるトレーナーという職業についてディスカッションし、トレーナーに必要な技能や知識を習得する。タブレットを活用し、それぞれのトレーナー（ATとS&C）がどのようにスポーツ現場で働いて、どのような違いがあるのかインターネットから調べまとめる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 次回の講義内容に関してインターネットや文献で調べてくる（毎回、1時間程度）。復習 講義の中でディスカッションした内容に関して要点をレポートにまとめる（毎回、1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業への取り組み、課題提出状況）30%、試験（小テスト、期末試験）70%

<教科書>

<参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷）『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 1巻 アスレティックトレーナーの役割』（公財）日本スポーツ協会
NSCA ジャンパン 2018年1月30日 NSCA決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 ブックハウスHD

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	「トレーナー」の種類と職域	国内のトレーナー制度、ATとS&Cの仕事と職域
3	トレーナーと倫理	トレーナーに関わる可能性がある医療関係法規と法的諸問題
4	ATの役割と業務①	メディカルチェック
5	ATの役割と業務②	救急処置・ケア
6	ATの役割と業務③	可動性と安定性ウォーミングアップ・リカバリーの基礎知識
7	コンディショニング①	可動性と安定性ウォーミングアップ・リカバリーの基礎知識
8	コンディショニング②	ウェイトコントロール（増量と減量）
9	S&Cの役割と業務①	筋力向上トレーニングの基礎理論①
10	S&Cの役割と業務②	筋力向上トレーニングの基礎理論②
11	S&Cの役割と業務③	ピリオダイゼーション、トレーニング原理・原則に則ったトレーニング計画の立案
12	S&Cの役割と業務④	パワー向上トレーニング、持久力向上の基礎理論
13	S&Cの役割と業務⑤	各種体力測定と評価
14	まとめ	授業の総復習
15		
16		

科目コード	61007				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習Ⅰ(基礎) [A]				担当者名	國友 亮佑／伊藤 亮輔／三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。競技スポーツ科学科用の科目になります。

<授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

<授業の方法>

グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズのフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。（1時間）復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度）30%、実技試験 70%

<教科書>

IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

<参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 Book House HD

NSCAジャパン NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版 NSCAジャパン

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	自体重のエクササイズ	自体重トレーニング
3	ウェイトトレーニングにおける安全管理	ベンチプレス、バックスクワットの補助の実践
4	トレーニング動作の分析	ベンチプレス、バックスクワット、デッドリフト動作のセルフチェック
5	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて
6	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニックについて
8	上半身のエクササイズ①	ベンチプレスのエクササイズテクニックについて
9	上半身のエクササイズ②	ベントオーバーローのエクササイズテクニックについて
10	上半身のエクササイズ③	ショルダープレスのエクササイズテクニックについて
11	上半身のエクササイズ④	プルアップ（チンニング）のエクササイズテクニックについて
12	全身のエクササイズ①	ハイプルのエクササイズテクニックについて
13	全身のエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて
14	実技試験	ベンチプレス、バックスクワットの動作試験
15		
16		

科目コード	61007				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習Ⅰ(基礎) [B]				担当者名	國友 亮佑／伊藤 亮輔／三浦 孝仁			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技力向上のためには筋力の向上は不可欠であり、また生涯にわたり健康的な生活を送るためにも筋力を高めることは重要な要素となる。筋力を高めるレジスタンストレーニングを中心に、各種トレーニング法について学習する。 競技スポーツ科学科用の科目になります。

<授業の到達目標>

各種トレーニングの目的を理解し、正しいフォームでレジスタンストレーニングを実施できるようになる。

<授業の方法>

グループワークを中心に実技を実施する。グループ内で相互にエクササイズのフォームをチェックし、動作に対するフィードバックを行っていく。その際に、スマートフォンを使用して実技の撮影も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：指定の教科書に記載されているエクササイズのチェックポイントを確認しておく。（1時間）復習：授業中に撮影したトレーニング映像を視聴しながら、自分のエクササイズフォームの課題を確認し、次回授業までに動作練習を行う。（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（授業への取り組み、課題の提出状況、グループワークへの貢献度）30%、実技試験 70%

<教科書>

IPU環太平洋大学トップガン・トレーナーチーム2019 筋トレガイドブック 丸善

<参考書>

NSCAジャパン NSCA決定版ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 Book House HD

NSCAジャパン NSCAレジスタンストレーニングのためのエクササイズテクニックマニュアル第3版 NSCAジャパン

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法の確認、講義の概要
2	自体重のエクササイズ	自体重トレーニング
3	ウエイトトレーニングにおける安全管理	ベンチプレス、バックスクワットの補助の実践
4	トレーニング動作の分析	ベンチプレス、バックスクワット、デッドリフト動作のセルフチェック
5	下半身のエクササイズ①	デッドリフトのエクササイズテクニックについて
6	下半身のエクササイズ②	スクワットのエクササイズテクニックについて
7	下半身のエクササイズ③	片脚種目のエクササイズテクニックについて
8	上半身のエクササイズ①	ベンチプレスのエクササイズテクニックについて
9	上半身のエクササイズ②	ベントオーバーローのエクササイズテクニックについて
10	上半身のエクササイズ③	ショルダープレスのエクササイズテクニックについて
11	上半身のエクササイズ④	プルアップ（チンニング）のエクササイズテクニックについて
12	全身のエクササイズ①	ハイプルのエクササイズテクニックについて
13	全身のエクササイズ②	ハングクリーンのエクササイズテクニックについて
14	実技試験	ベンチプレス、バックスクワットの動作試験
15		
16		

科目コード	21412				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	ピアノ実技 I				担当者名	三好 啓子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、ピアノ演奏技術の基礎的・応用的な力を高めたい学生を対象とした選択科目である。保育職の採用試験対策としてこどものうたの伴奏や弾き歌いに取り組むほか、クラシック作品や練習曲に取り組み、各自の目標や習熟度に応じて演奏技術の向上を目指す。また、「ピアノ弾き歌い演習Ⅰ・Ⅱ」での学びをさらに深めたい学生にとっても、継続的な学習の機会となる。授業は、受講生のニーズに応じてグループレッスンまたは個人レッスンの形態を取り入れながら行い、それぞれの課題に応じた指導を通して、実践的な演奏力と表現力を養う。

<授業の到達目標>

①自身の習熟度や目標に応じた楽曲に取り組み、計画的に練習を進めることができる。②こどものうたや基礎的なピアノ作品を、正しいリズム・音程・運指で演奏することができる。③個々の進路や関心に応じて、実践に必要な基礎的演奏力と表現力を身につけることができる。

<授業の方法>

受講生の進路希望、習熟度、学習課題に応じて、グループレッスンと個人レッスンを組み合わせて実施する。授業では、こどものうたの伴奏・弾き歌い、採用試験対策、クラシック作品の演奏など、各自の目標に応じた課題に取り組む。必要に応じて模擬試験形式や発表活動を取り入れ、実践的な演奏力と表現力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（グループレッスン）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次の授業で扱う楽曲の譜読みや運指の確認を行うこと。復習として、授業内で指摘された課題や改善点を整理し、反復練習を通して演奏内容の定着を図ること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度・受講態度 20％個別課題への取り組み・練習成果 50％学期末実技試験または演奏発表 30％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方を確認し、各自の課題と学習目標を設定する。
2	基礎技能の確認①	読譜、リズム、運指などの基礎を確認する。
3	基礎技能の確認②	姿勢、手の形、タッチ、音の出し方を確認する。
4	個別課題による実技演習①	各自の目標に応じた楽曲に取り組む。
5	個別課題による実技演習②	正確な音、リズム、運指での演奏を目指す。
6	個別課題による実技演習③	フレーズや音楽の流れを意識して演奏する。
7	中間発表と振り返り	演奏発表を通して課題を整理する。
8	応用的な演奏表現①	強弱、テンポ、フレージングを工夫する。
9	個別課題による実技演習④	技術面と表現面の両方から演奏を深める。
10	個別課題による実技演習⑤	継続的な練習により演奏の安定を図る。
11	楽曲に応じた表現の工夫	楽曲の特徴に応じた表現を学ぶ。
12	実践的演奏への応用①	保育実践や採用試験を想定して演奏する。
13	実践的演奏への応用②	場面に応じた対応力を養う。
14	学習成果の発表	学期中の成果を発表する。
15		
16		

科目コード	21412				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	ピアノ実技 I				担当者名	高崎 展好			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、ピアノ演奏技術の基礎的・応用的な力を高めたい学生を対象とした選択科目である。保育職の採用試験対策としてこどものうたの伴奏や弾き歌いに取り組むほか、クラシック作品や練習曲に取り組み、各自の目標や習熟度に応じて演奏技術の向上を目指す。また、「ピアノ弾き歌い演習Ⅰ・Ⅱ」での学びをさらに深めたい学生にとっても、継続的な学習の機会となる。授業は、受講生のニーズに応じてグループレッスンまたは個人レッスンの形態を取り入れながら行い、それぞれの課題に応じた指導を通して、実践的な演奏力と表現力を養う。

<授業の到達目標>

①自身の習熟度や目標に応じた楽曲に取り組み、計画的に練習を進めることができる。②こどものうたや基礎的なピアノ作品を、正しいリズム・音程・運指で演奏することができる。③個々の進路や関心に応じて、実践に必要な基礎的演奏力と表現力を身につけることができる。

<授業の方法>

受講生の進路希望、習熟度、学習課題に応じて、グループレッスンと個人レッスンを組み合わせて実施する。授業では、こどものうたの伴奏・弾き歌い、採用試験対策、クラシック作品の演奏など、各自の目標に応じた課題に取り組む。必要に応じて模擬試験形式や発表活動を取り入れ、実践的な演奏力と表現力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（グループレッスン）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次回の授業で扱う楽曲の譜読みや運指の確認を行うこと。復習として、授業内で指摘された課題や改善点を整理し、反復練習を通して演奏内容の定着を図ること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、ディプロマポリシー②「保育士・幼稚園教諭養成に必要な専門的知識・技能を身につける力」と関連する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度・受講態度 20%個別課題への取り組み・練習成果 50%学期末実技試験または演奏発表 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方を確認し、各自の課題と学習目標を設定する。
2	基礎技能の確認①	読譜、リズム、運指などの基礎を確認する。
3	基礎技能の確認②	姿勢、手の形、タッチ、音の出し方を確認する。
4	個別課題による実技演習①	各自の目標に応じた楽曲に取り組む。
5	個別課題による実技演習②	正確な音、リズム、運指での演奏を目指す。
6	個別課題による実技演習③	フレーズや音楽の流れを意識して演奏する。
7	中間発表と振り返り	演奏発表を通して課題を整理する。
8	応用的な演奏表現①	強弱、テンポ、フレージングを工夫する。
9	個別課題による実技演習④	技術面と表現面の両方から演奏を深める。
10	個別課題による実技演習⑤	継続的な練習により演奏の安定を図る。
11	楽曲に応じた表現の工夫	楽曲の特徴に応じた表現を学ぶ。
12	実践的演奏への応用①	保育実践や採用試験を想定して演奏する。
13	実践的演奏への応用②	場面に応じた対応力を養う。
14	学習成果の発表	学期中の成果を発表する。
15		
16		

科目コード	21412				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	ピアノ実技Ⅰ				担当者名	宮原 舞			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、ピアノ演奏技術の基礎的・応用的な力を高めたい学生を対象とした選択科目である。保育職の採用試験対策としてこどものうたの伴奏や弾き歌いに取り組むほか、クラシック作品や練習曲に取り組み、各自の目標や習熟度に応じて演奏技術の向上を目指す。また、「ピアノ弾き歌い演習Ⅰ・Ⅱ」での学びをさらに深めたい学生にとっても、継続的な学習の機会となる。授業は、受講生のニーズに応じてグループレッスンまたは個人レッスンの形態を取り入れながら行い、それぞれの課題に応じた指導を通して、実践的な演奏力と表現力を養う。

<授業の到達目標>

①自身の習熟度や目標に応じた楽曲に取り組み、計画的に練習を進めることができる。②こどものうたや基礎的なピアノ作品を、正しいリズム・音程・運指で演奏することができる。③個々の進路や関心に応じて、実践に必要な基礎的演奏力と表現力を身につけることができる。

<授業の方法>

受講生の進路希望、習熟度、学習課題に応じて、グループレッスンと個人レッスンを組み合わせて実施する。授業では、こどものうたの伴奏・弾き歌い、採用試験対策、クラシック作品の演奏など、各自の目標に応じた課題に取り組む。必要に応じて模擬試験形式や発表活動を取り入れ、実践的な演奏力と表現力を養う。本授業は実技科目のため、安全に十分配慮して実施する。初回授業で、無理のない姿勢や演奏方法について説明し、手指や身体への過度な負担を防止する。体調不良や痛みを感じた場合は、速やかに演奏を中止し、担当教員に申し出ること。授業中に事故や体調不良が生じた場合は、担当教員の指示のもと適切に対応する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（グループレッスン）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次の授業で扱う楽曲の譜読みや運指の確認を行うこと。復習として、授業内で指摘された課題や改善点を整理し、反復練習を通して演奏内容の定着を図ること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー２（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度・受講態度 20％個別課題への取り組み・練習成果 50％学期末実技試験または演奏発表 30％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方を確認し、各自の課題と学習目標を設定する。
2	基礎技能の確認①	読譜、リズム、運指などの基礎を確認する。
3	基礎技能の確認②	姿勢、手の形、タッチ、音の出し方を確認する。
4	個別課題による実技演習①	各自の目標に応じた楽曲に取り組む。
5	個別課題による実技演習②	正確な音、リズム、運指での演奏を目指す。
6	個別課題による実技演習③	フレーズや音楽の流れを意識して演奏する。
7	中間発表と振り返り	演奏発表を通して課題を整理する。
8	応用的な演奏表現①	強弱、テンポ、フレージングを工夫する。
9	個別課題による実技演習④	技術面と表現面の両方から演奏を深める。
10	個別課題による実技演習⑤	継続的な練習により演奏の安定を図る。
11	楽曲に応じた表現の工夫	楽曲の特徴に応じた表現を学ぶ。
12	実践的演奏への応用①	保育実践や採用試験を想定して演奏する。
13	実践的演奏への応用②	場面に応じた対応力を養う。
14	学習成果の発表	学期中の成果を発表する。
15		
16		

科目コード	28119				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	プロジェクト・ゼロ [週2]				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター (週2、火2限 & 金4限)	単位数	2.00単位	授業方法	講義、演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義の目的は、プロジェクト活動を通して、課題発見力、企画力、実践力および協働力を身につけることである。今年度は、IPUの「Global Hub」を拠点に、ベトナムで活動する国際NGO FIDR (<https://www.fidr.or.jp/>) と連携し、ベトナム少数民族の手工芸品やベトナム産コーヒーの魅力を発信するプロジェクトに取り組む。受講生は、多様な文化的背景を持つ学生同士でチームを組み、商品の背景にある文化や社会課題について学びながら、販売企画、広報活動、SNS発信、イベント運営等を実践する。また、

<授業の到達目標>

本講義では、次の点を到達目標とする。1) 社会課題について多面的に理解し、自ら課題を発見することができる。2) 多様な文化的背景を持つメンバーと協働しながら、プロジェクトを企画・運営することができる。3) 商品やイベントを通じて社会的価値を発信し、その成果を振り返ることができる。4) 地域や世界の課題を自分自身の問題として捉え、自ら行動する意欲を持つことができる。

<授業の方法>

少人数によるグループワークを中心としたPBL (Project Based Learning) 形式で実施する。Global Hubを活用し、国籍や学年、バックグラウンドなどが異なる多様な学生との協働や実践的活動を行う。授業は週2回実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり (グループディスカッション、プロジェクト活動、プレゼンテーション、外部連携等)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業外に週2〜3時間程度、資料調査、チーム活動、成果物作成等を行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2 (経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。) と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

1. チーム評価 30% ・グループワークに全員が参画しているか? ・学習内容を積極的に活用しているか? ・目的に対し、有効な議論を行っているか? ・活動、プレゼンテーションの内容 等 2. 個人(チーム活動) 評価 40% ・時間を守り、授業に出席しているか? ・チームに貢献しているか? 等 3. 個人(レポート) 評価 30% ・期限内に提出しているか? ・指定された内容、分量を記述しているか? ・深く検討しているか?

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション／プロジェクトとは何か (6/2火)	授業の目的、進め方、評価方法について理解する。また、「プロジェクト・マネジメント」の考え方やPBL (Project Based Learning) の意義について学ぶ。今年度のパートナーである国際NGO FIDRの活動や、おかもさSDGsフェア出展までの流れを理解する。
2	自己紹介・チームビルディング (6/5金)	自己紹介やグループワークを通して相互理解を深め、多様な背景を持つメンバーと協働するための関係づくりを行う。また、ベトナムや国際協力に関する基礎知識を学び、今後のプロジェクト活動への準備を進める。
3	FIDRオンライン講演 (6/9火)	ベトナムで活動する国際NGO FIDRの担当者から、現地の社会課題や活動内容について話を聞く。教育、地域開発、少数民族支援等の事例を通して、国際協力の現場への理解を深める。
4	ベトナム留学生による講演 (6/12金)	ベトナム出身留学生から、自身の経験をもとにベトナムの文化や社会、地域課題について話を聞く。生活者の視点からベトナム社会への理解を深めるとともに、多様な価値観について考察する。
5	商品研究ワークショップ (6/16火)	FIDRから提供された少数民族の手工芸品やベトナム産コーヒーについて調査する。商品の背景にある文化や社会課題、作り手の想いを理解し、商品の価値をどのように伝えるかについて考える。

6	市場調査・ターゲット分析（6/19金）	商品や活動の魅力を誰にどのように伝えるべきかを検討する。アンケート調査やグループディスカッションを通して、ターゲットやニーズを分析し、販売・広報戦略の方向性を考える。
7	企画立案①（6/23火）	おかやまSDGsフェアに向けて、販売企画、広報企画、イベント企画等のアイデアを創出する。社会課題の理解促進と商品の魅力発信を両立する企画について検討する。
8	企画立案②（6/26金）	各チームで企画内容を具体化し、実施計画を作成する。ターゲット、目的、役割分担、スケジュール等を整理し、中間発表に向けた準備を進める。
9	FIDR企画提案会（6/30火）	各チームが企画内容をプレゼンテーションし、FIDR担当者から評価および助言を受ける。実際のパートナーへの提案を通して、企画の実現可能性や社会的意義について検討を深める。
10	企画改善・ブラッシュアップ	FIDRからのフィードバックをもとに企画内容を改善する。商品の魅力や社会課題の伝え方、販売方法等について再検討し、より効果的な企画へと発展させる。
11	SDGsフェア出展準備①	おかやまSDGsフェアへの出展に向けて、ポスター、POP、SNSコンテンツ等の制作を行う。来場者に活動の意義や商品の魅力を伝えるための広報物を作成する。
12	SDGsフェア出展準備②	展示方法や販売オペレーションを確認し、出展準備を完成させる。役割分担や当日の運営方法について確認するとともに、プレゼンテーションや接客の練習を行う。
13	おかやまSDGsフェア出展①（8/5水）	おかやまSDGsフェアに出展し(10:00～17:00)、少数民族の手工芸品やベトナム産コーヒーの販売、活動紹介を行う。来場者との対話を通じて、社会課題への理解促進を図る。他の出展者・学生らとの交流会(無料、17:10 - 19:00)は、自由参加。
14	おかやまSDGsフェア出展②・振り返り（8/6木 10:00～17:00）	出展活動を継続するとともに、活動成果を振り返る。販売結果や来場者の反応を分析し、プロジェクトを通して得た学びや今後の課題について整理する。
15		
16		

科目コード	24104				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	異文化コミュニケーション論				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

グローバル化が進む現在、異文化を背景として持つ相手と接触する機会も増えています。この授業は、まず自分を知り、次に相手の文化を理解し尊重する態度を身につけることを目的とします。そして様々な事例を読んだり、活動や実践に取り組んだりすることから、異文化理解および異文化コミュニケーションの意義や方法を学びます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。受講者多数の場合は英語教員免許または日本語教員資格の取得予定者、および受講意欲の高い学生を優先します

<授業の到達目標>

①異なる文化背景を持つ人々と協力できる関係をどのようにすれば築けるかが理解できる。②相手の文化を知り、それを尊重する態度を身につけることができよう。③自分の持つ価値、支える背景文化に気づき、世界の価値観や、その背景となる社会・文化が理解できる。

<授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示）(2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）(3) ディスカッション（問いに対する回答）(4) 省察活動（まとめと発表）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：テキスト購読や各授業テーマにおける自身の体験・経験の掘り起こしを予習とします（1時間程度）。事後：学んだ内容をどのように生かし、実践していきたいかをレポートにまとめます（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題への取り組み・意欲30%、レポート課題 50%、まとめテスト 20%

<教科書>

原沢伊都夫（2024年9月19日） 異文化理解入門（改訂版） 研究社

<参考書>

山本志都・石黒武人・Milton Bennett・岡部大祐（2022/11/30） 異文化コミュニケーション・トレーニング「異」と共に成長する 三修社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション（第1章）	授業の進め方と異文化理解の意義について考える。
2	文化とは（第2章・第3章）	文化の定義について学び、自分の文化を振り返る。異文化とは何か考える。
3	異文化適応①（第4章）	私たちが異文化の中におかれた時、どのように適応していくのか、異文化適応の理論を学ぶ。
4	異文化適応②（第4章）	これまでに経験した「異文化適応」の経験を授業で扱った文化や異文化適応の概念を使って説明する。
5	違いに気づく（第6章）	活動を通して異文化への感受性を高める。
6	異文化への認識（第7章）	異文化に対する認識のメカニズムについて考える。
7	差別と異文化理解（第8章）	映像資料を視聴して、差別が起こる原因について考える。
8	世界の価値観（第9章）	様々な価値観について知り、それについて考える。自分の価値観と他者の価値観を比較する。
9	異文化トレーニング（第10章）	異文化を理解するトレーニングを体験し、異文化理解の方法を知る。
10	異文化受容（第11章）	異文化を受け入れるプロセスを学び、自分の異文化受容度を内省する。
11	自分を知る（第12章）	自分を知るための簡単なテストや活動を行う。授業の最後に今日知った自分について発表する。
12	非言語コミュニケーション（第13章）	非言語コミュニケーションにはどのようなものがあるか学び、自分はどのような非

13	コミュニケーションスタイル（第 1 4 章）	言語コミュニケーションをしているか内省する。
14	多文化共生社会の実現（第 1 5 章）	自分のコミュニケーションスタイルを知る。また、相手を尊重するコミュニケーションの方法を考える。
15		多文化共生社会の実現に向けて、どのように異文化理解・異文化コミュニケーションを役立てるか考える。
16		

科目コード	27201				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	運動学特論 A				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

運動器外傷に対する治療および障害発生予防には身体機能の理解は必須である。運動学は、人間の身体運動の構造や性質を諸原理から選択し、系統的に応用する科学的研究領域である。つまり、解剖学、生理学、生化学で学んだ人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを学習するものである。

<授業の到達目標>

1. 運動学の領域と目的を理解し説明ができる。 2. 身体（骨・関節・筋・神経）の構造や機能について説明ができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による疾患に対する説明）教科書を基にデジタル資料を配布し、講義を進めていく。時にグループディスカッションや発表を用いながら理解を深めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に準じた事前課題（解剖学（特に運動器系）の下調べ（毎回、1時間程度））復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験90%，小テスト10%

<教科書>

公益財団法人全国柔道整復学校協会 監修（2024年1月10日） 運動学 第3版 医歯薬出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業導入、授業内容の概説
2	運動の目的	運動学とは/運動学の領域と目的/運動の捉え方
3	運動の表し方	運動の表示/関節運動の表示/姿勢
4	身体運動と力学	身体運動に関する力/人体における単一機械構造小テストを実施する
5	運動器の構造と機能①	骨の構造と機能
6	神経の構造と機能	神経細胞/運動単位/中枢・末梢神経
7	運動感覚	運動感覚
8	反射と随意運動	反射と随意運動小テストを実施する
9	四肢と体幹の運動①	四肢と体幹の骨格筋
10	運動器の構造と機能②	骨・関節の構造と機能
11	骨・関節の構造と機能	骨格筋の構造と機能
12	四肢と体幹の運動②	四肢と体幹の運動②/上肢帯
13	四肢と体幹の運動③	四肢と体幹の運動③/肩関節
14	総括	まとめ授業
15		
16		

科目コード	24108				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	英語文学				担当者名	和栗 了			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業は、イギリスの文学を代表するウィリアム・シェイクスピア (William Shakespeare, 1564-1616) の作品について講義する。イギリスとは何か、文学とは何かを、シェイクスピアの作品研究を通じて明らかにする。シェイクスピアと言えば、『ロミオとジュリエット』を思い浮かべる人も多いだろうが、シェイクスピアはもっと多様な人間観を示し、もっと深遠な世界観を提示している。人間存在の根底にあるものへの彼のまなざしを議論しながら、シェイクスピアのそれぞれの作品が意味するものを講義する。扱う作品とテ

<授業の到達目標>

それぞれの受講生が、受講生はマーク・トウェインの短編作品をひとつの手がかりにしてアメリカ合衆国を、自分なりに理解してください。それが目的です。

<授業の方法>

講義形式による。毎回授業開始時に小テスト、講義終了時に小レポートを行う。さらに、毎回宿題を課す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：講義中に受講生と議論する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の宿題を完成することと毎回小テストのための勉強をすること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回小テスト（50％）＋毎回宿題（30％）＋毎回レポート（20％）全体の最後に成績確認とフィードバックを行う。

<教科書>

自作プリントを使用する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	感情とカタルシス	『アテネのタイモン』を論ずる。
2	男ってだめね	『シンベリン』を論ずる。
3	男ってほんとにだめね	『ヴェローナの二紳士』を論ずる。
4	ひとまちがい (mistaken identity)	『十二夜』を論ずる。
5	ソネットは愛の歌	Sonnet 18 と Sonnet 25 を論ずる。
6	六月の花嫁	『夏の世の夢』を論ずる。
7	演劇ではなく、本を読め！	『ロミオとジュリエット』を論ずる。
8	歴史は歴史か？	『ジョン王』を論ずる。
9	『ジョン王』を論ずる。	『オイディプス王』を論ずる。
10	悪口は感染する	『オセロー』を論ずる。
11	復讐は狂気	『ハムレット』を論ずる。
12	正義の言葉は無力	『リア王』を論ずる。
13	運命と自由意志	『マクベス』を論ずる。
14	完全な人間、とは？	『テンベスト』を論ずる。成績確認もします。
15		
16		

科目コード	27100				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	解剖学 I [PH2025年度以降入学生]				担当者名	百田 龍輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

<授業の到達目標>

1) 器官の位置関係を方向用語（上下、前後、内・外側、浅深、頭・尾側、背・腹側）で説明できる。2) 骨・軟骨・関節・靱帯の構造と機能を説明できる。3) 四肢の骨・関節を列挙し、主な骨の配置を図示できる。4) 椎骨の構造と脊柱の構成を説明できる。5) 四肢の主要筋群の運動を説明できる。6) 骨盤の構成と性差を説明できる。7) 心臓の構造と分布する血管・神経を説明できる。8) 体循環、肺循環と胎児循環を説明できる。9) 大動脈の枝を図示し、分布域を概説できる。

<授業の方法>

教科書、解剖図、参考書を使用して講義する。適宜画像を用いて講義を行う。教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahootなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に示す教科書の講義予定範囲を必ず音読のうえ、予習してくる。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、クイズ課題で復習する。クイズ課題提出は期限厳守すること。またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30%・評価試験70%

<教科書>

岸 清・石塚 寛 編 解剖学 医歯薬出版
坂井建夫・橋本尚詞 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版
医療情報科学研究所 からだがみえる 人体の構造と機能 メディックメディア

<参考書>

松村 譲児 イラスト解剖学 中外医学社
自 習 用 に 以 下 の ア プ リ を 推 薦 し ま す 。 Human Anatomy Atlas 202? Complete 3D Human Body
https://apps.apple.com/app/id1117998129解剖学的構造と生理学Anatomy & Physiologyhttps://apps.apple.com/app/id920133658

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロ解剖学概説・用語・数値細胞・遺伝子	解剖学を学ぶ意義解剖学概説、用語、数値細胞・遺伝子
2	組織（筋・上皮・結合・神経）受精・発生 器官系統人体区分	組織（筋・上皮・結合・神経）受精・発生
3	運動系骨格系 総論	運動系骨格系 総論組織・骨の発生と成長・関節
4	骨格系 各論脊柱胸郭	椎骨（頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨）椎骨の連結胸郭（胸骨・肋骨・肋軟骨）
5	骨格系 各論上肢骨	鎖骨肩甲骨上腕骨橈骨尺骨手の骨
6	骨格系 各論下肢骨頭蓋骨・下顎骨	寛骨大腿骨腓骨脛骨足の骨頭蓋骨・下顎骨
7	筋系 骨格筋	骨格筋の形態起始・停止筋の作用筋の補助装置
8	頭・頸部の筋体幹の筋	表情筋咀嚼筋頸部・胸部・腹部・背部の筋
9	上肢の筋	三角筋回旋筋腱板上腕二頭筋・三頭筋前腕・手の筋
10	下肢の筋	内・外寛骨筋大腿・下腿・足の筋
11	脈管系総論心臓	体循環・肺循環血管の構造心臓の位置・構造
12	心脈管系動脈系	大動脈大動脈弓頭部・頸部の動脈体幹・骨盤部の動脈上肢・下肢の動脈

13	静脈系	静脈上下大静脈皮静脈・硬膜静脈洞胎児循環
14	リンパ系	リンパ本幹リンパ性器官（リンパ節・脾臓・胸腺）
15		
16		

科目コード	3F305				区 分	コア科目			
授業科目名	関係法規				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

柔道整復師国家試験問題に十分に対応できるようになることを前提とし、「患者中心の医療」および「良質な医療を提供」がこれからの医療のスローガンであり、医療の質を問うだけでなく、医療従事者自身の技術や倫理観のレベルを問うものとなっていること等を学ぶ。

<授業の到達目標>

法の基礎および意義、体系について説明できる。柔道整復に関する主要な法令（柔道整復師法、施行令等）の目的と体系を説明できる。柔道整復師の法的義務、業務範囲、および守秘義務について正しく解説できる。医療従事者の資格法、医療法、その他の関係法規等について説明できる。

<授業の方法>

関係法規は、テキストに沿って解説をし、国家試験問題を解きながら理解を深めて行く。単元ごとに小テストを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り各グループで患者役、術者役、タイムキーパー、レポーター、アクティビティリーダーを決めて、柔道整復師に関する裁判例を基にグループ内で議論し主体的な学習と実践を行う。役割を順番に担当していただき、積極的に参加して自分の考えを言葉にして学びほぐしを行う。医療関係者になることを想定した心構えを持ちながら主体的な学習活動を展開する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキストに沿って解説をし、国家試験問題を解きながら理解を深めて行く。単元ごとに小テストを行う。予習：各項目に対して教科書を中心に予習を行う（100分程度）復習：各項目に対して小テストを実施して知識定着のため確認を行う（20分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験50％・レポート20％ 小テスト10％ 学習意欲20％

<教科書>

全国柔道整復学校協会（2024年4月1日） 関係法規 2024年版 医歯薬出版
全国柔道整復学校協会 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 医歯薬出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業進行上の注意事項説明
2	憲法と法制度	法の体系、憲法
3	柔道整復師関連事項	柔道整復師及び柔道整復に関する事項、患者の権利
4	柔道整復師法第1章 総論	柔道整復師法の目的、定義
5	第2章 免許・第3章 国家試験	柔道整復師免許、名簿、柔道整復師国家試験
6	第4章 業務・第5章 施術所	業務、施術所に関する事項
7	第6章 雑則・第7章 罰則	柔道整復師雑則、罰則（1）
8	第8章 指定登録機関、他	罰則（2）、指定登録機関、指定試験機関、附則
9	柔道整復師法のまとめ	まとめ、柔道整復師法小テスト
10	医療従事者の身分法（1）	医師法、歯科医師法
11	医療従事者の身分法（2）	保健師助産師看護師法、診療放射線技師法
12	医療従事者の資格法（3）、その他	臨床検査技師法、薬剤師法、他
13	医療法	医療法
14	社会福祉関係法規	医療法施行令、社会福祉関係法規、他
15		
16		

科目コード	40123				区 分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

<授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

<授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばしていく授業方法を展開する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する（約20分）。予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる（約20分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30％ レポート/提出物：20％ 実技：50％

<教科書>

<参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群技能の習得
3	跳び箱運動	切り返し系技群技能の習得
4	器械運動の指導方法の検討	指導者の立場を想定した学習方法の考案
5	鉄棒運動	前転系技能の習得
6	鉄棒運動	後転系技能の習得
7	マット運動	接転系技群技能の習得
8	マット運動	ほん転系技群技能の習得①
9	マット運動	ほん転系技群技能の習得②
10	総合練習①	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習②	演技構成の練習/技能チェックシートの作成
12	総合練習③	演技構成の練習/技能チェックシートの提出
13	技能テスト①	演技構成の実施
14	実技テスト②	演技構成の実施
15		
16		

科目コード	40123				区 分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

<授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

<授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばしていく授業方法を展開する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する（約20分）。予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる（約20分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30% レポート/提出物：20% 実技：50%

<教科書>

<参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群技能の習得
3	跳び箱運動	切り返し系技群技能の習得
4	器械運動の指導方法の検討	指導者の立場を想定した学習方法の考案
5	鉄棒運動	前転系技能の習得
6	鉄棒運動	後転系技能の習得
7	マット運動	接転系技群技能の習得
8	マット運動	ほん転系技群技能の習得①
9	マット運動	ほん転系技群技能の習得②
10	総合練習①	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習②	演技構成の練習/技能チェックシートの作成
12	総合練習③	演技構成の練習/技能チェックシートの提出
13	技能テスト①	演技構成の実施
14	実技テスト②	演技構成の実施
15		
16		

科目コード	40123				区 分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	高橋 徹			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

<授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

<授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばしていく授業方法を展開する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する（約20分）。予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる（約20分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30％ レポート/提出物：20％ 実技：50％

<教科書>

<参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版
三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群技能の習得
3	跳び箱運動	切り返し系技群技能の習得
4	器械運動の指導方法の検討	指導者の立場を想定した学習方法の考案
5	鉄棒運動	前転系技能の習得
6	鉄棒運動	後転系技能の習得
7	マット運動	接転系技群技能の習得
8	マット運動	ほん転系技群技能の習得①
9	マット運動	ほん転系技群技能の習得②
10	総合練習①	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習②	演技構成の練習/技能チェックシートの作成
12	総合練習③	演技構成の練習/技能チェックシートの提出
13	技能テスト①	演技構成の実施
14	実技テスト②	演技構成の実施
15		
16		

科目コード	40123				区 分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	高橋 徹			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

<授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

<授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばしていく授業方法を展開する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する（約20分）。予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる（約20分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30％ レポート/提出物：20％ 実技：50％

<教科書>

<参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群技能の習得
3	跳び箱運動	切り返し系技群技能の習得
4	器械運動の指導方法の検討	指導者の立場を想定した学習方法の考案
5	鉄棒運動	前転系技能の習得
6	鉄棒運動	後転系技能の習得
7	マット運動	接転系技群技能の習得
8	マット運動	ほん転系技群技能の習得①
9	マット運動	ほん転系技群技能の習得②
10	総合練習①	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習②	演技構成の練習/技能チェックシートの作成
12	総合練習③	演技構成の練習/技能チェックシートの提出
13	技能テスト①	演技構成の実施
14	実技テスト②	演技構成の実施
15		
16		

科目コード	40123				区 分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

<授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

<授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばしていく授業方法を展開する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する（約20分）。予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる（約20分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30％ レポート/提出物：20％ 実技：50％

<教科書>

<参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群技能の習得
3	跳び箱運動	切り返し系技群技能の習得
4	器械運動の指導方法の検討	指導者の立場を想定した学習方法の考案
5	鉄棒運動	前転系技能の習得
6	鉄棒運動	後転系技能の習得
7	マット運動	接転系技群技能の習得
8	マット運動	ほん転系技群技能の習得①
9	マット運動	ほん転系技群技能の習得②
10	総合練習①	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習②	演技構成の練習/技能チェックシートの作成
12	総合練習③	演技構成の練習/技能チェックシートの提出
13	技能テスト①	演技構成の実施
14	実技テスト②	演技構成の実施
15		
16		

科目コード	40123				区 分	コア科目			
授業科目名	器械運動 I (基礎)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技の技能を習得するとともに、それらの段階的な指導方法を理解する。

<授業の到達目標>

1. 器械運動に関する基礎的な動きから発展的な動きを習得し、見本として実施することができるようになる。2. 動きについての技術的な内容や段階的な学習方法を理解し、他者に説明できるようになる。

<授業の方法>

指導を受けると同時に、ICTを用いながら各自で教えあい、それぞれの技能を伸ばしていく授業方法を展開する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己や他者の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教わったポイントや気づきなどを整理して記入すること。また、これまでに受けてきた授業で取り上げた技で出来ていない技については、日ごろから繰り返し練習する（約20分）。予習：翌週で学習する技について技術情報を調べる（約20分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。学習指導要領に例示されている器械運動領域の技能を学習する過程で、運動に関する知見をもとに、自らの課題を見つけ、技能の習熟度を高めていくことをねらいとしている。出席・態度：30％ レポート/提出物：20％ 実技：50％

<教科書>

<参考書>

三木四郎（2005） 新しい体育授業の運動学 明和出版

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス、器械運動の歴史・特性、器具の出し方について
2	マット運動	回転系接転技群技能の習得
3	跳び箱運動	切り返し系技群技能の習得
4	器械運動の指導方法の検討	指導者の立場を想定した学習方法の考案
5	鉄棒運動	前転系技能の習得
6	鉄棒運動	後転系技能の習得
7	マット運動	接転系技群技能の習得
8	マット運動	ほん転系技群技能の習得①
9	マット運動	ほん転系技群技能の習得②
10	総合練習①	実技テストの説明/演技構成の検討
11	総合練習②	演技構成の練習/技能チェックシートの作成
12	総合練習③	演技構成の練習/技能チェックシートの提出
13	技能テスト①	演技構成の実施
14	実技テスト②	演技構成の実施
15		
16		

科目コード	27103				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅰ(総論)				担当者名	平林 大輔			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復師は、業務として柔道整復を行うことができる国家資格、あるいはその国家資格を持つ者で、柔道整復師法に おいては「厚生労働大臣の免許を受けて、柔道整復を業とする者」と定義される。柔道整復師の社会への役割を理解し、業務範囲について理解する。

<授業の到達目標>

柔道整復術は日本古来固有の伝統医療、 代替医療であり、柔道整復師は日本国でのみ認められている日本固有の国家資格である。その成り立ちを理解し、各組 織の損傷や評価、整復法・治療法を理解する事ができるようになる。

<授業の方法>

教科書に沿って講義を行い、解説を行う。教科書の内容を細かく丁寧に指導する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回の復習として小テスト・定期テストに備え、授業内容を必ず見直しておく事。最低でも週3時間の学習を推奨する。授業後復習は記憶に定着させるために当日2時間程度の復習を推奨する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験100%で評価する。

<教科書>

全国柔道整復学校協会（2011.12.20） 「柔道整復学・理論編」南江堂 南江堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	概説	柔道整復師の沿革と業務範囲、倫理綱領
2	総論	人体に加わる力・損傷に関する身体の基礎的条件、損傷時に加わる力
3	各組織の損傷-骨-	骨の損傷
4	各組織の損傷-筋・腱-	筋・腱の損傷
5	各組織の損傷-靱帯-	靱帯の損傷
6	各組織の損傷-神経-	神経の損傷
7	各組織の損傷-皮膚-	皮膚の損傷
8	各組織の損傷-血管-	血管の損傷
9	評価	末梢神経、血管系、リンパ系、皮膚の損傷
10	治療法-整復-	評価の信頼性、妥当性、確実性
11	治療法-固定-	整復法
12	治療法-後療-	固定法
13	治療法-指導-	後療法
14	まとめ	指導管理
15		
16		

科目コード	21100				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教職入門 [FC、FE組用]				担当者名	久田 孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさ、そして、よるこびややりがいを、実際の学校現場での実践、実例を通して学んでいく。これまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。2. 自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。3. 学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。

<授業の方法>

各章のテーマに沿って、必要に応じて、それぞれの学校現場で教職経験をもった教員が指導補助に入りながら講義を行っていく。必要に応じて参考書を提示したり、プリントを配布したりして補完していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有学生が“主体的に考え・対話し・実践する”ことを通して、教師としての基礎的資質を育てることが目的である。1. 模擬授業（マイクロティーチング）授業設計力・指導力の基礎2. ロールプレイ生徒指導 教師役／保護者役／観察者に分かれる対人スキル・対応力3. 教育制度・法規の協働学習ジグソー法（分担→教え合い）知識の定着＋説明力向上4. リフレクション（振り返り）学び・気づき・課題による深い学びの定着「教師になるために“考える・対話する・やってみる・振り返る”というサイクル

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、次週の指導内容のキーワードの下調べ、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。前回の内容、もしくは事前学習の内容についての毎時間小テストを行う。（ノートへのまとめ記載・毎回1時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてレポートにまとめ提出。（毎回1時間程度）※レポートはWordで作成し、翌日の17:00までに所定のDropboxに投函すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義に臨む意欲・姿勢・態度 30%、レポート20%、試験 50%を総合的に判断※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力である。「教職入門」、においては各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義中における姿勢を重視して評価する。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼす。

<教科書>

中田正浩・中田浩司編著2026.04.20 『未来をつなぐ教職入門』NEXT TEACHERS 教職をめざすあなたへ』 大学教育出版
渡邊 正樹 2024.10.08 「学校安全と危機管理」 「大修館書店」
春日井敏之 監修・編著2024.08.30 生徒指導・進路指導〔第2版〕 ミネルヴァ書房

<参考書>

梶田叡一 2010.8 改訂 実践教育評価辞典 文溪堂
梶田叡一 2012, 8 教育フォーラム50＜やる気＞を育てる 金子書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明
2	教職への道	①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。
3	教師の仕事（1）～小学校～	小学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
4	教師の仕事（2）～幼稚園～	幼稚園教諭の1日（業務内容）を理解する。
5	教師の仕事（3）～中学校・特別支援学校～	中学校・高等学校・特別支援学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
6	資質能力の向上をめざした研修	教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。

7	教員の身分と服務	服務の根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。
8	学級経営	学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。
9	生徒指導	生徒指導上の諸問題と指導のあり方（予防と対処）を理解する。
10	学校教育と社会教育	①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。
11	教員採用試験	①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。
12	教育実習	教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。
13	教員の問題行動とメンタルヘルス	①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。
14	まとめ	①これまでの学びをふり返し、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験合格に向けて、見直しをもつ。
15		
16		

科目コード	21100				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教職入門 [PP2621組用+PS]				担当者名	久田 孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさ、そして、よるこびややりがいを、実際の学校現場での実践、実例を通して学んでいく。これまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。2. 自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。3. 学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。

<授業の方法>

各章のテーマに沿って、必要に応じて、それぞれの学校現場で教職経験をもった教員が指導補助に入りながら講義を行っていく。必要に応じて参考書を提示したり、プリントを配布したりして補完していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有学生が“主体的に考え・対話し・実践する”ことを通して、教師としての基礎的資質を育てることが目的である。1. 模擬授業（マイクロティーチング）授業設計力・指導力の基礎2. ロールプレイ生徒指導 教師役／保護者役／観察者に分かれる対人スキル・対応力3. 教育制度・法規の協働学習ジグソー法（分担→教え合い）知識の定着＋説明力向上4. リフレクション（振り返り）学び・気づき・課題による深い学びの定着「教師になるために“考える・対話する・やってみる・振り返る”というサイクル

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、次週の指導内容のキーワードの下調べ、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。前回の内容、もしくは事前学習の内容についての毎時間小テストを行う。（ノートへのまとめ記載・毎回1時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてレポートにまとめ提出。（毎回1時間程度）※レポートはWordで作成し、翌日の17:00までに所定のDropboxに投函すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義に臨む意欲・姿勢・態度 30%、レポート20%、試験 50%を総合的に判断※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力である。「教職入門」、においては各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義中における姿勢を重視して評価する。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼす。

<教科書>

中田正浩・中田浩司編著2026.04.20 『未来をつなぐ教職入門』NEXT TEACHERS 教職をめざすあなたへ』 大学教育出版
渡邊 正樹 2024.10.08 「学校安全と危機管理」 「大修館書店」
春日井敏之 監修・編著2024.08.30 生徒指導・進路指導 [第2版] ミネルヴァ書房

<参考書>

梶田叡一 2010.8 改訂 実践教育評価辞典 文溪堂
梶田叡一 2012, 8 教育フォーラム50＜やる気＞を育てる 金子書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明
2	教職への道	①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。
3	教師の仕事（1）～小学校～	小学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
4	教師の仕事（2）～幼稚園～	幼稚園教諭の1日（業務内容）を理解する。
5	教師の仕事（3）～中学校・特別支援学校～	中学校・高等学校・特別支援学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
6	資質能力の向上をめざした研修	教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。

7	教員の身分と服務	服務の根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。
8	学級経営	学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。
9	生徒指導	生徒指導上の諸問題と指導のあり方（予防と対処）を理解する。
10	学校教育と社会教育	①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。
11	教員採用試験	①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。
12	教育実習	教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。
13	教員の問題行動とメンタルヘルス	①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。
14	まとめ	①これまでの学びをふり返し、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験合格に向けて、見通しをもつ。
15		
16		

科目コード	21100				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教職入門 [PP2622組 + PS]				担当者名	久田 孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさ、そして、よるこびややりがいを、実際の学校現場での実践、実例を通して学んでいく。これまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。2. 自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。3. 学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。

<授業の方法>

各章のテーマに沿って、必要に応じて、それぞれの学校現場で教職経験をもった教員が指導補助に入りながら講義を行っていく。必要に応じて参考書を提示したり、プリントを配布したりして補完していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有学生が“主体的に考え・対話し・実践する”ことを通して、教師としての基礎的資質を育てることが目的である。1. 模擬授業（マイクロティーチング）授業設計力・指導力の基礎2. ロールプレイ生徒指導 教師役／保護者役／観察者に分かれる対人スキル・対応力3. 教育制度・法規の協働学習ジグソー法（分担→教え合い）知識の定着＋説明力向上4. リフレクション（振り返り）学び・気づき・課題による深い学びの定着「教師になるために“考える・対話する・やってみる・振り返る”というサイクル

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、次週の指導内容のキーワードの下調べ、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。前回の内容、もしくは事前学習の内容についての毎時間小テストを行う。（ノートへのまとめ記載・毎回1時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてレポートにまとめ提出。（毎回1時間程度）※レポートはWordで作成し、翌日の17:00までに所定のDropboxに投函すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義に臨む意欲・姿勢・態度 30%、レポート20%、試験 50%を総合的に判断※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力である。「教職入門」、においては各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義中における姿勢を重視して評価する。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼす。

<教科書>

中田正浩・中田浩司編著2026.04.20 『未来をつなぐ教職入門』NEXT TEACHERS 教職をめざすあなたへ』 大学教育出版
渡邊 正樹 2024.10.08 「学校安全と危機管理」 「大修館書店」
春日井敏之 監修・編著2024.08.30 生徒指導・進路指導 [第2版] ミネルヴァ書房

<参考書>

梶田叡一 2010.8 改訂 実践教育評価辞典 文溪堂
梶田叡一 2012, 8 教育フォーラム50＜やる気＞を育てる 金子書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明
2	教職への道	①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。
3	教師の仕事（1）～小学校～	小学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
4	教師の仕事（2）～幼稚園～	幼稚園教諭の1日（業務内容）を理解する。
5	教師の仕事（3）～中学校・特別支援学校～	中学校・高等学校・特別支援学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
6	資質能力の向上をめざした研修	教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。

7	教員の身分と服務	服務の根本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。
8	学級経営	学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。
9	生徒指導	生徒指導上の諸問題と指導のあり方（予防と対処）を理解する。
10	学校教育と社会教育	①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。
11	教員採用試験	①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。
12	教育実習	教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。
13	教員の問題行動とメンタルヘルス	①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。
14	まとめ	①これまでの学びをふり返し、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験合格に向けて、見通しをもつ。
15		
16		

科目コード	28102				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	経済学概論 [1年生日本人用][週2]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済学の体系、経済学的ものの見方、経済学を学ぶ上での基礎知識、キーワードとなる経済用語、経済社会の構造などを学ぶ。

<授業の到達目標>

マクロ経済学、ミクロ経済学、その他の経済系専門科目を学ぶための基礎知識が身に付く。

<授業の方法>

講義形式で行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義に際しては、時々、理解度確認の演習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

経済学の基礎となる授業なので、わからないところを残さないよう、毎回予習・復習を30分程度行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

時々実施する確認テスト（40%）と最後のまとめテスト（60%）で評価する。

<教科書>

<参考書>

飯田幸裕・岩田幸訓（2022） 入門経済学〔第四版〕 創成社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	経済学とは何か	経済学とはどういう学問かについて解説をおこなう。
2	グラフの見方・書き方	マクロ経済学、ミクロ経済学で使う基本的なグラフの見方・書き方を練習する。
3	国内総生産（GDP）	マクロ経済学の基礎となる国内総生産（GDP）の概念、その規模や世界各国GDPの比較をおこなう。
4	生産・所得・消費の決定	生産・所得・消費がどのようにして決まるかを考える。
5	貨幣	貨幣の成り立ち、貨幣の役割、さらには新しい貨幣（デジタル通貨、仮想通貨）について考える。
6	マクロ経済政策	経済をどのようにコントロールするか、財政政策、金融政策を中心に考える。
7	インフレ、デフレ、失業	インフレ、デフレの要因とその経済への影響、失業との関係などを考える。
8	ミクロ経済学の基礎	ミクロ経済学とは何かを解説する。
9	需要と供給	需要と供給の関係をさまざまな例をもとに考える。
10	需要と効用	消費者剰余、効用について考える。
11	供給と利潤	供給の決定、費用、利潤最大化について考える。
12	競争と独占	自由競争状態、独占状態について解説し、その問題点を考える。
13	市場の失敗、ゲームの理論	市場はなぜ失敗するのかを理論的に考える。また、ゲームの理論の基礎を学ぶ。
14	まとめ	講義全体のまとめを行う。
15	小テスト	講義内容確認のテストを行う。
16		

科目コード	40108				区 分	コア科目			
授業科目名	剣道 I (基礎)				担当者名	堀川 峻			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

日本の伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」を目的としており、その理念は今や日本のみならず、世界中で愛好者を増やし続けている。本授業では、剣道の基礎的な技能や礼法を身につけると共に、日本独自の身体文化としての伝統性について実践を通して理解を深めること、剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。本授業においては、(1) 服装・用具の確認 (2) 授業前の体調確認・準備運動 (3) 指導内容の遵守 (4) 安全な間合い・動作の確保等を徹底することで安全に配慮し、事故や怪我の発生時には

<授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育科教員になった際に武道専門家でなくとも武道の授業を担当しなければならない。この授業を通して剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけ、教育現場において剣道授業を実施できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

講義・実技・ディスカッション剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設けるClassroomを使用する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）グループに分かれ授業内においての指導方法をディスカッションする

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（授業前）として、中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領を熟読すること（1時間程度）。また、事後学習（授業後）としては、授業で学んだ動作を振り返り、自身の課題や改善点を整理すること。さらに次回の授業に向けた目標を設定してくること（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技試験 50%

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本授業の内容説明	本授業の留意点や受講における心構えについて学習する。
2	剣道着袴採寸と剣道理念についての学び	剣道着・袴の採寸と剣道理念・歴史の学習を行う。
3	剣道着・袴の着用方法、竹刀について	剣道着・袴の着方法、竹刀の規格・手入れ方法と安全管理について
4	剣道の礼法と足捌き、構えについて	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）を歴史の背景も理解しながら実践する。足捌き、剣道の構えについて学習する。正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
5	基本動作について（素振りと立ち合いにおける礼法）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・早素振りなどを行う。立ち合いにおける礼法を学習する。
6	剣道防具の着用方法と片付け	防具の使用方法について説明し、正しく防具を着用し片付けられるようにする。防具の置き方や面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突する方法の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。
9	基本稽古（切り返し）	剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（応じ技）	相手の打突に対応する応じ技の実践。
11	基本稽古（引き技）	鍔迫り合いの説明と鍔迫り合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと五角稽古	これまでの学習内容の振り返りとこれまで学習した技を用いた相手との実践稽古を行う。

13	実技確認試験 授業のまとめと試合（団体戦における戦い 方の学習）	礼法、素振り、基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認実技テストを行う。
14		授業のまとめ学習と5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制）の実践。
15		
16		

科目コード	40108				区 分	コア科目			
授業科目名	剣道 I (基礎) [PP1年生男子用]				担当者名	堀川 峻			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

日本の伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」を目的としており、その理念は今や日本のみならず、世界中で愛好者を増やし続けている。本授業では、剣道の基礎的な技能や礼法を身につけると共に、日本独自の身体文化としての伝統性について実践を通して理解を深めること、剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。本授業においては、(1) 服装・用具の確認 (2) 授業前の体調確認・準備運動 (3) 指導内容の遵守 (4) 安全な間合い・動作の確保等を徹底することで安全に配慮し、事故や怪我の発生時には

<授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育科教員になった際に武道専門家でなくとも武道の授業を担当しなければならない。この授業を通して剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけ、教育現場において剣道授業を実施できるようになる。

<授業の方法>

講義・実技・ディスカッション剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設けるClassroomを使用する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）グループに分かれ授業内においての指導方法をディスカッションする

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（授業前）として、中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領を熟読すること（1時間程度）。また、事後学習（授業後）としては、授業で学んだ動作を振り返り、自身の課題や改善点を整理すること。さらに次の授業に向けた目標を設定してくること（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技試験 50%

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本授業の内容説明	本授業の留意点や受講における心構えについて学習する。
2	剣道着袴採寸と剣道理念についての学び	剣道着・袴の採寸と剣道理念・歴史の学習を行う。
3	剣道着・袴の着用方法、竹刀について	剣道着・袴の着方法、竹刀の規格・手入れ方法と安全管理について
4	剣道の礼法と足捌き、構えについて	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）を歴史の背景も理解しながら実践する。足捌き、剣道の構えについて学習する。正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
5	基本動作について（素振りや立ち合いにおける礼法）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・早素振りなどを行う。立ち合いにおける礼法を学習する。
6	剣道防具の着用方法と片付け	防具の使用方法について説明し、正しく防具を着用し片付けられるようにする。防具の置き方や面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突する方法の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。
9	基本稽古（切り返し）	剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（応じ技）	相手の打突に対応する応じ技の実践。
11	基本稽古（引き技）	鍔迫り合いの説明と鍔迫り合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと互角稽古	これまでの学習内容の振り返りとこれまで学習した技を用いた相手との実践稽古を

13	実技確認試験	行う。
14	授業のまとめと試合（団体戦における戦い	礼法、素振り、基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認実技テストを行う。
15	方の学習）	授業のまとめ学習と5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制）の実践。
16		

科目コード	53008				区 分	コア科目			
授業科目名	国際交流実習 I (基礎)				担当者名	伊藤 仁美/Jason Witthaus			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2 クォータ ー	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、IPU NZ留学希望者を対象とした必修科目である。前半（第1～8回）では、留学の成功を左右する「自律的学習習慣」と「即興的発信力」の土台を築く。毎回の帯活動（Small Talk）で英語を話す抵抗感をなくし、場面別ロールプレイを通じて実践的な瞬発力を養う。また、留学経験者との座談会を経て、自らの「留学計画書」を作成し、明確な目的意識を醸成する。後半（第9～14回）は、現地での交流の武器となる「日本文化」の発信力を強化する。事実や自分の考えを整理し、聞き手の反応を確かめながらまとまりのある内容を発

<授業の到達目標>

(1) リサーチ課題や留学計画書の作成を通じ、自国および留学先への理解を深め、国際人としての自覚と、具体的かつ実行可能な留学の行動指針を策定している。【目標・計画】(2) 自律的な英語学習の習慣を確立し、日々の学習ログ等を用いて自らの学びを客観的に管理・継続できている。【学習習慣】(3) 間違いを恐れず、未知の状況や相手に対しても自ら進んで英語でコミュニケーションを図ろうとする積極的な姿勢を身につけている。【態度】(4) 留学生活で想定される諸場面（交通、医療、買い物等）の定型表現を習得し、トラブルや

<授業の方法>

(1) 帯活：Small Talk（15分）(2) 復習：学習ログの確認・日記の内容に関する自由英会話（15分）(3) 導入：Survival Input（10分）(4) 中心活動：場面別ロールプレイなど（30分）(5) ワーク：計画書・リサーチ（20分）(6) 終末：リフレクションシートと日記へのコメント記入（10分）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有学生は、このコース全体を通じて能動的な学習者として関わります。英語でのコミュニケーション能力を高めるために、スチューデント・チョイスが促進され、アクセスされます。学生は自分の考えを反映し、ペアやグループで問題を解決できるようになります。学生は情報を統合し、自分の学習を強化できるようになります。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

合計2時間程度<予習>(1) キーワード・リサーチ：次回のテーマや場面設定に基づき、関連する英単語（名詞中心）を3～5個リサーチする。即興性を重視するため、文章作成や丸暗記は行わず、単語のみをメモして授業に臨む。(2) 沈黙回避のためのフレーズ確認：言葉に詰まった際の「つなぎ言葉（Fillers）」や聞き直しの表現を数種類選び、声に出して馴染ませておく。<復習>(1) アウトプット・トレーニング：授業のトピックや記事について、何も見ずに1分間話す練習を行う（録音推奨）。「5秒以上の沈黙」を避け、言い換えや

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取り組み・学習意欲（帯活動・学習習慣）20%留学計画書（リサーチ課題）20%中間試験（1分間スピーチの流暢さ、場面別ロールプレイでの問題解決力など）30%期末試験（日本文化のプレゼンテーション発表）30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、留学へのマインドセット、英語力診断テスト
2	学習習慣の確立と目的の整理	学習ログを始める。留学の目的を整理する。
3	場面別ロールプレイ (1)	交通機関・買い物での即興ロールプレイ。語彙不足を補うパラフレーズ（言い換え）に挑戦する。
4	場面別ロールプレイ (2)	病院・電話・寮でのトラブル対応。フィラー（つなぎ言葉）を意識的に使う。
5	留学経験者との座談会	3・4回での「言葉が出ない」経験を踏まえ、実践的なコツや生活実態を吸収する。
6	留学計画書の完成と共有	座談会での気づきを反映させた留学計画書（具体的行動指針）を完成させる。ペアでの発表と相互フィードバックを行う。
7	中間試験 (1)	即興1分間スピーチ：日常的なトピックに対し、5秒以上の沈黙なしで話し続ける。
8	中間試験 (2)	場面別ロールプレイ：提示されたトラブルを英語のみで解決する。
9	プレゼンテーションに向けて：計画	プレゼンテーションの構成・論理展開（序論・本論・結論）、アイディアマッピング

		グ、考えや情報の整理
10	プレゼンテーションに向けて：初稿	伝える内容に重点を置きながら、必要に応じて適切な語彙・表現を学んでいく。内容面についてのピア・フィードバックを行う。
11	プレゼンテーションに向けて：推敲	よりよい説明の仕方や表現など、言語面についてのピア・フィードバックを行う。
12	プレゼンテーションに向けて：発表準備	スライドの準備・発表練習を行う。
13	期末試験（1）	日本を紹介するプレゼンテーション発表とフィードバック 1
14	期末試験（2）	日本を紹介するプレゼンテーション発表とフィードバック 2
15		
16		

科目コード	20305				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	次世代教育学 [FC]				担当者名	後藤 由佳／宮原 舞			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「次世代教育学」は、国家資格である保育士資格および幼稚園教諭一種免許状の取得における必修科目であり、あわせてこども発達学科の卒業必修科目である。本授業では、大学生として必要な基礎的スキル（ビジネスメール、電話応対、文章作成、プレゼンテーション）を身につけるとともに、保育教材や児童書を題材として、内容の要約や考察を行い、自らの考えを論理的に表現する力を養う。さらに、教材の教育的意義や保育現場での活用可能性について検討し、発表や交流を通して多様な視点を理解する。最終的には、自ら選んだ図書について総合的にまとめ

<授業の到達目標>

① 大学生・社会人として必要な基本的マナーやコミュニケーション能力を身につけ、適切に実践することができる。② レポート作成の基礎を理解し、論理的な文章を作成することができる。③ 保育教材や児童書の内容を的確に読み取り、その教育的意義や保育現場での活用可能性について考察し、自らの考えを発表・文章として表現することができる。

<授業の方法>

講義、個人ワーク、ペア・グループでの交流、発表、レポート作成等を組み合わせて行う。必要に応じて各種資料や図書館資料を活用し、図書の探し方や情報収集の基礎について学ぶ。各回では、読む・書く・話す活動を通して、内容理解と表現力の向上を図る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク、ロールプレイ、発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、指定された教材や図書を読み、授業内容に関わる基礎的な理解を深めておくこと。復習として、授業で扱った内容を振り返り、課題の修正や加筆、発表準備等を行うこと。特に実践的内容については、繰り返し練習することが望ましい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 授業に対する取り組み姿勢 40%② 小課題（レポート等）40%③ 大課題（発表・プレゼンテーション）20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業のねらい、進め方、到達目標、評価方法を理解する。
2	ビジネスメール・電話応対	欠席連絡や見学依頼を想定したメール作成、電話のかけ方・受け方を学ぶ。
3	お礼状・感謝の伝え方	実習後のお礼状など、適切な感謝の表現方法を学ぶ。
4	プレゼンテーションの基礎	発表の構成や伝え方の基本を理解する。
5	レポート基礎①	レポートと感想文の違い、構成、論理的な文章の組み立て方を学ぶ。
6	レポート基礎②	文章の要点を捉え、簡潔かつ正確に要約する方法を学ぶ。
7	保育教材の探究①	保育教材の内容を要約し、感想を整理する。
8	保育教材の探究②	要約・感想について発表・交流を行い、多様な視点に触れる。
9	保育教材の探究③	教材の教育的意義や保育現場での活用について考察する。
10	保育教材の探究④	教材の教育的意義や保育現場での活用について、発表・交流を行う。
11	My favorite book①	図書を選定し、内容を要約する。
12	My favorite book②	選んだ図書に込められた教育的意義やメッセージについて考察する。
13	My favorite book③	図書の内容や考察について発表・交流を行う。
14	総まとめ	授業全体を振り返り、最終レポートの作成を通して学習成果をまとめる。
15		
16		

科目コード	20305				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	次世代教育学 [FE + 他学科小学校免許希望者]				担当者名	大野 呂 浩志／中安 翼			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育を担う「教師」育成のために、学校教育の現代的課題にも焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察し、授業を実践します。

<授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な要素を身につける中で、次世代の児童に必要な要素は何なのかを意識し、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識も常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることができる。

<授業の方法>

講義内においてレポートを作成し提出する事。授業形態は、講義形式だけでなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義に対して、グループで自分たちの考えをまとめ、発表します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・特別講師についての事前資料の熟読し自分の考えをまとめておく（毎回事前に1～1.5時間程度）・授業後のレポート（事後に1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度30%、発表資料・課題50%、最終レポート20%により判断※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は担当教員が行います。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	次世代教育学で学ぶ事	授業の概要について
2	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
3	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
4	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
5	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
6	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
7	前半のまとめ	前半の講義を振り返り、次世代の教育に必要な資質・能力について自分の考えをまとめ、発表する
8	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
9	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
10	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
11	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
12	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
13	次世代教育について	次世代の教育について必要な資質能力をもとに、今後自分が身につけていきたい力

14	まとめ	についてまとめる
15		本授業で学んだことを振り返り、将来どのような教員になりたいかについて発表する
16		

科目コード	65020				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	実践英文法（基礎）				担当者名	井上 聡			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、大学入試の基礎となる英文法への理解を深め、英語学習の方略を固めることです。事前課題（英検2級、英検準1級、TOEICの問題演習）をもとに、グループで教え合いを行い、講師の解説を傾聴し、理解度確認テストで「わかる」「わからない」を区別します。この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）によるアクティブ・ラーニング型の授業となります。PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。スマホの使用は、原則認めません。

<授業の到達目標>

1. 事前課題（調べ学習）に粘り強く取り組むことができる。2. 活発な意見交流を通してグループワークに貢献できる。3. 理解度確認テストで高いスコアを残すことができる。

<授業の方法>

事前課題の教え合い（40分）解説の傾聴（30分）意見交換（20分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワークによる教えあい

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：整序問題（90分程度）※英検・TOEICの文法演習復習：理解度確認テスト（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%，グループワーク 20%，理解度確認テスト 40%，意見交換 10%

<教科書>

授業中に配本予定

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	第1章 品詞解析①、オリエンテーション	授業の進め方、教材の使い方、品詞解析①
2	第2章 品詞解析②	教え合い、解説、振り返り
3	第3章 品詞解析③	教え合い、解説、振り返り
4	第4章 品詞解析④	教え合い、解説、振り返り
5	第5章 品詞解析⑤	教え合い、解説、振り返り
6	第6章 品詞解析⑥	教え合い、解説、振り返り
7	第7章 品詞解析⑦	教え合い、解説、振り返り
8	第8章 品詞解析⑧	教え合い、解説、振り返り
9	第9章 品詞解析⑨	教え合い、解説、振り返り
10	第10章 品詞解析⑩	教え合い、解説、振り返り
11	第11章 品詞解析⑪	教え合い、解説、振り返り
12	第12章 品詞解析⑫	教え合い、解説、振り返り
13	第13章 品詞解析⑬	教え合い、解説、振り返り
14	第14章 品詞解析⑭	教え合い、解説、振り返り
15		
16		

科目コード	34107				区 分	コア科目			
授業科目名	社会福祉学				担当者名	小倉 毅			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

核家族化や、急速な少子・高齢化の進展、さらには人権意識の向上などを背景に、生活困窮者や児童、病弱者、障害者、高齢者などの尊厳と自立、社会参加を支援する活動の重要性が高まっている。本講義では、社会福祉の意義・理念を理解したうえで、法体系や制度、福祉サービス体系における公私の役割活動について学習する。

<授業の到達目標>

社会福祉が、私達の身近な生活のなかに深く関わり、生活を支えているものであるということを理解する。また、それらの問題・ニーズに気づくための視点を養い、問題・ニーズに対応し、これを軽減し解消するための制度、機関、専門職などの資源について知り、これらに適切につなぐための方法を身につける。

<授業の方法>

教科書に基づいて専門知識の理解し、講義ノートの作成を課す。適宜講義課題について小レポート作成をする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有（事例をもとにグループワークを実施し理解を深める）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1) 予習の方法（45分）下記の授業計画はテキストに準拠している。該当する箇所を前もって読んでおくようにして下さい。2) 復習の方法（45分）授業中に整理するプリントを中心に復習して下さい。また、理解が十分でない場合には、積極的に質問して下さい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価は、授業態度 20%、定期試験 60%、レポート 20%の総合評価。

<教科書>

松井圭三・今井慶宗 「現代社会福祉要説」 ふくろう出版（2022年4月改訂）

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	社会福祉を学ぶ視点	社会福祉の概念、少子高齢化と社会福祉
2	社会福祉の歴史	戦後を中心とした社会福祉の歴史
3	社会福祉の範囲と法体系	社会福祉の存在意義、社会福祉法、福祉6法
4	社会福祉の実施体制	社会福祉における国と地方公共団体の役割
5	社会福祉サービスの種類と財源	社会保険の種類と内容
6	社会保障制度（1）	社会的養護の仕組みと実施体系
7	社会保障制度（2）	生活保護制度の意味と内容
8	子どもと家族の福祉	児童福祉の概要、少子化と次世代育成支援
9	障害をもつ人の福祉	障害の捉え方と定義、障害者福祉サービスと施策
10	高齢者の福祉	高齢者の生活課題と福祉ニーズ、高齢者の福祉・保健サービス
11	地域福祉	地域福祉とは、福祉のまちづくり
12	社会福祉専門職と倫理	社会福祉の職種と職場、求められる倫理
13	ソーシャルワークの原理と機能	ソーシャルワークとは、ソーシャルワークの種類
14	権利擁護とサービスの質	権利擁護とは、サービスの指導監査と第3者評価
15		
16		

科目コード	22208				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	初等英語 [FE2621組用]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

英語を聞く、話す、読む、書く活動を通して、英語運用能力を高める。特に、外国語活動・外国語科の授業を進める上で必要な言語材料や表現を適切に運用できるようにする。授業実践に必要な英語運用能力と英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子ども向けの歌や詩など）・異文化理解に関する基礎的な知識を、授業場面を意識しながら体験的に学習する。

<授業の到達目標>

1. 小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な英語運用能力を身につけることができる。2. 英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子ども向けの歌や詩など）・異文化理解に関する基礎的な知識を身につけることができる。

<授業の方法>

・オーラルアクティビティ（聞く・話す）・ライティングアクティビティ（読む・書く）・講義（教員による解説と問いの提示）・ディスカッション

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書のWarm-up Activities（1時間程度）復習：振り返りレポート（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業への参加度（アクティビティ・ディスカッション） 30％・課題（振り返りレポート）30％・最終発表及びレポート40％

<教科書>

金森強（2024年） CLILで習得する小学校英語指導の基礎 ミネルヴァ書房

<参考書>

小川隆夫・東仁美（2021） 小学校英語はじめる教科書（改訂版） mpi

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	国際共通語としての英語（Unit1）
2	第二言語習得に関する基本的な知識（1）	第二言語習得と外国語学習（Unit2）
3	英語に関する基礎的な知識（1）	語彙（Unit3）
4	小学校外国語教育に関する基礎的な知識	アクティブラーニング（Unit10）、協働学習（Unit11）ICT教育（Unit13）
5	英語に関する基礎的な知識（2）	音声（Unit4）
6	異文化理解に関する基礎的な知識（1）	異文化間コミュニケーション能力（Unit5）
7	児童文学に関する基礎的な知識（1）	歌・詩（Unit8）
8	異文化理解に関する基礎的な知識（2）	交流活動（フラットスタンレープロジェクト）
9	児童文学に関する基礎的な知識（2）	絵本（Unit9）
10	英語に関する基礎的な知識（3）	発音と文字の綴り、正書法（Unit6）
11	英語に関する基礎的な知識（4）	文法・文構造（Unit7）
12	第二言語習得に関する基本的な知識（2）	第二言語習得理論の実践への応用（Unit12）、CLIL（Unit14）
13	4技能統合型活動（1）	活動の計画と準備、クラスルームイングリッシュ、Small Talk
14	4技能統合型活動（2）	発表評価、ディスカッション
15		
16		

科目コード	22208				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	初等英語 [FE2622組用]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

英語を聞く、話す、読む、書く活動を通して、英語運用能力を高める。特に、外国語活動・外国語科の授業を進める上で必要な言語材料や表現を適切に運用できるようにする。授業実践に必要な英語運用能力と英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子ども向けの歌や詩など）・異文化理解に関する基礎的な知識を、授業場面を意識しながら体験的に学習する。

<授業の到達目標>

1. 小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な英語運用能力を身につけることができる。2. 英語に関する専門的な知識（音声・語彙・文法・正書法など）や第二言語習得・児童文学（絵本・子ども向けの歌や詩など）・異文化理解に関する基礎的な知識を身につけることができる。

<授業の方法>

・オーラルアクティビティ（聞く・話す）・ライティングアクティビティ（読む・書く）・講義（教員による解説と問いの提示）・ディスカッション

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書のWarm-up Activities（1時間程度）復習：振り返りレポート（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業への参加度（アクティビティ・ディスカッション） 30％・課題（振り返りレポート）30％・最終発表及びレポート40％

<教科書>

金森強（2024年） CLILで習得する小学校英語指導の基礎 ミネルヴァ書房

<参考書>

小川隆夫・東仁美（2021） 小学校英語はじめる教科書（改訂版） mpi

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	国際共通語としての英語（Unit1）
2	第二言語習得に関する基本的な知識（1）	第二言語習得と外国語学習（Unit2）
3	英語に関する基礎的な知識（1）	語彙（Unit3）
4	小学校外国語教育に関する基礎的な知識	アクティブラーニング（Unit10）、協働学習（Unit11）ICT教育（Unit13）
5	英語に関する基礎的な知識（2）	音声（Unit4）
6	異文化理解に関する基礎的な知識（1）	異文化間コミュニケーション能力（Unit5）
7	児童文学に関する基礎的な知識（1）	歌・詩（Unit8）
8	異文化理解に関する基礎的な知識（2）	交流活動（フラットスタンレープロジェクト）
9	児童文学に関する基礎的な知識（2）	絵本（Unit9）
10	英語に関する基礎的な知識（3）	発音と文字の綴り、正書法（Unit6）
11	英語に関する基礎的な知識（4）	文法・文構造（Unit7）
12	第二言語習得に関する基本的な知識（2）	第二言語習得理論の実践への応用（Unit12）、CLIL（Unit14）
13	4技能統合型活動（1）	活動の計画と準備、クラスルームイングリッシュ、Small Talk
14	4技能統合型活動（2）	発表評価、ディスカッション
15		
16		

科目コード	22206				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	初等国語 [FE2621組用]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義 グ ループワ ーク 演 習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、小学校国語科の基礎となる「言語の理解」「子どもの言語発達」「教材理解」を中心に学ぶ。言語活動の本質や教材の読み方を体験的に理解することを重視する。授業はアクティブラーニングを取り入れ、グループワーク・ペアワーク・教材分析などの協働的学習を通して、国語科の学びの本質を理解する。2年次の「国語科指導法」で授業づくりを行うための基礎を形成する。

<授業の到達目標>

①言語の役割と学習指導要領の言語観を説明できる。②子どもの言語発達を理解し、国語科の学習内容と関連づけられる。③教材を多面的に読み取り、他者と協働して読みを深められる。④読む・書く・話す・聞くの学習内容を基礎的に理解できる。⑤2年次「国語科指導法」で必要となる教材理解の基礎を身につける。

<授業の方法>

① 100分授業の中で、講義と演習（グループワーク・ペアワーク・対話活動・教材分析など）を組み合わせ、理解と実践を往還させる。② 毎回の授業の最後に、原稿用紙に手書きで振り返りを書くことで、学びを言語化し定着を図る。③ 毎回数名ずつ、口頭で感想や学びを発表する時間を設け、表現力・傾聴力・対話力を育成する。④ 漢字やひらがなの正しい筆順を確認し、実際に書く活動を通して書写の基礎技能を身につける。⑤ 授業外での読書課題を課し、読書経験を広げるとともに、授業内容との関連を考察する力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク、ペアワーク、対話的活動、教材分析、ロールプレイなどを取り入れ、学生同士の協働を通して学びを深める。学生が主体的に考え、表現し、共有する学習過程を重視する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習（予習）】（1時間） ①各回のテーマに関連する教材や資料を事前に読み、授業で扱う内容の基礎的理解を準備する。②読書課題に取り組み、感じたことや疑問点を簡単にメモしておく。 ③必要に応じて、小学校国語科の教科書や学習指導要領を確認し、授業で扱う内容の背景知識を整える。【事後学習（復習）】（1時間） ①授業内で扱った教材や活動内容を再度読み返し、グループワークや口頭発表で得た他者の視点を踏まえて考察を深める。 ②筆順の練習や書写の復習を行い、書く技能を定着させる。③次の授業に向けて、読書課題や

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 授業への取り組み姿勢（授業態度） 20％・グループワークやペアワークへの参加 ・口頭発表への積極性 ・協働的な学びに向かう姿勢② 毎回の手書き振り返り 20％・学びの整理や気づきの深さ ・継続的な取り組み③ 読書課題レポート 20％・課題図書理解 ・授業内容との関連づけ④ 教材分析レポート 30％・説明文・文学的文章の分析 ・視点の多様性 ・授業で扱った理論の活用⑤ ノート（授業記録）の整理状況 10％・授業内容の要点整理 ・板書や活動内容の記録 ・自分なりの学びのまとめ方

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初等国語とは何か	国語科教育の目的と内容、1年次の学び、2年次との接続。これまで学んできた国語科教育の共有。
2	言語とは何か（一般意味論）	言語が記号であることを理解し、同じ言葉でも受け取り方が異なる理由を考える。子どもの読みの違いや意味づけの多様性を国語科の学習と関連づけて捉える。
3	学習指導要領における言語能力	学習指導要領の国語科目目標を読み取り、言語能力（話す・聞く・読む・書く）の構成を理解する。言語活動の種類と役割を確認し、初等国語で求められる学びの姿を具体的に捉える。小学校の国語科教科書の例を参照しながら、言語能力がどのように育成されるかを考える。
4	話すこと・聞くことの学習	学習指導要領に示される「話すこと・聞くこと」の目標と内容を理解する。説明・報告・話し合いなどの言語活動の特徴を整理し、小学校国語科で求められる指導のポイントを学ぶ。短い話し合い活動を体験し、児童のつまづきや支援の視点を考える。

5	読書指導	る。 読書の意義と読書活動の種類を理解する。読み聞かせの役割と効果を学び、児童が本に親しみやすくなる指導の工夫を考える。国語教科書の本の紹介や読書記録の活用など、児童の読書を支える方法を整理する。
6	「読むこと」（文学的文章）の学習指導	登場人物・情景・心情の読み取り。物語の構造。読みの交流ワーク。
7	「読むこと」文学的文章（詩）の学習指導	詩の言葉と論理の言葉のちがひ。音・リズム・イメージ。表現の効果。詩の授業について考えます。
8	「読むこと」説明的文章の学習指導	要点把握、段落構成。説明文教材の構造化。グループ分析。
9	「書くこと」の学習指導 1	書く目的、論理的に書く指導について。
10	「書くこと」の指導 2	論理的に書く指導の評価について
11	教材研究の重要性と実践的な進め方	・教材研究の方法（教科書の活用・副教材の選定）・単元構成と発問の工夫・教材研究の事例分析
12	伝統的な言語文化に関する学習指導	・伝統的な言語文化とは 伝統的な言語文化の指導の工夫
13	読み聞かせと多様な読書活動の推進	・読み聞かせの効果と技術
14	情報の扱い方に関する学習指導	各学年の「情報の扱い方」に関する事項の指導
15		
16		

科目コード	22206				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	初等国語 [FE2622組用]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義 グ ループワ ーク 演 習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、小学校国語科の基礎となる「言語の理解」「子どもの言語発達」「教材理解」を中心に学ぶ。言語活動の本質や教材の読み方を体験的に理解することを重視する。授業はアクティブラーニングを取り入れ、グループワーク・ペアワーク・教材分析などの協働的学習を通して、国語科の学びの本質を理解する。2年次の「国語科指導法」で授業づくりを行うための基礎を形成する。

<授業の到達目標>

①言語の役割と学習指導要領の言語観を説明できる。②子どもの言語発達を理解し、国語科の学習内容と関連づけられる。③教材を多面的に読み取り、他者と協働して読みを深められる。④読む・書く・話す・聞くの学習内容を基礎的に理解できる。⑤2年次「国語科指導法」で必要となる教材理解の基礎を身につける。

<授業の方法>

① 100分授業の中で、講義と演習（グループワーク・ペアワーク・対話活動・教材分析など）を組み合わせ、理解と実践を往還させる。② 毎回の授業の最後に、原稿用紙に手書きで振り返りを書くことで、学びを言語化し定着を図る。③ 毎回数名ずつ、口頭で感想や学びを発表する時間を設け、表現力・傾聴力・対話力を育成する。④ 漢字やひらがなの正しい筆順を確認し、実際に書く活動を通して書写の基礎技能を身につける。⑤ 授業外での読書課題を課し、読書経験を広げるとともに、授業内容との関連を考察する力を養う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク、ペアワーク、対話的活動、教材分析、ロールプレイなどを取り入れ、学生同士の協働を通して学びを深める。学生が主体的に考え、表現し、共有する学習過程を重視する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習（予習）】（1時間） ①各回のテーマに関連する教材や資料を事前に読み、授業で扱う内容の基礎的理解を準備する。②読書課題に取り組み、感じたことや疑問点を簡単にメモしておく。 ③必要に応じて、小学校国語科の教科書や学習指導要領を確認し、授業で扱う内容の背景知識を整える。【事後学習（復習）】（1時間） ①授業内で扱った教材や活動内容を再度読み返し、グループワークや口頭発表で得た他者の視点を踏まえて考察を深める。 ②筆順の練習や書写の復習を行い、書く技能を定着させる。③次の授業に向けて、読書課題や

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 授業への取り組み姿勢（授業態度） 20％・グループワークやペアワークへの参加 ・口頭発表への積極性 ・協働的な学びに向かう姿勢② 毎回の手書き振り返り 20％・学びの整理や気づきの深さ ・継続的な取り組み③ 読書課題レポート 20％・課題図書理解 ・授業内容との関連づけ④ 教材分析レポート 30％・説明文・文学的文章の分析 ・視点の多様性 ・授業で扱った理論の活用⑤ ノート（授業記録）の整理状況 10％・授業内容の要点整理 ・板書や活動内容の記録 ・自分なりの学びのまとめ方

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	初等国語とは何か	国語科教育の目的と内容、1年次の学び、2年次との接続。これまで学んできた国語科教育の共有。
2	言語とは何か（一般意味論）	言語が記号であることを理解し、同じ言葉でも受け取り方が異なる理由を考える。子どもの読みの違いや意味づけの多様性を国語科の学習と関連づけて捉える。
3	学習指導要領における言語能力	学習指導要領の国語科目目標を読み取り、言語能力（話す・聞く・読む・書く）の構成を理解する。言語活動の種類と役割を確認し、初等国語で求められる学びの姿を具体的に捉える。小学校の国語科教科書の例を参照しながら、言語能力がどのように育成されるかを考える。
4	話すこと・聞くことの学習	学習指導要領に示される「話すこと・聞くこと」の目標と内容を理解する。説明・報告・話し合いなどの言語活動の特徴を整理し、小学校国語科で求められる指導のポイントを学ぶ。短い話し合い活動を体験し、児童のつまづきや支援の視点を考える。

5	読書指導	る。 読書の意義と読書活動の種類を理解する。読み聞かせの役割と効果を学び、児童が本に親しみやすくなる指導の工夫を考える。国語教科書の本の紹介や読書記録の活用など、児童の読書を支える方法を整理する。
6	「読むこと」（文学的文章）の学習指導	登場人物・情景・心情の読み取り。物語の構造。読みの交流ワーク。
7	「読むこと」文学的文章（詩）の学習指導	詩の言葉と論理の言葉のちがひ。音・リズム・イメージ。表現の効果。詩の授業について考えます。
8	「読むこと」説明的文章の学習指導	要点把握、段落構成。説明文教材の構造化。グループ分析。
9	「書くこと」の学習指導 1	書く目的、論理的に書く指導について。
10	「書くこと」の指導 2	論理的に書く指導の評価について
11	教材研究の重要性と実践的な進め方	・教材研究の方法（教科書の活用・副教材の選定）・単元構成と発問の工夫・教材研究の事例分析
12	伝統的な言語文化に関する学習指導	・伝統的な言語文化とは 伝統的な言語文化の指導の工夫
13	読み聞かせと多様な読書活動の推進	・読み聞かせの効果と技術
14	情報の扱い方に関する学習指導	各学年の「情報の扱い方」に関する事項の指導
15		
16		

科目コード	22209				区 分	コア科目			
授業科目名	初等理科 [FE2631組用]				担当者名	川村 康文			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。1班約4人でグループを組んでもらいます。授業では、先生役の班と、先生役ではない班は、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。オンラインの授業の日と対面の授業の日があります。この授業では、楽しく理科実験指導ができる実験名人になれるよう、持ち時間15分程度の実験指導だけの模擬授業をしてもらいます。実験をみなさんと楽しく共有できること

<授業の到達目標>

1. 実験をみなさんと楽しく共有できる。
2. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。
3. 毎模擬授業の振り返りを行うことで、授業力の向上をめざす。

<授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自主的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。
2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。
3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。
4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく、先生役として模擬授業を担当したり、評価者役を担当します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習各時間とも、模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は、必ず、教科書を良く読み、事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより、当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。児童役を担当する受講生のみなさんは、模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書を60分程度時間をかけて読み込んで来て、授業に参加してください。オンデマンドの授業の場合は、教科書の内容を60分程度時間をかけて読み込んでから、オ

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点・課題提出・模擬授業を含む）60%、振り返り（レフレクション）40%等で評価する。

<教科書>

川村 康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

川村康文、前田譲治、小林尚美（2021） はじめてみようSTEAM教育—小学生からの実験とプログラミング— オーム社

<参考書>

文部科学省（2018.2.10） 小学校学習指導要領 https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	対面4月9日14日オリエンテーション座席決定・班分けこれからの理科授業を考えるために—STEAM教育って何？（教科書）	対面4月9日14日4人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか話し合っ、まとめたものを発表してもらいます。ルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。板書は、振り返りが終わるまで消さない。担当が終わったあとは、板書を消したり、実験機の跡片付けまできちんと行う（平常点のなかです）。
2	オンデマンド4月16日21日2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？—幼小の授業の連携を考えながら—	オンデマンド4月16日21日幼小の授業の連携を考えるうえで、教科書「はじめてみようSTEAM教育」の幼児教育についてまとめ、小学校の理数の授業にどのようにつないでいくかを、あなたなら、これからの理科授業をどのようにしていきたいか？A4用紙1枚程度にまとめて、写メかスキャナーで撮影したものを提出して下さい。
3	対面4月23日28日4人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか話し合っ、まとめたものを発表してもらいます。各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュール表を作成します。これを	対面4月23日28日各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュール表を作成し、この静止画を各自アップしてください。

	各自、アップしてもらいます。模擬授業のルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。	
4	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「4. 水がこぼれないコップの実験 (pp. 44-45)」	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「4. 水がこぼれないコップの実験 (pp. 44-45)」を行って、下敷きの静止画とガーゼの静止画2枚を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
5	対面 5月7日12日教科書の実験「41. 分光つつの実験 (pp. 112-113)」	対面 5月7日12日教科書の実験「41. 分光つつの実験 (pp. 112-113)」を行って、分光つつで撮影したスペクトルの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
6	オンデマンド 5月14日19日教科書の実験「15. 風船ロケットの実験 (pp. 66-67) +飛行リング」	オンデマンド 5月14日19日 教科書の実験「15. 風船ロケットの実験 (pp. 66-67) +飛行リング」を行って、自分が作成した風船ロケットの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
7	対面5月21日26日教科書の実験 「31. 弦楽器をつくろう (pp. 92-93)」	対面5月21日26日教科書の実験 「31. 弦楽器をつくろう (pp. 92-93)」を行って、自分が作成した弦楽器の動画(4秒以内程度)を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
8	対面 6月2日4日教科書の実験 「78. スライム (pp. 188-189)」	対面 6月2日4日教科書の実験 「78. スライム (pp. 188-189)」を行って、自分が作成したスライムの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
9	オンデマンド 6月9日11日教科書の実験「43. ペーパークロマトグラフィー」(p. 116)	オンデマンド 6月9日11日教科書の実験「43. ペーパークロマトグラフィー」(p. 116)を行って、自分が行ったペーパークロマトグラフィーの結果の静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
10	対面 6月16日18日教科書の実験「47. 紫イモで酸性・アルカリ性」(pp. 122-123) (ただし、内容は46の実験を行う)	対面 6月16日18日教科書の実験「47. 紫イモで酸性・アルカリ性」(pp. 122-123) (ただし、内容は46の実験を行う)を行って、自分が行った酸性・アルカリ性の実験結果の静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
11	オンデマンド 6月23日25日教科書の実験「30. 共振・長周期の実験」(pp. 90-91)	オンデマンド 6月23日25日教科書の実験「30. 共振・長周期の実験」(pp. 90-91)を行って、自分が作成した共振・長周期振動の実験の動画(4秒以内程度)を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
12	対面6月30日7月2日教科書の実験「35. ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp. 100-101)	対面6月30日7月2日教科書の実験「35. ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp. 100-101)を行って、自分で撮影した顕微鏡写真を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
13	オンデマンド 7月7日9日 Scratch で、プログラミングをしてみよう！自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班や友人とチームを組み、何ができたかを、動画で撮影し、数十秒の短い動画を、各個人が一人ずつ提出して下さい。	オンデマンド 7月7日9日 STEAM教育の教科書をみて、Scratch で、プログラミングをしてみましょう。自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班や友人とチームを組み、何ができたかを、動画で撮影し、数十秒の短い動画を、各個人が一人ずつ提出して下さい。
14	対面 7月14日16日 リフレクション・まとめ	対面 7月14日16日全体のふりかえりを行います。
15		
16		

科目コード	22209				区 分	コア科目			
授業科目名	初等理科 [FE2632組用]				担当者名	川村 康文			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。1班約4人でグループを組んでもらいます。授業では、先生役の班と、先生役ではない班は、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。オンラインの授業の日と対面の授業の日があります。この授業では、楽しく理科実験指導ができる実験名人になれるよう、持ち時間15分程度の実験指導だけの模擬授業をしてもらいます。実験をみなさんと楽しく共有できること

<授業の到達目標>

1. 実験をみなさんと楽しく共有できる。
2. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。
3. 毎模擬授業の振り返りを行うことで、授業力の向上をめざす。

<授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自主的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。
2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。
3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。
4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく、先生役として模擬授業を担当したり、評価者役を担当します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習各時間とも、模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は、必ず、教科書を良く読み、事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより、当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。児童役を担当する受講生のみなさんは、模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書を60分程度時間をかけて読み込んで来て、授業に参加してください。オンデマンドの授業の場合は、教科書の内容を60分程度時間をかけて読み込んでから、オ

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点・課題提出・模擬授業を含む）60%、振り返り（レフレクション）40%等で評価する。

<教科書>

川村 康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

川村康文、前田譲治、小林尚美（2021） はじめてみようSTEAM教育—小学生からの実験とプログラミング— オーム社

<参考書>

文部科学省（2018.2.10） 小学校学習指導要領 https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	対面4月9日14日オリエンテーション座席決定・班分けこれからの理科授業を考えるために—STEAM教育って何？（教科書）	対面4月9日14日4人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか話し合っ、まとめたものを発表してもらいます。ルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。板書は、振り返りが終わるまで消さない。担当が終わったあとは、板書を消したり、実験機の跡片付けまできちんと行う（平常点のなかです）。
2	オンデマンド4月16日21日2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？—幼小の授業の連携を考えながら—	オンデマンド4月16日21日幼小の授業の連携を考えるうえで、教科書「はじめてみようSTEAM教育」の幼児教育についてまとめ、小学校の理数の授業にどのようにつないでいくかを、あなたなら、これからの理科授業をどのようにしていきたいか？A4用紙1枚程度にまとめて、写メかスキャナーで撮影したものを提出して下さい。
3	対面4月23日28日4人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか話し合っ、まとめたものを発表してもらいます。各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュール表を作成します。これを	対面4月23日28日各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュール表を作成し、この静止画を各自アップしてください。

	各自、アップしてもらいます。模擬授業のルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。	
4	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「4. 水がこぼれないコップの実験 (pp. 44-45)」	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「4. 水がこぼれないコップの実験 (pp. 44-45)」を行って、下敷きの静止画とガーゼの静止画2枚を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
5	対面 5月7日12日教科書の実験「41. 分光つつの実験 (pp. 112-113)」	対面 5月7日12日教科書の実験「41. 分光つつの実験 (pp. 112-113)」を行って、分光つつで撮影したスペクトルの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
6	オンデマンド 5月14日19日教科書の実験「15. 風船ロケットの実験 (pp. 66-67) +飛行リング」	オンデマンド 5月14日19日 教科書の実験「15. 風船ロケットの実験 (pp. 66-67) +飛行リング」を行って、自分が作成した風船ロケットの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
7	対面5月21日26日教科書の実験 「31. 弦楽器をつくろう (pp. 92-93)」	対面5月21日26日教科書の実験 「31. 弦楽器をつくろう (pp. 92-93)」を行って、自分が作成した弦楽器の動画(4秒以内程度)を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
8	対面 6月2日4日教科書の実験 「78. スライム (pp. 188-189)」	対面 6月2日4日教科書の実験 「78. スライム (pp. 188-189)」を行って、自分が作成したスライムの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
9	オンデマンド 6月9日11日教科書の実験「43. ペーパークロマトグラフィー」(p. 116)	オンデマンド 6月9日11日教科書の実験「43. ペーパークロマトグラフィー」(p. 116)を行って、自分が行ったペーパークロマトグラフィーの結果の静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
10	対面 6月16日18日教科書の実験「47. 紫イモで酸性・アルカリ性」(pp. 122-123)(ただし、内容は46の実験を行う)	対面 6月16日18日教科書の実験「47. 紫イモで酸性・アルカリ性」(pp. 122-123)(ただし、内容は46の実験を行う)を行って、自分が行った酸性・アルカリ性の実験結果の静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
11	オンデマンド 6月23日25日教科書の実験「30. 共振・長周期の実験」(pp. 90-91)	オンデマンド 6月23日25日教科書の実験「30. 共振・長周期の実験」(pp. 90-91)を行って、自分が作成した共振・長周期振動の実験の動画(4秒以内程度)を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
12	対面6月30日7月2日教科書の実験「35. ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp. 100-101)	対面6月30日7月2日教科書の実験「35. ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp. 100-101)を行って、自分で撮影した顕微鏡写真を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
13	オンデマンド 7月7日9日Scratchで、プログラミングをしてみよう！自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班や友人とチームを組み、何ができたかを、動画で撮影し、数十秒の短い動画を、各個人が一人ずつ提出して下さい。	オンデマンド 7月7日9日STEAM教育の教科書をみて、Scratchで、プログラミングをしてみましょう。自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班や友人とチームを組み、何ができたかを、動画で撮影し、数十秒の短い動画を、各個人が一人ずつ提出して下さい。
14	対面 7月14日16日 リフレクション・まとめ	対面 7月14日16日全体のふりかえりを行います。
15		
16		

科目コード	22209				区 分	コア科目			
授業科目名	初等理科 [FE2633組用]				担当者名	川村 康文			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。1班約4人でグループを組んでもらいます。授業では、先生役の班と、先生役ではない班は、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。オンラインの授業の日と対面の授業の日があります。この授業では、楽しく理科実験指導ができる実験名人になれるよう、持ち時間15分程度の実験指導だけの模擬授業をしてもらいます。実験をみなさんと楽しく共有できること

<授業の到達目標>

1. 実験をみなさんと楽しく共有できる。
2. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。
3. 毎模擬授業の振り返りを行うことで、授業力の向上をめざす。

<授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自主的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。
2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。
3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。
4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく、先生役として模擬授業を担当したり、評価者役を担当します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習各時間とも、模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は、必ず、教科書を良く読み、事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより、当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。児童役を担当する受講生のみなさんは、模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書を60分程度時間をかけて読み込んで来て、授業に参加してください。オンデマンドの授業の場合は、教科書の内容を60分程度時間をかけて読み込んでから、オ

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点・課題提出・模擬授業を含む）60%、振り返り（レフレクション）40%等で評価する。

<教科書>

川村 康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

川村康文、前田譲治、小林尚美（2021） はじめてみようSTEAM教育—小学生からの実験とプログラミング— オーム社

<参考書>

文部科学省(2018.2.10) 小学校学習指導要領 https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	対面4月9日14日オリエンテーション座席決定・班分けこれからの理科授業を考えるために—STEAM教育って何？（教科書）	対面4月9日14日4人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか話し合っ、まとめたものを発表してもらいます。ルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。板書は、振り返りが終わるまで消さない。担当が終わったあとは、板書を消したり、実験機の跡片付けまできちんと行う（平常点のなかです）。
2	オンデマンド4月16日21日2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？—幼小の授業の連携を考えながら—	オンデマンド4月16日21日幼小の授業の連携を考えるうえで、教科書「はじめてみようSTEAM教育」の幼児教育についてまとめ、小学校の理数の授業にどのようにつないでいくかを、あなたなら、これからの理科授業をどのようにしていきたいか？A4用紙1枚程度にまとめて、写メかスキャナーで撮影したものを提出して下さい。
3	対面4月23日28日4人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか話し合っ、まとめたものを発表してもらいます。各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュール表を作成します。これを	対面4月23日28日各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュール表を作成し、この静止画を各自アップしてください。

	各自、アップしてもらいます。模擬授業のルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。	
4	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「4. 水がこぼれないコップの実験 (pp. 44-45)」	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「4. 水がこぼれないコップの実験 (pp. 44-45)」を行って、下敷きの静止画とガーゼの静止画2枚を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
5	対面 5月7日12日教科書の実験「41. 分光つつの実験 (pp. 112-113)」	対面 5月7日12日教科書の実験「41. 分光つつの実験 (pp. 112-113)」を行って、分光つつで撮影したスペクトルの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
6	オンデマンド 5月14日19日教科書の実験「15. 風船ロケットの実験 (pp. 66-67) +飛行リング」	オンデマンド 5月14日19日 教科書の実験「15. 風船ロケットの実験 (pp. 66-67) +飛行リング」を行って、自分が作成した風船ロケットの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
7	対面5月21日26日教科書の実験 「31. 弦楽器をつくろう (pp. 92-93)」	対面5月21日26日教科書の実験 「31. 弦楽器をつくろう (pp. 92-93)」を行って、自分が作成した弦楽器の動画(4秒以内程度)を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
8	対面 6月2日4日教科書の実験 「78. スライム (pp. 188-189)」	対面 6月2日4日教科書の実験 「78. スライム (pp. 188-189)」を行って、自分が作成したスライムの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
9	オンデマンド 6月9日11日教科書の実験「43. ペーパークロマトグラフィー」(p. 116)	オンデマンド 6月9日11日教科書の実験「43. ペーパークロマトグラフィー」(p. 116)を行って、自分が行ったペーパークロマトグラフィーの結果の静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
10	対面 6月16日18日教科書の実験「47. 紫イモで酸性・アルカリ性」(pp. 122-123) (ただし、内容は46の実験を行う)	対面 6月16日18日教科書の実験「47. 紫イモで酸性・アルカリ性」(pp. 122-123) (ただし、内容は46の実験を行う)を行って、自分が行った酸性・アルカリ性の実験結果の静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
11	オンデマンド 6月23日25日教科書の実験「30. 共振・長周期の実験」(pp. 90-91)	オンデマンド 6月23日25日教科書の実験「30. 共振・長周期の実験」(pp. 90-91)を行って、自分が作成した共振・長周期振動の実験の動画(4秒以内程度)を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
12	対面6月30日7月2日教科書の実験「35. ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp. 100-101)	対面6月30日7月2日教科書の実験「35. ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp. 100-101)を行って、自分で撮影した顕微鏡写真を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
13	オンデマンド 7月7日9日 Scratch で、プログラミングをしてみよう！自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班や友人とチームを組み、何ができたかを、動画で撮影し、数十秒の短い動画を、各個人が一人ずつ提出して下さい。	オンデマンド 7月7日9日 STEAM教育の教科書をみて、Scratch で、プログラミングをしてみましょう。自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班や友人とチームを組み、何ができたかを、動画で撮影し、数十秒の短い動画を、各個人が一人ずつ提出して下さい。
14	対面 7月14日16日 リフレクション・まとめ	対面 7月14日16日全体のふりかえりを行います。
15		
16		

科目コード	22209				区 分	コア科目			
授業科目名	初等理科【他学科】				担当者名	川村 康文			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。1班約4人でグループを組んでもらいます。授業では、先生役の班と、先生役ではない班は、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。オンラインの授業の日と対面の授業の日があります。この授業では、楽しく理科実験指導ができる実験名人になれるよう、持ち時間15分程度の実験指導だけの模擬授業をしてもらいます。実験をみなさんと楽しく共有できること

<授業の到達目標>

1. 実験をみなさんと楽しく共有できる。
2. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。
3. 毎模擬授業の振り返りを行うことで、授業力の向上をめざす。

<授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自主的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。
2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。
3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。
4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役あわせて評価者役を行って頂きます

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく、先生役として模擬授業を担当したり、評価者役を担当します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習各時間とも、模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は、必ず、教科書を良く読み、事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより、当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。児童役を担当する受講生のみなさんは、模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書を60分程度時間をかけて読み込んで来て、授業に参加してください。オンデマンドの授業の場合は、教科書の内容を60分程度時間をかけて読み込んでから、オ

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（平常点・課題提出・模擬授業を含む）60%、振り返り（レフレクション）40%等で評価する。

<教科書>

川村 康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

川村康文、前田譲治、小林尚美（2021） はじめてみようSTEAM教育—小学生からの実験とプログラミング— オーム社

<参考書>

文部科学省(2018.2.10) 小学校学習指導要領 https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	対面4月9日14日オリエンテーション座席決定・班分けこれからの理科授業を考えるために—STEAM教育って何？（教科書）	対面4月9日14日4人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか話し合っ、まとめたものを発表してもらいます。ルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。板書は、振り返りが終わるまで消さない。担当が終わったあとは、板書を消したり、実験機の跡片付けまできちんと行う（平常点のなかです）。
2	オンデマンド4月16日21日2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？—幼小の授業の連携を考えながら—	オンデマンド4月16日21日幼小の授業の連携を考えるうえで、教科書「はじめてみようSTEAM教育」の幼児教育についてまとめ、小学校の理数の授業にどのようにつないでいくかを、あなたなら、これからの理科授業をどのようにしていきたいか？A4用紙1枚程度にまとめて、写メかスキャナーで撮影したものを提出して下さい。
3	対面4月23日28日4人程度でひとつの班をくみます。各班で、どのような理科授業をしたいか話し合っ、まとめたものを発表してもらいます。各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュール表を作成します。これを	対面4月23日28日各班で、どの実験をするかを話し合っ、このクラス全体のスケジュール表を作成し、この静止画を各自アップしてください。

	各自、アップしてもらいます。模擬授業のルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。	
4	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「4. 水がこぼれないコップの実験 (pp. 44-45)」	オンデマンド4月30日5月5日教科書の実験「4. 水がこぼれないコップの実験 (pp. 44-45)」を行って、下敷きの静止画とガーゼの静止画2枚を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
5	対面 5月7日12日教科書の実験「41. 分光つつの実験 (pp. 112-113)」	対面 5月7日12日教科書の実験「41. 分光つつの実験 (pp. 112-113)」を行って、分光つつで撮影したスペクトルの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
6	オンデマンド 5月14日19日教科書の実験「15. 風船ロケットの実験 (pp. 66-67) +飛行リング」	オンデマンド 5月14日19日 教科書の実験「15. 風船ロケットの実験 (pp. 66-67) +飛行リング」を行って、自分が作成した風船ロケットの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
7	対面5月21日16日教科書の実験 「31. 弦楽器をつくろう (pp. 92-93)」	対面5月21日16日教科書の実験 「31. 弦楽器をつくろう (pp. 92-93)」を行って、自分が作成した弦楽器の動画(4秒以内程度)を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
8	対面 6月2日4日教科書の実験 「78. スライム (pp. 188-189)」	対面 6月2日4日教科書の実験 「78. スライム (pp. 188-189)」を行って、自分が作成したスライムの静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
9	オンデマンド 6月9日11日教科書の実験「43. ペーパークロマトグラフィー」(p. 116)	オンデマンド 6月9日11日教科書の実験「43. ペーパークロマトグラフィー」(p. 116)を行って、自分が行ったペーパークロマトグラフィーの結果の静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
10	対面 6月16日18日教科書の実験「47. 紫イモで酸性・アルカリ性」(pp. 122-123)(ただし、内容は46の実験を行う)	対面 6月16日18日教科書の実験「47. 紫イモで酸性・アルカリ性」(pp. 122-123)(ただし、内容は46の実験を行う)を行って、自分が行った酸性・アルカリ性の実験結果の静止画を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
11	オンデマンド 6月23日25日教科書の実験「30. 共振・長周期の実験」(pp. 90-91)	オンデマンド 6月23日25日教科書の実験「30. 共振・長周期の実験」(pp. 90-91)を行って、自分が作成した共振・長周期振動の実験の動画(4秒以内程度)を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
12	対面6月30日7月2日教科書の実験「35. ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp. 100-101)	対面6月30日7月2日教科書の実験「35. ペットボトル顕微鏡をつくろう」(pp. 100-101)を行って、自分で撮影した顕微鏡写真を、各自、アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
13	オンデマンド 7月7日9日Scratchで、プログラミングをしてみよう！自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班や友人とチームを組み、何ができたかを、動画で撮影し、数十秒の短い動画を、各個人が一人ずつ提出して下さい。	オンデマンド 7月7日9日STEAM教育の教科書をみて、Scratchで、プログラミングをしてみましょう。自分たちで自立的に学びを進めて下さい。簡単なプログラムでいいので、班や友人とチームを組み、何ができたかを、動画で撮影し、数十秒の短い動画を、各個人が一人ずつ提出して下さい。
14	対面 7月14日16日 リフレクション・まとめ	対面 7月14日16日全体のふりかえりを行います。
15		
16		

科目コード	27101				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	生理学 I [PH2025年度以降入学生]				担当者名	佐藤 良子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生理学では人体の役割と機能について学ぶ。人体の正常な構造と機能を知っていることは、将来人体に関わる仕事に就く者にとって大切なことである。生理学 I では、生理学 I では、まず生命の基本単位である細胞とその細胞を構成する物質について学ぶ。つぎに生体のエネルギーとなるATPについて学ぶ。その後生命を活用する動物的機能－外界の刺激に対応する神経、筋肉、運動について学ぶ。

<授業の到達目標>

人体のすべての組織は細胞からできており、その普遍性について理解する。神経や筋肉など、個々の組織のはたらきを知ると同時に、組織は違えど共通するはたらきが多くあることを理解する。柔道整復師国家試験問題についてただ正しいものを選択できるようになるのではなく、「なぜ正しいか／どこが誤っているか、誤っているなら正しい答えはなにか」について理解して答えられるようになるのが目標である。

<授業の方法>

教科書に沿って講義を行うが、理解しやすいように順番は若干前後することがある。また、理解を深めるために、図を多く入れたプリントを配布する。教科書の記載では説明が省略されている項目があるが、生理学の理解のために必要な項目については補足講義する。当日の講義の内容に関連する柔道整復師国家試験の生理学分野の過去問題についての解説も入れる。講義の終わりに、その日の講義内容の確認の課題を解答し、提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習としては教科書の次回授業範囲を一通り読んでおく（約15分）。復習は毎回行う課題および国家試験問題を中心に行う（約30分）。人体の機能には、拮抗するもの（逆のはたらきをするもの）が多くあるため、小テストの設問と逆の機能についても考えるようにすると、1つの問題から多くのことを学ぶことができる。また、国家試験問題は正しい答えを求めるだけでなく、残りの選択肢が示すものはなにであるかについて考えるとよい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出 15%、定期試験 80%、授業態度 5%。課題の解答は講義の次々回に行うほか、まとめの回で再度確認する。

<教科書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 彼末一之編集 生理学 改定第4版 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	生理学とは(1)、栄養と代謝(1)	細胞を構成する物質
2	生理学とは(2)	細胞の基本構造－細胞内小器官とDNA－
3	生理学とは(3)	細胞の基本構造－転写と翻訳、細胞膜－
4	生理学とは(4)、栄養と代謝(2)	体液、生体に必要な栄養素、エネルギー代謝
5	栄養と代謝(3)	細胞呼吸、酵素
6	栄養と代謝(4)	栄養素の代謝、食物と栄養
7	神経の生理(1)	静止電位と活動電位
8	神経の生理(2)、筋の生理(1)	シナプス、骨格筋の構造
9	筋の生理(2)	筋収縮、筋収縮とATP
10	筋の生理(3)、神経の生理(3)	心筋、平滑筋、脳神経と脊髄神経
11	神経の生理(4)、運動の生理(1)	中枢の概略、運動に関する中枢
12	運動の生理(2)	筋紡錘、脊髄反射
13	運動の生理(3)	筋電図、脊髄路
14	まとめ	生理学Iの講義内容について確認する
15		
16		

科目コード	53096				区 分	コア科目			
授業 科目名	総合表現概論				担当者名	四宮 貴久／渡邊 亮／小澤 尚子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

プロデュース、脚本、演出等の専門家による講義を通じて、表現に関わる多様な知識を広げるとともに、見識を深める。あわせて、自らのアイデアを他者に的確に伝えるための基礎的な文章構成力を養い、企画立案および実践への導入を図る。

<授業の到達目標>

1. 各専門家からの講義を理解している。2. 表現活動に関する多様な視点を踏まえ、自らの考えを整理し、見識を深めることができる。3. 自らのアイデアを他者に的確に伝えるための基礎的な文章構成力を身につけている。4. 基礎的な企画を立案し、その内容を他者に説明・共有することができる。

<授業の方法>

講義（専門）家による知識提供）ディスカッション（意見交換・見識の深化）グループワーク（表現活動の体験）ライティング演習（文章構成力の育成）企画立案演習（アイデアの具体化）発表と講評（フィードバックによる改善）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ディスカッション、グループワーク、発表

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：ゲスト講師についての下調べ 1時間 復習：課題 2時間、授業のまとめ1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（意欲・関心度）50％、課題準備等30％、発表20％

<教科書>

特にテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布します。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明
2	プロデュース①	プロデュースの概念を知る
3	脚本①	脚本の書き方の基礎に触れる。
4	オンデマンド	既存の作品を分析する。
5	俳優という仕事とグローバル化	俳優としての表現と、国際的な視野を広げる。
6	脚本②	脚本①で得たものを応用し、脚本の書き方およびアイデアを言語化することに取り組む。
7	プロデュース②	プロデュース①で得た基礎概念を応用し、プロデュース③での発表に向けて準備を始める。
8	空間デザイン	舞台美術を軸として空間表現について学ぶ。
9	エンターテインメント	ダンスを軸としたエンターテインメントについて知る。
10	音楽と感情	音楽の効果と感情表現について考える。
11	演劇による社会実装	社会課題と結びついた演劇のあり方について考える。
12	学校における演劇の実践	学校教育における演劇の活用について知る。
13	プロデュース③	プロデュース①②を経て、発表を行う。
14	振り返り	本授業での振り返りを行う。また、獲得した知識からどんな発想が育まれたかについて考える。
15		
16		

科目コード	61015				区 分	コア科目			
授業科目名	体育方法学・実習 [PP2631組用]				担当者名	久田 孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義・演習・実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業、体育方法学は運動や体育を「知る」という観点から指導法・教授法を扱う分野であり、指導原理・学習理論・評価方法などを体系的実践的に学び、本授業で学んだ指導理論を、集団行動の実践にて検証する。集団行動では統一された動作を行う集団にて行うことにより、規律性・協調性・責任感を養い、身体操作能力および対人関係能力の向上を目的とする。基本動作（姿勢・方向転換・行進）から始め、段階的に隊形変化や集団演技へと発展させる。さらに、グループ単位での創作活動を取り入れることで、主体性やリーダーシップ、課題解決能力の育成を

<授業の到達目標>

・集団内での規律と統率力を理解する・正確な身体操作と動作の一致を身につける・リーダーシップとフォロワーシップを養う・集団での表現力・達成感を体験する

<授業の方法>

基礎技能の習得（教師主導）1. 教員の号令・模範動作に従い、基本姿勢・方向転換・行進などの基礎技術を反復練習する。正確性と統一性を重視し、段階的に技能を習得する。2. 反復練習とフィードバックペアや小グループで互いの動きを確認し、改善点を指摘し合う。教員からの個別指導や全体講評により、動作の精度を高める。3. 段階的課題学習基本動作の習得後、隊形変化や複合動作など、より高度な課題に取り組む。難易度を段階的に上げることで、無理なく技能向上を図る。4. グループワーク（協働学習）学生をグループに分け、集団演技の構成や練習を行う。役割分担（リーダー・サブリーダー等）を設定し、協力して課題達成を目指す。5. 創作・発表活動各グループでオリジナルの集団行動を企画・実践し、最終回に発表を行う。表現力や構成力の向上を重視する。6. 振り返り・評価毎回の授業後に簡単な振り返りを行い、学習内容の定着を図る。最終的には自己評価および相互評価を取り入れ、多面的に学習成果を確認する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有本授業では、学生の主体的・対話的で深い学びを促進するため、アクティブラーニングの手法を積極的に導入する。具体的には以下の方法で実施する。1. 協働学習（グループワーク）学生を少人数グループに編成し、集団行動の課題に共同で取り組む。隊形や動作の工夫、演技構成の検討を通して、意見交換や合意形成を行い、協調性とコミュニケーション能力を養う。2. ピアラーニング（相互学習）学生同士で動作を観察・評価し合い、改善点をフィードバックする活動を取り入れる。これにより、自他の動きを客観的に分析す

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、円滑かつ安全に実技を行うため、以下の事前準備を求める。1. 服装・用具の準備運動に適した服装（体育着・ジャージ等）を着用すること室内用運動靴を持参すること（滑りにくく、動きやすいもの）必要に応じてタオル・飲料水を準備すること2. 健康状態の管理授業前に体調を確認し、無理のない状態で参加すること持病や怪我がある場合は事前に申告すること十分な睡眠と食事を取り、運動に適した体調を整えること3. 基礎知識の予習配布資料やオンライン教材を用いて、基本姿勢や号令の種類について事前に確認する集団行動の目的（規律・

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50% 課題レポート20% 試験30%を総合的に判断する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（オリエンテーション）	授業概要説明集団行動の意義・歴史評価方法の説明
2	基本姿勢・号令の理解	気をつけ・休め号令の種類と反応練習
3	方向転換・整列	回れ右・右向け右など横隊・縦隊の基本
4	歩行動作①	行進の基本（腕振り・歩幅）リズムの統一
5	歩行動作②	隊列移動スピード変化への対応
6	動作の正確性向上	タイミングの一致ミスの修正練習
7	隊形変化①	基本的なフォーメーション変更
8	隊形変化②	複雑な移動・交差動作
9	グループ編成	小グループでの構成づくり役割分担（リーダー決定）
10	創作活動①	オリジナル隊形・動作の考案
11	創作活動②	動きの洗練・同期練習
12	発表準備	通し練習修正・改善

13	最終発表	グループごとの演技発表
14	まとめ・振り返り	講評レポート提出
15		
16		

科目コード	61015				区 分	コア科目			
授業科目名	体育方法学・実習 [PP2632組用]				担当者名	久田 孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義・演習・実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業、体育方法学は運動や体育を「知る」という観点から指導法・教授法を扱う分野であり、指導原理・学習理論・評価方法などを体系的実践的に学び、本授業で学んだ指導理論を、集団行動の実践にて検証する。集団行動では統一された動作を行う集団にて行うことにより、規律性・協調性・責任感を養い、身体操作能力および対人関係能力の向上を目的とする。基本動作（姿勢・方向転換・行進）から始め、段階的に隊形変化や集団演技へと発展させる。さらに、グループ単位での創作活動を取り入れることで、主体性やリーダーシップ、課題解決能力の育成を

<授業の到達目標>

・集団内での規律と統率力を理解する・正確な身体操作と動作の一致を身につける・リーダーシップとフォロワーシップを養う・集団での表現力・達成感を体験する

<授業の方法>

基礎技能の習得（教師主導）1. 教員の号令・模範動作に従い、基本姿勢・方向転換・行進などの基礎技術を反復練習する。正確性と統一性を重視し、段階的に技能を習得する。2. 反復練習とフィードバックペアや小グループで互いの動きを確認し、改善点を指摘し合う。教員からの個別指導や全体講評により、動作の精度を高める。3. 段階的課題学習基本動作の習得後、隊形変化や複合動作など、より高度な課題に取り組む。難易度を段階的に上げることで、無理なく技能向上を図る。4. グループワーク（協働学習）学生をグループに分け、集団演技の構成や練習を行う。役割分担（リーダー・サブリーダー等）を設定し、協力して課題達成を目指す。5. 創作・発表活動各グループでオリジナルの集団行動を企画・実践し、最終回に発表を行う。表現力や構成力の向上を重視する。6. 振り返り・評価毎回の授業後に簡単な振り返りを行い、学習内容の定着を図る。最終的には自己評価および相互評価を取り入れ、多面的に学習成果を確認する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有本授業では、学生の主体的・対話的で深い学びを促進するため、アクティブラーニングの手法を積極的に導入する。具体的には以下の方法で実施する。1. 協働学習（グループワーク）学生を少人数グループに編成し、集団行動の課題に共同で取り組む。隊形や動作の工夫、演技構成の検討を通して、意見交換や合意形成を行い、協調性とコミュニケーション能力を養う。2. ピアラーニング（相互学習）学生同士で動作を観察・評価し合い、改善点をフィードバックする活動を取り入れる。これにより、自他の動きを客観的に分析す

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、円滑かつ安全に実技を行うため、以下の事前準備を求める。1. 服装・用具の準備運動に適した服装（体育着・ジャージ等）を着用すること室内用運動靴を持参すること（滑りにくく、動きやすいもの）必要に応じてタオル・飲料水を準備すること2. 健康状態の管理授業前に体調を確認し、無理のない状態で参加すること持病や怪我がある場合は事前に申告すること十分な睡眠と食事を取り、運動に適した体調を整えること3. 基礎知識の予習配布資料やオンライン教材を用いて、基本姿勢や号令の種類について事前に確認する集団行動の目的（規律・

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50% 課題レポート20% 試験30%を総合的に判断する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（オリエンテーション）	授業概要説明集団行動の意義・歴史評価方法の説明
2	基本姿勢・号令の理解	気をつけ・休め号令の種類と反応練習
3	方向転換・整列	回れ右・右向け右など横隊・縦隊の基本
4	歩行動作①	行進の基本（腕振り・歩幅）リズムの統一
5	歩行動作②	隊列移動スピード変化への対応
6	動作の正確性向上	タイミングの一致ミスの修正練習
7	隊形変化①	基本的なフォーメーション変更
8	隊形変化②	複雑な移動・交差動作
9	グループ編成	小グループでの構成づくり役割分担（リーダー決定）
10	創作活動①	オリジナル隊形・動作の考案
11	創作活動②	動きの洗練・同期練習
12	発表準備	通し練習修正・改善

13	最終発表	グループごとの演技発表
14	まとめ・振り返り	講評レポート提出
15		
16		

科目コード	61015				区 分	コア科目			
授業科目名	体育方法学・実習 [PP2633組用]				担当者名	久田 孝			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義・演習・実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業、体育方法学は運動や体育を「知る」という観点から指導法・教授法を扱う分野であり、指導原理・学習理論・評価方法などを体系的実践的に学び、本授業で学んだ指導理論を、集団行動の実践にて検証する。集団行動では統一された動作を行う集団にて行うことにより、規律性・協調性・責任感を養い、身体操作能力および対人関係能力の向上を目的とする。基本動作（姿勢・方向転換・行進）から始め、段階的に隊形変化や集団演技へと発展させる。さらに、グループ単位での創作活動を取り入れることで、主体性やリーダーシップ、課題解決能力の育成を

<授業の到達目標>

・集団内での規律と統率力を理解する・正確な身体操作と動作の一致を身につける・リーダーシップとフォロワーシップを養う・集団での表現力・達成感を体験する

<授業の方法>

基礎技能の習得（教師主導）1. 教員の号令・模範動作に従い、基本姿勢・方向転換・行進などの基礎技術を反復練習する。正確性と統一性を重視し、段階的に技能を習得する。2. 反復練習とフィードバックペアや小グループで互いの動きを確認し、改善点を指摘し合う。教員からの個別指導や全体講評により、動作の精度を高める。3. 段階的課題学習基本動作の習得後、隊形変化や複合動作など、より高度な課題に取り組む。難易度を段階的に上げることで、無理なく技能向上を図る。4. グループワーク（協働学習）学生をグループに分け、集団演技の構成や練習を行う。役割分担（リーダー・サブリーダー等）を設定し、協力して課題達成を目指す。5. 創作・発表活動各グループでオリジナルの集団行動を企画・実践し、最終回に発表を行う。表現力や構成力の向上を重視する。6. 振り返り・評価毎回の授業後に簡単な振り返りを行い、学習内容の定着を図る。最終的には自己評価および相互評価を取り入れ、多面的に学習成果を確認する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有本授業では、学生の主体的・対話的で深い学びを促進するため、アクティブラーニングの手法を積極的に導入する。具体的には以下の方法で実施する。1. 協働学習（グループワーク）学生を少人数グループに編成し、集団行動の課題に共同で取り組む。隊形や動作の工夫、演技構成の検討を通して、意見交換や合意形成を行い、協調性とコミュニケーション能力を養う。2. ピアラーニング（相互学習）学生同士で動作を観察・評価し合い、改善点をフィードバックする活動を取り入れる。これにより、自他の動きを客観的に分析す

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、円滑かつ安全に実技を行うため、以下の事前準備を求める。1. 服装・用具の準備運動に適した服装（体育着・ジャージ等）を着用すること室内用運動靴を持参すること（滑りにくく、動きやすいもの）必要に応じてタオル・飲料水を準備すること2. 健康状態の管理授業前に体調を確認し、無理のない状態で参加すること持病や怪我がある場合は事前に申告すること十分な睡眠と食事を取り、運動に適した体調を整えること3. 基礎知識の予習配布資料やオンライン教材を用いて、基本姿勢や号令の種類について事前に確認する集団行動の目的（規律・

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度50% 課題レポート20% 試験30%を総合的に判断する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス（オリエンテーション）	授業概要説明集団行動の意義・歴史評価方法の説明
2	基本姿勢・号令の理解	気をつけ・休め号令の種類と反応練習
3	方向転換・整列	回れ右・右向け右など横隊・縦隊の基本
4	歩行動作①	行進の基本（腕振り・歩幅）リズムの統一
5	歩行動作②	隊列移動スピード変化への対応
6	動作の正確性向上	タイミングの一致ミスの修正練習
7	隊形変化①	基本的なフォーメーション変更
8	隊形変化②	複雑な移動・交差動作
9	グループ編成	小グループでの構成づくり役割分担（リーダー決定）
10	創作活動①	オリジナル隊形・動作の考案
11	創作活動②	動きの洗練・同期練習
12	発表準備	通し練習修正・改善

13	最終発表	グループごとの演技発表
14	まとめ・振り返り	講評レポート提出
15		
16		

科目コード	39303				区 分	コア科目			
授業科目名	日本語演習Ⅰ [2026年度入学BC留学生用]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、日本語能力試験N2合格に必要な「言語知識（文字・語彙・文法）」「読解」「聴解」の力を総合的に養成することを目的とする。教材『TRY! 日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語』を用い、日常的・社会的な場面の文章から、論説文、エッセー、会議、物語、コラム・社説へと段階的に学習を進める。授業では、単に文法項目を暗記するのではなく、文脈の中で意味と機能を理解し、N2形式の問題に対応できる読解力・聴解力を養う。特に、論旨の把握、筆者の意図の理解、自然に近い速度の会話やニュースの要点把握を重視する。授業

<授業の到達目標>

1. 日本語能力試験N2レベルの重要語彙・文法項目を理解し、文脈に応じて判断できる。2. 告知文、説明文、エッセー、論説文、紹介文、物語文、コラム・社説などを読み、内容、論理展開、筆者の主張や意図を把握できる。3. ニュース、説明、会話、案内などの聴解問題において、要点、理由、条件、結論を聞き取ることができる。4. N2形式の問題に対応できる読解・聴解の解法を身につけ、時間配分を意識して問題に取り組むことができる。5. 本試験に向けて自分の弱点を把握し、授業外学習を通して継続的に補強できる。

<授業の方法>

授業では、本文の内容理解、重点文法の整理、読解・聴解演習、試験形式問題、振り返りを組み合わせて進める。毎回、前回の学習内容を確認する小テストを実施し、語彙・文法・内容理解の定着を図る。また、ペア活動やグループ活動を通して、要約、情報整理、比較、意見交換、会話練習などを行い、学習内容を運用できる力を養う。なお、本授業では、日々の予習・復習、小テスト、提出課題などの継続的な学習を重視する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、語彙・文法クイズ、ディスカッション、ピアレビューなどのアクティブラーニングを取り入れ、試験対策に必要なスキルを強化する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業外では、毎回、本文の予習、語彙確認、練習問題、短作文または要約課題に取り組むこと。1回の授業につき、おおむね2～3時間程度の授業外学習を想定する。特に、知らない語彙の整理、重点文法の例文作成、読解本文の段落要約、聴解スクリプトの復習、模擬問題の解き直しを重視する。N2対策では、授業時間だけでなく、継続的な復習と形式慣れが重要であるため、毎回の課題を計画的に行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・授業内活動 20%小テスト 30%課題提出 30%前半まとめテスト 10%後半まとめテスト 10%

<教科書>

ABK（公益財団法人 アジア学生文化協会） TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語 ASK
星野恵子・辻和子

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション／募集情報の読解	授業概要の確認、到達目標の共有、N2レベルの読解の特徴を理解する。告知文・募集要項を読み、条件・対象・注意事項を正確に把握する練習を行う。
2	改まったあいさつとスピーチ表現	転任やお礼のあいさつを題材に、改まった場面で用いられる表現を学ぶ。文章の流れを追いながら、感謝・回想・今後の展望を表す文法や表現を確認する。
3	仕事の説明とニュース聴解	仕事に関する説明文を読み、内容を整理する力を養う。あわせて、天気予報や台風情報などのニュースを聞き、重要情報を聞き取る練習を行う。
4	文困った状況の説明と共感表現	就職活動を題材に、困難な状況や気持ちを説明する表現を学ぶ。会話文を通して、相手への共感や励ましの表現も確認する。
5	苦勞・決意・心情の表現	経験談を読み、苦勞や葛藤、決意の表現を学ぶ。文脈の中で話し手の気持ちの変化を捉え、適切に理解する練習を行う。
6	論説文の読解①	生態系に関する文章を読み、説明文・論説文の読み方を学ぶ。対比、変化、因果関係に着目しながら、段落ごとの要点を整理する。
7	ビジネス場面の敬語／前半の復習	取引先とのやりとりを題材に、ビジネス場面での敬語表現を学ぶ。前半の学習内容

8	自然な会話表現の理解	を整理し、文法・読解・聴解の総復習を行う。 身近な話題を扱った会話文を通して、話し言葉特有の自然な表現やニュアンスを学ぶ。話者の気持ちや評価を読み取る練習を行う。
9	エッセーの読解	満員電車を題材としたエッセーを読み、筆者の考え方や感じ方を理解する。事実と意見を区別しながら、文章の流れをつかむ練習を行う。
10	紹介文の読解と説明表現	紹介記事を読み、情報の整理のしかたや説明の構成を学ぶ。あわせて、会議や説明場面で用いられる表現の基礎を確認する。
11	会議での説明と意見表明	商品開発を題材に、会議で説明したり意見を述べたりする表現を学ぶ。条件提示、仮定、判断の表現を整理し、実践的に用いる練習を行う。
12	物語文の読解と心情理解	人生の転機を描いた物語を読み、出来事の流れと登場人物の心情変化を理解する。決意、迷い、感情の強さを表す表現を確認する。
13	論説文の読解②／主張理解	オリンピック開催に関するコラム・社説を読み、筆者の説明と主張を読み取る。論点、根拠、結論の関係を整理しながら読む練習を行う。
14	総まとめ・模擬問題演習	これまでの学習内容を総復習し、N2形式の模擬問題に取り組む。文法・読解・聴解の弱点を確認し、受験に向けた最終整理を行う。
15		
16		

科目コード	39304				区 分	コア科目			
授業科目名	日本語演習Ⅱ [2026年度入学BC留学生用]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、日本語能力試験N2合格に必要な「言語知識（文字・語彙・文法）」「読解」「聴解」の力を総合的に養成することを目的とする。教材『TRY! 日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語』を用い、日常的・社会的な場面の文章から、論説文、エッセー、会議、物語、コラム・社説へと段階的に学習を進める。授業では、単に文法項目を暗記するのではなく、文脈の中で意味と機能を理解し、N2形式の問題に対応できる読解力・聴解力を養う。特に、論旨の把握、筆者の意図の理解、自然に近い速度の会話やニュースの要点把握を重視する。授業

<授業の到達目標>

1. 日本語能力試験N2レベルの重要語彙・文法項目を理解し、文脈に応じて判断できる。2. 告知文、説明文、エッセー、論説文、紹介文、物語文、コラム・社説などを読み、内容、論理展開、筆者の主張や意図を把握できる。3. ニュース、説明、会話、案内などの聴解問題において、要点、理由、条件、結論を聞き取ることができる。4. N2形式の問題に対応できる読解・聴解の解法を身につけ、時間配分を意識して問題に取り組むことができる。5. 本試験に向けて自分の弱点を把握し、授業外学習を通して継続的に補強できる。

<授業の方法>

授業では、本文の内容理解、重点文法の整理、読解・聴解演習、試験形式問題、振り返りを組み合わせて進める。毎回、前回の学習内容を確認する小テストを実施し、語彙・文法・内容理解の定着を図る。また、ペア活動やグループ活動を通して、要約、情報整理、比較、意見交換、会話練習などを行い、学習内容を運用できる力を養う。なお、本授業では、日々の予習・復習、小テスト、提出課題などの継続的な学習を重視する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、語彙・文法クイズ、ディスカッション、ピアレビューなどのアクティブラーニングを取り入れ、試験対策に必要なスキルを強化する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業外では、毎回、本文の予習、語彙確認、練習問題、短作文または要約課題に取り組むこと。1回の授業につき、おおむね2～3時間程度の授業外学習を想定する。特に、知らない語彙の整理、重点文法の例文作成、読解本文の段落要約、聴解スクリプトの復習、模擬問題の解き直しを重視する。N2対策では、授業時間だけでなく、継続的な復習と形式慣れが重要であるため、毎回の課題を計画的に行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・授業内活動 20%小テスト 30%課題提出 30%前半まとめテスト 10%最終模擬問題演習 10%

<教科書>

ABK（公益財団法人 アジア学生文化協会） TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語 ASK
星野恵子・辻和子

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション／募集情報の読解	授業概要の確認、到達目標の共有、N2レベルの読解の特徴を理解する。告知文・募集要項を読み、条件・対象・注意事項を正確に把握する練習を行う。
2	改まったあいさつとスピーチ表現	転任やお礼のあいさつを題材に、改まった場面で用いられる表現を学ぶ。文章の流れを追いながら、感謝・回想・今後の展望を表す文法や表現を確認する。
3	仕事の説明とニュース聴解	仕事に関する説明文を読み、内容を整理する力を養う。あわせて、天気予報や台風情報などのニュースを聞き、重要情報を聞き取る練習を行う。
4	文困った状況の説明と共感表現	就職活動を題材に、困難な状況や気持ちを説明する表現を学ぶ。会話文を通して、相手への共感や励ましの表現も確認する。
5	苦勞・決意・心情の表現	経験談を読み、苦勞や葛藤、決意の表現を学ぶ。文脈の中で話し手の気持ちの変化を捉え、適切に理解する練習を行う。
6	論説文の読解①	生態系に関する文章を読み、説明文・論説文の読み方を学ぶ。対比、変化、因果関係に着目しながら、段落ごとの要点を整理する。
7	ビジネス場面の敬語／前半の復習	取引先とのやりとりを題材に、ビジネス場面での敬語表現を学ぶ。前半の学習内容

8	自然な会話表現の理解	を整理し、文法・読解・聴解の総復習を行う。 身近な話題を扱った会話文を通して、話し言葉特有の自然な表現やニュアンスを学ぶ。話者の気持ちや評価を読み取る練習を行う。
9	エッセーの読解	満員電車を題材としたエッセーを読み、筆者の考え方や感じ方を理解する。事実と意見を区別しながら、文章の流れをつかむ練習を行う。
10	紹介文の読解と説明表現	紹介記事を読み、情報の整理のしかたや説明の構成を学ぶ。あわせて、会議や説明場面で用いられる表現の基礎を確認する。
11	会議での説明と意見表明	商品開発を題材に、会議で説明したり意見を述べたりする表現を学ぶ。条件提示、仮定、判断の表現を整理し、実践的に用いる練習を行う。
12	物語文の読解と心情理解	人生の転機を描いた物語を読み、出来事の流れと登場人物の心情変化を理解する。決意、迷い、感情の強さを表す表現を確認する。
13	論説文の読解②／主張理解	オリンピック開催に関するコラム・社説を読み、筆者の説明と主張を読み取る。論点、根拠、結論の関係を整理しながら読む練習を行う。
14	総まとめ・模擬問題演習	これまでの学習内容を総復習し、N2形式の模擬問題に取り組む。文法・読解・聴解の弱点を確認し、受験に向けた最終整理を行う。
15		
16		

科目コード	10106				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語表現 I [2026年度入学BC留学生用]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

<授業の到達目標>

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

<授業の方法>

14回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表 などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度） 復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー 5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30% 提出課題：40% 小テスト：20% 復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

<教科書>

平井悦子・三輪さち子 中級を学ぼう 中級前期 スリーエーネットワーク

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明 レベル判定試験
2	第1課 音と音楽の効果 (1)	導入
3	第1課 音と音楽の効果 (2)	内容理解と意見交換
4	作文・会話 (1)	作文と会話
5	第2課 いい数字・悪い数字 (1)	導入
6	第2課 いい数字・悪い数字 (2)	内容理解と意見交換
7	作文・会話 (2)	作文と会話
8	第3課 「面白い」日本 (1)	導入
9	第3課 「面白い」日本 (2)	内容理解と意見交換
10	作文・会話 (3)	作文と会話
11	第4課 くしゃみ (1)	導入
12	第4課 くしゃみ (2)	内容理解と意見交換
13	作文・会話 (4)	作文と会話
14	まとめテスト	テスト
15		
16		

科目コード	10107				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語表現Ⅱ [2026年度入学BC留学生用]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	1年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

<授業の到達目標>

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

<授業の方法>

14回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30% 提出課題：40% 小テスト：20% 復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

<教科書>

平井悦子・三輪さち子 中級を学ぼう 中級前期 スリーエーネットワーク

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明 レベル判定試験
2	第1課 音と音楽の効果 (1)	導入
3	第1課 音と音楽の効果 (2)	内容理解と意見交換
4	作文・会話 (1)	作文と会話
5	第2課 いい数字・悪い数字 (1)	導入
6	第2課 いい数字・悪い数字 (2)	内容理解と意見交換
7	作文・会話 (2)	作文と会話
8	第3課 「面白い」日本 (1)	導入
9	第3課 「面白い」日本 (2)	内容理解と意見交換
10	作文・会話 (3)	作文と会話
11	第4課 くしゃみ (1)	導入
12	第4課 くしゃみ (2)	内容理解と意見交換
13	作文・会話 (4)	作文と会話
14	まとめテスト	テスト
15		
16		

科目コード	21106				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	保育原理				担当者名	虫明 淑子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園すべてに求められる、幼児教育・保育の基盤となる理念や概念を学ぶとともに、子ども主体の保育とは何かという問いを、歴史的背景を踏まえて考え、今後のよりよい教育・保育の実践のあり方や課題を自分なりに理解することを目指す。具体的には、子ども理解、保育の内容・方法、保育の計画と評価、子育て支援、健康・安全、多様な子どもの理解と保育、法律・制度などの観点から考察する。さらに、事例検討やグループディスカッションを通して、保育者の専門性について理解を深める。

<授業の到達目標>

1. 幼児教育・保育の基本原則を理解し、子ども主体の保育の考え方を歴史的背景を踏まえて考察できる。2. 子ども理解、保育の内容・方法、保育計画と評価、子育て支援、健康・安全、多様な子どもの理解と保育、法律・制度などの観点から、教育・保育の課題や実践のあり方について自分なりに整理できる。3. 事例検討やグループディスカッションを通して、保育者としての専門性についての理解を深め、これからの保育のあり方や課題について自分なりに考えることができる。

<授業の方法>

・講義：教科書の内容を整理・抽出し、それに沿って行う。・事例検討：実際の事例をもとに意見交換を行い、学んだことを具体的に考察する。・リアクションペーパー・課題：授業で学んだ内容を自分の言葉で記述し、考えを整理する。・授業内試験：授業で学んだ内容を整理し、試験後のフィードバックを通して理解を定着させる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：有方法：グループディスカッション、グループワーク・具体的な事例をもとに学生同士で意見交換を行い、対話を通して理解を深める。・他者の視点に触れることで、自分の考えを広げ、多角的な考え方があることを認識する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・教科書を事前に読み、授業での理解の準備を行う。・授業で学んだ内容を整理し、学んだことや感想を自分の言葉で説明で表すことができるようにする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる）に関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加態度（40%）：出席・姿勢・グループディスカッションでの態度や取り組み方を評価・リアクションペーパーと課題（30%）：提出状況や、授業の要点・学んだこと・感想を自分の言葉で表せているかを評価・試験（30%）：授業内容の理解度と考えのまとめを評価 ※学生からの質問には随時対応する。 ※リアクションペーパーへのフィードバックは次回以降の授業内容に反映する。 ※授業計画は学生の理解度に応じて変更することがある。 ※試験は授業内に実施し、実施後のフィードバックにより理解を補充する。

<教科書>

汐見稔幸・無藤隆・大豆生田啓友【編著】（2019年4月30日）『アクティベート保育学① 保育原理』 ミネルヴァ書房

<参考書>

文部科学省（2018年3月）『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

厚生労働省（2018年3月）『保育所保育指針解説』 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018年3月）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・授業計画、到達目標、成績評価方法等について、シラバスを通して理解する。・授業計画について再確認する。
2	保育とは何か(1)	・「保育」という言葉が生まれた歴史的背景を理解する。
3	保育とは何か(2)	・「子ども主体の保育・教育」への移行の背景や意義を理解する。
4	保育と子ども理解(1)	・子ども理解とは何かを考え、子どもの行為の「意味」を探ることの重要性について理解する。
5	保育と子ども理解(2)	・子ども理解とは何か、その本質や意味について多角的に考察する。・「省察」の意義を理解し、実践における重要性を捉える。
6	保育の内容	・保育内容の意味と変遷（5領域まで）を理解し、意義と役割を捉える。・3要領・指針に示された「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し、幼児教育・保育が小学校以降の学びの土台となることを考える。
7	保育の方法とは何か	・幼児教育・保育における望ましい方法を踏まえ、保育の「質」とは何かについて多

		角的に考察する。
8	保育の計画と評価	・保育における計画と評価の意義を理解する。・PDCAサイクルおよびカリキュラム・マネジメントの仕組みを理解し、保育実践にどのように活かされるか、その有効性について考察する。
9	保育と子育て支援	・子育て支援が必要とされる背景について理解する。・保育の場で行われている子育ての支援の内容や意義について考える。
10	健康・安全と保育(1)	・子どもの命を守ることが保育の大前提であることを理解する。・0～2歳と3歳以上の子どもの健康と安全について考える（「食・睡眠・水遊び」を含む）。
11	保育者の専門性と資質向上	・保育所保育指針に示される保育者の専門性について理解する。・「省察的实践者」と何か、保育者の資質向上の意義について考える。
12	保育の歴史に学ぶ	・遊びを中心とする日本の保育の成立について考える・倉橋惣三の「育ての心」について理解する。
13	多様な子どもの理解	・外国籍の子どもについて理解する。・貧困家庭の子どもについて理解する。・障害のある子どもの理解について理解し、子どもの思いを読み取ることの重要性を考える。
14	授業内試験と学びのまとめ	・これまでの授業内容を振り返り、学びを整理する。・答え合わせを通じて、自分の理解や学びの改善を図る。
15		
16		

科目コード	34123				区 分	コア科目			
授業科目名	幼児と環境				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

三法令における領域「環境」のねらい・内容の理解をはかるために、各回のテーマに即したグループワークを行い、また体験型の活動を行う。

<授業の到達目標>

(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義を理解し、子どもの主体的な活動を支える環境構成について説明できる。
(2) 幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達を理解し、その発達を支える環境や援助の在り方について説明できる。(3) 幼児期の標識・文字等、情報・施設等、社会や文化との関わりの中で発達していくことを理解できる。

<授業の方法>

・授業テーマに即したグループワーク、ディスカッション、発表資料作成を行う。・その後、各グループより議論した内容について発表を行う。・授業のまとめとして、講義を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：領域「環境」に関わる体験活動を行う。活動を通して、理論を具体的に捉え、気づきや学びを言語化することで理解を深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・子どもを観察し、子どもの心の内や何に興味関心を持っているのかなど考察する機会をもっておく。・予習：幼保連携型認定こども園教育・保育要領、領域「環境」の項を読んでおく。(30分)・復習：リアクションペーパーの作成時において、授業内容を振り返り、理解を深めるようにする。(30分)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・受講態度、グループワークの参加態度（15％）・リアクションペーパー（15％）・オンデマンド課題（30％）・定期テスト（40％）

<教科書>

随時資料配布

<参考書>

幼稚園教育要領解説 フレーベル館
保育所保育指針解説 フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・オリエンテーション・領域「環境」のねらいと内容について	・授業計画説明
2	・探求心、好奇心を育む自然環境	・畑の土づくりを行う。
3	・探求心、好奇心を育む自然環境	・グループワーク：周辺散策と遊びのヒント
4	・探求心、好奇心を育む自然環境（オンデマンド）	課題の提出
5	・探求心、好奇心を育む自然環境	・グループワーク：夏野菜の栽培（各グループで責任をもって栽培活動、また観察を行う）
6	・探求心、好奇心を育む人的環境	・グループワーク：保育者としてのふるまいや言葉がけについて考える
7	・探求心、好奇心を育む物的環境	・認定こども園見学：0歳児、1歳児、2歳児、3歳児、4歳児、5歳児、それぞれの物環境、遊具を考える。
8	・数量・図形に関心をもつ保育	・グループワーク：数量、図形に関する遊びのワークショップ
9	・標識や文字に関心を持つ保育	・グループワーク：標識や文字に関する遊びのワークショップ
10	・生活に関係の深い情報や施設とは	・グループワーク：近隣の施設についてリサーチする
11	・伝統的行事や様々な文化	・グループワーク：教育保育の中で行う行事についてリサーチし、教育的意義について考察し発表する。
12	・探求心、好奇心を育む自然環境	・グループワーク：栽培活動の経過報告、栽培活動を通して子どもの学びについて発表
13	・探求心、好奇心を育む自然環境	・グループワーク：収穫物を味わう
14	・まとめ	・まとめの講義：領域「環境」の内容の取扱いについて・領域「環境」と幼児期の終

15		わりまでに育ってほしい「10の姿」との関連について・現代の課題「好奇心」が満たされず「探求心」が持てない環境とは
16		

科目コード	34124				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	幼児と表現				担当者名	宮原 舞／後藤 由佳			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本科目では、領域「表現」に関して、幼児の表現の姿やその発達、それを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて学ぶ。授業では、幼児期の表現の特質を踏まえ、身体・造形・音楽表現などの多様な表現との豊かな関わりを育むための基礎的な知識・技能を、体験を通して理解する。

<授業の到達目標>

(1) 幼児の表現の姿やその発達の特徴について理解する。(2) 身体・造形・音楽表現などに関する基礎的な知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。(3) 領域「表現」のねらい、内容、内容の取扱いについて理解し、幼児教育・保育における意義を説明できる。

<授業の方法>

講義・演習を組み合わせながら、保育・幼児教育に必要な様々な表現を体験的に学ぶ。音楽・造形・身体表現等の活動を通して、幼児の表現の特質や、それを支えるための視点について理解を深める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：各回のテーマに基づいてグループごとに意見交流や発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、授業で扱うテーマに関する配付資料や参考資料に目を通し、授業内容の見通しをもっておくこと。復習として、授業で扱った内容や活動を振り返り、配付資料やノートをもとに理解を深めること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に対する取組み 30%、レポート・課題作品 50%、定期試験 20%

<教科書>

文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成30年3月） フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針解説（平成30年3月） フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月） フレーベル館

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・成績評価
2	領域「表現」とは	領域「表現」のねらい、内容、内容の取扱いについて
3	音楽表現①	音・声・楽器による音楽遊びを通して、幼児の音楽表現の基礎を理解する。
4	音楽表現②	音遊びや歌遊びを、音楽的な「学び」の視点から捉え、その教育的意義について考える。
5	音楽表現③	アンサンブルを通して、音や声が重なり合うおもしろさや美しさを体験し、共に表現することの意味を学ぶ。
6	造形表現①	線や色との出会いを通して、描くことの楽しさや表現の広がりについて理解する。
7	造形表現②	絵の具を用いた表現活動を通して、感触や色彩の変化を味わいながら造形表現の特性を学ぶ。
8	造形表現③	紙素材を用いた造形遊びを通して、素材の性質を生かした表現の可能性について考える。
9	身体表現①	身近な自然や素材の特性に触れ、感じる、見る、聴く、楽しむことを通してイメージを豊かにする。
10	身体表現②	身近な遊びや生活の中で心が動いたことをもとに、身体を用いて表現することの意義を学ぶ。
11	STEAM保育を意識した表現活動の探究①	自然物や身近な素材を用いた表現活動について、その意義や可能性を考える。
12	STEAM保育を意識した表現活動の探究②	自然物や身近な素材を用いた表現活動を実践的に体験し、表現の多様性について理解を深める。
13	STEAM保育を意識した表現活動の探究③	表現活動を、科学・技術・工学・芸術・数学の視点と関連づけながら振り返り、保育における新たな可能性を考察する。
14	総括	音楽・造形・身体および新たな表現活動の関連を整理しながら、保育における領域

15	「表現」の意義を総合的に理解する。
16	

科目コード	40105				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [PP女子用、他学科+PP2年生以上]				担当者名	梶谷 亮輔／品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技・講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

陸上競技は、「走・跳・投・歩」といった基本的な運動から構成され、体力・技術・精神の各側面を総合的に養うことができる競技である。また、その多面性ゆえに、競技力向上には計画的かつ継続的な取り組みが求められる。本授業では、特に教員採用試験で求められる基礎的な陸上競技種目に焦点を当て、五種競技を中心に実技を展開する。各種目の技術習得に加え、トレーニングの原理・原則や指導法について理解を深める。さらに、授業や部活動において不可欠となる安全管理の視点を重視し、事故防止のための環境整備、リスクマネジメント、適切なウォー

<授業の到達目標>

陸上競技における専門的なトレーニング方法および各種目の技術に関する基礎的知識を習得するとともに、安全管理の重要性とその具体的手法を理解する。さらに、走・跳・投の各種目（100m、ハードル走、走幅跳、走高跳、砲丸投）について、基本技術を習得し、適切な動作による模範を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は対面による実技形式で実施し、教科書は使用しない。主に各種目の基本技術の習得および実践的な指導力の向上を目的とした活動を行う。また、全15回中5回はオンデマンド形式とし、Google Classroom を活用して実施する。オンデマンド授業では、各種目の歴史、ルール、指導上の留意点、安全管理およびトレーニング理論に関する知識の習得を目的とし、レポート課題や小テストを通して理解の定着を図る。履修者数は、実技における安全性および指導効果を考慮し、70名を上限とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有本授業では、実技を中心とした双方向型の学習を通してアクティブ・ラーニングを取り入れる。具体的には、学生同士によるペア・グループでの相互指導（ピア・ラーニング）や、動作観察およびフィードバックを行うことで、技術理解と指導力の向上を図る。また、オンデマンド授業においては、提示された課題に対するレポート作成や小テストを通して主体的な学習を促すとともに、対面授業での実践と結び付けることで理解の深化を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各種目のルールや技術ポイント、指導上の留意点および安全管理に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。復習としては、対面授業で実施した技術や指導内容について振り返りを行い、自身の課題や改善点を整理するとともに、関連資料の確認や課題（レポート・小テスト）への取り組みを行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・実技試験：40%（1種目10%）・レポート課題：30%（オンデマンド授業5回*6%=30%）・受講態度・学習意欲：30%実技試験では、各種目における基準記録に対する到達状況を評価する。レポート課題では、各種目の技術理解、指導上の留意点、安全管理に関する理解度を評価する。受講態度・学習意欲については、授業への積極的な参加状況、協働的な学びへの関与、準備・振り返りの取り組み状況等を総合的に評価する。フィードバックについては、実技においては授業内での口頭指導や個別助言を

<教科書>

<参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要、ウォーミングアップの行い方と「歩く」・「走る」の実践	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走①	短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定

5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定
7	走幅跳	走幅跳跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	砲丸投	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
9	ハードル走（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、ハードル走の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
10	走高跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
11	走幅跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走幅跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
12	砲丸投（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、砲丸投の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	短距離走②	短距離走の走り方、動き作りを実践し、100m走の記録測定（2回目）
14	まとめ（記録挑戦会）	これまでの種目における総理解をし、各種目における記録へ挑戦する。
15		
16		

科目コード	40105				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [PP男子用]				担当者名	梶谷 亮輔／品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技・講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

陸上競技は、「走・跳・投・歩」といった基本的な運動から構成され、体力・技術・精神の各側面を総合的に養うことができる競技である。また、その多面性ゆえに、競技力向上には計画的かつ継続的な取り組みが求められる。本授業では、特に教員採用試験で求められる基礎的な陸上競技種目に焦点を当て、五種競技を中心に実技を展開する。各種目の技術習得に加え、トレーニングの原理・原則や指導法について理解を深める。さらに、授業や部活動において不可欠となる安全管理の視点を重視し、事故防止のための環境整備、リスクマネジメント、適切なウォー

<授業の到達目標>

陸上競技における専門的なトレーニング方法および各種目の技術に関する基礎的知識を習得するとともに、安全管理の重要性とその具体的手法を理解する。さらに、走・跳・投の各種目（100m、ハードル走、走幅跳、走高跳、砲丸投）について、基本技術を習得し、適切な動作による模範を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は対面による実技形式で実施し、教科書は使用しない。主に各種目の基本技術の習得および実践的な指導力の向上を目的とした活動を行う。また、全15回中5回はオンデマンド形式とし、Google Classroom を活用して実施する。オンデマンド授業では、各種目の歴史、ルール、指導上の留意点、安全管理およびトレーニング理論に関する知識の習得を目的とし、レポート課題や小テストを通して理解の定着を図る。履修者数は、実技における安全性および指導効果を考慮し、70名を上限とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有本授業では、実技を中心とした双方向型の学習を通してアクティブ・ラーニングを取り入れる。具体的には、学生同士によるペア・グループでの相互指導（ピア・ラーニング）や、動作観察およびフィードバックを行うことで、技術理解と指導力の向上を図る。また、オンデマンド授業においては、提示された課題に対するレポート作成や小テストを通して主体的な学習を促すとともに、対面授業での実践と結び付けることで理解の深化を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各種目のルールや技術ポイント、指導上の留意点および安全管理に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。復習としては、対面授業で実施した技術や指導内容について振り返りを行い、自身の課題や改善点を整理するとともに、関連資料の確認や課題（レポート・小テスト）への取り組みを行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・実技試験：40%（1種目10%）・レポート課題：30%（オンデマンド授業5回*6%=30%）・受講態度・学習意欲：30%実技試験では、各種目における基準記録に対する到達状況の評価する。レポート課題では、各種目の技術理解、指導上の留意点、安全管理に関する理解度を評価する。受講態度・学習意欲については、授業への積極的な参加状況、協働的な学びへの関与、準備・振り返りの取り組み状況等を総合的に評価する。フィードバックについては、実技においては授業内での口頭指導や個別助言を

<教科書>

<参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要、ウォーミングアップの行い方と「歩く」・「走る」の実践	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走①	短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定

7	走幅跳	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	砲丸投	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
9	ハードル走（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、ハードル走の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
10	走高跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
11	走幅跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走幅跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
12	砲丸投（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、砲丸投の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	短距離走②	短距離走の走り方、動き作りを実践し、100m走の記録測定（2回目）
14	まとめ（記録挑戦会）	これまでの種目における総理解をし、各種目における記録へ挑戦する。
15		
16		

科目コード	40105				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [PP男子用]				担当者名	梶谷 亮輔／品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技・講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

陸上競技は、「走・跳・投・歩」といった基本的な運動から構成され、体力・技術・精神の各側面を総合的に養うことができる競技である。また、その多面性ゆえに、競技力向上には計画的かつ継続的な取り組みが求められる。本授業では、特に教員採用試験で求められる基礎的な陸上競技種目に焦点を当て、五種競技を中心に実技を展開する。各種目の技術習得に加え、トレーニングの原理・原則や指導法について理解を深める。さらに、授業や部活動において不可欠となる安全管理の視点を重視し、事故防止のための環境整備、リスクマネジメント、適切なウォー

<授業の到達目標>

陸上競技における専門的なトレーニング方法および各種目の技術に関する基礎的知識を習得するとともに、安全管理の重要性とその具体的手法を理解する。さらに、走・跳・投の各種目（100m、ハードル走、走幅跳、走高跳、砲丸投）について、基本技術を習得し、適切な動作による模範を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は対面による実技形式で実施し、教科書は使用しない。主に各種目の基本技術の習得および実践的な指導力の向上を目的とした活動を行う。また、全15回中5回はオンデマンド形式とし、Google Classroom を活用して実施する。オンデマンド授業では、各種目の歴史、ルール、指導上の留意点、安全管理およびトレーニング理論に関する知識の習得を目的とし、レポート課題や小テストを通して理解の定着を図る。履修者数は、実技における安全性および指導効果を考慮し、70名を上限とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有本授業では、実技を中心とした双方向型の学習を通してアクティブ・ラーニングを取り入れる。具体的には、学生同士によるペア・グループでの相互指導（ピア・ラーニング）や、動作観察およびフィードバックを行うことで、技術理解と指導力の向上を図る。また、オンデマンド授業においては、提示された課題に対するレポート作成や小テストを通して主体的な学習を促すとともに、対面授業での実践と結び付けることで理解の深化を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各種目のルールや技術ポイント、指導上の留意点および安全管理に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。復習としては、対面授業で実施した技術や指導内容について振り返りを行い、自身の課題や改善点を整理するとともに、関連資料の確認や課題（レポート・小テスト）への取り組みを行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・実技試験：40%（1種目10%）・レポート課題：30%（オンデマンド授業5回*6%=30%）・受講態度・学習意欲：30%実技試験では、各種目における基準記録に対する到達状況の評価する。レポート課題では、各種目の技術理解、指導上の留意点、安全管理に関する理解度を評価する。受講態度・学習意欲については、授業への積極的な参加状況、協働的な学びへの関与、準備・振り返りの取り組み状況等を総合的に評価する。フィードバックについては、実技においては授業内での口頭指導や個別助言を

<教科書>

<参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要、ウォーミングアップの行い方と「歩く」・「走る」の実践	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走①	短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定

7	走幅跳	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	砲丸投	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
9	ハードル走（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、ハードル走の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
10	走高跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
11	走幅跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走幅跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
12	砲丸投（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、砲丸投の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	短距離走②	短距離走の走り方、動き作りを実践し、100m走の記録測定（2回目）
14	まとめ（記録挑戦会）	これまでの種目における総理解をし、各種目における記録へ挑戦する。
15		
16		

科目コード	40105				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [PS用]				担当者名	秦 啓一郎／品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技・講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

陸上競技は、「走・跳・投・歩」といった基本的な運動から構成され、体力・技術・精神の各側面を総合的に養うことができる競技である。また、その多面性ゆえに、競技力向上には計画的かつ継続的な取り組みが求められる。本授業では、特に教員採用試験で求められる基礎的な陸上競技種目に焦点を当て、五種競技を中心に実技を展開する。各種目の技術習得に加え、トレーニングの原理・原則や指導法について理解を深める。さらに、授業や部活動において不可欠となる安全管理の視点を重視し、事故防止のための環境整備、リスクマネジメント、適切なウォー

<授業の到達目標>

陸上競技における専門的なトレーニング方法および各種目の技術に関する基礎的知識を習得するとともに、安全管理の重要性とその具体的手法を理解する。さらに、走・跳・投の各種目（100m、ハードル走、走幅跳、走高跳、砲丸投）について、基本技術を習得し、適切な動作による模範を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は対面による実技形式で実施し、教科書は使用しない。主に各種目の基本技術の習得および実践的な指導力の向上を目的とした活動を行う。また、全15回中5回はオンデマンド形式とし、Google Classroom を活用して実施する。オンデマンド授業では、各種目の歴史、ルール、指導上の留意点、安全管理およびトレーニング理論に関する知識の習得を目的とし、レポート課題や小テストを通して理解の定着を図る。履修者数は、実技における安全性および指導効果を考慮し、70名を上限とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有本授業では、実技を中心とした双方向型の学習を通してアクティブ・ラーニングを取り入れる。具体的には、学生同士によるペア・グループでの相互指導（ピア・ラーニング）や、動作観察およびフィードバックを行うことで、技術理解と指導力の向上を図る。また、オンデマンド授業においては、提示された課題に対するレポート作成や小テストを通して主体的な学習を促すとともに、対面授業での実践と結び付けることで理解の深化を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各種目のルールや技術ポイント、指導上の留意点および安全管理に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。復習としては、対面授業で実施した技術や指導内容について振り返りを行い、自身の課題や改善点を整理するとともに、関連資料の確認や課題（レポート・小テスト）への取り組みを行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・実技試験：40%（1種目10%）・レポート課題：30%（オンデマンド授業5回*6%=30%）・受講態度・学習意欲：30%実技試験では、各種目における基準記録に対する到達状況进行评估する。レポート課題では、各種目の技術理解、指導上の留意点、安全管理に関する理解度を評価する。受講態度・学習意欲については、授業への積極的な参加状況、協働的な学びへの関与、準備・振り返りの取り組み状況等を総合的に評価する。フィードバックについては、実技においては授業内での口頭指導や個別助言を

<教科書>

<参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要、ウォーミングアップの行い方と「歩く」・「走る」の実践	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走①	短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定

7	走幅跳	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	砲丸投	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
9	ハードル走（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、ハードル走の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
10	走高跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
11	走幅跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走幅跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
12	砲丸投（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、砲丸投の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	短距離走②	短距離走の走り方、動き作りを実践し、100m走の記録測定（2回目）
14	まとめ（記録挑戦会）	これまでの種目における総理解をし、各種目における記録へ挑戦する。
15		
16		

科目コード	40105				区 分	コア科目			
授業科目名	陸上 I (基礎) [他学科 + PP2年生以上]				担当者名	梶谷 亮輔 / 品田 直宏			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技・講義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

陸上競技は、「走・跳・投・歩」といった基本的な運動から構成され、体力・技術・精神の各側面を総合的に養うことができる競技である。また、その多面性ゆえに、競技力向上には計画的かつ継続的な取り組みが求められる。本授業では、特に教員採用試験で求められる基礎的な陸上競技種目に焦点を当て、五種競技を中心に実技を展開する。各種目の技術習得に加え、トレーニングの原理・原則や指導法について理解を深める。さらに、授業や部活動において不可欠となる安全管理の視点を重視し、事故防止のための環境整備、リスクマネジメント、適切なウォー

<授業の到達目標>

陸上競技における専門的なトレーニング方法および各種目の技術に関する基礎的知識を習得するとともに、安全管理の重要性とその具体的手法を理解する。さらに、走・跳・投の各種目（100m、ハードル走、走幅跳、走高跳、砲丸投）について、基本技術を習得し、適切な動作による模範を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は対面による実技形式で実施し、教科書は使用しない。主に各種目の基本技術の習得および実践的な指導力の向上を目的とした活動を行う。また、全15回中5回はオンデマンド形式とし、Google Classroom を活用して実施する。オンデマンド授業では、各種目の歴史、ルール、指導上の留意点、安全管理およびトレーニング理論に関する知識の習得を目的とし、レポート課題や小テストを通して理解の定着を図る。履修者数は、実技における安全性および指導効果を考慮し、70名を上限とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有本授業では、実技を中心とした双方向型の学習を通してアクティブ・ラーニングを取り入れる。具体的には、学生同士によるペア・グループでの相互指導（ピア・ラーニング）や、動作観察およびフィードバックを行うことで、技術理解と指導力の向上を図る。また、オンデマンド授業においては、提示された課題に対するレポート作成や小テストを通して主体的な学習を促すとともに、対面授業での実践と結び付けることで理解の深化を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各種目のルールや技術ポイント、指導上の留意点および安全管理に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。復習としては、対面授業で実施した技術や指導内容について振り返りを行い、自身の課題や改善点を整理するとともに、関連資料の確認や課題（レポート・小テスト）への取り組みを行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・実技試験：40%（1種目10%）・レポート課題：30%（オンデマンド授業5回*6%=30%）・受講態度・学習意欲：30%実技試験では、各種目における基準記録に対する到達状況の評価する。レポート課題では、各種目の技術理解、指導上の留意点、安全管理に関する理解度を評価する。受講態度・学習意欲については、授業への積極的な参加状況、協働的な学びへの関与、準備・振り返りの取り組み状況等を総合的に評価する。フィードバックについては、実技においては授業内での口頭指導や個別助言を

<教科書>

<参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要、ウォーミングアップの行い方と「歩く」・「走る」の実践	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング
2	短距離走①	短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切
4	走高跳②	踏切～背面跳、記録の測定
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチ
6	ハードル走②	インターバル間の走り、記録の測定

7	走幅跳	走幅跳跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切
8	砲丸投	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げ
9	ハードル走（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、ハードル走の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
10	走高跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走高跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
11	走幅跳（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、走幅跳の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
12	砲丸投（オンデマンド）	オンデマンド教材を用い、砲丸投の歴史と指導上の留意点を理解する。理解度の確認として、レポート、小テストを行う。
13	短距離走②	短距離走の走り方、動き作りを実践し、100m走の記録測定（2回目）
14	まとめ（記録挑戦会）	これまでの種目における総理解をし、各種目における記録へ挑戦する。
15		
16		

科目コード	26205				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	4 技能統合型英語Ⅱ(応用)				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	なし

<授業の概要>

「聞く・読む・話す・書く・やり取りする」ことを統合的にトレーニングしていきます。特に初期段階ではスピーキング力の向上を中心に授業は行われます。最終的には英検準2級の上位レベルを目指す授業です。*【重要】英語の教員免許希望者および留学希望者は必ず受講してください。

<授業の到達目標>

1) 身近な話題についてかなり自由に話すことができる。2) 教員や友人の英語をほぼ正確に聞き取ることができる。3) 日本における社会問題について書かれた内容を時間をかければ理解することができる。4) 身近な話題についてほぼ正しい語順で50語程度のまとまった英語を書くことができる。

<授業の方法>

当初は、学習した英文を自分の言葉(My English)として取り込む活動を中心に行います。その後、いくつかの英文に触れながらペア活動、グループ活動を通して、全員の英語コミュニケーション力の向上を目指します。個人個人の伸びを見ていきますのでかなりの忍耐力と集中力が要求されます。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。スピーチ、プレゼンテーション、ペア・グループ活動。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（毎日1時間程度）・日常的に国内外のニュースに触れ、その内容を英文でまとめる。・英語日記を書く。復習（毎回2時間）・学習した英文の音読練習、暗唱、サマリー・国内外のニュースを自分の言葉で表現できる準備・プレゼンテーションの準備

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加 30% テスト 30% プレゼンテーション 30% 提出物 10%

<教科書>

<参考書>

竹下 厚志（2021年2月25日） SDGs英語長文Core 三省堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、課題への取り組み方
2	テーマ学習 1-1	英文の理解・音読
3	テーマ学習 1-2	英文の取り込み・再生
4	①テスト②テーマ学習 2-1	①口頭テスト②英文の理解・音読
5	テーマ学習 2-2	英文の取り込み・再生
6	プレゼンテーション 1	学習した内容+αで“My English”による自己表現
7	テーマ学習 3-1	英文の理解・音読
8	テーマ学習 3-2	英文の取り込み・再生
9	①テスト②テーマ学習 4-1	①口頭・筆記テスト②英文の理解・音読
10	テーマ学習 4-2	英文の取り込み・再生
11	①テスト②クイックレスポンス・パラフレーズトレーニング 1	①口頭・筆記テスト②学習済みの英文を使ったQAおよび言い換え表現訓練 1
12	クイックレスポンス・パラフレーズトレーニング 2	学習済みの英文を使ったQAおよび言い換え表現訓練 2
13	クイックレスポンス・パラフレーズトレーニング 3	学習済みの英文を使ったQAおよび言い換え表現訓練 3
14	プレゼンテーション 2	学習したテーマをもとにしたプレゼンテーション
15		
16		

科目コード	65040				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スピーキング・スキル				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、ニュース記事や動画等を活用し、基礎的な英語発信能力から、論理的なプレゼンテーション能力までを段階的に習得することを目的とする。授業の前半では、1つのトピックに対し3回連続のサイクルでアプローチし、1回目は「音読・重要文の暗唱・部分リテリング」、2回目は記事全体の要約と論理構成の強化、3回目は関連リサーチに基づく独自の提案プレゼンテーションを行う。これにより、知識としての英語を、実際の対話で運用できる「自動化されたスキル」へと高めることをねらいとする。授業の後半では、社会的な課題に対する継続的な

<授業の到達目標>

(1) 身近な話題について、事前の準備なしに英語を話し始め、5秒以上の不自然な沈黙を作ることなく1分間継続してコミュニケーションを図ることができる。(2) ニュース記事や動画等から得た情報を正確に把握し、暗唱した重要フレーズやキーワード、および視覚資料を活用しながら、自分の言葉で論理的に要約して伝えることができる。(3) 現代社会における特定の課題に対し、自らのリサーチに基づいた意見や解決策を加え、聞き手が理解しやすい構成で、説得力のある発表を行うことができる。

<授業の方法>

(1) 帯活：Small Talk (15分) (2) 導入：新しいインプット（ニュースの視聴、記事の精読など）の理解 (10分) +チャンキング (10分) (3) 練習1：パラグラフごとの音読、重要文の暗唱、部分リテリング (30分) (4) 練習2：メモ・キーワードのみを見て、学習した内容を1分程度で要約 (20分) (5) 展開：リサーチもしくはディスカッション（内容に関連する事実を調べたり、自分ならどうするかを短く話し合う） (10分) (6) 終末：リフレクションシートの記入 (5分) ※ただし、1つのトピックを扱う3回の授業の中で、各ステップにかかる時間配分（比重）を段階的に変化させる※課題の受け渡し・学習管理には、Googleクラスルームを活用する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 ※英語を使って、事実・自分の考え・気持ちを伝え合うことが常態化した授業である

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

合計2時間程度<予習>次回のトピックに関する語彙の発音・意味調べと、動画の視聴・記事の内容把握<復習> 授業で練習した重要フレーズの音読・暗唱を繰り返し、内容を自分の言葉でリテリングする練習を行うこと。再度Small Talkや対話を行う際、より流暢に、かつ深みのある内容で即興発話ができる状態まで定着させること。また、最終プレゼンに向けた関連リサーチを継続すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度・課題への取り組み 30%、中間試験（リテリング+自分ごと）30%、期末試験（プレゼンテーション）40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、Small Talk、音読
2	Topic 1: (1) 再現	身近な話題に関するニュース記事の内容理解、パラグラフごとの音読、重要文の暗唱、部分リテリング
3	Topic 1: (2) 要約	記事全体の要約、論理展開とつなぎ言葉
4	Topic 1: (3) 自分ごと	事実や自分の考え、気持ちなどの整理
5	Topic 2: (1) 再現	社会的な話題に関する記事の内容理解、パラグラフごとの音読、重要文の暗唱、部分リテリング
6	Topic 2: (2) 要約	記事全体の要約、論理展開とつなぎ言葉
7	Topic 2: (3) 自分ごと	事実や自分の考え、気持ちなどの整理
8	中間試験 (1)	第2回～第7回の内容に基づくパフォーマンス・テスト（リテリング+自分ごと）
9	中間試験 (2)	第2回～第7回の内容に基づくパフォーマンス・テスト（リテリング+自分ごと）
10	プレゼンの論理構成	継続して調査してきたリサーチの簡易メモを整理し、プレゼンの論理構成を固める。

11	プレゼンの初稿と相互フィードバック	宿題で作成した原稿を共有する。内容面（論理性）と言語面（語彙・表現）からペア・グループでフィードバックを行う。
12	スライドの作成とプレゼン練習	推敲した原稿と宿題で作成したスライドを用い、実際に発表してみる。デリバリー（視線・声・表情など）を確認し、暗唱を目指して反復練習する。
13	期末試験（1）	プレゼン発表とフィードバック
14	期末試験（2）	プレゼン発表とフィードバック、全体の総括・振り返り
15		
16		

科目コード	35211				区 分	コア科目			
授業 科目名	スポーツアナリティクス I				担当者名	仙波 慎平／佐藤 伸之			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・実 習	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、様々な競技でデータの活用が進んでおり、スポーツアナリストが活躍するようになった。スポーツアナリティクスと呼ばれるデータ分析は統計学を背景とした手法が用いられ、スポーツ統計とも呼ばれており、データサイエンスとも密接なかわりを持つ。この実習では、スポーツにおけるデータの測定・分析を実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

高度情報化社会はスポーツ界にも押し寄せており、特に近年のトップスポーツでは「スポーツも情報戦の時代」と言われている。情報をうまくつかうことは、アスリートのパフォーマンス向上のみならずトップスポーツのマネジメントにおいて必要不可欠である。本授業では、スポーツ界のさまざまなフィールドにおいて、情報の収集、分析、提供を効果的にを行い、意思決定者を強力に支援できるエキスパートになるための基礎を学び、社会・職業生活に応用可能な知見の修得を目指す。

<授業の方法>

本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面で活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。毎授業PCを使用するため、PCは必須とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（3~5人グループに分かれ、課題発見・分析・考察・プレゼン）を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前回の授業内容の確認テストの準備（1時間程度）、振り返りレポートおよび事前課題の提出（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組態度40%。課題レポート点30%。実習課題の提出・評価点30%。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	ゲームパフォーマンス分析とは？	ゲームパフォーマンス分析の概要を知る
3	ゲームパフォーマンス分析の実践	実践活動
4	量的分析とは？	量的分析の方法
5	質的分析とは？	質的分析の方法
6	映像分析とは？	映像分析の方法
7	データ分析	データ分析の方法・実践
8	動作分析（1）	走動作に関する映像を撮影し、分析する。
9	動作分析（2）	跳躍動作に関する映像を撮影し、分析する。
10	動作分析（3）	投動作に関する映像を撮影し、分析する。
11	動作分析（4）	打動作に関する映像を撮影し、分析する。
12	動作分析（5）	シュート動作に関する映像を撮影し、分析する。
13	グループワーク	課題抽出から分析を行う。
14	プレゼン発表	プレゼン発表
15		
16		

科目コード	37200				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツイベント論 [週2]				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

・本授業は、スポーツイベントをスポーツマネジメントおよびスポーツマーケティングの中核的な実践領域として捉え、その仕組みや役割、運営の基本を学ぶ科目である・スポーツイベントの歴史や政策、産業構造などの基礎知識を理解するとともに、地域活性化や観光、メディアビジネスとの関係について整理する・講義と個人ワークを通して、スポーツイベントを「誰のために何を提供するのか」という視点から考え、最終的には条件に応じたイベント企画を構想できる力を身につける

<授業の到達目標>

1. スポーツイベントの基本的な仕組み（構造や流れ）や役割について説明できる 2. スポーツイベントを構成する要素や社会的な価値を整理して説明できる 3. 与えられた条件のもとで、スポーツイベントの基本的な企画を構想できる

<授業の方法>

・本授業は、講義と個人ワークを組み合わせる形式で実施する・前半はスポーツイベントの仕組みや役割を中心に基礎知識を学び、後半はイベントの企画を段階的に行う・各回において具体的な事例や問いを提示し、学生は個人で課題について考察する・実際のスポーツイベントを題材とした分析や企画課題を通して、学んだ知識を活用する力を養う

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・各回においてスポーツイベントに関する具体的な事例や課題を提示し、学生は個人で分析・考察を行う・既存のスポーツイベントを題材に、その目的や構造、課題について整理する活動を行う・後半では、条件に基づいたスポーツイベントの企画を段階的に作成し、学習内容を活用する機会を設ける

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回のテーマに関する課題や問いについて、自身の考えを整理しておく（30分）復習：授業で扱った内容や事例をもとに、自身の考えを見直し、スポーツイベントの理解を深める（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業態度 30%、授業課題（ミニワーク・振り返り） 30%、テストおよび期末課題（イベント企画） 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

一般社団法人日本イベント産業協会（2024年1月） スポーツイベント検定公式テキストスポーツイベントの企画・運営に携わる人のための教科書 株式会社UDジャパン

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、スポーツイベントの位置づけ
2	スポーツイベントとは	定義、構成要素、効果、スポーツイベントのマネジメント
3	スポーツイベントの歴史と政策	近代スポーツとイベントの発展、日本のスポーツ政策とイベント
4	イベントの基礎知識	イベント内容の構造、イベントの企画・計画とマネジメント
5	スポーツイベントのマーケティング	イベント産業、ターゲット設定、スポンサー、集客の考え方
6	地域活性化とスポーツイベント	地域経済への影響、地域資源との関係、都市戦略としてのスポーツ
7	スポーツイベントとツーリズム	観光との連動、スポーツツーリズムの考え方
8	スポーツイベントとテクノロジー	デジタル技術、データ活用、今後のスポーツイベントの可能性
9	スポーツイベントと都市経営	スポーツを活用したまちづくり、都市経営における役割
10	前半まとめ	前半内容の知識確認とイベントの基礎
11	スポーツイベント企画の基本構造	イベントの事例分析し、企画に必要な要素の整理
12	スポーツイベント企画とプロジェクトマネジメント	企画の目的・ターゲット・内容を設計し、イベントの全体像を構想
13	スポーツイベント企画とリスクマネジメント	想定されるリスクや運営上の課題を整理し、企画の改善と統合
14	全体まとめ	イベントの企画実践課題（与えられた条件に基づき、企画書を作成）
15		

科目コード	62030				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ医学 I				担当者名	濱浪 一則			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎知識について理解する。そのために、上肢・下肢・体幹の主となるスポーツ外傷の病態、評価方法および重篤な外傷・年齢・性差によるスポーツ外傷の特徴の習得することをねらいとする。

<授業の到達目標>

日本スポーツ協会アスレティックトレーナー試験に合格できるよう知識を修得すること。

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書、配布資料などを用いて予習する。配布資料の空欄を埋め授業に備える。授業で学んだ内容を復習し、事後課題を次回授業前に提出する。講義で学んだことを理解し、期末テストに備える。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事後課題15%、定期試験 85% 事後課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには、減点します。公欠課題は、欠席授業回の事後課題と授業配布資料の空欄をうめたものを提出すること。提出のない場合は欠席扱いとする。

<教科書>

日本スポーツ協会（2024年3月25日） アスレティックトレーナー専門基礎科目テキスト3 スポーツ医学概論 光文堂

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	総論	アスリートをサポートするスタッフのためのスポーツ医学概論
2	総論	整形外科的診断プロセス
3	総論	救急医学的診断プロセス
4	スポーツ外傷・障害と疾病メカニズムからみた病態特性	内科的病態
5	スポーツ外傷・障害と疾病メカニズムからみた病態特性	不活動に伴う生体反応と病態
6	代表的なスポーツ外傷・障害	頭部
7	代表的なスポーツ外傷・障害	胸腹部
8	代表的なスポーツ外傷・障害	腰部
9	代表的なスポーツ外傷・障害	肩関節・上腕
10	代表的なスポーツ外傷・障害	前腕・手・手指
11	代表的なスポーツ外傷・障害	前腕・手・手指
12	代表的なスポーツ外傷・障害	上肢の絞扼神経障害
13	代表的なスポーツ外傷・障害	大腿部
14	代表的なスポーツ外傷・障害	膝関節
15		
16		

科目コード	25203				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ栄養学				担当者名	眞鍋 芳江			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技者にとって良好なコンディションを維持し、競技力を向上させるためには栄養、運動ならびに休養のバランスが保たれていなければならない。このうち栄養はトレーニングの効果や競技成績に影響を及ぼす大変重要なものである。からだ作り・コンディション維持にかかわる栄養補給方法を科学的根拠に基づいた理論から学ぶ。

<授業の到達目標>

本講義では、からだ作り・コンディション維持に関連する栄養補給のために必要な栄養素の種類、量、摂取タイミングを学ぶ。また、競技特性や期分け、環境、ライフステージに合わせた適切な食事摂取を理解し、実践できる能力を身につける。

<授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進める。また、必要に応じて資料を配布し授業内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。 Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲・課題 30%、定期試験 70%

<教科書>

特になし

<参考書>

清野隼・虎石真弥・山口太一（2022） ケースで学ぶスポーツ栄養学 株式会社みらい
高田和子・海老久美子・木村典代（2020） エssenシャルススポーツ栄養学 市村出版
鈴木志保子（2018） 理論と実践 スポーツ栄養学 日本文芸社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ栄養学の概念・食事摂取の基本	スポーツ栄養学の概念、栄養学の基礎、競技者における食事の基本形
2	期分けによる栄養補給方法①（準備期）	外食の活用、生活環境と食事
3	期分けによる栄養補給方法②（試合期）	体調への配慮、補食の摂取
4	トレーニングとエネルギー消費量	身体活動や競技特性の違いによるエネルギー消費量
5	スポーツ競技者の身体組成と貯蔵エネルギー	身体組成の測定方法、競技別の身体特性
6	糖質補給	グリコーゲンの貯蔵および回復のための糖質摂取
7	たんぱく質摂取	からだ作りのためのたんぱく質摂取
8	減量・増量と食事管理	減量および増量の考え方、相対的エネルギー不足
9	カルシウム摂取	骨づくりのための食事管理
10	鉄摂取	貧血予防と食事管理
11	ビタミン摂取	コンディション維持のためのビタミン摂取
12	水分補給	熱中症予防と運動時に必要な水分補給
13	サプリメント	正しいサプリメントの使用法およびドーピング
14	食生活のチェック	自身の食生活の記録および分析
15		
16		

科目コード	25203				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツ栄養学 [PS用]				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

競技者にとって良好なコンディションを維持し、競技力を向上させるためには栄養、運動ならびに休養のバランスが保たれていなければならない。このうち栄養はトレーニングの効果や競技成績に影響を及ぼす大変重要なものである。からだ作り・コンディション維持にかかわる栄養補給方法を科学的根拠に基づいた理論から学ぶ。

<授業の到達目標>

本授業では、からだ作り・コンディション維持に関連する栄養補給のために必要な栄養素の種類、量、摂取タイミングを学ぶ。また、競技特性や期分け、環境、ライフステージに合わせた適切な食事摂取を理解し、実践できる能力を身につける。

<授業の方法>

パワーポイントによる講義形式で進めるとともに、授業内容に基づいたテーマについてディスカッション、グループワークを行う。Google Classroomを活用し、授業資料や課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題点（レポート課題，意見交換、小テスト） 60%、最終課題 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

清野隼・虎石真弥・山口太一（2022） ケースで学ぶスポーツ栄養学 株式会社みらい
高田和子・海老久美子・木村典代（2020） エッセンシャルスポーツ栄養学 市村出版
鈴木志保子（2018） 理論と実践 スポーツ栄養学 日本文芸社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	スポーツ栄養学の概念	スポーツ栄養学の概念、栄養学の基礎
2	食事摂取の基本	競技者における食事の基本形
3	期分けによる栄養補給方法①（準備期）	外食の活用、生活環境と食事
4	期分けによる栄養補給方法②（試合期）	体調への配慮、補食の摂取
5	トレーニングとエネルギー消費量	身体活動や競技特性の違いによるエネルギー消費量
6	スポーツ競技者の身体組成と貯蔵エネルギー	身体組成の測定方法、競技別の身体特性
7	糖質補給	グリコーゲンの貯蔵および回復のための糖質摂取
8	たんぱく質摂取	からだ作りのためのたんぱく質摂取
9	減量・増量と食事管理	減量および増量の考え方、相対的エネルギー不足
10	カルシウム摂取	骨づくりのための食事管理
11	鉄摂取	貧血予防と食事管理
12	ビタミン摂取	コンディション維持のためのビタミン摂取
13	水分補給	熱中症予防と運動時に必要な水分補給
14	サプリメント	正しいサプリメントの使用法およびドーピング
15		
16		

科目コード	62027				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を理解し、科学的根拠に基づいた予防対応の計画および実践に必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。ここでは、発症要因や予防法の考え方、スポーツ動作（歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作、跳躍動作、投動作、あたり動作など）に関するそれぞれのバイオメカニクスおよび動作に影響をあたえる機能的と体力的要因、さらに外傷・障害の発生機転となるスポーツ動作の特徴とメカニズムについて学習する。

<授業の到達目標>

安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の目的や意義およびJSP0-ATとして果たすべき役割について説明できる。安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を理解し、科学的根拠に基づいた予防対応を計画し実践できることを目標とする。

<授業の方法>

講義。予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有3～4人のグループに分かれ、動画撮影、分析を行い、発表を行う。また、ディスカッション、グループワークを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次の授業内容の範囲まで90分ほど時間をかけて教科書を読み、予習課題に取り組んでくること。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 60％（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）、最終課題・発表（最終課題、発表）40％

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」（公財）日本スポーツ協会

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷）『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念	意義、組織と役割、ICTやIOTの活用
3	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における役割	組織、対象、環境、競技特性
4	スポーツ外傷・障害の予防	考え方、疫学調査、発生要因、プログラムの立案と介入
5	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応概論	競技・種目特性
6	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応①	予防・再発予防としての動作の見方～走動作～
7	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応②	予防・再発予防としての動作の見方～跳動作～
8	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応③	予防・再発予防としての動作の見方～方向転換動作～
9	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応④	予防・再発予防としての動作の見方～投球動作～

10	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑤	予防・再発予防としての動作の見方～打撃動作～
11	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑥	予防・再発予防としての動作の見方～泳動作～
12	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑦	予防・再発予防としての動作の見方～あたり動作～
13	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑧	予防・再発予防としての動作の見方～滑走動作～
14	ICT及び各種テクノロジーを活用したコンディショニング事例	コンディショニング評価とAIを用いた画像解析
15		
16		

科目コード	35219				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ産業論 [週2]				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、スポーツ産業の成り立ちから現状について、その特性や概略をスポーツ産業全体から学ぶ。また、スポーツビジネスの現場で課題になっている事柄についてワークなどを通じて、自ら考えることで、スポーツビジネスに対する理解をより深める

<授業の到達目標>

1) スポーツ産業の特性を知る 2) スポーツ産業の成り立ちをする 3) スポーツ産業の現場で課題となっている事柄について分析し、自分なり意見を持ち説明することができる

<授業の方法>

教科書を中心とした一斉授業とワークを実施する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業テーマについて、資料やインターネット、新聞記事等で事前学習を行う毎回、1時間程度の予習時間、講義内容のまとめ・理解、課題の提出に1時間の復習時間が必要である。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30% 授業課題評価 30% レポート課題(授業時間内及び中間・最終) 40% 各回毎に授業課題または、レポートを1週間以内に提出し、その都度フィードバックを行う

<教科書>

原田宗彦（2021） スポーツ産業論第7版 杏林書院

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・進化するスポーツ	授業の説明、スポーツ産業の萌芽と発展、複合領域の発展
2	スポーツ施設産業	スポーツ施設産業概観、スタジアム・アリーナ改革
3	スポーツメディア産業	スポーツメディア産業の系譜と新たなメディア
4	スポーツ用品産業	我が国のスポーツ用品産業の歩み、外国メーカーの市場規模と推移
5	スポーツ参加者を知る：するスポーツ	スポーツ政策とスポーツ参加人口の拡大、するスポーツの現状と実態
6	スポーツファンを知る：みるスポーツ	「見るスポーツ」のビジネス規模
7	スポーツサービスと消費行動	サービス産業としてのスポーツサービス
8	フィットネスクラブのマネジメント	フィットネス市場の概況・今後の課題
9	スポーツイベントの社会・経済的インパクト	スポーツイベントに期待される効果
10	スポーツイベントとスポンサーシップ	スポーツにおけるスポンサーシップの発展と現状、特徴とその効果
11	地域スポーツマネジメント	スポーツ政策と地域スポーツの現状と課題
12	スポーツツーリズムの発展	スポーツツーリズムの現状、定義と特徴
13	地域スポーツコミッションの役割	スポーツを活用した地域活性化
14	講義のまとめ	科目全体のまとめ
15		
16		

科目コード	37510				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ施設論 [週2]				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

フィットネス業界は、2019年（平成31年）には、売上高4,939億円（前年比3.2%増）、施設数6,188軒（前年比6.38%増）と総合型クラブが業界を牽引してきました。しかし、この10年の間に、24時間営業ジムやサーキットジム、ホットヨガスタジオなどの小規模業態が登場し、他業種からの参入も活性化しています。また、2020年年初からのコロナ禍により、ホームフィットネスや健康関連アプリサービスも台頭してきました。この授業では「民間スポーツ施設」にフォーカスをあて、社会環境、業界動向、事業構造等の事例を通じて

<授業の到達目標>

1. 体系的にフィットネスクラブマネジメントに関わる知識・技術を身につけている 2. フィットネス業界の現状を理解し、自身でマネジメントに関する考えを述べることができる 3. 国家資格である「フィットネスクラブマネジメント《ベーシック》」を取得するのに必要な知識・技能を習得している

<授業の方法>

・本授業は、講義と個人ワークを繰り返しながら学びを深める形式で実施する・各回においてフィットネス現場での具体的な事例や問いを提示し、学生は個人で課題について考察する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・実際のスポーツ現場で起こる事象をもとに課題を設定し、学生が個人で対応策を検討する・学生の考えを共有し、多様な視点に触れる機会を設ける

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回のテーマに関する課題について、自身の考えをまとめておく（30分）復習：授業で扱った内容や事例をもとに、自身の考えを見直し、課題に対する理解を深める（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、 授業課題・レポート 40%、振り返りテスト30%

<教科書>

一般社団法人日本フィットネス産業協会（2024年4月） フィットネスクラブマネジメント公式テキスト Vol.4 Basic（初級）

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方フィットネス産業の概要
2	フィットネス産業	フィットネス産業の現状、歴史、特徴健康施策の概要と動向
3	健康づくり	生活習慣病とその予防栄養・運動・休養高齢者の健康づくり
4	運動・トレーニングの基礎	運動生理学、トレーニングの基礎
5	店舗運営①	フロント業務、ジム運営業務
6	店舗運営②	スタジオ運営業務、プール運営業務
7	店舗運営③	イベントの企画・運営付帯事業クラブ内での緊急対応
8	前半授業まとめ	振り返り課題の実施
9	顧客マネジメント①	顧客対応と接客の心構え入会問い合わせ・見学者への対応顧客対応と課題解決
10	顧客マネジメント②	顧客対応と接客の心構え入会問い合わせ・見学者への対応顧客対応と課題解決
11	チームワークとコミュニケーション	組織と業務分担の考え方仕事の進め方コミュニケーションの重要性リーダーの役割とフォロワーの役割
12	施設・設備管理の意義と重要性	総合クラブの施設内容管理の概念と基本
13	労働・安全衛生	労働者の保護職場の安全衛生の基本感染症対策
14	授業全体のまとめ	振り返り課題の実施
15		
16		

科目コード	25307				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ生理学				担当者名	吉岡 利貢			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、筋の形態的・機能的な特徴の把握、運動時の呼吸循環反応、運動時の代謝とホルモン調節など、様々な観点から運動の生理的機序を習得させ、さらにそれらの各種トレーニングによる効果などについて理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

運動生理学の基礎的な理論についての理解はもとより、最新の研究成果についての情報も収集しながら、実践的・実的な知識を習得できる。また、これらを理解した上で、健康増進および競技パフォーマンスの向上のための方法について考えることができる。

<授業の方法>

講義

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）5、6人のグループに分かれ、授業テーマに対する意見をグループで共有する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各テーマに関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくこと。（所要時間：2時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 毎回の評価：5点×15回（確認テスト＋レポート提出）2) 期末レポート評価：25点期末レポートは、毎回の授業で課すレポートをまとめたものに総合考察を付けて提出してもらいます。毎回のレポート評価は提出点のみとし、期末レポートで内容まで評価します。

<教科書>

勝田茂（2015年3月） 入門運動生理学 杏林書院

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	運動生理学とは	運動生理学の研究史
2	骨格筋の構造と機能	骨格筋の構造の理解、筋線維タイプと競技種目特性
3	筋力・筋パワー	筋収縮の様式、筋力に影響する要因とトレーニング効果
4	運動とエネルギー供給系	TCAサイクル、ATP-PC系・解糖系・酸化系
5	筋エネルギー代謝とトレーニング	各種トレーニングとエネルギー代謝
6	運動時の糖質・脂質・蛋白代謝	代謝とは、糖質・脂質・蛋白代謝の概要
7	運動とホルモン	筋肥大のメカニズム、筋肥大に影響する要因
8	運動と神経	ニューロンと興奮の伝導、運動単位の動員様式
9	運動と酸素摂取	呼吸の基礎概念、最大酸素摂取量、酸素借
10	無酸素性作業閾値（AT）	ATとは、ATを規定する因子、トレーニングとAT
11	体温と運動パフォーマンス	体温に影響する要因、運動と体温変化
12	スポーツと遺伝子	持久系能力に関連する遺伝子、スプリント・パワー系能力に関連する遺伝子
13	筋疲労の要因	筋機能の特性、遺伝の影響
14	トップアスリートの特性	呼吸循環機能、筋腱の構造と機能
15	まとめ	本講義のまとめ
16		

科目コード	40121				区 分	コア科目			
授業科目名	ソフトボール [PP・PS男子+他学科男子]				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

<授業の到達目標>

1) 主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができるようになる。 2) チームや自身の課題を発見し、チームや自身の考えたことを他者に伝えることができるようになる。 3) ソフトボールのルールやマナーを身につけている。 4) ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できるようになる。

<授業の方法>

1) 実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 2) チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通じたディスカッションを実施する。 3) タブレット・スマホ等 を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（レポート課題）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します（課題レポート②として成果を提出）。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1) 予習：参考書等を用いて事前にソフトボールの技能に関する仕組みを理解する。課題レポート②についての取り組みも予習とする。（2時間程度） 2) 復習：毎回の授業後に配布された振り返りシートに授業の内容等を記入する（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

<教科書>

なし

<参考書>

公益財団法人日本ソフトボール協会 中学校部活動におけるソフトボール指導の手引き
NPO法人日本ティーボール協会編 ティーボール入門

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法の工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト②

13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト③
14	ソフトボールの実践（8）	ソフトボールの実践（まとめ）、紅白戦で実践練習、課題レポート作成
15		
16		

科目コード	40121				区 分	コア科目			
授業科目名	ソフトボール [PP・PS男子+他学科男子]				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

<授業の到達目標>

1) 主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができるようになる。 2) チームや自身の課題を発見し、チームや自身の考えたことを他者に伝えることができるようになる。 3) ソフトボールのルールやマナーを身につけている。 4) ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できるようになる。

<授業の方法>

1) 実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 2) チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通したディスカッションを実施する。 3) タブレット・スマホ等 を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（レポート課題）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します（課題レポート②として成果を提出）。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1) 予習：参考書等を用いて事前にソフトボールの技能に関する仕組みを理解する。課題レポート②についての取り組みも予習とする。（2時間程度） 2) 復習：毎回の授業後に配布された振り返りシートに授業の内容等を記入する（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

<教科書>

なし

<参考書>

公益財団法人日本ソフトボール協会 中学校部活動におけるソフトボール指導の手引き
NPO法人日本ティーボール協会編 ティーボール入門

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バットイング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法の工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト②

13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト③
14	ソフトボールの実践（8）	ソフトボールの実践（まとめ）、紅白戦で実践練習、課題レポート作成
15		
16		

科目コード	40121				区 分	コア科目			
授業 科目名	ソフトボール [PP・PS男子用]				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

<授業の到達目標>

1) 主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができるようになる。 2) チームや自身の課題を発見し、チームや自身の考えたことを他者に伝えることができるようになる。 3) ソフトボールのルールやマナーを身につけている。 4) ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できるようになる。

<授業の方法>

1) 実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 2) チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通したディスカッションを実施する。 3) タブレット・スマホ等 を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（レポート課題）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します（課題レポート②として成果を提出）。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1) 予習：参考書等を用いて事前にソフトボールの技能に関する仕組みを理解する。課題レポート②についての取り組みも予習とする。（2時間程度） 2) 復習：毎回の授業後に配布された振り返りシートに授業の内容等を記入する（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

<教科書>

なし

<参考書>

公益財団法人日本ソフトボール協会 中学校部活動におけるソフトボール指導の手引き
NPO法人日本ティーボール協会編 ティーボール入門

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法の工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト②

13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト③
14	ソフトボールの実践（8）	ソフトボールの実践（まとめ）、紅白戦で実践練習、課題レポート作成
15		
16		

科目コード	40121				区 分	コア科目			
授業科目名	ソフトボール [PP・PS男子用]				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールにおける「投・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につける。また、指導者として必要なソフトボールの技術指導、審判、運営が出来るようにすることを目指しゲーム形式でソフトボールを実施する。

<授業の到達目標>

1) 主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイするとともに、フェアなプレイを心掛け、健康・安全を確保することができるようになる。 2) チームや自身の課題を発見し、チームや自身の考えたことを他者に伝えることができるようになる。 3) ソフトボールのルールやマナーを身につけている。 4) ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できるようになる。

<授業の方法>

1) 実技（グラウンド）を通して、ソフトボールを学習し技能習得のために、随時その理論的背景を説明する。 2) チーム間でのグループワークの時間を設け、問題提起（授業ごとの課題）を通したディスカッションを実施する。 3) タブレット・スマホ等 を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。（レポート課題）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有ICTを活用し、自己の技能状況を分析し、仲間と協働して技能習得に向けた取り組みを実施します（課題レポート②として成果を提出）。また、授業毎にFBを実施し、自己の技能状況を把握します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1) 予習：参考書等を用いて事前にソフトボールの技能に関する仕組みを理解する。課題レポート②についての取り組みも予習とする。（2時間程度） 2) 復習：毎回の授業後に配布された振り返りシートに授業の内容等を記入する（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、課題レポートの内容30%、実技テスト30%

<教科書>

なし

<参考書>

公益財団法人日本ソフトボール協会 中学校部活動におけるソフトボール指導の手引き
NPO法人日本ティーボール協会編 ティーボール入門

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、ベースボール型スポーツについて	授業の進め方について、環境整備、安全管理、ベースボール型スポーツについて
2	ソフトボールの技術（1）	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール
3	ソフトボールの技術（2）	打撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール
4	試合の進め方、ソフトボールの指導法の工夫（1）	試合の進め方（ルール、審判法、安全管理、ポジション）について、ティーボールゲームの工夫
5	ソフトボールの指導法と工夫（2）	ティーボールゲームの工夫と実践①
6	ソフトボールの指導法の工夫（3）	ティーボールゲームの工夫と実践②
7	ソフトボールの実践（1）	ソフトボールの実践（アウト：三振、フライ、ゴロ）、紅白戦で実践練習
8	ソフトボールの実践（2）	ソフトボールの実践（アウト：ホースプレー、タッチプレー）、紅白戦で実践練習
9	ソフトボールの実践（3）	ソフトボールの実践（ダブルプレー：ゴロ、フライ）、紅白戦で実践練習
10	ソフトボールの実践（4）	ソフトボールの実践（タッチアッププレー）、紅白戦で実践練習
11	ソフトボールの実践（5）、実技テスト①	ソフトボールの実践（攻撃戦術：バント）、紅白戦で実践練習、実技テスト①
12	ソフトボールの実践（6）、実技テスト②	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、紅白戦で実践練習、実技テスト②

13	ソフトボールの実践（7）、実技テスト③	ソフトボールの実践（攻撃戦術：ポジショニング）、紅白戦で実践練習、実技テスト③
14	ソフトボールの実践（8）	ソフトボールの実践（まとめ）、紅白戦で実践練習、課題レポート作成
15		
16		

科目コード	40100				区 分	コア科目			
授業科目名	ダンス I (基礎) [PH・PP・PS女子用]				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体づくり運動の領域についても取り入れていく。

<授業の到達目標>

ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

<授業の方法>

創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング 有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

「知識・技能」, 「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 東京書籍
 文部科学省(2017) 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省(2018) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体づくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き(アイソレーション、ウェーブ等)とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法(アップとダウンのリズム等)
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの(小道具)を手がかりにした表現の導入(布、紙等を用いて)
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入(オノマトペダンス)
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入(美術館編、スポーツ編)
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察し、ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
14	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
15		

科目コード	40100				区 分	コア科目			
授業科目名	ダンス I (基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体づくり運動の領域についても取り入れていく。

<授業の到達目標>

ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

<授業の方法>

創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング 有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

「知識・技能」, 「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 東京書籍
 文部科学省(2017) 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省(2018) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体づくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き(アイソレーション、ウェーブ等)とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法(アップとダウンのリズム等)
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの(小道具)を手がかりにした表現の導入(布、紙等を用いて)
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入(オノマトペダンス)
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入(美術館編、スポーツ編)
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察し、ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
14	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
15		

科目コード	40100				区 分	コア科目			
授業科目名	ダンス I (基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体づくり運動の領域についても取り入れていく。

<授業の到達目標>

ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

<授業の方法>

創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング 有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

「知識・技能」, 「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 東京書籍
 文部科学省(2017) 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省(2018) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体づくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き(アイソレーション、ウェーブ等)とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法(アップとダウンのリズム等)
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの(小道具)を手がかりにした表現の導入(布、紙等を用いて)
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入(オノマトペダンス)
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入(美術館編、スポーツ編)
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察し、ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
14	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
15		

科目コード	40100				区 分	コア科目			
授業科目名	ダンス I (基礎) [PP・PS用]				担当者名	小澤 尚子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、中学校教諭一種免許状(保健体育)ならびに高等学校教諭一種免許状(保健体育)の必修科目である。この授業の目的は、学習指導要領に基づいたダンスの授業の展開方法について理解し、ダンスの基本的な技能を身に付けることである。具体的な内容は中学校・高等学校学習指導要領のダンス領域を構成する創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスとし、ダンス分野に関連がある体づくり運動の領域についても取り入れていく。

<授業の到達目標>

ダンスの基本的な知識と技能を身につけ、実践することができるようになる。仲間の表現や動きを認め合い協調性をもって課題に取り組むことができるようになる。単元計画を理解し、安全管理も含めた適切な授業運営に関する知識を獲得する。

<授業の方法>

創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験し、指導のポイントをとらえていく。技能試験は個人の技能評価のためのリズムダンスと創作ダンスを組み合わせた試験課題を実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング 有創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの学習内容から主なものについて実技を通して体験する

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次回取り扱う内容について自分で調べて指定の方法で成果を提出すること。復習として、毎時提出のレポートに授業で学んだステップの種類や教育要領でのダンスの取り扱いをまとめ、提出すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

「知識・技能」, 「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を総合的に評価します。技能 40%、毎時のレポート 30%、課題 30%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

文部科学省(2018) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 東京書籍
 文部科学省(2017) 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房
 文部科学省(2018) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要・評価方法・講義ルール等の説明、ウォームアップ
2	体づくり運動	ウォームアップ、体ほぐしの運動
3	フォークダンス(1)外国編	ハーモニカ、エース・オブ・ダイヤモンド、オクラホマミキサー他
4	フォークダンス(2)日本編	ソーラン節、阿波踊り他
5	現代的なリズムのダンス(1)	上半身の動き(アイソレーション、ウェーブ等)とアームモーションの習得
6	現代的なリズムのダンス(2)	基本的なステップの習得と指導法(アップとダウンのリズム等)
7	現代的なリズムのダンス(3)	変化のある動きを組み合わせたステップの習得
8	現代的なリズムのダンス(4)	現代的なリズムのダンスの創作方法と指導法
9	創作ダンス(1)	もの(小道具)を手がかりにした表現の導入(布、紙等を用いて)
10	創作ダンス(2)	言葉のイメージを手がかりにした表現の導入(オノマトペダンス)
11	創作ダンス(3)	日常動作を手がかりにした表現の導入(美術館編、スポーツ編)
12	授業計画(1)	ダンス授業の指導法について、教材・教具・教師行動から考察する。
13	授業計画(2)	ダンス授業における配慮事項について考察し、ダンス授業の単元計画と指導案を作成する。
14	まとめ	単元計画や指導法について考察したものをまとめ、発表する。
15		

科目コード	61008				区 分	コア科目			
授業 科目名	トレーニング演習Ⅱ(応用) [PS用]				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

コンディショニングについて理解を行いつつ、競技力向上のためには、高めた筋力をパワーやスピードに転換していく事が求められ、レジスタンストレーニング以外の様々なトレーニングを実践する事で総合的に体力要素の向上をさせていく必要がある。また、筋パワーを高める事は、機能的能力を改善し高齢者の転倒予防など生活の質を向上させる事にも寄与する。そこで、本授業では、体力諸要素である可動域、バランス、筋力、パワー、スピード・アジリティ、持久力等の各種トレーニングの立案・指導するために必要な知識と技能を習得することを目的とする

<授業の到達目標>

競技特性を分析を行い、各種トレーニングの目的を理解し、適切なフォーム（テクニック）や設定（プログラム）でトレーニングを実施できる基礎を習得する。

<授業の方法>

演習。オンデマンド課題と併用して行い、パワーポイントや動画での説明と実技を中心に実施する。また、指導実践の際はグループワーク・ディスカッションを行う。グーグルフォームにて省察レポートを提出させる。この科目は競技スポーツ科学科学生のみ履修できる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有基本的には実技をメインにて行う。5、6人のグループに分かれ、ディスカッション、グループワークを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 解剖学や生理学、トレーニング論等の基礎理論を確認しておく。（毎回、1時間程度）復習 授業での実技や要点などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題(期末試験) 50%、受講態度(授業の取り組み・グループへの貢献) 50%

<教科書>

<参考書>

NSCA ジャンパン 2018年1月30日 NSCA決定版 ストレngthトレーニング&コンディショニング第4版 ブックハウスHD
日本トレーニング指導者協会 2014年3月5日 トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版 大修館書店
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3巻 コンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業のねらい コンディショニング(トレーニング)の総論と正しい動作の理解	授業のねらいと進め方 体力、トレーニングとは トレーニングの原理・原則
2	可動域・柔軟性トレーニング	抑制・伸長テクニック 器具によるリリース 各ストレッチ等
3	コア・バランストレーニング	腹圧・IAPの獲得・向上 スタビリティトレーニング 神経筋・固有受容器トレーニング
4	筋力・パワートレーニング① 基本動作	基本動作獲得 スクワットジャンプ メディシンボール投げ等
5	筋力・パワートレーニング②とコーディネーション	プライオメトリクス コーディネーショントレーニング
6	スプリントスピードトレーニング	トリプルエクステンションの獲得 ウォールドリル ハードドリル等
7	アジリティトレーニング① (加速動作)	サイドステップ・クロスオーバー動作・加速動作の獲得 Tドリル等
8	アジリティトレーニング② (減速・停止動作)	パワーポジション・ステップ・減速・停止動作の獲得 アプローチから減速等 90度、180度切り返し等
9	代謝系・持久力トレーニング①	マルチステージテスト
10	代謝系・持久力トレーニング②	持久力トレーニング(LT OBLA VO2max強度) サーキットトレーニング
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	ウォーミングアップとクーリングダウンの方法と実際
12	各種トレーニング振り返り①	各種トレーニング振り返りと実践
13	各種トレーニング振り返り②	各種トレーニング振り返りと実践
14	期末試験 まとめ	期末試験 まとめ

15		
16		

科目コード	61014				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング科学Ⅱ(応用)				担当者名	田中 耕作			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、トレーニングの基礎的概念をベースに、各種体力（筋力、パワー、持久力など）を効果的に高めるためのトレーニング計画を立てる能力を養う。また、トレーニングの成否を判断するための体力の評価法についても学習する。

<授業の到達目標>

各々の課題に応じたトレーニングを計画し、トレーニングの成否を評価することができる。

<授業の方法>

講義と受講者による発表・討論を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（プレゼンテーション・ディスカッション）5、6人のグループに分かれてプレゼンテーションを行い、その内容についてディスカッションする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、参考図書（トレーニングの科学的基礎）および配布資料を熟読し、専門用語や理論の理解を深める（2時間程度）。事後学習として、授業内容を整理し、トレーニング理論と実践の関連をまとめた課題やレポートを作成する（1～2時間程度）。必要に応じてデータの整理・分析も行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（提出物を含む）60%、発表40%

<教科書>

<参考書>

宮下充正 トレーニングの科学的基礎 ブックハウスHD

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	トレーニングの基礎的概念①	トレーニングの原理・原則、量・強度・質のとらえ方
3	トレーニングの基礎的概念②	トレーニングの分類、負荷特性
4	トレーニングに関する最近の研究①	日本語論文の探し方と読み方
5	トレーニングに関する最近の研究②	英語論文の探し方と読み方
6	トレーニングに関する発表および討論①	発表、質疑応答、レポート作成
7	トレーニングに関する発表および討論②	発表、質疑応答、レポート作成
8	トレーニングに関する発表および討論③	発表、質疑応答、レポート作成
9	トレーニングに関する発表および討論④	発表、質疑応答、レポート作成
10	トレーニングに関する発表および討論⑤	発表、質疑応答、レポート作成
11	トレーニングに関する発表および討論⑥	発表、質疑応答、レポート作成
12	トレーニングに関する発表および討論⑦	発表、質疑応答、レポート作成
13	トレーニングに関する発表および討論⑧	発表、質疑応答、レポート作成
14	トレーニングに関する発表および討論⑨	発表、質疑応答、レポート作成
15		
16		

科目コード	40101				区 分	コア科目			
授業科目名	バスケットボール I (基礎)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。なお、安全かつ効

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことが出来る。2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することが出来る。3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：バスケットボールのルール、用具、技能に関して動画や書籍を通じて予備知識を学習しておくこと。（所要時間：1時間程度）事後学習：授業で実施した技能のについて、重要なポイントや発見したことをまとめておくこと。（所要時間：1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、実技テスト60%、知識レポート10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コートの理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦（5対5）
14	まとめ	実技試験
15		
16		

科目コード	40101				区 分	コア科目			
授業科目名	バスケットボールⅠ(基礎)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。なお、安全かつ効

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことが出来る。2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することが出来る。3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：バスケットボールのルール、用具、技能に関して動画や書籍を通じて予備知識を学習しておくこと。（所要時間：1時間程度）事後学習：授業で実施した技能のについて、重要なポイントや発見したことをまとめておくこと。（所要時間：1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、実技テスト60%、知識レポート10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コートの理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦（5対5）
14	まとめ	実技試験
15		
16		

科目コード	40101				区 分	コア科目			
授業科目名	バスケットボールⅠ(基礎)				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。なお、安全かつ効

<授業の到達目標>

1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことが出来る。2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することが出来る。3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：バスケットボールのルール、用具、技能に関して動画や書籍を通じて予備知識を学習しておくこと。（所要時間：1時間程度）事後学習：授業で実施した技能のについて、重要なポイントや発見したことをまとめておくこと。（所要時間：1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、実技テスト60%、知識レポート10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コートの理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦（5対5）
14	まとめ	実技試験
15		
16		

科目コード	28122				区 分	コア科目			
授業科目名	ビジネス心理学 [週2]				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（グループワーク・ペアワーク）	卒業要件	選択・2単位

<授業の概要>

「ビジネス心理学」は、産業活動に従事（労働）する人や組織に関する心理学の分野であり、多様な研究領域によって構成されている。主に「組織に所属する人々の行動の特性や心理を研究する“組織行動”」「組織経営の礎となる人事評価や処遇、人材育成について研究する“人的資源管理”」「働く人々の安全と心身両面の健康保持・促進の方策について研究する“安全衛生”」「成果の高いマーケティング戦略に生かすための消費者心理や宣伝・広告の効果を研究する“消費者行動”」の4つの領域である。学生のほとんどは、卒業後に就職し、組織（企業・団

<授業の到達目標>

「ビジネス心理学」における代表的な4つの研究領域について、基本的な理論や概念を理解し、自身の言葉で説明できるようになること、及び将来の働き方や労働環境を考え、「経営とワークライフ」についての知識を深めることを目標とする。

<授業の方法>

講義は対面授業およびグループディスカッション等によるアクティブ・ラーニングを実施する。ノートPC必携：GoogleClassroom、GoogleFormを活用したレジュメや課題の配布、資料の共有などICT活用に努める。（GoogleClassroomにアップしたレジュメを適宜、印刷またはダウンロードすること）出席確認は、毎授業時の中間確認：前半のポイント確認・GoogleForm入力、及び毎授業時の終了時：リフレクション（振り返り）シートの提出、ユニバーサルパスポート・スマホ(コード) 出席登録。授業内スライド等の写真撮影禁止。グループディスカッション等により理解を深めるが、各学生個人が意見を持ち、発表することを基本とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り：グループディスカッション、ペアワーク、グループワーク、発表など

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自身の将来の働き方や労働環境をイメージし、それらに関する興味・関心のある業界、職業、企業、組織等について、日頃から積極的にメディアなどでの情報を収集しておくこと（1時間程度必要）。復習：講義で学習したことの振り返り、レジュメ整理、事後課題など（1時間程度必要）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「毎授業時の中間確認：前半のポイント確認・GoogleForm入力 13%」「毎授業時の終了時：リフレクション（振り返り）シート 26%」※提出をもって出席とする「授業への取り組み状況 13%」期末試験：配布レジュメ・資料、自筆ノート（コピー、写真コピーは不可）持ち込み可 48%※講義に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

<教科書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<参考書>

指定しない。講義で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：講義の内容、進め方、成績評価の基準	イントロダクション 「ビジネス心理学」の4つの領域とは 「組織行動」「人的資源管理」「安全衛生」「消費者行動」
2	経営とワークライフ「HRM：人的資源管理」①	採用と面接～就職活動では何を問われているのか
3	「OB：組織行動」①	ワーク・モチベーション～やる気いっばいで働くには
4	「OB：組織行動」②	組織の情報処理とコミュニケーション～正確な情報共有と組織的的確な判断のために
5	「SH：安全衛生」①	仕事の能率と安全～生産性と安全性は両立するのか
6	「SH：安全衛生」②	職場の快適性・疲労・ストレス～毎日健康に働くために
7	「HRM：人的資源管理」②	キャリアの展開と生涯発達～人生をどう歩むか
8	「OB：組織行動」③	組織の変革と管理者のリーダーシップ～組織やチームを健全な成長へと導くには

9	HRM：人的資源管理」③	人事評価～公平な評価のために考えるべきこと
10	「CB:消費者行動」①	消費者行動～消費者心理がわかったら何の役に立つのか
11	「CB:消費者行動」②	消費者の価格判断と心的会計～「安い」「高い」とどうして思うのか
12	「CB:消費者行動」③	消費者の意思決定過程～消費者はどのような決め方をしているのか
13	日本企業の様々な変化	ビジネス心理学の理解と活用
14	期末試験：「ビジネス心理学」まとめテスト 総括：全体の振り返り	まとめテストの解答・解説全体の振り返り、これからの「ビジネス心理学」受講自己 評価
15		
16		

科目コード	28104				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	マーケティング総論 [週2]				担当者名	平岡 師玄哉			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、マーケティングの基本的な考え方や手法を学び、実社会におけるマーケティング活動の仕組みを理解することを目的とする。マーケティングを単なる販売技術としてではなく、顧客のニーズを捉え、価値を提供するための一連の活動として捉え、身近な商品やサービスの事例を通して学習を進める。授業では、基礎理論の理解に加え、実際の店舗やサービスを観察・分析する課題を取り入れ、理論と実践を結びつけながら理解を深める。これにより、日常生活や将来のビジネスにおいてマーケティングの視点を活用できる力を養う。

<授業の到達目標>

1. マーケティングの基礎概念（STP、4Pなど）を理解し、説明できる
2. 身近な商品やサービスについて、マーケティングの視点から分析できる
3. 顧客や市場の視点を踏まえ、簡単なマーケティング施策を考えることができる

<授業の方法>

本講義は、講義と個人ワークを組み合わせる形で進行する。前半ではマーケティングの基礎概念や理論について講義形式で学び、後半では身近な商品やサービスを題材とした観察・分析課題を通して理解を深める。特に、実際の店舗やサービスを対象とした調査活動を取り入れ、理論を現実の事例に当てはめて考える機会を設ける。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・身近な商品やサービスを対象とした観察・分析課題（オンデマンド課題）
・授業内での個人ワーク（購買行動の振り返りや事例分析）
・最終回におけるマーケティング提案の作成

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回のテーマに関する課題や問いについて、自身の考えを整理しておく（30分）
復習：授業で扱った内容や事例をもとに、店舗や商品を観察し理解を深める（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30%、授業課題 30%、レポート・まとめテスト 40%

<教科書>

<参考書>

今さらだけど、ちゃんと知っておきたい「マーケティング」 佐藤耕紀 同文館出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的、評価、マーケティングとは
2	マーケティングとは	マーケティングの全体像と顧客理解
3	STP①（セグメンテーション・ターゲット）	・セグメンテーションの考え方・ターゲット設定・身近な店の「誰向けか」を考える
4	STP②（ポジショニング）	・ポジショニング・競合との違い・「なぜその店を選ぶのか」を言語化
5	マーケティング・ミックス①	・4Pの枠組み・STPとの関係
6	マーケティング・ミックス②	・4Pの具体例・身近な事例分析・課題調査の説明
7	オンデマンド：調査①	店舗観察（STP・4P視点で整理）
8	オンデマンド：調査②	店舗観察（STP・4P視点で整理）
9	調査の振り返りと顧客視点	・調査結果の振り返り・4Pと4Cによる整理
10	マーケティング戦略の基本①	STPと4Pの関係、マーケティング戦略の基本的な考え方
11	マーケティング戦略の基本②	マーケティング視点による事例調査
12	マーケティング戦略の展開	多様な事例を通じたマーケティング戦略の理解
13	マーケティングの応用（企画）	マーケティング戦略の整理と提案の作成
14	まとめ	学びの振り返り
15		
16		

科目コード	3G200				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	ミクロ経済学 [再履修者用][週2]				担当者名	古松 丈周			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、ミクロ経済学の基本的な考え方について、需要と供給を中心に検討してゆく。そのうえで、不完全競争市場、ゲーム理論、市場の失敗についても検討し、現実の経済問題を経済理論から理解することを目的とする。

<授業の到達目標>

(1) 限界効用理論から需要曲線を導き出すことができる。(2) 限界生産力理論から供給曲線を導き出すことができる。(3) 不完全競争について説明することができる。(4) 市場の失敗について説明することができる。

<授業の方法>

講義形式で進める。適宜、問題演習を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり：シンク・ペア・シェア、ディスカッションなど。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習：次の講義のトピックについて調べておく（1時間程度必要）。・復習：レジュメを整理し、問題を解く（1時間程度必要）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義での課題（60%）と総復習課題（40%）

<教科書>

指定しない。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：経済学とは何か？授業の進め方、成績評価の方法	経済学とは何か、そして需要と供給について検討する。
2	限界効用理論	限界効用について、検討する
3	無差別曲線	無差別曲線について検討する
4	所得の変化と価格の変化と消費	所得の変化、価格の変化にともなう消費の変化について検討する
5	完全競争企業の生産行動	完全競争市場での企業の生産行動について検討する
6	損益分岐点と操業停止点、供給曲線	損益分岐点と操業停止点について検討する
7	市場均衡と安定性、長期均衡	市場均衡の安定性について検討する
8	独占企業の生産行動	独占企業の生産行動について、需要と供給から考える
9	ゲーム理論	ゲーム理論、ナッシュ均衡について検討する
10	余剰分析	余剰分析を用いて、市場の効率性について検討する
11	市場の失敗（1）：外部経済	市場の失敗について、特に外部経済について検討する
12	市場の失敗（2）：公共財	市場の失敗について、特に公共財について検討する
13	市場の失敗（3）：逆選択・モラルハザード	市場の失敗について、特に逆選択・モラルハザードについて検討する
14	総復習	総復習の課題を行います
15		
16		

科目コード	63005				区 分	コア科目			
授業科目名	レクリエーション演習				担当者名	高見 博子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツを手段として活用し、心の元気づくりを行うとともに、スポーツ・レクリエーション活動による健康増進効果を図る専門の人材を養成するプログラムの一環を担う。

<授業の到達目標>

レクリエーションという言葉の主旨を理解するとともに、スポーツ未実施者をスポーツ・レクリエーション活動に誘い、スポーツ・レクリエーション活動の楽しさと効果を伝え、継続へと繋げるための理論と実践方法を身につける。

<授業の方法>

スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。前時の講義内容の振り返りを、毎時において振り返りレポートを通じて行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前時に記録したノートや配布された資料をもとに授業の振り返りをする（30分程度）。また、与えられた課題に対し、参考書やインターネットを利用して情報収集に努め、レポート作成に取り組む（1時間30分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および振り返りレポートを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめレポート（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

（公財）日本レクリエーション協会 スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト「スポレク活動で健康寿命を延伸」 2019年

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、および授業におけるルールの確認
2	スポーツ・レクリエーション概論	スポーツ・レクリエーションとは、スポーツ・レクリエーション指導者の使命
3	スポーツ・レクリエーション生理学	日本人の生涯と高齢期の身体的特色、高齢期に訪れる危機、危機を回復する運動効果
4	スポーツ・レクリエーション心理学	高齢者の心理的特徴と運動やスポーツ・レクリエーションの心理的効果
5	スポーツ未実施者参加促進法	スポーツ未実施者参加促進法の進め方と体験会で活用できるスポレクワーク
6	スポーツ・レクリエーションの継続のための場づくり	活動の場づくりの必要性とははじめの一歩
7	スポーツ行政の仕組みと連携方法	何故、行政と連携なのか
8	動機付けの支援技術Ⅰ	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ、良好な集団作りの方法・アイスブレイキング、スポレクの効果を理解し意欲を高める言葉かけ
9	動機付けの支援技術Ⅱ	スポーツ未実施者を引き込む手法と楽しめる指導、対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術、継続意欲を高めるスポレク活動の展開
10	活動理解	コミュニケーションを深める展開方法とプログラム化する方法
11	安全管理の基礎	救急対応と救急体制の作り方
12	総合演習Ⅰ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その1
13	総合演習Ⅱ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その2
14	総合演習Ⅲ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その3
15		
16		

科目コード	63004				区 分	コア科目			
授業科目名	レクリエーション実習				担当者名	高見 博子			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツを手段として活用し、心の元気づくりを行うとともに、スポーツ・レクリエーション活動による健康増進効果を図る専門の人材を養成するプログラムの一環を担う。

<授業の到達目標>

レクリエーションという言葉の主旨を理解するとともに、スポーツ未実施者をスポーツ・レクリエーション活動に誘い、スポーツ・レクリエーション活動の楽しさと効果を伝え、継続へと繋げるための理論と実践方法を身につける。

<授業の方法>

スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。前時の講義内容の振り返りを、毎時において振り返りレポートを通じて行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有スライドと配布資料をもとに講義を展開するとともに、指導実践に向けた演習を行う。その他、グループワークを通じて本時の授業の理解を深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前時に記録したノートや配布された資料をもとに授業の振り返りをする（30分程度）。また、与えられた課題に対し、参考書やインターネットを利用して情報収集に努め、レポート作成に取り組む（1時間30分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および振り返りレポートを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめレポート（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

（公財）日本レクリエーション協会 スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト「スポレク活動で健康寿命を延伸」 2019年

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、および授業におけるルールの確認
2	スポーツ・レクリエーション概論	スポーツ・レクリエーションとは、スポーツ・レクリエーション指導者の使命
3	スポーツ・レクリエーション生理学	日本人の生涯と高齢期の身体的特色、高齢期に訪れる危機、危機を回復する運動効果
4	スポーツ・レクリエーション心理学	高齢者の心理的特徴と運動やスポーツ・レクリエーションの心理的効果
5	スポーツ未実施者参加促進法	スポーツ未実施者参加促進法の進め方と体験会で活用できるスポレクワーク
6	スポーツ・レクリエーションの継続のための場づくり	活動の場づくりの必要性とははじめの一歩
7	スポーツ行政の仕組みと連携方法	何故、行政と連携なのか
8	動機付けの支援技術Ⅰ	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ、良好な集団作りの方法・アイスブレイキング、スポレクの効果を理解し意欲を高める言葉かけ
9	動機付けの支援技術Ⅱ	スポーツ未実施者を引き込む手法と楽しめる指導、対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術、継続意欲を高めるスポレク活動の展開
10	活動理解	コミュニケーションを深める展開方法とプログラム化する方法
11	安全管理の基礎	救急対応と救急体制の作り方
12	総合演習Ⅰ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その1
13	総合演習Ⅱ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その2
14	総合演習Ⅲ	スポーツ未実施者参加促進法演習とスポーツ・レクリエーション指導実習その3
15		
16		

科目コード	25308				区 分	コア科目			
授業科目名	運動生理学演習 I				担当者名	眞鍋 芳江／十河 直太／伊藤 三千雄／田中 耕作			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、主に健康増進、生活習慣病の予防のために、運動を実際の生活に取り入れる場合に必要な基礎知識、測定や評価を理解し修得することを目的とする。これまでに「生理学」「運動生理学（基礎）」「トレーニング演習」「栄養学」「運動学」等にて学習した内容をもとに、身体運動に伴って生じる各器官（運動器系、神経-筋骨格系、呼吸器系、循環器系）の生理反応や身体機能について測定・評価を行う。実習を通じて、身近な生理現象から運動生理学について理解を深める。なお、競技力向上のための運動生理学については、「体力学実習」の授業に

<授業の到達目標>

各種測定機器を用いて、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能を測定・評価することができる。得られたデータについて論理的に考察し、レポートにまとめることができる。実習を通じ、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能について理論を理解し、実践に繋げることができる。

<授業の方法>

本授業は、複数の教員が担当するオムニバス授業である。テーマに沿った内容を電子資料やパワーポイント等を用いて解説するとともに、テーマについてディスカッション、グループワークを行う。小テストやレポート課題はGoogle classroomを用いて実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり測定で得られたデータについてグループでディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 40%、測定結果の考察やレポート課題 60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	講義概要の解説 各種測定と評価（1）	オリエンテーション、身体組成と必要栄養素量（概要）
2	各種測定と評価（2）	身体組成と必要栄養素量（エネルギー量）
3	各種測定と評価（3）	身体組成と必要栄養素量（たんぱく質）
4	各種測定と評価（4）	骨粗鬆症と運動の効果
5	各種測定と評価（5）	骨の測定評価
6	各種測定と評価（6）	データ分析と考察、まとめ
7	各種測定と評価（7）	身体組成と運動による変化
8	各種測定と評価（8）	運動と血圧応答
9	各種測定と評価（9）	運動と血液の役割
10	各種測定と評価（10）	運動時の呼吸循環系応答：最大酸素摂取量の測定実習
11	各種測定と評価（11）	最大酸素摂取量の評価
12	各種測定と評価（12）	呼吸循環応答の測定データの分析と考察
13	各種測定と評価（13）	熱中症とその対策：運動と体温調節
14	各種測定と評価（14）	熱中症とその対策：運動と体液バランス
15		
16		

科目コード	21204				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	英語科教育法 I (基礎)				担当者名	井上 聡			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、英語科教育の過去と現在について理解を深め、これからの英語教育の方向性について自身の教育観を醸成することです。そのような資質を高めるため、本授業では、グループワークを軸として、英語教育理論、言語活動、教育実践に関する討論・発表が中心となります。事前課題の「問い」を通して問題を発見し、他者との意見交換を通して問題を解決し、プレゼンテーションや相互評価を通して、英語教師としての資質・能力を高めます。学修成果としては、協働性、批判的思考力、省察力、デジタル活用力を求めます。なお、この授業はブレンド

<授業の到達目標>

1. 英語科教育の専門用語を深く理解し、体系化できる。2. 協同学習に主体的に参加し、多様な役割を担いつつ、グループ・ワークに貢献できる。3. 未来の英語教師として、自身の意見を適切かつ的確に発信できる。

<授業の方法>

グループ討論 (30分) 解説 (30分) プレゼンテーション (30分) ※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク (事前課題の教えあい、模擬授業)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：問いに対する回答(ノートのスクリーンショットを提出) (90分程度) 復習：理解度確認テスト(30分程度) + 意見交換(10分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2 (初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。) およびディプロマポリシー5 (初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。) と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前課題 30%, 理解度確認テスト 30%, プレゼンテーション 20%, 意見交換 20%

<教科書>

JACET教育問題研究会 (2017年11月30日) 英語科教育の基礎と実践ーリフレクティブな教師を目指してー 三修社

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	シラバスの説明、シミュレーション (事前課題、グループワーク)
2	第1章 外国語教育の目的と意義	日本の外国語教育の方向性、CEFRの言語教育観
3	第2章 英語教育課程と学習指導要領	教育課程と学習指導要領、日本の英語教育課程の今後の方向性
4	第4章 第二言語習得と教授法	SLA研究からの知見、教授法
5	第4章 学習者論	言語習得とは、自律と自立、学習者要因、英語学習に成功する学習者
6	第5章 英語教師論	教員として求められる資質・能力、言語教師の役割、英語教師の成長
7	まとめ	復習テスト
8	第6章 音と文字の指導第7章 リスニング指導	基本概念とリスニング指導、基本概念とリーディング指導
9	第8章 スピーキング指導第9章 リーディング指導	基本概念とスピーキング指導、基本概念とリーディング指導
10	第10章 ライティング指導第11章 文法指導	基本概念、協同学習
11	第12章 語彙指導第13章 異文化指導	基本概念と語彙指導、基本概念と異文化指導
12	第14章 評価とフィードバック第15章 教材・ICTの活用	協働学習
13	第16章 授業計画第17章 指導案の作成	指導案の作成 (概案)
14	第18章 授業実践	指導案の作成 (概案)
15		
16		

科目コード	26202				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	英語学概論				担当者名	伊藤 仁美			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の全体目標は、中学校および高等学校における外国語科の授業に質する英語学的知見を身につけることである。魅力的な英語授業を展開するには、英語力・教授力のほかに、英語とはどのような言語なのかを深く多面的に知っておく必要がある。本授業では、英語のしくみ・特徴について、日本語と比較しながら考察し理解を深めていく。

<授業の到達目標>

(1) 英語の音声の仕組みに関する基礎知識を身につけている【音声学・音韻論】 (2) 英語の単語・文法に関する体系的な知識を身につけている【形態論・統語論】 (3) 相手との関係性や文脈に応じて、適切に言外の意味を解釈し説明できる【語用論】 (4) 英語の歴史的変遷および国際共通語としての英語の実態について概説できる

<授業の方法>

(1) 前時の復習(10分) (2) 講義・説明(20分) (3) 個人・ペア演習(40分) (4) 小テスト(10分) (5) 小テストの解説(10分) (6) まとめ(10分) ※課題の受け渡し・学習管理には、Googleクラスルームを活用する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 ※個人・ペア演習では、問題集に取り組んだり、教え合ったりする。また、関連する情報や用例を付け加えながら要点を整理したり、学習内容に関連する記事を読んだりする。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

合計2時間程度<復習>・小テストを中心とした前時の学習内容を復習する(30分)・学習内容に関連する記事を読み、レポートを書く(60分) <予習>・学習内容に基づき、インターネットで用例を探したり、例文を考えたりする(30分)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)およびディプロマポリシー5(初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業参加度・レポート課題などの取り組み状況 30%、小テスト 20%、中間試験および期末試験 50%

<教科書>

<参考書>

三原健一・高見健一(2013年11月11日) 日英対照英語学の基礎 くろしお出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、言語学という学問	言語学の分野の紹介、英語の歴史的変遷、国際共通語としての英語の実態
2	音声学①	音素、母音体系、子音体系
3	音声学②	IPA国際音声、発音記号
4	音韻論①	音節とモーラ、高低アクセントと強弱アクセント、アクセント規則(複合語、文アクセント)
5	音韻論②	超文節音(アクセント・リズム・イントネーション)
6	形態論①	品詞、語幹と屈折接辞、語基と派生接辞、単語の構造(樹形図の作成)、形態素(拘束形態素、自由形態素)
7	形態論②	複合語と句の違い、品詞転換、語形短縮、混成、頭文字語、逆形成など
8	中間試験	試験と解説
9	統語論①	品詞、語順、語・句・文、統語構造
10	統語論②	樹形図の作成、主要部、補文標識、テンス(時制)、決定詞など
11	統語論③	機能的構文論、文の情報構造(新情報・旧情報)
12	語用論①	発話行為、直示、含意・推移など
13	語用論②	中間言語語用論・ポライトネスの発達に関する英文記事を読む
14	期末試験	試験と解説
15		
16		

科目コード	22104				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	音楽の理解 [FE2521組用]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第1, 2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業の目的は以下の3点である。小学校の音楽の授業を実施するにあたり必要な音楽知識を学ぶ。記譜法、長音階と短音階、音程、和音、コードネームなど、実際に教壇に立った際に必要不可欠な音楽に関する理解を深める。教員になった際に実際に使用することができる具体例などを紹介し、基本的な音楽知識を授業で利用できる能力を身につける。

<授業の到達目標>

1. 音符、リズムを理解でき楽譜を読めるようにする。2. 楽典の基礎を理解する。3. コードネームを理解する。4. 様々な楽曲について理解を深める。

<授業の方法>

1. グループワーク（予習した取り扱い曲に関する教えあい）2. 討論（曲についての感想、作曲家の意図等、各自の感じたことを発表する）3. 講義（教員による解説）4. 楽典（音楽の基礎知識を学ぶ）*受講には五線紙ノートが必要。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義の中で扱った曲の中から授業内で学んだ内容に該当する場所をグループワークにて討論し発表する。これをアクティブラーニングの要素とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の内容のテーマ・キーワードの下調べ、取り扱う曲について事前学習。（毎回30分程度）復習：講義の内容をノートにまとめる。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出、意見交換、試験 70%、授業態度（授業態度、授業貢献度） 30%とする。

<教科書>

小谷野謙一(2014年2月10日) よくわかる楽典の教科書 株式会社ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認、音楽の理解について
2	音の長さ	音符、休符
3	音の高さ	五線、加線、音部記号、譜表
4	拍子、連符	いろいろな拍子、いろいろな連符
5	音名	音名、変化記号
6	楽譜の書き方	記譜法について
7	記号	強弱記号、速度記号、奏法に関する用語と記号
8	音程①	2、3、6、7度の音程
9	音程②	1、4、5、8度の音程
10	音階	長音階と短音階
11	和音	和音の種類、三和音、七の和音
12	コードネーム	コードネームについて理解する
13	コードネーム演習	コードネームを使用した伴奏法
14	総括	学習内容の総括を行う。
15		
16		

科目コード	22104				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	音楽の理解 [FE2522組用]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第1, 2 クォーター ー	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業の目的は以下の3点である。小学校の音楽の授業を実施するにあたり必要な音楽知識を学ぶ。記譜法、長音階と短音階、音程、和音、コードネームなど、実際に教壇に立った際に必要不可欠な音楽に関する理解を深める。教員になった際に実際に使用することができる具体例などを紹介し、基本的な音楽知識を授業で利用できる能力を身につける。

<授業の到達目標>

1. 音符、リズムを理解でき楽譜を読めるようにする。2. 楽典の基礎を理解する。3. コードネームを理解する。4. 様々な楽曲について理解を深める。

<授業の方法>

1. グループワーク（予習した取り扱い曲に関する教えあい）2. 討論（曲についての感想、作曲家の意図等、各自の感じたことを発表する）3. 講義（教員による解説）4. 楽典（音楽の基礎知識を学ぶ）*受講には五線紙ノートが必要。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義の中で扱った曲の中から授業内で学んだ内容に該当する場所をグループワークにて討論し発表する。これをアクティブラーニングの要素とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の内容のテーマ・キーワードの下調べ、取り扱う曲について事前学習。（毎回30分程度）復習：講義の内容をノートにまとめる。（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出、意見交換、試験 70%、授業態度（授業態度、授業貢献度） 30%とする。

<教科書>

小谷野謙一(2014年2月10日) よくわかる楽典の教科書 株式会社ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認、音楽の理解について
2	音の長さ	音符、休符
3	音の高さ	五線、加線、音部記号、譜表
4	拍子、連符	いろいろな拍子、いろいろな連符
5	音名	音名、変化記号
6	楽譜の書き方	記譜法について
7	記号	強弱記号、速度記号、奏法に関する用語と記号
8	音程①	2、3、6、7度の音程
9	音程②	1、4、5、8度の音程
10	音階	長音階と短音階
11	和音	和音の種類、三和音、七の和音
12	コードネーム	コードネームについて理解する
13	コードネーム演習	コードネームを使用した伴奏法
14	総括	学習内容の総括を行う。
15		
16		

科目コード	3F315				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	解剖学Ⅲ				担当者名	百田 龍輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

<授業の到達目標>

1) 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島などの内分泌器官の位置、構造、分泌されるホルモンとその作用を説明できる。
2) 神経系の区分と特徴を説明できる。3) 神経組織を構成する細胞とそれが作る構造物を説明できる。4) 中枢神経系の区分と構造、脳室の構造、脳脊髄液の生成について説明できる。5) 伝導路、反射について説明できる。6) 末梢神経の構造とその分布について説明できる。7) 外皮の構造と機能について説明できる。8) 感覚器の構造と機能について説明できる。

<授業の方法>

教科書、解剖図、参考書を使用して講義する。適宜画像を用いて講義を行う。教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahootなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に示す教科書の講義予定範囲を必ず音読のうえ、予習してくる。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、クイズ課題で復習する。クイズ課題提出は期限厳守すること。またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業後のクイズ課題を毎回期限内に提出すること。学習意欲30％・評価試験70％

<教科書>

岸 清・石塚 寛 編 解剖学 医歯薬出版
坂井建夫・橋本尚詞 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版
医療情報科学研究所 からだがみえる 人体の構造と機能 メディックメディア

<参考書>

松村 譲児 イラスト解剖学 中外医学社
自 習 用 に 以 下 の ア プ リ を 推 薦 し ま す 。 Human Anatomy Atlas 202? Complete 3D Human Body
https://apps.apple.com/app/id1117998129解剖学的構造と生理学Anatomy & Physiologyhttps://apps.apple.com/app/id920133658

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	内分泌系 総論	内分泌系の働きホルモンの化学的性状と作用機序
2	内分泌系下垂体	下垂体の構造下垂体ホルモンの種類と作用
3	内分泌系松果体甲状腺と上皮小体	松果体、甲状腺と上皮小体の構造メラトニン甲状腺ホルモンカルシトニンパラソルモン
4	内分泌系副腎	内分泌系副腎の構造（皮質・髄質）副腎皮質ホルモンの種類と作用副腎髄質ホルモンの種類と作用
5	内分泌系膵臓精巣・卵巣ホルモン	膵島の細胞とそれらのホルモン精巣・卵巣のホルモンとその作用
6	神経系総論	神経系の区分神経組織神経細胞・支持細胞灰白質・白質脳室髄膜と脳脊髄液
7	脳	大脳の構造溝・回大脳皮質大脳核
8	大脳の構造溝・回大脳皮質大脳核	間脳中脳・橋・延髄小脳
9	間脳中脳・橋・延髄小脳	脊髄
10	頸髄胸髄腰髄仙髄尾髄前根と後根脊髄の内部構造	頸髄胸髄腰髄仙髄尾髄前根と後根脊髄の内部構造
11	末梢神経・脳神経	脳神経

12	末梢神経・脊髄神経	頸神経叢腕神経叢腰神経叢仙骨神経叢デルマトーム自律神経
13	感覚器外皮視覚器	外皮視覚器
14	聴覚器および平衡器味覚・嗅覚	聴覚器および平衡器味覚・嗅覚
15		
16		

科目コード	36204				区 分	コア科目			
授業科目名	解剖生理学				担当者名	百田 龍輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

体育学科の学生として人体の構造と機能に関する知識は、人体に関係する全ての学習の基礎となるため非常に重要である。解剖学は構造を学ぶ分野であるが、人体構造のみに留まらずその機能とも関連付け、深く学習することが大切である。15回の限られた時間のなかで、人体構造と機能について、総論・骨格系・筋系・外皮系・心臓脈管系・リンパ・免疫系・消化器系・呼吸器系・泌尿生殖器系・内分泌系・神経系・特殊感覚器系を学ぶ。

<授業の到達目標>

人体に関する基礎的な知識の習得を到達目標とする。食べたものがどこでどのように処理されて、栄養分が吸収されるか？筋骨格の働き、神経による支配、内分泌・自律神経による身体の調節について、基本的な概念を習得し説明し、日常生活やスポーツにおいてその知識を実践できるようになることを目指す。

<授業の方法>

教科書を中心に講義を進めていく。講義中は教科書を声に出して読むという基本的な学習を徹底して行うので、必ず事前にスムーズに読めるように難解な漢字、語句は調べておくこと。理解したことを文章やイラストを通じて手を動かし表現すること、身体を動かして実践する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

医学的内容の科目なので、予習よりも復習に重きを置いて勉強する。教科書の図を人に説明できるようにする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（小テスト）30％：定期試験70％

<教科書>

伊藤正裕・中村陽市（監修） これでわかる！人体解剖パーフェクト事典 ナツメ社

<参考書>

自習用に以下のアプリを推薦します。Human Anatomy Atlas 202? https://apps.apple.com/app/id1117998129 解剖学的構造と生理学 Anatomy & Physiologyhttps://a
菊地よしこ 百田龍輔（2017） 看護に必要な漢字で覚える解剖ドリル 照林社
松村 譲児（2021年4月19日） イラスト解剖学 中外医学社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	解剖学導入解剖学総論	授業内容の説明解剖学用語、細胞・組織
2	骨格系	全身の骨格 関節
3	筋系 1	筋系、上肢の筋、体幹の筋体幹、下肢の筋 1
4	筋系 2	筋系、上肢の筋、体幹の筋体幹、下肢の筋 2
5	外皮系	外皮、爪、毛
6	心臓脈管系	心臓、動脈系、静脈系、体循環、肺循環
7	リンパ・免疫系	リンパ循環、免疫
8	消化管の概観、肝臓、胆嚢、膵臓	消化管の概観、肝臓、胆嚢、膵臓
9	肝臓、胆嚢、膵臓、消化と吸収	肝臓、胆嚢、膵臓、消化と吸収
10	呼吸器系	呼吸器の構造、呼吸
11	泌尿・生殖器系	腎臓、膀胱、尿の生成、生殖器の構造と機能
12	内分泌系	内分泌系とホルモン
13	神経系	神経系の概観、脊髄、脊髄神経、脳神経、脳の構造と機能
14	特殊感覚器系	眼球と視覚情報、聴覚・平衡器官、嗅覚、味覚
15		
16		

科目コード	3F200				区 分	コア科目			
授業科目名	外科学 I				担当者名	合地 史明			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、外科学総論にあたる部分である。外科学の概念、損傷、炎症、感染症、腫瘍、ショック、輸血、輸液、消毒と滅菌、手術、麻酔、移植と免疫、出血と止血と柔道整復学との関連性について学習する。

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に外科的分野）についての知識を身に付ける。医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話ができることを目標とする。

<授業の方法>

教科書にそって授業を進めて行く。視聴覚資料等を用いて適宜補完していく。毎回の講義後に講義の理解度をクラスルーム課題などを用いて確認する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を読んでおく事（1時間）、また、授業の後は講義でとったノートを参照しながら再度教科書を読んで復習する事（1時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験期間中に筆記試験（80点満点）を行う。さらに授業時のレポートと出欠状況を総合して平常点（20点満点）を算出。これらの合計点（100点満点）で評価を行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 「外科学概論」 南江堂

<参考書>

北島政樹 監修 「標準外科学」 医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	外科学とは	外科学の歴史 外科医の立場 現在の外科医療
2	損傷（1）	損傷の分類 診断 治療 交通外傷 ドライバー外傷
3	損傷（2）	特殊な損傷 凍傷 びらんと潰瘍 瘻孔 裂傷 壊死・壊疽
4	損傷（3）	創と傷 熱傷 電撃傷 低温熱傷 化学熱傷
5	炎症と外科感染症	炎症（定義 分類 病態）外科感染症
6	腫瘍	腫瘍の概念 組織 成因 分類 診断 治療
7	ショック	ショックの病態と分類 緊急処置
8	輸血 輸液	輸血 一般輸液 高カロリー輸液
9	消毒と滅菌	消毒薬の特徴 皮膚の消毒機器・器材・環境の消毒 滅菌
10	手術	手術の分類 各種手術法 止血術 結紮・縫合術 穿刺術
11	麻酔・移植と免疫	麻酔の概要、歴史、種類（全身麻酔、局所麻酔）移植の用語 移植の現状 各種臓器移植
12	出血と止血	出血とは 出血の種類 止血の仕組み 外出血 内出血 止血法
13	心肺蘇生法	倒れた人の評価法 心肺蘇生法の実際 人工呼吸法 AED
14	まとめ	まとめ
15		
16		

科目コード	40124				区 分	コア科目			
授業科目名	器械運動Ⅱ(応用)				担当者名	坂本 康輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

マット運動、鉄棒運動、とび箱運動の主に学習指導要領（保健体育）に掲載されている基本技から発展技について技能の段階的な指導方法を学び、状況に応じた指導方法を習得し、実践する。

<授業の到達目標>

① 学習者の動きを見て、運動学習上の課題を見抜くことができるようになる。② ①を踏まえて、学習者に適切な指導・助言ができるようになる。③ 自らが技能の見本を実施することができるようになる。④ 実践を通じて器械運動の指導を行うことができる。

<授業の方法>

器械運動の指導方法や指導内容を考えると同時に、ICTを用いながら技能習得段階者と教えあい、実際に指導することを主とする。そして、それぞれの技能を伸ばしたり、指導方法を考えたりするとともに技能習得に向けた課題解決するための学習方法を実践を通して考える。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有器械運動Ⅰ（基礎）を履修している学生へ実践的指導や自らの技能達成に向けた練習を通じて、自ら指導方法を考え、実践する方法を取り入れている。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

復習：振り返りシートにその日に教えたことや考えたことをまとめ、提出する。（約10分）予習：参考書の授業テーマに関する資料を読み、指導方法を検討する（反転授業）。（約20分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

この科目は、体育学科のディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」に関連するコア科目である。模擬授業：20% 受講態度：30% 提出物：30%（指導案含む） 指導力（スキル）テスト：20%

<教科書>

<参考書>

三木四郎、加藤澤男、本村清人 編著（2006） 中・高校器械運動の授業づくり 大修館書店
三木四郎（2005年） 新しい体育授業の運動学 明和出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要の説明、器械運動の特性について
2	器械運動の実践指導①	マット運動の指導方法の検討と実践指導
3	器械運動の実践指導②	跳び箱運動の指導方法の検討と実践指導
4	器械運動における指導方法の検討	指導方法の考案及び検討
5	器械運動の実践指導③	鉄棒運動の指導方法の検討と実践指導
6	器械運動の実践指導④	鉄棒運動の指導方法の検討と実践指導
7	器械運動の実践指導⑤	マット運動の指導方法の検討と実践指導
8	器械運動の実践指導⑥	マット運動の指導方法の検討と実践指導
9	器械運動技能評価の検討	評価方法の検討及び実技テストの採点について
10	器械運動の実践指導	担当グループのサポート及び指導
11	器械運動の実践指導と採点①	担当グループのサポート及び指導と跳び箱運動及び鉄棒運動の評価
12	器械運動の実践指導と採点②	担当グループのサポート及び指導とマット運動の評価
13	器械運動の実践指導と採点③	担当グループのサポート及び指導とマット運動及び鉄棒運動、跳び箱運動の評価
14	実践指導と指導力確認テスト	器械運動指導及び自己が選択した技能の指導実施
15		
16		

科目コード	21400				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [A]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第 1, 2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。音楽、ピアノの初心者に向けて楽譜の読み方、ピアノの弾き方から丁寧に指導し音楽の授業をするにあたって困らないよう必要な基礎能力を養うことを目的とする。

<授業の到達目標>

1. バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りの課題を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
6	バイエル17番（後半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、カタツムリ（1）	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、カタツムリ（2）	バイエル19番（後半）を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（右手、両手）
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海（2）	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、日の丸（1）	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、日の丸（2）	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
13	発表	バイエル、弾き歌いの発表、これまで授業内で練習した曲から任意で発表をする。
14	総括	これまでの授業内容を総括する。
15		
16		

科目コード	21400				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [B][不開講]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第 1, 2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。音楽、ピアノの初心者に向けて楽譜の読み方、ピアノの弾き方から丁寧に指導し音楽の授業をするにあたって困らないよう必要な基礎能力を養うことを目的とする。

<授業の到達目標>

1. バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りの課題を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
6	バイエル17番（後半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、カタツムリ（1）	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、カタツムリ（2）	バイエル19番（後半）を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（右手、両手）
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海（2）	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、日の丸（1）	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、日の丸（2）	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
13	発表	バイエル、弾き歌いの発表、これまで授業内で練習した曲から任意で発表をする。
14	総括	これまでの授業内容を総括する。
15		
16		

科目コード	21400				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習 I [C]				担当者名	中家 淳悟			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第 1, 2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業ではピアノ演奏とピアノを用いた弾き歌いを中心に授業を展開する。この授業は小学校教諭に必要なピアノ・歌唱・読譜能力を中心とした器楽演奏の基礎技術を身につける。音楽、ピアノの初心者に向けて楽譜の読み方、ピアノの弾き方から丁寧に指導し音楽の授業をするにあたって困らないよう必要な基礎能力を養うことを目的とする。

<授業の到達目標>

1. バイエル30番程度のピアノ演奏をできる技術を身につける。2. 小学校共通教材の低学年曲（1年生）を弾き歌いができるピアノ演奏能力を身につける。3. 上記程度の読譜能力を身につける。

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグループレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き語りの課題を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

標準バイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社
坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明
2	ピアノの弾き方	ピアノの弾き方、指の形、姿勢、指の動かし方
3	バイエル12～14番を使ったレッスン	バイエルを使ったピアノ基礎練習
4	バイエル15番を使ったレッスン	バイエルを使った左右の手の動きが違う曲での基礎
5	バイエル17番（前半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
6	バイエル17番（後半）	左右の手の動きが違う曲のレッスン
7	バイエル19番（前半）、弾き歌い、カタツムリ（1）	バイエル19番（前半）を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（左手）
8	バイエル19番（後半）、弾き歌い、カタツムリ（2）	バイエル19番（後半）を使ったレッスン、カタツムリを使った弾き歌いの練習（右手、両手）
9	バイエル20番（前半）、弾き歌い、海	バイエル20番（前半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（左手）
10	バイエル20番（後半）、弾き歌い、海（2）	バイエル20番（後半）を使ったレッスン、海を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
11	バイエル21番（前半）、弾き歌い、日の丸（1）	バイエル21番（前半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（左手）
12	バイエル21番（後半）、弾き歌い、日の丸（2）	バイエル21番（後半）を使ったレッスン、日の丸を使った弾き歌いの練習（右手、両手）
13	発表	バイエル、弾き歌いの発表、これまで授業内で練習した曲から任意で発表をする。
14	総括	これまでの授業内容を総括する。
15		
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ				担当者名	三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、「器楽演習Ⅰ」で習得した音楽の基礎知識およびピアノ弾き歌いの技術を基盤とし、保育・教育実習に必要とされるピアノ弾き歌いの技能向上を目指します。音楽の基礎理論や楽譜に記された記号・用語の理解を深めながら、読譜力、視唱力、コード（和音）による伴奏法の習得を目的としたグループレッスンをを行います。また、基本的な発声やソルフェージュ、歌唱作品を通じて、音楽の三要素であるメロディー・ハーモニー・リズムを体感し、楽譜を理解することによって、音楽を楽しむ力を育みます。すべての課題提出にはGoogle Clas

<授業の到達目標>

①楽譜の読み書きを含む、ピアノ演奏に必要な音楽基礎力を身につける。②ピアノによる旋律演奏に必要な読譜力および演奏技術を習得する。③歌唱に必要な基本的な発声法、柔軟体操、表現力を身につける。④ピアノによるコード伴奏に必要な和音（コード）の知識を学び、簡単な伴奏法を習得する。また、リズム練習やソルフェージュを通して読譜力を高め、視唱力・初見力を養う。⑤コードネームを用いて、「こどもの歌」に相応しい伴奏を自らつけられるようになることを目標とする。⑥人前で演奏することに慣れることを目的に、定期試験期間にピアノ弾き

<授業の方法>

音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせる授業を行う。講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。本授業はグループレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ピアノ弾き歌い演奏技能習得のためのピアノ実技、歌唱等の演習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノは毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。次週課題（事前予告）予習 50分以上、これまで学習した課題の復習50分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノが無い場合は、貸し出し用キーボードもありますので活用してください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための基礎科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、参加意欲 20%ピアノ弾き歌いレポート及びバイエル40%実技テスト 40%※定期試験期間中にピアノ弾き歌い実技試験を実施。事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏する。

<教科書>

高崎展好 編著（発行2018年3月） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学 次世代教育学部 こども発達学科
坪野 春枝 著 最もわかりやすい楽典入門 ケイ・エム・ピー

<参考書>

環太平洋大学

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション発声法・ピアノ弾き歌い演習	授業概要と課題の説明、発声指導、ソルフェージュ、リズムの学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノ弾き歌い課題
2	楽典と演習1	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題
3	楽典と演習2	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
4	楽典と演習3	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
5	楽典と演習4	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論

6	楽典と演習5	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
7	楽典と演習6	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
8	楽典と演習7	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
9	楽典と演習8	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
10	楽典と演習9	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
11	楽典と演習10	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
12	楽典と演習11	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
13	楽典と演習12	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
14	楽典と演習13	音楽理論確認テスト、振り返り、まとめ※ピアノ弾き歌い実技試験の連絡
15	定期試験	ピアノ弾き歌い実技試験実施事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ				担当者名	三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、「器楽演習Ⅰ」で習得した音楽の基礎知識およびピアノ弾き歌いの技術を基盤とし、保育・教育実習に必要とされるピアノ弾き歌いの技能向上を目指します。音楽の基礎理論や楽譜に記された記号・用語の理解を深めながら、読譜力、視唱力、コード（和音）による伴奏法の習得を目的としたグループレッスンをを行います。また、基本的な発声やソルフェージュ、歌唱作品を通じて、音楽の三要素であるメロディー・ハーモニー・リズムを体感し、楽譜を理解することによって、音楽を楽しむ力を育みます。すべての課題提出にはGoogle Clas

<授業の到達目標>

①楽譜の読み書きを含む、ピアノ演奏に必要な音楽基礎力を身につける。②ピアノによる旋律演奏に必要な読譜力および演奏技術を習得する。③歌唱に必要な基本的な発声法、柔軟体操、表現力を身につける。④ピアノによるコード伴奏に必要な和音（コード）の知識を学び、簡単な伴奏法を習得する。また、リズム練習やソルフェージュを通して読譜力を高め、視唱力・初見力を養う。⑤コードネームを用いて、「こどもの歌」に相応しい伴奏を自らつけられるようになることを目標とする。⑥人前で演奏することに慣れることを目的に、定期試験期間にピアノ弾き

<授業の方法>

音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせる授業を行う。講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。本授業はグループレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ピアノ弾き歌い演奏技能習得のためのピアノ実技、歌唱等の演習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノは毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。次週課題（事前予告）予習 50分以上、これまで学習した課題の復習50分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノが無い場合は、貸し出し用キーボードもありますので活用してください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための基礎科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、参加意欲 20％ピアノ弾き歌いレポート及びバイエル40％実技テスト 40％※定期試験期間中にピアノ弾き歌い実技試験を実施。事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏する。

<教科書>

高崎展好 編著（発行2018年3月） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学 次世代教育学部 こども発達学科
坪野 春枝 著 最もわかりやすい楽典入門 ケイ・エム・ピー

<参考書>

環太平洋大学

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション発声法・ピアノ弾き歌い演習	授業概要と課題の説明、発声指導、ソルフェージュ、リズムの学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノ弾き歌い課題
2	楽典と演習1	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題
3	楽典と演習2	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
4	楽典と演習3	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
5	楽典と演習4	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論

6	楽典と演習5	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
7	楽典と演習6	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
8	楽典と演習7	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
9	楽典と演習8	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
10	楽典と演習9	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
11	楽典と演習10	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
12	楽典と演習11	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
13	楽典と演習12	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
14	楽典と演習13	音楽理論確認テスト、振り返り、まとめ※ピアノ弾き歌い実技試験の連絡
15	定期試験	ピアノ弾き歌い実技試験実施事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [A][不開講]				担当者名	中家 淳悟／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第1クォーター 第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、小学校2年生から6年生の音楽共通教材を課題曲とし、ピアノ演奏およびピアノを用いた弾き歌いを中心に学習を行う。小学校教諭に必要とされる、ピアノ・歌唱を中心とした基礎的な演奏技術の習得を目的とする演習科目である。また、「器楽演習Ⅰ」の内容を発展させ、ピアノ演奏技能および歌唱指導法の向上を図る。

<授業の到達目標>

1. 読譜能力を身につける。2. 小学校共通教材の6年生までの弾き歌いの基礎を体験する3. 正しい発声で歌うことができる・斉唱の基本（音程・リズム・呼吸）を理解する

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグルーブレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより、歌唱、ピアノ演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き歌い、歌唱を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明。「かくれんぼ」読譜。
2	「かくれんぼ」	発声・斉唱。「かくれんぼ」を使った弾き歌い。読譜「春がきた」。
3	「春がきた」	発声・斉唱「春がきた」を使った弾き歌い。読譜「夕やけこやけ」
4	「夕やけこやけ」	発声・斉唱「夕やけこやけ」を使った弾き歌い。読譜「虫のこえ」
5	「虫のこえ」「うさぎ」	発声・斉唱・「うさぎ」歌唱「虫のこえ」を使った弾き歌い。読譜「茶つみ」
6	「茶つみ」	発声・斉唱「茶つみ」を使った弾き歌い。読譜「ふじ山」「春の小川」
7	グループワークによる協働的な歌唱学習 (1) 「ふじ山」「春の小川」	グループワークによる協働的な学習「さくら」「ふじ山」「春の小川」を使った弾き歌い。読譜「春の小川」「とんび」
8	グループワークによる協働的な歌唱学習 (2) 「春の小川」「とんび」	グループワークによる協働的な学習「小学校2声合唱指導」「春の小川」「とんび」を使った弾き歌い。読譜「まきばの朝」
9	グループワークによる協働的な歌唱学習 (3) 「まきばの朝」	グループワークによる協働的な学習「小学校2声合唱指導」「まきばの朝」を使った弾き歌い。読譜「もみじ」。
10	合唱発表「もみじ」	発声・合唱振り返り「もみじ」を使った弾き歌い。読譜「こいのぼり」
11	グループワークによる協働的な歌唱学習 (4) 「こいのぼり」	グループワークによる協働的な学習「子守歌」「越天楽今様」「こいのぼり」を使った弾き歌い。読譜「スキーの歌」「冬げしき」
12	グループワークによる協働的な歌唱学習 (5) 「スキーの歌」「冬げしき」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・声の特性」「スキーの歌」「冬げしき」を使った弾き歌い。読譜「おぼろ月夜」「ふるさと」
13	グループワークによる協働的な歌唱学習 (6) 「おぼろ月夜」「ふるさと」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・範唱練習」「おぼろ月夜」「ふるさと」を使った弾き歌い。読譜「われは海の子」
14	「われは海の子」総括	試験曲の確認「われは海の子」を使った弾き歌い

15		
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [B][不開講]				担当者名	中家 淳悟／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第1クォーター 第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、小学校2年生から6年生の音楽共通教材を課題曲とし、ピアノ演奏およびピアノを用いた弾き歌いを中心に学習を行う。小学校教諭に必要とされる、ピアノ・歌唱を中心とした基礎的な演奏技術の習得を目的とする演習科目である。また、「器楽演習Ⅰ」の内容を発展させ、ピアノ演奏技能および歌唱指導法の向上を図る。

<授業の到達目標>

1. 読譜能力を身につける。2. 小学校共通教材の6年生までの弾き歌いの基礎を体験する3. 正しい発声で歌うことができる・斉唱の基本（音程・リズム・呼吸）を理解する

<授業の方法>

1. ピアノを用いてグルーブレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより、歌唱、ピアノ演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き歌い、歌唱を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

<教科書>

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明。「かくれんぼ」読譜。
2	「かくれんぼ」	発声・斉唱。「かくれんぼ」を使った弾き歌い。読譜「春がきた」。
3	「春がきた」	発声・斉唱「春がきた」を使った弾き歌い。読譜「夕やけこやけ」
4	「夕やけこやけ」	発声・斉唱「夕やけこやけ」を使った弾き歌い。読譜「虫のこえ」
5	「虫のこえ」「うさぎ」	発声・斉唱・「うさぎ」歌唱「虫のこえ」を使った弾き歌い。読譜「茶つみ」
6	「茶つみ」	発声・斉唱「茶つみ」を使った弾き歌い。読譜「ふじ山」「春の小川」
7	グループワークによる協働的な歌唱学習 (1) 「ふじ山」「春の小川」	グループワークによる協働的な学習「さくら」「ふじ山」「春の小川」を使った弾き歌い。読譜「春の小川」「とんび」
8	グループワークによる協働的な歌唱学習 (2) 「春の小川」「とんび」	グループワークによる協働的な学習「小学校2声合唱指導」「春の小川」「とんび」を使った弾き歌い。読譜「まきばの朝」
9	グループワークによる協働的な歌唱学習 (3) 「まきばの朝」	グループワークによる協働的な学習「小学校2声合唱指導」「まきばの朝」を使った弾き歌い。読譜「もみじ」。
10	合唱発表「もみじ」	発声・合唱振り返り「もみじ」を使った弾き歌い。読譜「こいのぼり」
11	グループワークによる協働的な歌唱学習 (4) 「こいのぼり」	グループワークによる協働的な学習「子守歌」「越天楽今様」「こいのぼり」を使った弾き歌い。読譜「スキーの歌」「冬げしき」
12	グループワークによる協働的な歌唱学習 (5) 「スキーの歌」「冬げしき」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・声の特性」「スキーの歌」「冬げしき」を使った弾き歌い。読譜「おぼろ月夜」「ふるさと」
13	グループワークによる協働的な歌唱学習 (6) 「おぼろ月夜」「ふるさと」	グループワークによる協働的な学習「発声指導・範唱練習」「おぼろ月夜」「ふるさと」を使った弾き歌い。読譜「われは海の子」
14	「われは海の子」総括	試験曲の確認「われは海の子」を使った弾き歌い

15		
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [C][不開講]				担当者名	中家 淳悟／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第1クォーター第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、小学校2年生から6年生の音楽共通教材を課題曲とし、ピアノ演奏およびピアノを用いた弾き歌いを中心に学習を行う。小学校教諭に必要とされる、ピアノ・歌唱を中心とした基礎的な演奏技術の習得を目的とする演習科目である。また、「器楽演習Ⅰ」の内容を発展させ、ピアノ演奏技能および歌唱指導法の向上を図る。

＜授業の到達目標＞

1. 読譜能力を身につける。2. 小学校共通教材の6年生までの弾き歌いの基礎を体験する3. 正しい発声で歌うことができる・斉唱の基本（音程・リズム・呼吸）を理解する

＜授業の方法＞

1. ピアノを用いてグルーブレッスン形式で行う。2. プレゼンテーション（課題を演奏し発表する）3. 教材を読譜する。4. 教材を視唱する。5. グループレッスンにより、歌唱、ピアノ演奏する。6. Google Classroomをプラットフォームとして活用する。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

毎回の授業で課すピアノ演奏や弾き歌い、歌唱を授業の冒頭で発表することをアクティブラーニングの要素とする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次回課題曲の読譜をしておく。（毎回30分程度）復習：授業で取り扱った曲を発表できるように練習しておくこと（毎回30分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の態度・意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞

坂井康子・岡林典子南夏世・佐野仁美（2008年9月20日） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と課題の説明。「かくれんぼ」読譜。
2	「かくれんぼ」	発声・斉唱。「かくれんぼ」を使った弾き歌い。読譜「春がきた」。
3	「春がきた」	発声・斉唱「春がきた」を使った弾き歌い。読譜「夕やけこやけ」
4	「夕やけこやけ」	発声・斉唱「夕やけこやけ」を使った弾き歌い。読譜「虫のこえ」
5	「虫のこえ」「うさぎ」	発声・斉唱・「うさぎ」歌唱「虫のこえ」を使った弾き歌い。読譜「茶つみ」
6	「茶つみ」	発声・斉唱「茶つみ」を使った弾き歌い。読譜「ふじ山」「春の小川」
7	グルーブワークによる協働的な歌唱学習 (1) 「ふじ山」「春の小川」	グルーブワークによる協働的な学習「さくら」「ふじ山」「春の小川」を使った弾き歌い。読譜「春の小川」「とんび」
8	グルーブワークによる協働的な歌唱学習 (2) 「春の小川」「とんび」	グルーブワークによる協働的な学習「小学校2声合唱指導」「春の小川」「とんび」を使った弾き歌い。読譜「まきばの朝」
9	グルーブワークによる協働的な歌唱学習 (3) 「まきばの朝」	グルーブワークによる協働的な学習「小学校2声合唱指導」「まきばの朝」を使った弾き歌い。読譜「もみじ」。
10	合唱発表「もみじ」	発声・合唱振り返り「もみじ」を使った弾き歌い。読譜「こいのぼり」
11	グルーブワークによる協働的な歌唱学習 (4) 「こいのぼり」	グルーブワークによる協働的な学習「子守歌」「越天楽今様」「こいのぼり」を使った弾き歌い。読譜「スキーの歌」「冬げしき」
12	グルーブワークによる協働的な歌唱学習 (5) 「スキーの歌」「冬げしき」	グルーブワークによる協働的な学習「発声指導・声の特性」「スキーの歌」「冬げしき」を使った弾き歌い。読譜「おぼろ月夜」「ふるさと」
13	グルーブワークによる協働的な歌唱学習 (6) 「おぼろ月夜」「ふるさと」	グルーブワークによる協働的な学習「発声指導・範唱練習」「おぼろ月夜」「ふるさと」を使った弾き歌い。読譜「われは海の子」
14	「われは海の子」総括	試験曲の確認「われは海の子」を使った弾き歌い

15		
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [FC2521]				担当者名	高崎 展好			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、「器楽演習Ⅰ」で習得した音楽の基礎知識およびピアノ弾き歌いの技術を基盤とし、保育・教育実習に必要とされるピアノ弾き歌いの技能向上を目指します。音楽の基礎理論や楽譜に記された記号・用語の理解を深めながら、読譜力、視唱力、コード（和音）による伴奏法の習得を目的としたグループレッスンをを行います。また、基本的な発声やソルフェージュ、歌唱作品を通じて、音楽の三要素であるメロディー・ハーモニー・リズムを体感し、楽譜を理解することによって、音楽を楽しむ力を育みます。すべての課題提出にはGoogle Clas

<授業の到達目標>

① 楽譜の読み書きを含む音楽基礎力を身につけ、ピアノ演奏に必要な基礎的知識を理解し活用することができる。② 楽譜を正確に読み取り、ピアノによる旋律演奏を適切に行うことができる。③ 歌唱に必要な基本的な発声法や身体の使い方を理解し、表現豊かに歌うことができる。④ 和音（コード）の基礎的知識を理解し、簡単なコード伴奏を行うことができる。⑤ リズム練習やソルフェージュを通して読譜力を高め、視唱および初見演奏を行うことができる。⑥ コードネームを活用し、「こどもの歌」にふさわしい伴奏を自ら工夫して付けることができ

<授業の方法>

音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせる授業を行う。講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。本授業はグループレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ピアノ弾き歌い演奏技能習得のためのピアノ実技、歌唱等の演習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノは毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。次週課題（事前予告）予習 50分以上、これまで学習した課題の復習50分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノが無い場合は、貸し出し用キーボードもありますので活用してください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための基礎科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、参加意欲 20％ピアノ弾き歌いレポート及びバイエル40％実技テスト 40％※定期試験期間中にピアノ弾き歌い実技試験を実施。事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏する。

<教科書>

高崎展好 編著（発行2018年3月） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学 次世代教育学部 こども発達学科
坪野 春枝 著 最もわかりやすい楽典入門 ケイ・エム・ピー

<参考書>

環太平洋大学

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション発声法・ピアノ弾き歌い演習	授業概要と課題の説明、発声指導、ソルフェージュ、リズムの学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノ弾き歌い課題
2	楽典と演習1	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題
3	楽典と演習2	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
4	楽典と演習3	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
5	楽典と演習4	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論

6	楽典と演習5	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
7	楽典と演習6	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
8	楽典と演習7	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
9	楽典と演習8	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
10	楽典と演習9	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
11	楽典と演習10	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
12	楽典と演習11	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
13	楽典と演習12	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
14	楽典と演習13	音楽理論確認テスト、振り返り、まとめ※ピアノ弾き歌い実技試験の連絡
15	定期試験	ピアノ弾き歌い実技試験実施事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏
16		

科目コード	21401				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅱ [FC2522]				担当者名	高崎 展好			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、「器楽演習Ⅰ」で習得した音楽の基礎知識およびピアノ弾き歌いの技術を基盤とし、保育・教育実習に必要とされるピアノ弾き歌いの技能向上を目指します。音楽の基礎理論や楽譜に記された記号・用語の理解を深めながら、読譜力、視唱力、コード（和音）による伴奏法の習得を目的としたグループレッスンをを行います。また、基本的な発声やソルフェージュ、歌唱作品を通じて、音楽の三要素であるメロディー・ハーモニー・リズムを体感し、楽譜を理解することによって、音楽を楽しむ力を育みます。すべての課題提出にはGoogle Clas

＜授業の到達目標＞

① 楽譜の読み書きを含む音楽基礎力を身につけ、ピアノ演奏に必要な基礎的知識を理解し活用することができる。② 楽譜を正確に読み取り、ピアノによる旋律演奏を適切に行うことができる。③ 歌唱に必要な基本的な発声法や身体の使い方を理解し、表現豊かに歌うことができる。④ 和音（コード）の基礎的知識を理解し、簡単なコード伴奏を行うことができる。⑤ リズム練習やソルフェージュを通して読譜力を高め、視唱および初見演奏を行うことができる。⑥ コードネームを活用し、「こどもの歌」にふさわしい伴奏を自ら工夫して付けることができ

＜授業の方法＞

音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせる授業を行う。講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。本授業はグループレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

ピアノ弾き歌い演奏技能習得のためのピアノ実技、歌唱等の演習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノは毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。次週課題（事前予告）予習 50分以上、これまで学習した課題の復習50分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノが無い場合は、貸し出し用キーボードもありますので活用してください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための基礎科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、参加意欲 20％ピアノ弾き歌いレポートリー及びバイエル40％実技テスト 40％※定期試験期間中にピアノ弾き歌い実技試験を実施。事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏する。

＜教科書＞

高崎展好 編著（発行2018年3月） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学 次世代教育学部 こども発達学科
坪野 春枝 著 最もわかりやすい楽典入門 ケイ・エム・ピー

＜参考書＞

環太平洋大学

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション発声法・ピアノ弾き歌い演習	授業概要と課題の説明、発声指導、ソルフェージュ、リズムの学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノ弾き歌い課題
2	楽典と演習1	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題
3	楽典と演習2	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
4	楽典と演習3	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
5	楽典と演習4	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論

6	楽典と演習5	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
7	楽典と演習6	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
8	楽典と演習7	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
9	楽典と演習8	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
10	楽典と演習9	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
11	楽典と演習10	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
12	楽典と演習11	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
13	楽典と演習12	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い課題音楽理論
14	楽典と演習13	音楽理論確認テスト、振り返り、まとめ※ピアノ弾き歌い実技試験の連絡
15	定期試験	ピアノ弾き歌い実技試験実施事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏
16		

科目コード	27202				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

臨床に必要な脱臼について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各脱臼の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では顎関節、脊椎、肩鎖関節、肩関節、肘関節、手関節、手指関節について学習する。

<授業の到達目標>

各脱臼の発生機序、症状、整復法、固定法および合併症について説明できる。さらに、各脱臼における保存療法の適応と限界について具体的に説明できる。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングを実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どの様な内容であるかまとめ授業で発表する。(毎回、1時間程度) 復習：小テストを次の授業で実施する。(毎回、2時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テスト 10%、定期試験 90%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・理論編」第7版 南江堂

全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・実技編」 南江堂

<参考書>

目崎 登 「運動器疾患ワークブック」 医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の心構え
2	脱臼の総論	脱臼の定義/分類
3	顎関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
4	頸椎脱臼、胸椎脱臼、腰椎脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
5	第1回目小テスト	顎関節から頸椎、胸椎、腰椎の復習
6	上肢脱臼/鎖骨脱臼	胸鎖関節脱臼/肩鎖関節脱臼/発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
7	肩関節脱臼①	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
8	肩関節脱臼②	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
9	肘関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
10	第2回目小テスト	鎖骨脱臼～肘関節脱臼までの復習
11	肘内障/手関節部の脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
12	手指脱臼-CM関節-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
13	手指脱臼-MP-, 手指脱臼-DIP・PIP-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
14	まとめ	総括
15		
16		

科目コード	62016				区 分	コア科目			
授業科目名	救急処置 [AT資格希望者用]				担当者名	濱浪 一則			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義および実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

救急処置法の中でも、特にスポーツ現場において発生する様々な医学的な問題に焦点を当てて、その対処法を学ぶ。具体的には、外傷の処置としてのアイシングや固定法、創の種類やそれらの対処法、救命処置として心肺蘇生法とAEDの使用法などについて実習する。また、スポーツ現場で見られる内科的疾患の救急処置などについても講義を通して学ぶ。

<授業の到達目標>

スポーツ現場において発生する様々な医学的問題に対して適切に評価、判断、処置を行い医療者に引き継ぐことが出来るようになる。

<授業の方法>

講義および実技

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有グループでの実習を通して救急対応を学ぶ

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書、配布資料などを用いて予習する。配布資料の空欄を埋め授業に備える。授業で学んだ内容を復習し、事後課題を次回授業前に提出する。講義で学んだことを理解し、期末テストに備える。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事後課題15%、定期試験85%事後課題について、提出期限が過ぎたものや内容が不十分なものには減点します。公欠課題は欠席授業回の事後課題と授業配布資料の空欄を埋めて提出すること。提出のない場合は欠席とする。

<教科書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2022年11月30日） 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 救急対応

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、スポーツ現場での救急処置の特徴、救急対応の考え方	授業全体の説明およびスポーツ現場における救急処置の考え方について救急対応とは、ファーストレスポンス
2	スポーツ現場における救急体制構築の留意点と計画	緊急時対応計画（EAP）
3	スポーツ現場での外傷・障害の評価とその手順	初期評価 体位管理と保温 搬送法
4	外傷時の救急対応	創傷・出血、打撲・捻挫・肉ばなれ
5	外傷時の救急対応	骨折・脱臼、脳震盪
6	外傷時の救急対応	頭部、頸部、脊椎における重傷外傷
7	外傷時の救急対応	特殊な外傷
8	内科的疾患の救急対応	心停止、BLS、実習
9	内科的疾患の救急対応	心停止、BLS、実習
10	内科的疾患の救急対応	熱中症
11	内科的疾患の救急対応	その他（スポーツでよく見られる内科的疾患）
12	各競技の救急体制の実際	陸上、ラグビー、サッカー、アメリカンフットボール、バスケットボール、水泳
13	各競技の救急体制の実際	野球・ソフトボール、バレーボール、バドミントン、テニス、ゴルフ、ライフセービング、障害者スポーツ
14	各競技の救急体制の実際	体操、柔道、スキー、スケート、アイスホッケー、ウエイトトレーニング
15	各競技の救急体制の実際	障害者スポーツ、チーム活動、トレーナーステーション
16		

科目コード	36600				区 分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツアナリティクス演習A（レース分析）				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、スポーツアナリティクスの基礎となるレース分析の測定方法論について概説し、選手やコーチへの適切なフィードバック資料の作成方法を、講義と演習を通じて体系的に学ぶ。主に陸上競技の走種目を題材として講義を進めるが、レース分析の方法論を他の競技スポーツにも応用し、実践的な演習を行う。

<授業の到達目標>

本授業では、以下の二つの到達目標の達成を目指す。一つ目に、レース分析に求められる測定方法を習得し、分析によって得られた各種変数の意味を理解したうえで、様々な競技スポーツの場面で活用できる力を身につけること。二つ目に、分析結果を基に、選手やコーチに対して適切なフィードバック資料を作成できる力を養うこと。

<授業の方法>

本授業では、レース分析の活用方法について、実際のトップレベルの競技場面での事例を交えながら講義を行う。講義では、実際のレース分析で用いられる専門機器やアプリ、ブラウザベースのレース分析ツールを使用し、測定および分析の演習を行う。グループワークを通じて、測定内容や方法についてディスカッションを行い、課題作成に取り組む。データ管理はクラウド上で行い、実践的なデータ活用スキルの習得を目指す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループワーク（10名程度）に分かれて、各テーマについて、ディスカッション・成果物を作成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（30分）。・測定および分析データを基にレポート課題や復習を行う（60分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組態度（20%）、課題の提出状況（30%）、および課題の評価点（50%）から総合的に評価する。

<教科書>

なし

<参考書>

なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	単位取得に関する諸注意や授業の進め方について説明する。また、スポーツアナリティクス（レース分析）に関する知識を深める意義について解説し、今後の講義および演習への学習意欲を高めることを目的とする。
2	レース分析方法論Ⅰ	映像を用いたレース分析の基本的な方法論について概説する。主に距離、タイム、スピードといった基礎的な測定項目の算出方法について学ぶ。
3	レース分析方法論Ⅱ	映像を用いたレース分析の基本的な方法論について概説する。ピッチ、ストライド、スピード関係について学ぶ。
4	測定とデータ管理	レース分析のための映像を測定するとともにデータ管理方法について学ぶ。
5	レース分析Ⅰ	測定したビデオ映像を用いてレース分析を行う。主にタイムとスピード、接地時間と滞空時間を分析する。
6	レース分析Ⅱ	測定したビデオ映像を用いてレース分析を行う。主にピッチ・ストライド・スピード関係を分析する。
7	レース分析Ⅲ	測定したビデオ映像を用いて、連続写真を作成する。
8	レースの測定方法の実践Ⅰ	測定機器である「ビデオカメラ」、「光電管」を用いた測定を行う。
9	プロジェクト研究Ⅰ	グループごとに解析のテーマをディスカッションし発表する。
10	プロジェクト研究Ⅱ	グループごとのテーマにあったレースの測定を行う。
11	プロジェクト研究Ⅲ	グループごとのテーマにあったレース分析を行う。

12	プロジェクト研究Ⅳ	グループごとのテーマにあったレース分析のフィードバック資料を作成する。 グループごとに分析および作成したフィードバック資料を発表する。 本授業で学んだ主要なレース分析の方法論や分析変数について総括し、これまでの学習内容を整理・確認する。
13	プロジェクト研究Ⅴ	
14	まとめ	
15		
16		

科目コード	21331				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FC用]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、小学校教員として授業を行う際に必要となる「教育の方法及び技術」について、具体的な授業場面を想定しながら学ぶ。学習指導要領に基づく授業設計、板書・発問などの基本的指導技術、言語活動を中心とした授業づくり、議論活動やICT活用など、現代の学校現場で求められる授業技術を体系的に理解することを目的とする。講義とグループワークを組み合わせながら、授業設計から実践までの一連の過程を理解し、教員として必要な実践的授業力の基礎を養う。

<授業の到達目標>

学習指導要領に基づいた授業設計の基本を理解し、ねらいに応じた指導計画を立案することができる。板書や発問などの基本的な指導技術について理解し、授業場面を想定して活用する力を身に付ける。さらに、言語活動や議論活動、ICT活用を取り入れた授業づくりの意義を理解し、児童の学びを深める授業の在り方について説明できる。これらを通して、教員として必要な実践的授業力の基礎を身に付ける。

<授業の方法>

授業は講義と演習を組み合わせる。授業の前半三分の二では、教育方法や指導技術について講義を行い、具体的な授業事例をもとにグループワークや意見交換を行う。後半三分の一ではGoogleフォームを活用した振り返りを行い、授業内容の整理と理解の深化を図る。学生は授業の中で自分の考えを言語化し共有することで、理論と実践を結びつけながら授業づくりの基本を段階的に理解する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、講義だけでなくグループワークや討議活動を取り入れる。学生は具体的な授業場面を想定して意見交換を行い、他者の視点を通して授業づくりの考え方を深める。またGoogleフォームによる振り返りを通して、自らの理解や気づきを整理する機会を設ける。こうした活動を通して、学生が主体的に学びに参加し、教育方法を自分の言葉で説明できる力を育成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、各回のテーマに関連する資料や教科書該当箇所を確認し（1時間程度）、自身の授業経験や学習経験を振り返り、課題意識をもって授業に臨むこと。事後学習として、授業で扱った授業設計やICT活用の方法について整理し、課題レポートの作成や模擬授業の準備を行う（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出 30%・レポート内容 40%・最終まとめ 30%

<教科書>

内田仁志（2026年4月） 小学校教師のための「使える」授業技術— 国語科を核にした授業設計と指導の実践 — 福村出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育方法とは何か	本授業の目的、授業方法、評価方法について説明する。あわせて教師に求められる授業力とは何かを考え、教育方法の基本概念を理解する。学習指導要領に示される資質・能力の三つの柱や主体的・対話的で深い学びの考え方を概観し、これからの授業づくりの基本的枠組みを確認する。最後にGoogleフォームによる振り返りを行う。テキスト使用なし
2	教師の接遇と学校組織	ゲスト講師による講義を通して、学校現場における接遇の基本を学ぶ。保護者対応や電話応対など教師として必要な社会的マナーを理解する。学校が多様な関係者によって成り立つ組織であることを踏まえ、教師の基本姿勢について考える。テキスト使用なし
3	学習指導要領と授業設計	学習指導要領の役割と授業づくりの関係を理解する。資質・能力の三つの柱を踏まえ、授業設計の基本原則について学ぶ。単元構成や授業の基本構造を具体例をもと

4	学習指導案の構成	に分析する。テキスト第1章 国語科の授業設計と学習指導案の作成 学習指導案の構造と作成方法を学ぶ。目標設定、学習活動、評価の観点など授業設計の具体的手順を理解する。簡単な授業構成をグループで検討する。第4回 テキスト第1章 国語科の授業設計と学習指導案の作成
5	板書技術	授業における板書の役割と基本技術を学ぶ。板書が児童の思考を可視化し学習の焦点を明確にする役割を持つことを理解する。板書例を分析し効果的な構成を検討する。テキスト第2章 板書とノート指導
6	発問技術	発問の役割と設計方法について学ぶ。思考を促す発問と確認質問の違いを理解し、児童の考えを引き出す問いの作り方を検討する。テキスト第3章 発問の工夫と読解指導
7	音読と読解指導	音読と黙読の役割を理解し、読解指導における音読活動の活用方法を学ぶ。音読活動が理解力や表現力の育成に果たす役割を考える。テキスト第4章 音読指導と表現指導
8	作文指導	作文指導の意義と基本的な指導方法を理解する。書くことの指導が論理的思考力や構成力の育成にどのようにつながるかを学ぶ。テキスト第5章 作文指導技術
9	言語活動	言語活動の意義と授業設計への位置づけを理解する。読む・書く・話す・聞くを統合した学習活動が思考力や表現力を育てることを学ぶ。テキスト第6章 言語活動と言語技術の育成
10	議論活動	議論活動の教育的意義と授業での活用方法を理解する。議論が思考力・判断力・表現力の育成につながることを確認する。テキスト第7章 議論指導の基礎と実践
11	ICT活用	ICTを活用した授業の方法と意義を理解する。電子黒板やタブレットの活用事例をもとに授業設計を検討する。テキスト第8章 ICT活用と情報活用能力の育成
12	言語活動とICTの統合	ICTを活用した言語活動の授業設計を考える。デジタル教材や共同編集ツールを活用した授業の可能性を検討する。テキスト第6章・第8章
13	模擬授業	これまで学んだ授業技術をもとに簡単な模擬授業を行う。授業の良かった点や改善点について分析し授業づくりの視点を整理する。テキスト第1章(授業設計の再確認)
14	授業づくりのまとめ	授業設計、指導技術、言語活動、ICT活用など本授業で学んだ内容を総合的に振り返る。教員として必要な授業力について整理し今後の学びにつなげる。第テキスト総括
15		
16		

科目コード	21331				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FE用]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、小学校教員として授業を行う際に必要となる「教育の方法及び技術」について、具体的な授業場面を想定しながら学ぶ。学習指導要領に基づく授業設計、板書・発問などの基本的指導技術、言語活動を中心とした授業づくり、議論活動やICT活用など、現代の学校現場で求められる授業技術を体系的に理解することを目的とする。講義とグループワークを組み合わせながら、授業設計から実践までの一連の過程を理解し、教員として必要な実践的授業力の基礎を養う。

<授業の到達目標>

学習指導要領に基づいた授業設計の基本を理解し、ねらいに応じた指導計画を立案することができる。板書や発問などの基本的な指導技術について理解し、授業場面を想定して活用する力を身に付ける。さらに、言語活動や議論活動、ICT活用を取り入れた授業づくりの意義を理解し、児童の学びを深める授業の在り方について説明できる。これらを通して、教員として必要な実践的授業力の基礎を身に付ける。

<授業の方法>

授業は講義と演習を組み合わせる。授業の前半三分の二では、教育方法や指導技術について講義を行い、具体的な授業事例をもとにグループワークや意見交換を行う。後半三分の一ではGoogleフォームを活用した振り返りを行い、授業内容の整理と理解の深化を図る。学生は授業の中で自分の考えを言語化し共有することで、理論と実践を結びつけながら授業づくりの基本を段階的に理解する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、講義だけでなくグループワークや討議活動を取り入れる。学生は具体的な授業場面を想定して意見交換を行い、他者の視点を通して授業づくりの考え方を深める。またGoogleフォームによる振り返りを通して、自らの理解や気づきを整理する機会を設ける。こうした活動を通して、学生が主体的に学びに参加し、教育方法を自分の言葉で説明できる力を育成する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の授業内容に関連する教科書や資料を事前に確認し、授業場面を想定しながら指導方法について自分の考えを整理しておくこと。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出 30%・レポート内容 40%・最終まとめ 30%

<教科書>

内田仁志（2026年4月） 小学校教師のための「使える」授業技術― 国語科を核にした授業設計と指導の実践 ― 福村出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育方法とは何か	本授業の目的、授業方法、評価方法について説明する。あわせて教師に求められる授業力とは何かを考え、教育方法の基本概念を理解する。学習指導要領に示される資質・能力の三つの柱や主体的・対話的で深い学びの考え方を概観し、これからの授業づくりの基本的枠組みを確認する。最後にGoogleフォームによる振り返りを行う。テキスト使用なし
2	教師の接遇と学校組織	ゲスト講師による講義を通して、学校現場における接遇の基本を学ぶ。保護者対応や電話対応など教師として必要な社会的マナーを理解する。学校が多様な関係者によって成り立つ組織であることを踏まえ、教師の基本姿勢について考える。テキスト使用なし
3	学習指導要領と授業設計	学習指導要領の役割と授業づくりの関係を理解する。資質・能力の三つの柱を踏まえ、授業設計の基本原則について学ぶ。単元構成や授業の基本構造を具体例をもとに分析する。テキスト第1章 国語科の授業設計と学習指導案の作成

4	学習指導案の構成	学習指導案の構造と作成方法を学ぶ。目標設定、学習活動、評価の観点など授業設計の具体的手順を理解する。簡単な授業構成をグループで検討する。第4回 テキスト第1章 国語科の授業設計と学習指導案の作成
5	板書技術	授業における板書の役割と基本技術を学ぶ。板書が児童の思考を可視化し学習の焦点を明確にする役割を持つことを理解する。板書例を分析し効果的な構成を検討する。テキスト第2章 板書とノート指導
6	発問技術	発問の役割と設計方法について学ぶ。思考を促す発問と確認質問の違いを理解し、児童の考えを引き出す問いの作り方を検討する。テキスト第3章 発問の工夫と読解指導
7	音読と読解指導	音読と黙読の役割を理解し、読解指導における音読活動の活用方法を学ぶ。音読活動が理解力や表現力の育成に果たす役割を考える。テキスト第4章 音読指導と表現指導
8	作文指導	作文指導の意義と基本的な指導方法を理解する。書くことの指導が論理的思考力や構成力の育成にどのようにつながるかを学ぶ。テキスト第5章 作文指導技術
9	言語活動	言語活動の意義と授業設計への位置づけを理解する。読む・書く・話す・聞くを統合した学習活動が思考力や表現力を育てることを学ぶ。テキスト第6章 言語活動と言語技術の育成
10	議論活動	議論活動の教育的意義と授業での活用方法を理解する。議論が思考力・判断力・表現力の育成につながることを確認する。テキスト第7章 議論指導の基礎と実践
11	ICT活用	ICTを活用した授業の方法と意義を理解する。電子黒板やタブレットの活用事例をもとに授業設計を検討する。テキスト第8章 ICT活用と情報活用能力の育成
12	言語活動とICTの統合	ICTを活用した言語活動の授業設計を考える。デジタル教材や共同編集ツールを活用した授業の可能性を検討する。テキスト第6章・第8章
13	模擬授業	これまで学んだ授業技術をもとに簡単な模擬授業を行う。授業の良かった点や改善点について分析し授業づくりの視点を整理する。テキスト第1章(授業設計の再確認)
14	授業づくりのまとめ	授業設計、指導技術、言語活動、ICT活用など本授業で学んだ内容を総合的に振り返る。教員として必要な授業力について整理し今後の学びにつなげる。第テキスト総括
15		
16		

科目コード	31302				区 分	コア科目			
授業科目名	教育評価				担当者名	鈺 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業は、教育評価の役割や考え方を理解し、教育評価を適切に実践していくために必要な実践力を養うことを目指して行う。評価は教育において欠かせない営みである一方で、その実践にはいくつもの原理的・実践的な難しさを伴う。本講義では、その困難な問題について、いくつかの具体的な課題や作業を通して学びを深めてもらう。

<授業の到達目標>

教師をめざそうとする学生や教育に興味・関心を持つ学生が、評価の理論と実際を学ぶことを目指す。次の3点を目標とする。(1) 評価することの意義・手続き・困難さについて理解し、説明することができる。(2) 評価の事前の準備や事後の反省のプロセスを通し、具体的な授業・評価の設計の判断を下す力をつける(3) 評価を常に改善される余地のあるものと捉える姿勢を持つことができる

<授業の方法>

講義形式の中にいくつかの課題を設ける。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り。グループディスカッションや相互評価など。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：前回の講義についてClassroomにアップロードされた内容を復習する（30分）。事後学習：講義スライドや講義中に回答したFormsとそのフィードバックをもとに、講義内容と自らの学びを3分程度で話せる内容にまとめる（90分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業課題 80%、学期末課題 20%

<教科書>

なし

<参考書>

田中耕治（編）2021年4月30日 よくわかる教育評価 第3版 ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本講義の目標と内容	本講義の目標と内容について
2	評価の機能	診断的評価・形成的評価・総括的評価とその役割
3	カリキュラム	意図カリキュラム・実施カリキュラム・達成カリキュラム
4	ルーブリック（1）	ルーブリックの意義と構成要素
5	ルーブリック（2）	ルーブリックの修正
6	教育評価の具体事例（1）	各教科における評価事例（1）
7	教育評価の具体事例（2）	各教科における評価事例（2）
8	教育評価の歴史と動向（1）	目標に準拠した評価など
9	教育評価の歴史と動向（2）	学習のための評価など
10	教育評価の歴史と動向（3）	工学的アプローチ・羅生門アプローチなど
11	教育評価の歴史と動向（4）	目標の分類学
12	パフォーマンス評価のためのワークシート（1）	ワークシート作成：単元の構造と目標を理解する
13	パフォーマンス評価のためのワークシート（2）	ワークシート作成：ルーブリックを作成し、子どもにルーブリックを使ってもらうための足場掛けを設定する。
14	パフォーマンス評価のためのワークシート（3）	ワークシート作成：ワークシートのデザインを修正し完成させる
15		
16		

科目コード	40108				区 分	コア科目			
授業科目名	剣道 I (基礎) [2年生以上男子用]				担当者名	堀川 峻			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

日本の伝統文化である剣道は、「剣の理法の修練による人間形成」を目的としており、その理念は今や日本のみならず、世界中で愛好者を増やし続けている。本授業では、剣道の基礎的な技能や礼法を身につけると共に、日本独自の身体文化としての伝統性について実践を通して理解を深めること、剣道を指導する際の留意点や安全性について理解することを目的とする。本授業においては、(1) 服装・用具の確認 (2) 授業前の体調確認・準備運動 (3) 指導内容の遵守 (4) 安全な間合い・動作の確保等を徹底することで安全に配慮し、事故や怪我の発生時には

<授業の到達目標>

平成24年度完全実施の中学校学習指導要領では、武道（剣道、柔道、相撲）が必修化され、中学校保健体育科教員になった際に武道専門家でなくとも武道の授業を担当しなければならない。この授業を通して剣道の基礎・基本・応用技能・剣道理念を身につけ、教育現場において剣道授業を実施できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

講義・実技・ディスカッション剣道実技を中心に行っていくが、剣道の理念や歴史等を学習する時間も設けるClassroomを使用する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション）グループに分かれ授業内においての指導方法をディスカッションする

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習（授業前）として、中学校・高等学校学習指導要領（保健体育編）武道の部分、剣道指導要領を熟読すること（1時間程度）。また、事後学習（授業後）としては、授業で学んだ動作を振り返り、自身の課題や改善点を整理すること。さらに次回の授業に向けた目標を設定してくること（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技試験 50%

<教科書>

<参考書>

全日本剣道連盟 全日本剣道連盟編「剣道指導要領」

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本授業の内容説明	本授業の留意点や受講における心構えについて学習する。
2	剣道着袴採寸と剣道理念についての学び	剣道着・袴の採寸と剣道理念・歴史の学習を行う。
3	剣道着・袴の着用方法、竹刀について	剣道着・袴の着方法、竹刀の規格・手入れ方法と安全管理について
4	剣道の礼法と足捌き、構えについて	姿勢（自然体）、礼の仕方（立礼・座礼）、正座の仕方（座り方について）を歴史の背景も理解しながら実践する。足捌き、剣道の構えについて学習する。正しい構え方をした上で適正な足の置き場の確認と送り足動作の実践を行う。
5	基本動作について（素振りや立ち合いにおける礼法）	竹刀の持ち方を学び、刃筋正しく竹刀を振る方法の実践を行う。主に正面素振り・左右面素振り・早素振りなどを行う。立ち合いにおける礼法を学習する。
6	剣道防具の着用方法と片付け	防具の使用方法について説明し、正しく防具を着用し片付けられるようにする。防具の置き方や面・小手・胴・垂・面タオルの着用方法の学習と相手に打突する方法の実践を行う。
7	基本動作について（竹刀への打突）	2人1組や3人1組を作り、相手が竹刀で受けている所への打突を行い、手の内の使い方など打突動作を学習する。
8	基本稽古（仕掛け技）	防具を着用した相手に対して打突を行う基本稽古の仕掛け技を学習する。
9	基本稽古（切り返し）	剣道において基本的な稽古方法の「切り返し」の実践。
10	基本稽古（応じ技）	相手の打突に対応する応じ技の実践。
11	基本稽古（引き技）	鍔迫り合いの説明と鍔迫り合いからの引き技の実践。
12	基本稽古まとめと互角稽古	これまでの学習内容の振り返りとこれまで学習した技を用いた相手との実践稽古を

13	実技確認試験 授業のまとめと試合（団体戦における戦い 方の学習）	行う。
14		礼法、素振り、基本技（仕掛け技・応じ技・引き技）の確認実技テストを行う。
15		
16		授業のまとめ学習と5人制における団体試合（人数に応じて3人～7人制）の実践。

科目コード	62009				区 分	コア科目			
授業科目名	検査・測定と評価				担当者名	坂本 賢広			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	4.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

体力や身体機能の評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に 実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

＜授業の到達目標＞

体力や身体機能の評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

＜授業の方法＞

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニング要素有り各グループでプレイヤー役、トレーナー役、タイムキーパー、レポーター、アクティビティリーダーを決めてもらい、ある課題に対してHOPSのHOP（問診・視診・触診）を中心に実技対応を行いグループ内で議論し主体的な学習と実践を行う。役割を順番に担当していただき、積極的に参加して自分の考えを言葉にして学びほぐしを行う。スポーツ現場でのトレーナー活動を想定した心構えを持ちながら主体的な学習活動を展開する。測定および検査法など実際に体験し、課題に対する改善を図りながら主体的および客観的な評

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業中に配布された資料、また参考書を通じて予習すること（60分程度）。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの30分以上復習すること。適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 40％、実技・技術確認60％

＜教科書＞

＜参考書＞

公益財団法人日本スポーツ協会（2025年4月30日第3刷発行） 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト [2022年カリキュラム対応] 第6巻 検査・測定と評価 （公財）日本スポーツ協会
（財）健康・体力づくり事業財団（2008） 健康運動指導士養成講習会テキスト<下> （財）健康・体力づくり事業財団

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション及び総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（1）	評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディ ショニングの目標設定、プログラム立案
4	検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義 およびその検査測定方法
10	検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定（新体力テスト）の検査項目とその目的と概要
14	まとめ	検査・測定方法に関する総合討議
15		

科目コード	54008				区 分	コア科目			
授業科目名	現代経営実践演習基礎Ⅲ				担当者名	横内 浩平			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

将来のキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな社会の出来事について理解しておく必要がある。本科目では、将来公務員を目指す学生が政治や経済の知識を身に付け、将来の就職試験に備えることを目的として開講する。この授業は1年次の配当科目である現代経営実践演習基礎ⅠとⅡを履修していることを前提として授業を行う。

<授業の到達目標>

1. 公務員試験における「頻出分野」の政治・経済分野について基礎的な理解ができるようになる。2. 採用試験に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリント、パワーポイントを使用し授業を進める）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。1. 問題演習（配布プリントを使用し問題演習を進める）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 授業時の課題の一部についてはグループ内で相談し考えをまとめる

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関する下調べ（30分程度）復習：次回講義までに授業の内容について復習をしておくこと（90分以上）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50%、確認テスト 35%、授業態度 15%

<教科書>

得になし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	経済(1)	財政政策(1)
3	経済(2)	財政政策(2)
4	経済(3)	国民所得と経済成長
5	経済(4)	戦後日本の経済史(1)
6	経済(5)	戦後日本の経済史(2)
7	経済(6)	為替レートと貿易摩擦(1)
8	経済(7)	為替レートと貿易摩擦(2)
9	経済(8)	戦後の国際通貨と貿易体制(1)
10	経済(9)	戦後の国際通貨と貿易体制(2)
11	経済(10)	経済分野まとめ
12	問題演習(1)	経済分野問題演習(1)
13	問題演習(2)	経済分野問題演習(2)
14	問題演習(3)	政治分野問題演習(1)
15		
16		

科目コード	3G100				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	現代経営論 [週2]				担当者名	田口 雅弘／歌代 哲也			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	履修必修

<授業の概要>

週前半の講義では、オムニバス形式で、『日本経済新聞』の読み方を、外部講師が解説。週後半の講義では、本学教員が週前半の講義を解説・補足する。2年生が対象。

<授業の到達目標>

『日本経済新聞』が理解できる基礎力がつき、現代社会で起こっている社会・経済問題のポイントが理解できるようになる。

<授業の方法>

オムニバス形式の講義

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ディスカッションを取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

最初の講義で指示する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最初の講義で指示する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	3G205				区 分	コア科目			
授業 科目名	公共経済学				担当者名	田鹿 紘			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

講義では公共部門の経済行動についてミクロ経済学やマクロ経済学の理論を用いて考えていく。そして講義を通して公共部門の必要性や今日の経済課題について知識を深めていく。

<授業の到達目標>

①経済理論を用いて政府の経済活動の評価を行うことができる。②政府が市場経済に対して行う政策的な介入の効果についての知識を有している。

<授業の方法>

指定した教科書を用いて講義を展開する。サブノートやスライドも併用するが、教科書を丁寧に読み進めていくことを基本とする。必要に応じて、ミクロ経済学の理論の復習を行う。ミクロ経済学の知識は前提としない。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

知識を深めるためのグループワークもしくはペアワークの実施。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（事前学習）教科書の該当するページをよく読み、理解できる箇所と理解できない箇所を明らかにしておく。必要があればミクロ経済学やマクロ経済学の授業資料を随時参照する。（90分）（事後学習）教科書や授業中のメモを読み返し、授業を振り返る。（60分）講義内容に関連する時事的な話題について新聞や記事を探し、よく読み、整理する。（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で実施する理解度確認テスト 70%（3回実施）グループワークの課題 30%（3回実施）

<教科書>

井堀利宏（2015） 基礎コース 公共経済学 第2版 新世社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	市場と政府	市場の機能と政府の役割について学ぶ。
2	国民と投票	選挙と投票、望ましい投票制度、有権者の政治行動について経済学的に学ぶ。
3	政党と政策	政党の行動、政権交代、連立政権について経済学的に学ぶ。
4	規制	前半で参入規制、価格規制について学ぶ。後半で独占と公的規制について学ぶ。
5	グループワークと確認テスト	第1回から第4回の授業の理解度を確認するためのテストを行う。テストの後にグループワークを行う。
6	外部性	外部性、ピグー課税、コースの定理、外部性対策の経済的手段について学ぶ。
7	公共財	公共財の概念とただ乗りの問題について学ぶ。
8	公共支出	費用便益分析、最適な公共投資について学ぶ。
9	課税	最適課税の理論、消費税増税の経済学的な考え方について学ぶ。
10	グループワークと確認テスト	第6回から第9回の授業の理解度を確認するためのテストを行う。テストの後にグループワークを行う。
11	財政赤字と公債	財政赤字の経済学的な考え方について学ぶ。
12	年金	世代間の再分配政策について学ぶ。
13	再分配政策	個人間の再分配政策、地域間の再分配政策について学ぶ。
14	講義全体の振り返り、グループワーク、確認テスト	講義全体を振り返る。第11回から第13回の授業の理解度を確認するためのテストを行う。テストの後にグループワークを行う。
15		
16		

科目コード	3G212				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	行政学				担当者名	石原 秀樹			
配当年次	2年	配当学期	2026年度 (第1ク オータ ー・第2ク オータ ー)	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

国の機能は、大きく分けて、立法・司法・行政という三つの機能に分類できます。中でも、行政は多種多様な作用を持ち、私たちの日々の生活にとってもっとも身近な機能といえます。行政を学ぶことは、国と現代社会の仕組みを知ることにつながり、その知識は、社会人が備えておくことが望まれる常識と言えるものであると同時に、経済、経営について学びを深めるための基盤ともなります。公務員試験の出題傾向にも対応する授業内容とします。

<授業の到達目標>

以下の3項目を到達目標とします。・国と地方公共団体のおおまかな役割分担とそれぞれの働きを理解し、概要について説明できる。・国や地方公共団体において実際に仕事を担っている人々がそれぞれの立場で直面する課題について認識し、類型化して概要について説明できる。・国や地方高校団体のいろいろな組織が期待どおりに機能するためには、どのようなことが必要になるのかについて考え、改善策を提案できる。

<授業の方法>

毎回の授業に、必ず教科書を持参すること。教科書の目次通りに進行し、記載内容について解説する。ある行政課題の解決策について、受講者から提案を募り、出された提案について、他の受講者の意見を求めて、議論を深めることも狙う。授業において、課題を設定し、次回授業時に当該課題についてA4用紙1枚程度のレポート提出を求めることがある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素あり。教科書の記述に現れる行政課題について、受講者から提案を募り、出された提案について、他の受講者の意見を求めて、議論を深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習 教科書の次回の授業対象範囲を読んでおく。（目安時間：約1時間）事後学習 次回の授業において、受講者のうち数人を指名して、前回の授業について、振り返りの報告を求めることがある。記憶の定着のためにも、毎回の授業を受講後、A4用紙半分程度の分量でよいので、指名された場合に報告の手がかりとなるよう、振り返りメモを書く。（目安時間：約15分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシーのうち、DP2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、DP3（課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）及びDP4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる。）と関連づけられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、授業中の議論への貢献度20%、振り返り報告状況20%、レポート提出40%

<教科書>

伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔（2022年9月10日 新版第1刷） はじめての行政学〔新版〕 株式会社有斐閣

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	第1章 行政とは何か	政府の必要性、政府の構成を扱う。
2	第2章 大きくなる政府の役割	近代国家の発展と政府の役割の増大、官僚制化と行政国家化、例外としてのアメリカを扱う。
3	第3章 行政学とはどのような学問か	政治行政分断論、組織管理論、政治行政融合論、現代組織論、戦後アメリカ行政学の展開を扱う。
4	第4章 新しい行政の見方	福祉国家・行政国家への批判と新自由主義の登場、行政改革と新公共管理論、ガバナンス論を扱う。
5	第5章 国と自治体を動かすしくみ	執政制度の比較、日本の議院内閣制と首相のリーダーシップ、政官関係を扱う。
6	第6章 政府の姿	中央府省の組織編制、行政を取り巻く組織、自治体の行政組織を扱う。
7	第7章 行政を担う人々	公務員制度、公務員の数と種類を扱う。
8	第8章 変化する日本の行政	行政組織の改革、公務員制度改革、規制改革、地方分権改革を扱う。
9	第9章 行政活動をデザインする	公共政策としての行政活動を扱う。

10	第10章 法律・条例をつくる	中央府省における法案作成過程、執行準備、自治体の条例策定を扱う。
11	第11章 予算をつくる	予算の政策的機能と制度、地方財政と自治体予算・計画を扱う。
12	第12章 行政と社会のインターフェース (前篇)	政策実現の手段と実施主体、第一線職員と対象集団を扱う。
13	第12章 行政と社会のインターフェース (後篇)	政策評価とフィードバック、政策の失敗と行政の責任を扱う。
14	まとめ	これまでの学びを振り返る。
15		
16		

科目コード	32304				区 分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法 [他学科A]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

1 小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。2 国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。3 履修する場合、講義に次の物を用意してください。①横書きA4判ノート（1行6mm幅）②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン③A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙④のり

<授業の到達目標>

1 小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解できる。2 領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実際を理解できる。3 授業構想等に関し、自分の考えを表現することができる。

<授業の方法>

1 教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。2 音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。3 教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

1 課題によって、4～5人のグループに分かれて話し合い、意見をまとめて発表する。2 毎回、順番で感想を発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習】 予習 事前課題への取り組み（1時間）【事後学習】 復習 授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40%、レポート・課題60%により総合的に評価する。

<教科書>

<参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説 国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導 1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導 2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
12	模擬授業・授業記録 1	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
13	模擬授業・授業記録 2	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	国語科学習指導における評価と指導の一体化と総括（まとめ）	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構えをもつ。
15		
16		

科目コード	32304				区 分	コア科目			
授業科目名	国語科教育法 [他学科B]				担当者名	小川 智勢子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

1 小学校国語科における「知識及び技能」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の主な学習内容を講義する。2 国語科教材等に基づき、児童の発達段階に即した授業を構想する。3 履修する場合、講義に次の物を用意してください。①横書きA4判ノート（1行6mm幅）②濃い文字の書ける鉛筆かシャープペン③A4サイズ400字詰ヨコ原稿用紙④のり

<授業の到達目標>

1 小学校国語科の主な学習内容と指導上の留意点を理解できる。2 領域別の主な国語科の指導方法と授業構想の実践を理解できる。3 授業構想等に関し、自分の考えを表現することができる。

<授業の方法>

1 教科書や配布資料を使用し、講義を実施する。2 音読・視写・筆順など、国語科の基礎となる学習を実際に課題として行う。3 教科書や資料等の要約、教材等への自分の考えを報告する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

1 課題によって、4～5人のグループに分かれて話し合い、意見をまとめて発表する。2 毎回、順番で感想を発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【事前学習】 予習 事前課題への取り組み（1時間）【事後学習】 復習 授業後における学びの振り返り及び発展学習（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・参加態度40％、レポート・課題60％により総合的に評価する。

<教科書>

<参考書>

文部科学省（2018/2/28） 小学校学習指導要領解説 国語編 東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	国語科教育の全体像	講義の概要や成績評価方法等を知る。国語教育と国語科教育の違いを理解する。
2	国語科教育と言葉の働き	『小学校学習指導要領解説 国語編』の目標と領域、詩の言葉と論理の言葉
3	論理的文章を「読むこと」の指導 1	小学校低・中学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
4	論理的文章を「読むこと」の指導 2	小学校高学年の論理的文章を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し、自分の考えをまとめる。
5	「書くこと」（基礎・基本）の指導	「書くこと」（基礎・基本）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
6	「書くこと」（発展）の指導	「書くこと」（発展）の教材等を理解し、授業実践に向けて、自分の考えをもつ。
7	「話すこと・聞くこと」の指導	「話すこと・聞くこと」の指導内容・ポイントを理解する。
8	文学的文章（物語）を「読むこと」の指導	文学的文章（物語）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
9	文学的文章（詩）を「読むこと」の指導	文学的文章（詩）を「読むこと」の教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
10	「知識及び技能」	「知識及び技能」について、教材等を理解し、授業構想に対し自分の考えをまとめる。
11	指導案の書き方と模擬授業	教材研究の方法、指導案の書き方を知る。
12	模擬授業・授業記録 1	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
13	模擬授業・授業記録 2	模擬授業を実施し、授業記録を取る。
14	国語科学習指導における評価と指導の一体化と総括（まとめ）	国語科教育法のまとめ（学習評価を視点として）及び小学校国語教師としての心構えをもつ。
15		
16		

科目コード	24202				区 分	コア科目			
授業科目名	国際関係論				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	集中	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、世界で起きている出来事を理解し、その背景や仕組みを考える学問です。戦争や紛争、貧困、環境問題など、ニュースで見聞きするさまざまな問題を「なぜ起きるのか」「どうすれば解決できるのか」という視点から考えます。これまでの国際社会の歴史や考え方（理論）を学びながら、現在の世界で起きている問題についても自分の頭で考える力を身につけます。また、日本の立場だけでなく、世界全体の視点から物事を見る力（グローバルな視野）を養うことも大切な目的です。●授業のポイント・国際ニュースが「わかる」ようになる・世界の出

<授業の到達目標>

この授業を通して、次の力を身につけます。・国際関係の基本的な理論（リアリズムなど）を理解し、説明できる・現代の国際問題をさまざまな視点から分析できる・日本の外交や国際社会での役割を理解できる・国際社会の一員として、自分の意見を持てるようになる

<授業の方法>

講義だけでなく、以下のような参加型の活動も行います。グループディスカッションケーススタディ（実際の国際問題の分析）プレゼンテーションまた、最新の国際ニュースを取り上げながら、現実の世界と結びつけて学びます。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり・グループディスカッション・ケース分析・プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（約30分）・ニュース（新聞・ネット）をチェックする・次回テーマについて簡単に調べる復習（約30分）・授業内容を整理する・レポートや課題に取り組む

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は以下の能力の育成に寄与する：異文化理解と国際社会への貢献力国際的視野に基づく問題分析能力

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・出席：30%課題（小レポート・発表）：30%期末レポート：40%※授業中やコメントでフィードバックを行います。

<教科書>

教科書：指定なし参考書：国際関係論や国際政治・経済の入門書

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	国際関係論	ガイダンス
2	国際関係論の基礎	国際関係の歴史
3	国際関係論の基礎	リアリズム
4	国際関係論の基礎	リベラリズム
5	国際関係論の基礎	コンストラクティビズム（価値観や文化が国際関係に与える影響）
6	国際関係論の基礎	国際機構と世界のルール（国連などの役割）
7	国際関係論の基礎	安全保障と紛争
8	国際関係論の基礎	核問題と軍縮
9	国際関係論の基礎	国際政治経済
10	国際関係論の基礎	地域統合（EUやアジアの地域協力）
11	国際関係論の基礎	人権と移民
12	国際関係論の基礎	現代の国際課題
13	国際関係論の基礎	まとめ・発表
14	国際関係論の基礎	期末レポート
15		
16		

科目コード	3G203				区 分	コア科目			
授業科目名	国際経済学 [週2]				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	2年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、国際貿易や国際金融を通じて、各国の経済がどのように結びついているかを学ぶ。比較優位の理論をはじめとする国際経済学の基本的な考え方を理解するとともに、自由貿易と保護貿易、為替レート、外国直接投資などの仕組みについて学ぶ。さらに、日本経済の産業構造の変化やアジア諸国の発展過程を取り上げ、現実の経済の動きを理論と結びつけて理解する。加えて、貧困や格差といった現代の重要な問題についても扱い、国際経済の視点からその背景と課題を考察する。

<授業の到達目標>

本科目の到達目標は主として以下の3点である。① 比較優位の理論や貿易の仕組みなど、国際経済学の基礎的な理論を理解し、自身の言葉で説明できる。② 日本およびアジア諸国の経済発展や産業構造の変化について理解し、その背景を説明できる。③ 貧困や格差といった国際経済上の課題について、理論と現実を踏まえて考察し、自らの意見を持つことができる。

<授業の方法>

指定した教科書に基づき、パワーポイントおよび板書を用いた講義形式で授業を行う。理解を深めるため、適宜、質疑応答を取り入れながら進める。必要に応じて、簡単なディスカッションや意見交換を行うことがある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業に臨むにあたり、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと（事前学習：30分程度）。授業後は、講義内容をノート等で整理し、重要なポイントや用語を確認し、理解を深めること（事後学習：30分程度）。また、日常的にニュースや新聞等を通じて国際経済の動向に触れ、授業内容との関連を意識することが望ましい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、期末試験（60%）、授業内課題・平常点（40%）により評価する。授業内課題では、講義内容に関する理解や考察を記述することを求める。

<教科書>

浦田 秀次郎, 小川 英治, 澤田 康幸 (2022/8/26) はじめて学ぶ国際経済〔新版〕（有斐閣アルマ） 有斐閣

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法の説明。国際経済学とは何を扱う学問か、本授業の全体像と位置づけを確認する。
2	なぜ国際貿易が生じるのか	分業と専門化の考え方、貿易によって生じる利益の直感的理解。輸入代替工業化の考え方とその背景。
3	リカードの比較優位モデル	比較優位の理論、絶対優位との違い、機会費用の概念。貿易が成立する仕組みの理論的説明。
4	自由貿易と保護貿易	総余剰分析を用いた貿易の利益の検討。自由貿易と保護貿易のメリット・デメリットとその影響。
5	市場と価格の調整	市場メカニズムの働き、統制価格がもたらす影響、アービトラージ（裁定取引）による価格調整の仕組み。
6	世界貿易体制	GATTの成立とWTOへの展開、自由貿易体制の枠組み、FTAの拡大とその意義。
7	為替レートの仕組み	為替レートの基本、変動要因、為替と貿易・経済活動との関係。
8	FDI（直接投資）	外国直接投資の目的と役割、企業の海外進出の背景、国際分業との関係。
9	産業構造の変化（日本）	日本の産業構造の変化、垂直分業から水平分業への移行、その背景と影響。
10	アジア経済の発展	アジア諸国の発展モデル、フラグメンテーションとアグロメレーション（産業集積）の役割。
11	日本とアジアの比較	日本の停滞とアジア諸国の成長の要因、モジュール型経済の視点からの比較分析。
12	豊かさとは	なぜ国によって豊かさに差が生じるのか、経済発展と格差の基本的な考え方。
13	相対的貧困と絶対的貧困	貧困の定義と測定方法、相対的貧困と絶対的貧困の違い、その社会的意味。
14	クズネッツ曲線とまとめ	経済成長と格差の関係（クズネッツ曲線）の理解。本授業全体の整理と総括。

15		
16		

科目コード	3G305				区 分	コア科目			
授業科目名	財務会計				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	2年	配当学期	第1、2 クォータ ー	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では財務会計を学び、日商簿記検定2級を受講者全員が受験し合格することを目指す科目である。そのため「簿記入門」「簿記演習」を履修しているか、商業高校等で日商簿記検定3級程度の知識・技術を有している必要がある。また「原価計算」「管理会計」を同時に履修している必要がある。財務諸表の作成ルールを理解するとともに、どのような情報を提供しているのかを適切に理解しておくことで、様々なビジネスシーンにおいて活用することができる。その財務諸表を作成するために必要な基礎的な知識・技術を習得する。

<授業の到達目標>

①日商簿記検定2級を受講者全員が受験し合格することを目指す。②財務諸表の作成ルールを理解する。③財務諸表の作成方法を理解する。④財務諸表により得られた情報を、どのように活用するか理解できること。

<授業の方法>

①日商簿記2級を受講者全員が受験し合格することを目指す。②履修する条件として3級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。また「簿記入門」「簿記演習」を履修しており、「原価計算」「管理会計」「資格検定対策Ⅲ（簿記系）」を併せて履修すること。③授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。④電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。⑤第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員へ連絡すること）⑥本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学習によるところが大きい。⑦解説動画をクラスルームを活用して配信することができる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有5,6人による協働学習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）3時間、復習（問題演習）3時間を費やす必要がある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

<教科書>

瀧澤ななみ 2026年度版 スッキリわかる 日商簿記2級 商業簿記 TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、財務会計とは
2	仕訳①	株式の発行、剰余金の配当と処分合併と無形固定資産法人税等と消費税商品売買等
3	仕訳②	手形と電子記録債権（債務）、その他の債権譲渡銀行勘定調整表固定資産
4	仕訳③	リース取引研究開発費とソフトウェア有価証券引当金
5	仕訳④	外貨換算会計税効果会計収益認識の基準
6	決算、本支店会計①	精算表と財務諸表帳簿の締め切り
7	決算、本支店会計②	本支店会計
8	連結会計①	連結財務諸表とは支配獲得日の連結支配獲得日後の連結
9	連結会計②	内部取引の処理未実現利益の消去
10	連結会計③	総合問題
11	製造業会計	製造業会計の基本
12	総合演習①	第1問対策
13	総合演習②	第1問対策
14	総合演習③	第2問、第3問対策
15		
16		

科目コード	3G315				区 分	コア科目			
授業科目名	財務諸表論Ⅰ [2年生～]				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第1クォーター、第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、企業会計の要である「財務諸表論」の計算能力を養います。税理士試験等の高度な会計資格を見据え、財務諸表の作成プロセスと各項目の計算手法を体系的に学びます。具体的には、貸借対照表、損益計算書の作成、資産・負債・純資産の各評価基準について演習を通じて習得します。

<授業の到達目標>

①財務諸表作成の基礎となる会計原則を理解し、適切な仕訳ができる。②資産（流動・固定）、負債、純資産の各項目における計算・評価技法を習得する。③税効果会計や連結会計の基礎を含む、応用的な計算問題に対応できる力をつける。

<授業の方法>

①財務諸表作成の基礎となる会計原則を理解し、適切な仕訳ができる。②資産（流動・固定）、負債、純資産の各項目における計算・評価技法を習得する。③税効果会計や連結会計の基礎を含む、応用的な計算問題に対応できる力をつける。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

①各回のテーマについてテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと（予習：2時間）。②授業で扱った計算問題は、数値を変えても正解できるよう繰り返し解き直すこと（復習：3時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%②小テスト・演習課題 70%フィードバック：提出された課題や小テストについては、次回授業時またはLMS上で解答・解説を行います。

<教科書>

TAC出版開発グループ 編 税理士 財務諸表論 計算問題の解き方 第8版 TAC株式会社(税理士講座)

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・財務諸表の基礎	授業の進め方、財務諸表の構成、簿記と財務諸表論の接続
2	現金預金・債権の計算	現金預金の調整、貸倒引当金の計上と表示
3	現金預金・債権の計算	現金預金の調整、貸倒引当金の計上と表示
4	有価証券の計算	売買目的・満期保有・子会社株式等の分類と評価
5	有形固定資産①	取得価額の決定、減価償却費（定額・定率）の計算
6	有形固定資産②	圧縮記帳、固定資産の売却・除却・買い替え
7	リース会計	所有権移転・外リースの判定と計算
8	無形固定資産・繰延資産	ソフトウェア、のれん、研究開発費の処理
9	負債・引当金の計算	退職給付引当金、賞与引当金、資産除去債務の基礎
10	純資産の会計	資本金、資本準備金、利益剰余金の振替処理
11	税効果会計	一時差異の把握と繰延税金資産・負債の計算
12	収益認識の基準	契約資産、契約負債、収益認識に関する会計基準の適用
13	総合問題演習①	決算整理事項の整理と試算表の作成
14	総合問題演習②	貸借対照表・損益計算書の作成と確認テスト
15		
16		

科目コード	32300				区 分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法 [FE2531組用]				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

<授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

<授業の方法>

授業の具体を示す資料等(プロジェクター、授業VTR)に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート(指導案作成など)も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

<教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

<参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法、概算と見積もりの指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角、図形の軽量(面積、体積)の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係(速さ、割合、比、比例、反比例・・・)の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15		
16		

科目コード	32300				区 分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法 [FE2532組用]				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

<授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

<授業の方法>

授業の具体を示す資料等(プロジェクター、授業VTR)に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート(指導案作成など)も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

<教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

<参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法、概算と見積りなどの指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角、図形の軽量(面積、体積)の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係(速さ、割合、比、比例、反比例・・・)の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15		
16		

科目コード	32300				区 分	コア科目			
授業科目名	算数科教育法 [FE2533組用]				担当者名	前田 一誠			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

<授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

<授業の方法>

授業の具体を示す資料等(プロジェクター、授業VTR)に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート(指導案作成など)も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

<教科書>

編者代表・齋藤昇 『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』 東洋館出版社

<参考書>

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 算数編』 東洋館出版社

田中博史他 『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』 文溪堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり (1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり (2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導 (1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導 (2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導 (3)	乗法・除法、概算と見積もりの指導
8	「A数と計算」領域の指導 (4)	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用法
9	「B図形」領域の指導 (1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導 (2)	角、図形の軽量（面積、体積）の指導
11	「C測定」領域の指導 (1)	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導 (2)	変化と関係（速さ、割合、比、比例、反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15		
16		

科目コード	54000				区 分	コア科目			
授業科目名	資格検定対策 I (語学系) [BC留学生用]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、日本語能力試験N2合格に必要な「言語知識（文字・語彙・文法）」「読解」「聴解」の力を総合的に養成することを目的とする。教材『TRY! 日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語』を用い、日常的・社会的な場面の文章から、論説文、エッセー、会議、物語、コラム・社説へと段階的に学習を進める。授業では、単に文法項目を暗記するのではなく、文脈の中で意味と機能を理解し、N2形式の問題に対応できる読解力・聴解力を養う。特に、論旨の把握、筆者の意図の理解、自然に近い速度の会話やニュースの要点把握を重視する。授業

<授業の到達目標>

1. 日本語能力試験N2レベルの重要語彙・文法項目を理解し、文脈に応じて判断できる。2. 告知文、説明文、エッセー、論説文、紹介文、物語文、コラム・社説などを読み、内容、論理展開、筆者の主張や意図を把握できる。3. ニュース、説明、会話、案内などの聴解問題において、要点、理由、条件、結論を聞き取ることができる。4. N2形式の問題に対応できる読解・聴解の解法を身につけ、時間配分を意識して問題に取り組むことができる。5. 本試験に向けて自分の弱点を把握し、授業外学習を通して継続的に補強できる。

<授業の方法>

授業では、本文の内容理解、重点文法の整理、読解・聴解演習、試験形式問題、振り返りを組み合わせて進める。毎回、前回の学習内容を確認する小テストを実施し、語彙・文法・内容理解の定着を図る。また、ペア活動やグループ活動を通して、要約、情報整理、比較、意見交換、会話練習などを行い、学習内容を運用できる力を養う。なお、本授業では、日々の予習・復習、小テスト、提出課題などの継続的な学習を重視する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、語彙・文法クイズ、ディスカッション、ピアレビューなどのアクティブラーニングを取り入れ、試験対策に必要なスキルを強化する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業外では、毎回、本文の予習、語彙確認、練習問題、短作文または要約課題に取り組むこと。1回の授業につき、おおむね2～3時間程度の授業外学習を想定する。特に、知らない語彙の整理、重点文法の例文作成、読解本文の段落要約、聴解スクリプトの復習、模擬問題の解き直しを重視する。N2対策では、授業時間だけでなく、継続的な復習と形式慣れが重要であるため、毎回の課題を計画的に行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・授業内活動 20%小テスト 30%課題提出 30%前半まとめテスト 10%最終模擬問題演習 10%

<教科書>

ABK（公益財団法人 アジア学生文化協会） TRY! 日本語能力試験N2 文法から伸ばす日本語 ASK
星野恵子・辻和子

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション／募集情報の読解	授業概要の確認、到達目標の共有、N2レベルの読解の特徴を理解する。告知文・募集要項を読み、条件・対象・注意事項を正確に把握する練習を行う。
2	改まったあいさつとスピーチ表現	転任やお礼のあいさつを題材に、改まった場面で用いられる表現を学ぶ。文章の流れを追いながら、感謝・回想・今後の展望を表す文法や表現を確認する。
3	仕事の説明とニュース聴解	仕事に関する説明文を読み、内容を整理する力を養う。あわせて、天気予報や台風情報などのニュースを聞き、重要情報を聞き取る練習を行う。
4	文困った状況の説明と共感表現	就職活動を題材に、困難な状況や気持ちを説明する表現を学ぶ。会話文を通して、相手への共感や励ましの表現も確認する。
5	苦労・決意・心情の表現	経歴談を読み、苦労や葛藤、決意の表現を学ぶ。文脈の中で話し手の気持ちの変化を捉え、適切に理解する練習を行う。
6	論説文の読解①	生態系に関する文章を読み、説明文・論説文の読み方を学ぶ。対比、変化、因果関係に着目しながら、段落ごとの要点を整理する。
7	ビジネス場面の敬語／前半の復習	取引先とのやりとりを題材に、ビジネス場面での敬語表現を学ぶ。前半の学習内容

8	自然な会話表現の理解	を整理し、文法・読解・聴解の総復習を行う。 身近な話題を扱った会話文を通して、話し言葉特有の自然な表現やニュアンスを学ぶ。話者の気持ちや評価を読み取る練習を行う。
9	エッセーの読解	満員電車を題材としたエッセーを読み、筆者の考え方や感じ方を理解する。事実と意見を区別しながら、文章の流れをつかむ練習を行う。
10	紹介文の読解と説明表現	紹介記事を読み、情報の整理のしかたや説明の構成を学ぶ。あわせて、会議や説明場面で用いられる表現の基礎を確認する。
11	会議での説明と意見表明	商品開発を題材に、会議で説明したり意見を述べたりする表現を学ぶ。条件提示、仮定、判断の表現を整理し、実践的に用いる練習を行う。
12	物語文の読解と心情理解	人生の転機を描いた物語を読み、出来事の流れと登場人物の心情変化を理解する。決意、迷い、感情の強さを表す表現を確認する。
13	論説文の読解②／主張理解	オリンピック開催に関するコラム・社説を読み、筆者の説明と主張を読み取る。論点、根拠、結論の関係を整理しながら読む練習を行う。
14	総まとめ・模擬問題演習	これまでの学習内容を総復習し、N2形式の模擬問題に取り組む。文法・読解・聴解の弱点を確認し、受験に向けた最終整理を行う。
15		
16		

科目コード	32301				区 分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法 [FE2531組用]				担当者名	鈺 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

選択必修「社会の理解/初等社会」では、授業作成までのプロセスという大枠を通し、社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義でもこれまでと同様に、社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが、こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。受講者に心掛けてほしいこととしては、講義で扱った概念を自分なりに解釈して授業内外で用いていくことである。学術上の厳密な言葉遣いとは異なるとしても、自分の言葉に落とし込んでほしい。

<授業の到達目標>

本講義では、社会科授業の多様性や普遍性を前提とし、自らの社会科授業について他者と建設的な議論ができるような資質の育成を狙っている。具体的には以下の3点を到達目標とする。1) 社会科授業の類型について見識を深め、それに基づいて自らが作成した指導案を位置付けることができるようになる。2) 社会科授業のそれぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し、よりよい授業のあり方について議論できるようになる。3) 自らの学習経験を交えながら、授業づくりについて議論する姿勢をとることができるようになる。

<授業の方法>

グループワークを主体とし、そのための学習内容を講義で補足する。その際にはClassroom, Forms, mentimeter等のICTを用いる。また、学習管理としてはClassroomを用いる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い、Take a Stand等の自身の見解表明、教材の収集と取捨選択等、学習内容に応じた活動を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：Classroomに配信した前回の授業スライドを見て講義内容を復習する。次の講義で扱う社会科授業の違いを適切に比較できるように準備すること(1時間程度)事後学習：授業中に回答したFormsや教員からのフィードバックを読み返し、授業で扱った社会科に対する自らの見解をまとめる(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回のレポート 80%、最終レポート 20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」(1)	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」(2)	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」(1)	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」(2)	「問題解決学習」の可能性と限界、またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業実践	模擬授業を実践し、その振り返りを行う。
15		
16		

科目コード	32301				区 分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法 [FE2532組用]				担当者名	鈺 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

選択必修「社会の理解/初等社会」では、授業作成までのプロセスという大枠を通し、社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義でもこれまでと同様に、社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが、こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。受講者に心掛けてほしいこととしては、講義で扱った概念を自分なりに解釈して授業内外で用いていくことである。学術上の厳密な言葉遣いとは異なるとしても、自分の言葉に落とし込んでほしい。

<授業の到達目標>

本講義では、社会科授業の多様性や普遍性を前提とし、自らの社会科授業について他者と建設的な議論ができるような資質の育成を狙っている。具体的には以下の3点を到達目標とする。1) 社会科授業の類型について見識を深め、それに基づいて自らが作成した指導案を位置付けることができるようになる。2) 社会科授業のそれぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し、よりよい授業のあり方について議論できるようになる。3) 自らの学習経験を交えながら、授業づくりについて議論する姿勢をとることができるようになる。

<授業の方法>

グループワークを主体とし、そのための学習内容を講義で補足する。その際にはClassroom, Forms, mentimeter等のICTを用いる。また、学習管理としてはClassroomを用いる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い、Take a Stand等の自身の見解表明、教材の収集と取捨選択等、学習内容に応じた活動を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：Classroomに配信した前回の授業スライドを見て講義内容を復習する。次の講義で扱う社会科授業の違いを適切に比較できるように準備すること(1時間程度)事後学習：授業中に回答したFormsや教員からのフィードバックを読み返し、授業で扱った社会科に対する自らの見解をまとめる(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回のレポート 80%、最終レポート 20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」(1)	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」(2)	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」(1)	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」(2)	「問題解決学習」の可能性と限界、またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業実践	模擬授業を実践し、その振り返りを行う。
15		
16		

科目コード	32301				区 分	コア科目			
授業科目名	社会科教育法 [FE2533組用]				担当者名	鈺 悠介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

選択必修「社会の理解/初等社会」では、授業作成までのプロセスという大枠を通し、社会科の目標やカリキュラム構成などを含めた大まかな方針を示した。本講義でもこれまでと同様に、社会科授業構成の経験と能力の育成を目的とするが、こちらはより多様な社会科の実践のあり方について焦点を当てる。受講者に心掛けてほしいこととしては、講義で扱った概念を自分なりに解釈して授業内外で用いていくことである。学術上の厳密な言葉遣いとは異なるとしても、自分の言葉に落とし込んでほしい。

<授業の到達目標>

本講義では、社会科授業の多様性や普遍性を前提とし、自らの社会科授業について他者と建設的な議論ができるような資質の育成を狙っている。具体的には以下の3点を到達目標とする。1) 社会科授業の類型について見識を深め、それに基づいて自らが作成した指導案を位置付けることができるようになる。2) 社会科授業のそれぞれの型が持つ長所と短所を推測・判断し、よりよい授業のあり方について議論できるようになる。3) 自らの学習経験を交えながら、授業づくりについて議論する姿勢をとることができるようになる。

<授業の方法>

グループワークを主体とし、そのための学習内容を講義で補足する。その際にはClassroom, Forms, mentimeter等のICTを用いる。また、学習管理としてはClassroomを用いる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングあり。グループ内の話し合い、Take a Stand等の自身の見解表明、教材の収集と取捨選択等、学習内容に応じた活動を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：Classroomに配信した前回の授業スライドを見て講義内容を復習する。次の講義で扱う社会科授業の違いを適切に比較できるように準備すること(1時間程度)事後学習：授業中に回答したFormsや教員からのフィードバックを読み返し、授業で扱った社会科に対する自らの見解をまとめる(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回のレポート 80%、最終レポート 20%

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	本講義の目標	本講義の目標・内容を共有する。
2	社会科の目標	社会科の目標について共有する。グループ分けを行う。
3	社会科と「共感」(1)	社会科における「共感」とその授業理論を学ぶ。
4	社会科と「共感」(2)	「共感」させることの可能性と限界について学ぶ。
5	社会科と「暗記」	いわゆる「暗記型」社会科授業と呼ばれる授業について捉え直す。
6	社会科と「調べ学習」	いわゆる「調べ学習」と呼ばれる授業について捉え直す。
7	社会科と「問題解決」(1)	社会科における「問題解決学習」とその授業理論を学ぶ。
8	社会科と「問題解決」(2)	「問題解決学習」の可能性と限界、またこれまでの学習の振り返り。
9	社会科と「参加」	「社会参加」とその授業理論を学ぶ。
10	社会科と「説明」	社会科における「説明」とその授業理論を学ぶ。
11	社会科と「意思決定」	社会科における「意思決定」とその授業理論を学ぶ。
12	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
13	模擬授業準備	模擬授業を準備する。
14	模擬授業実践	模擬授業を実践し、その振り返りを行う。
15		
16		

科目コード	21212				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	社会的養護 I				担当者名	小倉 毅			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

この授業は、保育士資格取得者のための授業となっている。本講義では、社会的養護の基本原理を習得することを目的としている。社会的養護の歴史の変遷をふまえながら、制度体系、児童福祉施設の役割、機能、現状といった基礎学習を通して、その意義を明らかにする。また、今日の児童を取りまく社会の変動や家族機能の変化を把握し、養護問題の現状や背景について理解を深める。さらに、施設養護の実際と今後の課題について検討し、児童福祉援助者としての保育者の役割や援助のあり方を考える。この講義は保育実習 I B(施設)に向けての知識を学ぶ重

<授業の到達目標>

現代社会における社会的養護の意義と歴史変遷を踏まえた上で、社会的養護の制度や実施体系について理解する。また、社会的養護における児童の権利について「学び、権利擁護や自立支援の在り方について理解すること」を目標とする。

<授業の方法>

レジメを中心に講義を行います。適宜講義課題について小レポート作成及び小テストを行います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有（事例をもとにグループワークを実施し理解を深める）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講前には予習として必ず指定テキストを熟読（45分以上）、受講後は指定テキストとレジメをつかって、講義内容を整理すること（45分以上）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価は、定期試験60%、レポート20%、授業態度 20%で行う。

<教科書>

松中 典子 潮谷 光人 今井 慶宗編著 社会的養護 I・II 改訂版 翔雲社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	社会的養護の理念と概念	社会的養護とは何かを基本的理念、原理、基盤づくりについて
2	社会的養護の歴史の変遷	現在の社会的養護の理解を深めるために、社会がどのような児童を養護してきたのかを理解する。
3	子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの人権を社会権、生存権を柱とした受動的権利の保障と、自由権を中心とした能動的権利の保障について理解する
4	社会的養護の基本原則	家庭養育優先原則の根拠となる法律や条約等の理解と、アイデンティティ形成の観点から養育環境を理解する
5	社会的養護における保育士等の理論と責務	社会的養護にかかわる専門職の倫理と責務について理解する
6	社会的養護の制度と法体系	措置制度とその背景原理、児童福祉法の概要、関連法規について学び、日本の社会的養護の制度と法体系について理解する
7	社会的養護のしくみと実施体系	児童相談所から社会的養護の各施設や里親家庭に至るソーシャルワーク過程、各施設の目的と概要と課題について理解する
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	ファミリーソーシャルワークについての基本的な視点を理解し、社会的養護におけるソーシャルワークの展開方法を理解、児童福祉施設の機能を理解する。
9	社会的養護の対象と支援のあり方	社会的養護の対象となる子どもや家庭について理解を深めるとともに、予防的支援、在宅措置、代替養育を必要とする子どもたちや家族がどのようなニーズを抱えているかを理解する
10	家庭養護と施設養護	社会的養護の動向や里親、ファミリーホームといった家庭養護と施設養護の現状と課題、共通点と相違点を理解する
11	社会的養護にかかわる専門職	現場で働く専門職や実施者の業務内容、求められる専門性について理解する
12	社会的養護に関する社会的状況	社会的養護で暮らす子どもたちの背景・社会的養護の位置づけを学び、養子縁組を含む社会的養護のあり方、存在意義について理解する。
13	施設等の運営管理の現状と課題	子どもの最善の利益、すべての子どもを社会全体で育むという基本的理念に基づ

14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	き、社会的養護施設等がどのように運営されていくのかを理解する
15		被措置児童等の虐待とは何かを理解した後、被措置児童等の虐待防止の経緯を概観
16		し発生要因と課題、児童福祉施設の機能としての地域支援を理解する。

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PH用]				担当者名	矢野 智彦／片桐 夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。これらを通じて、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「柔道」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニ

<授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法的重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習

11	13. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	14. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PP・PS女子用]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

1) 礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができ、礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている。2) 柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解し、いくつかの基本となる技を身に付けている。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

「柔道 I」では、受講者が柔道の基本動作や基礎技術を実際に体験しながら学ぶ体験学習を通じて、能動的に学修に関わる構成となっている。また、安全管理や指導法についても実践的に学ぶことで、知識の理解にとどまらず、問題発見や判断力の育成も図られており、アクティブラーニングの要素が含まれている。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13. 安全なルールに基づいた乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）

12	14. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。これらを通じて、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「柔道」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニ

<授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法的重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習

11	13. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	14. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。これらを通じて、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「柔道」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニ

<授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法的重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習

11	13. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	14. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [PP・PS男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。これらを通じて、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「柔道」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニ

<授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法的重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習

11	13. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	14. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道Ⅰ(基礎)[次世代女子・PP女子・PS女子用]				担当者名	片桐 夏海			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。

<授業の到達目標>

1) 礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができ、礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている。2) 柔道の歴史や特性、礼法の重要性を理解し、いくつかの基本となる技を身に付けている。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

「柔道Ⅰ」では、受講者が柔道の基本動作や基礎技術を実際に体験しながら学ぶ体験学習を通じて、能動的に学修に関わる構成となっている。また、安全管理や指導法についても実践的に学ぶことで、知識の理解にとどまらず、問題発見や判断力の育成も図られており、アクティブラーニングの要素が含まれている。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習
11	13. 安全なルールに基づいた実践練習	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）

12	14. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	40107				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道 I (基礎) [次世代男子用]				担当者名	矢野 智彦			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本が発祥の地である柔道は、オリンピックの正式種目に採用されて以来、世界の柔道として発展・拡大してきた。柔道の技術は投げ技、固め技から構成されている。これらの技術を習得・向上させるためには、柔道の基本動作、基礎技術をしっかりと身に付けることが大切である。本授業においては柔道の基本的動作と基礎技術を身につけると同時に、柔道指導における安全性や管理方法についても理解を深めることを目的とする。これらを通じて、『教育と体育の融合』を具現化するべく、「柔道」を実践することで他者との協調性や仲間と活動する際のコミュニ

<授業の到達目標>

礼儀正しい態度で関心を持って学ぶことができる礼法などの伝統的な行動の仕方を身に付けている柔道の歴史や特性、礼法的重要性を理解しているいくつかの基本となる技を身に付けている

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じてビデオや資料等の教材を活用し授業を進めていく。なお、1クラス当たりの履修上限は原則40名とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

100分授業への変更に伴い、発表機会を拡充したアクティブラーニングを展開する。ペアワーク： 技の動きを相互に分析・指摘し、技術の精度を高める。グループディスカッション： 実践を振り返り、改善点を言語化する。ケーススタディ： 課題に対する解決策を論理的に導き出す。成果発表： 導き出した解決策を実技や口頭で発表し、クラス全体で共有・評価を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：参考書を用いて事前に柔道の技の仕組みを理解する。（1時間程度）復習：柔道大会等を積極的に観戦しレポートを作成する。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（学習意欲含む） 70%、実技試験 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1. 基礎知識	柔道の歴史、柔道衣の名称、柔道衣の着方と帯の色
2	2～3. 基本動作	礼法（立礼・座礼）、柔道の姿勢（自然体・自護体）、組み方崩し（八方崩し）、歩き方、体さばき、後ろ受け身・横受け身・前回り受け身、方ひざについての前回り受け身→立ち姿勢からの前回り受け身、前受け身、技の分類
3	4. 大腰、送り足払い	大腰、移動しながらの大腰、送り足払い、足払いの一人練習、送り足払いの約束練習
4	5. 大腰（横移動）、払い腰	体さばきの一人練習、大腰（横移動）の約束練習、払い腰、払い腰の約束練習
5	6. 体落とし、けさ固め	体落とし、横移動の体落とし、後退しながらの体落とし、約束乱取り、けさ固め、崩れけさ固め、肩固め、けさ固め・肩固めの入り方、約束抑え込み
6	7. 上四方固め、横四方固め、たて四方固め	上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め、崩れ横四方固め、たて四方固め、崩れたて四方固め、約束抑え込み
7	8～9. 固め技（攻撃の仕方）	四つんばいの相手の攻め方、腹ばいの相手の攻め方、四つんばいの相手の返し方の研究発表、約束抑え込み、乱取り（自由練習）
8	10. 小内刈り、支え釣り込み足、ひざ車	小内刈り、相手の動きに合わせた小内刈り、支え釣り込み足、相手を崩しての支え釣り込み足、ひざ車、相手を崩してのひざ車
9	11. 固め技の復習	今まで練習した固め技すべてを復習
10	12. 投げ技の復習	今まで練習した投げ技すべてを復習

11	13. 乱取り	固め技・投げ技の乱取り（自由練習）
12	14. まとめ	乱取りの反省と技の研究、総括
13		
14		
15		
16		

科目コード	27302				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	柔道整復解剖生理演習 I				担当者名	平林 大輔			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、特に柔道整復師業務に重要である、神経系について特化して修得する。

<授業の到達目標>

柔道整復解剖生理演習 I では、神経系を中心に解剖学、生理学の観点より、各諸器官の構造と機能について理解できるようになる。

<授業の方法>

教科書及び配布資料による講義、問題演習をおこなう。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：不要 復習：前回の範囲を口頭試問か小テストを適時行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期末テスト 100%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版
全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	神経	神経概要
2	神経	神経概要
3	神経	中枢神経
4	神経	中枢神経
5	神経	脳神経
6	神経	脳神経
7	神経	脊髄神経
8	神経	脊髄神経
9	神経	自律神経
10	神経（生理学）	静止膜電位と活動電位
11	神経（生理学）	伝導と伝達
12	神経（生理学）	睡眠と学習
13	神経（生理学）	自律神経
14	振り返り	解剖生理学のまとめ
15		
16		

科目コード	27304				区 分	専門基礎科目			
授業 科目名	柔道整復解剖生理演習Ⅲ				担当者名	平林 大輔			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

解剖学、生理学では人体の正常構造として骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官について系統的に学習し、これらの器官系が立体的に配置することによって人体が形成されていることを理解し、各器官内あるいは各器官系がどのように連鎖して働くことにより、生命徴候が営まれているのかを修得した。本演習ではこれらの解剖学、生理学分野の中でも、柔道整復師業務に重要である消化器、呼吸器系について特化して修得する。

<授業の到達目標>

柔道整復解剖生理演習Ⅲでは、消化器・呼吸器系を中心に臨床現場で遭遇する種々の外傷および合併症などを適切に評価することができるようになるために、解剖学、生理学の観点より、各諸器官の構造と機能について学習する。

<授業の方法>

教科書及び配布資料による講義及びグループ学習を用いた討論形式、演習問題で進める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：不要 復習：前回の範囲を口頭試問か小テストを行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期末テスト 100%

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版

全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	消化器	消化器概説
2	消化器	口腔・咽頭・食道
3	消化器	胃・小腸
4	消化器	大腸・肝臓
5	消化器	膵臓・腹膜
6	呼吸器	鼻腔と副鼻腔
7	呼吸器	喉頭と気管支
8	呼吸器	肺と縦隔
9	消化と吸収	機械的消化と化学的消化
10	消化と吸収	消化管壁と運動
11	消化と吸収	消化と吸収
12	消化と吸収	口腔と胃
13	消化と吸収	小腸と大腸
14	消化と吸収	肝臓と消化酵素
15		
16		

科目コード	34301				区 分	コア科目			
授業科目名	障害児保育				担当者名	松本 好生			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	あり

<授業の概要>

障害児保育の理念と専門的知識を習得するため、主に下記の点について学習する。○障害児保育の対象と特徴 ○障害種別の障害特性の理解の理解（実践事例を通して）○発達障害の障害特性と保育のしかたの違い（「構造化」された環境での実践事例を通して）○子ども理解の基づく計画の作成と記録・評価（保育士の求められる記録法としての「接面パラダイム」）

<授業の到達目標>

○子どもの定型発達を確認したうえで、障害種別の定義と障害特性を理解する。○障害児保育・統合保育・インクルーシブ教育・保育の実際などについて知識を習得する。○障害の理解と発達支援、支援方法、構造化された環境のあり方の重要性、保育計画・記録法などを学ぶ。○障害種別の障害特性について理解を深める。○保護者支援、幼児期を含めたライフステージごとの専門機関との連携について知識を深める。

<授業の方法>

○実践事例を交えながら障害児保育の理解を深める（主にパワーポイントを使用）。○障害特性を説明するうえで数値化された図表などを必要に応じてプリントにて配布する。○障害の理解を深めることを目的に、パワポによる写真やDVD等の視覚化した教材を取り入れる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業に関連する教科書の章や提示された参考書に目を通しておくこと。配布した資料などはファイルし、いつでも参照できるようにしておくこと。専門用語も多いので、必ず復習を重ね、用語を正確に理解しておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 10%、定期試験 90%

<教科書>

渡部信一・北郷一夫・無藤隆（編著）：障害児保育【新版】、北大路書房、2014年3月20日発刊

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	障害児保育とは	保育場面で、障害がある子どもが、もしも困難さや生きにくさがあるとすれば、それをカバーすることが障害児保育のもつ大きな役割であることの理解
2	障害児保育の歴史と理念	統合保育からインクルーシブ教育・保育への理解
3	障害児保育の対象とその特徴	福祉型児童発達支援センターと医療型児童発達支援センターの違いの理解
4	障害児の生活に関する保育方法	障害がある子どもが日常生活を送るなかでの障害児保育の現状と課題
5	知的障害がある子どもの保育	知的障害の理解と保育
6	言葉の遅れがある子どもの保育	吃音も含めた言葉の発達と言語障害の理解と保育
7	障害の理解と保育(1)（実践事例）	肢体不自由・視覚障害・聴覚障害の理解と保育
8	障害の理解と保育(2)（実践事例）	重症心身障害の理解と保育
9	発達障害児と保育(1)	発達障害の診断の変遷（PDDからASDへ）と障害特性の理解と保育
10	発達障害児と保育(2)（実践事例）	自閉スペクトラム障害 ASD の理解と保育（「構造化」手法も含めて）
11	発達障害児と保育(3)（実践事例）	注意欠如多動症 ADHDの理解と保育
12	発達障害児と保育(4)（実践事例）	注意欠如多動症 ADHD と限局性学習症 LD の関係性の理解と保育
13	子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価	保育計画と接面パラダイムを踏まえた記録方法
14	障害児保育に関する関連機関との連携・協働、障害がある子どもの保護者支援	医療・保健の現状と課題、専門機関との連携による福祉・教育支援、ペアレント・トレーニングとライフステージごとの関係機関への相談の仕方
15		
16		

科目コード	21215				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	生徒指導・進路指導論 [FC,FE用]				担当者名	久田 孝			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「生徒指導・進路指導論」は、主に教職課程で履修される重要科目で、学校現場における生徒支援の理論と実践を体系的に学びます。内容は大きく「生徒指導」と「進路指導・キャリア教育」の2本柱で構成され、単なる問題対応ではなく、生徒一人ひとりの人生を支える教育の中核的分野で、教師に求められる「人間理解力」と「支援力」を理論と実践の両面から養う科目である。① 生徒指導の基礎理論生徒指導の定義と目的、学校教育における役割、発達段階に応じた指導（小・中・高の違い）② 生徒理解と支援発達心理（思春期の特徴など）、個別支援の方

<授業の到達目標>

「生徒指導・進路指導論」における到達目標は、単なる知識理解にとどまらず、「現場で実際に使える力」を身につけること。児童・生徒の成長を多面的に支え、適切な指導・支援ができる教師になる基礎力を身につけることが目標である。

<授業の方法>

単なる講義だけでなく、実際の教育現場を想定した“体験的・実践的な学び”が重視されるのが特徴です。本授業では、理論（知識）＋実践（体験）＋振り返りを組み合わせて学ぶ。① 講義（理論の理解）生徒指導・進路指導の基本概念、児童生徒の発達段階や心理の特徴それに合わせて教育制度や指導の枠組みを知り現場での判断の「根拠」となる理論を理解する② 事例研究（ケーススタディ）実際の教育現場で起こるようなケースを扱ういじめ問題、不登校、進路選択に悩む生徒などの事例の問題点を整理、原因を分析、対応策を考える③ グループワーク・ディスカッション小グループで意見交換、指導方法について議論し、他者の考えや多様な価値観に触れる④ ロールプレイ（模擬実践）教師役・生徒役に分かれて実演（面談指導、問題行動への対応、保護者対応、進路相談など実際の対応力・言葉かけを体験的に学ぶ⑤ ワークシート・演習指導案の作成、面談計画の作成、生徒理解シートなどによる知識を「使える形」に整理する⑥ 振り返り（リフレクション）授業後の感想記入、学びの整理、自分の課題の明確化を行い、経験を「学び」に変えるプロセスを作っていく⑦ 現場との接続（実践的学習）教育実習との連動、現職教員の講話、学校現場の事例紹介にて理論と現実のから「知る → 考える → やってみる → 振り返る」未知を既知とし理解する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有主体的・対話的で深い学びを基盤とし、事例研究やグループワーク、ロールプレイ、振り返りなどを通して実践的指導力を育成するものである。授業は、導入・講義・演習・発表・振り返りという流れで構成され、理論と実践を往還しながら学習を深めていく問題提起教員が事例やテーマを提示、学習課題を明確にする①理論の説明（講義）生徒指導・進路指導の基本理論、心理・発達・制度の理解②展開（アクティブラーニング）事例研究にてケースを分析、原因・問題点を整理③グループワーク対応策を議論、意見を共有④ロール

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教科書や資料の事前読解を行い、重要なキーワードや概念を整理するとともに、事例に対する自分なりの考えを持つことが重要である。また、自身の経験と関連づけて振り返り、疑問点を明確にして授業に臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度30％、ワーク内での取り組み方とその姿勢20％、試験50％

<教科書>

文部科学省 2022.12 生徒指導提要 東洋出版
2024.06.20 原田 恵理子／森山 賢一 編著 最新生徒指導論（改訂版）最新進路指導論（改訂版） 大学教育出版

<参考書>

文部科学省

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・ガイダンス・科目の全体像	授業の目的・評価方法の説明生徒指導と進路指導の関係性、現代の学校教育における位置づけなどについて
2	生徒指導の意義と原理	生徒指導の定義と目的並びに全人的発達の支援教育課程との関連
3	発達理解と生徒理解	発達段階（児童期・思春期）の特徴個人差の理解とアセスメントの基礎
4	生徒指導の方法と技法	個別指導と集団指導、予防的・開発的指導とカウンセリング技法について
5	学級経営と生徒指導	学級づくりの基本、ルール形成と規律、教師と生徒の信頼関係、生徒指導としてのサポート
6	問題行動への対応①（いじめ）	いじめの構造と要因の早期発見・早期対応、初動の大切さ、学校組織としての対応
7	問題行動への対応②（不登校・非行）	不登校の要因と支援、非行・逸脱行動への理解、外部機関との連携

8	問題行動への対応③（重大事件への対応）	生徒指導と学校危機管理との関係 発生初動から解決までのプロセスを学校経営の観点から考える
9	教育相談とカウンセリング	教育相談の基本 面談技法（傾聴・共感）カウンセラーとの連携
10	進路指導の意義と理論	進路指導の歴史と役割、キャリア教育の考え方と自己理解・職業理解
11	キャリア教育の実践	キャリア教育の目標と内容における学校段階別の指導文部科学省の施策との関係
12	進路選択と意思決定支援	進路選択のプロセス、意思決定理論に対する進路相談の進め方
13	進路指導の方法と実践	面接指導・進路面談の進学・就職指導とインターンシップ・職場体験
14	現代的課題と多様な支援	多様な生徒への対応（特別支援教育など）とグローバル化・ICT社会など新たな進路・家庭・地域との連携について
15		
16		

科目コード	21215				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	生徒指導・進路指導論 [PP2521組用]				担当者名	久田 孝			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「生徒指導・進路指導論」は、主に教職課程で履修される重要科目で、学校現場における生徒支援の理論と実践を体系的に学びます。内容は大きく「生徒指導」と「進路指導・キャリア教育」の2本柱で構成され、単なる問題対応ではなく、生徒一人ひとりの人生を支える教育の中核的分野で、教師に求められる「人間理解力」と「支援力」を理論と実践の両面から養う科目である。① 生徒指導の基礎理論生徒指導の定義と目的、学校教育における役割、発達段階に応じた指導（小・中・高の違い）② 生徒理解と支援発達心理（思春期の特徴など）、個別支援の方

<授業の到達目標>

「生徒指導・進路指導論」における到達目標は、単なる知識理解にとどまらず、「現場で実際に使える力」を身につけること。児童・生徒の成長を多面的に支え、適切な指導・支援ができる教師になる基礎力を身につけることが目標である。

<授業の方法>

単なる講義だけでなく、実際の教育現場を想定した“体験的・実践的な学び”が重視されるのが特徴です。本授業では、理論（知識）＋実践（体験）＋振り返りを組み合わせて学ぶ。① 講義（理論の理解）生徒指導・進路指導の基本概念、児童生徒の発達段階や心理の特徴それに合わせて教育制度や指導の枠組みを知り現場での判断の「根拠」となる理論を理解する② 事例研究（ケーススタディ）実際の教育現場で起こるようなケースを扱ういじめ問題、不登校、進路選択に悩む生徒などの事例の問題点を整理、原因を分析、対応策を考える③ グループワーク・ディスカッション小グループで意見交換、指導方法について議論し、他者の考えや多様な価値観に触れる④ ロールプレイ（模擬実践）教師役・生徒役に分かれて実演（面談指導、問題行動への対応、保護者対応、進路相談など実際の対応力・言葉かけを体験的に学ぶ⑤ ワークシート・演習指導案の作成、面談計画の作成、生徒理解シートなどによる知識を「使える形」に整理する⑥ 振り返り（リフレクション）授業後の感想記入、学びの整理、自分の課題の明確化を行い、経験を「学び」に変えるプロセスを作っていく⑦ 現場との接続（実践的学習）教育実習との連動、現職教員の講話、学校現場の事例紹介にて理論と現実のから「知る → 考える → やってみる → 振り返る」未知を既知とし理解する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有主体的・対話的で深い学びを基盤とし、事例研究やグループワーク、ロールプレイ、振り返りなどを通して実践的指導力を育成するものである。授業は、導入・講義・演習・発表・振り返りという流れで構成され、理論と実践を往還しながら学習を深めていく問題提起教員が事例やテーマを提示、学習課題を明確にする①理論の説明（講義）生徒指導・進路指導の基本理論、心理・発達・制度の理解②展開（アクティブラーニング）事例研究にてケースを分析、原因・問題点を整理③グループワーク対応策を議論、意見を共有④ロール

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教科書や資料の事前読解を行い、重要なキーワードや概念を整理するとともに、事例に対する自分なりの考えを持つことが重要である。また、自身の経験と関連づけて振り返り、疑問点を明確にして授業に臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度30%、ワーク内での取り組み方とその姿勢20%、試験50%

<教科書>

文部科学省 2022.12 生徒指導提要 東洋出版
2024.06.20 原田 恵理子／森山 賢一 編著 最新生徒指導論（改訂版）最新進路指導論（改訂版） 大学教育出版

<参考書>

文部科学省

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・ガイダンス・科目の全体像	授業の目的・評価方法の説明生徒指導と進路指導の関係性、現代の学校教育における位置づけなどについて
2	生徒指導の意義と原理	生徒指導の定義と目的並びに全人的発達の支援教育課程との関連
3	発達理解と生徒理解	発達段階（児童期・思春期）の特徴個人差の理解とアセスメントの基礎
4	生徒指導の方法と技法	個別指導と集団指導、予防的・開発的指導とカウンセリング技法について
5	学級経営と生徒指導	学級づくりの基本、ルール形成と規律、教師と生徒の信頼関係、生徒指導としてのサポート
6	問題行動への対応①（いじめ）	いじめの構造と要因の早期発見・早期対応、初動の大切さ、学校組織としての対応
7	問題行動への対応②（不登校・非行）	不登校の要因と支援、非行・逸脱行動への理解、外部機関との連携

8	問題行動への対応③（重大事件への対応）	生徒指導と学校危機管理との関係 発生初動から解決までのプロセスを学校経営の観点から考える
9	教育相談とカウンセリング	教育相談の基本 面談技法（傾聴・共感）カウンセラーとの連携
10	進路指導の意義と理論	進路指導の歴史と役割、キャリア教育の考え方と自己理解・職業理解
11	キャリア教育の実践	キャリア教育の目標と内容における学校段階別の指導文部科学省の施策との関係
12	進路選択と意思決定支援	進路選択のプロセス、意思決定理論に対する進路相談の進め方
13	進路指導の方法と実践	面接指導・進路面談の進学・就職指導とインターンシップ・職場体験
14	現代的課題と多様な支援	多様な生徒への対応（特別支援教育など）とグローバル化・ICT社会など新たな進路・家庭・地域との連携について
15		
16		

科目コード	21215				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	生徒指導・進路指導論 [PP2522組用]				担当者名	久田 孝			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

「生徒指導・進路指導論」は、主に教職課程で履修される重要科目で、学校現場における生徒支援の理論と実践を体系的に学びます。内容は大きく「生徒指導」と「進路指導・キャリア教育」の2本柱で構成され、単なる問題対応ではなく、生徒一人ひとりの人生を支える教育の中核的分野で、教師に求められる「人間理解力」と「支援力」を理論と実践の両面から養う科目である。① 生徒指導の基礎理論生徒指導の定義と目的、学校教育における役割、発達段階に応じた指導（小・中・高の違い）② 生徒理解と支援発達心理（思春期の特徴など）、個別支援の方

＜授業の到達目標＞

「生徒指導・進路指導論」における到達目標は、単なる知識理解にとどまらず、「現場で実際に使える力」を身につけること。児童・生徒の成長を多面的に支え、適切な指導・支援ができる教師になる基礎力を身につけることが目標である。

＜授業の方法＞

単なる講義だけでなく、実際の教育現場を想定した“体験的・実践的な学び”が重視されるのが特徴です。本授業では、理論（知識）＋実践（体験）＋振り返りを組み合わせて学ぶ。① 講義（理論の理解）生徒指導・進路指導の基本概念、児童生徒の発達段階や心理の特徴それに合わせて教育制度や指導の枠組みを知り現場での判断の「根拠」となる理論を理解する② 事例研究（ケーススタディ）実際の教育現場で起こるようなケースを扱ういじめ問題、不登校、進路選択に悩む生徒などの事例の問題点を整理、原因を分析、対応策を考える③ グループワーク・ディスカッション小グループで意見交換、指導方法について議論し、他者の考えや多様な価値観に触れる④ ロールプレイ（模擬実践）教師役・生徒役に分かれて実演（面談指導、問題行動への対応、保護者対応、進路相談など実際の対応力・言葉かけを体験的に学ぶ⑤ ワークシート・演習指導案の作成、面談計画の作成、生徒理解シートなどによる知識を「使える形」に整理する⑥ 振り返り（リフレクション）授業後の感想記入、学びの整理、自分の課題の明確化を行い、経験を「学び」に変えるプロセスを作っていく⑦ 現場との接続（実践的学習）教育実習との連動、現職教員の講話、学校現場の事例紹介にて理論と現実のから「知る → 考える → やってみる → 振り返る」未知を既知とし理解する

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

アクティブ・ラーニングの要素有主体的・対話的で深い学びを基盤とし、事例研究やグループワーク、ロールプレイ、振り返りなどを通して実践的指導力を育成するものである。授業は、導入・講義・演習・発表・振り返りという流れで構成され、理論と実践を往還しながら学習を深めていく問題提起教員が事例やテーマを提示、学習課題を明確にする①理論の説明（講義）生徒指導・進路指導の基本理論、心理・発達・制度の理解②展開（アクティブラーニング）事例研究にてケースを分析、原因・問題点を整理③グループワーク対応策を議論、意見を共有④ロール

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教科書や資料の事前読解を行い、重要なキーワードや概念を整理するとともに、事例に対する自分なりの考えを持つことが重要である。また、自身の経験と関連づけて振り返り、疑問点を明確にして授業に臨むこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度30%、ワーク内での取り組み方とその姿勢20%、試験50%

＜教科書＞

文部科学省 2022.12 生徒指導提要 東洋出版
2024.06.20 原田 恵理子／森山 賢一 編著 最新生徒指導論（改訂版）最新進路指導論（改訂版） 大学教育出版

＜参考書＞

文部科学省

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・ガイダンス・科目の全体像	授業の目的・評価方法の説明生徒指導と進路指導の関係性、現代の学校教育における位置づけなどについて
2	生徒指導の意義と原理	生徒指導の定義と目的並びに全人的発達の支援教育課程との関連
3	発達理解と生徒理解	発達段階（児童期・思春期）の特徴個人差の理解とアセスメントの基礎
4	生徒指導の方法と技法	個別指導と集団指導、予防的・開発的指導とカウンセリング技法について
5	学級経営と生徒指導	学級づくりの基本、ルール形成と規律、教師と生徒の信頼関係、生徒指導としてのサポート
6	問題行動への対応①（いじめ）	いじめの構造と要因の早期発見・早期対応、初動の大切さ、学校組織としての対応
7	問題行動への対応②（不登校・非行）	不登校の要因と支援、非行・逸脱行動への理解、外部機関との連携

8	問題行動への対応③（重大事件への対応）	生徒指導と学校危機管理との関係 発生初動から解決までのプロセスを学校経営の観点から考える
9	教育相談とカウンセリング	教育相談の基本 面談技法（傾聴・共感）カウンセラーとの連携
10	進路指導の意義と理論	進路指導の歴史と役割、キャリア教育の考え方と自己理解・職業理解
11	キャリア教育の実践	キャリア教育の目標と内容における学校段階別の指導文部科学省の施策との関係
12	進路選択と意思決定支援	進路選択のプロセス、意思決定理論に対する進路相談の進め方
13	進路指導の方法と実践	面接指導・進路面談の進学・就職指導とインターンシップ・職場体験
14	現代的課題と多様な支援	多様な生徒への対応（特別支援教育など）とグローバル化・ICT社会など新たな進路・家庭・地域との連携について
15		
16		

科目コード	3F316				区 分	コア科目			
授業科目名	生理学Ⅲ				担当者名	佐藤 良子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生理学では人体の役割と機能について学ぶ。人体の正常な構造と機能を知っていることは、将来人体に関わる仕事に就く者にとって大切なことである。生理学IIIでは、生命を維持する植物学的機能のうち、内分泌を中心に学ぶ。

<授業の到達目標>

ホルモンのはたらきやホルモンの影響を大きく受ける生殖や骨について理解する。恒常性の維持にホルモンや腎臓などが複雑に関与していることを理解する。柔道整復師国家試験問題についてただ正しいものを選択できるようになるのではなく、「なぜ正しいか／どこが誤っているか、誤っているなら正しい答えはなにか」について理解して答えられるようになるのが目標である。

<授業の方法>

教科書に沿って講義を行うが、理解しやすいように順番は若干前後することがある。また、理解を深めるために、図を多く入れたプリントを配布する。教科書の記載では説明が省略されている項目があるが、生理学の理解のために必要な項目については補足講義する。当日の講義の内容に関連する柔道整復師国家試験の生理学分野の過去問題についての解説も入れる。講義の終わりに、その日の講義内容の確認の課題を解答し、提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習としては教科書の次回授業範囲を一通り読んでおく（約15分）。復習は毎回行う課題および国家試験問題を中心に行う（約30分）。人体の機能には、拮抗するもの（逆のはたらきをするもの）が多くあるため、小テストの設問と逆の機能についても考えるようにすると、1つの問題から多くのことを学ぶことができる。また、国家試験問題は正しい答えを求めるだけでなく、残りの選択肢が示すものはなにであるかについて考えるといよい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出 15%、定期試験 80%、授業態度 5%。課題の解答は講義の次々回に行うほか、まとめの回で再度確認する。

<教科書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会監修 彼末一之編集 生理学 改定第4版南江堂 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	内分泌(1)	ホルモンの分類
2	内分泌(2)	下垂体のホルモン
3	内分泌(3)	甲状腺のホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン(1)
4	内分泌(4)	副腎皮質ホルモン(2)
5	内分泌(5)	副腎髄質ホルモン、膵臓のホルモン
6	内分泌(6)	血糖値の調節、性ホルモン
7	生殖(1)	性分化、男性生殖器和精子形成
8	生殖(2)	女性生殖器和卵子形成
9	生殖(3)、骨の生理(1)	妊娠、骨の構造
10	骨の生理(2)	カルシウム調節ホルモン、骨の異常
11	尿の生成と排泄(1)	腎臓の構造、尿の生成
12	尿の生成と排泄(2)	再吸収と分泌、クリアランス
13	尿の生成と排泄(3)	排尿、酸塩基平衡
14	まとめ	生理学IIIの講義内容について確認する
15		
16		

科目コード	39210				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	総合日本語 I (基礎) [BC留学生用]				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、専門科目を学ぶための日本語能力をより確実に、正確なものとしします。文章構築能力育成のための学習活動をするとともに、本科目では、特に、プレゼンテーション能力の育成を 目標に授業を進めます。そのために、学習者にはいくつかの課題を与え、実際にプレゼンテーションをしてもらい、それをもとに意見交換、議論を行います。プレゼンテーションでは、相手を意識した分かりやすい発表がポイントとなります。練習を繰り返し、また他の学習者のプレゼンテーションを見ることによって能力を伸ばします。

<授業の到達目標>

本科目の到達目標は、調査発表のための日本語運用力を養うことである。具体的には (1) 指定された分野の日本語の語彙や表現を理解し、運用できるようになること、 (2) テーマ決定から調査、発表、レポート執筆までの流れを計画的に実行できるようになること、 (3) 相手を意識した分かりやすい発表が日本語でできるようになること、の3点である。

<授業の方法>

14回の授業を通じて3つのテーマを扱い、それぞれに関して、グラフや文章からの情報集めと調査発表を行う。グラフ の読み取りや読解を中心に据えた授業では、ワークシートを用いて講義形式で進め、調査発表の準備はグループ毎の活動とする。各テーマの途中で、グループ内で3～5分程度のミニ・プレゼンテーションと学生間でフィードバックを行い、各テーマの最終プレゼンテーションに備える。各テーマの最終プレゼンテーションでも学生間で相互評価を行う。アイス・ブレイキングや読解の理解促進、及び調査発表のために2～4名のグループを作り、毎時間、グループディス カッションの時間を設ける。また、グループで調査した内容は、PowerPoint/Google Slideを使用してプレゼンテーションを行うこととする。 調査発表準備の際に、Google Formの活用方法やGoogle Spread sheatのデータ分析方法を導入し、授業時間外でのグループ作業が円滑に進むように支援する。また、調査発表の内容をまとめたレポートの提出、及びそれに 対するフィードバックはGoogle Classroomを使用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング要素有。テーマについて、グループに分かれて調査、発表準備、発表を行う。その後は、グループ間でピアフィードバックを行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：語彙や読解の授業の前後には指定した箇所の新出表現の予習（約1時間）事後：振り返りと新出表現練習問題、文作成への取り組み（2時間）。 その他、調査・発表準備・レポート作成は、基本的には授業外で行う（各テーマにつき合計5時間程度）。発表準備の際は、発表の原稿とパワーポイントの両方について、日本語母語話者（授業担当教員を含む）による日本語チェックを行うことを必須とする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 40%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。

<教科書>

安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・田口典子・鈴木孝恵 編著 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級 スリーエーネットワーク

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業の概要説明、調査準備	授業概要と評価方法に関する説明、グループでの調査準備
2	食文化 (1) 導入とグラフの読み取り	グループディスカッションによるアイスブレイキング、語彙や表現の導入
3	食文化 (2) 読解 1	ピア・リーディングによる大意取り
4	食文化 (3) 読解 2、発表準備	精読、グループ内でのミニ・プレゼンテーション
5	食文化 (4) 調査発表	グループごとのプレゼンテーション
6	食文化 (5) フィードバック仕事 (1) 導入	前回のフィードバック語彙や表現の導入、グループディスカッション
7	仕事 (2) 読解 1	ピア・リーディングによる大意取り
8	仕事 (3) 読解 2、インタビュー調査の方法	精読、インタビュー調査で用いる表現の確認、発表時のまとめ方
9	仕事 (4) 調査発表	グループごとのプレゼンテーション

10	仕事（5）フィードバック生活習慣と宗教 （1）導入	前回のフィードバック語彙や表現の導入、グループディスカッション
11	生活習慣と宗教（2）読解 1	ピア・リーディングによる大意取り
12	生活習慣と宗教（3）読解 2、調査準備	精読、グループでの調査準備
13	生活習慣と宗教（4）発表準備	グループ内でのミニ・プレゼンテーション
14	生活習慣と宗教（5）調査発表	プレゼンテーション
15		
16		

科目コード	39211				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	総合日本語Ⅱ(応用) [BC秋入学生用]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、『新訂版 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級』の第3章「生活習慣と宗教」、第4章「リサイクル」、第5章「ジェンダー」を取り上げる。各章において、グラフや読み物からテーマに関する知識を得たうえで、情報交換、比較、調査、報告の活動を行う。第3章ではアンケート調査、第4章では文献調査、第5章ではインタビュー調査を実践し、それぞれの章の中で成果をまとめる。授業全体としては、読む・聞く・話す・書くの4技能を統合的に用いながら、社会的テーマに関する情報を整理し、根拠に基づいて考えを述

<授業の到達目標>

本授業では、受講者が以下のことをできるようになることを目標とする。1. 「生活習慣と宗教」「リサイクル」「ジェンダー」に関する文章、グラフ、資料の要点を理解し、整理することができる。2. 日本と自国、あるいは複数の社会に見られる共通点・相違点を比較し、背景を説明することができる。3. アンケート調査、文献調査、インタビュー調査という3種類の情報収集方法を理解し、実際に用いることができる。4. 収集した情報を整理・分析し、短い報告や口頭発表の形で分かりやすくまとめることができる。5. 意見交換や質疑応答において、相手

<授業の方法>

授業では、本文読解、グラフ読解、語彙確認、情報交換、ペア・グループ活動、調査活動、口頭報告、簡単な文章作成を組み合わせさせて進める。各章は原則として4回構成とし、「理解する」「比較する」「調査を準備する」「結果を報告する」という流れで完結させる。第14回は3章の学習を振り返り、それぞれの調査方法の特徴と課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ内でのディスカッションやプレゼンテーション、クラス内でのプレゼンテーション、ピア・リーディング等を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講者は、毎回の授業に先立ち、指定された本文や資料を読んで内容を確認し、必要な語句や論点を整理して授業に臨むこと。授業後は、ノート整理、比較表の作成、調査結果のまとめ、報告原稿の見直し等を行うこと。目安として、各回につき事前学習90分、事後学習90分程度を要する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加・ディスカッションへの貢献 20%各回の課題（語彙文法小テスト、要約、比較表、文献メモ、調査計画等） 25%第3章アンケート調査報告 20%第4章文献調査成果物（短報告文） 15%第5章インタビュー調査報告 20%評価にあたっては、結果だけでなく、資料の理解、比較の観点、調査の準備、情報整理、報告の分かりやすさ、質疑応答への姿勢など、学習の過程も重視する。教材にも、情報交換発表、アンケート調査発表、インタビュー調査発表、文献調査と冊子作成に対応する評価シートが用意されており、これらの観点を参考にし

<教科書>

安藤節子・佐々木薫・赤木浩文・田口典子・鈴木孝恵 編著 トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級 スリーエーネットワーク

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス/授業全体の見直し	オリエンテーション：授業の目的、進め方、評価方法の説明。3テーマと3種類の調査方法の概要を確認する。
2	第3章 生活習慣と宗教① 理解	本文・グラフ読解、重要語彙の確認
3	第3章 生活習慣と宗教② 比較	日本と自国の比較、情報交換
4	第3章 生活習慣と宗教③ アンケート調査準備	アンケート調査の計画、質問項目の作成
5	第3章 生活習慣と宗教④ アンケート調査報告	アンケート結果の報告、ミニ発表、質疑応答
6	第4章 リサイクル① 理解	本文・グラフ読解、論点整理

7	第4章 リサイクル② 文献調査基礎	文献調査の方法、要約・引用・出典の示し方
8	第4章 リサイクル③ 文献比較・構成	複数資料の比較、情報整理、構成づくり
9	第4章 リサイクル④ 文献調査報告	文献調査の成果共有、冊子・短報告文の提出
10	第5章 ジェンダー① 理解	本文・グラフ読解、用語整理
11	第5章 ジェンダー② 比較・意見交換	事例比較、立場の違いの整理、意見交換
12	第5章 ジェンダー③ インタビュー調査準備	インタビュー調査の計画、質問項目の検討
13	第5章 ジェンダー④ インタビュー調査報告	インタビュー結果の報告、考察の共有
14	まとめ／3つの調査方法の整理	全体の振り返り：3つのテーマと3つの調査方法の比較、学習成果の整理
15		
16		

科目コード	25200				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	体育行政学				担当者名	藤谷 かおる			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代日本における体育・スポーツに関する行政及びその政策について、体系的に理解し、他者に説明できることを目的としている。そのため、体育・スポーツに関する行政及びその政策について、基本的な事項を解説するとともに近年の体育・スポーツ政策の動向を解説する。また、それらの知識に基づいて、多様な立場・価値観を理解し、尊重しながら、グループワークに取り組み、授業の理解度及びグループワークへの貢献度をレポート・グループワーク課題に基づいて評価する。

<授業の到達目標>

① 現代社会における体育・スポーツに関する行政及びその政策について、体系的に理解し、他者にも説明できるようになる。② グループワークに主体的に参加し、多様な立場及び価値観を理解し、尊重し、グループワークに貢献できるようになる。

<授業の方法>

参考資料やプレゼンテーションを使用する一斉授業及びグループワークにおいて展開する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（グループワーク）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習：毎時間課される次週課題について（5分程度）② 復習：毎時間課される授業課題について（5分程度）③ 数回にわたり授業テーマに関連するレポート課題を指示する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 振り返りテスト 50%② レポート課題 30%③ プレゼン 20% （グループワーク貢献度）

<教科書>

<参考書>

菊 幸一、齋藤 健司、真山 達志、横山 勝彦ら（発行2011.11.20） スポーツ政策論 成文堂
 時本識資・田畑亮・内藤正和（発行2019.9.25） はじめて学ぶスポーツ政策 アイオーエム
 阿部 篤志、久保田 潤、中村 宏美、本間 恵子（発行2020.3） スポーツ担当者になったら読む本 独立行政法人 日本スポーツ振興センター

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、我が国のスポーツ推進策の変遷について	オリエンテーションとして授業内容、成績評価等の説明を行い、戦後から現在までの体育・スポーツ推進策の変遷について学ぶ。
2	体育・スポーツの定義・概念と歴史について	スポーツの意味と語源、その歴史について理解し、変化する現代スポーツのとりえ方、考え方についても学ぶ。
3	体育・スポーツ行政の「背景・根拠となる法令等」と「しくみ、役割・責務」について	(1)我が国のスポーツ推進の基本方策を定める「旧法：スポーツ振興法」「現行法：スポーツ基本法」及びその他のスポーツ関連法令も含めて学ぶ。(2)体育・スポーツ行政の主な所管「文部科学省の外局であるスポーツ庁」と関係省庁、関連スポーツ組織及び自治体組織について学ぶ。
4	スポーツ基本法と「スポーツ基本計画」	「第3期スポーツ基本計画」を中心に学ぶ。
5	スポーツ基本法第10条に基づく「地方スポーツ推進計画」について	最近策定された地方スポーツ推進計画(都道府県や市区町村計画)について学ぶ。
6	公共スポーツ施設の管理運営(指定管理者制度を含む)とその変遷について後半：グループワークづくり	○前半は施設の管理運営に係る指定管理者制度について(講義)○後半：グループワーク(7,8人のグループをつくる).テーマとして、望ましい公共スポーツ施設もしくは地域スポーツ推進策について、各々皆さんがアイデアを考え、授業の最後にグループ内で発表し合う。
7	テーマ：望ましい公共スポーツ施設を設計グループ代表者による発表会(プレゼンテーション)	発表テーマは、望ましい公共スポーツ施設及び地域スポーツ推進策について、グループで発表する。
8	主に前半授業で学んだ内容の「ふり返りのテスト(60分程度)」	前半第1回～第8回授業で学んだ「ふり返りのテスト(授業時配布資料持ち込み可)」を実施する。
9	学校体育行政と運動部活動改革(地域移行、地域展開)について	特に「運動部活動改革」については、行政や学校、教師だけでは解決することができない課題(教員の負担増と少子化で維持困難)が増えており、従前と同様の運営体制

		ではその維持が難しくなっている。スポーツ庁では令和5年4月から中学校部活の休日を地域移行(展開)をすすめているが、各自治体でも取り組みを始めている。将来的には運動部活動の存続の危機となることからこの現状を学ぶ必要がある。
10	地域スポーツクラブの育成(スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等)について	地域で活動する「スポーツ少年団」や「総合型地域スポーツクラブ」の育成について学ぶ。
11	地域スポーツ組織とそのマネジメントについて	地域スポーツ組織の主なタイプとその役割、さらにスポーツと景観・環境・文化などの地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することでまちづくりや地域活性化につなげる「地域スポーツコミッション」の取組について学ぶ。
12	スポーツ団体のマネジメントとスポーツ指導者の資格と制度	スポーツに関わる指導者養成機関は、次のような団体、機関があり、各認定資格を紹介する。※但し、医療系スポーツ団体は挙げていない。具体的には、(公財)日本スポーツ協会、(公財)健康・体力づくり事業財団、(公財)日本レクリエーション協会、(公財)日本スポーツクラブ協会、(公財)日本スポーツ施設協会、(公財)笹川スポーツ財団などがある。
13	その他主なスポーツ推進施策(高齢者、女性、障がい者)について	国民のスポーツ定期的実施率を向上させ、日々の生活の中で一人一人がスポーツの価値を享受できる社会を構築するため、各種のスポーツ施策(sport in life、運動スポーツ習慣化促進事業など国民スポーツ全般、女性スポーツの参加、障がい者スポーツなど)について学ぶ。
14	本授業の総括、後半授業で学んだ内容の「ふり返りのテスト」	本授業の総括、後半授業(第10回～第14回)で学んだ「ふり返りのテスト(60分程度、授業時配布資料持ち込み可)」を実施する。
15		
16		

科目コード	23404				区 分	コア科目			
授業科目名	知的障害児の心理・生理・病理				担当者名	大野呂 浩志／西山 逸子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	月 4 ・ 5 限	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業では、知的障害の心理・生理・病理の特性を脳の構造・機能に関連づけながら概説し、必要とされる基本的な支援方法について論じる。また、各種障害の特性とその特性に応じた基本的な支援方法にも言及し、知的障害の理解をより深める。特別支援教育の実践を経験した教員と知的障害の診療に携わっている小児神経専門医師である教員が授業を行う。

<授業の到達目標>

特別支援教育領域の教員として必要な知的障害に関する基礎知識を習得し、障害に伴う発達と生活上の問題に対する支援方法の基礎的内容を説明することができる。

<授業の方法>

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義と、グループワークやグループディスカッション等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習の二つの要素を基調とした授業を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1～1.5時間程度の予復習をもとに、授業での積極的な質問や授業後の課題理解の深化を測ることが望ましい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、レポート提出 30%、定期試験 50%

<教科書>

適宜資料を配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	知的障害概説	知的障害の本質を理解する。
2	知的障害の生理特性：（知能機構）	知的障害につながる神経心理学的特性について理解する。
3	知的障害の生理特性：（注意機構と覚醒）	知的障害につながる脳の注意機構と覚醒について理解する。
4	知的障害の生理特性：（記憶と学習）	知的障害が呈する記憶不全と学習の不全状態について神経心理学的視点から理解する。
5	知的障害の心理特性：（認知機構）	知的障害の認知について、神経心理学的な観点から理解を深める。
6	知的障害の心理特性：（知覚機構）	知的障害児者の認知につながる知覚について、神経心理学的観点から理解する。
7	知的障害の心理特性：（問題解決メカニズム）	学校での学習場面を取り上げ、ここまでの認知的特徴の理解をもとに、知的障害児の問題解決方略の特徴について理解する。
8	知的障害の心理特性：（コミュニケーション）	知的障害の認知的特徴をもとに、具体的な場면을題材に取り、コミュニケーション上の特徴や適切な学習につながるやり取りの特徴について理解する。
9	知的障害の心理特性：（対人行動・社会性）	学校での具体的な場면을取り上げ、対人行動の特性や社会性の獲得について、知的障害の認知的特徴に紐付けながら理解する。
10	知的障害の病理特性：（知的障害の診断基準と鑑別、発生要因など）	知的障害をきたしうる要因や危険因子、発生過程、および知的障害児に併存しやすい特性や症状について理解する。
11	知的障害の病理特性：（染色体異常・遺伝子異常症）	知的障害をきたす染色体異常・遺伝子異常の発生のメカニズムや特徴的な症状、学校生活に必要な支援や配慮などを理解する。
12	知的障害の病理特性：（代謝異常症）	知的障害をきたす代表的な代謝異常症の病態生理、学校生活での留意事項などについて理解する。
13	知的障害の病理特性：（頭蓋内感染症）	知的障害をきたしうる髄膜炎や脳炎・脳症等の病態生理、学校で必要な感染症の基礎知識や予防対策などについて理解する。
14	知的障害の病理特性：（脳血管障害）	知的障害をきたしうる頭部外傷を含む脳血管障害の病態、緊急時の対処法や医療機関との連携について理解する。
15		
16		

科目コード	23407				区 分	コア科目			
授業科目名	知的障害児教育 I				担当者名	林 栄昭／大野 浩志／石山 貴章			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義、演習、観察実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

【履修上の注意】※ この科目は「特別支援教育」または「特別支援教育総論」のいずれかの単位を習得中、もしくは習得済みであることを履修条件とする。【授業の概要】この授業は、特別支援学校学習指導要領を分析し、知的障害特別支援学校の教育実践並びに実際に編成されている教育課程を提示し、その内容を理解するとともに、各教科等の指導における配慮事項について理解する。特別支援学校での勤務経験のある教員が実践的な授業を行う。（教育経営学科ディプロマ・ポリシーのDP 2に関連）

<授業の到達目標>

特別支援学校学習指導要領を基準として知的障害特別支援学校の教育において編成される教育課程が有する意義を理解できるようになる。児童又は生徒の知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等、特別支援学校（知的障害）の教育実践並びに各学部や各段階のつながりを踏まえた教育課程の編成方法とカリキュラムマネジメントの考え方を理解できるとともに、各教科等の指導における配慮事項について理解できるようになる。

<授業の方法>

学生自身による事前事後学修でのコメントを補充・確認・整理・発展することを意図した講義及びグループワークやグループディスカッション、動画配信等を通じた授業内容の深化・統合を図る演習、特別支援学校における教育の実際の観察実習の三つの要素を基調とした授業を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型授業／グループディスカッション／ピアサポートラーニング／グループワーク／プレゼンテーション／特別支援学校教育の観察実習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業内容に関連する事項について、事前に配布する授業資料をもとに1時間程度の予習をする。毎回の授業後には振り返り課題を課すため、その回の授業で学んだ内容について1時間程度の復習やまとめをする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、レポート提出 30%、定期試験 50%

<教科書>

適宜資料を配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	知的障害のある児童生徒の障害の状態や特性	知的障害の定義とその状態や学習上の特性を理解し、指導・支援の指針を描く。
2	特別支援学校学習指導要領の構成と特徴	特別支援学校学習指導要領の構成と内容に関する概要を知る。
3	特別支援学校（知的障害）における教育課程の意義と特徴	特別支援学校（知的障害）において独自の教育課程が編成されることの意義やその特徴について、知的障害の特性を踏まえながら理解する。
4	特別支援学校（知的障害）における教育課程編成の方法	特別支援学校（知的障害）における教育課程の特色のもととなる「各教科」や指導形態を踏まえて、教育課程を編成する際の具体的な方法や留意事項について理解する。
5	特別支援学校（知的障害）における教育課程の実際①	特別支援学校（知的障害）の小～高等部における教育課程の特徴について、観察実習を通して理解する。
6	特別支援学校（知的障害）における教育課程の実際②	特別支援学校（知的障害）の小～高等部における教育課程の特徴について、観察実習を通して理解する。
7	特別支援学校（知的障害）における教育課程の実際③	特別支援学校（知的障害）の小～高等部における教育課程の特徴について、観察実習を通して理解する。
8	特別支援学校（知的障害）における各教科の目標、内容及び構造	特別支援学校（知的障害）における各教科等の概念や具体的な目標、内容及び構造について理解する。
9	特別支援学校（知的障害）における指導の	知的障害特別支援学校における各教科等の指導のうち、自立活動の指導の重要性を

	形態（教科別、領域別の指導）	踏まえて、教科別、領域別の指導の意義と実態に応じた課題設定について理解する。
10	特別支援学校（知的障害）における指導の形態（各教科等を合わせた指導）	特別支援学校（知的障害）における特有の各教科等を合わせた指導について、生活年齢に応じた具体的な内容を題材に、その意義と指導の特徴を理解する。
11	特別支援学校（知的障害）における自立活動の指導	特別支援学校（知的障害）における個々の児童生徒の実態や障害特性等に応じた自立活動の指導について、指導の目標と内容項目を合わせて理解する。
12	自立活動の指導における「個別の指導計画」の作成・活用	障害のある児童生徒の自立活動に特化した個別の指導計画の作成の意義や、その活用について、具体的な事例をもとに理解する。
13	特別支援学校（知的障害）における授業づくりと「個別の指導計画」の作成・活用	特別支援学校（知的障害）における授業づくりと関連して、個別の指導計画の作成及び活用について理解する。また学校外との連携や将来の一貫した指導・支援につながる個別の教育支援計画の概要についても理解する。
14	特別支援学校（知的障害）における教育課程の評価と改善(カリキュラムマネジメントの考え方)	ここまで学修してきた特別支援学校（知的障害）の教育課程を踏まえ、その評価と改善のサイクルの重要性の理解をはじめ、評価と改善のあり方についてその概要を理解する。
15		
16		

科目コード	10303				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	統計学基礎 [週2]				担当者名	古松 丈周			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

日常生活で「このデータ、信じていいのかな？」と思ったことはないだろうか？ニュースで「〇〇の満足度80%！」と聞いても、本当に正しいのか、どんな調査方法だったのか、疑問に思うこともあるはずだ。本授業では、統計を使って「データを正しく読み解く力」を身につける。データの整理や分析方法を学び、情報に対して批判的に吟味する練習をする。

<授業の到達目標>

本授業を通じて、受講者は以下のスキルやリテラシーを身につけることを目指す。（１）数値データやグラフの意味を正しく読み取ることができ、適切な判断ができる。（２）データを表やグラフに整理し、誤解を招かない正しい可視化手法を選択できる。（３）基本的な平均・中央値・標準偏差などの統計指標を計算し、意味を理解できる。

<授業の方法>

授業内の演習でMicrosoft Excelを適宜利用するため、パソコンを毎回持参すること。講義の記録や自らが理解したことをメモする以外にも、問題演習を行うため、必ず筆記用具を持参すること。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングはほぼ毎回の授業で行う。具体的には、ペアワーク・ディスカッションである。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として次回授業で扱う基本事項を整理する（想定学習時間：約60分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題提出 60%、最終課題 40%を目安に評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：統計学とは何か	授業の進め方、評価方法について説明する。統計はどんな場面で役立つのか？「データ」とは何か？身の回りにある統計データを考えながら、今後の授業内容について説明する。
2	統計学についての知識	これまでに学んできた統計学の知識について、確認する
3	データの視覚化	データを単に並べるだけでは、その特徴は見えてこない。表やグラフを使って「見える化」することで、データの傾向や違いを直感的に把握できるようになる。本回では、実際にデータを集め、さまざまなグラフを作成し、それぞれの特徴を比較しながら、効果的な可視化の方法を考える。
4	度数分布と代表値	データの中心を示す指標には、平均値、中央値、最頻値があるが、それぞれ異なる特徴を持つ。また、データのばらつきを考慮することで、より詳細な分析が可能となる。同じ「平均点」でも、成績が安定しているクラスとばらつきが大きいクラスがあるのはなぜかを考え、データの散布度の重要性を学ぶ。
5	四分位数、箱ひげ図	代表値では十分に特徴を見いだすことができないデータを、四分位数をつかって特徴をつかって特徴をつかみます。さらに視覚化すべく箱ひげ図について学びます。
6	ヒストグラムと箱ひげ図	どのような場合にヒストグラムを用いるべきか、箱ひげ図を用いるべきか、検討します。
7	分散と標準偏差（１）	データサイズが大きい場合、分散の程度を表わす指標として使用される標準偏差について検討します。
8	分散と標準偏差（２）	標準偏差について、さらに検討します。
9	データの変換	データの特徴をより明確にするために、データの変換について検討します。
10	偏差値	データ変換の例として、偏差値について検討します。
11	散布図と相関係数	2変量データを視覚化した散布図について検討します。
12	相関と因果関係の区別	「アイスクリームの売上が増えると、熱中症の人が増える」というデータがあった場

		合、それは単なる相関関係なのか、それとも因果関係があるのか。今回は、データの相関関係を分析し、相関と因果関係の違いを理解するとともに、「データの読み違い」に注意する方法を学ぶ。
13	総復習	統計学の基礎を振り返り、適切なデータ収集、分析について考えます。
14	総復習・まとめ	まとめの演習課題を行います。
15		
16		

科目コード	10107				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語表現Ⅱ [BC秋入学用]				担当者名	小宮 さおり			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、学生に異なる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションができ、世界の中で主体的に行動していくために必要な「語学力」を求めている。特に留学生にあっては、日本文化を理解した上で、日本語を使ったコミュニケーションを取れるようにすることを目標としている。本授業では、留学生を対象に、日本語の基礎を復習しつつ、日常生活や大学で留学生が直面する様々な場面において、学習した日本語を使って円滑なコミュニケーションを取れるようにするための練習を行う。

<授業の到達目標>

日本語の基礎科目で学んだことをさらに伸ばし、より高度な日本語表現や日本人とのコミュニケーションの中で必要になる日本文化や習慣について理解することを目標としている。さらに、テーマについて学生同士が意見を交換することでお互いを高めあい、多様な意見があることを理解する。

<授業の方法>

15回の授業で、4つのテーマを扱い、それぞれに関して、語彙・文法・表現・読解の学習を通じてそのテーマについて内容を深める。語彙や文法については自宅で予習しておき、授業では運用力や応用力を伸ばす。表現では、学習した内容を用いて他者に問いかけ、他者の発言を聞いてそれに適切に応えられるようにする。読解では日本の文化についても考える。本科目ではアウトプットすることを重視し、最終的にはそのテーマについて自分の意見が言えるようにする。毎回漢字の課題を課し、語彙力の向上を図る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、ディスカッション、グループワーク、発表などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に学べる環境を提供する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：予め指示された文法項目や単語の確認をしておく。（30分程度）復習：練習した文型や会話を覚え、実践できるように練習する。（30分程度）復習課題、漢字の練習課題。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度：30% 提出課題：40% 小テスト：20% 復習テスト：10%課題のフィードバックは授業内で行う。

<教科書>

平井悦子・三輪さち子 中級を学ぼう 中級前期 スリーエーネットワーク
佐藤尚子・佐々木仁子

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要と評価方法に関する説明 レベル判定試験
2	第5課 私の町 (1)	導入
3	第5課 私の町 (2)	内容理解と意見交換
4	作文・会話 (1)	作文と会話
5	第6課 この日に食べなきゃ! (1)	導入
6	第6課 この日に食べなきゃ! (2)	内容理解と意見交換
7	作文・会話 (2)	作文と会話
8	第7課 お相撲さんの世界 (1)	導入
9	第7課 お相撲さんの世界 (2)	内容理解と意見交換
10	作文・会話 (3)	作文と会話
11	第8課 第一印象 (1)	導入
12	第8課 第一印象 (2)	内容理解と意見交換
13	作文・会話 (4)	作文と会話
14	まとめテスト	まとめテスト
15		フィードバックと総復習
16		

科目コード	23100				区 分	コア科目			
授業科目名	発達心理学				担当者名	大久保 諒			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期（第1・2クォーター）	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目のキー・ワードは、「生涯発達」である。人は、誕生する前から生を終える直前まで、発達（変化）し続ける可能性にひらかれている。このことについて、様々な側面から多角的に学習を深めていく。

<授業の到達目標>

教育は、発達に支えられてこそ成り立ち、さらなる発達を促すように展開されることが望ましい。本科目の履修を通して、発達に関する多様な基礎的知見を教育実践へ活かせるよう、これらのことが腑に落ちて理解できるだけの教養や専門性を身につけることが期待される。

<授業の方法>

毎回、講義内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。講義内容について、理解度を確認する小課題への回答を定期的に求め、理解の定着を図る。また、講義時間内では、履修生同士の間、あるいは履修生と教員とのディスカッションを通して、学習内容の理解を深める課題を求める場合がある。以上を通して深まった講義内容を理解度について、履修生は、専用のノートに見解を記すことで、客観的に示すことが求められる。原則、このノートは、毎回の講義終了後に提出を求める。なお、講義内ではGoogle Classroomを利用し、授業資料や課題の管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

一方的に、講義内容の解説を聴くだけでなく、ディスカッション形式で投げかけられた問いについて、自らの見解を表明する学習機会が設けられている。インプットだけでなく、アウトプットによる知識（記憶）の定着や、他者との協働を通じた理解の深化の促進を積極的に試みる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の講義内容は関連しており、次回の講義内容を理解するためには、前回の講義内容を理解しておくことが必要となる。講義内容は多岐にまたがるため、その広さに圧倒されることなく理解を定着させながら、講義全体を完走するには毎回の復習が特に重要となる。毎週、次回の講義時までに、配布資料や提示された関連文献の精読、講義内で求められた小課題への回答など、計2時間程度の準備学習が必要となる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加態度：20%、複数回の小課題：30%、学期末試験：50%の結果を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	・講義の説明・発達と保育・教育の関係・子どもと大人のちがい
2	心と発達のモデル①	・認知・感情・動機づけ・認知、感情、動機づけの相互作用
3	心と発達のモデル②	・進化的な適応・発達の適応・社会脳仮説・生態学的システム理論
4	心と発達のモデル③	・精神分析・意識と非意識・自動的過程と自動化
5	乳幼児期の発達①	・愛着・安心感の輪・比較行動学
6	乳幼児期の発達②	・愛着の個人差・愛着の病理・感情的利用可能性
7	乳幼児期の発達③	・実行機能の発達・就学前教育（幼児教育）・発達格差
8	乳幼児期の発達④	・気質・適合の良さ・行動抑制の気質・AD / HD
9	就学後子ども期の発達①	・遺伝と環境・教育格差・知能観の変遷史
10	就学後子ども期の発達②	・社会防御システム・発達カスケード
11	青年期の発達①	・脳の可塑性・仲間関係と社会的地位・非行と抑うつ症状
12	青年期の発達②	・仲間関係と集団的分断・いじめ・孤立・不登校
13	成人期の発達	・親になるプロセス・繁殖協力・胎生期・周産期の発達に対する影響・自閉症状の発達
14	中年期・高齢期の発達	・アンチ・エイジング・サクセスフル・エイジング・補償的発達
15		
16		

科目コード	24201				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	比較文化論				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	なし

<授業の概要>

現在世界では様々な文化が存在しており、異文化理解、多文化共生のような言葉をメディアでよく耳にすることが増えてきた。しかし、歴史的にみるとこれらを経験した国がこれまでも多く存在した。そしてお互いの違いや共通点を分析することによって、お互いの多様性、共生への発展につながってきた。こうした様々な文化を比較研究するのが比較文化である。違いを学び未来への道を探る。

<授業の到達目標>

・自国文化と異文化を比較することによって、自国中心のものの見方や価値観ではなく、異文化と共生し、優れたものを吸収し、物を多元的、複眼的にとらえて、国際的な見方や考え方を養うことができる。・グローバル化の進む日本社会や国際社会を多角的な視点で捉える知識を身につけることができる。

<授業の方法>

一部講義も行いますが、多くは皆さんが与えられたタスクに対して、一人で考えたり、ペア・グループで意見交換したりしながら授業を進めていきます。また、発表場面を随時設定します。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：発表のための準備（2時間程度） 事後：振り返りレポート（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度30% 振り返りレポート30% 発表40%

<教科書>

<参考書>

G・ホフステッド（2013年） 多文化世界-違いを学び未来への道を探る- 有斐閣

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・他文化と日本文化の比較分析①	自分と他国・他文化との関わりを考える。衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点に気づく。
2	他文化と日本文化の比較分析②	衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。
3	文化とは何か・文化研究の方法論	文化とは何かを知り、文化を学ぶ意義を考える。
4	文化次元テスト	自分の文化的傾向を知る。
5	権力格差・個人主義／集団主義①	権力格差、個人主義と集団主義について知り、様々な場面における違いについて考える。
6	権力格差・個人主義／集団主義②	権力格差、個人主義と集団主義について知り、様々な場面における違いについて考える。
7	権力格差・個人主義／集団主義③	権力格差、個人主義と集団主義について知り、様々な場面における違いについて発表する。
8	男性性／女性性・不確実性回避①	男性性と女性性、不確実性回避について知り、様々な場面における違いについて考える。
9	男性性／女性性・不確実性回避②	男性性と女性性、不確実性回避について知り、様々な場面における違いについて考える。
10	男性性／女性性・不確実性回避③	男性性と女性性、不確実性回避について知り、様々な場面における違いについて発表する。
11	長期志向と楽楽主義①	長期志向と短期主義、放縦と抑制について知り、様々な場面における違いについて考える。
12	長期志向と楽楽主義②	長期志向と短期主義、放縦と抑制について知り、様々な場面における違いについて

13	長期志向と快楽主義③	考える。
14	異文化適応と共生・文化の変化	長期志向と短期主義、放縦と抑制について知り、様々な場面における違いについて発表する。
15		留学生や海外赴任者の経験を分析し、文化次元との関連を考える。
16		

科目コード	22103				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	美術の理解 [FE2531組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

<授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

<授業の方法>

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。2. 美術や美術教育に関する基礎的知識を理解するための講義。3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループによる鑑賞活動等

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 授業前は、事前の資料読解と指示された準備物（資料、材料、用具等）の用意を行う。（1時間程度）2. 授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

配布資料により授業を進める。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術
3	美術とは何か③	絵画の役割
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解 (1)	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解（グループワーク）
12	美術の幅広い理解 (2)	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵）（グループワーク）
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎(2)	飛び出すカードの制作
15		
16		

科目コード	22103				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	美術の理解 [FE2532組用]				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

<授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

<授業の方法>

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。2. 美術や美術教育に関する基礎的知識を理解するための講義。3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループによる鑑賞活動等

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 授業前は、事前の資料読解と指示された準備物（資料、材料、用具等）の用意を行う。（1時間程度）2. 授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

配布資料により授業を進める。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術
3	美術とは何か③	絵画の役割
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着色の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解 (1)	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解（グループワーク）
12	美術の幅広い理解 (2)	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵）（グループワーク）
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎(2)	飛び出すカードの制作
15		
16		

科目コード	22103				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	美術の理解【FE2533組用】				担当者名	村上 尚徳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

<授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

<授業の方法>

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。2. 美術や美術教育に関する基礎的知識を理解するための講義。3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループによる鑑賞活動等

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 授業前は、事前の資料読解と指示された準備物（資料、材料、用具等）の用意を行う。（1時間程度）2. 授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 80%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

配布資料により授業を進める。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	美術とは何か①	美術作品の価値について
2	美術とは何か②	ピカソの表現と子供の美術
3	美術とは何か③	絵画の役割
4	形と色彩による表現(1)	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
5	形と色彩による表現(2)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックの技法の理解
7	形と色彩による表現(4)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
8	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
9	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
10	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
11	美術の幅広い理解 (1)	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解（グループワーク）
12	美術の幅広い理解 (2)	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵）（グループワーク）
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎(2)	飛び出すカードの制作
15		
16		

科目コード	23406				区 分	コア科目			
授業科目名	病弱児の心理・生理・病理 《連続》				担当者名	西山 逸子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小児の主要な疾患についての病態生理、身体および心身の不調の変化などについて詳細に解説するとともに、学校教育で必要とされる留意事項や配慮、適切な支援、家庭や関連機関との連携などについて、小児科専門医である教員が実践的な授業を行う。

<授業の到達目標>

病弱（身体や心身の虚弱を含む）の児童の病気（身体や心身の疾患）に関する病態生理や特徴を理解し、児童一人ひとりの心身の状態や発達過程をふまえて学校教育で必要な対応や支援、家庭や関連機関との連携について修得する。

<授業の方法>

小児の主要疾患の病態生理について解説し、学校生活において病弱児に生じうる心身の症状や変化などに対して教育現場で教員が行うべき対応や支援などについて、学生自身が主体的な立場で考え実践する授業を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：学校生活で起こりうる病弱児の心身の症状や変化などに対して、教員が行うべき対応や支援などについて、学生自身が主体的な立場で考え実践する授業を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

高校での人体に関する生物学の基礎的知識を理解していることを前提に授業を行います。十分な予習のもとに授業に臨み、講義で修得したことが将来の教育等社会活動に役立つように復習を繰り返し、さらに学びを発展させてください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

本試験60%、小テスト20%、授業態度（レポート）20%

<教科書>

適宜資料を配布する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	健康の概念、小児の疾病の変遷に伴う病弱児教育の進展について	健康の概念、医療の進歩に伴う小児の疾患の変遷、病弱児の教育に必要な支援や配慮などについて理解する。
2	小児の身体の構造と機能、身体と心の発達過程、および病弱児の心理特性について	小児の身体の構造と機能、小児の心身の発達過程、病弱児における心理特性について理解する。
3	主な疾患（1）血液疾患	血液の成熟過程と機能、貧血や血友病等の病態生理や症状、学校生活での留意事項や医療との連携などについて理解する。
4	主な疾患（2）悪性疾患（小児がん）	白血病や脳腫瘍等についての病態や治療による後遺症、学校での支援のあり方や家庭・医療との連携などについて理解する。
5	主な疾患（3）感染症および学校で必要とされる感染予防策	小児期に流行しやすい感染症に関する基礎的事項や留意点、学校で必要とされる感染予防対策などについて理解する。
6	主な疾患（4）小児の痙攣性疾患	脳の構造と機能、小児のてんかんの病態生理、学校生活での留意事項や教員が知っておくべき緊急時の対応について理解する。
7	主な疾患（5）アレルギー性疾患Ⅰ <小テスト>	食物アレルギーの病態、特に急変について理解する。アナフィラキシー時の対処法（エピペンキットによる演習実施）を修得する。
8	主な疾患（6）アレルギー性疾患Ⅱ	免疫・アレルギーの基礎知識、アトピー性皮膚炎・小児喘息・膠原病の病態生理、学校での留意点や配慮などについて理解する。
9	主な疾患（7）腎・泌尿器疾患	腎・泌尿器の構造と機能、腎炎やネフローゼ症候群・腎不全の病態、学校生活での留意点などについて理解する。
10	主な疾患（8）小児循環器疾患	心臓の構造と機能、先天性心疾患や川崎病など小児心疾患の病態、学校生活での留意点などについて理解する。
11	主な疾患（9）小児内分泌疾患・肥満	肥満や主な内分泌疾患の病態、特に糖尿病について学校生活で必要とされる留意点や緊急時の対応などについて理解する。
12	主な疾患（10）小児の心身症・精神疾患 関連	小児の心身症・精神疾患の特徴や最近の動向、学校生活での留意点や支援、家庭や関連機関との連携などについて理解する。

13	病弱児や神経発達症児の抱える諸問題と二次障害，および不登校について	病弱児や神経発達症児の心理特性，生じうる二次障害，学校生活で行うべき支援や配慮などについて理解する。
14	病弱児教育と家庭や医療、福祉行政との連携，および現在の課題と今後の展望	個々の児童の病態や心理を熟慮したうえで，教育と家庭・医療・福祉機関等との連携について理解を深める。
15	<本試験>	
16		

科目コード	27200				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	病理学 I				担当者名	高 畠 清 文			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

正常人体構造をベースに疾病の原因、経過、本態など病的状態における細胞・組織・臓器などの変化を形態学的・病態生理学的に探求する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化を基盤に疾病の本態、発症メカニズム、経過などについて理解し、内的・外的因子の影響などについて学習する。

<授業の到達目標>

1 病理学の役目を理解する。1 臓器・組織・細胞の退行性・進行性病変を習得する。1 充血、うっ血、梗塞などの循環障害が理解できる。1 炎症・免疫の本態と疾患が理解できる。

<授業の方法>

パワーポイント、配布資料を中心に使用して、板書、質問等を取り入れ視覚聴覚的に講義をすすめる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスに沿って、講義当日の項目内容を教科書を一読し予習しておくこと。本科目を学習する上で、解剖学、組織学、生理学、生化学等の基礎学問の知識は不可欠であるので、これらの学問を整理しておく必要がある。講義の単元終了時に小テストを実施するので、復習を中心に学習する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

社団法人全国柔道整復学協会 監修・関根一郎 著 「病理学概論 改訂第3版」 医歯薬出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	病理学とは・疾病の一般	病理学とは何か、病理学における観察方法、疾病・症候の意義と分類、疾病の経過
2	細胞障害（退行性病変）Ⅰ	萎縮と変性
3	細胞障害（退行性病変）Ⅱ	代謝障害と疾病
4	代謝障害と疾病	壊死、死
5	循環障害 Ⅰ	血液の循環障害
6	循環障害 Ⅱ	血栓症・塞栓症
7	循環障害 Ⅲ	リンパ液の循環障害、高血圧症
8	進行性病変 Ⅰ	肥大、過形成、化生
9	進行性病変 Ⅱ	創傷治癒、移植
10	炎症 Ⅰ	炎症の一般
11	炎症 Ⅱ	炎症の分類
12	免疫、アレルギー Ⅰ	免疫の仕組み
13	免疫、アレルギー Ⅱ	免疫不全・自己免疫疾患
14	免疫、アレルギー Ⅲ	アレルギーの分類
15		
16		

科目コード	39208				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	文章作成				担当者名	VRBOVSKY Matej			
配当年次	2年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本学科では、豊かな人間性を備えた、自己実現能力の育成、グローバルにもローカルにも貢献できる「グローバル人材」の養成を目指している。その目標を達成するためにはコミュニケーション能力の養成は不可欠である。本授業では、現在の社会的・政治的・文化的・学術的知識を持ち、現代社会の諸問題の創造的解決に向け、他者と協働・協力する能力の一つとして、日本語の文章によるコミュニケーション能力の育成を図る。本授業では、これまで学んできた日本語について復習し、文章作成の基礎から大学で必要とされる、レポート作成、論文作成の基礎

<授業の到達目標>

本授業の目標は以下、①一つは、大学生に必要とされる文章作成能力のうち、レポートの書き方を身につけ、卒業論文作成につなげることである。レポートは形式も重要であるが、客観的事実と主観的意見を書き分けなければならない。事実と意見を書き分け、意見にはその根拠となる事実を書けるようにする。②二つ目の目標は、社会に出てから必要とされる文書作成能力を身につけることである。これについても形式、内容を分かりやすく、的確に伝えることができるようにする。

<授業の方法>

最初は、文章の書き方の基礎を勉強する。続いて、テーマに沿った文章を読み、そのテーマで使われる言葉を確認する。次に、同じテーマで文章を作成する。文章を書くにあたって、文体を整えること、書き言葉を使用すること、分かりやすい構成で書くことは非常に重要である。練習を繰り返すことによって、目的にあった、分かりやすい文章が書けるようにする。毎回課題を提出させる（課題はClassroomにて提出）。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業では、ピアレビュー、グループライティング、ディスカッション などのアクティブラーニングを取り入れ、学生が主体的に文章作成スキルを向上させる機会を提供する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：テキストの読解部分をあらかじめ読み、分からない単語を調べておく。（30分程度）復習：課題を書く。授業中書けなかった課題は、自宅で書き、必ず提出する。（30分程度） また、授業で習った新しい言葉についても復習し、覚えてほしい。（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（留学や国際交流などを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として国際社会に貢献できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

平常点30%、授業課題30%（授業で解説）、期末課題 40%（翌週返却・解説）

<教科書>

<参考書>

藤尾喜代子・佐々木瑞枝・細井和代（2006/3/5） 大学で学ぶための日本語ライティング 短文からレポート作成まで ジャパンタイムズ

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価の仕方の説明。よい文章とは何か？話し言葉と書き言葉はどう違うか？
2	簡潔に回答する	どうすれば簡潔に分かりやすく答えられるか？「比較」や「理由」の表現を用いて、質問に対して簡潔に答える力を養う。
3	情報を文章にする	わかりやすい説明とはどのようなものか？「位置」「定義」「列挙」などの表現を用いて、説明文を書く力を養う。
4	状況を説明し、意見を述べる	事実と意見はどのように区別すべきか？「状態・状況」などの表現を用いて、状況を説明し、それに基づいて意見を述べる力を養う。
5	段落を作る	よい段落とはどのような構造を持つか？文章を書くうえで必要な段落の構成や役割を理解する。
6	体験したことを報告する	出来事を分かりやすく伝えるには何が必要か？時間や出来事の順序を意識し、出来事をわかりやすく報告する文章を書く力を養う。
7	テーマにそった意見文を書く	説得力のある意見とはどのようなものか？「伝聞」の表現などを用いて、他者の意見

8	自分をアピールする文を書く	と自分の主張を区別しながら論理的に述べる力を養う。
9	レポートを書くための基礎知識	読み手に伝わる文章とはどのようなものか？読み手を意識し、自分の強みや考えを効果的に伝える力を養う。
10	順序立ててレポートを書く	レポートは作文と何が違うのか？レポート作成の手順や基本的なルールを理解する。
11	引用してレポートを書く	論理的な文章とはどのような構造を持つか？レポートの構成（序論・本論・結論）を理解し、論理的な流れで文章を組み立てる力を養う。
12	資料を利用してレポートを書く	なぜ引用が必要なのか？情報源を適切に示しながら引用を行う方法を理解する。
13	レポート準備（1）	資料をどのように文章で説明すればよいのか？グラフや表などの資料を読み取り、その内容を文章で説明する力を養う。
14	レポート準備（2）	レポートの下書き
15		期末課題のピアレビュー
16		

科目コード	52006				区 分	コア科目			
授業科目名	保育実習指導 I B (施設)				担当者名	檜 寄 日佳／松本 好生／塚本 千晴			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。

<授業の到達目標>

・児童福祉施設における記録方法について学ぶ。・施設入所児童への理解を深め、実際の支援について考える。・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせる。また、必要に応じて上級生（保育実習 I B既習者）等をゲストに迎えて心構えに関する演習を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。グループごとに演習を行い振り返りをする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に手引きをよく読んでおくこと（1時間以上）。配布された資料をファイルし、授業後に内容を整理すること（1時間以上）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度50%、実習に向けた実習ノート作成等の課題50%※授業は全出席すること※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

岡山県保育士養成協議会 保育実習の手引き 保育士養成協議会
厚生労働省 保育所保育指針（平成29年告示） フレーベル館
内閣府文部科学省厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領 フレーベル館

<参考書>

適宜指示します

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業担当教員紹介と実習参加条件及び受講ルールについて児童生徒性暴力等の防止に関する法制度の理解
2	実習の意義と目的	実習の意義・目標、スケジュールについて
3	施設の種類と内容(1)	施設概要の学習(養護系施設)について
4	施設の種類と内容(2)	施設概要の学習(障害児施設)について
5	施設の種類と内容(3)	施設概要の学習(障害者支援施設)について
6	実習記録(1)	実習日誌の意義について
7	実習記録(2)	実習記録のポイントと方法について
8	実習記録(3)	実習記録のポイントと方法について
9	実習書類作成	自己紹介状、誓約書、出勤簿等の作成について
10	実習施設の学習	実習施設のプロフィール調査について
11	実習課題の設定	実習課題の理解と作成について
12	事前訪問指導	実習課題の理解と作成及び事前オリエンテーションの諸注意について
13	実習の心構え	プライバシーの保護と守秘義務、人権尊重と実習態度について
14	実習事後指導とまとめ	お礼状の作成・発送、体験報告、反省課題と報告書の作成について
15		
16		

科目コード	34116				区 分	コア科目			
授業科目名	保育内容「環境」指導法 [FC2521組用]				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

領域「環境」という視点で、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出し、その活動の中でどのような学びがあるのかについて実践的に学ぶ。また、領域「環境」における、保育者の援助方法や役割、環境の整え方について具体的に理解する。

<授業の到達目標>

1. 領域「環境」について保育実践に結び付けて理解する。2. 保育における「環境」という視点を通して、子どもと環境との関わりや、その関わりの中で、どのような心情、意欲、態度が育っていくのかが理解できる。3. 領域「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を考えることができる。4. 領域「環境」という視点から、指導計画を作成することができる。

<授業の方法>

・授業テーマに即したグループワーク、ディスカッションを行う（全てにおいてワークシートを配布する）。・その後、各グループより議論した内容について発表を行う。・授業のまとめとして、テーマに即した保育内容「環境」のねらい、内容、内容の取扱いについて講義を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：グループディスカッション等を行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・子どもを観察し、子どもの心の内や何に興味関心を持っているのかなど考察する機会をもっておく。・教育保育を想定しながら、廃材や物、自然等、様々な環境に関心を持つようにしておく。・予習：次回授業に関わる保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」のねらいや内容について読んでおく（30分）・復習：リアクションペーパーの作成時において、授業内容を振り返り、理解を深めるようにする（30分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・受講態度、グループワークの参加態度（10％）・オンデマンド課題（25％）・指導案作成（25％）・最終レポート（40％）

<教科書>

随時資料配布

<参考書>

幼稚園教育要領解説 フレーベル館
保育所保育指針解説 フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション子どもにとっての環境とその意義	授業計画説明
2	ワークショップ	子どもが好奇心、探求心をもって活動する遊びについて、具体的実践を行いながら考える。
3	ワークショップ	子どもが好奇心、探求心をもって活動する遊びについて、具体的実践を行いながら考える。
4	手作りおもちゃ作り（オンデマンド）	子どもの探求心を引き出すことを念頭におきながら、手作りおもちゃを各自で製作する。
5	5歳児：子どもの姿の観察	・子どもの客観的観察と記録について学ぶ・子どもと触れ合う中で、関わり方や支援、配慮について考える。
6	5歳児：子どもの姿の観察	・子どもの客観的観察と記録について学ぶ・子どもと触れ合う中で、関わり方や支援、配慮について考える。
7	5歳児：子どもの姿の観察についてまとめ発表	グループごとに観察した内容について共有しまとめ、発表する。
8	5歳児：指導計画作成	・グループでWEB図の作成を行い、活動の発展のさせ方の思考について学ぶ。・指導案の作成方法について学ぶ。
9	5歳児：指導計画作成	指導案の作成方法について学ぶ。
10	5歳児：保育準備	グループで保育準備をすすめていく。

11	5歳児：保育準備	グループで保育準備をすすめていく。
12	5歳児：模擬保育	模擬保育を行い、意見交流を通して多様な視点に触れ、他者の優れた点を参照しながら、自己の課題を明確にし、改善を試みる。
13	5歳児：こども園にて保育	こども園にて保育の実施と振り返りを行い、さらなる自己の課題を明確にしていく。
14	5歳児：こども園にて保育	こども園にて保育の実施と振り返りを行い、さらなる自己の課題を明確にしていく。
15		
16		

科目コード	34116				区 分	コア科目			
授業科目名	保育内容「環境」指導法 [FC2522組用]				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

領域「環境」という視点で、子どもがどのように環境に関わって主体的に活動を生み出し、その活動の中でどのような学びがあるのかについて実践的に学ぶ。また、領域「環境」における、保育者の援助方法や役割、環境の整え方について具体的に理解する。

<授業の到達目標>

1. 領域「環境」について保育実践に結び付けて理解する。2. 保育における「環境」という視点を通して、子どもと環境との関わりや、その関わりの中で、どのような心情、意欲、態度が育っていくのかが理解できる。3. 領域「環境」という視点から、保育者の柔軟で適切な援助のあり方を考えることができる。4. 領域「環境」という視点から、指導計画を作成することができる。

<授業の方法>

・授業テーマに即したグループワーク、ディスカッションを行う（全てにおいてワークシートを配布する）。・その後、各グループより議論した内容について発表を行う。・授業のまとめとして、テーマに即した保育内容「環境」のねらい、内容、内容の取扱いについて講義を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：グループディスカッション等を行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・子どもを観察し、子どもの心の内や何に興味関心を持っているのかなど考察する機会をもっておく。・教育保育を想定しながら、廃材や物、自然等、様々な環境に関心を持つようにしておく。・予習：次回授業に関わる保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」のねらいや内容について読んでおく（30分）・復習：リアクションペーパーの作成時において、授業内容を振り返り、理解を深めるようにする（30分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・受講態度、グループワークの参加態度（10％）・オンデマンド課題（25％）・指導案作成（25％）・最終レポート（40％）

<教科書>

随時資料配布

<参考書>

幼稚園教育要領解説 フレーベル館
保育所保育指針解説 フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション子どもにとっての環境とその意義	授業計画説明
2	ワークショップ	子どもが好奇心、探求心をもって活動する遊びについて、具体的実践を行いながら考える。
3	ワークショップ	子どもが好奇心、探求心をもって活動する遊びについて、具体的実践を行いながら考える。
4	手作りおもちゃ作り（オンデマンド）	子どもの探求心を引き出すことを念頭におきながら、手作りおもちゃを各自で製作する。
5	5歳児：子どもの姿の観察	・子どもの客観的観察と記録について学ぶ・子どもと触れ合う中で、関わり方や支援、配慮について考える。
6	5歳児：子どもの姿の観察	・子どもの客観的観察と記録について学ぶ・子どもと触れ合う中で、関わり方や支援、配慮について考える。
7	5歳児：子どもの姿の観察についてまとめ発表	グループごとに観察した内容について共有しまとめ、発表する。
8	5歳児：指導計画作成	・グループでWEB図の作成を行い、活動の発展のさせ方の思考について学ぶ。・指導案の作成方法について学ぶ。
9	5歳児：指導計画作成	指導案の作成方法について学ぶ。
10	5歳児：保育準備	グループで保育準備をすすめていく。

11	5歳児：保育準備	グループで保育準備をすすめていく。
12	5歳児：模擬保育	模擬保育を行い、意見交流を通して多様な視点に触れ、他者の優れた点を参照しながら、自己の課題を明確にし、改善を試みる。
13	5歳児：こども園にて保育	こども園にて保育の実施と振り返りを行い、さらなる自己の課題を明確にしていく。
14	5歳児：こども園にて保育	こども園にて保育の実施と振り返りを行い、さらなる自己の課題を明確にしていく。
15		
16		

科目コード	34113				区 分	コア科目			
授業科目名	保育内容「健康」指導法 [FC2521組用]				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択／幼稚園教諭免許・保育士国家資格取得のための必修

<授業の概要>

本科目は、東岡山IPUこども園との連携授業科目である。東岡山IPUこども園の5歳児約70名を対象に、健康に関する子どもとの関わり方や、保育者の関わり方を実際に学ぶ。領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、子どもの心身の健康な発育発達、基本的生活習慣の獲得、体力・運動能力の獲得、安全な生活環境の設定を目的とした保育内容の提案のための知識・技能を学ぶ。また、ICTを活用した教材の作成方法、小学校とのつながりについて取り扱う。幼児教育施設における具体的な指導場面を想定した指導計画の立案、模擬保育と振り返りを通じ

<授業の到達目標>

領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、説明することができる。子どもの健康の保持・増進のための発育発達、基本的生活習慣、体力・運動能力、安全、ICTの活用についての知識を理解し、適切な保育ができる。

<授業の方法>

東岡山IPUこども園での実践を通して、領域「健康」に関する子どもとの関わりや、教材づくり、指導法や、保育者と子どもとの関わりについて学ぶ。場合によっては子供への直接的な指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

東岡山IPUこども園での遊びの実践

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に示した参考書および資料を読み提示した課題を課す。また、事前課題として指導案の立案、模擬授業の準備を課す場合がある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前・事後課題60%、模擬授業40%

<教科書>

なし

<参考書>

無藤隆、倉持清美（2020年8月25日） 新訂 事例で学ぶ保育内容 領域健康（株萌文書林）
 酒井幸子、松山洋平（2020年12月10日） 保育内容 健康 あなたならどうしますか？（株萌文書林）
 松田博雄、金森三枝（2019年） 子どもの健康と安全 中央法規

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	幼児と健康と保育内容健康指導法	授業概要の解説と領域健康についての解説・東岡山IPUこども園での授業運営ルール
2	幼児の動きのポイント	ワクワクタイムの概要を掴む。東岡山IPUこども園での生活を知る。
3	幼児の動きの観察	幼児の動きに関して、観察を通して学ぶ。
4	幼児期運動指針（基礎的な動作）	幼児期運動指針の中でも基礎的な動作について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
5	指導案の作成	子どもの運動遊びにおける指導案を作成する。
6	模擬保育	指導案に基づき模擬保育を行う。
7	遊びの指導 1	東岡山IPUこども園にて簡単な遊びの指導を行う
8	遊びの指導 2	東岡山IPUこども園にて簡単な遊びの指導を行う
9	保育準備	東岡山IPUこども園にて、実際に行う保育準備を行う
10	保育準備	東岡山IPUこども園にて、実際に行う保育準備を行う
11	遊びの指導 3	東岡山IPUこども園にて遊びの指導を行う
12	遊びの指導 4	東岡山IPUこども園にて遊びの指導を行う
13	振り返り	東岡山IPUこども園での遊びの振り返りを行う
14	まとめ	レポート作成
15		

科目コード	34113				区 分	コア科目			
授業科目名	保育内容「健康」指導法 [FC2522組用]				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択／幼稚園教諭免許・保育士国家資格取得のための必修

<授業の概要>

本科目は、東岡山IPUこども園との連携授業科目である。東岡山IPUこども園の5歳児約70名を対象に、健康に関する子どもとの関わり方や、保育者の関わり方を実際に学ぶ。領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、子どもの心身の健康な発育発達、基本的生活習慣の獲得、体力・運動能力の獲得、安全な生活環境の設定を目的とした保育内容の提案のための知識・技能を学ぶ。また、ICTを活用した教材の作成方法、小学校とのつながりについて取り扱う。幼児教育施設における具体的な指導場面を想定した指導計画の立案、模擬保育と振り返りを通じ

<授業の到達目標>

領域「健康」のねらいおよび内容を理解し、説明することができる。子どもの健康の保持・増進のための発育発達、基本的生活習慣、体力・運動能力、安全、ICTの活用についての知識を理解し、適切な保育ができる。

<授業の方法>

東岡山IPUこども園での実践を通して、領域「健康」に関する子どもとの関わりや、教材づくり、指導法や、保育者と子どもとの関わりについて学ぶ。場合によっては子供への直接的な指導を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

東岡山IPUこども園での遊びの実践

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に示した参考書および資料を読み提示した課題を課す（60分）。また、事前課題として指導案の立案、模擬授業の準備を課す場合がある（120分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前・事後課題60%、模擬授業40%

<教科書>

なし

<参考書>

無藤隆、倉持清美（2020年8月25日） 新訂 事例で学ぶ保育内容 領域健康（榊文書林）
 酒井幸子、松山洋平（2020年12月10日） 保育内容 健康 あなたならどうしますか？（榊文書林）
 松田博雄、金森三枝（2019年） 子どもの健康と安全 中央法規

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	幼児と健康と保育内容健康指導法	授業概要の解説と領域健康についての解説・東岡山IPUこども園での授業運営ルール
2	健康のねらいおよび内容	ワクワクタイムの概要を掴む。東岡山IPUこども園での生活を知る。
3	幼児の動き	幼児の動きに関して、子どもとの関わりを通して学ぶ。
4	幼児期運動指針(基礎的な動作)	幼児期運動指針の中でも基礎的な動作について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
5	幼児期運動指針(多様な動作)	幼児期運動指針の中でも多様な動作について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
6	幼児期運動指針(動きの連続性)	幼児期運動指針の中でも動きの連続性について、子どもとの関わりを通して学ぶ。
7	幼児と安全	幼児教育施設での安全管理の仕方について、保育者の話・子どもとの関わりを通して学ぶ。
8	子どもの安全教育事故予防	安全教育、防災教育、リスクマネジメント、施設設備管理
9	ICTを活用した保育	保育現場でICTを用いた保育方法の理解、幼少接続
10	感染症対策	東岡山IPUこども園での感染症対策について学ぶ。
11	指導案作成①	作成した指導案の安全およびねらいについて検討する
12	模擬保育①	園庭での運動遊びについて指導案を作成し、実際に模擬保育を行う。
13	模擬保育②	室内での運動遊びについて指導案を作成し、実際に模擬保育を行う。

14	指導案を作成し、ねらいを達成するための 子供との関わりを実践する。	模擬保育：安全教育、防災教育
15	幼児教育の現代的課題と領域「健康」	授業内容全体の振り返りを通して、健康の指導全体について考える
16		

科目コード	34101				区 分	コア科目			
授業科目名	保育内容総論				担当者名	橘高 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育内容の全体像を理解し、乳幼児の発達や生活に応じた保育のあり方を学ぶ。また、保育計画の立案や実践的な指導法を身につけ保育者としての基礎的な力を養う。

<授業の到達目標>

1. 保育の基本的な理念と内容を理解し、5領域の視点を踏まえながら、子どもの発達や実態に応じた保育の在り方を考え、具体的に説明することができる。2. 乳幼児の発達特性に応じた保育内容について理解し、子どもの実態に即した保育を構想することができる。3. 適切な保育環境の構成や援助の方法を実践できる。

<授業の方法>

・授業テーマに即したワークやグループディスカッションを行う（全てにおいてワークシートを配布する）。・各自、またグループで発表を行いそれぞれの考えを共有し、学びを深める。・まとめの講義を行う。・ワークは授業ごとに提出する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：保育実践に即したワークショップを通して得られた体験を基に考察を行い、理論と往還させながら思考の深化を深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読んでおく（30分）復習：ワークシートをしあげ、次回授業で提出する（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・受講態度、グループディスカッション（発表）の参加態度（15%）・リアクションペーパー（15%）・オンデマンド課題（30%）・最終レポート（40%）

<教科書>

<参考書>

幼稚園教育要領解説 フレーベル館
保育所保育指針解説 フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・オリエンテーション・保育内容とは	・授業計画説明・ワーク：5領域で見とる活動
2	・「3匹のやぎのがらがらどん」より保育活動の発展や子どもの育ちについて考える	・各活動が5領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
3	・「3匹のやぎのがらがらどん」より保育活動の発展や子どもの育ちについて考える	・各活動が5領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
4	・オンデマンド：名札制作	・実習で使用する自身の名札を制作する。
5	・パラバルーンの活動を通して	・各活動が5領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
6	・パラバルーンの活動を通して	・各活動が5領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
7	・新聞遊びを通して	・各活動が5領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
8	・新聞遊びを通して	・各活動が5領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで

9	・制作「スマートフォン」作りを通して	考察を深める。 ・各活動が5領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
10	・制作「スマートフォン」作りを通して	・各活動が5領域のいずれに該当するか、保育者が行う環境構成（環境による保育）や特別な配慮、子どもの主体性、個の育ち、集団の育ちという視点よりグループで考察を深める。
11	・こども園観察・記録をとる	・子どもの活動を5領域の視点を踏まえて観察し、理解する。
12	・指導案の作成	・指導案の作成の手順を理解し、作成する。
13	・指導案の作成	・指導案の作成の手順を理解し、作成する。
14	・まとめ	・まとめの講義・レポートについて
15		
16		

科目コード	38201				区 分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP]				担当者名	久田 孝			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4. 省察活動（まとめと振り返り）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し、書籍や論文から必要な情報を集めてくる。（毎回、2時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、「科学的根拠や思考を持って、体育スポーツ現場の諸問題に対応できる能力（DP5）」を育成すると共に、「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力（DP7）」を養うための教職の応用科目である。単に方法を習得するだけでなく、保健体育科教員としての自覚と責任のもと、常に自己研鑽しながら自分を高めていく学習習慣の形成と実践力の向上を目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

理解度テスト 20%、レポート（含指導案） 40%、マイクロティーチング 40%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。レポートの内容については、提出後の授業でコメントし、フィードバックする。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房

<参考書>

文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す
2	よい体育授業とは	よい体育授業の条件
3	体育授業における教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法
4	体育授業の学習指導	教師の4大行動（ICTの利活用を含む）
5	保健分野の教材研究	教材の選定と作成
6	保健分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
7	保健分野の授業実践	模擬授業と省察
8	体育分野の教材研究	教材の選定と作成
9	体育分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
10	体育分野の授業実践①	模擬授業と省察
11	体育分野の授業実践②	模擬授業と省察
12	指導計画とは	指導計画の意義と方法
13	指導案を読み解く	実践事例から授業設計を捉え、単元計画・単位時間計画を作成する
14	指導計画の作成	単位時間計画の作成と改善、理解度テスト
15		
16		

科目コード	38201				区 分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP]				担当者名	久田 孝			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

＜授業の到達目標＞

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

＜授業の方法＞

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答） 2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク） 3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む） 4. 省察活動（まとめと振り返り）

＜アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法＞

有 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：自分が担当する領域・種目に該当する学習指導要領の記載内容を熟読し、書籍や論文から必要な情報を集めてくる。（毎回、2時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、「科学的根拠や思考を持って、体育スポーツ現場の諸問題に対応できる能力（DP5）」を育成すると共に、「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる生涯学習力（DP7）」を養うための教職の応用科目である。単に方法を習得するだけでなく、保健体育科教員としての自覚と責任のもと、常に自己研鑽しながら自分を高めていく学習習慣の形成と実践力の向上を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

理解度テスト 20%、レポート（含指導案） 40%、マイクロティーチング 40%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。レポートの内容については、提出後の授業でコメントし、フィードバックする。

＜教科書＞

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房

＜参考書＞

文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方自身の体験から保健体育科の捉え方を問い直す
2	よい体育授業とは	よい体育授業の条件
3	体育授業における教材・教具とは	教材づくり・教具づくりの意義と方法
4	体育授業の学習指導	教師の4大行動（ICTの利活用を含む）
5	保健分野の教材研究	教材の選定と作成
6	保健分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
7	保健分野の授業実践	模擬授業と省察
8	体育分野の教材研究	教材の選定と作成
9	体育分野の授業づくり	グループワークによる指導計画の作成（アクティブラーニングの視点を含む）
10	体育分野の授業実践①	模擬授業と省察
11	体育分野の授業実践②	模擬授業と省察
12	指導計画とは	指導計画の意義と方法
13	指導案を読み解く	実践事例から授業設計を捉え、単元計画・単位時間計画を作成する
14	指導計画の作成	単位時間計画の作成と改善、理解度テスト
15		
16		

科目コード	38201				区 分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP]				担当者名	坂本 康輔／岩田 知郎／木村 大			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google form を用いた課題遂行）2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）4. 省察活動（まとめと振り返り）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有指導案の作成及び各種目の特性についてグループワークやディスカッションを行います。また、模擬授業の際は映像を見ながらFBを行い、改善点を発見する方法を採用します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：学習指導要領に示されている領域・種目に関する内容を熟読し、保健体育授業における指導案や授業方法、教材・教具などについて、書籍や論文から必用な情報を集める。（1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 20%, 受講態度10%, レポート（含指導案） 40%, 模擬授業 30%で総合的に評価する。受講態度は模擬授業における評価対象とするが、とりわけ日頃の協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。課題の内容については、主にフィードバックを中心に行い、学習理解度を図る。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房
文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房
衛藤 隆，友添 秀則 ほか（2022年3月20日） 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店
杉山重利・高橋健夫・園山和夫（2009） 保健体育科教育法 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について②良い体育授業とは何かを考える
2	学習指導要領を理解する①	学習指導要領が示している内容について理解を深める
3	学習指導要領を理解する②	学習指導要領の内容を調査し、意義を見つける
4	学習指導案の書き方について①	学習指導要領に基づいた指導案を作成する
5	学習指導案の書き方について②	単元計画の作成
6	運動領域の特性について①	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
7	運動領域の特性について②	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
8	運動領域の特性について③	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
9	運動領域の特性について④	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
10	運動領域の特性について⑤	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
11	運動領域の特性について⑥	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
12	模擬授業に向けた準備	授業実践における心構えと方法
13	模擬授業の実践①	マイクロティーチング
14	模擬授業の実践②	マイクロティーチング
15		
16		

科目コード	3G402				区 分	コア科目			
授業科目名	民法Ⅱ				担当者名	岡邑 祐樹			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

私法の代表である民法の債権法について、基本的な事項を扱う。民法は法律科目全般について最初に学ぶことの多い法律であり、法的な考え方の基本となる。公務員試験などで民法の試験科目にも対応できるための民法の基礎的な知識・理解が身につけられる授業である。

<授業の到達目標>

①民法債権法の基本的な原則について理解する。②法律問題について民法債権法の何の条文が問題になるかを理解する。③法律を当てはめて妥当な結論について導き出すことが出来る思考力を養う。

<授業の方法>

対面における講義形式で行うが、適宜、学生に質問をし意見を聞くなどして双方向の授業を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。法律問題についての意見（結論と理由）を聞くことがある。意見を考えて発表し、場合によっては討論を行うことによって基礎的な知識だけでなく、法的解決のための思考力を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習としては教科書の該当部分を読んでくる。（60分）復習としては該当のレジュメと教科書を読み返す。（60分）小テストを2回行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験50%、小テスト40%、授業態度（授業の積極性やオンデマンド授業での課題提出など）10%によって授業の到達目標を測定する。

<教科書>

長瀬二三男・永沼淳子（2020年8月30日） Next教科書シリーズ 民法入門 弘文堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	債権法総論導入・債権の効力導入	テキスト109－118ページ
2	債権の効力続き・責任財産の保全	テキスト118－133ページ
3	多数当事者の債権および債務	テキスト133－144ページ
4	債権譲渡・債務引受	テキスト144－150ページ
5	債権の消滅・有価証券	テキスト150－164ページ
6	契約総則＋（第1回から第5回までの内容の小テスト）	テキスト165－178ページ
7	贈与・売買・交換・消費貸借	テキスト178－193ページ
8	使用貸借・賃貸借①	テキスト193－207ページ
9	賃貸借②	テキスト207－218ページ
10	雇用・請負・委任・寄託・組合・終身定期金・和解	テキスト218－234ページ
11	事務管理・不当利得＋（第6回から第10回までの内容の小テスト）	テキスト234－241ページ
12	不法行為①	テキスト241－246ページ
13	不法行為②	テキスト246－251ページ
14	不法行為③	テキスト251－257ページ
15		
16		

科目コード	40205				区 分	コア科目			
授業 科目名	陸上Ⅱ(応用)				担当者名	品田 直宏			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技・講 義	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

陸上競技は、どのスポーツ種目においても基本となる走・跳・投・歩の運動から構成される。内容的には体力的・技術的・精神的な多くの要素を含んでおり、競技や練習を行う上で多面性を要求され、計画的・継続的に行う必要がある種目である。本授業では、陸上Ⅰで行った内容を指導実践するものとし、陸上競技の指導者養成することを目的とした授業を展開する。

<授業の到達目標>

本授業では、「陸上競技Ⅰ（基礎）」で学習した内容の指導実践を行ない、各種目に応じたウォーミングアップの立案と実践、各種目の技術的指導ができるようになることを目標としている。陸上競技のコーチングにとって必要な高度な専門知識を身につけた上で、トレーニング方法やトレーニングプログラムデザインを提案できるようになること。

<授業の方法>

対面授業による実技（陸上競技場・スポーツ科学センター）のため教科書は使用しないが、雨天時にはGoogle Classroomを用いたオンデマンド型授業とし、各種目の歴史やルール・指導上の留意点に関する理解を深めると共に、レポート課題を行う。履修上限人数は40人とする。陸上Ⅰの受講学生を対象とした指導実践を行なう。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有本授業では、実技を中心とした双方向型の学習を通してアクティブ・ラーニングを取り入れる。具体的には、学生同士によるペア・グループでの相互指導（ピア・ラーニング）や、動作観察およびフィードバックを行うことで、技術理解と指導力の向上を図る。また、オンデマンド授業においては、提示された課題に対するレポート作成や小テストを通して主体的な学習を促すとともに、対面授業での実践と結び付けることで理解の深化を図る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本授業では、各回あたり予習・復習として合計60分程度の学習を行うことを想定する。予習としては、各種目のルールや技術ポイント、指導上の留意点および安全管理に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。復習としては、対面授業で実施した技術や指導内容について振り返りを行い、自身の課題や改善点を整理するとともに、関連資料の確認や課題（レポート・小テスト）への取り組みを行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連づけられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は以下の割合で総合的に評価する。・実技指導：40%（4種目*10%=40%）・レポート課題：40%（オンデマンド授業4回*10%=40%）・受講態度・学習意欲：20%実技指導では、各種目における指導内容を評価する。レポート課題では、各種目の技術理解、指導上の留意点、安全管理に関する理解度を評価する。受講態度・学習意欲については、授業への積極的な参加状況、協働的な学びへの関与、準備・振り返りの取り組み状況等を総合的に評価する。フィードバックについては、実技においては授業内での口頭指導や個別助言を通し

<教科書>

<参考書>

関岡康雄 陸上競技入門 ベースボールマガジン社
日本陸上競技連盟 陸上競技ルールブック ベースボールマガジン社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、陸上競技の概要、ウォーミングアップの行い方と「歩く」・「走る」の実践	受講上の注意、陸上競技のウォーミングアップ、軸を意識した姿勢作り、ウォーキング&ジョギング。心拍数を利用したウォーミングアップ、トレーニングの考え方について理解する。
2	短距離走①	短距離走の走り方、ウォーミングアップを実践し、100m走の記録測定の補助を行う。
3	走高跳①	走高跳のウォーミングアップ実践、曲線助走の方法、踏切の方法を理解し、指導補助を行う。
4	走高跳②	踏切～背面跳の方法を理解し、指導補助を行う。また、記録測定の審判を行う。
5	ハードル走①	ハードルドリル、ハードルクリアランス、アプローチの方法を理解し、指導補助を行う。
6	ハードル走②	インターバル間の走りを理解し、指導補助を行う。記録測定の審判を行う。
7	走幅跳	走幅跳のウォーミングアップ実践、助走の合わせ方、助走～踏切の方法を理解

8	砲丸投	し、指導補助を行う。
9	リレー種目の理解	砲丸投げのウォーミングアップ実践、立ち投げの方法を理解し、指導補助を行う。
10	バネを高めるトレーニング・指導方法の理解	リレー種目の指導方法について理解を深めるとともに、バトンワークを実践する。
11	跳躍種目におけるパフォーマンス構造の理解（オンデマンド）	バネを高めるトレーニング方法について理解を深めるとともに、ボックスを用いたプライオメトリックトレーニングやバウンディングトレーニングについて、実践を行う。
12	三段跳のパフォーマンス構造の近い(オンデマンド)	オンデマンド教材を用い、跳躍種目のパフォーマンスに英巨王を与える体力要素およびそれらを高めるための体力トレーニングについて理解を深める。理解度の確認として、小レポートを行う。
13	陸上競技における性差の理解	オンデマンド教材を用い、跳躍種目における三段跳について理解を深める。理解度の確認として、小レポートを行う。
14	ジュニア期に求められるトレーニングの理解	オンデマンド教材を用い、性差を考慮したコーチング方法について理解を深める。理解度の確認として、小レポートを行う。
15		オンデマンド教材を用い、ジュニア期に必要なトレーニング・方法について理解を深める。理解度の確認として、小レポートを行う。
16		

科目コード	3F204				区 分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅱ(骨折Ⅱ)				担当者名	實戸 崇史			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

下肢はヒトの特徴である2本足で移動するという点で、社会生活上、重要な支持組織である。本科目は、骨盤、大腿部、膝部、下腿部、足部の下肢における骨折の発生機序、症状、治療法について機能解剖学、生理学、運動学的視点も含め学習する。

<授業の到達目標>

1. 下肢の機能解剖について理解し、骨折の発生機序、症状を説明できる。2. 骨折の状態から治療指針ならびに予後について判断、説明することができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による指定疾患の解説）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

自分や家族がその症例に遭遇したと想定し、与えられた課題に対してグループ形式にて学習をし発表をおこなう。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に関する事前課題（柔道整復学総論の専門用語、解剖学（下肢の筋（起始停止、作用、支配神経）にて1時間程度、復習にて1時間程度

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験70%、学習意欲30%（出席、小テスト）但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂

<参考書>

小林直行 柔道整復師国家試験重要問題 柔道整復学 下肢・総論編 医歯薬出版株式会社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	骨盤骨単独骨折（1）	腸骨翼単独骨折、恥骨単独骨折、坐骨単独骨折、仙骨単独骨折、尾骨単独骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
2	骨盤骨単独骨折（2）	腸骨稜裂離骨折、上前腸骨棘裂離骨折、下前腸骨棘裂離骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
3	骨盤骨輪骨折	骨盤骨輪骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
4	大腿骨近位端骨折（1）	大腿骨骨頭骨折、大腿骨頸部骨折における概要、発生機転、症状、治療法について
5	大腿骨近位端骨折（2）	大腿骨転子部骨折、大腿骨大転子単独骨折、大腿骨小転子単独骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
6	大腿骨骨幹部骨折	大腿骨骨幹部骨折（上1/3、中1/3、下1/3）における特徴、発生機転、症状、治療法について
7	大腿骨遠位端部骨折（1）	大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位骨端線離解における概要、発生機転、症状、治療法について
8	大腿骨遠位端部骨折（2）	大腿骨顆部骨折、内側側副靱帯付着部剥離骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
9	膝蓋骨骨折	膝蓋骨骨折、分裂膝蓋骨における特徴、発生機転、症状、治療法について
10	下腿骨近位端骨折（1）	脛骨顆部骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
11	下腿骨近位端骨折（2）	脛骨顆間隆起骨折、脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
12	下腿骨幹部骨折	脛骨単独骨折、脛腓両骨骨折、腓骨骨幹部単独骨折、下腿骨果上骨折、下腿疲労骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
13	下腿骨遠位端骨折	下腿骨果部骨折、足関節脱臼骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
14	足根骨骨折	距骨骨折、踵骨骨折、舟状骨骨折、立方骨骨折、楔状骨骨折、中足骨骨折、他の足趾骨骨折における特徴、発生機転、症状、治療法について
15		
16		

科目コード	36522				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	アスリートキャリアⅢ(スポーツリスクマネジメント)				担当者名	宮本 彩／三浦 孝仁／矢野 智彦			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

スポーツにおいてケガはつきものといわれることがあるものの、教員・指導者はもちろん、学生・競技者自身もリスクを理解し、重大な事故を防止する意識を持つことが重要といえる。また、コンプライアンス遵守が求められる中、SNS等での軽率な行動が大きな事件へと発展するなど、多種多様なリスクへの対応が求められる。自分たちの身の回りにあるリスクを理解し、その対策と対応について考え、リスクマネジメントを身につけることは、大学卒業後の様々な進路に有用である。このことを理解し、スポーツにおける経験を強みへと変える。

<授業の到達目標>

本授業を通して、自分たちの身の回りにあるリスクを理解し、その対策と対応について考えることができる。また、リスクマネジメントを身につけ、実践することができる。リスクマネジメントの観点から、スポーツや部活動（体育会活動）の経験が卒業後の進路に有用であることを理解し、自分自身の強みについて他者に伝えることができる。

<授業の方法>

グループワークによる自己探求、課題レポート等を基にした自己表現及び発表

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素；有りグループワーク、その成果についてのプレゼンテーションなど

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習；次週のテーマについて調べる（30分）復習；授業の振り返りを行い、事後課題レポートやプレゼンテーションの作成などに取り組む（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー1（体育・スポーツを通して、他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内での発表を含めた受講態度 50%、レポートを含む課題 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の内容についての説明を行う。今年度の目標に加え、卒業後の進路に向けてやろうとされていること、不安に思っていることを言語化し、共有する。
2	グループワークによるコンセンサスの取り方について学ぶ	アイスブレイクゲームを通してグループワークによるコンセンサスの取り方を学び、その重要性を知る。
3	グループワークによる目標像の再検討する	グループワークを通して、学科の目指すべき学生像についての考えを深める。
4	リスクマネジメントの観点から五訓について考える①	各競技の日本代表選手行動規範を調べ、五訓との共通点をレポートする。
5	リスクマネジメントの観点から五訓について考える②	レポートを基にグループ討議を行い、発表する。
6	リスクマネジメントとは何かについて学ぶ	各クラブやスポーツ実践現場での実例を出し合い、その内容をもとにリスクマネジメントとは何かについて学ぶ。
7	AIの対話からリスクマネジメントの意義についての考えを深める	AIを活用し、経験的に学んできたリスクマネジメントの意義について、考えを深める。
8	リスクマネジメントを将来の強みにする	リスクマネジメントの経験や知識がそれぞれの進路でどう生かせるかについて考え、言語化する。
9	キャリア講話①	卒業後の進路を見据え、外部講師あるいは企業様をお招きして講話をいただく。
10	キャリア講話②	卒業後の進路を見据え、外部講師あるいは企業様をお招きして講話をいただく。
11	キャリア講話③	卒業後の進路を見据え、外部講師あるいは企業様をお招きして講話をいただく。
12	キャリア講話の振り返り・アクションプランづくり	キャリア講話を踏まえ、卒業後の進路を見据えて自己分析ならびにアクションプランを作成する。

13	キャリア講話の振り返り・アクションプランの発表	作成したアクションプランを発表する。
14	まとめ	本授業の取り組みを振り返り、これまでの学科での学びを強みに変える。
15		
16		

科目コード	3G107				区 分	コア科目			
授業科目名	イノベーション論 [週2]				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	3年	配当学期	第1クオ ーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

多様性と変化の求められる現代において、新しい「もの」「考え方」「システム」などを創造すること、そして、新しい流れを的確につかみ、適応することが重要だと考えられている。そこで本講義では、刻々と変わる技術や価値観に適応できるよう、イノベーションとは何か、事例や理論を学び見えないものを具体化するプロセスについて学ぶ。

<授業の到達目標>

①イノベーション・マネジメントに関する基本概念を自分の言葉で説明できる。②イノベーション・マネジメントの理論・概念を用いて経営現象を分析できる。

<授業の方法>

1. 配布資料を用いて、講義を行なう。2. 授業中は質疑応答しながら授業を進めるため、対話型授業をめざす。3. 授業終了前に小テストを実施し、基礎知識の定着度を確認しながら進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有ペアワーク、グループワークを用いて講義を進めていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。2 空欄埋めシートなどを使って、講義で扱った内容を何度も復習すること（復習60分）。3 講義に関する不明点等があれば、自分で調べたり、教員に尋ねたりすること（復習30分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、現代経営学科のDP2「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP3「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：40%③授業内確認テスト：30%上記の総合点で評価する。

<教科書>

使用しない。

<参考書>

適宜紹介します。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	イノベーション論とはどのような学問なのかを解説し、授業の進め方、成績方法等について説明する。
2	イノベーションと社会	イノベーションの定義づけ、歴史などについて学ぶ。
3	イノベーションの基礎理論	イノベーションの分類、社会との関係について学ぶ。
4	イノベーションの普及	イノベーションをいかにして広げるかについて学ぶ。
5	イノベーションを担う人材	職業の専門化と研究者の育成について学ぶ。
6	イノベーションと産業	各産業と雇用について学ぶ。
7	イノベーションと企業戦略【オンデマンド】	企業組織と戦略について学ぶ。
8	イノベーションと共同研究開発【オンデマンド】	共同研究開発の利点と問題点について学ぶ。
9	中間まとめ	前半部分のまとめと中間課題について
10	イノベーションとアントレプレナーシップ	起業家の役割、起業促進策と課題について学ぶ。
11	イノベーションと特許	特許制度の理解と特許戦略について学ぶ。
12	イノベーションと標準	標準の定義と標準化プロセスについて学ぶ。
13	イノベーション政策	産学連携と国家プロジェクトについて学ぶ。
14	イノベーションの重要性	本講義全体の総復習。
15		
16		

科目コード	65048				区 分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅡ [公務員A]				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる有名な哲学者の考えを今の自分自身に落とし込み、これから目標に向かっていく中で自分を見つめ直す機会とすることを目的として開講します。

<授業の到達目標>

採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。3年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

<授業の方法>

レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストにおいて、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる。（1時間程度）復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末テスト70%、単元別テスト15%、授業に臨む態度等15%

<教科書>

<参考書>

東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員地方初級 日本史・世界史・地理・思想 七賢出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明をブレ講義
2	思想（1）	西洋思想Ⅰ（1）（自然哲学から古代ギリシャ哲学）
3	思想（2）	西洋思想Ⅰ（2）（キリスト教思想と中世哲学）
4	思想（3）	西洋哲学Ⅱ（1）（経験論思想と合理論思想の比較）
5	思想（4）	西洋思想Ⅲ（1）（経験論思想の流れ～功利主義・プラグマティズム）
6	思想（5）	西洋思想Ⅲ（2）（合理論思想の流れ～社会主義と実存主義）
7	思想（6）	西洋思想Ⅲ（2）（ドイツ観念論と構造主義）
8	思想（7）	東洋思想Ⅰ（1）（バラモン教と仏教の成立とアジア地域への広がり）
9	思想（8）	東洋思想Ⅰ（2）（聖徳太子から平安時代までの仏教について）
10	思想（9）	東洋思想Ⅱ（1）（古代中国の諸子百家について）
11	思想（10）	東洋思想Ⅱ（2）（中国・日本の朱子学・陽明学と日本独自の古学・国学について）
12	思想（11）	東洋思想Ⅱ（3）（明治以降の日本の哲学について）
13	社会（1）	社会学の基礎（1）（現代社会の特質について）
14	社会（2）	社会学の基礎（2）（社会集団の種類について）
15		
16		

科目コード	65048				区 分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅡ [公務員B]				担当者名	森 利治			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員試験合格を目指す学生の場合、採用試験の中で大きなウェイトを占める教養試験を突破しなければいけません。本科目では公安職・行政職などの各種公務員を目指す学生が、試験に合格するためだけの科目として学習するだけではなく、そこに出てくる有名な哲学者の考えを今の自分自身に落とし込み、これから目標に向かっていく中で自分を見つめ直す機会とすることを目的として開講します。

<授業の到達目標>

採用試験における頻出分野の理解ができるようになる。3年次後期から開講される「公務員試験対策講座」と連動して知識のインプットと確認テストによるアウトプットをバランスよく行い得点が取れるようになる。

<授業の方法>

レジュメを中心に進めていくが、講義内容について本試験出題問題を解答し、グループ単位になって各選択肢の誤りを話し合い正答を導き出して発表していくことで全員が内容の理解を深めていく。また、単元別にミニテストにおいて、GoogleClassRoomを活用して解説動画を視聴する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 問題の一部についてはグループ内で相談し答えを見つける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前配布レジュメの中から人物とそれに関連する出来事の骨格をまとめる。（1時間程度）復習：予習した内容に講義で習った内容が肉付けできるようになるために宿題レジュメを完成させ次回の確認テストに備える。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末テスト70%、単元別テスト15%、授業に臨む態度等15%

<教科書>

<参考書>

東京アカデミー オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員地方初級 日本史・世界史・地理・思想 七賢出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義内容の趣旨・目的の説明をブレ講義
2	思想（1）	西洋思想Ⅰ（1）（自然哲学から古代ギリシャ哲学）
3	思想（2）	西洋思想Ⅰ（2）（キリスト教思想と中世哲学）
4	思想（3）	西洋哲学Ⅱ（1）（経験論思想と合理論思想の比較）
5	思想（4）	西洋思想Ⅲ（1）（経験論思想の流れ～功利主義・プラグマティズム）
6	思想（5）	西洋思想Ⅲ（2）（合理論思想の流れ～社会主義と実存主義）
7	思想（6）	西洋思想Ⅲ（2）（ドイツ観念論と構造主義）
8	思想（7）	東洋思想Ⅰ（1）（バラモン教と仏教の成立とアジア地域への広がり）
9	思想（8）	東洋思想Ⅰ（2）（聖徳太子から平安時代までの仏教について）
10	思想（9）	東洋思想Ⅱ（1）（古代中国の諸子百家について）
11	思想（10）	東洋思想Ⅱ（2）（中国・日本の朱子学・陽明学と日本独自の古学・国学について）
12	思想（11）	東洋思想Ⅱ（3）（明治以降の日本の哲学について）
13	社会（1）	社会学の基礎（1）（現代社会の特質について）
14	社会（2）	社会学の基礎（2）（社会集団の種類について）
15		
16		

科目コード	65048				区 分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅡ [中高保健教員]				担当者名	岩田 知郎／小川 雄太			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

教職に就くために必要な保健体育関係の知識や技能を獲得する。講義形式や実技を通して学びを深める。主に、スポーツ関係の技能やルールの学びを重視する。（大学3年・4年で保健体育の教員採用試験を受験する予定の者のみを対象とする）

<授業の到達目標>

①体育教員として必要な知識・技能・態度等を身に付けることができる。②生徒に指導する力を、プレゼンや資料づくりを通して身につけることができる。③体育教員としての専門性を育成することができる。

<授業の方法>

学習指導要領の領域の内容を、グループに分かれ学生同士で教え合いをする。講義→実技という流れの授業を展開する。実技の時間は事故の起きないよう安全に十分配慮し、メディカルセンター（保健室）とも連携しながら行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（交替でプレゼンテーションを創ることや、授業を見せ合う活動を通して、主体的に知識を深めていく。）

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

前時の内容の確認するために、毎時間ミニテストを実施する（復習約60分・予習約60分）。最終日には確認テストを実施し到達度を図る。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎時間のミニテスト 30%、授業でのプレゼン等 40%、中間テスト・確認テスト 30%

<教科書>

<参考書>

2025年9月1日発行 27中高保健体育の完全攻略 時事通信社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業内容のオリエンテーション。グループ作り。
2	球技（バレーボール）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
3	体づくり運動	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
4	水泳	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
5	応急手当	内容等を理解し、それに関連した実技を実施する。
6	球技（ソフトボール）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
7	中間テストと解説	ここまでの学習を振り返り、これまでの学びの確認をする。
8	球技（卓球・バドミントン）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
9	球技（サッカー）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
10	球技（ハンドボール）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
11	球技（バスケットボール）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
12	武道（柔道・剣道）	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
13	ダンス	運動内容等を理解し、学習指導要領の内容や種目の特性を理解し、それに関連した実技を実施する。
14	確認テストと解説	これまでの学習を振り返り、学習指導要領の内容等が理解できたかを確認する。

15		
16		

科目コード	37506				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツマーケティング論 [週2]				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツマーケティングは近年、オリンピックをはじめ様々なスポーツに導入され、人とスポーツをより活発化させる機能として、大きな役割を果たしている。本講義では、スポーツマーケティングの歴史と発展その特性を知り、またスポーツマーケティングの幅広い要素と機能を実例を通じて学ぶことで、その本質を理解することを目的とする。また講義の終盤では、国内のスポーツマーケティングの実例も紹介する。

<授業の到達目標>

スポーツマーケティングの特性を理解する。スポーツマーケティングの幅広い機能を理解し、プロスポーツを中心にスポーツマーケティングの最新事例を知る。 スポーツマーケティングについてチーム、リーグ、地域事例について説明でき、分析できる

<授業の方法>

講義形式を基本とし、授業内での課題提出、少人数でのグループワークを展開していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有 (ディスカッション、ディベート、グループワークの方法) 5、6人のグループに分かれ、テーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前にスポーツマーケティング関連の情報を確認する。授業資料を中心とした一斉授業と少人数のグループワークを中心に展開していく。毎週最低でも準備に1時間の予習時間、講義内容のまとめ・理解に1時間の復習時間が必要である。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 30% 授業課題評価 30% レポート課題(授業時間内及び中間・最終) 40% 各回毎に授業課題または、レポートを1週間以内に提出し、その都度フィードバックを行う

<教科書>

<参考書>

原田宗彦・藤本淳也・松岡宏高（2020年9月1日） スポーツマーケティング改訂版 株式会社大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	講義概要、成績評価方法の説明
2	スポーツマーケティングとは何か？	スポーツとマーケティングの概念
3	スポーツマーケティングの歴史と発展	スポーツマーケティングの誕生とその発展
4	スポーツプロダクトの特性	するスポーツとみるスポーツ、サービスマーケティング
5	スポーツ消費者の特性	スポーツ消費者の定義と意思決定プロセス
6	スポーツマーケティングのプランニング	リサーチ、STP、マーケティングミックス
7	プロモーション	広告、PR、イベント戦略
8	スポーツ・スポンサーシップ	スポンサーシップの概念、発展と現状、効果
9	ブランディング	ブランドエクイティとは何か、ライセンスリング
10	CRM(カスタマー・リレーションシップ・マネジメント)	顧客との関係、データベースマーケティングの未来
11	価格戦略	スポーツと価格、需要と供給、価格設定
12	マーケティングリサーチ	リサーチの意味、方法、分析と活用方法
13	事例紹介①国内スポーツ	プロ野球、Jリーグ、Bリーグのマーケティング事例
14	講義のまとめ	講義全体を通じてのまとめ
15		
16		

科目コード	35218				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ健康演習				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本講義においては、スポーツ健康論で修得した内容を踏まえ、「個々人の身体状況に応じた安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成と指導」、「生活習慣病にかかる可能性のある“ハイリスク者”への個別指導・健康支援」に関

<授業の到達目標>

1. 対象者の健康状態・体力特性・生活習慣リスクを評価できる。2. 生活習慣病予防を目的とした運動プログラムを作成できる。3. 安全かつ効果的な運動指導を実践できる。4. 健康運動教室を企画・運営し、指導実践ができる。5. 指導結果を評価し、課題を抽出して改善案を提示できる。

<授業の方法>

教科書を基に、実習を中心とした授業を展開する。特にチーム別に、テーマを設定し、グループワークを行い、健康運動教室を実施する。その後、参加者からのアンケートをまとめることにより、課題及び改善点をリフレクションしていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：5、6人のグループに分かれ、健康教室の内容についてグループワークを行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：教科書・配布資料の該当範囲を読み、運動プログラム作成に必要な知識を整理する。次回実施する健康運動教室に向けた運動プログラム案を作成する。発表・指導に向けてプレゼン資料を準備する（1時間程度）。事後学習：授業で実施した運動指導・健康教室の内容を振り返る。参加者アンケートや指導評価を整理する。改善点・課題をレポートとしてまとめる（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習態度・学習意欲 30%、運動プログラム指導 50%、課題レポート 20%

<教科書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下） 株式会社 南江堂

<参考書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト 株式会社 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	身体活動量の定量法とその実際	身体活動量の測定法（加速度計・質問紙）
2	身体組成の測定法	身体組成測定（体脂肪率・筋量）
3	運動負荷試験実習（1）	正常心電図の理解、負荷心電図の評価
4	運動負荷試験実習（2）	呼気ガス分析・乳酸測定
5	運動負荷試験実習（3）	最大酸素摂取量の測定
6	高齢者の体力測定法	全身持久力の評価、筋力・バランス能力の評価
7	運動行動変容とプログラム設計	対象者に応じた運動プログラムの立案
8	運動療法（1）	生活習慣病（肥満・糖尿病・高血圧等）の運動療法の基礎
9	運動療法（2）	サルコペニア、フレイルの理解
10	地域健康教室 事前準備・模擬	指導案作成、役割分担、安全管理（リスク評価・緊急対応）、模擬指導
11	地域健康教室 実践（1）現場実践	地域住民（主に高齢者）への運動指導実践、体力測定および簡易評価
12	地域健康教室 実践（2）現場実践・改善	前回の振り返りを踏まえた改善指導、対象者フィードバックの収集
13	地域健康教室 実践（3）現場実践・改善	前回、前々回の振り返りを踏まえた改善指導、対象者フィードバックの収集
14	総合振り返り・学習成果の統合	地域実践の振り返り、課題と改善点の整理、グループ発表（プログラム評価）、今後の実践への応用
15		
16		

科目コード	25303				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ文化論				担当者名	堀川 峻			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツは、各地域・各民族の生活・行動の中から生み出された文化の一形態であり、スポーツを文化として捉えることで、歴史性、地域や民族とのかかわり、国際化の問題、教育との結びつき、身体性、ジェンダーにかかわる課題など、様々な事象がみえてくる。そのため、本授業では特定のテーマに絞って事例的に提示、解説しつつ、スポーツ文化の多面的な理解を目指していく。

<授業の到達目標>

本授業では以下の2点を目標に設定する。①体育・スポーツに関わる文化事象をスポーツ文化論の知見を踏まえて説明することができる。②体育・スポーツ界における慣習の文化的な背景を理解した上で、他者と意見交流ができる。

<授業の方法>

配布資料やパワーポイントを用いた講義形式、ディベートやグループワークも実施する。各回の授業の最後には、リフレクションシート（課題）を配布・回収する。授業中のデータ共有はGoogle Classroomを活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング有り各授業のテーマにそって、適宜グループワークによって、意見交換を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：スポーツ文化を対象にしたニュースやコラム等に目を通し、取り上げられた背景や経過を調べておくこと（1時間）。上記について簡単に発表できるようにしておくこと（1時間）。事後学習：取り組んだ事前課題と講義内容を踏まえ、振り返り課題に取り組むこと（1時間）。自らのスポーツ生活の中における文化事象を何点か取り上げ、考察すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、各回でのリフレクションシート（課題）30%、授業の参加度20%、個人発表内容20%、最終課題30%の配分で評価する。

<教科書>

<参考書>

井上俊・菊幸一編 よくわかるスポーツ文化論 [改訂版] ミネルヴァ書房

井上俊・亀山佳明編 (1999) スポーツ文化を学ぶ人のために 世界思想社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションスポーツ文化論とは	授業概要、運営、成績のつけ方等の説明、スポーツ文化論を学ぶ意義と意味
2	スポーツと教育について	スポーツと教育が結びついてきた歴史、その意味や意義について、文化的な視点から考察する。
3	学校体育について	日本における学校体育のスポーツ文化を振り返り、文化的な視点から考察する。
4	地域スポーツについて	日本や海外の地域におけるスポーツ文化について考察する。
5	日本の伝統的な身体文化について①	日本の伝統的な身体文化について、特に武道を中心に文化的に考察する。
6	日本の伝統的な身体文化について②	日本の伝統的な身体文化について、特に武道を中心に文化的に考察する。
7	陸上競技の歴史と文化について	陸上競技というスポーツについて、歴史的、文化的に考察する。
8	eスポーツについて	eスポーツについて、文化的に考察する。
9	アダプテッドスポーツについて	アダプテッドスポーツについて、文化的な視点から考察する。
10	スポーツと政治について	スポーツを取り巻く政治の問題について、文化的な視点から考察する。
11	スポーツとファンについて	スポーツを支えるファンの文化について、文化的に考察する。
12	オリンピック、パラリンピックについて	オリンピック、パラリンピックについて文化的に考察する。
13	スポーツとジェンダーについて	スポーツとジェンダーについて、文化的に考察する。
14	授業のまとめと振り返り	授業のまとめ、ふりかえりをするとともに、到達度を測る。
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	小川 正人			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	岡田 健志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		

12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	扇野 睦巳			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎)				担当者名	山本 満理子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	小堀 浩志／平岡 師玄哉			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎) (BC25秋編入学生用)				担当者名	小川 正人			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎) (BC25秋編入学生用)				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎) (BC25秋編入学生用)				担当者名	岡田 健志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎) (BC25秋編入学生用)				担当者名	溝越 隆興			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎) (BC26秋編入学生用)				担当者名	江口 尚文			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎) (BC26秋編入学生用)				担当者名	古松 丈周			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナール I (基礎) (BC26秋編入学生用)				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて予習・復習を行う（各回1時間程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分担を決定したうえで、それぞれが責任をもって必要な準備や調整を行い、授業に臨むことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		

12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	3年	配当学期	第1・第2クオーター	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クオーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クオーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クオーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		

12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]				担当者名	小川 正人			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		

12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		

12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		

12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]				担当者名	大池 淳一			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		

12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	55007				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎) [秋入学生用]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

経営学（マネジメント・マーケティング・会計）、経済学（マクロ・ミクロ）、グローバルビジネス（異文化コミュニケーション・国際経営）、スポーツビジネス（スポーツ経営・スポーツマネジメント）などの各分野からテーマを設定し、学生同士の議論や協働を通して、主体的に探究を深める。学生一人ひとりが関心を持って主体的に取り組めるよう、指導・支援を行う。

<授業の到達目標>

・自分の関心に基づいて「専門とするテーマ」を決め、その内容と取り組む意義を他者に説明できる。・卒業後の進路や将来のキャリアを見据え、自分の専門とどのようにつながるかを整理し、一貫した方向性を示すことができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールでは、テーマの設定と活動計画の立案を行った後、年間を通して継続的に活動に取り組む。【第1クォーター（1～7回）】設計（決める）・自分が取り組みたいテーマを考え、関心のある分野や問題意識を整理して方向性を定める。・あわせて、ゼミとしての活動方針を話し合い、年間の進め方や活動計画を立てる。必要に応じて対外的な活動内容も検討する。【第2クォーター（8～14回）】試行（やってみる）・テーマに関する現状や課題を調査し、文献や資料を収集するとともに、輪読やディスカッションを通して理解を深め、問題意識を具体化する。・ゼミ活動については、作業工程やスケジュールを整理し、必要に応じて外部との調整を行いながら役割分担を決め、活動を開始する。【第3クォーター（15～21回）】深化（詰める）・収集した情報や文献をもとに考察を進め、テーマをさらに絞り込み、内容を深める。・ゼミ活動については、企画案や試作品をもとに検討・改善を重ね、完成度を高める。【第4クォーター（22～28回）】展開（継続・発展）・これまでの検討を踏まえ、テーマを整理するとともに、今後の課題や発展の方向性を明確にする。・ゼミ活動については、成果の質を高めるための修正や調整を行い、必要に応じて発表や対外的な発信につなげる。あわせて活動を振り返り、次年度への課題を整理する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回のテーマに応じて、必要な調査や資料の整理等を行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。ゼミナールにおける準備学習は、あらかじめ内容が与えられるものではなく、自らのテーマやゼミ活動の進捗に応じて、何をどの程度準備する必要があるかを各自が判断し、主体的に取り組むことを基本とする。授業後は、議論内容や指摘を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、次回に向けた準備を進めること（事後学習：60分程度）。ゼミ活動においては、プロジェクトの進め方を学生間で討議・検討し、全体の方向性と役割分

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題の提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		

12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	61011				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング演習Ⅲ(発展)				担当者名	伊藤 亮輔			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

トップパフォーマンスの発揮のためには、トレーニング演習Ⅰ(基礎)、トレーニング演習Ⅱ(応用)で学んだ基本的・競技特異的なトレーニング方法に加えて、内的・外的な制約に対して、個人にあわせたコンディショニングが必要になる。そこで本授業では、アスリートを取り巻くさまざまな内的・外的要因について最新の知見を学び、トップコンディションを維持・向上するために、自立して対処する実践力を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

アスリートを取り巻く様々な制約(身体的課題、技術的課題、傷害、環境要因など)について理解し、その制約を自分の力で解決することができる。

<授業の方法>

演習。オンデマンド課題と併用して行う。本授業は講義と実技を組み合わせで行う。各テーマの導入部分はパワーポイント等を用いて説明し、実際のモデルケースを提示してグループディスカッションを行い、解決策を作成、実践する。必要に応じてテーマに精通したゲスト講師を呼ぶ。Google フォームにて省察レポートを提出させる。この科目は競技スポーツ科学科学生のみ履修できる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有5、6人のグループに分かれ、実際に競技現場で起きる問題点について意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習 各テーマに沿った基礎理論を確認しておく(毎回、1時間程度)。復習 各テーマの問題、新たに得た解決策などをノートにまとめておき、振り返りレポートを作成する(毎回、1時間程度)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題(期末試験)50%、受講態度(学習意欲、グループへの貢献)50%

<教科書>

<参考書>

NSCA ジャンパン 2018年1月30日 NSCA決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング第4版 ブックハウスHD
 公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日(第1刷) 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3巻 コンディショニング』(公財)日本スポーツ協会
 公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日(第1刷) 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4巻 リコンディショニング』(公財)日本スポーツ協会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業のねらい アスリートが対処すべき内的・外的要因	授業のねらいと進め方 トレーニング演習Ⅰ、Ⅱの振り返りと内的・外的要因の整理
2	内的要因①フィジカル(理論)	状況に応じたトレーニングの選択を理解
3	内的要因①フィジカル(実践)	状況に応じたトレーニングの実践
4	内的要因②スキル(理論)	スポーツ動作の理解
5	内的要因②スキル(実践)	スポーツ動作の実践
6	内的要因③メンタル(理論)	アスリートに生じるメンタルの問題を理解
7	内的要因④メディカル(理論)	リコンディショニングの理解
8	内的要因④メディカル(実践)	リコンディショニングプログラムの実践
9	内的要因の振り返り	アスリートが対処すべき内的制約についてまとめる
10	外的要因①環境要因の対策(理論)	暑熱環境、睡眠、時差などの環境要因について理解
11	外的要因②トレーニング計画(理論)	シーズンに合わせたトレーニングプログラムを理解
12	外的要因の振り返り	アスリートが対処すべき外的制約についてまとめる
13	ICTおよび各種テクノロジーを活用したコンディショニング事例(理論)	スポーツ界で活用されるテクノロジーを理解
14	まとめ	授業の総復讐
15		

科目コード	40202				区 分	コア科目			
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)				担当者名	坂本 博秋			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。なお、バレーボールⅡ（応用）は、バレーボールⅠ（基礎）を修得していることが履修の条件となる。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とするとともに日本バレーボール協会公認コーチ1の受験資格取得を目指す。

<授業の方法>

日本バレーボール協会公認コーチ資格取得カリキュラムに沿って展開していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有グループ・ディスカッションや指導実習など

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

書籍や映像等を用いてバレーボールについての理解を深める。（事前事後を含め3時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト及びレポート 60%

<教科書>

日本バレーボール協会（2017年2月10日版） コーチングバレーボール（基礎編） 大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	内容説明と導入	指導者資格について
2	指導者の在り方	指導者とは
3	バレーボールの歴史	バレーボールの生い立ちと現状の理解
4	競技規則と審判法（6/9）	競技規則の理解と審判トレーニング
5	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（1）	技術理解と戦術について
6	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（2）	練習方法と練習計画
7	グループディスカッション	コーチングについて
8	指導実習（基礎1）と救急法（1）	基礎技術の指導（パス、アタック、ブロック）と救急法実習
9	指導実習（基礎1）と救急法（2）	基礎技術の指導（サーブ、レセプション）と救急法実習
10	練習計画の立案	練習方法の理解と配分について
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
12	初心者導入法（2/4/6/9）	導入方法の理解と練習方法及び指導実習
13	フォーメーション（基礎）	フォーメーションの理解と実践
14	実技試験とレポート	総合実技テスト及びレポート
15		
16		

科目コード	40204				区 分	コア科目			
授業科目名	ハンドボールⅡ(応用)				担当者名	前田 誠一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・小・中・高等学校運動部活等でコーチングスタッフとして、基礎的な知識・技能に基づき、安全で効果的な活動を提供できる指導者を養成する講座である。受講対象者：ハンドボールⅠ及び、チームスポーツ指導理論Ⅰを取得、もしくは、履修者。安全配慮：授業開始前に履修者の体調・怪我の有無を確認。重度の怪我、軽度の怪我であっても、授業に参加できない場合には、レポート評価で対応する。事故対応：授業中の怪我等による事故が発生した場合には、学生救護を最優先とし、授業はレポート評価で対応する。

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、指導者として、チーム運営に必要な基礎知識を身につけ、実践できる。また、ハンドボール競技の成り立ちに着目した上で、基礎的技術、戦術を身につけ、選手育成指導ができる。

<授業の方法>

(1)実践指導(2)ディスカッション、ディベート(3)グループワーク(4)プレゼンテーション(5)実習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

能動的学習教養・知識・経験を養成し、トレーニング指導を実践する

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時に紹介するハンドボール指導法に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)およびディプロマポリシー2(体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度 30%、技術・戦術遂行能力・指導学習能力 20%、レポート 20% 期末試験 30%

<教科書>

<参考書>

酒巻清治(2012/9/3) 基本が身につく ハンドボール 練習メニュー 池田書店

日本ハンドボール協会(2019/7/7) 2019 NTS センタートレーニング テキスト2020 NTS センタートレーニング テキスト2021 NTS センタートレーニング テキスト2022 NTS センタートレーニング テキスト2023 NTS センタートレーニング テキスト2024 NTS センタートレーニング テキスト2025 NTS センタートレーニング テキスト 株式会社 ブライト

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容説明・スポーツインテグリティについて
2	競技の概要と戦術の展開	ハンドボールの特性に応じたコーチングの基礎理論を考える
3	チームの構造と必要となる競技力	競技力向上に応じたコーチングの基礎理論を考える
4	コーチの役割とコーチング能力の発達	基礎指導理論の考察(フィロソフィー)
5	発育発達を踏まえた一貫指導	ヨーロッパと日本の一貫指導について
6	フィジカルアビリティとコンディショニング	グループディスカッション、ディベート
7	ゲームの分析方法	グループワーク、プレゼンテーション
8	競技規則の理解と試合における判定	種目の特性に応じたコーチングの基礎理論
9	ゲーム能力を高めるトレーニング	コーチング演習、プレゼンテーションⅠ
10	個人のスキルを高めるトレーニング	コーチング演習、プレゼンテーションⅡ
11	ゴールキーパートレーニング	キーパートレーニング基礎指導法について
12	フィジカルトレーニング	コーチング演習(課題抽出とその修正)
13	目標設定とトレーニング計画の作成	コーチング実習(ピリオダイゼーションの作成)
14	コーチングの実践	コーチング実習(課題抽出とその修正) コーチングの実践の振り返りとその評価
15		
16		

科目コード	3G113				区 分	コア科目			
授業科目名	ビジネス特別講義Ⅱ				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

岡山を中心に多角的に事業展開を行っている「両備グループ」の協力を得て「サステナビリティ」「ホスピタリティ」「地域活性」をキーワードに講義やフィールドワーク、グループワークを実施する。地域を支え、活気づけている両備グループの事業の裏側を学び、問題発見・問題解決の基本技法を習得し、将来の地域社会を牽引するリーダーを育成していく。

<授業の到達目標>

両備グループの企業リサーチを実施し、企業経営について学び、理解する。① 自ら社会の中に存在する課題を発見することができる。② 他人と協働しながら、課題を解決することができる。③ 企業や企業で働く人たちの考えを理解し、建設的なコミュニケーションをすることができる。④ 課題に対して、適切な改善提案ができ、他者に伝えることができる。

<授業の方法>

両備グループの企業リサーチを実施し、企業経営について学ぶ毎回10：00～17：00を基本とし、随時休憩をはさむ7月27日（月）IPU環太平洋大学第1キャンパス 講義 7月28日（火）両備グループ企業訪問、フィールドワーク7月29日（水）両備グループ企業訪問、フィールドワーク7月30日（木）IPU環太平洋大学第1キャンパス プレゼン発表、社員さんとの討議

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- ①企業情報や業種、業界の外部環境・マーケット情報などをインターネット、その業種に関する新聞記事等で事前学習を行う。
- ②講義資料、参考書を基に予習・復習を行い、講義・演習に臨む。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 20％、 課題レポート 20％、中間プレゼンテーション評価 30％、 最終プレゼンテーション評価 30％、

<教科書>

<参考書>

家田仁/小嶋光信（2021年8月10日） 『地域モビリティの再構築』 薫風社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・ガイダンス	講義目的・内容の説明
2	オリエンテーション・ガイダンス	両備グループの企業紹介・リサーチ
3	問題を知る	公共交通に関する現状と問題課題について
4	プレゼン・企業訪問について	プレゼンの技法について学ぶ、企業訪問についての理解
5	現場を知る・フィールドワーク	フィールドワーク・リサーチの計画、実施
6	現場を知る・フィールドワーク	フィールドワーク・リサーチの計画、実施
7	現場を知る・フィールドワーク	フィールドワーク・リサーチの計画、実施
8	現場を知る・フィールドワーク	フィールドワーク・リサーチの計画、実施
9	現場を知る・フィールドワーク	企業を訪問し、視察・リサーチ・質疑の実施
10	現場を知る・フィールドワーク	企業を訪問し、視察・リサーチ・質疑の実施
11	現場を知る・フィールドワーク	企業を訪問し、視察・リサーチ・質疑の実施
12	現場を知る・フィールドワーク	企業を訪問し、視察・リサーチ・質疑の実施
13	グループワーク・プレゼン・社員座談会	プレゼン資料の作成、発表、社員との討議
14	グループワーク・プレゼン・社員座談会	プレゼン資料の作成、発表、社員との討議
15		
16		

科目コード	3G410				区 分	コア科目			
授業 科目名	ブランド戦略論				担当者名	扇野 睦巳			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、「ブランドとは何か」から始まり、ブランドが企業戦略に果たす役割、ブランド価値の構築と維持、ブランドマネジメントの実務的な手法について学びます。マーケティングの基礎を踏まえ、より実践的・戦略的な視点でブランドを捉える力を養います。受講生の習熟度等によって内容を変更することがあります。

<授業の到達目標>

① 理念駆動型思考「なぜやるのか」を言語化できる② 実践知の獲得行動→失敗→改善のサイクルを回せる③ 社会価値創出力他者に価値を提供できる商品・サービスを作る④ 非認知能力の向上主体性・やり抜く力・協働力・レジリエンス⑤ ウェルビーイングの実感「やりきった」「貢献できた」という内的充足

<授業の方法>

●講義＋グループワーク＋フィールドワーク＋アクティブラーニングを併用し、知識と実践力の両方を身につけます●毎回の授業では身近なブランドの事例を取り上げ、学生の意見を引き出しながら進めます●事前準備として資料やブランド情報のリサーチを指示することがあります●事後課題（簡単なレポート・ワークシート）を不定期で実施します●プレゼンテーションを実施します●ゲストスピーカーをお招きします

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

① プロジェクト型学習（PBL）学生はチームを編成し、ブランドの理念設計から商品・サービスの企画、試作、プロモーション、販売までを一貫して行う。実社会での価値創出を目的とした課題解決型学習を行う。② グループワーク・協働学習各回においてディスカッションや共同作業を実施し、意見交換や役割分担を通じて協働的に課題に取り組む。これにより主体性や対人関係能力を育成する。③ フィールドワーク・調査活動市場観察、顧客インタビュー、SNS分析などを行い、実社会から課題やニーズを発見する活動を取り入れる。④ プレゼンター

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習（約1時間）】各回のテーマに応じて、以下のいずれか、または複数を実施する。●指定された資料・動画等を閲覧し、授業内容の概要を把握する●自身の消費体験や身近なブランドについて観察・記録する●フィールドワーク（店舗・SNS・街中観察等）を行い、気づきを整理する●チーム課題（アイデア出し、ペルソナ設定、コンセプト案作成等）を事前に準備する【復習（約1時間）】授業での活動を踏まえ、以下を実施する。●グループワークやフィードバック内容を整理し、改善点を明確にする●商品・サービス企画のブラッシュアップ（アイデア

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学のディプロマ・ポリシーに掲げる以下の能力の修得に寄与する科目である。【DP①：知識・技能の修得】ブランド戦略に関する基礎理論（顧客理解、価値創造、マーケティング思考等）を学び、商品・サービス開発の実践に適用することで、専門的知識と技能の修得を図る。【DP②：思考力・判断力・表現力】市場調査や顧客分析を通じて課題を発見し、チームで議論しながら解決策を導くプロセスを通じて、論理的思考力および意思決定力を養う。また、プレゼンテーションやプロモーション活動により、自らの考えを分かりやすく伝える表現力

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【評価配分】プロジェクト成果（商品・サービスの完成度・社会的価値）.....40％プロセス評価（取り組み姿勢・試行錯誤・改善行動）.....30％チームへの貢献度（協働性・役割遂行）.....20％リフレクション（振り返りレポート）.....10％【評価方法の特徴】最終成果だけでなく、挑戦・失敗・改善のプロセスを重視する。個人評価とチーム評価を組み合わせ、多面的に評価する。ピア評価（学生同士の相互評価）を導入し、主体的な学びを促す。

<教科書>

田中 洋（2019/09/03） ブランド・マネージャー資格試験公式テキスト 中央経済社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	キックオフ	ブランドとは何か？
2	理念設計	「誰のために何を変えたいか」を言語化します。
3	市場調査 ※対面授業無し	フィールドワーク（観察・インタビュー）を実施します。
4	オンデマンド ※対面授業無し	後日指示します。
5	STPマーケティング	ターゲットを明確にし差別化します。
6	ブランド・アイデンティティ	1行でブランドを定義します。
7	中間ピッチ	フィードバックを受け、プランを改善します。

8	試作①	プロトタイプを制作します。
9	試作②・検証	テストマーケティングを実施します。
10	チームビルディング再設計	衝突・葛藤の言語化
11	やり抜く力	最後の改善・意思決定を行います。
12	販売戦略	SNS・POP・導線設計を行います。
13	実販売・最終発表	売る・伝える・評価されることを体験します。
14	実販売・最終発表	「自分は何が変わったか」を深掘りします。
15		
16		

科目コード	3F303				区 分	コア科目			
授業科目名	リハビリテーション医学 I				担当者名	片岡 昌樹／古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、現場で実施されるリハビリテーションについて、評価・実践・再評価・修正実践のサイクルを基本に学習する。加えて、関連職種およびその役割、連携についてリハビリテーション医学に関係した社会福祉について学ぶ。リハビリテーション医学分野における柔道整復師の役割についても概説する。

<授業の到達目標>

リハビリテーション医学分野における基礎的な知識、特に1) リハビリテーションの理念や概念、2) リハビリテーションで用いられる評価や診断、3) リハビリテーションに関わる障害と治療、4) リハビリテーション医学をとりまく関連職種、などについて理解できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

視聴覚教材、配布資料等を適宜用い、教科書に沿って授業を進行する。課題の提示、提出等はGoogle Classroom等で行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習において双方向で理解度を確認する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

学習時の疑問についてはその都度質問するようにすること。本講義において、機能解剖、運動学、疾患における測定評価、治療に関する理解が必要である。したがって、教科書や配布資料（事前に配布する）、ノートなどを活用して各回当該箇所の基本的事項、他の授業で学んだ関連部分の予習および復習を各60分以上行い、理解を深めること。事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP3 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 60%、定期試験40%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会（監修），栢森良二（編）（2019年4月10日） リハビリテーション医学 改定第4版 南江堂

<参考書>

指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	リハビリテーションの理念（教科書第1章）	ア. 語源 イ. 成立過程（古山喜一）
2	リハビリテーション障害学（1）（教科書第5章）	ア. 障害の評価 イ. 関節拘縮 ウ. 関節の変形 エ. 筋萎縮（古山喜一）
3	リハビリテーションの対象と障害者の実態（教科書第2章）	ア. 医学的リハビリテーションの対象 イ. リハビリテーション医学の対象 ウ. 障害児（者）の実態 エ. 身体障害児（者）の内訳（古山喜一）
4	障害者の階層とアプローチ（1）（教科書第3章）	ア. ICDとICIDH イ. ICIDHとICF ウ. ICFの構成要素の定義 エ. WHODAS2.0（古山喜一）
5	リハビリテーション障害学（2）（教科書第5章）	オ. 神経麻痺 カ. 痙縮 ①失語症の定義 ②失認症の定義 ③失行症の定義 ④脳外傷による高次機能障害（古山喜一）
6	障害者の階層とアプローチ（2）（教科書第3章）	オ. 障害へのアプローチ カ. 病気と障害の相違（片岡昌樹）
7	リハビリテーション医学の関連職種（教科書第6章）	A) 医師 B) 理学療法士 C) 作業療法士 D) 看護師 E) 言語聴覚士 F) 臨床心理士 G) 医療ソーシャルワーカー（古山喜一）
8	リハビリテーション医学の評価と診断（1）（教科書第4章）	D) ADLの評価 E) 心理的評価 F) 認知症の評価（古山喜一）
9	リハビリテーション医学の評価と診断（2）（教科書第4章）	G) 電気生理学的検査 H) 画像診断 I) 運動失調（片岡昌樹）
10	リハビリテーション治療学（1）（教科書第5章）	ア. 障害の受容 イ. 廃用症候群 ウ. 関節拘縮 エ. リンパ浮腫 オ. 筋力強化 カ. 中枢性麻痺と痙縮（片岡昌樹）
11	リハビリテーション治療技術（理学療法）（教科書第7章）	ア. 対象 イ. 理学療法の進め方 ウ. 理学療法の実践（片岡昌樹）

12	リハビリテーション治療技術（作業療法） （教科書第7章）	ア. 対象 イ. 作業療法の進め方 ウ. 作業療法の実際（古山喜一）
13	リハビリテーション治療技術（補装具） （教科書第7章）	ア. 装具 イ. 義肢 ウ. 歩行補助具 エ. 車イス オ. 自助具（古山喜一）
14	リハビリテーション治療学（2）（教科書 第5章）	キ. 慢性疼痛 ク. バイオフィードバック ケ. 歩行練習 コ. 全身運動 サ. レクリエーシ ョン治療（片岡昌樹）
15		
16		

科目コード	61005				区 分	コア科目			
授業科目名	運動障害と予防および救急処置 [資格取得希望者]				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

運動は、健康維持や増進に非常に貢献するが、その一方でそれ自身危険を伴う行為でもある。運動を景気に障害の発生する場合がある。障害の発生機序を理解し、その予防を合わせて勉強する。

<授業の到達目標>

本講義は後の科目（スポーツ健康論など）の役に立つ講義を目指す。

<授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて解説する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回授業内容の準備（1時間程度）、振り返りレポートの提出（2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

振り返りレポート10%、定期試験90%

<教科書>

「健康運動指導士養成講習会テキスト」 財団法人健康・体力づくり財団

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	序論	総論。障害とは、適応との違いとは
2	外科的障害（1）	上肢（上肢帯、上腕、肘、前腕、手）の障害
3	外科的障害（2）	下肢（下肢帯、大腿、膝、下腿、足）の障害
4	外科的障害（3）	脊髄の障害
5	外科的障害の予防	外科的外傷の予防法
6	外科的障害の治療（1）	外科的救急処置について（全身管理と局所管理）
7	外科的障害の治療（2）、小テスト	実習：外科救急処置の実習（状態把握、冷却）、小テスト
8	外科的障害の治療（3）	実習：外科的救急処置の実習（固定法、テーピング）
9	内科的障害（1）	内科的急性障害（突然死、熱中症）などの疫学、成因、病因、病態生理
10	内科的障害（2）	内科的慢性障害（貧血、オーバートレーニング症候群など）の疫学、成因、病因、病態生理
11	内科的障害の予防	内科的障害の予防法
12	内科的障害の治療（1）	救急蘇生法について、状態把握、胸痛の分類
13	内科的障害の治療（2）	実習：熱中症、過換気症候群の救急処置
14	内科的障害の治療（3）、特殊環境下における運動障害と予防	実習：救急蘇生法、AED、CRP、高山病、潜水病、寒冷地での低体温について
15		
16		

科目コード	21306				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	英語科教育法Ⅲ(発展)				担当者名	竹下 厚志／伊藤 仁美			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、教育実習を翌年に控えた学生を対象に、PPP (Presentation, Practice, Production) の枠組みを用いた模擬授業と、ALACTモデルや8つの問いに基づく深い省察を通じて「実践的指導力」の基礎を確立することをねらいとする。受講者は3人1組のTT (チームティーチング) 体制を組み、学期を通じて2回の模擬授業を行う。授業内では、模擬授業の実施と、観察事実や感情の波に基づくリフレクション・セッションを集中して行う。授業外では、録画された自身の授業映像を確認しながら、「指導案をど

<授業の到達目標>

(1) PPPの枠組みを理解し、TT (チームティーチング) で各フェーズのつながりのある10分間の模擬授業を遂行できる。(2) 「ALACTモデル」、「8つの問い」、および「感情の波」や「事実」の分析を用い、指導上の本質的な原因を特定した上で、自らの指導案を具体的に修正・アップデートできる。(3) 他者の実践に対し、評価ではなく「事実」に基づいた建設的なフィードバックを行い、学び合う姿勢が身についている。

<授業の方法>

合計100分 (1) 模擬授業 (A)・(B)：各15分×2組 (計30分) (2) 振り返りセッション (A)・(B)：各30分×2組 (計60分) (3) 各自の模擬授業動画を視聴し、指導案の赤字修正とポートフォリオを記入する (10分)

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。模擬授業 ディスカッション グループワーク

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習 (1時間程度)、模擬授業の準備 (2時間程度) 復習：英語トレーニング (毎日2時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3 (初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)およびディプロマポリシー5 (初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

模擬授業の実践と指導案の改善 (50%)、ポートフォリオ (30%)、授業への貢献度 (20%)

<教科書>

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、模擬授業の運営方法、リフレクションとポートフォリオについて
2	PPPとTTの設計	PPPの構成、チームティーチングについて
3	模擬授業の準備 (1)	マイクロ・チームティーチングに向けて指導案 (本時) 作成と準備練習 1
4	模擬授業の準備 (2)	マイクロ・チームティーチングに向けて指導案 (本時) 作成と準備練習 2
5	模擬授業 (1-1)	マイクロ・チームティーチング 1
6	模擬授業 (1-2)	マイクロ・チームティーチング 2
7	模擬授業 (1-3)	マイクロ・チームティーチング 3
8	模擬授業 (1-4)	マイクロ・チームティーチング 4
9	予備枠・中間リフレクション	共通の課題の提示、2回目の模擬授業に向けた目標設定
10	模擬授業 (2-1)	マイクロ・チームティーチング 5
11	模擬授業 (2-2)	マイクロ・チームティーチング 6
12	模擬授業 (2-3)	マイクロ・チームティーチング 7
13	模擬授業 (2-4)	マイクロ・チームティーチング 8
14	まとめ	全体総括、ポートフォリオの完成
15		
16		

科目コード	32306				区 分	コア科目			
授業科目名	家庭科教育法 [週間オンデマンド+対面]				担当者名	宮崎 友美			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

家庭科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた題材や授業構想について理解するとともに、指導案の作成と模擬授業の実施を通して、家庭科の指導を行うための知識、技能、態度などを身に付ける。具体的には教材観、児童観、教材の系統観、指導観について理解し、学習指導要領で求められている適切な題材の設定ができる力を養い、児童の学習活動や教師の支援について具体的な計画を立て、教師としての資質を高め、自らの立てた指導案がより適切であったかについて探求し、模擬授業におけるPDCAを実施する。

<授業の到達目標>

母校の小学校の教育目標や目指す子供像を参考に、仮想の教育目標や目指す子供像を設定して3つの題材目標「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」を定め、題材全体の指導を通してどのような子供を育成したいのか、子供たちにどんな力を付けてやりたいかを考えて指導案を書くことができる。そして、その指導案で模擬授業を行い、模擬授業についてフィードバックし、考察と改善が図れる。

<授業の方法>

オンデマンド配信においては、パワーポイントを使って年間指導計画や題材指導計画、家庭科学習指導案の書き方、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」などの内容について教授する。その後、夏季集中講義において、模擬授業を実施する。ディスカッションやグループワーク等、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有 グループワーク、ディスカッション○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて1単位時間の授業で大切にしたいこと・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善には、「題材など内容や時間のまとまりを見直す」ことが大切である。また、「主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全て実現されるものではない」とあるように、1単位時間ごとの授業実践を積み重ね、子供の学びの姿を丁寧に捉えていくことで、子供が自分の成長を自覚し、実践する喜びへとつながっていくようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

個人で作成した家庭科学習指導案をグループで共有し、グループでよりよい指導案を1つ考える。指導案が完成したら、それを基にグループでしっかり話し合い、必要な教材・教具を作って模擬授業の練習を行ったり、使用するワークシートや振り返りカードを作ったりする。（必要な時間は、グループにより異なる。）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬授業20%、定期試験（レポートを含む）80%とし、模擬授業ごとに、授業後すぐに指導案や授業態度、板書の仕方、発問等について振り返りコメントを行う。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	現行の学習指導要領の具体的な内容について	・学習指導要領における家庭科の目標・内容
2	家庭科教育の歴史と現在	・家庭科教育の歴史的変遷・現代の家庭科教育の在り方
3	「A 家族・家庭生活」領域の内容理解	・家庭生活と仕事について教材研究
4	「B 衣食住の生活」領域の内容理解	・食生活分野について教材研究
5	「B 衣食住の生活」領域の内容理解	・衣生活・住生活分野の教材研究
6	「C 消費生活・環境」領域の内容理解	・環境に配慮した生活について教材研究
7	家庭科の授業設計について	・家庭科の年間指導計画・授業単元構想
8	家庭科の学習指導案の書き方と評価について	・学習指導案の構成と指導上の留意点・学習評価の目的と方法
9	学習指導案の作成の仕方（導入～展開）	・学習指導案の作成方法・学習指導案の作成
10	学習指導案の作成の仕方（展開～まとめ）	・学習指導案の作成方法・学習指導案の作成
11	模擬授業について話し合い	・グループに分かれて模擬授業について話し合い
12	模擬授業と授業観察・討議	・グループに分かれて模擬授業を実施
13	模擬授業と授業観察・討議	・グループに分かれて模擬授業を実施

14	模擬授業を通してのまとめ	・作成した指導案の見直し及び加筆・修正・振り返り
15		
16		

科目コード	36302				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	解剖・生理学実習 I				担当者名	平林 大輔／坂本 賢広			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

解剖学および生理学の特に柔道整復師業務に関連する分野を中心として構成し授業展開する。将来、医療の一端を担う柔道整復師は人体の正常な構造、位置、形を理解する事は重要である。また、健康なヒトのからだのしくみとはたらきを理解するため、安静時と運動時の生理学的評価を行い、教科書の平面的な記載と実際とをよく見比べ、解剖・生理学実習を行う。解剖・生理学実習を行うことにより、医療関係者としての心得を把握し、将来の生命倫理の基礎をつくる。

<授業の到達目標>

人体の正常な構造、位置、形を三次元的に把握し、実習を通して解剖学、生理学、運動学の講義で習った身体構造と機能を理解し、表現できるようになることを目標とする。

<授業の方法>

各授業では、テーマに沿って予習、実習、復習などを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）5、6人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、60分程度）復習：授業内容の確認・復習の実施（毎回、60分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート 70% 学習意欲 30%

<教科書>

<参考書>

監訳 坂井 建雄／松村 譲児 発行 2013年03月 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第2版 医学書院
公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修岸 清・石塚 寛 編 解剖学 改訂第2版 医歯薬出版株式会社
Scott K. Powers Edward T. Howley 著日本語版監修 内藤久士 柳谷登志雄 小林裕幸 高澤祐治 パワーズ運動生理学 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	人体の構造の理解1	人体の構造と機能について
2	人体の構造の理解2	人体の構造と機能を解剖学の視点から復習する
3	人体の構造の理解3	人体の構造と機能を生理学の視点から復習する
4	各部位の把握（上肢）	上肢の骨・筋・神経の位置および機能について
5	各部位の把握（下肢）	下肢の骨・筋・神経の位置および機能について
6	各部位の把握（体幹）	体幹の骨・筋・神経の位置および機能について
7	各部位の把握（頭頸部）	頭頸部の骨・筋・神経の位置および機能について
8	心臓の構造と機能1	刺激伝導系の復習と安静時心拍数の測定について
9	心臓の構造と機能2	刺激伝導系の復習と運動時心拍数の測定について
10	エネルギー供給系について1	安静時の乳酸測定について
11	エネルギー供給系について2	運動時の乳酸測定について
12	酸素摂取量について1	酸素摂取量の測定方法について
13	酸素摂取量について2	呼気ガス分析機器と運動負荷試験について
14	総復習	まとめ
15		
16		

科目コード	3G111				区 分	コア科目			
授業科目名	企業経営実践論Ⅱ				担当者名	齊藤 直人			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、県内のトップ企業の経営者(ゲスト経営者)の方々から直接学ぶことで、今までの大学での学びと、実際の企業で必要な知識をつなげ、将来、社会人、企業人として、必要な知識を習得することです。外部環境の変化が厳しい中、企業は実際、どのような経営を行っているのか？経営者はどのように考え、経営を行っているか。将来、企業に就職して、仕事で活躍するには、どのようなスキルが求められるのか、など、経営者の話を直接、話を聞き、経営者へ質問をすることで、自分が社会に出た後に必要な力がどのようなものかイメージしやすくなる

<授業の到達目標>

様々な業界から招聘するゲスト経営者から、受講生が直に学ぶことで、以下の3つを目標とする。1)「企業」とは何か、を理解し、説明できる2)ゲスト経営者の業界における現状(業界、業種、課題、将来性)を理解し、説明できる3)将来、社会人として企業に関わる人材となる意志を語り、論述できる

<授業の方法>

企業・組織の経営者を迎え、毎回テーマに応じた講義とディスカッション、グループワーク、課題発表等を実施します。卒業後の進路に役立つよう、受講生の声を拾い上げ、双方向のやり取りができる授業内容です。ゲスト経営者との自由な討議・質疑応答にも重点的に取り組むことで、受講生自身の実践体験が得られます。※後期の「ビジネス特別講義Ⅰ」を履修すると、経営・企業・組織を、より立体的に把握でき、学びの成果が高まるため、合わせての履修を勧めます。(「ビジネス特別講義Ⅰ」を履修しなくても、本科目は履修可能です)

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有(授業時間中に、ゲスト経営者・担当教員とのディスカッション、受講生同士でのグループワークと、企業経営実践の主旨に沿ったプレゼンテーション実習を行う)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：質疑応答に向けた準備(30分程度) ※質問したいことを準備する。復習：レポート課題と、ゲスト経営者からの学びを元に取り組む実践課題(30～1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、実践レポート課題 30%、貢献度 15%、期末レポート 25%※定期試験なし※基本的には、すべての授業に出席し、レポート提出、授業主旨に合った取り組みをしていること。※「実践」の名が付く講座である特性上、受講生が自分自身で気づき、行動することが実践につながると考えています。そのため、成績評価全体の考え方は、講義で学んだ内容を、自分の実践と照らし合わせて、レポートを書くか、プレゼンテーションをするか、学びを行動にどうつなげていくかに焦点を当てて評価を行います。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	企業経営実践論Ⅱの考え方、授業の進め方、登壇予定のゲスト経営者紹介 など
2	企業経営実践論Ⅱ 序論	企業とは？経営とは？実践とは？など
3	プレゼンテーション	プレゼンテーション＝発表？、経営とプレゼンテーションの関係、実習 など
4	リアル経営者からより深く学ぶために	私の学習課題は？ 講義で聞く視点と質問の整理、関心のある企業像や経営像 など ※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
5	ゲスト経営者による講義①とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
6	ゲスト経営者による講義②とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
7	ゲスト経営者による講義③とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
8	ゲスト経営者による講義④とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 など

9	ゲスト経営者による講義⑤とまとめ講義	の展開を予定。 ※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
10	ゲスト経営者による講義⑥とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
11	ゲスト経営者による講義⑦とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
12	ゲスト経営者による講義⑧とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
13	ゲスト経営者による講義⑨とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
14	ゲスト経営者による講義⑩とまとめ講義	※ゲスト経営者は、様々な切り口から全10名を各業界から選定・招聘予定。※ゲスト講義を中心に、教員のファシリテートによる対談、受講生からの質疑応答 などの展開を予定。
15	全体まとめ	実習、全体討議、より良い進路を選択するために学びを生かす など
16		

科目コード	21402				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅲ [FC]				担当者名	高崎 展好／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

器楽演習Ⅰ・Ⅱで習得した音楽基礎知識、ピアノ基礎技術と弾き歌いの内容を発展・強化することを目的とする。保育教育者に必要とされるピアノ演奏技術（弾き歌いを含む）と表現力を養うため、発声指導、ソルフェージュ、合唱を取り入れたレッスンをおこなう。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の採用試験に向け、必要なピアノ基礎技術と演奏表現力を身につけることを目指す。子どもたちや、人前で演奏することに慣れるため授業終了後に発表会を実施する。※保育実習、幼稚園教育実習履修者は、履修していることが望ましい。

<授業の到達目標>

・ピアノ奏法および弾き歌いに関する基礎的・発展的な知識と技術を身につけ、楽曲を適切に演奏することができる。・弾き歌いを通して、音楽的表現を工夫し、自己の意図をもって表現することができる。・保育・教育現場を想定し、子どもに対して分かりやすく音楽指導を行うことができる。・採用試験を見据えた演奏レパートリーを習得し、複数の楽曲を安定して演奏することができる。・公開試験（発表会）において、人前で自信をもって演奏することができる。

<授業の方法>

グループレッスンと個人レッスンの併用で行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

主にピアノ技能習得、歌唱指導による演習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノ演奏技術を身に付けるためには、毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。授業は予習を前提として行うものとする。次週課題（事前予告）の予習 50分以上、これまでに学習した課題の復習 50分以上※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。※自宅にピアノがない場合は、貸出用キーボードもあるので活用してください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の意欲・態度 20%、ピアノ弾き歌い課題（10曲）20%、バイエル教則本課題（5曲）10%、実技試験 50%（中間20%、期末30%）※15回授業終了後にピアノ演奏発表会を実施。発表会参加を以って単位認定とする。

<教科書>

高崎展好編著（2025年10月発行） わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた 環太平洋大学

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションレッスン1	授業概要と課題の説明発声指導、歌唱指導ピアノ弾き歌い課題曲「とけいのうた」「おはよう」バイエルNo. 44
2	レッスン2	発声指導、歌唱指導前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「お花がわらった」「おべんとう」ピアノ課題曲「バイエルNo. 52」
3	レッスン3	発声指導、歌唱指導、読譜法※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「たなばたさま」ピアノ課題曲「バイエルNo. 55」
4	レッスン4	発声指導、歌唱指導、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「めだかのがっこう」「おかたづけ」ピアノ課題曲「バイエルNo. 59」
5	レッスン5	発声指導、歌唱指導、読譜法※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「おつかいありさん」ピアノ課題曲「バイエルNo. 78（前半）」
6	レッスン6	発声指導、歌唱指導、読譜法※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「あわてんぼうのサンタクロース」ピアノ課題曲「バイエルNo. 78（後半）」
7	実技確認テスト（中間）	レッスン1～6までのピアノ弾き歌い課題2曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
8	レッスン8	発声指導、歌唱指導、読譜法ピアノ弾き歌い課題曲「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」ピアノ課題曲「バイエルNo. 86（連弾）」
9	レッスン9	発声指導、歌唱指導※前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「ふしぎなポケッ

10	レッスン１０	ト」ピアノ課題曲「バイエルNo.86（連弾）テンポアップ」 発声指導、歌唱指導（合唱）、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「ミッキーマウス・マーチ」ピアノ課題曲「バイエルNo.88」
11	レッスン１１	発声指導、歌唱指導（合唱）、読譜法前時弾き歌い課題発表ピアノ弾き歌い課題曲「さんぽ」ピアノ課題曲「バイエルNo.90」
12	レッスン１２	発声指導、歌唱指導（合唱）、読譜法前時弾き歌い課題発表発表会、試験に向けた個人指導①
13	レッスン１３	発表会、試験に向けた個人指導②
14	まとめ、実技確認テスト（期末）	レッスン8～11までのピアノ弾き歌い課題3曲（自由選択）による確認（期末）テスト（模擬保育形式）
15	発表会への参加※実施日程については別途連絡	ピアノ学習の集大成としてピアノ発表会へ参加する。履修者及び、その他聴衆の前でピアノ作品の演奏を行う。
16		

科目コード	27306				区 分	コア科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅴ(保存療法)				担当者名	實戸 崇史			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

軟部組織損傷は、柔道整復の臨床においてもっとも多い損傷といえる。近年、画像診断機器の発達により、軟部組織の病的状態を可視化することが可能になってきている。解像度や分解能が高まったことから、これまで触診・視診に頼っていたが、客観的定量的に示せるようになってきている。このような医療の現状に追従した軟部組織治療学を組織学的視点から学ぶ。

<授業の到達目標>

柔道整復学の軟部組織損傷に関する基礎の理解および運動時における損傷の発生機序を理解し、超音波画像の特性、取り扱い方を学び、描写される画像を説明できるようになることを目標とする。物理療法に関する基礎の理解と損傷部の治癒機序に対する原理・原則を理解し、説明できる様になることを目標とする。

<授業の方法>

講義形式を基本とし、グループワーク、ディスカッション形態で実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本講義では、事前課題として各部位の解剖学、運動学、運動器疾患の各論に対して学びを深め、講義中は、その具体的な構造について、エコー画像診断装置を用いた画像確認を各グループに分かれて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

この科目は健康科学科のディプロマポリシー5（科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付ける。）と関連付けられています。柔道整復師として必要な知識を身に付け、最新医療の状況を把握し広い視野で物事を考えられる知識の習得を目指す。特に予習が重要である。超音波画像実習で観察する身体部位別に長軸像、短軸像でみられる画像を3次元に置き換えて理解できるように、事前に学習項目の身体部位の形態について予習が必要である。（1時間程度） また、実習後には、プリントに記された実習内容に関する

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験40％、中間試験20％、事前学習40％

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 「柔道整復学・理論編」 南江堂
公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修 施術の適応と医用画像の理解 南江堂

<参考書>

臨床スポーツ医学編集委員会 予防としてのスポーツ医学 文光堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、成績評価の説明
2	超音波画像の理解①	エコーの仕組みとアーチファクトを理解できる。
3	超音波画像の理解②	ランドマークと画像の調整法を理解できる。
4	超音波画像の理解③	手部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
5	超音波画像の理解④	肘部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
6	超音波画像の理解⑤	肩部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
7	超音波画像の理解⑥	足部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
8	超音波画像の理解⑦	膝部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
9	超音波画像の理解⑧	大腿部の体表解剖とエコー画像の理解が出来る。
10	確認テスト	エコー画像の座学による確認テスト
11	物理療法の理解①	電気療法について理解できる。
12	物理療法の理解②	温熱療法に対して理解できる。
13	物理療法の理解③	温熱療法②について理解できる。
14	物理療法の実際④	最新の物療機器の考え方。寒冷療法について理解できる。
15		
16		

科目コード	36608				区 分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツバイオメカニクス演習A (動作分析)				担当者名	秦 啓一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

身体運動の成り立ちを理解することで理想とする身体運動を真に再現可能となる。スポーツにおける課題解決のため、スポーツ科学分野における先端的な測定機器を活用し、スポーツバイオメカニクスに関する実践的な演習を行う。なお、演習では精密機器を扱うため履修人数の制限を設ける。この場合、2年次開講のスポーツバイオメカニクスの単位取得者の学生を優先し、その中から抽選方式により受け入れることとする。

<授業の到達目標>

本授業では、以下の二つの到達目標の達成を目指す。一つ目に、身体動作の測定データから自身の運動を理解することができること。二つ目に、測定および分析した結果を理解したうえで、様々な競技スポーツの場面で活用することのできる能力を身につけること。

<授業の方法>

対面での講義および演習を行う。演習ではバイオメカニクス分野で用いられる専門機器を使用し、得られたデータを分析する。講義では、スポーツバイオメカニクス分野で利用される専門機器や分析ツールを使用し、測定および分析の演習を行う。グループワークを通じて、測定内容や方法についてディスカッションを行い、課題作成に取り組む。データ管理はクラウド上で行い、実践的なデータ活用スキルの習得を目指す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り各テーマでグループを作り、測定と分析を行ったデータを発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- 1) 次週の授業テーマに関して、各自で予習を行い、各自が得意とする運動とのバイオメカニクスの関わりを考えること（30分）。
- 2) 授業内容と関連する他基礎科目（スポーツバイオメカニクス、コンピューターリテラシーなど）の復習を行うこと（30分）。
- 3) 授業内容で学んだ内容を各自が得意とする運動に応用し、実践すること（30分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への取組態度（10％）、実習課題の提出状況（40％）、および実習課題の評価点（50％）から総合的に評価する。

<教科書>

なし

<参考書>

深代千之ほか編著 スポーツ動作の科学ーバイオメカニクスで読み解くー 東京大学出版会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	単位取得上の諸注意、授業展開の概要を説明する。また、スポーツバイオメカニクスに関する知識を深めることがスポーツ科学の学習と実践においてどのような意義を有しているかを説明し、今後の講義に対する動機づけを行う。
2	走りの連続写真とスティックピクチャⅠ	ランニング中の身体動作をビデオカメラを用いてハイスピード動画を撮影し、得られた映像から連続写真およびスティックピクチャを作成する。
3	走りの連続写真とスティックピクチャⅡ	前回の授業で作成した連続写真からスティックピクチャを作成する。他者または例として提示するトップアスリートの動作と比較し、動作の違いや改善点を示す。
4	跳躍成績と地面反力との関係Ⅰ	ジャンプマットを用いてカウンタームーブメントジャンプおよびスクワットジャンプの跳躍高を測定する。また、床反力計を用いて運動中の地面反力を測定する。
5	跳躍成績と地面反力との関係Ⅱ	前回の授業で取得した跳躍高および地面反力のデータを分析し、身体に加わる力から身体運動の成績を解釈する。
6	筋厚と等尺性力発揮との関係Ⅰ	超音波画像診断装置を用いて、筋厚を測定する。また、等尺性の膝伸展筋力を後にゴニオメーターを用いて測定する。
7	筋厚と等尺性力発揮の関係Ⅱ	前回の授業で取得した筋厚と膝伸展筋力との関係を検討し、力発揮に対する筋の大きさや構造的因子の重要性を考える。
8	三次元動作解析による身体運動の定量評価	三次元動作解析システムを用いて様々な運動の身体動作の測定と分析を行う。

9	価値Ⅰ 三次元動作解析による身体運動の定量評価Ⅱ	前回の授業で取得した動作解析のデータを活用し、特定の身体運動に重要な運動学または運動力学の変数を探索する。
10	価値Ⅱ 三次元動作解析による身体運動の定量評価Ⅲ	前回の授業で取得した動作解析のデータを活用し、特定の運動における熟練者との比較を行う。
11	プロジェクト研究Ⅰ	これまでの授業で習得したバイオメカニクスの方法論を活用し、グループごとに個別の測定内容を考案する。測定における仮説検証を達成するための具体的な内容を設定する。
12	プロジェクト研究Ⅱ	各グループで設定した測定を実施し、測定と分析を行う。
13	プロジェクト研究Ⅲ	各グループで設定した測定を実施し、測定と分析を行う。また、得られた結果をまとめ、発表の準備を行う。
14	プロジェクト研究Ⅳ	各グループで得られた結果をまとめ、最終発表を行う。
15		
16		

科目コード	36605				区 分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツ栄養学演習B(競技力向上)				担当者名	保科 圭汰			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ栄養学の知識を基にアスリートがパフォーマンスを発揮するための戦略的な栄養補給の手法を習得する。食事調査、食事記録の手法を理解し、自身の食事を記録および分析するとともに身体組成の測定データや期分け等に応じた栄養補給計画を立案・実践するなど、競技力向上に必要なスキルについて学ぶ。

<授業の到達目標>

競技力向上に向けた課題を抽出し、その課題を解決するための戦略的な栄養補給を実践できるようになる。スポーツ現場において用いられる食事記録や競技力向上と関連する指標を活用し、自身の食生活を正確に管理ができるようになる。また、献立の立案について学び、自身の競技力向上のみならず、指導者としての知識・スキルを身につけることを目標とする。

<授業の方法>

演習として授業テーマに基づいたグループワーク等を行う。また、パソコンを用いて食事の分析やプレゼンテーションを実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素 有3、4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめ、グループごとに発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：各テーマに関して、教科書および参考となるWebサイトなどに目を通し、予備知識を得ておく。（1時間程度）復習：授業内で配布した資料は必ず目を通し、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べる。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題点（レポート課題、意見交換、小テスト） 60%、最終課題 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	競技力向上に向けた目標および栄養補給計画の設定	自身の課題抽出と目標および計画を設定する
2	食事調査、食事記録の方法①	食事調査の意義と方法
3	食事調査、食事記録の方法②	食事記録の意義と方法
4	身体組成の測定方法	身体組成測定の意義と方法
5	食事記録①	食事記録の実践
6	食事記録②	食事記録の実践
7	期分けと栄養補給①	試合期における栄養補給計画の作成①
8	期分けと栄養補給②	試合期における栄養補給計画の作成②
9	食事記録③	食事記録の実践
10	食事記録④	食事記録の実践
11	身体作りと栄養補給①	体重管理に向けた栄養補給計画の作成①
12	身体作りと栄養補給②	体重管理に向けた栄養補給計画の作成②
13	食事記録、コンディション記録のまとめ①	食事記録、コンディション記録の分析およびプレゼン
14	食事記録、コンディション記録のまとめ②	食事記録、コンディション記録の分析およびプレゼン
15		
16		

科目コード	36607				区 分	コア科目			
授業科目名	競技スポーツ心理学演習B (メンタルトレーニング)				担当者名	佐々木 史之			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、競技力の向上や本番での実力発揮を目的としたメンタルトレーニングの諸技法を、体験的・実践的に習得します。具体的には、目標設定、リラクセーション、サイキングアップ、イメージトレーニング、ルーティン構築などの主要スキルを取り上げ、それらが身体や心理面に与える影響を自己検証します。さらに、指導者や支援者の視点から、個々の選手やチームに合わせたプログラム立案の方法を学び、スポーツ現場で活用可能な実践力を養います。

<授業の到達目標>

(1) 技法の原理理解と自己実践： 代表的なメンタルトレーニング技法（目標設定、リラクセーション、イメージ、ルーティン等）の理論的背景を理解し、自身の競技生活や日常生活において、状況に応じた適切な技法を自律的に選択・実践できる。(2) 自己調整能力（セルフ・レギュレーション）の向上： 自身の心理的コンディション（緊張、集中、意欲など）を客観的にモニタリングし、本番で実力を発揮するために必要な心理的準備状態を自ら作り出すことができる。(3) 基礎的な指導・支援スキルの修得： メンタルスキルの導入手順や留意点を理解

<授業の方法>

(1) 授業の進め方：体験とリフレクションのサイクル 本演習は、「理論の理解 → 実技の体験 → 現場への適用 → 振り返り（リフレクション）」のサイクルを基本とします。毎時間、特定のメンタルスキル（目標設定、リラクセーション、イメージ等）を取り上げ、教員による解説のあと、その場でワークシート作成や身体技法の実習を行います。授業後半期には、指導者としての視点を養うため、学生がインストラクター役となり、他者に技法を導入・解説する「マイクロ・ティーチング（模擬指導）」を実施します。自身の体験を言葉にし、他者の反応から学ぶことで、実践的な対人支援能力を磨きます。(2) ICTの活用：モニタリングの可視化自身の心理状態やトレーニング経過の記録には、Google Formsや専用の共有スプレッドシートを活用し、データの推移をグラフ等で可視化（セルフ・モニタリング）します。また、指導演習の様子をスマートフォン等で録画し、自身のフォームや声のトーンを客観的に確認するビデオ・フィードバックを取り入れます。(3) 学習管理の方法 Google Classroomをプラットフォームとして使用します。毎回のトレーニング日誌の提出や、実習用資料の配布を一元化します。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（体験学習、ロールプレイング、ピア・フィードバック） 毎時、学んだ技法をその場で実践する体験型学習を行います。特に後半は、指導者役と選手役に分かれたロールプレイングを通じて、スキルの伝達方法や対人支援の難しさを実践的に学びます。互いの指導を録画・観察し、客観的に評価し合うピア・フィードバックを取り入れ、改善点を可視化します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：1時間】 次回扱う技法の定義をテキストで予習し、自分の競技経験の中でそのスキルが必要だと感じた場面を書き出してください。【復習：1時間】 授業で学んだ技法を、1週間毎日（短時間で可）継続して実践し、その効果や違和感を「トレーニング日誌」に記録してください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

(1) 授業への参画態度 30%、(2) 継続的实践課題 40%、(3) 指導演習・最終成果物 30% (1) 単なる出席ではなく、ワークショップへの積極的な参加、ペアワークでの傾聴・フィードバックの質、実技（リラクセーション等）への真摯な取り組みを評価します。(2) 授業で学んだ技法を日常生活や部活動で実践し、その経過を記録した「トレーニング日誌（メンタルログ）」の継続性と、自己分析の深さを評価します。(3) 授業内での「模擬指導（マイクロ・ティーチング）」のパフォーマンス、または特定の選手を想定した「メンタルサポ

<教科書>

<参考書>

日本スポーツ心理学会（2016年11月7日） スポーツメンタルトレーニング教本三訂版 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	メンタルトレーニングについての理解、全体の流れ
2	自己分析と心理的特性	心理テスト（DIPCA等）を用いた現状把握と課題抽出
3	目標設定（Goal Setting）	具体的かつ達成可能な目標（SMARTの法則）の策定
4	認知行動療法	思考やイメージに焦点を当て、認知の歪みを修正する

5	リラクセーション	漸進的筋弛緩法、呼吸法、自律訓練法による「脱力」の体得
6	サイキングアップ	緊張が低い時の覚醒レベル調整法（気合入れ・音楽活用）
7	注意のコントロール	集中力を高めるワーク、マインドフルネスの基礎
8	イメージトレーニング	五感を用いた鮮明なイメージの生成トレーニング、理想のプレーやトラブル対処のシナリオ作成
9	暗示技法	自己暗示について、暗示呼吸、暗示放尿
10	セルフ・トーク	思考の癖の修正とポジティブシンキング
11	ルーティンの構築	試合前・プレー直前の定型動作（ルーティン）の設計
12	指導実践演習(1)	技法を他者に教えるための「説明スキル」の練習
13	指導実践演習(2)	模擬カウンセリング／コーチングのロールプレイング
14	プログラム立案	特定の競技や選手を想定した年間計画の作成
15		
16		

科目コード	3G309				区 分	コア科目			
授業科目名	金融論 [週2]				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	3年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、金融の基礎理論および制度について体系的に学び、金融システムの仕組みとその役割を理解することを目的とする。あわせて、これらの知識を踏まえ、身近な金融行動も取り上げ、金融に関する理解を実生活と結びつけて考察できる力を養う。

<授業の到達目標>

本科目の到達目標は、主として以下の3点である。金融に関する基礎的な理論および制度を理解し、金融システムや金融政策の仕組みを説明できる。金融に関する諸問題を、現実の経済社会や自らの生活と関連づけて考察できる。金利や利回りなど、金融に関する基礎的な計算を行うことができる。

<授業の方法>

本科目は、教科書に基づき、パワーポイントおよび板書を用いた講義形式で行う。理解を深めるため、適宜、質疑応答を取り入れ、受講者の発言を求めるとともに、事例に関しては簡単なディスカッションを行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無し

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業に臨むにあたり、教科書の該当部分を事前に読んでおくこと（事前学習：30分程度）。授業後は、講義内容をノート等で整理し、重要なポイントを確認して理解を深めること（事後学習：30分程度）。また、日常的にニュースや新聞等を通じて金融や経済の動向に触れるとともに、身近な金融サービスや制度にも関心を持つことが望ましい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、期末試験（60%）、授業内課題・平常点（40%）により評価する。授業内課題では、講義内容に関する理解や考察に加え、基礎的な計算問題への対応を求める。

<教科書>

家森 信善（025/1/27） 金融論〈第4版〉（ベーシック+） 中央経済社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス／金融論を学ぶ意義	授業の進め方を説明するとともに、金融論の位置づけと学ぶ意義について概観する。
2	奨学金制度と教育資金	奨学金制度の仕組みを確認し、教育資金の調達と返済について考える。
3	金融とマクロ経済の関係／日本の金融貯蓄構造	マクロ経済との関係を整理し、日本における家計・企業・政府の資金の流れを理解する。
4	パーソナルファイナンスと三大支出	家計における主要な支出項目を整理し、生活設計と金融の関係を考察する。
5	貨幣の役割	貨幣の機能と役割を理解し、経済における貨幣の意義を考える。
6	クレジットカードと決済システム	クレジットカードの仕組みと決済システムの概要を理解する。
7	物価と変動要因	物価の概念とその変動要因について整理し、経済との関係を理解する。
8	金利①（単利・複利）	単利と複利の仕組みを理解し、基礎的な計算方法を学ぶ。
9	金利②（実質金利・資本の限界効率）	実質金利の考え方および投資判断に関わる基礎概念を理解する。
10	金融政策	金融政策の目的と手段を整理し、マクロ経済との関係を理解する。
11	中央銀行の機能	中央銀行の役割と機能を確認し、金融政策の実施主体としての位置づけを理解する。
12	金融機関の役割	銀行および銀行以外の金融機関の機能を整理し、金融仲介の仕組みを理解する。
13	投資の基本と資産形成	投資の基礎を理解し、資産形成の考え方および制度（NISA等）の概要を確認する。
14	金融システムの安定化と金融規制	金融システムの安定性を確保する仕組みと金融規制の役割について理解する。
15		
16		

科目コード	3G224				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	経済数学入門Ⅱ				担当者名	田鹿 紘			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

経済学系の科目の多くは数学の知識を前提としている。数学をできるだけ使わずに講義が展開される場合もあるが、厳密な議論や詳細な議論が難しくなるため、数学を学ぶ必要性は高い。計算はしなくても数学的な思考は欠かせない科目も多い。さらに、公務員試験では算数や中学数学の知識が必要な科目や経済学の計算問題が出題される。そのため、公務員試験を受験する学生にとっては数学の知識を欠かすことはできない。本講義は経済学で用いられる数学について解説を行い、問題により演習を行っていく。

<授業の到達目標>

①経済学で用いられる微分、指数、対数の問題を解くことができる。②経済学の計算問題を解くことができる。③公務員試験における経済学の参考書を一人で読み進められるようになる。

<授業の方法>

指定した教科書を用いて講義を展開する。式展開は板書していく。教科書をなぞるだけではなく、数式が持つ意味や数学にまつわる余談も交えて講義する。練習問題を解き、解説を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

問題演習におけるグループワークもしくはペアワーク等の実施

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（事前学習）教科書の該当するページをよく読み、理解できる箇所と理解できない箇所を明らかにしておくこと。必要があれば高校数学の教科書を随時参照すること。（90分）（事後学習）講義中にやった練習問題をノートを見ながら解く。ノートを見ずに解けるようになるまで何度もチャレンジする。週に複数回解きなおすこと。（60分）他の経済学系の科目の授業資料に目を通し、講義で学んだことがどのように役に立つか確認する。（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業内で実施する理解度確認テスト 70%（3回実施） グループワークの課題 30%（3回実施）

<教科書>

多鹿智哉（2023） 読んで理解する経済数学 新世社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	基礎の計算	数学特有の記号、四則演算、式変形、方程式、不等式について再確認をする。
2	関数	合成関数、逆関数、一次関数について学ぶ。
3	二次関数	二次関数と独占企業の利潤最大化について学ぶ。
4	第1回から第3回の授業の振り返りと理解度確認テスト	第3回までの振り返りを行い、理解度を確認するためのテストを行う。
5	指数・対数	指数・対数が経済学ではどのように用いられているか学ぶ。複利計算や成長率の計算を学ぶ。
6	数列・極限（1）	数列、極限の基本的事項について学ぶ。
7	数列・極限（2）	経済学における応用例を学ぶ。
8	確率	データ分析、統計学の基礎となる確率について学ぶ。
9	第5回から第8回の授業の振り返りと理解度確認テスト	第5回から第8回の授業の振り返りと理解度確認テスト
10	一変数関数の微分（1）	微分とは何かについて学ぶ。
11	一変数関数の微分（2）	関数の最大化・最小化について学ぶ。
12	多変数の微分（1）	偏微分について学ぶ。
13	多変数の微分（2）	多変数関数の最大値の計算方法について学ぶ。
14	講義全体の振り返りと、第11回から第13回の内容の理解度確認テスト	第13回までの振り返りを行い、理解度を確認するためのテストを行う。
15		
16		

科目コード	53016				区 分	コア科目			
授業科目名	健康運動実習 [PH用]				担当者名	宮本 彩／古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

一般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本実習においては、学内教育で習得した知識や技術を実際の現場で対象者を見ながら統合させ、実践力・応用力・創造力を身につけ、対象者に対する個別運動プログラムや運動の指導案を積極的に作成し、健康課題へのアプローチ方法について

<授業の到達目標>

健康運動を指導するための専門的な知識・技術を実際の現場で学習し、さまざまなケースに対応できる実践指導能力を習得する。また、参加者（対象者）に対する運動指導を通じて、個別ケースへの対応法について学び、健康運動指導（介護予防を含む）の理解に役立てる。

<授業の方法>

健康運動教室の企画、運動プログラムの考案、指導を実践を通じて学ぶ。公共施設や高齢者施設などでの現場実践を通して、様々な年代や体力レベルの対象者との関わり方や指導方法を理解する。グループ（1グループ8名程度）活動のなかで、仲間と協力して取り組むことを学ぶ。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有無；有りグループワークを中心に授業を展開し、その成果として地域住民に対する健康運動指導を実践する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

円滑なグループ活動が実施できるよう、グループ内で事前の下調べ（予習）や話し合いの結果のまとめ（復習）を行い、課せられる課題の遂行にあたる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 30%、運動指導の実践 40%、最終レポート 30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	実習の進め方、グループ分け、スケジュールを説明する。
2	健康運動の趣旨・目的および健康評価	年齢に伴う体力変化を学び、健康運動の目的について考える。運動参加に関する医学的状況の把握や運動参加の禁忌、条件付参加について考える。
3	安全管理	救急法の資格の必要性、救急時対応、安全確保の手順について考える。
4	健康運動教室のテーマ選定	グループごとに実施する健康運動教室のテーマを科学的エビデンスを基に選定する。
5	教室の概要作成	教室のテーマを基にどのような目的で運動を実施するのかについて考える。
6	教室のチラシ作成	教室のテーマや概要に則したチラシを作成する。
7	運動プログラムの作成（1）	教室のテーマに合わせた運動プログラムを考える。
8	運動プログラムの作成（2）	基本の運動プログラムに加えて、体力レベルの差に対応方法を考える。
9	教室のタイムスケジュール作成	考案した運動プログラムを組み合わせ90分間の健康運動教室のタイムスケジュールを考える。
10	指導シナリオの作成	運動プログラムの進め方や運動の仕方などの説明に向けたシナリオを作成する。
11	予行演習	科目指導教員ならびに受講学生を対象に、健康運動教室の予行演習を行う。
12	予行演習を踏まえた修正・最終案の作成	予行演習での指摘を踏まえて運動プログラムやシナリオ、教室のタイムスケジュールを修正し、最終案を作成する。
13	運動プログラムの実践	運動指導の実践（現場実習）
14	振り返り（レポート作成）	本授業を通して学んだことについてレポートを作成する。
15		

科目コード	62008				区 分	コア科目			
授業科目名	健康管理とスポーツ医学 [資格希望者用]				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回授業内容の準備（1時間程度）、振り返りレポートの提出（2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

振り返りレポート10%、定期試験90%

<教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」 日本体育協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患(スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など)呼吸器系疾患(慢性肺疾患、運動誘発性喘息など)
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患(運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など)血液疾患(貧血など)皮膚疾患(胼胝腫、摩擦水疱、白癬など)
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患(運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など)代謝性疾患(糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など)
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症(上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性呼吸器症候群など)血液感染症(A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど)
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症(細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など)ウイルス性結膜炎(咽頭結膜炎など)
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症(SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など)各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など(1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など(2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (1)	(生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など)時差(時差に対する反応と順応、時差に対する対策)
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (2)	海外遠征時の諸問題(健康管理、環境管理、その他)
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学

	よる特徴 (3)	
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目 運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。 アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
13	内科的メディカルチェック (2)	
14	ドーピングコントロール	
15		
16		

科目コード	3C201				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	言語学				担当者名	田岡 希望			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

本授業では、まず、語形変化・語順・文構造などの観点から、複数の言語を比較することによって、日本語の特徴を理解していく。また、人間の言語理解・習得のメカニズムとプロセス、学習者の言語習得に影響する要因について学び、日本語学習者と接するための視点を養う。

<授業の到達目標>

到達目標は以下の3点である。1. 言語を形態的・統語的に捉えることができるようになる。2. 言語理解・習得のプロセスを理解することができるようになる。3. 上記の知識を使って、学習者の言語使用からその背景と理由を分析できるようになる。

<授業の方法>

本授業は基本的に講義形式で行うが、適宜グループワークを取り入れる。課題管理については、Google Classroomを用いる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有（グループワーク）：3、4人のグループに分かれ、テーマについてディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：予習として、各テーマについて事前にテキストを読み、知識を得ておくこと（1時間程度）。事後学習：授業後は、授業で学習したこと振り返り、レジュメ整理、事後課題などに取り組むこと（1時間半程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 20%、課題提出 20%、中間試験 30%、期末試験 30%フィードバックは授業内で行う（ただし、期末試験についてはGoogle Classroomにて行う）。

<教科書>

ヒューマンアカデミー（2021年2月19日） 日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

佐々木泰子 編（2007年4月23日） ベーシック日本語教育 ひつじ書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、「言語学」とは	授業の概要と評価方法の説明、「言語学」とはどんな学問か
2	一般言語学・対照言語学（1）	言語の多様性
3	一般言語学・対照言語学（2）	言語研究の諸分野
4	一般言語学・対照言語学（3）	言語の比較
5	言語理解の過程（1）	言語処理の種類（トップダウン処理、ボトムアップ処理）、談話
6	言語理解の過程（2）	二重貯蔵モデル、ワーキングメモリ、長期記憶
7	言語理解の過程（3）	心理言語学
8	中間試験	中間試験、フィードバック
9	言語習得・発達（1）	第一言語習得
10	言語習得・発達（2）	第二言語習得研究
11	言語習得・発達（3）	言語転移と誤用、習得順序と発達順序
12	言語習得・発達（4）	第二言語習得における個人差
13	言語習得・発達（5）	認知スタイルと学習ストラテジー
14	言語習得・発達（6）、期末試験	期末試験、フィードバック、バイリンガリズム
15		
16		

科目コード	27102				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	公衆衛生学 I				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公衆衛生とは「地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命の延長を図り、身体的ならびに精神的能力を増進 するための科学である」と定義される。健康に関わるいろいろな現象を疫学的に把握し、人間を取り巻く環境、社会的 要因（制度、組織など）などと人の健康増進、疾患予防などとの関係を理解し、医療にどの様に関連するのか考えられる力を習得する。

<授業の到達目標>

衛生学・公衆衛生学を学ぶ意義について理解し、その内容を説明することができる。また、健康の概念および健康管理の方法について理解し、具体例を用いて説明することができる。さらに、自然環境および生活環境と感染症との関連について理解し、その予防方法を説明することができる。加えて、母子保健の意義および支援体制について理解し、関連する制度や支援内容を説明することができる。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

課題に応じてグループワークを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どの様な内容であるかまとめ授業で発表する。（毎回、1時間程度）復習：小テストを次の授業で実施する。（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%、小テスト 30%、定期試験 40%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 「衛生学・公衆衛生学」 南光堂
医療情報科学研究所：編集 公衆衛生がみえる 株式会社 メディックメディア

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	衛生学・公衆衛生学について	公衆衛生学の意義と目的、歴史的変遷、現代社会における役割を理解する。
2	健康の概念	健康の定義（WHOなど）、健康阻害因子、健康水準の指標について学ぶ。
3	疾病予防と健康管理	疾病の自然史、一次・二次・三次予防、生活習慣と健康管理の関係を理解する。
4	感染症の予防 1	感染症の定義、感染経路、ウイルス性・細菌性感染症の特徴を理解する。
5	確認テスト①	第1回～第4回の学習内容についての理解度を評価する。
6	感染症の予防 2・消毒 1	感染症の発生動向と予防対策、消毒の基本概念および主な消毒方法について学ぶ。
7	消毒 2	消毒法の応用、各種消毒薬の特徴、院内感染対策における消毒の重要性を理解する。
8	環境衛生（環境保健） 1	環境の概念、非生物学的環境と生物学的環境の基本について学ぶ。
9	環境衛生（環境保健） 2	環境問題、物理的・化学的・生物学的環境要因と健康への影響を理解する。
10	確認テスト②	第6回～第9回の学習内容についての理解度を評価する。
11	環境衛生（環境保健） 3	公害の種類と健康影響、空気の衛生および大気汚染の現状と対策について学ぶ。
12	生活環境・食品衛生活動	水の衛生、衣服・住居と健康、食品衛生、廃棄物処理と環境保全について理解する。
13	母子保健	ライフサイクルにおける母子保健の意義、母子保健施策、母子保健指標について学ぶ。
14	確認テスト③・まとめ	全体の学習内容の理解度を評価するとともに、重要事項の総括を行う。
15		
16		

科目コード	33402				区 分	コア科目			
授業 科目名	子ども家庭支援の心理学 [不開講]				担当者名	衛藤 真規			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、子どもの発達を外観した上で、家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。さらに、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解し、子どもの精神保健とその課題についてもアプローチする。

<授業の到達目標>

1. 人間の生涯にわたる発達過程を理解する。2. 家族・家庭の意義や機能を理解したうえで、親子関係・家族関係について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる見方を習得する。3. 現代の子育て家庭の状況と家族をとりまく社会の状況について理解する。4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

<授業の方法>

教科書を基に講義形式で行い必要な資料を配布する。適宜グループワークやディスカッションを行う

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：適宜グループワークやディスカッションを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（60分）：教科書の該当章、事前に配布される資料を読み、自分なりに問題意識を持っておく 復習（60分）：授業で学んだことを振り返り理解を深める

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度：10%リアクションペーパー（授業の振り返りシート）：30% 期末レポート：60%※リアクションペーパーへのコメントは授業内で適宜行う

<教科書>

公益財団法人児童育成協会監修・白川桂子・福丸由佳（編集）（2019） 新基本保育シリーズ⑨ 子ども家庭支援の心理学 中央法規

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・乳児期の発達	生まれてから2歳頃までの初期発達の特徴、この時期に必要な保育者の関わり
2	幼児期の発達	幼児期の発達段階における基本的な発達の特徴（認知、言語、社会性、自我の発達）
3	学童期の発達	小学校入学以降の学童期の発達の特徴（認知、社会性、自己の発達）
4	青年期の発達	中学生以降の青年期における発達の特徴（身体的変化、認知発達、自己の発達、対人関係の変化）
5	成人期・中年期・高齢期の発達	成人期・中年期・高齢期の特徴、高齢者を取り巻く社会状況、高齢者福祉・支援
6	家族・家庭の意義と機能	家族・家庭の概念、意義と機能
7	家族関係・親子関係の理解	家族のライフサイクル、家族システム論、家族関係・親子関係を支援するための理論と技法
8	子育ての経験と親としての育ち	子どもをもつことの意義、子育てと就労の両立、地域における子育て支援
9	子育てを取り巻く社会的状況	晩婚化・非婚化をめぐる状況、出産・子育てをめぐる社会的状況、子育て家庭を支える制度と支援
10	ライフコースと仕事・子育て	ライフコースの概念と歴史的変遷、ライフコースの視点を生かした親理解と支援の可能性
11	多様な家庭とその理解	多様化する家庭のありよう、子どもと社会を取り巻くさまざまな課題と具体的支援
12	特別な配慮を要する家庭	養育者のメンタルヘルス、不適切な養育と家族の機能不全、逆境の小児期体験の影響、保育者のセルフケア
13	子どもの生活・生育環境とその影響	子どもの年齢に応じて必要とされる環境、現代社会の子育て環境の変化、子どもの精神状態に与える影響
14	子どものこころの健康に関わる問題	子どものこころにかかわる諸課題、求められる他機関との連携

15		
16		

科目コード	34313				区 分	コア科目			
授業科目名	子ども家庭支援論				担当者名	田中 恵子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業は、保育士資格取得者のための授業となっている。○保育と家庭支援の必要性やかかわり、支援者として必要な基礎・基本を学び理解する。○対象である子ども本人についてのみならず、その両親、家庭、地域、学校、医療機関、社会福祉施設等の子ども本人を取り巻く環境とのかかわりにも目を向け、さまざまな福祉の角度から考察し実態を把握する。○保育所や児童福祉施設等の現場の実践に必要な知識、技術までを段階的に学び実践力を養成する

<授業の到達目標>

保育のさまざまな実践場面において、家庭支援は深くかかわっている。家庭支援は発達援助や環境構成といった専門性に加えて、ソーシャルワークの技術や視点の活用が求められる。本科目では、家庭支援の理論・知識・技術を学習し、家庭支援の事例分析を通して支援の技術習得を身に付けていけるようになる。また家庭支援の事例検討を行うとともに支援者として理解しておかなければならない心がまえや態度を理解できるようになる。

<授業の方法>

テキストにそって全体を「理論」「演習」「事例」の3編に分け、家庭支援の基本を講義形式で理解し、それをもとにグループワークで具体的知識や技術を活用してグループワーク、ディスカッション等を行い体験的に学ぶ。さらに保育所や児童福祉施設 幼稚園 認定こども園等の現場を意識した事例を通して実践力を養う

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有家庭支援の基本を講義形式で学んだのち、具体的知識や技術を活用してグループワーク、ディスカッション等を行い体験的に学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

○（予習）30分 テキストにそって各章の学びのねらいを読み取り記述し、レポートを提出し授業中に逐次発表する。○（復習）30分 子どもや保護者に生じる生活課題にはどのようなものがあるかを考察し、グループで話し合いまとめたレポートを作成する。またテキストワークに取り組む。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験60%、毎時間の課題30%、授業態度10%で評価します。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方と単位認定の要件について
2	子どもと家庭を取り巻く環境	家族・家庭とは？家族・家庭を取り巻く環境
3	保育者が実践する子ども家庭支援とは	子どもをもつ家庭を取り巻く環境子ども家庭支援の基本的な考え方
4	子育て家庭を支える法・制度および社会資源	子育て家庭を支えるこれまでの取り組み障害のある子どもと家族に対しての支援
5	保育者に求められる基本的態度および基本技術	相談を受ける者の基本的態度相談場面で必要な技術保育現場での相談スキルの活用場面
6	保育現場での相談スキルの活用場面	地域の社会資源と連携保育士の倫理
7	保育者が行う子ども家庭支援の実践	保育所等の特性を活かす保育場面における具体的な子育て支援の方法
8	子ども家庭支援のための制度	子ども家庭支援のための法律や制度の理解支援の実践の事例について
9	地域の子育て家庭への支援	保育所等が行う地域子育て支援地域子育て支援専門職としての支援と実際の取り組み
10	さまざまな子ども家庭の理解と支援	子ども家庭のさまざまな形ひとり親家庭における支援の展開外国とつながりのある子どもの保育と支援
11	不適切な養育環境の子どもやその過程への支援	不適切な養育環境とは子ども虐待について代替養育の理解と家庭への支援
12	発達障害児等の理解と家庭への支援	日本における障害児に関する現状障害のある子どもや家庭への支援の展開
13	子どもの貧困の理解と家庭への支援	子どもの貧困とは何か子どもの貧困問題における支援の展開
14	保育が子ども家庭支援に果たす役割全体の振り返り	子育て実践力の基盤をつくる働き子ども家庭支援におけるソーシャルワーク幼児教育と子どもの育ち子ども家庭支援のまとめ

15		
16		

科目コード	34112				区 分	コア科目			
授業科目名	子ども子育て教育相談				担当者名	衛藤 真規			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	あり

<授業の概要>

本授業は教職課程コアカリキュラムである「幼児理解の理論及び方法」と「教育相談（カウンセリングを含む）」に基づいて行われる。幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結びつけて考察する力を身につける。また、学校における教育相談の意義と理論、方法（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）、展開について学ぶ。

<授業の到達目標>

①幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。②幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む）を身に付ける。

<授業の方法>

教科書を基に講義形式で行い、必要な資料を配布する。適宜グループワークやディスカッション、ロールプレイングを行う。
1. 講義2. グループワーク等3. 振り返り（講義で理解したこと、感想をリアクションペーパーに記述）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：グループワークやディスカッション、ロールプレイングを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（60分）：教科書の該当章、事前に配布される資料を読み、自分なりに問題意識を持っておく復習（60分）：授業で学んだことを振り返り理解を深める

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への参加度：10%リアクションペーパー（授業の振り返りシート）：30%期末レポート：60%※リアクションペーパーへのコメントは授業内で適宜行う

<教科書>

鳥海順子・義永睦子（編著） 子ども理解と教育相談 東洋館出版社(2021)

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、教育相談の意義	子どもの問題をどうとらえるか、子ども理解の視点とプロセス
2	学校における教育相談の意義	教師に教育相談が求められる理由、学校における教育相談の進め方
3	アセスメントに関する基礎的理解	アセスメントの目的、方法、進め方
4	カウンセリングの基礎理論①	カウンセリングとは何か、カウンセリングの技法
5	幼保小連携の接続期支援と子どもの理解	幼保小連携とは何か、幼保小連携の実際
6	小・中・高の接続期支援と子どもの理解	小・中・高、各々の時期の教育相談の特色、接続期に必要な支援
7	カウンセリングの基礎理論②	カウンセリングの進め方
8	相談のプロセス	教育相談の機能とプロセス、実際の相談の進め方
9	コンサルテーションやコーディネーションの理解と方法	コンサルテーションの基礎・基本、コーディネーションの基礎・基本
10	開発的・予防的カウンセリングの理解と方法	開発的・予防的カウンセリングとは何か、アサーション、コーチング
11	保育の場で行う教育相談と園内体制	保育の場で行う教育相談の意義と進め方
12	学校で行う教育相談と校内体制	学校で行う教育相談を取り巻く環境、学校で行う教育相談の進め方
13	多様なニーズのある子どもの教育相談と支援体制	学校教育における「多様なニーズのある子ども」とは何か、「多様なニーズのある子ども」の教育相談の進め方
14	家族への支援と地域における専門家との連携	多機関連携に必要な視点、制度の活用
15		
16		

科目コード	3C302				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	社会言語学				担当者名	VRBOVSKY Matej			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

社会言語学とは、「社会」とのかかわりの中で「言語」現象をとらえようとする言語学の分野である。この科目では、実際に使われている日本語には社会がどのように現れているのか、日本語を使ってインターアクションするためにはどんな知識が必要かを考えながら日本語を観察する目を養う。さらに各国の言語政策を概観し、広い視野で言語教育及び言語使用と社会との関係を考える。

<授業の到達目標>

本科目の到達目標は下記の2点である。①無意識に使用していた日本語とその使用場面を社会言語学的な視点から振り返ることができること。②各国の言語政策を概観し、社会と言語の関係について考えることができること。

<授業の方法>

基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが、適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループやクラスでのディスカッション、発表を実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各テーマについて事前にテキストや配布資料に目を通し、関連事項について調べるなどして基礎的な知識を得ておく（約60分）。授業後は、授業内容の整理および課題への取り組みを通して理解を深めるとともに、必要に応じて関連資料を参照し、内容をまとめる（約120分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

平常点30%、リフレクション20%、提出課題30%、最終試験20%フィードバックは授業内で行う。試験や課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

<教科書>

ヒューマンアカデミー（2021/2/19） 日本語教育教科書 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

田中春美・田中幸子（編著）（2015/9/20） よくわかる社会言語学 ミネルヴァ書房

井上史雄・田邊和子（編） 社会言語学の枠組み くろしお出版

岩田祐子・重光由加・村田泰美（著）（2022/3/10） 改訂版 社会言語学—基本からディスコース分析まで ひつじ書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションと社会言語学とは	授業の概要と評価方法
2	言語変種（1）	ジェンダー，若者ことば，幼児語，役割語
3	言語変種（2）	地域方言，新方言
4	言語接触	ビジンとクレオール，ダイグロシア
5	言語の多様性（1）	共通言語，コードスイッチング
6	言語の多様性（2）	待遇表現
7	やさしい日本語（1）	やさしい日本語とは
8	やさしい日本語（2）	グループ発表
9	言語/非言語コミュニケーション（1）	コミュニケーションの方法，コミュニケーション・ストラテジー
10	言語/非言語コミュニケーション（2）	非言語コミュニケーション，近接空間学，パラ言語
11	多文化・多言語主義（1）	CEFR，各国の言語政策
12	多文化・多言語主義（2）	複言語主義（1）
13	多文化・多言語主義（2）	複言語主義（2）
14	まとめテスト	まとめテスト
15		
16		

科目コード	23412				区 分	コア科目			
授業科目名	重複障害児教育総論				担当者名	高橋 章二／松本 好生			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業では、重複障害を巡る医療と教育の現状について理解を深め、対応の概要に関する基本的な知識を身につける。また、重複障害児に対する教育にかかわり、学習指導要領に規定されている重複障害者等に関する教育課程の取り扱いについて適切に理解することができるようにする。さらに、学校や地域生活などの様々な場面における医療と教育、福祉との連携による効果的な支援について、基本的な情報をもとに、実際の指導及び支援内容を考える。

<授業の到達目標>

重複障害の概念や重複障害児の特徴を理解し、それらの特徴を把握するためのアセスメントや特徴に応じた学校場面における指導や支援の実践について、その基本的な知識を習得することができる。

<授業の方法>

授業はテキストやPowerPoint資料等を使って講義形式で行う。課題検討のためグループワーク等を取り入れる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

業内に毎回グループで検討していく課題を設定してグループワークを行い、話し合われたことを全体に発表して全体での共有を図る

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前にクラスルームに提示された講義資料に目を通してポイントをチェックする。3時間は必ず行ってください。復習：講義終了後は、授業の中で重要と述べられた事項についてさらにインターネット教科書等を使い深める。2時間は必ず行ってください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（特別支援教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・授業態度20%、ふりかえり課題30%、試験50%

<教科書>

文部科学省（H30・3） 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼・小・中） 開隆堂出版株式会社

文部科学省（H30・3） 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 開隆堂出版株式会社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	重複障害の定義（定義と歴史）	重複障害、重度重複障害、重症心身障害児の名称と対象（大島の分類）
2	重複障害児の理解（くらしの実際）	重複障害児の学校生活、家庭生活場面の実際
3	重複障害児のコミュニケーションと支援	重複障害児のコミュニケーションの課題と具体的な支援方法
4	重複障害児の特性と指導法	重複障害児の特性に応じた指導方法の実際
5	重複障害の健康支援と支援機器	重複障害の健康支援と支援機器の活用方法の実際
6	問題行動への心理的介入法	心理アセスメント、知能検査、発達検査等の方法と活用について
7	学習指導要領における重複障害者等に関する教育課程の取り扱い①	学習指導要領上で示されている教育課程の特例について
8	学習指導要領における重複障害者等に関する教育課程の取り扱い②	自立活動の取り扱いについて
9	学校場面における重複障害の支援の実際①	感覚・運動機能トレーニングの方法
10	学校場面における重複障害の支援の実際②	言語・コミュニケーショントレーニングの方法
11	学校場面における重複障害の支援の実際③	心理療法について
12	学校場面における重複障害の指導の実際①	盲重複障害者・ろう重複障害者への支援技法
13	学校場面における重複障害の指導の実際②	行動障害がある人への支援技法
14	重複障害児を取り巻く関係機関・地域・家庭との連携	重複障害児を取り巻く地域連携の具体的な事例について
15		

科目コード	32313				区 分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法 [FE2431組用]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校外国語活動・外国語科の授業映像の視聴、学生が児童の立場での授業体験、学習指導要領などを通して、小学校における外国語教育の意義や学習指導要領に謳われている理念及び学習評価について学ぶ。また、児童期の第二言語習得の特徴についての理解を深め、聞く・話す・読む・書くの4技能における教材・教具について知り、指導技術を身に付ける。グループや全体での多様な形式の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付けるとともに、ピアフィードバックやディスカッションを通して授業改善する態度を身に付ける。

<授業の到達目標>

外国語活動・外国語科の授業を行うための資質・能力及び基本的な指導力を次の通り育成することを目指す。1. 小学校課程における外国語教育の意義について、全人教育、国際教育の視点も含めて理解することができる。2. 学習指導要領に謳われている理念（目標や育成を目指す資質・能力）及び学習評価の在り方について理解することができる。3. 児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、他教科連携や児童の実態に応じた指導計画を立案及び教材開発し、授業実践を行う技能を身に付けることができる。4. ICTを効果的に活用し

<授業の方法>

・授業体験、授業映像視聴・講義（教員による解説と問いの提示）・ピアフィードバック、ディスカッション・マイクロティーチング、模擬授業

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：マイクロティーチングまたは模擬授業準備（2時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業への参加度（ディスカッション、マイクロティーチング） 30％・課題（授業内容振り返り、模擬授業後のレポート）30％・模擬授業及び指導案 40％

<教科書>

加賀田哲也 Here We Go! 5 光村図書

加賀田哲也 Here We Go! 6 光村図書

文部科学省 Let's Try! 1・Let's Try! 2 東京書籍

<参考書>

文部科学省（2017年） 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編・外国語活動編 開隆堂

小川隆夫・東仁美（2021） 小学校英語はじめる教科書（改訂版） mpi

池田勝久（2020年） 小学校英語「5領域」評価事例集 教育開発研究所

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	外国語教育導入の経緯、学習指導要領、小中高連携
2	外国語活動（中学年）の授業（1）What do you like? I like blue. 等	子どもの第二言語習得の特徴
3	外国語活動の授業（2）What's this? 等	Small Talk, Classroom English, Teacher Talk、言語活動
4	外国語活動の授業（3）アルファベットの指導	中学年と高学年の特徴を踏まえた支援の仕方、文字との出合わせ方
5	外国語科（高学年）の授業を体験（1）When is your birthday?等	わかりやすく発表しあうための支援の仕方、多様な子どもへの対応
6	外国語科の授業（2）My town is beautiful. 等	題材の選定・教材（ICTなどの活用を含む）
7	外国語科の授業（3）Where do you want to go? 等	目的・場面・状況を設定した言語活動 相手意識をもたせる発表の支援の仕方
8	外国語科の授業（4）We live together. 等	CLIL：他教科との関連付け 国際教育と英語教育

9	外国語科の授業（5）I can run fast. 等	国語教育との関連、ALT等とのティームティーチング
10	外国語科の授業（6）What do you want to be?等	学習評価、ルーブリック、パフォーマンス評価・ポートフォリオ
11	模擬授業に向けて学習指導案・教材の作成	単元構成、1時間の授業・指導案の書き方
12	模擬授業（1）	授業評価、ディスカッション
13	模擬授業（2）	授業評価、ディスカッション
14	模擬授業（3）	授業評価、ディスカッション
15		
16		

科目コード	32313				区 分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法 [FE2432組用]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校外国語活動・外国語科の授業映像の視聴、学生が児童の立場での授業体験、学習指導要領などを通して、小学校における外国語教育の意義や学習指導要領に謳われている理念及び学習評価について学ぶ。また、児童期の第二言語習得の特徴についての理解を深め、聞く・話す・読む・書くの4技能における教材・教具について知り、指導技術を身に付ける。グループや全体での多様な形式の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付けるとともに、ピアフィードバックやディスカッションを通して授業改善する態度を身に付ける。

<授業の到達目標>

外国語活動・外国語科の授業を行うための資質・能力及び基本的な指導力を次の通り育成することを目指す。1. 小学校課程における外国語教育の意義について、全人教育、国際教育の視点も含めて理解することができる。2. 学習指導要領に謳われている理念（目標や育成を目指す資質・能力）及び学習評価の在り方について理解することができる。3. 児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、他教科連携や児童の実態に応じた指導計画を立案及び教材開発し、授業実践を行う技能を身に付けることができる。4. ICTを効果的に活用し

<授業の方法>

・授業体験、授業映像視聴・講義（教員による解説と問いの提示）・ピアフィードバック、ディスカッション・マイクロティーチング、模擬授業

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：マイクロティーチングまたは模擬授業準備（2時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業への参加度（ディスカッション、マイクロティーチング） 30％・課題（授業内容振り返り、模擬授業後のレポート）30％・模擬授業及び指導案 40％

<教科書>

加賀田哲也 Here We Go! 5 光村図書

加賀田哲也 Here We Go! 6 光村図書

文部科学省 Let's Try! 1・Let's Try! 2 東京書籍

<参考書>

文部科学省（2017年） 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編・外国語活動編 開隆堂

小川隆夫・東仁美（2021） 小学校英語はじめる教科書（改訂版） mpi

池田勝久（2020年） 小学校英語「5領域」評価事例集 教育開発研究所

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	外国語教育導入の経緯、学習指導要領、小中高連携
2	外国語活動（中学年）の授業（1）What do you like? I like blue. 等	子どもの第二言語習得の特徴
3	外国語活動の授業（2）What's this? 等	Small Talk, Classroom English, Teacher Talk、言語活動
4	外国語活動の授業（3）アルファベットの指導	中学年と高学年の特徴を踏まえた支援の仕方、文字との出合わせ方
5	外国語科（高学年）の授業を体験（1）When is your birthday?等	わかりやすく発表しあうための支援の仕方、多様な子どもへの対応
6	外国語科の授業（2）My town is beautiful. 等	題材の選定・教材（ICTなどの活用を含む）
7	外国語科の授業（3）Where do you want to go? 等	目的・場面・状況を設定した言語活動 相手意識をもたせる発表の支援の仕方
8	外国語科の授業（4）We live together. 等	CLIL：他教科との関連付け 国際教育と英語教育

9	外国語科の授業（5）I can run fast. 等	国語教育との関連、ALT等とのティームティーチング
10	外国語科の授業（6）What do you want to be?等	学習評価、ルーブリック、パフォーマンス評価・ポートフォリオ
11	模擬授業に向けて学習指導案・教材の作成	単元構成、1時間の授業・指導案の書き方
12	模擬授業（1）	授業評価、ディスカッション
13	模擬授業（2）	授業評価、ディスカッション
14	模擬授業（3）	授業評価、ディスカッション
15		
16		

科目コード	32313				区 分	コア科目			
授業科目名	小学校英語科教育法 [FE2433組用]				担当者名	羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校外国語活動・外国語科の授業映像の視聴、学生が児童の立場での授業体験、学習指導要領などを通して、小学校における外国語教育の意義や学習指導要領に謳われている理念及び学習評価について学ぶ。また、児童期の第二言語習得の特徴についての理解を深め、聞く・話す・読む・書くの4技能における教材・教具について知り、指導技術を身に付ける。グループや全体での多様な形式の模擬授業を行い、基本的な指導技術を身に付けるとともに、ピアフィードバックやディスカッションを通して授業改善する態度を身に付ける。

<授業の到達目標>

外国語活動・外国語科の授業を行うための資質・能力及び基本的な指導力を次の通り育成することを目指す。1. 小学校課程における外国語教育の意義について、全人教育、国際教育の視点も含めて理解することができる。2. 学習指導要領に謳われている理念（目標や育成を目指す資質・能力）及び学習評価の在り方について理解することができる。3. 児童期の第二言語習得の特徴について理解するとともに、他教科連携や児童の実態に応じた指導計画を立案及び教材開発し、授業実践を行う技能を身に付けることができる。4. ICTを効果的に活用し

<授業の方法>

・授業体験、授業映像視聴・講義（教員による解説と問いの提示）・ピアフィードバック、ディスカッション・マイクロティーチング、模擬授業

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング（グループディスカッション、ピア・フィードバック、ジグソーなど）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：マイクロティーチングまたは模擬授業準備（2時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業への参加度（ディスカッション、マイクロティーチング） 30％・課題（授業内容振り返り、模擬授業後のレポート）30％・模擬授業及び指導案 40％

<教科書>

加賀田哲也 Here We Go! 5 光村図書

加賀田哲也 Here We Go! 6 光村図書

文部科学省 Let's Try! 1・Let's Try! 2 東京書籍

<参考書>

文部科学省（2017年） 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編・外国語活動編 開隆堂

小川隆夫・東仁美（2021） 小学校英語はじめる教科書（改訂版） mpi

池田勝久（2020年） 小学校英語「5領域」評価事例集 教育開発研究所

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	外国語教育導入の経緯、学習指導要領、小中高連携
2	外国語活動（中学年）の授業（1）What do you like? I like blue. 等	子どもの第二言語習得の特徴
3	外国語活動の授業（2）What's this? 等	Small Talk, Classroom English, Teacher Talk、言語活動
4	外国語活動の授業（3）アルファベットの指導	中学年と高学年の特徴を踏まえた支援の仕方、文字との出合わせ方
5	外国語科（高学年）の授業を体験（1）When is your birthday?等	わかりやすく発表しあうための支援の仕方、多様な子どもへの対応
6	外国語科の授業（2）My town is beautiful. 等	題材の選定・教材（ICTなどの活用を含む）
7	外国語科の授業（3）Where do you want to go? 等	目的・場面・状況を設定した言語活動 相手意識をもたせる発表の支援の仕方
8	外国語科の授業（4）We live together. 等	CLIL：他教科との関連付け 国際教育と英語教育

9	外国語科の授業（5）I can run fast. 等	国語教育との関連、ALT等とのティームティーチング
10	外国語科の授業（6）What do you want to be?等	学習評価、ルーブリック、パフォーマンス評価・ポートフォリオ
11	模擬授業に向けて学習指導案・教材の作成	単元構成、1時間の授業・指導案の書き方
12	模擬授業（1）	授業評価、ディスカッション
13	模擬授業（2）	授業評価、ディスカッション
14	模擬授業（3）	授業評価、ディスカッション
15		
16		

科目コード	23413				区 分	コア科目			
授業科目名	障害児教育相談と心理アセスメント				担当者名	大野呂 浩志／大本 市郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習・実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

特別支援教育における教育相談は、障害によって生じる様々な困難さを理解し、適切な支援を施すことによって、子どもの育ちを支援し、保護者や児童生徒に関わる教育職員等を支援することである。問題の所在に気づき、その意味を考え、具体的支援を考えるため、この講義では、知的障害、病弱、肢体不自由及び発達障害に関する基本的知識や障害のアセスメントに関する基礎知識、困難が生じるメカニズム、またカウンセリングそのものの基本的な知識について理解することができる。（教育経営学科ディプロマ（2）（3）に関連）

<授業の到達目標>

障害による困難を客観的に評価するアセスメントの種類やそれぞれのアセスメントの目的や適切な活用について、概要を理解することができる。また実際の障害児の教育相談事例を取り上げ、その内容に応じたアセスメントの適用や本人や家族への指導や支援の方針を具体的に想起することができる。

<授業の方法>

・講義／演習／課題解決型学習／ディスカッション／グループワーク／ピアサポートラーニング／プレゼンテーション等の様々な形態において、取り扱う事象を等身大の理解に基づき、学ぶことができるように展開する。・検査者と被験者に分かれて心理検査を行う演習については、机上での活動のみで、移動や動的活動のないものであることから、危険が生じることはない。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・課題解決型学習／ディスカッション／グループワーク／ピアサポートラーニング／プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・毎回の授業終わりに告知される次時の授業内容について、毎回1時間程度の事前学習と、授業内容に関する事後1時間程度の復習が望ましい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート 40%，定期試験 40%，授業態度 20%

<教科書>

適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。

<参考書>

適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。 適宜資料を配布する。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：アセスメントの意義と教育相談への活用	心理・神経心理アセスメントの種類と有用性について概略及び、その教育領域における活用法について、講義やピアサポートラーニングを通じて理解する。
2	小児の発達と発達検査（遠城寺・デンバー発達検査）	乳児期・幼児期の神経発達と運動・知能・言語発達を中心に遠城寺およびデンバー発達検査について、講義やピアサポートラーニングを通じて理解する。
3	個別式知能検査（田中ビネー・WISC）にもとづく脳機能評価（Ⅰ）	小児期期認知・言語発達を中心に田中ビネーおよびWISCの意義や適用目的、講義とピアサポートラーニングによって理解する。
4	個別式知能検査（田中ビネー・WISC）にもとづく脳機能評価（Ⅱ）	小児期期認知・言語発達を中心に田中ビネーおよびWISCの実際の検査具を使いながら、講義とピアサポートラーニングを通じて、アセスメントの概要を理解する。
5	神経心理学的検査による脳機能評価	各種神経心理学的検査の特性を概説し前頭前野の機能的関連について理解する。
6	Rey-Ossteriethの複雑図形にもとづく視覚認知機能評価	Rey-Ossteriethの複雑図形の検査法と特性について概説し臨床応用について理解する。
7	障害による困難の理解と教育相談（1）	高次脳機能不全と発達障害児の学習上・生活上の困難の関連について理解する。
8	障害による困難の理解と教育相談（2）	発達障害児の示す実際の学習上・生活上の困難への対応について、その手続きや対応における留意点について理解する。
9	教育現場における知的障害及び発達障害の就学及び生活現状	知的障害や発達障害のある幼児児童生徒の就学の現状をや生活状況を知り、教育や生活における障害のある子どもの困難さを理解する。
10	知的障害及び発達障害の特性に応じた具体的指導・支援	知的障害や発達障害の障害特性を知り、特性に応じた生活場面や教育場面における具体的な支援について理解する。
11	学校の教育課程の内容別にみる支援体制	各学校園における特別なニーズのある子どもへの支援について、それぞれの教育課

12	知的障害及び発達障害のある児童生徒にかかわる学校と地域の連携	程の特徴と関連付けながら理解する。
13	知的障害及び発達障害の臨床事例（保護者の視点から）	障害のある幼児児童生徒を巡る教育現場と家庭や地域とのつながりについて、各学校園の規模や特徴と関連させて理解する。
14	知的障害及び発達障害の臨床事例（児童生徒の視点からの指導・支援分析）	知的障害と発達障害のある子どもをもつ保護者のニーズについて、それぞれの子どもの実態と合わせて理解する。
15		知的障害と発達障害のある子どもに対する実際の指導事例を基にした指導・支援内容や方法について理解する。
16		

科目コード	37100				区 分	コア科目			
授業科目名	障害者スポーツ論				担当者名	宮本 彩／三浦 孝仁			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

障がい者スポーツは、障害という「ハンディ」を施設や用具・ルール工夫、人の援助等で補うことにより、一見不可能に思えるスポーツが可能となり実践されている。本科目では障害者の親しんでいるスポーツ・レクリエーションの現状を理解し、身近な障害者へのスポーツ活動の支援に役立てることを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 障がい者、障がい者スポーツについて理解できる 2. 障害者のスポーツ活動等を通して、各種障がいに対し考え行動に移すことができる

<授業の方法>

1. 講義（日本パラスポーツ協会の公認パラスポーツ指導員（初級・中級）カリキュラム内容） 2. グループワーク（各種障がいへの対応手法） 3. 課外活動（障がい者スポーツ大会ボランティア、障がい者スポーツ体験）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有無；有りペアあるいはグループでの討議を通して、自らの考えを伝えたとともに他者の意見を聞き、考える機会を設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週のテーマ内容に準じた教科書の読み、課題に対する下調べ（毎回、1時間程度） 復習：講義前に実施する振り返りシート（毎回、15分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題；50％、定期試験：50％※初級障害者スポーツ指導員を申請する者は、①本科目の全出席、②学校側が指定する（岡山県障害者スポーツ大会、吉備高原車いすふれあいロードレース大会）ボランティアに一回以上参加すること（事前ガイダンス受講及び事後レポート提出）が条件となる。

<教科書>

（財）日本パラスポーツ協会 改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本（初級・中級） ぎょうせい

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	障害者スポーツの意義と理念（1）	障がい者スポーツの理念とヒトや社会に与える影響
2	障害者スポーツの意義と理念（2）	公認パラスポーツ指導員制度とスポーツインテグリティ
3	障がい者の生活と福祉施策（1）	障害者福祉施策・今後の動向と障害者スポーツの関連性
4	障がい者の生活と福祉施策（2）	障がい者を取り巻く環境
5	障害の理解とスポーツ（1）	身体の構造と機能、トレーニング概論
6	障害の理解とスポーツ（2）	障がいの分類と概要（身体障がい）
7	障害の理解とスポーツ（3）	障がいの分類と概要（知的障がい、精神障がい）
8	障害の理解とスポーツ（4）	身体障がい者の理解とスポーツ・レクリエーション
9	障害の理解とスポーツ（5）	知的・精神障がい者の理解とスポーツ・レクリエーション
10	安全管理	リスクマネジメントと応急手当
11	ボランティア論	ボランティア精神とは
12	全国障がい者スポーツ大会（1）	全国障害者スポーツ大会の概要、障がい区分
13	全国障がい者スポーツ大会（2）	全国障がい者スポーツ大会競技種目と指導法、ボランティアの役割
14	障害に応じたスポーツの工夫・実施	障害に応じたスポーツ実践
15		
16		

科目コード	24407				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	上級オーラルコミュニケーション				担当者名	竹下 厚志			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	なし

<授業の概要>

地球市民として、世界の人たちと様々な分野で交流を持つための基本的な英語コミュニケーション能力を育成することを目的とします。主なテーマをSDGsとして、私たちが直面しているグローバルイシューの解決について一緒に考えていながら、同時に英語コミュニケーション能力を伸ばしていくことを目指します。【重要】基本的に英語で授業を行います。

<授業の到達目標>

・SDGsについて基本的な知識を身に付けている。・英語コミュニケーション能力の5技能がバランスよく習得されている。・グローバルイシューについて論理的、批判的、多面的に思考しながら理解している。・SDGsの解決に向けた自分なりの解決策を提案することができる。

<授業の方法>

主に2つのパートから授業は構成されます。一つは英語コミュニケーションの技能習得を目的としたトレーニングです。5技能統合型の手法でCEFR B2レベル以上を目指します。もう一つはSDGsを中心としたグローバルイシューを通して思考力の向上を目指します。単に英文を理解するという表面的な学習ではなく、皆さんがその世界課題に対してどのように考え、解決のための行動を起こせるかについて一緒に考え、行動計画を立てたいと思います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

あり。ディスカッション（日常的な話題から社会問題までペア・グループによる意見交換）、プレゼンテーション（特定の話題について事実・問題提起・意見）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・英文日記（毎日15分）・社会情勢（世界情勢）の情報収集（毎回1時間程度）。復習・学習した英文の暗唱・サマリー（毎日30分）・プレゼンテーションの準備（毎回2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度40%、提出物提出20%、発表40%（原則、英語による発表）

<教科書>

<参考書>

竹下 厚志（2021年2月25日） SDGs 英語長文 Core 三省堂

竹下 厚志（2019年4月12日） SDGs 英語長文 三省堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	今後の学習の方向性の相談
2	テーマ学習①	身近なテーマについて意見交換
3	テーマ学習②	身近なテーマについて意見交換
4	テーマ学習③	身近なテーマについて意見交換
5	テーマ学習発表①	身近なテーマに関する意見発表
6	テーマ学習④	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
7	テーマ学習⑤	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
8	テーマ学習⑥	グローバルイシューに関する英文理解とトレーニング
9	テーマ学習発表②	グローバルイシューに関する意見発表
10	テーマ学習⑦	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
11	テーマ学習⑧	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
12	テーマ学習⑨	日本と直接関係する社会問題に関する英文理解とトレーニング
13	テーマ学習発表③	最も関心のある社会問題に対する発表①
14	ディスカッションと意見表明（テスト）	複数のグローバルイシューに関する意見交換と自己表現
15		
16		

科目コード	3F301				区 分	コア科目			
授業科目名	整形外科科学 I				担当者名	石原 和泰			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義は、整形外科科学総論にあたる部分である。すなわち、整形外科の意義と歴史、運動器の基礎知識、整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科の治療法、骨・関節損傷総論、スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論と柔道整復学との関連性について学習する。

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医科学的な分野（特に整形外科的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語をもって話しが出来ることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニツッペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング なし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中はきちんとノートを取り、復習に力点(2時間)をおくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 「整形外科科学」 南江堂

<参考書>

松野 丈夫 監修 「標準整形外科科学」第13版 医学書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	骨系統疾患、神経筋疾患 (1)	骨の構造・病理、骨系統疾患、神経筋疾患 (1)
2	骨系統疾患、神経筋疾患 (2)	骨の構造・病理、骨系統疾患、神経筋疾患 (2)
3	運動器に発生する感染症 (1)	骨・関節・軟部組織感染症 (1)
4	運動器に発生する感染症 (2)	骨・関節・軟部組織感染症 (2)
5	整形外科疾患 (1)	上肢の整形外科疾患 (1)
6	整形外科疾患 (2)	上肢の整形外科疾患 (2)
7	整形外科疾患 (3)	骨盤・股関節・大腿骨の外傷 (1)
8	整形外科疾患 (4)	骨盤・股関節・大腿骨の外傷 (2)
9	整形外科疾患 (5)	小児の整形外科的外傷 (1)
10	整形外科疾患 (6)	小児の整形外科的外傷 (2)
11	整形外科疾患 (7)	小児の整形外科的外傷 (3)
12	整形外科疾患 (8)	小児の整形外科的外傷 外傷以外 (1)
13	整形外科疾患 (9)	小児の整形外科的外傷 外傷以外 (2)
14	整形外科疾患 (10)	小児の整形外科的外傷 外傷以外 (3)
15		
16		

科目コード	32307				区 分	コア科目			
授業科目名	生活科教育法 [FE2431組用]				担当者名	三堀 仁			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

<授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解することができる。２．ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付けることができる。３．模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付けることができる。

<授業の方法>

教材研究の段階では、教員による内容の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

<教科書>

田村学ほか ２０２４年 あたらしいせいかつ 上 東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	生活科の指導のポイント	授業場面を例に教師の関わり方を考える。
2	生活科の学習指導①	指導と評価の一体化について理解する。
3	生活科の学習指導②	児童のカードをもとに「学ばせどころ」を考える。
4	ICTの活用	デジタル生活科マップの活用を考える。
5	生活科の授業の実際	生活科の授業場面を通して「気付き」について理解する。
6	学習指導案の書き方	生活科の学習指導案の書き方を理解する。
7	学習指導案の作成①	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する。
8	学習指導案の作成②	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する（本時案を中心に）。
9	模擬授業の準備	グループで模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
15		

科目コード	32307				区 分	コア科目			
授業科目名	生活科教育法 [FE2432組用]				担当者名	三堀 仁			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

<授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。 1. 各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解することができる。 2. ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付けることができる。 3. 模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付けることができる。

<授業の方法>

教材研究の段階では、教員による内容の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習: 課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく(1時間程度)。復習: 本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする(1時間程度)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

<教科書>

田村学ほか 2024年 あたらしいせいかつ 上 東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	生活科の指導のポイント	授業場면을例に教師の関わり方を考える。
2	生活科の学習指導①	指導と評価の一体化について理解する。
3	生活科の学習指導②	児童のカードをもとに「学ばせどころ」を考える。
4	ICTの活用	デジタル生活科マップの活用方法を考える。
5	生活科の授業の実際	生活科の授業場面を通して「気付き」について理解する。
6	学習指導案の書き方	生活科の学習指導案の書き方を理解する。
7	学習指導案の作成①	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する。
8	学習指導案の作成②	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する(本時案を中心に)。
9	模擬授業の準備	グループで模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
15		

科目コード	32307				区 分	コア科目			
授業科目名	生活科教育法 [FE2433組用]				担当者名	三堀 仁			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生活科は低学年児童の発達特性を踏まえた教科である。その指導にあたっては、児童の意識の流れを大切にしたり気付きの質を高めたりすることが求められる。「活動あって学びなし」の生活科に陥らないように、指導のポイントを把握することが重要である。本科目では、学習指導要領及び解説に示された事項を確認するとともに、具体的な授業場面を想定し、生活科の教育法を身に付けることを目指す。

<授業の到達目標>

生活科は低学年児童の発達の段階や特性を踏まえた上で見通しをもって学習指導を行わなければならない教科である。したがって以下の点を修得することを目指す。１．各内容やそれを扱う単元における授業のポイントを理解することができる。２．ICT機器を活用するなどして指導技術を身に付けることができる。３．模擬授業や研究協議を通して授業改善の方法を身に付けることができる。

<授業の方法>

教材研究の段階では、教員による内容の解説、授業づくりのポイントの指導を行う。その際、教科書のデジタルコンテンツを開き、実際に体験するとともに、児童に端末の使い方を教えられるようにする。また、デジタル生活科マップなどを紹介し、ICTの活用方法を考えることができるようにする。模擬授業の段階では、グループによる発表と、それを受けての研究協議、リフレクション(自己評価)を行う。発表グループ以外は授業評価を行うとともに、反省点を自分たちのグループに反映するようカリキュラム改善を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

毎回の授業の中で、グループ協議を行うようにする。またグループで指導案を作成し、役割分担しながら模擬授業を行うようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：課題として指示されたテキストのページに目を通し、疑問点は整理しておく（１時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（１時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー３（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度40%、学習状況30%、レポート等30%

<教科書>

田村学ほか ２０２４年 あたらしいせいかつ 上 東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	生活科の指導のポイント	授業場면을例に教師の関わり方を考える。
2	生活科の学習指導①	指導と評価の一体化について理解する。
3	生活科の学習指導②	児童のカードをもとに「学ばせどころ」を考える。
4	ICTの活用	デジタル生活科マップの活用方法を考える。
5	生活科の授業の実際	生活科の授業場面を通して「気付き」について理解する。
6	学習指導案の書き方	生活科の学習指導案の書き方を理解する。
7	学習指導案の作成①	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する。
8	学習指導案の作成②	模擬授業に向けて生活科の学習指導案を作成する（本時案を中心に）。
9	模擬授業の準備	グループで模擬授業の準備をする。
10	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
11	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
12	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
13	模擬授業と研究協議	模擬授業と研究協議を通して、授業づくりの方法を理解し、指導技術の基本を身に付ける。
14	生活科の授業記録 授業のまとめ	生活科の授業記録から授業の流れのポイントをつかむ。授業のまとめをする。
15		

科目コード	32308				区 分	コア科目			
授業科目名	体育科教育法 [FE2431組用]				担当者名	中安 翼			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

これから求められる小学校の体育について考えを深めるとともに、授業を行う上での基本的な指導方法を学ぶ。教室でディスカッションをしたり、実際に体育館で体を動かしたり、模擬授業を行ったりしながら進めていく。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

<授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を正しく理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識を説明できる。2. 学習指導要領に基づき、児童の実態に即した安全で効果的な体育授業をデザインし、指導案を作成できる。3. 模擬授業とその後の協議を通し、授業の成果と課題を客観的に分析した上で、具体的な授業改善案を提示・実践できる。

<授業の方法>

教室でのディスカッションや体育館での実践、模擬授業を通して学びを深める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション、指導案作成、模擬授業

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：（適宜）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。

復習：（適宜）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度 50％レポート・模擬授業等 50％

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 体育編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（講義）	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	小学校体育って何を学ぶ教科？（講義）	小学校で体育を学ぶ意味や目的について考える
3	小学校体育の授業構成（講義）	体育授業の基本的な構成を考える
4	学習指導要領を理解しよう（オンデマンド）	小学校学習指導要領体育編の内容を理解する
5	体育授業を味わおう	子供の視点と共に、指導者側の視点を意識しながら体育の授業を体験する
6	体育授業における「導入」と「めあて」（実技）	導入やめあての立て方を実際にやってみながら考える
7	体育授業における「活動設定」と「活動の説明」（実技）	活動の設定や活動の説明を実際にやってみながら考える
8	体育授業における「活動中の声かけ」と「共有」（実技）	体育授業における活動中の声かけや共有の仕方について実際にやってみながら考える
9	体育授業の教材研究をしよう（講義）	資料をもとに体育授業の教材研究の仕方を考える
10	体育授業の教材研究をしよう（実技）	実際に体を動かしながら体育授業の内容を考える
11	模擬授業をやってみよう①	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
12	模擬授業をやってみよう②	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
13	模擬授業をやってみよう③	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
14	まとめ（講義）	これまでの授業で学んだことを振り返り、小学校体育の授業づくりについて自分の考えをまとめる
15		
16		

科目コード	32308				区 分	コア科目			
授業科目名	体育科教育法 [FE2432組用]				担当者名	中安 翼			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

これから求められる小学校の体育について考えを深めるとともに、授業を行う上での基本的な指導方法を学ぶ。教室でディスカッションをしたり、実際に体育館で体を動かしたり、模擬授業を行ったりしながら進めていく。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

<授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を正しく理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識を説明できる。2. 学習指導要領に基づき、児童の実態に即した安全で効果的な体育授業をデザインし、指導案を作成できる。3. 模擬授業とその後の協議を通し、授業の成果と課題を客観的に分析した上で、具体的な授業改善案を提示・実践できる。

<授業の方法>

教室でのディスカッションや体育館での実践、模擬授業を通して学びを深める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション、指導案作成、模擬授業

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：（適宜）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。

復習：（適宜）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度 50％レポート・模擬授業等 50％

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 体育編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（講義）	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	小学校体育って何を学ぶ教科？（講義）	小学校で体育を学ぶ意味や目的について考える
3	小学校体育の授業構成（講義）	体育授業の基本的な構成を考える
4	学習指導要領を理解しよう（オンデマンド）	小学校学習指導要領体育編の内容を理解する
5	体育授業を味わおう	子供の視点と共に、指導者側の視点を意識しながら体育の授業を体験する
6	体育授業における「導入」と「めあて」（実技）	導入やめあての立て方を実際にやってみながら考える
7	体育授業における「活動設定」と「活動の説明」（実技）	活動の設定や活動の説明を実際にやってみながら考える
8	体育授業における「活動中の声かけ」と「共有」（実技）	体育授業における活動中の声かけや共有の仕方について実際にやってみながら考える
9	体育授業の教材研究をしよう（講義）	資料をもとに体育授業の教材研究の仕方を考える
10	体育授業の教材研究をしよう（実技）	実際に体を動かしながら体育授業の内容を考える
11	模擬授業をやってみよう①	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
12	模擬授業をやってみよう②	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
13	模擬授業をやってみよう③	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
14	まとめ（講義）	これまでの授業で学んだことを振り返り、小学校体育の授業づくりについて自分の考えをまとめる
15		
16		

科目コード	32308				区 分	コア科目			
授業科目名	体育科教育法 [FE2433組用]				担当者名	中安 翼			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

これから求められる小学校の体育について考えを深めるとともに、授業を行う上での基本的な指導方法を学ぶ。教室でディスカッションをしたり、実際に体育館で体を動かしたり、模擬授業を行ったりしながら進めていく。※ただし、受講者の様子等によって下記の授業計画については随時変更することがある。

<授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を正しく理解し、小学校の体育授業を思考する基礎的知識を説明できる。2. 学習指導要領に基づき、児童の実態に即した安全で効果的な体育授業をデザインし、指導案を作成できる。3. 模擬授業とその後の協議を通し、授業の成果と課題を客観的に分析した上で、具体的な授業改善案を提示・実践できる。

<授業の方法>

教室でのディスカッションや体育館での実践、模擬授業を通して学びを深める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループでのディスカッション、指導案作成、模擬授業

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：（適宜）教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。

復習：（適宜）講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、レポートを作成し提出する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・ディスカッション・実技等に対する関心・意欲・態度 50％レポート・模擬授業等 50％

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 体育編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（講義）	授業の概要授業の進め方自らが受けてきた小学校体育
2	小学校体育って何を学ぶ教科？（講義）	小学校で体育を学ぶ意味や目的について考える
3	小学校体育の授業構成（講義）	体育授業の基本的な構成を考える
4	学習指導要領を理解しよう（オンデマンド）	小学校学習指導要領体育編の内容を理解する
5	体育授業を味わおう	子供の視点と共に、指導者側の視点を意識しながら体育の授業を体験する
6	体育授業における「導入」と「めあて」（実技）	導入やめあての立て方を実際にやってみながら考える
7	体育授業における「活動設定」と「活動の説明」（実技）	活動の設定や活動の説明を実際にやってみながら考える
8	体育授業における「活動中の声かけ」と「共有」（実技）	体育授業における活動中の声かけや共有の仕方について実際にやってみながら考える
9	体育授業の教材研究をしよう（講義）	資料をもとに体育授業の教材研究の仕方を考える
10	体育授業の教材研究をしよう（実技）	実際に体を動かしながら体育授業の内容を考える
11	模擬授業をやってみよう①	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
12	模擬授業をやってみよう②	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
13	模擬授業をやってみよう③	模擬授業を行い、授業の成果と課題について考える
14	まとめ（講義）	これまでの授業で学んだことを振り返り、小学校体育の授業づくりについて自分の考えをまとめる
15		
16		

科目コード	3G104				区 分	コア科目			
授業科目名	中小企業論 [週2]				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	3年	配当学期	第2クオ ーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本経済の99.7%を占める中小企業の多面的な姿を学びます。歴史的変遷から中小企業支援策、深刻な事業承継問題、そして家業の資源を活かした「第二創業」による革新などをテーマに講義していきます。単なる知識にとどまらず、日本経済の強みの源泉と課題を浮き彫りにし、次世代の経営に求められる戦略的視点を養うことを目的とします。

<授業の到達目標>

①日本の中小企業が歩んだ歴史的変遷と、それに対応して策定されてきた中小企業政策の意図と仕組みを正しく説明できる。②現在の中小企業が直面する後継者不在の構造的課題を理解し、既存の経営資源を活かして新たな価値を創造する「第二創業」のプロセスを論理的に提示できる。③中小企業の強みと弱みを、財務・マーケティング・地域経済といった多面的な視点から分析し、持続可能な経営戦略を立案する基礎的な力を身につける。

<授業の方法>

講義形式ではあるが、双方向的な学びとなるように工夫していく予定。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの有無：有反転学習、プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：日本経済新聞や授業で提示した経済情報誌等で関連する経済・経営ニュースを調べておくこと（約60分）事後学習：講義で学んだキーワードを専門書等で調べ、自分の理解度を深めておくこと（約60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、現代経営学科のDP2「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP3「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：30%③授業内確認テスト：40%上記の総合点で評価する。

<教科書>

使用しません。

<参考書>

適宜紹介します。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	中小企業の定義、日本経済における役割と現状の概観
2	日本中小企業史①	戦前～戦後復興期：二重構造論と「下請け」構造の形成
3	日本中小企業史②	高度経済成長期～バブル崩壊：集積の形成と固有技術の発展
4	中小企業政策の変遷	「弱者救済」から「成長支援・環境整備」へのパラダイムシフト
5	中小企業基本法と支援体制	法的枠組みと、商工会議所・よろず支援拠点などの実務
6	中小企業の経営戦略	ニッチ市場での差別化戦略、ブランド化、CSV経営
7	地域経済と産業集積	東大阪や燕三条など、地域に根差した「産地」の強みと課題
8	中小企業の財務と資金調達	信用補充制度、プロパー融資、補助金・助成金の仕組み
9	事業承継問題①（現状）	大廃業時代の到来、親族内継承の減少と社会的損失
10	事業承継問題②（手法）	M&A、親族外承継、サードファンドの台頭
11	第二創業の理論と実践	既存の経営資源（ヒト・モノ・カネ）を活かした新規事業開発
12	ベンチャー企業とスタートアップ	中小企業とスタートアップの違い、エコシステムの構築
13	デジタル化（DX）とグローバル化	生産性向上への挑戦と、海外展開による販路開拓
14	全体のまとめ	総復習と確認問題
15		
16		

科目コード	28118				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	都市計画論				担当者名	阿部 宏史			
配当年次	1年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

都市は成長、発展、衰退を繰り返しながら継続的に変化しており、国や自治体による公共経営では、都市の持続的発展を維持していくために、人口、産業、市街地などの変化を計画的、戦略的にコントロールしていくことが求められている。本講座では、身近な対象都市として岡山市と周辺地域を取り上げ、最近の都市づくりや都市計画の仕組みを分かりやすく解説する。また、最近の都市政策についてグループワークを行い、持続可能な都市づくりに向けた各自の提言をまとめる。講義全体を通して、自治体の都市づくりに従事する人材として、基礎的素養を身につ

<授業の到達目標>

以下の3項目を到達目標とする。1. 都市の社会経済的変化と都市問題の発生原因について概要を説明できる。2. 自治体の都市づくりにおいて適用される政策や計画の概要を説明できる。3. 具体都市を対象として、都市づくりの課題と方策について提言を述べる。

<授業の方法>

第1～7回の授業では、講義や演習を通じて、最近の都市問題に対する理解を深める。第8回の授業では、都市問題に関する理解と考察に基づいて、グループ単位での自由闊達な意見交換を行う。第9～11回の授業では、最近の都市計画について概要と先進事例を解説する。第12～14回の授業では、岡山市や各自が比較対象として選択した自治体における都市づくりの概要と提言をまとめ、グループ討論を行う。①ディスカッション、②グループワーク、③プレゼンテーション、場合によりオンライン授業を併用していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

到達目標の区切りごとに、グループワーク、プレゼンテーションなどによるアクティブ・ラーニングを用いる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業テーマに沿って、国や自治体のホームページに掲載されている都市計画や都市づくりの事業に関する資料を紹介し、調査や振り返りを行う。予習・復習を合わせて毎週4時間程度の学習時間とし、成績評価に反映する。都市づくりの課題や都市計画を体系的に学習したい人のために、専門的な参考図書を紹介する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革に参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績評価は、授業参加態度 50%、授業経過レポート30%、最終報告評価 20%程度とする

<教科書>

<参考書>

国土交通省都市局都市計画課 政府の所管省庁である国土交通省が都市計画解説サイト https://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/toshi_city_plan_tk_000043.htmlに都市計画の諸制度を説明するパワーポイント資料を掲載している。

岡山県土木部都市計画課 岡山県・土木部都市計画課が、都市計画制度の解説書として「岡山県の都市計画」をPDFで掲載している。 <https://www.pref.okayama.jp/page/672085.html>

岡山市都市整備局都市計画課 岡山市・都市計画課が、岡山市で策定・実施している都市づくりや都市計画の制度を次に解説している。 <https://www.city.okayama.jp/0000031574.html>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、評価方法などを説明する。
2	都市と都市圏	具体例として、岡山市、倉敷市などの都市と都市圏の形成について考察する。
3	都市の成長・衰退と都市問題①人口	人口に着目して、少子化・高齢化、都市の成長・衰退と持続可能な発展における人口の課題を考察する。
4	都市の成長・衰退と都市問題②産業経済	都市の産業経済に着目して、都市の成長・衰退との関係を考察する。
5	都市の成長・衰退と都市問題③土地利用・住宅	都市における市街地形成と土地利用・住宅問題の発生について考察する。
6	都市の成長・衰退と都市問題④交通	自家用交通手段と公共交通手段を中心に都市交通の課題について考察する。
7	都市の成長・衰退と都市問題⑤都市環境	都市で発生している環境問題と地球環境への影響について考察する。
8	都市問題の発生原因と解決可能性	解説した都市問題への対策について各自の意見をまとめ、グループワークによる意

9	都市計画の必要性と概要①市街地整備とまちづくり	見交換を行う。
10	都市計画の必要性と概要②都市施設整備とまちづくり	都市計画のうち、市街地整備の概要を解説するとともに、国内外の先進事例を紹介する
11	都市計画の必要性と概要③景観・環境の保全とまちづくり	都市計画のうち、都市施設整備の概要を解説するとともに、国内外の先進事例を紹介する。
12	岡山市都市計画マスタープランの比較・考察	都市計画のうち、景観・環境保全の概要を解説するとともに、国内外の先進事例を紹介する。
13	岡山市の都市づくりに関する提言のまとめ	岡山市で策定されてきた都市計画マスタープランの概要版を比較・検討し、都市づくりの特徴と課題を考察する。
14	まとめと成果発表	各自の考察結果に基づいてグループワークを行い、グループで提言のとりまとめを行う。
15		グループ単位で、岡山市の都市づくりに対する提言を行い、グループ間での意見交換、全体総括を行う。
16		

科目コード	21329				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [PP2431組用、PS2421組用]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校の教育活動全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教

<授業の到達目標>

「特別の教科 道徳」を要として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第1章総則」の2）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道徳

<授業の方法>

課題や資料は、授業時に配布する（欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること）。授業では、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科 道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める（両者ともに課題として評価する）。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科 道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自ら設計した学習指導案を、マイクロ模擬授業ないし発表にて披露し、仲間と共に相互評価を行いながら、授業設計力・授業分析力を高める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素あり<内容>・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間を紹介し、相互評価を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<事前>講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探しておく（所用時間は30分～1時間程度）。<事後>講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は1時間程度／400字～600字／※評価の観点・基準は下記参照）。<事中> ①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものは加点する）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（※評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

<評価対象>①毎回の課題（必須）… 毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）… クオリティの高いものは、加点する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）… 実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）… すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点30点分の算定基礎とする）。<

<教科書>

木野正一郎著（2016年）『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』 みくに出版株式会社
文部科学省（平成29年7月）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』 あかつき教育図書
文部科学省（2018年3月）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』 教育出版

<参考書>

押谷由夫（2011年）『道徳性形成・徳育論』 NHK出版（一般財団法人 放送大学教育振興会）
柳沼良太著（2019年）『プラグマティズム、公共、道徳』 株式会社 あいり出版
柳沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』 株式会社 図書文化社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容

1	・ガイダンス・道徳教育とは何か ー道徳教育の理論と実践を学ぶにあたってー	アリストテレスの「人間はポリスの動物である」という問いから、社会になぜ道徳教育が必要なのか、その理由を考える。（キーワード：アリストテレスの中庸論、道と徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論（第2回に回る可能性あり））
2	・道徳教育の現状と課題 ーいのちの尊厳を守る道徳教育ー	なぜ「特別の教科 道徳」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との関連で考える。（キーワード：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育」と「特別の教科 道徳」）
3	・学習指導要領の理解Ⅰ ー「学校の教育活動全体で行う道徳教育」「特別の教科 道徳」の目標・内容・指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が設置された意味の面からその理念を理解し、道徳教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道徳教育を構想する。（キーワード：「要」規定、価値の葛藤（モラル・ジレンマ）、考え議論する道徳、道徳性の三側面形成理論）
4	・学習指導要領の理解Ⅱ ー道徳的価値の内容項目・全体計画・指導計画ー	道徳的価値の内容項目（最大で22項目）を、項目ごとに「考え議論する道徳」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道徳的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。（キーワード：道徳的価値の内容項目（低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	・道徳教育の歴史と課題Ⅰ ー古代思想から近世までー	日本における道徳教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道徳教育観（道徳的価値の生成過程）を学ぶ。（キーワード：諸子百家の思想（儒家・墨家・道家・法家）、商人倫理、朱子学）
6	・道徳教育の歴史と課題Ⅱ ー近世から現代までー	日本における道徳教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道徳教育の範囲で学ぶ。（キーワード：翻訳道徳、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道徳、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育、道徳の時間、「特別の教科 道徳」）
7	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅰ ー発達心理学編ー	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の在り方を考える。（キーワード：発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機）
8	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅱ ー道徳性の発達心理学・社会心理学編ー	発達心理学の理論を学び、道徳性の発達を加味した道徳教育の在り方を考える。（キーワード：コールバーグ、6段階道徳性発達理論、デュルケーム、社会心理学、アノミー）
9	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ー「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー	教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ（マトリックス法・イメージマッピング）、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）
10	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ー「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー（つづき）	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ（マトリックス法・イメージマッピング）、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）
11	・道徳教育の理論と方法Ⅱ<実践の体験> ーSDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー（つづき）	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（注）ここでは、「国際理解・国際親善」という道徳的価値を教えるための素地を学修する。（キーワード：問題解決型道徳、総合探究型道徳、ソクラテスの対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ（マトリックス法・イメージマッピング）、SDGs、「SDGs探究」道徳はがき新聞）
12	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅰ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材を研究するー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道徳」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり（つづく））
13	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅱ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込むー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（つづく））
14	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅲ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させるー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（完成））
15		

科目コード	21329				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [PP2432組用、PS2422組用]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校の教育活動全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教

<授業の到達目標>

「特別の教科 道徳」を要として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第1章総則」の2）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道徳

<授業の方法>

課題や資料は、授業時に配布する（欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること）。授業では、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科 道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める（両者ともに課題として評価する）。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科 道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自ら設計した学習指導案を、マイクロ模擬授業ないし発表にて披露し、仲間と共に相互評価を行いながら、授業設計力・授業分析力を高める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素あり<内容>・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間を紹介し、相互評価を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<事前>講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探しておく（所用時間は30分～1時間程度）。<事後>講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は1時間程度／400字～600字／※評価の観点・基準は下記参照）。<事中> ①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものは加点する）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（※評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

<評価対象>①毎回の課題（必須）... 毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）... クオリティの高いものは、加点する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）... 実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）... すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点30点分の算定基礎とする）。<

<教科書>

木野正一郎著（2016年）『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』 みくに出版株式会社
文部科学省（平成29年7月）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』 あかつき教育図書
文部科学省（2018年3月）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』 教育出版

<参考書>

押谷由夫（2011年）『道徳性形成・徳育論』 NHK出版（一般財団法人 放送大学教育振興会）
柳沼良太著（2019年）『プラグマティズム、公共、道徳』 株式会社 あいり出版
柳沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』 株式会社 図書文化社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容

1	・ガイダンス・道徳教育とは何か ー道徳教育の理論と実践を学ぶにあたってー	アリストテレスの「人間はポリスの動物である」という問いから、社会になぜ道徳教育が必要なのか、その理由を考える。（キーワード：アリストテレスの中庸論、道と徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論（第2回に回る可能性あり））
2	・道徳教育の現状と課題 ーいのちの尊厳を守る道徳教育ー	なぜ「特別の教科 道徳」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との関連で考える。（キーワード：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育」と「特別の教科 道徳」）
3	・学習指導要領の理解Ⅰ ー「学校の教育活動全体で行う道徳教育」「特別の教科 道徳」の目標・内容・指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が設置された意味の面からその理念を理解し、道徳教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道徳教育を構想する。（キーワード：「要」規定、価値の葛藤（モラル・ジレンマ）、考え議論する道徳、道徳性の三側面形成理論）
4	・学習指導要領の理解Ⅱ ー道徳的価値の内容項目・全体計画・指導計画ー	道徳的価値の内容項目（最大で22項目）を、項目ごとに「考え議論する道徳」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道徳的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。（キーワード：道徳的価値の内容項目（低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	・道徳教育の歴史と課題Ⅰ ー古代思想から近世までー	日本における道徳教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道徳教育観（道徳的価値の生成過程）を学ぶ。（キーワード：諸子百家の思想（儒家・墨家・道家・法家）、商人倫理、朱子学）
6	・道徳教育の歴史と課題Ⅱ ー近世から現代までー	日本における道徳教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道徳教育の範囲で学ぶ。（キーワード：翻訳道徳、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道徳、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育、道徳の時間、「特別の教科 道徳」）
7	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅰ ー発達心理学編ー	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の在り方を考える。（キーワード：発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機）
8	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅱ ー道徳性の発達心理学・社会心理学編ー	発達心理学の理論を学び、道徳性の発達を加味した道徳教育の在り方を考える。（キーワード：コールバーグ、6段階道徳性発達理論、デュルケーム、社会心理学、アノミー）
9	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ー「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー	教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ（マトリックス法・イメージマッピング）、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）
10	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ー「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー（つづき）・道徳教育の理論と方法Ⅱ<実践の体験> ーSDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ（マトリックス法・イメージマッピング）、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合さ
11	・道徳教育の理論と方法Ⅱ<実践の体験> ーSDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー（つづき）	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（注）ここでは、「国際理解・国際親善」という道徳的価値を教えるための素地を学修する。（キーワード：問題解決型道徳、総合探究型道徳、ソクラテスの対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ（マトリックス法・イメージマッピング）、SDGs、「SDGs探究」道徳はがき新聞）
12	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅰ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材を研究するー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道徳」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり（つづく））
13	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅱ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込むー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（つづく））
14	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅲ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させるー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（完成））
15		

16		

科目コード	21329				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法 [PP2433組用,FC用]				担当者名	木野 正一郎			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、初等・中等学校における道徳教育の内容や指導法について理論的に理解し、初等・中等学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な資質・能力（コンピテンシー）を育成することをめざす。現代社会は価値の多様化社会とも呼ばれ、自分の生き方や他者との関係の在り方等がきわめて不明確となりやすい傾向にある。それだけに、初等・中等学校における道徳教育はきわめて重要な課題であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠なものであると考える。（注）「学校の教育活動全体で行う道徳教育」ならびに「特別の教

<授業の到達目標>

「特別の教科 道徳」を要として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育（学習指導要領「第1章総則」の2）」の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって、実践的指導力を培うことができるようにする。めざす姿は、子ども自らが主体的・対話的に仲間と共に「考え議論する」ような道徳科の探究的な学習を授業設計し、その評価を効果測定によって自己分析できるようにすることである。本講義では、従来型の「徳目主義」・「読み物道徳

<授業の方法>

課題や資料は、授業時に配布する（欠席者・実習参加者にも課題を課すため、Googleクラスルームでも配信する。著作権法・肖像権法の関係で他に流出しないように注意すること）。授業では、「学校の教育活動全体で行う道徳教育」の概要や「特別の教科 道徳」の指導方法について理解したことを、ミニレポートにまとめたり、グループワークで伝えあったりしながら理解を深める（両者ともに課題として評価する）。また、実践的指導力の向上を図るために「特別の教科 道徳」の学習指導案（オリジナルの問題解決型学習）を授業設計する。さらに、自ら設計した学習指導案を、マイクロ模擬授業ないし発表にて披露し、仲間と共に相互評価を行いながら、授業設計力・授業分析力を高める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素あり<内容>・理論編では、随時、ペアワーク、グループワークを行う。・実践編では、担当教員の実践事例を学生が行う際に、心情分析、SWOT分析、マトリックス分析、イメージマップ分析等のワークショップを行う。・授業設計編では、学習指導案（すべての講義内容を反映させたオリジナルの問題解決型学習を設計）の制作を演習的に行う。・授業分析編では、自ら作成したオリジナル指導案を仲間を紹介し、相互評価を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

<事前>講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点などを探しておく（所用時間は30分～1時間程度）。<事後>講義内容についての課題を出すので、自分の経験と結びつけて回答する（所用時間は1時間程度／400字～600字／＊評価の観点・基準は下記参照）。<事中> ①授業中は、集中力を高めるためメモを取ることを勧める（ノートやメモ点はハイクオリティなものとは加点する）。②実践編で行う各種ワークショップに参加する（＊評価の観点・基準は下記参照）。③授業設計編では学習指導案制作を行い、授業紹介時には授

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

<評価対象>①毎回の課題（必須）... 毎回10点で評価する（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。②毎回のノート、メモ（任意）... クオリティの高いものは、加点する。③アクティブラーニングの参加状況（必須）... 実践編のアクティブラーニングでの参加意欲、発言内容等を、毎回10点で評価（最終的に評点70点分の算定基礎とする）。④オリジナルの問題解決型学習指導案のクオリティ（必須）... すべての講義で学んだ理論・社会背景などを加味した内容になっているかを30点分で評価する（最終的に評点30点分の算定基礎とする）。<

<教科書>

木野正一郎著（2016年）『新発想！道徳のアクティブ・ラーニング型授業はこれだ』 みくに出版株式会社
文部科学省（平成29年7月）『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』 あかつき教育図書
文部科学省（2018年3月）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編：平成29年7月』 教育出版

<参考書>

押谷由夫（2011年）『道徳性形成・徳育論』 NHK出版（一般財団法人 放送大学教育振興会）
柳沼良太著（2019年）『プラグマティズム、公共、道徳』 株式会社 あいり出版
柳沼良太・梅澤真一・山田誠著（2018年）『「現代的な課題」に取り組む道徳授業』 株式会社 図書文化社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容

1	・ガイダンス・道徳教育とは何か ー道徳教育の理論と実践を学ぶにあたってー	アリストテレスの「人間はポリスの動物である」という問いから、社会になぜ道徳教育が必要なのか、その理由を考える。（キーワード：アリストテレスの中庸論、道と徳、仏教の八正道、カントの実践理性と自由意志論（第2回に回る可能性あり））
2	・道徳教育の現状と課題 ーいのちの尊厳を守る道徳教育ー	なぜ「特別の教科 道徳」が設置されたのかを、いのちの尊厳を守るという視点との関連で考える。（キーワード：大津いじめ事件、いじめ防止対策推進法、情報モラル教育、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育」と「特別の教科 道徳」）
3	・学習指導要領の理解Ⅰ ー「学校」の教育活動全体で行う道徳教育」「特別の教科 道徳」の目標・内容・指導上の留意点ー	学習指導要領「特別の教科 道徳」が設置された意味の面からその理念を理解し、道徳教育のカリキュラム的な構造を理解する。各教科・各領域の中で行う道徳教育を構想する。（キーワード：「要」規定、価値の葛藤（モラル・ジレンマ）、考え議論する道徳、道徳性の三側面形成理論）
4	・学習指導要領の理解Ⅱ ー道徳的価値の内容項目・全体計画・指導計画ー	道徳的価値の内容項目（最大で22項目）を、項目ごとに「考え議論する道徳」を構想する。学習指導要領の解説を見て、道徳的価値の内容項目から単元や授業の目標を作る。（キーワード：道徳的価値の内容項目（低学年19項目、中学年20項目、高学年22項目、中学生22項目）、道徳教育推進教諭、全体計画、指導計画、評価の在り方）
5	・道徳教育の歴史と課題Ⅰ ー古代思想から近世までー	日本における道徳教育の変遷史を儒教や商人倫理との関係でおさえ、時代ごとに要請された道徳教育観（道徳的価値の生成過程）を学ぶ。（キーワード：諸子百家の思想（儒家・墨家・道家・法家）、商人倫理、朱子学）
6	・道徳教育の歴史と課題Ⅱ ー近世から現代までー	日本における道徳教育の変遷史を、日本の近代化から現代の道徳教育の範囲で学ぶ。（キーワード：翻訳道徳、教学聖旨、元田永孚、教育勅語、修身科、戦後の教育改革・民主化、社会科道徳、「学校」の教育活動全体で行う道徳教育」、道徳の時間、「特別の教科 道徳」）
7	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅰ ー発達心理学編ー	発達心理学の理論を学び、発達段階に応じた道徳教育の在り方を考える。（キーワード：発達心理学、ピアジェ、認知発達理論、エリクソン、アイデンティティの確立、アイデンティティの危機）
8	・道徳性の発達理論を踏まえた道徳教育の編成原理Ⅱ ー道徳性の発達心理学・社会心理学編ー	発達心理学の理論を学び、道徳性の発達を加味した道徳教育の在り方を考える。（キーワード：コールバーグ、6段階道徳性発達理論、デュルケーム、社会心理学、アノミー）
9	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ー「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー	教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ（マトリックス法・イメージマッピング）、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）
10	・道徳教育の理論と方法Ⅰ<実践の体験> ー「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー（つづき）	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の要として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（キーワード：道徳性の三側面形成理論、問題解決型道徳、教科で行う道徳教育、心情理解ワークショップ、長短分析ワークショップ（マトリックス法・イメージマッピング）、実生活ブレイクダウン・ワークショップ、道徳はがき新聞）
11	・道徳教育の理論と方法Ⅱ<実践の体験> ーSDGsや国際理解教育に関連する「小単元ユニット型・問題解決型ワークショップ道徳」を体験するー（つづき）	・教科で行う道徳教育を受けて、「特別の教科 道徳」が道徳教育の「要」として、補い、深め、相互の関連を考えて発展・統合させるための授業の在り方を担当教員の実践事例から体験的に学ぶ。（注）ここでは、「国際理解・国際親善」という道徳的価値を教えるための素地を学修する。（キーワード：問題解決型道徳、総合探究型道徳、ソクラテスの対話、SWOT分析ワークショップ、ミニ国連ワークショップ（マトリックス法・イメージマッピング）、SDGs、「SDGs探究」道徳はがき新聞）
12	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅰ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材を研究するー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：教材の把握⇒従来型の方法論理解⇒「考え議論する道徳」のアイディアづくり⇒単元目標づくり⇒三観点・評価軸づくり（つづく））
13	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅱ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材をもとに指導案に落とし込むー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）を作る。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（つづく））
14	・問題解決型道徳、総合探究型道徳の構想Ⅲ<指導案制作の体験> ー小学校高学年のある教材をもとに指導案を完成させるー	小学校高学年のある教材をもとに、従来型の道徳教育（徳目主義・読み物道徳）を理解した上で、「特別の教科 道徳」が求めている「考え議論する道徳」（問題解決型道徳、総合探究型道徳）を完成させる。この際、これまでの授業で学んだ知識・スキルをフル活用する。（作業行程：⇒教材観づくり（小単元ユニットに挑戦する人は単元観づくり）⇒指導上の留意点づくり⇒授業目標づくり⇒「考え議論する道徳」のオリジナル授業の展開づくり（完成））
15		

科目コード	51019				区 分	コア科目			
授業科目名	特別支援教育実習事前・事後指導				担当者名	林 栄昭／大野 浩志／高橋 章二			
配当年次	3年	配当学期	前期・後期	単位数	1.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

特別支援学校（知的障害・肢体不自由・病弱）（以下、「特別支援学校」という。）における教育実習を行う意義や目的についての理解を深め、教育実習生としての心構えを養う。事前指導では、教育実習先での任務や授業を行うために必要な教職専門知識・技能などを学ぶとともに、授業実践力を身に付けることを目的とする。実習後には、教育実習の成果と課題を自己評価し、教職を志す者としての資質の向上を図る。（教育経営学科ディプロマ・ポリシーのDP3、DP4に関連）

<授業の到達目標>

・特別支援学校における教育実習の意義と目的について理解を深めることができる。・特別支援学校で学ぶ児童生徒の実態を理解できるとともに、それを踏まえた学習指導案の作成や授業の実施、評価ができる。・教育実習における取組を自己評価し、教職を志す者として必要な資質や解決すべき課題について理解することができる。

<授業の方法>

（１）特別支援学校における教育の実践に関する講義（２）特別支援学校における実践的な授業（設計、実施、評価、改善）に関する演習（模擬授業）（３）特別支援学校の教育実践に必要な課題、解決に関する講義及び演習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・講義／課題解決型授業／グループワーク／プレゼンテーション／ディスカッション

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・特別支援学校教育実習の内容や方法、留意事項等について「教育実習の手引き（特別支援学校）」に記載する関連事項や内容もとに1時間程度予習する。・模擬授業実施に当たっての指導案の作成・修正・確認、教材・教具の準備等を行うために1～1.5時間程度予習する。・教育実習後の成果報告のために、プレゼンテーション資料を2時間程度で作成する準備学習をする。・毎回の授業後には、授業の振り返り課題を課すため、各回の授業内容や模擬授業の反省・まとめについて1時間程度復習する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 20%、模擬授業（指導案作成、貢献度） 50%、実習後報告 30%

<教科書>

「教育実習の手引き（特別支援学校）」等の資料を適宜配布する。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業オリエンテーション	授業の概要及び日程、特別支援教育に携わる教師として必要な視点及び実習先の情報整理と実施計画について理解する。
2	特別支援学校の組織と仕事	特別支援学校の組織の概要と仕事の内容、行事、授業観察について理解する。
3	学級経営、授業づくりの基本	発達年齢と生活年齢の双方を意識した学級経営と、個々の実態及びその集団の特性に応じた教科等の授業づくりの基本について理解する。
4	模擬授業の設計①	特別支援学校の学習指導案の書き方に沿って、個人で模擬授業の指導案を作成する。
5	模擬授業の設計②	特別支援学校の学習指導案の書き方に沿って、グループで模擬授業の指導案について検討、作成する。
6	模擬授業の実施①	グループで作成した模擬授業の指導案に基づき、模擬授業を実施し、省察や知見の共有を行う。
7	模擬授業の実施②	グループで作成した模擬授業の指導案に基づき、模擬授業を実施し、省察や知見の共有を行う。
8	模擬授業の改善①	実施した模擬授業の評価、反省をもとに、個人及びグループで指導案を修正し、再度模擬授業を実施して、省察や知見の共有と深化を図る。
9	模擬授業の改善②	実施した模擬授業の評価、反省をもとに、個人及びグループで指導案を修正し、再度模擬授業を実施して、省察や知見の共有と深化を図る。
10	事前指導のまとめ	「課題の個別化・活動の集団化」の観点から、模擬授業の総括をし、質の高い授業に関する検討を行う。
11	教育実習の報告①	各自が実施した教育実習の概要とその取り組み方について報告（発表）するとともに

		に、それらをもとに、教育実習で得られた学び（成果）と今後に学修すべき課題に関するディスカッションを行う。
12	教育実習の報告②	各自が実施した教育実習の概要とその取り組み方について報告（発表）するとともに、それらをもとに、教育実習で得られた学び（成果）と今後に学修すべき課題に関するディスカッションを行う。
13	教育実習の報告③	各自が実施した教育実習の概要とその取り組み方について報告（発表）するとともに、それらをもとに、教育実習で得られた学び（成果）と今後に学修すべき課題に関するディスカッションを行う。
14	教育実習後のまとめ	教育実習の省察から得られた知見を整理し、今後の学修に生かす成果と課題、課題解決に向けた取組についてまとめる。
15		
16		

科目コード	3F203				区 分	コア科目			
授業科目名	内科学Ⅱ				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

医療従事者（柔道整復師）として、基礎的な医療知識を教科書を中心に取り組む。

<授業の到達目標>

医療従事者として、総合的な医療知識を身に受ける。基本的な医療用語を確実に理解する。

<授業の方法>

教科書と共に必要に応じてプリントを配布し、それに基づいて講義する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回授業内容の準備（1時間程度）、振り返りレポートの提出（2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

振り返りレポート10%、定期試験90%

<教科書>

医歯薬出版株式会社 「一般臨床医学」

<参考書>

河合作成プリント

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各論 生活習慣病	肥満・肥満症
2	各論 生活習慣病	高血圧
3	各論 生活習慣病	脂質異常症
4	各論 代謝疾患	耐糖能異常
5	各論 内分泌疾患	甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進
6	各論 循環器	先天性心疾患
7	各論 循環器	虚血性心疾患など
8	各論 血液疾患	白血病など
9	各論 血液疾患	貧血など
10	各論 膠原病	リウマチ
11	各論 腎・尿路疾患	ネフローゼ症候群、腎不全
12	各論 腎・尿路疾患	膀胱炎など
13	各論 神経疾患	パーキンソン病など
14	各論 神経疾患	アルツハイマー病、認知症
15		
16		

科目コード	3C203				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語学Ⅱ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

この授業では日本語の文法、意味体系、語用論的規範の知識を学ぶ。日本語の特徴を理解することによって、客観的に日本語を理解し、日本語学習者を指導するための視点を養う。日本語学Ⅰを習得した上で履修すること。

<授業の到達目標>

本科目の到達目標は以下の3点である。①日本語の文法体系を理解すること②日本語の意味体系を理解し、分析できること③日本語の語用論的規範を理解し、分析できること

<授業の方法>

基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが、適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループやクラスでのディスカッション、発表を実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書の該当ページを読む（30分程度）復習：用語を復習し、定着を図る（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度20%、課題提出40%、発表・プレゼンテーション20%、試験20%発表やプレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法の説明
2	文法体系 (1)	品詞
3	文法体系 (2)	文型、助詞
4	文法体系 (3)	自動詞と他動詞、ヴォイス
5	文法体系 (4)	テンス、アスペクト
6	文法体系 (5)	モダリティ、待遇表現
7	文法体系 (6)	複文の構造
8	意味体系 (1)	類義語・対義語
9	意味体系 (2)	多義語・意味変化・慣用句
10	意味体系 (3)	比喩表現
11	語用論的規範 (1)	意味論と語用論、発話行為と間接発話行為
12	語用論的規範 (2)	協調の原理と会話の公理、ボライトネス理論
13	語用論的規範 (3)	会話分析・談話分析、結束性・照応・推論
14	まとめと小テスト (3)	意味体系・語用論的規範のまとめ
15		
16		

科目コード	39107				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	日本語教育概論Ⅱ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

近年、日本語教育の現場と日本語学習者の多様化は著しく進んでおり、日本語教師には幅広い知識と、その知識をもとにそれぞれの現場に柔軟に対応する力が求められる。授業では、国内と海外の日本語教育の現状、世界と日本の社会や文化など、日本語教育を取り巻く様々な情報を資料やデータに基づいて概説する。また、講義内容をもとに各自が調べ、発表することにより、理解を深める。

<授業の到達目標>

到達目標は以下の3点である。1. 日本語教育を取り巻く様々な情報を整理し、全体像を把握する。2. 日本語教師に求められる資質について考え、日本語教師になる心構えを作る。3. 日本語教師になるために大学生活をどう過ごし、いつ何をすべきかについて考える。

<授業の方法>

基本的にハンドアウトを用いて講義形式で行うが、適宜グループ討議や学生によるプレゼンテーションなど、学生主体の活動を取り入れる。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

適宜グループ発表やプレゼンテーションなどの活動を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、各テーマについて事前にテキストを読むなどして知識を得ておく（約30分）。授業後は、授業内で出された課題について調べ、まとめる（約60分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加態度20%、課題提出50%、中間・期末課題または発表20%、まとめテスト10% ※まとめテストは13回目に実施する。フィードバックは授業内で行う。期末課題についてはGoogle Classroomでフィードバックする。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション日本語教育の概況	授業の概要と評価方法授業の概要と評価方法／日本語学習者とは／日本語教師とは／国語教育や英語教育との違い
2	日本語教師の資質	日本語教育施策にみられる「日本語教師の資質」とは
3	日本語教師として働くには（1）	学生による調査発表：日本語教師の仕事とは
4	日本語教師として働くには（2）	学生による調査発表：日本語教師の募集状況
5	日本語教育能力検定試験	日本語教育能力検定試験の概要と内容の変遷
6	年少者に対する日本語教育日本の外国籍住民（1）	年少者に対する日本語教育の方法や問題点
7	年少者に対する日本語教育日本の外国籍住民（2）	バイリンガリズム
8	日本語教師の役割	学習者支援学習者オートノミーの育成
9	多文化共生社会（1）	地域社会と共生
10	多文化共生社会（2）	やさしい日本語
11	日本語教育史	戦前・戦中・戦後の日本語教育史
12	世界事情と日本事情	世界の社会と文化、日本の社会と文化
13	まとめテスト	まとめテスト
14	日本語教育関連事業日本語教師海外派遣プログラム	日本語教育関連機関青年海外協力隊、日系社会青年ボランティア、日本語パートナーズなどの各種プログラムの紹介、体験談
15		

科目コード	34111				区 分	コア科目			
授業科目名	乳児保育Ⅱ [A]				担当者名	深井 弘子／服部 由美子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

乳児保育の実践について理解を深めると共に、乳幼児の発達に応じた保育環境の構成や保育計画・保育記録について学び、保育実践力の基礎を習得する。多様化する乳児保育の現場に求められる保育者の専門的職能について理解を深め、保護者や関係機関との連携についても学ぶ。模擬乳児モデル（リアルケアベビー）を用いて具体的な援助の仕方を学んだり、実践につながる保育技術の習得を目指す。

<授業の到達目標>

1. 乳児保育と保育者の職能について理解する。2. 3歳未満児の保育内容や方法について学び、援助の基本技術を習得する。3. 指導計画作成に必要な基礎知識を習得する。4. 模擬保育を通して実践的な感覚を養うと共にグループワークを通して課題を発見、共有する。

<授業の方法>

・今日のテーマの確認を行い、事前学習の成果を発表し合う。・講義を聞いたり、グループ演習を行ったりし、その後、分かったことや考えたこと、難しかったことについてグループワークを行う。・小グループで発表された意見の共有をする。・演習、講義内で不明な部分の解説と質疑を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：発表やグループワークを実施する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に提示されたテーマに沿って自主学習を行い、Googleクラスルームにて提示された課題に取り組む。（90分程度）復習：授業の振り返りとグループワークで示される次の課題に取り組む（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習）で作成するワークシートや事前課題（30%）、グループワークや演習の取り組み（30%）、指導計画作成（20%）や小テスト（20%）・ワークシートや小テストで①キーワード（授業内の内容）②文章の構成③自身の考えより評価し、学生へフィードバックをする。

<教科書>

厚生労働省（2017） 保育所保育指針解説 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル館

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の目標を理解する。乳児保育Ⅰの学びを振り返る
2	乳児保育の基本について考える	乳児保育Ⅰの学びの中で乳児保育の基本を考える。グループワーク実施
3	乳児保育で求められる保育者	保育実践における保育者の在り方についてグループワーク
4	乳児保育の指導計画①	デイリープログラムの作成
5	乳児保育の指導計画②	0歳児の指導計画
6	乳児保育の指導計画③	1歳児の指導計画
7	乳児保育の指導計画④	2歳児の指導計画
8	乳児保育の実践①	0歳児の生活について考えよう
9	乳児保育の実践②	子どもの目線になって考えよう
10	乳児保育の実践③	2歳児の事例から保育者の関わりを考える
11	保育所以外の施設における乳児保育	保育所以外の施設の乳児保育の実践について考える
12	保護者との連携や社会資源	乳児保育における社会的資源について考える
13	乳児保育から幼児期の保育への繋がり	0、1、2歳児以降の保育との関連について考える
14	まとめ	乳児保育に求められることについてグループワーク・まとめのレポート
15		
16		

科目コード	34111				区 分	コア科目			
授業科目名	乳児保育Ⅱ [B]				担当者名	深井 弘子／服部 由美子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

乳児保育の実践について理解を深めると共に、乳幼児の発達に応じた保育環境の構成や保育計画・保育記録について学び、保育実践力の基礎を習得する。多様化する乳児保育の現場に求められる保育者の専門的職能について理解を深め、保護者や関係機関との連携についても学ぶ。模擬乳児モデル（リアルケアベビー）を用いて具体的な援助の仕方を学んだり、実践につながる保育技術の習得を目指す。

<授業の到達目標>

1. 乳児保育と保育者の職能について理解する。2. 3歳未満児の保育内容や方法について学び、援助の基本技術を習得する。3. 指導計画作成に必要な基礎知識を習得する。4. 模擬保育を通して実践的な感覚を養うと共にグループワークを通して課題を発見、共有する。

<授業の方法>

・今日のテーマの確認を行い、事前学習の成果を発表し合う。・講義を聞いたり、グループ演習を行ったりし、その後、分かったことや考えたこと、難しかったことについてグループワークを行う。・小グループで発表された意見の共有をする。・演習、講義内で不明な部分の解説と質疑を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：発表やグループワークを実施する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：事前に提示されたテーマに沿って自主学習を行い、Googleクラスルームにて提示された課題に取り組む。（90分程度）復習：授業の振り返りとグループワークで示される次の課題に取り組む（30分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業（予習・復習）で作成するワークシートや事前課題（30%）、グループワークや演習の取り組み（30%）、指導計画作成（20%）や小テスト（20%）・ワークシートや小テストで①キーワード（授業内の内容）②文章の構成③自身の考えより評価し、学生へフィードバックをする。

<教科書>

厚生労働省（2017） 保育所保育指針解説 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル館

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本授業の目標を理解する。乳児保育Ⅰの学びを振り返る
2	乳児保育の基本について考える	乳児保育Ⅰの学びの中で乳児保育の基本を考える。グループワーク実施
3	乳児保育で求められる保育者	保育実践における保育者の在り方についてグループワーク
4	乳児保育の指導計画①	デイリープログラムの作成
5	乳児保育の指導計画②	0歳児の指導計画
6	乳児保育の指導計画③	1歳児の指導計画
7	乳児保育の指導計画④	2歳児の指導計画
8	乳児保育の実際①	0歳児の生活について考えよう
9	乳児保育の実際②	子どもの目線になって考えよう
10	乳児保育の実際③	2歳児の事例から保育者の関わりを考える
11	保育所以外の施設における乳児保育	保育所以外の施設の乳児保育の実際について考える
12	保護者との連携や社会資源	乳児保育における社会的資源について考える
13	乳児保育から幼児期の保育への繋がり	0、1、2歳児以降の保育との関連について考える
14	まとめ	乳児保育に求められることについてグループワーク・まとめのレポート
15		
16		

科目コード	53071				区 分	コア科目			
授業科目名	保育マネジメント演習 I				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育現場がどのように運営されているかを、観察および振り返りを中心として学び、実践力と運営力の基礎を学ぶことを目的とする。毎回、テーマに沿って東岡山IPUこども園の保育観察を実施する。観察後は事後課題としてレポートの提出を求める。保育の観察および振り返りの充実により、保育者としての資質の向上を図る。どのように保育が展開され、子どもの育ちにつながるのかを理解するための、観察手法を身につける。

<授業の到達目標>

目標①保育の観察するスキルを身につける。②観察を通して保育運営に関する知識を身につける。①に関しては、観察の態度、視点、考察力を求める。態度に関しては観察に徹底することを重要視するため、私語は慎む、保育参加をしない、子どもとの関わりを不用意に実施しないことを必要とする。視点に関しては、毎回の講義で観察のテーマを提示する。テーマに沿った視点で保育内容や子どもの姿、保育者の準備、運営、保育の展開の観察を必要とする。考察力に関しては、事実と考察を切り離して考えることができるか、考察は飛躍せず内容が十分なもの

<授業の方法>

東岡山IPUこども園連携科目、グループ演習、保育観察、フィードバック

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

東岡山IPUこども園での実施を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

準備学習観察のポイントに関する事前学習を行うこと。（事前学習課題あり、60分）また観察後は事後学習として振り返りを実施する。（事後課題あり、60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この授業は、DP2保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。と関連しております。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績・評価に関する項目保育観察レポート60点、最終レポート40点。

<教科書>

<参考書>

柴山真琴 子どもエスノグラフィー入門～技法の基礎から活用まで子どもにかかわる実践に携わるすべての人に 新曜社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・東岡山IPUこども園の概要	東岡山IPUこども園の設置の背景、保育理念、こども園での取り組み、施設設備、在園児、教職員数など概要の説明。
2	保育観察手法について	保育の観察における心構え、態度、視点、手法に関する講義を実施する。
3	東岡山IPUこども園全体の観察	施設設備、子どもの様子、保育者の様子など全体的な観察を行う。
4	子どもの遊びの観察	子どもの遊びに着目し、時間、内容、会話、保育者との関わりを観察を行う。
5	施設備品の観察	保育環境を含めた、備品・消耗品
6	観察手法に関する振り返り第7回から第13回までの観察テーマの検討	観察手法に関して振り返りを行い、課題、現状の把握を行う。特によく観察できている例を紹介し、観察に関する知識・スキルの向上を図る。第7回から第13回は年齢ごとに観察を行うため、一貫した観察を行うためのテーマ設定をする。
7	0歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、0歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
8	1歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、1歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
9	2歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、2歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
10	3歳未満の保育理念に沿った保育に関する学びの共有	保育理念に基づいた保育について、3歳未満の観察をもとに観察場面をもとに考察を行う。
11	3歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、3歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
12	4歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、4歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
13	5歳児の保育理念に沿った保育	保育理念に基づいた保育について、5歳児クラスの活動に着目し観察を行う。
14	3歳以上の保育理念に沿った保育に関する学びの共有	3歳以上の保育理念に沿った保育に関する学びの共有
15		

科目コード	38201				区 分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用)[再履修者用+他学科]				担当者名	藤谷 かおる／岩田 知郎／木村 大			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案し、授業実践することができる。3. 教師として保健体育科の授業を行うというものの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google form を用いた課題遂行）2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）4. 省察活動（まとめと振り返り）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有指導案の作成及び各種目の特性についてグループワークやディスカッションを行います。また、模擬授業の際は映像を見ながらFBを行い、改善点を発見する方法を採用します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：学習指導要領に示されている領域・種目に関する内容を熟読し、保健体育授業における指導案や授業方法、教材・教具などについて、書籍や論文から必要な情報を集める。（1時間程度）復習：課題及び振り返りレポート（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題 20%、受講態度10%、レポート（含指導案） 40%、模擬授業 30%で総合的に評価する。受講態度は模擬授業における評価対象とするが、とりわけ日頃の協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。課題の内容については、主にフィードバックを中心にを行い、学習理解度を図る。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月） 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房
文部科学省（平成30年7月） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編 東山書房
衛藤 隆、友添 秀則 ほか（2022年3月20日） 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021） 体育科教育学入門 大修館書店
杉山重利・高橋健夫・園山和夫（2009） 保健体育科教育法 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について②良い体育授業とは何かを考える
2	学習指導要領を理解する①	学習指導要領が示している内容について理解を深める
3	学習指導要領を理解する②	学習指導要領の内容を調査し、意義を見つける
4	学習指導案の書き方について①	学習指導要領に基づいた指導案を作成する
5	学習指導案の書き方について②	単元計画の作成
6	運動領域の特性について①	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
7	運動領域の特性について②	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
8	運動領域の特性について③	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
9	運動領域の特性について④	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
10	運動領域の特性について⑤	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
11	運動領域の特性について⑥	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
12	模擬授業に向けた準備	授業実践における心構えと方法
13	模擬授業の実践①	マイクロティーチング
14	模擬授業の実践②	マイクロティーチング

15		
16		

科目コード	62011				区 分	コア科目			
授業科目名	予防とコンディショニングⅡ				担当者名	河野 儀久			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

公益財団法人日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの観点から、スポーツ現場においてよく発生すると思われるスポーツ外傷・障害を中心に、その評価方法や応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングの理論と方法を学ぶ。この科目は応用科目のため履修制限を定める。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生のみが履修できる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー必修科目を履修し、アスレティックトレーナー現場実習ⅢⅣを履修中または履修済みであることが条件となる。

<授業の到達目標>

比較的高い頻度で発生する外傷・障害について、スポーツ現場における評価方法や応急処置、安全に早期の競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーション・コンディショニングが立案・指導できることを目標とする。

<授業の方法>

教科書に沿って講義や実技練習レポート課題、小テスト等を行い、必要に応じて資料を配布する。学生がさまざまな傷害、競技特性に応じたコンディショニングについて発表し、その内容を基に学生同志のディスカッションを積極的に行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

運動療法

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に教科書を熟読し授業の理解を深め、授業当日のプレゼンテーション資料を作成する（2時間）。事後学習として、自身のプレゼンテーション発表の反省と、参加者からの意見をまとめる（1時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）およびディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

<教科書>

（公財）日本体育協会、2007 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥・予防とコンディショニング」、日本スポーツ協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	授業の概要説明、注意事項
2	股関節の損傷	グロインペイン等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
3	大腿部の損傷	肉離れ等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
4	膝関節の損傷	靱帯損傷等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
5	足関節の損傷	捻挫等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
6	下腿部と足部の損傷	シンスプリント等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
7	肩関節の損傷	脱臼等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
8	上肢の損傷	投球障害肩等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
9	体幹の損傷	腰痛等の評価・応急処置・リハビリテーションから復帰まで
10	冬季競技の特性	スキーやスケート等における傷害とコンディショニング
11	記録系競技の特性	陸上や競泳等における傷害とコンディショニング
12	採点競技・格技系競技の特性	サッカーやラグビー等における傷害とコンディショニング
13	採点競技・格技系競技の特性	器械体操や柔道等における傷害とコンディショニング
14	総括テスト	これまでの振り返り、総括テスト
15		
16		

科目コード	53065				区 分	コア科目			
授業科目名	幼児英語指導法 I				担当者名	塚本 千晴／羽田 あずさ			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得について理論と実践を関連付けて学び、幼少期に外国語に触れる意義を踏まえ、発達段階に適した教材や教授法を実践と議論を通して理解し、適切に指導できる力を養う。

<授業の到達目標>

検定用テキストを活用しながら、幼保英検の合格を目指します。また、グループで協働学習を行い、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得について理解し、適切な教材と言語活動が幼児に提供できるようにします。

<授業の方法>

グループごとに、乳幼児に楽しく英語を学ばせるアクティビティやスキットを実演する。ピア・アセスメント（相互評価）を実施し、良いところや改善すべき点をクラス全体で話し合い、次回の実演へ繋げていく。各学生は、ポートフォリオで記録を蓄積し、幼稚園、保育園での実習に向けて活用していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ活動や模擬授業、留学生との交流、発表・実演を通して、主体的・協働的な学びを促す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各授業に向けて、英語の歌や絵本、クラフト活動に関する資料や表現を事前に確認し、必要に応じて授業準備や英語表現の練習を行う。（※1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度（30％）、グループ活動への貢献度（40％）、課題提出（30％）

<教科書>

一般社団法人 幼児教育・保育英語検定協会（2019） 幼保英語検定 3、2、準 1 級テキストいずれか ブックフォレ

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	英語の子どもの歌	音楽や動きを使った英語の教え方；グループで音楽の授業を準備・実演する
3	英語の絵本（1）	英語の絵本を授業で活用する方法；グループで英語絵本の授業を準備・実演する
4	英語の絵本（2）	英語絵本の授業を準備・実演する
5	英検対策	英検対策の練習
6	異文化理解とコミュニケーション（1）	留学生との交流を通して、英語によるコミュニケーション力と異文化理解を深める。
7	異文化理解とコミュニケーション（2）	留学生との交流を通して、英語によるコミュニケーション力と異文化理解を深める。
8	英語での工作・クラフト（1）	工作・クラフトを使った英語の教え方；グループで英語による工作の授業を準備する
9	英語での工作・クラフト（2）	グループで英語による工作の授業を準備・実演する
10	特別講和	特別講話を通して、子どもへの英語指導や授業の工夫、実践例について学ぶ。
11	模擬授業準備（1）	模擬授業に向けた学生選択の英語授業の準備を完成させる
12	模擬授業準備（2）	模擬授業に向けた学生選択の英語授業の準備を完成させる
13	模擬授業発表日	英語による模擬授業の最終発表
14	学期の振り返り	授業全体の学びを振り返る
15		
16		

科目コード	33403				区 分	コア科目			
授業科目名	幼児心理学 I				担当者名	大久保 諒／虫明 淑子			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、生涯発達の見点から、心理的発達について、幼児期と人生全体の関係を体験的に学ぶ。特に、知覚・認知的な発達へ中心的な焦点を当てて学習を進める。具体的には、幼児期と他の発達時期で、ものごとの見え方はどのように異なるのか、そして、ものごとの見え方が異なるようにできている理由はなぜかを学ぶ。さらに、幼児期の知覚・認知発達における個人差が、生涯発達の的に見て、それ以降の時期へどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。

<授業の到達目標>

①幼児期が人生全体にどのような意味や影響を持つか理解する。②幼児の発達過程や特徴を具体的に理解をする。③理論と具体的な事例を関連付け、理解を深める。

<授業の方法>

・各テーマについて、教員から理論的な解説を受け、内容を理解する。・学習した理論をもとに、予測・説明できる具体的な事例をグループで共有し、対話を通して解決策を考える。・グループでの検討結果をレポートやレジュメとしてまとめることで、各テーマの理解を深める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：一方的に解説を受けるだけでなく、学習内容の妥当性について、自分たちで事例共有や検討を行うことで確認する。これらの手続きにより、「理屈として」理解できることと、「体感的に（腑に落ちて）」理解できることの両立を目指す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

専門的な知見に踏み込んだ学習内容について、「わかる」ようになることと「できる」ようになることの両方を目指す科目である。そのため、各回の授業の前後で予習と復習が必要になる。毎回、事前に提示された学習内容について、予め調べたり、小課題に取り組んだりするなど、1時間程度の予習を要する。同様に、毎回、配布資料や授業内で取り組んだ演習課題を振り返ったり、理解度の確認の小課題へ取り組んだりするなど、60分程度の復習を要する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業参加態度：40％・各テーマの演習成果物の出来栄：30％・学期末レポート：30％・上記を総合して、最終的な成績を決定する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、および生涯発達や知覚・認知発達に関する概論
2	幼児の発達理解①	・幼児の発達について理解する。
3	幼児の発達理解②	・幼児の発達について理解する。
4	幼児の発達理解③	・幼児の発達について理解する。
5	幼児の発達理解④	・幼児の発達について理解する。
6	事例検討①	・具体的な事例を通じて幼児の発達を理解する。
7	事例検討②	・具体的な事例を通して幼児の発達を理解する。
8	事例検討③	・具体的な事例を通して幼児の発達を理解する。
9	事例検討④	・具体的な事例を通して幼児の発達を理解する。
10	幼児の発達を支える①	・理論や事例をもとに、よりよい援助のあり方を検討する。
11	幼児の発達を支える②	・理論や事例をもとに、よりよい援助のあり方を検討する。
12	幼児の発達を支える③	・理論や事例をもとに、よりよい援助のあり方を検討する。
13	幼児の発達を支える④	・理論や事例をもとに、よりよい援助のあり方を検討する。
14	授業のまとめ	・授業内でレポートに取り組む。・レポートを活用し、授業内容を振り返り理解を深める。
15		
16		

科目コード	53068				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	幼児体育指導法 I				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「幼児期運動指針」を理解し、幼児期に獲得させるべき基本的な動作、発達させるべき運動機能を学び、幼児期に必要とされる身体活動を量と質の両面から考慮された指導ができる知識を身に付ける。特に、幼児期における運動遊びの重要性と指導力を身につけることを目指す。特に、文献や先行研究調査し発表を持って、学習する機会を設ける。また、幼児の運動指導の必要性やその意義について、先進的な取り組みをもとに検討を行う。

<授業の到達目標>

①本授業を通して幼児が楽しむことのできる運動遊びを考えることができる。②子どもの運動発達の特徴及び『幼児期運動指針』の内容について理解し、他者に説明できる。③幼児期の身体活動の重要性を理解することができる。

<授業の方法>

講義及び演習並びに実技により授業を展開する。事前学習・授業内学習での文献の調査・発表を行う。またその発表をもとにディスカッション、グループワークを実施する。パソコン・タブレットを用いて文献の発表を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ディベートを用いる

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

参考図書・参考資料に目を通し、授業で提示される各テーマに沿って、幼児期の運動発達・スキルの獲得に関する基本的理解を深め（30分程度）、毎時提示される課題に対し、レポート作成に取り組む（90分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における授業内課題（70％）。事前学習課題（30％）。

<教科書>

文部科学省 幼児期運動指針 文部科学省

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業概要・幼児・体育・指導	授業概要の解説と幼児体育指導についての解説
2	幼児体育に関する理論1	幼児期の発達的特徴に応じた運動指導の在り方について
3	幼児体育に関する理論2	幼児の体力・運動能力、運動能力の発達段階について
4	運動能力の測定①	運動能力測定の手法について（走・跳・投）
5	運動能力の測定②	運動能力測定の手法について（柔軟性・巧緻性など）
6	運動能力の評価	運動能力測定結果の評価と活用
7	幼児体育に関する理論3	幼児の運動に関する現状と課題、遊びとしての運動の重要性
8	幼児体育の意義1	幼児体育のあり方についての調査
9	幼児体育の意義2	幼児体育のあり方についてのディベート1
10	幼児体育の意義3	幼児体育のあり方についてのディベート2
11	幼児教育現場での体育・運動・スポーツ	身体活動量を意識した運動遊び
12	東岡山IPUこども園での運動遊び	用具を用いない多様な運動遊び
13	ニュージーランド保育と運動	用具を用いた運動遊び
14	まとめおよび全体の振り返り	授業内容全体の振り返りと幼児体育2への接続
15		
16		

科目コード	32305				区 分	コア科目			
授業科目名	理科教育法 [他学科3年水3]				担当者名	川村 康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。約4人のグループで先生役となり学習指導案を立てて模擬授業を担当し、授業で先生役があたっていないみなさんは、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に実験を含んだ40分の模擬授業を行って頂きます。教材研究、指導案作成、授業実践、授業評価などを実践的に学びながら、ICTの活用法も習得する。模擬授業の後には、全員で、模擬授業のふりかえ

<授業の到達目標>

1. 教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して、教師と児童の視点で観察・実験できる。2. 指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して、教師と児童の視点から指導案を作成できる。3. 指導と評価：指導案に沿って授業を実践し、その授業展開を評価できる。4. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。

<授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自立的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役かつ評価者役を行って頂きます

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく、先生役として模擬授業を担当したり、評価者役担当します。

<準備学習等（予習・復習）※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習各時間とも、模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は、必ず、教科書を良く読み、事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより、当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。学習指導案をとった模擬授業を行いますので、授業の事前に、学習指導案をアップしてください。児童役を担当する受講生のみなさんは、模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書および学習指導案を60分程度時間をかけて読み込んで来て

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（模擬授業や課題提出等の平常点を含む）60%、振り返り（レフレクション課題を含む）40%等で評価する。

<教科書>

川村 康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

<参考書>

文部科学省（2018.2.10） 小学校学習指導要領 https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	対面4月8日2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？	対面4月8日初等理科（昨年度は自然の理解という名称）の授業を踏まえて、理科教育法では、模擬授業を中心に授業を進めます。どんなテーマで模擬授業をするのかを決めてもらいます。4人程度でひとつの班をくみます。対面の授業では、40分程度の模擬授業を行ってもらいます。（といっても、最初は40分のつもりが60分ぐらに伸びてしまうこともあります）。学習指導案をきちんと作って模擬授業をします。なお、ルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。オンデマンド
2	対面4月15日模擬授業1 模擬授業2	対面4月15日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
3	オンデマンド 4月22日教科書の実験「27. ストローウエーブマシンを作ろう」（pp.84-85）	オンデマンド 4月22日教科書の実験「27. ストローウエーブマシンを作ろう」（pp.84-85）を作って、実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。共同で実験してもいいですが、動画は必ず、一人ひとりあげて下さい。締め切り後は0点とな

4	オンデマンド4月29日教科書の実験「8. ホパークラフト」(pp. 52-53)	りますので注意して下さい。 オンデマンド4月29日教科書の実験「8. ホパークラフト」(pp. 52-53)を各自作って、実験動画(4秒以内程度)を各自アップして下さい。CDやペットボトルキャップなどは、できるだけリサイクルして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
5	対面 5月13日模擬授業3 模擬授業4	対面 5月13日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行きます。班の入れ替えは5分で行って下さい。
6	オンデマンド5月20日教科書の実験「5. 浮沈子」(pp. 47-47)	オンデマンド5月20日教科書の実験「5. 浮沈子」(pp. 47-47)を各自作って、実験動画(4秒以内程度)を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
7	対面 5月27日模擬授業5 模擬授業6	対面 5月27日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行きます。班の入れ替えは5分で行って下さい。
8	対面 6月3日模擬授業1 模擬授業2	対面6月3日 実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行きます。班の入れ替えは5分で行って下さい。
9	オンデマンド 6月10日教科書の実験「88. イワシの解剖」(pp. 204)	オンデマンド 6月10日教科書の実験「88. イワシの解剖」(pp. 204)を各自行って、整理した写真(教科書を参考)を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
10	対面6月17日模擬授業3 模擬授業4	対面 6月17日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行きます。班の入れ替えは5分で行って下さい。
11	オンデマンド6月24日教科書の実験「84. 高分子吸収剤」(pp198-199)	オンデマンド6月24日教科書の実験「84. 高分子吸収剤」(pp198-199)を各自行って、コップをひっくり返しても水ができてこない実験動画(4秒以内程度)を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
12	対面7月1日模擬授業5 模擬授業6	対面7月1日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行きます。班の入れ替えは5分で行って下さい。
13	オンデマンド7月8日教科書の実験「108. 耐震・免振・制振」(pp. 232-233)の実験	オンデマンド7月8日教科書の実験「108. 耐震・免振・制振」(pp. 232-233)の実験を各自行って、耐震が有用とわかる実験動画(4秒以内程度)を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
14	対面 7月15日 リフレクション・まとめ	対面全体のふりかえりを行います。
15		
16		

科目コード	32305				区 分	コア科目			
授業科目名	理科教育法 [他学科3年水4]				担当者名	川村 康文			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義と実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の授業を楽しく、興味深く展開するために必要な指導技術や観察・実験の方法を習得する。観察・実験を伴う理科の活動を、児童の気持ちになって体験したり、教師役を経験したりする。約4人のグループで先生役となり学習指導案を立てて模擬授業を担当し、授業で先生役があたっていないみなさんは、児童役と評価者を兼ねて受講してもらいます。特に実験を含んだ40分の模擬授業を行って頂きます。教材研究、指導案作成、授業実践、授業評価などを実践的に学びながら、ICTの活用法も習得する。模擬授業の後には、全員で、模擬授業のふりかえ

<授業の到達目標>

1. 教材研究：教科書や学習指導要領解説を参照して、教師と児童の視点で観察・実験できる。2. 指導案作成：取り上げる教材や授業のねらいを分析して、教師と児童の視点から指導案を作成できる。3. 指導と評価：指導案に沿って授業を実践し、その授業展開を評価できる。4. ICT活用：電子黒板、教材提示装置、デジタル教科書などを効果的に活用できる。

<授業の方法>

1. 自分たちで話し合っ、自主的に、学びを進めて下さい。それを支援する授業を行います。2. 探究する心を、仲間と育てて下さい。それを支援する授業を行います。3. スマホ、タブレット、PCなどICTも活用しましょう。4. 模擬授業を行う先生役と、模擬授業を受ける児童役かつ評価者役を行って頂きます

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニング：受け身の授業ではなく、先生役として模擬授業を担当したり、評価者役担当します。

<準備学習等（予習・復習）※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習各時間とも、模擬授業の担当になる班があります。対面の授業の中から担当班を決めます。その班は、必ず、教科書を良く読み、事前にリハーサルを60分程度繰り返すことにより、当日の授業で規定の時間内に実施できるよう準備してください。学習指導案をとった模擬授業を行いますので、授業の事前に、学習指導案をアップしてください。児童役を担当する受講生のみなさんは、模擬授業を行う班のパフォーマンスを評価する評価者の立場になって模擬授業のアドバイスができるように教科書および学習指導案を60分程度時間をかけて読み込んで来て

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲（模擬授業や課題提出等の平常点を含む）60%、振り返り（レフレクション課題を含む）40%等で評価する。

<教科書>

川村 康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

<参考書>

文部科学省（2018.2.10） 小学校学習指導要領 https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	対面4月8日2030年のSDGs 2050年のカーボンニュートラル 理科教師や理科の授業は、次世代の子どもたちに何を伝えるのか？	対面4月8日初等理科（昨年度は自然の理解という名称）の授業を踏まえて、理科教育法では、模擬授業を中心に授業を進めます。どんなテーマで模擬授業をするのかを決めてもらいます。4人程度でひとつの班をくみます。対面の授業では、40分程度の模擬授業を行ってもらいます。（といっても、最初は40分のつもりが60分ぐらに伸びてしまうこともあります）。学習指導案をきちんと作って模擬授業をします。なお、ルールとして、ひとりだけで模擬授業はしない！班員全員が必ず模擬授業を分担して実施する。このルールを守って下さい。オンデマンド
2	対面4月15日模擬授業1 模擬授業2	対面4月15日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行います。班の入れ替えは5分で行って下さい。
3	オンデマンド 4月22日教科書の実験「27. ストローウエーブマシンを作ろう」（pp.84-85）	オンデマンド 4月22日教科書の実験「27. ストローウエーブマシンを作ろう」（pp.84-85）を作って、実験動画（4秒以内程度）を各自アップして下さい。共同で実験してもいいですが、動画は必ず、一人ひとりあげて下さい。締め切り後は0点とな

4	オンデマンド4月29日教科書の実験「8. ホパークラフト」(pp. 52-53)	りますので注意して下さい。 オンデマンド4月29日教科書の実験「8. ホパークラフト」(pp. 52-53)を各自作って、実験動画(4秒以内程度)を各自アップして下さい。CDやペットボトルキャップなどは、できるだけリサイクルして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
5	対面 5月13日模擬授業3 模擬授業4	対面 5月13日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行きます。班の入れ替えは5分で行って下さい。
6	オンデマンド5月20日教科書の実験「5. 浮沈子」(pp. 47-47)	オンデマンド5月20日教科書の実験「5. 浮沈子」(pp. 47-47)を各自作って、実験動画(4秒以内程度)を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
7	対面 5月27日模擬授業5 模擬授業6	対面 5月27日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行きます。班の入れ替えは5分で行って下さい。
8	対面 6月3日模擬授業1 模擬授業2	対面6月3日 実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行きます。班の入れ替えは5分で行って下さい。
9	オンデマンド 6月10日教科書の実験「88. イワシの解剖」(pp. 204)	オンデマンド 6月10日教科書の実験「88. イワシの解剖」(pp. 204)を各自行って、整理した写真(教科書を参考)を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
10	対面6月17日模擬授業3 模擬授業4	対面 6月17日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行きます。班の入れ替えは5分で行って下さい。
11	オンデマンド6月24日教科書の実験「84. 高分子吸収剤」(pp198-199)	オンデマンド6月24日教科書の実験「84. 高分子吸収剤」(pp198-199)を各自行って、コップをひっくり返しても水ができてこない実験動画(4秒以内程度)を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
12	対面7月1日模擬授業5 模擬授業6	対面7月1日実験指導を交えた模擬授業を、実験を15分程度、相互反省を25分程度の40分程度の持ち時間で行います。実験に入る前に、小学校何年生のどの単元と既習事項を説明し、その流れの中で、実験指導の模擬授業を行ってもらいます。2つの班が、順番に行きます。班の入れ替えは5分で行って下さい。
13	オンデマンド7月8日教科書の実験「108. 耐震・免振・制振」(pp. 232-233)の実験	オンデマンド7月8日教科書の実験「108. 耐震・免振・制振」(pp. 232-233)の実験を各自行って、耐震が有用とわかる実験動画(4秒以内程度)を各自アップして下さい。締め切り後は0点となりますので注意して下さい。
14	対面 7月15日 リフレクション・まとめ	対面全体のふりかえりを行います。
15		
16		

科目コード	32419				区 分	コア科目			
授業科目名	理科実験の指導法Ⅱ（理科教師塾）〔不開講〕				担当者名	川村 康文			
配当年次	3年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

I P U理科マイスターへの道を歩もうとするみなさんのための授業です。理科実験の指導法Ⅰを履修していなくても受講可能です。この授業は、理科が得意な方だけに向けた授業ではなく、理科に苦手意識があっても、まずは、自分が理科が好きになってもらうための入り口だと思って受講して下さい。そしてその先、時には出前授業と一緒にいたり、オープンキャンパスでお手伝いをしてもらったり、もっと先には、みなさんに先生役になって子供たちに楽しい理科実験を指導してもらったりなどを考えています。これまで、探究的な理科授業を求められてきま

<授業の到達目標>

1. 実験器具や薬品等を準備して、小学校理科の観察・実験が実施できる知識や技能を身に付ける。2. 安全な観察・実験を進めるための知識や薬品、実験器具の取り扱い方を身に付ける。3. 学習指導要領解説理科編や教科書の記述に基づいて、観察・実験を伴う授業設計ができる。4. I C T機器、デジタル教科書、プログラミング用ツールの活用法を身に付ける。

<授業の方法>

1. 取り扱う教材に従って観察・実験の準備をする。2. 観察・実験を実施し、実験結果を記録、考察する。3. 観察・実験の留意点、実験手順を振り返り、安全に実験するための配慮事項を整理する。4. 観察・実験のねらいや指導のポイントなどをまとめる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング：個人、グループで、自主的に実験材料を揃えるところから能動的・主体的に教材開発を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習理科実験が得意な理科マイスターになってもらうのにふさわしい事前準備をお願いします。具体的には、教科書を良く読み込み、さらにインターネットを利用して、そのテーマにふさわしい教材を60分程度の時間をかけて調べてきましょう。100円ショップやホームセンターなどに行き、どんな材料が理科授業に使えるか、日ごろから常に意識的に観察しておく。復習授業で教科書にある実験を試したり、自力で開発した理科実験教材について60分程度時間をかけて整理をし、課題を提出して下さい。さらに、開発した理科実験教材やS T E A M教育教材

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲 60%、観察・実験の知識・技能 40%、等で評価する。

<教科書>

川村康文（2014） 理科教育法 独創力を伸ばす理科授業 講談社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	対面 4月14日 教科書の実験「69. かわむらのコマ」(pp. 166-167) (1)	対面 4月14日 教科書の実験「69. かわむらのコマ」(pp. 166-167)の実験をしてみよう！
2	オンデマンド 4月21日教科書の実験「69. かわむらのコマ」(pp. 166-167) (2)	オンデマンド 4月21日教科書の実験「69. かわむらのコマ」(pp. 166-167)において、①加色混合を極める②3D回転を極める③ゾートローブを極める
3	対面 4月28日教科書の実験「45. 光るLEDプレート」(pp. 114-115) (1)	対面 4月28日教科書の実験「45. 光るLEDプレート」(pp. 114-115)をつくってみよう。
4	オンデマンド 5月5日教科書の実験「45. 光るLEDプレート」(pp. 114-115) (2)	オンデマンド 5月5日教科書の実験「45. 光るLEDプレート」(pp. 114-115)から、光ファイバーの原理を考察しよう。また、異なるサイズの光るLEDプレートを作ってみよう（探究の要素）
5	対面 5月12日教科書の実験「54. 手回し発電機をつくってみよう」(pp. 136-137) (1)	対面 5月12日教科書の実験「54. 手回し発電機をつくってみよう」(pp. 136-137)
6	オンデマンド 5月19日教科書の実験「54. 手回し発電機をつくってみよう」(pp. 136-137) (2)	オンデマンド 5月19日教科書の実験「54. 手回し発電機をつくってみよう」(pp. 136-137)の進化型や簡易型を探究的につくってみよう
7	対面 5月26日教科書の実験「67. リニアモーターカーをつくってみよう」(pp. 162-163) (1)	対面 5月26日教科書の実験「67. リニアモーターカーをつくってみよう」(pp. 162-163) (2)
8	対面 6月2日教科書の実験「101. DNA	対面 6月2日教科書の実験「101. DNAの実験」(pp. 222-223)

9	の実験」 (pp. 222-223) オンデマンド 6月9日教科書の実験「67. リニアモーターカーをつくってみよう」 (pp. 162-163) (2)	オンデマンド 6月9日教科書の実験「67. リニアモーターカーをつくってみよう」 (pp. 162-163) を, いろいろ作り変えてみよう。
10	対面 6月16日教科書の実験「59. 雷実験」 (pp. 148-149)	対面 6月16日教科書の実験「59. 雷実験」 (pp. 148-149)
11	オンデマンド 6月23日教科書の実験「95. 酵素の実験」 (pp. 214)	オンデマンド 6月23日教科書の実験「95. 酵素の実験」 (pp. 214) いろいろでんぷん材料でヨウ素でんぷん反応の色の違いをみる
12	対面 6月30日教科書の実験「47. 62. 紫イモ ホ ッ ト ケ ー キ 」 (pp. 122-123; pp. 152-153)	対面 6月30日教科書の実験「47. 62. 紫イモホットケーキ」 (pp. 122-123; pp. 152-153)
13	オンデマンド 7月7日教科書の実験「28. デジタルオッシロスコープ」 (pp. 86-87)	オンデマンド 7月7日教科書の実験「28. デジタルオッシロスコープ」 (pp. 86-87) で, 母音をみたり, 高音と低音の比較をみたり, いろいろな音の波形をみてみてください。
14	対面 7月14日教科書の実験「偏光板」 (pp. 124-125)	対面 7月14日教科書の実験「偏光板」 (pp. 124-125) 偏光板の首飾りを作ろう。
15		
16		

科目コード	3F314				区 分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学IV（社会保障制度と職業倫理）				担当者名	古山 喜一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

日本の社会保障制度は、国民生活の安定を保障し、誰もが安心して暮らせる社会を実現するためのセーフティネットである。憲法第25条の「生存権」を根拠法として、主に5つの社会保険制度「年金保険」「医療保険」「雇用保険」「労災保険」「介護保険」と3つの仕組み「社会福祉」「公衆衛生」「公的扶助」で構成されている。わが国では、すべての国民が医療保険や年金に加入することが義務であり本邦の特徴ともいえる。これは、病気、ケガ、出産、失業、老齢、障害といった人生の様々なリスクに対して、社会全体で支え合う「共助」の精神に基づいて

<授業の到達目標>

我が国におけるセーフティネットである社会保障制度について学ぶと共に、国民医療費、柔道整復師療養費、受領委任払い制度の概要ならびに成り立ちについて学ぶ。また、患者に接する際の心構えや医療従事者としての倫理観について学び高い人格形成に努め、公共心を涵養する。

<授業の方法>

講義、ならびにグループ学習形式で進める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

社会保障制度、社会保障給付費、国民医療費の内訳などについて事前・事後に予習復習しておくことが必要である。（予習、復習共に1.5時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目はDP3に該当し、（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）に関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 60%、定期試験40%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 医歯薬出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・我が国の社会保障制度について1	社会保障制度について理解する
2	我が国の社会保障制度について2	社会保障制度について理解を深める
3	中年及び高齢者を取り巻く現状を知る	中高年の社会の人口学的概況と保健・医療・福祉制度の現状と課題を理解する
4	医療保険制度・国民医療費の動向	医療保険制度、国民医療費の動向について理解する
5	介護保険制度・介護保険の動向	介護保険制度、介護保険制度の動向を理解する
6	高齢者介護	高齢者に発生する認知症の病態、症状、治療法を理解する
7	医の倫理	ヒポクラテス・ジュネーブ宣言に代表される医の倫理を考える
8	柔道整復師業務における療養費（1）	療養費制度の概要、「受領委任払い」制度、「償還払い」制度を理解する
9	柔道整復師業務における療養費（2）	療養費算定の実際
10	職業倫理（1）	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応を考える
11	職業倫理（2）	（グループディスカッション）事例研究
12	関係法規	柔道整復師法、医療法等の関係法規を理解する
13	総合討議1	これまでの授業を復習し再度確実な知識として修得する
14	総合討議2	これまでの授業を復習し再度確実な知識として修得する
15		
16		

科目コード	3F307				区 分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学Ⅴ(軟部組織Ⅰ)				担当者名	實戸 崇史			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

近年、柔道整復業務において軟部組織損傷を扱う頻度は高くなっており、業務において重要な位置付けとなっている。本科目では上肢の軟部組織損傷を大きく肩及び上腕部、肘及び前腕部、手関節及び手指部に分類し、それぞれの部位において機能解剖を学習した上で損傷のメカニズム、症状、合併症、治療法、保存療法の限界、後療法等について学修する。

<授業の到達目標>

1. 上肢の軟部組織損傷の疾患概要について説明ができる。2. 他の疾患との鑑別し、処置方法を判断することができる。

<授業の方法>

1. 講義（教員による疾患に対する説明）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習において双方向で理解度を確認する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実施する講義内容に準じた事前課題（疾患に関係する解剖学（特に運動器系）、疾患の概要の下調べ（毎回、1時間程度））
復習：振り返り確認試験（毎回、15分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP3 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 30%、定期試験70%で成績評価する。但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

全国柔道整復学校協会 監修(2022年3月15日) 「柔道整復学・理論編（改訂第7版）」 南江堂
全国柔道整復学校協会 監修(2013年12月20日) 「柔道整復学・実技編（改訂第2版）」 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 肩部及び上腕部の軟部組織損傷(1)	授業ガイダンス、腱板断裂
2	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(2)	上腕二頭筋長頭腱損傷、ベネット損傷
3	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(3)	SLAP損傷、インピンジメント症候群
4	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(4)	野球肩、loose shouder
5	肩部及び上腕部の軟部組織損傷(5)	肩甲上神経絞扼、五十肩、石灰性腱炎、変形性肩関節症
6	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(1)	肘側副靱帯損傷、野球肘、テニス肘
7	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(2)	前腕コンパートメント、肘関節後外側不安定症
8	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(3)	正中神経障害、橈骨神経障害
9	肘部及び前腕部の軟部組織損傷(4)	尺骨神経障害、パンナー病、変形性肘関節症
10	手関節及び手指部の軟部組織損傷(1)	TFCC損傷、手根管症候群
11	手関節及び手指部の軟部組織損傷(2)	ギヨン管症候群、キーンベック病
12	手関節及び手指部の軟部組織損傷(3)	マーデルング変形、腱交叉症候群、ド・ケルバン病
13	手関節及び手指部の軟部組織損傷(4)	側腹靱帯損傷、ロッキングフィンガー、ばね指
14	手関節及び手指部の軟部組織損傷(5)	デュブイトラン拘縮、ヘバーデン結節、ボタン穴変形、スワンネック変形
15		
16		

科目コード	65050				区 分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅣ [公務員]				担当者名	森 利治			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

公務員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな出題科目について十分理解しておく必要がある。この講義では、今年度の公務員試験に必要な知識のうち、次の内容を身に付けることを目的とする。1. 直前期に必要な「問題演習」2. 二次試験対策のうち主に「集団討論」「集団面接」

<授業の到達目標>

1. 公務員への理解を深め、公務員として働くことの意義を認識することができるようになる。2. 採用試験における「頻出分野」の理解ができるようになる。3. 今年度の公務員試験に必要な知識を養成し、採用に向けての準備を怠らない習慣を身に付けている。

<授業の方法>

1. 講義（配布プリントを使用し授業、問題演習を進める）2. 振り返り（授業の内容に関するまとめ）※授業の一部についてはインターネット上のサイトを活用して解説します。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 集団討論や集団面接の練習はグループを作って行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（30分程度）復習：次回講義までに、該当する問題を解けるようにしておく（90分以上）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の結果 50％、確認テスト35％、授業態度 15％

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。
2	問題演習（1）	政治
3	問題演習（2）	経済
4	問題演習（3）	日本史
5	問題演習（4）	世界史
6	問題演習（5）	地理
7	問題演習（6）	生物・地学
8	二次試験対策（1）	集団討論・集団面接等（1）
9	二次試験対策（2）	集団討論・集団面接等（2）
10	二次試験対策（3）	集団討論・集団面接等（3）
11	二次試験対策（4）	集団討論・集団面接等（4）
12	二次試験対策（5）	集団討論・集団面接等（5）
13	二次試験対策（6）	集団討論・集団面接等（6）
14	二次試験対策（7）	集団討論・集団面接等（7）
15		
16		

科目コード	36514				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ健康実習〔健康運動実習PH4年生用〕〔不開講〕				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本講義においては、スポーツ健康論で修得した内容を踏まえ、「個々人の身体状況に応じた安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成と指導」、「生活習慣病にかかる可能性のある“ハイリスク者”への個別指導・健康支援」に関

<授業の到達目標>

1. 対象者の健康状態・体力特性・生活習慣リスクを評価できる。2. 生活習慣病予防を目的とした運動プログラムを作成できる。3. 安全かつ効果的な運動指導を実践できる。4. 健康運動教室を企画・運営し、指導実践ができる。5. 指導結果を評価し、課題を抽出して改善案を提示できる。

<授業の方法>

教科書を基に、実習を中心とした授業を展開する。特にチーム別に、テーマを設定し、グループワークを行い、健康運動教室を実施する。その後、参加者からのアンケートをまとめることにより、課題及び改善点をリフレクションしていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：5、6人のグループに分かれ、健康教室の内容についてグループワークを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：教科書・配布資料の該当範囲を読み、運動プログラム作成に必要な知識を整理する。次回実施する健康運動教室に向けた運動プログラム案を作成する。発表・指導に向けてプレゼン資料を準備する（1時間程度）。事後学習：授業で実施した運動指導・健康教室の内容を振り返る。参加者アンケートや指導評価を整理する。改善点・課題をレポートとしてまとめる（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習態度・学習意欲 30%、運動プログラム指導 50%、課題レポート 20%

<教科書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下） 株式会社 南江堂

<参考書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト 株式会社 南江堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	身体活動量の定量法とその実際	身体活動量の測定法（加速度計・質問紙）
2	身体組成の測定法	身体組成測定（体脂肪率・筋量）
3	運動負荷試験実習（1）	正常心電図の理解、負荷心電図の評価
4	運動負荷試験実習（2）	呼吸ガス分析・乳酸測定
5	運動負荷試験実習（3）	最大酸素摂取量の測定
6	高齢者の体力測定法	全身持久力の評価、筋力・バランス能力の評価
7	運動行動変容とプログラム設計	対象者に応じた運動プログラムの立案
8	運動療法（1）	生活習慣病（肥満・糖尿病・高血圧等）の運動療法の基礎
9	運動療法（2）	サルコペニア、フレイルの理解
10	地域健康教室 事前準備・模擬	指導案作成、役割分担、安全管理（リスク評価・緊急対応）、模擬指導
11	地域健康教室 実践（1）現場実践	地域住民（主に高齢者）への運動指導実践、体力測定および簡易評価
12	地域健康教室 実践（2）現場実践・改善	前回の振り返りを踏まえた改善指導、対象者フィードバックの収集
13	地域健康教室 実践（3）現場実践・改善	前回、前々回の振り返りを踏まえた改善指導、対象者フィードバックの収集
14	総合振り返り・学習成果の統合	地域実践の振り返り、課題と改善点の整理、グループ発表（プログラム評価）、今後の実践への応用
15		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	山本 満理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	小川 正人			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	扇野 睦巳			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	大池 淳一			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。継続的な実行と改善を通して、活動の完成度を高めていくことが求められる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]				担当者名	小川 正人			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。
・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。【第3クォーター（15～21回）】仕上げ準備（まとめに入りつつ進める）・これまでの成果を整理し、発表や提出を見据えた形にまとめていく。・ゼミ活動についても最終的な形を意識し、改善や調整を重ねながら、仕上げに向けた準備を進める。【第4クォーター（22～28回）】発信・提出（形にして外に出す）・成果を論文・報告書・成果物等として完成させ、発表や提出を行う。・必要に応じて対外的な発信を行うとともに、活動全体を振り返り、次の段階につなげる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		

科目コード	55008				区 分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用) [秋入学生用]				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	4年	配当学期	第1・第2クオーター	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

ゼミナールⅠで取り組んだテーマや活動を土台として、その内容をさらに発展させ、成果として形にしていく。また、発表や対外的な発信を通して、社会とのつながりを意識した活動を行う。学生が主体的に活動を継続し、自らの専門とキャリアとの関係を考えながら、より高い水準での成果を目指す。

<授業の到達目標>

・ゼミナールⅠで設定したテーマについて検討を深め、その成果を論文・報告書・成果物等としてまとめ、発表することができる。・中長期的な視点から自らの将来像を描きつつ、卒業後を見据えた方向を具体化し、その実現に向けた準備や行動を主体的に進めることができる。

<授業の方法>

本授業は100分×クォーター制（全28回）で実施する。ゼミナールⅠでの活動を踏まえ、テーマおよび活動を継続しながら、その成果を発展・深化させていく。【第1クォーター（1～7回）】再設計・実行（見直して動く）・これまでの取り組みを振り返り、テーマや活動の方向性を見直すとともに、必要な修正を行ったうえで、直ちに活動を再開する。・成果の水準を意識しながら、今後の進め方やスケジュールを整理し、より具体的な形で活動を進めていく。【第2クォーター（8～14回）】継続実行（進めながら整える）・テーマについての検討や作業を継続し、調査・分析・考察を進めながら内容を具体化していく。・ゼミ活動についても継続的に取り組み、必要に応じて修正や調整を行いながら、成果の完成度を高めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：ゼミによって異なるが、発表・討議・プレゼンテーション等の活動に加え、グループワーク、調査・分析、企画立案、対外的な活動（アンケート調査、模擬店、ボランティア等）を通して、学生が主体的に学修に取り組むことを基本とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の活動に向けて、必要な調査・整理・検討等を主体的に行い、十分な準備を整えたうえで授業に臨むこと（事前学習：60分程度）。何をどの程度準備すべきかについても自ら判断し、活動の目的や進行に応じて適切に対応することが求められる。また、ゼミ活動においては、全体の方針や役割分担に基づき、各自が責任をもって必要な準備や調整を行うとともに、その成果を持ち寄って議論・検討を行うこと。授業後は、議論内容を踏まえて追加の調査や資料の修正を行い、活動内容の改善を図ること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・演習への積極的な参加 ... 30%・進捗報告 ... 30%・発表会・報告書 ... 40%課題提出や発表に対しては、その場でのディスカッションと次の課題提示を含めたフィードバックを行う。

<教科書>

初回授業で決定する

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各ゼミごとに初回の授業で協議をして決定する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	21403				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	器楽演習Ⅳ [FC]				担当者名	高崎 展好／三好 啓子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

器楽演習Ⅲで修得したピアノ基礎技術と弾き歌いの集大成となるよう演奏表現における応用能力の強化を図ることを目的とする。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭に必要とされる即応性のある演奏能力と、音楽指導に必要な表現能力を身につけるために、個人レッスンを中心とした授業を実施する。これまで習得した器楽演習Ⅰ・Ⅱ弾き歌い復習課題の確認も行う。※保育士資格、幼稚園教諭免許取得希望者、保育・教育実習参加希望者は、履修していることが望ましい。

<授業の到達目標>

・ピアノ奏法および弾き歌いに関する基礎的・発展的な知識と技術を身につけ、楽曲を適切に演奏することができる。・弾き歌いを通して、音楽的表現を工夫し、自己の意図をもって表現することができる。・保育・教育現場を想定し、子どもに対して分かりやすく音楽指導を行うことができる。・採用試験を見据えた演奏レパートリーを習得し、複数の楽曲を安定して演奏することができる。・公開試験（発表会）において、人前で自信をもって演奏することができる。

<授業の方法>

グループレッスンと個人レッスンを併用する。※個人レッスンについては、個人の実技レベルに合わせ、バイエル、または、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム（1）より任意の課題に取り組む。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

主にピアノ技能習得、歌唱指導による演習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ピアノ演奏技術を身に付けるためには、毎日の積み重ねが重要です。必ず予習、復習を行いレッスンに臨むこと。授業は予習を前提として行うものとする。※芸術センター・ピアノ独習室を活用し研鑽を積むこと。次週課題（事前予告）の予習50分、これまで学習した全課題曲の復習50分

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中の意欲・態度 20％弾き歌い課題曲（10曲）20％弾き歌い復習課題（10曲）10％実技試験25％（中間10％、期末15％）発表会用作品25％※14回授業終了後にピアノ演奏発表会を実施。発表会参加を以って単位認定とする。

<教科書>

星山麻木 編著、板野和彦 著（発行2015年8月10日 初版第1刷） 一人一人を大切にするユニバーサルデザインの音楽表現付録「親子あそびや音楽ワークショップで使える！子どものうた100」※保育内容「音楽表現」指導法の授業使用テキストです。 チャイルド本社

坂井康子・岡林典子・南夏世・佐野仁美編著（発行2008年9月20日 初版） 教育・保育現場で毎日使えるコードでかんたん！こどものうたマイ・レパートリー ヤマハミュージックメディア
ブルグミュラー25の練習曲 全音楽譜出版社

<参考書>

ソナチネ アルバム（1）〔標準版〕 全音楽譜出版社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションレッスン1	授業概要と課題の説明ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「ドレミのうた」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
2	レッスン2	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題、※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
3	レッスン3	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
4	レッスン4	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
5	レッスン5	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
6	レッスン6	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
7	レッスン7、確認（中間）テスト	レッスン1～6までのピアノ弾き歌い課題2曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
8	レッスン8	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
9	レッスン9	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導

10	レッスン 10	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
11	レッスン 11	ピアノ曲・ピアノ弾き歌い課題指導課題「にじ」※ブルグミュラー練習曲課題個人指導
12	レッスン 12	発表会、試験に向けた個人指導①
13	レッスン 13	発表会、試験に向けた個人指導②
14	レッスン 14、確認（期末）テスト	ピアノ弾き歌い課題3曲（自由選択）による確認（中間）テスト（模擬保育形式）
15	発表会※実施日程については別途連絡	ピアノ学習の集大成としてピアノ発表会へ参加する。履修者及び、その他聴衆の前でピアノ作品の演奏を行う。
16		

科目コード	3F313				区 分	コア科目			
授業科目名	柔道整復治療学				担当者名	石原 和泰			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

整形外科医による医療安全に関する講義を中心に医療画像の見方などについても修得する。柔道整復師が扱う疾患は骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷であり、急性あるいは亜急性外傷に限られている。柔道整復師が業務を行うにあたり、患者に対する医療安全の観点から、対象となる運動器疾患が業務範囲内にあるかどうかを適切に判断し、必要であれば医療機関との連携を図りながら柔道整復術を適切に実施できる能力の修得を目的とする。近年、画像診断機器の発達により、骨はもとより軟部組織の病的状態を可視化することが可能になってきている。解像度や分

<授業の到達目標>

健康の保持・増進、競技力向上を科学的に考える上で不可欠な医学的な分野（特に整形外科学的分野）についての知識を身に付ける。そして医師をはじめとするメディカル・コメディカルスタッフ、コーチ、トレーナーと共通の認識、共通の言語を持って話ができることを目標とする。

<授業の方法>

概ねスライドを使って講義を行う。授業理解度の確認としてミニッツペーパーを有効的に用い、学生、教員間で理解度を共有し学習内容の確実な定着に繋げる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング なし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

講義のレジュメは各回の講義の最初に配布する。講義中は確実な定着に繋げる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

（評価方法）定期試験 90点、出席点 10点の100点満点とする。出席点は1回の欠席ごとに2点の減点とする。試験時はノートの持ち込みは認めない。（出欠確認）出席の確認は講義冒頭の点呼により行う。点呼に間に合わなかった者は講義終了時に申し出ること。（欠席届の取り扱いについて）当該講義のテーマに即したレポートを提出すること。レポートの提出期限は欠席した月の翌月末までとする。（それ以降は受理しない）レポートの提出により出席点を与える。（公欠の取り扱いについて）学則に則る。（その他）講義資料の再配布は行わないので

<教科書>

公益財団法人 全国柔道整復学校協会監修 施術の適応と医用画像の理解 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	骨腫瘍	骨腫瘍の診断と病態
2	脊椎の外傷と脊髄損傷（1）	脊椎の外傷と脊髄損傷（骨粗鬆症を含む）（1）
3	脊椎の外傷と脊髄損傷（2）	脊椎の外傷と脊髄損傷（骨粗鬆症を含む）（2）
4	足関節の外傷	Laugehansen分類について
5	症例検討による演習（1）	症例検討による演習（1）
6	症例検討による演習（2）	症例検討による演習（2）
7	症例検討による演習（3）	症例検討による演習（3）
8	症例検討による演習（4）	症例検討による演習（4）
9	症例検討による演習（5）	症例検討による演習（5）
10	症例検討による演習（6）	症例検討による演習（6）
11	症例検討による演習（7）	症例検討による演習（7）
12	症例検討による演習（8）	症例検討による演習（8）
13	症例検討による演習（9）	症例検討による演習（9）
14	症例検討による演習（10）	症例検討による演習（10）
15		
16		

科目コード	40303				区 分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅶ(総合)				担当者名	古山 喜一／簀戸 崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目は、これまで整復学実技Ⅰ～Ⅵで断片的に学習した運動器疾患に対する初期処置法を有機的に結び付けるものであり、実際の臨床現場を想定し、診察、理学検査、鑑別診断、整復、固定、後療法、指導管理等までの連続した医療面接、医療技術動作がスムーズに遂行できる総合的な能力の習得を目的とする。また、臨床現場におけるリスク管理についても学習する。

<授業の到達目標>

臨床現場で多く関わることがある代表的な運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する疾患概念が説明でき、診察、理学検査、鑑別診断、整復、固定、後療法、指導管理等においても、実際の手順に沿って詳細な説明と共に実施ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

グループに分かれて実習形態で学習する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）における理論、実技（整復法、固定法等）については予め復習し（2時間程度）、授業に臨むものとする。講義終了後はまとめノートを作成し知識の定着を図る（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】口頭試験、実技試験100%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂
全国柔道整復学校協会 柔道整復学・実技編 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義の実施方法、実施内容の説明を実施する。
2	口頭試験Ⅰ	上肢骨折（鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折、第5中手骨頸部骨折、肋骨骨折）の範囲から口頭試験を実施する。
3	口頭試験Ⅰ	上肢骨折（鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折、第5中手骨頸部骨折、肋骨骨折）の範囲から口頭試験を実施する。
4	実技試験の内容をオンデマンドにて学習する。	実技審査で実施する内容を動画で示し、各自口頭で述べながら、整復、固定が出来るようにする。
5	実技試験①（骨折）	上肢骨折（鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折）の範囲から上肢骨折に関する実技試験を実施する。
6	実技試験①（骨折）	上肢骨折（鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折）の範囲から上肢骨折に関する実技試験を実施する。
7	口頭試験Ⅱ	上肢脱臼（肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、肘内障、示指PIP関節背側脱臼）の範囲から口頭試験を実施する。
8	口頭試験Ⅱ	上肢脱臼（肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、肘内障、示指PIP関節背側脱臼）の範囲から口頭試験を実施する。
9	実技試験②	実技試験②（肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、肘内障）の中から実技試験を実施する。
10	実技試験②	実技試験②（肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、肘内障）の中から実技試験を実施する。
11	口頭試験Ⅲ	上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎、大腿部打撲・肉離れ、膝側副靭帯損傷、膝十字靭帯損傷、膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断

12	口頭試問Ⅲ	裂，足関節外側靱帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から口頭試問を実施する。 上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靱帯損傷，膝十字靱帯損傷，膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断裂，足関節外側靱帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から口頭試問を実施する。
13	実技試験③	上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靱帯損傷，膝十字靱帯損傷，膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断裂，足関節外側靱帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から実技試験を実施する。
14	実技試験③	上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靱帯損傷，膝十字靱帯損傷，膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断裂，足関節外側靱帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から実技試験を実施する。
15		
16		

科目コード	51017				区 分	コア科目			
授業科目名	日本語教育演習Ⅰ				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

本授業では、日本語教育実習に必要な事前・事後指導を行う。事前指導では、教材研究、教案の作成、授業見学、模擬授業などを通して実習の準備を行う。事後指導では、実習の報告、振り返りを通して課題の発見や解決方法を探る。日本語教育演習Ⅰと日本語教育演習Ⅱは連続して履修すること。

<授業の到達目標>

本科目の目的は以下のとおりである。１．日本語教員の業務に対する理解を深める。２．教材研究や授業見学を通じて実習の準備を行う。３．実習の報告と振り返りを通して課題を発見し、解決方法を探る。

<授業の方法>

講義及び教育実習のための演習を行う。授業見学は、学内の日本語教員の担当授業での見学を行う。個人やグループで教案作成、模擬授業の準備・実施を行う中で、受講者同士で議論しあいながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。課題や資料配布はGoogleClassroomで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

個人やグループでディスカッションをしながら教案作成、模擬授業の準備や実施を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前の活動として、模擬授業を行う項目に関して、文法的知識、練習方法、教材などを作成し、教案を作っておく。リハーサルを行い、スムーズに模擬授業できるよう準備しておく。２～３時間。事後に振り返りを行う。30分程度。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー４（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー５（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度 10%，提出物 30%，模擬授業の評価 40%，報告書 20%提出物は模擬授業の際にフィードバックを行う。報告書はGoogleClassroomで添削・返却する。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	教育実習の意義と目的
2	教案作成（１）	教案の作成方法
3	教案作成（２）	教案の作成（１）
4	教案作成（３）	相互評価
5	教案作成（４）	教案の作成（２）
6	授業見学（１）	初級前半クラス（１）
7	授業見学（２）	初級前半クラス（２）
8	授業見学（３）	初級後半クラス（１）
9	授業見学（４）	初級後半クラス（２）
10	日本語の授業の方法	授業の進め方
11	模擬授業（１）	初級前半クラス（１）
12	模擬授業（２）	初級前半クラス（２）
13	模擬授業（３）	初級後半クラス（１）
14	模擬授業（４）	初級後半クラス（２）
15		
16		

科目コード	51015				区 分	コア科目			
授業科目名	日本語教育実習 I				担当者名	大平 真紀子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（日本語教師養成必修）

<授業の概要>

教壇実習を実施しながら、日本語教師に必要な資質・能力を高める。外国人相手に授業をすることによって、日本語教育や学生への理解を深めるとともに、日本語教師の職務について実践的に学ぶ。日本語教育実習Ⅰと日本語教育実習Ⅱは連続して履修すること。

<授業の到達目標>

教材研究や指導計画の作成，授業時の指導技術や態度，授業後の振り返り等の一連の授業づくりに熱意と創意工夫を持って取り組むことができるようになる。

<授業の方法>

実際に日本語を学んでいる外国人に対して教壇実習を行う。授業計画や教案，教材の準備はもちろん，実際の授業の中での学生対応についても学ぶ。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループまたは個人で授業準備をし，教壇実習を行う。その後グループまたは個人でフィードバックを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前準備（2～3時間）：教材研究や教案づくりなど教壇実習の準備。事後（30分程度）：教壇実習の振り返り。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習の評価 80%，実習記録 20%実習記録は実習終了後に確認してGoogle Classroomを通じて返却する。

<教科書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第5版 翔泳社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習（1）	実習と振り返り（1）
2	教育実習（2）	実習と振り返り（2）
3	教育実習（3）	実習と振り返り（3）
4	教育実習（4）	実習と振り返り（4）
5	教育実習（5）	実習と振り返り（5）
6	教育実習（6）	実習と振り返り（6）
7	教育実習（7）	実習と振り返り（7）
8	教育実習（8）	実習と振り返り（8）
9	教育実習（9）	実習と振り返り（9）
10	教育実習（10）	実習と振り返り（10）
11	教育実習（11）	実習と振り返り（11）
12	教育実習（12）	実習と振り返り（12）
13	教育実習（13）	実習と振り返り（13）
14	教育実習（14）	実習と振り返り（14）
15		
16		

科目コード	3C304				区 分	コア科目			
授業科目名	日本語教授法Ⅱ				担当者名	片上 摩紀			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択（日本語教員養成資格必修）

<授業の概要>

2026年末の時点で日本語教員養成資格科目を全てとり終える学生（日本語教員資格を得る人）を対象としています。本授業では、日本語学習目的の指導法、対象者別の指導法、教材選択、授業の組み立てについて、実例を通して理解を深めます。また、学習者がアウトプットする日本語を分析し、実際にフィードバックするスキルを身に付けることにより、実践力を養います。

<授業の到達目標>

授業の到達目標は以下の3点です。1. 目的別・対象別の指導が理解できる。2. 目的別・対象別の指導が活用できるようになる。3. 学習者がなぜ間違ったか分析し、良いフィードバックができるようになる。

<授業の方法>

本授業は基本的に講義形式で行うが、適宜個人作業やグループワークを取り入れる。また、Google Classroomにおいて、課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有り。3-4人のグループに分かれて、グループごとに様々な指導方法の検討・実践を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：予習として、各テーマについて事前にテキストを読む、分からない言葉を調べるなどして知識を得ておきます（約1時間）。事後：授業後には、授業中に得た学びをどう教育に生かしたいかなどについて振り返りレポートを書き、提出します（約1時間）。また、授業内で出された課題について調べ、個人でまとめます（約1時間）。事前：テキストを読み、分からない語彙を調べる。（1時間）事後：振り返り（1時間） その他、授業実践、発表準備等は授業外で取り組むことになります（2～3時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加態度10％，事後課題30％，中間課題 30％，期末課題 30％

<教科書>

<参考書>

ヒューマンアカデミー 日本語教育教科書日本語能力検定試験完全攻略ガイド第5版 株式会社翔泳社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法の説明
2	文法の教え方	文法の授業の組み立て方について学ぶ
3	音声の教え方	音声の授業の組み立て方について学ぶ
4	文字・語彙の授業	日本語の文字・語彙の授業の組み立て方について学ぶ
5	聴解指導	聴解指導の方法について学ぶ
6	会話指導	会話の授業の組み立て方について学ぶ
7	読解指導	読解指導の方法について学ぶ
8	作文指導	作文授業の組み立て方について学ぶ
9	初級の教え方	初級クラスの学習目標・初級授業の教え方について学ぶ
10	中上級の教え方	中級・上級日本語学習者の学習目標、中上級の授業の教え方について学ぶ
11	日本文化・日本事情の教え方	日本語教育現場において、日本事情・日本文化をどのように教えたいか学ぶ
12	対象別の指導法	日本語教育の対象としてどんな学習者がいるか。留学生への指導法・外国人児童への指導法・生活者への指導法
13	中間言語分析（1）	中間言語とは？中間言語分析の方法について学び、実践する
14	中間言語分析（2）	学習者への誤用の訂正方法、フィードバック方法について学ぶ
15		
16		

科目コード	53074				区 分	コア科目			
授業科目名	保育マネジメント演習Ⅳ [不開講]				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育現場がどのように運営されているかを、子どもとの関わり、保育者からのフィードバック、保育観察を通して身につけることを目的とする。保育観察を中心としながら各回テーマを持って学習を行う。

<授業の到達目標>

保育観察の手法を身につけるとともに、子どもの理解、保育技術の向上を目的とした保育者としての資質能力を高めることができる。他者との交流によりフェードバックを行い、交流し高め合えることができる。

<授業の方法>

東岡山IPUこども園にて保育観察を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

東岡山IPUこども園にて、観察活動を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

東岡山IPUこども園での観察後の振り返り、まとめ、次回への観察ポイントの整理(60分)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、DP2保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。と関連しております。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

保育観察のレポート30点、保育まとめレポート40点、最終レポート30点

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・東岡山IPUこども園の概要	東岡山IPUこども園の設置の背景、保育理念、こども園での取り組み、施設設備、在園児、教職員数など概要の説明。
2	保育観察1	子どもの興味・関心を観察・見守りをする。
3	保育観察2	領域健康における保育観察
4	保育観察3	領域人間関係における保育観察
5	保育観察4	領域環境における保育観察
6	保育観察5	領域言葉における保育観察
7	保育観察6	領域表現における保育観察
8	保育観察7	コーナー保育の魅力、異議、必要性、課題について検討する
9	保育観察8	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿における保育観察
10	保育観察9	自然との関わり・生命尊重での保育観察
11	保育観察10	量・図形、文字等への関心・感覚での保育観察
12	保育観察11	幼小節族の観点における保育観察
13	保育観察12	言葉による伝え合いでの遊び
14	保育観察13	こども園全体を通しての運営
15		
16		

科目コード	38301				区 分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP+他学科]				担当者名	藤谷 かおる／岩田 知郎／木村 大			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保健体育科教育指導法Ⅳでは、保健体育科指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの模擬授業や教育実習等の体験をもとに、「さらにどうすればよりよい体育授業を進めることができるか」を探究していく。特に、保健と体育の関係性を生かした具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。また、保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組む。

<授業の到達目標>

(1) 体育と保健の関係性を生かした具体的な「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。(2) 保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組むことができる。(3) 保健体育科の教師として授業を行うことの自覚と責任、求められる実践的指導力を身に付けることができる。(4) 協働的にグループ活動に貢献するとともに、自分の意見を持ち、主体的に活動に参加することができる。

<授業の方法>

模擬授業やグループワークを行う。実践研究の動向に関する授業設計については、情報収集－整理－まとめを個人及びグループで行うとともに、まとめたことをプレゼンテーション方式で発表する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(現代の教育課題について、小グループで議論したり、調査し、まとめたことをポスター発表したりなどの学習活動を行う。)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習：授業時間内に提示された課題を次時の授業までに解決し、不明な点などを明らかにしておく。授業時間に配布された資料および提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

知識的領域：25% 授業で取り上げる内容の理解及びその理解に基づいて、自身の考えをまとめること。また、実践研究の動向に関する授業設計について、テーマを設定し、情報収集－整理－まとめをしていくこと。指導案や発表資料による。態度的領域：35% 積極的な学習参加(出席状況)や教師として授業に臨む態度、活動への主体的な参加姿勢による。技能的領域：40% 学習した知識を用いて対応していくスキルを中心に評価する。模擬授業や発表時。

<教科書>

文部科学省(平成29年7月) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編 東山書房
文部科学省(平成30年7月) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育 体育編 東山書房
大修館書店(令和4年) 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則、友添秀則、岩田靖 編著 体育科教育学入門[三訂版] 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション / 保健体育授業が目指すものとは	保健体育科指導法Ⅲの振り返り、授業内容の説明、保健体育科授業を取り巻く現状とその課題
2	・技能習得の体系を理解する・中学と高校の技能の教え方について(教員体験談)	体系的な技能習得及び指導方法を理解する
3	体育と保健の関連性を生かした授業づくり	①単元目標に対応した具体的な指導内容の想定と教材構成②有機的な教材配列と学習のみちすじ③生徒の学習状況の確認と改善を図るための学習評価
4	グループ別ワーク①	教材研究・授業内容の具体の検討
5	グループ別ワーク②	発表資料の作成
6	プレゼンテーション	グループごとに発表を行う
7	AIを活用した指導案作成の検討	AIで正しく指導案を作成するために必要なことについて
8	学校と地域の連携の必要性和体育授業の関わり	自己の進路から学校とのかかわり方を見つける
9	これからの保健体育の在り方や保健体育	①保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した実践の在り方につ

	教師の在り方について考える	いて考える（進路別でも良い）②教育課題からテーマを設定し、課題解決に向けた方法について話し合う
10	テーマ別グループ活動①	①課題解決に向け、話し合った方法をもとに授業設計及び企画設計する②立案した計画に基づき、実践（模擬授業）する
11	テーマ別グループ活動②	①課題解決に向け、話し合った方法をもとに授業設計及び企画設計する②立案した計画に基づき、実践（模擬授業）する
12	テーマ別グループ活動③	発表資料の作成
13	内容報告会①	グループごとに作成した資料に基づき、発表する
14	内容報告会②	①グループごとに作成した資料に基づき、発表する②授業のまとめ
15		
16		

科目コード	38301				区 分	コア科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅳ(実践) [PP+他学科]				担当者名	坂本 康輔／岩田 知郎／木村 大			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保健体育科教育指導法Ⅳでは、保健体育科指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの模擬授業や教育実習等の体験をもとに、「さらにどうすればよりよい体育授業を進めることができるか」を探究していく。特に、保健と体育の関係性を生かした具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。また、保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組む。

<授業の到達目標>

(1) 体育と保健の関係性を生かした具体的な「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。(2) 保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した授業設計に取り組むことができる。(3) 保健体育科の教師として授業を行うことの自覚と責任、求められる実践的指導力を身に付けることができる。(4) 協働的にグループ活動に貢献するとともに、自分の意見を持ち、主体的に活動に参加することができる。

<授業の方法>

模擬授業やグループワークを行う。実践研究の動向に関する授業設計については、情報収集－整理－まとめを個人及びグループで行うとともに、まとめたことをプレゼンテーション方式で発表する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有(現代の教育課題について、小グループで議論したり、調査し、まとめたことをポスター発表したりなどの学習活動を行う。)

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習・復習：授業時間内に提示された課題を次時の授業までに解決し、不明な点などを明らかにしておく。授業時間に配布された資料および提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

知識的領域：25% 授業で取り上げる内容の理解及びその理解に基づいて、自身の考えをまとめること。また、実践研究の動向に関する授業設計について、テーマを設定し、情報収集－整理－まとめをしていくこと。指導案や発表資料による。態度的領域：35% 積極的な学習参加(出席状況)や教師として授業に臨む態度、活動への主体的な参加姿勢による。技能的領域：40% 学習した知識を用いて対応していくスキルを中心に評価する。模擬授業や発表時。

<教科書>

文部科学省(平成29年7月) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編 東山書房
文部科学省(平成30年7月) 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育 体育編 東山書房
大修館書店(令和4年) 現代高等保健体育 大修館書店

<参考書>

岡出美則、友添秀則、岩田靖 編著 体育科教育学入門[三訂版] 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション / 保健体育授業が目指すものとは	保健体育科指導法Ⅲの振り返り、授業内容の説明、保健体育科授業を取り巻く現状とその課題
2	・技能習得の体系を理解する・中学と高校の技能の教え方について(教員体験談)	体系的な技能習得及び指導方法を理解する
3	体育と保健の関連性を生かした授業づくり	①単元目標に対応した具体的な指導内容の想定と教材構成②有機的な教材配列と学習のみちすじ③生徒の学習状況の確認と改善を図るための学習評価
4	グループ別ワーク①	教材研究・授業内容の具体の検討
5	グループ別ワーク②	発表資料の作成
6	プレゼンテーション	グループごとに発表を行う
7	AIを活用した指導案作成の検討	AIで正しく指導案を作成するために必要なことについて
8	学校と地域の連携の必要性と体育授業の関わり	自己の進路から学校とのかかわり方を見つける
9	これからの保健体育の在り方や保健体育	①保健体育における実践研究の動向を知り、教育課題に対応した実践の在り方につ

	教師の在り方について考える	いて考える（進路別でも良い）②教育課題からテーマを設定し、課題解決に向けた方法について話し合う
10	テーマ別グループ活動①	①課題解決に向け、話し合った方法をもとに授業設計及び企画設計する②立案した計画に基づき、実践（模擬授業）する
11	テーマ別グループ活動②	①課題解決に向け、話し合った方法をもとに授業設計及び企画設計する②立案した計画に基づき、実践（模擬授業）する
12	テーマ別グループ活動③	発表資料の作成
13	内容報告会①	グループごとに作成した資料に基づき、発表する
14	内容報告会②	①グループごとに作成した資料に基づき、発表する②授業のまとめ
15		
16		

科目コード	53067				区 分	コア科目			
授業科目名	幼児英語指導法Ⅲ [不開講]				担当者名	羽田 あずさ／塚本 千晴			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、乳幼児の発達に応じた外国語（英語）習得に着目し、理論的側面と実践的側面を融合させて学んでいきます。幼い子どもにとって、母国語の発達途上の段階で、もう1つの言語を習得させていくことは簡単ではありません。しかし、「臨界期仮説」（ある一定の時期を過ぎるとネイティブのような言語能力を身につけるのは困難になるという仮説）があるように、幼い時に新しい言語に触れることは、その後の言語習得に大きく作用します。幼児英語指導法ⅠⅡで学習した教材や教授法を応用し、こども園での実践を通して「グローバル時代に対応できる

<授業の到達目標>

幼児英語指導法のまとめとして、英語指導の実践力を高め教育者としてのグローバルな視点を獲得することを目標とします。また、こども園での実践を通して、乳幼児の発達に応じた言語活動を提供できるようにします。

<授業の方法>

領域ごとに模擬保育を計画し、乳幼児が楽しく英語に触れることができる模擬保育を計画・実践する。各国の保育では、探求学習を実施する。ピア・アセスメント（相互評価）を実施し、良いところや改善すべき点をクラス全体で話し合い、次回の実演へ繋げていく。各学生は、ポートフォリオで記録を蓄積し、将来的な保育現場での実践に向けて活用していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有（ピアフィードバック・ジグソー法など）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：指定の幼保英検テキストを購入し、指定した範囲のダイアログや単語を覚える。（1時間）事前：模擬保育に向けて、指導案の作成や準備物の作成、探求学習の課題。（2時間）事後：振り返りレポート（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP1；他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP2；保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。DP3；教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

模擬保育30％ グループへの貢献度30％ 課題提出20％ 最終課題20％

<教科書>

一般社団法人 幼児教育・保育英語検定協会（2019） 幼保英語検定3、2、準1級テキストいずれか ブックフォレ

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価の方法などについて説明
2	英語で読み聞かせ（1）	年齢に応じた教材選択や、指導法について学習し、模擬保育を計画する
3	英語で読み聞かせ（2）	模擬保育と振り返りを行う
4	英語でパネルシアター（1）	保育現場で実践されているパネルシアターについて学習し、読み聞かせで選んだ絵本を元にパネルシアターを作成する
5	英語でパネルシアター（2）	保育現場で実践されているパネルシアターについて学習し、読み聞かせで選んだ絵本を元にパネルシアターを作成する
6	英語でパネルシアター（3）	保育現場で実践されているパネルシアターについて学習し、読み聞かせで選んだ絵本を元にパネルシアターを作成する
7	英語でパネルシアター（4）	模擬保育と振り返りを行う
8	こども園での保育実践（1）	こども園での保育実践に向けた準備を行う
9	こども園での保育実践（2）	こども園にて保育を行う
10	英語でアクティビティ（1）	これまでの学習の最終成果発表として実施するこども園での保育内容について検討する
11	英語でアクティビティ（2）	グループに分かれ、海外の保育や教育制度について調査する
12	英語でアクティビティ（3）	海外の保育や教育制度について調査する
13	こども園での保育実践（3）	こども園での保育実践に向けた準備を行う
14	こども園での保育実践（4）	こども園での保育実践に向けた準備を行う
15		
16		

科目コード	33405				区 分	コア科目			
授業科目名	幼児心理学Ⅲ [不開講]				担当者名	大久保 諒／虫明 淑子			
配当年次	4年	配当学期	前期（第1・2クォーター）	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、生涯発達の見点から、レジリエンスを学ぶ。レジリエンスとは、発達上の問題を引き起こし得る様々な背景があるにも関わらず、実際に問題を示さずに済んだり、実際に問題を示した後に回復したりする発達システムの性質を指す。①幼児期までに、発達上の問題を示している場合、それは幼児以降のどのような経験により、緩和することができるか、②幼児期までに発達の問題を示していない場合、その後の時期に困難に見舞われたとしても切り抜けられるよう、どのような準備を行い得るかについて中心的に学習していく。

<授業の到達目標>

①生涯発達の見点と、発達に伴うレジリエンスの理論について説明できるようになる。②幼児期の発達上の問題を緩和する方法について、実践的な検討力を身につける。③幼児期以降に発達上の問題を引き起こしかねない困難に見舞われたとしても、それを切り抜けるために、幼児期にどのような備えを行い得るか、実践的な検討力を身につける。

<授業の方法>

授業では、各テーマについて、教員から理論的な解説を受け、それを理解することが求められる。その後、①学習した理論により予測・説明し得る具体的な事例をグループで共有し合ったり、②調査（質問紙・面接）的な手法によってデータを収集して分析したりすることが求められる。さらには、それら検討結果をレポートやレジュメとしてまとめることで、各テーマの理解を深めることが求められる。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：一方的に解説を受けるだけでなく、学習内容の妥当性について、自分たちで事例共有や実験・調査を行うことで確認する。これらの手続きにより、「屈屈として」理解できることと、「体感的に（腑に落ちて）」理解できることの両立を目指す。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

専門的な知見に踏み込んだ学習内容について、「わかる」ようになることと、保育などの実践へ「活かせる」ようになることの両方を目指す科目である。そのため、各回の授業の前後で予習と復習が必要になる。毎回、事前に提示された学習内容について、予め調べたり、小課題に取り組んだりするなど、1時間程度の予習を要する。同様に、毎回、配布資料や授業内で取り組んだ演習課題を振り返ったり、理解度の確認の小課題へ取り組んだりするなど、60分程度の復習を要する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習の参加態度：20%、各テーマの演習成果物の出来栄：40%、学期末レポートの成績：40%を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方、および生涯発達・レジリエンスに関する解説
2	発達とレジリエンス	カウアイ研究とE. Wernerのレジリエンス理論
3	気質とレジリエンス①	Easyな気質に関する発達理論
4	気質とレジリエンス②	Easyな気質に対する発達支援
5	気質とレジリエンス③	行動抑制の気質に関する発達理論
6	気質とレジリエンス④	行動抑制の気質に対する発達支援
7	社会経済的不遇さとレジリエンス①	社会階層と発達格差の理論
8	社会経済的不遇さとレジリエンス②	速い発達と遅い発達の理論
9	社会経済的不遇さとレジリエンス③	世代間伝達の理論
10	社会経済的不遇さとレジリエンス④	社会経済的不遇さに対する支援
11	仲間関係の問題とレジリエンス①	発達の仲間関係と問題行動の理論
12	仲間関係の問題とレジリエンス②	仲間関係の問題に対する発達支援
13	奇妙な（WEIRD）子ども達の発達	発達観の相対化とレジリエンス
14	発達カスケード	発達におけるプラスの連鎖とマイナスの連鎖
15		
16		

科目コード	53070				区 分	コア科目			
授業科目名	幼児体育指導法Ⅲ [不開講]				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼児期に求められる運動のあり方を学び、発達段階に適した運動指導の考え方や指導者の役割を理解する。様々な年代の子どもたちに対して、どのような遊びや動きを通してスポーツあるいは競技の基礎を習得させていくのか、また、積極的に運動に取り組む習慣を身に付けさせる方法について考案し、プログラムの立て方や運動指導方法について学習する。本講義では「体力測定」の取り組みから、子どもとスポーツ、心身の健康について考え、幼児期にとってのスポーツが子どもに「よい影響」となるように指導者として必要な知識、倫理観、指導技術を獲得する。

<授業の到達目標>

①年中児から小学校低学年に適した体力向上につながる取り組みを理解できる。 ②心身の発育発達について十分に理解し、子どもとスポーツ実践に関して指導者としてふさわしい倫理観を獲得する。

<授業の方法>

講義と座学の演習方式で進める。受講者はGoogleクラスルームに参加し、そこから課題や連絡を受取る。毎時のレポートはGoogleフォームから投稿する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

東岡山IPUこども園での観察、遊びの提案を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎時の学習テーマに関する事前課題（60分）に取り組むこと。授業後は指示に応じてレポートを作成し、所定の方法で提出すること（60分）。指導案の作成、準備物の作成を行う。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート課題 50%、指導実施計画 30%、指導技術 20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業内容と評価方法の説明。子どもと健康に関する学習状況の振り返り。
2	ウェルビーイングのための幼児体育(1)	幼児期における運動の効果と適切な実施方法について理解する。
3	ウェルビーイングのための幼児体育(2)	海外の教育要領や指針から幼児期における運動の効果と適切な実施方法について学習する。
4	ウェルビーイングのための幼児体育(3)	第3回目で学習した内容から、幼児体育あるいは幼児期におけるスポーツ活動における適切な実施方法について考察する。
5	幼児期のスポーツ実践におけるコーチング(1)	指導者のリーダーシップについて学習する。
6	幼児期のスポーツ実践におけるコーチング(2)	年間指導実施計画を作成する。
7	幼児期のスポーツ実践におけるコーチング(3)	年間指導実施計画をもとに月案を作成する。
8	幼児体育と体力(1)	スポーツの種類と競技特性について理解し、幼児期の運動における実践方法について考察する。
9	幼児体育と体力(2)	スポーツの種類と競技特性について理解し、体力要素との関連を考察する。
10	幼児体育と体力(3)	各競技で求められる主要な体力要素について理解し、指導計画を作成する。
11	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(1)	各競技で求められる競技特性および主要な体力要素に合わせた教材・教具を作成する。
12	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(2)	各競技で求められる競技特性および主要な体力要素に合わせた教材・教具を作成する。
13	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(3)	作成した教材・教具を使って模擬授業を行う。
14	幼児期のスポーツ実践における教材・教具研究(4)	作成した教材・教具を使って模擬授業を行う。

15		
16		

科目コード	3F311				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	臨床柔道整復学演習Ⅱ				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	カリキュラムにより異なります

<授業の概要>

柔道整復師の治療法が基礎医学を根底とした臨床医学であることを理解する為に日常診療の中で多く遭遇する疾患に焦点を当て、繰り返し確認することで、学習の定着を図る。 本科目では内科学、外科学、整形外科といった臨床医学を起点に疾患の病態が解剖学、生理学で学んだ人体の構造と役割や病理学で修得した分子生物学的アプローチのどの部分に基礎がなされているのかに遡り学習する。また、公衆衛生学などの繋がりについても学習し、基礎医学と臨床医学の繋がりを確実に理解する。

<授業の到達目標>

基礎専門科目の解剖学、生理学、病理学、運動学、公衆衛生学の領域で得られた情報と柔道整復術との関連性を考え、総合的に各種疾患の病態、発生機序、処置法、合併症、管理について説明ができることを目標とする。

<授業の方法>

基礎専門科目およびコア科目で学習した内容を総合的にまとめた配布資料および問題の実施、実施後におけるグループ学習で進める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

特になし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

総合的学習（学習した内容）のつながりをもとに、①病態、②発生機序、③処置法、④合併症、⑤管理の項目に分け予習し（3時間程度）、講義で実施した問題に対する復習する作業が重要である（3時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験（90％）、学習意欲（10％）で評価する。

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版
 全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂
 全国柔道整復学校協会監修 病理学概論 医歯薬出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	末梢神経・神経叢と疾患の関連性について学習する
2	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	骨格筋全般と疾患の関連性について学習する
3	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	血管系と疾患の関連性について学習する
4	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	骨と疾患の関連性について学習する
5	総合考察1	解剖学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
6	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	内分泌と疾患の関連性について学習する
7	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	呼吸器と疾患の関連性について学習する
8	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	自律神経と疾患の関連性について学習する
9	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	免疫システムと疾患の関連性について学習する
10	総合考察2	生理学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
11	基礎専門分野（運動学）より各種疾患を考	運動の発生のメカニズムと疾患の関連性について学習する

12	察する 基礎専門分野（運動学）より各種疾患を考 察する	運動学習と疾患の関連性について学習する
13	基礎専門分野（病理学）より各種疾患を考 察する	細胞の変化と疾患の関連性について学習する
14	総合考察3	運動学、病理学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
15		
16		

科目コード	53092				区 分	コア科目			
授業科目名	NZ保育学				担当者名	上田 敏文			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、「ニュージーランド保育」を全体テーマとして設定し、ニュージーランド保育の独自性と日本との共通性、応用可能性に関する研究を行う。全体テーマに関わる各自のテーマを決めて、最終的にパワーポイントのプレゼン発表をする。

<授業の到達目標>

ニュージーランド保育におけるカリキュラム（テ・ファーリキ）、環境構成、記録（ラーニングストーリー）の手法を学び、日本保育への応用可能性を説明できる。

<授業の方法>

ニュージーランド保育、特に保育カリキュラム「テ・ファーリキ」の原理・柱を全体ディスカッションにより総合的に学ぶ。また、各自がニュージーランド保育に関する個別テーマも探求し、その進捗状況を発表する活動も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

複数名のグループに分かれて、テーマに応じたディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習はニュージーランド保育に関する文献の該当箇所を事前に読み（英文を含む）、全体ディスカッションための問いを毎回考える（2時間程度）。復習は授業での議論の振り返り（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

全体テーマの取り組み（発表・演習）の状況（50%）、個別プレゼン発表（50%） なお、グループ内の相互評価を採り入れ、発表やレポートの評価、改善点も学生グループで探求する。

<教科書>

大橋節子・中原朋生・内田伸子・上田敏文編著・神代典子訳 『ニュージーランド乳幼児カリキュラム テ・ファーリキ 子どもが輝く保育・教育のひみつを探る』 建帛社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：日本の保育の特徴	授業概要と日本の保育の特徴
2	世界で注目される保育	日本の保育の特徴を踏まえ、海外の保育の動向について学ぶ
3	ニュージーランド保育の原理	4つの原理と5つの柱
4	原理と要素の関係について考えるグループワーク	原理と要素の内容を読み解く
5	日本及びNZの就学前施設	主体的な遊びを中心とした就学前施設
6	記録の意義をNZから学ぶ	保育における記録の意義、NZのラーニングストーリーについて
7	ラーニングストーリーを作成するグループワーク	ラーニングストーリーの作成
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	53094				区 分	コア科目			
授業科目名	NZ保育実習				担当者名	宮原 舞／虫明 淑子			
配当年次	1年	配当学期	集中講義	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ニュージーランドの保育・幼児教育施設における実践場面の見学を通して、ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム「テ・ファークリ」への理解を深めるとともに、国際的な教育観および子ども主体の保育観について学ぶ。事前学習では、日本とニュージーランドの幼児教育・保育の特徴を整理し、観察の視点を確認したうえで現地実習に臨む。現地では、子どもの姿、保育者の関わり、環境構成、記録や評価の方法などを観察し、多面的に保育実践を捉える。また、振り返りのディスカッションを通して、保育実践におけるPDCAサイクルの視点を踏まえながら

<授業の到達目標>

ニュージーランドの保育実践を観察し、日本の保育との共通点・相違点を比較しながら考察できる。子ども主体の保育観および国際的な教育観について理解を深め、現地での実習経験を踏まえて、自らの保育観や課題意識を整理し説明できる。観察・記録・振り返りを通して、保育実践におけるPDCAサイクルやアセスメントの視点を理解し、今後の学びに生かすことができる。

<授業の方法>

事前オリエンテーション、講義、演習、現地での保育観察、実践活動、振り返り学習を通して進める。事前学習では「テ・ファークリ」の復習、日本の幼児教育との比較、観察の視点の確認、現地で実施する保育プログラムの準備と練習を行う。現地では、保育施設において子どもの姿、保育者の関わり、環境構成、記録・評価の方法などを実践的に学ぶ。事後学習では、観察記録や体験の共有、ディスカッション、レポート作成等を通して学びを整理し、省察を深める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、ニュージーランド保育や「テ・ファークリ」に関する資料を読み、日本の幼児教育・保育との違いを整理しておくこと。また、現地で実施する保育プログラムについて検討し、必要な教材や英語表現の準備を進めること。復習として、学習内容や現地での観察内容を記録・整理し、気づきや課題を振り返ること。特に現地実習期間中は、毎日の観察記録や省察メモを作成し、事後レポートにつなげること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー1（他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。）およびディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）、ディプロマポリシー5（異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習における取組状況・提出課題 20% 現地実習における参加態度・観察記録 40% 事後レポート・振り返り発表 40%

<教科書>

大橋節子 中原朋生 内田伸子 上田敏丈 監訳・編著 ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム テ・ファークリ（完全翻訳・解説）
—子どもが輝く保育・教育のひみつを探る— 建帛社
内閣府 文部科学省 厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月） フレーベル館

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的・概要・日程・留意事項を理解し、実習全体の見通しをもつ。
2	ニュージーランド保育の基礎理解	ニュージーランドの乳幼児教育制度および保育の特徴について学び、日本の保育との違いを整理する。
3	テ・ファークリの理解	ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム「テ・ファークリ」の理念・構成・内容を理解する。
4	観察の視点と記録の方法	保育観察の方法、子どもの姿の捉え方、記録の取り方、アセスメントにつながる視点を学ぶ。
5	事前演習①	保育観察の実践練習を通して、観察・記録の方法を確認する。
6	事前演習②	現地で実施する保育プログラムの内容を検討し、教材や進め方を準備する。
7	事前演習③	現地でのコミュニケーションや活動実践に必要な表現を確認し、実践練習を行う。
8	現地実習①	保育施設の環境構成、生活の流れ、子どもの活動の姿を観察し、その特徴を把握する。
9	現地実習②	子どもの主体的な活動、保育者の援助や関わりを観察し、保育観を考察する。
10	現地実習③	「テ・ファークリ」の理念が保育実践の中でどのように具体化されているかを観察する。

11	現地実習④	準備した保育プログラムを実践し、子どもの反応や活動の展開を振り返る。 観察記録や評価の考え方に着目し、アセスメントの方法論について学ぶ。 現地での学びや気づきを整理し、日本の保育との比較を通して理解を深める。 実習全体を振り返り、学びをまとめるとともに、今後の学修課題を明確にする。
12	現地実習⑤	
13	事後学習①	
14	事後学習②	
15		
16		

科目コード	53025				区 分	コア科目			
授業科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅰ [PP・PS用]				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ現場や講話などを通してアスレティックトレーナーに必要とされる役割についての意義と考え方を学び、具体的な評価から問題点抽出、予防・リコンディショニング介入までのプロセスを理解し、アスレティックトレーナーの業務内容を学ぶことをねらいとする。アスレティックトレーナー実習Ⅰでは見学実習を中心に必要な知識や技術を身につける。

<授業の到達目標>

検査・測定と評価についての方法であるHOPSやリコンディショニング、外傷における応急処置、コンディショニングとしてストレッチングやテーピングなどアスレティックトレーナーの役割全般を主として見学を通して理解ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

実習はトレーニングセンターなどスポーツ現場で行う。必要に応じて資料を配布する。資料提示や課題の提示、提出等はGoogleClassroomで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有実習前後に質疑応答やディスカッションなどを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の該当箇所の予習として、検査・測定と評価、予防とコンディショニング、アスレティックリハビリテーション等のテキストについて各60分以上学習しておく。各回、実施した内容をまとめたレポートを復習課題として課す。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）50%、レポート最終課題（最終課題）50%

<教科書>

<参考書>

公益社団法人全国柔道整復学校協会 競技者の外傷予防 医歯薬出版株式会社

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第1巻 アスレティックトレーナーの役割』（公財）日本スポーツ協会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスレティックトレーニングルーム見学実習①	評価とリコンディショニングの見学①
2	アスレティックトレーニングルーム見学実習②	評価とリコンディショニングの見学②
3	アスレティックトレーニングルーム見学実習③	評価とリコンディショニングの見学③
4	アスレティックトレーニングルーム見学実習④	評価とリコンディショニングの見学④
5	トレーニングルーム見学実習①	評価とコンディショニングの見学①
6	トレーニングルーム見学実習②	評価とコンディショニングの見学②
7	トレーニングルーム見学実習③	評価とコンディショニングの見学③
8	トレーニングルーム見学実習④	評価とコンディショニングの見学④
9	スポーツ現場の見学実習①	役割、業務、関わり、評価とコンディショニング、リコンディショニング、救急対応の見学①
10	スポーツ現場の見学実習②	役割、業務、関わり、評価とコンディショニング、リコンディショニング、救急対応の見学②
11	スポーツ現場の見学実習③	役割、業務、関わり、評価とコンディショニング、リコンディショニング、救急対応の見学③
12	スポーツ現場の見学実習④	役割、業務、関わり、評価とコンディショニング、リコンディショニング、救急

13	様々なトレーナー現場の見学①	対応の見学④ 年齢や性別、競技などプレイヤーに応じた対応①
14	様々なトレーナー現場の見学②	年齢や性別、競技などプレイヤーに応じた対応②
15		
16		

科目コード	53027				区 分	コア科目			
授業 科目名	アスレティックトレーナー実習Ⅲ				担当者名	江波戸 智希／河野 儀久			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスレティックトレーナーに必要とされるコンディショニングとリコンディショニング手法と、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防を実習を通して学習、実践する。競技特性を理解し、競技に応じた対応について理解する。

<授業の到達目標>

各種疾患およびコンディショニングに対して、適切な評価に基づくコンディショニング、リコンディショニング、健康管理と予防法、応急処置の技術を習得し、実際に選手に対して適応可能となることができるとを目標とする。

<授業の方法>

トレーニングセンターなど実際のスポーツ現場における実習形式で行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有3～4人組となり、実際の選手の評価を行い、リコンディショニングを行う。その後、選手の状態をグループ間で発表し、ディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前にコンディショニングとリコンディショニング手法と、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防等について60分、テキストを読んで準備する。また、授業後は復習およびレポート作成について120分以上行い、レポートを提出すること。現場で救急処置のスキルが求められるため、日本赤十字協会救急法救急員を修了すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（授業への取り組み、毎回の復習レポート）30%、実技試験70%で評価する。

<教科書>

<参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第5巻 救急対応』
『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻 検査・測定と評価』（公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第3巻 コンディショニング』（公財）日本スポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト『第4巻 リコンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	リコンディショニング実習概論1	リコンディショニングの計画1
2	リコンディショニング実習概論2	リコンディショニングの計画2
3	リコンディショニング実習1	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作1
4	リコンディショニング実習2	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作2
5	リコンディショニング実習3	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作3
6	リコンディショニング実習4	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作4
7	リコンディショニング実習5	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作5
8	リコンディショニング実習6	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作6
9	リコンディショニング実習7	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作7
10	リコンディショニング実習8	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作8
11	リコンディショニング実習9	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作9
12	リコンディショニング実習10	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作10
13	リコンディショニング実習11	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作11
14	リコンディショニング実習12	対象の部位に応じた評価、エクササイズ、道具、動作12
15		
16		

科目コード	53014				区 分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ [FC]				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	3年	配当学期	通年・集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を育成する」、「残りの学生生活ですべきことを明確にする」ことを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として働くための心構えやマナーを身に付ける。2. 就職活動に必要な書類を知り、作成できる。3. 卒業後のキャリアビジョンについて説明ができる。

<授業の方法>

・学内でインターンシップについて学習する・インターンシップに参加する企業を決める・企業の方と顔合わせをおこなう・インターンシップの目標を決める・インターンシップに参加する・学内でインターンシップについて振り返る・成果をまとめ、報告する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 事前指導ではテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う 実習では自ら進んで課題に取り組む 事後指導では実習成果を参加者同士で共有するため、聞き手は報告者にフィードバックを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：インターンシップを希望する企業や施設について、公式ウェブサイトやパンフレット等の資料を用いて事業内容や社会的役割を調査し、実習における具体的な行動目標の立案および提出書類（履歴書等）の作成準備を行う（2時間程度）。事後学習：実習での就業体験や作成した日誌の内容を振り返り、実習先の組織体制や業務内容についての分析をまとめ、成果報告会用の資料作成および提出用レポートの執筆を行う（3時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）およびディプロマポリシー2（保育士・幼稚園教諭養成の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題への取組：① 20%、② 60%、③ 20%①事前学習：科目担当者が指示するガイダンスへの参加②企業インターンシップ等への参加③事後学習：成果報告・提出レポート

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	インターンシップの目的と心構え
2	事前学習 1	インターンシップ実習科目の目的とシステム
3	事前学習 2	本学におけるインターンシップ申し込みシステム
4	事前学習 3	企業研究 1
5	事前学習 4	企業研究 2
6	事前学習 5	企業研究 3
7	事前学習 6	インターンシップ書類作成 1
8	事前学習 7	インターンシップ書類作成 2
9	インターンシップ1日目	就業先でのオリエンテーション
10	インターンシップ2日目	担当業務への従事、日誌の作成 1
11	インターンシップ3日目	担当業務への従事・日誌の作成 2
12	インターンシップ4日目	担当業務への従事・日誌の作成 3
13	インターンシップ5日目	担当業務への従事・日誌の作成 4
14	インターンシップ振り返りと事後指導	インターンシップ報告書のチェックと評価
15		
16		

科目コード	53014				区 分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ [PS用]				担当者名	宮本 彩			
配当年次	3年	配当学期	通年集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業はインターンシップ（職業体験）に向けた準備ならびに参加を通して、自身のキャリアについてより深く考えるとともに、社会人として必要なビジネスマナーとコンプライアンスの一端を習得するものである。また、社会におけるスポーツの役割や自分自身がスポーツをしてきた経験の価値について、改めて考え、自分なりの意見を発信できるようになることをめざす。

<授業の到達目標>

①インターンシップを行う目的を理解し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立している。②インターンシップの学びを自身のキャリアデザインに結び付けている。③社会人として必要なビジネスマナーとコンプライアンスを身に身につけている。④自己理解を深め、強みを知り、自己を活かす道につなげることができている。⑤インターンシップ先の企業研究を行うことで、主体的にインターンシップの具体的な目標を設定することができている。

<授業の方法>

概ね以下の内容を実施するが、インターンシップ先とのスケジュールに合わせて、適宜、順序を変えながら行う。・学内でインターンシップについて学習する。・学内で基本となるビジネスマナーを学習し、インターンシップ先で実践する。・各自、インターンシップに参加する企業・公共施設等を決め、インターンシップの目標を決める。・1日以上インターンシップに参加する。・学内でインターンシップについて振り返り、成果報告を行う。学内指導においてはGoogle Classroomを利用して資料配布や課題管理を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有事前指導では、テーマにそって参加者同士で話し合い、意見をまとめる。実習では積極的に課題に取り組む。事後指導・報告では実習成果を報告し、報告を聞いた聞き手は自身に得られた学びを伝える。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：インターンシップを希望する企業や施設について、公式ウェブサイトやパンフレット等の資料を用いて事業内容や社会的役割を調査し、実習における具体的な行動目標を立案する（3時間程度）。事後学習：実習での就業体験を振り返り、実習先の組織体制や業務内容についての分析をまとめ、成果報告会用の資料作成および提出用レポートの執筆を行う（3時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は競技スポーツ科学科のディプロマポリシーの「3 スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技術を活用できる。」「4 スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。」ならびに「5 スポーツを通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。」と関連づいている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

ガイダンスでの受講態度および各課題の達成度（10%）事前レポート（10%）実習先での課題取り組み姿勢および実習態度（40%）実習レポートならびに成果報告の発表（20%）アクションプラン（20%）

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	インターンシップとは	授業の取り組み方についての説明を行う
2	社会で求められる力とは	社会人として求められる力とは何か、また、自分自身のキャリアについての考えをグループワークを通して深める
3	自己分析を行う	自己分析を行い、インターンシップ先に提出する履歴書を作成する。
4	基本のビジネスマナー① ～コミュニケーション～	コミュニケーションの基本姿勢、第一印象の重要性、敬語の基本と様々な場面を想定した言葉遣いについて、学内にて実践しながら学習・習得する。
5	基本のビジネスマナー② ～メール・ビジネス文書の作成～	インターンシップ先とのやり取りを想定したメールならびにビジネス文書の作成を行う。
6	インターンシップ先の選定、連絡・調整	自分自身が希望する業種・業界のインターンシップ先を選定し、オファーする。受け入れ先との日程調整等を含めた連絡を行う。
7	インターンシップの目標設定	インターンシップ先での実習内容を踏まえ、自らの目標を設定し、実習前レポートにまとめる。
8	実習①	インターンシップ先での実習（挨拶、自己紹介、実習内容の把握など）
9	実習②	インターンシップ先での実習（職業体験内容に則した実践）
10	実習③	インターンシップ先での実習（職業体験内容に則した実践）
11	実習④	インターンシップ先での実習（片づけ、挨拶など）
12	インターンシップの振り返り①～実習レ	実習の内容の振り返りとインターンシップ前に設定した目標の検証・分析を行い、

13	ポート作成～ インターンシップの振り返り②～実習報告～	実習レポートとしてまとめる。 実習での学びについてプレゼンテーションを行う。また、他の受講者の体験を聞き、学びを深める。
14	インターンシップの学びを活かす	今後の目標ならびに卒業後に向けたアクションプランを作成する。
15		
16		

科目コード	53081				区 分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ（スポーツビジネス） [BC]				担当者名	赤木 邦江／溝越 隆興			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習（インターンシップ：就業体験）	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、汎用的能力活用型では短期（5日間以上）、専門的活用型では長期（2週間以上・実質10日以上）のインターンシップ（就業体験）をもとに、学生が組織で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解することを目的とする。併せて、学生の学びたいこと・学ばせたいことをプログラム設計して、産官学連携の協力のもとコーオプ教育を推進しているので、積極的に、より具体的に就業先で実習できるプログラム（内容、目標、課題等）を定める必要がある。 ※汎用的能力活用型（短期・5日間以上） 2単位 専門的活用型

<授業の到達目標>

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。興味・関心のある業界・職業・職務等を理解・体験することにより、学生から社会人に移行する際のマッチングの重要性（情報の対称性）を知り、自身の期待との大きなギャップ（リアリティ・ショック）がないように有益な就業体験にする。

<授業の方法>

「インターンシップ」を履修する場合、特別演習Ⅱ（インターンシップ事前・事後指導）の履修が必須である。エントリーシートの記載、ビジネスマナー（言葉遣い、電話対応マナー、メールマナー等）、模擬面接の学習をした上で、組織とのインターンシップ就業の受け入れマッチングを実施（面談、対面面接、オンライン面接など）。就業先が決定したら、その企業及び業界研究をし、就業に臨む。就業においては、遅刻・欠席をせず、原則皆勤によりまじめに取り組まなければならない。就業終了後には、成果報告レポートの提出と成果報告会でのプレゼンテーションを実施。学生は履修に当たり、大学及び受入先に誓約書を提出する。実習前後の個別サポートは、特別演習Ⅱ内、または対面面談及びEメールやGoogleClassroom（レジュメ等をアップした場合には印刷またはダウンロードをする）を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

履修許可に際しては、前年度出席率80%以上、GPA2.0以上を基本条件とする。グローバル（留学）生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N2相当が望ましい。インターンシップ（就業体験）の日程期間（夏期休暇期間・第3クォーター）は、すべて参加することを原則とする。特にその期間のアルバイトは原則禁止（課題や振り返りレポート作成あり）。その他の条件については、特別演習Ⅱ（インターンシップ事前・事後指導）にて説明を行う。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めておく（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価 50%、就業先決定における必要書類の作成と提出 20%、レポート課題・実施報告書提出及び成果報告（プレゼンテーション） 30%※講義に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	インターンシップとは	インターンシップの目的とその重要性エントリーシートの作成・提出
2	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
3	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
4	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
5	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
6	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
7	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
8	インターンシップ実習	各実習先での就業体験

9	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
11	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
14	インターンシップ終了・書類作成、成果報告	インターンシップ実施報告書、体験報告書、成果報告資料作成等
15		
16		

科目コード	53079				区 分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ(企業) [BC]				担当者名	赤木 邦江／溝越 隆興			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習（インターンシップ：就業体験）	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、汎用的能力活用型では短期（5日間以上）、専門的活用型では長期（2週間以上・実質10日以上）のインターンシップ（就業体験）をもとに、学生が組織で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解することを目的とする。併せて、学生の学びたいこと・学ばせたいことをプログラム設計して、産官学連携の協力のもとコーオプ教育を推進しているので、積極的に、より具体的に就業先で実習できるプログラム（内容、目標、課題等）を定める必要がある。 ※汎用的能力活用型（短期・5日間以上） 2単位 専門的活用型

<授業の到達目標>

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。興味・関心のある業界・職業・職務等を理解・体験することにより、学生から社会人に移行する際のマッチングの重要性（情報の対称性）を知り、自身の期待との大きなギャップ（リアリティ・ショック）がないように有益な就業体験にする。

<授業の方法>

「インターンシップ」を履修する場合、特別演習Ⅱ（インターンシップ事前・事後指導）の履修が必須である。エントリーシートの記載、ビジネスマナー（言葉遣い、電話対応マナー、メールマナー等）、模擬面接の学習をした上で、組織とのインターンシップ就業の受け入れマッチングを実施（面談、対面面接、オンライン面接など）。就業先が決定したら、その企業及び業界研究をし、就業に臨む。就業においては、遅刻・欠席をせず、原則皆勤によりまじめに取り組まなければならない。就業終了後には、成果報告レポートの提出と成果報告会でのプレゼンテーションを実施。学生は履修に当たり、大学及び受入先に誓約書を提出する。実習前後の個別サポートは、特別演習Ⅱ内、または対面面談及びEメールやGoogleClassroom（レジュメ等をアップした場合には印刷またはダウンロードをする）を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

履修許可に際しては、前年度出席率80%以上、GPA2.0以上を基本条件とする。グローバル（留学）生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N2相当が望ましい。インターンシップ（就業体験）の日程期間（夏期休暇期間・第3クォーター）は、すべて参加することを原則とする。特にその期間のアルバイトは原則禁止（課題や振り返りレポート作成あり）。そのほかの条件については、特別演習Ⅱ（インターンシップ事前・事後指導）にて説明を行う。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めておく（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価 50%、就業先決定における必要書類の作成と提出 20%、レポート課題・実施報告書提出及び成果報告（プレゼンテーション） 30%※講義に関する質問は講義終了後、および教員のオフィスアワーで対応する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	インターンシップとは	インターンシップの目的とその重要性エントリーシートの作成・提出
2	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
3	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
4	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
5	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
6	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
7	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
8	インターンシップ実習	各実習先での就業体験

9	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
11	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習	各実習先での就業体験
14	インターンシップ終了・書類作成、成果報告	インターンシップ実施報告書、体験報告書、成果報告資料作成等
15		
16		

科目コード	53080				区 分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ（公務員） [BC]				担当者名	岡田 健志／赤木 邦江			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習（ロールプレイング等）、実習（インターンシップ：就業体験）	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、汎用的能力活用型では短期（5日間以上）、専門的活用型では長期（2週間以上・実質10日以上）のインターンシップ（就業体験）をもとに、学生が組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）で働くうえで、獲得すべき職場文化や業務に求められる知識について理解することを目的とする。併せて、学生の学びたいこと・学ばせたいことをプログラム設計して、産官学連携の協力のもとコーオプ教育を推進しているので、積極的に、より具体的に就業先で実習できるプログラム（内容、目標、課題等）を定める必要がある。事前学習では演習（ロールプ

<授業の到達目標>

「実際の職場や組織で働く」を通して、「働く」こと、「仕事をする」こと、さらには大学を卒業して「社会人」になることなどに対する理解を深めることを目的とする。興味・関心のある業界・職業・職務等を理解・体験することにより、学生から社会人に移行する際のマッチングの重要性（情報の対称性）を知り、自身の期待との大きなギャップ（リアリティ・ショック）がないように有益な就業体験にする。以上の過程を経て、以下のスキルおよびリテラシーが身につくことを目標とする。・それぞれの部署やポジションによつての業務範囲や内容を理解できる

<授業の方法>

組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）でのインターンシップ実習に加えて、事前・事後の学内講義（座学および演習：ロールプレイング）を行う。いずれも重要だが、特にインターンシップ実習は、遅刻・欠席をせず、まじめに取り組まなければならない。また、実習終了後には、成果報告レポートの提出が必要である。特段の理由がある場合を除き、座学・演習、実習、レポートのすべてを完了しなければ単位は認められない。受講者数によっては、成果報告会でのプレゼンテーションを追加する場合がある。短期インターンシップでは、実習の受入先と覚書としての依頼書・受入書を、長期インターンシップでは協定書を大学と取り交わした組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）において、実習を行う。学生は履修に当たり、大学及び受入先に誓約書を提出する。実習前後の個別サポートは、対面面談及びEメールやGoogleClassroom（レジュメ等をアップした場合には印刷またはダウンロードをする）を活用する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有り：演習（ロールプレイング、グループワーク）、プレゼンテーションなど

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講許可に際しては、前年度出席率85%以上、GPA2.0以上を基本条件とする。また、留学生の場合は原則として、上記2点に加えて、日本語能力検定試験N2相当が望ましい。インターンシップ（就業体験・夏期休暇期間）の期間中は、すべての日程に参加することを原則とする（特にその期間のアルバイトは原則禁止）。このほかの条件については、ガイダンスを実施して説明を行う。また事前・事後の学内講義は、集中講義（前期：隔週8コマ、後期：10月2コマ×2回）として実施する。予習：実習先の企業等について包括的に調べ、理解を深めてお

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

インターンシップ先からの評価 40%、授業への取り組み態度 30%、レポート課題・報告書及び報告（プレゼンテーション） 30%

<教科書>

<参考書>

指定しない。授業で使用する資料等は必要に応じて配布、または紹介する。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス「インターンシップ」とは	授業・実施の進め方、諸注意、各種手続き、履修条件について

2	インターンシップ事前準備（１） 参加申込書（エントリーシート）、誓約書、肖像権使用許諾書等必要書類組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討	インターンシップの存在理由と意義
3	インターンシップ事前準備（２）	学生と社会人の違い、「働く」とはどういうことか？ 組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）の研究・検討
4	インターンシップ事前準備（３）	就職活動とインターンシップの関係
5	インターンシップに必要なマナー（１）	ビジネスマナーの理解と実践 面談・面接のマナー、ビジネスマナー（ロールプレイング）
6	インターンシップに必要なマナー（２）	エントリーシート、履歴書などの書類の書き方、機密保持について
7	決定就業体験先の組織（企業、団体、官公庁等の行政職等）研究	組織研究の基本的な考え方、就業体験先についての調査・分析
8	インターンシップ実習前準備	個別面談、インターンシップ先面談、プログラム設計（内容・目標・課題等）
9	インターンシップ実習（１）	各実習先での就業体験
10	インターンシップ実習（２）	各実習先での就業体験
11	インターンシップ実習（３）	各実習先での就業体験
12	インターンシップ実習（４）	各実習先での就業体験
13	インターンシップ実習（５）	各実習先での就業体験
14	報告会	各実習先での就業体験の個別報告会を実施する
15		
16		

科目コード	53047				区 分	コア科目			
授業科目名	インターンシップ I [FE]				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年・集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

<授業の概要>

就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を育成する」、「残りの学生生活ですべきことを明確にする」ことを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として働くための心構えやマナーを身に付ける。2. 就職活動に必要な書類を知り、作成できる。3. 卒業後のキャリアビジョンについて説明ができる。

<授業の方法>

・学内でインターンシップについて学習する・インターンシップに参加する企業・公共施設等を決める・担当の方と顔合わせをおこなう・インターンシップの目標を決める・インターンシップに参加する・学内でインターンシップについて振り返る・成果をまとめ、報告する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 事前指導でテーマにそって参加者同士で話し合い、意見をまとめ発表をおこなう 実習では積極的に課題に取り組む 事後指導・報告では実習成果を報告し、報告を聞いた聞き手は自身に得られた学びを伝える

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： インターンシップを希望する企業や施設について、公式ウェブサイトやパンフレット等の資料を用いて事業内容や社会的役割を調査し、実習における具体的な行動目標を立案する（2時間程度）。事後学習： 実習での就業体験を振り返り、実習先の組織体制や業務内容についての分析をまとめ、成果報告会用の資料作成および提出用レポートの執筆を行う（3時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①20%、②60%、③20%①科目担当者の指示するガイダンスに出席②現場でのインターンシップ等への参加③事後学習：成果報告・提出レポート

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	インターンシップの目的と心構え
2	事前学習①	インターンシップ実習科目の目的とシステム
3	事前学習②	インターンシップ先の確定と事前挨拶
4	実習①	実習参加①
5	実習②	実習参加②
6	実習③	実習参加③
7	事後学習①	実習成果振り返り・成果報告会
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	53048				区 分	コア科目			
授業科目名	インターンシップⅡ [FE]				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年・集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

<授業の概要>

「インターンシップⅠ」に続き、就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を育成する」、「残りの学生生活すべきことを明確にする」ことを目的とする。※本科目は「インターンシップⅠ」受講学生のみとする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として働くための心構えやマナーをより強固に身に付ける。2. 就職活動に必要な書類をスムーズに作成できる。3. 卒業後のキャリアビジョンについて誰もがわかるように説明できる。

<授業の方法>

・学内でインターンシップについて学習する・インターンシップに参加する企業・公共施設等を決める・担当の方と顔合わせをおこなう・インターンシップの目標を決める・インターンシップに参加する・学内でインターンシップについて振り返る・成果をまとめ、報告する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 事前指導でテーマにそって参加者同士で話し合い、意見をまとめ発表をおこなう 実習では積極的に課題に取り組む 事後指導・報告では実習成果を報告し、報告を聞いた聞き手は自身に得られた学びを伝える

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 実習を希望する企業や施設について、公式ウェブサイトや資料等を用いて詳細な情報収集・調査を行い、実習における具体的な到達目標を設定する（2時間程度）。事後学習： 実習内容の振り返りをおこない、実習企業の組織体制や業務内容についての分析をまとめ、成果報告書（レポート）を作成する（3時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①20%、②60%、③20%①科目担当者の指示するガイダンスに出席②現場でのインターンシップ等への参加③事後学習：成果報告・提出レポート

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	「インターンシップⅠ」を受けた後、復習と再度のインターンシップの目的と心構え
2	事前学習①	「インターンシップⅠ」を受けた後の活動
3	事前学習②	「インターンシップⅠ」を受けた後の活動
4	実習①	実習参加①
5	実習②	実習参加②
6	実習③	実習参加③
7	事後学習①	実習成果振り返り・成果報告会
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	65050				区 分	コア科目			
授業科目名	キャリアマネジメントⅣ [中高保健教員]				担当者名	岩田 知郎／延原 まどか／目木 美奈子／木村 大			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

中高保健体育科教員を目指す学生がキャリア（職業人生）を考えていくには、さまざまな教育的課題について十分理解しておく必要がある。この授業では、今後中高保健体育科教員の採用試験で課されるであろう「個人面接」「集団面接」「集団討論」等の準備を通して、自己の経験を見つめ、可能性を追求し、自分自身のキャリアを積み重ねていく土台を作ることを目指す。（大学4年で保健体育の教員採用試験を受験する予定の者のみを対象とする）

<授業の到達目標>

① 保健体育科教員に必要な知識・技能・態度を育成し、自信をもって採用試験に臨むことができるようになる。② 面接官に答えることや、学生同士で討論することを通して、適切なコミュニケーションができるようになる。

<授業の方法>

1. 様々な教育課題について考える 2. 互いに交替しながら、個人面接・集団面接・集団討論を行う 3. 活動の中身を評価し合い、自己のキャリア形成の土台とする 4. Googleクラスルームで課題を管理する

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り 示された課題の分析や集団での討論など、毎回学生同士の議論が行われる場面がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の授業内容に関するキーワードの下調べ（60分程度）。復習：今日の学びをレポートにして提出する（90分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習準備 20%、授業への意欲的な態度 50%、振り返りレポート 30%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	履修ガイダンス	講義の進め方について説明する。履修者の受験自治体・予定について調査する。
2	保健体育科教員に求められる資質とは	保健体育科教員に求められる資質について考察し、自分の長所とは何かについて考える。振り返りのレポートを提出する。
3	部活動をめぐる諸問題について	部活動をめぐる諸問題について考察し、これまでの自分の経験を踏まえて、これからの部活動を考える。振り返りのレポートを提出する。
4	オンデマンド授業自己PRについて	自己PRについて考察し、自分の長所を相手に伝わるように表現することができるようにする。
5	運動の苦手な生徒について	運動の苦手な生徒について考察し、その支援すべきポイントやステップについて考える。振り返りのレポートを提出する。
6	子どもの発達・発育についての今日的課題	子どもの発達・発育についての今日的課題について考察し、保健体育科教員としてのあるべき姿について考える。振り返りのレポートを提出する。
7	生徒の運動習慣を確立させるためには	生徒の運動習慣について考察し、指導すべきポイントを集団討論という形で考える。振り返りのレポートを提出する。
8	中学校・高等学校における、今後の部活動のあるべき姿について	部活動のあるべき姿について考察し、集団討論という形で議論し、教師として取るべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
9	スポーツの場面におけるいじめ・差別事象について	スポーツの場面におけるいじめ等について考察し、集団討論という形で議論し、教師として取るべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
10	スポーツの場面における生徒同士のトラブルについて	スポーツの場面における生徒同士のトラブルについて考察し、教師として取るべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
11	スポーツの場面における事故について	スポーツの場面における事故について考察し、教師として取るべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
12	学校における体育的行事の充実について	体育的行事の充実と安全について考察し、教師として取るべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。
13	教員の不祥事をめぐる問題について	教員の不祥事をめぐる問題について考察し、教師として取るべき適切な対処について考える。振り返りのレポートを提出する。

14	授業のまとめ	授業で取り上げたそれぞれのテーマについて振り返り、確認する。
15		
16		

科目コード	53015				区 分	コア科目			
授業科目名	キャンプ実習 [PP1年生用]				担当者名	堀川 峻			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本授業では、統制不可能な自然環境の中で集团的・自律的生活を体験し、自己を見つめるとともに、他者との協同の重要性について学ぶ。そして、体育学科生として備えておくべき資質と知識、キャンプスキルを実践的に身につける。本授業では、グループでの活動を基本とし、自然体験活動、アクティビティ体験を通し、集団でのコミュニケーションや自己および他者の理解、リーダー（フォロアー）シップ等の協調性、社会性など非認知能力の涵養を図る。

<授業の到達目標>

i. 自然環境におけるキャンプの意義・目的を理解することができる ii. アクティビティ体験を通し、協調性、社会性などを身につけることができる iii. 体育学科生としての規律や意識を身につけることができる

<授業の方法>

講義と実技、宿泊を伴う実習として展開する。講義においては、レクリエーション活動や野外炊事等キャンプに必要な内容を学習する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有グループでのワークや課題解決

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：キャンプの方法論や安全への配慮について事前学習を行う（2時間）。 事後学習：活動の振り返りやまとめレポートを作成し、内容を整理する（2時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 40%、最終課題60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

日本野外教育研究会 キャンプテキスト 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	キャンプを理解するために	キャンプの意義と目的・歴史・環境教育
2	キャンプを理解するために	キャンプとマナー、キャンプの計画と組織、キャンプの指導者の役割
3	キャンプを理解するために	キャンプの安全管理、キャンプでの調査と評価
4	対象に応じたキャンプ	オートキャンプ
5	対象に応じたキャンプ	組織キャンプ
6	対象に応じたキャンプ	学校キャンプ
7	キャンプの生活技術	天候変化の予測方法、キャンプ用具とその使い方
8	キャンプの生活技術	テント、ロープワーク
9	キャンプの生活技術	キャンプにおける安全対策と応急処置の方法
10	キャンプのプログラム	レクリエーションゲーム
11	キャンプのプログラム	自然に親しむゲーム、環境プログラム
12	キャンプのプログラム	天候に応じたプログラム、体験プログラム
13	野外炊事の理論と実際	野外炊事のねらい
14	野外炊事の理論と実際	野外炊事の方法・準備・留意点
15		
16		

科目コード	53015				区 分	コア科目			
授業科目名	キャンプ実習 [PS用]				担当者名	佐々木 史之／田中 耕作			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

本授業は、自然の中でのグループ活動を通じ、野外活動の基礎知識と実践的なキャンパススキルを習得する体験型科目です。実習では、野外炊事や自然体験活動の本質である「共生」と「安全管理」について深く学びます。グループ単位での共同生活では、知恵を出し合うプロセスを重視し、円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力や、状況に応じたリーダーシップおよびフォロワーシップを実践的に養います。さらに、不慣れた環境での試行錯誤を通じて、粘り強さや協調性、他者への共感といった非認知能力を涵養します。これらの一連のプロセス

<授業の到達目標>

本実習では以下の3つを到達目標とします。(1) 自然に対して親しみをもち、様々な野外活動を通してキャンプに対しての理解を深め、安全管理が実践できる。(2) アクティビティや共同生活を通じて、自己の役割を認識し、協調性、社会性を身につける(3) 仲間と共に成長する意識をもち、競技スポーツ科学科学生としての規律や態度を身につける

<授業の方法>

(1) 授業の進め方：理論・実践・内省のプロセス 本授業は、「事前学習」、野外フィールドでの「キャンプ実習」、「事後学習」を組み合わせで展開します。事前学習では、野外活動の内容や安全管理、装備の知識を学びます。実習では、習得した知識を野外炊事などをグループ単位で実践します。実習後は、活動中の自己および他者の行動を振り返るリフレクション（内省）を行い、体験を言語化することで非認知能力の定着を図ります。(2) ICTの活用：情報の共有と記録 授業ではGoogle Docsやスプレッドシートを用いた共同編集を行い、班員間での情報共有を効率化します。また、実習中の活動風景や自然環境をデジタルカメラ等で記録し、事後のレポート作成の視覚資料として活用します。(3) 学習管理の方法 Google Classroomを通じて、安全管理マニュアルの配布や課題提出、実習に向けた健康チェック等を行います。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：有（課題解決型学習、グループ・ディスカッション、実技・演習、リフレクション） 本授業は、学生が主体となって活動を構成する課題解決型学習（PBL）を取り入れます。課題に対しグループ・ディスカッションを行い、解決策を導き出す実践的演習を実施します。また、活動の節目ごとに実施するリフレクション（内省）や、実習後の成果報告レポートを通じて、体験を客観的な学びに変換するプロセスを重視します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：2時間】 配布する「安全管理マニュアル」を熟読し、野外活動における潜在的なリスクとその回避策について整理してください。また、共同生活やグループ活動を理解し、実習を円滑に実施するための方法を考え、授業に臨んでください。【復習：1時間】 実習中の自身の行動やグループ内での役割遂行について、記録したログや写真を用いて振り返りを行います。特に、直面した困難に対してどのようなコミュニケーションを取り、解決を図ったかを言語化して、事後レポートにまとめてください。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度およびグループへの貢献 60%、レポート課題 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

能條 歩(2014/12/25) 人と自然をつなぐ教育—自然体験教育学入門 NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター
自然体験活動研究会(2011/6/20) 野外教育の理論と実践 杏林書院

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション／キャンプ実習の概要	授業の概要、評価について説明／実習の日程、内容、方法、注意点等についての説明する
2	キャンプの基礎知識	キャンプに必要なロープワークや火起こしの仕方等について学ぶ
3	自然体験活動の安全管理	自然体験活動における安全管理について考え、危険を回避するための方法を学ぶ
4	アイスブレイク	見ず知らずの人間同士が協力関係を素早く築くために適したアクティビティを実践的に学ぶ
5	イニシアティブゲーム	集団の凝集性を高め、実効性・機能性の高い状態を作り出すためのアクティビティを実践的に学ぶ

6	オリエンテーリング(1)	オリエンテーリングの内容を理解し、戦略を立て活動する方法を学ぶ
7	オリエンテーリング(2)	課題をクリアしながらオリエンテーリングを実施し、グループ内の団結力を高める
8	キャンプファイヤー	仲間と共に火を囲み、キャンプファイヤー実施の理解を深める
9	振り返り(1)	実習1日目の振り返りを行ない、学習の理解を深める
10	野外炊事(1)	非日常的な調理環境の中でも、安全においしく調理を行う方法やグループでの役割分担について学ぶ
11	野外炊事(2)	火や刃物に注意し、野外での調理を実践する
12	ロープワーク	固定・牽引など様々な場面で必要とされるロープワークの活用・応用を実践的に学ぶ
13	チームビルディング	仲間との団結力を高めるアクティビティを実施する
14	振り返り(2)	実習2日目の活動、実習全体を振り返り、まとめる
15		
16		

科目コード	36517				区 分	コア科目			
授業科目名	サービslラーニングⅡ				担当者名	早田 剛／十河 直太			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

サービslラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日（もしくは20時間）以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかわりながら現場において学べるのがサービslラーニングの魅力です。

<授業の到達目標>

体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけること。＊ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

<授業の方法>

グループで役割をアクティブラーニングを用いて、事前準備を行い、年間を通して10日（もしくは20時間）以上の実習に取り組んでいく。また、取り組んだ結果に対しての省察活動を個人またはグループで行い、発表を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）この活動自体がアクティブ・ラーニングになります。最後の言語化することまでが、アクティブ・ラーニングであると考えます。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業はフィールドを選択し、活動内容の把握およびさらに良くするための事前調査（1時間程度）を行います。活動後は、振り返りレポート（2時間程度）において、アクションプランまで作成することを条件とします。フィールドでの活動は、通年で10日間（もしくは20時間）以上とします。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：60%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	サービslラーニングの意義と目的、本授業の進め方について。
2	自己理解と目標設定	なぜその現場（フィールド）を選んだのか。実習を通じた自己の成長目標の策定。
3	対人コミュニケーションとマナー	現場における多様なステークホルダー（子ども、地域住民、職員）との接し方。
4	リスクマネジメントと倫理	安全管理、個人情報保護、ボランティアとサービslラーニングの違い。
5	現場の観察と課題発見	実習先の概要把握と、現場が抱えているニーズや課題の特定。
6	リフレクション（省察）の方法	「経験」を「学び」に変えるための記録（リフレクション・ジャーナル）の書き方。
7	中間共有会	各自のフィールドでの活動状況を報告し、直面している困難や気づきを授業内で共有。
8	中間フィードバック	教員および他学生からの助言をもとに、後半の実習計画を修正・改善する。
9	現場で得たデータやエピソードを論理的に整理する手法の習得。	経験の概念化
10	経験の概念化	現場での具体的な出来事を、専門知識や社会課題と結びつけて考察する。
11	プレゼンテーション準備①	自分の学びを他者に伝えるための構成（ストーリーライン）の構築。
12	プレゼンテーション準備②	視覚資料（ポスターやスライド）の作成と発表リハーサル。
13	最終成果報告会	各自の実習成果を発表。異なるフィールドの事例から多様な価値観を学ぶ。
14	総括リフレクション	全行程を振り返り、本活動が自身のキャリアや今後の大学生活にどう活かせるかを言語化する。
15		
16		

科目コード	36518				区 分	コア科目			
授業科目名	サービslラーニングⅢ				担当者名	早田 剛／十河 直太			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

サービslラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日（もしくは20時間）以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかわりながら現場において学べるのがサービslラーニングの魅力です。

<授業の到達目標>

体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけること。＊ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

<授業の方法>

グループで役割をアクティブラーニングを用いて、事前準備を行い、年間を通して10日（もしくは20時間）以上の実習に取り組んでいく。また、取り組んだ結果に対しての省察活動を個人またはグループで行い、発表を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）この活動自体がアクティブ・ラーニングになります。最後の言語化することまでが、アクティブ・ラーニングであると考えます。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業はフィールドを選択し、活動内容の把握およびさらに良くするための事前調査（1時間程度）を行います。活動後は、振り返りレポート（2時間程度）において、アクションプランまで作成することを条件とします。フィールドでの活動は、通年で10日間（もしくは20時間）以上とします。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：60%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	サービslラーニングの意義と目的、本授業の進め方について。
2	自己理解と目標設定	なぜその現場（フィールド）を選んだのか。実習を通じた自己の成長目標の策定。
3	対人コミュニケーションとマナー	現場における多様なステークホルダー（子ども、地域住民、職員）との接し方。
4	リスクマネジメントと倫理	安全管理、個人情報保護、ボランティアとサービslラーニングの違い。
5	現場の観察と課題発見	実習先の概要把握と、現場が抱えているニーズや課題の特定。
6	リフレクション（省察）の方法	「経験」を「学び」に変えるための記録（リフレクション・ジャーナル）の書き方。
7	中間共有会	各自のフィールドでの活動状況を報告し、直面している困難や気づきを授業内で共有。
8	中間フィードバック	教員および他学生からの助言をもとに、後半の実習計画を修正・改善する。
9	現場で得たデータやエピソードを論理的に整理する手法の習得。	経験の概念化
10	経験の概念化	現場での具体的な出来事を、専門知識や社会課題と結びつけて考察する。
11	プレゼンテーション準備①	自分の学びを他者に伝えるための構成（ストーリーライン）の構築。
12	プレゼンテーション準備②	視覚資料（ポスターやスライド）の作成と発表リハーサル。
13	最終成果報告会	各自の実習成果を発表。異なるフィールドの事例から多様な価値観を学ぶ。
14	総括リフレクション	全行程を振り返り、本活動が自身のキャリアや今後の大学生活にどう活かせるかを言語化する。
15		
16		

科目コード	36519				区 分	コア科目			
授業科目名	サービslラーニングⅣ				担当者名	早田 剛／十河 直太			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

サービslラーニングとは、公共的な活動の場に参加しながら学習を深める取り組みのことです。本授業では、フィールドのいずれかひとつを選び、年間を通して10日（もしくは20時間）以上の実習に取り組みながら、学びを深めていきます。自分の関心に沿って、子ども・若者をはじめ、たくさんの人たちとかわりながら現場において学べるのがサービslラーニングの魅力です。

<授業の到達目標>

体育・スポーツ・健康に関わる職業やその専門性の基礎としての「市民性」を身につけること。＊ここで「市民性」とは、市民社会における公共的な課題にコミットし、他者と連携しながら、その問題を改善・解決することのできる力量のことを想定している。

<授業の方法>

授業はフィールドを選択し、活動内容の把握およびさらに良くするための事前調査（1時間程度）を行います。活動後は、振り返りレポート（2時間程度）において、アクションプランまで作成することを条件とします。フィールドでの活動は、通年で10日間（もしくは20時間）以上とします。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有（ディスカッション、ディベート、グループワークの方法）この活動自体がアクティブ・ラーニングになります。最後の言語化することまでが、アクティブ・ラーニングであると考えます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業はフィールドを選択し、活動を行い、中間まとめをし、活動を継続し、最後のふりかえりを行う、という形です。フィールドでの活動は、通年で10日間（もしくは20時間）以上とする。事前や事後の学習は、フィールドでの活動状況に応じてすすめることになります。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲態度：40%実施内容に対する省察レポート：60%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	サービslラーニングの意義と目的、本授業の進め方について。
2	自己理解と目標設定	なぜその現場（フィールド）を選んだのか。実習を通じた自己の成長目標の策定。
3	対人コミュニケーションとマナー	現場における多様なステークホルダー（子ども、地域住民、職員）との接し方。
4	リスクマネジメントと倫理	安全管理、個人情報保護、ボランティアとサービslラーニングの違い。
5	現場の観察と課題発見	実習先の概要把握と、現場が抱えているニーズや課題の特定。
6	リフレクション（省察）の方法	「経験」を「学び」に変えるための記録（リフレクション・ジャーナル）の書き方。
7	中間共有会	各自のフィールドでの活動状況を報告し、直面している困難や気づきを授業内で共有。
8	中間フィードバック	教員および他学生からの助言をもとに、後半の実習計画を修正・改善する。
9	現場で得たデータやエピソードを論理的に整理する手法の習得。	経験の概念化
10	経験の概念化	現場での具体的な出来事を、専門知識や社会課題と結びつけて考察する。
11	プレゼンテーション準備①	自分の学びを他者に伝えるための構成（ストーリーライン）の構築。
12	プレゼンテーション準備②	視覚資料（ポスターやスライド）の作成と発表リハーサル。
13	最終成果報告会	各自の実習成果を発表。異なるフィールドの事例から多様な価値観を学ぶ。
14	総括リフレクション	全行程を振り返り、本活動が自身のキャリアや今後の大学生活にどう活かせるかを言語化する。
15		
16		

科目コード	53005				区 分	コア科目			
授業 科目名	スポーツイベント運営実習				担当者名	小堀 浩志／平岡 師玄哉			
配当年次	3年	配当学期	通期集中	単位数	1.00単位	授業方法	演習・実 習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、スポーツイベントの企画・運営に関する実務能力を養成することを目的とする。実際のスポーツイベントを対象に、企画立案、運営準備、当日の運営、振り返りまでを一貫して経験する。理論と実践を融合させ、スポーツビジネスにおける現場対応力・マネジメント力の向上を目指し、スポーツイベントについて理解する

<授業の到達目標>

① スポーツイベントの企画プロセスを理解し、実践できる ② チームで役割分担し、主体的に行動できる ③ 運営上の課題を発見し、改善策を提案できる ④ スポーツイベントの社会的・経済的価値を説明できる

<授業の方法>

第1回講義 5月23日(土)2限 授業全体の説明、事前準備第2回講義 7月11日(土)2限 イベントの紹介、事前準備第3回講義 2027年1月16日(土)2限 プレゼン・報告会3回の講義に出席することが履修条件① グループワーク ② フィールドワーク(イベント参加・運営) ③ プレゼンテーション ④ 振り返り(リフレクション) スポーツイベント、大会、ビジネス展示会などの実習に加えて、事前・事後の学内講義(座学および演習：ロールプレイング)を行う。実習終了後には、成果報告レポートの提出が必要である。特段の理由がある場合を除き、座学・演習、実習、レポートのすべてを完了しなければ単位は認められない。受講者数によっては、成果報告会でのプレゼンテーションを追加する場合がある。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有：演習(ロールプレイング、グループワーク)、プレゼンテーションなど

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：実習先のイベント・行事について包括的に調べ、理解を深めておく(1時間程度)。復習：実習での経験や成果を振り返り、今後の学生生活にどのように役立てるのかを考える(1時間程度)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3(経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

企画書・準備状況：30%、実習での役割遂行：30%、最終発表・レポート：40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	第1回講義 オリエンテーション・ガイダンス	授業の概要説明、諸注意、履修条件、イベントの紹介
2	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
3	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
4	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
5	第2回講義 イベント調査・準備 7月11日	参加イベントの決定、調査、準備
6	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
7	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
8	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
9	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
10	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
11	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
12	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
13	イベント参加・運営実習	スポーツイベント、展示会、大会への参加・運営実習
14	第3回講義 プレゼンテーション・報告会	参加イベントの報告、全体発表・質疑応答
15		
16		

科目コード	36515				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング指導実習 [PP,PH用]				担当者名	國友 亮佑			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

習得した知識や技術を活かし、様々な対象へのトレーニング指導を実践する。プログラムデザインから実際の指導までをすべてひとりで実施する事で、より実践的な能力を身につけ、トレーニング指導者としての資質を養う。原則としてアスリートおよび一般の両方の指導を体験する事とする。（「健康運動実習」履修者は一部免除されます）

<授業の到達目標>

対象に応じたトレーニングプログラムを作成し、適切な指導ができるようになる。

<授業の方法>

実技および現場での実習を中心とする。2年次終了時点で、CSCS取得に必要な科目を全て履修している。また、CSCSの取得を希望する学生を優先的に20名を履修上限とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：プログラムデザイン、エクササイズテクニクについて学習する。（1時間）復習：指導した際の課題や改善方法について内容をまとめる（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

トレーニング指導実践50%、課題（指導計画、指導の振り返り）50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	実習の流れ、注意事項説明
2	エクササイズテクニクと指導法の確認①	下半身エクササイズのテクニクと指導法の確認
3	エクササイズテクニクと指導法の確認②	上半身プッシュ系エクササイズのテクニクと指導法の確認
4	エクササイズテクニクと指導法の確認③	上半身プル系エクササイズのテクニクと指導法の確認
5	エクササイズテクニクと指導法の確認④	オリンピックリフティングのテクニクと指導法の確認①
6	エクササイズテクニクと指導法の確認⑤	オリンピックリフティングのテクニクと指導法の確認②
7	プログラムデザイン①	筋肥大プログラムの立案
8	プログラムデザイン②	最大筋力向上プログラムの立案
9	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
10	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
11	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
12	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
13	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
14	まとめ（指導内容報告会）	指導内容の振り返り
15		
16		

科目コード	36515				区 分	コア科目			
授業科目名	トレーニング指導実習 [アスリート用]				担当者名	金谷 和幸			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、これまでに学んだトレーニング科学の知識と技術を基盤として、対象者に応じたトレーニング指導を実践する能力を育成することを目的とする。学生は、アスリートおよび一般対象者の双方に対して、トレーニングプログラムの立案から指導実践、振り返りまでを一貫して行い、現場で求められる指導力・観察力・コミュニケーション力を身につける。また、本授業は学科が推奨する資格取得と連動しており、競技指導者資格やトレーナー資格の取得に必要な知識・技能を授業内で扱うことで、将来の競技現場や指導現場で活躍するための基礎的能力を養う

<授業の到達目標>

対象者の体力特性や目的に応じたトレーニングプログラムを自ら作成し、安全かつ効果的に指導できる能力を身につけることを到達目標とする。エクササイズテクニックの理解と指導方法の習得に加え、現場実習を通じて課題発見力や改善提案力を高め、トレーニング指導者としての実践的資質を養う。また、学科が指定する資格取得に必要な基礎的知識・技能を習得し、資格取得に向けた準備を進めることも重要な目標とする。

<授業の方法>

授業は、実技・演習・現場実習を中心に構成する。エクササイズテクニックの確認や指導演習を通じて基礎的技能を高め、グループワークによる相互指導・相互評価を行うことで、実践的な学びを深める。また、現場実習では実際の対象者に対してトレーニング指導を行い、授業内で振り返りを行うことで、指導力の向上を図る。さらに、資格取得に必要な内容を授業内で扱い、取得に向けた支援を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、プログラムデザインやエクササイズテクニックに関する基礎的内容を事前に学習することを求める（1時間程度）。復習として、実施した指導内容の振り返りや課題の整理を行い、次の指導に向けて改善点を明確にする（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成績は、トレーニング指導実践（10%）、指導計画および振り返りレポートなどの課題（40%）、学科が指定する資格の取得状況（50%）を総合して評価する。指定された資格のいずれかを取得した場合は、S評価の対象とする。資格取得の確認は担当教員が行う。※資格取得にかかる費用（受講料・登録料等）はすべて学生の自己負担となります。授業料には含まれません。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業概要・資格制度の説明・到達目標の共有
2	資格選択および学習計画の立案	資格選択および学習計画の立案（個別面談を含む）
3	トレーニング指導の基礎確認	エクササイズテクニック・安全管理
4	指導プログラム作成演習	目的設定と評価指標の設定
5	資格学習①	資格取得に必要な指導者の役割・倫理・責任を理解し、指導者としての基本姿勢を学ぶ
6	資格学習②	基本動作の指導と観察力
7	資格学習③	年代別指導と発達段階の理解
8	資格学習④	戦術理解と練習構成の基礎
9	資格学習⑤	特別な対象への指導と多様性の理解
10	模擬試験または到達度確認	資格学習①～⑤の理解度確認
11	弱点補強および再学習	模擬試験の結果をもとに個別に再学習
12	指導プログラム作成演習②	応用・対象別設計およびトレーニング指導の実践
13	成果報告および振り返り	学習過程の整理
14	総括	資格取得状況の確認および最終評価
15		
16		

科目コード	36515				区 分	コア科目			
授業 科目名	トレーニング指導実習 [サイエンティスト・ CSCS用]				担当者名	江波戸 智希／伊藤 亮輔			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

習得した知識や技術を活かし、様々な対象へのトレーニング指導を実践する。プログラムデザインから実際の指導までをすべてひとりで実施する事で、より実践的な能力を身につけ、トレーニング指導者としての資質を養う。また、競技指導者資格またはトレーナー関連資格取得を目指す。

<授業の到達目標>

対象に応じたトレーニングプログラムを作成し、適切な指導ができるようになる。

<授業の方法>

実技および現場での実習を中心とする。競技指導者資格またはトレーナー関連資格取得に向けた学びを自身で行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有無基本的には実技をメインにて行う。ディカッション、グループワークを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：プログラムデザイン、エクササイズテクニックについて学習する。（1時間）復習：指導した際の課題や改善方法について内容をまとめる（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（体育・スポーツにおける地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

トレーニング指導実践50%、課題（指導計画、指導の振り返り、資格取得）50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	実習の流れ、注意事項説明
2	エクササイズテクニックと指導法の確認①	下半身エクササイズのテクニックと指導法の確認
3	エクササイズテクニックと指導法の確認②	上半身プッシュ系エクササイズのテクニックと指導法の確認
4	エクササイズテクニックと指導法の確認③	上半身プル系エクササイズのテクニックと指導法の確認
5	エクササイズテクニックと指導法の確認④	オリンピックリフティングのテクニックと指導法の確認①
6	エクササイズテクニックと指導法の確認⑤	オリンピックリフティングのテクニックと指導法の確認②
7	プログラムデザイン①	筋肥大プログラムの立案
8	プログラムデザイン②	最大筋力向上プログラムの立案
9	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
10	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
11	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
12	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
13	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
14	トレーニング指導の現場実習	実習先にてトレーニング指導を実践する
15		
16		

科目コード	53077				区 分	コア科目			
授業科目名	フィールドラーニング I				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	3年	配当学期	通年・集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

<授業の概要>

実際に学内外へのフィールドワークを行い、フィールドワーク先の現状、良さ、課題などを自らデータを収集し、自分たちが何ができるかを主体的に学ぶことを目的とする。自分たちの調査の成果発表は、課題を解決する具体的な提案という形式でフィールド関係者に伝え、取組に対する評価を受ける。

<授業の到達目標>

①フィールドの課題を自らの力で見つけ出すことができる。②フィールドの課題を個人またはグループで掘り起こし、調査することができる。③フィールドから学んだ成果をまとめ、他者に伝えることができる。④フィールドの課題を解決する提案を具体的なものとして示すことができる。

<授業の方法>

個人もしくはグループ活動を中心として事前準備→実習→成果・振り返り→課題と改善策の提案をおこなう。授業の序盤はフィールドワークの技法、フィールドから得られる学び何かについて、マナーや心得を学ぶ。中盤ではフィールドに出て、情報や知見をデータとして収集する。フィールドの成果を中間報告として学内で発表する。最終回で自分たちが見つけた課題とその改善策をフィールド関係者に向けて報告し、質疑応答・評価を受ける。積極性をもって現場に向き合い、現場の人とコミュニケーションを図り、自分たちがどのような貢献ができるのか、教室だけでは得がたい学びを得る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 事前指導ではテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う 実習では自ら進んで課題に取り組む 事後指導では実習成果を参加者同士で共有するため、聞き手は報告者にフィードバックを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 各回の実習テーマに合わせ、実習先（フィールド）の特性や現状について文献やウェブサイト等を用いて調査し、具体的な調査計画や質問項目を作成して実習に臨む（3時間程度）。事後学習： フィールドで収集したデータや聞き取り内容の整理・分析を行い、実習での気づきや課題に対する改善案をまとめ、成果報告書やプレゼンテーション資料を作成する（3時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲態度 40%、実習での取組および姿勢 15%、実習前後の学内での取組 15%、提案報告 30%。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	事前：オリエンテーション	科目のねらい・到達目標の確認
2	事前：フィールドワークの作法	フィールド参加の心得、参与観察、調査方法の説明
3	事前：フィールドを決める	課題の掘り起こし
4	事前：フィールドへの準備	入念な実習準備
5	実習①	フィールドに入る（参与観察）
6	実習①	フィールドの特性・良さを知る
7	実習①	聞き取りや資料を通じて課題をみつける
8	中間：実習の成果①	実習①振り返り・成果の確認
9	中間：実習の成果②	提案準備
10	中間：実習の成果③	提案学内報告→練り直し
11	実習②	フィールドに入る（参与観察）
12	実習②	成果と課題を伝える
13	事後：成果の共有	実習②の成果を学内で報告
14	事後：ふりかえり	実習②振り返りと次に向けての行動確認
15		
16		

科目コード	53078				区 分	コア科目			
授業科目名	フィールドラーニングⅡ				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	4年	配当学期	通年・集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

<授業の概要>

「フィールドラーニングⅠ」に続き、実際に学内外へのフィールドワークを行い、フィールドワーク先の現状、良さ、課題などを自らデータを収集し、自分たちが何ができるかを主体的な学びを深めることを目的とする。自分たちの調査の成果発表は、課題を解決する具体的な提案という形式でフィールド関係者に伝え、取組に対する評価を受ける。※本科目は「フィールドラーニングⅠ」履修者のみとする。

<授業の到達目標>

①フィールドの課題を自らの力で見つけ出し深めることができる。②フィールドの課題を個人またはグループで掘り起こし、詳細に調査することができる。③フィールドから学んだ成果をまとめ、よりわかりやすく他者に伝えることができる。④フィールドの課題を解決する提案を具体的かつ実践可能なものとして示すことができる。

<授業の方法>

「フィールドラーニングⅠ」に続き、個人もしくはグループ活動を中心として実習→成果・振り返り→課題と改善策の提案をおこなう。すでにフィールド経験をもっているため、どんどんフィールドに出て、情報や知見をデータとして収集する。フィールドの成果を中間報告として学内で発表する。最終回で自分たちが見つけた課題とその改善策をフィールド関係者に向けて報告し、質疑応答・評価を受ける。積極性をもって現場に向き合い、現場の人とコミュニケーションを図り、自分たちがどのような貢献ができるのか、教室だけでは得がたい学びを得る。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 事前指導ではテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめグループごとに発表を行う 実習では自ら進んで課題に取り組む 事後指導では実習成果を参加者同士で共有するため、聞き手は報告者にフィードバックを行う

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：「フィールドラーニングⅠ」での知見を基に、調査対象地域の現状と再設定した課題について追加の資料収集を行い、実習に向けたより高度で詳細な調査項目や実行計画を立案する（2時間程度）。事後学習：フィールドで収集したデータの高度な分析・考察を行い、課題解決に向けた具体的かつ実践可能な提案書（成果報告書）を作成する。また、フィールド関係者への報告に向けたプレゼンテーション資料を完成させる（3時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲態度 40%、実習での取組および姿勢 15%、実習前後の学内での取組 15%、提案報告 30%。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	「フィールドラーニングⅠ」の振り返り	科目のねらい・到達目標の確認
2	復習：フィールドワークの作法	フィールド参加の心得、参与観察、調査方法の説明を再確認
3	フィールドの課題	課題の再度掘り起こし
4	フィールドでの注目点	再度の実習準備
5	実習③	フィールドに入る（参与観察）
6	実習③	フィールドの特性・良さを知る
7	実習③	聞き取りや資料を通じて課題をみつける
8	中間：実習の成果①	実習③振り返り・成果の確認
9	中間：実習の成果②	提案準備
10	中間：実習の成果③	提案学内報告→練り直し
11	実習④	フィールドに入る（参与観察）
12	実習④	成果と課題を伝える
13	事後：成果の共有	実習④の成果を学内で報告
14	事後：ふりかえり	実習④振り返りと最終報告実施

15		
16		

科目コード	51022				区 分	コア科目			
授業科目名	フィールドワーク入門 [FE]				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	2年	配当学期	通年・集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択（教育社会学コース生必修）

<授業の概要>

フィールドワークの基礎理論と方法を学び、観察やインタビューなどの調査手法を実践的に習得する。身近な地域を対象とした調査を通じて、課題発見力と分析・表現力を養う。

<授業の到達目標>

①フィールドワークの意義と基本概念を理解できる②観察・インタビューなど基礎的な調査手法を実践できる③調査計画を立て、記録・整理・分析の初歩がおこなえる④調査結果を分かりやすくまとめ、他者に伝えることができる

<授業の方法>

本授業は集中講義形式で実施し、所定の時期にフィールドワークの基礎から実践までを学ぶ。前半では講義により、フィールドワークの意義や倫理、観察・インタビュー・記録方法などの基本的な手法について理解を深める。中盤では、受講者が身近な地域を対象とした調査計画を立案する。その後、実際に現地に赴いて調査をおこない、データの収集を体験する。後半では、収集した情報の整理・分析をおこない、結果をまとめて発表する。調査から発表までの一連のプロセスを通して、主体的かつ協働的に学ぶ姿勢の習得を目指す。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 事前指導ではテーマについて調べる 実習では自ら進んで課題に取り組む 事後指導では実習成果を参加者同士で共有するため、聞き手は報告者にフィードバックをおこなう

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：授業計画に沿ってフィールドワークの基礎理論や調査倫理を確認し、調査対象地域の概要について事前に資料収集を行う。また、実習に向けて具体的な調査計画書（質問項目等）を作成する（1時間程度）。事後学習：実習で収集したデータ（メモ、音声記録、写真等）の整理・分析を行い、調査結果をレポートにまとめるとともに、発表用のスライド資料を作成する（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

意欲態度 40%、実習での取組および姿勢 15%、実習前後の学内での取組 15%、提案報告 30%。

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク―書を持って街へ出よう』 新曜社（ワードマップ叢書）
岸政彦（2015）『断片的なものの社会学』 朝日出版社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・オリエンテーション	科目のねらい・到達目標の確認
2	フィールドワークの基礎と倫理	フィールドワークの意義や特徴を理解するとともに、調査における倫理（インフォームド・コンセント、プライバシー保護など）について学ぶ。あわせて、基本的な調査手法（観察・インタビュー）の概要を確認する。
3	調査手法の理解（観察・記録）	参与観察および非参与観察の方法を学び、フィールドノートの取り方や写真・音声記録の活用方法について理解する。簡単な演習を通して記録技術を身につける。
4	調査手法の理解（インタビュー）と計画設計	インタビューの種類や質問設計の方法を学ぶ。あわせて、グループごとに調査テーマを設定し、対象・方法・スケジュールを含む調査計画を立案する。
5	フィールドワーク実習	実際に現地調査を実施する。観察やインタビューを通じてデータを収集し、現場での気づきや課題を記録する。
6	データ整理・分析と発表準備	収集したデータを整理・分析し、調査結果をまとめる。発表資料を作成し、報告内容の構成や伝え方を検討する。
7	発表とまとめ	報告をおこない、聞き手からのフィードバックをもらい、成果と課題を確認する
8		
9		
10		
11		

12		
13		
14		
15		
16		

科目コード	62025				区 分	コア科目			
授業科目名	リコンディショニングⅡ				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

対象者の状態（身体状態、機能的問題、動作における問題等）を把握し、適切なリコンディショニングプログラムを計画し、実践できる。また、部位別の代表的な機能障害・不全をもたらす症状を想定し、状態に応じたリコンディショニングプログラムを計画し、実践できるようになることをねらいとする。この科目は応用科目のため履修制限を定める。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーを目指す学生のみが履修できる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー必修科目を履修し、アスレティックトレーナー現場実習を履修中または履修済みで

<授業の到達目標>

本講義では、「リコンディショニングⅠ」からの内容を深め、部位ごとの状態に応じたリコンディショニングプログラムの作成と実際に実践できる知識と技術の習得を目的とする。

<授業の方法>

講義。教科書に沿って講義を行い、必要に応じて補足資料を配布する。また必要に応じて実技指導も行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有2～4人のグループに分かれ、実技、ディスカッション、グループワークを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト内容の自分が分からないところ（＝授業において自分がしっかり聞いておかないといけないところ）を把握する毎回予習（30分程度）。そのことによって、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの復習（30分程度）、定期テスト前の勉強を兼ねた復習である。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 30%（出席評価、授業への積極的な参加）、課題レポート（適宜出される課題、最終レポート）70%

<教科書>

日本体育協会（2009.9.30）「日本体育協会アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑦・アスレティックリハビリテーション」
日本体育協会
公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷）『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第4巻 リコンディショニング』（公財）日本スポーツ協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションとリコンディショニングに必要な組織修復、治療過程の知識 総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明、リコンディショニングに必要な組織修復、治療過程の知識
2	頭頸部のリコンディショニング	脳震盪、頸部捻挫
3	胸部のリコンディショニング	胸郭の機能不全
4	腰部のリコンディショニング	筋筋膜腰痛、腰椎間板ヘルニア、腰椎分離症
5	肩のリコンディショニング	投球障害、肩関節脱臼
6	肘・前腕のリコンディショニング	テニス肘、投球障害
7	手関節・手のリコンディショニング	手関節外傷・障害、手指靱帯損傷
8	骨盤帯・股関節のリコンディショニング	グロインペイン
9	大腿部のリコンディショニング	大腿部打撲、ハムストリングス肉ばなれ
10	膝関節のリコンディショニング	膝障害、膝靱帯損傷
11	下腿部のリコンディショニング	脛骨過労性骨膜炎、アキレス腱炎・断裂、下腿肉ばなれ
12	足関節・足部のリコンディショニング	足関節捻挫、足部障害
13	パラスポーツのプレーヤーへの対応	各障がい者への対応
14	まとめ	部位ごとのリコンディショニングにおける総合論議
15		
16		

科目コード	27100				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	解剖学 I [PH2024年度以前入学生][再履修用]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

<授業の到達目標>

1) 脈管系：体循環と肺循環の構造を説明できるようになる。2) 血管の組織学的構造、心臓の位置・形態・壁・弁・刺激伝導系・心臓の脈管について説明できるようになる。3) 動脈・静脈の名称と位置について説明できるようになる。4) 胎児循環について説明できるようになる。5) リンパ系の組織・器官の構造と役割について説明できるようになる。6) 消化器系：消化器の種類・構造・位置・機能、消化・吸収・排泄の過程について説明できるようになる。7) 呼吸器系：呼吸器の種類・構造・機能について説明できるようになる。

<授業の方法>

教科書に沿いパワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。）適時プリントを配布して教科書を補完する。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahootなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意すること。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に示す教科書の講義予定範囲を必ず音読のうえ、予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、クイズ課題で復習する。クイズ課題提出は期限厳守すること。またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲30%（小テスト）・評価試験70%

<教科書>

岸 清・石塚 寛 編 解剖学 医歯薬出版
 坂井建夫・橋本尚詞 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版
 医療情報科学研究所 からだがみえる 人体の構造と機能 メディックメディア

<参考書>

松村 譲児 イラスト解剖学 中外医学社
 自 習 用 に 以 下 の ア プ リ を 推 薦 し ま す 。 Human Anatomy Atlas 202? Complete 3D Human Body
https://apps.apple.com/app/id1117998129?target=_blank
 https://apps.apple.com/app/id1117998129解剖学的構造と生理学Anatomy & Physiology
<https://apps.apple.com/app/id920133658>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	脈管系・総論	体循環・肺循環、血管の構造
2	心臓	心臓の位置と構造、弁、刺激伝導系、心臓の脈管、心膜
3	動脈系	大動脈、体幹・上肢・下肢の動脈
4	静脈系	上大静脈、下大静脈、奇静脈、門脈、胎児循環
5	リンパ系	リンパ、リンパ管、リンパ節、脾臓、胸腺
6	脈管系まとめ	脈管系の復習と応用
7	消化器系	口腔、舌、咽頭、食道、胃、小腸
8	消化器系	胃、小腸の構造と機能
9	消化器系	大腸、直腸
10	消化器系	肝臓、膵臓
11	消化器系まとめ	消化器系の復習と応用
12	呼吸器系	鼻腔、喉頭
13	呼吸器系	気管、気管支、肺

14	呼吸器系まとめ	胸膜、縦郭 呼吸器系の復習と応用
15		
16		

科目コード	53013				区 分	コア科目			
授業科目名	学校支援ボランティア [小学校ボランティア]				担当者名	練 亨 千之			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第1クォーター、第2クォーター	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実践について学び、教員としての仕事の一端について知る。

<授業の到達目標>

・学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身に付け、将来教師として子どもたちにかかわるための指導力を培うことができるようになる。

<授業の方法>

この授業は、2年～4年が受講可能で前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間以上の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。したがって、午前または午後、続けて2単位時間分の授業がないことが条件となる。活動内容や学びについては、実施の都度Classroomにて記録を提出し、学校支援ボランティア実施後、成果と課題をまとめて第14回にてプレゼン発表する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有第13回・14回の授業において、子どもとのかかわり方や教師の支援について、自己のボランティアでの経験や学びをもとに話し合い、プレゼン発表する。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを明確にしておくこと。(1時間程度)復習:学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、クラスルームに提出すること。(2時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することが出来る。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出する活動記録によるボランティア活動への取り組みの様子 60%、ボランティアを通しての学びの深まりのレポート 20%、取り組みや学んだことの発表内容 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申込	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験

13	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことについて話し合い、各自レポートにまとめる。 レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。
14	学校支援ボランティアのまとめ(2)	
15		
16		

科目コード	27202				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	基礎柔道整復学Ⅲ(脱臼)				担当者名	福井 悠紀子			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

臨床に必要な脱臼について発生機序、症状、整復法、固定法、合併症等について学ぶと共に保存療法の限界に関する知識を修得する。各脱臼の発生メカニズムを詳細に理解する事が症状、整復法、固定法、合併症等を合理的に理解することになる。この講義では顎関節、脊椎、肩鎖関節、肩関節、肘関節、手関節、手指関節について学習する。

<授業の到達目標>

各脱臼の発生機序、症状、整復法、固定法および合併症について説明できる。さらに、各脱臼における保存療法の適応と限界について具体的に説明できる。

<授業の方法>

教科書を中心に講義し必要に応じてDropboxにて資料を配付する。授業中に確認小テストを実施し、予習、復習状況を確認する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングを実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次の範囲をシラバスから確認させ、どの様な内容であるかまとめ授業で発表する。(毎回、1時間程度) 復習：小テストを次の授業で実施する。(毎回、2時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2(柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。)と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テスト 10%、定期試験 90%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・理論編」第7版 南江堂

全国柔道整復学校協会 「柔道整復学・実技編」 南江堂

<参考書>

目崎 登 「運動器疾患ワークブック」 医歯薬出版

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の心構え
2	脱臼の総論	脱臼の定義/分類
3	顎関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
4	頸椎脱臼、胸椎脱臼、腰椎脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
5	第1回目小テスト	顎関節から頸椎、胸椎、腰椎の復習
6	上肢脱臼/鎖骨脱臼	胸鎖関節脱臼/肩鎖関節脱臼/発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
7	肩関節脱臼①	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
8	肩関節脱臼②	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
9	肘関節脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
10	第2回目小テスト	鎖骨脱臼～肘関節脱臼までの復習
11	肘内障/手関節部の脱臼	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
12	手指脱臼-CM関節-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
13	手指脱臼-MP-, 手指脱臼-DIP・PIP-	発生機序、転位、症状、整復法、固定法、合併症・後遺症など
14	まとめ	総括
15		
16		

科目コード	32413				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実践学Ⅰ（青年教師塾）				担当者名	中安 翼／内田 仁志			
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講座では、教員として必要な実践力を体系的に学ぶ。教育現場で求められる授業設計、学級経営、課題対応の技術を理論と実践を交えて習得する。ただし、特別講師との調整等により予定が変更になる場合もある。

<授業の到達目標>

小学校現場で活用できる実践力（授業力、学級経営能力等）を身につける。本授業は、教育専門職としての実践力を備えるため、学科のDP3（教育課題解決のための知識・技能の活用）に関連しています。

<授業の方法>

現職小学校教員の特別講義、グループワーク、模擬授業等。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業設計ワークショップ、グループディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 次回のテーマ（授業づくりや学級経営）に関連するこれまでの学修内容を復習し、模擬授業の準備を行う（1時間程度）
事後学習： 授業や協議会での学びを振り返り、実践に活かすためのレポートを作成する（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度50％ 課題提出50％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的、概要、評価等
2	授業づくりのポイント1	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
3	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
4	授業づくりのポイント2	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
5	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
6	授業づくりのポイント3	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
7	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
8	授業づくりのポイント4	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
9	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
10	授業づくりのポイント5	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
11	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
12	学級経営のポイント1	特別講師による学級経営の講義を受け、学級経営のポイントを学ぶ
13	学級経営のポイント2	特別講師による学級経営の講義を受け、学級経営のポイントを学ぶ
14	まとめ	本授業を振り返り、4月から実践できることをまとめる
15		
16		

科目コード	32415				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実践学Ⅱ（応用）（青年教師塾）				担当者名	中安 翼／内田 仁志			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講座では、教員として必要な実践力を体系的に学ぶ。教育現場で求められる授業設計、学級経営、課題対応の技術を理論と実践を交えて習得する。ただし、特別講師との調整等により予定が変更になる場合もある。

<授業の到達目標>

小学校現場で活用できる実践力（授業力、学級経営能力等）を身につける。本授業は、教育専門職としての実践力を備えるため、学科のDP3（教育課題解決のための知識・技能の活用）に関連しています。

<授業の方法>

現職小学校教員の特別講義、グループワーク、模擬授業等。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

授業設計ワークショップ、グループディスカッション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 次回のテーマ（授業づくりや学級経営）に関連するこれまでの学修内容を復習し、模擬授業の準備を行う（1時間程度）
事後学習： 授業や協議会での学びを振り返り、実践に活かすためのレポートを作成する（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度50％ 課題提出50％

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的、概要、評価等
2	授業づくりのポイント1	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
3	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
4	授業づくりのポイント2	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
5	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
6	授業づくりのポイント3	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
7	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
8	授業づくりのポイント4	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
9	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
10	授業づくりのポイント5	特別講師による授業を体験し、授業づくりのポイントを学ぶ
11	授業の協議	模擬授業を行い、その授業について協議する
12	学級経営のポイント1	特別講師による学級経営の講義を受け、学級経営のポイントを学ぶ
13	学級経営のポイント2	特別講師による学級経営の講義を受け、学級経営のポイントを学ぶ
14	まとめ	本授業を振り返り、4月から実践できることをまとめる
15		
16		

科目コード	32414				区 分	コア科目			
授業科目名	教育実践学Ⅱ（基礎）（青年教師塾）〔表現教育アウトリーチ教育実習〕				担当者名	羽田 あずさ／小川 智勢子／四宮 貴久／渡邊 亮／塚本 千晴			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

表現教育アウトリーチ教育実習は、小学校教育現場を訪問し、学校現場で起こっている現実を「みて学び」、実際に児童に指導しながら実践的に「やって学び」、表現教育を通して、実践的に学ぶ教育実習である。

<授業の到達目標>

表現教育を通して、児童とともにレジリエンス（困難にあっても乗り越え回復する精神力）の向上を図ることができる。現場の先生方の仕事の実践を実践的に学ぶことができる。

<授業の方法>

実習に行く前の事前学習、リハーサルを経て、小学校で3日間の教育実習を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク、模擬指導、チームによる表現指導

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：ダンスの曲の確認、振り付けの確認等 2時間事前：模擬指導準備 2時間事後：振り返りレポート 1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP1；他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP4；地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。DP5；教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前練習・リハーサルへの出席 20%表現の実践指導 50%観察録の記述 20%最終レポート
10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	表現教育アウトリーチ教育実習の目的、内容、日程について
2	身体表現、音楽表現	身体の動きと音楽を通して表現方法を学び、表現活動およびアウトリーチ実習の指導方法を学ぶ
3	教授法と実践	指導の評価を元に指導内容の復習をする。また学生間で指導の効果、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
4	模擬指導①	模擬指導の準備を行う
5	模擬指導②	模擬指導、振り返り、改善
6	実践指導	小学校での実践指導
7	実践指導	小学校での実践指導
8	実践指導	小学校での実践指導
9	実践指導	小学校での実践指導
10	実践指導	小学校での実践指導
11	実践指導	小学校での実践指導
12	実践指導	小学校での実践指導
13	リハーサル	成果発表の準備を小学生とともに進行
14	成果発表	小学生と合同で成果発表を行う
15		
16		

科目コード	53016				区 分	コア科目			
授業科目名	健康運動実習〔健康運動指導士用〕				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	3年	配当学期	集中	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

今般の医療制度改革においては、生活習慣病予防が生涯を通じた個人の健康づくりだけでなく、中長期的な医療費適正化対策の柱の一つとして位置づけられており、今後展開される本格的な生活習慣病対策においては、一次予防に留まらず二次予防も含めた健康づくりのための運動を指導する専門家の必要性が増している。本実習においては、学内教育で習得した知識や技術を実際の現場で対象者を見ながら統合させ、実践力・応用力・創造力を身につけ、対象者に対する個別運動プログラムや運動の指導案を積極的に作成し、健康課題へのアプローチ方法について

<授業の到達目標>

健康運動を指導するための専門的な知識・技術を実際の現場で学習し、さまざまなケースに対応できる実践指導能力を習得する。また対象者に対する実際の運動指導現場にふれることで、個別ケースへの対応法について学び、健康運動指導（介護予防を含む）の理解に役立てる。また、実務能力を身に付けることにより、健康運動指導士としての活動現場における役割等を体験し、理解することを目標としている。

<授業の方法>

教科書を基に、様々な環境における現場実習を行う。特にクライアント（お客様）とコミュニケーションをとっていくことにより、現在のニーズや最新のトレーニング方法について学習する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：3、4人のグループに分かれ、事前学習でのグループワークや健康増進施設での実習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：①教科書および配布資料を用いて、当日の実習内容（対象者特性、運動指導方法、安全管理等）を確認する。②実習施設の特徴や提供プログラムを事前に調べ、指導場面を想定した準備を行う。③当日の個人目標を設定し、実習に臨む。（1日あたり約1時間）事後学習：①実習で経験した内容を振り返り、課題・改善点・学びを整理する。②実習記録・レポートを作成し、次回実習に向けた目標を再設定する。③実習で得た知識・技能を教科書内容と照合し理解を深化させる。（1日あたり約1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 20%、実践運動指導 30%、個別対応理解 30%、最終課題 20%

<教科書>

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下） 株式会社 南江堂

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	利用者サポート	一般利用者への接遇・顧客管理・個人情報保護・個別対応
2	施設管理（1）	救急法の資格の必要性・救急時対応・施設連絡網の確認・安全確保手順
3	施設管理（2）	避難経路の確認と誘導・救急対応の範囲、救急器具、消火器、消火装置の確認
4	施設管理（3）	機器の基本的な使用法・調整法・メンテナンス・衛生管理
5	健康評価と体力測定（1）	運動参加に関する医学的状況の把握・運動参加の禁忌、条件付参加
6	健康評価と体力測定（2）	説明と同意 安静時血圧・心拍数等の把握技術 形態測定技術・リスク・評価
7	運動プログラム提供（1）	実際の運動機器を使った有酸素トレーニングの効果と説明、注意点
8	運動プログラム提供（2）	実際の運動機器を使った筋力トレーニングの効果と説明、注意点
9	運動プログラム提供（3）	運動時の循環器、代謝、整形外科系への配慮（高齢、腰痛、肥満等）
10	運動プログラム提供（4）	適切な負荷の提供・記録の重要性・運動開始前の評価
11	運動プログラム提供（5）	プログラムの進め方・運動処方の説明・具体的方法・プログラミング
12	総合応用（1）	運動指導実践1（受付業務、顧客管理業務）
13	総合応用（2）	運動指導実践2（個人レッスン）
14	総合応用（3）	運動指導実践3（グループレッスン）
15		
16		

科目コード	65019				区 分	コア科目			
授業科目名	公務員と法				担当者名	平野 正樹			
配当年次	3年	配当学期	後期集中	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	2 単位

<授業の概要>

本科目では、市場機構の不完全性である市場の失敗、中でも公共部門の役割についての経済学的かつ制度論的な内容を理解することを目的とする。これを基に現代の経済的かつ財政的課題についてのケース・スタディーを通じて、公的主体の意義を学ぶ。そして、本科目を受講した学生が国内外の経済・財政問題に対して、コメントできるようになることを目途に授業を展開する。

<授業の到達目標>

授業を通じて、経済における「公的部門」と「民間部門」の相違とそれぞれの主体である「公」「民」の行動目的についての理解を図る。また、市場経済を中心とした経済社会で生じる諸問題(市場の失敗)について、その原因を分析するとともに国家財政や地方財政が抱える制度論的課題にも言及する。なお、シラバスの内容は前期開講の「公務員と法」と同様であるが、配布資料などを変えるとともに、講義内容の高度化で対応したい。

<授業の方法>

主として黒板を活用

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

履修条件として、ミクロ経済学とマクロ経済学は単位修得済みであること。予習・復習を行うとともに、日頃から新聞などで経済や財政に関する事柄に目を通しておくこと。具体的には、事前配付物での予習90分、復習50分が目安。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題(小テスト)80%と授業態度等20%で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。

<教科書>

なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	市場経済とパフォーマンス 経済の仕組みと公的部門	経済の仕組み 市場経済と公共部門の役割 経済学と経営学との相違など
2	公共経済学と財政学	市場の失敗、市場における外部性と公共財の存在
3	財政学と財政の三機能(Ⅰ)	財政学とは何か 財政学の誕生と発展
4	財政学と財政の三機能(Ⅱ)	資源配分機能 所得再分配機能 経済安定化機能
5	国と地方の財政の姿	国家財政・地方財政の歳入・歳出予算 予算の編成過程など
6	公共サービスと財政のかかわり(Ⅰ)	公共財の性質 公共財供給の効率性
7	公共サービスと財政のかかわり(Ⅱ)	多数決と公共サービス 公共財の最適供給と公平な負担
8	租税の基礎理論	租税原則と租税体系 効率と公平のトレード・オフ
9	所得課税	所得税と住民税の仕組み
10	消費課税	消費税の仕組み 従価税と従量税
11	資産課税	固定資産税と相続税の仕組み
12	国債と地方債	国債と地方債の種類 公債の負担
13	裁量的な財政政策とマクロ経済	乗数効果 財政政策の有効性
14	地方交付税と地域間所得再分配	地方交付税と国庫支出金の仕組み
15		
16		

科目コード	23414				区 分	コア科目			
授業科目名	視覚障害児教育論				担当者名	牟田口 辰己			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業は、視覚障害の心理・生理・病理に関する内容として、視機能の発達と評価、視覚障害の原因や状態の把握について解説する。障害のある子どもに関わる教師として必要な知識に視覚障害教育がある。特別支援学校（盲学校）勤務の実務経験を踏まえ、その教育課程と学習指導要領を解説するとともに、障害に応じた授業の特色を理解し、授業を構成するために必要な知識や技能、授業研究のための基礎的な事項について理解を深めることねらいとしている。

<授業の到達目標>

①障害のある児童生徒には多様な教育の場があり、②障害のある児童生徒にも見え方に不自由さを抱えていることを理解し、③視覚障害のある人々に積極的に関わることができるようになる。

<授業の方法>

講義

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：グループワーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：授業に関する配布資料を講義までに読んでおく。各回90分程度復習：授業に関する配布資料を次回までに復習しておく。各回90分程度

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験（80％）と毎回講義後に提出するコメントシートの内容（20％）で評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	視覚障害者と点字（日本点字の概要）	ルイ・ブライユによる点字の発明から石川倉次による日本点字への翻案までの歴史を解説し、視覚障害にある人にとっての点字の意義を考える。
2	視機能の発達と評価（目の機能と主要な眼疾患および心理学的知見）	眼球の構造と機能を解説する。
3	視覚障害の原因や状態の把握	教育的支援の必要な眼疾患の特色とその配慮事項を考える。
4	視覚障害教育の発展とあゆみ	明治11年の京都盲啞院、そして明治13年、東京の楽善会訓盲院から始まったわが国の盲教育の歴史を解説する。
5	視覚障害児童生徒の教育と就学支援	わが国の視覚特別支援学校、弱視特別支援学級、弱視通級指導教室の概要を解説する。
6	学習指導要領と各教科の指導	学習指導要領に示されている各教科に共通した五つの配慮事項をもとに、視覚障害教育の本質を解説する。
7	盲児に対する指導の配慮と工夫①：点字教科書の編集	検定教科書を原典にした文部科学省著作教科書としての点字教科書の編集方法について解説する。
8	盲児に対する指導の配慮と工夫②：漢字・漢語の指導	カナ表記である点字を常用文字とする盲児童に対する漢字・漢語の具体的な指導法を解説する。
9	弱視児に対する指導の配慮と工夫：見えにくさを補う光学補助具	見えにくさを補う方法は、光学補助具の使用と読書材を拡大する方法がある。本講義では光学補助具の種類とその活用法を解説する。
10	弱視児に対する指導の配慮と工夫：拡大教科書の編集	拡大教科書は一般の教科書を拡大しただけではない。本時では、書体や文字サイズを考慮した拡大教科書の編集について解説する。
11	教科指導の実際（国語における点字の読みの指導）	点字を両手の指先で効率的に読むことができるようになる点字読み指導法を解説する。
12	教科指導の実際（国語における漢字・漢語の指導）	表音文字である点字を常用文字とする盲児童に、表意文字である漢字・漢語を指導する意義とその方法を解説する。
13	教科指導の実際（算数と理科の指導）	盲人用そろばんを使用した計算や図形の学習と、触覚、聴覚、味覚を活用した理科の実験の指導法を解説する。
14	視覚特別支援学校における「自立活動」	特別支援学校の教育課程の特色である自立活動について、視覚障害児童生徒に対す

15		
16		る具体的な指導内容を解説する。

科目コード	22207				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	初等算数				担当者名	上ヶ谷 友佑			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

＊小学校算数科の各領域構成の詳細を提示し、小学校算数科の内容の数学的背景とそれに関わる数学の基礎知識について述べる。＊各講義の中で具体的な算数科教材を提示し、その算数教育的価値を考察する場を提供する。

<授業の到達目標>

＊小学校算数科 の内容の数学的背景とそれに関わる数学の基礎知識を理解し、小学校算数科の各領域構成を体系的に説明することができる。＊次の2つを副次的な目標として講義を行う。・子どもたちの数学的思考を涵養する力の育成（指導力・授業力）・算数科の教材を開発する力の育成（教材開発力）

<授業の方法>

講義形式（アクティブ・ラーニング）授業内小テストを実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素有り。授業中の発問や演習内容について周囲と意見交換したり、調べたりする。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

返却された小テストを復習する。（1.5時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（中等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

3日間毎日、最後に1日の総まとめテストを設ける。また、3日目は全体を通じた総まとめテストも設ける。テストの得点比率は1日目30%、2日目30%、最終日40%とする。各テストでは、授業中のアクティブラーニングでの学びの成果を問う。

<教科書>

文部科学省〔編〕(2018) 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編（備考：以下のURLから電子ファイルをダウンロードすることが可能です。https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm ★） 日本文教出版

<参考書>

鈴木将史〔編著〕(2018) 小学校算数科教育法 建帛社（備考：算数科の指導内容が体系的にまとめられているので、日々の学習の際に参考書として用いることを推奨する。★講義に持参する必要はありません。）

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションおよび数の概念（整数、小数、分数）	オリエンテーションおよび数の概念（整数、小数、分数）を数学的活動を通して学習する。
2	計算の意味（加法、減法）	計算の意味（加法、減法）を数学的活動を通して学習する。
3	計算の意味（乗法、除法）、概数と見積り	計算の意味（乗法、除法）、概数と見積りを数学的活動を通して学習する。
4	式の表現と読み、四則に関して成り立つ性質	式の表現と読み、四則に関して成り立つ性質を数学的活動を通して学習する。
5	1日目の総まとめテスト	第1回～第4回の内容についてテストを実施する。
6	図形概念（平面図形、立体図形）	図形概念（平面図形、立体図形）を数学的活動を通して学習する。
7	図形の構成・分解	図形の構成・分解を数学的活動を通して学習する。
8	図形の性質および角	図形の性質や角について数学的活動を通して学習する。
9	図形の計量（面積・体積）	図形の計量（面積・体積）を数学的活動を通して学習する。
10	2日目の総まとめテスト	第6回～第9回の内容についてテストを実施する。
11	量の概念（長さ、重さなど）、量の大きさの比較、量の単位、量の測定	量の概念（長さ、重さなど）、量の大きさの比較、量の単位、量の測定を数学的活動を通して学習する。
12	単位量当たりの大きさ、比例・反比例	単位量当たりの大きさおよび比例・反比例を数学的活動を通して学習する。
13	測定値の平均と表・グラフ	測定値の平均および表・グラフを数学的活動を通して学習する。
14	3日目の総まとめテストおよび3日間の総まとめテスト	第11回～第14回の内容についてテストを実施する。また、3日間すべての内容を総合して解答するテストを実施する。
15		
16		

科目コード	40112				区 分	コア科目			
授業科目名	水泳 I (基礎) [PH用]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	1年	配当学期	集中	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※本授業は外部施設（安全スイミングスクール）で実施する。【体調管理と入水制限】・健康診断の受診：当該年度の大学健康診断を必ず受診していること。心疾患や耳鼻科疾患、てんかん等の既往

<授業の到達目標>

水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳）を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、水泳・水中運動の指導方法を理解し、授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

<授業の方法>

個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じて教室での座学やオンデマンド学習を取り入れる。また実習費（施設使用料）として15,000～25,000円程度の予定である。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

水中運動に関する理論学習を予習として1.5時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する1.5時間程度。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席・態度（20%）、実技テスト（40%）、毎回の課題（20%）、最終課題（20%）で評価する。

<教科書>

<参考書>

日本水泳連盟 編「新水泳指導教本」 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション、水泳理論	授業の概要および水泳理論について座学で学ぶ
2	泳力チェック	授業開始時の泳力についてテストする。
3	クロール①	クロールの基礎的指導を体験する。
4	クロール②	クロールの基礎的指導を体験する。
5	クロール③	クロールの基礎的指導を体験する。
6	平泳ぎ①	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
7	平泳ぎ②	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
8	平泳ぎ③	平泳ぎの基礎的指導を体験する。
9	フィンスイミング	フィンスイミングの基礎について学習する。
10	泳力テスト	クロールおよび平泳ぎの泳力の改善度をテストする。
11	水中運動・アクアビクス①	水中ウォーキングやアクアビクスを通して水中運動の意義・効果を学習する。
12	水中運動・アクアビクス②	水中ウォーキングやアクアビクスを通して水中運動の意義・効果を学習する。
13	水中運動・アクアビクス③	水中ウォーキングやアクアビクスを通して水中運動の意義・効果を学習する。
14	水中運動・アクアビクス④ まとめ	水中ウォーキングやアクアビクスの模擬授業を行う。本講義で学んだことのまとめを行う。
15		
16		

科目コード	40112				区 分	コア科目			
授業科目名	水泳 I (基礎) [PP用]				担当者名	久田 孝／小崎 遼介			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水 は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※1: 本授業は外部施設（安全スイミングスクール）で実施するため、大学からスクールバスで移動する。※2: 施設の都合上、履修人数は45名を上限とする。

<授業の到達目標>

水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳）を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、基礎的な指導方法を理解し、水泳・水中運動授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

<授業の方法>

個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じてオンデマンド授業を取り入れる。また実習費として12,000円程度の予定である。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

水中運動に関する理論学習を予習として1時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体力の改善度：20%（実技への出席数で評価）、泳技術の改善度：40%（泳力テストで評価）、水泳理論の理解度：20%（毎回の課題で評価）、水泳指導の理解度：20%（最終レポートで評価）

<教科書>

<参考書>

日本水泳連盟 編「新水泳指導教本」 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	水泳授業について概要を学ぶ（泳力の確認も含む）
2	安全管理・安全指導	安全と安心の水泳授業について
3	水泳理論①	水泳の基礎（重力・浮力・抵抗力・推進力について）
4	水泳理論②	水泳の応用から発展
5	クロール①	泳法の理解と指導法
6	クロール②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
7	背泳①	泳法の理解と指導法
8	背泳②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
9	平泳ぎ①	泳法の理解と指導法
10	平泳ぎ②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
11	バタフライ①	泳法の理解と指導法
12	バタフライ②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
13	水中運動	生涯スポーツにおける水泳を体得
14	まとめ	指導における試験 バディー同士にて指導の確認
15		
16		

科目コード	40112				区 分	コア科目			
授業科目名	水泳 I (基礎) [他学科用]				担当者名	久田 孝／中安 翼／小崎 遼介			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

水泳・水中運動は陸上運動とは違い、水という特殊な環境下において行われる運動である。また、水 は衝撃を吸収するクッション効果を持つ反面、水中運動時には粘性抵抗として働き、水中運動を陸上運動に比べて効率の悪いものにするという側面を持つ。そこで、本実習においては、水中での身体の変化、水の特性、および、水泳の基礎的な理論を十分に理解する。※1: 本授業は外部施設（安全スイミングスクール）で実施するため、大学からスクールバスで移動する。※2: 施設の都合上、履修人数は45名を上限とする。

<授業の到達目標>

水泳は生涯にわたって行えるスポーツという側面を持つ。本実習では、水中でリラックスできる呼吸法を学習の中核として捉え、4泳法（クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳）を含んだ水中での運動能力を高めることを目標にする。また、基礎的な指導方法を理解し、水泳・水中運動授業の指導案を作成できるようになることも目指す。

<授業の方法>

個人の記録を毎回記入し、距離や時間を媒介として、身体と水との関係について認識を深めていく。理論学習では必要に応じてオンデマンド授業を取り入れる。また実習費として12,000円程度の予定である。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

水中運動に関する理論学習を予習として1時間程度。復習として、その日に行った実技内容に注意点や感想などを追記したまとめレポートを作成する。また、授業内で習得が難しかった泳法については積極的に自主練習を行うことを推奨する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体力の改善度：20%（実技への出席数で評価）、泳技術の改善度：40%（泳力テストで評価）、水泳理論の理解度：20%（毎回の課題で評価）、水泳指導の理解度：20%（最終レポートで評価）

<教科書>

<参考書>

日本水泳連盟 編「新水泳指導教本」 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	水泳授業について概要を学ぶ（泳力の確認も含む）
2	安全管理・安全指導	安全と安心の水泳授業について
3	水泳理論①	水泳の基礎（重力・浮力・抵抗力・推進力について）
4	水泳理論②	水泳の応用から発展
5	クロール①	泳法の理解と指導法
6	クロール②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
7	背泳①	泳法の理解と指導法
8	背泳②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
9	平泳ぎ①	泳法の理解と指導法
10	平泳ぎ②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
11	バタフライ①	泳法の理解と指導法
12	バタフライ②	泳法の理解から基礎的指導法をマスターする
13	水中運動	生涯スポーツにおける水泳を体得
14	まとめ	指導における試験 バディー同士にて指導の確認
15		
16		

科目コード	40303				区 分	コア科目			
授業科目名	整復学実技Ⅶ(総合)				担当者名	古山 喜一／簀戸 崇史			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	実技	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目は、これまで整復学実技Ⅰ～Ⅵで断片的に学習した運動器疾患に対する初期処置法を有機的に結び付けるものであり、実際の臨床現場を想定し、診察、理学検査、鑑別診断、整復、固定、後療法、指導管理等までの連続した医療面接、医療技術動作がスムーズに遂行できる総合的な能力の習得を目的とする。また、臨床現場におけるリスク管理についても学習する。

<授業の到達目標>

臨床現場で多く関わることがある代表的な運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する疾患概念が説明でき、診察、理学検査、鑑別診断、整復、固定、後療法、指導管理等においても、実際の手順に沿って詳細な説明と共に実施ができるようになることを目標とする。

<授業の方法>

グループに分かれて実習形態で学習する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有り

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）における理論、実技（整復法、固定法等）については予め復習し（2時間程度）、授業に臨むものとする。講義終了後はまとめノートを作成し知識の定着を図る（2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】口頭試験、実技試験100%

<教科書>

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編 南江堂
全国柔道整復学校協会 柔道整復学・実技編 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義の実施方法、実施内容の説明を実施する。
2	口頭試験Ⅰ	上肢骨折（鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折、第5中手骨頸部骨折、肋骨骨折）の範囲から口頭試験を実施する。
3	口頭試験Ⅰ	上肢骨折（鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折、第5中手骨頸部骨折、肋骨骨折）の範囲から口頭試験を実施する。
4	実技試験の内容をオンデマンドにて学習する。	実技審査で実施する内容を動画で示し、各自口頭で述べながら、整復、固定が出来るようにする。
5	実技試験①（骨折）	上肢骨折（鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折）の範囲から上肢骨折に関する実技試験を実施する。
6	実技試験①（骨折）	上肢骨折（鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折）の範囲から上肢骨折に関する実技試験を実施する。
7	口頭試験Ⅱ	上肢脱臼（肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、肘内障、示指PIP関節背側脱臼）の範囲から口頭試験を実施する。
8	口頭試験Ⅱ	上肢脱臼（肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、肘内障、示指PIP関節背側脱臼）の範囲から口頭試験を実施する。
9	実技試験②	実技試験②（肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、肘内障）の中から実技試験を実施する。
10	実技試験②	実技試験②（肩鎖関節上方脱臼、肩関節前方脱臼、肘関節後方脱臼、肘内障）の中から実技試験を実施する。
11	口頭試験Ⅲ	上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎、大腿部打撲・肉離れ、膝側副靱帯損傷、膝十字靱帯損傷、膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断

12	口頭試問Ⅲ	裂，足関節外側靱帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から口頭試問を実施する。 上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靱帯損傷，膝十字靱帯損傷，膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断裂，足関節外側靱帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から口頭試問を実施する。
13	実技試験③	上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靱帯損傷，膝十字靱帯損傷，膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断裂，足関節外側靱帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から実技試験を実施する。
14	実技試験③	上肢、下肢軟部組織損傷（肩腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱炎，大腿部打撲・肉離れ，膝側副靱帯損傷，膝十字靱帯損傷，膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ・アキレス腱断裂，足関節外側靱帯損傷，下腿骨幹部骨折）の範囲から実技試験を実施する。
15		
16		

科目コード	27101				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	生理学 I [PH2024年度以前入学生][再履修用]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生理学では人体の役割と機能について学ぶ。人体の正常な構造と機能を知っていることは、将来人体に関わる仕事に就く者にとって大切なことである。生理学 I では、まず生命の基本単位である細胞について学ぶ。つぎに生命を活用する動物的機能-外界の刺激に対応する神経、筋肉、感覚などについて学ぶ。日頃意識することなく行っている、見て、聞いて、考えて、行動することについてのメカニズムを理解する。その後、生命を維持する植物的機能のうちの体温調節について学ぶ。

<授業の到達目標>

人体のすべての組織は細胞からできており、その普遍性について理解する。神経や筋肉など、個々の組織のはたらきを知ると同時に、組織は違えど共通するはたらきが多くあることを理解する。柔道整復師国家試験問題についてただ正しいものを選択できるようになるのではなく、「なぜ正しいか／どこが誤っているか、誤っているなら正しい答えはなにか」について理解して答えられるようになるのが目標である。

<授業の方法>

教科書の章の順とは前後させている部分があるが、内容は教科書に沿って講義する。高校で生物学を学んでいない学生でも理解できるよう、教科書外の基本的な内容も一部入れている。理解を深めるためのプリントを配布する。当日の講義の内容に関連する柔道整復師国家試験の生理学分野の過去問題についても解説する。講義の終わりに、その日の講義内容の確認の小テストを行う（プリント等を見てよい）。小テストの誤りが多い部分に関しては次回講義時に解説する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループ学習により双方向で理解度を確認する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習としては教科書の次回授業範囲を一通り読んでおく（約15分）。復習は毎回行う小テストおよび国家試験問題を中心に行う（約30分）。人体の機能には、拮抗するもの（逆のはたらきをするもの）が多くあるため、小テストの設問と逆の機能についても考えるようにすると、1つの問題から多くのことを学ぶことができる。また、国家試験問題は正しい答えを求めるだけでなく、残りの選択肢が示すものはなにであるかについて考えるとよい。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP2 柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

確認小テスト 15%、定期試験 80%、授業態度 5%。小テストの答えは次回授業開始時に解説するほか、まとめの回で再度確認する。

<教科書>

社団法人全国柔道整復学校協会 監修、根来英雄・貴邑富久子 著 「生理学 改定第4版」 南江堂

<参考書>

特になし（プリントを配布する）。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	1 生理学とは (1)	細胞、細胞を構成する物質 (13 栄養と代謝の内容を一部含む)、核と細胞小器官
2	1 生理学とは (2)	細胞膜、体液
3	13 栄養と代謝	栄養素、ATP、酵素（範囲外）、栄養素の代謝
4	3 神経の生理 (1)	静止電位と活動電位、興奮の伝導と伝達
5	2 筋の生理 (1)	筋の種類、骨格筋の構造と筋収縮
6	2 筋の生理 (2)	筋収縮の特徴、平滑筋、心筋
7	3 神経の生理 (2)、4 運動の生理 (1)	神経系の概略、筋紡錘、伸張反射
8	4 運動の生理 (2)、2 神経の生理 (3)	屈曲反射、誘発筋電図、脊髓上行路下行路、自律神経系
9	4 運動の生理 (3)、2 神経の生理 (4)	脳幹による運動調節、間脳と大脳
10	4 運動の生理 (4)	大脳と小脳による運動調節
11	3 神経の生理 (5)、5 感覚の生理 (1)	意識と睡眠、感覚の種類、皮膚感覚
12	5 感覚の生理 (2)	痛覚、視覚
13	5 感覚の生理 (3)	聴覚、前庭感覚、味覚、嗅覚
14	15 体温とその調節まとめ	体温と体温調節、発熱
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	山本 満理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	歌代 哲也			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	三垣 雅美			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	小川 正人			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	扇野 睦巳			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	赤木 邦江			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	大池 淳一			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [BC]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことが前提となる。授業時間外での執筆・修正が中心となるため、日常的に研究および論文作成を進めておくこと。授業では進捗確認や指導を行うため、毎回、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を用意し、内容や課題を整理したうえで臨むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）ならびに最終審査会における発表・審査の評価に加え、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [FE]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	4.00単位	授業方法	説明・演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

講義・演習・レポート

<授業の到達目標>

卒業論文の完成を通し文章作成能力、文献検索の方法、プレゼンテーションの仕方を学ぶことができる

<授業の方法>

全体説明（論文の書き方、参考図書、文献の検索等）各自論文執筆卒業論文中間発表卒業論文最終発表最終レポート提出

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有1. ピア・インストラクション（Peer Instruction）学生同士で教え合うことで理解を深める。2. ディスカッション・ベースの学習生徒同士の意見交換を通じて深い理解を促す。3. 問題解決学習（Problem-Based Learning, PBL）実社会の問題を題材にして解決策を考える。等を学習する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

研究テーマの設定（これは教員採用試験後、速やかに取り掛かります。また個別に対応します）①論文検索の仕方②参考文献の検索、収集③論文の文章構造の理解④教職に就いたときの作文指導（論文指導から学んだこと）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における初等・中等教育の課題を発見し、協働を通して課題解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

論文の部①論文の体裁 論文の形式を満たしているか②研究テーマは適切か③論証方法は適切か④論文は教職に就いたときの実効性を伴うか学習態度の部①授業参加態度②論文の締め切り等決まりに対する態度③参考文献の多さ

<教科書>

図書館で論文に関するコーナーが特設されているので参考にすること

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション論文について	○ 卒業論文・ゼミ論文の形式について ・卒業論文、ゼミ論文の分量等違いについて ・両論文の最終発表の相違点
2	論文テーマの決定 1	○ 論文テーマの決定 ・先行研究の検索 ・課題の確認
3	論文テーマの決定 2	○ 論文テーマの決定 ・テーマの決定 ・サブタイトルの確認
4	論文の文章構造の理解 1	○ 論文の文章構造 1 ・ワークシート利用
5	論文の文章構造の理解 2	○ 論文の文章構造 2 ・論文の文章構造の理解 ・序論の書き方
6	序章の書き方	○ 序章の書き方 1 ・序章の論文における役割 ・序章の文章構成の説明
7	序章の完成	完成内容○ 序章の書き方 2 ・序章の論文における役割 ・序章の文章構成の説明 ・序章完成
8	論文のテーマについて	○ 論文のテーマについて ・テーマに迫る問題の把握 ・テーマの問題に迫る段落の構成、記述
9	問題を解決する章の構成	○ 問題解決の方法 ・問題の解決方法を説明する文章構造の書き方 ・章の執筆
10	問題を解決する章の構成 2	○ 問題解決の方法 ・問題の解決方法を説明する文章構造の書き方 ・章の執筆
11	検証の章執筆完成	○ 検証の章執筆 1 ・検証のデータ執筆 ・データからの考察執筆
12	検証執筆	○ 論文中間発表
13	論文中間発表	○ 論文中間発表
14	論文最終発表	○ 論文最終発表
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [秋入学生用]				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	4年	配当学期	第1・第2クォーター	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [秋入学生用]				担当者名	佐藤 典子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [秋入学生用]				担当者名	小川 正人			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [秋入学生用]				担当者名	小堀 浩志			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [秋入学生用]				担当者名	田口 雅弘			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [秋入学生用]				担当者名	鈴木 真理子			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	55000				区 分	コア科目			
授業科目名	卒業研究 [秋入学生用]				担当者名	SACKO Salif			
配当年次	4年	配当学期	通年	単位数	4.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を基盤として、指導教員のもとで卒業研究に取り組み、その成果として論文を完成させる。研究計画の立案から執筆、発表に至るまでの一連の過程を通して、自ら課題を設定し、調査・分析・考察を行い、成果としてまとめる力を養う。なお、本科目は卒業研究を実施する学生を対象とし、必要に応じて共同での研究（共著）を認める。

<授業の到達目標>

・自ら設定した研究テーマについて、社会的な課題や問題の本質を明確にし、先行研究を適切に踏まえたうえで、自らの視点や新たな知見を加え、論文としてまとめることができる。
・研究の過程および成果について、適切な方法論や理論的枠組みに基づいて論理的に整理し、発表や質疑応答を通して他者に説明することができる。

<授業の方法>

本授業は通年科目として実施し、指導教員による個別指導を中心に進める。ゼミナールⅠ・Ⅱでの研究活動を踏まえ、研究テーマに基づき、論文の作成に向けた指導を段階的に行う。【第1クォーター】研究の本格化・これまでのゼミ活動を踏まえ、研究テーマと問題意識を整理し、論文の方向を具体的に定める。【第2クォーター】論題提出・執筆準備・論文の構成や分析の進め方を整理し、本格的な執筆に向けた準備を進める。また、研究テーマに基づき論題を設定し、所定の期日までに提出する。【第3クォーター】中間報告・内容の見直し・研究の進捗を中間報告として発表し、指導教員や他の学生からの指摘を踏まえて内容を見直す。あわせて各章の執筆を進め、論旨や構成を整えていく。【第4クォーター】最終報告・論文完成・最終報告（発表・審査）を行い、研究内容を整理する。あわせて論文全体を完成させ、提出期限までに提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：個別指導を中心としつつ、研究の発表や質疑応答を通して主体的に学修に取り組む。中間報告・最終方向では、自身の研究内容についてプレゼンテーションを行う必要がある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

卒業研究は各自が主体となって進めるものであり、研究テーマの設定から調査・検討、執筆に至るまで、自ら考え、判断しながら取り組むことができる。また、研究内容を整理し、論文としてまとめ、その成果を論理的に説明することができる。授業に臨むにあたり、研究の進捗状況を整理し、原稿やメモ（先行研究の整理、章構成案、疑問点など）を準備すること（事前学習：60分程度）。授業後は、指導内容を踏まえて原稿の修正や追加調査を行い、論文の完成度を高めること（事後学習：60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、ディプロマポリシー4（地域社会や産業界の課題を発見し、協働を通して社会変革の担い手として参画することができる）と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

卒業論文の内容（問題設定の妥当性、研究方法の適切性、論理展開および結論の妥当性、先行研究の理解）を60%、最終審査会における発表・審査の評価を20%、研究の進捗状況や執筆への取り組み（主体性・計画性・継続性）を10%、中間報告および最終報告における発表内容（論理性、分かりやすさ、研究内容の伝達）を10%として、総合的に評価する。

<教科書>

各自のテーマに沿った個別指導による

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	各自のテーマ・執筆内容に沿って個別に指導する	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		

科目コード	32402				区 分	コア科目			
授業科目名	体育実技の指導法				担当者名	中安 翼			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校における体育の授業において、必要となってくる考え方や指導法について、小学校現場での活動を中心に体験し、適切な体育指導の方法について学習する。ただし、訪問先の小学校の事情等により予定が変更になる場合がある。受講に際しては岡山市の学校支援ボランティアへの登録が必要。まだ登録していない人は、4月に学内で行われるの説明会に参加して登録しておくこと。

<授業の到達目標>

1. 小学校の現場体験を通し、教材や児童の実態に応じた適切な補助や言葉かけなどの関わりを実践できる。2. 体育指導における教師の役割と安全管理の要点を理解し、適切に対応できる。3. 指導体験を客観的に振り返り、自己の教育観の変容を言語化できる。本授業は、地域社会への貢献を目的とするため、学科のDP4に関連しています。

<授業の方法>

小学校現場における体育指導の補助に入り、体験を通して学びを深めていく

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

小学校体育授業で実際に子どもに関わる

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として、訪問先の授業の単元計画（目標、流れ、評価等）を事前に熟読し、当日の役割や指導上の留意点をシミュレーションしておく（1時間程度）。事後学習として、授業内での児童との関わりや気づきを整理し、振り返りレポートを作成して、次の指導改善に向けた課題を明確にする（1.5時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業に臨む姿勢（子どもへのかかわり方を含む）50%、レポート 50%にて総合的に評価する。

<教科書>

文部科学省（2018年2月28日） 小学校学習指導要領解説 体育編 東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の概要、目標、計画、内容、評価方法について
2	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
3	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
4	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
5	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
6	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
7	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
8	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
9	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
10	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
11	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ

12	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
13	体育授業における教師の役割	実際の小学校現場で体育指導に入りながら、教師として適切な子どもへのかかわり方について学ぶ
14	まとめ	本授業での学びを振り返り、自分の考えを言語化する
15		
16		

科目コード	36524				区 分	コア科目			
授業科目名	体力科学実験演習Ⅰ(基礎)				担当者名	吉岡 利貢／田中 耕作			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、各種体力・形態の測定方法を実際に体験しながら学ぶ科目である。また、測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝える方法、測定結果をトレーニングに活かす知識を得ることを目的とする。

<授業の到達目標>

1) 各種体力・形態を測定することができる2) 測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝えることができる3) 測定結果をトレーニングに活かすことができる

<授業の方法>

実習

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素：あり自身が測定したの体力データについてグループでディスカッションを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

オンデマンド教材による予習をした上で授業に臨み、授業後には所定のレポートを提出すること

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、大学のディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業レポート70%、総合レポート30%

<教科書>

<参考書>

西薗 秀嗣（2004年4月） スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業の概要やルールについて
2	体力測定の歴史（1）ラボテスト	実験室における各種体力測定の歴史を学ぶ
3	体力測定の歴史（2）フィールドテスト	フィールドにおける各種体力測定の歴史を学ぶ
4	形態の計測法	マルチン式人体計測法、ボディラインスキャナによる計測法
5	形態の評価	計測結果の理解と効果的なフィードバックの方法
6	体脂肪率・筋厚の測定法	皮脂厚法、空気置換法、超音波法による測定
7	体脂肪率・筋厚の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
8	最大挙上重量の測定法	1RMの測定法
9	最大挙上重量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
10	等速性最大筋力の測定法	股関節、膝関節および足関節の測定
11	等速性最大筋力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
12	ペダリングパワーの測定法	ハイパワー自転車エルゴメータによる下肢パワーの測定
13	ペダリングパワーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
14	各種競技動作の分析法	3次元動作解析システムを用いた各種競技動作の分析
15		
16		

科目コード	3G214				区 分	コア科目			
授業科目名	地方自治論				担当者名	大村 慎一			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

私たちの暮らしは地方自治体（都道府県・市町村等）の道路、上下水道、教育、福祉等多様な行政サービスで成り立っており、選挙や納税、まちづくり等を通じて我々自身も参画している。本科目では、地方行政に関心のある学生を想定し、地方自治の基本的な論点を理解するとともに、時事的な話題も盛り込みつつ、地方行政を支える主体としての住民目線を養うことを目的とする。授業内でワークショップも行い、身近な地域課題の解決など、グループで検討・発表する。

<授業の到達目標>

1. 地方自治論の基礎的な論点を理解する2. 地方自治論の基礎知識を記憶に定着させる3. 地方自治論の身近な論点について他者と意見交換ができる

<授業の方法>

地方行政に関するテーマごとのオリジナルプリントを題材として、地方自治の基本的な制度・運用について解説する。本講義は、国及び地方自治体で実務経験のある講師が担当するので、単に制度解説ではなく、地方・国の行政における政策形成や時事的な課題・トピックについても相当数の時間を取る予定である。教科書は指定しないが参考書の持ち込みは自由とする。講義の中で必要に応じて理解度の確認を行うなど、基本的な論点の習熟を図る。学生は、基礎的な論点や地域の身近な課題などについて、ペアワークやグループワークで理解を深めるとともに、検索や発表等を通じて主体的に学ぶ。配付資料のダウンロード、小テストや授業アンケートの実施などにおいてICTを活用する予定である。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有：基礎的な論点や地域の身近な課題などについて、ペアワークやグループワークで理解を深めるとともに、検索や発表等を通じて主体的に学ぶ。（各講義の中で、適宜組み込む予定）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：地方自治に関する新聞記事、地域の自治体のHP、広報誌等に関心を持ち、情報収集すること（約2時間）復習：授業で解説されたポイントを復習するとともに、気になった点を参考図書、HP等で調べ、理解を深める（約1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度（出席・授業への取り組み等）30%、課題レポート・小テスト30%、試験40%により成績評価を行う。

<教科書>

<参考書>

大森彌・大杉寛（2021年12月3日） 「これからの地方自治の教科書」 第一法規
北山俊哉・稲継裕昭（2021年9月17日） 「テキストブック地方自治」 東洋経済新報社
松本英昭（2018年3月） 「要説・地方自治法」（第十次改訂版一新地方自治制度の概要一） りょうせい

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	授業全体の構成と主な内容・進め方など
2	地方自治とは何か	地方自治制度・地方公務員の仕事総論
3	どのような地方自治体があるのか	地方自治体の意義・種類（都道府県、市町村、政令市、広域連合他）等
4	地方自治体には、どんな仕事があるのか	国の仕事と自治体の仕事、地方公務員の仕事
5	地方自治体の仕事は、誰が、どんな組織が行っているのか	行政組織、地方公務員の仕事の仕組み
6	議員は、どのように選ばれ、何をしているのか	地方議会
7	私たちの行政のルールはどのように創られるのか	条例と規則
8	地方自治の主人公である住民は何ができるのか	選挙、住民監査請求、住民訴訟等
9	地方自治を支える財政の仕組みはどうなっているのか	地方財政・財務の仕組み、国の財政と地方の財政、ふるさと納税等
10	これからの地方自治を考える① 地方分権改革	自治体の自主性・自立性を高めるための取組
11	これからの地方自治を考える②防災・危	災害対策、感染症対策、消防行政等

	機管理	
12	これからの地方自治を考える③地域D X	自治体及び地域社会のデジタル化
13	これからの地方自治を考える④地域活性化	地域おこし協力隊、関係人口等
14	これからの地方自治を考える⑤人口減少下の自治体のあり方	広域連携、地域住民との協働等
15		
16		

科目コード	51020				区 分	コア科目			
授業科目名	特別支援教育実習				担当者名	大野呂 浩志			
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

特別支援学校（知・肢・病）に在籍する個々の児童、生徒の実態を的確に把握し、実態に即した学習指導案を立案するとともに、実地授業及びその振り返りを通して、より良い授業のあり方を学ぶ。さらに、教育現場で求められる実践的指導力を身に付けるため、指導教員や他の実習生とともに、教育全般に取り組み、その省察をする。

<授業の到達目標>

特別支援学校における・児童生徒の実態を理解することができる。・児童生徒の実態を踏まえた学習、指導案の作成、および実践する力を身に付けることができる。・課題解決力やマネジメント力、コーディネート力を身に付けることができる。

<授業の方法>

各実習校において実習を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

講義／実習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教育実習事前指導及び教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと（教育実習までに6時間程度）。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと（学内、学外での活動を通じて10時間以上）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習指導力 40%、生徒指導力 30%、マネジメント力・コーディネート力 30%を総合して評価する。

<教科書>

特に指定しない 特に指定しない 特に指定しない

<参考書>

特に指定しない 特に指定しない 特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	教育実習	実習校における事前オリエンテーション
2	教育実習	実習校において指導のもとに実習
3	教育実習	実習校において指導のもとに実習
4	教育実習	実習校において指導のもとに実習
5	教育実習	実習校において指導のもとに実習
6	教育実習	実習校において指導のもとに実習
7	教育実習	実習校において指導のもとに実習
8	教育実習	実習校において指導のもとに実習
9	教育実習	実習校において指導のもとに実習
10	教育実習	実習校において指導のもとに実習
11	教育実習	実習校において指導のもとに実習
12	教育実習	実習校において指導のもとに実習
13	教育実習	実習校において指導のもとに実習
14	教育実習	実習校において指導のもとに実習と振り返り
15		
16		

科目コード	51021				区 分	コア科目			
授業科目名	表現教育アウトリーチ教育実習				担当者名	羽田 あずさ／小川 智勢子／四宮 貴久／渡邊 亮／塚本 千晴			
配当年次	2年	配当学期	通年	単位数	2.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

表現教育アウトリーチ教育実習は、小学校教育現場を訪問し、学校現場で起きている現実を「みて学び」、実際に児童に指導しながら実践的に「やって学び」、表現教育を通して、実践的に学ぶ教育実習である。

<授業の到達目標>

表現教育を通して、児童とともにレジリエンス（困難にあっても乗り越え回復する精神力）の向上を図ることができる。現場の先生方の仕事の実践を実践的に学ぶことができる。

<授業の方法>

実習に行く前の事前学習、リハーサルを経て、小学校で3日間の教育実習を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループワーク、模擬指導、チームによる表現指導

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前：ダンスの曲の確認、振り付けの確認等 2時間事前：模擬指導準備 2時間事後：振り返りレポート 1時間

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

DP 1；他者と付き合い、感情を調整し、目標を達成できる。DP 4；地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。DP 5；教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前練習・リハーサルへの出席 20%表現の実践指導 50%観察録の記述 20%最終レポート
10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	表現教育アウトリーチ教育実習の目的、内容、日程について
2	身体表現、音楽表現	身体の動きと音楽を通して表現方法を学び、表現活動およびアウトリーチ実習の指導方法を学ぶ
3	教授法と実践	指導の評価を元に指導内容の復習をする。また学生間で指導の効果、指導におけるコミュニケーション方法について協議をする
4	模擬指導①	模擬指導の準備を行う
5	模擬指導②	模擬指導、振り返り、改善
6	実践指導	小学校での実践指導
7	実践指導	小学校での実践指導
8	実践指導	小学校での実践指導
9	実践指導	小学校での実践指導
10	実践指導	小学校での実践指導
11	実践指導	小学校での実践指導
12	実践指導	小学校での実践指導
13	リハーサル	成果発表の準備を小学生とともに進行
14	成果発表	小学生と合同で成果発表を行う
15		
16		

科目コード	52008				区 分	コア科目			
授業 科目名	保育実習 I B (施設)				担当者名	檜 寄 日佳／松本 好生／塚本 千晴			
配当年次	2年	配当学期	集中	単位数	2.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、保育所以外の児童福祉施設等における利用時・者への支援について、体験を通して学ぶ。

<授業の到達目標>

・施設における利用児・者の生活の理解と支援について理解する。・施設の役割と機能について理解する。・保育士の職務内容や役割、職業倫理について理解する。

<授業の方法>

保育所以外の児童福祉施設等においての実習・観察実習と担当保育者との振り返り

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有。実習生同士または担当教員を含めて反省会をし、保育について振り返りをする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：保育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を高めたり実践したりできる準備をしておく（1時間）復習：実習中の当日にあったことを振り返って考察し、日誌にまとめる（1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（地域社会における保育・教育の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会 保育実習の手引き

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	保育実習 (1)	実習施設における事前オリエンテーション
2	保育実習 (2)	実習施設において指導のもとに観察実習 (1)
3	保育実習 (3)	実習施設において指導のもとに観察実習 (2)
4	保育実習 (4)	実習施設において指導のもとに参加実習 (1)
5	保育実習 (5)	実習施設において指導のもとに参加実習 (2)
6	保育実習 (6)	実習施設において指導のもとに参加実習 (3)
7	保育実習 (7)	実習施設において指導のもとに参加実習 (4)
8	保育実習 (8)	実習施設において指導のもとに参加実習 (5)
9	保育実習 (9)	実習施設において指導のもとに部分実習 (1)
10	保育実習 (10)	実習施設において指導のもとに部分実習 (2)
11	保育実習 (11)	実習施設において指導のもとに部分実習 (3)
12	保育実習 (12)	実習施設において指導のもとに部分実習 (4)
13	保育実習 (13)	実習施設において指導のもとに部分実習 (5)
14	保育実習 (14)	実習施設における反省会
15		
16		

科目コード	40403				区 分	コア科目			
授業科目名	防災キャンプ				担当者名	伊藤 三千雄			
配当年次	1年	配当学期	前期集中	単位数	1.00単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、災害時を意識した野外活動を実施する。災害大国日本に住む我々は、被災時にどのような対応をすればよいのか、また被害の甚大化を防ぐには日頃どのように防災を意識しておくべきなのか、科学的見地から合理的な対処方法を学ぶ。また、体育・スポーツ人はその身体性や集団の特徴から、被災時には自らや身近な人はもちろんのこと、社会的により弱者を助けることが求められる。体育学科生として備えておきべき資質と知識を実践的に身につける実習である。大学での事前事後学習および1泊2日程度の宿泊型実習を予定している。詳細は授業の

<授業の到達目標>

現代では、被災のファーストインパクトを回避・低減し、なおかつ被災後72時間を他者の支援を受けずとも生きながらえ、また他者を補助する余裕を持つに足る知識と技能を身に付けることが求められる。以上を踏まえた上で、近代的な社会インフラ（電気・ガス・水道など）が整っていない環境下で、衣食住を高い水準で成り立たせること。それに必要な手段や方法を理解し実践でき、他者に説明できるようになることが到達目標である。

<授業の方法>

座学と実習を組み合わせた形式をとる。座学では主に防災に関わる知識を学び、実習では実際に実演可能なスキルをグループ活動の中で学ぶ。実習は安全管理およびリスクマネジメントを行いながら段階的に実施する。授業前：①健康状態の確認を行い、体調不良者は活動内容を制限する。活動場所・気象状況・危険箇所の事前確認を行う。火気・刃物・野外調理器具の安全指導を事前に実施する。授業中：①教員の指示のもとで行動し、単独行動を禁止する。②活動前に準備運動・体調確認を行う。③水分補給・休憩を適宜実施し、熱中症・低体温症を予防する。④火気使用・刃物使用は教員の監督下で実施する。事故・体調不良発生時：①応急処置を実施し、必要に応じて医療機関へ搬送する。②大学の危機管理マニュアルに基づき対応する。③緊急時は教員が関係機関および大学へ連絡する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有：事前事後学習および実習ともにグループでの活動を基本とし、各課題についてグループワークを行い課題解決を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：①災害の基礎知識（災害の種類・被災後72時間の行動）を資料・動画等で学習する。②野外活動の基礎技術（火起こし・野外炊事・ロープワーク・テント設営）について事前に調べる。③個人の防災備蓄・非常持出袋の内容を確認し、準備物を整理する。（合計 約4時間）事後学習：実習内容を振り返り、個人および家庭の防災計画を作成する。実習で学んだ技能・課題・改善点をレポートにまとめる。自身の地域の避難場所・防災体制を調査する。（合計 約4時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習態度およびグループへの貢献度 60%、最終課題 40%

<教科書>

<参考書>

星野敏男ほか（2011） 野外教育入門 小学館

能條歩（2020） 人と自然をつなぐ教育—自然体験教育学入門 増補改訂版 NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション／防災キャンプ実習の概要	授業の概要、評価について説明／実習の日程、内容、方法、注意点等についての説明
2	災害とはなにか、防災活動の基礎	災害そのものについて知るとともに、防災活動の必要性や意義を学ぶ。
3	社会の防災システムと個人の努力義務	自助、共助、公助の基本的方針を学ぶ。社会制度化された防災システムを確認するとともに、個人が備えておくべき義務を知る。
4	リスクマネジメントと危険予知トレーニング	災害そのもののリスクはもちろんのこと、被災後のリスクの肥大化についても学び、対策を学ぶ。
5	集団生活と健康管理	避難所での生活をはじめ、災害時対応に多い協働作業の中で、集団的な健康リスクと対策を学ぶ。
6	アイスブレイク	見ず知らずの人間同士が協力関係を素早く築くために適したアクティビティを実践的に学ぶ。
7	イニシアティブゲーム	集団の凝集性を高め、実効性・機能性の高い状態を作り出すためのアクティビティ

8	火起こしと火の維持管理	を実践的に学ぶ。 野外における生活水準を大きく左右する重要な要素である火の起こし方や活用方法、そして安全対策を学ぶ。
9	野外炊飯・調理	非日常的な調理環境の中でも、安全においしく調理を行う方法やグループでの役割分担について学ぶ。
10	野外工作	生活を豊かにする物が無いなら身近なものでプリコラージュで創り出す必要がある。安全に機能的な物を造り出す方法を学ぶ。
11	野外救急法	災害時など野外での傷病は、通常の都市生活時とは異なる対処が求められる。その具体的方法と考え方を学ぶ。
12	ロープワーク・搬送法	固定・牽引など様々な場面で必要とされるロープワークの活用・応用を実践的に学ぶ。
13	生活環境の整備	被災時にある程度長期的な生活を展望するには、持続可能な生活環境の整備が必要である。1週間～2週間を超える長期の野外生活を念頭に考え方と方法を学ぶ。
14	実習全体のまとめと振り返り	実習の各局面での「あの時・あの場所」の出来事を「いま・ここ」の視点からまとめる。
15		
16		

科目コード	3F310				区 分	コア科目			
授業科目名	臨床柔道整復学演習Ⅰ [4年生用]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

柔道整復術は、評価、整復、固定、後療法に分けられ、さらに後療法は手技療法、運動療法、物理療法から構成されており、整復、固定、後療法が三位一体となり、その相乗効果が期待できる治療手技として、患者の指導管理を行いながら早期に社会復帰させることを目的に行われていることを理解する。また、柔道整復術は幅広い専門基礎分野に支えられていることより、患者の人権や柔道整復師の義務と倫理、医療の安全の確保、社会と医療、人体の概要および生命徴候、診察法、検査法、各種の疾患、リハビリテーション等の専門基礎分野全般について、総合的

<授業の到達目標>

基礎専門科目（解剖学、生理学、病理学、公衆衛生学、関係法規）を踏まえた上で、臨床科目の内科学、外科学、整形外科、リハビリテーション医学の領域で得られた情報と柔道整復術との関連性を考え、総合的に各種疾患の病態、発生機序、処置法、合併症、管理について説明ができることを目標とする。また、関連する法規についても修得する。

<授業の方法>

配布した問題や資料を基に学習を進め個人及びグループ形式で学習を進める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

特になし

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に提示された疾患について、①病態、②発生機序、③処置法、④合併症、⑤管理の項目に分け予習し授業に臨むことが重要である（1.5時間程度）。授業後は講義内容をふりかえり、「学び直した学習内容」についてのまとめを期日までに紙媒体あるいはデータの場合はDropboxを用い担当教員に提出する（1.5時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【対面授業】定期試験（100％）で評価する。

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 一般臨床医学 医歯薬出版

全国柔道整復学校協会監修 整形外科 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 外科学 南江堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	基礎専門分野（解剖学・生理学）より人体構造と役割を理解する。	運動器と器官系の構造と役割について理解を進める。
2	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	腫瘍・炎症・感染と疾患の関連性について学習する
3	基礎専門分野（整形外科・柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨・関節と疾患の関連性について学習する
4	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	医学的評価と疾患、リハビリテーションの関連性について学習する
5	総合考察1	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識（解剖学・生理学・公衆衛生学）を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法（関係法規）についても学習する。
6	基礎専門分野（内科学）より各種疾患を考察する	循環器系、呼吸器系、消化器系疾患について学習する
7	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	ショック・輸血、輸液と疾患の関連性について学習する
8	基礎専門分野（整形外科・柔道整復学）より各種疾患を考察する	骨腫瘍と症状の関連性について学習する

9	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	脳卒中、脊髄損傷のリハビリテーションについて学習する
10	総合考察2	各徴候が示す臨床症状等について疾患の病態把握を中心に基礎医学分野の知識（解剖学・生理学・公衆衛生学）を土台に臨床医学的考察を深める。また、関連する法（関係法規）についても学習する。
11	基礎専門分野（内科学）より各種疾患を考察する	医療面接、視診、打診、聴診、触診、生命徴候、感覚検査、反射検査、代表的な臨床症状等について理解を深める。
12	基礎専門分野（外科学・病理学）より各種疾患を考察する	移植・出血と疾患の関連性について学習する
13	基礎専門分野（整形外科学・柔道整復学）より各種疾患を考察する	スポーツと疾患の関連性について学習する
14	基礎専門分野（リハビリテーション医学・運動学）より各種疾患を考察する	リハビリテーションと福祉の関連性について学習する
15		
16		

科目コード	3F311				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	臨床柔道整復学演習Ⅱ				担当者名	畑島 紀昭			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	演習	卒業要件	カリキュラムにより異なります

<授業の概要>

柔道整復師の治療法が基礎医学を根拠とした臨床医学であることを理解する為に日常診療の中で多く遭遇する疾患に焦点を当て、繰り返し確認することで、学習の定着を図る。 本科目では内科学、外科学、整形外科といった臨床医学を起点に疾患の病態が解剖学、生理学で学んだ人体の構造と役割や病理学で修得した分子生物学的アプローチのどの部分に基礎がなされているのかに遡り学習する。また、公衆衛生学などの繋がりについても学習し、基礎医学と臨床医学の繋がりを確実に理解する。

<授業の到達目標>

基礎専門科目の解剖学、生理学、病理学、運動学、公衆衛生学の領域で得られた情報と柔道整復術との関連性を考え、総合的に各種疾患の病態、発生機序、処置法、合併症、管理について説明ができることを目標とする。

<授業の方法>

基礎専門科目およびコア科目で学習した内容を総合的にまとめた配布資料および問題の実施、実施後におけるグループ学習で進める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

課題に応じてグループワークを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

総合的学習（学習した内容）のつながりをもとに、①病態、②発生機序、③処置法、④合併症、⑤管理の項目に分け予習し（3時間程度）、講義で実施した問題に対する復習する作業が重要である（3時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー4（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における地域社会や医療界の課題を発見し、協働を通して課題の解決に参画することができる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

評価試験（90％）、学習意欲（10％）で評価する。

<教科書>

全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版
 全国柔道整復学校協会監修 生理学 南江堂
 全国柔道整復学校協会監修 病理学概論 医歯薬出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	末梢神経・神経叢と疾患の関連性について学習する
2	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	骨格筋全般と疾患の関連性について学習する
3	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	血管系と疾患の関連性について学習する
4	基礎専門分野（解剖学）より各種疾患を考察する	骨と疾患の関連性について学習する
5	総合考察1	解剖学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
6	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	内分泌と疾患の関連性について学習する
7	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	呼吸器と疾患の関連性について学習する
8	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	自律神経と疾患の関連性について学習する
9	基礎専門分野（生理学）より各種疾患を考察する	免疫システムと疾患の関連性について学習する
10	総合考察2	生理学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
11	基礎専門分野（運動学）より各種疾患を考	運動の発生のメカニズムと疾患の関連性について学習する

	察する	
12	基礎専門分野（運動学）より各種疾患を考察する	運動学習と疾患の関連性について学習する
13	基礎専門分野（病理学）より各種疾患を考察する	細胞の分子生物学的変化と疾患の関連性について学習する
14	総合考察3	運動学、病理学を中心とした視点で各種疾患との関連性について考察する
15		
16		

科目コード	25202				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	スポーツバイオメカニクス [週間オンデマンド]				担当者名	佐藤 伸之			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

身体の動く仕組みを物理学的にアプローチする学問をバイオメカニクスという。本授業では、スポーツ現場でのバイオメカニクスについて学び、スポーツバイオメカニクスの基礎を理解し、身体運動の背景を力学的に捉えることができるようにする。さらに自身が指導者になるうえでのコーチング現場でのバイオメカニクスの応用について学び、自身の考えをまとめる。また、健康運動指導士・健康運動実践指導者・CSCSなどを取得するためには必修となる科目である。

<授業の到達目標>

①スポーツバイオメカニクスの授業内容に含まれているスポーツ動作の特徴を専門用語を用いて理解できるようになる。②スポーツバイオメカニクスの視点で、スポーツや運動の観察・指導または改善方法を考案できるようになる。

<授業の方法>

毎授業、動画視聴し、確認テストおよび授業振り返りシートの記入を行う（オンデマンド形式）。必要に応じて、確認テストの代わりとして小レポートの課題を提示する。classroomに補足資料などを掲載する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次週のキーワードを提示するので、各自でWeb、図書などを活用し予習してくること（1～2時間）。関連科目（運動学、生理学、解剖学、数学など）の復習を必要に応じて行うこと（1～2時間）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題60%、期末試験（最終課題レポート）40%

<教科書>

なし

<参考書>

深代千之ほか編著 スポーツバイオメカニクス 朝倉書店

深代千之ほか スポーツ動作の科学-バイオメカニクスで読み解く- 東京大学出版会

宮西智久 ほか はじめて学ぶ 健康・スポーツ科学シリーズ4 スポーツバイオメカニクス (株)化学同人

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、スポーツバイオメカニクスについて	授業の流れの説明、バイオメカニクスの基礎、スポーツバイオメカニクスの視点について
2	人体の動く仕組み	ヒトの骨格系、関節、関節運動の可動域について
3	運動と力	運動の法則、力の性質について
4	並進運動	身体運動の運動学的記述、変位・速度・加速度について
5	回転運動	角変位・角速度・角加速度について、並進運動と回転運動の関係について
6	流体力学	流体の抗力と揚力について、浮力、マグヌス効果について
7	スポーツバイオメカニクスのコーチングへの応用①	さまざまなコーチング現場への応用について①
8	走る動作のバイオメカニクス①	歩行と走行の違いについて、ストライド・ピッチの関係、その他歩行・走行動作について
9	走る動作のバイオメカニクス②	歩行と走行の違いについて、ストライド・ピッチの関係、その他歩行・走行動作について
10	跳ぶ動作のバイオメカニクス①	跳躍の基礎、垂直跳について、走り幅跳び・走り高跳びのバイオメカニクス
11	投げる動作のバイオメカニクス	投動作のバイオメカニクス、野球の投動作ややり投げの投動作について
12	打つ動作のバイオメカニクス	野球の打撃動作やテニスの打撃動作について
13	スポーツバイオメカニクスのコーチングへの応用②	さまざまなコーチング現場への応用について②

14	まとめ、振り返り、課題レポート提示	これまでの授業の振り返りやまとめ、最終課題レポート提示および作成
15		
16		

科目コード	62027				区 分	コア科目			
授業科目名	スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ [週間オンデマンド]				担当者名	江波戸 智希			
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を理解し、科学的根拠に基づいた予防対応の計画および実践に必要な知識、態度や技能を習得することをねらいとする。ここでは、発症要因や予防法の考え方、スポーツ動作（歩行動作、走動作、ストップ・方向転換動作、跳躍動作、投動作、あたり動作など）に関するそれぞれのバイオメカニクスおよび動作に影響をあたえる機能的と体力的要因、さらに外傷・障害の発生機転となるスポーツ動作の特徴とメカニズムについて学習する。

<授業の到達目標>

安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防の目的や意義およびJSP0-ATとして果たすべき役割について説明できる。安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因を理解し、科学的根拠に基づいた予防対応を計画し実践できることを目標とする。

<授業の方法>

講義。予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有3～4人のグループに分かれ、動画撮影、分析を行い、発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として、次の授業内容の範囲まで90分ほど時間をかけて教科書を読み、予習課題に取り組んでくること。また、テキスト内容の自分が分からない箇所（＝授業において自分がしっかり聞いて、確認しておかなければならない箇所）を把握する。この予習により、授業での記憶定着の効率を上げる。授業を受けたその日のうちの90分以上復習すること。適宜、事前課題および復習課題の提示、提出を求めることもある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（柔道整復学、健康科学、スポーツ医科学における課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 60％（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題）、最終課題・発表（最終課題、発表）40％

<教科書>

<参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日） 「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」（公財）日本スポーツ協会

公益財団法人日本スポーツ協会 2022年11月30日（第1刷） 『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第2巻 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防』（公財）日本スポーツ協会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防の概念	意義、組織と役割、ICTやIOTの活用
3	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害予防における役割	組織、対象、環境、競技特性
4	スポーツ外傷・障害の予防	考え方、疫学調査、発生要因、プログラムの立案と介入
5	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応概論	競技・種目特性
6	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応①	予防・再発予防としての動作の見方～走動作～
7	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応②	予防・再発予防としての動作の見方～跳動作～
8	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応③	予防・再発予防としての動作の見方～方向転換動作～
9	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害	予防・再発予防としての動作の見方～投球動作～

10	害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応④ 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑤	予防・再発予防としての動作の見方～打撃動作～
11	害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑥ 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑦	予防・再発予防としての動作の見方～泳動作～
12	害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑦ 安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑧	予防・再発予防としての動作の見方～あたり動作～
13	害へ影響を及ぼしうる各種要因・対応⑧ ICT及び各種テクノロジーを活用したコンディショニング事例	予防・再発予防としての動作の見方～滑走動作～
14		コンディショニング評価とAIを用いた画像解析
15		
16		

科目コード	28112				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	ビジネスデータ分析 [Q2対面+オンデマンド]				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	2年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現代のビジネスで扱われるデータは多種多様である。ビジネスではそのようなデータを自在に分析し結果を正確に読み取る能力が求められている。また、ビジネスにおける顧客情報等は、重要な経営資源であり、経営方針を決める根拠となりうるものである。したがって、それらの取り扱いはきわめて重要である。本講義では、情報倫理、基本的な分析方法、個票の集計方法等を解説し、それらを扱えるスキルを身につける、ビジネスで応用できるようすることを目的とする。

<授業の到達目標>

①ビジネスに関する基本的なデータの集計・可視化ができる②分析結果から関連するビジネスの社会的背景を読み解くことができる③分析結果から対象とする課題に対して批判的に検討することができる④データの限界や倫理的課題について論理的に説明できるようになる

<授業の方法>

講義+オンデマンド

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有無：有グループディスカッション、プレゼンテーション

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：提示されたデータの内容を確認する（60分）事後学習：授業内で行った演習を再実行する（60分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①毎回の小テスト（30%）②授業内レポート（25%）③最終課題（45%）上記内容で総合的に評価する予定。

<教科書>

使用しません。

<参考書>

適宜紹介します。 適宜紹介します。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション	講義の進め方、成績評価の方法、「ビジネスデータ分析」とはどのような学びなのか等について、説明する
2	数値から把握する①	データから物事の状況や特徴をつかむ方法について学ぶ
3	数値から把握する②	データから物事の状況や特徴をつかむ方法について学ぶ
4	数値を分析する①	データから規則性や変化、相関などを見抜く方法について学ぶ
5	数値を分析する②	データから規則性や変化、相関などを見抜く方法について学ぶ
6	数値に基づき選択する①	いくつかの選択肢から最適なものを選ぶ方法について学ぶ
7	数値に基づき選択する②	いくつかの選択肢から最適なものを選ぶ方法について学ぶ
8	数値から予測する①	さまざまなデータをもとに未来を予測する方法について学ぶ
9	数値から予測する②	さまざまなデータをもとに未来を予測する方法について学ぶ
10	数値を他者に分かり易く説明する①	情報をわかりやすく正確に伝える方法について学ぶ
11	数値を他者に分かり易く説明する②	情報をわかりやすく正確に伝える方法について学ぶ
12	数値を加工する①	集めたデータを正しく使用するための加工方法について学ぶ
13	数値を加工する②	集めたデータを正しく使用するための加工方法について学ぶ
14	全体の総復習	総復習を通じて受講生の理解度を確認する
15		
16		

科目コード	28126				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	ビジネスと数学 I [週間オンデマンド]				担当者名	栗谷 真亮			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

経済学や経営学を学ぶうえで必要となる基礎的な数理リテラシーを身につけることを目的とする。家計の損益、価格の変化、市場のしくみなど身近な経済現象を題材に、割合・比率・増減率といった基本的な計算から、一次関数、連立方程式、二次関数の基礎までを段階的に学ぶ。単に公式を覚えて計算するのではなく、数式・表・グラフを用いて現象を読み取り、「なぜその数学的道具が必要なのか」を理解することを重視する。数学の基礎を確認しながら、専門科目の学習に必要な定量的思考の土台を形成する。

<授業の到達目標>

日常の経済現象を、数式・表・グラフを用いて基礎的に読み取り、説明できるようになることを目標とする。具体的には、割合・比率・増減率などの基本的な計算を正確に行い、家計や企業の活動に関する数値を適切に解釈できる力を身につける。さらに、一次関数、直線の傾き、連立方程式、二次関数の基礎を用いて、市場の均衡や費用・利益の関係を読み取ることができるようになることで、経済学・経営学の専門科目を学ぶための定量的思考の土台を形成する。

<授業の方法>

本授業は、クラウド上のサービスを利用したオンデマンド方式で行う。講義動画、例題、演習問題、課題を通して、割合・比率・一次関数・連立方程式などの基礎を段階的に学ぶ。数式・表・グラフを用いて経済現象を読み取る力を養い、課題提出もオンラインで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業後に60分程度の復習を行い、授業で扱った計算方法や用語の意味を確認すること。特に、割合・比率・増減率、一次関数、連立方程式については、例題や演習問題を解き直し、自力で計算できるようにしておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義ごとの演習課題で評価をする。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	なぜビジネスに「数学」が必要なのか？	変数（独立・従属変数）と定数
2	なぜ売上額より「シェア」が重要なのか？	割合（比率）とデータの正規化
3	なぜ「前年比101%」の継続が恐ろしいのか？	変化量と変化率・指数
4	なぜ人間の行動を「一本の線」で表せるのか？	一次関数の性質と定式化
5	なぜ人気が出ると「価格」が上がるのか？	逆関数とグラフの反転
6	なぜ「客数」の変化に一喜一憂すべきなのか？	直線の傾きと感度分析
7	なぜ数学で「ケンカの仲裁」ができるのか？	二元一次連立方程式の解法
8	なぜ「増税」すると市場のバランスが崩れるのか？	パラメータの変化と均衡の移動
9	なぜ「誰かの支出」が「誰かの所得」になるのか？	方程式と恒等式の区別
10	なぜ「頑張って売りすぎる」と赤字になるのか？	二次関数のグラフと凸性
11	なぜ「倒産」の危機は2回やってくるのか？	二次方程式の解と判別式
12	なぜ一流の経営者は「頂点」だけを見ているのか？	二次関数の平方完成と極値
13	なぜ「数式」があれば店長は迷わないのか？	数理モデルの構築とシミュレーション

14	なぜあなたの世界の見え方は変わったのか？	総括：数理的思考の再定義
15		
16		

科目コード	35100				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	運動学 [週間オンデマンド]				担当者名	早田 剛			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

体育授業で生徒がもっともうれしそうな表情を見せるのは、運動が「できる」ようになったときである。運動学は、人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを学習するものである。動きに関わる動作や意識に現れる「動感」をその研究対象、分析対象にするという方法論をもち、そうした視点から現場の運動実践の問題解決に寄与しようとする理論を学ぶ。

<授業の到達目標>

1) 人体の構造と機能、働きを理解した上で、身体運動の発現が効率良く連携する仕組みを理解することができる。2) 現象学的・人間学的研究を基盤にした発現運動学の運動理論を理解することができる。3) 身体知をめぐる問題やその研究方法である現象学的一モルフォロジー的研究法について理解することができる。

<授業の方法>

1. 予習課題の提出：テーマに即した意見の提出と他学生の意見を確認する（約30分） 2. オンデマンド資料視聴① 解説と問いの提示（約10分） 3. 確認小テスト（約30分） 4. オンデマンド資料視聴② 解説と問いの提示（約10分） 5. 授業後レポートの提出（約40分）：字数制限有 次週課題の確認（➡自宅学習：約30~60分）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング：無オンデマンド授業のため、予習課題の見える化や意見交換でのアクティブラーニングを実施していく

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容のキーワードについて、インターネットや本で調べ、事前課題を実施する（約2時間）。意見交換：予習課題を踏まえ、オンデマンド授業を視聴し、自分の意見を述べ、他学生の意見を確認する。復習：振り返りレポート（約1時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

予習課題：30%授業課題・意見交換：40%確認小テスト・省察レポート：30%

<教科書>

<参考書>

佐野淳 著 基礎から学ぶスポーツ運動学 株式会社大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション：運動学とは	これからの学校体育に求められるもの運動学とは何か？
2	運動学習（1）	運動学習の意味について考える運動学習と授業研究を考える
3	運動学習（2）	運動学習の創造性を考える
4	運動学習（3）	運動学習に取り組む意欲を考える
5	運動の表し方	運動の表示・関節運動の表示
6	身体運動と力学	身体運動に関する力
7	運動器の構造と機能	骨・関節・骨格筋を学ぶ
8	動きに構造を見つける（1）	動きに構造を見つける動きの先取りを見つける
9	動きに構造を見つける（2）	動きのリズムを見つける動きに系統性を見つける
10	動きを覚えることと動きのアナログン	体育で動きを教えるということ指導することがらを探す
11	新しい運動理論を生かした運動指導（1）	「体づくり運動」を考える
12	新しい運動理論を生かした運動指導（2）	器械運動をどう考え、どう教えるのか
13	新しい運動理論を生かした運動指導（3）	投運動をどう考え、どう教えるのか
14	新しい運動理論を生かした運動指導（4）	ボール運動のゲーム学習の進め方ボール運動が上手になるための学習
15		
16		

科目コード	25301				区 分	コア科目			
授業科目名	運動生理学 [週間オンデマンド]				担当者名	河端 隆志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

人類が進化の過程において高次元の統合性と適応性を身に付けたことは、優れた協調適応の能力を有する高度の有機体であることの証と云えよう。運動生理学というのは、生理学の一分野として、人體が運動しているときの状態を系統的に研究分析してその法則性を明らかにし、叙述するものである。ヒトのからだ（生體）は常に統合（integrity）された一つの有機的體系として組み立てられており、内部環境における動的安定のもとに恒常性維持がなされている（Homeostasis）。運動・スポーツ・シーンにおいてパフォーマンスが維持さ

<授業の到達目標>

・運動生理学は講義で学んだ知識をさらに実習で知恵として実践できる応用力を體得することをゴールとするものである。・運動・スポーツ現場にある疑問をテーマとして捉え、その解決方法を自ら見つけ出せる実践力を身に付ける。・それぞれに行っている競技種目の特性を捉えたトレーニングへの応用ができる能力を身に付ける。・指導的立場（教員・スポーツ指導者・健康指導者など）に立った時の応用力・実践力を身に付ける。

<授業の方法>

講義

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

・アクティブ・ラーニングの要素有無；有り・課題ごとにペアあるいはグループでの討議を通して、自らの考えを伝えるときに他者の意見を聞き、考える機会を設ける。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各テーマに関して自身の競技特性や将来の目標と照らし合わせながら；予習：翌週のテーマ内容に準じた参考書や資料およびネット検索などにより、課題に対する予備知識を得ておくこと。（所要時間：60分程度）復習：講義前に実施する振り返り（毎回、15分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

オンデマンド授業です1）平常点：50点（14回の講義出席および課題提出とその内容）2）最終課題レポート評価：50点（最終講義時に課題を出します）毎回の課題およびレポート提出の期限を厳守してください。課題およびレポート提出の期限・課題 次の週の前日まで・最終レポートについては、最終講義時に提示します

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	運動生理学概論 ー生理学から運動生理学へー	体育学系学生としての運動生理学の捉え方・スポーツにおける身体動作を観る眼差し生理学から運動生理学へ・生理学（安静時の生体機能）・運動生理学（運動時の生体機能）
2	スポーツにおける身体動作を観る眼差し	・体力を考える・スポーツシーンで要求される生理的体力要素は
3	ヒトの特性を探る	人類の進化的変化と適応的利益を考える
4	歩くを考える	歩く・走る・跳ぶ・投げるなどの動作はヒトの基本的な身体動作である。スポーツ動作と結びつけるには、こうした基本的動作が正しくできることが重要である
5	運動と筋・骨格系	骨格筋の収縮・代謝特性、エネルギー供給機構
6	運動と神経系	神経系の構造と運動発現、身体動作の運動制御、運動が学習や記憶に及ぼす影響
7	運動と代謝系	運動の継続時間とエネルギー発生機構、運動と酸化ストレス、筋運動のためのエネルギー供給機構
8	運動と呼吸器系	肺における換気、血液によるガス輸送、酸素摂取量、無酸素性作業閾値
9	運動と心・循環系	中心循環と末梢循環、運動時の循環調節と統合
10	運動と体温調節	体温調節のメカニズム、運動時の体温調節反応とその影響因子
11	運動と体液バランス	運動が体液量および組成に及ぼす影響、多量発汗・脱水とその回復
12	運動とホルモン	運動によるホルモン分泌とトレーニングによる適応変化

13	フィジカル・パフォーマンス	運動時の強度により要求される代謝プロセス(有酸素性・無酸素性；非乳酸性・乳酸性)、無酸素性作業閾値(AT)、最大酸素摂取量、加齢・性差の比較 身体動作における主観と客観のズレについて考える
14	身体動作の主観と客観	
15		
16		

科目コード	31401				区 分	コア科目			
授業科目名	学校図書館メディアの構成 [週間オンデマンド]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校図書館は、読書センター・学習センター及び情報センターとしての機能を有している。学校図書館がその機能を十分発揮するためには、学校図書館メディアの構成に関して、収集、組織化、保存、提供などについて司書教諭が理解することが必要である。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。また、この科目は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資

<授業の到達目標>

①学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。②学校図書館メディアの選択と収集・構築について理解することができる。③学校図書館メディアの組織化を理解することができる。

<授業の方法>

基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスを参考に当日の授業内容を確認し、参考書またはWeb等で予備知識を学習しておくこと（予習30分程度）。毎回の講義時に、レポート課題を出題するので、次回の講義までに自力で解答しておくこと（復習60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 15%、中間試験 40%、期末レポート試験 45%に基づき評価する。

<教科書>

<参考書>

全国学校図書館協議会監修（2017.9.1） 学校図書館必携 悠光堂

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	学校図書館メディアの意義	講義ガイダンスを含む
2	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの種類と特性
3	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（資料の選択、資料収集の方針）
4	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（収集のための情報源）
5	メディアコレクションの形成	蔵書構築、蔵書評価について
6	学校図書館の責務について	学校図書館の役割について
7	学校図書館メディアの組織化	分類の意義と機能
8	学校図書館メディアの組織化	日本十進分類法について
9	学校図書館メディアの組織化	件名標目表について
10	学校図書館メディアの組織化	日本目録規則について
11	学校図書館メディアの組織化	目録の機械化について
12	学校図書館メディアの組織化	分類と件名作業の実際
13	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の意義
14	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の演習
15		
16		

科目コード	21331				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [PP、PS用週間オンデマンド]				担当者名	内田 仁志			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期オンデマンド	単位数	2.00単位	授業方法	オンデマンド	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業はオンデマンド形式で実施し、教育の方法及び技術の基本を学ぶ科目である。小学校・中学校・高等学校の授業づくりに必要な授業設計、板書、発問、言語活動、議論活動、ICT活用などの指導技術を、動画教材とテキストを用いて体系的に理解することを目的とする。受講者には体育免許取得希望者も多いことを踏まえ、教科を問わず活用できる授業技術を中心に扱う。各回の学習後にはGoogleフォームによる振り返りを行い、理解の整理と定着を図る。

<授業の到達目標>

本授業の到達目標は、教育の方法及び技術に関する基本的な考え方を理解し、授業づくりの基礎を説明できるようになることである。具体的には、学習指導要領に基づく授業設計、板書や発問などの基本的指導技術、言語活動や議論活動を取り入れた授業の考え方、ICTを活用した学習活動の意義について理解することを目標とする。オンデマンド授業を通して、教科に共通する授業技術を理解し、将来の教育実践に活用できる基礎的能力を身につける。

<授業の方法>

本授業はオンデマンド形式で実施する。各回では動画教材とテキストを用いて教育方法や指導技術について学習する。受講者は動画視聴とテキスト読解を通して内容を理解し、その後Googleフォームによる確認課題や振り返りに回答する。授業内容は授業設計、板書、発問、言語活動、議論活動、ICT活用など段階的に構成されている。オンデマンド学習であっても、授業ごとに自分の考えを言語化することで理解を深める学習を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

本授業はオンデマンド形式であるが、受動的な視聴にとどまらない学習を目指す。各回の動画視聴後にGoogleフォームを用いた振り返り課題を実施し、学習内容を自分の言葉で整理する。また、授業事例をもとに「どのような授業技術が使われているか」「どのように改善できるか」を考察する課題を設定することで、主体的な思考を促す。こうした活動を通して、教育方法を理解するだけでなく、将来の授業づくりにつながる実践的視点を養う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回の授業に関連する資料や動画を事前に確認し、自身の読書経験や図書館利用経験を振り返っておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出 30%・レポート内容 40%・最終まとめ 30%

<教科書>

内田仁志（2026年4月） 小学校教師のための「使える」授業技術― 国語科を核にした授業設計と指導の実践 ― 福村出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業の概要と教育方法の基礎	本授業の目的、オンデマンド授業の進め方、評価方法について説明する。教育の方法及び技術という教職科目の意義を確認し、教師に求められる授業力とは何かを考える。学習指導要領に示される資質・能力の三つの柱と授業づくりの基本的視点を概観する。テキスト使用なし
2	教師の接遇と学校の基本姿勢	外部講師による接遇に関する講義動画（YouTube）を視聴する。学校現場における保護者対応や電話対応など教師として必要な社会的マナーを理解する。学校が多様な関係者によって成り立つ組織であることを踏まえ、教師の基本姿勢について学ぶ。
3	学習指導要領と授業設計	学習指導要領の役割と授業設計の関係について学ぶ。資質・能力の三つの柱を踏まえ、授業づくりの基本的な考え方を理解する。単元構成や授業の基本構造を確認し、教師がどのように授業を計画するのかを理解する。テキスト第1章 授業設計
4	学習指導案の基本	学習指導案の構成と役割について学ぶ。授業の目標設定、学習活動の計画、評価の観点など授業設計の基本を理解する。授業の流れ（導入・展開・まとめ）を確認し、授業計画の考え方を理解する。テキスト第1章 授業設計

5	板書とノート指導	板書の役割と基本技術について学ぶ。板書は学習内容の提示だけでなく児童生徒の思考を可視化する重要な手段であることを理解する。板書とノート指導の関係を確認し、授業の中でどのように活用されるかを理解する。テキスト第2章 板書とノート指導
6	発問の技術	授業における発問の役割と設計方法について学ぶ。単なる確認質問と、思考を促す発問の違いを理解する。児童生徒の考えを引き出す問の工夫について理解する。テキスト第3章 発問
7	音読指導	音読と黙読の役割について理解し、読解指導における音読活動の意義を学ぶ。音読活動が理解力や表現力の育成にどのようにつながるかを理解する。テキスト第4章 音読指導
8	作文指導	作文指導の意義と基本的な指導方法について学ぶ。書くことの指導が論理的思考力や構成力の育成につながることを理解する。テキスト第5章 作文指導
9	言語活動	言語活動の意義と授業設計への位置づけを理解する。読む・書く・話す・聞くを統合した学習活動が思考力や表現力を育てることを学ぶ。テキスト第6章 言語活動
10	議論活動	議論活動の教育的意義について学ぶ。議論は話す・聞く・読む・書くの四技能を統合する学習活動であり、思考力や表現力の育成につながることを理解する。テキスト第7章 議論
11	ICT活用	ICTを活用した授業の方法と意義について学ぶ。電子黒板やタブレットを用いた授業事例を通して、ICTが学習活動をどのように支援するかを理解する。テキスト第8章 ICT
12	言語活動とICT	ICTを活用した言語活動の授業について考える。デジタル教材やオンラインツールを活用した学習活動の可能性を理解する。テキスト第6章・第8章
13	授業設計の総合	これまで学んだ授業設計、指導技術、言語活動、ICT活用を総合的に振り返る。教師が授業を構成する際にどのような視点が必要かを整理する。テキスト第1章
14	授業のまとめと確認テスト	本授業で学んだ教育方法・技術について総合的に振り返る。授業設計や指導技術の基本を整理し、Googleフォームによるまとめと確認テストを実施する。テキスト総括
15		
16		

科目コード	21328				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	教育課程論 [週間オンデマンド]				担当者名	小川 雄太			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育課程は児童・生徒に何を教えていくかを決定づけるもので、各学校は児童・生徒の実情を踏まえて教育課程を編成することが求められている。本科目においては中学校、高等学校、特別支援学校の教諭及び教育委員会事務局の指導主事としての経験のある担当者による学校現場に即した具体的な講義内容によって、教育課程についての力量を身につけることができる。教育課程を体系的に理解した後、防災教育をはじめとする今日的な教育課題を中心とする教育課程の編成等についての理解を深めていく。

<授業の到達目標>

・日本における教育課程の歴史的な変遷を説明できる。・教育課程の意義や編成の方法を学び、カリキュラム・マネジメントを説明できる。・学校現場における教育課程の編成や改善の実際について説明できる。

<授業の方法>

講義においては、パワーポイント資料、ワークシート等を使用する。講義の時間とグループ討議や発表の時間を半々程度にする予定。なお、Googleクラスルームを活用して、課題の管理、資料等の配布を行うため受講に際してはパソコンを必携とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

学習内容を踏まえた各自のリフレクション（振り返り）の要旨を全体で共有する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

受講前後において、各自で予習及び復習を行う必要がある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

“この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。”

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・小課題・レポート課題等によって評価する。レポート課題（教育課程の作成）については講義で詳細を説明する。

<教科書>

中原朋生・池田隆英・楠本恭之 『なぜからはじめるカリキュラム論』 建帛社
2024年4月

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本科目の概要説明、学習指導要領、カリキュラム基礎理論
2	日本における教育課程の歴史と理論 1	日本における教育課程の歴史と理論、社会的背景等
3	日本における教育課程の歴史と理論 2	日本における教育課程の歴史と理論、社会的背景等
4	日本における教育課程の歴史と理論 3	日本における教育課程の歴史と理論、社会的背景等
5	欧米における教育課程の形成 1	欧米における教育課程の歴史等
6	欧米における教育課程の形成 2	欧米における教育課程の歴史等
7	学習指導要領の変遷 1	学習指導要領の変遷、社会的背景等
8	学習指導要領の変遷 2	学習指導要領の変遷、社会的背景等
9	学習指導要領の変遷 3	学習指導要領の変遷、社会的背景等
10	教科カリキュラム 1	教育の目的・目標、各教科の目標、指導計画等
11	教科カリキュラム 2	教育の目的・目標、各教科の目標、指導計画等
12	教科カリキュラム 3	教育の目的・目標、各教科の目標、指導計画等
13	さまざまな教育課題を中心とする教育課程（カリキュラム・マネジメント） 1	現在の教育課題、教育課程編成の実際等
14	さまざまな教育課題を中心とする教育課程（カリキュラム・マネジメント） 2	現在の教育課題、教育課程編成の実際等
15		
16		

科目コード	23100				区 分	コア科目			
授業科目名	発達心理学 [FC用]				担当者名	内田 伸子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

ことばは考える手段であり、人との絆を切り結ぶ手段である。ことばは人との社会的やり取りを通して獲得される。①ことばの獲得に臨界期はあるか？②第二言語の習得は早いほど有利か？③親に虐待されて言語遅滞や知能遅滞を引き起こした子どもの補償教育④リテラシー（読み書き能力）の習得に社会文化経済的要因はどのように影響しているか？⑤書くことと考えることはどのように関連するか？以上のテーマをめぐって授業者が行った研究成果を中心に国内外の知見を踏まえて講義する。人間の発達過程について深く理解し、子育てや保育、教育の場でも活か

<授業の到達目標>

1. ことばの獲得による認識過程の変化を理解する。2. リテラシーの獲得と教育や発達支援のあり方について理解する。3. 養育放棄児の言語遅滞からの回復事例から補償教育や発達支援について理解する。4. 子どもの論理的思考を育む授業デザインを構想し、メタ認知を活用する方法について理解する。5. ことばと認識の諸問題をめぐる観察や実験、調査などの研究方法論を理解し各自の卒業研究に応用できるようにする。

<授業の方法>

1. 講義形式だが対話型授業をめざす。授業中質疑応答しながら授業を進める。2. DVDの映写；授業内容の理解のために、話題に関連したビデオ（DVD）を流し、小グループで討論する。3. 授業省察のワークショップ；各自でテスト課題について回答&グループ討論し、討論の結果をまとめて発表する。受講者全体で共有する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

小グループで意見交換し、各グループの考えを発表することにより理解を深める。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

【予習：事前学習】教科書；内田伸子（2025年）『想像力～生きる力の源をさぐる～』（春秋社）について目次や要約などをざっと読み、授業についての「マインドセット（受講の構え）」をつくっておく。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、こども発達学科のDP3「子どもを取り巻く環境、様々な問題や文化状況に対して、子ども学の知見と教養に基づく知識と、理解する能力を身に付けている。」およびDP6「保育者としての自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観等を身に付けている。」に関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲 10%、小テスト 20%、グループワークへの貢献度 30%、テストレポート課題40%

<教科書>

内田伸子（2023年1月23日第1刷/2025年第2刷）『想像力～生きる力の源をさぐる～』 春秋社

<参考書>

内田伸子（2017年5月25日 第1刷/2026年第11刷） 書名：『子どもの見ている世界～0歳から6歳までの「子育て・親育ち」～』 春秋社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション；言語の期限	「ことば」の不思議の探究の旅への誘い；言語と意識の発生起源を探る
2	発達観の変遷：遺伝か環境か	教科書第2章前半「遺伝か環境かをめぐる心理学論争」
3	第一次認知革命：イメージの誕生	胎児期から乳児期にかけての発達：図鑑型・物語型；個性の芽生え
4	母子相互交渉の日米比較	母子のコミュニケーションについて日米文化比較研究から考察する。
5	象徴機能の発生	ことばの意味の広がりについて類推の働きから考察する。
6	助数詞の獲得過程	助数詞の獲得過程をめぐって言語と認識の関連について考える。
7	会話行動の文化差	会話行動の性差や文化差がなぜ生ずるか考察する。
8	母語の獲得過程	母語の獲得と方言の獲得過程の差異と共通性について考察する。
9	外国語の学習と敏感期	母語力（読解力）が外国語習得の基盤となることを考察する。
10	青年期は第二の誕生期	児童虐待からの再生は養育者との「愛着」の作り直しが鍵となる
11	想像力の発達	子どものウソは悪意の「嘘」か？子語り・想起・会話行動から探る。
12	学力格差・非認知能力の格差	学力格差は幼児期から始まるのかー学力格差と経済格差の関係
13	論理的思考力を育てる授業	社会構成主義に基づく授業デザイン「論理科」開発と社会実装を解説
14	書くこと・考えること・生きること	書くことによる認識の発達過程と推敲の意味、チャットGPTの「有能さ」

15		
16		

科目コード	23211				区 分	コア科目			
授業科目名	教育心理学 [週間オンデマンド]				担当者名	戸田 晃大			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

「教育」という営みは、教師だけのものではありません。親や指導者として子どもと接する場面や、就職先で後輩を指導する場面など、全ての人が経験するものです。本講義では、教育について“心”という観点から一緒に考えます。教育や心は誰にとっても身近なものです。しかし、ほとんどの人にとって、それらについて科学的に考える機会は多くありません。この講義では教育心理学に関する説明や学習活動を通して、教育について科学的に考えるため視点の獲得を目指します。

<授業の到達目標>

1. 学習した教育心理学の用語に関して、説明の正誤を判断できる（○×クイズに正解できる）2. 自分の考える授業に教育心理学の視点を取り入れることができる

<授業の方法>

本講義はオンデマンド形式で行われる。具体的には、下記の流れで学習を進める。1. 講義動画、スライド、資料を確認する2. 知識の定着と活用を目的とする課題に取り組む3. 提出した課題について、他の学生と相互評価をする（一部の課題で実施）課題はGoogle Classroomから提出する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の授業：上記、授業の方法に記載された活動に取り組む、簡単な感想をシートに記入する参考書（任意）：各授業で扱った内容と関連するものを提示します。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎週提出の学習活動への取り組み：60％（第1回～12回）最終課題①：授業計画の作成と相互評価：20％（第13回、第14回）最終課題②：最終○×クイズの達成率：20％（期末試験期間）※②について：授業の進行に合わせて出題される○×クイズの類題で全問正解をめざす。なお、特定の試験日は設けず、一定の期間内で正解できた問題数が成績に反映される（詳細はオリエンテーションで説明します）。

<教科書>

指定なし（スライドを配布します）

<参考書>

編者：生田 淳一・松尾 剛（2024年4月30日） 教育と学習の心理学 サイエンス社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	本講義の決まりごと、課題の提出方法、連絡の取り方について確認し、疑問点は質問する
2	心理学の眺め方：実証を重要視する心理学（記憶を具体例として）	実証、二重貯蔵モデル、ワーキングメモリ、処理水準などについての講義資料を確認し、心理学の知見が実証的な根拠に基づいて形成されていることを実感する。
3	教育心理学の研究手法	実験法、質問紙法、面接法、観察法、検査法などについての講義資料を確認し、研究方法の違いによって、知識の持つ意味に違いが生じることを知る。
4	心理学を自分なりに眺めてみよう（ゴールデンウィーク期間）	第2、3回で学んだことを踏まえ、関心のある内容について学術書やネット記事（例えばコトバンク掲載の心理学事典）で確認し、その中で考えたことをまとめる。
5	発達	ピアジェの発達理論についての講義資料を確認し、子どもの認知の変化や、大人の認知との違いについて考える。
6	学習	学習とはどのようなものであるかについて考える。具体的には、古典的な学習の捉え方についての講義資料を確認し、その後の変化と比較する。
7	動機づけ	内発的・外発的動機づけ、達成目標理論などについて説明を聞き、記憶の定着を目的とする学習活動に取り組む。また、質問紙法の具体例として、実際に動機づけに関する質問紙調査へ回答する。
8	メタ認知的活動	メタ認知、メタ認知的モニタリング、メタ認知的コントロールについての説明を聞き、これまでの自分の学びについて振り返る。
9	メタ認知的知識（特に、学習方略について）	学習方略についての説明を聞き、学習者が効果的な学び方を実践できない理由について考える。
10	自己調整学習	授業の初めに、最終課題について一度簡単に考えてみる。その後、自己調整学習に

11	授業の過程	についての説明を聞き、能動的な学習者を想定しながら再度考える。 最終課題を考えるために、様々な授業の形について学習する。具体的には、発見学習、有意味受容学習、協同学習などについて説明を聞き、最終課題にその考え方を反映する。
12	指導と評価	「なぜ評価をするのか？」について考える。具体的には、診断的・形成的・総括的評価についての説明を聞き、その後、評価と指導の一体化について、適性処遇交互作用、完全習得学習の観点から学ぶ。
13	最終課題①：授業計画（作成と提出）	教育心理学の視点を踏まえて、授業計画を立てる。
14	最終課題①：授業計画（相互評価）	第13回で他の人が提出した授業計画について、ルーブリックを使って評価する（相互評価）。その後、他の人のフィードバックを踏まえて、自分の計画の改善点を指摘する。
15		
16		

科目コード	23303				区 分	コア科目			
授業科目名	教育相談(初等) [週間オンデマンド]				担当者名	石山 貴章			
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教員に必要とされている「児童生徒理解」「アセスメント」「相談援助技術」「カウンセリングマインド」「キャリア支援」などの理論に依拠しながら、相談ケースを想定しつつ、どのようなアプローチが有効的・効果的なかを検討しながら、教育相談を実践的に学ぶことを目的とする。

<授業の到達目標>

① 学校教育現場で必要とされている教育相談の基本的理解を深める。② 教育相談に関する基本的理論を踏まえながら、教育相談の実践を理解していく。③ 教育相談に関心をもち、教育活動に活かしていく姿勢を身につける。

<授業の方法>

講義

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回の講義で提示される講義資料は、各自、必ずファイリングして復習をしておくこと。第1回～第14回までの講義テーマについての予習を参考図書等を基にして実施しておくこと。必要に応じて、参考書等で確認を行い、配布資料に転記またはノートに記録をしておくこと。最終的に、配布資料がテキスト化されるように各自でデータを蓄積しておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の Minute Paper（小レポート課題〈400-500字程度〉100点満点 14回分の成績の平均値で最終評価を行う。評価規準（ルブリック評価 目標①, ②, ③）は第1回目の講義資料に掲載する。

<教科書>

<参考書>

森田健宏・田爪宏二・吉田佐治子（2024年3月26日） 教育相談 [第2版]（よくわかる！教職エクササイズ） ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション～カウンセリングマインド～	1. 自己開示 2. カウンセリング・マインド 3. ラポール 4. 守秘義務 5. カタルシス
2	教育相談の基本的理解～カウンセリングの基本～	1. 聴く力と伝える力 2. スクールカウンセラー (SC) 3. スクールソーシャルワーカー (SSW) 4. コンサルテーション 5. カウンセリングアプローチ
3	構 成 的 グ ル ー プ エ ン カ ウ ン タ ー (Structured Group Encounter : SGE)	1. 勇気づけ (アドラー) 2. ロジャーズ (非指示的カウンセリング) 3. 無条件の肯定的受容 4. グループエンカウンター 5. アウェアネス 6. エクササイズ 7. ダイバーシティ 8. シェアリング
4	アンガーマネジメント	1. 怒りのメカニズム 2. “キレる”心理 3. ビリーフ (信念) 4. 怒りの対処 5. リフレーミング 6. ストレス・コーピング 7. 自尊心 (プライド)
5	いじめに関する相談支援①	1. 相談と対応 2. 同調圧力 3. 発達障害 4. 第三者委員会 5. 重大事態 6. ネットいじめ
6	いじめに関する相談支援②	1. 「いじめ」の構造 2. 「いじめ」の態様 3. 「いじめ」の定義 4. 「いじめ防止対策推進法」 5. 「いじめ予防プログラム」
7	不登校に関する相談支援	1. 不登校の現状 2. 適応障害 3. 隠れ不登校 4. 不登校へのアプローチ 5. 不登校特例校 6. 教育機会確保法 7. フリースクール 8. 適応指導教室 9. 夜間中学校
8	児童虐待に関する相談支援①	1. 被虐待児童候群 2. 児童虐待の現状 3. 早期発見・初期対応 4. SNS/DV 5. 相談対応 6. 児童虐待防 7. 虐待対応の手引き
9	児童虐待に関する相談支援②	1. しつけ (懲戒権) 2. 児童相談所 3. 教職員の心構え 4. 子ども・子育て応援プラン 5. 貧困対策 6. 子どもの最善の利益
10	教育相談の進め方～保護者対応と支援～	1. モンスターペアレント 2. 初期対応 3. 向き合うべき課題 4. 保護者対応力 5. ロールプレイ 6. モンスター・ティーチャー
11	LGBTQ+に関する相談支援	1. LGBTQ+ 2. 「性自認」「性的指向」「性表現」 3. トランスジェンダー 4. アンコンシャスバイアス 5. 学校における相談支援体制 6. ジェンダーレス 7. アウティング

12	アサーション	1. 行動療法 2. 自己表現 3. 主張訓練 4. ストローク 5. ディスカウント 6. DESC法
13	①ブレイン・ストーミング(BS) ②ジョハリの窓	1. ブレイン・ストーミング(BS法) 2. 親和図法(インサイト) 3. マンダラート 4. ジョハリの窓
14	ヤングケアラー	1. ヤングケアラーとは 2. ヤングケアラーの実態 3. ヤングケアラーの相談支援
15		
16		

科目コード	25101				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	健康科学概論 [週間オンデマンド]				担当者名	十河 直太			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

人が健康的に生きていくためには、複合的な要素を多く必要とする。本科目では、運動習慣の少ない者から多い者まで多岐にわたり、運動と健康に関連する要素を様々な面からアプローチする。また、実際の現場で行われている手法や現状、最新の研究結果も併せて紹介する。

<授業の到達目標>

健康の維持・増進の立場から運動やスポーツの目的や役割、意義を理解し、今後の協議や日常生活に役立てることができる。

<授業の方法>

授業では事前課題と事後課題、意見交換をGoogle classroomを用いて行うため、PC機器をインターネットに接続できる環境が必要である。オンデマンド形式で実施する際は、課題の視聴、回答あるいは意見交換を全てオンラインで行う。対面形式ではパワーポイントなどのスライドを提示する。授業内での課題提出をオンラインで行うこともあるため、対面形式で授業を実施する際もPCを必ず持参すること。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素：無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各講義内容に対して関連する参考書や論文に目を通し、予備知識を得ておくとして理解しやすい（各授業の単位につき1時間を目安とする）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（体育・スポーツの専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講意欲・態度 30%，小テスト30%，期末試験 40%

<教科書>

<参考書>

ビクター カッチ, ウィリアム マッカードル, フランク カッチ (著) 2017/9/15 カラー運動生理学大事典：健康・スポーツ現場で役立つ理論と応用 西村書店

日本体育協会(監修), 田中 喜代次(編集) 2013/5/30 健幸華齢(Successful Aging)のためのエクササイズ サンライフ企画

安倍孝, 琉子 友男 (編集) 2015/3/21 これからの健康とスポーツの科学 KSスポーツ医科学書

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス	運動・競技スポーツと健康の関係
2	運動とエネルギー供給機構	糖・脂質・タンパクの代謝経路と運動との関係
3	身体発達と加齢	幼児～青年～成人～高齢者にかけての変化と健康科学との関連
4	生活習慣病関連疾患（概要）	近年の生活習慣病の現状
5	生活習慣病関連疾患①	心血管疾患
6	生活習慣病関連疾患②	肝機能関連疾患
7	運動処方と食事療法	健康を維持するための運動・食事プログラムと実践例
8	アスリートの健康科学①	内科的・外科的アプローチ（概要）
9	アスリートの健康科学②	オーバートレーニング、摂食障害、過換気症候群
10	スポーツ傷害	外傷・障害に対する予防・対処法
11	ドーピング	フェアプレーとアンチドーピング
12	アダプテッドスポーツ	障がい者スポーツの現状と課題
13	性差	性差が健康・運動に及ぼす影響
14	女性の健康科学	月経周期や女性ホルモンの役割、Female Athlete Triadと今後の課題
15		
16		

科目コード	62008				区 分	コア科目			
授業科目名	健康管理とスポーツ医学 [週間オンデマンド]				担当者名	河合 洋二郎			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

次回授業内容の準備（1時間程度）、振り返りレポートの提出（2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー 3（体育・スポーツにおける課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

振り返りレポート10%、定期試験90%

<教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」 日本体育協会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患(スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など)呼吸器系疾患(慢性肺疾患、運動誘発性喘息など)
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患(運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など)血液疾患(貧血など)皮膚疾患(胼胝腫、摩擦水疱、白癬など)
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患(運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など)代謝性疾患(糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など)
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症(上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性呼吸器症候群など)血液感染症(A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど)
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症(細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など)ウイルス性結膜炎(咽頭結膜炎など)
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症(SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など)各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など(1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など(2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (1)	(生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など)時差(時差に対する反応と順応、時差に対する対策)
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (2)	海外遠征時の諸問題(健康管理、環境管理、その他)
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学

	よる特徴 (3)	
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目 運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。 アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
13	内科的メディカルチェック (2)	
14	ドーピングコントロール	
15		
16		

科目コード	3G219				区 分	コア科目			
授業科目名	行政法Ⅱ [Q1対面+オンデマンド]				担当者名	山本 満理子			
配当年次	3年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

行政と市民のルールを学ぶ。「法がないからできない」ではなく「法をどう解釈し、新しい仕組み（条例）を作るか」というリーガル・デザインの視点を養う。例えば岡山市の行政実務を題材に、市民の権利を守り、公共の利益を最大化する手法を攻めと守りの両面から考案する。

<授業の到達目標>

*行政法の基本原則を理解し、具体的な行政紛争に対して法的解決策を提示できる。*条例制定のプロセスを理解し、地域課題解決のための「政策の成文化」ができる。

<授業の方法>

対面回とオンデマンド回を連動させたハイブリッド形式で行う。*対面回： ワークショップ、ディスカッション、政策シミュレーションを中心に実施。*オンデマンド回： 基本知識の講義ビデオ視聴、事例研究、および個人ワーク（リサーチ）を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

【有】ワークシートを用いた予算配分シミュレーション、地方自治体の具体的課題に対するグループディスカッション、および最終回に向けた「政策提言書（市長への手紙）」の作成等を行う予定。デジタルの活用として、リアルタイム投票システム（スマホ活用）を用いた意思決定プロセスの疑似体験も実施予定。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

*予習： 次回のテーマに関連するニュースや地方自治体の現状についてリサーチする（60分）。*復習： 講義で扱った判例や理論を、自身の政策提言案にどう反映できるか考察し、ポートフォリオを更新する（60分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

*平常点（30%）： ワークショップへの貢献度、およびオンデマンド回の小レポート。*中間課題（20%）： 特定の判例・事例に対する法的・経営的分析。*最終課題（50%）： 行政をアップデートするための「政策提言書」。論理性、法的根拠、実現可能性の3点で評価する。

<教科書>

池村正道 編（2025/02/05） Next教科書シリーズ 行政法〈第5版〉 弘文堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス、行政救済法の全体像	ワークシート実施。「行政が動かないとき、どう戦うか？」
2	行政不服申立て	申請が却下された事例の研究
3	行政訴訟の全体像	訴訟要件と原告適格
4	取消訴訟の仕組み	裁量権の逸脱・濫用
5	国家賠償法	行政の過失
6	損失補償	公共の利益と私権の制限
7	行政上の強制執行	命令に従わない相手にどう対処するか
8	実務と判例(1)	過去の訴訟事例を読み解く
9	実務と判例(2)	過去の訴訟事例を読み解く
10	実務と判例(3)	過去の訴訟事例を読み解く
11	実務と判例(4)	過去の訴訟事例を読み解く
12	実務と判例(5)	過去の訴訟事例を読み解く
13	実務と判例(6)	過去の訴訟事例を読み解く
14	実務と判例(7)	過去の訴訟事例を読み解く
15		
16		

科目コード	34312				区 分	コア科目			
授業科目名	子どもの保健 [週間オンデマンド]				担当者名	小崎 遼介			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、保育者が身につけなければならない、子どもの「身体的発育・発達」や「保育現場における衛生管理（手洗いや排せ、衣服の着脱、清潔活動など）」、「安全教育・安全管理」等の保健課題を学習する。子ども（乳幼児期）の心身の発達段階を理解し、その発達には生活環境が大きく影響を与え、その関連性を学ぶ。専門職、保育士・幼稚園教諭として子どもの心身の保健の保持が図れる能力の基礎を培う。そのため、小児各期の身体発育、生理機能・精神運動機能の発達について基礎知識を習得する。

<授業の到達目標>

この授業の到達目標は、保育士や幼稚園教諭といった保育者だけでなく、大人は、子どもの保護者として「子どもの命を守る」責任ある事を自覚し、具体的な保健行動ができる態度を身につける事としている。具体的には、責任ある適切な保健行動ができるよう専門知識と技能を身に付ける。手洗いや清潔、衣服の着脱などの衛生管理や安全教育・安全管理により事故を未然に防ぐ技術や万が一の場合の適切な処置ができるようになる。

<授業の方法>

オンデマンドによる講義形式で授業する。動画の視聴を取り入れる。毎授業ごとに課題を実施し、理解度を確認する。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

ノートに動画で得た学びをまとめる。

<準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

動画の視聴後、ノートへの学習内容のまとめを記入する（30分）。また、クラスルームから配信される課題への回答を行う（15分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

最終試験60%、課題・レポート40%。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業概要	オリエンテーション、生命の保持増進と情緒の安定に係る保健活動の意義と子どもの保健を学ぶ目的
2	保育と保健、生と死	保育者の特性として毎日関わること、子どもの命を預かる。
3	幼保連携型認定こども園教育・保育要領	幼保連携型認定こども園教育・保育要領での保健について学ぶ
4	アレルギーの対応、理論	アレルギー対応について学ぶ
5	事故	事故予防の現状、対応について学ぶ
6	事故予防2	事故予防の現状、対応について学ぶ
7	身体的な発達、熱中症	身体発達の原理原則、熱中症の原理原則について学ぶ
8	感染症	感染症の原理原則、対応について学ぶ
9	骨格筋、生命循環	歯、骨、循環、呼吸について学ぶ
10	痙攣	痙攣の対応、原理原則について学ぶ
11	母子保健	日本の保健の水準、母子保健について学ぶ
12	心肺蘇生法	心肺蘇生法の理論、実際について学ぶ
13	学校保健法	学校保健法について学ぶ
14	まとめ	子どもの保健におけるまとめを行う
15		
16		

科目コード	3G412				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	社会調査法 [FE、BC用][週間オンデマンド]				担当者名	濱嶋 幸司			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	選択	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では「社会調査」とはどのようなものか、実生活においてどのように役立てることができるのか、基本的な考え方を説明し、あわせて事例も紹介していく。確かな手続きをもとに「調べる」ことの大事さと公表される結果（データ）が何を意味しているのかを理解を深める。情報発信者となった際には「社会調査」の方法を適切に使えること、また、情報受信者となった際に「社会調査」の方法がどのように使われているかを読み取ることができること、この2つのスキルを習得することをねらいとする。

<授業の到達目標>

①社会調査の本質と目的を理解し、科学的な調査手続き（量的・質的調査、標本抽出等）について適切に説明できる。②既存の社会調査事例を収集・分析し、公表されたデータが何を示しているのか、その社会的意味を正確に読み解くことができる。③調査倫理を遵守した上で、自ら調査計画を立案し、収集したデータを適切に分析・報告するスキルを発揮できる。

<授業の方法>

オンデマンド形式とする。クラスルームに掲載される説明に目を通し、課題をおこなうこと。クラスルーム内の機能を通じて対話をおこなう。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有 各回毎のテーマについて参加者同士で話し合い、意見をまとめる設計を用意する

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習： 各回の講義テーマ（量的調査、調査倫理、標本抽出等）に関連する参考資料やWebサイトを確認し、専門用語の意味や基本的な考え方を整理して講義に臨む（100分程度）。事後学習： 配布資料を基に講義内容を復習し、提示された社会調査事例の分析やミニ課題を作成する。また、Classroom内の対話機能を用いて他者の意見を参照し、自身の理解を深化させる（100分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等・中等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。科学的な調査手法を用いて教育や社会の課題を客観的に把握する能力を養います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 14%、振り返り課題 26%、中間レポート 30%、最終確認テスト 30% ※各回の課題へのフィードバックは、Classroom上でのコメント返却や解説資料の配信を通じて行います。

<教科書>

なし（資料は講師が用意する）

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・ガイダンス	社会調査とは
2	実証となにか	科学的手続きの説明
3	社会調査の種類	量的調査・質的調査・一次分析・二次分析などの説明
4	調査倫理	ヒトを対象にした調査の在り方、倫理に関する資料を提示する
5	研究・調査対象	母集団、標本抽出、特定層の説明
6	調査事例を学ぶ①	国勢調査、行政調査を主に説明
7	調査事例を学ぶ②	視聴率、マーケティング、一般アンケートを主に説明
8	調査事例を学ぶ③	インタビュー、言説分析の説明
9	調査事例を学ぶ④	フィールドワーク、オートエスノグラフィーの説明
10	（中間レポート）社会調査を見つけて提出・報告	各自が気になった社会調査を持ち寄り、提出して、全体で共有する回
11	調査実施の流れ①	調査計画（量的・質的）を考える
12	調査実施の流れ②	調査実施（量的・質的）に至る
13	調査実施の流れ③	データ分析（量的・質的）と結果をわかりやすく公表（とくに図表には凝る）
14	社会調査の意味	本科目の振り返りと学修成果の確認・最終確認テストについて。
15		
16		

科目コード	3G403				区 分	コア科目			
授業科目名	消費者行動論 [Q1対面+オンデマンド]				担当者名	宇都宮 浩司			
配当年次	2年	配当学期	第1クオ ーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、消費者の基本的な行動原理やモデルについて学習する。企業がマーケティング戦略の意志決定を行う際に、消費者行動の分析は欠かせない。企業のマーケティング戦略と消費者行動論にどのような関連があるのかについて講義し、私たちの普段の消費者としての購買行動や消費行動の原理を科学的に解説していく。

<授業の到達目標>

①消費者行動論の基本モデルや概念を自分のことばで正確に説明できる。②自らの普段の消費者行動原理を分析できる。③企業が消費者の行動を、どのような手法で分析しようとしているのか説明できる。

<授業の方法>

本講義は対面による講義・演習形式とオンデマンドによって実施します。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有対面授業時に4～5人のグループに分かれ協働学習を行います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習復習の時間は、一回当たりの平均時間であり、扱う内容に伴って講義ごとに予習・復習の重点項目は変更する。1 授業計画に記載されている授業内容、用語などについて、図書館等にある事典や書籍などを参照しつつ、必ず事前に調べて、講義に臨むこと（予習90分）。2 空欄埋めシートなどを使って、講義で扱った内容を何度も復習すること（復習60分）。3 講義に関する不明点等があれば、自分で調べたり、教員に尋ねたりすること（復習30分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、現代経営学科のDP2「経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。」およびDP3「経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。」に関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業における課題提出：30%②授業内レポート×2回：30%③授業内確認テスト：40%上記の総合点で評価する。

<教科書>

使用しません。

<参考書>

適宜紹介します。

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	消費者行動論とは何か	消費者行動論はどのような学問かを理解し、その対象と特徴について学ぶ。【対面・4月8日】
2	消費者の知覚（1）	製品やそれに関連する情報を知覚する4つのプロセスについて学ぶ。【オンデマンド】
3	消費者の知覚（2）	製品やそれに関連する情報を知覚する4つのプロセスについて経験的に学ぶ。【対面・4月15日（水）】
4	消費者の学習	学習のうち「レスポナント条件付け」「オペラント条件付け」「観察学習」について学ぶ。【オンデマンド】
5	消費者の記憶	短期記憶が長期記憶になるメカニズムについて学ぶ。【オンデマンド】
6	消費者の感覚（1）	消費者の購買行動に与える感覚について学ぶ。【オンデマンド】
7	消費者の感覚（2）	消費者の購買行動に与える感覚について経験的に学ぶ。【対面・5月6日（水）】
8	消費者の動機づけと関与（1）	態度に影響を与える関与について学ぶ。【オンデマンド】
9	消費者の動機づけと関与（2）	態度に影響を与える関与について経験的に学ぶ。【対面・5月13日（水）】
10	消費者の態度（1）	態度に影響を与える関与を理解し、態度や態度モデルについて学ぶ。【オンデマンド】
11	消費者の態度（2）	態度に影響を与える関与を理解し、態度や態度モデルについて経験的に学ぶ。【対面・5月20日（水）】
12	消費者の購買行動（1）	消費者がどのように消費について意思決定しているかを学ぶ。【オンデマンド】
13	消費者の購買行動（2）	消費者がどのように消費について意思決定しているかを経験的に学ぶ。【対面・5月23日（土）・補講日】
14	本科目のまとめ	学習内容の総復習【対面・5月27日（水）】
15		

科目コード	24303				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	上級英語文法 [英語教員希望者限定週間オンデマンド]				担当者名	井上 聡			
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、難度の高い英文法の知識を網羅型で学習し、英検準1級以上、TOEICスコア785点以上の英語力を身に着けることです。デジタル解説教材とオリジナル教材を活用して事前に問題点を明らかにし、文法問題演習を繰り返し、オンライン試験を通して理解度を高めましょう。学習成果としては、デジタル教材の活用力、理解度確認テストのスコア、意見交換の質を求めます。なお、この授業はオンデマンド型で行いますので、課題提出やテスト受験等の期限を必ず守ってください。※原則、英語教職課程履修者のみ受講を受理します。他の要因

<授業の到達目標>

1. 事前学習（ノートテイキング）に粘り強く取り組み、「分かること」と「分からないこと」を区別できる。2. 理解度確認テストで高い正答率を残すことができる。3. 意見交換の場で、学びの内容を適切に言語化できる。

<授業の方法>

1. 事前課題（テキスト8ページの予習）（2時間程度）2. 採点・返却3. 理解度家訓テスト（30分程度）4. 意見交換（5分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

事前課題の優秀作品やテスト優秀者の氏名については随時、Classroomのストリームで公開します。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：デジタル教材を活用した事前課題（8ページ）の提出（3時間程度）復習：理解度確認テストの受験＋意見交換（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）およびディプロマポリシー5（初等・中等教育を通して、異なる社会・文化・言語を深く理解し、地球市民として広く交流できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

<教科書>

井上聡（2022年4月） 上級英語文法：攻略ポイント210※継続履修できる学生にのみ、直接配布します。 一粒書房

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	シラバス説明、シミュレーション（教科書・デジタル教材の使い方）
2	第1章 動詞の語法①第2章 動詞の語法②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
3	第3章 動詞の時制第4章 法助動詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
4	第5章 態の変換第6章 不定詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
5	第7章 不定詞②第8章 分詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
6	第9章 動名詞第10章 関係詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
7	第11章 関係詞②第12章 仮定法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
8	第13章 比較表現①第14章 比較表現②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
9	第15章 名詞の語法第16章 代名詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
10	第17章 形容詞の語法第18章 副詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
11	第19章 接続詞①第20章 接続詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
12	第21章 前置詞①第22章 前置詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
13	第23章 疑問・否定・倒置・強調・一致第24章 まとめ	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
14	総復習	例題、類題、テスト
15		

科目コード	31404				区 分	コア科目			
授業科目名	情報メディアの活用 [週間オンデマンド]				担当者名	木戸 和彦			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

現在の学校教育は、旧来の受動的な学習から、教科を超えた「総合的学習」や児童・生徒自身が情報資料やコンピュータを用いて、あるテーマについて調べて発表する「調べ学習」などの能動的な学習へと移行してきている。そのような現場において、学校図書館は、図書や逐次刊行物を収集、整理し、提供するという従来の機能だけではなく、CDやDVDなどの視聴覚メディア、インターネットやコンピュータなどの情報機器を利用した授業・学習を進めるための総合的なメディアセンターとしての機能も果たすこととなる。それに伴い司書教諭自身も、単なる読

<授業の到達目標>

本講義では、情報メディアを用いた学校教育支援のために、情報機器や情報メディアについての基礎的な知識と技能を身につけることを目的とし、インターネット等の利用を通して情報メディアとは何かを考えていく。また、学校における情報メディアセンターとしての図書館の機能及び司書教諭に求められる能力・役割について理解することを目指す。

<授業の方法>

印刷教材等で単に知識を得るだけではなく、PCを利用して基礎知識を確認しながら進める。また、講義時に、課題の作成を求めるので、限られた時間内に課題を作成する技術も身に付ける。更に、PCの周辺装置、情報機器、携帯・スマートフォンとの連携等の関連知識とその具体的方法についても合わせて学習していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブラーニングの要素無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

テキスト用プリントを講義前までに熟読すること（60分程度）。また、毎回の講義時に、演習問題を出題するので、次回講義開始時までに自力で解答できるようにしておくこと（60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（初等教育に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 30%、中間試験 30%、期末レポート試験 40%

<教科書>

<参考書>

「シリーズ学校図書館学」編集委員会（2010） シリーズ学校図書館学 第5巻 情報メディアの活用 全国学校図書館協議会

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	情報メディアとは何か	PC動作確認、PC環境設定、USBメモリー確認
2	情報メディアの教育的利用Ⅰ	PCの内部構造
3	情報メディアの教育的利用Ⅱ	ハードウェア
4	情報メディアの教育的利用Ⅲ	ソフトウェア
5	情報メディアの教育的利用Ⅳ	図書館での周辺装置
6	情報メディアと児童生徒の保護・支援Ⅰ	個人情報保護法、知的財産権、著作権法、マナー（ネチケット）、情報モラル
7	情報メディアと児童生徒の保護・支援Ⅱ	学校図書館における法律（学校図書館法第2条）、学校における例外規定、具体的な事例
8	前半のまとめ（PCに関する事項）	コンピュータ概要について
9	WEBページ作成の準備Ⅰ	情報検索、学校図書館のHP閲覧、全国学校図書館協議会HP評価基準、イメージ作成
10	WEBページ作成の準備Ⅱ	HP作成手順説明
11	WEBページ作成の準備Ⅲ	HP作成準備
12	WEBページ作成Ⅰ	オリジナル学校図書館HPの資料収集
13	WEBページ作成Ⅱ	オリジナル学校図書館HPの構成
14	WEBページ作成Ⅲ	学校図書館HPの作成
15		
16		

科目コード	23415				区 分	コア科目			
授業科目名	聴覚障害児教育論 [週間オンデマンド]				担当者名	福島 邦博			
配当年次	4年	配当学期	前期	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業は、聴覚障害の心理・生理・病理に関する内容として、聴覚の解剖学的構造と機能、聴覚機能の発達と評価、聴覚障害の原因やきこえの特徴について解説する。また、教育課程と指導法に関する内容として、特別支援学校・学級（聴覚障害）等における教育課程の編成、ならびに環境把握やコミュニケーション、言語発達、教科学習、肯定的な障害認識、社会性の育成に関する指導の実践について解説する。

<授業の到達目標>

聴覚障害の心理・生理・病理、ならびに教育課程と指導法に関する事項を学習し、聴覚障害幼児・児童・生徒にむけた教育を展開するための基礎的知識を習得する。

<授業の方法>

対面およびオンデマンド

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

無

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前に、次回扱うテーマに関する基礎的な内容を各自で調べ、概要を把握しておくこと（予習：1時間程度）。授業後は、授業で扱った内容をノート等で整理し、理解が不十分な点を再確認すること（復習：2時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（初等教育の専門分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の小テスト（70％）、レポート課題（30％）をもとに評価する。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	きこえにくさの理解	
2	きこえの仕組み	
3	聴覚の発達	
4	聴覚障害の原因と特徴	
5	きこえにくさの程度とその分類	
6	きこえの評価	
7	補聴器の構造と機能	
8	人工内耳の構造と機能	
9	聴覚障害と親子関係	
10	聴覚障害とコミュニケーション	
11	聴覚障害と書記言語発達	
12	聴覚障害児の教育課程及び自立活動等における言語指導	
13	発音発語指導	
14	聴覚障害と自己肯定感・社会性の発達	
15		
16		

科目コード	28127				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	簿記入門Ⅰ [Q1対面+オンデマンド]				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、日商簿記検定3級の合格を目指す基礎科目です。簿記の基本原則である取引の8要素（費用・収益・資産・負債・純資産）の認識と会計処理を学びます。14回の授業のうち、奇数回は対面での解説とグループワーク、偶数回はオンデマンドでの復習演習というサイクルで、知識の定着を図ります。簿記の基本的な技術を習得するだけでなく、履修者全員で日商簿記検定3級合格という1つの目標に向かって頑張り、非認知能力の構成要素である「自分を高める力」「他者と協働する力」の育成を目指す。なお商業高校等で既に簿記を学習済みであって

<授業の到達目標>

①簿記の意義と役割を知り、複式簿記の基本原則を理解すること。②基礎的な取引（商品売買、現金預金、固定資産など）の仕訳ができるようになること。③取引の仕訳から各帳簿への転記、試算表作成、決算までの一巡の流れを理解すること。④日商簿記検定3級に合格するための基礎的な知識・技術を身につけること。

<授業の方法>

① 授業の方法は、主に解説の後、問題演習を中心とする。奇数回は「対面」偶数回は「オンデマンド」を基本とする。② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。③ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。④本科目では、第2クォーター開講の「簿記入門Ⅱ」第3クォーター開講「簿記演習Ⅰ」第4クォーター開講「簿記演習Ⅱ」と併せて履修することで、日商簿記検定3級合格を目指す。本科目では記帳に関する技術を確実に身につけるため手書きを主体とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有5、6人のグループに分かれ協働学習を行うことがある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習としてテキストを読む・例題を解くこと。② 復習として、授業で行った練習問題を必ず自宅で解くようにすること。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読む、例題を解く）3時間と復習（練習問題を解く、わからないところをなくす）3時間を費やす必要がある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%② 小テスト 70%フィードバック：締切後、次の授業において解答を発表し解説する。

<教科書>

瀧澤ななみ（2026年2月13日） スッキリわかる 日商簿記3級 2026年度版 [ネット試験・統一試験 完全対応] TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・簿記の基本	授業の進め方、成績評価方法、授業方針、簿記の5要素、貸借対照表・損益計算書
2	復習演習①	第1章の例題・問題演習、簿記の用語・5要素の分類確認
3	仕訳①：商品売買(1)	3分法（仕入・売上）、勘定科目のルール、数字の書き方
4	復習演習②	第2章・第5章の仕訳トレーニング、商品売買の基本演習
5	仕訳②：商品売買(2)	返品・諸掛りの処理、クレジット売上、電子記録債権・債務
6	復習演習③	第6章の演習、商品売買の応用問題（諸掛り等）の解法確認
7	仕訳③：現金・預金	現金（現金過不足含む）、普通預金、定期預金、当座預金
8	復習演習④	第3章・第4章の演習、現金・預金取引の仕訳精査
9	帳簿への記入(1)	主要簿（仕訳帳・総勘定元帳）への転記、略式勘定への記入方法
10	復習演習⑤	第7章の演習、転記作業と帳簿のつながりの確認
11	試算表の作成	合計試算表・残高試算表の作成演習と自己チェック
12	復習演習⑥	第8章の演習、試算表作成のスピードアップトレーニング
13	【総括】まとめテスト	簿記入門Ⅰの範囲（第1章～第8章）に関する理解度確認テスト
14	テストの復習・解説	まとめテストの解答解説、間違えやすいポイントの再確認
15		
16		

科目コード	28128				区 分	専門基礎科目			
授業科目名	簿記入門Ⅱ [Q2対面+オンデマンド]				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

「簿記入門Ⅰ」の学習を踏まえ、より複雑な個別取引と決算手続きを習得します。日商簿記検定3級合格に必要な全ての知識を完遂し、実務や検定試験に対応できる技術を身につけます。第13回の対面テストにより到達を確認し、第14回で最終的なフォローアップを行います。簿記の基本的な技術を習得するだけでなく、履修者全員で日商簿記検定3級合格という1つの目標に向かって頑張り、非認知能力の構成要素である「自分を高める力」「他者と協働する力」の育成を目指す。なお商業高校等で既に簿記を学習済みであっても是非とも履修してもらい

<授業の到達目標>

①手形、固定資産、債権債務などの多様な取引の仕訳ができるようになる。②補助簿の役割を理解し、適切な帳簿選択ができるようになる。③決算整理仕訳から財務諸表（B/S, P/L）作成までの一巡を完遂できる。

<授業の方法>

① 授業の方法は、主に解説の後、問題演習を中心とする。奇数回は「対面」偶数階は「オンデマンド」を基本とする。② 電卓演習・集計作業などの計算を行うので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。③ 本科目では、問題演習の性質をもつため、個人学修によるところが大きい。④本科目では、第1クォーター開講の「簿記入門Ⅰ」第3クォーター開講「簿記演習Ⅰ」第4クォーター開講「簿記演習Ⅱ」と併せて履修することで、日商簿記検定3級合格を目指す。本科目では記帳に関する技術を確実に身につけるため手書きを主体とする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有5、6人のグループに分かれ協働学習を行うことがある。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 予習としてテキストを読む・例題を解くこと。② 復習として、授業で行った練習問題を必ず自宅で解くようにすること。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読む、例題を解く）3時間と復習（練習問題を解く、わからないところをなくす）3時間を費やす必要がある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー2（経済・経営分野における最先端かつ高度な知識・技能を獲得できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%② 小テスト 70%フィードバック：締切後、次の授業において解答を発表し解説する。

<教科書>

溝澤ななみ（2026年2月13日） スッキリわかる 日商簿記3級 2026年度版 [ネット試験・統一試験 完全対応] TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	手形・貸付金・借入金	受取手形・支払手形、貸付金・借入金、利息の計算
2	復習演習⑦	第9章の演習、手形・資金貸借の仕訳定着
3	固定資産・その他債権債務	有形固定資産の取得、その他費用（給料等）、仮払・仮受金
4	復習演習⑧	第10章・第11章の演習、固定資産と諸費用の仕訳確認
5	補助簿と伝票	補助簿の種類（売掛金元帳等）、伝票の起票、仕訳日計表
6	復習演習⑨	第11章の演習、伝票会計と補助簿の選択問題
7	決算整理仕訳①	経過勘定（費用・収益の繰延・見越）の理解と仕訳
8	復習演習⑩	第12章の演習、経過勘定の再振替仕訳を含む反復演習
9	決算整理仕訳②	貸倒引当金、減価償却（定額法）、売上原価の算定
10	復習演習⑪	第12章の演習、決算整理事項の総合仕訳トレーニング
11	精算表と財務諸表	8欄精算表の作成、貸借対照表・損益計算書の作成方法
12	復習演習⑫	第13章・第14章の演習、財務諸表作成の最終確認
13	【総括】まとめテスト	簿記入門Ⅱの範囲（全範囲）に関する理解度確認テスト
14	テストの復習・解説	まとめテストの解答解説、日商簿記検定3級合格に向けた総仕上げ
15		
16		

科目コード	3G313				区 分	コア科目			
授業科目名	簿記論Ⅰ [Q1対面+オンデマンド]				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	1年	配当学期	第1クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は2025年度入学生より新設され、1年次後期から「会計コース」を志望する学生のみが選択する科目である。履修登録の段階で「会計コース」の志望を迷っている学生は選択しておくべきである。講義の内容は税理士試験「簿記論」の合格を目指すものである。そのため「簿記入門」「簿記演習」を履修しているか、商業高校等で日商簿記検定3級程度の知識・技術を有している必要がある。講義では税理士試験「簿記論」の個別問題に対応できる基礎力を養います。100分授業のうち、対面で理論と解法を学び、オンデマンドで徹底的な復習演習を行い

<授業の到達目標>

①税理士試験レベルの個別論点（現金預金、有価証券、固定資産等）の正確な仕訳ができる。②各資産・負債の評価基準を理解し、決算整理ができる。

<授業の方法>

①次年度8月に税理士試験「簿記論」を受験し合格することを目標とするため、履修する条件として「簿記入門」「簿記演習」を同時に履修しているも、もしくは日商簿記検定3級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。②授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。③電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。④第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員へ連絡すること）⑤本科目の履修だけでは税理士試験「簿記論」の合格は困難であり、授業に加え個人学習によるところが大きい。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有3,4人による協働学習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）毎日2時間、復習（問題演習）毎日2時間を費やす必要がある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%, ② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

<教科書>

TAC株式会社（税理士講座） 税理士 簿記論 個別問題の解き方 第8版 TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス・簿記の基本	授業方針の説明、簿記の基本原則と仕訳・転記の再確認
2	基礎演習（オンデマンド）	取引の仕訳と総勘定元帳への転記・集計演習
3	現金預金と債権債務	銀行勘定調整表の作成、不渡手形、貸倒引当金の個別問題
4	債権債務演習（オンデマンド）	手形の裏書・割引、貸倒引当金の繰入・戻入計算
5	有価証券の評価	売買目的、満期保有目的、子会社・関連会社株式の評価
6	有価証券演習（オンデマンド）	有価証券の利息計算、時価評価、減損処理の演習
7	棚卸資産の処理	売上原価の算定（五分法等）、棚卸減耗損と商品評価損
8	棚卸資産演習（オンデマンド）	先入先出法、移動平均法による期末商品の評価演習
9	有形固定資産①	減価償却（定額・定率・生産高）、資産の売却・買換え
10	固定資産演習（オンデマンド）	建設仮勘定、資本的支出と収益的支出の区分演習
11	有形固定資産②とリース	リース取引（所有権移転・外）、資産除去債務の基礎
12	リース演習（オンデマンド）	リース料支払時の処理、減価償却費の計算演習
13	負債・純資産	引当金の計上基準、剰余金の配当と処分
14	総括演習（オンデマンド）	第1クォーターの学習範囲に関する確認テストと個別問題の総仕上げ
15		
16		

科目コード	3G314				区 分	コア科目			
授業科目名	簿記論Ⅱ [Q2対面+オンデマンド]				担当者名	大池 淳一／北村 和久			
配当年次	1年	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は2025年度入学生より新設され、1年次後期から「会計コース」を志望する学生のみが選択する科目である。履修登録の段階で「会計コース」の志望を迷っている学生は選択しておくべき科目である。講義の内容は税理士試験「簿記論」の合格を目指すものである。そのため「簿記入門」「簿記演習」「簿記論Ⅰ」を履修しているか、商業高校等で日商簿記検定3級程度の知識・技術を有している必要がある。講義では税理士試験「簿記論」の個別問題に対応できる基礎力を養います。100分授業のうち、対面で理論と解法を学び、オンデマンドで徹底的

<授業の到達目標>

①税理士試験レベルの個別論点（現金預金、有価証券、固定資産等）の正確な仕訳ができる。②各資産・負債の評価基準を理解し、決算整理ができる。

<授業の方法>

①次年度8月に税理士試験「簿記論」を受験し合格することを目標とするため、履修する条件として「簿記入門」「簿記演習」「簿記論Ⅰ」を同時に履修しているも、もしくは日商簿記検定3級取得者あるいは同程度の知識を有する者に限る。②授業の方法は、授業ではテキストに従い主に問題演習を行う。③電卓演習・集計作業などの計算を行う場合もあるので、各自電卓（関数電卓、スマートフォン不可）を持参すること。④第1回に参加することは必須で、授業方針を納得の上履修すること（他の授業への参加・公欠などのやむを得ない事情がある場合には、事前に担当教員へ連絡すること）⑤本科目の履修だけでは税理士試験「簿記論」の合格は困難であり、授業に加え個人学修によるところが大きい。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有3,4人による協働学習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

① 専門用語の理解と技術定着をはかるため、予習・復習を重視する。② 授業で行った問題を必ず次回までに再度解いておくこと。③ 本科目に関して、週に予習（テキストを読み・例題を解く）毎日2時間、復習（問題演習）毎日2時間を費やす必要がある。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

① 受講態度・学習意欲・授業への参加度 30%, ② 小テスト 70%フィードバック：締め切り後に解答を発表し、解説する。

<教科書>

TAC株式会社（税理士講座） 税理士 簿記論 総合問題の解き方 第8版 TAC出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	総合問題の解法原理	総合問題の構造、資料の優先順位、効率的な下書き作成法
2	基礎総合演習（オンデマンド）	決算整理前残高試算表からB/S・P/Lへの集計手順
3	商品売買の総合問題	推定問題を含む売上原価算定、複雑な債権債務の集計
4	商品・債権演習（オンデマンド）	特殊商品売買、クレジット売掛金等を含む総合問題演習
5	固定資産と繰延資産	固定資産の月割計算、ソフトウェア、繰延資産の償却
6	資産管理演習（オンデマンド）	除却・廃棄、火災損失等を含む資産項目の総合演習
7	外貨建取引と有価証券	外貨建債権債務、為替予約、有価証券の時価評価
8	外貨・証券演習（オンデマンド）	振当処理、外貨建有価証券の換算と評価演習
9	新しい収益認識基準	収益認識に関する会計基準の5ステップと総合問題への適用
10	収益認識演習（オンデマンド）	契約負債、返品権付き販売、ポイント引当金等の演習
11	税金と純資産の集計	法人税・消費税の未払計上、自己株式、新株予約権の処理
12	税務・純資産演習（オンデマンド）	租税公課の計上、株主資本等変動計算書の作成演習
13	実践総合演習	制限時間（60分）を設けた中規模総合問題の実施
14	第2クォーター総括（オンデマンド）	第2クォーターの確認テストと集計ミスを防ぐチェック技法の解説
15		
16		

科目コード	13300				区 分	コア科目			
授業科目名	法学概論 [Q2対面+オンデマンド]				担当者名	山本 満理子			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	第2クォーター	単位数	2.00単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

法の基礎を学びつつ、「法は社会を幸せにするための道具である」という視点を持つ。憲法・民法・刑法の基礎を、ひとり親家庭の支援や子どもの体験格差といった身近な社会問題と結びつけて議論し、自分たちの手でルールを書き換える「リーガルマインド」を育てる。※いずれかの回において、岡山地裁の現役裁判官による模擬裁判を実施予定

<授業の到達目標>

※法の体系と基本概念を理解し、日常の出来事を法的視点で捉え直すことができる。*現代社会の矛盾を法的正義の観点から批判的に分析し、改善案を構想できる。

<授業の方法>

対面回とオンデマンド回を連動させたハイブリッド形式で行う。*対面回： ワークショップ、ディスカッション、政策シミュレーションを中心に実施。*オンデマンド回： 基本知識の講義ビデオ視聴、事例研究、および個人ワーク（リサーチ）を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

【有】ワークシートを用いた予算配分シミュレーション、地方自治体の具体的課題に対するグループディスカッション、および最終回に向けた「政策提言書（市長への手紙）」の作成等を行う予定。デジタルの活用として、リアルタイム投票システム（スマホ活用）を用いた意思決定プロセスの疑似体験も実施予定。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

*予習： 次回のテーマに関連するニュースや地方自治体の現状についてリサーチする（60分）。*復習： 講義で扱った判例や理論を、自身の政策提言案にどう反映できるか考察し、ポートフォリオを更新する（60分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、学科のディプロマポリシー3（経済・経営に関する課題解決のため、最先端かつ高度な知識・技能を活用できる。）と関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

*平常点（30%）： ワークショップへの貢献度、およびオンデマンド回の小レポート。*中間課題（20%）： 特定の判例・事例に対する法的・経営的分析。*最終課題（50%）： 行政をアップデートするための「政策提言書」。論理性、法的根拠、実現可能性の3点で評価する。

<教科書>

高橋 雅夫（2020年3月） Next教科書シリーズ 法学 弘文堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	法とは何か	ワークシート実施。法の目的は「秩序」か「正義」か？
2	法の分類と体系	成文法と慣習法
3	憲法と基本的人権	日本国憲法における人権規定
4	民法の基礎	契約の重要性他
5	刑法の基礎	罪と罰。なぜ人はルールを守るのか（信頼の法学）。
6	法の解釈と適用	文言解釈を超えて、「行間」に希望を見出す技術。
7	現代社会と法	改正家族法を中心に
8	事例ワーク(1)	「もしドラえものの道具が法規制されたら？」などの思考実験から、仮の条例案の起案に取り組む
9	事例ワーク(2)	仮の条例案の起案
10	事例ワーク(3)	仮の条例案の起案
11	事例ワーク(4)	仮の条例案の起案
12	事例ワーク(5)	仮の条例案の起案
13	事例ワーク(6)	仮の条例案の起案
14	事例ワーク(7)	仮の条例案の起案
15		
16		

科目コード	53000				区 分	コア科目			
授業科目名	海外研修 [PH用]				担当者名	古山 喜一			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択科目

<授業の概要>

本授業は、ブリュッセル自由大学（ベルギー）、IPU New Zealand（IPUNZ）をはじめとする海外留学・海外研修への参加を予定または検討している健康科学科の学生を対象とし、海外渡航前の準備学習、渡航中の課題遂行、帰国後の振り返りを通して、国際的な視野と実践的な行動力を養うことを目的とする。授業では、異文化理解、コミュニケーション、自己管理、目標設定、学修計画、危機管理、現地での学びの記録方法などを学ぶとともに、留学・研修で得た経験を言語化・可視化し、今後の学修やキャリア形成につなげる方法を身につける。

<授業の到達目標>

①海外留学・海外研修の目的を明確にし、自らの学びの目標を設定できる。②異文化環境において必要となる基本的な知識・態度・行動を理解し、実践に生かすことができる。③留学・研修中の経験を記録・分析し、学びとして整理することができる。④帰国後に、自身の経験を振り返り、学修・進路・キャリア形成へ接続して説明できる。⑤海外経験を健康科学科の視点（課題発見、比較分析、行動計画、発信力）から捉え、自らの成長につなげることができる。

<授業の方法>

講義、個人ワーク、グループワーク、ディスカッション、発表、リフレクションシート、留学・研修計画書の作成、帰国後報告を組み合わせて実施する。授業前半では、海外留学・海外研修に向けた事前学習を行い、渡航中は各自が設定した課題や記録活動を行う。帰国後は、その成果を整理・共有し、経験を今後の学びやキャリア形成へ結び付ける。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有【方法】・グループディスカッション・ペアワーク・プレゼンテーション・リフレクション（振り返り）・課題解決型学習・体験報告と相互フィードバック学生は、自身の留学・研修計画を立案し、渡航中の経験を記録・分析し、帰国後に発表・共有することで、主体的・対話的に学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回あたり予習・復習あわせて4時間程度を目安とする。【予習】・次回テーマに関する資料確認・渡航先の基本情報（文化、社会、教育、ビジネス、生活環境等）の調査・課題シート、目標設定シート、発表準備【復習】・授業内容の整理・リフレクションシートの作成・留学・研修中の記録（学習ログ、行動記録、気づきの整理）・帰国後レポートや報告発表の準備特に渡航中は、現地での体験を単なる経験で終わらせず、毎週継続的に記録・整理することを求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、健康科学科における卒業認定・学位授与の方針のうち、特に以下の能力の育成に関連する。・多様な価値観を理解し、他者と協働する力・課題を発見し、主体的に解決へ取り組む力・社会や組織において必要となるコミュニケーション能力・国際的視野と実践的行動力・学びを自己の成長や将来設計に結び付ける力 海外での学修・生活体験を、経営学的視点やキャリア形成の視点から振り返ることにより、学科の学修成果の達成に資する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【成績評価方法】 ①授業参加・平常点（ディスカッション、ワーク、提出状況等）.....20% ②事前課題（目標設定シート、留学・研修計画書等）.....20% ③渡航中課題（学習ログ、活動記録、現地課題等）.....25% ④事後課題（振り返りレポート）.....20% ⑤最終発表（帰国報告プレゼンテーション）.....15%【フィードバック方法】 各課題については、授業内コメント、個別講評、提出物へのコメント返却等によりフィードバックを行う。特に、目標設定、渡航中の記録、帰国後の振り返りについては、次の学びにつながるよう助言を行う

<教科書>

なし なし なし
なし なし なし
なし なし なし

<参考書>

授業時に適宜指示 海外留学・異文化理解・国際コミュニケーションに関する資料 適宜配布・提示
授業時に適宜指示 留学先地域の社会・文化・経済に関する資料 適宜配布・提示
授業時に適宜指示 キャリア形成・自己分析・プレゼンテーションに関する資料 適宜配布・提示

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションと授業の目的理解	授業の全体像、評価方法、留学・研修と本科目の関係を理解する。あわせて、自身が海外で何を学びたいかを整理し、学習の出発点を確認する。
2	なぜ海外で学ぶのかー目的設定と自己分析	自分の関心、強み、課題、将来像を整理し、海外留学・海外研修に参加する目的を明確にする。個人目標の設定を行う。
3	異文化理解の基礎	文化の違い、価値観の多様性、コミュニケーションスタイルの違いについて学び、

4	海外で求められるコミュニケーション力	異文化環境で必要となる姿勢や考え方を理解する。
5	留学・研修計画の作成	言語力だけでなく、非言語コミュニケーション、傾聴、質問、確認、発信の重要性を学び、現地での交流に必要な基礎力を身につける。
6	安全管理と自己管理	渡航先、期間、学習内容、生活面、現地での行動目標を整理し、個別の留学・研修計画書を作成する。短期・長期それぞれに応じた学び方を考える。
7	渡航中の学び方—記録・観察・課題設定	海外生活における健康管理、時間管理、金銭管理、危機管理、トラブル対応の基本を学び、安心して学ぶための準備を行う。
8	海外留学・海外研修（現地実践）	留学・研修中にどのように学びを深めるかを考える。学習ログ、行動記録、現地観察、比較分析、課題設定の方法を学ぶ。
9	海外経験の整理①—体験の棚卸し	各自の渡航先において、事前に設定した目標に基づき学修・研修を実施する。現地での学習、交流、観察、課題遂行、記録作成を行う。※2週間～12か月の範囲で、各自のプログラムに応じて実施する。
10	海外経験の整理②—比較と分析	帰国後、現地での経験を振り返り、「何を見たか」「何を感じたか」「何を学んだか」を整理する。経験を単なる思い出ではなく学びとして言語化する。
11	海外経験と経営的視点	日本と渡航先の違いを、教育、文化、働き方、サービス、コミュニケーション、生活様式などの観点から比較し、考察を深める。
12	海外経験をキャリアにつなげる	現地での経験を、経営学的観点（顧客対応、組織文化、サービス、マーケティング、マネジメント、課題発見等）から捉え直し、現代経営学科での学びと接続する。
13	帰国報告プレゼンテーション準備	海外で得た経験・能力・気づきを自己PRや将来の進路選択にどう結び付けるかを考える。履歴書・面接・進路設計への活用を意識する。
14	帰国報告プレゼンテーションと総括	留学・研修の成果を他者に伝えるための構成を考え、報告発表の準備を行う。経験の共有を通じて、他者にとっても学びとなる発信方法を検討する。
15		各自が海外留学・海外研修の成果を発表し、相互に学びを共有する。授業全体を振り返り、今後の学修・進路・キャリア形成に向けた行動計画をまとめる。
16		

科目コード	3G503				区 分	コア科目			
授業科目名	海外研修A [BC用]				担当者名	溝越 隆興			
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	1.00単位	授業方法	実習	卒業要件	選択科目

<授業の概要>

本授業は、IPU New Zealand (IPUNZ) をはじめとする海外留学・海外研修への参加を予定または検討している現代経営学科の学生を対象とし、海外渡航前の準備学習、渡航中の課題遂行、帰国後の振り返りを通して、国際的な視野と実践的な行動力を養うことを目的とする。授業では、異文化理解、コミュニケーション、自己管理、目標設定、学修計画、危機管理、現地での学びの記録方法などを学ぶとともに、留学・研修で得た経験を言語化・可視化し、今後の学修やキャリア形成につなげる方法を身につける。なお、海外研修・留学先および

<授業の到達目標>

①海外留学・海外研修の目的を明確にし、自らの学びの目標を設定できる。②異文化環境において必要となる基本的な知識・態度・行動を理解し、実践に生かすことができる。③留学・研修中の経験を記録・分析し、学びとして整理することができる。④帰国後に、自身の経験を振り返り、学修・進路・キャリア形成へ接続して説明できる。⑤海外経験を経営的視点（課題発見、比較分析、行動計画、発信力）から捉え、自らの成長につなげることができる。

<授業の方法>

講義、個人ワーク、グループワーク、ディスカッション、発表、リフレクションシート、留学・研修計画書の作成、帰国後報告を組み合わせて実施する。授業前半では、海外留学・海外研修に向けた事前学習を行い、渡航中は各自が設定した課題や記録活動を行う。帰国後は、その成果を整理・共有し、経験を今後の学びやキャリア形成へ結び付ける。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

有【方法】・グループディスカッション・ペアワーク・プレゼンテーション・リフレクション（振り返り）・課題解決型学習・体験報告と相互フィードバック学生は、自身の留学・研修計画を立案し、渡航中の経験を記録・分析し、帰国後に発表・共有することで、主体的・対話的に学ぶ。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

各回あたり予習・復習あわせて4時間程度を目安とする。【予習】・次回テーマに関する資料確認・渡航先の基本情報（文化、社会、教育、ビジネス、生活環境等）の調査・課題シート、目標設定シート、発表準備【復習】・授業内容の整理・リフレクションシートの作成・留学・研修中の記録（学習ログ、行動記録、気づきの整理）・帰国後レポートや報告発表の準備特に渡航中は、現地での体験を単なる経験で終わらせず、毎週継続的に記録・整理することを求める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、現代経営学科における卒業認定・学位授与の方針のうち、特に以下の能力の育成に関連する。・多様な価値観を理解し、他者と協働する力・課題を発見し、主体的に解決へ取り組む力・社会や組織において必要となるコミュニケーション能力・国際的視野と実践的行動力・学びを自己の成長や将来設計に結び付ける力 海外での学修・生活体験を、経営学的視点やキャリア形成の視点から振り返ることにより、学科の学修成果の達成に資する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

【成績評価方法】 ①授業参加・平常点（ディスカッション、ワーク、提出状況等）.....20% ②事前課題（目標設定シート、留学・研修計画書等）.....20% ③渡航中課題（学習ログ、活動記録、現地課題等）.....25% ④事後課題（振り返りレポート）.....20% ⑤最終発表（帰国報告プレゼンテーション）.....15%【フィードバック方法】 各課題については、授業内コメント、個別講評、提出物へのコメント返却等によりフィードバックを行う。特に、目標設定、渡航中の記録、帰国後の振り返りについては、次の学びにつながるよう助言を行う

<教科書>

なし なし なし
なし なし なし
なし なし なし

<参考書>

授業時に適宜指示 海外留学・異文化理解・国際コミュニケーションに関する資料 適宜配布・提示
授業時に適宜指示 留学先地域の社会・文化・経済に関する資料 適宜配布・提示
授業時に適宜指示 キャリア形成・自己分析・プレゼンテーションに関する資料 適宜配布・提示

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーションと授業の目的理解	授業の全体像、評価方法、留学・研修と本科目の関係を理解する。あわせて、自身が海外で何を学びたいかを整理し、学習の出発点を確認する。
2	なぜ海外で学ぶのかー目的設定と自己分析	自分の関心、強み、課題、将来像を整理し、海外留学・海外研修に参加する目的を明確にする。個人目標の設定を行う。
3	異文化理解の基礎	文化の違い、価値観の多様性、コミュニケーションスタイルの違いについて学び、

4	海外で求められるコミュニケーション力	異文化環境で必要となる姿勢や考え方を理解する。
5	留学・研修計画の作成	言語力だけでなく、非言語コミュニケーション、傾聴、質問、確認、発信の重要性を学び、現地での交流に必要な基礎力を身につける。
6	安全管理と自己管理	渡航先、期間、学習内容、生活面、現地での行動目標を整理し、個別の留学・研修計画書を作成する。短期・長期それぞれに応じた学び方を考える。
7	渡航中の学び方—記録・観察・課題設定	海外生活における健康管理、時間管理、金銭管理、危機管理、トラブル対応の基本を学び、安心して学ぶための準備を行う。
8	海外留学・海外研修（現地実践）	留学・研修中にどのように学びを深めるかを考える。学習ログ、行動記録、現地観察、比較分析、課題設定の方法を学ぶ。
9	海外経験の整理①—体験の棚卸し	各自の渡航先において、事前に設定した目標に基づき学修・研修を実施する。現地での学習、交流、観察、課題遂行、記録作成を行う。※2週間～12か月の範囲で、各自のプログラムに応じて実施する。
10	海外経験の整理②—比較と分析	帰国後、現地での経験を振り返り、「何を見たか」「何を感じたか」「何を学んだか」を整理する。経験を単なる思い出ではなく学びとして言語化する。
11	海外経験と経営的視点	日本と渡航先の違いを、教育、文化、働き方、サービス、コミュニケーション、生活様式などの観点から比較し、考察を深める。
12	海外経験をキャリアにつなげる	現地での経験を、経営学的観点（顧客対応、組織文化、サービス、マーケティング、マネジメント、課題発見等）から捉え直し、現代経営学科での学びと接続する。
13	帰国報告プレゼンテーション準備	海外で得た経験・能力・気づきを自己PRや将来の進路選択にどう結び付けるかを考える。履歴書・面接・進路設計への活用を意識する。
14	帰国報告プレゼンテーションと総括	留学・研修の成果を他者に伝えるための構成を考え、報告発表の準備を行う。経験の共有を通じて、他者にとっても学びとなる発信方法を検討する。
15		各自が海外留学・海外研修の成果を発表し、相互に学びを共有する。授業全体を振り返り、今後の学修・進路・キャリア形成に向けた行動計画をまとめる。
16		